

# 美沢川流域の遺跡群 XX

新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

千歳市

## 美々 8 遺跡低湿部

第 1 分冊 (本文・挿図・表)

平成 8 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

諸般の事情により、充分な校正の出来ないまま刊行となりましたこととお詫びいたします。(編集者)  
 美沢川流域の遺跡群 X X 千歳市 美々8遺跡低湿部 第114集 正誤表

章	節	頁	行	誤	正
	カラー図版 10-2		キャプション	漆塗椀・漆塗煙管ラウ	漆塗椀・漆塗キセルラウ
	カラー図版 13-1		右端の ガラス製品	No.なし	9
例言	(2)	15	～・山内(福士)奈巳美・～	～・山内(福士)奈乙美・～	
例言	(2)	38	～ 出口昌子、～	～ 出口晶子、～	
目次	(4)	17	(5) 遺物の取上げ……………11	(5) 遺物の取上げ……………12	
目次	(4)	19	(1) 現場における整理と保管……………	(1) 現場での整理と保管……………	
目次	(4)	20	(2) 札幌整理作業所における整理と保管……………	(2) 札幌整理作業所での整理と保管……………	
目次	(4)	28	8 画像付きデータベース作成と～	8 画像データベース作成と～	
目次	(5)	34	VI 重機(クラムシェル)調査の遺物	VI 重機(クラムシェル)調査	
目次	(6)	7	(2) 木製品・樹皮製品	(2) 木製品・樹皮製品・繊維製品	
目次	(6)	8	VIII 自然科学分析(～)	VIII 自然科学的分析(～)	
目次	(6)	11	(2) 資料および識別の方法	(2) 試料および識別の方法	
目次	(6)	15	(2) 出土植物遺存体表の見方～	(2) 出土動植物遺存体表の見方～	
目次	(6)	18	1) 美々8遺跡低湿部から出土した栽培植物について	1) 美々8遺跡低湿部から出土した栽培種子について	
目次	(6)	25	(4) 美々8遺跡低湿部～	(4) 千歳市美々8遺跡低湿部～	
目次	(6)	30	パリノサーヴェイ株式会社…	パリノサーヴェイ株式会社…	
目次	(6)	31	4 美々8遺跡出土金属製品の金属～	4 美々8遺跡出土鉄器の金属～	
目次	(6)	33	IX まとめ……………745	IX まとめ……………743	
目次	(6)	34	引用・参考文献……………747	引用・参考文献……………745	
目次	(6)	35	抄録	報告書抄録	
カラー 図版目次	(7)	14	カラー図版 9-1 漆塗箱物板(～)	カラー図版 9-1 漆塗箱物蓋板(～)	
挿図目次	(10)	右23	図V-130 切載具6(～)	図V-130 切載具5(～)	
挿図目次	(14)	左9	図VI-30 狩猟具2(弓・矢筒翼未製～)	図VI-30 狩猟具2(弓・矢筒翼未製～)	
挿図目次	(14)	左33	図VI-48 容器類7(漆塗箱物底板～)	図VI-48 容器類7(漆塗箱物蓋板～)	
挿図目次	(14)	左37	図VI-50 食用具1(籠①)……………542	図VI-50 食用具2(籠①)……………542	
挿図目次	(14)	左38	図VI-51 食用具2(籠②)……………543	図VI-51 食用具3(籠②)……………543	
挿図目次	(14)	左39	図VI-52 食用具3(両口箸・片口箸)	図VI-52 食用具4(両口箸・片口箸)	
挿図目次	(14)	右1	図VI-53 食用具4(串)・～	図VI-53 食用具5(串)・～	
挿図目次	(14)	右8	図VI-57 軸状製品1……………549	図VI-57 軸状製品……………549	
挿図目次	(14)	右18	図VI-67 有溝角材・魚材……………559	図VI-67 有溝角材・杭状製品……………559	
表目次	(16)	左2	蔵地調査面積推移(単位m <sup>2</sup> )	蔵地の調査面積推移(単位m <sup>2</sup> )	
II	1	7	2 1 発掘区の設定(図II-1)	1 発掘区の設定(図I-3)	
II	2	8	～と土壤運搬トラック等ための～	～と土壤運搬トラック等のための～	
II	2	9	～押さえながら慎重には進めた。～	～押さえながら慎重に進めた。～	
II	2	11	時浸漬し浸漬した。～	時浸漬した。～	
II	2	12	～浮遊選別を目的とするサンプル～	～浮遊選別を目的とするサンプル～	
II	3	12	39 ～大まかにクリーニングした後、～	～大まかにクリーニングした後、～	
II	3	13	3 (2) 札幌整理作業所での整理と保管(図II-1)	(2) 札幌整理作業所での整理と保管	
II	4	14	19 ～、集塵・換気装置設置された。～	～、集塵・換気装置が設置された。～	
III	2	26	図III-2 表土～I B層の道跡分布	表土～II B層の道跡分布図	
III	2	29	図III-4 土層断面と各種試料採取地点	土層断面図と各種試料採取地点	
III	2	31	図III-5 土層断面と各種試料採取地点	土層断面図と各種試料採取地点	
IV	2	38	7～8 ～炭化物集中1付近のものと同一個体の～	～炭化物集中1下位のものと同一個体の可能性がある～	
IV	2	39	19 ～。この遺構付近からは灰集中1付近～の産地不明徳利	～。この遺構下位からは灰集中1付近～の可能性がある産地不明徳利	
IV	3	40	6 ～。炭化物集中1付近の破片と同一個体で、計～	～。炭化物集中1下位の破片と同一個体の可能性があり、計～	
IV	3	42	表IV-8 図番号2の主な発掘区:c-66-09-d	図番号2の主な発掘区:c-66-09-a	
V	2	74	表V-11 図番号46の備考:～。41と共伴。	図番号46の備考:～。42と共伴。	
V	2	89	2 ～。24～33の断面は方形であり、～	～。25～33の断面は方形であり、～	
V	2	89	10 ～平らな鉄板片である。111～1	～平らな鉄板片である。112～1	



章	節	頁	行	誤	正
V	2	91	表V-14	灰集中10・集石13 掲載陶磁器・石器・石製品	灰集中10・集石13 掲載陶磁器、石器・石製品
V	2	92	表V-18	図番号37の重量 (g) : (0.0)	図番号37の重量 (g) : (0.03)
V	2	92	表V-18	図番号51の重量 (g) : (0.0)	図番号51の重量 (g) : (0.01)
V	3	109	1	～。155は吊り耳鉄鍋の口縁部破片～	～。155は吊り耳鉄鍋の口縁部破片～
V	3	109	2	～。156は口縁部破片であり、～	～。156は口縁部破片であり、～
V	3	109	3	～。157は底部(底面)片である。～	～。157は底部(底面)片である。～
V	3	109	4	158も底部(底面)片であり、～	158も底部(底面)片であり、～
V	3	109	6	魚突鉤鈔片(161) : いわゆるマレクの鉄鉤部片である。～	魚突鉤鈔片(161) : いわゆるマレクの鉄鉤部片である。～
V	3	110	11	～。170には梅枝文様が彫金	～。170には梅枝文様が彫金
V	3	115	32	舟部材(70～204、付図1～3)	舟部材(70～204、付図1・2)
V	3	116	28	～。85は長辺側に溝付きの角孔が～	～。86は長辺側に溝付きの角孔が～
V	3	117	32	車輻受台部・軸(156～204) : ～	車輻受台部軸(156～204) : ～
V	3	117	36	～。162～164・166・172・	～。162～164・166～170・172・
V	3	118	8	舟用具(205～283、付図2・3)	舟用具(205～283、付図3)
V	3	119	2	～。先端形は241の角形と除いて～	～。先端形は241の角形を除いて～
V	3	119	6	(249・252・256～258・259)と～	(249・252・256～259)と～
V	3	119	10	～。表面に像嵌或いは何かを固定～	～。表面に象嵌或いは何かを固定～
V	3	120	10	322・325～327・329・339・334～339)や挿入および使用により先端部を折損したもの(300～304・	322・325～327・329・334～339)や挿入および使用により先端部を折損したもの(300・302～304・
V	3	120	19	～が多く、312～314・308・319・	～が多く、312～314・318・319・
V	3	120	31	～開くもの(335・356)。～	～開くもの(355・356)。～
V	3	121	2	魚突鉤鈔台部(366～377) : ～	魚突鉤鈔台部(364～377) : ～
V	3	121	7	～作出されている。366～368・369	～作出されている。366～369
V	3	123	13	～。433～435・436・438は有孔	～。433～436・438は有孔
V	3	123	15	～。433には矢筒に縛り止めた～	～。433には矢筒に縛り留めた～
V	3	123	33	～。像嵌や目貫等で飾られていた～	～。象嵌や目貫等で飾られていた～
V	3	123	39	小刀柄(443～474) : ～	小刀柄(443～473) : ～
V	3	124	17	～。446・468～473は未製品で～	～。466・468～473は未製品で～
V	3	128	12	割物容器(784～786) : ～	割物容器(784～788) : ～
V	3	128	17	杓子(789～808) : ～	杓子(789～810) : ～
V	3	128	30	～C柄部との篋先と幅にほとんど～	～C柄部と篋先との幅にほとんど～
V	3	129	23	紡織編具(1047～1078)	紡織編具(1047～1078、付図18)
V	3	134	18	～。1707～1776は細带状～	～。1707～1768・1776は細带状～
V	3	134	19	～。1750～1756・1759・1764は頭部差込式の細	～。1750・1764は頭部差込式の細
V	3	257	図V-171	図番号 : 632	図番号 : 633
V	3	257	図V-171	図番号 : 633	図番号 : 632
V	3	362	ランニング タイトル	V QB層の調査	V 第0黒色土層の調査
V	3	364	ランニング タイトル	V QB層の調査	V 第0黒色土層の調査
V	3	413	表V-29	図番号76の樹種 : ハンノキ?	図番号76の樹種 : ハンノキ
V	3	413	表V-29	図番号78の備考 : ～。貫入孔1箇所。～	図番号78の備考 : ～。貫入孔1ヵ所。～
V	3	413	表V-29	図番号78の樹種 : ～? 貫:ガマズミ? ハイノキ?	図番号78の樹種 : ～? 貫:ガマズミ? ハイノキ? ミツバウツギ?
V	3	416	表V-32	図番号144の樹種 : クルミ	図番号144の樹種 : オニグルミ
V	3	417	表V-33	図番号184の樹種 : ヤナギ	図番号184の樹種 : ヤナギ?
V	3	431	表V-47	図番号516の樹種 : ハシドイ?	図番号516の樹種 : リンゴ? ハシドイ?
V	3	436	表V-52	図番号640の木取り : 板目	図番号640の木取り : 板目
V	3	437	表V-53	図番号651の遺物名称 : 榎底板切断品	図番号651の遺物名称 : 榎底板切断品
V	3	440	表V-56	図番号721の樹種 : スギ? ネズコ? ヒノキ?	図番号721の樹種 : スギ? ネズコ? ヒノキ? ビャクシン?
V	3	441	表V-57	図番号757の遺物名称 : 箱物側板片	図番号757の遺物名称 : 箱物蓋板片
V	3	442	表V-58	図番号780の木取り : 横木	図番号780の木取り : 環

章	節	頁	行	誤	正
V	3	451	表V-67	図番号991の樹種：ヒノキ?アスナロ?	図番号991の樹種：ヒノキ?アスナロ? ビャクシン?
V	3	457	表V-73	図番号1143の遺物名称：木幣状製品片	図番号1143の遺物名称：木幣片
V	3	457	表V-73	図番号1144の遺物名称：木幣状製品片	図番号1144の遺物名称：木幣片
V	3	460	表V-76	図番号1206の樹種：ヒノキ?アスナロ? ?スギ?	図番号1206の樹種：ヒノキ?アスナロ?
V	3	461	表V-77	図番号1223の木取り：半割	図番号1223の木取り：丸木
V	3	466	表V-82	図番号1352の樹種：スギ?ネズコ?ヒノキ?	図番号1352の樹種：スギ?ネズコ?ヒノキ? ビャクシン?
V	3	468	表V-84	図番号1406の遺物名称：端部挟付楕円材片	図番号1406の遺物名称：端部挟入部付楕円材片
V	3	473	表V-89	図番号1521の樹種：スギ?	図番号1521の樹種：スギ
V	3	480	表V-96	図番号1691の樹種：イネ科(ササ)	図番号1691の樹種：イネ科(ササ)?
VI	2	492	4	～柄等に像嵌する飾り板で～	～柄等に象嵌する飾り板で～
VI	2	493	2	～は、H地区(図Ⅱ-2)中央部の～	～は、H地区(図Ⅱ-1)中央部の～
VI	2	493	10	舟部材(1794～1857)	舟部材(1794～1838、付図1・2)
VI	2	493	40	～。1824～1836は車權受台部の～	～。1824～1827は車權受台部の～
VI	2	494	1	車權受台部・軸(1830～1838)：～	車權受台部軸(1830～1838)：～
VI	2	494	8	舟用具(1839～1857)	舟用具(1839～1857、付図3)
VI	2	494	13	～。1846の断面形は凸レンズ状で～	～。1844の断面形は凸レンズ状で～
VI	2	494	14	1845・1846は同一個体の可能性が～	1844・1845は同一個体の可能性が～
VI	2	494	18	～。1851～1854は水掻部片である。	～。1851～1853は水掻部片である。
VI	2	494	26	漁撈具(1858～1896)	漁撈具(1858～1896、付図4～7)
VI	2	494	34	～。1872・1877・1878～1881は尖端部を欠損した～	している。1872・1878～1881は尖端部を欠損した～
VI	2	494	39	魚突鉤銚台部(1885～1893・1895・1896)：～	魚突鉤銚台部(1885～1891・1895・1896)：～
VI	2	495	17	狩猟具(1897～1913)	狩猟具(1897～1913、付図8)
VI	2	496	1	切載具(1914～1926)	切載具(1914～1926、付図9)
VI	2	496	2	～(1914・1915・1919)と～	～(1914・1915・1917・1919)と～
VI	2	496	6	～る。1918は山刀の柄頭の突起部であろうか。1919は～	～る。1919は～
VI	2	496	20	採集具(1927・1928)	採集具(1927・1928、付図10)
VI	2	496	24	工具(1929～1939)	工具(1929～1937・1939、付図11)
VI	2	496	32	農耕・工具(1938～1944)	農耕・工具(1938・1940～1944、付図11)
VI	2	497		発火具・炉鈎(1945～1953)	発火具・炉鈎(1945～1953、付図12)
VI	2	497	11	容器類(1954～1989)	容器類(1954～1989、付図13～16)
VI	2	497	12	桶・樽(1955～1960)：～	桶・樽(1954～1960)：～
VI	2	497	27	漆塗椀(1983～1987・1988)：～	漆塗椀(1982～1987・1988)：～
VI	2	497	36	杓子(1990・1991)：～	杓子(1990・1991、付図17)：～
VI	2	497	39	筥(1992～1999)：～	筥(1992～1999、付図17)：～
VI	2	498		～区分できないもの(1998)等がある。④柄部と筥部の～	～区分できないもの(1998)、④柄部と筥部の～
VI	2	498	17	歩行具(2020・2021)	歩行具(2020・2021、付図19)
VI	2	498	21	紡織編具(2022・2023)	紡織編具(2022・2023、付図18)
VI	2	498	33	祭祀・儀礼具(2029～2037)	祭祀・儀礼具(2029～2037、付図20)
VI	2	499	25	端部挟付丸材(2082)：～	端部挟付丸木材(2082)：～
VI	2	540	図VI-48	容器類7(漆塗箱物底板・漆塗椀)	容器類7(漆塗箱物蓋板・漆塗椀)
VI	2	542	図VI-50	食用具1(筥①)	食用具2(筥①)
VI	2	543	図VI-51	食用具2(筥②)	食用具3(筥②)
VI	2	544	図VI-52	食用具3(両口箸・片口箸)	食用具4(両口箸・片口箸)
VI	2	545	図VI-53	食用具4(～)	食用具5(～)
VI	2	549	図VI-57	軸状製品1	軸状製品

章	節	頁	行	誤	正
VI	2	559	図VI-67	有溝角材・角材	有溝角材・杭状製品
VI	2	569	表VI-5	図番号1824の樹種：モクレン	図番号1824の樹種：ハンノキ
VI	2	574	表VI-10	図番号1954の樹種：スギ?	図番号1954の樹種：スギ?ネズコ?
VI	2	581	表VI-17	図番号2120の樹種：樹皮	図番号2120の樹種：樹皮丸材・ヤナギ
VII	2	585	2	舟部材 (2137~2146)	舟部材 (2137~2143)
VII	2	585	12	漁撈具 (2144~2146)	漁撈具 (2147~2151)
VII	2	585	16	～、鉄鉤溝の直下に抉入部が～。	～、鉄鉤溝の直下に抉入部が～。
VII	2	585	18	～。木の髓部分を鉄鉤溝として～	～。木の髓部分を鉄鉤溝として～
VII	2	585	32	発火具 (2161~2165)	発火具 (2161~2167)
VII	2	586	6	箸状製品 (2178~2180) : 2180・2179は～	箸状製品 (2178~2180) : 2178・2179は～
VII	2	586	11	紡織編具 (2186~2187・2208)	紡織編具 (2186・2187・2208)
VII	2	586	15	祭祀・儀礼具 (2188)	祭祀・儀礼具 (2188・2194)
VII	2	587~601 の奇数頁	ランニング タイトル	1 遺構の遺物	2 包含層の遺物
VII	2	599	表VII-3	I B層掲載遺構の木製品 (1)	I B層掲載木製品 (1)
VII	2	600	表VII-4	図番号2170の備考：I B-1	図番号2170の備考：I B
VIII	1	611	11	板目・柱目面：放射組織は1~4細胞幅 で5~35細胞高で～	板目・柱目面：放射組織は1~4細胞幅 、5~35細胞高で～
VIII	1	612	10	板目・柱目面：放射組織は1~8細胞幅 で5~30細胞高で～	板目・柱目面：放射組織は1~8細胞幅 、5~30細胞高で～
VIII	1	616	1	～ (表VIII-1-1~3、図VIII-1~2)	～ (表VIII-1-1~3、図VIII-1-1~2)
VIII	1	617	6	～銚の柄をつなぐ木 [回転式離頭銚 中柄・魚突鉤台] ) ~	～銚の柄をつなぐ木 [回転式離頭銚 中柄・魚突鉤銚台] ) ~
VIII	1	617	10	木製品の樹種組成 (図VIII-1-1~2、表 VIII-1-3)	木製品の樹種組成 (図VIII-1-1~2、表 VIII-1-β)
VIII	1	617	25	～。魚突鉤台部もアジサイ属～	～。魚突鉤銚台部もアジサイ属～
VIII	1	618	キャプション	キャプションなし	表VIII-1-1 同定樹種名一覧
VIII	1	638	上段左	なし	49 ガマズミ属?ハイノキ属? a×80
VIII	1	638	上段中	なし	b×200
VIII	1	638	上段右	なし	c×100
VIII	2	645	5	～草本子実の表である。～	～草本種子の表である。～
VIII	2	646	2	1) 美々8遺跡低湿部から出土した 栽培種子について	1) 美々8遺跡低湿部から出土した栽 培種子について
VIII	2	646	14	～ (図VIII-2-3・4、表VIII-2-5)	～ (図VIII-2-3・4、表VIII-2-5・11・12)
VIII	2	648	図VIII-2-4	発掘区 サンプル番号 層位 サン プル量 採取資料 栽培種子～	発掘区 サンプル番号 層位 サン プル量 採取試料 栽培種子～
VIII	2	653	表VIII-2-9	種名：キハダ果皮	種名：キハダ種皮
VIII	2	661	表VIII-2-16	種名：キハダ果皮	種名：キハダ種皮
VIII	2	669	33	マタタビ属 (Actinidia) : 表面には 全体に亀甲条の凹みが～	マタタビ属 (Actinidia) : 表面には 全体に亀甲状の凹みが～
VIII	2	674	9	～、灰集中14 (OB層下部)、～	～、灰集中14 (OB下層)、～
VIII	2	674	9	～、炭化物集中17 (OB層)、～	～、炭化物集中17 (OB上層)、～
VIII	2	677	25	～表VIII-3-1~表VIII-3-19に示した。～	～表VIII-2-23~表VIII-2-41に示した。～
VIII	2	689	表VIII-2-35	炭集中13	灰集中13
VIII	3	725	4~5	～、今回の調査結果みると～	～、今回の調査結果をみると～
VIII	4	737	表1 No.2 銚	備考 (所収報告書) : 北埋調報102	備考 (所収報告書) : 北埋調報62
VIII	4	737	表1 No.4 小刀	出土遺構および発掘区 : d-66-52 (P-1)	出土遺構および発掘区 : d-66-24・25 (IP-1)
IX	2	744	7	～。この周辺からは板綴舷側板～	～。この周辺からは板綴舟舷側板～
IX	2	744	8	～、魚突鉤台 (マレク)、魚引掛鉤 (アブ)、	～、魚突鉤銚台部 (マレク)、魚引 掛鉤 (アブ)、
IX	2	744	17	～構築材を主体する～	～構築材を主体とする～
IX	2	744	36	～が多いのは「もの送り」のため～	～が多いのは「物送り」のため～
IX	2	744	39	～失われた「もの送り儀礼」を～	～失われた「物送り儀礼」を～
IX		報告書 抄録	主な遺物 3	回転式離銚・魚突鉤等、漁	回転式離頭銚・魚突鉤銚等、漁

章	節	頁	行	誤	正
IX		報告書抄録	主な遺物 6	食用具、紡織細具、祭	食用具、紡織細具、祭
図版目次		右3	図版-9-5	両端部挟入付屈曲丸木材	両端部挟入部付屈曲丸木材
図版目次		右13	図版-12-3	表土層火打石	表土層遺構火打石
図版目次		右14	図版-12-4	表土層ガラス玉	表土層遺構ガラス玉
図版目次		右15	図版-12-5	表土層金属製品	表土層遺構金属製品
図版目次		左3	図版-89	OB層漁撈具（回転式離頭銚中柄）	OB層漁撈具（回転式離頭銚）
図版目次		左16	図版-275	重機調査工具（縦槌・鉄斧柄）	重機調査工具（縦槌頭部・横槌柄・鉄斧柄）
図版目次		右16	図版-301-1	重機調査層縄	重機調査縄
図版目次		右17	図版-301-2	重機調査層縄	重機調査縄
図版目次		右18	図版-301-3	重機調査層縄	重機調査縄
図版目次		右19	図版-301-4	重機調査層縄	重機調査縄
図版目次		右20	図版-301-5	重機調査層縄結び	重機調査縄結び
図版目次		右21	図版-301-6	重機調査層繊維	重機調査繊維
図版目次		右25	図版-302-3	I B層査鑑	I B層鑑
表土層		図版12-3		3 火打石	3 遺構 火打石
表土層		図版12-4		4 ガラス玉	4 遺構 ガラス玉
表土層		図版12-5		5 金属製品	5 遺構 金属製品
OB層		図版89		漁撈具（回転式離頭銚中柄・魚突鉤銚台／基部／棹）	漁撈具（回転式離頭銚・魚突鉤銚台／基部／棹）
OB層		図版131		燈火用挟木	燈火用挟木
重機調査		図版275		工具（縦槌・鉄斧柄）	工具（縦槌頭部・横槌柄・鉄斧柄）
付図目次		付図1		付図1 舟用具分布図1（～	付図1 舟部材分布図1（～
付図目次		付図2		付図2 舟用具分布図2（～	付図2 舟部材分布図2（～
付図目次		付図3		付図3 舟用具分布図3（～	付図3 舟用具分布図（～
付図目次		付図10		付図10 農耕具・採集具分布図（土掘棒・鈎鋸）	付図10 農耕・採集具分布図（土掘棒・鈎鋸）
付図目次		付図11		付図11 加工具・工具分布図（縦槌・横槌・縦杵・鉄斧など）	付図11 農耕・工具分布図（縦槌・横槌・縦杵・鉄斧柄など）
付図目次		付図12		付図12 発火具・燈火具分布図（ヒキリ板・ヒキリ棒・灯火用挟木・炉鈎など）	付図12 発火具・炉鈎・燈火具分布図（ヒキリ板・ヒキリ棒・燈火用挟木・炉鈎など）
付図		付図1		付図1 舟用具分布図1（～	付図1 舟部材分布図1（～
付図		付図2		付図2 舟用具分布図2（～	付図2 舟部材分布図2（～
付図		付図3		付図3 舟用具分布図3（～	付図3 舟用具分布図（～
付図		付図4		付図4 漁撈具分布図1（回転式離頭銚中柄〔二本式〕など）	付図4 漁撈具分布図1（回転式離頭銚中柄〔一本式〕など）
付図		付図6		付図6 魚撈具分布図3（～	付図6 漁撈具分布図3（～
付図		付図7		付図7 魚撈具分布図4（～	付図7 漁撈具分布図4（～
付図		付図10		付図10 農耕具・採集具分布図（～	付図10 農耕・採集具分布図（～
付図		付図11		付図11 加工具・工具分布図（縦槌・横槌・縦杵・鉄斧など）	付図11 農耕・工具分布図（縦槌・横槌・縦杵・鉄斧柄など）
付図		付図11	凡例 5	縦杵	縦杵
付図		付図12		付図12 発火具・燈火具分布図（ヒキリ板・ヒキリ棒・灯火用挟木・炉鈎など）	付図12 発火具・炉鈎・燈火具分布図（ヒキリ板・ヒキリ棒・燈火用挟木・炉鈎など）

●遺構層位名訂正一覧表

遺構名	誤	正
灰集中10	第一灰層	第1灰層
灰集中10	第二灰層	第2灰層
灰集中10-2灰層	OB下層	OB上層
灰集中13	OB	OB上面
灰集中14	OB	OB下層
灰集中14	OB下	OB下層
灰集中15	OB	OB上層
灰集中16	OB	OB下層
灰集中17	OB	OB上層
灰集中18	OB	OB上層
灰集中19	OB	OB上層
灰集中20	OB	OB上層
灰集中22	II B-1	I B-1上面
炭化物集中1		表土 I
炭化物集中2	Ta-b上	OB下層
炭化物集中3	I B-1	I B上面
炭化物集中4	OB	OB上面
炭化物集中5	OB	OB上層
炭化物集中6	OB	OB上層
炭化物集中8	OB	OB上面
炭化物集中9	OB	OB上面
炭化物集中11	OB	OB上面
炭化物集中12	OB	OB上面
炭化物集中14	OB	OB下層
炭化物集中15	OB	OB上層
炭化物集中16	OB	OB上層
炭化物集中17	OB	OB上層
炭化物集中18	II B	I B-1上面
炭化物集中18	I B-1	I B-1上面
炭化物集中20	OB	OB上層
炭化物集中21	OB	OB上層
炭化物集中21	II B-1	OB上層
炭化物集中22		I B-1
炭化物集中22	OB	I B-1
炭化物集中22	I B	I B-1
炭化物集中29	OB	OB上層
炭化物集中30	OB	OB上層
炭化物集中31	I B-1	I B-1上面
砂集中1	OB	OB上層
砂集中1	I B-1	OB上層
砂集中2	OB	OB上層
砂集中3	II B-11	I B-1
貝殻皮集中1	OB上面	OB上層
貝殻皮集中2	OB	OB上層
貝殻皮集中3	OB	OB下層
貝殻皮集中4	OB	OB上層
クリ集中1	OB上面	OB上層
クルミ集中1	OB	OB上層
クルミ集中2	OB	OB上層
クルミ集中3	OB	OB上層
クルミ集中4	OB	OB上層
クルミ集中5	OB	OB上層
ホオノキ集中1	OB	OB上層

左記の訂正箇所は次の表番号のものとなります

章	頁	表番号
V	99	表V-22
V	101	表V-23
VIII	643	表VIII-2-1
VIII	645	表VIII-2-3
VIII	649	表VIII-2-5
VIII	650	表VIII-2-6
VIII	651	表VIII-2-7
VIII	652	表VIII-2-8
VIII	653	表VIII-2-9
VIII	654	表VIII-2-10
VIII	665	表VIII-2-19
VIII	667	表VIII-2-21
VIII	668	表VIII-2-22
VIII	689	表VIII-2-35
VIII	690	表VIII-2-36
VIII	691	表VIII-2-37
VIII	691	表VIII-2-39

●その他訂正

表IV-1、表V-1の観察表の見方は、北埋調報第103集 『千歳市 オサツ2遺跡 (2)』 P1171.18~1.31参照

VIII章 2節 P. 649 表VIII-2-5の縦罫線は下記のようになります。表VIII-2-11・12も同様です。

Table VIII-2-5: A large grid table with columns for site names (e.g., 灰集中1 to 灰集中12) and various categories (イネ, キビ, ヒエ, アワ, アサ, ソバ, シソ, アズキ) with sub-columns for carbonization status and fragment types.

VIII章 2節 P. 650 表VIII-2-6の縦罫線は下記のようになります。表VIII-2-13 オニグルミも同様です。

Table VIII-2-6: Table for Onigumi (オニグルミ) with columns for site names, strata, and carbonization levels (炭化・動物食痕なし, 未炭化・動物食痕あり, 未炭化・動物食痕なし) with sub-columns for fragment shapes and counts.

VIII章 2節 P. 651 表VIII-2-7の縦罫線は下記のようになります。表VIII-2-13 クリも同様です。

Table VIII-2-7: Table for Kiri (クリ) with columns for site names, strata, and carbonization levels (炭化, 未炭化) with sub-columns for fragment shapes and weights.

VIII章 2節 P. 652 表VIII-2-8の縦罫線は下記のようになります。表VIII-2-14・15も同様です。

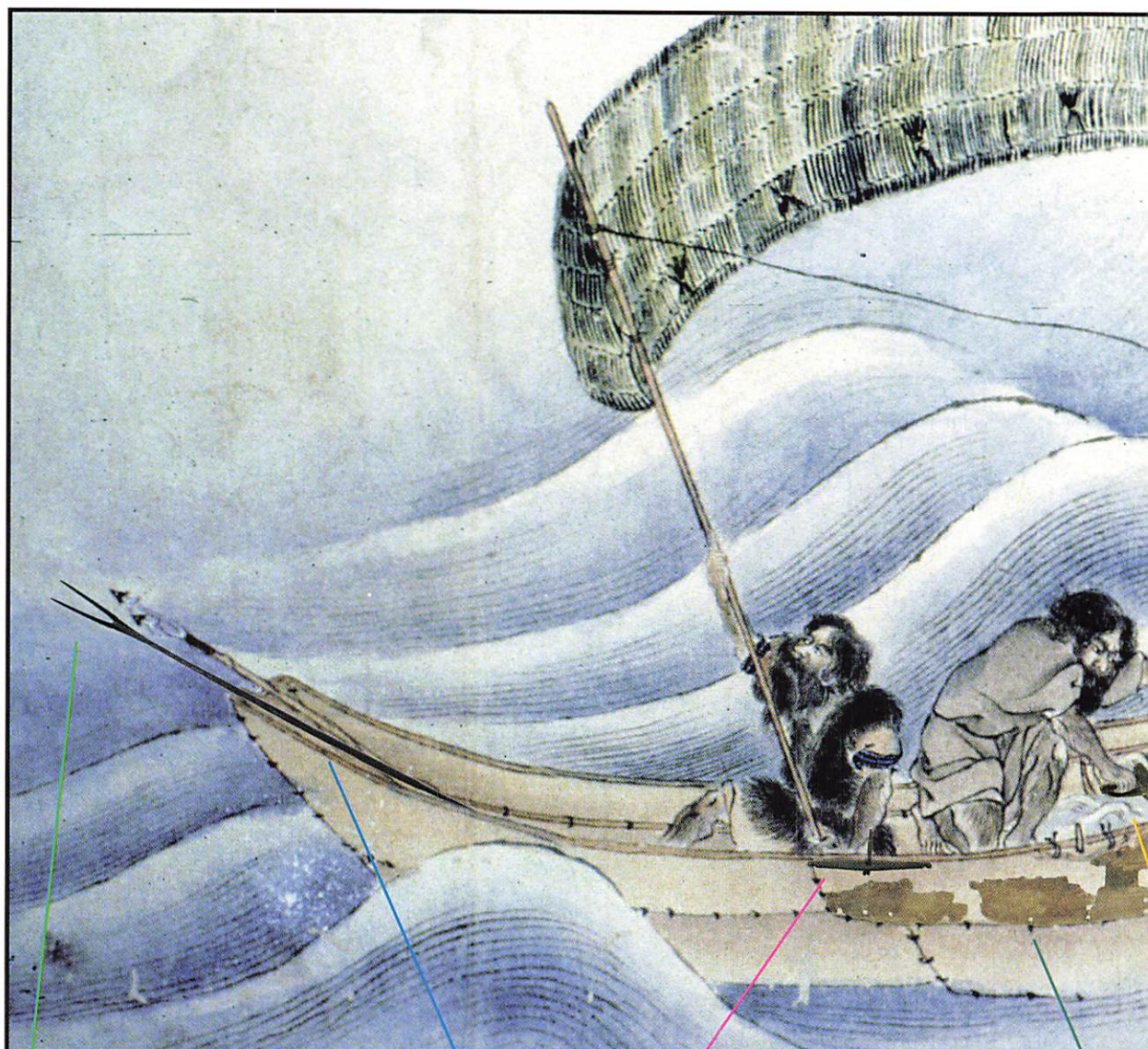
Table VIII-2-8: A complex table with three main sections: コナラ亜属 (Kobara subgenus), カシワ (Kashiwa), and ミズナラ (Mizunara), each with columns for site names, strata, and carbonization levels with detailed sub-columns for fragment analysis.





板綴舟舷側板 (74)





● 回転式離頭銛中柄

● 車櫂受台部



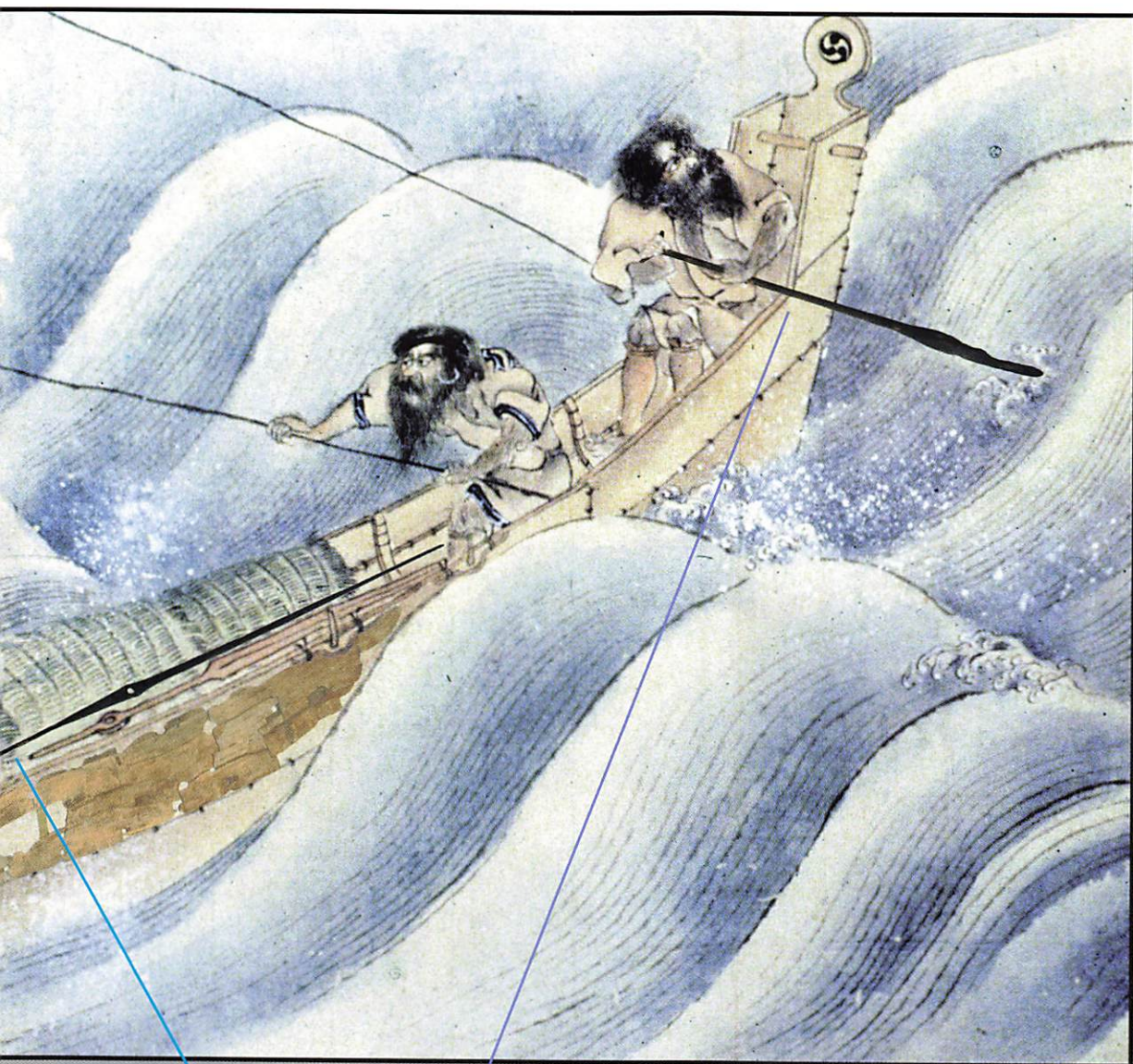
原画



● 回転式離頭銛棹







● あか汲み



● 早櫂



● 車櫂



● 舷側板



板綴舟(イタオマチ)の復元  
写真合成・デザイン：田中康治





1 車權受台部 (126・127)



2 あか汲み (260)





1 矢筒翼 (433)



2 炉鉤 (601)



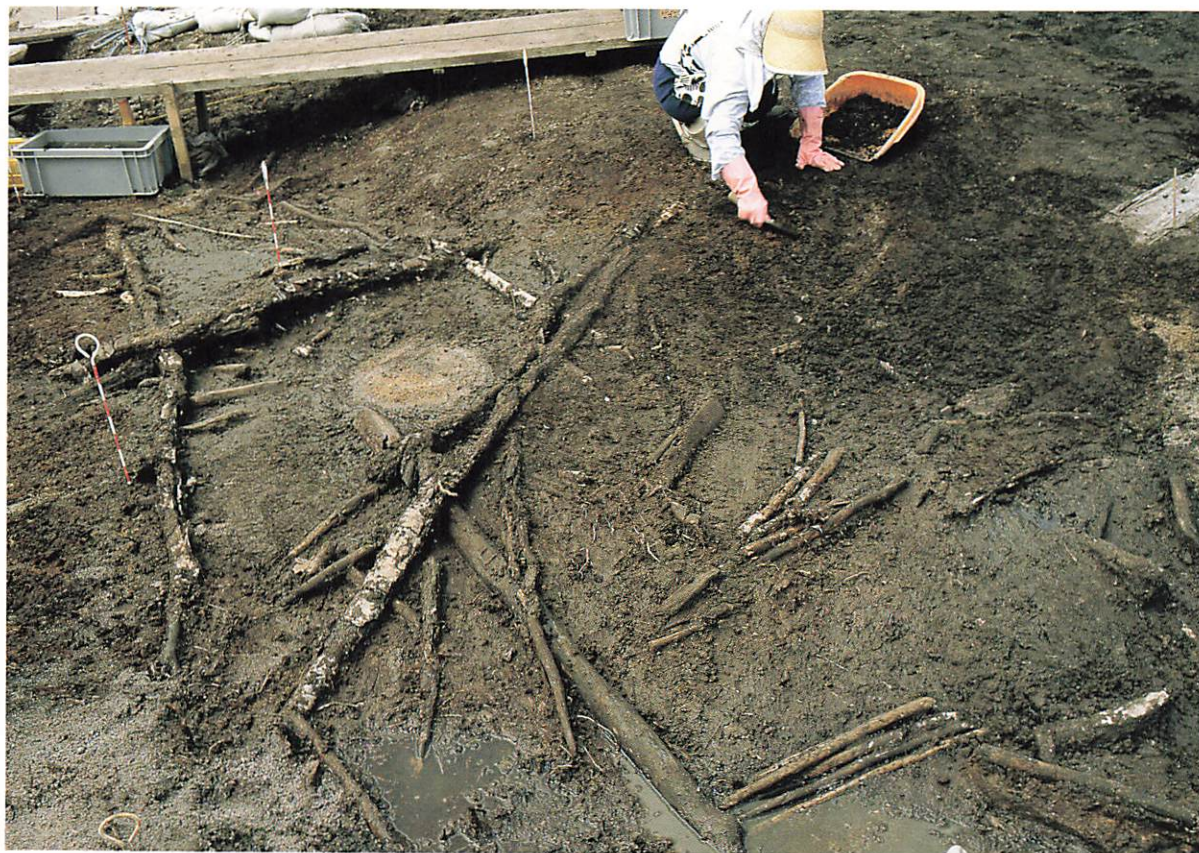


1 木札 (1109・1111・1112・1114)



2 高床式倉庫の梯子 (39)





1 OB層建材集中 2



2 OB層灰集中10土層断面 SE→





1 調査状況 E→



2 調査状況 N→





738

739



760

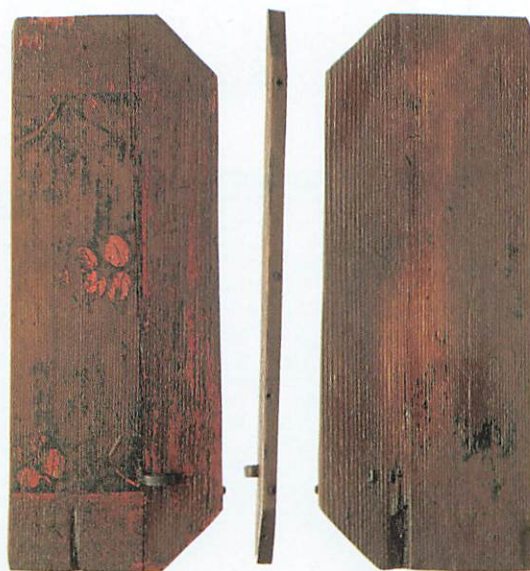
761

762

763



1 漆塗箱物蓋板 (764)



764

2 漆塗曲げ物板・漆塗箱物板





771

772

773



774



775



776



777



778



779



780



782



1 漆塗椀 (781)



781

2 漆塗椀・漆塗煙管ラウ





783



1981



1982



1983



1984



1985



1986



1987



1988



1 染付碗 (3)



2 陶器碗 (8)



3 陶器皿 (12)



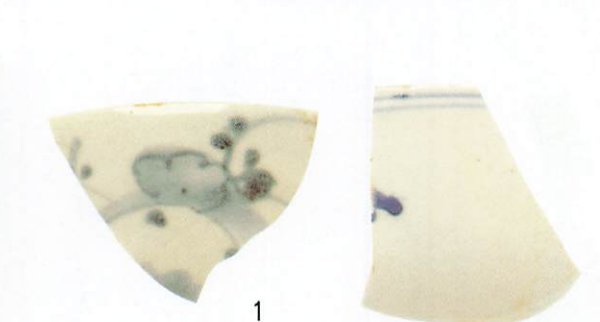
6



11



10



7



13



1

17

4 陶磁器





1 ガラス製品・金属製品



2 回転式離頭鉤中柄・指掛部



食用具（過年度報告分を含む）

## 例 言

1. 本書は、平成4年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した新千歳空港建設用地内埋蔵文化財包蔵地発掘調査のうち、美々8遺跡低湿部の人力調査地区の表土層（Ta-a層 1739年降下～幕末頃）と第0黒色土層（Ta-b層 1667年降下～Ta-a層 1739年降下まで）、クラムシェル（重機）調査地区（包含層一括採取のため大まかな土層細分）の報告書である。

なお、Ⅶ章に保存処理中のため北埋調報102集に掲載できなかった第Ⅰ黒色土層出土の木製品・樹皮製品・金属製品を追加資料として掲載している。

2. 低湿部の報告は、平成元年度試掘調査（北埋調報69）、平成2年度予備調査（北埋調報77）、平成3年度調査（北埋調報83）、平成4年度調査の一部（北埋調報102）と既に4冊を刊行している。

美々8遺跡低湿部の整理作業・保存処理作業は平成4年度からの継続事業であり、本年度が最終年度である。発掘調査は調査部調査第3課が行い、報告書の作成は第1調査部資料調査課が行った。

ただし、出土資料が膨大かつ多岐にわたるため、諸般の事情から事実記載のみの概略的な報告となってしまったことをご寛容願いたい。

3. 本書の作成に当たっては、主に木製品、樹皮製品、繊維製品、金属製品、ガラス製品、骨角製品を田口尚が、土層、遺構、土器、石器を鈴木信が、動植物遺存体については田口尚の作業を引継ぎ鈴木信が分担執筆した。全体の構成・編集は田口尚が行った。各章、各節の執筆担当は以下の通りであり、それぞれ文末に文責者を記した。

田口尚…Ⅰ-1～4, Ⅱ-2(1)～(5)・3(1)(2)・4(1)～(3)・5～7, Ⅳ-1・(3)～(6)のガラス製品・金属製品・木製品・3(3)(4), Ⅴ-1・2(2)(3)(5)(6)(9)(10)(16)のガラス製品・金属製品・木製品・3(3)～(5), Ⅵ-1・2(3)～(5), Ⅶ-1(1)・2(1)(2), Ⅷ-1(1)(4)(5), Ⅸ、鈴木信…Ⅱ-1, Ⅲ-1・2, Ⅳ-1・2(1)～(6)・3(1)(2), Ⅴ-1・2(1)～(16)・3(1)(2), Ⅵ-1・2(1)(2), Ⅷ-2(1)(2)(3)2)～6), Ⅸ、田中康治…Ⅱ-8、岡本育子…Ⅷ-1(2)～(4)

4. 各種同定、分析及び調査指導は下記に依頼した。

炭化種子同定及び指導：北海道環境文化研究センター・札幌国際大学 吉崎昌一氏・北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代氏（継続）、金属製品の材質分析・ガラス製品の成分分析：岩手県立博物館 赤沼英男氏（継続）、樹種同定及び指導：農林水産省森林総合研究所 平川泰彦氏（継続）、花粉分析：北海道開拓記念館 山田悟郎氏（北埋調報102掲載）、動物遺存体同定及び調査指導：千歳市埋蔵文化財センター 高橋理氏（継続）、珪藻分析・植物珪酸体分析・昆虫同定：パリノサーヴェイ株式会社考古学研究室、珪藻含有量：野外科学株式会社、放射性炭素年代測定：京都産業大学山田治氏（北埋調報102掲載）、アイヌ民具の調査指導：国立民族学博物館 大塚和義氏、保存処理等の指導：奈良国立文化財研究所 沢田正昭氏・肥塚隆保氏・村上隆氏・奈良県立橿原考古学研究所 今津節生氏・滋賀県文化財保護協会 中川正人氏、木製発火具の調査指導：北海道教育大学釧路校 高嶋幸男氏、漆塗碗製作技法の調査指導：元興寺文化財研究所 北野信彦氏、須恵器・土師器の蛍光X線分析及び指導：奈良教育大学 三辻利一氏（北埋調報103掲載）。

5. 現場の遺構図・遺物出土状況図などは、三浦正人・皆川洋一・鈴木信・越田雅司が担当した。

遺構図の整理は鈴木信、遺構図・遺物出土状況図の整理及びトレース図の作成は半澤和恵・小原節子が従事し、田口尚が統括した。パソコンによる遺物分布図作成には主に田中康治・小原節子・前田房美が従事し、田口尚が統括した。



6. 台帳整理・諸記録の整理は主に田中康治・小原節子・前田房美・鶴岡廣子が従事し、田口尚が統括した。
7. 画像データベースの構築は主に田中康治が行い、パソコンへの画像の取り込み・データ入力・一覧表作成は田中康治・前田房美・園田敏江・鎌田弥生・岩田理恵子・今野博美・田澤初枝が従事し、田口尚が統括した。
8. 遺構・遺物の写真撮影のうち、現場写真撮影は主に越田雅司、整理時の遺物写真撮影・現像・焼付けは菊池慈人が担当した。写真台帳・アルバム・フォトCD整理には越智八重子・園田敏江が従事し、菊池慈人が統括した。
9. 石材鑑定は主に資料調査課花岡正光が行い、鈴木信が補佐した。
10. 樹種同定は農林水産省森林総合研究所 平川泰彦氏の指導のもとに岡本育子が行った。
11. 陶磁器・土器・石器・石製品・ガラス製品・金属製品・骨角製品・木製品・樹皮製品・繊維製品の実測・トレースは、藤内まゆみ・足立まみ・小林由里子・濱中聡子・小畑麻弓・釜菫みどり・浅沼典子・岩田理恵子・前田房美・小山紫野・木下昭仁・小林（高田）京子・望月（中井）泉が行い、田口尚が統括した。
12. 遺物の保存処理は主に木製品等を岡本育子・吉田（長瀬）めぐみ・山内（福士）奈巳美・館岡綾子・田中康治・武田基・勝見希久雄・鶴岡廣子が、主に金属製品等を浅沼典子が補助し、田口尚が統括した。
13. 土壌の浮遊選別・水洗選別試料の一次、二次選別作業は田口尚の指示のもと、主に斎藤教江・村上恭子が、細別・細分・集計は鈴木信の指示のもと、主に女池滋子・吉田京子・岩崎結花が行った。
14. 出土遺物の整理、木製品の分類・洗浄・水替え・脱気パック・収納には主に白幡喜江・小山紫野・田中清久・目黒祐子・吉崎美智子・中谷道子・吉田京子・杉井淳子・北村淳・武藤利香・梅木友子・磯田良雄が従事し、作業全体を田口尚が統括した。
15. その他、収納台帳整理・調査に関わる諸記録のパソコン入力を主に田中康治・小原節子・前田房美が行い、田口尚が統括した。
16. 整理報告終了後の出土遺物及び記録類については、北海道教育委員会が保管・管理する。ただし、当センターで保存処理を実施した一部の重要遺物は、経過観察を行いながら仮保管している。
17. 発掘調査・整理作業にあたっては、下記の機関および各氏にご指導ならびにご助言を賜った。ご芳名を記し、感謝申し上げる次第である。（順不同、敬称略）

文化庁、北海道教育委員会、千歳市教育委員会、北海道開発局札幌開発建設部新千歳空港建設事業所、渡辺重建工業株式会社、奈良国立文化財研究所 工楽善通・沢田正昭・肥塚隆保・村上隆・西村康・光谷拓実・松井章・牛嶋茂、東京国立文化財研究所 青木繁夫、国立民族学博物館 大塚和義、東京国立博物館 佐々木利和、奈良県立橿原考古学研究所 今津節生、滋賀県文化財保護協会 中川正人、元興寺文化財研究所 増澤文武・植田直見・北野信彦、北海道開拓記念館 三野紀雄・野村崇・平川善祥・小林幸雄・氏家等・出利葉浩司・右代啓視・水島未記、北海道立北方民族博物館 青柳文吉・渡部裕、北海道立アイヌ民族文化研究センター 古原敏弘・本田優子、北海道立工業試験場 相山英明、東京大学 宇田川洋、北海道大学 菊池俊彦・林謙作・天野哲也・椿坂恭代、名古屋大学 小谷凱宣、早稲田大学 菊池徹夫、東京都立大学 山田昌久、国学院大学 鈴木靖民、関西外国語大学 出口昌子、札幌国際大学 吉崎昌一、札幌大学 木村英明、札幌学院大学 鶴丸俊明、北海学園大学 藤村久和、千歳市教育委員会 大谷敏三・田村俊之・高橋理・豊田宏良・松田淳子、千歳市アイヌ文化伝承保存会 中本ムツ子、苫小牧市埋蔵文化財調査センター

佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤肇・渡辺俊一・二階堂啓也・兵藤千秋・赤石慎三、恵庭市郷土資料館  
 上屋真一・松谷純一・森秀之、札幌市埋蔵文化財センター 加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・仙波  
 伸久・秋山洋司、江別市郷土資料館 野中一宏・稲垣和幸、小樽市教育委員会 土屋周三・石川直  
 章・青木誠、小樽市博物館 石神敏、市立函館博物館 長谷部一弘、旭川市教育委員会 瀬川拓郎、  
 富良野市郷土館 杉浦重信、帯広百年記念館 北沢実・内田祐一・山原敏朗、釧路市埋蔵文化財調  
 査センター 西幸隆・石川朗・松田猛、深川市教育委員会 葛西智義、伊達市教育委員会 大島直  
 行、石狩市教育委員会 石橋孝夫・工藤義衛、倶知安町教育委員会 矢吹俊男、余市町教育委員会  
 乾芳宏・宮宏明、平取町教育委員会 森岡健治、平取町立二風谷アイヌ文化博物館 米田秀喜、  
 平取町二風谷アイヌ語教室 萱野志朗、静内町郷土館 藪中剛司、アイヌ民族博物館 村木美幸、  
 上ノ国町教育委員会 松崎水穂・斉藤邦典、知内町郷土資料館 高橋豊彦、南茅部町教育委員会  
 阿部千春・福田裕二、今金町教育委員会 寺崎康史、八雲町郷土資料館 柴田信一、斜里町教育委  
 員会 金盛典夫、羅臼町教育委員会 涌坂周一、豊原熙司、児玉マリ、福岡イト子、津田命子、由  
 良勇他

最後に、長年にわたり新千歳空港用地内発掘調査の現場作業に従事され、特に低湿度調査の要と  
 なる揚排水の準備・設置、保守点検・安全管理をしていただいた故中村武氏のご冥福を祈り、この  
 報告書を捧げます。

## 記号等の説明

1. 遺構には舟着場、建物跡、立杭列、杭穴列、立杭：T、杭穴：P、建材集中、双礫、集石：0S、  
 灰集中：灰、炭化物集中：炭、砂集中、小砂利集中、土器集中、クルミ集中：クルミ、クリ集中：  
 クリ、ホオノキ集中：ホオノキ、貝殻皮集中：貝、溝等があり、表記には一部略記号を併用してい  
 る箇所がある。また、立杭、杭穴の○シンボルマークの大小は、平面径の大小を表している。
2. 遺構図の数値は標高（単位m）であり、遺構図・遺物実測図にはすべてスケールを付している。  
 遺物実測図は基本的に土器1/3、剥片石器1/2、礫石器1/3、ガラス製品1/1、金属製  
 品1/1～1/3、骨角製品1/1～1/2、大小の幅が大きい木製品は概ね1/3を基本に、製  
 品の種類で1/3～1/10の範囲でスケールを付している。
3. 掲載遺物には、層位・遺構・調査法にかかわらず、陶磁器・土器（1.2.3.・・・）、石器・石製品  
 （1.2.3.・・・）、ガラス製品（1.2.3.・・・）、骨角製品（1.2.3.・・・）、金属製品（1.2.3.・・・）、木製品・樹皮製  
 品・繊維製品（1.2.3.・・・）等のように種類別毎にすべて1番から連番で掲載遺物番号を付し、本文、  
 一覧表、分布図、写真図版の遺物番号と対応させている。
4. 土層は、表土層：表、樽前a降下軽石：Ta-a、第0黒色土層：0B、樽前b降下軽石：Ta-b、第  
 I黒色土層：IB、有珠b<sub>1</sub>火山灰：Us-b、第II黒色土層：IIB、苫小牧火山灰：B-Tm、樽前c<sub>1</sub>  
 降下軽石：Ta-c<sub>1</sub>、樽前c<sub>2</sub>降下岩片：Ta-c<sub>2</sub>、樽前d<sub>1</sub>降下岩片：Ta-d<sub>1</sub>、樽前d<sub>2</sub>降下スコリヤ：  
 Ta-d<sub>2</sub>、第III黒色土層：IIIB、恵庭aローム：En-aL、恵庭a降下軽石：En-aP、支笏軽石流堆  
 積物：Spflのように略称を用いた場合がある。
5. 遺物出土状況図・分布図には基本的に土器：●、剥片石器・礫石器：■、ガラス製品：★、金属  
 製品：▲、骨角器・自然遺物：\*を使用した。
6. 本文及び一覧表中の木製品の樹種名称は、基本的に属名で記しており、植物遺存体や動物遺存体  
 では可能な限り種名を記している。

# 目 次

## 第1分冊（本文・挿図・表）

カラー図版

例 言

記号などの説明

### I 調査の概要

1 調査要項 .....	1
2 調査体制 .....	1
3 調査の経緯 .....	2
4 調査の概要 .....	2

### II 調査と整理の方法

1 発掘区の設定 .....	7
2 調査の方法 .....	8
(1) 準備工事 .....	8
(2) 人力調査 .....	9
(3) 重機（クラムシェル）調査 .....	10
(4) 水洗選別調査 .....	11
(5) 遺物の取上げ .....	11
3 整理と保管の方法 .....	12
(1) 現場における整理と保管 .....	12
(2) 札幌整理作業所における整理と保管 .....	13
4 遺物の保存処理 .....	13
(1) 有機質遺物の保存処理 .....	13
(2) 金属製品の保存処理 .....	14
(3) その他の遺物の保存処理 .....	14
5 各種分析と試料のサンプリング .....	17
6 土層断面の剥ぎ取り .....	17
7 写真撮影の方法 .....	18
8 画像付きデータベース作成とその活用 .....	19

### III 位置と環境

1 位置と環境 .....	23
2 土層の区分 .....	23

### IV 表土層の調査

1 調査結果の概要 .....	33
2 遺構とその遺物 .....	34
(1) 建物跡 .....	35
(2) 立杭列 .....	35
(3) 杭穴列 .....	36



(4) その他の立杭と杭穴	36
(5) 灰集中	38
(6) 炭化物集中	39
3 表土層の遺物	40
(1) 陶磁器	40
(2) 石器・石製品	40
(3) 金属製品	40
(4) 木製品	40
V 第0 黒色土層の調査	
1 調査結果の概要	43
2 遺構とその遺物	43
(1) 舟着場	43
(2) 建物跡	43
(3) 立杭列	46
(4) 杭穴列	57
(5) その他の立杭と杭穴	57
(6) 建材集中	58
(7) 双礫	76
(8) 集石	76
(9) 灰集中	76
(10) 炭化物集中	96
(11) 砂集中	102
(12) クルミ集中	102
(13) クリ集中	103
(14) 貝殻皮集中	103
(15) ホオノキ集中1	103
(16) 溝1	103
3 包含層の遺物	104
(1) 陶磁器	104
(2) 石器・石製品	106
(3) ガラス製品	106
(4) 金属製品	106
(5) 木製品・樹皮製品・繊維製品	115
VI 重機（クラムシェル）調査の遺物	
1 調査結果の概要	485
2 遺物	485
(1) 陶磁器・土器類	485
(2) 石器・石製品	485
(3) ガラス製品	485
(4) 金属製品	485

(5) 木製品・樹皮製品・繊維製品 .....	493
Ⅶ 第Ⅰ 黒色土層の追加遺物	
1 遺構の遺物 .....	583
(1) 木製品・樹皮製品 .....	583
2 包含層の遺物 .....	583
(1) 金属製品 .....	583
(2) 木製品・樹皮製品 .....	585
Ⅷ 自然科学分析(各種分析・同定結果)	
1 木製品の樹種同定 .....	603
(1) はじめに .....	603
(2) 資料および識別の方法 .....	603
(3) 識別結果と考察 .....	604
(4) 木製品の樹種組成 .....	616
2 動植物遺存体の分析 .....	641
(1) 採取試料と分析の方法 .....	641
(2) 出土植物遺存体表の見方について .....	643
(3) 植物遺存体について .....	646
1) 美々8遺跡低湿部から出土した栽培植物について	
札幌国際大学教授 吉崎 昌一 北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代 .....	646
2) 栽培植物の計測値について .....	668
3) 野生種子等について .....	669
4) 出土野生種子と環境について .....	672
5) 有用植物種子の組み合わせ .....	673
6) 有用植物種子の組み合わせの起源について .....	673
(4) 美々8遺跡低湿部出土の動物遺存体	
千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理 .....	677
1) はじめに .....	677
2) 出土動物遺存体 .....	677
3 美々8遺跡低湿部の珪藻化石・植物珪酸体よりみた環境変遷	
パリノサーヴェイ株式会社 .....	695
4 美々8遺跡出土金属製品の金属学的解析(3)	
岩手県立博物館 赤沼 英男 .....	731
Ⅸ まとめ .....	745
引用・参考文献 .....	747
抄 録	
第2分冊(写真図版)	
写真図版	
付図	

## カラー図版目次

カラー図版	1	板綴舟舷側板 (74)
カラー図版	2	板綴舟 (イタオマチ) の復元
カラー図版	3	板綴舟 (イタオマチ) の復元
カラー図版	4-1	車權受台部 (126・127)
カラー図版	4-2	あか汲み (260)
カラー図版	5-1	矢筒翼 (433)
カラー図版	5-2	炉鉤 (601)
カラー図版	6-1	木札 (1109・1111・1112・1114)
カラー図版	6-2	高床式倉庫の梯子 (39)
カラー図版	7-1	0 B層建材集中2
カラー図版	7-2	0 B層灰集中10土層断面 SE→
カラー図版	8-1	調査状況 E→
カラー図版	8-2	調査状況 N→
カラー図版	9-1	漆塗箱物板 (764)
カラー図版	9-2	漆塗曲げ物板・漆塗箱物板
カラー図版	10-1	漆塗椀 (781)
カラー図版	10-2	漆塗椀・漆塗キセルラウ
カラー図版	11	漆塗箱物板・漆塗椀
カラー図版	12-1	染付碗 (3)
カラー図版	12-2	陶器碗 (8)
カラー図版	12-3	陶器皿 (12)
カラー図版	12-4	陶磁器
カラー図版	13-1	ガラス製品・金属製品
カラー図版	13-2	回転式離頭銚中柄・指掛部
カラー図版	14	食用具 (過年度報告分を含む)

## 挿 図 目 次

図Ⅰ－１ 遺跡位置図 …………… 3	図Ⅳ－５ 灰集中１～９・１１、炭化物集中 １ …………… 38
図Ⅰ－２ 標準土層模式図 …………… 4	図Ⅳ－６ 遺構の陶磁器・石器 …………… 39
図Ⅰ－３ 美沢川流域遺跡群の位置と発掘 区の呼称 …………… 5	図Ⅳ－７ 遺構のガラス製品・金属製品 …………… 39
図Ⅰ－４ 美沢川流域遺跡群の分布と美々 ８遺跡低湿部 …………… 6	図Ⅳ－８ 陶磁器・石器・石製品 …………… 40
図Ⅱ－１ 美々８遺跡低湿部年度別調査区 …………… 7	図Ⅳ－９ 金属製品 …………… 40
図Ⅱ－２ 平成４年度現況図 …………… 8	図Ⅳ－１０ 木製品 …………… 41
図Ⅱ－３ 人力調査時の機材配置図 …… 9	図Ⅴ－１ 遺構分布図 …………… 44
図Ⅱ－４ クラムシェル調査時の機材配置 図 …………… 10	図Ⅴ－２ 舟着場 …………… 45
図Ⅱ－５ クラムシェル土壌採取地点 … 11	図Ⅴ－３ 建物跡２、立杭列26～29、立杭 分布図 …………… 47
図Ⅱ－６ 保存処理の工程（有機質遺物） …………… 15	図Ⅴ－４ 立杭列３～25、立杭分布図 … 48
図Ⅱ－７ 保存処理の工程（金属製品等） …………… 16	図Ⅴ－５ 建物跡２（柱）、立杭列13・15・ 16 …………… 49
図Ⅱ－８ 土層断面の剥ぎ取り …………… 17	図Ⅴ－６ 立杭列18 …………… 50
図Ⅱ－９ 写真撮影 …………… 18	図Ⅴ－７ 立杭列19・26 …………… 51
図Ⅱ－10 画像データベースの各画面 … 20	図Ⅴ－８ 配列外立杭（１） …………… 52
図Ⅱ－11 画像データベースの構造 …… 21	図Ⅴ－９ 配列外立杭（２） …………… 53
図Ⅱ－12 ネットワークの構成と画像デー タベースの応用 …………… 22	図Ⅴ－10 建物跡６・７、杭穴列、杭穴分 布図 …………… 58
図Ⅲ－１ 遺跡周辺の地形と遺跡分布 … 25	図Ⅴ－11 建材集中２・３分布図 …………… 59
図Ⅲ－２ 表土～ⅠＢ層の道跡分布図 … 26	図Ⅴ－12 建材集中２（建材１） …………… 60
図Ⅲ－３ ⅠＢ層上面の地形と土層断面の 位置 …………… 27	図Ⅴ－13 建材集中２（建材分布図） … 61
図Ⅲ－４ 土層断面図と各種試料採取地点 （Ａ－Ｂライン） …………… 29	図Ⅴ－14 建材集中２（建材２） …………… 63
図Ⅲ－５ 土層断面図と各種試料採取地点 （Ｃ－Ｄ、Ｅ－Ｆ、Ｇ－Ｈ、Ⅰ－ Ⅱライン） …………… 31	図Ⅴ－15 建材集中２（建材３） …………… 64
図Ⅳ－１ 遺構分布図 …………… 33	図Ⅴ－16 建材集中２（建材４） …………… 65
図Ⅳ－２ 建物跡１と周辺の立杭列 …… 34	図Ⅴ－17 建材集中２（建材５） …………… 67
図Ⅳ－３ 杭穴列と杭穴分布図 …………… 35	図Ⅴ－18 建材集中３（建材分布図） … 69
図Ⅳ－４ 建物跡１（柱）と配列外立杭 37	図Ⅴ－19 建材集中３（建材１） …………… 70
	図Ⅴ－20 建材集中３（建材２） …………… 71
	図Ⅴ－21 建材集中３（建材３） …………… 73
	図Ⅴ－22 双礫、集石分布図 …………… 77
	図Ⅴ－23 双礫１・２、集石13・14と集石 13の石製品 …………… 78
	図Ⅴ－24 各集中細分層別分布図 …………… 79

図V-25 灰集中10 (第1灰層、第2灰層) .....	80	図V-54 舟部材1 (舳・舷側板) .....	137
図V-26 灰集中10の陶磁器・石器・石製 品分布図 .....	81	図V-55 舟部材2 (舷側板・舟材) ...	138
図V-27 灰集中10のガラス製品・骨角製 品・木製品・樹皮製品分布図	81	図V-56 舟部材3 (舷側板) .....	139
図V-28 灰集中10の金属製品 (鉄製品) 分布図 .....	82	図V-57 舟部材4 (舟材) .....	141
図V-29 灰集中10の金属製品 (銅製品等) 分布図 .....	82	図V-58 舟部材5 (舟材) .....	142
図V-30 灰集中10の陶磁器・石器・石製 品 .....	84	図V-59 舟部材6 (舟材) .....	143
図V-31 灰集中10のガラス製品・骨角製 品 .....	85	図V-60 舟部材7 (舟材) .....	144
図V-32 灰集中10の金属製品 (1) ...	86	図V-61 舟部材8 (舟材) .....	145
図V-33 灰集中10の金属製品 (2) ...	87	図V-62 舟部材9 (舟材・舷側板) ...	146
図V-34 灰集中10の金属製品 (3) ...	88	図V-63 舟部材10 (舟材) .....	147
図V-35 灰集中10の金属製品 (4) ...	89	図V-64 舟部材11 (舟材) .....	148
図V-36 灰集中10の木製品・樹皮製品	90	図V-65 舟部材12 (舟材) .....	149
図V-37 灰集中12~20 .....	97	図V-66 舟部材13 (舟材・舷側板) ...	150
図V-38 炭化物集中2・4~6・8~13 .....	98	図V-67 舟部材14 (舷側板) .....	151
図V-39 炭化物集中14~17・20・21・29・ 30 .....	99	図V-68 舟部材15 (舷側板) .....	152
図V-40 砂・クルミ・クリ・ホオノキ・ 貝殻皮集中 .....	100	図V-69 舟部材16 (舷側板) .....	153
図V-41 溝1 .....	101	図V-70 舟部材17 (舷側板) .....	154
図V-42 灰集中、炭化物集中の金属製品・ 木製品・樹皮製品 .....	102	図V-71 舟部材18 (舷側板) .....	155
図V-43 陶磁器の分布図・接合図 .....	104	図V-72 舟部材19 (舷側板) .....	156
図V-44 陶磁器 .....	105	図V-73 舟部材20 (舷側板) .....	157
図V-45 石器・石製品 .....	107	図V-74 舟部材21 (舷側板) .....	158
図V-46 石製品 .....	108	図V-75 舟部材22 (舟材) .....	159
図V-47 ガラス製品 .....	109	図V-76 舟部材23 (舵棒・舟材) .....	160
図V-48 金属製品 (1) .....	111	図V-77 舟部材24 (舟ミニチュア・舟材) .....	161
図V-49 金属製品 (2) .....	112	図V-78 舟部材25 (車權受台部①) ...	162
図V-50 陶磁器、石器・石製品分布図	113	図V-79 舟部材26 (車權受台部②) ...	163
図V-51 ガラス製品分布図 .....	114	図V-80 舟部材27 (車權受台部③) ...	164
図V-52 金属製品分布図 .....	114	図V-81 舟部材28 (車權受台部④) ...	165
図V-53 木製品分布図 .....	135	図V-82 舟部材29 (車權受台部⑤) ...	166
		図V-83 舟部材30 (車權受台部⑥) ...	167
		図V-84 舟部材31 (車權受台部⑦) ...	168
		図V-85 舟部材32 (車權受台部軸①) .....	169
		図V-86 舟部材33 (車權受台部軸②) .....	170
		図V-87 舟部材34 (車權受台部軸③) .....	171
		図V-88 舟部材35 (車權受台部軸④) .....	172

図V-89	舟部材36 (車權受台部軸⑤)	173	図V-116	漁撈具14 (魚突鉤銚台部①)	201
図V-90	舟用具1 (車權①)	174	図V-117	漁撈具15 (魚突鉤銚台部②/ 基部)	202
図V-91	舟用具2 (車權②)	175	図V-118	漁撈具16 (回轉式離頭銚中柄・ 魚突鉤銚台/基部/棹)	203
図V-92	舟用具3 (早權①)	176	図V-119	漁撈具17 (回轉式離頭銚・魚 突鉤銚/棹①)	204
図V-93	舟用具4 (早權②)	177	図V-120	漁撈具18 (回轉式離頭銚・魚 突鉤銚/棹②)	205
図V-94	舟用具5 (早權握部③)	179	図V-121	狩猟具1 (矢・矢中柄)	207
図V-95	舟用具6 (早權握部④)	180	図V-122	狩猟具2 (矢柄・矢筈)	208
図V-96	舟用具7 (あか汲み①)	181	図V-123	狩猟具3 (弓・仕掛弓台部ミ ニチュア・毘部材?)	209
図V-97	舟用具8 (あか汲み②)	182	図V-124	狩猟具4 (矢筒翼①)	210
図V-98	舟用具9 (あか汲み③)	183	図V-125	狩猟具5 (矢筒翼②)	211
図V-99	舟用具10 (あか汲み④)	184	図V-126	切截具1 (鏢・刀柄・山刀柄・ 小刀柄①)	212
図V-100	舟用具11 (あか汲み⑤)	185	図V-127	切截具2 (小刀柄②)	213
図V-101	舟用具12 (あか汲み⑥)	186	図V-128	切截具3 (小刀柄③)	214
図V-102	舟用具13 (あか汲み⑦)	187	図V-129	切截具4 (小刀柄④・小刀柄 未製品・小刀模造品)	215
図V-103	漁撈具1 (回轉式離頭銚中柄 ①)	188	図V-130	切截具6 (小刀樹皮製鞘①)	216
図V-104	漁撈具2 (回轉式離頭銚中柄 ②)	189	図V-131	切截具6 (小刀樹皮製鞘②/ 木製鞘)	217
図V-105	漁撈具3 (回轉式離頭銚中柄 ③)	190	図V-132	切截具7 (山刀鞘帶執部)	218
図V-106	漁撈具4 (回轉式離頭銚中柄 ④)	191	図V-133	切截具8 (袋式鉄斧柄)	219
図V-107	漁撈具5 (回轉式離頭銚中柄 ⑤)	192	図V-134	農耕・採集具1 (鈎鍬/土掘 棒①)	220
図V-108	漁撈具6 (回轉式離頭銚中柄 ⑥)	193	図V-135	農耕・採集具2 (土掘棒②)	221
図V-109	漁撈具7 (回轉式離頭銚中柄 ⑦)	194	図V-136	農耕・採集具3 (土掘棒③)	222
図V-110	漁撈具8 (回轉式離頭銚中柄 ⑧)	195	図V-137	工具1 (縦槌①)	223
図V-111	漁撈具9 (回轉式離頭銚中柄 ⑨)	196	図V-138	工具2 (縦槌②)	224
図V-112	漁撈具10 (回轉式離頭銚中柄 ⑩)	197	図V-139	工具3 (縦槌③)	225
図V-113	漁撈具11 (回轉式離頭銚中柄 ⑪)	198	図V-140	工具4 (縦槌④)	226
図V-114	漁撈具12 (回轉式離頭銚指掛 部①)	199	図V-141	工具5 (縦槌⑤)	227
図V-115	漁撈具13 (回轉式離頭銚指掛 部②)	200	図V-142	工具6 (縦槌⑥)	228

図V-143	工具7 (縦槌⑦)	229	図V-175	容器類7 (桶底板③)	261
図V-144	工具8 (縦槌⑧)	230	図V-176	容器類8 (樽側板①)	262
図V-145	工具9 (縦槌⑨)	231	図V-177	容器類9 (樽側板②)	263
図V-146	工具10 (縦槌⑩)	232	図V-178	容器類10 (樽栓①)	264
図V-147	工具11 (鉄斧または縦槌柄)	233	図V-179	容器類11 (樽栓②)	265
図V-148	農耕・工具1 (横槌①)	234	図V-180	容器類12 (曲げ物把手/側板)	266
図V-149	農耕・工具2 (横槌②)	235	図V-181	容器類13 (曲げ物底板①)	267
図V-150	農耕・工具3 (横槌③)	236	図V-182	容器類14 (曲げ物底板②)	268
図V-151	農耕・工具4 (横槌④)	237	図V-183	容器類15 (曲げ物底板③)	269
図V-152	農耕・工具5・漁撈具? (横槌⑤)	238	図V-184	容器類16 (箱物側板①)	270
図V-153	農耕・工具6 (横槌⑥)	239	図V-185	容器類17 (箱物側板②・底板)	271
図V-154	農耕・工具7 (横槌⑦)	240	図V-186	容器類18 (箱物側板③・底板)	272
図V-155	農耕・工具8 (横槌未製品)	241	図V-187	容器類19 (箱物側板④・脚部)	273
図V-156	農耕・工具9・土木具 (掛矢)	242	図V-188	容器類20・喫煙具 (漆塗椀・漆塗キセルラウ)	274
図V-157	農耕・工具10 (作業台①)	243	図V-189	容器類21 (刳物容器)	275
図V-158	農耕・工具11 (作業台②)	244	図V-190	食用具1 (杓子①)	276
図V-159	農耕・工具12 (作業台③)	245	図V-191	食用具2 (杓子②)	277
図V-160	発火具 (ヒキリ棒・ヒキリ板①)	246	図V-192	食用具3 (杓子③)	278
図V-161	発火具 (ヒキリ棒・ヒキリ板②)	247	図V-193	食用具4 (筥①)	279
図V-162	炉鉤1	248	図V-194	食用具5 (筥②)	280
図V-163	炉鉤2	249	図V-195	食用具6 (筥③)	281
図V-164	炉鉤3	250	図V-196	食用具7 (筥④)	282
図V-165	炉鉤4	251	図V-197	食用具8 (筥⑤)	283
図V-166	炉鉤5	252	図V-198	食用具9 (両口箸①)	284
図V-167	燈火用挟木①	253	図V-199	食用具10 (両口箸②)	285
図V-168	燈火用挟木②	254	図V-200	食用具11 (両口箸③)	286
図V-169	容器類1 (樽底板・樽蓋板①)	255	図V-201	食用具12 (片口箸①)	287
図V-170	容器類2 (樽蓋板②)	256	図V-202	食用具13 (片口箸②)	288
図V-171	容器類3 (樽蓋板③)	257	図V-203	食用具14 (片口箸③)	289
図V-172	容器類4 (樽蓋板④)	258	図V-204	食用具15 (片口箸④)	290
図V-173	容器類5 (樽蓋板⑤、桶底板①)	259	図V-205	食用具16 (串①)	291
図V-174	容器類6 (桶底板②)	260	図V-206	食用具17 (串②)	292
			図V-207	食用具18 (串③)	293
			図V-208	食用具19 (串④)	294
			図V-209	食用具20 (串⑤)	295

図V-210	食用具21 (串⑥)	296	図V-243	軸状製品10	330
図V-211	食用具22 (串⑦)	297	図V-244	楔状製品1	331
図V-212	食用具23 (串⑧)	298	図V-245	楔状製品2	332
図V-213	食用具24 (串⑨)	299	図V-246	捧酒箸(筥)状製品1	333
図V-214	食用具25 (串⑩)	300	図V-247	捧酒箸(筥)状製品2	334
図V-215	食用具26 (串⑪)	301	図V-248	捧酒箸(筥)状製品3	335
図V-216	食用具27 (串⑫)	302	図V-249	捧酒箸(筥)状製品4	336
図V-217	装身具・紡織編具1	303	図V-250	捧酒箸(筥)状製品5	337
図V-218	紡織編具2 (木錘①コモ槌など)	304	図V-251	捧酒箸(筥)状製品6	338
図V-219	紡織編具3 (木錘②コモ槌など)	305	図V-252	捧酒箸(筥)状製品7	339
図V-220	歩行具1 (下駄①)	306	図V-253	捧酒箸(筥)状製品8	340
図V-221	歩行具2 (下駄②)	307	図V-254	捧酒箸(筥)状製品9	341
図V-222	歩行具3 (下駄③)	308	図V-255	挟入部付丸木材1	342
図V-223	歩行具4 (カンジキ本体)	309	図V-256	挟入部付丸木材2	343
図V-224	歩行具5 (カンジキ軸)	311	図V-257	挟入部付丸木材3	344
図V-225	交易・伝達具(木札)	312	図V-258	挟入部付丸材1	345
図V-226	祭祀・儀礼具1 (花矢)	313	図V-259	両端部挟入部付丸木材1	346
図V-227	祭祀・儀礼具2 (飾り串・捧酒箸〔筥〕①)	314	図V-260	両端部挟入部付丸木材2・丸材	347
図V-228	祭祀・儀礼具3 (捧酒箸〔筥〕②)	315	図V-261	挟付丸木材1	348
図V-229	祭祀・儀礼具4 (木幣・木幣状製品①)	316	図V-262	挟付丸木材2	349
図V-230	祭祀・儀礼具5 (刀ミニチュア・木幣状製品② 他)	317	図V-263	挟付丸木材3	350
図V-231	加工材(円盤・有孔円盤・円錐状製品他)	318	図V-264	挟付半割材	351
図V-232	ピン状製品1	319	図V-265	挟付角材	352
図V-233	ピン状製品2	320	図V-266	挟付板材1	353
図V-234	軸状製品1	321	図V-267	挟付板材2	354
図V-235	軸状製品2	322	図V-268	挟付半円状材・挟付紡錘状材・ホゾ先付角材他	355
図V-236	軸状製品3	323	図V-269	挟付楕円板材	356
図V-237	軸状製品4	324	図V-270	有孔丸木材	357
図V-238	軸状製品5	325	図V-271	有孔角材	358
図V-239	軸状製品6	326	図V-272	有孔板材1	359
図V-240	軸状製品7	327	図V-273	有孔板材2	360
図V-241	軸状製品8	328	図V-274	有孔板材3	361
図V-242	軸状製品9	329	図V-275	有孔板材4	362
			図V-276	有孔板材5	363
			図V-277	有孔板材6	364
			図V-278	有孔板材7	365
			図V-279	有孔板材8	366
			図V-280	有孔板材9	367



図V-281	有孔板材10	.....	368	図V-319	樹皮製品2 (樹皮製容器他)	.....	408
図V-282	有孔板材11	.....	369	図V-320	樹皮製品3 (結束固定具①)	.....	409
図V-283	有孔板材12	.....	370	図V-321	樹皮製品4 (結束固定具②)	.....	410
図V-284	角材1	.....	371	図V-322	樹皮製品5 (結束固定具③)	.....	411
図V-285	角材2	.....	372	図V-323	樹皮製品6 (結束固定具④)	.....	412
図V-286	角材・割材	.....	373	図VI-1	陶磁器1	.....	486
図V-287	板材1	.....	374	図VI-2	陶磁器2	.....	487
図V-288	板材2	.....	375	図VI-3	陶磁器3	.....	488
図V-289	板材3	.....	376	図VI-4	陶磁器、石器・石製品	.....	489
図V-290	板材4	.....	377	図VI-5	ガラス製品	.....	490
図V-291	板材5	.....	378	図VI-6	金属製品	.....	490
図V-292	板材6	.....	379	図VI-7	重機調査の陶磁器・石器・石製 品分布図	.....	491
図V-293	板材7	.....	380	図VI-8	重機調査の金属製品分布図	.....	492
図V-294	板材8	.....	381	図VI-9	舟部材1 (舳①)	.....	501
図V-295	板材9	.....	382	図VI-10	舟部材2 (舳②)	.....	502
図V-296	板材10	.....	383	図VI-11	舟部材3 (舳③・舟材①)	.....	503
図V-297	板材11	.....	384	図VI-12	舟部材4 (舟材②)	.....	504
図V-298	角杭状製品・割杭状製品1	.....	385	図VI-13	舟部材5 (舟材③)	.....	505
図V-299	角杭状製品・割杭状製品2	.....	386	図VI-14	舟部材6 (舟材④)	.....	506
図V-300	丸杭状製品1	.....	387	図VI-15	舟部材7 (舟材⑤・舷側版)	.....	507
図V-301	丸杭状製品2	.....	388	図VI-16	舟部材8 (車權受台部①)	.....	508
図V-302	丸杭状製品3	.....	389	図VI-17	舟部材9 (車權受台部②)	.....	509
図V-303	丸杭状製品4	.....	390	図VI-18	舟部材10 (車權受台部③)	.....	510
図V-304	丸木材1	.....	391	図VI-19	舟部材11 (車權受台部④)	.....	511
図V-305	丸木材2 / 丸材	.....	392	図VI-20	舟部材12 (車權受台部⑤ / 軸)	.....	512
図V-306	屋根縫針	.....	393	図VI-21	舟部材13 (車權受台部軸)	.....	513
図V-307	建築部材類	.....	394	図VI-22	舟用具1 (車權・早權①)	.....	514
図V-308	建材1 (柱類・桁・梁)	.....	395	図VI-23	舟用具2 (早權②・あか汲み)	.....	515
図V-309	建材2 (柱類・桁・梁)	.....	396	図VI-24	漁撈具1 (回転式離頭銚中柄①)	.....	516
図V-310	建材3 (柱類・桁・梁)	.....	397	図VI-25	漁撈具2 (回転式離頭銚中柄②)	.....	517
図V-311	建材4 (柱類・桁・梁)	.....	398				
図V-312	建材5 (桁・梁・母屋)	.....	399				
図V-313	建材6 (柱類)	.....	401				
図V-314	木端1	.....	403				
図V-315	木端2	.....	404				
図V-316	炭化材	.....	405				
図V-317	竹製品	.....	406				
図V-318	樹皮製品1	.....	407				

図VI-26	漁撈具 3 (回転式離頭銚中柄③ ／指掛部) ……………	518	図VI-53	食用具 4 (串)・歩行具 (カン ジキ軸) ……………	545
図VI-27	漁撈具 4 (回転式離頭銚指掛部・ 魚突鉤銚台部) ……………	519	図VI-54	紡織編具・装身具 (櫛) ……	546
図VI-28	漁撈具 5 (回転式離頭銚・魚突 鉤銚／棹) ……………	520	図VI-55	祭祀・儀礼具 (花矢・飾り串・ 捧酒箸〔籠〕) ……………	547
図VI-29	狩猟具 1 (矢・矢中柄・矢筈) ……………	521	図VI-56	祭祀・儀礼具 (捧酒箸〔籠〕)・ 加工材 ……………	548
図VI-30	狩猟具 2 (弓、矢筒翼未製品?) ……………	522	図VI-57	軸状製品 1 ……………	549
図VI-31	狩猟具 3 (畏部材?) ……	523	図VI-58	楔状製品・ピン状製品 ……	550
図VI-32	切截具 1 (小刀柄・山刀柄) ……	524	図VI-59	捧酒箸状製品 1 ……………	551
図VI-33	切截具 2・採集具 (小刀柄未製 品・鞘・土掘棒) ……………	525	図VI-60	捧酒箸状製品 2 ……………	552
図VI-34	工具 1 (縦槌①) ……………	526	図VI-61	丸材 ……………	553
図VI-35	工具 2 (縦槌②) ……………	527	図VI-62	丸木材 ……………	554
図VI-36	工具 3 (縦槌③) ……………	528	図VI-63	抉入部付丸木材・角材 ……	555
図VI-37	農耕・工具 1 (鉄斧柄・横槌①) ……………	529	図VI-64	有孔丸木材 ……………	556
図VI-38	農耕・工具 2 (横槌②) ……	530	図VI-65	有孔丸木材・有孔角材 1 ……	557
図VI-39	農耕・工具 3 (横槌③・竖杵) ……………	531	図VI-66	有孔丸木材・有孔角材 2 ……	558
図VI-40	発火具・鉤状製品 ……………	532	図VI-67	有溝角材・角材 ……………	559
図VI-41	容器類 (桶・樽) ……………	533	図VI-68	有孔板材 1 ……………	560
図VI-42	容器類 1 (曲げ物把手・側板) ……………	534	図VI-69	有孔板材 2・板材 1 ……	561
図VI-43	容器類 2 (曲げ物側板) ……	535	図VI-70	板材 2 ……………	562
図VI-44	容器類 3 (曲げ物側板・底板) ……………	536	図VI-71	厚板材 1 ……………	563
図VI-45	容器類 4 (折敷底板) ……	537	図VI-72	厚板材 2 ……………	564
図VI-46	容器類 5 (箱物・盆・刳物) ……	538	図VI-73	細板材 ……………	565
図VI-47	容器類 6 (盆・刳物) ……	539	図VI-74	建材 ……………	566
図VI-48	容器類 7 (漆塗箱物底板・漆塗 椀) ……………	540	図VI-75	樹皮製品 ……………	567
図VI-49	容器類 8・食用具 1 (刳物・杓 子柄) ……………	541	図VII-1	鎧 ……………	583
図VI-50	食用具 1 (籠①) ……………	542	図VII-2	遺構の木製品 ……………	584
図VI-51	食用具 2 (籠②) ……………	543	図VII-3	舟部材 1 ……………	587
図VI-52	食用具 3 (両口箸・片口箸) ……	544	図VII-4	舟部材 2 ……………	588
			図VII-5	狩猟具・漁撈具・切截具 ……	589
			図VII-6	採集具・工具 (土掘棒・鉄斧柄) ……………	590
			図VII-7	農耕・工具 (横槌・竖杵) ……	591
			図VII-8	発火具・炉鉤 ……………	592
			図VII-9	容器類 (桶・樽・曲げ物・箱物) ……………	593
			図VII-10	食用具・歩行具・紡織編具 ……	594
			図VII-11	祭祀・儀礼具 ……………	595
			図VII-12	楔状製品・軸状製品 ……	596

図Ⅶ-13 挟付・有孔製品	597	図Ⅷ-1-14 木製品の樹種 顕微鏡写真	
図Ⅶ-14 杭状製品・樹皮製品	598	(12)	633
図Ⅷ-1-1 木製品の樹種組成(1)	620	図Ⅷ-1-15 木製品の樹種 顕微鏡写真	
図Ⅷ-1-2 木製品の樹種組成(2)	621	(13)	634
図Ⅷ-1-3 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-1-16 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(1)	622	(14)	635
図Ⅷ-1-4 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-1-17 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(2)	623	(15)	636
図Ⅷ-1-5 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-1-18 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(3)	624	(16)	637
図Ⅷ-1-6 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-1-19 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(4)	625	(17)	638
図Ⅷ-1-7 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-1-20 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(5)	626	(18)	639
図Ⅷ-1-8 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-1-21 木製品の樹種 顕微鏡写真	
(6)	627	(19)	640
図Ⅷ-1-9 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-2-1 灰集中10のブロック番号	641
(7)	628	図Ⅷ-2-2 メインセクションサンプル	
図Ⅷ-1-10 木製品の樹種 顕微鏡写真		位置	642
(8)	629	図Ⅷ-2-3 出土栽培種子(1)	675
図Ⅷ-1-11 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-2-4 出土栽培種子(2)	676
(9)	630	図Ⅷ-2-5 出土動物遺存体(1)	693
図Ⅷ-1-12 木製品の樹種 顕微鏡写真		図Ⅷ-2-6 出土動物遺存体(2)	694
(10)	631		
図Ⅷ-1-13 木製品の樹種 顕微鏡写真			
(11)	632		

## 表 目 次

<p>表 I - 1 新千歳空港用地内埋蔵文化財包 蔵地調査面積推移 (単位㎡) 4</p> <p>表 IV - 1 建物跡 1 と立杭列 ..... 36</p> <p>表 IV - 2 杭穴列一覧 ..... 36</p> <p>表 IV - 3 灰集中・炭化物集中一覧 ..... 36</p> <p>表 IV - 4 遺構の陶磁器・石器 ..... 39</p> <p>表 IV - 5 掲載建物跡 (柱)、配列外立杭 42</p> <p>表 IV - 6 灰集中11 掲載ガラス製品 ... 42</p> <p>表 IV - 7 掲載遺構の金属製品 ..... 42</p> <p>表 IV - 8 掲載陶磁器、石器・石製品 ... 42</p> <p>表 IV - 9 掲載金属製品 ..... 42</p> <p>表 IV - 10 掲載木製品 ..... 42</p> <p>表 V - 1 建物跡 2 と立杭列 ..... 54</p> <p>表 V - 2 掲載建物跡 2 (柱) ..... 55</p> <p>表 V - 3 掲載立杭列13 ..... 55</p> <p>表 V - 4 掲載立杭列15 ..... 55</p> <p>表 V - 5 掲載立杭列16 ..... 55</p> <p>表 V - 6 掲載立杭列18 ..... 55</p> <p>表 V - 7 掲載立杭列19 ..... 56</p> <p>表 V - 8 掲載立杭列26 ..... 56</p> <p>表 V - 9 掲載配列外立杭 ..... 56</p> <p>表 V - 10 杭穴列一覧 ..... 57</p> <p>表 V - 11 掲載建材集中 2 (建材) ..... 74</p> <p>表 V - 12 掲載建材集中 3 (建材) ..... 75</p> <p>表 V - 13 双礫・集石一覧 ..... 78</p> <p>表 V - 14 灰集中10・集石13 掲載陶磁器、 石器・石製品 ..... 91</p> <p>表 V - 15 灰集中10 掲載ガラス製品 ... 91</p> <p>表 V - 16 灰集中10 掲載骨角製品 ..... 91</p> <p>表 V - 17 灰集中10 掲載金属製品 (1) ..... 91</p> <p>表 V - 18 灰集中10 掲載金属製品 (2) ..... 92</p> <p>表 V - 19 灰集中10 掲載金属製品 (3) ..... 93</p>	<p>表 V - 20 灰集中10 掲載金属製品 (4) ..... 94</p> <p>表 V - 21 灰集中10 掲載木製品・樹皮製 品 ..... 94</p> <p>表 V - 22 灰集中・炭化物集中 ..... 99</p> <p>表 V - 23 砂・クルミ・クリ・貝殻皮集中 ..... 101</p> <p>表 V - 24 灰集中・炭化物集中掲載金属製 品 ..... 103</p> <p>表 V - 25 灰集中13・14 掲載木製品・樹 皮製品 ..... 103</p> <p>表 V - 26 0 B層掲載陶磁器・石器・石製 品 ..... 108</p> <p>表 V - 27 0 B層掲載ガラス製品 ..... 109</p> <p>表 V - 28 0 B層掲載金属製品 ..... 110</p> <p>表 V - 29 0 B層掲載木製品 (1) ..... 413</p> <p>表 V - 30 0 B層掲載木製品 (2) ..... 414</p> <p>表 V - 31 0 B層掲載木製品 (3) ..... 415</p> <p>表 V - 32 0 B層掲載木製品 (4) ..... 416</p> <p>表 V - 33 0 B層掲載木製品 (5) ..... 417</p> <p>表 V - 34 0 B層掲載木製品 (6) ..... 418</p> <p>表 V - 35 0 B層掲載木製品 (7) ..... 419</p> <p>表 V - 36 0 B層掲載木製品 (8) ..... 420</p> <p>表 V - 37 0 B層掲載木製品 (9) ..... 421</p> <p>表 V - 38 0 B層掲載木製品 (10) ..... 422</p> <p>表 V - 39 0 B層掲載木製品 (11) ..... 423</p> <p>表 V - 40 0 B層掲載木製品 (12) ..... 424</p> <p>表 V - 41 0 B層掲載木製品 (13) ..... 425</p> <p>表 V - 42 0 B層掲載木製品 (14) ..... 426</p> <p>表 V - 43 0 B層掲載木製品 (15) ..... 427</p> <p>表 V - 44 0 B層掲載木製品 (16) ..... 428</p> <p>表 V - 45 0 B層掲載木製品 (17) ..... 429</p> <p>表 V - 46 0 B層掲載木製品 (18) ..... 430</p> <p>表 V - 47 0 B層掲載木製品 (19) ..... 431</p> <p>表 V - 48 0 B層掲載木製品 (20) ..... 432</p> <p>表 V - 49 0 B層掲載木製品 (21) ..... 433</p> <p>表 V - 50 0 B層掲載木製品 (22) ..... 434</p>
--	--

表V-51	0 B層掲載木製品 (23)	……	435	表V-91	0 B層掲載木製品 (63)	……	475
表V-52	0 B層掲載木製品 (24)	……	436	表V-92	0 B層掲載木製品 (64)	……	476
表V-53	0 B層掲載木製品 (25)	……	437	表V-93	0 B層掲載木製品 (65)	……	477
表V-54	0 B層掲載木製品 (26)	……	438	表V-94	0 B層掲載木製品 (66)	……	478
表V-55	0 B層掲載木製品 (27)	……	439	表V-95	0 B層掲載木製品 (67)	……	479
表V-56	0 B層掲載木製品 (28)	……	440	表V-96	0 B層掲載木製品 (68)	……	480
表V-57	0 B層掲載木製品 (29)	……	441	表V-97	0 B層掲載木製品 (69)	……	481
表V-58	0 B層掲載木製品 (30)	……	442	表V-98	0 B層掲載木製品 (70)	……	482
表V-59	0 B層掲載木製品 (31)	……	443	表V-99	0 B層掲載木製品 (71)	……	483
表V-60	0 B層掲載木製品 (32)	……	444	表V-100	0 B層掲載木製品 (72)	…	484
表V-61	0 B層掲載木製品 (33)	……	445	表VI-1	重機調査掲載遺物一覧	………	489
表V-62	0 B層掲載木製品 (34)	……	446	表VI-2	重機調査掲載ガラス製品	……	490
表V-63	0 B層掲載木製品 (35)	……	447	表VI-3	重機調査掲載金属製品	………	490
表V-64	0 B層掲載木製品 (36)	……	448	表VI-4	重機調査掲載木製品 (1)	…	568
表V-65	0 B層掲載木製品 (37)	……	449	表VI-5	重機調査掲載木製品 (2)	…	569
表V-66	0 B層掲載木製品 (38)	……	450	表VI-6	重機調査掲載木製品 (3)	…	570
表V-67	0 B層掲載木製品 (39)	……	451	表VI-7	重機調査掲載木製品 (4)	…	571
表V-68	0 B層掲載木製品 (40)	……	452	表VI-8	重機調査掲載木製品 (5)	…	572
表V-69	0 B層掲載木製品 (41)	……	453	表VI-9	重機調査掲載木製品 (6)	…	573
表V-70	0 B層掲載木製品 (42)	……	454	表VI-10	重機調査掲載木製品 (7)	…	574
表V-71	0 B層掲載木製品 (43)	……	455	表VI-11	重機調査掲載木製品 (8)	…	575
表V-72	0 B層掲載木製品 (44)	……	456	表VI-12	重機調査掲載木製品 (9)	…	576
表V-73	0 B層掲載木製品 (45)	……	457	表VI-13	重機調査掲載木製品 (10)	…	577
表V-74	0 B層掲載木製品 (46)	……	458	表VI-14	重機調査掲載木製品 (11)	…	578
表V-75	0 B層掲載木製品 (47)	……	459	表VI-15	重機調査掲載木製品 (12)	…	579
表V-76	0 B層掲載木製品 (48)	……	460	表VI-16	重機調査掲載木製品 (13)	…	580
表V-77	0 B層掲載木製品 (49)	……	461	表VI-17	重機調査掲載木製品 (14)	…	581
表V-78	0 B層掲載木製品 (50)	……	462	表VI-18	重機調査掲載木製品 (15)	…	582
表V-79	0 B層掲載木製品 (51)	……	463	表VII-1	I B層掲載金属製品	………	583
表V-80	0 B層掲載木製品 (52)	……	464	表VII-2	I B層掲載遺構の木製品	……	599
表V-81	0 B層掲載木製品 (53)	……	465	表VII-3	I B層掲載木製品 (1)	……	599
表V-82	0 B層掲載木製品 (54)	……	466	表VII-4	I B層掲載木製品 (2)	……	600
表V-83	0 B層掲載木製品 (55)	……	467	表VII-5	I B層掲載木製品 (3)	……	601
表V-84	0 B層掲載木製品 (56)	……	468	表VII-6	I B層掲載木製品 (4)	……	602
表V-85	0 B層掲載木製品 (57)	……	469	表VIII-1-1	同定樹種名一覧	………	618
表V-86	0 B層掲載木製品 (58)	……	470	表VIII-1-2	アイヌ語名称のある推定さ れる樹種名	………	619
表V-87	0 B層掲載木製品 (59)	……	471	表VIII-1-3	主な製品別樹種組成	……	621
表V-88	0 B層掲載木製品 (60)	……	472	表VIII-2-1	全遺構の調査土量	………	643
表V-89	0 B層掲載木製品 (61)	……	473	表VIII-2-2	灰集中の調査土量	………	644
表V-90	0 B層掲載木製品 (62)	……	474				

表Ⅷ-2-3	同定種子一覧	645	表Ⅷ-2-26	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(4)	682
表Ⅷ-2-4	メインセクションの種子	648	表Ⅷ-2-27	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(5)	683
表Ⅷ-2-5	全遺構の栽培種子	649	表Ⅷ-2-28	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(6)	684
表Ⅷ-2-6	全遺構のオニグルミ	650	表Ⅷ-2-29	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(7)	685
表Ⅷ-2-7	全遺構のクリ	651	表Ⅷ-2-30	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(8)	686
表Ⅷ-2-8	全遺構のコナラ亜属	652	表Ⅷ-2-31	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(9)	687
表Ⅷ-2-9	全遺構の木本種子	653	表Ⅷ-2-32	灰集中10 第2灰層の動物 遺存体(1)	687
表Ⅷ-2-10	全遺構の草本種子等	654	表Ⅷ-2-33	灰集中10 第2灰層の動物 遺存体(2)	688
表Ⅷ-2-11	灰集中10の栽培種子(1)	655	表Ⅷ-2-34	灰集中10 第2灰層の動物 遺存体(3)	689
表Ⅷ-2-12	灰集中10の栽培種子(2)	656	表Ⅷ-2-35	炭化物集中・灰集中の動物 遺存体(1)	689
表Ⅷ-2-13	灰集中10のオニグルミ・ク リ	657	表Ⅷ-2-36	炭化物集中・灰集中の動物 遺存体(2)	690
表Ⅷ-2-14	灰集中10のコナラ亜属(1)	658	表Ⅷ-2-37	炭化物集中・灰集中の動物 遺存体(3)	691
表Ⅷ-2-15	灰集中10のコナラ亜属(2)	659	表Ⅷ-2-38	砂集中3の動物遺存体	691
表Ⅷ-2-16	灰集中10の木本種子	660	表Ⅷ-2-39	貝集中の動物遺存体	691
表Ⅷ-2-17	灰集中10の草本種子等	662	表Ⅷ-2-40	包含層の動物遺存体(1)	691
表Ⅷ-2-18	種子計測値(1)	664	表Ⅷ-2-41	包含層の動物遺存体(2)	692
表Ⅷ-2-19	種子計測値(2)	665			
表Ⅷ-2-20	種子計測値(3)	666			
表Ⅷ-2-21	種子計測値(4)	667			
表Ⅷ-2-22	種子計測値(5)	668			
表Ⅷ-2-23	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(1)	679			
表Ⅷ-2-24	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(2)	680			
表Ⅷ-2-25	灰集中10 第1灰層の動物 遺存体(3)	681			

# I 調査の概要

平成4年度に発掘調査された低湿部の内、表土層、第0黒色土層、重機（クラムシェル）調査の埋蔵文化財発掘調査報告である。本年度が最終報告となる。なお、保存処理中のために昨年度報告に掲載できなかった、第I黒色土層の木製品を追加資料として掲載した。

## 1 調査要項

事業名	新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	北海道開発局札幌開発建設部
事業受託者	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
所在地	千歳市美々1714、1292-381他
遺跡名	美々8遺跡低湿部 J-03-94
調査面積	2,011㎡
発掘期間	平成4年5月6日～平成4年10月30日（発掘調査） 平成5年5月6日～平成5年10月25日（土壌水洗・現地整理作業）
整理期間	平成4年4月12日～平成5年3月26日（整理作業・保存処理） 平成5年4月13日～平成6年3月26日（整理作業・保存処理） 平成6年4月12日～平成7年3月24日（整理作業・保存処理） 平成7年4月11日～平成7年3月25日（整理作業・保存処理） 平成8年4月15日～平成9年3月25日（整理作業・保存処理）

## 2 調査体制

平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
理事長 寺山敬保(平成2年6月1日就任)	理事長 阿部 茂(6月1日就任)	理事長 伊藤一夫(6月1日就任)	理事長 伊藤一夫	理事長 伊藤一夫
専務理事 永田春男(昭和63年6月1日就任)	専務理事 永田春男	専務理事 佐藤哲人(6月1日就任)	専務理事 佐藤哲人	専務理事 佐藤哲人
常務理事 中村福彦(平成3年6月1日就任)	常務理事 中村福彦	常務理事 中村福彦	常務理事 柴田忠昭(6月1日就任) 森田知忠(6月1日就任)	常務理事 柴田忠昭 木村尚俊(6月1日就任)
業務部長 伊藤庄吉	業務部長 中野真吾	業務部長 中野真吾	業務部長 山内清志	業務部長 山内清志
調査部長 森田知忠	調査部長 森田知忠	調査部長 森田知忠	第1調査部長 畑 宏明	第1調査部長 畑 宏明
			第2調査部長 鬼柳 彰	第2調査部長 鬼柳 彰
調査第3課長 千葉英一(発掘担当者)	調査第3課長 千葉英一	調査第3課長 千葉英一	資料調査課長 花岡正光	資料調査課長 花岡正光(内業)
主任 佐藤和雄(発掘担当者) 三浦正人(発掘担当者) 田口 尚(発掘担当者・内業)	主任 佐藤和雄(発掘担当者) 三浦正人(発掘担当者) 田口 尚(内業)	主任 田口 尚(内業)	主任 田口 尚(内業)	主任 田口 尚(内業)
文化財保護主事 梶 託 鈴木 信 越田雅司	梶 託 越田雅司	写真技師 菊池 慈人	文化財保護主事 菊池 慈人	文化財保護主事 鈴木 信(内業) 菊池 慈人(内業)
写真技師 菊池 慈人	写真技師 菊池 慈人			

## I 調査の概要

### 3 調査の経緯（図Ⅰ-1～図Ⅱ-5、表Ⅰ-1）

美々8遺跡の調査は昭和56年度から9次にわたって実施され、うち低湿部の調査は平成元年の試掘調査から4年の歳月をかけ、平成4年度に発掘調査を終了した。整理及び保存処理作業は、初年度から毎年継続され本年度が最終年度となる。以下に低湿部調査の経緯をまとめる。

北海道開発局（以下、開発局）は新千歳空港B滑走路建設のため、美沢川をボックスカルバート（函渠）埋設し、発掘調査終了後は早急に現地の盛土転圧を行う予定であった。しかし、平成元年度の台地斜面部において道跡や杭穴群が予定調査区外の美沢川の低湿地に続くことが確認された。報告を受けた北海道教育委員会（以下、道教委）は直ちに開発局と協議し、状況確認のための試掘が必要と判断された。その結果、予想を遥かに超えるアイヌ文化期の貴重な木製品、繊維製品等が多量に発見され、新たに4,375㎡を調査予定地として追加した。しかし、火山灰を含む軟弱地盤であることから、崩落や被圧地下水の噴出による危険性が問題となった。試掘のみでは遺構の有無など不明な点が多く、安全確保や調査計画作成にはデータが不十分との判断から、予備調査を実施することで合意した。平成2年度は発掘に先立ちボーリング調査を行い、開発局、道教委、当センター及び工事業者が調査工法、作業工程、機器の配置等について入念な協議を重ねた。平成2年度は予備調査として、低湿部縁辺のA地区（215㎡）を人力により発掘した。調査方法には釜場（揚水ピット）排水による法面付オープンカット工法が採用された。平成3年度は前年度の工法に習って縁辺部を3地区に分割し、人力調査とクラムシェルによる包含層採取調査（以下クラムシェル調査）のA'地区（143㎡）、クラムシェル調査のみのB地区（797㎡）、人力調査のみのC地区（221㎡）を設定して実施した。平成4年度は残された面積が調査対象となることから、崩落防止のために遺跡斜面部を大規模に掘削し、器材運搬路と作業ヤードを確保した。調査は安全性を確認しながら、人力調査範囲を3地区に分けて実施した。危険箇所はポンプ排水しながら、クラムシェル調査で対応した。なお、調査過程で現地担当調査員と道教委が十分な協議を行い、軟弱地盤と湧水突出が予想される危険かつ遺物の希薄な1,070㎡を調査対象から除外した。したがって、平成4年度の調査面積は人力調査1,328㎡、クラムシェル調査683㎡の合計2,011㎡となり、低湿部は最終的に3,035㎡調査したことになる。

平成4年度の出土遺物は、擦文時代からアイヌ文化期の木製生活用具や家屋等の構築材を主体とするものであり、コンテナ（59×39×20cm）約3,000箱、木箱（360×45×45cm）約40箱もの膨大量となった。平成4年時のクラムシェル調査の包含層（大型遺物は採取済み）は、土嚢袋約22,000袋を数えた。この遺物採取及び水洗選別作業は平成5年度の台地部調査と並行して現場で行った。低湿部の整理作業は遺構や遺物が多岐にわたり、構築材を含む木製品が類をみない膨大量であることや、保存処理作業を要することから平成5年度以降も継続して実施され、本年度が最終整理年度となった。これまで遺物総量は約60万点を越え、通常コンテナ（59×39×15cm）に換算して約7,500箱にも及んでいる。今後は出土した最古級のアイヌ生活用具などの資料活用や収蔵・保管環境活用を十分に検討する必要がある。

### 4 調査の概要

整理及び保存処理作業は、通常遺跡では残らない金属製品、木製品などの有機性遺物、動植物遺存体の検出に重点をおいて進めてきた。以下に本年度の概略を述べる。（詳細は各章を参照）

表土層からは片側の開く建物跡、棚や柵のような立杭列や杭穴列、炉跡や「送り場」と考えられる灰集中や炭化物集中が発見された。遺構の遺物には伊万里染付碗、火打石、ガラス玉、角釘、アサ、オニクルミ、ブドウ等の種子、シカがあり、包含層からは陶磁器、カスガイ、キセル、小刀（マキリ）柄、作業台等が出土した。



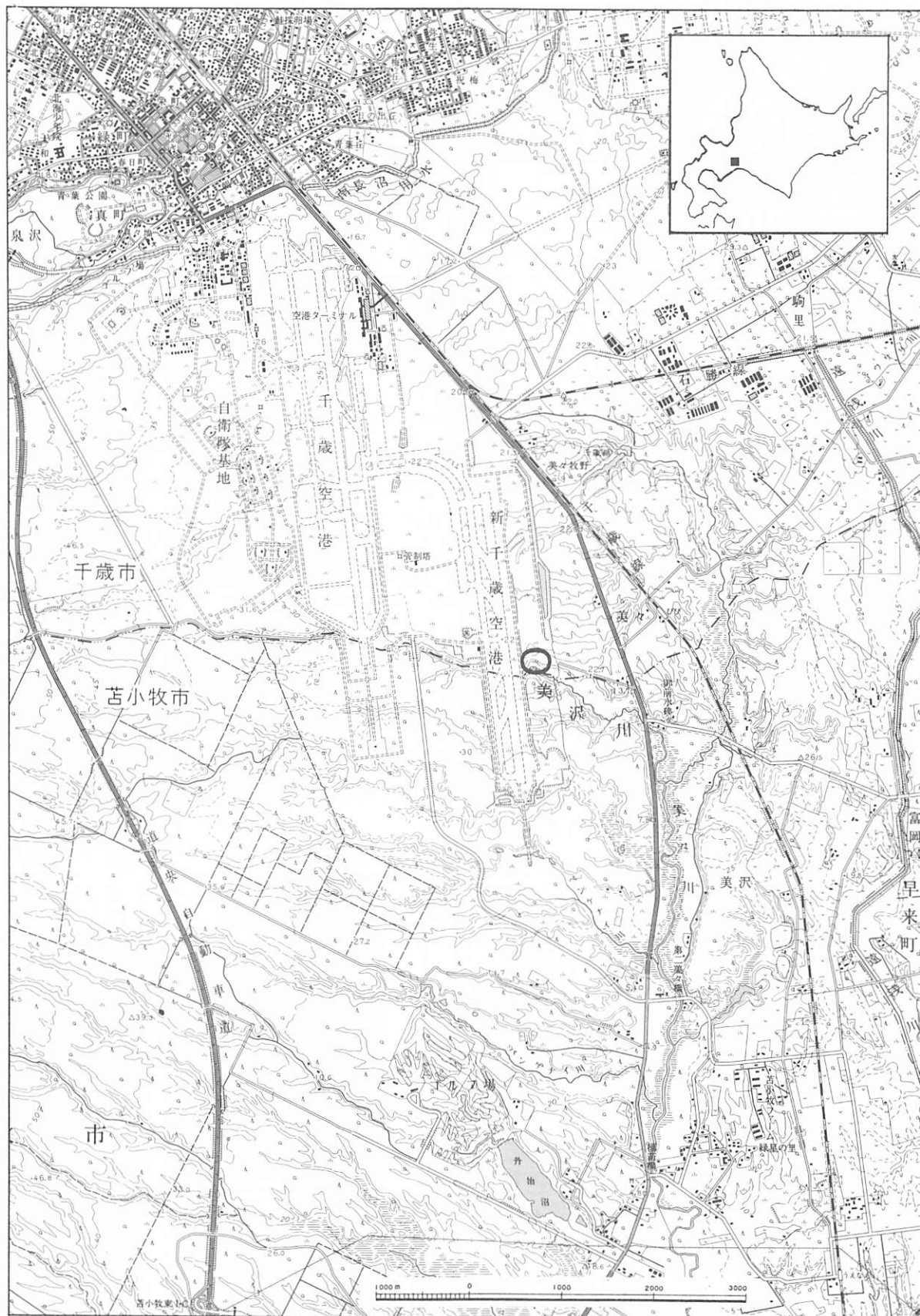


図 I - 1 遺跡位置図

美々8遺跡

この地図は国土地理院発行の5万分の1の地図「千歳」を使用したものである

I 調査の概要

表 I - 1 新千歳空港用地内埋蔵文化財包蔵地の調査面積推移 (単位㎡)

遺跡名	51・52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	計
美々々2								10,906	* 5,000											*10,906
美々々3										4,565			6,000	* 9,225	* 2,075					*16,415
美々々4	1,160	** 呑口		7,150			6,475	6,180	5,899									1,050	*** 300	28,214
美々々5	300	6,628	752	8,450				6,544												22,674
美々々6		5,000		3,450																8,450
美々々7		5,000		2,400											2,323	1,547				11,270
美々々8					11,900	3,875			1,828		11,112		4,182	* 215	5,161	10,769	5,597			54,557
美々々9							5,000													5,000
美々沢1	8,630	11,330		2,340																22,300
美々々2	10,560																			10,560
美々々3	1,750			3,480								17,464	* 5,478	7,150		6,340				40,684
美々々13											2,185									2,185
フ々々4			23,760																	23,760
フ々々5			6,800							660										7,460
フ々々16																			950	950
ベ々々10										4,027										4,027
ベ々々11										1,570	5,710									7,280
ベ々々15																		3,600		3,600
計	22,400	27,958	31,312	27,270	11,900	3,875	11,475	23,630	* 7,727	10,822	19,007	17,464	*14,682	*12,008	8,609	12,316	11,937	4,650	1,250	280,292

\* 美々々2遺跡の60年度5,000㎡、美々沢3遺跡の元年度のうち978㎡、美々々3遺跡の2年度のうち4,500㎡、美々々3遺跡の3年度のうち950㎡については、I黒層の調査のみで、それぞれ前年度のII黒層の面積に計上されているので、面積集計から除外してある。また美々々8遺跡の2年度のうち82㎡は前年度の下位(水付き部分)の調査なので、同様に面積集計から除外してある。 \*\* 約240㎡を調査。面積集計から除外。 \*\*\* 美々々4遺跡の調査は、I黒層のみの調査である。  
美=美々沢川流域の遺跡群、フ=フレベツ遺跡群、ベ=ベンケンナイ川流域の遺跡群。

0B層からは小規模なアイヌ集落(コタン)と舟着場跡が発見された。建物跡とこれに伴う建材集中は、アイヌ家屋(チセ)や舟着場の小休所と考えられる。立杭列や杭穴列はその付属施設の柱列や柵列等と考えられ、高床式倉庫(プー)、干し棚、幣場(棚)等の存在が推定される。「物送り場」と考えられる灰集中10からは多数の金属製品、ガラス玉等が出土したほか、粃の付いたコメ、アワ、ヒエ、キビ等の栽培植物や食用・薬用植物の種子が多量に検出された。サケ、シカ等の動物遺存体も膨大に検出されており、骨角器製作の残片も見られる。包含層の遺物は板綴舟(イタオマチッ)部材などの交通具、回転式離頭鉞(キテ)・魚突鉤(マレッ)等の漁撈具、狩猟具、農耕具、食具等をはじめ、アイヌの生活用具のほとんどの種類が出土している。アイヌの精神世界を象徴する木幣(イナウ)、捧酒箸(イクパスイ)、花矢、彫刻や祖印(イトクパ)の付される製品もあり、周辺地域や和人との交易関係を含め、考古学的にも民族学的にも第一級の貴重資料である。

グラムシェル調査からもほぼ同様の遺物が出た。0B層やIB層と接合する遺物もあり、遺跡はさらに広範囲に広がっていたと推定される。

(田口 尚)

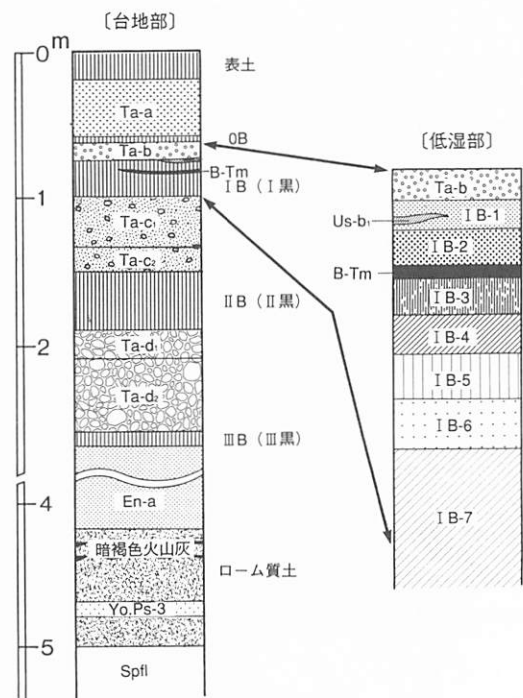


図 I - 2 標準土層模式図

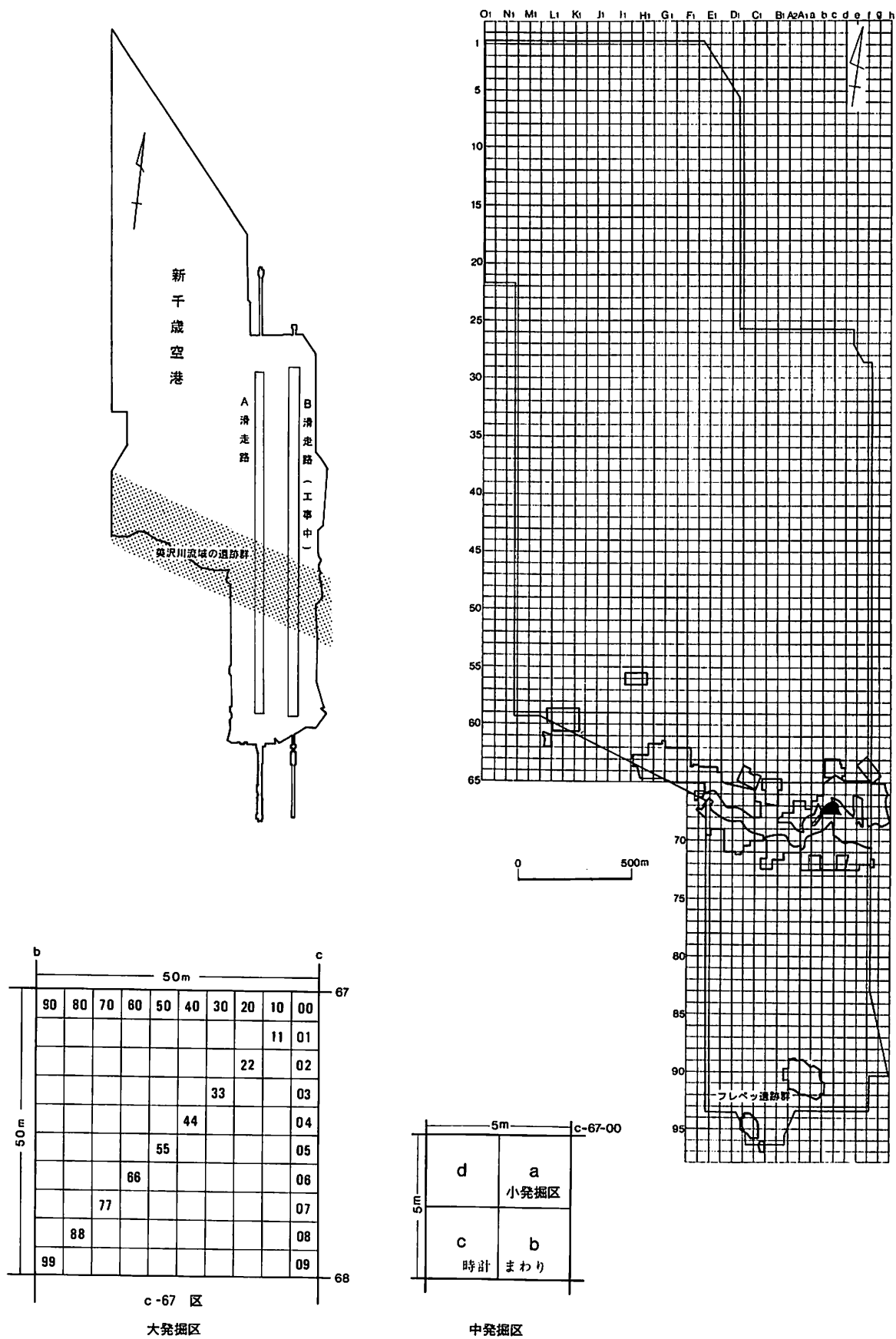
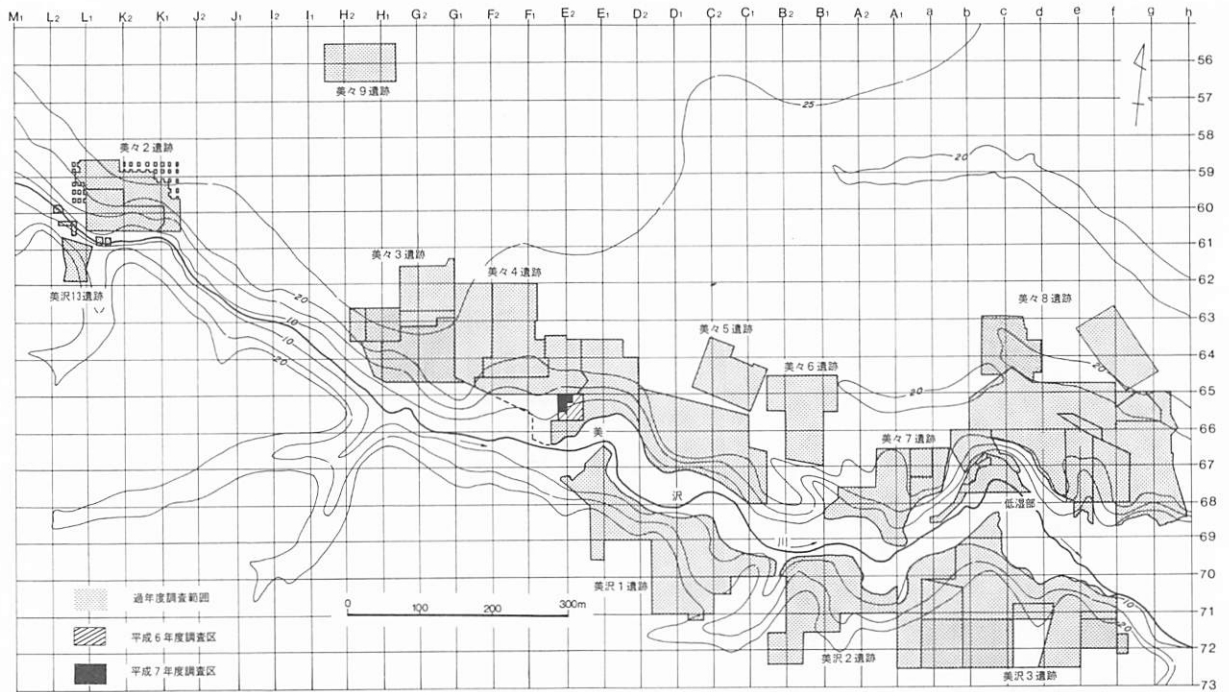
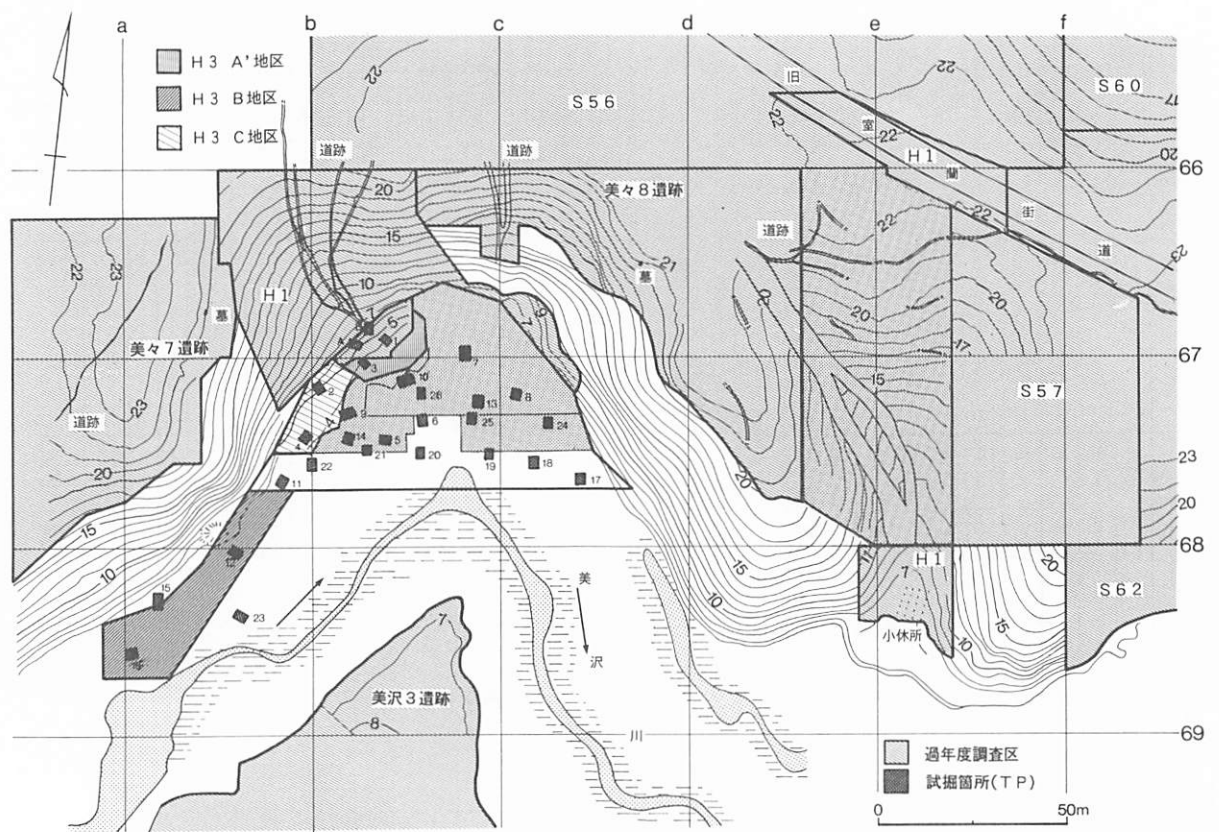


図 I - 3 美沢川流域遺跡群の位置と発掘区の呼称

I 調査の概要



美沢川流域の遺跡群



平成4年度調査区 美々8遺跡低湿部  
 図I-4 美沢川流域遺跡群の分布と美々8遺跡低湿部

## II 調査と整理の方法

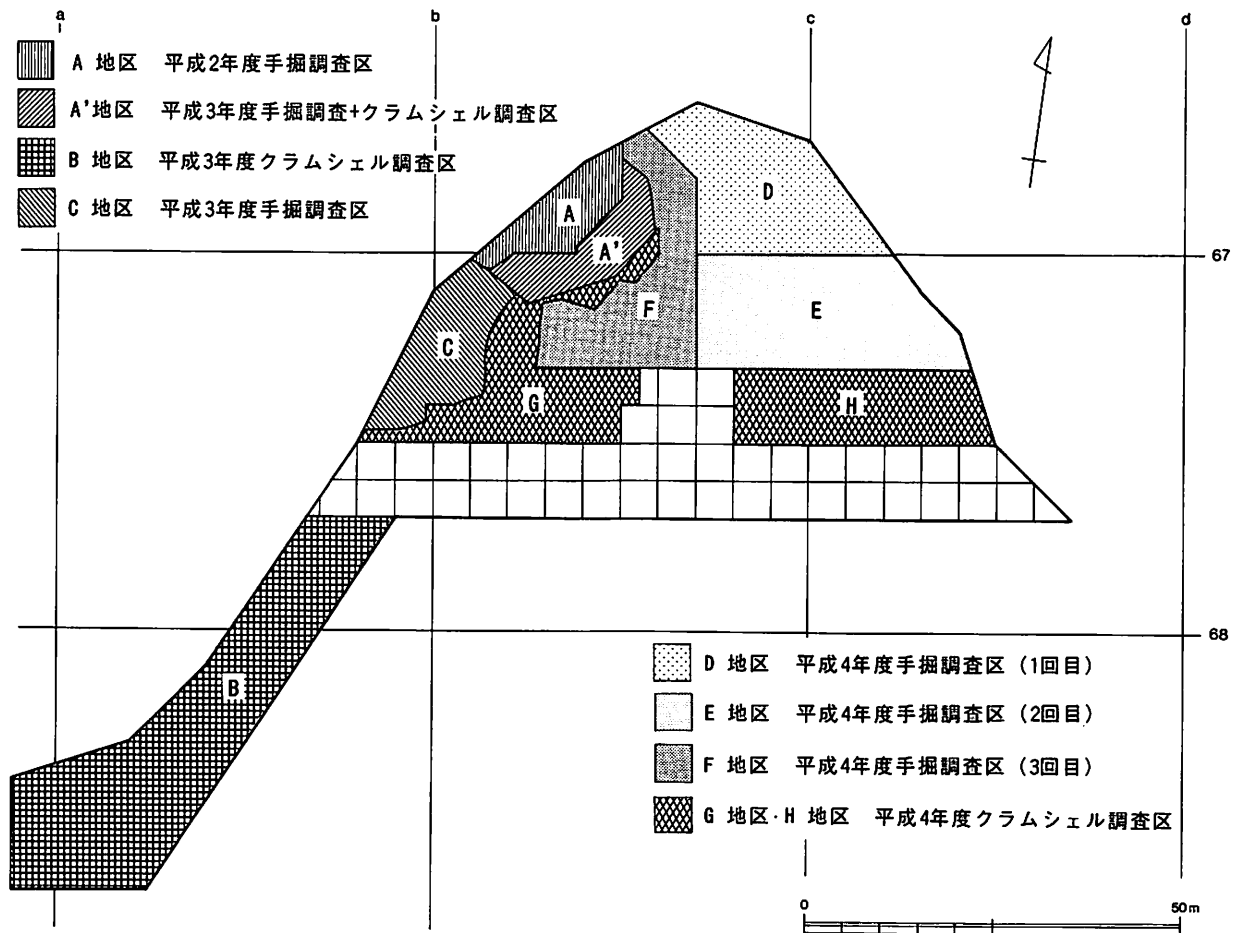
### 1 発掘区の設定 (図II-1)

方格座標は昭和50年度分布調査時に設定されたもので、第1期工事と第2期工事の境界を南北方向の基線 (N-7° 22' 38" -Eで、「A<sub>1</sub>」と呼称) とし、用地北界を東西方向の基線 (「0」と呼称) とした。基線A<sub>1</sub>から50m間隔で西へは「A<sub>1</sub>、A<sub>2</sub>、B<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、C<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>…O<sub>1</sub>」と、基線A<sub>1</sub>より東へは「a、b、c、…h」とし、基線0から50m間隔で南へ「1、2、3、…110」とし50m方格 (「A<sub>1</sub>-0」と表示) をつくった。

50m方格を100分割して、調査の基本となる小区画を5m方格とした。5m方格の呼称は50m方格の北東隅の5m方格を「00」とし、南へは「01、02、03、…09」と1桁目が増え、西へは「10、20、30、…90」と2桁目が増えて南西隅の5m方格が「99」となるようにした。小区画表示は先頭に50m方格の呼称、次に5m方格の呼称が並び、「A<sub>1</sub>-1-00」というようになる。

5m方格は人力調査の遺物一括取上げと重機調査 (クラムシェルバケット最大開口約2.5m×幅1mに準拠) の土壌採取のために4分割され、時計周りに「a、b、c、d」とし「A<sub>1</sub>-1-00-a」と呼称した。遺構の土壌試料採取・脆弱遺物の取上げは5m方格を100分割して「A<sub>1</sub>-1-00-00」とした。

調査区はオープンカット工法による危険を考慮して複数地区に分割した。年次と調査方法は図II-1を参照していただきたい。 (鈴木 信)



図II-1 美々8遺跡低湿部年度別調査区

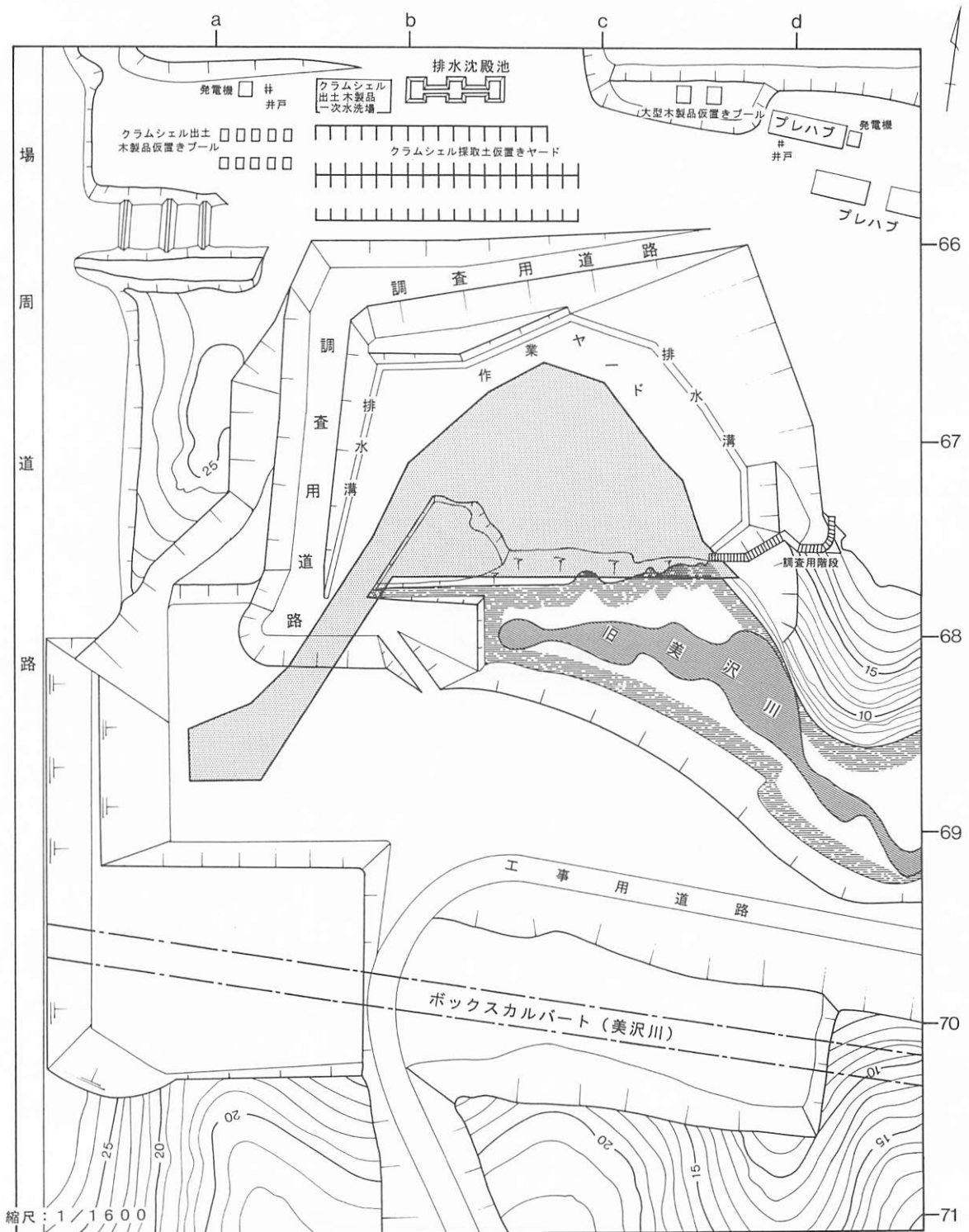


II 調査と整理の方法

2 調査の方法 (図II-1~5)

(1) 準備工事 (図II-1~3)

工事は盛土掘削、釜場設置、水替・排水施設、土留工、法面養生、ベルトコンベア設置の順で実施した。調査区の周囲は美々7遺跡及び美々8遺跡の崖下となり、深いすり鉢状となることから、崩落防止と土壌運搬トラック等ための作業ヤード確保を目的に大規模な法面掘削を行った。法面掘削土は、同時に進行する空港建設工事に伴う、美沢川対岸の盛土転圧及び工事用道路造成に活用された。



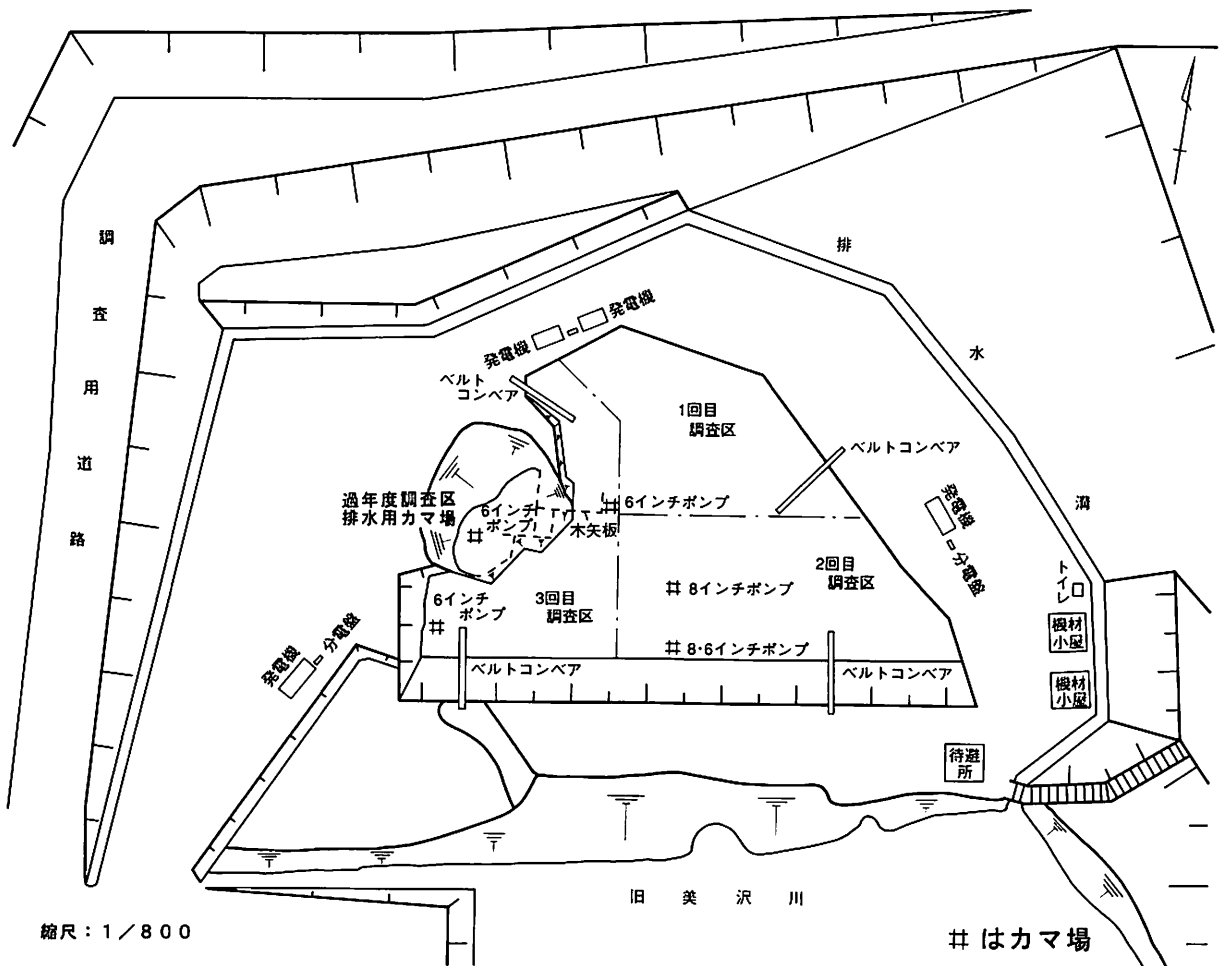
図II-2 平成4年度現況図



調査工法は平成2～3年度（北埋調報77・83）のA、A' 地区に隣接する低湿地縁辺部が調査区であることから、これまで同様の法付オープンカット工法を採用した。ただし、A、A' 地区との境界部分については地下水の噴出源となり、周辺が軟弱地盤になっていたことに気がつかず、盛土掘削中に多量の土砂を調査区内に流出させてしまった。そのため、準備工事は一時中断されたが、釜場の設置と土止め用木矢板によって急場をしのぎ、土砂の流出を押さえながら慎重には進めた。その後、A' 地区にコンクリート廃材で護岸した釜場を設置し、6インチポンプを配置して土壌の安定を急いだ。調査の進行に伴う人力調査区の拡大は、各地区の調査終了後に地盤や湧水の状況を判断しながら、慎重に進められた。平成4年度は調査面積が広く湧水量も豊富なことから、釜場には主として6インチ、8インチポンプを配し、さらに2インチ、4インチポンプを補助に使用して排水効率を向上させた。人力調査終了後の重機（クラムシェル）調査区は、危険箇所の状況、遺構・遺物の密度、重機のアーム長及び実用角度、旋回範囲を考慮して決定した。重機足場の造成と足場用覆工板（鋼鉄板）の敷設工事は、旧美沢川付近の盛土が軟弱であることから特に慎重に実施された。（出口 尚）

### (2) 人力調査 (図Ⅱ-2・3)

前述のように境界が軟弱地盤であったことから東側のD地区から調査を開始した。予定では0B層及び1B層のみを調査対象としていた。しかし、盛土除去作業中の表土層から、灰集中や炭化物集中等の遺構及び木製品が発見されたため、急遽、遺構・遺物の有無を重機立会しながら調査を進めることとなった。調査区には土層断面確認用のセクションベルトを予め設定し、ベルトに沿って排水溝を兼ねたトレンチを掘削した。しかし、湧水による火山灰等の流出により崩落したベルトも多い。地盤



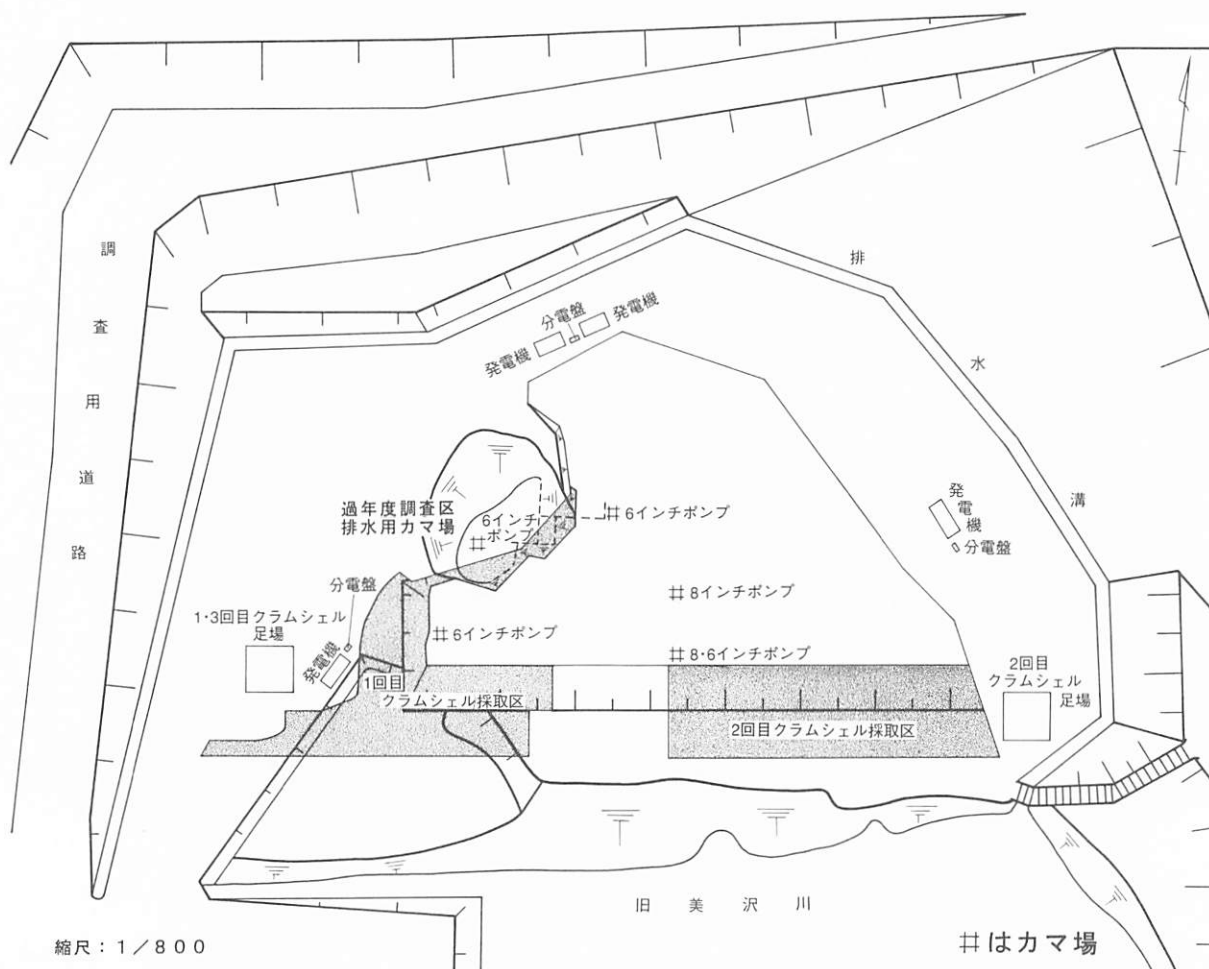
図Ⅱ-3 人力調査時の機材配置図

の軟弱箇所については、排水トレンチ等を廻らせ地盤安定を待って調査を進めた。危険箇所については、調査対象から除外するか、重機による包含層採取調査に切り替えた場合がある。

現地の調査員及び作業員は、作業中の土砂の崩落や陥没、被圧地下水等の突出を事前に察知するために、地盤のヒビと湧水の水位変化等に細心の注意を払った。ポンプやベルトコンベアー等の機器については、取扱い担当者を指名して作業前後の機器点検を徹底した。調査中の排土運搬や作業用通路の確保には、予め機器配置や作業の導線計画を作成し、歩場板やコンパネを用いて包含層上面の保護と異物の混入を最小限とした。調査用具には主に竹ベラ・竹串・移植鍬・刷毛を使用し、噴霧器等で補水しながら作業を進め、遺物の損傷を避けた。現実には木製品の密集地点等の場合、素手のまま掘る方が製品表面に損傷を与えずに調査できる。休憩時や作業後は直ちに調査面や遺物に散水し、さらに不織布やブルーシートを用いて覆い、極度な乾燥を避けた。遺物の水洗や泥等の除去作業は、紐や縄による結縛、彫刻、塗彩に注意して、刷毛や農業用噴霧器の水圧を使用した。（田口 尚）

(3) 重機（クラムシェル）調査（図II-1・2・4・5、図版10-1・2）

クラムシェルバケットによる遺物包含層の採取は、土層やバケットの状態を確認しながら行う必要があるため、ポンプ排水を継続しながら実施した。包含層は平成3年度（北埋調報83）同様に小グリッド単位で採取し、その地点毎にグリッド・層位を記録して1番から連番を付した（対照表でグリッド・層位に振り替えた）。ただし、クラムシェルの足場の安全確保及びアーム実用角度の限界から図II-1でトーン表示のないG地区とH地区に挟まれた地点が調査不可能となった。なお、本年度低湿度南端の幅10mの範囲は、旧河道を埋立てた部分であり、地盤が不安定で危険なことから調査対象外となっ



図II-4 クラムシェル調査時の機材配置図

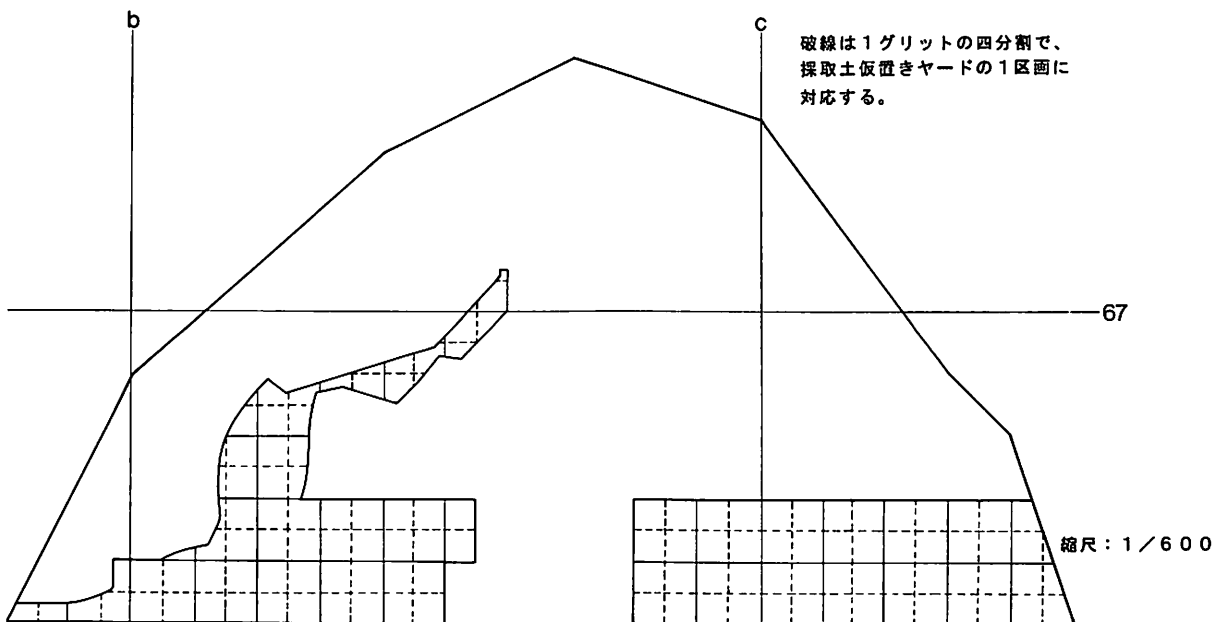
た部分である。採取地点と移設地点との事務連絡には小型無線機を使用した。採取された包含層の運搬は4 tトラック2台を交互に使用し、台地上の土壤仮置きヤードに堆積した。ヤードには足場板を「コ」の字に囲った区画を数列準備し、遺物の流失・混入を避けた。土壤からは直ちに遺物を採取し、小型の木製品は水を入れたコンテナに、大型のものは土嚢袋とブルーシートを用いた簡易プールに一時浸漬し浸漬した。土器・陶磁器、石器・石製品、ガラス玉は地点毎にカードを付けてビニール袋に収納し、骨角製品や金属製品はシール容器に収納した。遺物水洗および水漬保管には地下水をポンプアップし、排水は深掘りした沈澱池に浸透させた。平成4年度は土壤から大・中型の遺物のみをとり急ぎ採取し、残土は土嚢袋約22,000袋に収納してグリッド毎にブルーシートで覆い越年した。

#### (4) 水洗選別調査 (図版-11)

平成5年度は平成4年度調査時のクラムシェル採取包含層の残土の水洗選別（ウォーターセパレーション）と遺構の土壤サンプルの浮遊選別（フローテーション）作業を実施した。水洗選別は平成5年度の台地上の発掘調査と並行して現場において実施し、浮遊選別は遺構を中心に札幌整理事業所で実施した。灰集中・炭化物集中等の重要遺構の土壤サンプル及び包含層の柱状サンプルは北海道大学埋蔵文化財調査室に依頼し、後に札幌国際大学吉崎昌一氏に引き継がれた。微細遺物の抽出は、本遺跡の整理事業の中で最も重点をおいた作業であり、どの作業よりも人工と時間を費やした。詳細はⅧ章-2で述べられている。

クラムシェル調査の残土（土嚢袋22,000袋）は、調査精度を人力調査に近づけるため現地ですべて水洗選別し、動植物遺存体やガラス玉等の微細遺物の検出に努めた。水洗選別は効率化のために高圧洗車機を導入し、水洗用の作業台と1 mm、2 mm、4 mmメッシュを基本とした木枠を作成して処理した。状況に応じて0.425 mmメッシュも併用した。越年のために固化した土壤は予め水漬（ぬるま湯が良い）し、軽く攪拌して泥状となってから水洗した。高圧洗車機は霧状に水を噴射することから通常の土壤水洗よりも遺物に与えるダメージが少なく、細部に付着した泥の除去も可能であった。

ここで若干の留意点を記しておく。低湿地などの泥炭質土壤については、乾燥させると崩すことが出来ないほどに固化・固着するため、出来る限り湿性状況に置くことが望ましい。急激な乾燥は良好な状態の植物種子や骨角製品等を変形・分解させてしまう危険がある。また、土壤が分解せずに、土



図Ⅱ-5 クラムシェル土壤採取地点

## II 調査と整理の方法

塊のまま浮遊し、良好な試料が得られない場合も多い。特に浮遊選別を目的するサンプルの保管には十分に注意すべきであり、未炭化の植物種子、昆虫遺体等に与えるダメージが大きい。得られた試料についても、湿性状況で保管するか、アルコールシリーズ等で脱水することが望ましい。

また、台地上の遺跡調査では想像出来ないほど多種多量の動植物遺存体を、採取することが出来る。試験的に選別を実施（現場時点で行うことが理想）し、予め目的とする試料を選定し、統計処理法や報告仕方を十分に検討しておくことが肝要である。

なお、高圧洗車機については、ノズルと遺物の距離によって噴霧圧の強弱を調整できることから、建材などの大型木製品の洗浄をはじめ、土器・石器他の水洗・洗浄にも大きな威力を発揮する。静岡県等では数箇のノズルを付けた、専用流し台を作成して多量の遺物の洗浄に活用している。（田口）

### （5）遺物の取上げ

遺物の取上げは基本的に美々8遺跡低湿度（北埋調報77、83）の方法に従った。

遺物は出土状況写真撮影後、主に平板を使用してセクショントレースター（耐水紙）に1/10または1/20の出土状況図を作成し、耐水収集帳に出土年月日、名称、発掘区、層位、座標値、付着物や接合関係等を記録して取り上げた。ただし、礫集中や土器集中については10cm角のメッシュをかけポラロイドカメラや35mmカメラで俯瞰撮影後に図化したものもある。他に小発掘区、クラムシェル調査、土壌サンプル等で一括して取り上げられた遺物がある。特に加工痕のある雑多な木製品は作図せずに2.5m四方のグリッド（区画）で一括して取上げ、予め各層位・小発掘区毎に配置したコンテナに直接水漬された。

遺物は取上げ時に製品ごとに大まかにランク分けし、陶磁器・土器・土製品（桃色）、石器・石製品・礫・ガラス製品（水色）、木製品・繊維製品・樹皮製品（黄緑色）、金属製品（黄色）、動物遺存体・植物遺存体等の自然遺物・その他（白色）のように色別したカードをチャック付きビニール袋に入れて添付した。木製品等以外は通常の実取上げ方法に従い、ビニール袋にカードを添付した。木製品等の多くはパンチで作成した小孔開きビニール袋やシール容器（重要遺物・脆弱）にカードを添付した。大型製品はストックキングと不織布で養生し、アンビタッチでカードを結び付けた。脆弱な遺物や分解した遺物は写真撮影後に補強し、土壌ごと取上げて接合図などを添付した。（田口 尚）

## 3 整理と保管の方法

### （1）現場での整理と保管

陶磁器・土器、石器・石製品・礫、ガラス製品は従来どおりの整理・保管方法を実施し、水洗、乾燥、大分類、収納まで行った。礫集中や双礫等の遺構の礫は別収納し、平成4年度の包含層の礫は現場整理事務所に仮保管した。平成5年度は礫を層位・グリッド別に再選別・収納して台帳を作成後、札幌整理事務所に搬入した。木製品は収集帳をもとに分類名称・加工度・大きさ等で分別収納した。加工度の高い製品は別台帳を作成し、発掘終了まで各種シール容器や蓋付コンテナに水漬した。その他の木製品は整理事務所に収まらないため、グリッドや層位別に蓋付コンテナに水漬し、ブルーシートで覆って屋外に積み置きした。大型遺物は搬送用の木箱ができるまで不織布とストックキングで養生し、簡易プールで保管した。腐敗防止と沈着物溶脱のための水洗・水交換は地下水をポンプアップして数回実施した。脆弱遺物・重要遺物については、随時、札幌のセンターに搬送し、保存処理を開始した。搬送には収納台帳を作成し、養生及び水抜き後に8tトラック10台、木箱は4tのユニック車2台で搬入された。金属製品は泥や錆などを大まかクリーニングした後、日陰で風乾し、シリカゲルを入れたシール容器やポリシーラーで密封保管した。動物遺存体・大型植物遺存体・炭化物等は日陰

で風乾後に、アルコールシリーズで脱水し、メッシュサイズごとにサンプルケースやビニール袋に収納した。ただし、変形や収縮の予想されるものは不織布に包み湿潤状態でシール容器に収納した。

#### (2) 札幌整理作業所での整理と保管 (図Ⅱ-1)

搬入された木製品は膨大量であるため一時駐車場に積み置きし、取上げ方法や地区、コンテナの大小で組替えを行ったのち直ちに給水した。保管は当センターの通常スペースに収まらないため、6段積みを中心に作業室1.5部屋 (225㎡)、廊下収蔵 (68.5㎡)、ユニットプレハブ1棟 (20㎡)、屋外水槽 (2.0m×6.0m×1.6m) 等に水漬保管し、年数回の水洗と水交換を実施している。また、冬期間は凍結防止のために屋外水槽に断熱材を浮かべ、廊下保管場所やユニットプレハブにはビニールシートを張り、オイルヒーターを設置して5℃以上の温度を保つようにしている。急激な温度変化などを事前に察知できるように毎日、気温・水温を記録している。陶磁器・土器・石器・石製品・礫・ガラス製品は従来どおりの整理・保管方法を実施している。金属製品は木製品とは別の乾燥した部屋に保管し、簡単なクリーニング後にシリカゲルを入れたシール容器や恒温乾燥庫に収納している。現場で十分な乾燥が出来なかった自然遺物等は、恒温乾燥器を使用し強制的に乾燥させた。遺構等の土壌サンプルは浮遊選別 (フローテーション) を実施し、カードと共に薬用カプセル、チャック式ビニール袋、サンプルケース、フィルムケースに収納している。

各種図面は台帳を作成し、地形図・遺物分布図は1/50~1/250、遺構図は1/20・1/40、出土状況図は1/10・1/20・1/50を基本とし、その他は状況に応じて縮尺を変えている。遺物は分類・選別後に各種記録を記入した台帳を作成し、前述の色別カードを使用し、付替え・補正を行っている。また、必要に応じて観察カードも作成している。実測図は基本的に原寸で作成し、名称、コンテナ番号、出土地点・観察記録・計測値等を記入している。木製品については樹皮・炭化・塗彩の有無などを図に色分けし、前述の記録の他に木取り、樹種等を実測記録カード (耐水シール式) に記載して、実測図に貼付している。大型木製品についても原寸実測を基本とし、必要に応じて縮小コピーを外注している。写真撮影は基本的に実測図作成後に行っているが、重要遺物や脆弱遺物については随時撮影している。樹種同定は基本的に実測・写真撮影後に行っているが、写真同様に保存処理を急ぐ遺物等については随時同定している。各遺物の図面、写真、取上げ記録、材質、計測値、観察記録はパソコンでデータベース化している。特に木製品等については画像付きデータベース (Ⅱ章-8参照) を作成し、保管場所、保存処理、実測、トレース、写真撮影等の細かな工程を一括管理し、保存処理中等の遺物も閲覧・検索できるようにした。 (田口 尚)

### 4 遺物の保存処理

#### (1) 有機質遺物の保存処理 (図Ⅱ-6)

有機質遺物の保存処理は、基本的に美々8遺跡低湿部 (北埋調報102) の方法に従っている。作業工程は図のとおりである。

処理方法は従来まで主にPEG含浸法を行ってきたが、平成5年度以降はMannitol+PEG+真空凍結乾燥法 (以下MPFD法) を採用し、遺物の形状や加工度に合わせて処理方法を選択している。

PEG含浸槽は小型 (内寸長さ100cm×幅100cm×深さ70cm) 1台、中型 (内寸長さ175cm×幅70cm×深さ70cm) 2台、大型 (内寸長さ400cm×幅120cm×深さ100cm) 1台があり、真空凍結乾燥機 (内寸径40cm×長さ140cm) は1台を使用している。その他にMPFD前処理槽、-40℃以下のフリーザー縦型2台、横型2台等がある。最近の実測・報告を急ぐ遺物が多いことから、PEG含浸槽の1台は、恒常的にMPFD法の前処理に使用している。

平成4年度以降はパソコン上の木製品コード番号 (例H4w0000) で作業を進めている。これ



## II 調査と整理の方法

までの出土木製品がパソコンで検索可能なように保存処理工程記録、観察記録、実測・写真記録などは画像付データベース上で管理し、接合や復元、経過観察に活用している。木製品は保存処理工程に進んだ段階で、新たに処理と保管用を兼ねるラベルが添付される。ラベルはパウチラミネートした半永久的なものとし、写真を同時にラミネートしている。

遺物の復元・補修には基本的にエポキシ樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストを使用しているが、軽微な作業には市販の木部用エポキシパテが簡便である。MPFD法にはセルローズ系接着を使用する場合もある。

MPFD法の導入により、処理期間が大幅に短縮された。保存処理後でなくては実測や撮影が不可能な容器類や立体物等に特にメリットが大きい。また、ひと遺跡分の大量処理を行えば、土器・石器等のようなグリッド間の接合・復元も可能となる。その上、色調が明るく仕上がるため、濡れた状態では不鮮明だった彫刻や炭化も鮮明となり、実測図に新たな情報を提供する。しかし、欠点として、処理遺物が多量の場合には、各工程の期間が短い分、遺物の形状・樹種・劣化状態に合わせた工程管理が煩雑となる。また、強度があまり無いために大型遺物や重量バランスの悪い遺物に向かない等が上げられる。なお、今後は複数台或いは大型真空凍結乾燥機の導入を道教委を含め、十分に検討・協議せねばならない。

### (2) 金属製品の保存処理 (図II-7)

金属製品の保存処理は、基本的に美々8遺跡低湿部(北埋調報77・83)の方法を用いた。作業工程は図のとおりである。

平成8年度は金属処理室が一部改修され、集塵・換気装置設置された。その結果、冬期間も溶剤作業や粉塵作業が良好な空気環境のもとで行えるようになった。

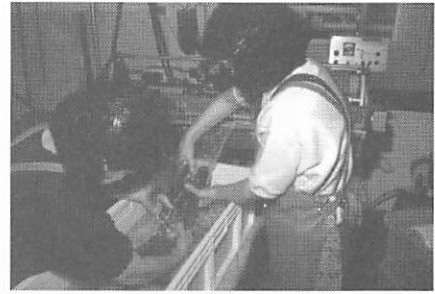
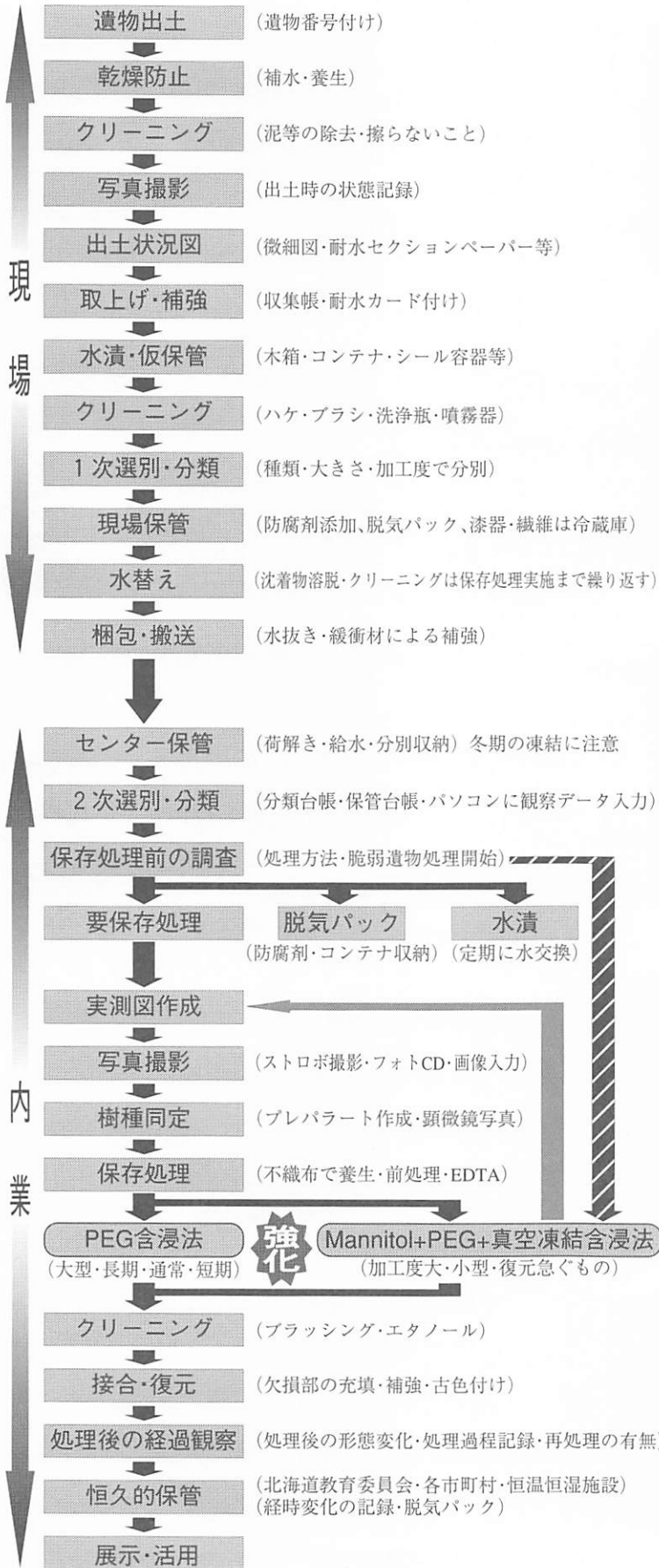
処理室には現在、恒温乾燥器、恒温乾燥保管庫2台、エアブレイシブ、集塵器、精密電動彫刻機、大型減圧タンク、小型真空デシケータ、減圧用ポンプ2台等がある。

金属製品は金属製品番号(金No.)を与え、台帳と観察カードを作成して工程を管理しているが、今後は木製品同様に画像付データベースを作成し、管理する予定である。処理にはNAD-10を減圧含浸し、鉄分の溶脱した鉄鋼等についてはパラロイドB72を含浸し強化した。銅製品・真鍮製品はベンゾトリアゾール入りアクリル樹脂溶液を含浸後、インクラックを塗布した。復元・補修にはエポキシ樹脂とフェノール樹脂マイクロバルーンを混合したペーストを使用した。処理後の遺物は、シリカゲルを入れたシール容器に入れ、恒温乾燥庫保管している。なお、今回も報告作業を優先させるため、脱塩工程を省いた。これまでの未脱塩のものを一気にすべく、次年度には恒温高圧脱塩装置が導入される見込みである。また、現場での処理前遺物の保管、処理後遺物の多くは脱酸素剤(RPシステム)を使用した保管を採用している。

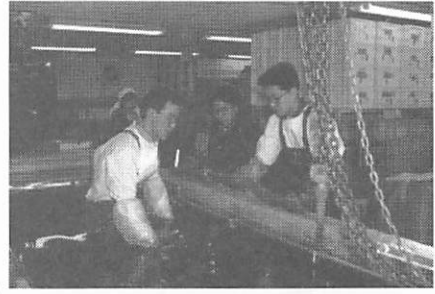
### (3) その他の遺物の保存処理

土器や石器類は十分に乾燥させた後、パラロイドB72に浸漬した。琥珀類は状態によってパラロイドB72とバインダー#18を選択している。骨角器等は脱水後にパラロイドB72を塗布した。

(田口 尚)



1 ポリシーラーによる脱気パック



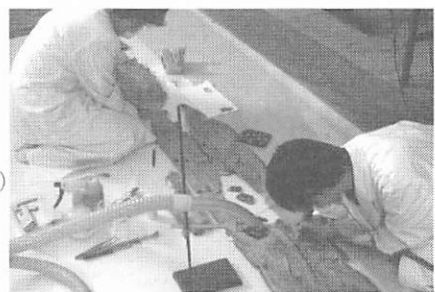
2 PEG含浸槽から取り出し



3 フリーザーによる予備凍結



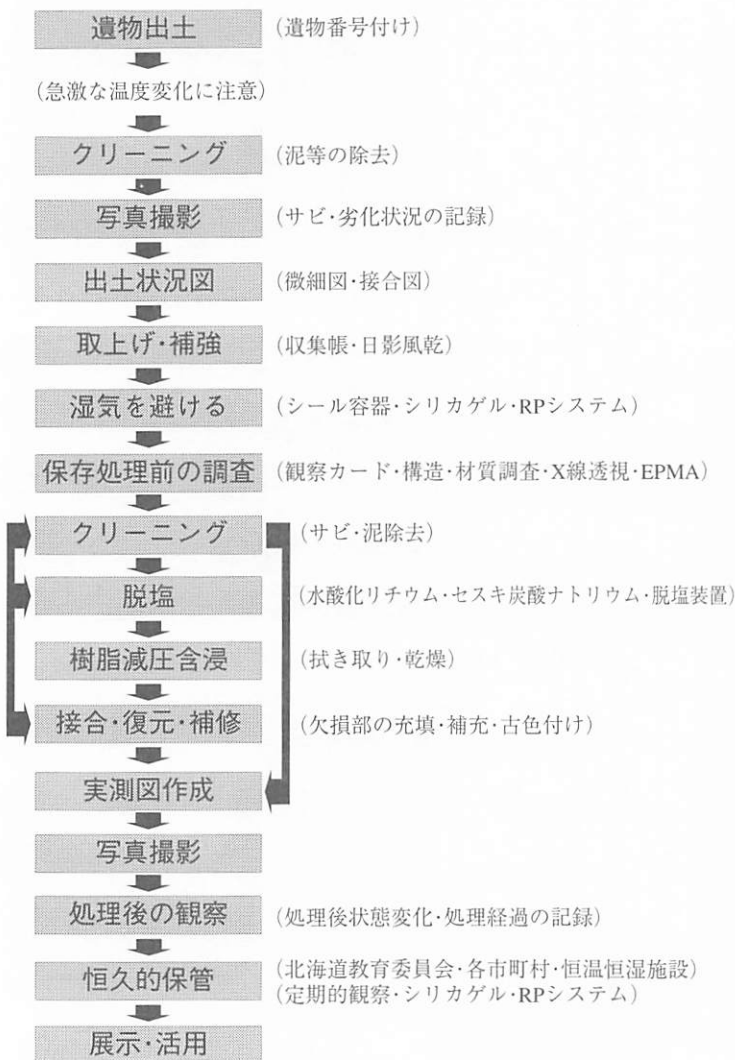
4 真空凍結乾燥庫に入庫



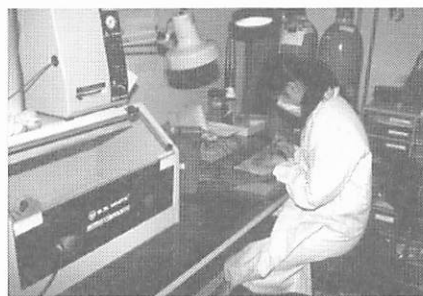
5 保存処理後の接合・復元

図II-6 保存処理の工程 (有機質遺物)

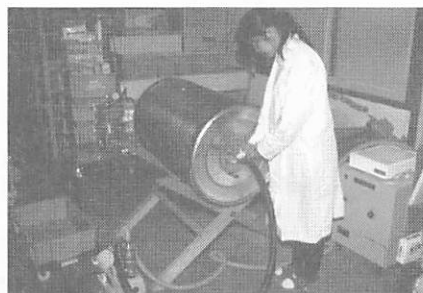
II 調査と整理の方法



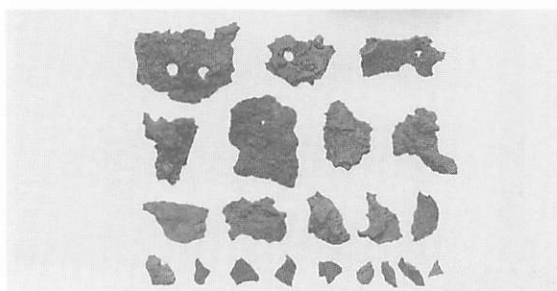
1 アルコールによる洗浄・脱水



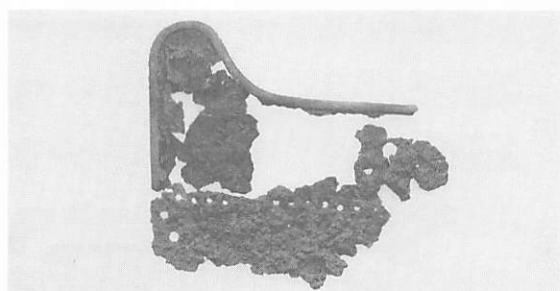
2 機器によるサビ・泥の除去



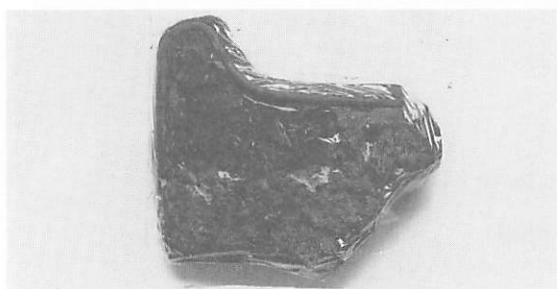
3 樹脂の減圧含浸



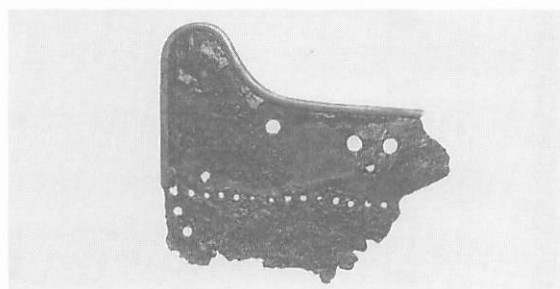
4 鎧の破片



5 板接合



6 型枠による整形



7 欠損部に樹脂を充填

図II-7 保存処理の工程 (金属製品等)

## 5 各種分析と試料のサンプリング

これまでに実施した分析・同定等を列記する。今後の比較試料となることを期待したい。

**ガラス製品材質調査：**ガラスの原材料から生産地や流通経路を推測する。分析は岩手県立博物館 赤沼英雄氏に依頼中である。

**金属製品材質調査：**原材料や製品金属の流通経路、製作過程を推測する。分析は岩手県立博物館 赤沼英雄氏に依頼した。

**植物遺存体：**古環境の復元、遺構の性格、有用植物、栽培植物や農耕、流通経路等を推測する。選別及び種子同定、指導は北大埋蔵文化財調査室及び北海道環境文化研究センターに依頼した。

**動物遺存体：**古環境及び食用動物、狩猟・漁撈活動（地域）、遺構の性格、流通、用具製作を推測する。同定は千歳市埋蔵文化財センター 高橋理氏に依頼した。

**花粉化石分析：**層位毎の古環境復元、栽培植物、有用植物を検討する。分析は北海道開拓記念館 山田悟郎氏に依頼した。

**樹種同定：**木製生活用具の樹種選択の状況、用具の生産地や流通経路を推測する。同定及び指導・助言を農林水産省森林総合研究所 平川康彦氏に依頼した。

**珪藻化石分析：**低湿地の水質変化等、層位別の水性環境を推定する。分析はパリノサーヴェイ株式会社に依頼した。なお、珪藻化石含有量調査は野外科学株式会社に依頼した。

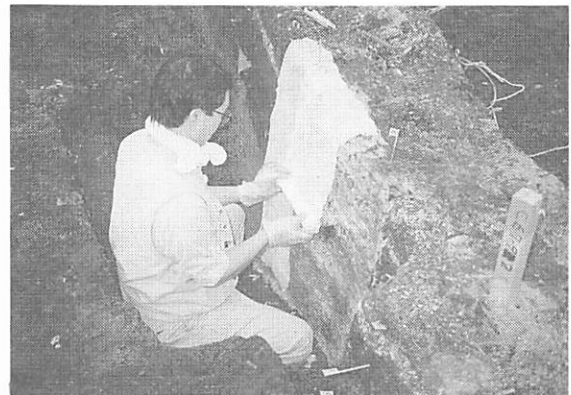
**植物珪酸体分析：**イネ科植物から見た古環境の変遷やイネ属の流通状況を推定する。分析はパリノサーヴェイ株式会社に依頼した。

**昆虫同定：**浮遊選別や水洗選別で検出された昆虫個体を検討し、気候及び古環境を推定する。分析はパリノサーヴェイ株式会社に依頼した。

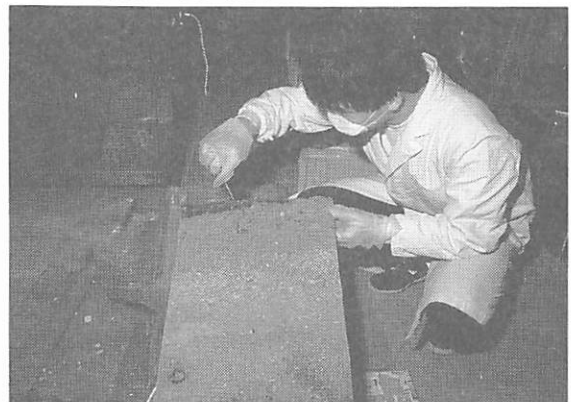
**放射性炭素年代測定：**擦文時代～アイヌ文化期の実年代おさえる。測定は京都産業大学 山田 治氏に依頼した。  
(田口 尚)

## 6 土層断面の剥ぎ取り

遺跡においては、層位を正確に記録することが基本であるが、調査後は実測図や写真でしか確認することが出来ない。ここでは特に、分析試料採取地点の土層を剥ぎ取った。長期にわたる整理作業には層位の共通認識が不可欠である。分析依頼者にサンプル採取位置・堆積状況を説明する場合や整理作業員に基本土層を指導する場合に臨場感あふれた説明が可能である。また、遺跡調査後の展示などにも活用できる。



1 土層剥ぎ取り転写



2 パネルに貼り付け整形・加工

図Ⅱ-8 土層断面の剥ぎ取り

7 写真撮影の方法 (図II-9)

低湿地における現場撮影

低湿地遺跡における写真撮影は、最も重要な記録保存のひとつである。予め、遺跡全体を見渡せる定点を決め、日々変化する調査状況や環境変化、或いは異常出水などによる復旧作業など調査日誌として遺跡全景を記録する必要がある。また、木製品等の植物性遺物は、外気に接触した瞬間から黄色から緑色、そして黒色へと変化する。色変化だけではなく、腐敗や収縮などの劣化も同時に進行している。長期間放置していると遂には原形をとどめないほどまでに変形してしまう。したがって、出土状況図などを描く前に、遺物全体の撮影はもとより、彫刻や加工痕などにいたる細部までを迅速に撮影しておくことが不可欠である。さらに撮影中には加圧式噴霧器等で適度な保水を忘れてはならない。遺物は実測中や取上げ時、運搬時等に破損する 경우가少なくなく、希に保存処理過程で収縮劣化させてしまう場合もありうる。出土時の新鮮な色や質感を記録することはもちろん、写真記録のみが唯一の遺物データとなる場合が多々ある。多くの遺物は、用具の破片及び部品状態で出土するので、単体のみの撮影ばかりではなく、周辺の遺物も明確に撮影しておく必要がある。出土写真は実測図や出土状況図とともに保存処理時の復元見本ともなるので、モノクロばかりではなく、カラーリバーサルも同時に撮影しておくべきである。

遺物や遺構の単体撮影の他に、パネル、グラビアに使用することを念頭にして、作業員や調査員を同時に写し込んだ写真も欲しいものである。遺物や遺構のスケールともなる上に、調査状況等の臨場感溢れた写真となる。タテ位置の写真なども意識して撮影するようにしたいものである。報告書や図録を作成するときに、意外につかえる写真が少ないものである。この瞬間しか遺構や遺物は残らないという気持ちで、とにかく、こまめに撮影しておくことが低湿地調査における鉄則と言える。ただし、撮影記録(撮影台帳)に年月日(時間)、発掘区、撮影方位、被写体名(遺構・遺物)を記録することを怠ってはならない。特に遺物については、そのNo.を記録するように心がけたい。複数遺物を同時に写し込んだ場合には、「遺物出土状況」等と単純に記載せずに、特徴のある数点の遺物No.を記録しておくことが基本である。後にフォトCDから画像データベースを作成したり、現場の図面と照合するときに大いに役立つ。実際に遺物の照合やデータベース作成時に最も苦勞した部分である。

撮影時に注意したいことは、晴天時の建材や木製品の密集している箇所を撮影する時に、遺物表面が光を反射し、影が他の遺物を覆っている場合である。このような場合には曇るのを待つか、影が一番短い昼過ぎ頃に撮影したいものである。また、シートで覆ったり、レフ板、ストロボ等を使用するのも有効な方法である。逆光の場合には遺物の濡れている面や水の溜った土壌がキラキラ光るので同様に工夫が必要である。注意したいのは、土層と同様に木製品も黒いため、光を吸収し、露出計が示す値では露出不足になることである。露出計が示す値よりも1~2絞り程度の補正が必要である。

最後にカメラやレンズは湿気に弱いので、休憩時も現場に放置したりせずに、撮影終了後には必ずクリーニングをし、密閉度の高いカメラバックあるいはデシケータ等に保管したいものである。

(田口 尚)

現場写真撮影機材	
<b>メインカメラ (モノクロ・リバーサル用)</b> 6×7 マミヤRZ レンズ マミヤセコール 50mm 65mm 90mm 140mm 360mm ロール120 RZ用 プリズムファインダーRZ用 ワインダーRZ用	<b>周辺機器</b> <b>露出計</b> アサヒ スポットメーター ミノルタオートメーターIII型 ストロボ ナショナルPE360SG <b>三脚</b> スリック・マスタープロ ベルボン アルミカメラケース
<b>サブカメラ (リバーサル・ネガカラー用)</b> 35mm ニコンF3 ×1 35mm ニコンFE ×2 レンズ ニッコール 24mm 55mm 105mm 300mm 35~70mm モータードライブ ニコンMD4	<b>&lt;撮影用補助材料&gt;</b> 撮影台帳(耐水)、レフ板、 水遣器、農業用加圧式噴霧 器、暗幕用シート、各種フイ ルター、コンベックス、竹 串、刷毛、鏡板、ブラシ、ス ポンジ、クリーニングキット
<b>メモ用カメラ</b> コニカ現場監督DD ボラロイドランド3型	

図II-9 写真撮影



## 8 画像データベース作成とその活用

**目的：**美々8遺跡低湿部出土の木製品・繊維製品・樹皮製品は膨大な量であり、多種多様である。また、脆弱で腐敗・劣化しやすいことから、遺物整理における各種作業時の抜き出しや移動が非常に困難である。その上、有機遺物の保存処理や管理には長期的に渡る煩雑な行程が必要とされる。これらを効率的かつ迅速に行うには、複数台のパソコンを用いた整理システムが極めて有効である。

**構造と機能：**本遺跡の整理作業において作成した画像データベースでは、取上げデータ以外に、遺物観察・出土状況図・実測図・トレース・計測値・撮影・保存処理・遺物保管・写場及び現場写真画像等、関連する各種ファイルが全て連結され、画像を含めた全てのデータを互いに関連づけて見ることができる。各ファイルにまたがる様な複雑な検索にも対応が可能である(図Ⅱ-10・11)。また、これらのデータは全てサーバマシンに保管されており、ネットワーク上にある各クライアントマシンから必要なファイルを同時に使用することが可能である。複数台での検索や分業もできることから作業効率が向上した(図Ⅱ-12)。この様に、ネットワーク上で1つの画像データベースファイルを共有した作業形態は最も効率のよい手段と言える。また、この画像データベース内に蓄積されたデータを他のソフトウェアに取り込んで使用し、表やグラフ作成等にも応用している。

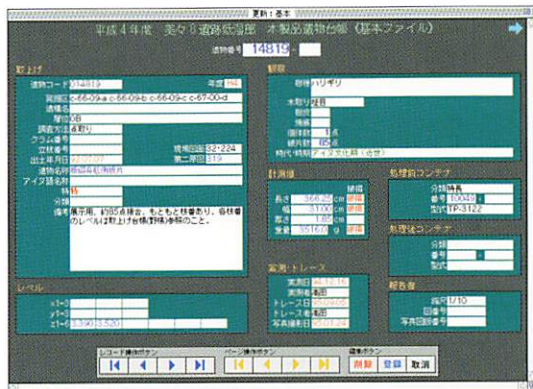
**画像入力の方法：**画像データベースに膨大な量の遺物写真を取り込む場合に、フィルムを1枚づつスキャンしては、画質・色調などの調整と取り込みに多大な時間と労力が必要となる。しかし、予めフォトCD作成を外注し、この画像を取り込むことによって、この問題を大幅に軽減することができた。更にCD自体が画像アルバムの役割を果たすため、写真を使用した各種資料等の作成、接合・復元作業にも活用することができる。

**問題・留意点：**パソコンによる画像データベースを構築する場合には、目的に応じた機器の選定、技術者の確保・育成、OA電源等の環境整備や機器の保護、ソフトウェアの選定等、様々な要素を考慮しなければならない。特にハード及びソフトウェアの相性は深刻な問題である。この点については時間と経験を必要とし、日常のメンテナンスが重要となってくる。システムやネットワークの安定性はもちろんのこと、頻繁に使用するソフト及びハードウェアが、常時安定した稼働状態でなければならない。もしも、サーバやネットワーク自体が使用不能になった場合には、ネットワーク上の全てのマシンが通常作業を行うことが不可能となる危険性がある。したがって、機器の管理と保守(データのバックアップも含む)はもっとも重要な作業である。ソフトウェアのアップグレード等も必要な事項であるが、逆に他のソフト及びハードウェアとの安定性を悪化させる場合がある。これを避けるために、予備のパソコンを用いての試験稼働等も、通常作業と共に重要である。また、技術者の確保・育成という点では、調査員やパソコン担当員だけではなく、ある程度広域な作業分野で活用できる単純化された出入力環境を整備することにより、作業効率をより向上させ、誤入力などを低減させることが可能である(図Ⅱ-12)。将来的には情報公開や最新ソフトウェアの早期入手、情報取得等にインターネットやパソコン通信の利用が求められるであろう。

**パソコンの活用：**現在、これらのパソコンは美々8遺跡低湿部の遺構や遺物のデータ管理はもとより、保存処理工程管理・薬品管理・保存処理関連機器の管理・保管遺物管理・パネル管理など、様々な用途に使用している。また、フォトCDや新たにスキャンした画像等を用いて、合成写真や解説図等も作成している。木製品の画像データベースとは使用ソフトウェアが異なるが、当センターで作成した膨大な写真パネルの管理台帳についても画像付きのデータベースを作成し、各種展示会等に写真パネルを活用している(図Ⅱ-12)。

(田中 康治)

## II 調査と整理の方法



基本画面 1



基本画面 2



基本画面 3



表形式表示画面



写場写真画像



写場写真画像 (検索用・表形式表示)



現場写真画像



現場写真画像 (検索用・表形式表示)

図 II - 10 画像データベースの各画面



## 基本ファイル

### 取上げデータ

年度・遺物番号・発掘区・調査方法・層位・遺構名・遺物名称・ランク・備考等

### 遺物観察データ

材質・法量・時代・等の属性管理

### 保存処理データ

保存処理方法・処理済・等の工程管理

### 遺物保管データ

保管場所・保管状態・コンテナ番号・サイズ・等の管理

### 報告書データ

報告書の書名・掲載項等の記録

## 写場写真関係ファイル

### 写場フォトCDファイル

フォトCDを作成した遺物のCD番号の管理

### 写場写真画像ファイル

写場写真の画像データ

### 写場写真撮影ファイル

被写体・撮影月日・フィルムの種類・番号等の管理

## 現場写真関係ファイル

### 現場フォトCDファイル

フォトCDを作成した遺構・遺物のCD番号の管理

### 現場写真画像ファイル

現場写真の画像データ

### 現場写真撮影ファイル

被写体・撮影月日・フィルムの種類・番号等の管理

## 図面関係ファイル

### 現場図面ファイル

図面名称・作図者・作図月日・周辺遺物の記録

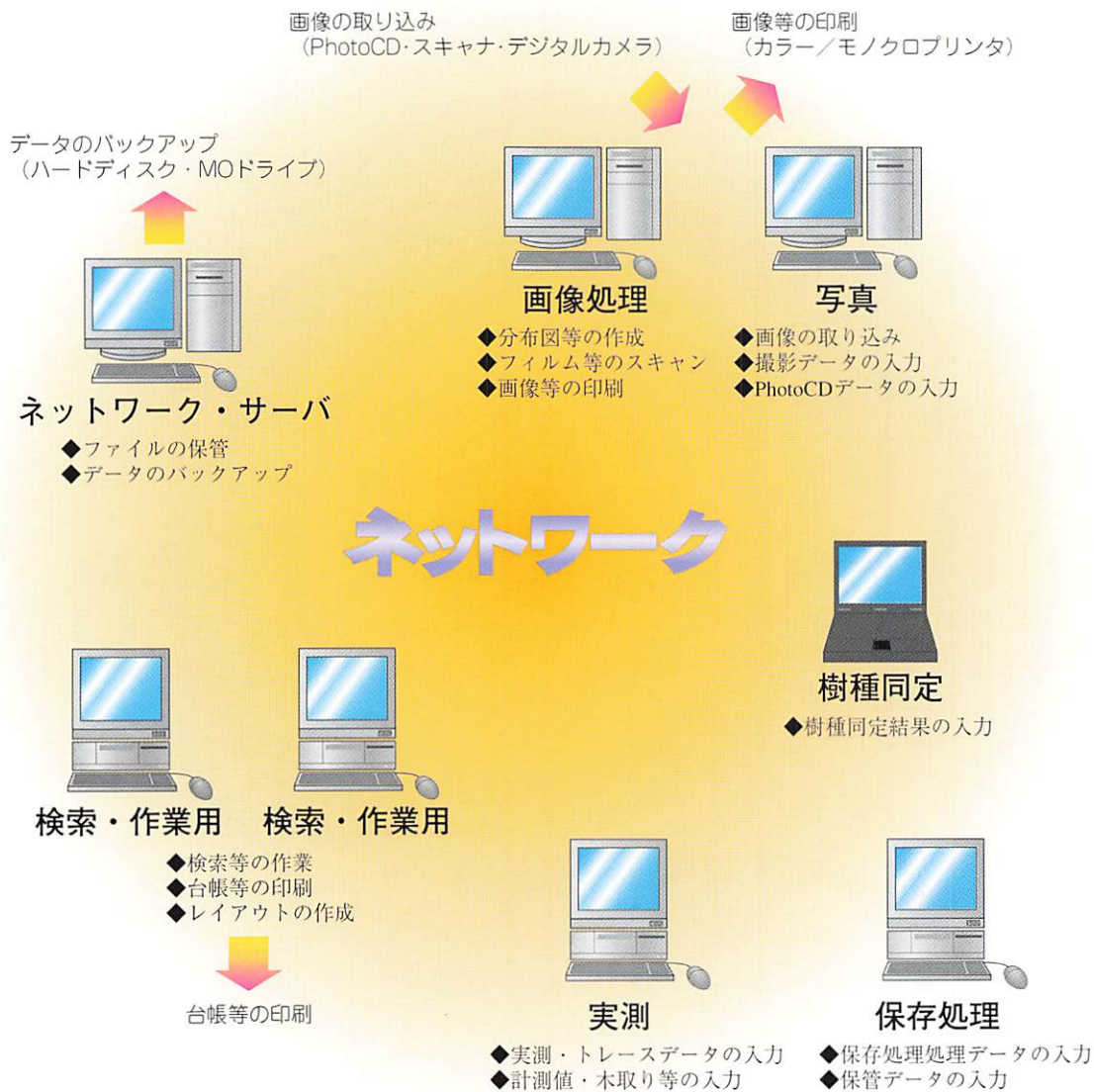
### 第二原図ファイル

図面名称・作図者・作図月日の記録

全てのファイルは互いに連結されている為、各ファイルにまたがる様な複雑な検索にも対応することが可能。

図Ⅱ-11 画像データベースの構造

II 調査と整理の方法



ネットワークの構成



基本画面



表形式表示画面

写真パネル画像データベースの画面

図II-12 ネットワークの構成と画像データベースの応用

## Ⅲ 位置と環境

### 1 位置と環境 (図Ⅲ-1・2・3)

千歳市は、市域南部に樽前山、恵庭岳、支笏カルデラ噴出物の堆積によって形成された標高20m前後の台地が広がる。台地南側を美沢川と美々川が開析し、美沢川は美々川となってウトナイ沼に注ぎ込む。美々川はウトナイ沼を抜けると勇払川と合流し、勇払川は太平洋に注ぐ。

この低平な台地は石狩低地帯の分水嶺であり、最も幅の狭いところでは直線にして約6km程である。美々8遺跡は分水嶺の太平洋側、美沢川の左岸、美々川合流点から直線距離で約1.5km程にあり、標高20m前後の台地部と標高6m～2.5mの低湿部、とその間の斜面部に広がっている。

気候は、石狩低地帯の南端に位置するが、標高20m前後の台地を経て勇払平野に続くため、日本海型気候には属さず、太平洋型気候に属する。夏は平均18℃前後で冬は平均-4℃前後(昭和54年)、最深積雪は65cm前後(昭和50～54年)と比較的温暖で積雪も少ない。このような気候は、恵庭市島松一長沼町を境にして日本海型気候にかわる。また上述の地形から卓越風は、ほぼ南北(3月～9月は南方から、10月～2月は北方から)方向に一定して吹く。

石狩低地帯南部は汎針広混交地帯に属するが、遺跡周辺の現植生は落葉広葉樹が卓越しており、カシワの低木やクロミノウグイスカグラなどの小灌木が広がっている。周辺にみられる針葉樹は近代以降の植栽によるのみである。

美々8遺跡は、18世紀後半に「ユウフツ越」・「シコツ越」と呼ばれて、太平洋側と日本海側とを結ぶ交通路の中継点であった。文献資料によると、このような状況は寛文7年(1667年)ころまではさかのぼれるようだ。平成元年度の発掘調査において、引化3年(1846年)にこの地を訪れた松浦武四郎が記した『再航蝦夷日誌』のなかに描かれた「小休所」が検出された。平成3・4年度の発掘調査においては、文化4年(1808年)頃から安政4年(1857年)頃にかけて物資の運送に使用された道跡が検出され、文献史料を裏付けている。低湿部はこれらの先駆する遺跡である。

### 2 土層の区分 (図Ⅲ-3・4・5)

調査区の範囲は、美沢川の現水面下標高2.4m～7.0mの範囲にある。低湿部の層序は、台地部からの連続として捉えることができる。

標高5.5m以上の斜面での0B層は、Ta-b層上面が暗褐色に汚れる程度で層をなさない。標高5.5m以下から0B層が現われはじめて、標高4.1m以下からTa-bの混じり具合によって細分される。

I B層は、標高4.9m以下から細分が可能となり、標高4.0m以下からB-Tm(平成3年度報告では、Tmと略記した。)が薄層として現われ初め、I B層自体の層厚が急激に増加する。

#### (1) 土層断面A-Bライン(図Ⅲ-3・4) : 珪藻化石・植物珪酸体試料採取地点 Loc. 1・2

A-Bラインは発掘区のほぼ中央を縦断する本遺跡最長の土層断面である。堆積状況は、過年度報告のA、C地区に類似しているが、標高3.3m以下ではI B層が細分され、I B-6・7層が加わる。  
Ta-a層 : 樽前a降下火山灰堆積物。細礫の軽石と砂質火山灰との互層。1739年(元文4年)降下。層厚は10cm前後。

0B層 : 褐色泥炭層。I B-1層と同じ上色。標高4.8m以下から腐植した草本・木本に富む。標高5.5m以下では木製品を大量に含む。この層の下部は、破碎したTa-b軽石が多く含まれるので層(0B下層)が可能となる。珪藻化石分析によれば有機汚濁の進んだ層である。

Ta-b層 : 樽前b降下火山灰堆積物。1667年(寛文7年)降下。

I B-1層 : I B-2層より明るい褐色泥炭層。腐植した草本に富み、根が残存している。木製品・



### Ⅲ 位置と環境

鉄製品を多く含む。植物珪酸体・珪藻化石分析によればイネ科が繁茂する富栄養な湿地の層である。

I B-2層：黒色に近く、砂粒にとんだ暗褐色泥炭層。腐植が進行し、根はあまり残存していない。木製品、擦文土器、礫を多く含む。植物珪酸体・珪藻化石分析によればI B-1層と同じ状況である。

B-Tm層：白頭山-苦小牧火山灰。標高4.0m以下から薄層（層厚2cm以下）として現われる。

I B-3層：暗褐色泥炭層。腐植した草本に富み、根が残存している。木製品を含む。

I B-4層：黒色泥炭層（平成3年度報告では、黒色泥層と表記）。腐植が進行し、根はあまり残存していない。標高4.0m以下から現われる。珪藻化石分析によれば比較的乾燥していたようだ。

I B-5層：暗褐色泥炭層。I B-3層と同じ土色。腐植した草本・木本に富み、根が残存している。木製品を含む。

I B-6層：0 B、I B-3層より明るい暗褐色腐植シルト層。腐植した草本を極わずか含む。木製品を含む。

I B-7層：灰褐色シルト層。脱色したI B-6層と風化や水摩をうけたT a-cが混じりあっている。腐植した草本を含まない。木製品を含む。珪藻化石分析によれば中～貧栄養の静水域である。

T a-c層：樽前c降下火山灰堆積物。標高2.5m以下では、水成の二次堆積層となっている。

#### (2) 土層断面C-Dライン（図Ⅲ-3・5）珪藻化石・植物珪酸体試料採取地点 Loc. 3

C-Dラインは、発掘区の南東部（美沢川の下流側）を横断する本遺跡で2番目に長い土層断面である。堆積状況は、I B-1層が細分されること、I B-7層以下の状況が把握できた。また、泥炭質に富まないI B-2層とI B-4層が堆積していないことより、A-Bラインと若干異なることが判明した。以下、A-Bラインとの相違点について述べる。

T a-b層：A-Bライン付近の火山灰よりも水摩・破砕が顕著である。

I B-1層：U s-bによって二分される。珪藻化石分析によれば流入水のある池沼地。

I B-1上：灰褐色粘質土。腐植した草本を極わずか含む。木製品を含む。

U s-b層：有珠b降下火山灰。緑褐色極細粒砂質で、発掘区の北側でも散点的に検出されている。

I B-1下：暗褐色泥炭層。腐植した草本に富み、根が残存している。木製品・鉄製品を多く含む。

T a-c層：樽前c降下火山灰堆積物。標高3.0m以下では、水摩したパミスや搬入礫をふくむ水成の二次堆積層となっている。

A層：灰褐色泥炭質シルト。T a-cとイ層とウ層が等分に混じる層。

イ層：明灰白色砂土。水成の二次堆積のT a-cにウ層が混じる層。

ウ層：暗褐色泥炭層。腐植した草本に富む。台地部のII b層に相当する。珪藻化石によれば沼沢地。

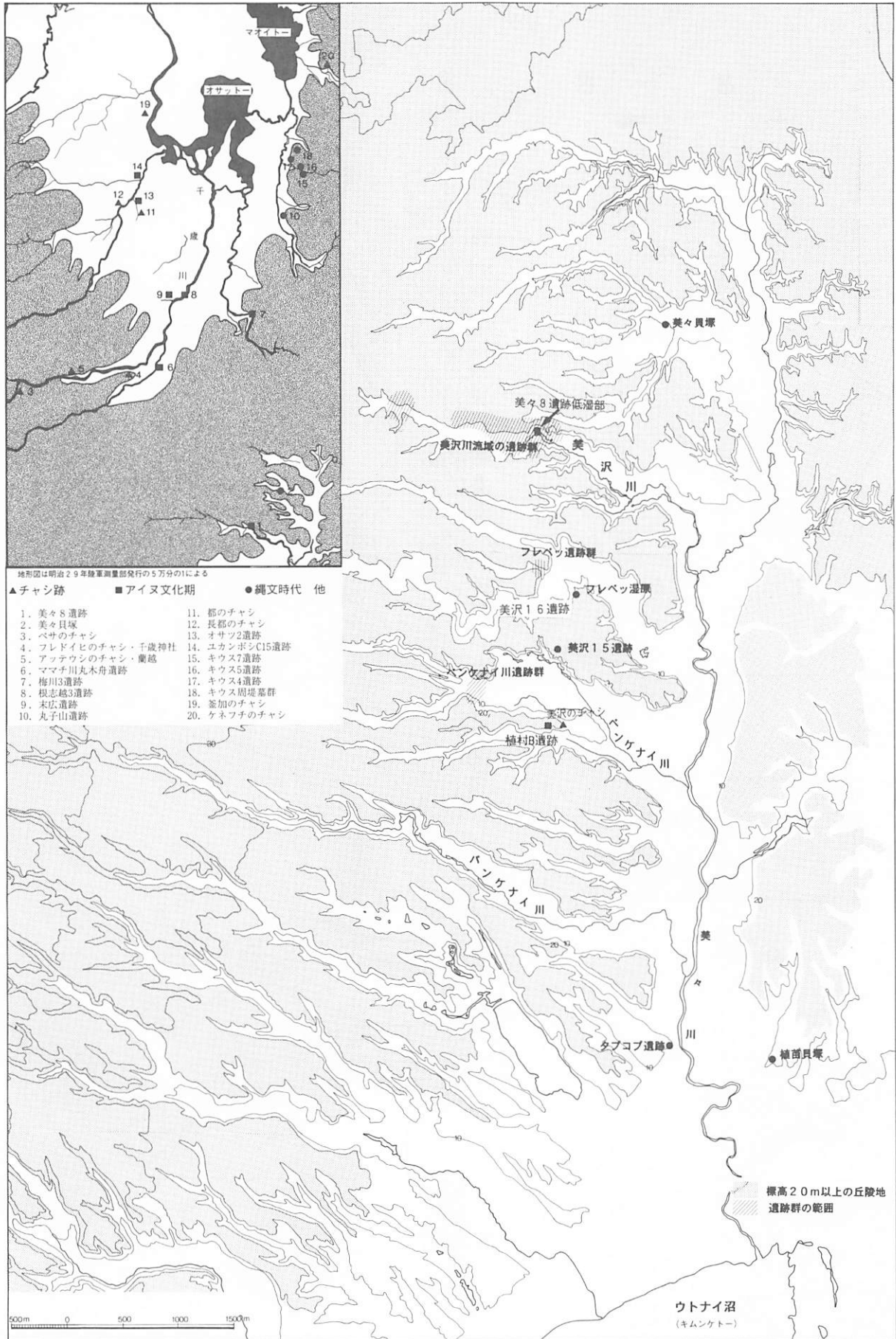
#### (3) 土層断面E-Fライン（図Ⅲ-3・5）

E-Fラインは、発掘区の南東部（美沢川の下流側）を横断する土層断面である。C-Dラインの南東側に位置し、斜面の裾にあたる。堆積状況は斜面部とほぼ同じである。

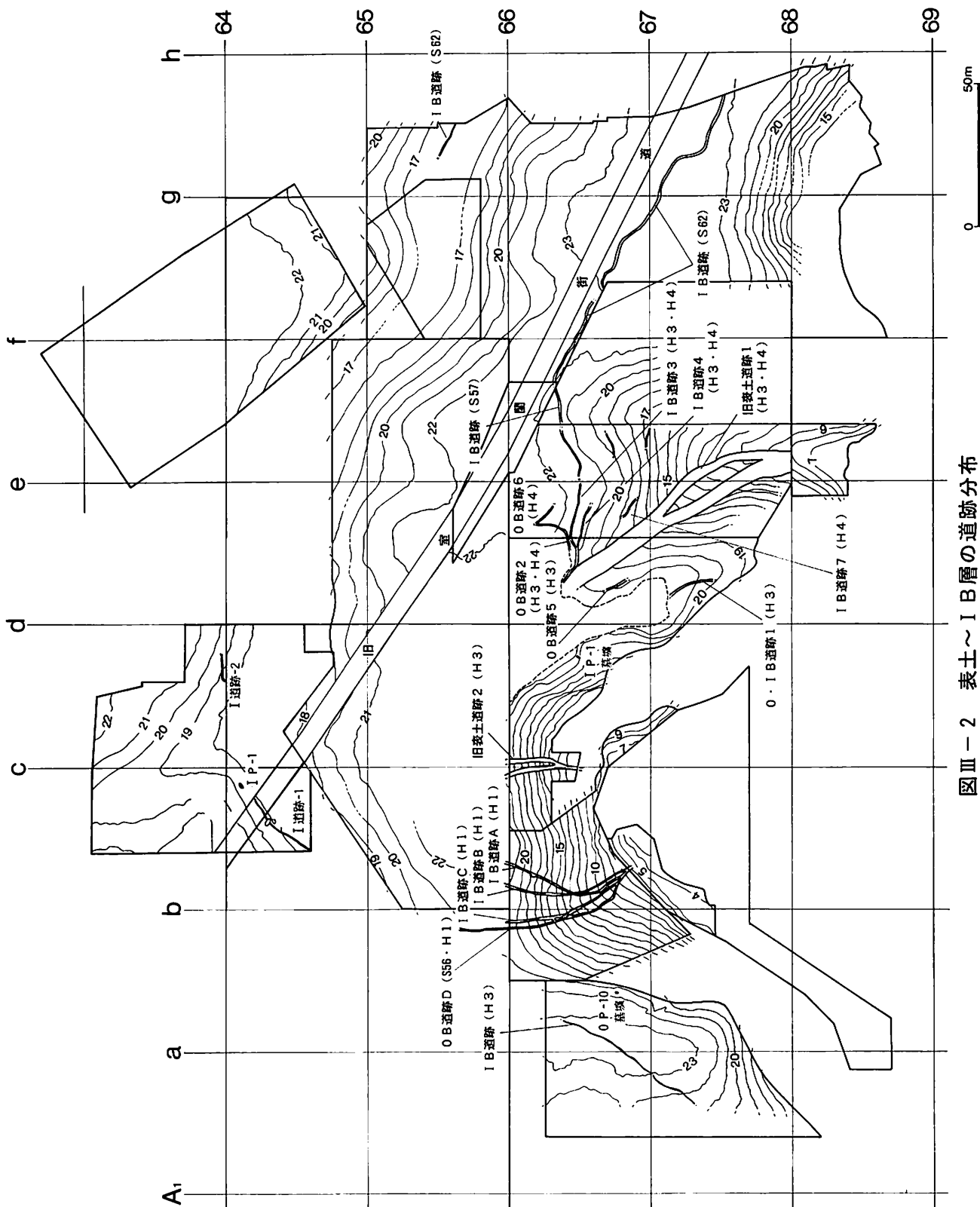
T a-b層：C-Dラインの状況と同じで、A-Bライン付近の火山灰より水摩・破砕が顕著である。

#### (4) 土層断面G-H・I-Jライン（図Ⅲ-3・5）珪藻化石・植物珪酸体試料採取地点 Loc. 4

G-H・I-Jラインは、発掘区の南東部（美沢川の下流側）を横断する土層断面である。C-Dラインの南側に並行する。泥炭質に富まないI B-2層とI B-4層が堆積していないことにより、堆積状況はC-Dラインの状況と類似するが0 B層、I B-1層が細分されることから若干状況が異なる。  
(鈴木 信)

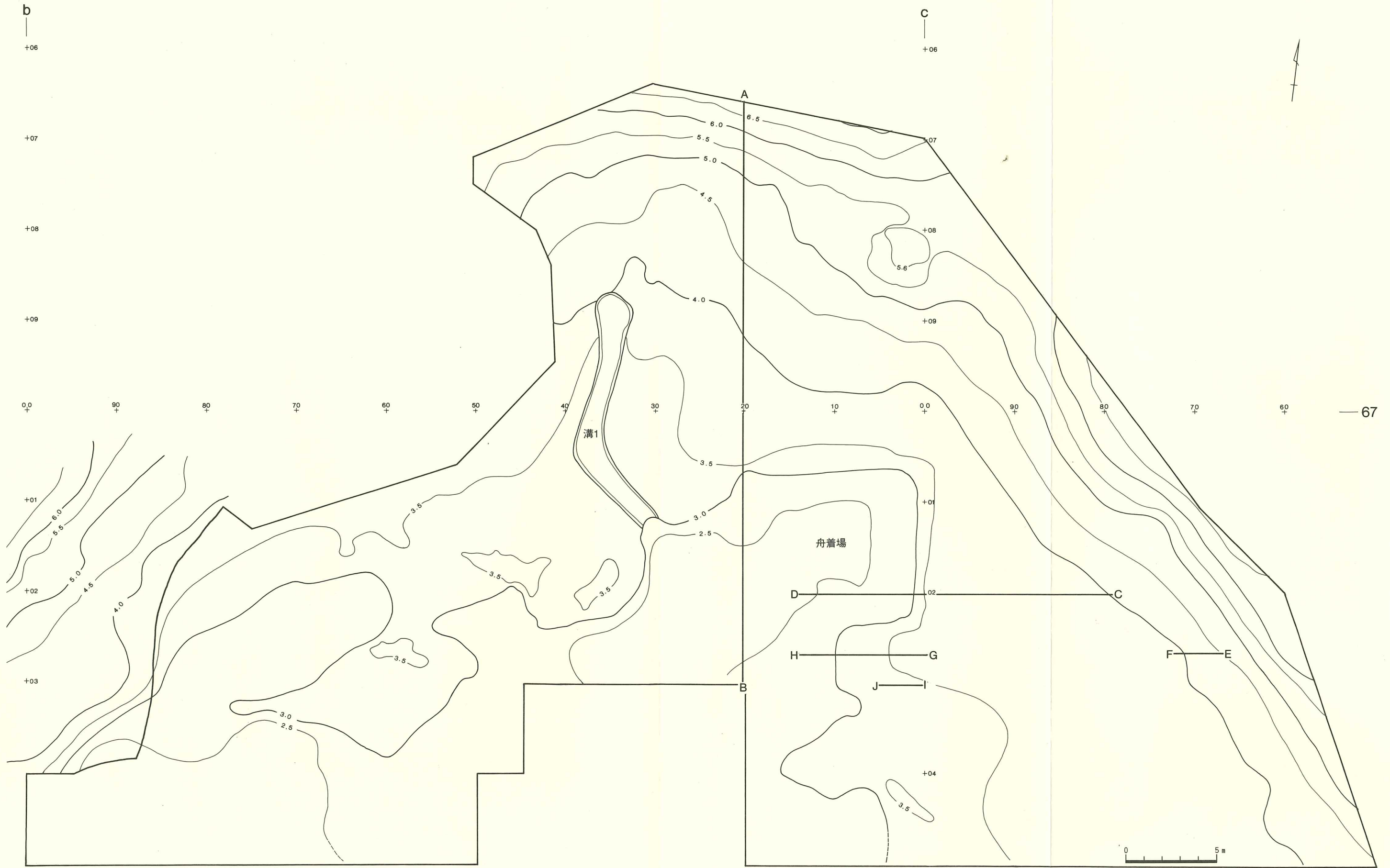


図Ⅲ-1 遺跡周辺の地形と遺跡分布



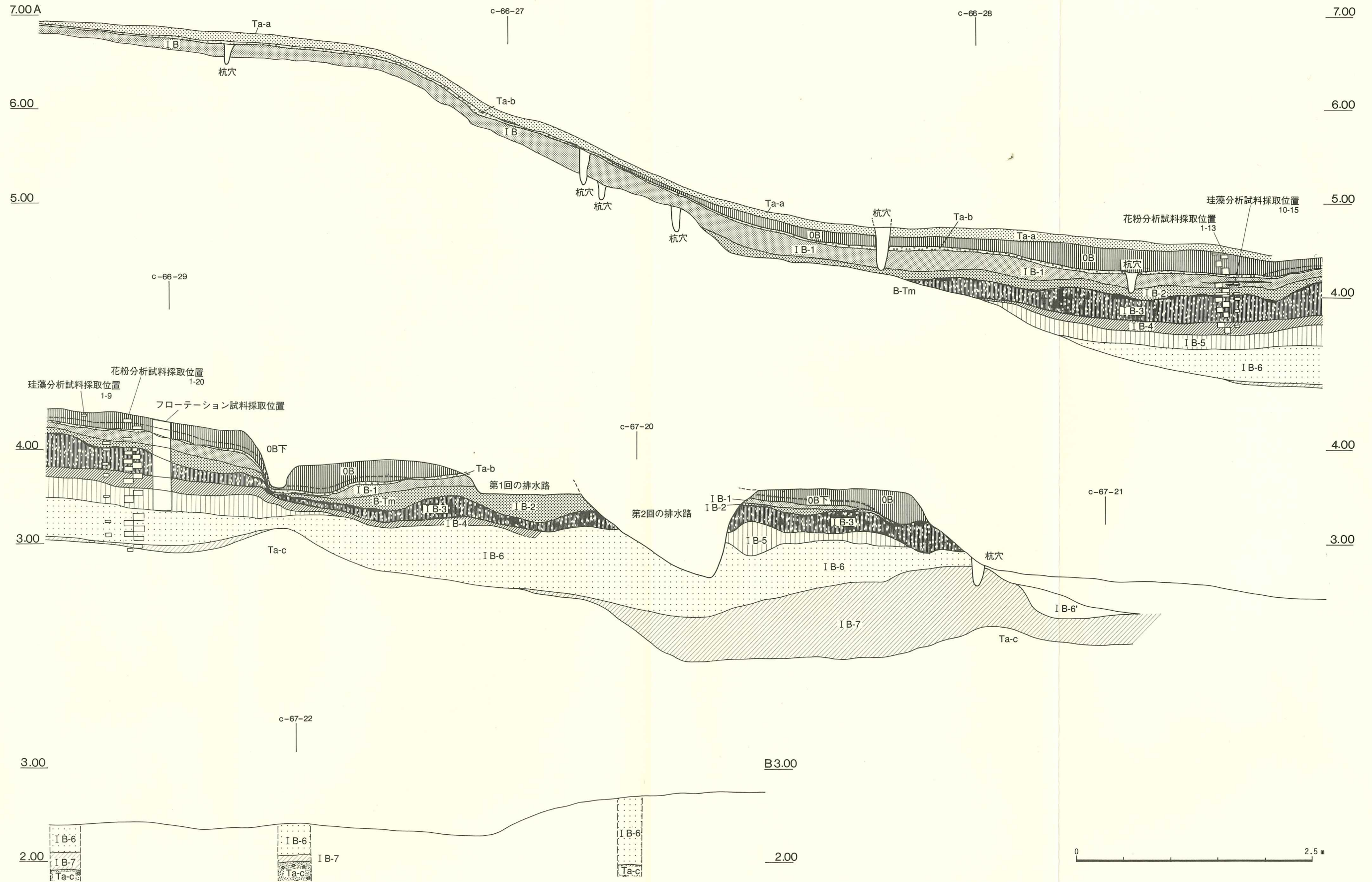
図Ⅲ-2 表土～I B層の道跡分布





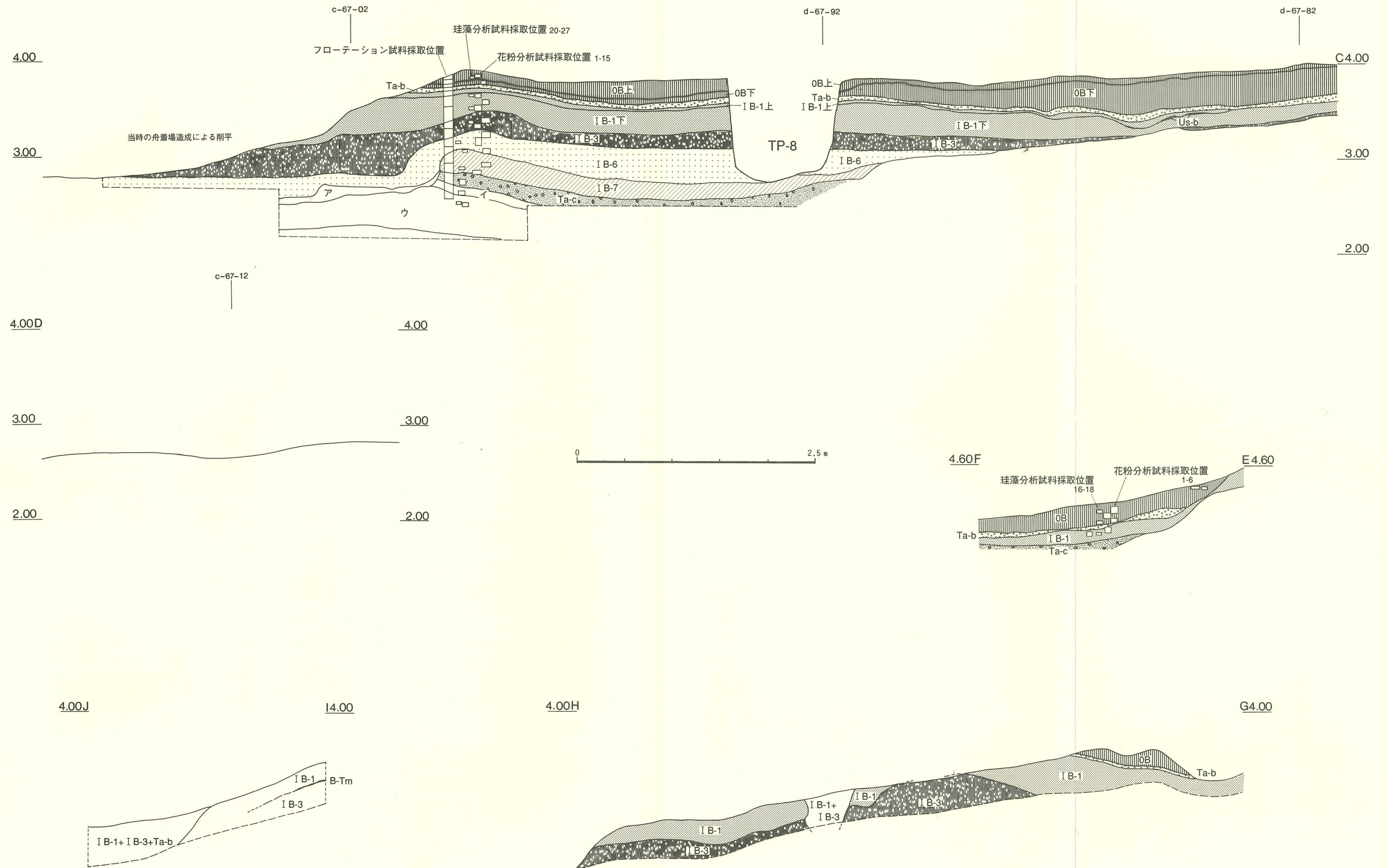
図Ⅲ-3 OB層上面の地形と土層断面の位置





図Ⅲ-4 土層断面と各種試料採取地点 (A-Bライン)





図Ⅲ-5 土層断面と各種試料採取地点 (C-D、E-F、G-H、I-Jライン)



## IV 表土層の調査

### 1 調査結果の概要

表土層はT a - aの二次堆積層（T a - a と呼称）を挟んで表土I層と表土II層とに細分され、遺構は両層にあった。遺構数・規模は0 B層に較べると極めて劣る。しかし、遺構の種類は0 B層とかわらない。また、0 B層において遺構が密集していた地点は、表土層においても遺構が密集しており、T a - a降灰という自然災害を受けた後も不活発とはいえ同様に遺跡形成がなされていた。

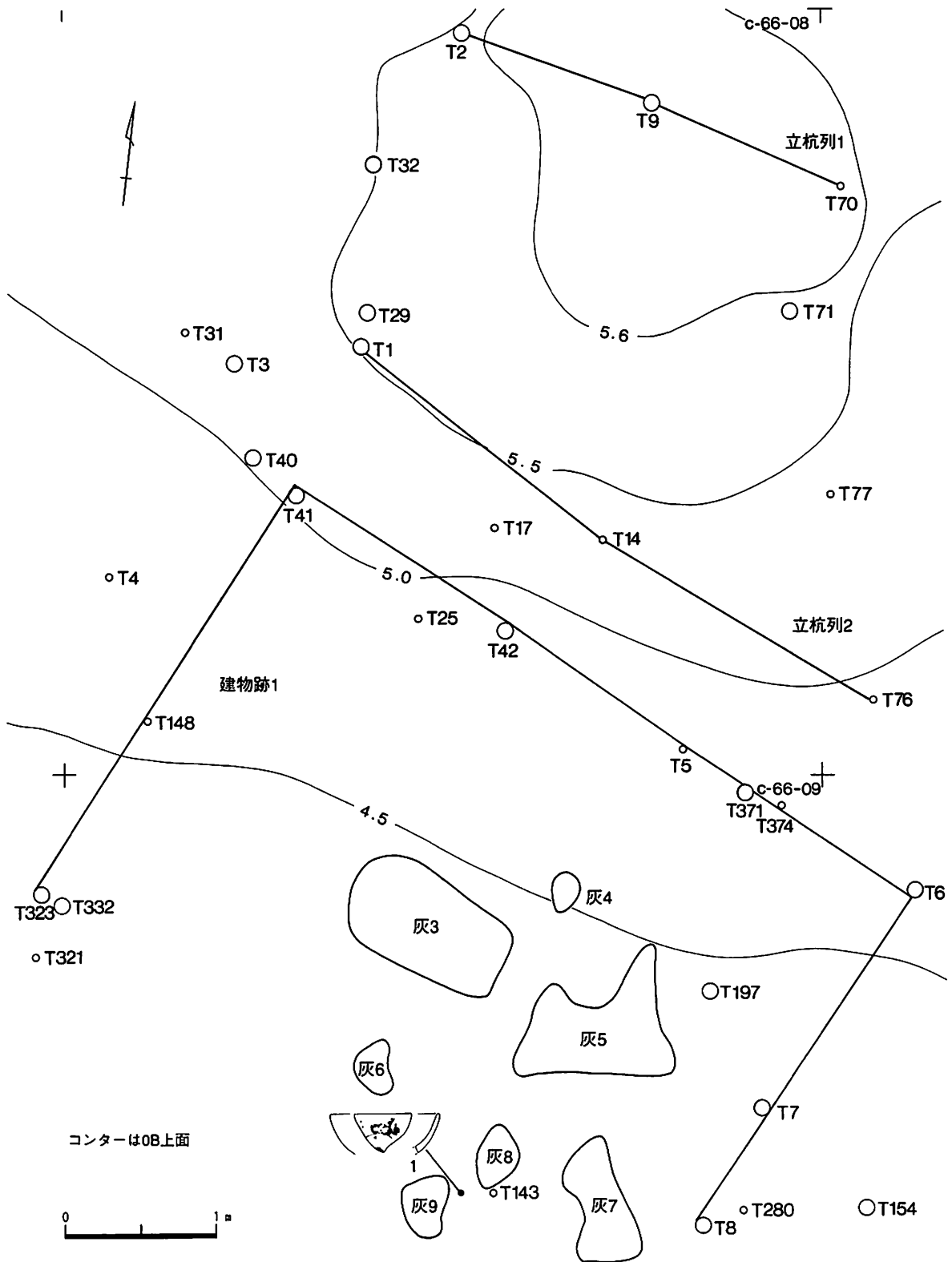
遺物も遺構と同様な傾向をもつ。染付、陶器、煙管、鉄製品などの和産物とアイヌ民族の自製品である火打石、小刀の柄などの木製品が出土した。



図IV-1 遺構分布図

2 遺構とその遺物 (図IV-1)

表土II層からは、建物跡1軒、立杭列2列、杭穴列6列、灰集中8カ所。表土I層からは、灰集中2カ所、炭化物集中1カ所を検出した。遺構はc-66-08を中心とした225㎡の範囲に集中する。遺構数は0B層と較べると非常に少なく、炭化物集中・灰集中の規模も灰集中11を除くと、平均0.28㎡と小さい。不活発な遺跡形成がなされたと推測できる。遺物数の少なさも遺構数と相応している。



図IV-2 建物跡1と周辺の立杭列

## (1) 建物跡 (図IV-2・4、表IV-1・5、図版12-1)

建物跡1                      中心位置: c-66-09-d                      規模: 約14.7㎡

標高4.5~5.0mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約4.9m、短辺は約3.0mの長方形で、長軸は北西-南東をむく。立杭8本によって構成されている。二辺の長辺のうち斜面下側には立杭列が確認できなかった。

T323 (Tは立杭の頭文字、Tと数字で立杭番号を表す。) とT8を結ぶあいだの立杭は検出できなかった。柱はいずれも丸木材で、尖端形は、切截面が多面の尖頭状(尖端形分類ア)と切截面が多面の偏尖頭状(尖端形分類イ)である。樹種はコナラ属、ハンノキ属、カバノキ属である。

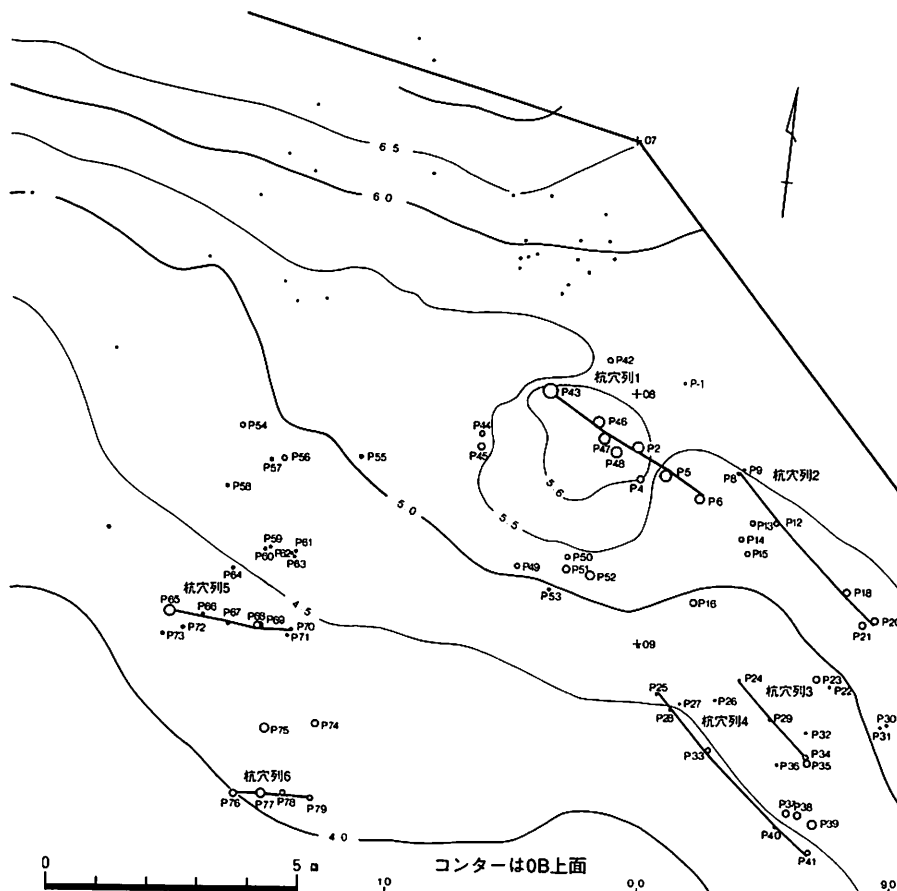
建物内には灰集中3・4があり、長辺に沿って灰集中6がある。灰集中3は建物跡の中心に位置し、同じ長軸をもつ。この状況は平成元年度調査のH-1にともなった炉のHF-2と同じである。また灰集中3からは炭化した完形のアサが1点検出されている。灰集中3は建物跡1に伴われた炉であろうか。灰集中4・6にはそういった規則性はみられない。

以上より、建物跡1は地床炉をもち、長辺の片側が開いている構造の建物であるから、住居ではなく、作業や仮収納などに使われた小屋のようなものであろう。

## (2) 立杭列 (図IV-1・2、表IV-1)

立杭列とは検出時において、横木などの付属する材が伴わなく、かつ直線的な配列として捉えられた遺構のことである。従って、立杭列にはいろいろな用途が存在したはずで、例えばサケなどの干し場、幣棚などがある。

立杭列1: 標高5.6m、等高線に並行。立杭3本、全長2.7m。3本のうち2本の尖端形は分類イで、カバノキ属が使用されている。



図IV-3 杭穴列と杭穴分布図



IV 表土層の調査

立杭列 2 : 標高5.0~5.5m、等高線に並行。建物跡1付近にある。立杭3本、全長4.1m。2本ともコナラ属が使用されている。

(3) 杭穴列 (図IV-3、表IV-2)

杭穴は0 B層上面で確認した。いずれの杭穴にも覆土にはT a - a が含まれていた。杭穴列1を除くと杭穴の径の平均は8 cmである。

杭穴列1 : 標高5.5~5.6m、等高線に並行する。立杭列1付近にある。全長3.6m。径の平均は16.8cmと大きい。

杭穴列2 : 標高5.5m、等高線に並行する。杭穴列1付近にある。全長4.0m。径の平均は8.0cm。

杭穴列3 : 標高4.5~5.0m、等高線に並行する。杭穴列4付近にある。全長2.2m。径の平均は7.5cm。

杭穴列4 : 標高4.5m、等高線に並行する。杭穴列3付近にある。全長4.5m。径の平均は7.0cm。

杭穴列5 : 標高4.5m、等高線にやや並行する。全長2.5m。径の平均は7.0cm。

杭穴列6 : 標高4.0m、等高線に並行する。杭穴4ヶ所、全長1.5m。径の平均は9.75cm。

(4) その他の立杭と杭穴 (図IV-1・3・4、表IV-5、図版12-1)

表土層で上端部を確認できたのは、36ヶ所である。いずれも杭頭は腐朽し、残存しておらず、層中のどの面から打ち込んでいるか確認できない。しかし、残存している上端が、地面より上に出ていたと考えられるので、杭が打たれた時期は、上端部を確認した面よりも下位になることはない。以上より、上端部を確認した面が立杭の所属する時期と考えてよい。

立杭の分布は、c-66-08を中心とした225㎡の範囲に集中する。標高4.0m~5.0mの斜面裾部に集中する。杭穴は標高5.5m~7.0mの斜面に分布する。c-66-07とc-66-17の範囲に分布する。両者共に配列の規則性はうかがえない。

表IV-1 建物跡1と立杭列

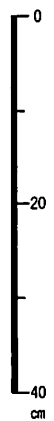
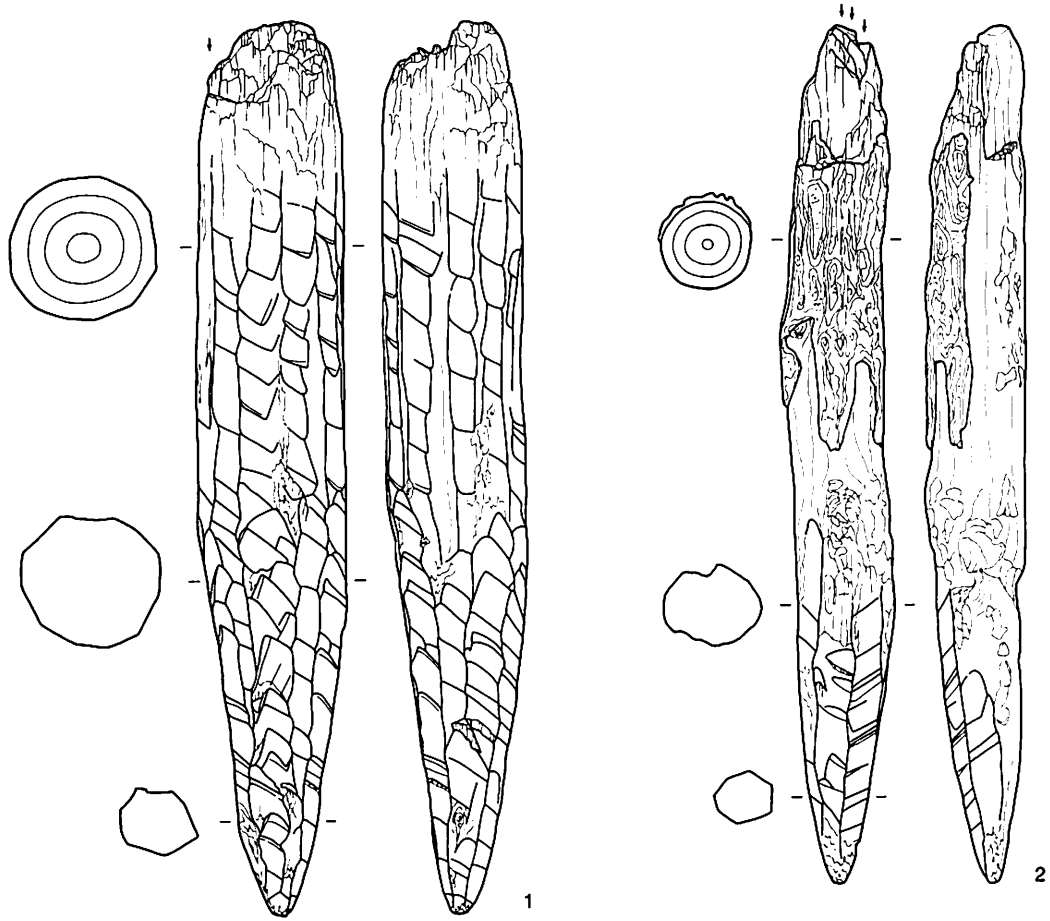
図番号	遺構名	立杭番号	長さ	幅	厚さ (cm)	重量 (kg)	元末	木取	先端形態	先端角度 (°)	加工度数	樹種	備考	
1	建物跡1	T6	( 30.0 )	11.0	10.7	( 2.50 )		丸木	イ	53	1-2	カバノキ	樹皮あり 添え木はヤナギ。 芯腐れ。 全面面取あり。	
		T7	( 54.0 )	10.0	9.0	( 3.45 )	元	丸木	ア	36	1-4	コナラ		
		T8	( 26.0 )	7.2	6.8	( 0.57 )		丸木	ア	29	1-5	ハンノキ		
		T41	93.4	15.9	15.0	11.80		丸木	イ	31	1-6			
		T42	( 82.0 )	15.0	14.1	( 10.20 )	元	丸木	-	26	1-4	コナラ		
		T148	( 38.0 )	6.7	6.6	( 10.50 )		丸木	イ	24	1-3	カバノキ		
		T323	89.5	11.0	10.7	5.80	末	丸木	ア	28	1-7	丸木		
2	建物跡1	T374	( 37.0 )	7.6	7.2	( 11.80 )		丸木	ア	26	1-4	ハンノキ	樹皮あり	
		立杭列1	T2	( 42.0 )	10.5	10.4	( 20.50 )		丸木	イ	37	1-7	カバノキ	
		T9	( 28.0 )	110.0	109.0	( 0.84 )		丸木	イ	35	1-6	カバノキ		
立杭列2	T70	( 19.0 )	4.7	3.0	( 0.20 )		丸木	-	-	-	-	クマシデ		
	T14	( 83.0 )	10.0	9.7	( 4.20 )		丸木	イ	25	1-6	コナラ			
立杭列2	建物跡1	T76	( 29.0 )	8.5	8.4	( 0.93 )		丸木	-	-	-	-	コナラ	

表IV-2 杭穴列一覧

遺構名	柱穴番号	発掘区	径 (cm)	備考	遺構名	柱穴番号	発掘区	径 (cm)	備考
杭穴列1	P 2	d-66-98-d・c-66-08-a	16	覆土はTa-a+Ta-b	杭穴列4	P 28	d-66-99-d	7	覆土はTa-a
	P 5	d-66-98-d	16	覆土はTa-a+Ta-b		P 33	d-66-99-d	8	覆土はTa-a
	P 6	d-66-98-d	10	覆土はTa-a+Ta-b		P 40	d-66-99-b	6	覆土はTa-a
	P 43	c-66-07-b・c-66-08-a	26	覆土はTa-a+Ta-b		P 41	d-66-99-b	8	覆土はTa-a
	P 46	c-66-08-a	16	覆土はTa-a+Ta-b		杭穴列5	P 65	c-66-18-c	22
杭穴列2	P 8	d-66-98-d	6	覆土はTa-a+Ta-b	P 66		c-66-18-c	7	覆土はTa-a
	P 12	d-66-98-b	8	覆土はTa-a	P 67		c-66-18-c	6	覆土はTa-a
	P 18	d-66-98-b	10	覆土はTa-a	P 68		c-66-18-b	8	覆土はTa-a
	P 20	d-66-98-b	10	覆土はTa-a+Ta-b+黒色土	P 70		c-66-18-b	6	覆土はTa-a
杭穴列3	P 24	d-66-99-d	7	覆土はTa-a	杭穴列6		P 76	c-66-19-c	11
	P 29	d-66-99-a	7	覆土はTa-a		P 77	c-66-19-b	12	覆土はTa-a
	P	d-66-99-a	8	覆土はTa-a		P 78	c-66-19-b	8	覆土はTa-a
P 25	d-66-99-d	6	覆土はTa-a	P 79		c-66-19-b	8	覆土はTa-a	

表IV-3 灰集中・炭化物集中一覧

遺構名	発掘区	層位	長軸・短軸 (m)	平面積 (㎡)	遺構名	発掘区	層位	長軸・短軸 (m)	平面積 (㎡)
灰集中1	c-66-09-a・c-66-09-d	表土I	0.96・0.52	0.40	灰集中7	c-66-09-a・c-66-09-b	表土II	0.82・0.28	0.26
灰集中2	c-66-09-d	表土I	0.70・0.42	0.25	灰集中8	c-66-09-a・c-66-09-b	表土II	0.43・0.28	0.09
灰集中3	c-66-09-a・c-66-09-d	表土II	1.12・0.62	0.65	灰集中9	c-66-09-c	表土II	0.42・0.32	0.10
灰集中4	c-66-09-a	表土II	0.24・0.19	0.33	灰集中11	c-66-09-a・c-66-09-b	表土II	2.90・1.40	8.04
灰集中5	c-66-09-a	表土II	1.06・0.45	0.55	炭化物集中I	c-66-09-d	表土I	0.50・0.30	0.12
灰集中6	c-66-09-d	表土II	0.35・0.22	0.06					



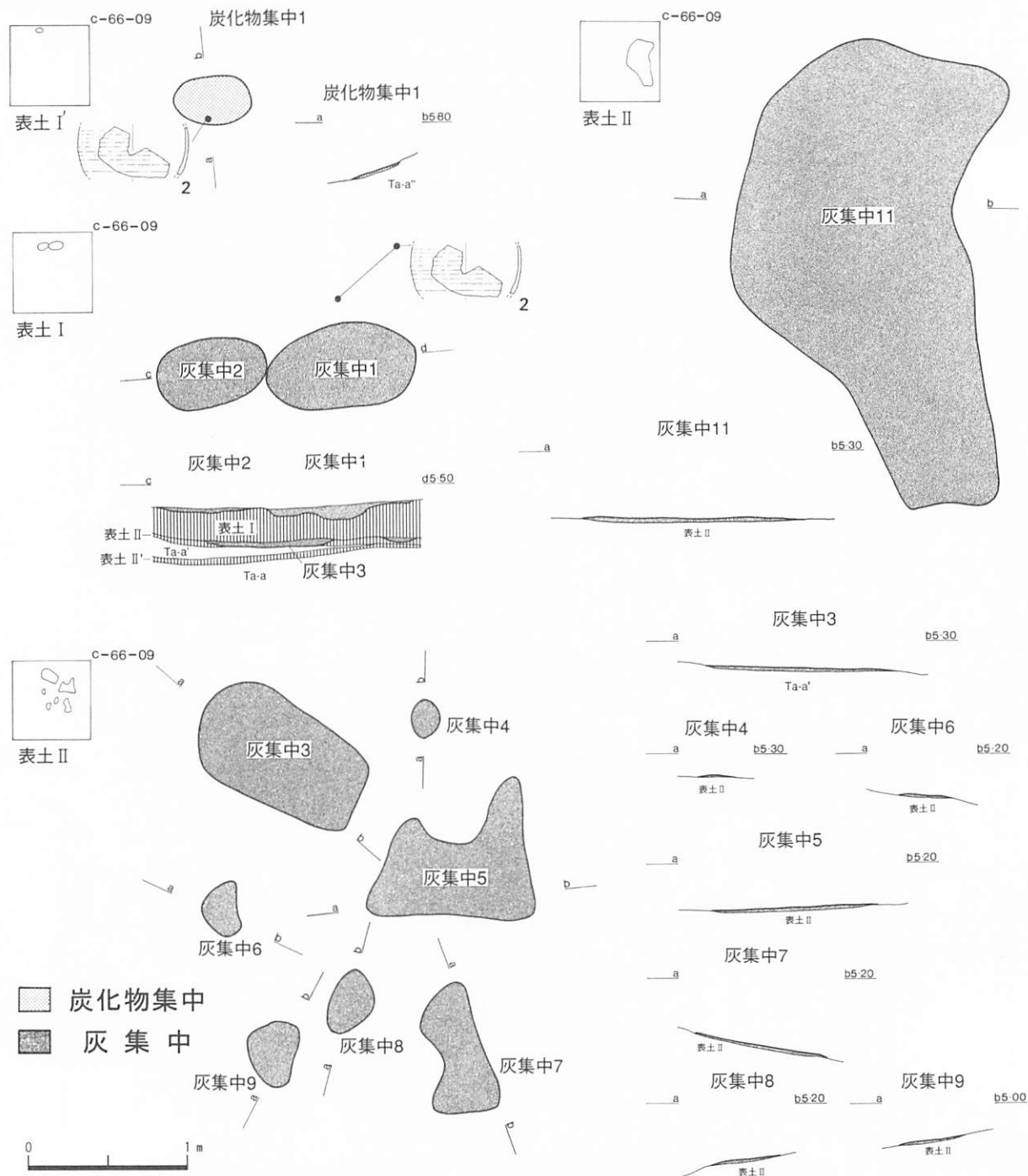
図IV-4 建物跡1(柱)と配列外立杭

(5) 灰集中 (図IV-5~7、表IV-3・4・6・7、図版1-1・12-2~5、カラー図版12-4)

灰集中1・2は表土層I、灰集中3・4・6は表土層IIの上部、灰集中5・7・8・9・11は表土層IIの下部にあり頻繁な遺構の形成がみられる。しかし、それらは0 B層の遺構に較べて質・量ともおとる。Ta-a降下後、層が安定し切っていない時期に、この場所を生活領域にしようとしたことを示している。

灰集中1：標高5.4m、長軸がほぼ東-西の楕円形。灰集中2の脇にある。掘り込みはなかった。この遺構からは角釘 (図IV-7-1) が出土しており、付近からは炭化物集中1付近のものと同一体の産地不明の徳利胴片や角釘が出土している。炭化種子、魚骨、獣骨は出土していない。

灰集中2：標高5.4m、長軸がほぼ東-西の楕円形。灰集中1の脇にある。掘り込みはなかった。こ



図IV-5 灰集中1~9・11、炭化物集中1



の遺構からは、炭化種子、魚骨、獣骨は出土していない。

灰集中3：標高5.1m、長軸がほぼ北西-南東の隅丸方形。建物跡1に伴う炉。掘り込みはなかった。この遺構からは鉄製品（図IV-7-2）や炭化完形のアサ1点、カヤツリグサ科5点が出土している。

灰集中4：標高5.1m、長軸がほぼ南-北の楕円形。掘り込みはなかった。

灰集中5：標高4.9m、不整形。付近に灰集中7・8・9がある。掘り込みはなかった。

灰集中6：標高5.1m、不整形。掘り込みはなかった。

灰集中7：標高4.7~4.9m、不整形。掘り込みはなかった。付近からは小刀の柄が出土した。

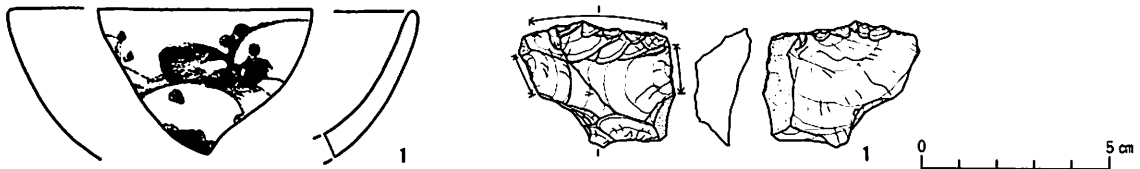
灰集中8：標高4.7~4.9m、長軸が南-北のほぼ楕円形。掘り込みはなかった。

灰集中9：標高4.7~4.8m、長軸がほぼ南-北のほぼ楕円形。掘り込みはなかった。脇から伊万里染付碗の破片（図IV-6-1）が出土している。碗はやや発色の悪い灰青色の呉須で「雪の輪と梅樹文」を描く。年代は18世紀初め~18世紀第3四半期である。遺構は碗の年代より、T a - a 降下から40年ほどのあいだに作られたと考えられる。

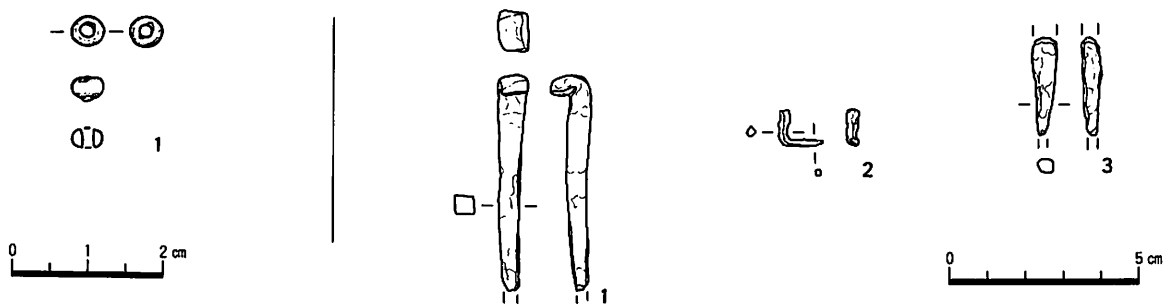
灰集中11：標高4.9m、長軸が北西-南東の不整形。灰集中5の直上に検出される。掘り込みはなかった。この遺構からは、ガラス玉（図IV-7-1）や火打石（図IV-6-1）やアサ、オニグルミ、コナラ亜属、ハマナス、キハダ、ヤマブドウなど種子（表Ⅷ-2-3以降参照）やエゾシカ上顎骨、脛骨が出土している。

#### （6）炭化物集中（図IV-5・7、表IV-7、図版12-5）

炭化物集中1：標高5.4~5.6m、長軸がほぼ東-西の楕円形。表土I層で検出した。灰集中1・2の側にある。掘り込みはなかった。この遺構付近からは灰集中1付近のものと同一個体の産地不明徳利胴部片や角釘（図IV-7-3）が出土している。炭化したアサ破片2点が出土している。



図IV-6 遺構の陶磁器・石器



図IV-7 遺構のガラス製品・金属製品

表IV-4 遺構の陶磁器・石器

図番号	遺物名称	主な発掘区	遺構名	点数	備考
1	染付碗	c-66-09-b	灰集中9	1	伊万里 復元口径11.0cm
1	火打ち石	c-66-09-a+b	灰集中11	1	珪質頁岩 長さ4.00cm、幅3.04cm、厚さ1.34cm、20.0 g

3 表土層の遺物

(1) 陶磁器 (図IV-8、表IV-8、図版12-6)

胎土は砂っぽく、明黄橙～明赤橙色を呈し、釉は回転ナデ調整を覆う程に厚く施される。暗灰褐色の堇灰釉で、一部がやや黄色みがかって白濁している。被熱している。産地不明としたが、これは管見によると西日本が生産地とは思われないが、どこのものとはいえないという意味である。これは灰集中1付近より出土した。炭化物集中1付近の破片と同一個体で、計3点である。

(2) 石器・石製品 (図IV-8、表IV-8、図版12-7・8)

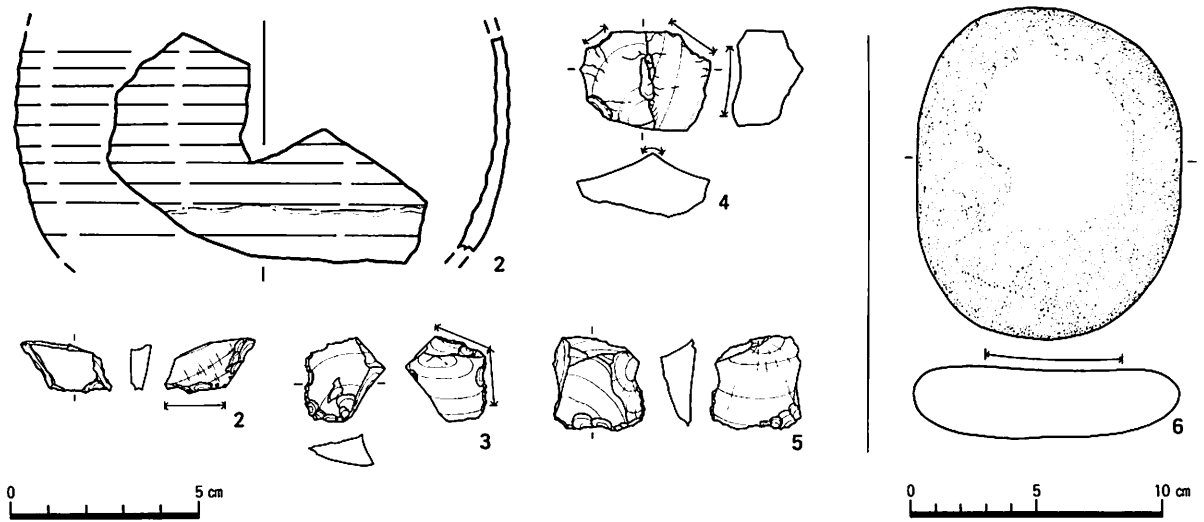
2～5は火打石。4以外は剥片状の薄いものを素材とする。6は片面の中央を使用する。表土層からはすり石1点、火打石5点、火打石フレイク12点、礫29点が出土している。 (鈴木 信)

(3) 金属製品 (図IV-9、表IV-9、図版13-1)

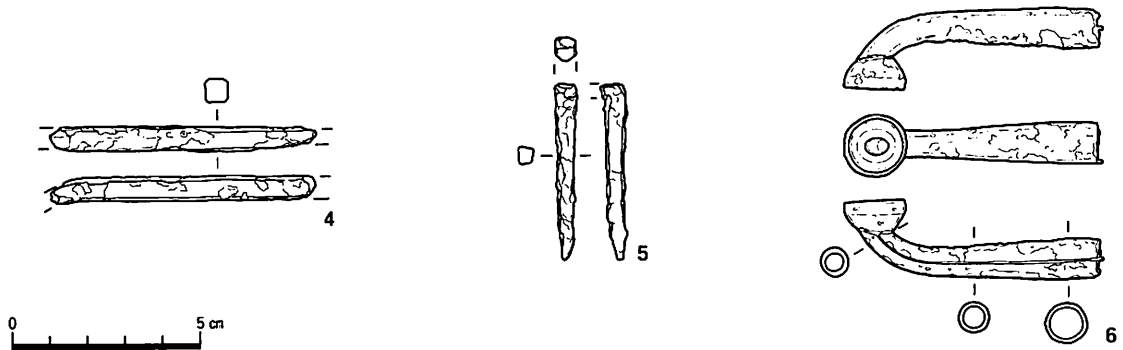
4は胴部断面が正方形のカスガイ片である。両先端部を欠損している。5は小型の角釘片(和釘)である。頭部を欠損した折釘と考えられる。6はキセル雁首である。脂返しが大きく湾曲する河骨形で、補強帯が見られないことから、古泉分類の第Ⅱ類Bである。

(4) 木製品 (図IV-10、表IV-10、図版13-2)

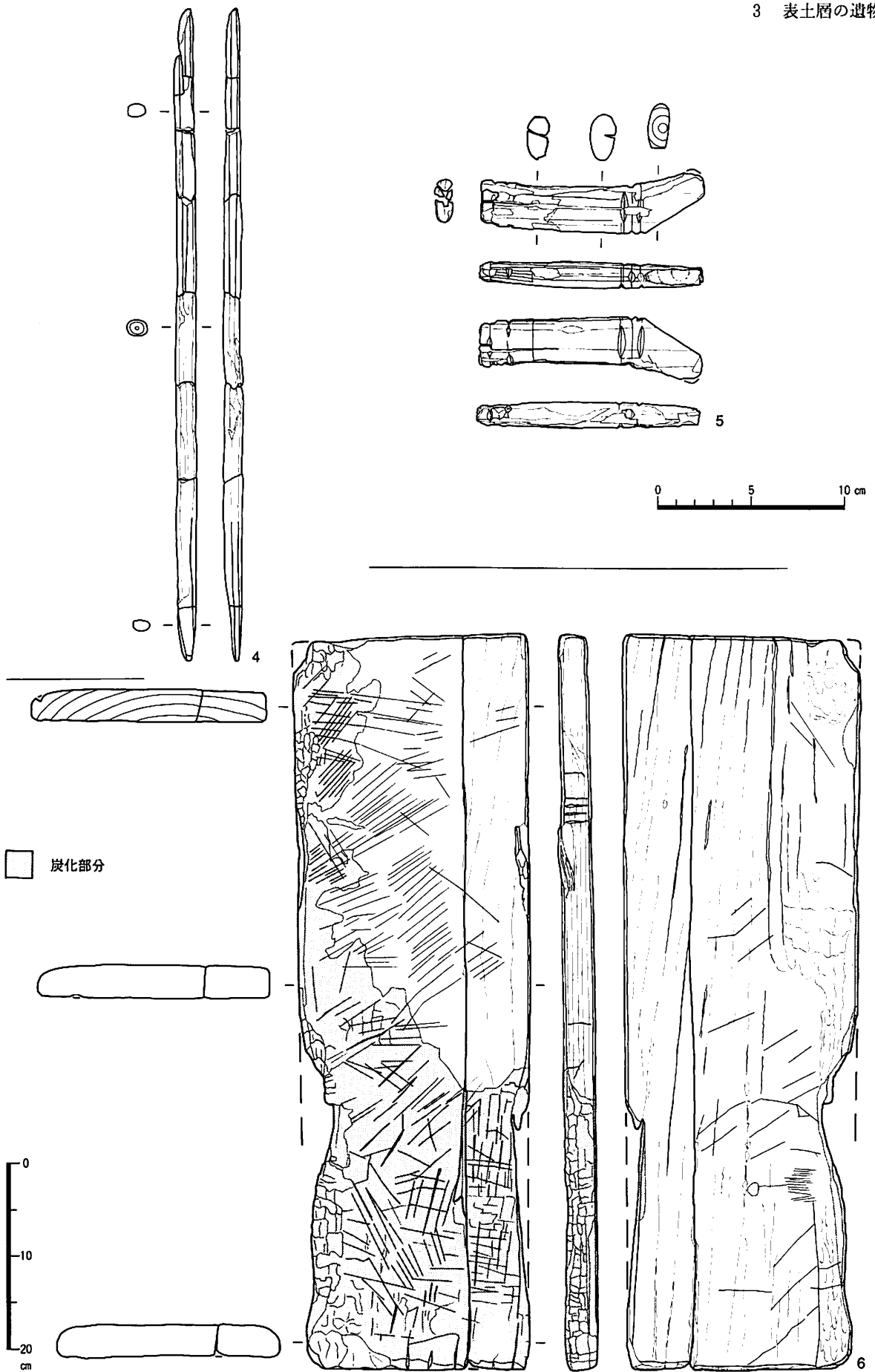
4は上端部の炭化した丸串である。面取り加工により、両端はやや楕円形である。5は罫引線により、短刻が割り付けられた小刀柄である。茎挿入部が割れている。6は表面から側縁にかけて炭化した厚板材である。表面の刃物痕が顕著であり、俎板として使用されたものであろう。



図IV-8 陶磁器・石器・石製品



図IV-9 金属製品



図IV-10 木製品



表IV-5 掲載建物跡(柱)、配列外立杭

図 図版 番号 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭 番号	木取り 反復	樹 皮	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備考
1 12	立杭切断品	c-66-08-c	801	建物跡1	T41	丸木	カバノキ		93.40 15.90 15.00	11800.0	1	1	Ta-a付着。全面面取りあり。山刀または手斧による加工顯著。
2 12	立杭切断品	c-66-19-a	6879	建物跡1	T323	丸木	コナラ		89.45 11.00 10.70	5800.0	1	1	Ta-a付着。黒色着。
3 12	立杭片	c-66-08-d	786		T29	丸木	カエデ		( 73.00) 12.20 13.40	( 7200.0)	1	1	Ta-a付着。

表IV-6 灰集中11 掲載ガラス製品

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個数	破数	備考
1 12	ガラス玉	c-66-09-a	7188	灰集中11	0.42 0.43 0.31	0.1	1	1	深緑色。ビーズ玉。材質分析中。

表IV-7 掲載遺構の金属製品

図 図版 番号 番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	破数	備考	保存 処理
1 12	角釘片		c-66-09-a	c-66-09-d	89	灰集中1	(5.74) 0.81 1.10 ( 7.4)	鉄	1	1		NAD10
2 12	針片		c-66-09-a	c-66-09-d	111	灰集中3	(0.97) 1.20 0.35 ( 0.1)	鉄	1	1		NAD10
3 12	角釘片		c-66-09-d		113	炭化物集中1	(2.61) 0.70 0.55 ( 1.3)	鉄	1	1		NAD10

表IV-8 掲載陶磁器、石器・石製品

図 番号	遺物名称	主な発掘区	点 数	備 考
2	陶器徳利	c-66-09-d	2	産地不明 復元最大径26.0、
2	火打ち石	c-66-09-c	1	珪質頁岩 長さ2.61、幅1.18、厚さ0.61、2.21...
3	火打ち石	c-66-09-c	1	珪質頁岩 長さ2.29、幅1.80、厚さ0.80、3.50...
4	火打ち石	c-66-09-c	1	珪質頁岩 長さ3.29、幅2.52、厚さ1.53、14.2...
5	火打ち石	c-66-09-b	1	珪質頁岩 長さ2.23、幅2.04、厚さ0.57、6.3...
6	すり石	c-66-09-a	1	砂岩 長さ13.00、幅10.50、厚さ3.00、688.0...

表IV-9 掲載金属製品

図 図版 番号 番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	破数	備考	保存 処理
4 13	カスガイ片		c-66-09-d	6		( 7.07) 0.65 0.71 ( 8.5)	鉄	1	1			NAD10
5 13	角釘片		c-66-09-a	7		4.67 ( 0.61) 0.75 ( 3.6)	鉄	1	1			NAD10
6 13	キセル 座首		c-66-09-a	1		6.90 2.18 1.68 12.7	銅	1	1			イナリナリ

表IV-10 掲載木製品

図 図版 番号 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 反復	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備考
4 13	丸串	c-66-09-d	10000②	丸木	○ヤナギ	34.90 1.10 1.00	22.0	1	1	99点接合。上部部炭化。
5 13	小刀柄	c-66-09-b	41	丸木	サクラ	12.05 3.20 1.35	24.0	1	1	2点接合。短刻付。
6 13	厚板材	c-66-09-d	10000①	板目	○カツラ	79.70 25.50 3.50	6000.0	1	1	2点接合。側面に短刻付。表面炭化。刃物痕多数あり。

## V 第0 黒色土層の調査

### 1 調査結果の概要

この層の遺構数、遺物数は低湿部のなかで最多である。他の層に較べて活発な遺跡形成がなされている。舟着場1カ所、建物跡3軒、立杭列28列、杭穴列3列、双礫2カ所、集石11カ所、灰集中10カ所、炭化物集中18カ所、砂集中2カ所、貝殻皮集中4カ所、クリ集中1カ所、クルミ集中5カ所、ホオノキ集中1カ所、建材集中2カ所が検出された。このような状況はT a - a降灰（1739年、元文4年）直前まで続くようであり、0 B層上面には大量の遺物が遺存していた。

舟着場はスロープを削り出しており、積極的な土木工事はチャシの造営にも比肩する。灰集中10からは多くの道具に混じって栽培種子が検出されており、炭化したイネの有籽果（粃のついたコメ）が出土しており、今までにない状況を呈している。

（鈴木）

### 2 遺構とその遺物（図V-1）

0 B層からは、舟着場1カ所、建物跡3軒、立杭列28列、杭穴列3列、双礫2カ所、集石11カ所、灰集中10カ所、炭化物集中18カ所、砂集中2カ所、貝殻皮集中4カ所、クリ集中1カ所、クルミ集中5カ所、ホオノキ集中1カ所、建材集中2カ所が検出された。灰集中の規模の平均は灰集中10を除くと、1.55㎡である。炭化物集中の規模の平均は0.44㎡である。遺構は標高4.0~5.0mの斜面裾部であるc-66-08・09・18・19の100㎡の範囲に集中する。遺構数は低湿部のなかでは最多である。他の層に較べて活発な遺跡形成がなされている。遺物数の多さも遺構数と相応している。

#### （1）舟着場（図V-2、図版1-2）

c-67-11付近のT a - a除去中に10m四方のくぼみが確認された。遺構は美沢川上流方向に開口する「コ」字状の掘り込みである。南側には張出しがあり、幅約1m、深さ0.3m、断面「U」字の溝が走る。舟着場スロープの上場の標高は3.5~4.0m、最深部の標高は2.4mである。舟着場スロープの掘削は0 B層~I B-3層に及ぶ。遺物の出土位置より、水深0.7mはあったと思われる。

T a - a降灰以降（1739年）に再掘削された様子がないことにより1739年以前まで使用されていたと推測される。土層断面図によると擦文文化期以前の層であるI B-6層には掘削のあとがみられないこと、低湿部において中期以降の擦文土器が多くなることから、使用開始は擦文中期まで遡れるか。

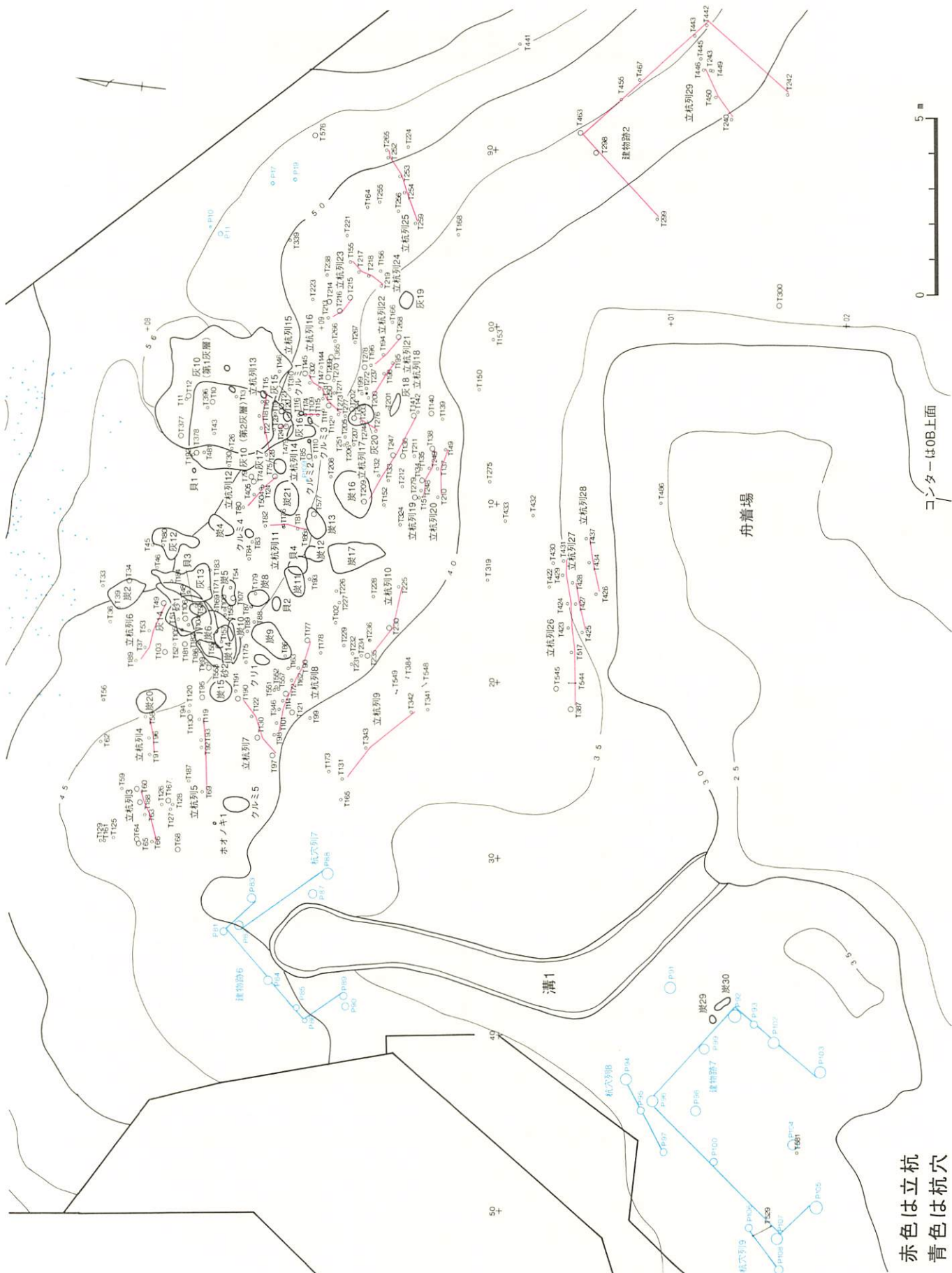
#### （2）建物跡（図V-3・5・10、表V-1・2・10、図版2-1・14）

建物跡2                      中心位置：d-67-80-d                      規模：約15.2㎡

標高4.0~4.5mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約4.6m、短辺は約3.3mの長方形で、長軸は北西-南東をむく。立杭8本によって構成されている。二辺の長辺のうち斜面下側には立杭列が確認できなかった。付近には集石11、後述する建材集中2は、この建物跡の付属遺構であった可能性が非常に高い。建物内に遺構は検出できなかった。

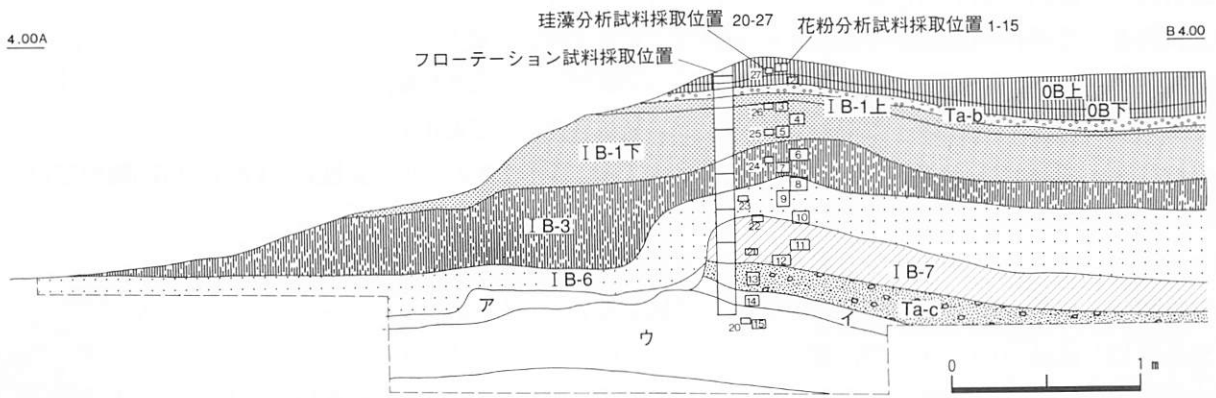
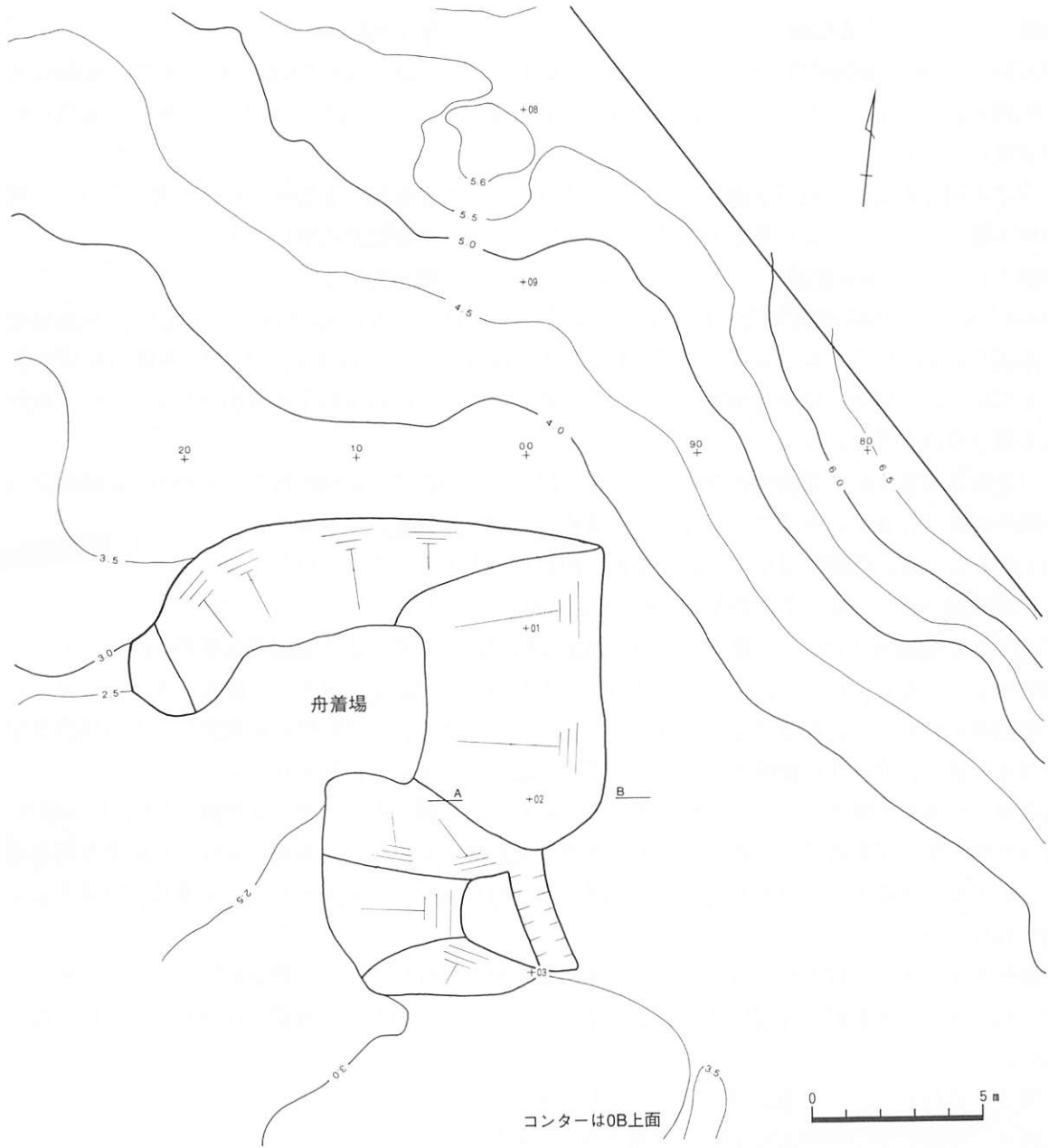
柱は丸木材と割材で、先端形は、先端形分類アと切截面が2面の尖頭状（先端形分類ウ）、切截面が2面の偏尖頭状（先端形分類エ）、切截面が1面で切り出し状（先端形分類オ）で長辺上の立杭に先端形バリエーションがある。樹種はコナラ属、ハンノキ属、トネリコ属である。

舟着場に面していること、長辺の片側が開いている構造の建物であるから、住居ではなく、舟に関わる作業や舟待ちの休息所などに使われた小屋のようなものであろう。



図V-1 遺構分布図





図V-2 舟着場

建物跡 6            中心位置 : c-66-38-c            規 模 : 約5.6㎡

標高4.0~4.5mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約3.5m、短辺は約1.6mの長方形で、長軸は北東-南西をむく。杭穴6本によって構成されている。深さは0.5m前後であった。建物内に遺構は検出できなかった。

用途は不明であるが、短辺が極端に短いことより他の建物跡とはことなつた用途が考えられる。溝1の端を覆っていることより溝1の覆屋のような使われかたをされた可能性がある。

建物跡 7            中心位置 : c-67-41-a            規 模 : 約15.2㎡

標高4.0~4.5mの傾斜変換部分に位置する。長辺は約5.3m、短辺は約3.6mの長方形で、長軸は北東-南西をむく。杭穴9本によって構成されている。深さは0.5m前後であった。南西隅の柱穴が確認できなかった。付近には炭化物集中29・30がある。ここからは栽培種子は検出されていない。建物内に遺構は検出できなかった。

この建物は平成3年度調査の建材群の南東側に位置する建物で、建材群はこの建物の上部構造だった可能性がある。またおそらく、平成元年度調査の道跡Dの終着点でもある。

以上のことより、住居ではなく仮収納などに使われた小屋のようなものか。

### (3) 立杭列 (図V-3~7、表V-1・3~8、図版2-2・14~16)

立杭列とは検出時において、横木などの付属する材が伴わなく、かつ直線的な配列として捉えられた遺構のことである。従って、立杭列にはいろいろな用途が存在したはずで、例えばサケなどの干し場、幣棚などがあろう。加工は元側がほとんどであることから、枝の股部分を利用した上部構造が想像される。また、立杭列の間隔・太さなどで用途の違いがあるように思われる。

樹種はコナラ属3割強、ハンノキ属3割弱で、あわせて6割を占め、クマシデ属も多い。いっぽう、建材はコナラ属が半数近くを占め、次にカエデ属が比較的多く、ハンノキ属は少ない。丈夫な構造を求めるものには径の大きなコナラ属やカエデ属がつかわれ、ハンノキ属・クマシデ属は、建材としては使われなかったようだ。

立杭列3~5・7・11・14~17・24・25は等高線にやや直行し、3つの群を形成している。そのほか立杭列26~28は舟着場の北辺に並行して設けられていることから、舟着場に付随する遺構の可能性が高い。

立杭列3 : 標高4.3m、等高線にやや直行。立杭4本、全長1.6m。

立杭列4 : 標高4.5m、等高線に直行。立杭3本、全長1.1m。

立杭列5 : 標高4.3m、等高線にやや直行。立杭4本、全長2.0m。

立杭列6 : 標高4.7m前後、等高線にやや並行。立杭4本、全長1.8m。

立杭列7 : 標高4.3m前後、等高線にやや直行。立杭4本、全長1.9m。

立杭列8 : 標高4.2m前後、等高線にやや並行。立杭8本、全長2.8m。

立杭列9 : 標高3.8m前後、等高線に並行。立杭3本、全長2.8m。他の立杭列に較べ立杭間隔が広い。

立杭列10 : 標高4.0m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.6m。

立杭列11 : 標高4.6m前後、等高線に直行。立杭4本、全長1.1m。2本に添木がある。

立杭列12 : 標高4.8m前後、等高線に並行。立杭5本、全長1.6m。

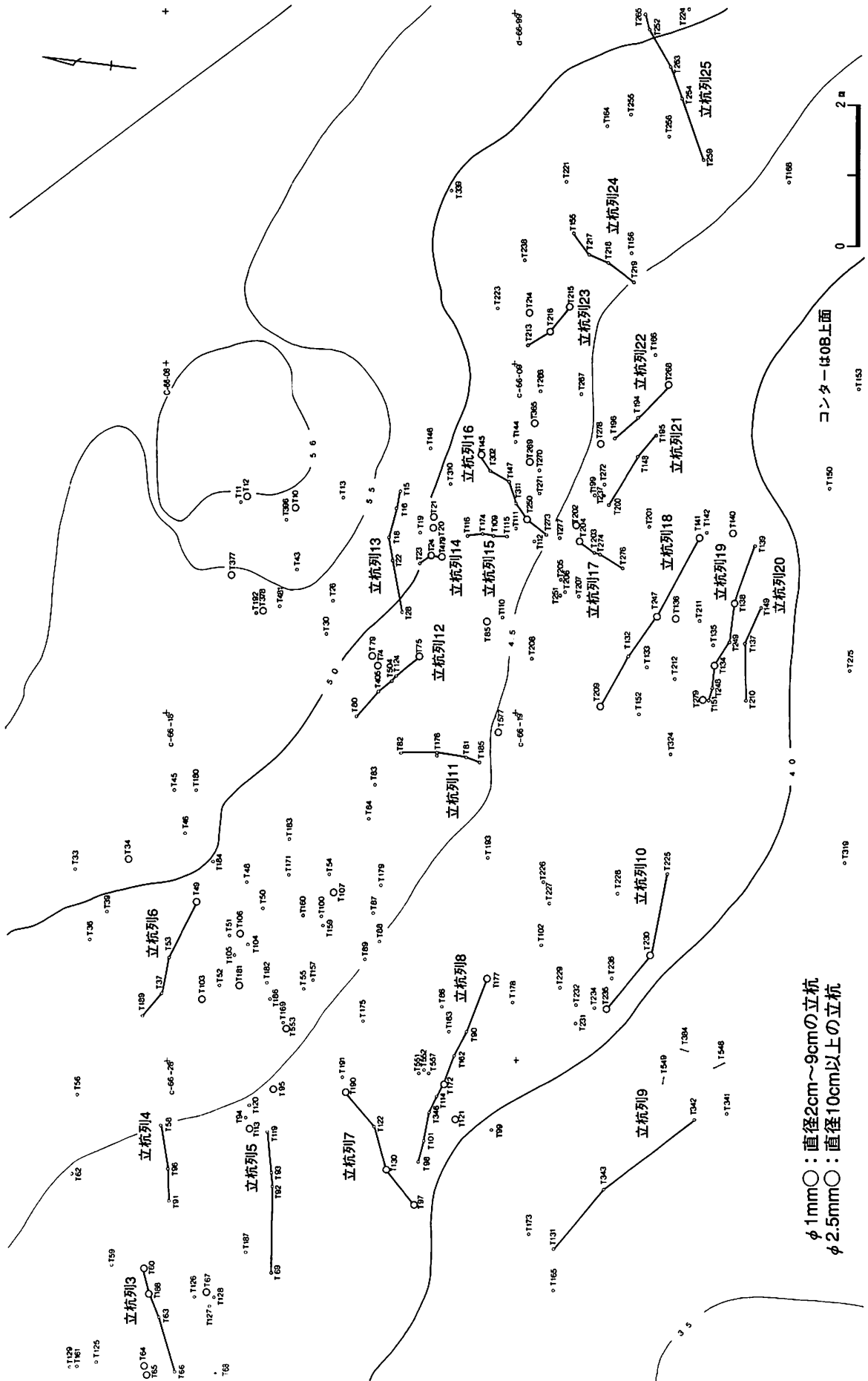
立杭列13 : 標高5.0m前後、等高線にやや並行。立杭5本、全長1.8m。

立杭列14 : 標高5.0m前後、等高線に直行。立杭3本、全長0.4m。ほかの立杭列に較べて全長が極端に短く、径が太い。まったく異なつた用途があつたのであろう。

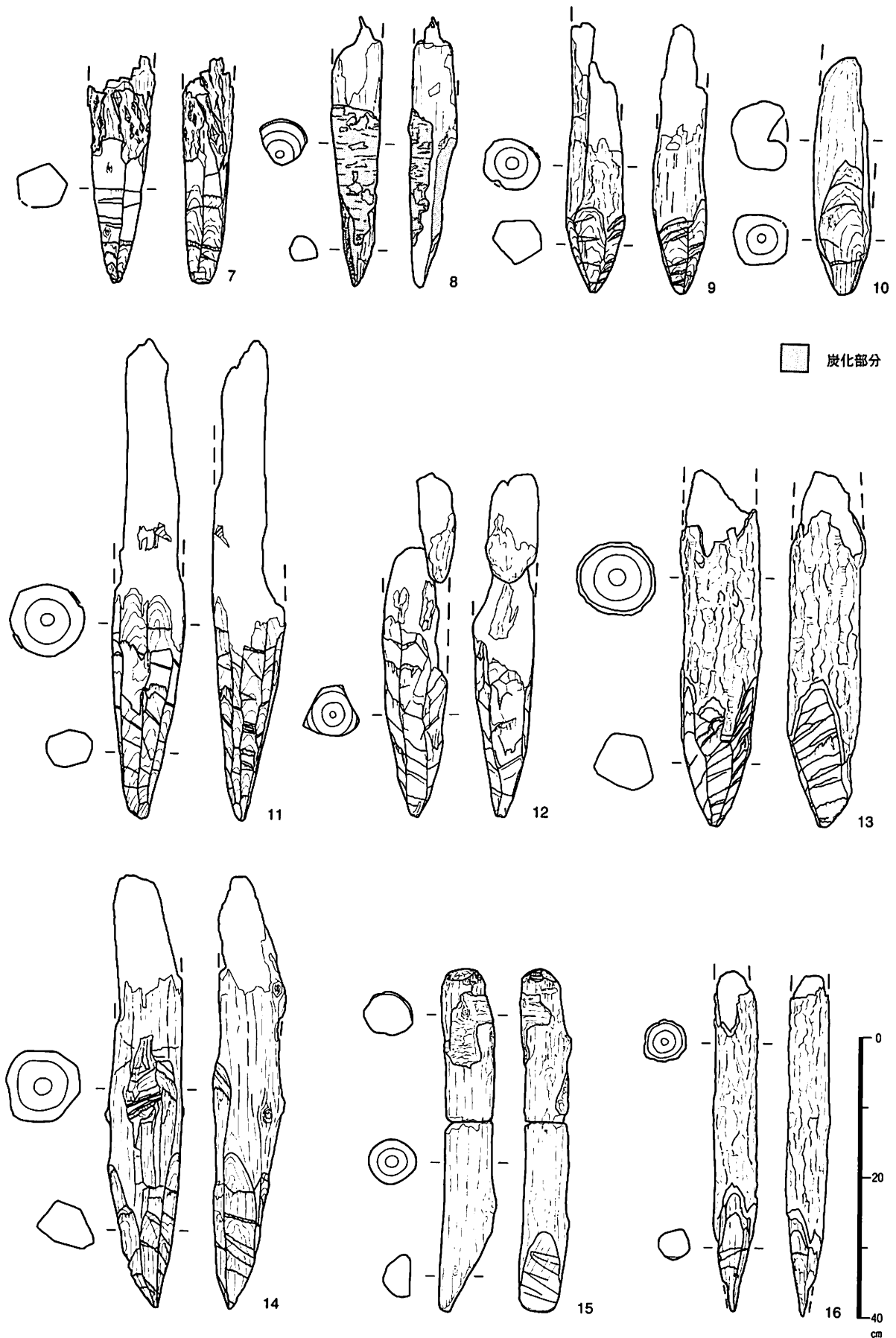
立杭列15 : 標高4.7m前後、等高線に直行。立杭4本、全長0.6m。ほかの立杭列に較べて全長が極端



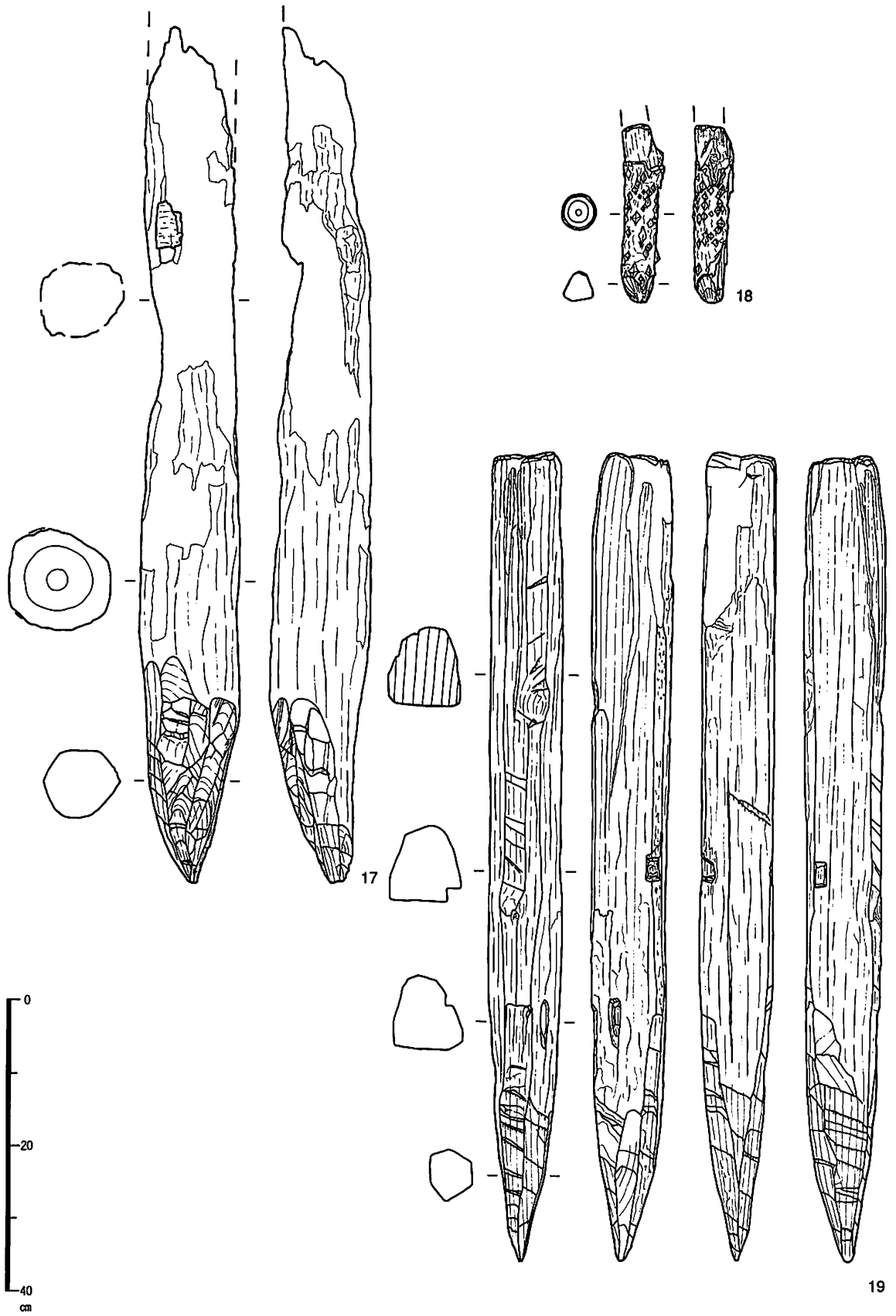




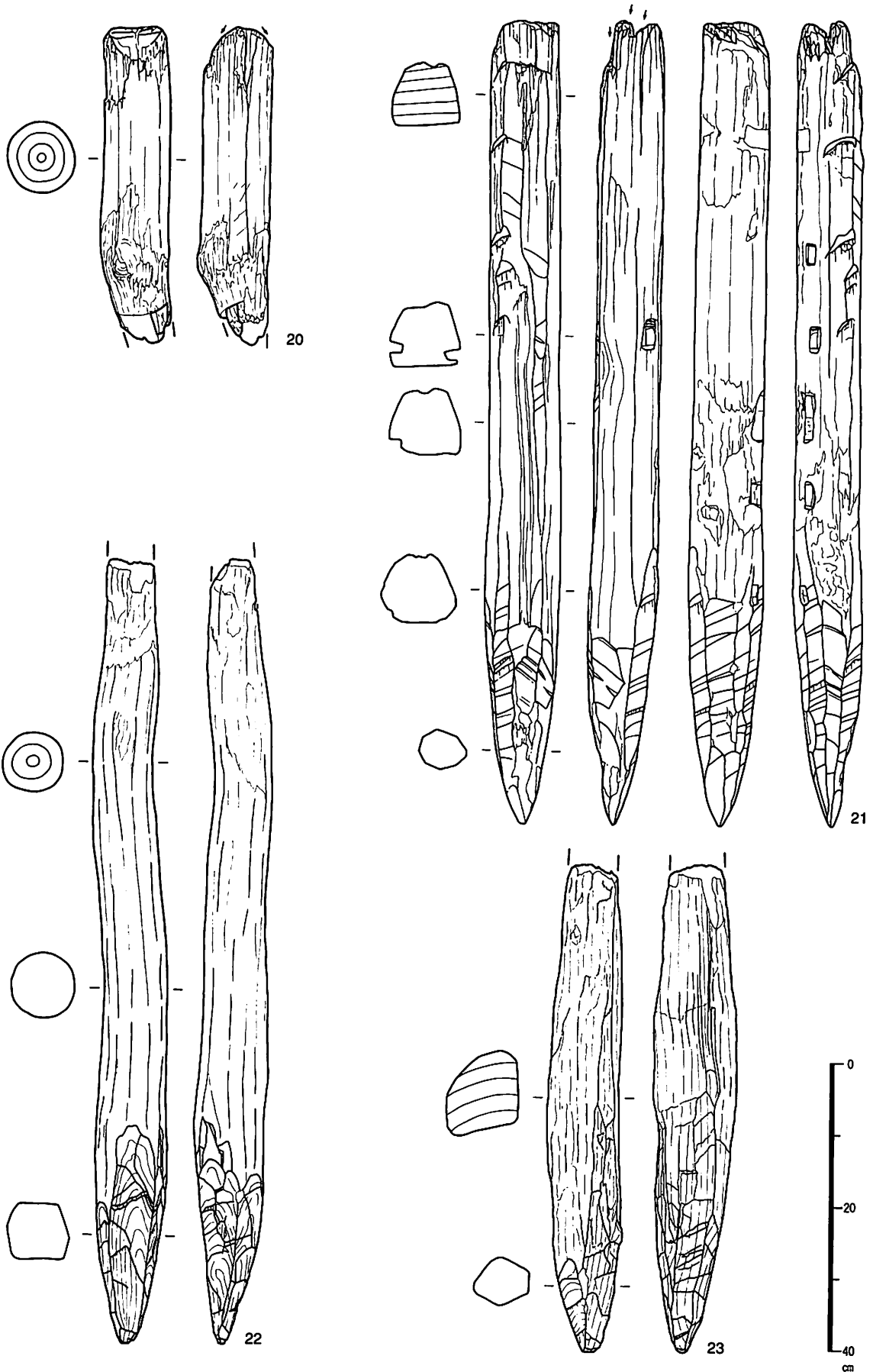
図V-4 立杭列3~25、立杭分布図



図V-5 建物跡2(柱), 立杭列13・15・16

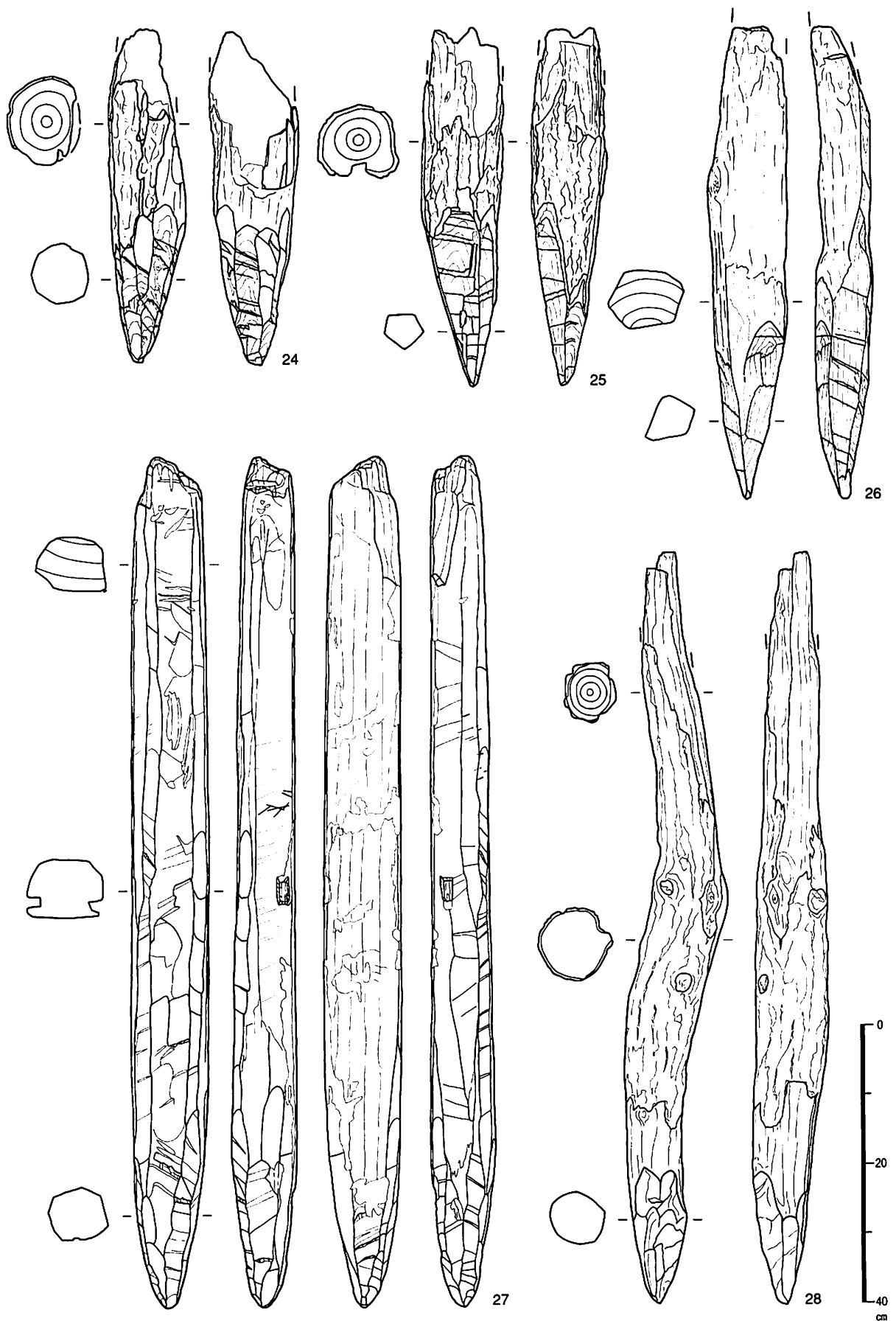


図V-6 立杭列18

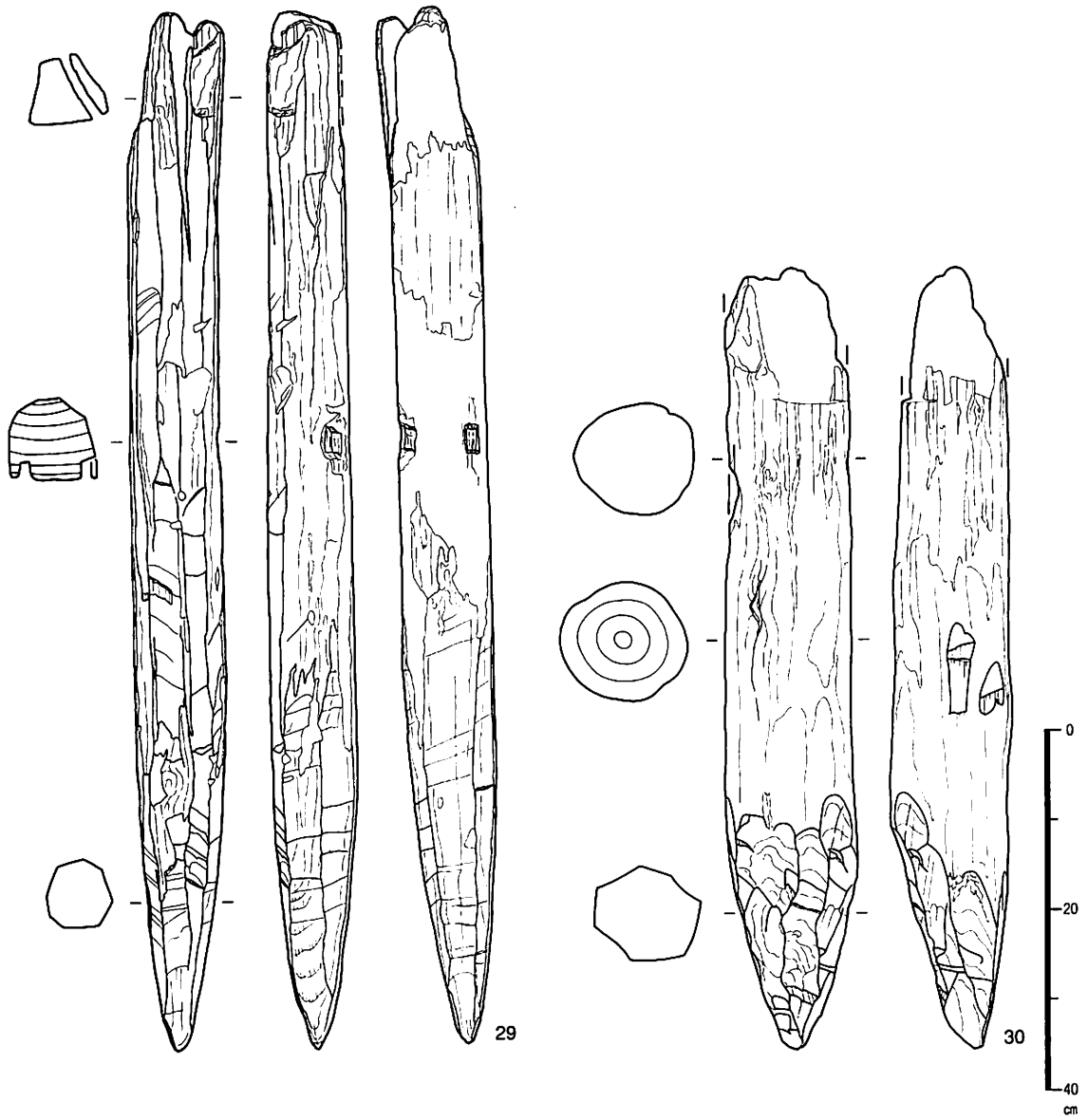


図V-7 立杭列19・26





図V-8 配列外立杭(1)



図V-9 配列外立杭(2)

V 第0黒色土層の調査

表V-1 建物跡2と立杭列

図番号	遺構名	立杭番号	長さ	幅	厚さ (cm)	重量 (kg)	元	木取	分取角度 (°)	先端 形態	先端角度 (°)	加工 程度	樹種	備考	
7 8 9 10	建物跡2	T 242	( 13.0 )	7.0	3.5	( 0.19 )	元	桐材	150	-	エ	37	1-3	ハンノキ	Ta-b付着。樹皮あり。 (4点接合) 樹皮あり。焼痕あり。
		T 298	( 31.6 )	9.1	7.3	( 0.76 )	-	丸木	-	-	エ	26	1-5	-	
		T 299	( 37.8 )	( 7.1 )	( 6.9 )	( 0.72 )	-	丸木	-	-	エ	26	1-7	-	
		T 442	( 37.5 )	8.3	7.7	( 1.00 )	-	丸木	-	-	ア	46	1-5	-	
		T 443	( 29.0 )	10.7	5.0	( 1.16 )	-	桐材	114	-	ア	63	1-3	トネリコ	
		T 455	( 37.0 )	3.6	3.6	( 0.43 )	-	丸木	-	-	ア	41	1-1	コナラ	
10	立杭列3	T 463	( 33.2 )	( 9.8 )	( 8.0 )	( 1.28 )	-	丸木	-	-	ア	30	1-4	-	
		T 467	( 40.0 )	8.8	8.6	( 1.53 )	-	丸木	-	-	ア	26	1-4	ハンノキ	
		T 60	( 54.0 )	10.7	10.2	( 3.11 )	-	丸木	-	-	ア	34	1-3	ヤナギ	
		T 63	( 43.0 )	6.7	6.3	( 1.57 )	-	丸木	-	-	イ	29	1-3	クマシヤ	
		T 66	( 37.0 )	3.8	3.7	( 0.81 )	-	丸木	-	-	オ	28	1-1	コナラ	
		T 188	( 31.0 )	8.6	7.9	( 0.96 )	-	丸木	-	-	イ	37	1-3	ハンノキ	
10	立杭列4	T 58	( 62.0 )	8.2	7.8	( 2.15 )	元	丸木	-	-	イ	27	1-2	キハダ	
		T 91	( 99.0 )	7.8	7.7	( 4.20 )	-	丸木	-	-	ア	26	1-5	クマシヤ	
		T 96	( 89.0 )	8.0	7.5	( 3.50 )	-	丸木	-	-	イ	28	1-2	サカサ	
10	立杭列5	T 69	( 53.5 )	8.2	7.9	( 2.48 )	-	丸木	-	-	イ	29	1-2	サナカマド	
		T 92	( 72.0 )	8.8	8.6	( 3.50 )	-	丸木	-	-	イ	21	1-3	クマシヤ	
		T 93	( 70.0 )	7.1	6.9	( 2.13 )	末	丸木	-	-	イ	38	1-2	ハンノキ	
		T 119	( 33.5 )	8.1	7.3	( 0.96 )	-	丸木	-	-	ア	41	1-4	コナラ	
10	立杭列6	T 37	( 29.0 )	4.1	3.9	( 0.43 )	元	丸木	-	-	オ	20	1-1	ハンノキ	
		T 49	( 62.0 )	9.8	9.5	( 3.42 )	-	丸木	-	-	イ	35	1-6	コナラ	
		T 53	( 36.0 )	5.3	5.2	( 0.58 )	-	丸木	-	-	イ	27	1-1	コナラ	
		T 189	( 62.0 )	7.6	7.0	( 2.36 )	-	丸木	-	-	イ	25	1-3	コナラ	
10	立杭列7	T 97	( 66.0 )	8.4	7.5	( 2.50 )	-	丸木	-	-	イ	23	1-2	クマシヤ	
		T 122	( 30.0 )	7.1	3.6	0.35	-	桐材	175	-	エ	72	1-3	ハンノキ	
		T 130	( 55.0 )	9.4	8.0	( 2.63 )	-	丸木	-	-	ア	43	1-3	クマシヤ	
		T 190	( 64.0 )	6.3	6.2	( 2.43 )	元	丸木	-	-	イ	35	1-2	コナラ	
10	立杭列8	T 90	( 27.0 )	8.2	7.5	( 0.89 )	-	丸木	-	-	ア	37	1-4	ハンノキ	
		T 98	( 62.0 )	8.5	7.5	( 2.43 )	-	丸木	-	-	イ	30	1-3	コナラ	
		T 101	( 56.0 )	7.2	7.1	( 1.90 )	-	丸木	-	-	イ	24	1-2	クマシヤ	
		T 114	( 53.0 )	9.9	6.8	( 1.73 )	-	丸木	-	-	ア	29	1-6	コナラ	
		T 162	( 36.0 )	5.7	5.6	( 0.75 )	-	丸木	-	-	イ	21	1-2	クマシヤ	
		T 172	( 72.0 )	7.0	6.8	( 2.50 )	元	丸木	-	-	ア	20	1-5	コナラ	
		T 177	( 32.0 )	4.8	4.5	( 0.46 )	-	丸木	-	-	イ	25	1-2	コナラ	
		T 346	( 58.0 )	6.5	6.4	( 1.91 )	-	丸木	-	-	イ	24	1-2	コナラ	
10	立杭列9	T 131	( 60.0 )	7.9	7.5	( 1.49 )	-	丸木	-	-	イ	32	1-3	コナラ	
		T 342	( 34.0 )	6.5	6.2	( 0.74 )	-	丸木	-	-	イ	21	1-2	クマシヤ	
		T 343	( 36.0 )	11.0	9.9	( 1.74 )	-	丸木	-	-	ア	39	1-4	ハンノキ	
10	立杭列10	T 225	( 39.0 )	3.6	3.9	( 0.44 )	元	丸木	-	-	-	-	1-x	トネリコ	
		T 230	( 44.0 )	7.5	7.3	( 1.81 )	元	丸木	-	-	イ	24	1-3	コナラ	
		T 235	( 55.0 )	9.1	8.5	( 3.24 )	-	丸木	-	-	-	-	-	ハンノキ	
10	立杭列11	T 81	( 101.0 )	5.9	5.7	( 2.34 )	元	丸木	-	-	イ	32	1-4	サナカマド?	
		T 82	( 13.0 )	3.8	3.4	( 0.60 )	-	桐材	-	-	ア	31	1-5	ハンノキ	
		T 176	( 48.0 )	10.1	9.8	( 2.20 )	-	丸木	-	-	ア	30	1-5	ハンノキ	
		T 185	( 87.0 )	6.3	6.0	( 2.55 )	-	丸木	-	-	イ	27	1-2	カエデ	
10	立杭列12	T 75	( 41.0 )	9.0	8.9	( 1.87 )	-	丸木	-	-	イ	21	1-2	クマシヤ	
		T 80	( 51.0 )	6.6	6.6	( 1.33 )	-	丸木	-	-	イ	43	1-3	ハンノキ	
		T 124	( 58.0 )	9.6	8.6	( 2.63 )	元	丸木	-	-	イ	34	1-3	コナラ	
		T 405	-	-	-	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	樹皮のみ。
		T 504	( 68.0 )	5.9	5.0	( 1.06 )	元	丸木	-	-	イ	23	1-3	ハンノキ	
11	立杭列13	T 15	( 67.3 )	10.4	10.2	( 2.72 )	-	丸木	-	-	イ	30	1-7	-	
		T 18	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	黒色土付着。
		T 22	( 82.0 )	10.0	11.0	( 6.60 )	-	丸木	-	-	イ	39	1-5	コナラ	
		T 28	( 48.0 )	8.9	8.1	( 1.43 )	-	桐材	31	-	ア	35	1-5	コナラ	
12	立杭列14	T 23	( 113.0 )	11.0	10.5	( 7.50 )	-	丸木	-	-	イ	25	1-3	コナラ	
		T 24	( 54.0 )	12.5	11.5	( 3.40 )	-	丸木	-	-	イ	33	1-6	コナラ	
		T 479	( 69.0 )	9.3	( 7.2 )	( 2.60 )	-	丸木	-	-	ア	28	1-4	コナラ	
13 14	立杭列15	T 109	( 34.0 )	6.4	6.2	( 0.66 )	-	丸木	-	-	ア	22	1-2	クマシヤ?ハンノキ?	
		T 115	( 49.6 )	11.3	10.3	( 3.16 )	-	丸木	-	-	ア	39	1-4	コナラ	
		T 116	( 60.8 )	11.3	10.3	( 3.35 )	-	丸木	-	-	ア	30	1-4	コナラ	
		T 174	( 48.0 )	7.4	6.8	( 1.79 )	-	丸木	-	-	ア	26	1-5	コナラ	
15 16	立杭列16	T 145	48.4	7.4	7.0	( 1.48 )	元	丸木	-	-	オ	26	1-1	コナラ	
		T 147	( 28.0 )	8.7	7.0	( 0.78 )	-	丸木	-	-	-	30	1-2	ハンノキ	
		T 250	( 47.0 )	7.8	7.0	( 1.76 )	元	丸木	-	-	-	26	1-3	クマシヤ?	
		T 273	( 47.8 )	6.0	6.1	( 0.99 )	-	丸木	-	-	イ	22	1-2	コナラ	
		T 302	( 57.0 )	7.5	7.1	( 1.98 )	-	丸木	-	-	イ	30	1-2	キハダ	
16	立杭列17	T 311	( 63.0 )	10.5	10.2	( 3.73 )	-	丸木	-	-	ア	32	1-3	ハリギリ	
		T 203	( 50.0 )	6.6	6.4	( 1.49 )	末	丸木	-	-	ア	32	1-4	クマシヤ	
		T 204	( 19.0 )	5.3	( 3.5 )	( 0.38 )	-	丸木	-	-	イ	22	1-3	クマシヤ	
		T 274	( 53.0 )	7.7	7.2	( 1.95 )	-	丸木	-	-	ア	30	1-3	ハンノキ	
		T 206	( 80.0 )	9.4	8.8	( 3.98 )	末	丸木	-	-	オ	29	1-3	コナラ	
17・18 19	立杭列18	T 132	( 47.0 )	7.9	7.3	( 1.58 )	-	丸木	-	-	ア	46	1-4	コナラ	
		T 141	( 115.6 )	13.5	13.5	( 10.80 )	-	丸木	-	-	イ	31	1-4	コナラ	
		T 209	109.5	10.2	11.3	8.00	-	丸木	-	-	ア	25	1-6	コナラ	
		T 247	( 51.0 )	6.6	7.0	( 1.60 )	-	丸木	-	-	ア	53	1-4	コナラ	
21 20	立杭列19	T 134	( 144.0 )	12.3	11.5	( 1.34 )	-	丸木	-	-	ア	35	1-7	キハダ	
		T 138	110.3	10.5	9.6	7.20	-	丸木	-	-	ア	26	1-7	コナラ	
		T 139	( 131.0 )	9.5	9.2	( 8.00 )	-	丸木	-	-	ア	46	1-5	キハダ	
		T 151	( 43.4 )	9.5	9.5	( 2.55 )	-	丸木	-	-	ア	95	1-2	キハダ	
		T 248	( 125.0 )	4.8	4.5	( 2.24 )	-	丸木	-	-	イ	25	1-2	サナカマド?	
		T 249	( 42.0 )	9.1	8.8	( 1.75 )	-	丸木	-	-	ア	37	1-3	コナラ	
20	立杭列20	T 137	( 75.0 )	8.0	7.9	( 3.35 )	元	丸木	-	-	イ	32	1-2	コナラ	
		T 149	( 44.0 )	6.2	5.8	( 0.99 )	-	丸木	-	-	イ	24	1-2	コナラ	
		T 210	( 75.5 )	11.0	10.4	( 5.00 )	元	丸木	-	-	ア	31	1-5	コナラ	
		T 195	( 53.0 )	7.2	7.2	( 1.96 )	元	丸木	-	-	イ	33	1-3	ハンノキ	
20	立杭列21	T 198	( 39.0 )	6.7	3.9	( 0.74 )	-	桐材	-	-	-	-	-	-	樹根跡あり
		T 200	( 33.0 )	7.6	7.5	( 1.02 )	-	丸木	-	-	イ	28	1-4	ハンノキ	
		T 194	( 32.0 )	4.2	3.9	( 0.53 )	-	丸木	-	-	オ	26	1-1	コナラ	
20	立杭列22	T 196	( 28.0 )	7.7	7.1	( 0.91 )	-	丸木	-	-	-	28	1-3	ハンノキ	
		T 268	( 40.0 )	10.0	( 8.5 )	( 1.89 )	-	丸木	-	-	イ	32	1-2	クルミ	
		T 213	( 23.0 )	7.6	-	( 0.60 )	-	丸木	-	-	イ	28	1-2	ハンノキ	
20	立杭列23	T 215	( 57.0 )	8.5	8.5	( 2.25 )	-	丸木	-	-	ア	26	1-4	コナラ	
		T 216	( 47.0 )	8.3	7.8	( 1.78 )	-	丸木	-	-	イ	41	1-3	カエデ	
		T 155	( 55.0 )	5.9	5.6	( 1.20 )	-	丸木	-	-	-	24	1-3	コナラ	
20	立杭列24	T 217	( 50.0 )	7.8	7.3	( 1.78 )	元	丸木	-	-	イ	29	1-2	サナカマド?	
		T 218	( 36.0 )	5.3	-	( 0.57 )	-	丸木	-	-	ア	22	1-3	カエデ	
		T 219	( 61.0 )	4.9	4.8	( 0.98 )	元	丸木	-	-	イ	37	1-2	ハンノキ	
		T 252	(												

表 V-2 掲載建物跡 2 (柱)

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭木取り番号	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
7	立杭片	d-67-90-b	6908	建物跡2	T298	丸木	○	クマシデア ( 31.60 ) 9.10 7.30 ( 760.0 )	1	1	1	他に樹皮4点(4点接合)。
8	立杭片	d-67-90-b	6907	建物跡2	T299	丸木	○	カハノキ ( 37.80 ) ( 7.10 ) ( 6.90 ) ( 720.0 )	1	1	1	尖端部炭化。
9	立杭片	d-67-81-a	6925	建物跡2	T442	丸木		キハダ ( 37.50 ) 8.30 7.70 ( 1000.0 )	1	1	1	
10	立杭片	d-67-80-c	6935	建物跡2	T463	丸木		キハダ ( 33.20 ) ( 9.80 ) ( 8.00 ) ( 1280.0 )	1	1	1	

表 V-3 掲載立杭列13

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭木取り番号	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
11	立杭片	c-66-08-b	794	立杭列13	T15	丸木		キハダ ( 67.30 ) 10.40 10.20 ( 2720.0 )	1	1	1	1 B付着。
12	立杭片	c-66-08-c	854	立杭列13	T28	丸木		カエデア ( 48.00 ) 8.90 8.10 ( 1430.0 )	1	1	1	4点中2点接合。0B付着。

表 V-4 掲載立杭列15

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭木取り番号	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
13	立杭片	c-66-08-b	1585	立杭列15	T115	丸木	○	ハンノキ ( 49.60 ) 11.30 10.30 ( 3160.0 )	2	2	2	Ta-b付着。他に別個体1点(破片数1点)。他に樹皮破片多数あり。
14	立杭片	c-66-08-b	1572	立杭列15	T116	丸木		コナラ ( 60.80 ) 11.30 10.30 ( 3350.0 )	1	1	1	Ta-b付着。

表 V-5 掲載立杭列16

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭木取り番号	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
15	立杭切断品	c-66-08-b	1596	立杭列16	T145	丸木	○	ハンノキ 48.40 7.40 7.00 1480.0	1	1	2	2点接合。Ta-b付着
16	立杭片	c-66-09-a	1738	立杭列16	T273	丸木	○	コナラ ( 47.80 ) 6.00 6.10 ( 990.0 )	1	1	1	Ta-b付着。

表 V-6 掲載立杭列18

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭木取り番号	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
17	立杭片	c-66-09-b	1747	立杭列18	T141	丸木	○	サクラ ( 115.60 ) 13.50 13.50 ( 10800.0 )	1	1	1	22点接合。Ta-b付着。添木あり。
18	立杭添木片	c-66-09-b	1747	立杭列18	T141	丸木	○	クマシデア ( 23.90 ) 5.10 5.40 ( 350.0 )	1	1	1	Ta-b付着。17の添木。
19	ホノ孔付角立杭切断品	c-66-09-d	1717	立杭列18	T209	榎目		コナラ 109.50 10.20 11.30 8000.0	1	1	1	Ta-b付着。ホノ孔2ヶ所あり。面取加工顯著。



表 V-7 掲載立杭列19

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個体	破片	備考	
20	立杭切断品片	c-66-09-c	1718	立杭列19	T151	丸木		キハダ	9.50	9.90	( 2550.0 )	1	2	2点接合。Ta-b付着。	
21	ホノ孔付角立杭切断品	c-66-09-c	1688	立杭列19	T138	板目		コナラ	110.30	10.45	9.60	7200.0	1	1	Ta-b付着。ホノ孔6ヶ所あり。面取加工顯著。

表 V-8 掲載立杭列26

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個体	破片	備考	
22	立杭片	c-67-20-a	6918	立杭列26	T387	丸木		キハダ	107.80	10.00	9.70	( 5800.0 )	1	1	
23	角立杭片	c-67-20-a	7080	立杭列26	T544	板目		ハリギリ	67.00	10.00	11.60	( 3770.0 )	1	1	

表 V-9 掲載配列外立杭

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	立杭番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個体	破片	備考	
24	立杭片	c-66-08-c	1526		T74	丸木	○	カエデ	47.10	10.70	12.60	( 2620.0 )	1	7	7点接合。Ta-b付着。他に樹皮5点(5点接合)。
25	立杭片	c-66-09-b	1692		T140	丸木	○	ヤナギ	50.80	11.70	11.00	( 2740.0 )	1	1	1Ta-b付着。他に樹皮4点(4点接合)。他に樹皮破片多数あり。
26	割立杭片	c-66-08-c	1524		T79	半割		ハリギリ	66.90	11.40	8.20	( 2930.0 )	1	1	1Ta-b付着。
27	ホノ孔付角立杭切断品	c-66-09-d	1687		T133	板目		コナラ	120.80	11.10	9.30	8400.0	1	1	1Ta-b付着。ホノ孔2ヶ所あり、寸法3.80cm×1.80cm×2.10cm、3.30cm×2.10cm、3.30cm×1.70cm×2.00cm。面取加工顯著。
28	立杭片	d-67-91-c	6946		T300	丸木	○	コナラ	107.00	15.20	10.60	( 5400.0 )	1	1	
29	ホノ孔付角立杭切断品	c-66-19-a	6862		T324	板目		コナラ	112.30	10.30	9.60	7300.0	1	1	ホノ孔2ヶ所あり。面取加工顯著。
30	立杭片	c-66-18-b	14808		T577	丸木		サクラ	87.00	14.40	13.30	( 9800.0 )	1	1	

に短い。これもまったく異なった用途があったのであろうか。

立杭列16：標高4.7m前後、等高線に直行。立杭6本、全長1.5m。ほかの立杭列に較べて並びが蛇行している。これもまったく異なった用途があったのであろうか。

立杭列17：標高4.6m前後、等高線に直行。立杭4本、全長0.8m。他の立杭列に較べ全長がやや短い。

立杭列18：標高4.3m前後、等高線に並行。立杭4本、全長2.8m。他の立杭列に較べ立杭間隔が広い。T141はホゾ穴のある材の転用。

立杭列19：標高4.2m前後、等高線に並行。立杭6本、全長2.3m。他の立杭列に較べ並びが蛇行している。これもまったく異なった用途があったのであろうか。T138はホゾ穴のある材の転用。

立杭列20：標高4.2m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.4m。

立杭列21：標高4.4m前後、等高線にやや並行。立杭3本、全長1.2m。立杭列22に並ぶ。

立杭列22：標高4.4m前後、等高線にやや並行。立杭3本、全長1.1m。立杭列21に並ぶ。

立杭列23：標高4.6m前後、等高線にやや並行。立杭3本、全長0.9m。

立杭列24：標高4.6m前後、等高線に直行。立杭4本、全長1.1m。

立杭列25：標高4.7m前後、等高線に直行。立杭5本、全長2.3m。割材が多く使われる。

立杭列26：標高3.5m前後、等高線に並行。立杭7本、全長4.2m。立杭列27・28に並ぶ。

立杭列27：標高3.5m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.4m。立杭列26・28に並ぶ。

立杭列28：標高3.5m前後、等高線に並行。立杭3本、全長1.4m。立杭列26・27に並ぶ。

立杭列29：標高4.2m前後、等高線に直行。立杭4本、全長1.9m。建物跡2との関連はない。

#### (4) 杭穴列 (図V-10、表V-10)

杭穴列7：標高3.8~4.0m前後、等高線に直行。杭穴2個、全長1.2m。建物跡6、溝1との関係は確かではないが、なんらかの関連はあるものと思われる。

杭穴列8：標高3.4m前後、等高線に並行。杭穴3個、全長1.0m。建物跡7のそばにあり、杭穴列9・建物跡7と並ぶ。

杭穴列9：標高3.4m前後、等高線に並行。杭穴2個、全長1.0m。建物跡7のそばにあり、杭穴列8・建物跡7と並ぶ。

#### (5) その他の立杭と杭穴 (図V-1・8~10、表V-9、図版16・17)

0B層で上端部を確認できたのは、173カ所である。いずれも杭頭は腐朽し、残存しておらず、層中のどの面から打ち込んでいるか確認できない。しかし、残存している上端が、地面より上に出ていると考えられるので、杭が打たれた時期は、上端部を確認した面よりも下位になることはない。以上より、上端部を確認した面が立杭の所属する時期に近接する。立杭の分布は標高4.0m~5.0mの斜面裾部に集中し、灰集中、炭化物集中、立杭列の分布に重なる。杭穴は標高5.5m~7.0mの斜面に分布する。c-66-07とc-66-17の範囲に分布する。両者共に配列の規則性はうかがえない。

表V-10 杭穴列一覧

遺構名	杭穴番号	発掘区	径 (cm)	層位	遺構名	杭穴番号	発掘区	径 (cm)	層位	
建物跡6	P81	c-66-38-a	20	OB上面	建物跡7	P102	c-67-41-b	30	OB	
	P83	c-66-39-b	25	OB上面		P103	c-67-41-b	30	OB	
	P84	c-66-40-c	24	OB上面		P105	c-67-41-c・c-67-51-b	35	OB	
	P85	c-66-41-c	15	OB上面		P107	c-67-51-b	30	OB	
	P86	c-66-42-c	10	OB上面		杭穴列7	P82	c-66-38-a・c-66-38-b	25	OB上面
	P89	c-66-39-d	20	OB上面			P88	c-66-38-b・c-66-39-a	30	OB上面
建物跡7	P92	c-67-31-d	35	OB	杭穴列8	P94	c-67-40-b	30	OB	
	P93	c-67-31-d	20	OB		P95	c-67-40-b	18	OB	
	P96	c-67-40-b	30	OB		P97	c-67-41-c	20	OB	
	P99	c-67-41-a	27.5	OB		杭穴列9	P106	c-67-51-a	16	OB
	P100	c-67-41-d	20	OB	P108		c-67-51-b	22	OB	

(6) 建材集中 (図V-11~21、表V-11・12、図版18~23、カラー図版7-1)

建材集中は長さが1 m以上の大型の部材で構成されており、建造物の倒壊した状況を示している。

建材集中 2

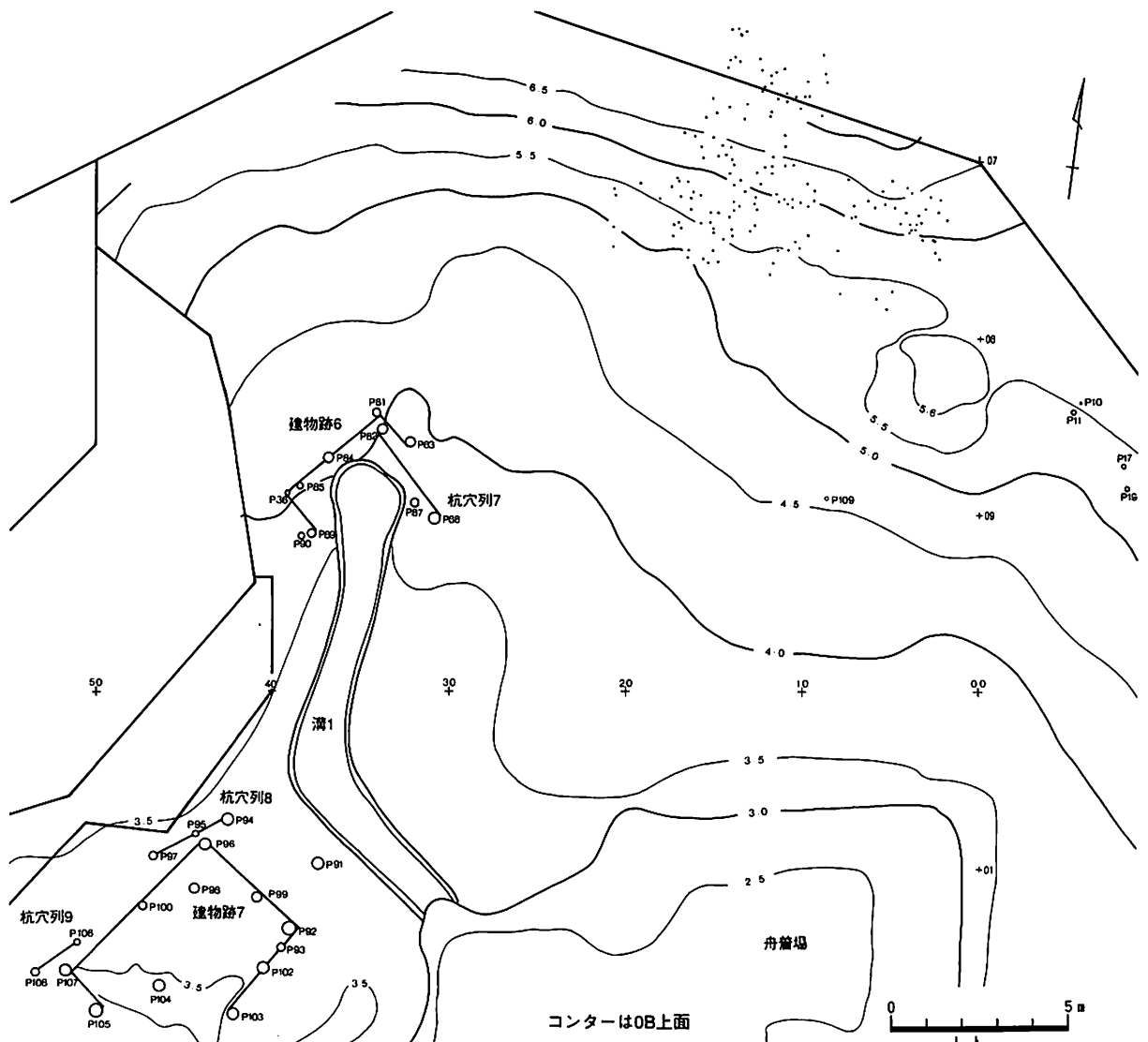
中心位置 : d-67-91-a

規模 : 南北5 m × 東西10 m

舟着場の東側、建物跡 2 の南東側、建材集中 3 の東側に位置する。標高3.5m~4.0mの斜面裾の平坦部に、長さが1 m以上の大型の部材が68本検出された。家屋の建材と考えられるものがほとんどを占める。上端部に受け部構造をもつ柱材 (掲載番号31~33・41~44) や上端部は欠失していて不明である柱材 (掲載番号45) や桁・梁材 (掲載番号35~37・47~49) があり、また、3.8m前後の長尺の建材 (掲載番号40) は、棟木材と考えられる。そのほかには径の細い垂木材状の建材が散在している。

構造は平成3年度調査のA'地区の建材群と比べると梁や桁のしっかりしたものに欠けるので、A'地区の建材群よりも小規模な建物が想定される。

以上より、建材集中2は、舟着場に面していること、構造が小規模なこと、高床式倉庫梯子片 (掲載番号39) が出土していること、魚突鉤鈎の棹が2本出土していること、建物跡2の南東側に位置することから漁撈に関する倉庫で建物跡2に付随していた可能性が高い。



図V-10 建物跡6・7、杭穴列、杭穴分布図

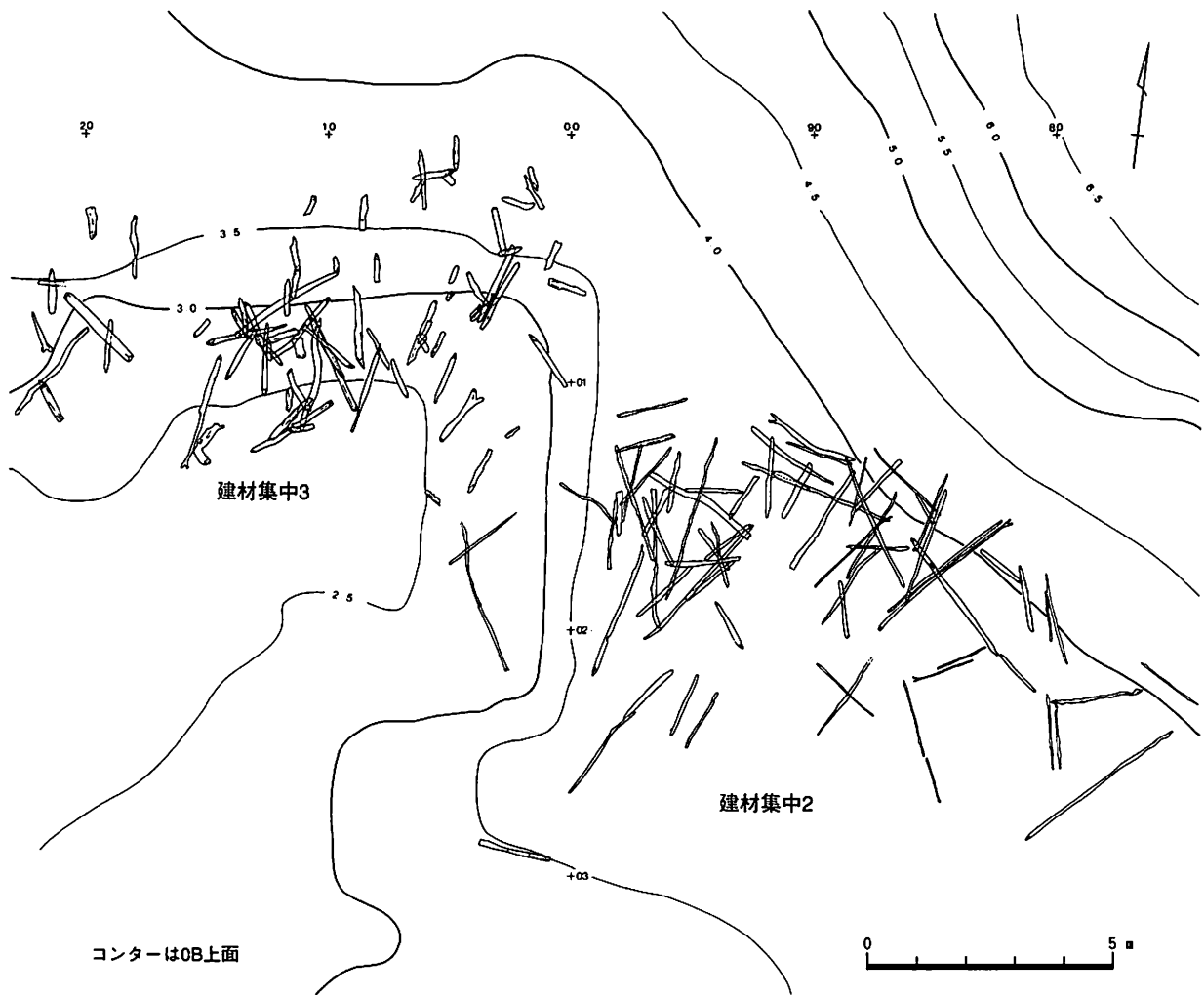
**建材集中3**      中心位置：c-67-10-b      規模：南北5m×東西10m

舟着場の北側、建材集中2の西側に位置する。標高2.5m～3.5mの舟着場の北側スロープに、長さが1m以上の大型の部材が77本検出された。家屋の建材と考えられるものがほとんどを占める。上端部に受け部構造をもつ柱材（掲載番号50・53・54・57）や上端部は欠失していて不明である柱材（掲載番号58）や桁・梁材（掲載番号55・56）がある。

そのほかには短く、両端が欠失した建材が、多数散在している。これらは建材集中2と比べると数が多い。径の細い垂木材状の建材はほとんどみられない。

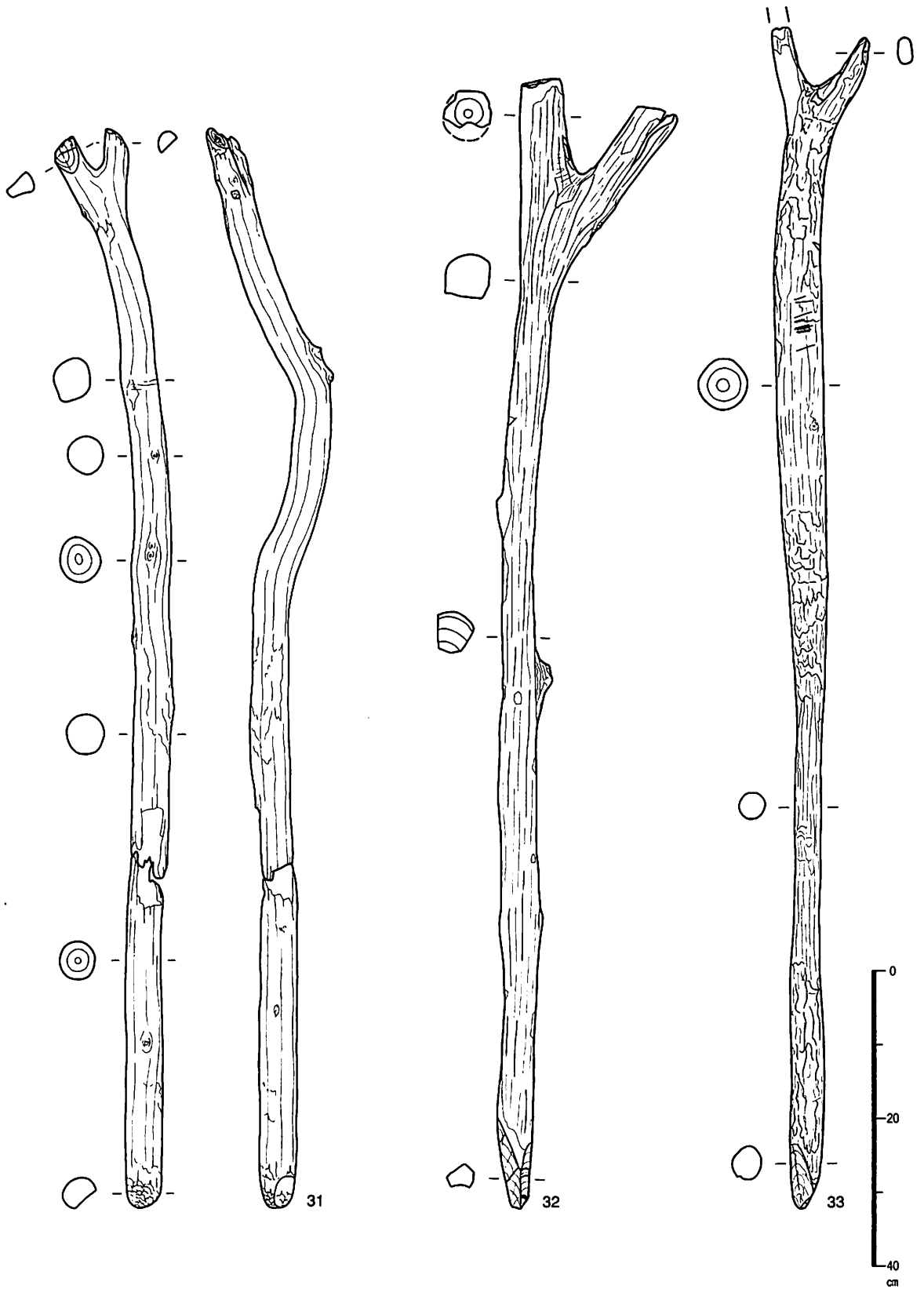
構造は建材集中2と比べると受け部構造をもつ柱材が少なく、梁や桁のしっかりしたものに欠ける。また、径の細い垂木材状の建材はほとんどみられないことからしっかりとした屋根をもっていなかったことが考えられる。

以上より、建材集中2のような倉庫ではない4本柱の小規模な建物が想定される。また、建材集中3は、舟着場に面していること、建物跡2の南西側に位置することから建物跡2・建材集中2に付随していた可能性もあるが、構造が異なることから別個の用途があったのではないだろうか。

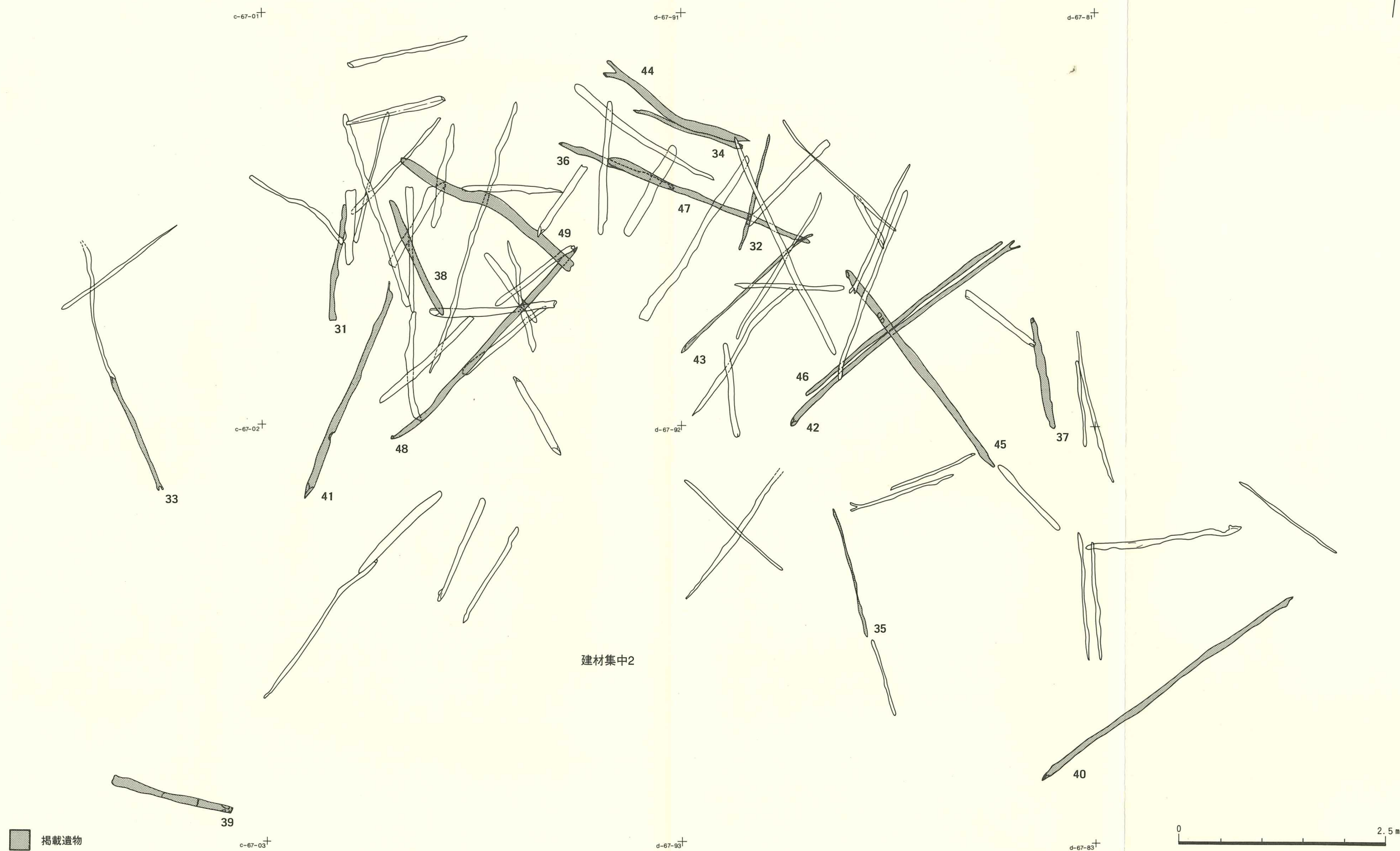


図V-11 建材集中2・3分布図

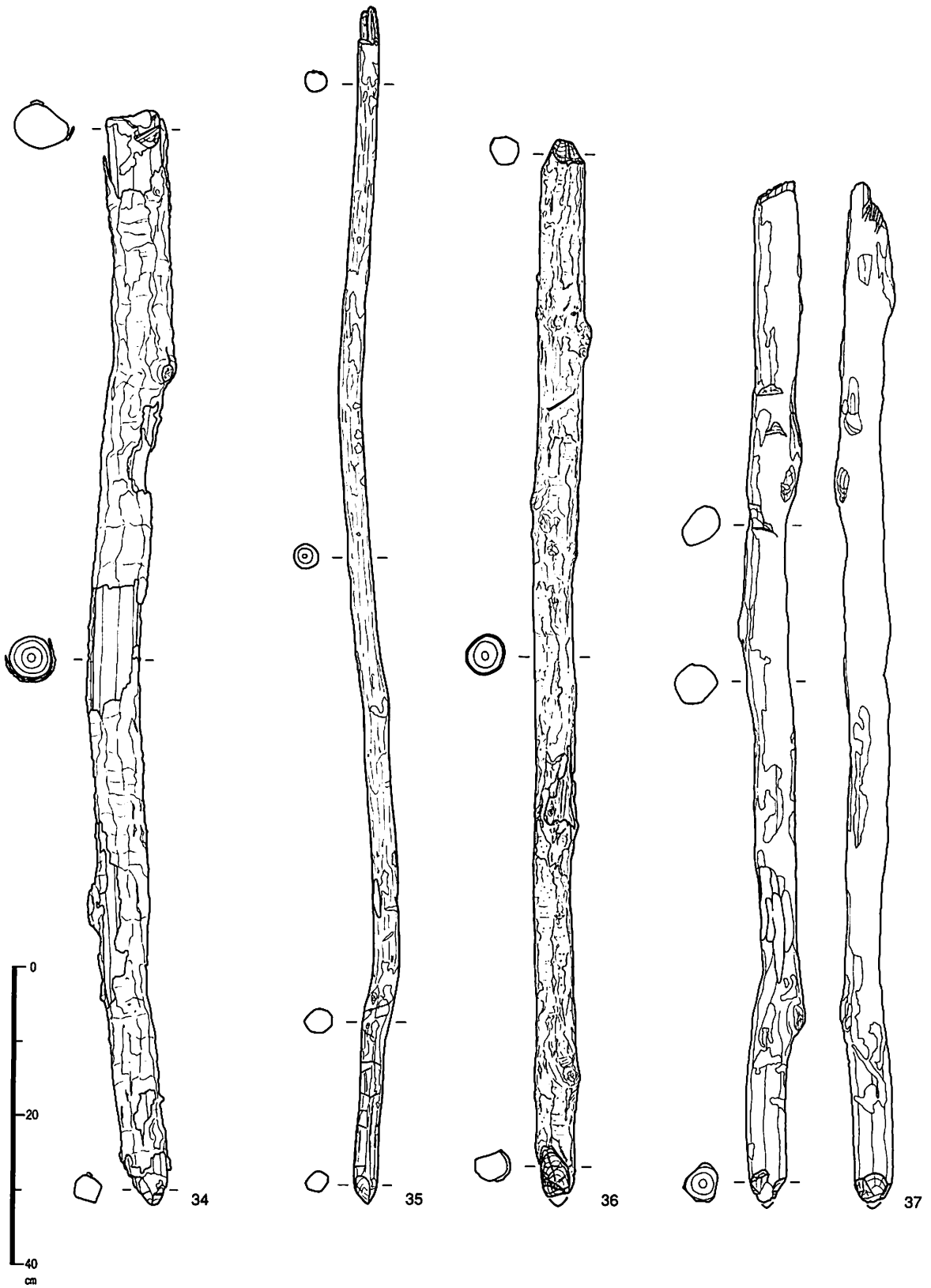




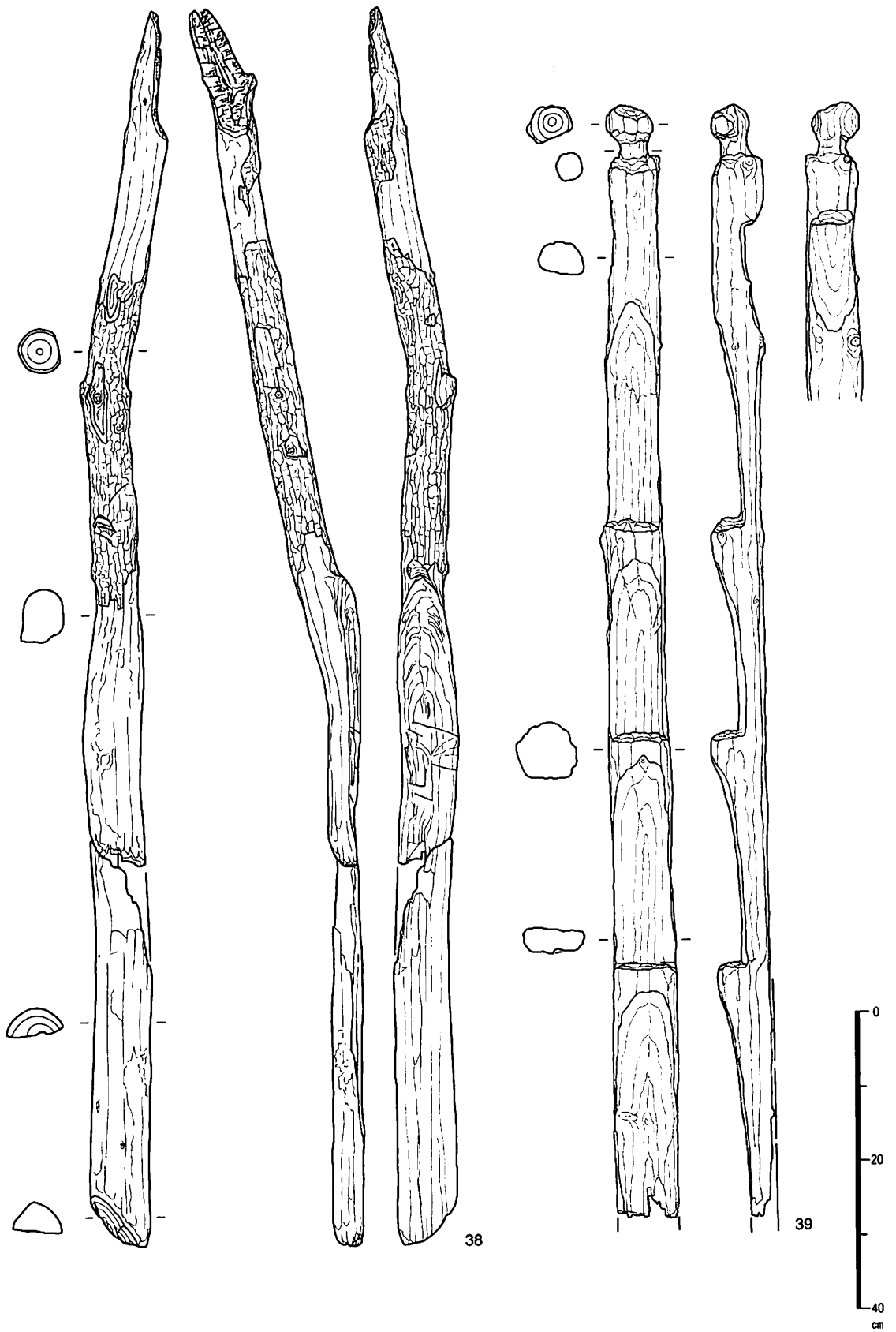
図V-12 建材集中2 (建材1)



図V-13 建材集中2 (建材分布図)

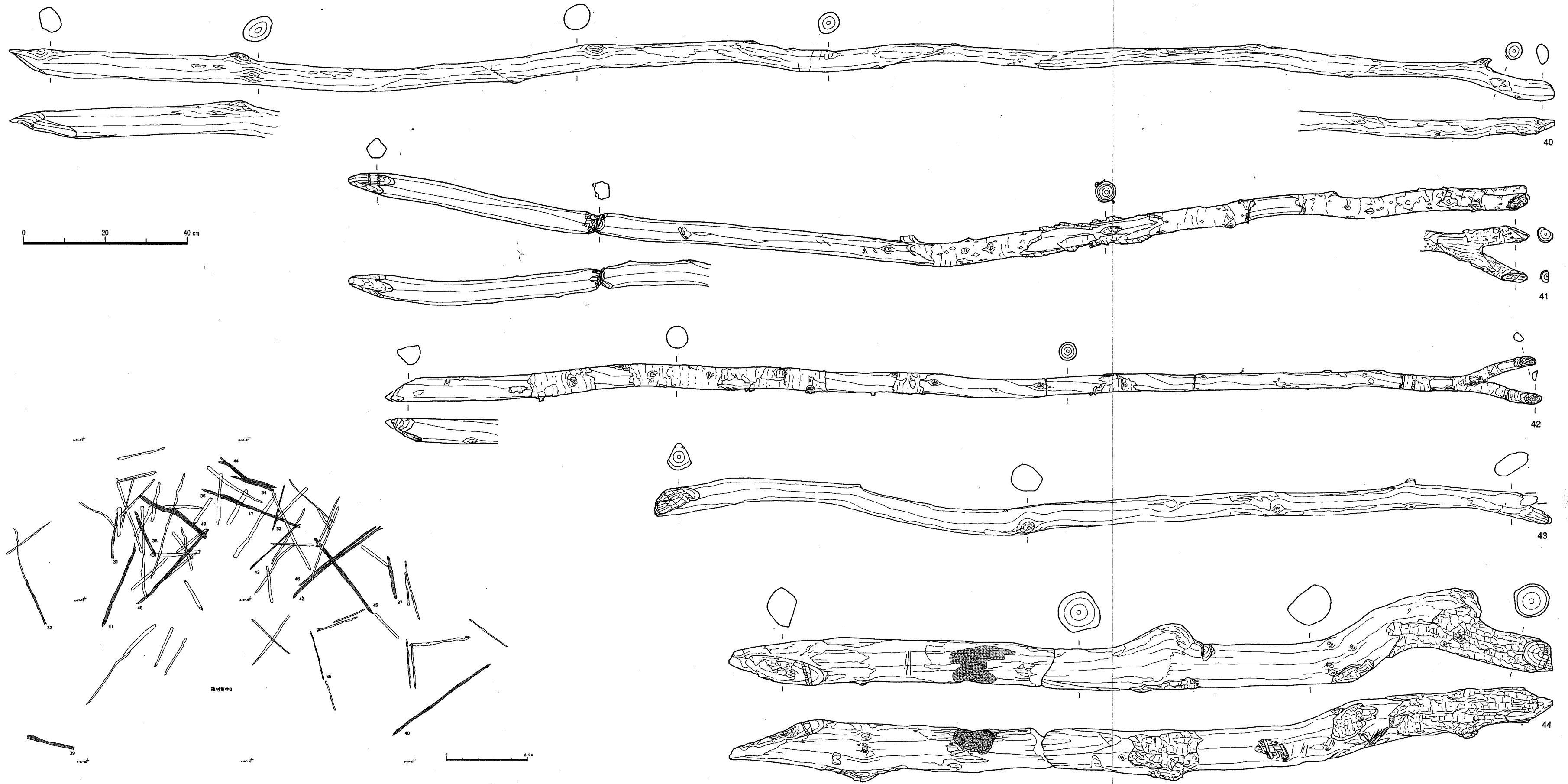


図V-14 建材集中2 (建材2)



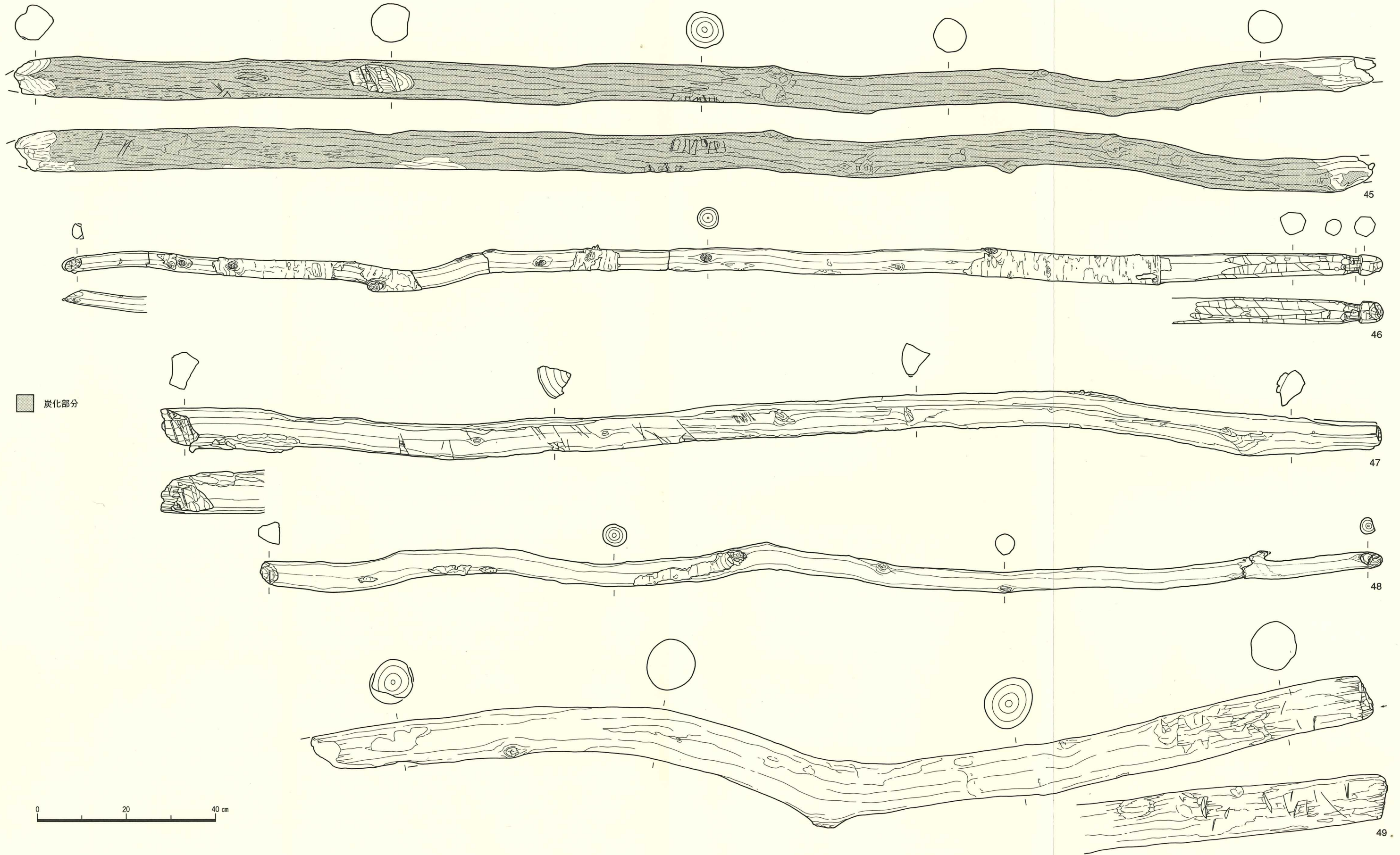
図V-15 建材集中2 (建材3)



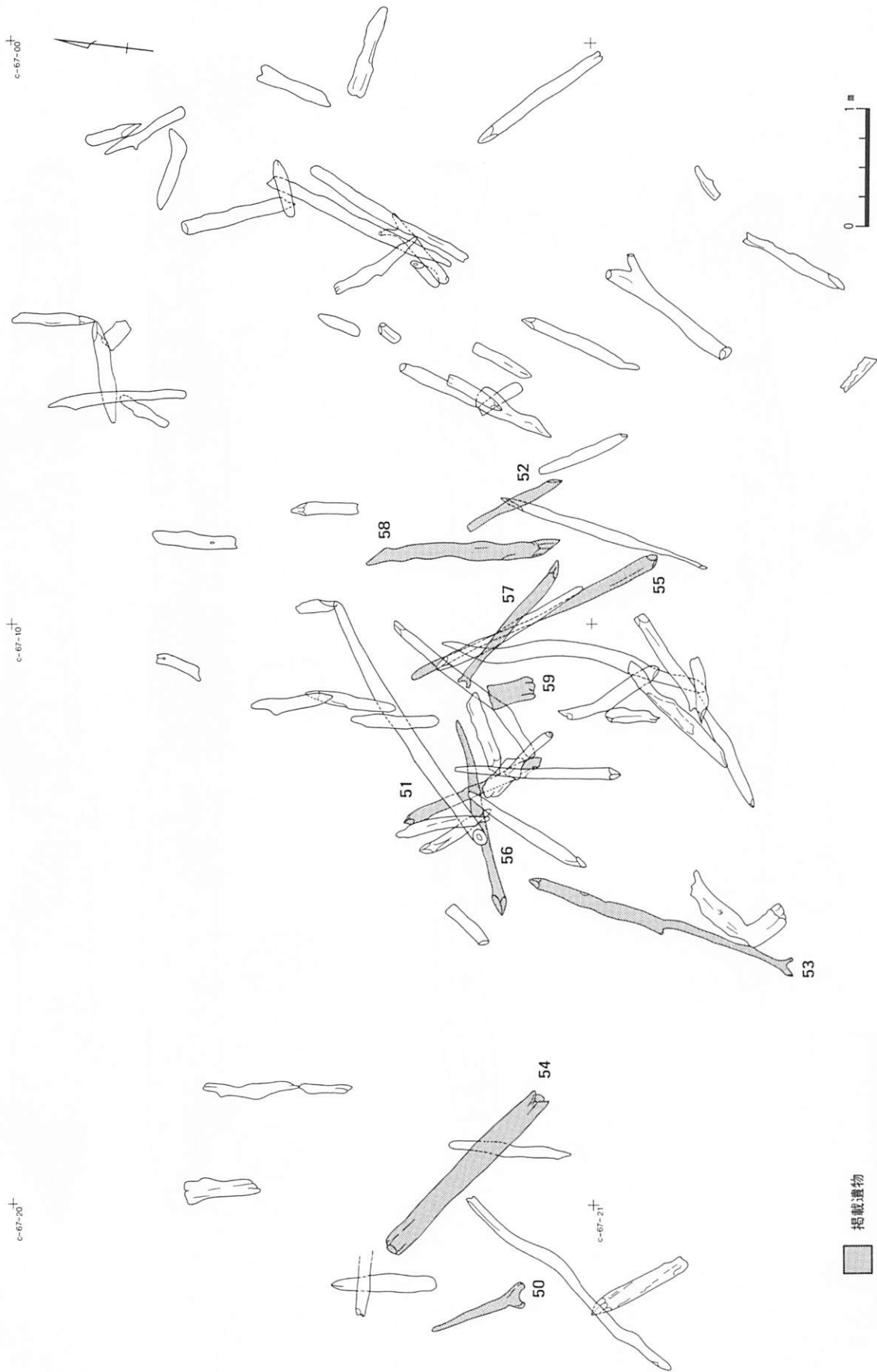


図V-16 建材集中2 (建材4)

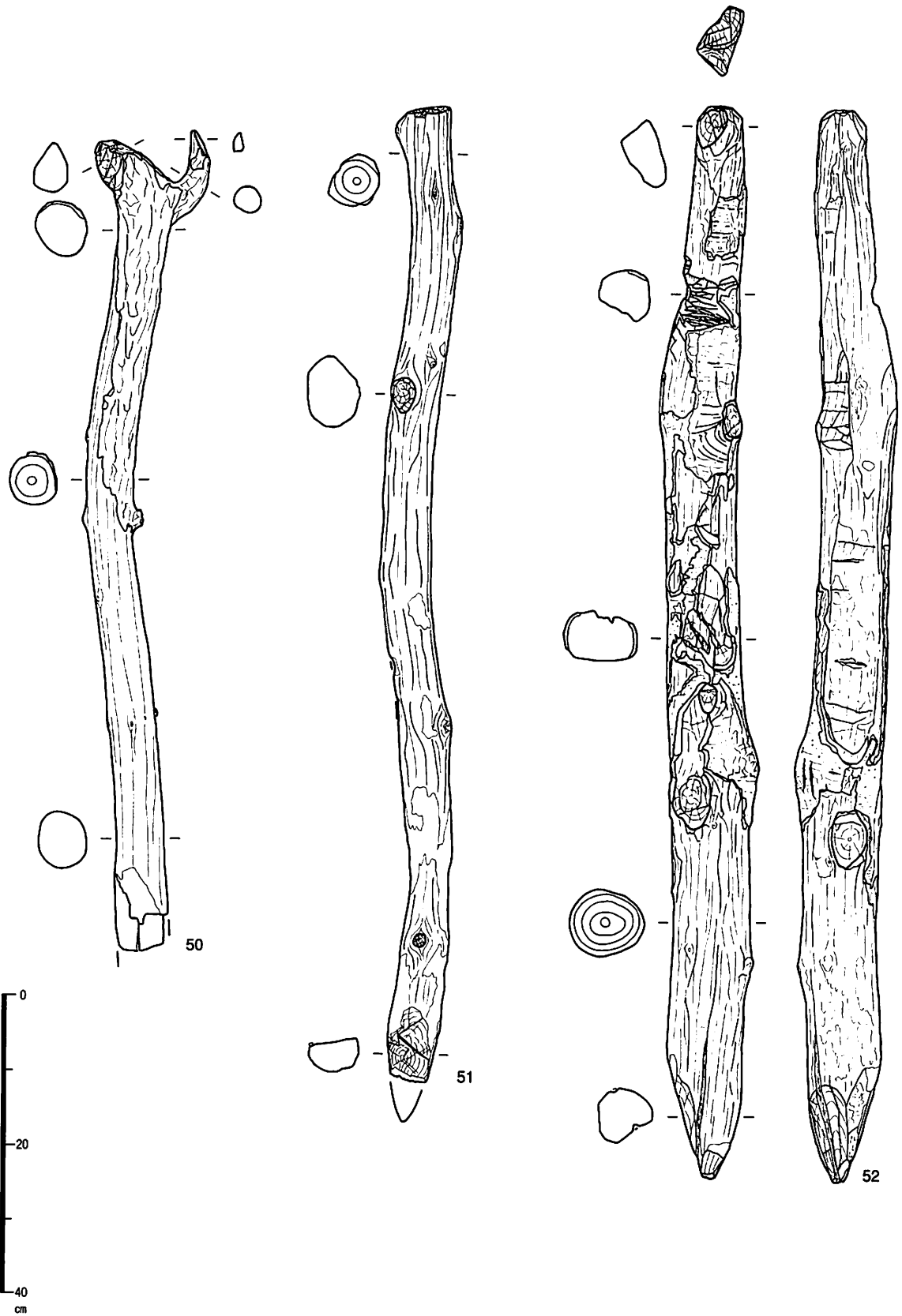




図V-17 建材集中2 (建材5)

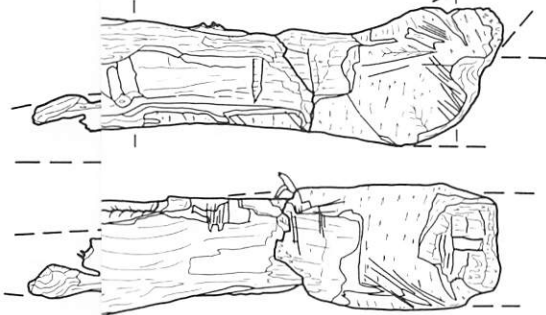
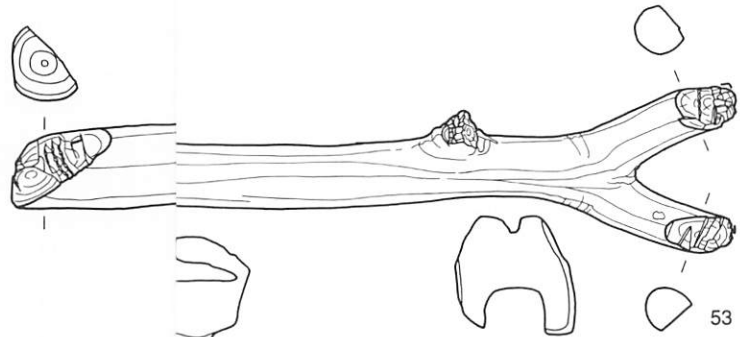


図V-18 建材集中3 (建材分布図)

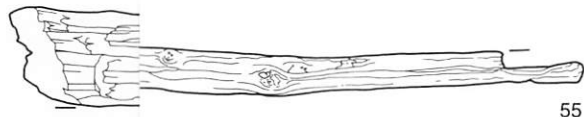


図V-19 建材集中3 (建材1)

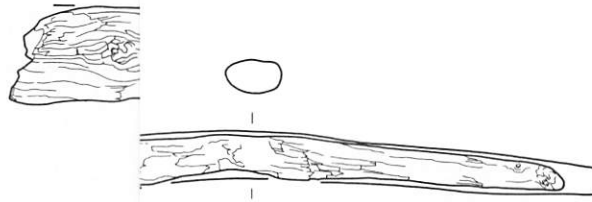




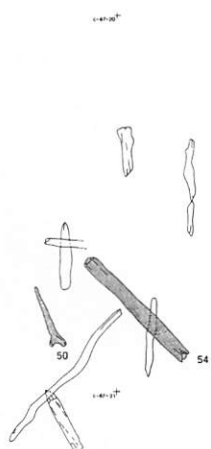
54



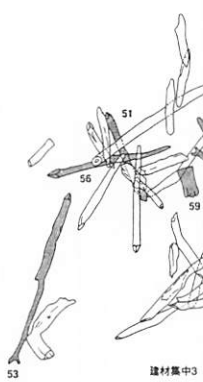
55



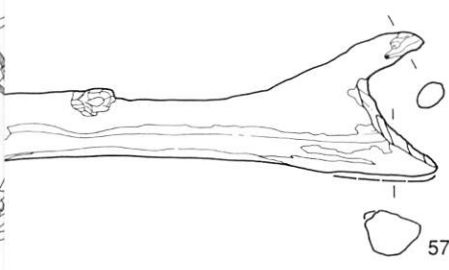
56



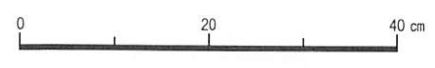
50



51



57





図V-21 建材集中3 (建材3)

表V-11 掲載建材集中2 (建材)

図版 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	質量(g)	個体 破片	備考
31	18	受部付柱材	d-67-91-c	5864	建材集中2	段木	○	トネリコ	143.30 9.10 6.60	2930.0	1	2点接合。
32	18	受部付柱材	d-67-81-c d-67-81-d	3053	建材集中2	段木		コナラ	152.00 21.30 5.70	3500.0	1	1 柱頭「Y」字状。割材。
33	18	受部付柱材片	c-67-02-a c-67-01-b	3405	建材集中2	段木		トネリコ	( 159.10) 12.90 6.60	( 3050.0)	1	1 柱頭「Y」字状。
34	18	桁・梁材	d-67-81-d d-67-91-a	3600	建材集中2	丸木	○	コナラ	145.00 8.40 9.20	4970.0	1	
35	18	桁・梁材	d-67-82-c d-67-82-d	4343	建材集中2	丸木		モクレン	160.00 3.80 3.30	1150.0	1	
36	19	桁・梁材片	d-67-91-a	5179	建材集中2	丸木	○	コナラ	( 140.60) 7.00 5.20	( 3000.0)	1	
37	19	桁・梁材切断品片	d-67-81-b	10064	建材集中2	丸木		キハダ	( 136.70) 7.10 6.90	( 3160.0)	1	
38	19	建材	d-67-91-c d-67-91-d	5324	建材集中2	丸木	○	カエデ	163.80 8.00 7.30	( 3770.0)	1	2点接合。上端部炭化し、中央から下は割材。
39	19	高床式倉庫梯子片	c-67-02-b	4955	建材集中2	丸木		モミ	( 147.00) 8.60 7.40	( 4230.0)	1	1 階段3段。上部に扶入部、裏面に抉りあり。
40	20	棟木材	d-67-72-c d-67-72-d	10912	建材集中2	丸木		コナラ	375.00 7.50 10.20	9000.0	1	
41	20	受部付柱材	d-67-91-c d-67-92-d	5850	建材集中2	段木	○	クマシダ	287.90 6.90 13.00	6000.0	1	4点接合。柱頭「Y」字状。下部に本組または切断を意図した抉入切痕あり。
42	20	受部付柱材	d-67-81-b d-67-81-c	3130	建材集中2	段木	○	カバノキ	352.80 14.10 7.60	9325.0	1	5点接合。46と共伴。柱頭「Y」字状。枝払い根多数。
43	20	受部付柱材片	d-67-81-c	4409	建材集中2	段木		キハダ	( 219.10) 7.30 9.40	( 6125.0)	1	1 柱頭「Y」字状。
44	20	受部付柱材片	d-67-91-a d-67-81-d	3581	建材集中2	段木	○	ハンノキ	( 199.30) ( 16.20) 14.20	( 16600.0)	1	33点中2点接合。柱頭「Y」字状。中央やや下部炭化。
45	21	桁・梁材片	d-67-81-b d-67-81-c	2985	建材集中2	丸木	○	カエデ	( 305.10) 9.20 9.40	( 13200.0)	1	44点中2点接合。
46	21	端部抉入部付桁・梁材	d-67-81-b d-67-81-c	3129	建材集中2	丸木	○	カバノキ	294.70 6.60 6.90	5290.0	1	5点接合。41と共伴。
47	21	割桁・梁材	d-67-91-a d-67-81-d	3628	建材集中2	1/4割	○	コナラ	273.40 9.50 9.00	10140.0	1	
48	21	桁・梁材	d-67-91-b d-67-91-c	5380	建材集中2	丸木	○	ハンノキ	318.40 8.60 10.80	10050.0	1	2点接合。
49	21	桁・梁材片	d-67-91-a d-67-91-b	4808	建材集中2	丸木		カバノキ	( 234.70) 15.90 12.70	( 20600.0)	1	破片多数あり。

表V-12 掲載建材集中3 (建材)

図解 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	木取り	樹皮 図型	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	破 片	備考
50	受部付柱材片	c-67-20-b	6586	建材集中3	股木	○	カエデ	( 107.80 ) 15.30 7.30 ( 129.70 ) 7.10 9.30	( 4120.0 ) ( 4650.0 )	1	2	2点接合。柱頭「Y」字状。
51	柱材片	c-67-10-b	12562	建材集中3	丸木		コナラ	7.10 9.30	( 4650.0 )	1	1	
52	柱材	c-67-00-c	9779	建材集中3	丸木	○	ハンノキ	143.40 11.70 8.90	8350.0	1	1	面取り加工、挟りがある。
53	受部付柱材	c-67-10-b c-67-11-a c-67-11-d	8443	建材集中3	股木		カエデ	248.60 17.20 13.30	11640.0	1	1	柱頭「Y」字状。
54	受部付柱材片	c-67-10-c c-67-20-b	8465	建材集中3	股木	○	カバノキ	( 222.80 ) 14.10 12.50	( 16300.0 )	1	6	6点中2点接合2点実測。柱頭「Y」字状。
55	桁・梁材片	c-67-01-d c-67-10-b c-67-00-c	12589	建材集中3	丸木		コナラ	( 233.70 ) 12.30 ( 6.30 ) ( 167.90 ) ( 8.90 ) ( 7.80 )	( 7500.0 ) ( 4250.0 )	1	1	下部が太く、切截痕、斜り痕あり。
56	桁・梁材片	c-67-10-b	12555	建材集中3	丸木		コナラ	( 167.90 ) ( 8.90 ) ( 7.80 )	( 4250.0 )	1	1	
57	受部付柱材	c-67-10-b c-67-00-c	12463	建材集中3	股木		コナラ	150.50 15.30 11.60	9000.0	1	1	柱頭「Y」字状。
58	柱材片	c-67-00-c	9003	建材集中3	丸木	○	コナラ	( 161.90 ) 18.00 11.40	( 12600.0 )	1	1	下部が屈曲。
59	受部付建材切断品片	c-67-10-b	12495	建材集中3	股木	○	ハリギリ	( 40.20 ) 23.00 14.40	( 5500.0 )	1	1	「Y」字状。刃物痕多数あり。



(7) 双礫 (図V-22・23、表V-13)

双礫は2カ所検出された。標高4.0m~4.5mの斜面裾部分に1カ所、標高3.5mの低い部分で1カ所。双礫は、他の遺構の近くに検出されることはあまりなく、どちらかといえば単独で出土することが多いために、その用途はいまだ不明である。

今迄の報告済みの双礫の形態はほとんどが扁平な転礫であった。双礫1は扁平な転礫であったが双礫2のひとつは棒状楕円礫である。大きさは、双礫2の片方が小さく、それを除いた平均568gであり、IB-1層の平均1280gの1/2以下である。石質は双礫1が2個とも片麻岩である。以上が今回報告の双礫の平均像である。

双礫2は上述の平均像と大きさ、形態、重量、石質の点で相違が目立つ。このような例はIB-2層で2例、IB-3層で1例みられる。

(8) 集石 (図V-22・23、表V-13・14、図版2-3・4・24)

集石は11カ所検出された。IB-1層で40カ所、IB-2層で30カ所、IB-3層で35カ所であり低湿部のなかで最少である。木製品やほかの遺物の数は0B層が最多であるのと異なっている。舟着場の北スロープ付近と灰集中10の西側に多く検出された。IB-1層~IB-3層の集石は住居遺構のそばに分布する傾向があった。0B層においては集石11、集石13にその傾向がうかがえる。しかしその他は住居遺構の近くに分布することはない。

集石の状態には大きく分けて2種類あり、分布のありかたも異なる。

ひとつは礫と礫が密集している集石である。この範疇にはいる集石は、集石4・10・11・12・15・16・17・18・19である。さらに密集型集石は、個数が10個未満の少数型集石と個数が10個以上の多数型集石に分かれる。少数型集石の範疇にはいる集石は、集石4・12・15・18・19である。多数型集石の範疇にはいる集石は、集石10・11・16・17である。もうひとつは、緩やかに集まっている集石である。この範疇にはいる集石は、集石13・14である。

IB-1層において、疎散型集石のなかでの細分の可能性を以下のように指摘した。個数が10個未満の集石と個数が100個以上の集石があり、疎散型集石の個数の範囲は10個以上100個未満が普通である。0B層においても疎散型集石の傾向は変わらない。

図V-23-7は集石13の砥石である。極細粒砂岩で1主面と1側面は非常によく使用されている。その他の2面には使用痕はあるが疎らである。

(9) 灰集中 (図V-24~37、表V-14~22・24・25、図版24~30)

灰集中10 (第1灰層)・12・13は0B層上面、灰集中10 (第2灰層)・15・17・18・19・20は0B層上層、灰集中14・16は0B層下層である。灰集中はTa-b降下後の0B層下層には少なく、上層以降に頻繁な遺構の形成がみられる。Ta-a降下直前まで遺跡内の活動が活発だったことがわかる。

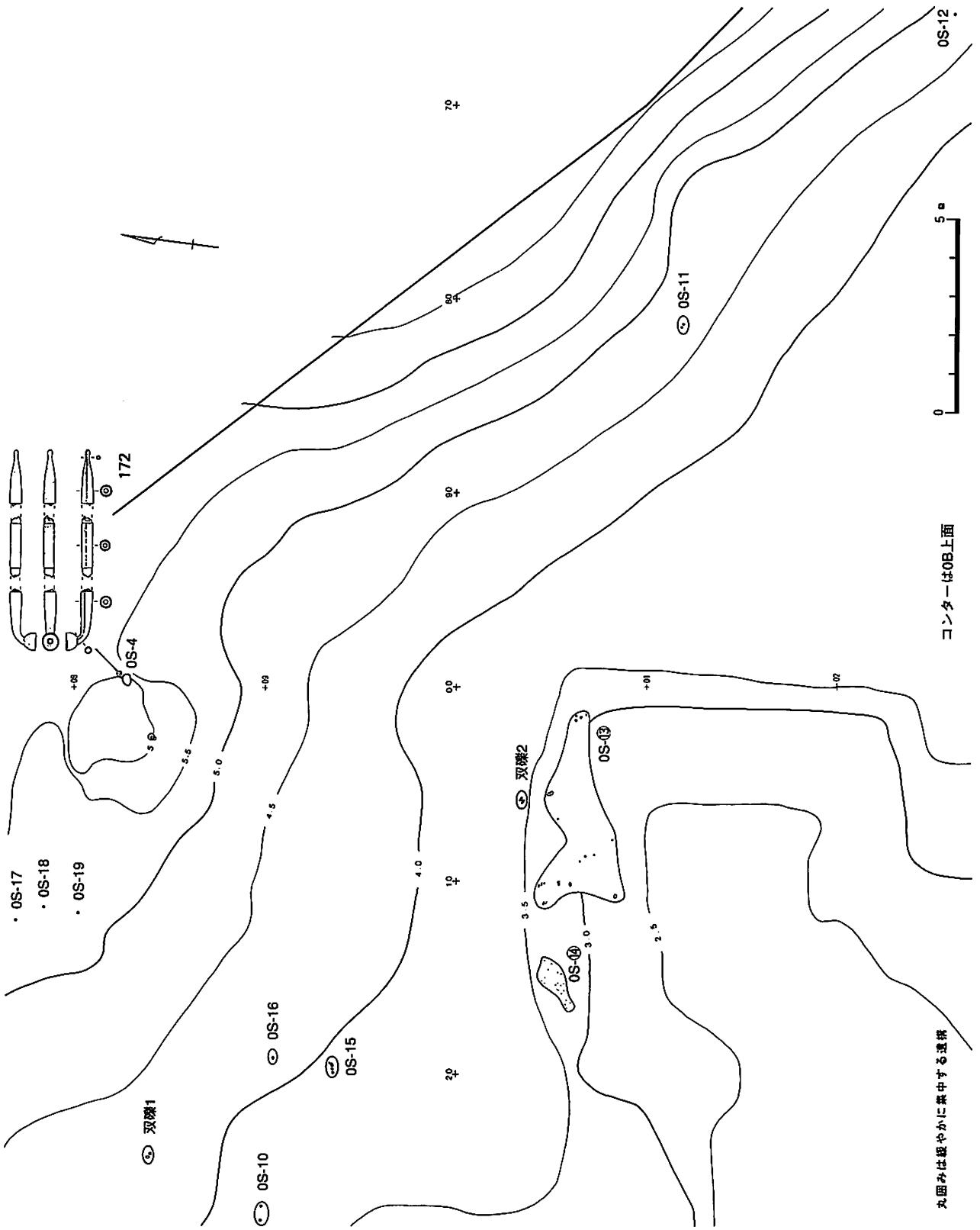
低湿部における灰集中の増加傾向は各集中の増加傾向と同じくIB-1層のころから始まる。

灰集中10 (図V-25~36、表V-14~22、図版3、カラー図版7-2)

第1灰層と第2灰層は同じ傾向を持つことから、同じ性格の遺構であることがわかる。道具、灰、穀物、魚介類、獣類を送った遺構である。

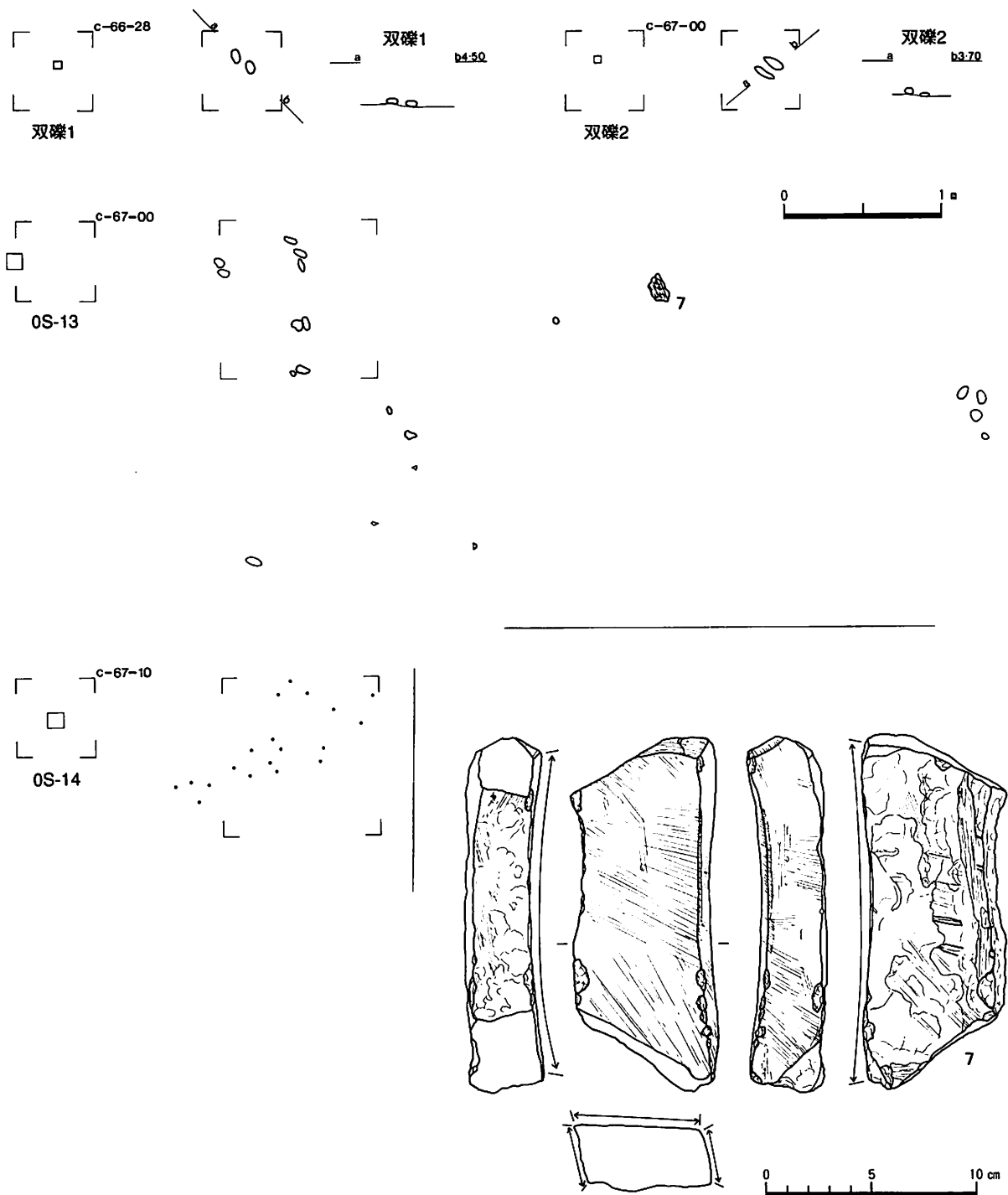
灰集中10 (第1灰層)                      中心位置 : c-66-08-b                      平面積 : 13.29㎡

標高5.5~5.7m、ほぼ隅丸方形。Ta-a除去後マウンド状の盛り上がりとして確認した。純灰層と混灰炭化物層の互層によって構成されている。遺構表面の遺物は測点して取上げ、そのあと50cm×50cmで土壌ごと取り上げた。採取した土壌は水洗選別とフローテーションを併用した。その結果、純灰層と混灰炭化物層の両者からは伊万里染付碗、火打石、火打石フレイク、ガラス製品、金属製品な



図V-22 双碟、集石分布図

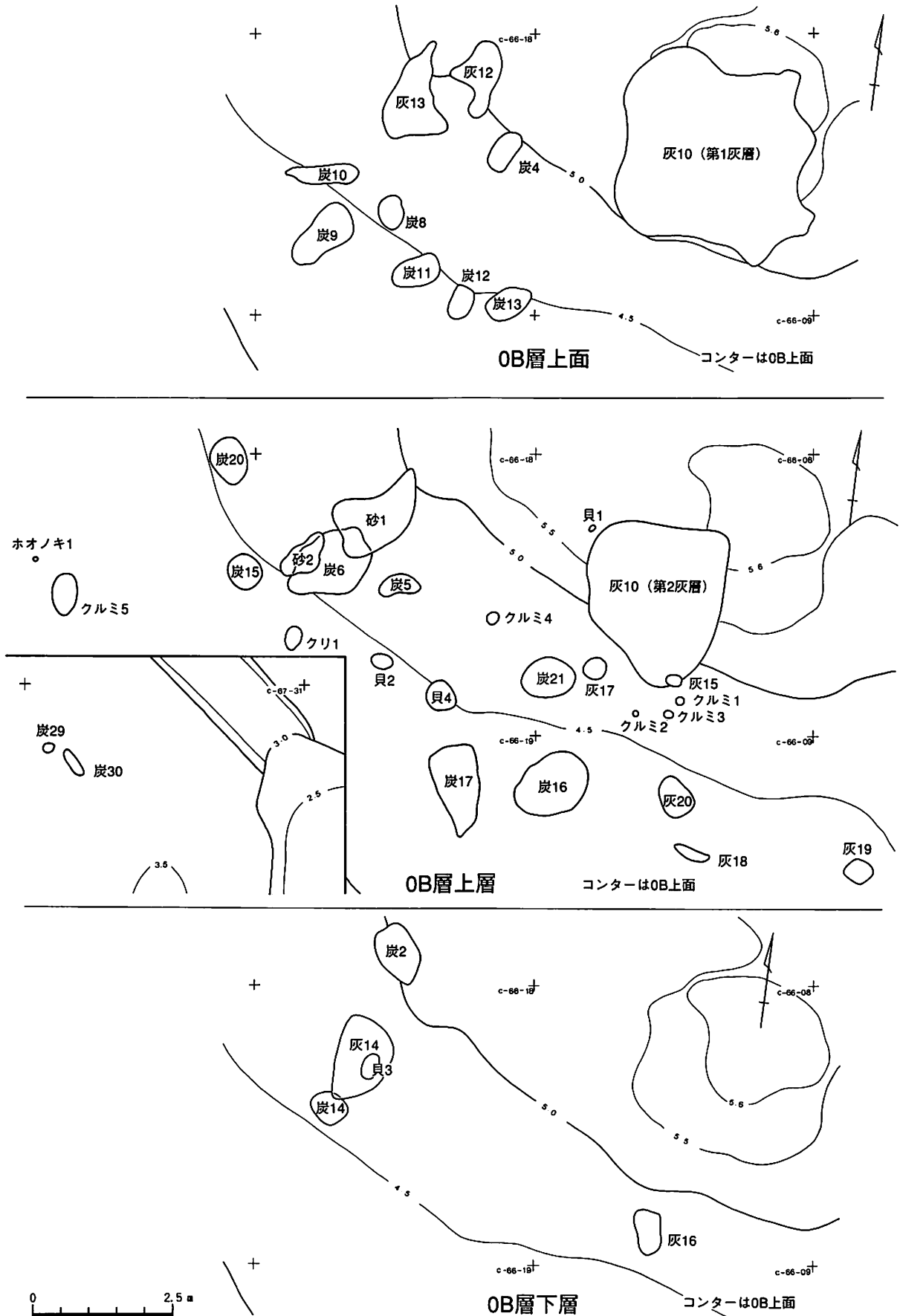
V 第0 黑色土層の調査



図V-23 双磔1・2、集石13・14と集石13の石製品

表V-13 双磔・集石一覧

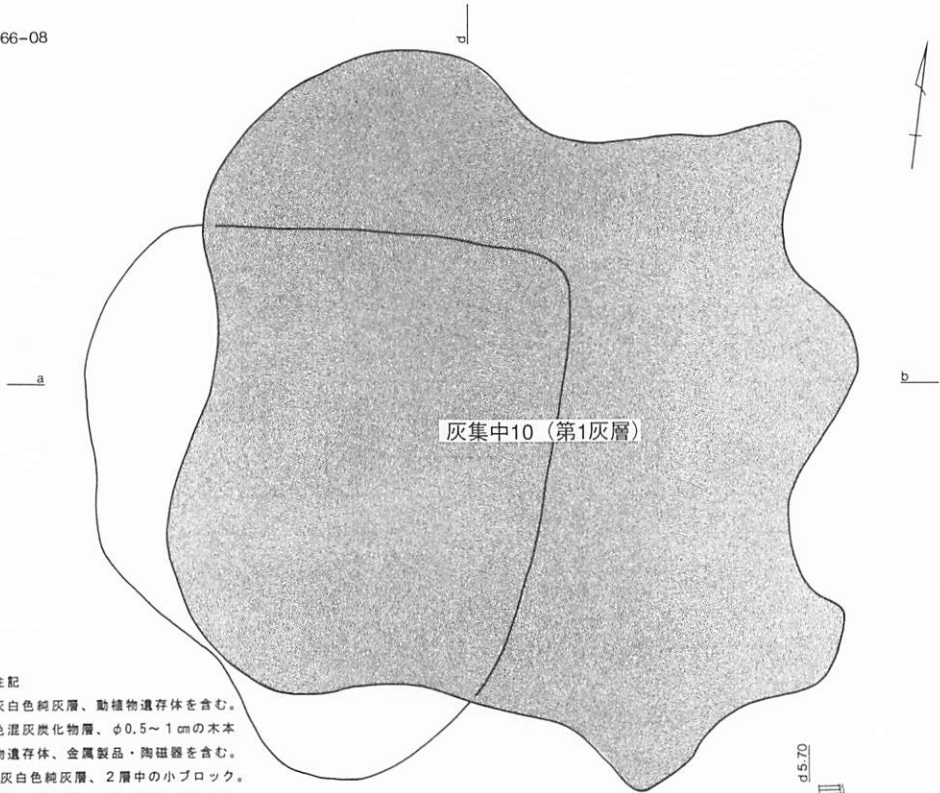
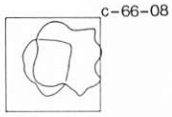
遺構名	発掘区	層位	大きさ (cm × cm)		重量 (g)	石質	個数
双磔1	c-66-28-a	OB	12.37 × 8.96 × 2.81	12.46 × 9.69 × 4.08	512.0、728.0	片麻岩、片麻岩	2
双磔2	c-67-00-d	OB	12.29 × 6.34 × 5.20	10.79 × 9.30 × 1.59	466.8、168.7	チャート、砂岩	2
集石4	d-66-98-d	OB					8
集石10	c-66-28-c・c-66-29-d	OB					11
集石11	d-67-81-a	OB					16
集石12	d-67-62-c	OB					6
集石13	c-67-00-b・c-67-00-c・ c-67-10-a・c-67-10-b	OB					21
集石14	c-67-10-b・c-67-10-c・ c-67-10-d	OB					19
集石15	c-66-19-d	OB					5
集石16	c-66-19-d	OB					31
集石17	c-66-17-b	OB斜面					14
集石18	c-66-17-b	OB斜面					4
集石19	c-66-18-a	OB斜面					4



図V-24 各集中細分層別分布図

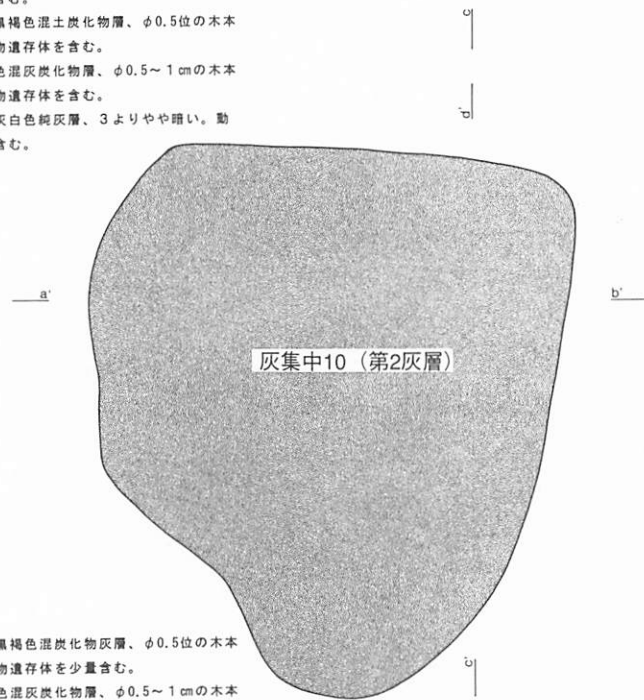


V 第0 黑色土層の調査

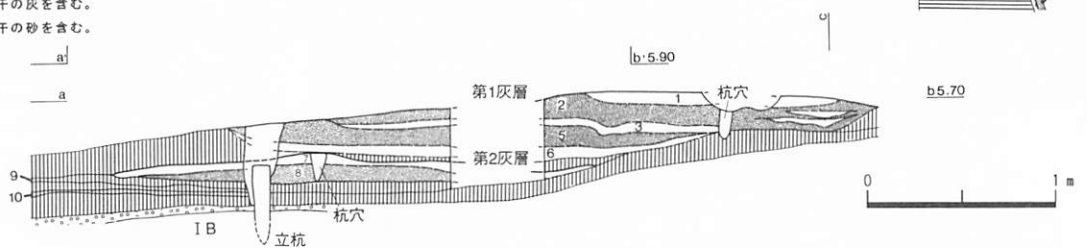
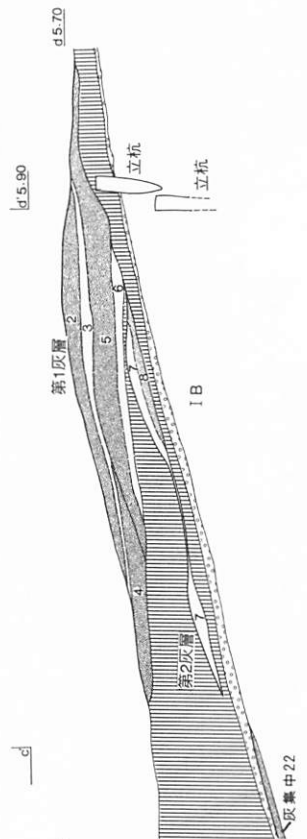


灰集中10 土層注記

- 1: 第一灰層、明灰白色純灰層、動物遺存体を含む。
- 2: 第一灰層、黒色混炭化物層、 $\phi 0.5 \sim 1$  cmの本木炭化・物動物遺存体、金属製品・陶磁器を含む。
- 2': 第一灰層、明灰白色純灰層、2層中の小ブロック。
- 3: 第一灰層、明灰白色純灰層、1よりやや暗い。動物遺存体を含む。
- 4: 第一灰層、暗黒褐色混炭化物層、 $\phi 0.5$ 位の本木炭化・物動物遺存体を含む。
- 5: 第一灰層、黒色混炭化物層、 $\phi 0.5 \sim 1$  cmの本木炭化・物動物遺存体を含む。
- 6: 第一灰層、明灰白色純灰層、3よりやや暗い。動物遺存体を含む。

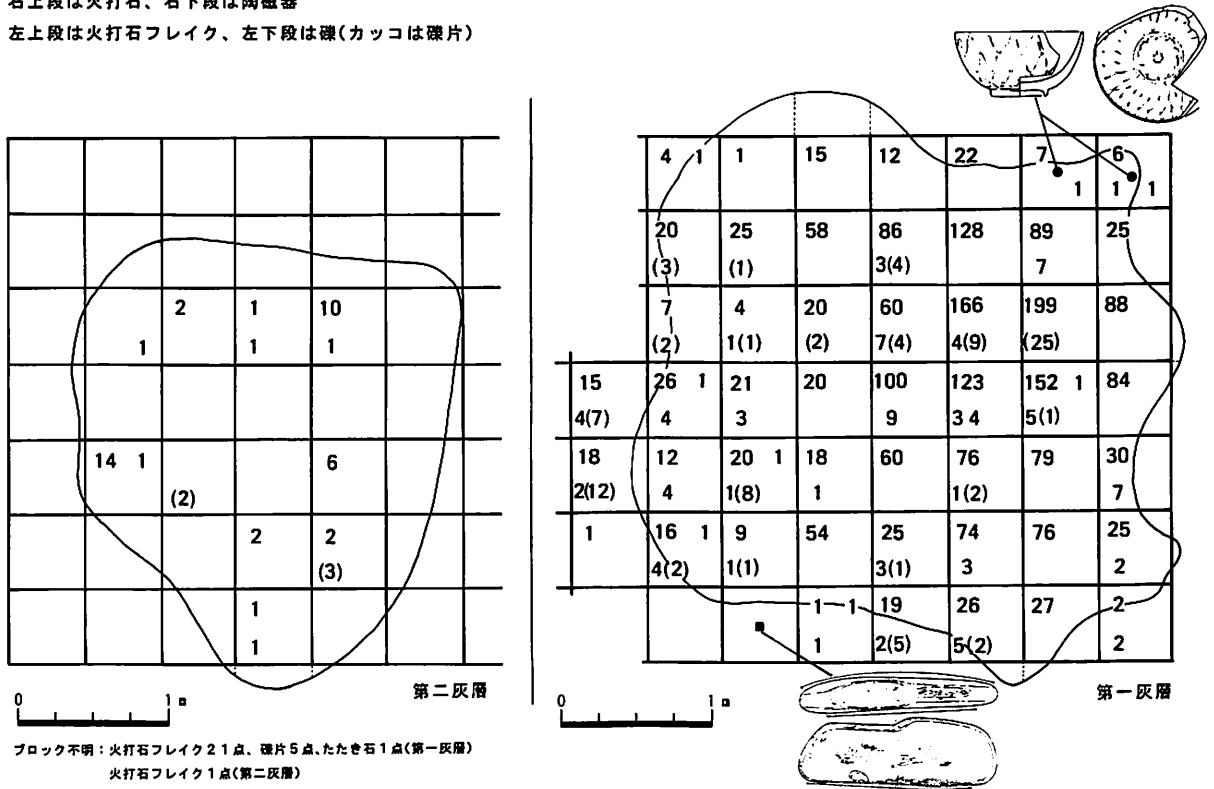


- 7: 第二灰層、暗黒褐色混炭化物灰層、 $\phi 0.5$ 位の本木炭化・物動物遺存体を少量含む。
- 8: 第二灰層、黒色混炭化物層、 $\phi 0.5 \sim 1$  cmの本木炭化・物動物遺存体を含む。
- 9: 0 B層、若干の灰を含む。
- 10: 0 B層、若干の砂を含む。

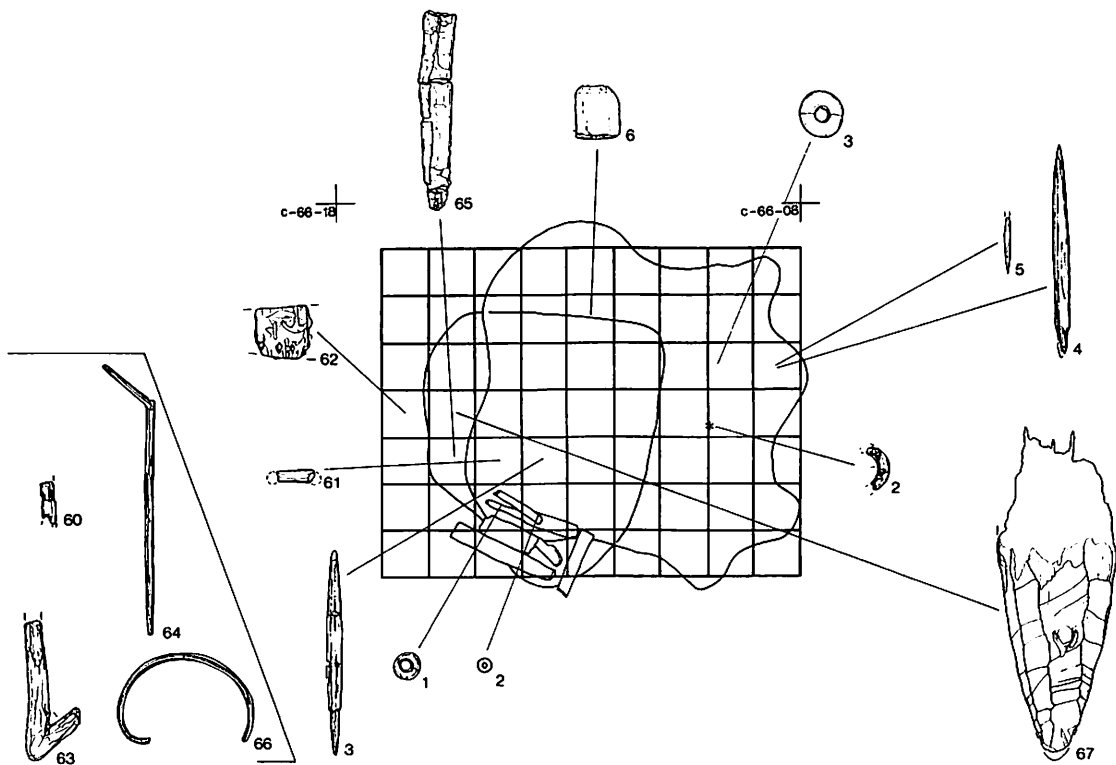


図V-25 灰集中10 (第1灰層, 第2灰層)

右上段は火打石、右下段は陶磁器  
 左上段は火打石フレイク、左下段は礫(カッコは礫片)

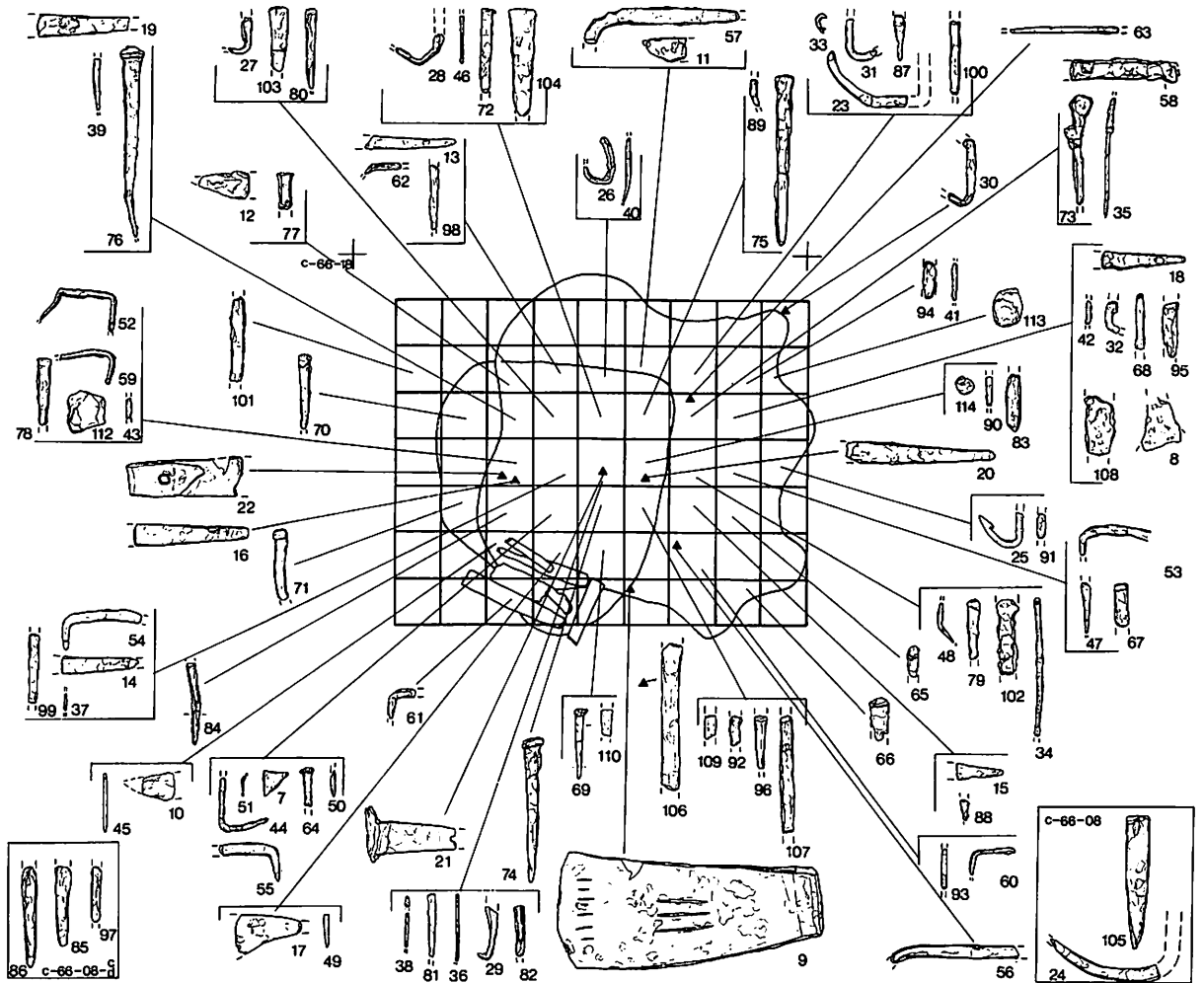


図V-26 灰集中10の陶磁器・石器・石製品分布図

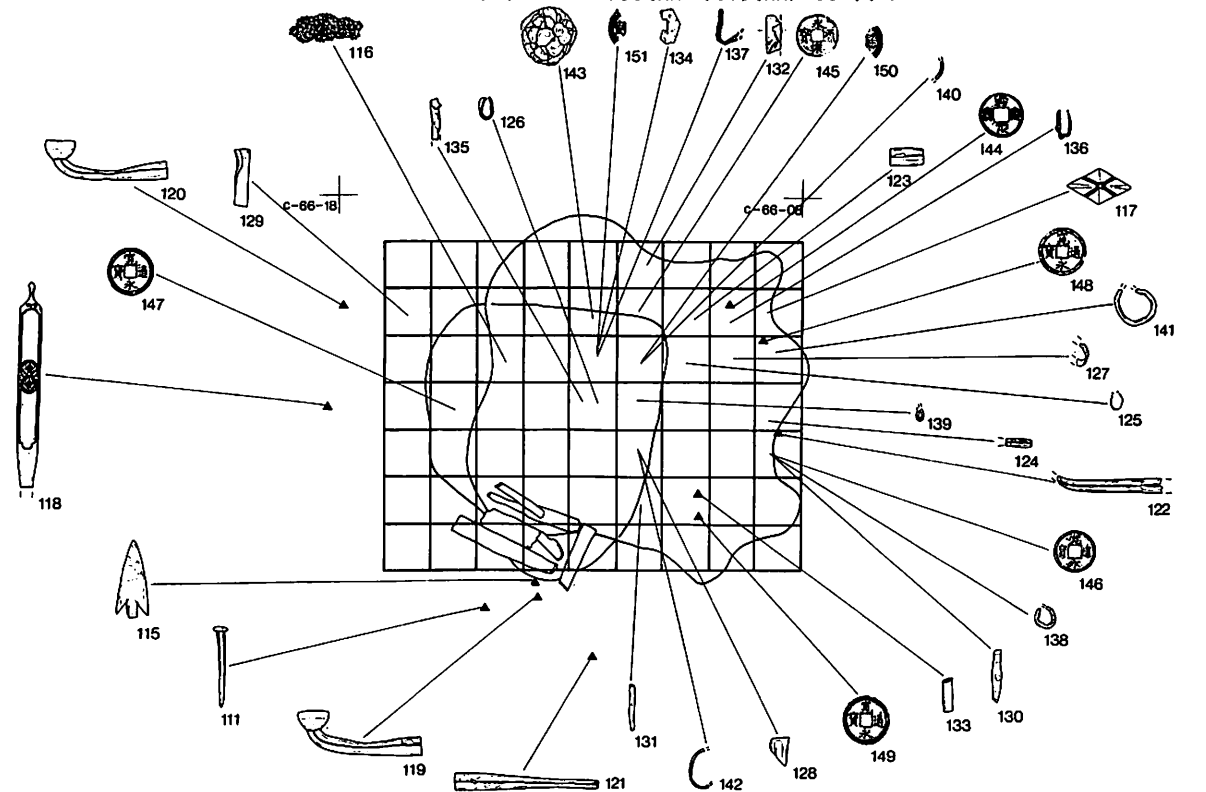


図V-27 灰集中10のガラス製品・骨角製品・木製品・樹皮製品分布図

V 第0黒色土層の調査



図V-28 灰集中10の金属製品（鉄製品）分布図



図V-29 灰集中10の金属製品（銅製品等）分布図

どが出土している。また、栽培種子8種、野生木本種子16属、野生草本種子7科、17属、貝魚類（淡水・鹹水産）、獣骨が炭化・未炭化で検出された（詳細はⅧ章-2・3節参照）。

灰集中10（第2灰層） 中心位置：c-66-08-c 平面積：9.06㎡

標高5.3m、ほぼ隅丸台形。第1灰層調査後、0B層調査中にマウンド状の盛り上がりとして確認した。第1灰層と第2灰層は一部0B層を挟んでいるため遺構形成に時間差がある。しかしながら、同一包含層内であること、両者がほぼ重なることから、新たな遺構名を付さなかった。第1灰層よりもやや薄い純灰層と混灰炭化物層の互層によって構成されている。遺物は50cm×50cmで土壌ごと取り上げた。採取した土壌は水洗選別とフローテーションを併用した。その結果、純灰層と混灰炭化物層の両者からは火打石、火打石フレイク、金属製品など出土している。また、栽培種子7種、野生木本種子14属、野生草本種子6科、13属、貝魚類（淡水・鹹水産）、獣骨が炭化・未炭化で検出された（詳細はⅧ章-2・3節参照）。遺物の種類・量は第1灰層に比べると少ない。

#### 遺物の分布：第1灰層について

垂直分布については前述したように純灰層と混灰炭化物層の両層から検出されており特定の遺物が特定の層から出土するという事はなかった。水平分布についても同じ傾向がある。

また、灰集中10の範囲外からもこの遺構に関係していたと思われる出土状況を示す遺物が出土している。これは、灰集中10の範囲が灰の濃いところを目安に線引きされたので、物送り場としては範囲が広がっているものと思われる。

伊万里染付碗は北東隅に2点出土しているが、接合破片の主体は遺構外にある（図V-43参照）。火打石、火打石フレイクと礫は北東部に集中する傾向が、ガラス製品は遺構の周縁に、鉄製品はやや中央に満遍なく、非鉄金属は東側に出土する。種子ではイネと雑穀の分布が少し異なり、食用・薬用植物は量も多く満遍なく出土する。貝魚類・獣骨は遺構の中央に多く出土する。

遺物について（図V-30~36、表V-14~21、図版24~29、カラー図版12-1）

#### 陶磁器

3は伊万里染付碗。灰色がかかる藍色の呉須で外面は、割筆の「二重網目文」、外底面は「渦福」内面は「網目文」、内底面は「菊花」を描く。年代は17世紀末~18世紀第3四半期である。

#### 石器・石製品

8~17は火打石。9・12・13は剥片状の薄いものを素材とする。9は縦長剥片の転用と思われる。8・10・11は礫片を使用する。10はよく使用されて稜はつぶれている。15は10よりよく使用されて稜はつぶれて丸くなっている。18は極細粒砂岩の砥石。全面に使用痕はつくがあまり使われていない。両主面に敲打痕がある。 (鈴木 信)

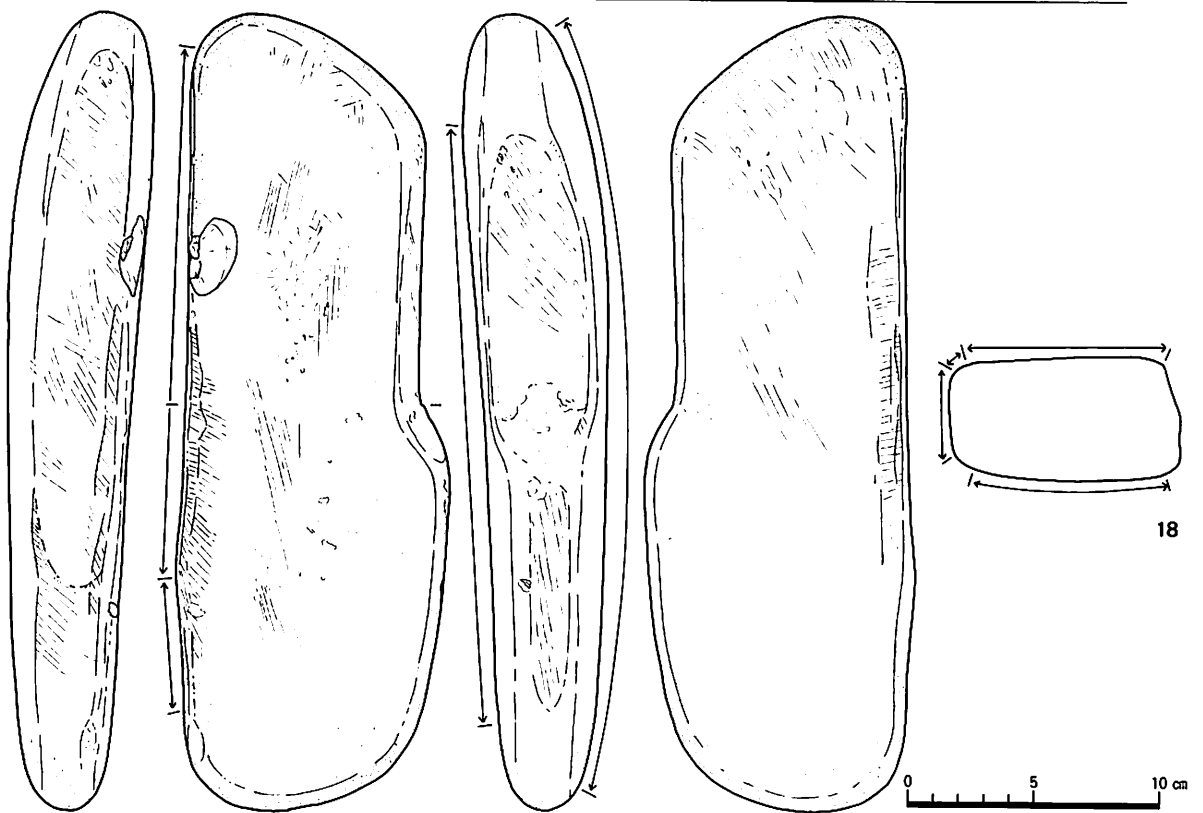
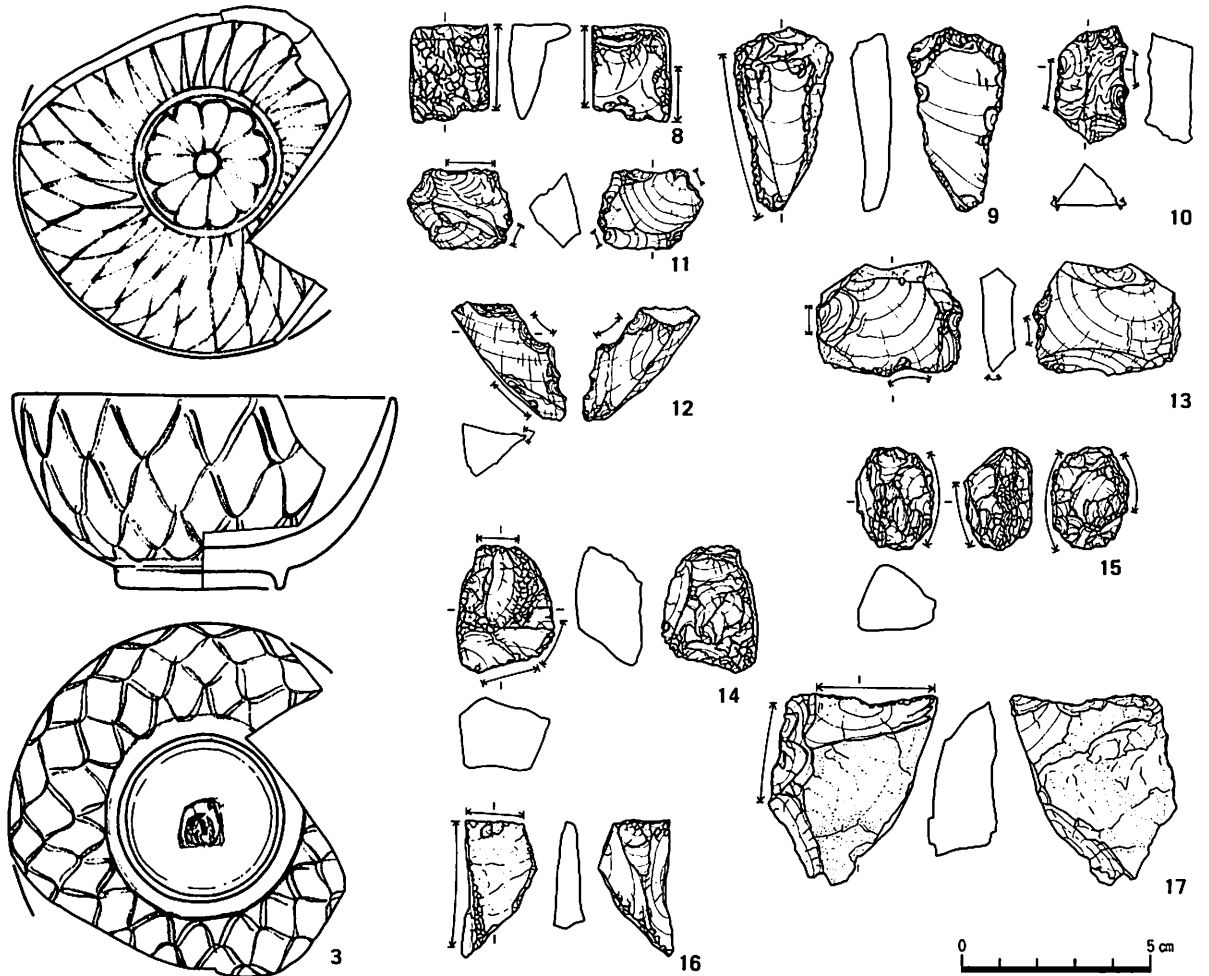
#### ガラス製品（図V-27・31、表V-15、図版25-1）

2点のガラス玉は、第1灰層の南西縁辺部に配置された板材の周辺から出土した。2は無色半透明のビーズで、ややつぶれた丸形である。3は4片に割れて出土した。風化して白色となった丸玉と考えられる。しかし、多孔質的箇所が見られることから骨角製の可能性もある。 (田口 尚)

#### 骨角製品（図V-27・31、表V-16、図版25-1）

1は獣骨製のやや扁平な平玉である。径5mmの孔が穿孔されている。2は半損した環状装飾品の破片である。亀甲製と思われる。表裏に三螺子蛇目紋が刻まれ、文様が一面に6個配置されていたと推測される。根付けであろうか。3・4は矢中柄（マカニッ）片であり、裏面は茎部上から先端部付近まで、浅い溝状に凹んでいる。3の先端部はわずかに破損しているが、矢（鏃）の装着のための扁平な削りがみられる。胴部断面は三角形で、茎部断面は丸形である。茎部には矢柄装入による摩耗痕が認





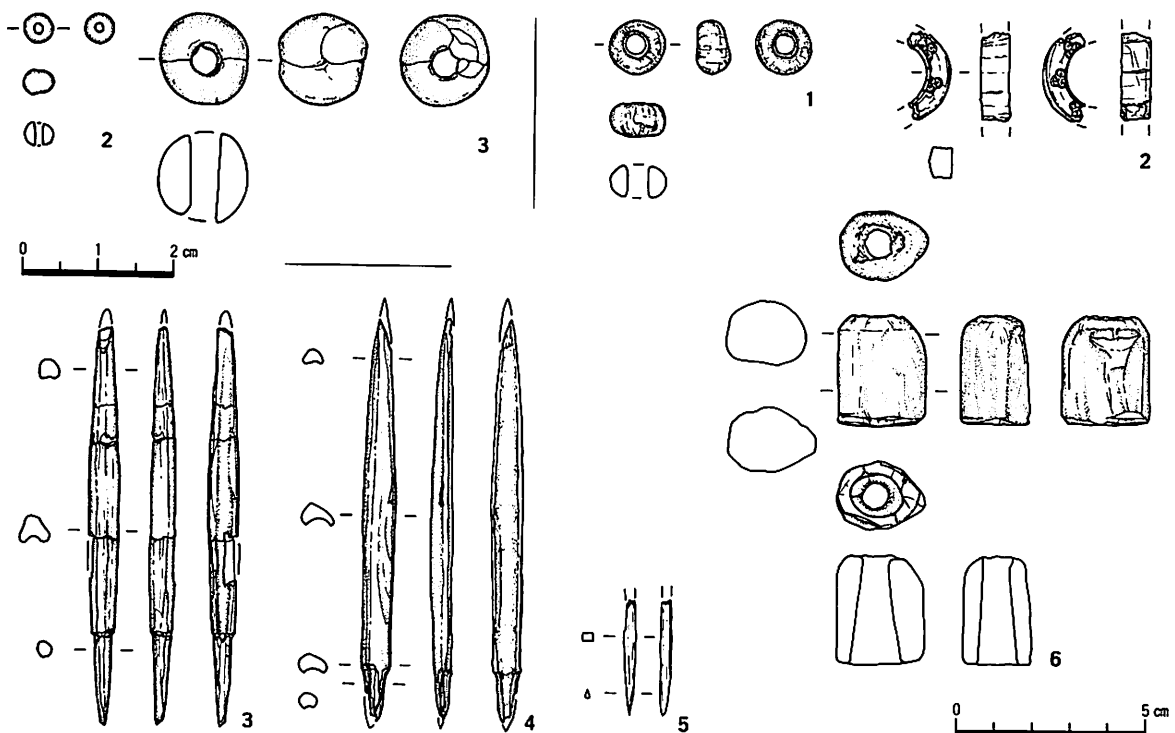
図V-30 灰集中10の陶磁器・石器・石製品

められる。4の先端部は折削がれたように欠損している。胴部断面はつぶれた三角形である。茎部先端はつぶれて欠損している。3・4はともにシカ中足骨製である。5は上部を欠損した獣骨製の針(ケム)片である。中央断面は長方形である。6は魚突鉤銛台(マレツ)の先端部に装着される石突部と考えられる。断面は楕円形であり、開口部径13.5mmの孔が貫通している。上部や下部周辺には刃物による削痕が残る。上端部には使用時の打撃痕及び摩耗痕が見られる。シカ角製である。銛台先端の保護用キャップであろうか。鉄製魚突鉤先端の保護との見方もある。なお、平成3年度(北埋調報83)には、石突保護具を装着していたとみられる魚突鉤銛台が出土している。劣化の著しい骨角製品にはパラロイドB72を塗布し、強化した。(田口 尚)

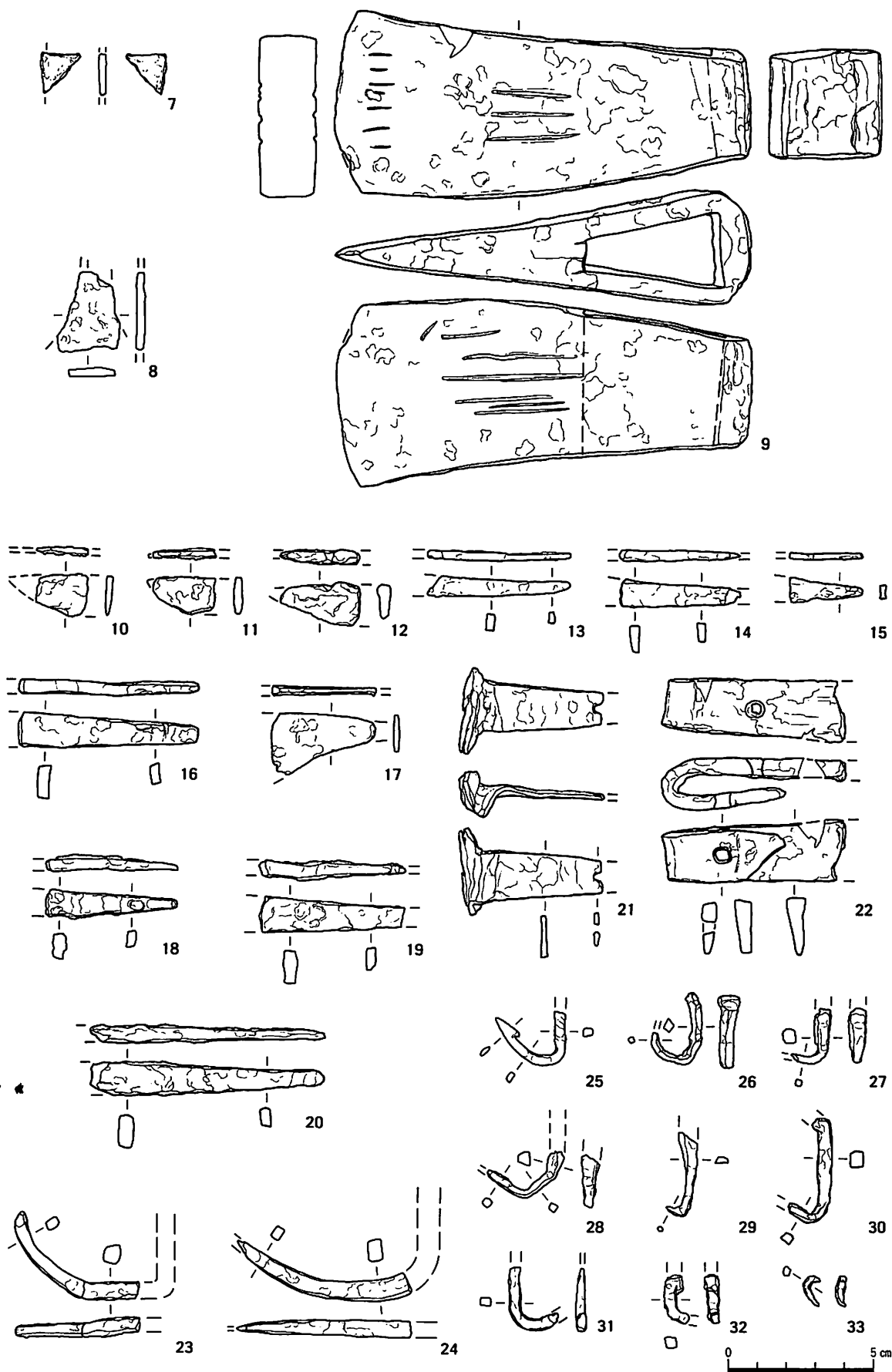
#### 金属製品(図V-28・29・32~35、表V-17~20、図版25-2~29-1)

灰集中10から出土した金属製品の多くは、水洗選別及び浮遊選別によって検出された。平成4年度出土金属製品の60%以上が灰集中10から出土しており、遺跡全体で最も各種金属製品が密集する地点である。金属製品は灰集中10のほぼ全域に分布し、周辺にも分布が広がっている。ただし、材質によってやや異なった分布を示している。鉄製品は製品の種類を問わず灰集中の中心部に分布するものが多く、銅製品では灰域の縁辺部から出土しているものが多い。銭貨は灰域の東側に分布が偏っている。この地点において、各種生活用具とともに「物送り」(イワクテ)されたと考えられる。

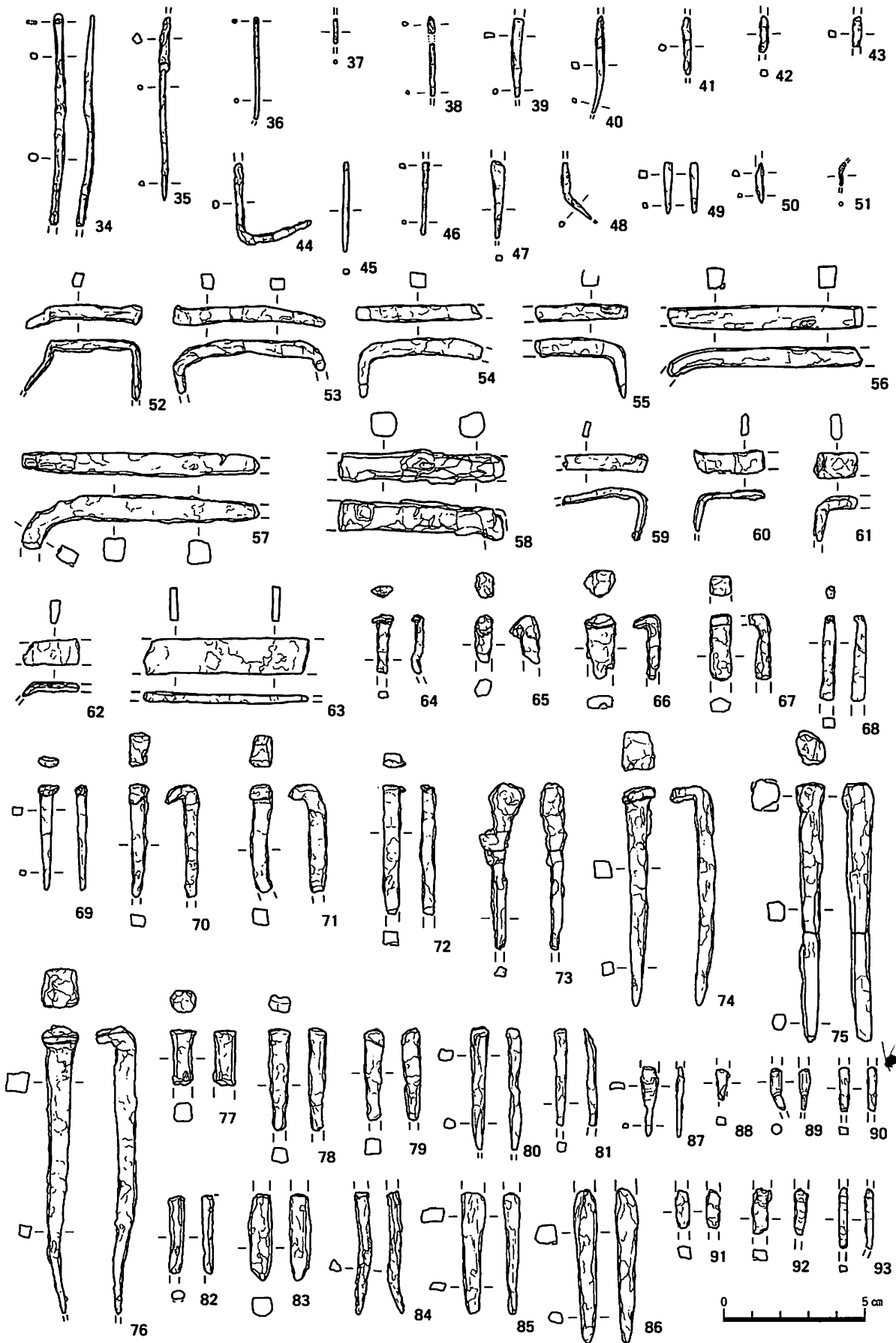
7・8は鉄鍋の胴部小破片である。8の縁辺は整形されており鉄鏝として使用された可能性がある。9は柄孔式の鉄斧である。刃先端部は弧状の凸形で、緩やかに幅広となる。表面の刃部側には6本の短い刻み列と3本の樋があり、裏面には6本の樋が刻まれている。柄装着孔は刃部側に向かって細い台形である。刃幅が狭く、柄孔が細長く大きいことからヨキ(与岐)である。10~21は刀子(マキリ)である。10~12は切先片である。12の切先は切出しナイフ状に細長く、棟が叩きつぶれている。イナウケマキリであろうか。13~21は茎片である。21は刃部から刃区部分が折りたたまれるようにつぶれており、目釘孔から折損している。17・21は鎌片の可能性もある。22は刀茎部と考えられ、折りつぶ



図V-31 灰集中10のガラス製品・骨角製品

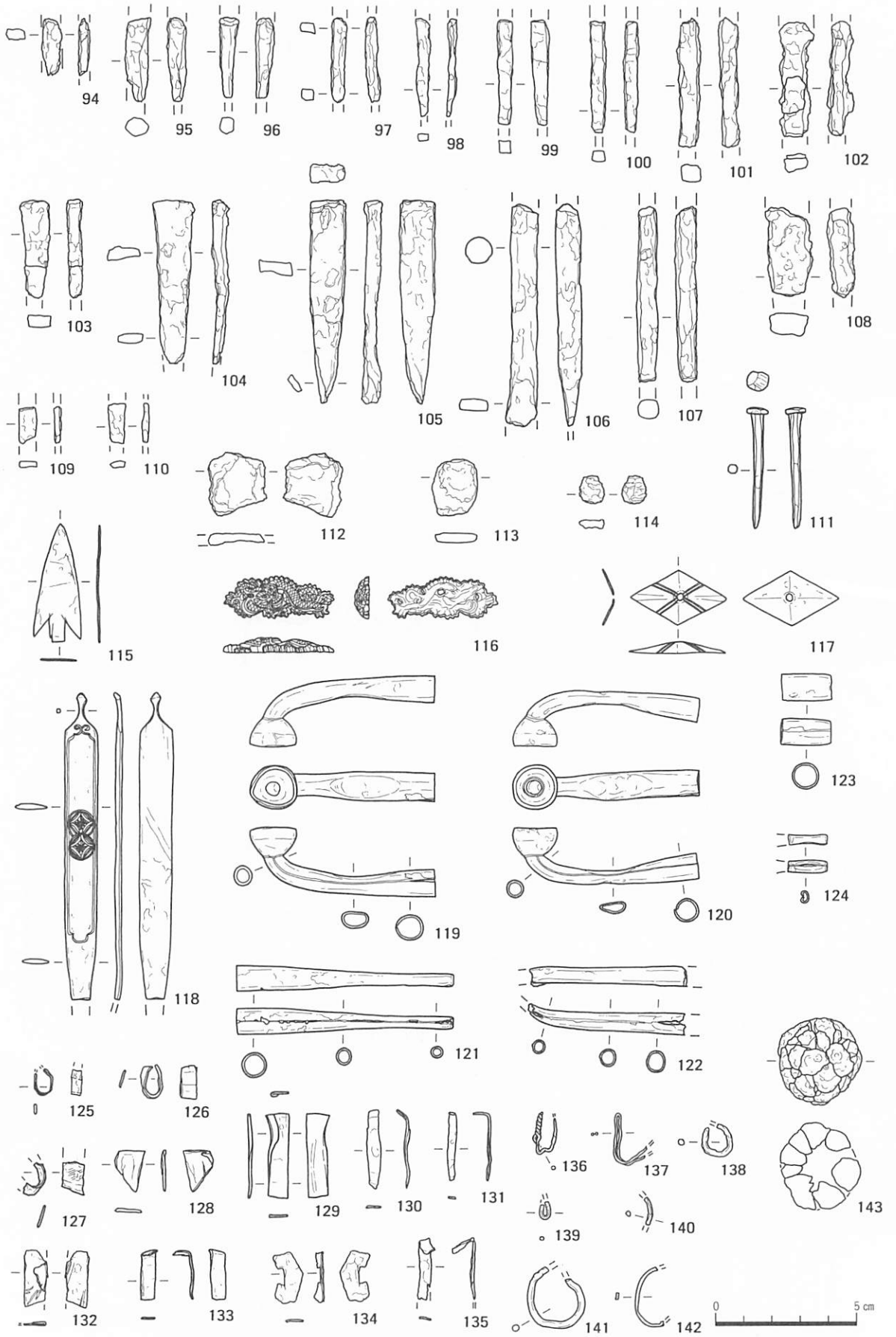


図V-32 灰集中10の金属製品 (1)

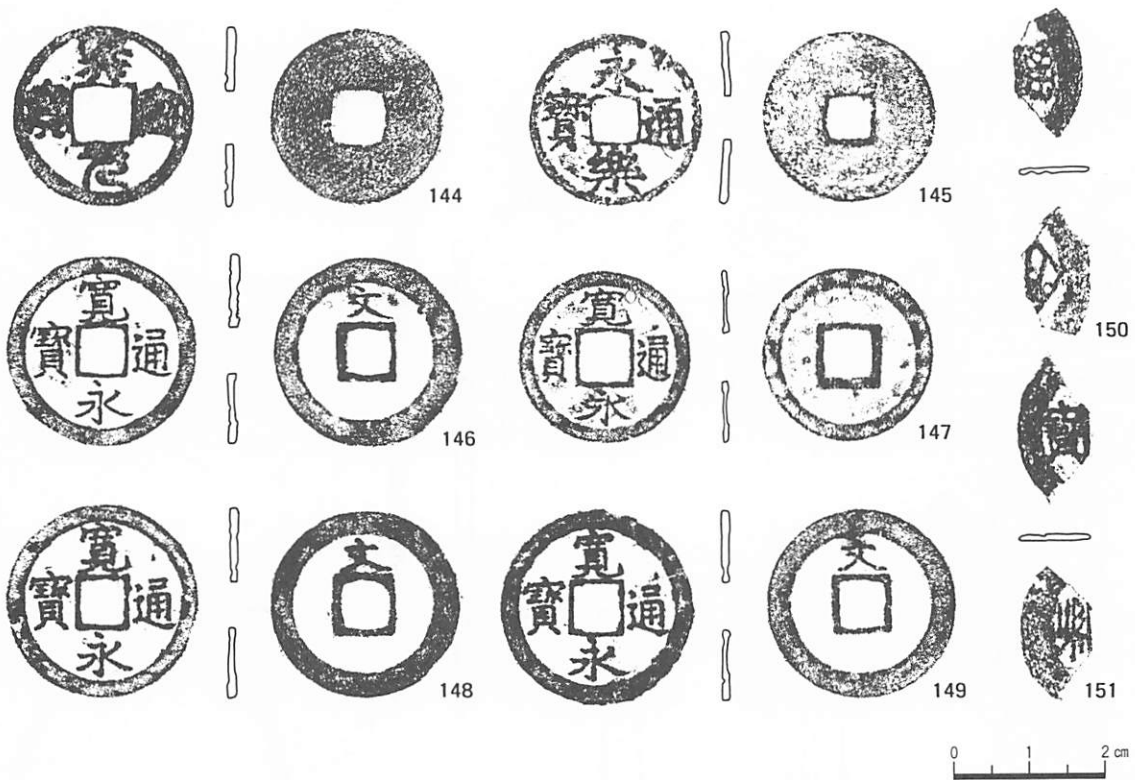


図V-33 灰集中10の金属製品 (2)



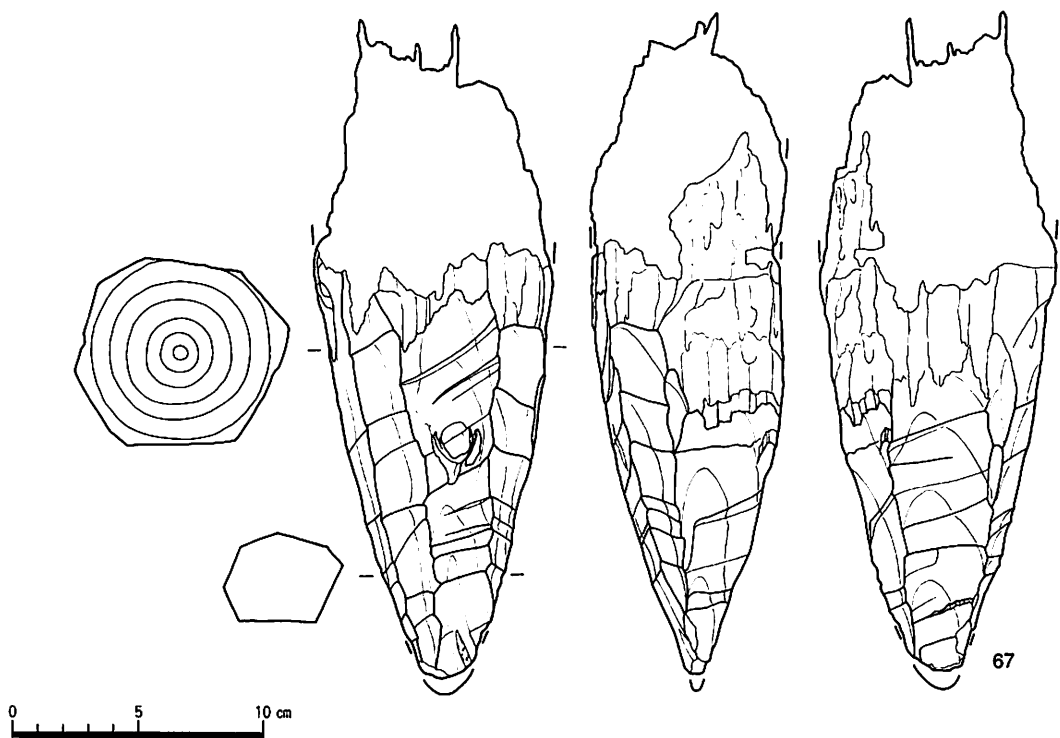
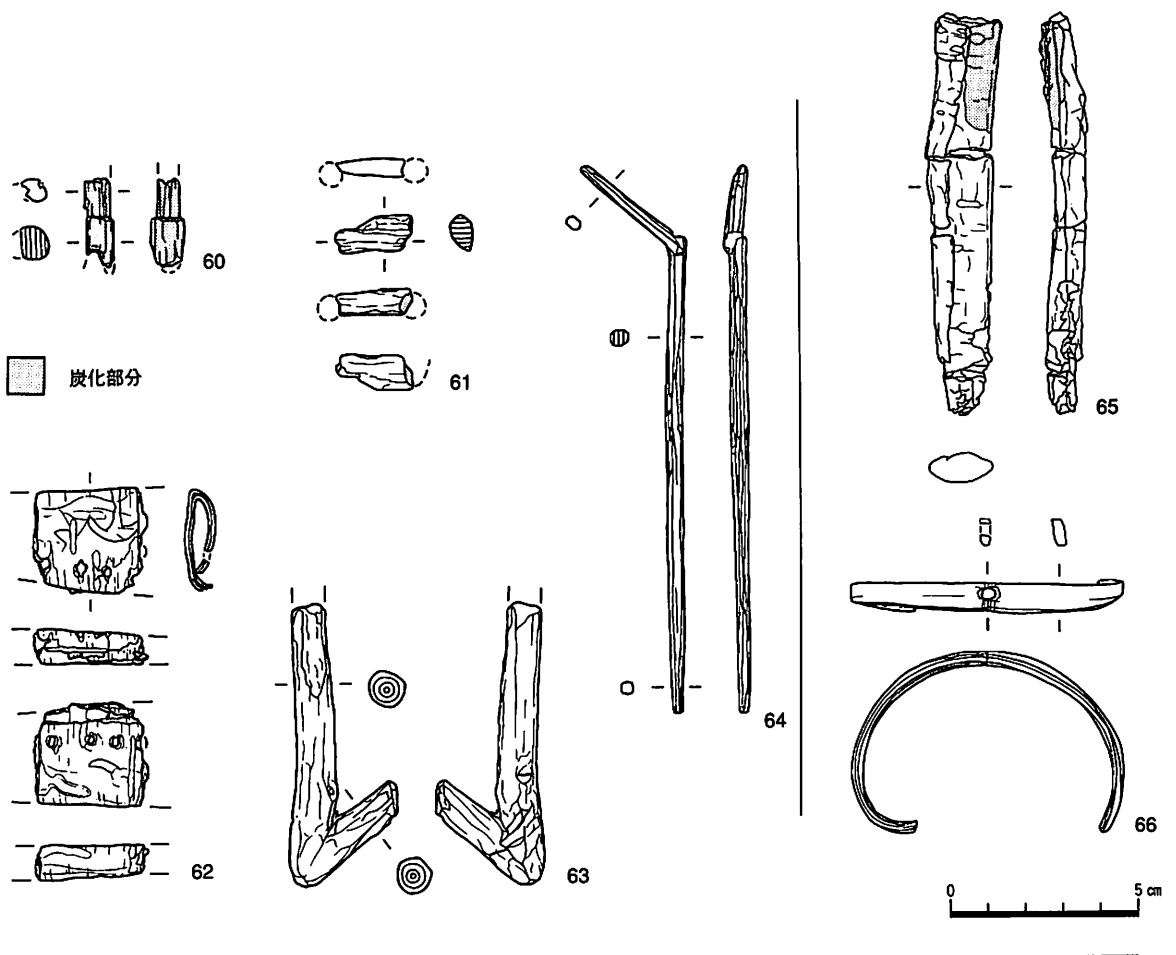


図V-34 灰集中10の金属製品 (3)



図V-35 灰集中10の金属製品(4)

れている。目釘孔が2カ所ある。23・24は魚突鉤鈔(マレツ)の先端部破片である。25~33は釣針片である。25の先端には逆刺しが作出され、器厚が薄い。24~33の断面は方形であり、26・30・32の基部は糸を縛るために折り叩かれ肉厚となっている。34から51は縫針片である。39・40・44~51は先端破片である。針には34~38のような丸針と39~50のような角針がある。39の基部は扁平であり、糸孔がある。36にも径0.7mm前後の糸孔がある。52~63はカスガイである。52~58は胴部断面が角形となるものである。59~63は胴部断面が平角となる、平カスガイである。火打金の可能性もある。62・63は両脚部の折れたものである。64~102は角釘(和釘)として一括した。完形のは少ないが、頭部形態や断面形により、折釘(64~76)、角釘(75・77~80・82)、平釘(103~105)に分けられる。折釘の折部は胴部よりも肉薄の平折釘となるものが多い。106は丸棒の先端をつぶしたタガネ状のものである。107は角棒状の鉄片、108は平角状の鉄片、109・110は小さく平らな鉄板片である。111~114は腐食が著しく鉄片としたが、鉄鍋片の可能性もある。115は薄い銅製の矢(鏃)である。返しが付き、有茎である。116・118は三所物と呼ばれる刀装具のうちのふたつである。116は細密な龍文様の目貫、118は表面に七宝紋が彫金された筭片である。117は行器(シントコ)脚に付けられた四つ菱紋の飾金具である。119~120・122はキセル雁首である。119・120は脂返しが大きく湾曲する河骨形で、灰落しのための背面のつぶれが顕著である。119の火皿上面観は三角形である。2点とも補強帯が見られないことから、古泉分類の雁首第Ⅱ類Bに相当する。122は火皿部を欠損している。121・123・124はキセル吸口である。121は肩を持たない、古泉分類の吸口第Ⅱ類Bに相当する。123は吸口側の胴金(肩)と考えられ、古泉分類の吸口第Ⅰ類Bの一部であろうか。124は吸口末端部の破片である。125~127は環状の銅板片である。128~133・135は銅板片であり、130・131・133・135の上部は屈曲し細長い。小刀等の縁金具であろうか。134は多角形で抉りがある飾金具である。136は二本の細い針



図V-36 灰集中10の木製品・樹皮製品

表V-14 灰集中10・集石13 掲載陶磁器・石器・石製品

図番号	遺物名称	主な発掘区	遺構名	層名	備考	
3	染付碗	c-66-08-a, d-66-89-d	灰集中10	第一灰層	伊万里	復元口径10.2cm 器高5.1cm 10点接合
7	砥石	c-67-00-c・d	集石13	0B層	砂岩	長さ16.78cm、幅7.00cm、厚さ3.80cm、601g
8	火打ち石	c-66-08-c	灰集中10	第一灰層	チャート	長さ2.51cm、幅2.13cm、厚さ1.55cm、9.8g
9	火打ち石	c-66-08-d	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩	長さ4.76cm、幅2.66cm、厚さ1.43cm、14.9g
10	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	チャート	長さ3.05cm、幅1.96cm、厚さ1.25cm、8.2g
11	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	チャート	長さ2.79cm、幅2.20cm、厚さ1.36cm、7.9g
12	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩	長さ4.07cm、幅1.52cm、厚さ1.28cm、6.7g
13	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第一灰層	メノウ	長さ3.69cm、幅2.86cm、厚さ1.18cm、17.3g
14	火打ち石	c-66-08-d	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩	長さ3.55cm、幅2.60cm、厚さ2.24cm、19.9g
15	火打ち石	c-66-08-d	灰集中10	第一灰層	珪質頁岩	長さ2.77cm、幅2.05cm、厚さ1.91cm、12.7g
16	火打ち石	c-66-08-c	灰集中10	第二灰層	珪質頁岩	長さ3.62cm、幅1.83cm、厚さ0.89cm、5.3g
17	火打ち石	c-66-08-a	灰集中10	第二灰層	珪質頁岩	長さ5.80cm、幅3.84cm、厚さ1.60cm、38.9g
18	砥石	c-66-08-c	灰集中10	第一灰層	砂岩	長さ31.6cm、幅10.9cm、厚さ5.80cm、3050g

表V-15 灰集中10 掲載ガラス製品

図番号	図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)			重量(g)	個数	破数	備考
2	25	ガラス玉	c-66-08-c	7189	灰集中10-41	0.40	0.40	0.32	0.1	1	1	無色半透明。ビーズ玉。材質分析中。
3	25	ガラス玉	c-66-08-a	7702	灰集中10-10	1.22	1.22	1.23	1.2	1	4	風化。4点接合。白色。丸玉。材質分析中。

表V-16 灰集中10 掲載骨角製品

図番号	図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)			重量(g)	材質	個数	破数	備考
1	25	骨平玉	c-66-08-c	3238	灰集中10-48	1.50	1.50	0.90	1.5	獣骨	1	1	
2	25	環状裝飾品片	c-66-08-a	61	灰集中10-11	(2.30)	(0.60)	0.80	(1.0)	龜甲?	1	1	三線子蛇目文。
3	25	矢中柄片	c-66-08-c	2164	灰集中10-40	(10.60)	0.78	0.67	(3.7)	シカ	1	5	5点接合。中足骨。
4	25	矢中柄片	c-66-09-d	3236		(10.75)	0.82	0.55	(2.6)	シカ	1	1	中足骨。
5	25	骨針片	c-66-08-a	3237	灰集中10-3	(3.06)	0.28	0.32	(0.2)	獣骨	1	1	
6	25	魚突鉤鈎石突部	c-66-08-a	1949	灰集中10-30	2.90	2.34	1.85	10.1	シカ	1	1	鹿角。石突保護キャップ。

表V-17 灰集中10 掲載金属製品(1)

図番号	図版番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)			重量(g)	材質	個数	破数	備考	保存処理
7	25	鉄鍋片	胴部	c-66-08-c	197	灰集中10-40	(2.10)	(2.10)	0.30	(3.4)	鉄	1	1	[ス]	NAD10
8	25	鉄片?		c-66-08-a	126	灰集中10-10	(2.77)	(2.20)	0.32	(2.1)	鉄	1	1		NAD10
9	25	鉄斧(鍔)	柄孔式	c-66-08-b	14	灰集中10-28	14.35	6.41	3.95	681.0	鉄	1	1	金属材質調査。	NAD10
10	25	刀子片	切先	c-66-08-c	213	灰集中10-48	(1.80)	1.48	0.28	(1.4)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
11	25	刀子片	切先	c-66-08-a	156	灰集中10-23	(2.18)	1.29	0.41	(1.8)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
12	25	刀子片	切先	c-66-08-d	202	灰集中10-44	(2.77)	1.50	0.50	(2.7)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
13	26	刀子片	茎	c-66-08-d	188	灰集中10-37	(4.93)	0.67	0.33	(2.5)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
14	26	刀子片	茎	c-66-08-d	196	灰集中10-39	(4.18)	0.97	0.40	(2.7)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
15	26	刀子片	茎	c-66-08-b	152	灰集中10-19	(2.52)	0.85	0.24	(1.0)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
16	26	刀子片	茎	c-66-08-d	17	灰集中10-46	(6.20)	1.18	0.50	(11.2)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
17	26	刀子片	茎-区	c-66-08-c	201	灰集中10-41	(3.63)	(2.12)	0.34	(2.0)	鉄	1	2	2点接合。[マキリ]	NAD10
18	26	刀子片	茎	c-66-08-a	127	灰集中10-10	(4.57)	0.84	0.54	(4.2)	鉄	1	2	2点接合。[マキリ]	NAD10
19	26	刀子片	茎	c-66-08-d	204	灰集中10-45	(5.04)	1.22	0.62	(7.9)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
20	26	刀子片	茎	c-66-08-a	15	灰集中10-25	(8.10)	1.18	0.61	(10.8)	鉄	1	1	[マキリ]	NAD10
21	26	刀子片	茎-区	c-66-08-a	16	灰集中10-32	(4.98)	2.96	1.57	(9.7)	鉄	1	1	鎌?折れ曲がる。	NAD10
22	26	刀片	茎	c-66-08-d	32	灰集中10-46	(6.36)	2.12	1.82	(29.3)	鉄	1	1	目釘孔あり。金属材質調査。	NAD10
23	26	魚突鉤鈎片	先端	c-66-08-a	141	灰集中10-16	(4.32)	3.10	0.50	(2.8)	鉄	1	2	2点接合。[マレ]	NAD10
24	26	魚突鉤鈎片	先端	c-66-08	97	灰集中10	(5.04)	2.13	0.61	(9.7)	鉄	1	1	[マレ]	NAD10
25	26	釣針片		c-66-08-a	119	灰集中10-4	(1.88)	1.44	0.31	(0.6)	鉄	1	2	1点のみ実測。	NAD10
26	26	釣針片		c-66-08-a	171	灰集中10-30	2.40	1.74	0.80	(1.5)	鉄	1	1		NAD10
27	26	釣針片		c-66-08-d	192	灰集中10-38	(1.91)	(1.36)	0.60	(1.0)	鉄	1	1		NAD10
28	26	釣針片		c-66-08-a	175	灰集中10-31	2.50	(1.57)	0.56	(0.8)	鉄	1	1		NAD10



V 第0 黒色土層の調査

表V-18 灰集中10 掲載金属製品 (2)

図 番号	図版 番号	通称名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ (cm)			重量 (g)	材質	個 数	破 数	備考	保存 処理
29	26	釣針片		c-66-08-a	182	灰集中10-32	( 2.88 )	1.06	0.33	( 0.7 )	鉄	1	1		NAD10
30	26	釣針片		c-66-08-a	8	灰集中10-1	( 3.60 )	( 1.49 )	0.57	( 2.6 )	鉄	1	1		NAD10
31	26	釣針片		c-66-08-a	142	灰集中10-16	( 2.20 )	( 1.72 )	0.36	( 0.8 )	鉄	1	1		NAD10
32	-	釣針片		c-66-08-a	130	灰集中10-10	( 1.70 )	0.86	0.53	( 0.8 )	鉄	1	1		NAD10
33	-	釣針片		c-66-08-a	144	灰集中10-16	( 1.07 )	0.60	0.36	( 0.2 )	鉄	1	1		NAD10
34	26	縫針片		c-66-08-a	150	灰集中10-18	( 7.43 )	0.41	0.35	( 1.3 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
35	26	縫針片		c-66-08-a	147	灰集中10-17	( 6.48 )	0.40	0.38	( 1.0 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
36	26	縫針片		c-66-08-a	181	灰集中10-32	( 3.55 )	0.15	0.15	( 0.2 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
37	-	縫針片		c-66-08-d	222	灰集中10-39	( 0.87 )	0.12	0.12	( 0.0 )	鉄	1	1	51と同一個体の可能性あり。[ケム]	NAD10
38	26	縫針片		c-66-08-a	233	灰集中10-32	( 2.80 )	0.25	0.15	( 0.2 )	鉄	1	6	破片数6点の内3点別個体。[ケム]	NAD10
39	26	縫針片		c-66-08-d	205	灰集中10-45	( 2.76 )	0.36	0.21	( 0.4 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
40	26	縫針片		c-66-08-a	172	灰集中10-30	( 3.40 )	0.32	0.27	( 0.4 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
41	-	縫針片		c-66-08-a	124	灰集中10-9	( 2.00 )	0.30	0.28	( 0.2 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
42	-	縫針片		c-66-08-a	132	灰集中10-10	( 1.28 )	0.28	0.24	( 0.2 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
43	-	縫針片		c-66-08-d	211	灰集中10-46	( 1.06 )	0.30	0.26	( 0.2 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
44	26	縫針片		c-66-08-c	199	灰集中10-40	( 2.90 )	2.69	0.38	( 0.8 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
45	26	縫針片		c-66-08-c	214	灰集中10-48	( 3.17 )	0.21	0.20	( 0.3 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
46	26	縫針片		c-66-08-a	221	灰集中10-31	( 2.53 )	0.25	0.18	( 0.1 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
47	-	縫針片		c-66-08-a	136	灰集中10-11	( 2.74 )	0.50	0.30	( 0.5 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
48	26	縫針片		c-66-08-a	151	灰集中10-18	( 2.02 )	( 1.05 )	0.18	( 0.2 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
49	26	縫針片		c-66-08-c	200	灰集中10-41	( 1.82 )	0.30	0.30	( 0.4 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
50	-	縫針片		c-66-08-c	220	灰集中10-40	( 1.36 )	0.28	0.22	( 0.1 )	鉄	1	1	[ケム]	NAD10
51	-	縫針片		c-66-08-c	239	灰集中10-40	( 0.75 )	0.10	0.10	( 0.0 )	鉄	1	1	37と同一個体の可能性あり。[ケム]	NAD10
52	26	カスガイ片		c-66-08-d	208	灰集中10-46	4.10	0.85	( 2.14 )	( 3.1 )	鉄	1	1		NAD10
53	26	カスガイ片		c-66-08-a	134	灰集中10-11	5.40	0.57	( 1.90 )	( 6.0 )	鉄	1	1		NAD10
54	26	カスガイ片		c-66-08-d	194	灰集中10-39	( 4.42 )	0.58	2.07	( 5.6 )	鉄	1	2	2点接合。	NAD10
55	27	カスガイ片		c-66-08-c	198 ①	灰集中10-40	( 3.24 )	0.58	2.10	( 2.0 )	鉄	1	1		NAD10
56	27	カスガイ片		c-66-08-b	50	灰集中10-20	( 6.90 )	0.84	1.05	( 9.8 )	鉄	1	1		NAD10
57	27	カスガイ片		c-66-08-a	91	灰集中10-23	( 8.40 )	0.85	( 1.43 )	( 20.6 )	鉄	1	1	魚突鉤鈎の可能性あり。金屑材質調査。	NAD10
58	27	カスガイ片		c-66-08-a	145	灰集中10-17	( 5.90 )	1.11	( 1.40 )	( 16.8 )	鉄	1	1		NAD10
59	27	平カスガイ片		c-66-08-d	209	灰集中10-46	( 3.03 )	0.55	1.85	( 1.5 )	鉄	1	1		NAD10
60	27	平カスガイ片		c-66-08-b	154	灰集中10-20	( 2.52 )	0.80	1.44	( 1.4 )	鉄	1	1		NAD10
61	27	平カスガイ片		c-66-08-c	235	灰集中10-49	( 1.55 )	0.90	0.45	( 2.2 )	鉄	1	4		NAD10
62	27	平カスガイ片		c-66-08-d	190	灰集中10-37	( 1.98 )	0.90	0.50	( 0.9 )	鉄	1	1		NAD10
63	27	平カスガイ片		c-66-08-a	29	灰集中10-17	( 5.82 )	1.30	0.30	( 5.8 )	鉄	1	1		NAD10
64	27	角釘片		c-66-08-c	198 ②	灰集中10-40	( 2.09 )	0.75	0.40	( 0.4 )	鉄	1	1		NAD10
65	-	角釘片		c-66-08-b	137	灰集中10-12	( 1.69 )	0.63	1.05	( 1.4 )	鉄	1	1		NAD10
66	27	角釘片		c-66-08-b	138	灰集中10-14	( 2.30 )	1.11	0.98	( 1.6 )	鉄	1	1		NAD10
67	27	角釘片		c-66-08-a	135	灰集中10-11	( 2.36 )	0.78	( 0.78 )	( 1.8 )	鉄	1	1		NAD10
68	27	角釘片		c-66-08-a	128	灰集中10-10	( 3.03 )	0.50	0.49	( 1.6 )	鉄	1	1		NAD10
69	27	角釘		c-66-08-b	186	灰集中10-34	3.70	0.70	0.41	1.2	鉄	1	1		NAD10
70	27	角釘片		c-66-08-d	215	灰集中10-52	( 4.00 )	0.72	1.20	( 2.4 )	鉄	1	1		NAD10
71	27	角釘片		c-66-08-c	216	灰集中10-54	( 3.82 )	0.78	1.30	( 3.3 )	鉄	1	1		NAD10
72	27	角釘片		c-66-08-a	174	灰集中10-31	( 4.58 )	0.82	0.49	( 4.5 )	鉄	1	1		NAD10
73	-	角釘片		c-66-08-a	146	灰集中10-17	( 5.89 )	1.27	0.89	( 6.2 )	鉄	1	1		NAD10
74	27	角釘		c-66-08-b	185	灰集中10-33	5.72	1.18	1.60	6.8	鉄	1	1		NAD10
75	27	角釘		c-66-08-a	224	灰集中10-24	9.10	1.00	1.13	19.0	鉄	1	13		NAD10
76	27	角釘片		c-66-08-d	96	灰集中10-45	( 10.16 )	1.32	1.48	( 16.9 )	鉄	1	1		NAD10
77	27	角釘片		c-66-08-d	203	灰集中10-44	( 1.95 )	0.90	0.77	( 4.9 )	鉄	1	1		NAD10
78	27	角釘片		c-66-08-d	210	灰集中10-46	( 3.63 )	0.76	0.60	( 4.6 )	鉄	1	1		NAD10
79	27	角釘片		c-66-08-a	149	灰集中10-18	( 3.24 )	0.70	0.67	( 1.6 )	鉄	1	1		NAD10
80	27	角釘片		c-66-08-d	193	灰集中10-38	( 4.36 )	0.66	0.49	( 1.9 )	鉄	1	1		NAD10
81	27	角釘片		c-66-08-a	179	灰集中10-32	( 3.44 )	0.43	0.34	( 0.7 )	鉄	1	1		NAD10
82	27	角釘片		c-66-08-a	180	灰集中10-32	( 2.78 )	0.58	( 0.42 )	( 1.2 )	鉄	1	1		NAD10
83	-	角釘片		c-66-08-a	161	灰集中10-25	( 3.08 )	0.84	0.78	( 4.0 )	鉄	1	1		NAD10
84	27	角釘片		c-66-08-c	212	灰集中10-47	( 4.33 )	0.53	0.48	( 2.0 )	鉄	1	1		NAD10
85	27	角釘片		c-66-08-c c-66-08-d	227	灰集中10	( 4.30 )	0.86	0.58	( 4.6 )	鉄	1	1		NAD10
86	27	角釘片		c-66-08-c c-66-08-d	226	灰集中10	( 5.46 )	0.81	0.80	( 3.9 )	鉄	1	1		NAD10

表V-19 灰集中10 掲載金属製品(3)

図 番 号	図 番 号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ (cm)			重量(g)	材質	個 数	破 損	備考	保存 処理
87	-	角釘片		c-66-08-a	143	灰集中10-16	( 2.50)	0.65	0.32	( 0.4)	鉄	1	1		NAD10
88	-	角釘片		c-66-08-b	153	灰集中10-19	( 1.09)	0.50	0.30	( 0.2)	鉄	1	1	針?	NAD10
89	-	細釘片		c-66-08-a	158	灰集中10-24	( 1.45)	0.51	0.41	( 0.4)	鉄	1	1		NAD10
90	27	角釘片		c-66-08-a	162	灰集中10-25	( 1.55)	0.36	0.35	( 0.2)	鉄	1	1	針?	NAD10
91	-	角釘片		c-66-08-a	231	灰集中10-4	( 1.35)	0.48	0.50	( 0.5)	鉄	1	1		NAD10
92	-	角釘片		c-66-08-b	167	灰集中10-26	( 1.64)	0.67	0.50	( 0.8)	鉄	1	1		NAD10
93	-	角釘片		c-66-08-b	155	灰集中10-20	( 2.13)	0.31	0.32	( 0.3)	鉄	1	1	針?	NAD10
94	-	角釘片		c-66-08-a	125	灰集中10-9	( 2.03)	0.74	0.40	( 0.4)	鉄	1	1		NAD10
95	-	角釘片		c-66-08-a	129	灰集中10-10	( 2.96)	0.83	0.70	( 2.3)	鉄	1	1		NAD10
96	27	角釘片		c-66-08-b	166	灰集中10-26	( 2.83)	0.70	0.69	( 3.5)	鉄	1	1		NAD10
97	-	角釘片		c-66-08-c c-66-08-d	228	灰集中10	( 3.01)	0.55	0.46	( 1.2)	鉄	1	1		NAD10
98	27	角釘片		c-66-08-d	189	灰集中10-37	( 3.47)	0.51	0.35	( 0.8)	鉄	1	1		NAD10
99	27	角釘片		c-66-08-d	195	灰集中10-39	( 3.70)	0.60	0.60	( 5.0)	鉄	1	1		NAD10
100	27	角釘片		c-66-08-a	140	灰集中10-16	( 3.95)	0.55	0.51	( 1.8)	鉄	1	1		NAD10
101	27	角釘片		c-66-08-d	94	灰集中10-58	( 4.58)	0.88	0.74	( 6.7)	鉄	1	1		NAD10
102	-	角釘片		c-66-08-a	148	灰集中10-18	( 4.07)	1.26	0.98	( 5.1)	鉄	1	1		NAD10
103	27	角釘片		c-66-08-d	191	灰集中10-38	( 3.50)	1.07	0.57	( 2.9)	鉄	1	2	2点接合。	NAD10
104	28	角釘片		c-66-08-a	173	灰集中10-31	( 5.77)	1.51	0.53	( 7.8)	鉄	1	1		NAD10
105	28	角釘		c-66-08	219	灰集中10	7.20	1.28	0.65	10.4	鉄	1	1		NAD10
106	28	タガネ片?		c-66-08-b	30	灰集中10	( 7.87)	1.14	0.91	( 15.1)	鉄	1	1	ノミ?	NAD10
107	28	角棒状鉄片		c-66-08-b	165	灰集中10-26	( 6.22)	0.76	0.78	( 14.8)	鉄	1	1		NAD10
108	-	平角状鉄片		c-66-08-a	131	灰集中10-10	( 3.17)	1.70	0.95	( 8.5)	鉄	1	1		NAD10
109	-	小平鉄板片		c-66-08-b	168	灰集中10-26	( 1.30)	0.65	0.26	( 0.3)	鉄	1	1		NAD10
110	-	小平鉄板片		c-66-08-b	187	灰集中10-34	( 1.40)	0.64	0.27	( 0.6)	鉄	1	1		NAD10
111	28	銅釘		c-66-08-c	22	灰集中10	4.30	0.76	0.70	3.8	銅	1	1		〈クワ〉
112	-	鉄片		c-66-08-d	207	灰集中10-46	2.27	( 2.10)	0.53	( 4.7)	鉄	1	1	鉄銅片?	NAD10
113	-	鉄片		c-66-08-a	116	灰集中10-2	2.01	1.63	0.35	1.5	鉄	1	1		NAD10
114	-	鉄片		c-66-08-a	163	灰集中10-25	1.00	0.90	0.42	0.4	鉄	1	1		NAD10
115	28	銅鐵		c-66-08-c	24	灰集中10	4.16	1.70	0.03	1.2	銅	1	1		〈クワ〉
116	28	飾金具	目貫	c-66-08-d	206	灰集中10-45	3.89	1.49	0.52	3.5	銅合金	1	1	龍文様。	〈クワ〉
117	28	飾金具	容器脚飾	c-66-08-a	115	灰集中10-2	3.39	1.91	0.40	1.0	銅	1	1	四つ菱紋。	〈クワ〉
118	28	斧片		c-66-08-d	18	灰集中10	10.84	1.16	0.22	14.9	銅	1	1	七宝紋。	〈クワ〉
119	28	キセル	雁首	c-66-08-c	23	灰集中10	6.60	2.50	1.55	9.8	真鍮	1	1		〈クワ〉
120	28	キセル	雁首	c-66-08-d	19	灰集中10	6.65	2.00	1.60	6.6	銅	1	1		〈クワ〉
121	28	キセル	吸口	c-66-08-b	31	灰集中10	7.70	0.91	0.91	4.8	銅	1	1		〈クワ〉
122	28	キセル片	雁首	c-66-08-a	11	灰集中10-4	( 5.60)	0.79	0.72	( 2.3)	銅	1	1		〈クワ〉
123	28	キセル	胴金	c-66-08-a	139	灰集中10-16	1.80	0.95	0.98	1.8	銅	1	1		〈クワ〉
124	28	キセル片	吸口	c-66-08-a	217	灰集中10-4	( 1.40)	0.44	0.37	( 0.6)	真鍮	1	1		〈クワ〉
125	28	環状銅板片		c-66-08-a	237	灰集中10-17	( 0.90)	0.30	0.05	( 0.1)	銅	1	1		〈クワ〉
126	28	環状銅板		c-66-08-a	184	灰集中10-32	1.20	0.72	0.61	0.4	銅	1	1		〈クワ〉
127	28	環状銅板片		c-66-08-a	236	灰集中10-10	( 1.05)	0.80	0.05	( 0.3)	銅	1	1		〈クワ〉
128	28	銅板		c-66-08-b	164	灰集中10-26	1.49	1.07	0.12	0.7	銅	1	1		〈クワ〉
129	28	銅板		c-66-08-d	95	灰集中10-58	3.03	0.82	0.16	1.4	銅	1	1		〈クワ〉
130	28	細銅板		c-66-08-b	122	灰集中10-5	2.80	0.52	0.45	0.5	銅	1	1		〈クワ〉
131	28	細銅板		c-66-08-b	170	灰集中10-27	2.42	0.30	0.61	0.2	銅	1	1		〈クワ〉
132	28	銅板片		c-66-08-a	225	灰集中10-22	( 2.02)	( 0.80)	0.13	( 0.7)	銅	1	1		〈クワ〉
133	28	銅板		c-66-08-b	13	灰集中10-20	1.80	0.54	0.73	0.5	銅	1	1		〈クワ〉
134	28	銅金具		c-66-08-a	177	灰集中10-31	1.77	1.06	0.35	0.5	銅	1	1		〈クワ〉
135	28	銅板片		c-66-08-a	183	灰集中10-32	( 2.20)	0.63	0.80	( 0.2)	銅	1	1		〈クワ〉
136	28	銅熱針金片		c-66-08-a	123	灰集中10-9	( 1.49)	0.82	0.20	( 0.2)	銅	1	2	耳飾り [ニナカリ?]	〈クワ〉
137	28	銅折針金片		c-66-08-a	178	灰集中10-31	1.87	( 1.21)	0.09	( 0.2)	銅	1	1	耳飾り [ニナカリ?]	〈クワ〉
138	28	環状製品片		c-66-08-b	121	灰集中10-5	( 1.14)	1.09	0.97	( 0.3)	鉛	1	1	耳飾り [ニナカリ?]。金属材質調査。	〈クワ〉
139	28	環状製品片		c-66-08-a	160	灰集中10-25	( 0.63)	0.41	0.16	( 0.1)	鉛	1	1	耳飾り [ニナカリ?]。金属材質調査。	〈クワ〉
140	28	環状製品片		c-66-08-a	159	灰集中10-24	( 1.00)	0.27	0.17	( 0.1)	鉛・錫?	1	1	耳飾り [ニナカリ?]。金属材質調査。	〈クワ〉
141	28	環状製品片		c-66-08-a	117	灰集中10-3	( 2.15)	2.05	0.22	( 1.6)	鉛	1	1	耳飾り [ニナカリ?]。金属材質調査。	〈クワ〉
142	28	環状細銅板片		c-66-08-b	169	灰集中10-26	( 2.10)	( 0.99)	0.24	( 0.4)	銅	1	1	耳飾り [ニナカリ?]	〈クワ〉
143	28	鉸物塊		c-66-08-a	229	灰集中10-30	3.10	3.00	3.13	( 43.1)	鉸物?	1	17	17点接合。金属材質調査。	〈クワ〉
144	29	熊掌元宝		c-66-08-a	10	灰集中10-9	2.38	2.38	0.11	2.8	銅	1	1	北宋 1068年初鋳。	〈クワ〉

表 V-20 灰集中10 掲載金属製品 (4)

図版番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	備考	保存処理
145	29 水菜通宝		c-66-08-a	92	灰集中10-23	2.28 2.29 0.12	2.0	銅	1	1明 1408年初跡。	イカサナナ
146	29 寛永通宝		c-66-08-b	90	灰集中10-5	2.53 2.53 0.12	3.6	銅	1	1新寛永 1668~1683年跡造。	イカサナナ
147	29 寛永通宝		c-66-08-d	93	灰集中10-53	2.29 2.30 0.08	1.8	銅	1	1新寛永 1668~1683年跡造。	イカサナナ
148	29 寛永通宝		c-66-08-a	9	灰集中10-3	2.52 2.53 0.12	3.6	銅	1	1新寛永 1668~1683年跡造。	イカサナナ
149	29 寛永通宝		c-66-08-b	12	灰集中10-20	2.53 2.53 0.11	2.9	銅	1	1新寛永 1668~1683年跡造。	イカサナナ
150	29 古銭片	通	c-66-08-a	157	灰集中10-24	(1.21) (0.93) 0.08	(0.5)	銅	1	1不明 晋文字。	イカサナナ
151	29 古銭片	寶	c-66-08-a	176	灰集中10-31	(1.80) (0.97) 0.10	(0.5)	銅	1	1不明 背文字。	イカサナナ

表 V-21 灰集中10 掲載木製品・樹皮製品

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	木取り	樹皮/皮類	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個体	破片	備考
60	29 矢筈片	c-66-08	15496	灰集中10	板証	○カエデ?		( 3.50 ) ( 1.10 ) 1.30	( 0.9 )	1	1	1水洗選別により検出。全面炭化。許諾値は乾燥後の値。
61	29 ヒキリ板片	c-66-08-c	15132	灰集中10-47	柱目	○ヒノキ科		( 3.10 ) ( 1.40 ) ( 1.00 )	( 2.1 )	1	1	1ヒキリス2ヶ所あり。
62	29 小刀樹皮製鞘片	c-66-08-d	15134	灰集中10-60	樹皮	○樹皮(カバノキ)		( 4.50 ) ( 4.20 ) 1.40	( 8.0 )	1	1	1線刻付。
63	29 鈎状丸木材片	c-66-08-a	15495	灰集中10	散木	○ハンノキ		( 11.20 ) 4.40 1.60	( 25.0 )	1	1	
64	29 両口箸	c-66-08-a	15493	灰集中10	板証	ヒノキ?アスナロ?		21.80 0.70 0.70	7.1	1	1	1上部折れ曲がる。
65	29 筒状樹皮巻	c-66-08-c	15145	灰集中10-54	樹皮	○樹皮(カバノキ)		10.60 1.80 0.90	10.4	1	1	1烽火用樹皮。
66	29 細帯状樹皮巻	c-66-08-a	15494	灰集中10	樹皮	○樹皮		7.20 0.70 4.80	2.2	1	1	1釘打込式。
67	29 杭先片	c-66-08-d	231	灰集中10-53	丸木	クマシテ		( 26.00 ) ( 9.40 ) ( 7.90 )	( 747.0 )	1	1	

金を擦ったものであり、ガラス玉等を吊り下げた、耳飾り（ニンカリ）の破片である。137は2本の細い針金を折り曲げたものである。138～141は断面の丸い針金を環状にしたものである。142は極細い銅板を環状にしたものである。耳飾り（ニンカリ）の破片であろうか。143は球状の鋳物塊である。144～151は銭貨（古銭）である。144は熙寧元宝（北宋 1068年初鑄）、145は永樂通宝（明1408年初鑄）、146～149は寛永通宝であり、いわゆる新寛永（1668～1683年鑄造）である。150は1/4破片で表に「通」、裏に不明の背文字がある。151は1/4破片で表に「寶」、裏に不明の背文字がある。針破片が多く出土していることから、銭貨は針刺し（チップ）の錘の可能性もある。（田口 尚）

#### 木製品・樹皮製品（図V-27・36、表V-21、図版29-2）

灰集中10の標高は、木製品等の残存率の高い標高5.5m（木製品検出はこれ以下）を超えているために良好な木製品等が検出されていない。祭壇あるいは供物台を思わせるような板材や樹皮製敷物が灰分布の南西から出土したが、脆弱なために取り上げ時に碎片となってしまったらしい。試料が脆弱なため、樹種同定も難しかった。

60は水洗選別によって得られた炭化した矢筈片である。弦を掛ける部分が「U」字状に抉られている。矢柄側がひとまわり細く加工されており、径が10mm前後ある。炭化により収縮していると思われるが、太めの矢柄であったと考えられる。材質はカエデ属の可能性が高い。61は木製発火具のヒキリ板片である。ヒキリ棒を挿入し、摩擦により炭化したヒキリウスが2カ所確認できる。材質は針葉樹のヒノキ科である。62は小刀（マキリ）樹皮製鞘の破片である。二つ折りした2枚のシラカバ樹皮を重ね、片側を紐で縫い合わせたものである。表面に曲線文様が線刻されている。63は鉤状丸木材片である。枝別れした二股丸木材の交差部を面取り加工している。上部は欠損し、樹皮が残存している。炭化は見られないが、炉鉤かも知れない。64は両口箸の折れ曲がったものである。65はシラカバ樹皮を筒状に巻いたものである。上部が炭化しており、燈火用樺皮（チノイェタッ）として使用されたものであろう。66は結束固定に使用された細帯状樹皮である。中央に釘を打ち込んだ孔がある。サクラ樹皮製である。67は上部が腐朽した丸木杭の先である。7面が丹念に削りだし、鋭角な先端としている。

（田口 尚）

灰集中12：標高5.2m、南北に長い不整形。灰集中13の脇にある。掘り込みはなかった。アサ、クリ、スモモ、キハダ、ヤマブドウなど食用の木本は出土しているが、草本はタデ属が1点出土しているのみである。魚骨・獣骨は出土していない。

灰集中13：標高4.9m、南北に長い不整形。灰集中12の脇にある。掘り込みはなかった。樹皮製品が出土している（図V-42-68）。ヒエ、アサ、オニグルミ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しているが、草本はタデ科、アカザ科、イネ科が少量出土しているのみである。ウニ綱？、魚類、哺乳類が少量出土している。

灰集中14：標高4.6m、南北に長い不整形。炭化物集中14の上位、貝集中3の下位にある。掘り込みはなかった。木製品が出土している（図V-42-69）。イネ（有籽果がある）、ヒエ、アワ、アサ、アズキ、オニグルミ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、エゾニワトコ、キイチゴ属などが出土している。カワシンジュガイ、ホタテガイ、エゾワスレガイ、ニシン科、サケ科、コイ科、イトヨ、キジ？、哺乳類が出土している。栽培種子・魚類が豊富なことが特徴である。

灰集中15：標高4.6m、東西に長い楕円形。灰集中10（第2灰層）の上位にある。掘り込みはなかった。オニグルミ、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属などが出土している。

灰集中16：標高4.4m、北西-南東に長い楕円形。掘り込みはなかった。銅製留金が出土している（図V-42-152）。イネ、ヒエ、アサ、シソ、オニグルミ、クリ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、



キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属、ヤブマメなどが出土している。サケ科、コイ科、哺乳類が出土している。

灰集中17：標高4.5m、ほぼ円形。炭化物集中21の脇にある。掘り込みはなかった。鉄片が出土している（図V-42-153）。アサ、オニグルミ、クリ、コナラ亜属、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属、ゲンノショウコなどが出土している。サケ科、コイ科の魚類のみが出土している。

灰集中18：標高4.3m、東西に長い不整形。灰集中20の近くにある。掘り込みはなかった。アサ、ハマナス、キハダ、ヤマブドウ、キイチゴ属などが出土している。大型の種子は出土していない。サケ科が出土している。

灰集中19：標高4.4m、ほぼ円形。近くに集中はない。掘り込みはなかった。

灰集中20：標高4.4m、北西-南東に長い楕円形。掘り込みはなかった。キビ、ヒエ、アサ、コナラ亜属、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウ、エゾニワトコ、キイチゴ属、ゲンノショウコなどが出土している。貝類、サケ科、コイ科が出土している。

(10) 炭化物集中（図V-24・38・39・42、表V-22・24、図版30-1）

炭化物集中4・8・9・10・11・12・13は0 B層上面、炭化物集中5・6・15・16・17・20・21・29・30は0 B層上層、炭化物集中2・14は0 B層下層である。炭化物集中はT a - b降下後の0 B層下層には少なく、上層以降に頻繁な遺構の形成がみられる。T a - a降下直前まで遺跡内の活動が活発だったことがわかる。以上のことは灰集中にもいえることである。出土遺物は炭化物集中に動物遺存体が少なく、オニグルミ・コナラ亜属が少ない。一方灰集中は種子がやや少ない。性格にやや違いがあるようである。

低湿度における炭化物集中の増加傾向は各集中の増加傾向と同じくI B - 1層のころから始まる。

炭化物集中2：標高5.2m、北西-南東に長い不整形。灰集中14がやや近くにある。掘り込みはなかった。未炭化破片のアサ、オニグルミは出土しているが、木本種子・草本種子は1点も出土していない。貝類、魚類、哺乳類も出土していない。

炭化物集中4：標高4.9m、南北に長い楕円形。灰集中12、灰集中13が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。イネ、キビ、未炭化破片のアサ、スモモ、キハダ、ヤマブドウは出土しているが、草本種子は1点も出土していない。貝類、魚類、哺乳類も出土していない。

炭化物集中5：標高4.7m、東西に長い不整形。炭化物集中6、砂集中1、砂集中2が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。未炭化破片のアサ、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属（1点）などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中6：標高4.6m、北東-南西に長い不整形。砂集中1、砂集中2が上位にあり、炭化物集中5、炭化物集中15が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化破片のアサが多量に出土している。大型の種子は出土していない。キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中8：標高4.6m、北西-南東に長い楕円形。炭化物集中9、炭化物集中10が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化破片のアサ、クリ、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はタデ科、カヤツリグサ科のみが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中9：標高4.4m、南北に長い不整形。炭化物集中8、炭化物集中10が近くにある。掘り込みはなかった。イネ、未炭化完形のアサ、シソ、クリ、コナラ亜属、多量のハマナス、スモモ、キハ

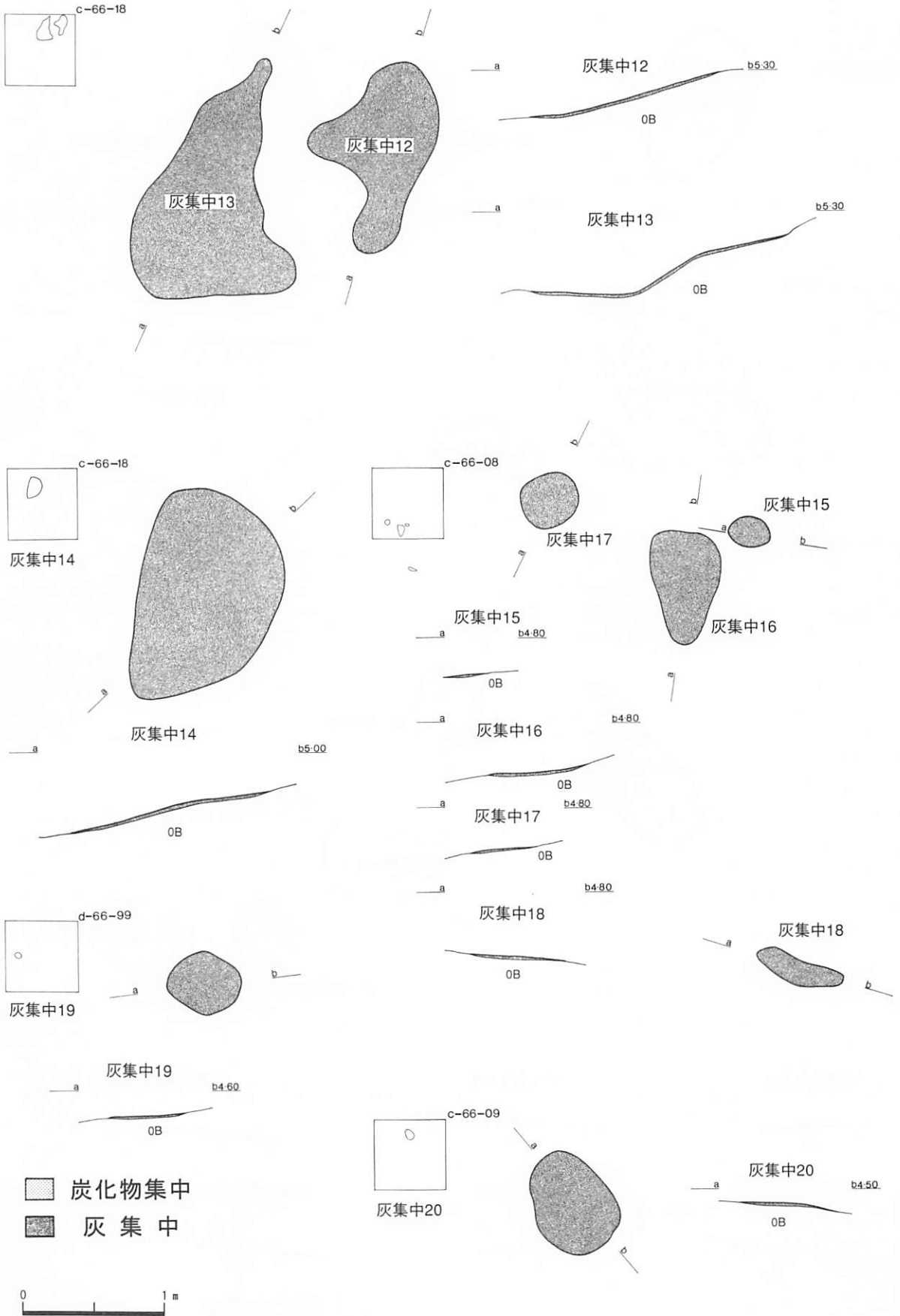


図 V-37 灰集中12~20

V 第0 黑色土層の調査

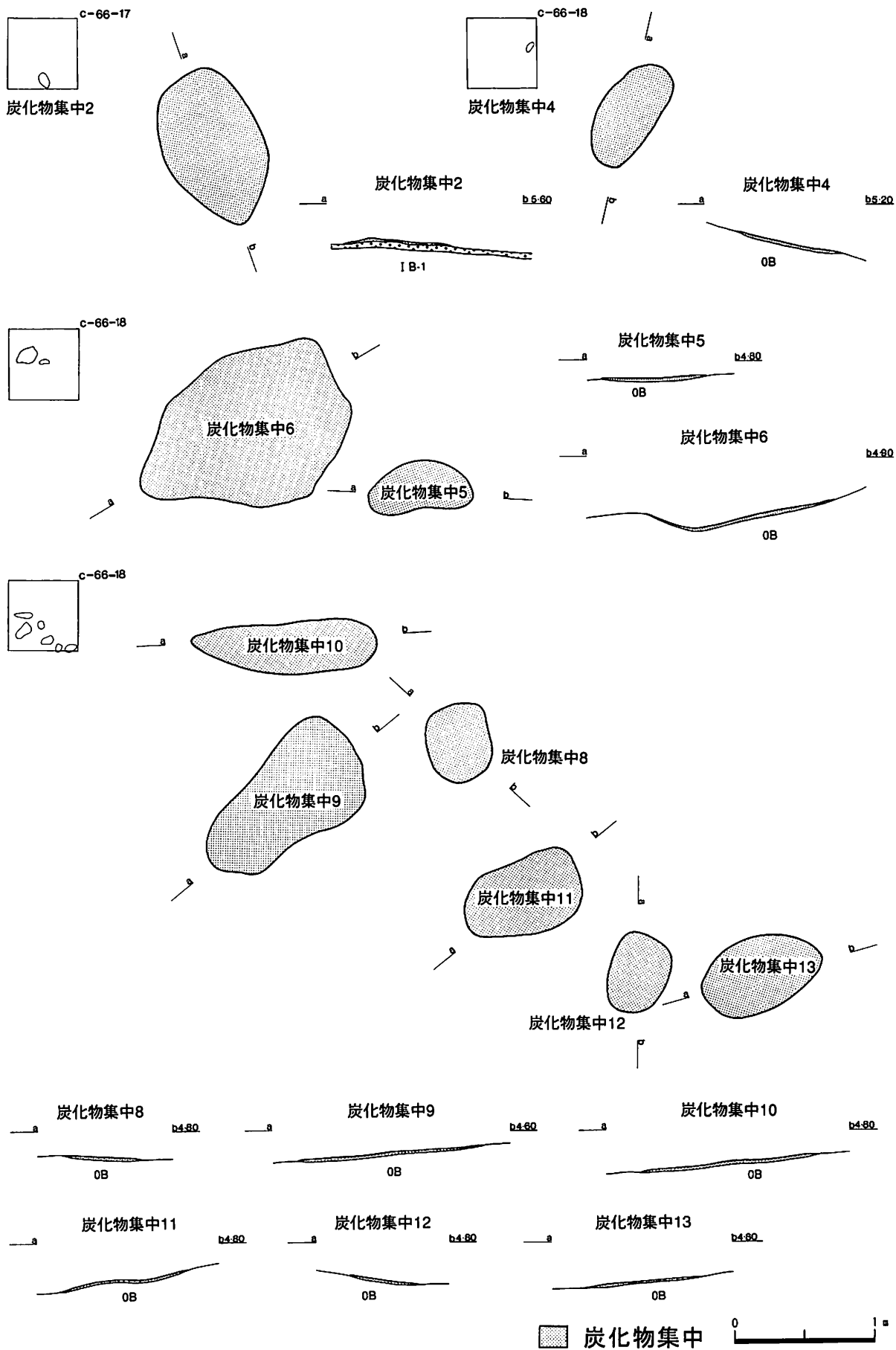


図 V - 38 炭化物集中 2・4 ~ 6・8 ~ 13

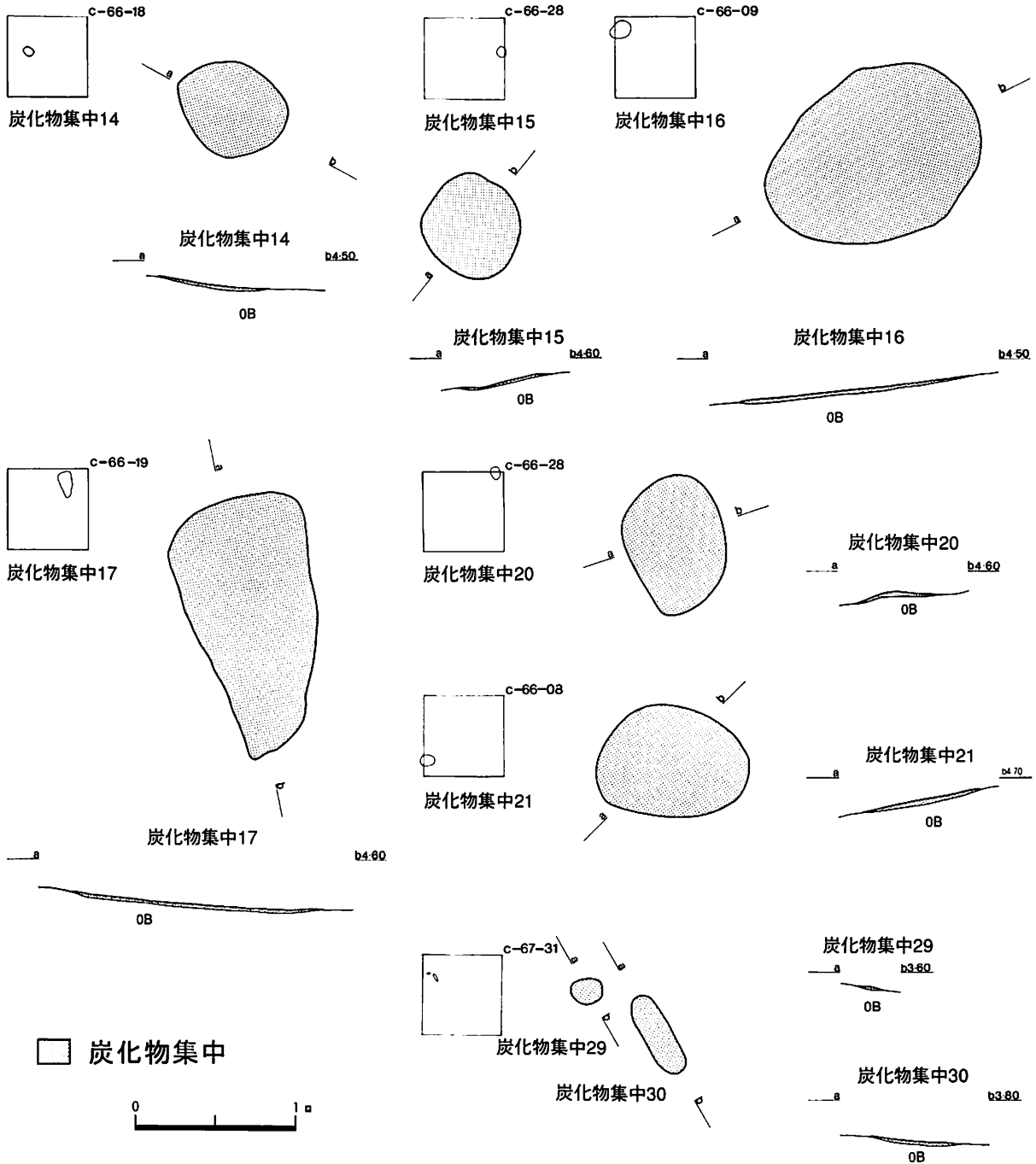
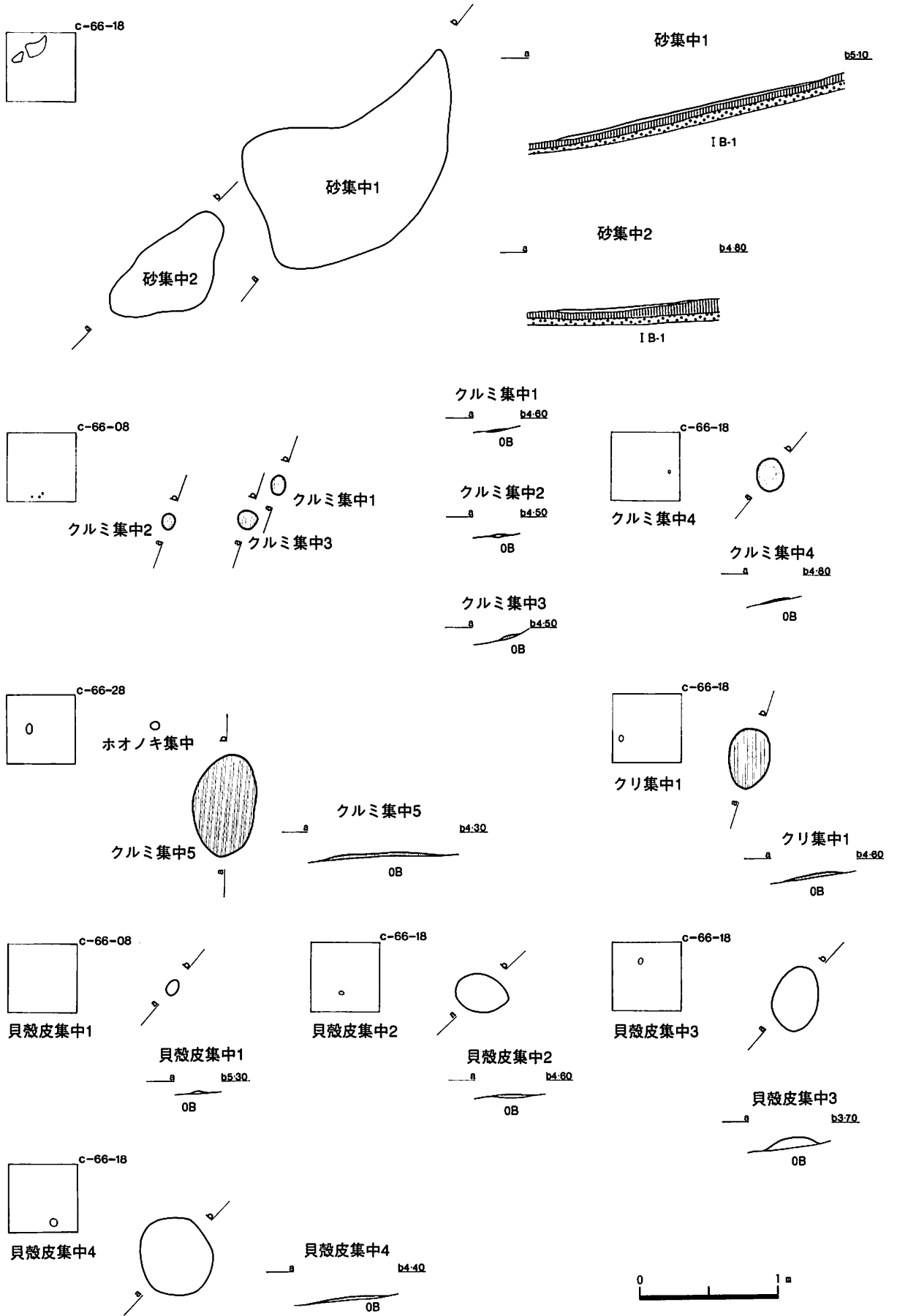


図 V-39 炭化物集中14~17・20・21・29・30

表 V-22 灰集中・炭化物集中

遺構名	発掘区	層位	長軸・短軸(m)	平面積(m <sup>2</sup> )	遺構名	発掘区	層位	長軸・短軸(m)	平面積(m <sup>2</sup> )
灰集中10-1灰層	d-66-98-d・c-66-08-a~d	0 B 上面	4.20・37.0	13.29	炭化物集中8	c-66-18-b・c-66-18-c	0 B 上面	0.55・0.45	0.12
灰集中10-2灰層	c-66-08-a~d	0 B 下層	2.90・2.40	9.06	炭化物集中9	c-66-18-c	0 B 上面	1.30・0.55	0.73
灰集中12	c-66-18-a	0 B 上面	1.36・0.84	3.71	炭化物集中10	c-66-18-c・c-66-18-d	0 B 上面	1.30・0.36	0.39
灰集中13	c-66-18-a c-66-18-d	0 B 上面	1.85・0.78	4.90	炭化物集中11	c-66-18-b・c-66-18-c	0 B 上面	0.88・0.52	0.39
灰集中14	c-66-18-d	0 B 下層	1.54・1.00	1.21	炭化物集中12	c-66-18-b・c-66-19-a	0 B 上面	0.57・0.42	0.20
灰集中15	c-66-08-b・c-66-08-c	0 B	0.30・0.22	1.28	炭化物集中13	c-66-18-b・c-66-19-a	0 B 上面	0.90・0.52	0.36
灰集中16	c-66-08-c	0 B	0.80・0.46	2.14	炭化物集中14	c-66-18-d	0 B	0.70・0.57	0.30
灰集中17	c-66-08-c	0 B	0.40・0.37	0.13	炭化物集中15	c-66-18-d・c-66-28-a	0 B	0.67・0.60	0.30
灰集中18	c-66-09-a	0 B	0.64・0.18	0.09	炭化物集中16	c-66-09-d・c-66-19-a	0 B	1.40・1.02	1.12
灰集中19	d-66-99-c・d-66-99-d	0 B	0.52・0.44	0.17	炭化物集中17	c-66-19-a	0 B	1.55・0.78	1.04
灰集中20	c-66-09-a・c-66-09-d	0 B	0.75・0.55	0.33	炭化物集中20	c-66-27-b・c-66-28-a	0 B	0.86・0.60	0.41
炭化物集中2	c-66-17-b・c-66-17-c	Ta-b上	1.15・0.70	0.62	炭化物集中21	c-66-08-c・c-66-18-b	0 B	0.95・0.70	0.53
炭化物集中4	c-66-18-a	0 B 上面	0.80・0.40	2.35	炭化物集中29	c-67-31-d	0 B	0.20・0.16	0.03
炭化物集中5	c-66-18-a・c-66-18-d	0 B	0.75・(0.32)	0.27	炭化物集中30	c-67-31-d	0 B	0.55・0.18	0.09
炭化物集中6	c-66-18-d	0 B	1.58・1.10	0.21					

V 第0 黑色土層の調査



図V-40 砂・クルミ・クリ・ホオノキ・貝殻皮集中



ダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属、ウドなどが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中10：標高4.6m、ほぼ東西に長い不整形。炭化物集中8、炭化物集中9が近くにある。掘り込みはなかった。

炭化物集中11：標高4.4m、北東-南西に長い楕円形。炭化物集中8、炭化物集中12が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化のイネ、未炭化のイネの穎(籾)、ヒエ、アサ、オニグルミ、クリ、多量のハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属、ソラマメ属などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

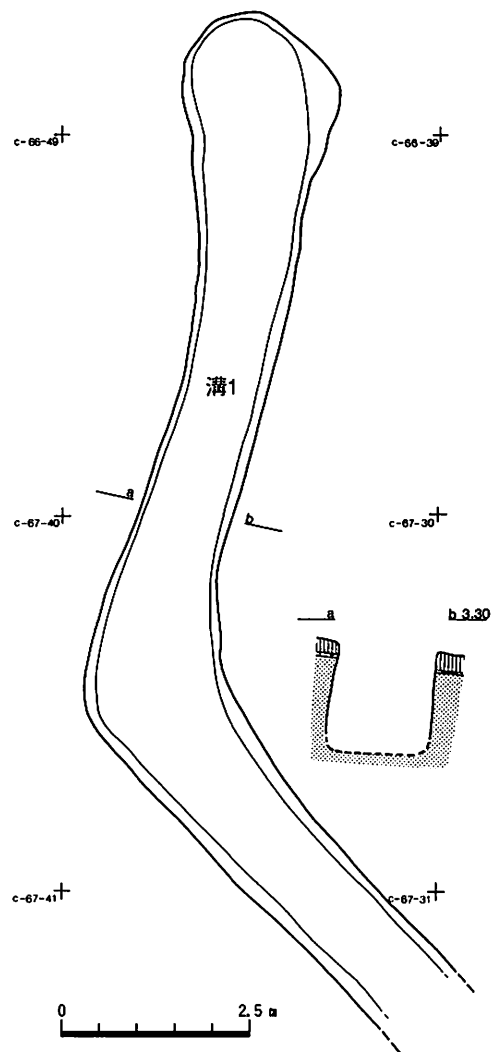
炭化物集中12：標高4.5m、北-南に長い楕円形。炭化物集中11、炭化物集中13が近くにある。掘り込みはない。アサ、クリ、多量のハマナス、スモモ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はタデ科、カヤツリグサ科のみが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中13：標高4.5m、北東-南西に長い楕円形。炭化物集中12が近くにある。掘り込みはない。大型の種子は出土していない。アサ、ハマナス、スモモ、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子はタデ科、カヤツリグサ科のみが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中14：標高4.3m、北西-南東に長い楕円形。灰集中14が上位にある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。多量のアサ、ハマナス、キハダ、ヤマブドウなどが出土しており、草本種子は多量のキイチゴ属、ウドなどが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中15：標高4.3m、ほぼ円形。砂集中2、炭化物集中6が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。多量のアサ、キハダ、ヤマブドウなどが少量出土しており、草本種子は多量のキイチゴ属などが出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

炭化物集中16：標高4.3m、北東-南西に長い楕円形。炭化物集中17が近くにある。掘り込みはなかった。大型の種子は出土していない。ヒエ、アサ、シソ、多量のハマナス、スモモ、ヤマウルシなどが出土しており、草本種子は多量のギシギシ属、アカザ属、カヤツリグ



表V-23 砂・クルミ・クリ・貝殻皮集中

図V-41 溝1

遺構名	発掘区	層位	長軸・短軸 (m)	平面積 (㎡)	遺構名	発掘区	層位	長軸・短軸 (m)	平面積 (㎡)
砂集中1	c-66-18-a・d	1B-1	1.90・1.00	1.37	クルミ集中1	c-66-08-b	OB	0.13・0.11	0.01
砂集中2	c-66-18-d	OB	1.02・0.55	0.38	クルミ集中2	c-66-08-c	OB	0.10・0.08	0.01
貝殻皮集中1	c-66-08-d	OB上面	0.12・0.10	0.01	クルミ集中3	c-66-08-c	OB	0.13・0.13	0.02
貝殻皮集中2	c-66-18-c	OB	0.40・0.25	0.08	クルミ集中4	c-66-18-b	OB	0.22・0.20	0.04
貝殻皮集中3	c-66-18-d	OB	0.45・0.30	0.12	クルミ集中5	c-66-28-c、d	OB	0.75・0.45	0.26
貝殻皮集中4	c-66-18-b	OB	0.55・0.50	0.24	ホオノキ集中1	c-66-28-c、d	OB	0.05・0.05	0.003
クリ集中1	c-66-18-c	OB	0.45・0.30	0.11					

サケ科とキイチゴ属などが出土している。サケ科、コイ科、シカ、哺乳類が出土している。

炭化物集中17：標高4.3m、北西-南東に長い不整形。炭化物集中16が近くにある。掘り込みはなかった。イネ（有桴果がある）、ヒエ、アサ、シソ、オニグルミ、サルナシ、多量のハマナス、スモモ、多量のヤマブドウなどが出土しており、草本種子は多量のギシギシ属、アカザ属、カヤツリグサ科とキイチゴ属、クズなどが出土している。サケ科、コイ科の魚類のみが出土している。

炭化物集中20：標高4.4m、北西-南東に長い楕円形。近くに集中はない。掘り込みはなかった。多量の未炭化破片のアサ、コナラ亜属、サルナシ、ハマナス、キハダ、エゾニワトコなどが出土しており、草本種子はキイチゴ属などが出土している。カワシンジュガイ、サケ科、コイ科が出土している。

炭化物集中21：標高4.8m、ほぼ東西に長い楕円形。灰集中17が近くにある。掘り込みはなかった。アサ、クリ、ハマナス、スモモなどが出土しており、草本種子はタデ属、カヤツリグサ科のみが出土している。カワシンジュガイ、サケ科が出土している。

炭化物集中29：標高3.5m、ほぼ東西に長い楕円形。建物跡7の脇で炭化物集中30が近くにある。掘り込みはなかった。栽培種子・大型の種子は出土していない。ヤマブドウが出土しており、草本種子は出土していない。サケ科椎体が1点出土している。

炭化物集中30：標高3.7m、北西-南東に長い楕円形。建物跡7の脇で炭化物集中29が近くにある。掘り込みはなかった。栽培種子・大型の種子は出土していない。ヤマブドウが出土しており、草本種子はセリ科、カヤツリグサ科が出土している。貝類、魚類、哺乳類は出土していない。

(11) 砂集中 (図V-24・40、表V-23)

砂集中1：標高4.6~5.0m、北東-南西に長い不整形。砂集中2の脇で炭化物集中6の上位にある。掘り込みはなかった。砂は円磨の進んだ海砂である。

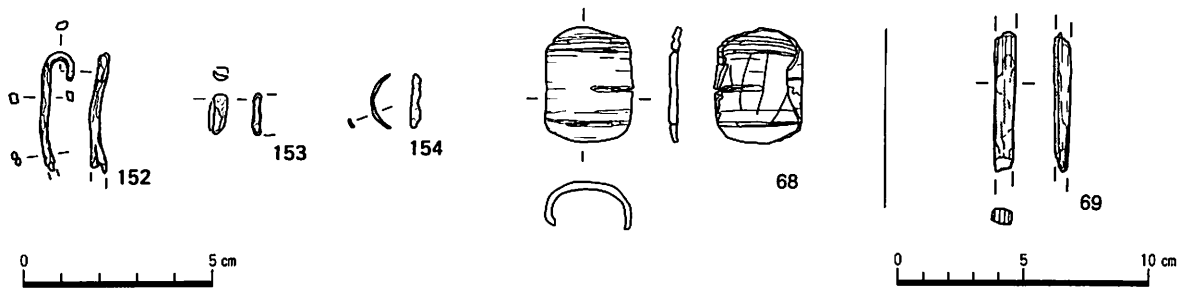
砂集中2：標高4.5m、北東-南西に長い不整形。砂集中1の脇で炭化物集中6の上位にある。掘り込みはなかった。砂は円磨の進んだ海砂である。

(12) クルミ集中 (図V-24・40、表V-23、図版2-5・6)

クルミ集中1：標高4.5m、北南に長い楕円形。灰集中10（第2灰層）とクルミ集中3が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破碎されている。スモモ果皮片も出土している。

クルミ集中2：標高4.4m、北南に長い楕円形。クルミ集中3が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破碎されている。出土量はクルミ集中のなかで最多である。

クルミ集中3：標高4.4m、東西に長い楕円形。クルミ集中1が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破碎されている。やや縫合面割れの比率が高い。



図V-42 灰集中、炭化物集中の金属製品・木製品・樹皮製品

クルミ集中4：標高4.6m、北西-南東に長い楕円形。近くに集中はない。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものはなく、縫合面割れの比率が高い。

クルミ集中5：標高4.1m、北西-南東に長い楕円形。ホオノキ集中1が近くにある。掘り込みはなかった。オニグルミ果皮が人為的に割られて捨てられたものである。炭化しているものは少なく細かく破碎されている。やや縫合面割れの比率が高い。スモモ果皮片も出土している。

(13) クリ集中 (図V-24・40、表V-23)

クリ集中1：標高4.5m、南北に長い楕円形。炭化物集中6が近くにある。掘り込みはなかった。未炭化の果皮が3.632g検出された。この量は灰集中10について多い。

(14) 貝殻皮集中 (図V-24・40、表V-23)

貝殻皮集中1：標高5.2m、南北に長い楕円形。灰集中10(第2灰層)が近くにある。掘り込みはなかった。カワシンジュガイの殻皮が遺存していたものである。29片、2.01g

貝殻皮集中2：標高4.5m、東西に長い楕円形。貝殻皮集中4が近くにある。掘り込みはなかった。カワシンジュガイの殻皮が遺存していたものである。13片、2.21g

貝殻皮集中3：標高3.5m、南北に長い楕円形。灰集中14が近くにある。被熱したホタテガイの殻が0B層と混じっていてマウンド状になっていた。遺存状態は非常にわるかった。2片、7.43g

貝殻皮集中4：標高4.2m、東西に長い楕円形。貝殻皮集中2が近くにある。掘り込みはなかった。カワシンジュガイの殻皮が遺存していたものである。31片、1.14g。スモモ、ミヤマニガウリも出土している。

(15) ホオノキ集中1 (図V-24・40、表V-23)

標高4.2m、円形。クルミ集中5が近くにある。ホオノキ属キタコブシが7コ遺存していた。

(16) 溝1 (図V-41)

長さ13m、幅1.5m、深さは始まりのところで1.5m、おわりで0.5mである。断面は「コ」字状を呈する素掘りの溝である。建物跡6のある標高4.0m付近をはじまりとして、建物跡7の手前で方向を変えて舟着場の西側隅に流れ込む。溝内からは遺物は出土しなかった。始まりの部分は湧水点の状況に似ている。以上より、水場・用水路のようなものではないだろうか。

表V-24 灰集中・炭化物集中掲載金属製品

図版番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物番号	遺構	遺物番号	樹皮	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個体数	破片	備考
152	30 銅針金片		c-66-08-c	112	灰集中16						0.85 (1.2)	0.31 (1.2)	1	1	フック状。
153	30 角針片		c-66-08-c	234	灰集中17						1.10 (0.40)	(0.25) (0.1)	1	2	NND10
154	30 細銅板		c-66-27-b c-66-28-a	223	炭化物集中20						1.44 0.54 0.40	0.1	1	1	21点のみ実測。

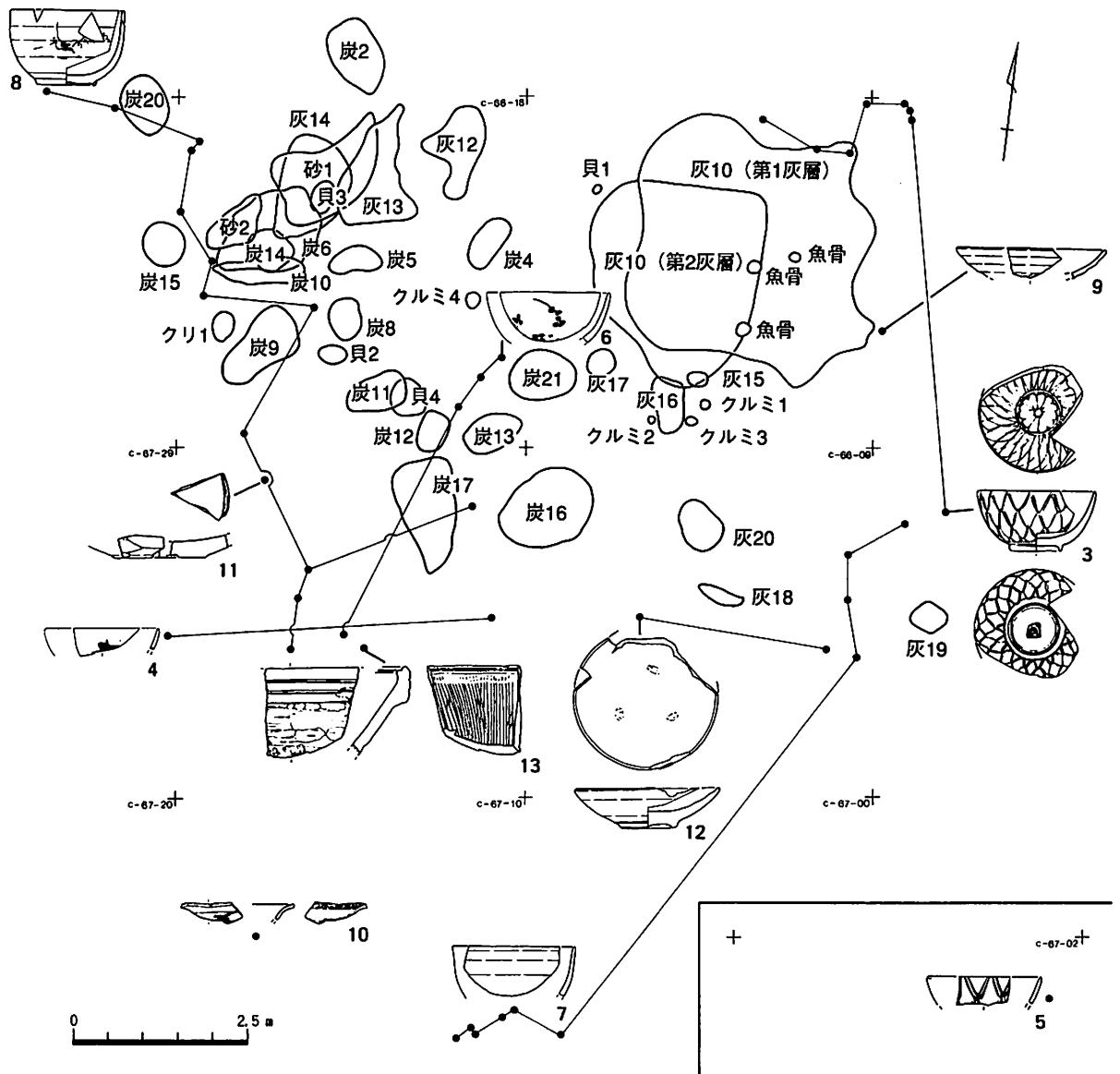
表V-25 灰集中13・14 掲載木製品・樹皮製品

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構	遺物番号	樹皮	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個体数	破片	備考
68	30 円盤樹皮製品	c-66-18-a c-66-18-d	15492	灰集中13						3.05 2.30 0.20	0.8	1	1	内面に野引線あり。
69	- 平角串片	c-66-18-a c-66-18-d	15491	灰集中14						( 5.60) 0.80 0.70	( 2.1)	1	1	

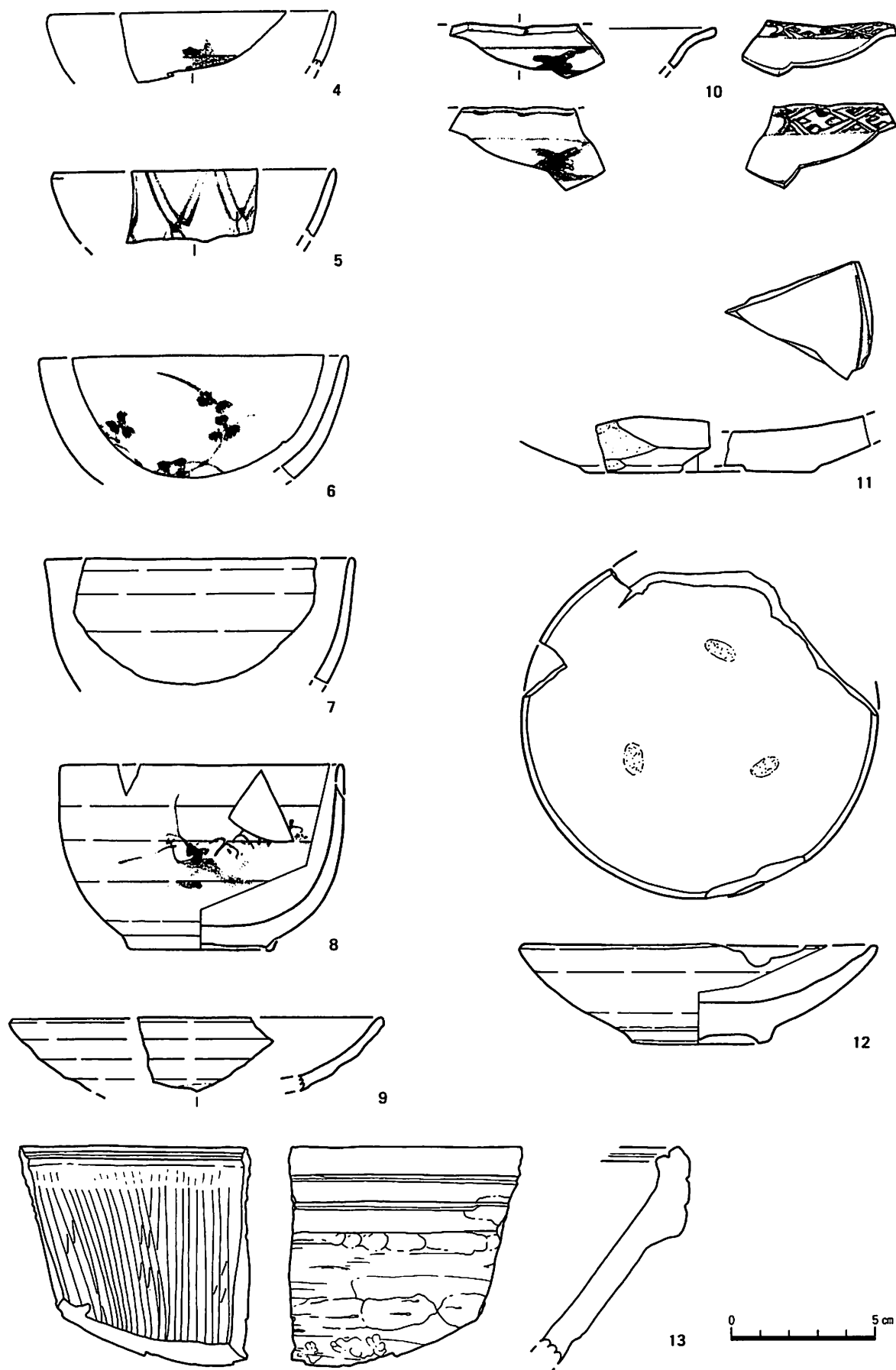
3 包含層の遺物

(1) 陶磁器 (図V-43・44、表V-26、図版30、カラー図版12-2・3・4)

4~6・10・11は伊万里染付碗・皿。4は灰青色を呈する発色の良くない呉須で外面にコンニャク判の「桐文?」が施される。年代は17世紀末~18世紀中葉。5は釉はやや青みがかり、気泡が多い。灰青色を呈する発色の良くない呉須で外面に割筆の「二重網目文」、年代は18世紀初め~18世紀第3四半期である。6は釉に貫入がある。暗灰緑色を呈する発色の悪い呉須で外面に「梅樹文」、年代は18世紀初め~18世紀第3四半期である。10はつば皿で口縁は稜花となる。藍色を呈する発色のよい呉須で口縁部内面に「四方禪文」、年代は18世紀代?。11は蛇ノ目高台の皿、釉はやや青みがかり。灰青色を呈する発色の良くない呉須で内底面と体部の境に圈線を描く。畳付きを無釉にして鉄漿を塗る。年代は17世紀第2四半期。7は唐津鉄釉碗。暗褐色でやや透明感のある釉で細かい貫入がある。年代は17世紀後半。8は伊万里京焼写し碗。胎土は明灰白色で精良、暗灰緑色の呉須でくずれた「樓閣山水文」を描く。釉は透明で貫入がある。高台脇露胎部は橙色に発色する。外底面に浅い円形の削り出しを持つ。高台外端に面取があり、畳付幅は1.5mmと狭い。年代は17世紀後半~18世紀前半である。



図V-43 陶磁器の分布図・接合図



図V-44 陶磁器



9は伊万里白磁皿。釉はやや青みがかり、気泡が多い。高台脇は露胎となる。年代は17世紀前半。12は唐津胎土目皿。釉は灰オリーブ色がかかる透明釉。細かい貫入がある。高台脇から露胎で橙色に発色する。高台は削り出したあと外面をヨコナデ。内面に胎土目痕が残る。年代は16世紀第4 四半期～17世紀初頭である。この皿は口縁端の釉が磨滅し、内底面の釉も光沢を失うほど摩耗している。かなりの使用期間があった。0 B層より出土した原因は使用期間の長さによる。13は備前系播鉢。口縁帯外面は回転ナデのあと2本の沈線が入る。体部外面は回転ケズリのあとヨコナデ。口縁部内側に沈線を巡らし、その下には断面三角の凸帯が巡る。体部内面は回転ナデのあと13本単位の櫛目を中心から外側に向かって施し、櫛目の端をヨコナデで消して櫛目をそろえている。外面は暗赤褐色、内面は外面よりやや明るい暗赤褐色。年代は17世紀前半。

(2) 石器・石製品 (図V-45・46、表V-26、図版31)

19は片主面を使用する。20は楕円礫の尖った一端を使用する。23は棒状で1側面を使用する。24はよく使い込まれており、3面を使用する。25は両主面がよく使い込まれている。右側縁には加工痕がある。26は両主面・両側縁を使用する。27は砥石を転用した石錘。28～30は軽石製品。形態は様々であるが、面を研磨することは同じである。31は虫痕のある凝灰岩を垂飾として利用したもの。32は火皿である。  
(鈴木 信)

(3) ガラス製品 (図V-47・51、表V-27、図版31-2、カラー図版13-1)

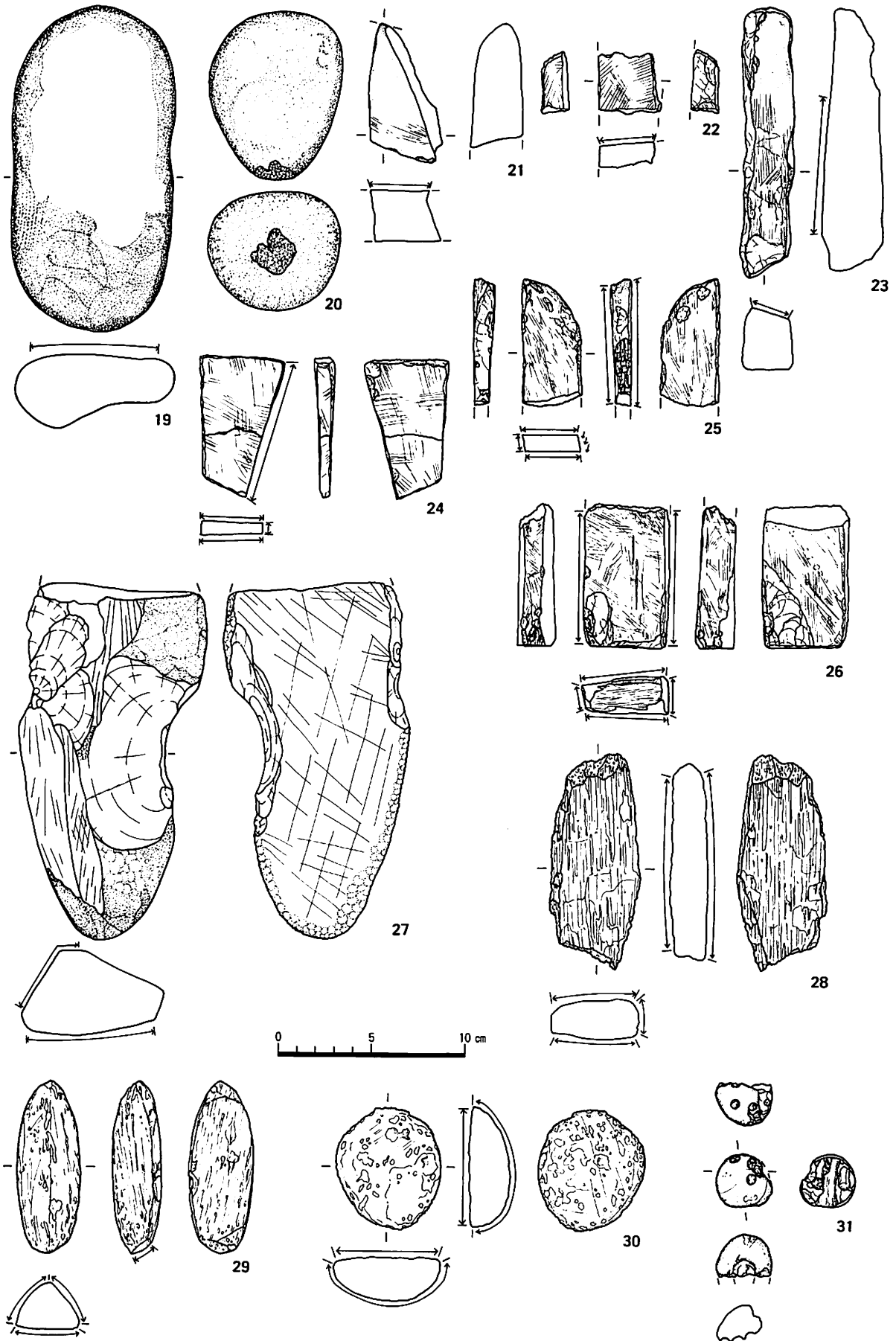
ガラス玉が9点出土した。「物送り場」と推定される灰集中10西側のc-66-18、c-66-19など、本来は灰集中10に伴っていたとも考えられ、針金の環状製品等に吊り下げられた耳飾り(ニンカリ)の飾りであった可能性がある。

ガラス玉 (4～12) : 4はやや曇った無色半透明の丸平玉である。光沢はほとんど無い。5は濃い青紫色のわずかにつぶれた丸玉である。表面の光沢は少なく、周縁には白色の摩擦痕がめぐる。6はやや透明な薄い青紫色の花房玉である。光沢がわずかにあり、浅い筋引きにより3房を構成している。7はやや透明な薄い青色の花房玉片である。浅い筋引きが2ヵ所に認められ、3房のものが半分に割れたものと考えられる。8はやや透明な薄い青色とやや曇った青色の花房玉片の接合個体である。c-66-19-cの破片とc-66-08-cの破片と接合したが、被熱のためか、同一個体と思えないほどにそれぞれの光沢や青色の濃さが異なる。浅い筋引きにより4房を構成している。灰集中10南西から出土しており、遺構に伴っていた可能性がある。9は光沢のある青色の蜜柑玉である。深い筋引き(「V」字状の刻み)で4房を構成している。他のものよりも孔が大きく径5.5mm程ある。10は光沢の無い表面が風化し、一部白色化した青色の蜜柑玉の破片である。筋引きや残存する房の形態から、5房のものが半分に割れたものと考えられる。11はやや光沢ある青色で小型の蜜柑玉片である。やや深い筋引きや残存する3房の形態から、5房ないし6房のものが半分～1/3に割れたものと考えられる。側面観は、他はすべて楕円形であるのに対して、算盤玉状に周縁が三角となっている。12は表面がやや風化し、光沢の無い深緑色の蜜柑玉房片である。  
(田口 尚)

(4) 金属製品 (図V-48・49・52、表V-28、図版32・33、カラー図版13-1)

金属製品のほとんどは、ガラス玉同様に「物送り場」と推定される灰集中10の周縁に分布している。分布位置は灰集中10の南西～南側に密集し、南西部から東側に向かって若干分布する。鉄鍋片(155～158)のみがやや離れてd-67-80-dに分布しており、建物跡2との関わりが推定される。また、魚引掛鈎片(162)はc-67-10-aの舟着場1の北側法面肩から出土しており、漁撈具として舟着場との関わりが推定される。

鉄鍋片(155～158) : 155～158は丸形湯口の吊耳鉄鍋の同一個体である。いずれも錆等の腐食が著



図V-45 石器・石製品

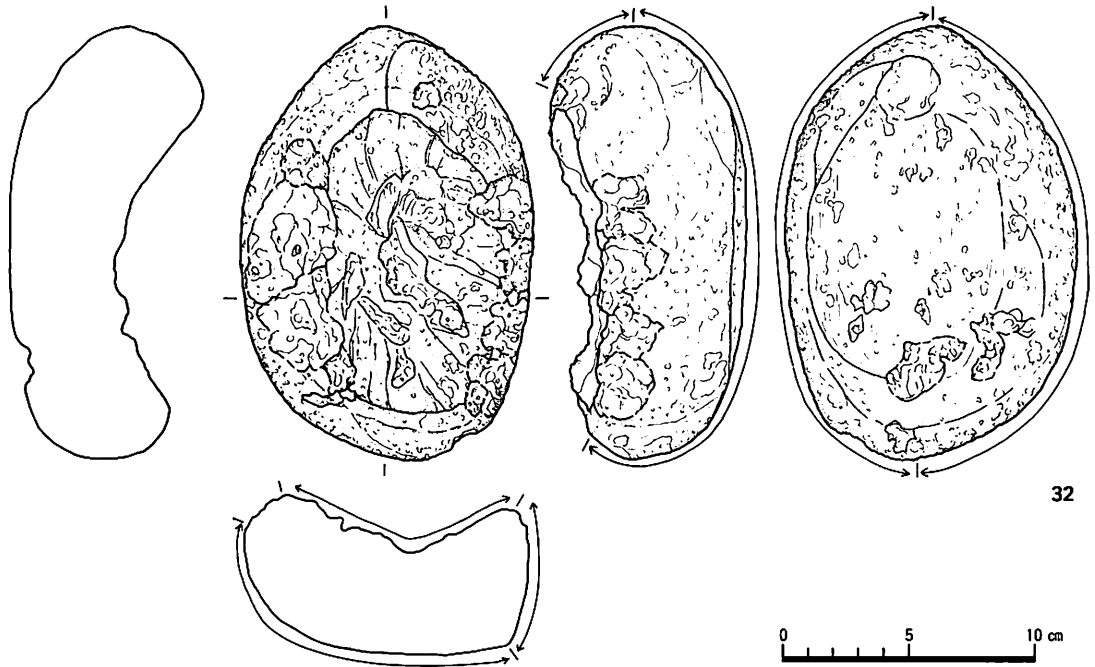
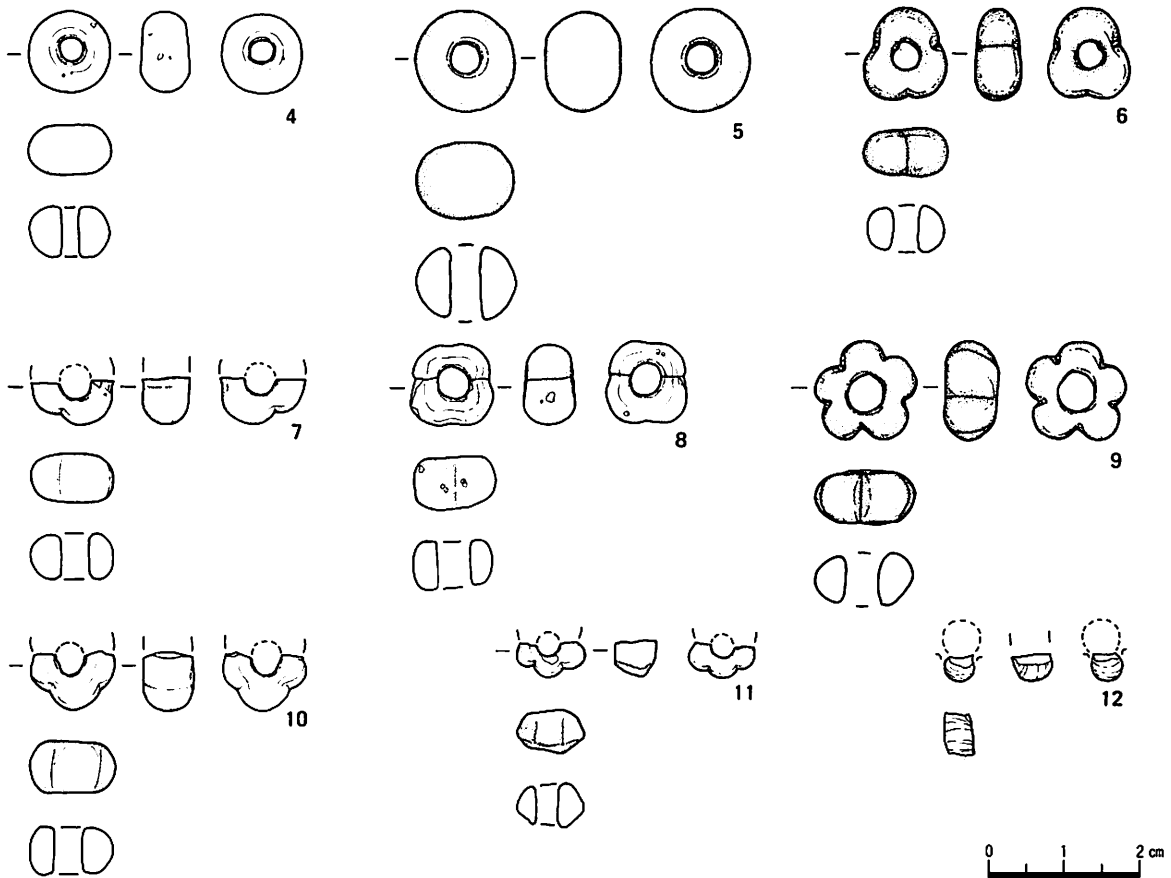


図 V-46 石製品

表 V-26 0 B層掲載陶磁器・石器・石製品

図番号	遺物名称	主な発掘区	点数	備考
4	染付碗	c-66-19-a, c-66-29-b	3	伊万里 復元口径10.0cm
5	染付碗	c-67-02-a	1	伊万里 復元口径10.0cm
6	染付碗	c-66-18-b, c-66-19-c	4	伊万里 復元口径10.6cm 炭化物集中12・13・21のそば
7	陶器碗	c-66-09-a・b, c-66-99-dなど	10	唐津 復元口径11.0cm 灰集中9のそば
8	陶器碗	c-66-18-c・d, c-66-19-a・c・dなど	15	唐津 復元口径9.9cm 炭化物集中6・8・9・10・17・20のそば
9	白磁皿	d-66-98-c	1	伊万里 復元口径10.6cm 灰集中10のそば
10	染付皿	c-67-10-d	4	伊万里
11	染付皿	c-66-19-d	1	伊万里
12	陶器皿	c-66-09-b・d	2	唐津 復元口径12.4cm 器高3.5cm
13	陶器播鉢	c-66-09-c	1	備前系
19	すり石	c-66-19-a	1	砂岩 長さ17.20cm、幅8.60cm、厚さ3.85cm、重さ895.0g
20	たたき石	c-66-29-d	1	安山岩 長さ8.87cm、幅7.00cm、厚さ6.30cm、重さ533.0g
21	砥石	c-66-19-a	1	泥岩 長さ7.38cm、幅3.92cm、厚さ2.87cm、重さ90.1g
22	砥石	c-66-18-c	1	凝灰岩 長さ3.30cm、幅3.30cm、厚さ1.47cm、重さ17.6g
23	砥石	c-67-00-d	1	凝灰岩 長さ14.3cm、幅2.90cm、厚さ3.35cm、重さ185.5g
24	砥石	c-66-09-d	2	凝灰岩 長さ7.40cm、幅4.52cm、厚さ1.10cm、重さ34.2g
25	砥石	d-67-80-c	1	凝灰岩 長さ6.74cm、幅3.20cm、厚さ1.13cm、重さ33.2g
26	砥石	c-67-00-a・d	1	凝灰岩 長さ7.53cm、幅4.56cm、厚さ2.01cm、重さ100.5g
27	砥石(石錘)	c-67-11-b	1	砂岩 長さ18.90cm、幅9.50cm、厚さ4.50cm、重さ900.0g
38	火打石	c-66-09-a	1	チャート 長さ1.90cm、幅1.56cm、厚さ0.74cm、重さ2.07g
28	軽石製品	d-66-99-d	1	流紋岩 長さ11.45cm、幅4.88cm、厚さ2.18cm、重さ39.5g
29	軽石製品	c-66-19-b	1	流紋岩 長さ9.20cm、幅3.40cm、厚さ2.58cm、重さ23.3g
30	軽石製品	c-66-29-a	1	流紋岩 長さ6.54cm、幅5.60cm、厚さ2.35cm、重さ20.4g
32	軽石製品	c-66-49-a	1	流紋岩 長さ17.20cm、幅11.76cm、厚さ7.89、重さ473.5g
31	石製品	c-66-19-a・d	1	凝灰岩 長さ2.80cm、幅2.97cm、厚さ2.20cm、重さ10.6g



図V-47 ガラス製品

表V-27 0 B層掲載ガラス製品

図番号	図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)			重量(g)	個数	破数	備考
4	31	ガラス玉	c-66-19-a	1842		1.16	1.11	0.65	1.5	1	1	無色半透明。丸平玉。材質分析中。
5	31	ガラス玉	c-66-29-a	571		1.33	1.33	1.03	3.5	1	1	青紫色。丸玉。材質分析中。
6	31	ガラス玉	c-66-18-a	360		1.20	1.11	0.62	1.6	1	1	3房。青紫色。花房玉。材質分析中。
7	31	ガラス玉	c-66-18-a	361		(0.59)	(1.12)	0.62	(0.8)	1	1	3房。1/2片。青色。花房玉。材質分析中。
8	31	ガラス玉	c-66-19-a c-66-08-c	1746・6009	灰集10	1.08	1.13	0.70	1.6	1	2	2点接合。4房。青色。花房玉。材質分析中。
9	31	ガラス玉	c-67-10-c	6014		1.30	1.36	0.70	1.9	1	1	5房。大孔。青色。密柑玉。材質分析中。
10	31	ガラス玉	d-66-98-d	462		(0.78)	(1.12)	0.62	(1.0)	1	1	5房。1/2片。青色。密柑玉。材質分析中。
11	31	ガラス玉	c-66-19-d	729		(0.44)	(0.90)	0.59	(0.3)	1	1	3房。1/3片。青色。小密柑玉。材質分析中。
12	31	ガラス玉	c-66-17-c	227		(0.32)	(0.39)	0.55	(0.2)	1	1	1/5片。深緑色。密柑玉。材質分析中。

しく、鉄分が溶脱して脆く細片となっていた。155は吊り耳鉄鍋の口縁部破片である。吊り耳接合部は肥厚し、吊り耳には弦用の孔が3カ所ある。156は口縁部破片であり、口唇部断面はわずかに肥厚し、切出しナイフ形である。157は底部（底面）片である。外側に丸形湯口部が盛り上がっている。158も底部（底面）片であり、やや側縁部に近い部分である。

刀子片（159・160）：159は茎片であり、茎尻向かって細くなる。160も茎片である。

魚突鉤鈎片（161）：いわゆるマレ、の鉄鉤部片である。先端部が細く、基部はやや薄い。

魚引掛鈎片（162）：両端部を欠損しているが、湾曲の状況や出土位置からア、の可能性が強い。

平カスガイ片（163～165）：163は左側にわずかに屈曲した脚部の痕跡を残す。平カスガイとして分類したが、両側縁部がややつぶれて細く、38の火打石とセットで出土したことから火打金と考えられ

V 第0 黒色土層の調査

る。164・165は両端の脚部を欠損したものである。163同様に火打金に転用された可能性がある。

カスガイ片 (167) : 大型で背部分が叩かれて、わずかに肥厚している。

角釘片 (166・168) : 168は角釘片である。166は胴部の断面が長方形となる折平釘片である。

キセル (169~179) : 169・171・173は雁首である。169・173は脂返しが大きく湾曲する河骨形であり、補強帯が見みらることから古泉分類の雁首第Ⅱ類Aに相当する。169の表面には丹念に唐花文様が彫金されている。173の火皿には炭化物がつまっている。171は火皿を欠損している。ラウ挿入管がつく肩つきであり、脂返しが上方のみに大きく湾曲する河骨形であることから古泉分類の雁首第Ⅰ類Bに相当する。172はほぼ原形をとどめるものであり、ラウ中央部が銅管である。雁首の脂返しが大きく湾曲する河骨形で、補強帯が見みられないことから古泉分類の雁首第Ⅱ類Bに相当する。吸口は短く口唇部付近で急に細くなる。肩を持たない古泉分類の吸口第Ⅱ類Bに相当する。170・174~179は吸口である。いずれも肩を持たない古泉分類の吸口第Ⅱ類Bに相当する。170には梅枝文様が彫金されている。174のラウ側にはイト、バ状の線刻がある。170・174~176は口唇部に向かって直線的なものであり、177・179はわずかにカーブを描いて細くなる。

銅板 (180~183) : 180・181にはねじれがあり、183の腐食は著しい。

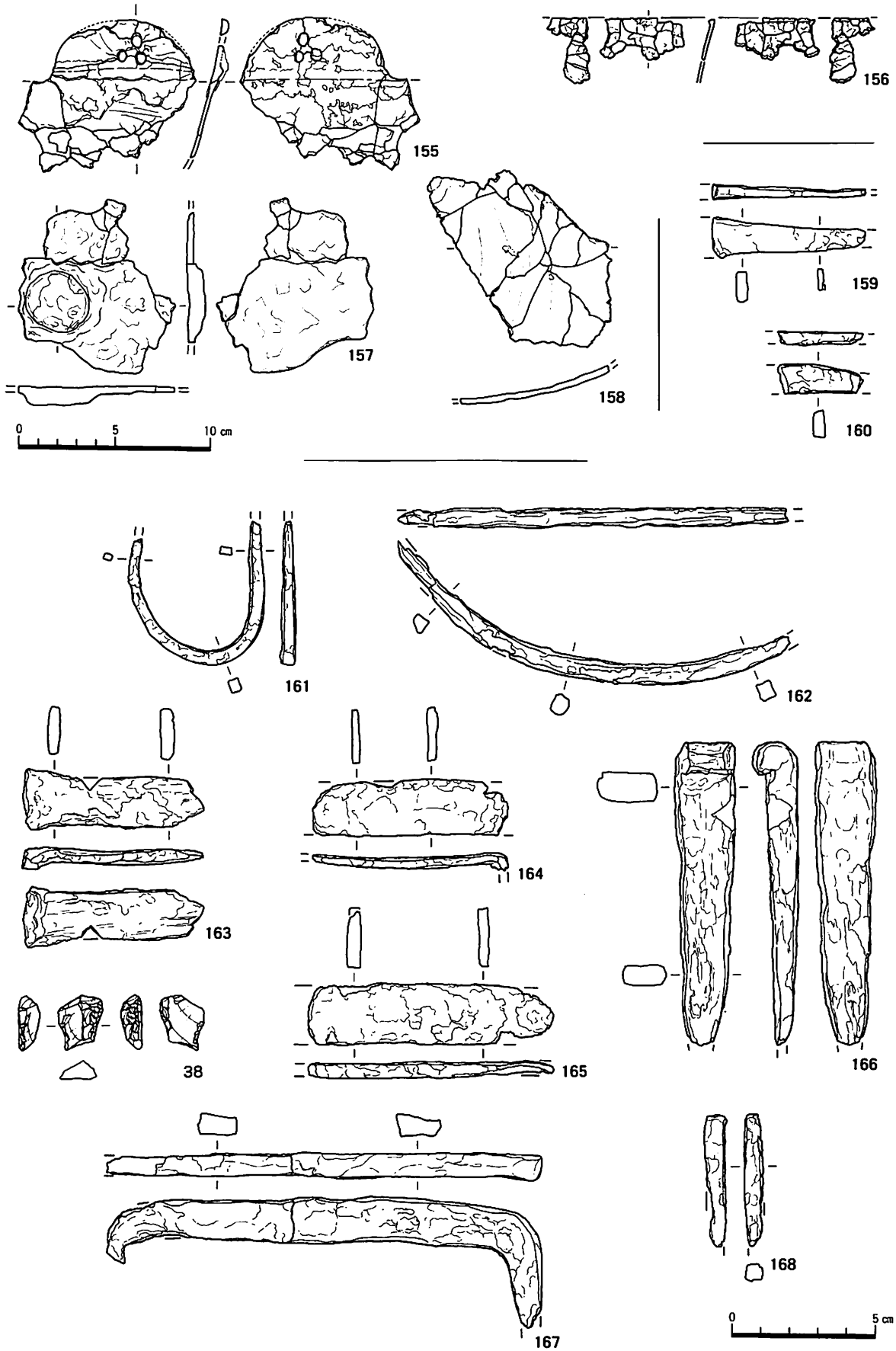
環状製品 (184) : 丸い金属線を環状にしたものである。耳飾り (ニンカリ) の可能性がある。

寛永通宝 (185・186) : いわゆる新寛永である。1668年から1683年鑄造。 (田口 尚)

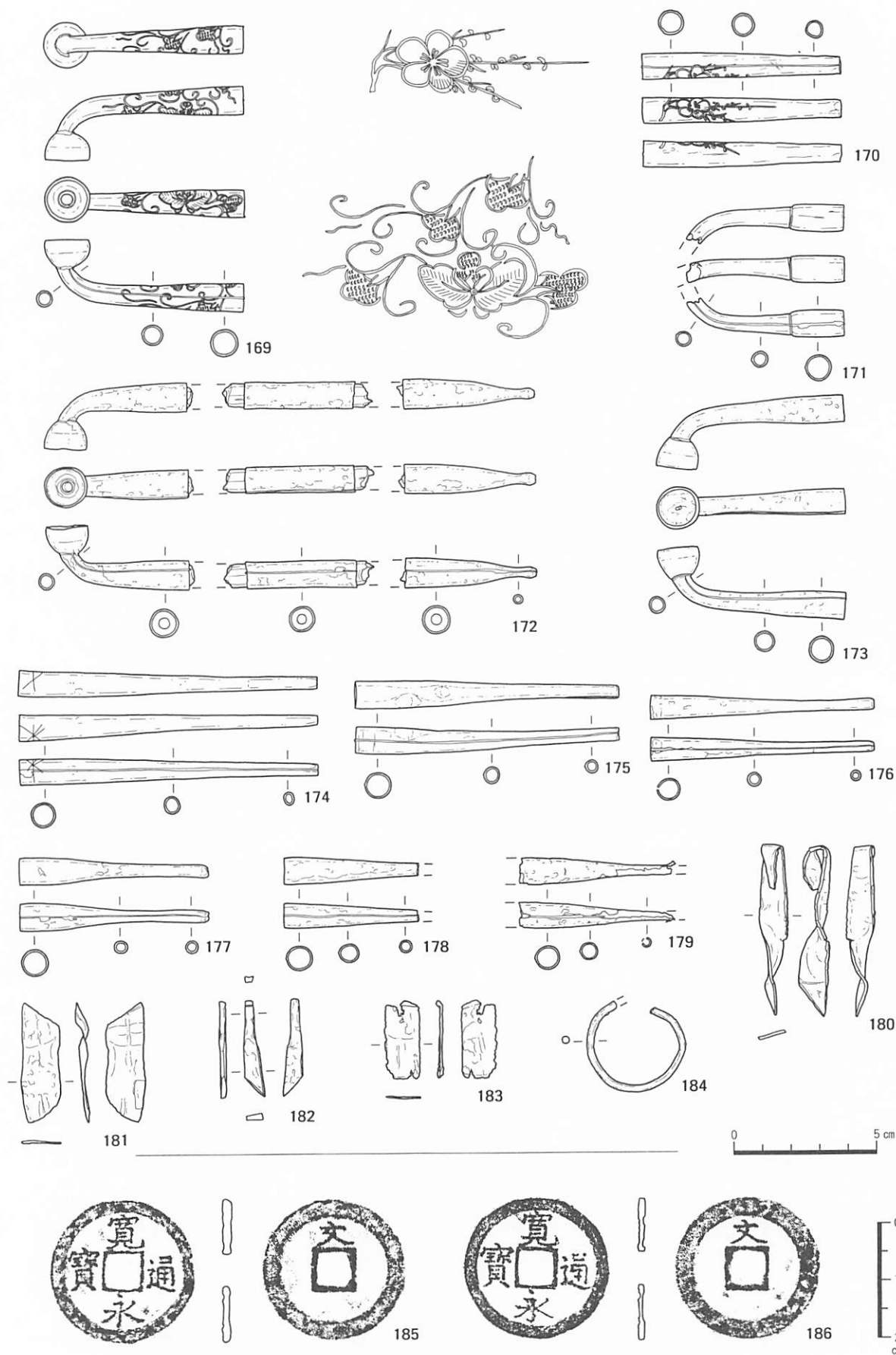
表V-28 0 B層掲載金属製品

図版 番号	図版 番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ (cm)			重量 (g)	材質	個 数	破 数	備考	保存 処理
155	32	鉄鍋片	吊耳口縁部	d-67-80-c	66		( 7.20 )	( 9.40 )	0.90	( 38.2 )	鉄	123	155~158同一個体。孔3ヶ所。[ス]	NAD10	
156	32	鉄鍋片	口縁部	d-67-80-c	68		( 3.40 )	( 6.70 )	0.40	( 2.2 )	鉄	117	155~158同一個体。17点接合。[ス]	NAD10	
157	32	鉄鍋片	底部	d-67-80-c	65-67		( 9.00 )	( 8.26 )	1.00	( 69.9 )	鉄	17	155~158同一個体。6点接合。丸型湯口。	NAD10	
158	32	鉄鍋片	底部	d-67-80-c	64		( 9.20 )	( 9.50 )	0.40	( 35.7 )	鉄	112	155~158同一個体。12点接合。[ス]	NAD10	
159	32	刀子片	茎	d-66-99-d	63		( 5.36 )	1.40	0.53	( 4.9 )	鉄	11	[マキリ]	NAD10	
160	32	刀子片	茎	d-66-98-c	28		( 2.98 )	1.00	0.43	( 2.6 )	鉄	11	[マキリ]	NAD10	
161	32	魚突鉤片		c-66-09-d	20		( 4.98 )	4.75	0.45	( 8.1 )	鉄	11	[マレ]	NAD10	
162	32	魚引掛鉤片		c-67-10-a	83		(13.70)	0.80	0.70	( 21.1 )	鉄	11	[アッ] 金属材質調査。	NAD10	
163	32	平カスガイ片	火打金	c-66-09-a	70 ㊟		( 6.30 )	2.11	0.72	( 20.7 )	鉄	11	石製品38とセット。金属材質調査。	NAD10	
164	32	平カスガイ片		c-66-09	87		( 6.83 )	1.95	( 0.60 )	( 9.2 )	鉄	11	火打金?	NAD10	
165	32	平カスガイ片		c-66-09-a	69		( 8.60 )	2.10	0.60	( 28.0 )	鉄	11	火打金?	NAD10	
166	32	舟釘片		c-67-00-c	46		(10.50)	2.14	1.60	( 68.9 )	鉄	11	金属材質調査。	NAD10	
167	32	カスガイ片		c-66-28-d	62		(15.20)	0.90	( 4.60 )	( 42.7 )	鉄	12	2点接合。	NAD10	
168	32	角釘片		c-66-19-b	76		( 4.64 )	0.68	0.80	( 5.6 )	鉄	11		NAD10	
169	33	キセル	雁首	c-66-19-d	37		7.00	2.52	1.58	10.6	銅	11	唐花文様彫金。	〈ナツツツ〉	
170	33	キセル	吸口	c-66-09-d	72		6.98	0.90	0.90	6.3	銅	11	梅枝文様彫金。	〈ナツツツ〉	
171	33	キセル片	雁首	d-66-98-c	26		( 5.50 )	1.35	0.93	( 3.3 )	銅	11		〈ナツツツ〉	
172	33	キセル片	雁首~吸口	d-66-98-d	25		(15.30)	2.30	1.43	( 19.2 )	銅	13	ラウ木部欠損。木質(B72塗布)。	〈ナツツツ〉	
173	33	キセル	雁首	c-66-19-a	77		6.61	2.57	1.49	8.3	銅	11		〈ナツツツ〉	
174	33	キセル	吸口	c-66-09-d	38		10.49	0.91	0.92	6.0	銅	11	イトクバあり。	〈ナツツツ〉	
175	33	キセル	吸口	c-66-19-a	74		9.24	0.97	0.96	7.2	銅	11		〈ナツツツ〉	
176	33	キセル	吸口	d-66-99-d	36		7.85	0.83	0.85	4.4	銅	11		〈ナツツツ〉	
177	33	キセル	吸口	c-66-19-b	75		6.64	0.97	0.94	5.0	銅	11		〈ナツツツ〉	
178	33	キセル片	吸口	c-67-10-a	84		( 4.72 )	0.88	0.97	( 2.6 )	銅	11		〈ナツツツ〉	
179	33	キセル片	吸口	c-66-19-d	99		( 5.49 )	0.90	0.92	( 1.6 )	銅	11		〈ナツツツ〉	
180	33	銅板		d-66-99-b	34		5.98	1.02	1.10	5.4	銅	11		〈ナツツツ〉	
181	33	銅板		c-66-09-d	71		4.15	1.40	0.11	2.1	銅	11		〈ナツツツ〉	
182	33	細銅板		c-66-19-a	39		3.35	0.71	0.24	1.9	銅	11		〈ナツツツ〉	
183	33	銅板		c-66-18-a	21		2.70	1.22	0.05	0.7	銅	11		〈ナツツツ〉	
184	33	環状製品片		c-66-29-a	35		( 3.16 )	3.50	0.23	( 2.5 )	?	11	耳飾り [ニンカリ?]。金属材質調査。	〈ナツツツ〉	
185	33	寛永通宝		d-66-98-d	27		2.52	2.52	0.14	3.8	銅	11	新寛永 1668~1683年鑄造。	〈ナツツツ〉	
186	33	寛永通宝		c-66-18-b	33		2.52	2.53	0.12	2.8	銅	11	新寛永 1668~1683年鑄造。	〈ナツツツ〉	





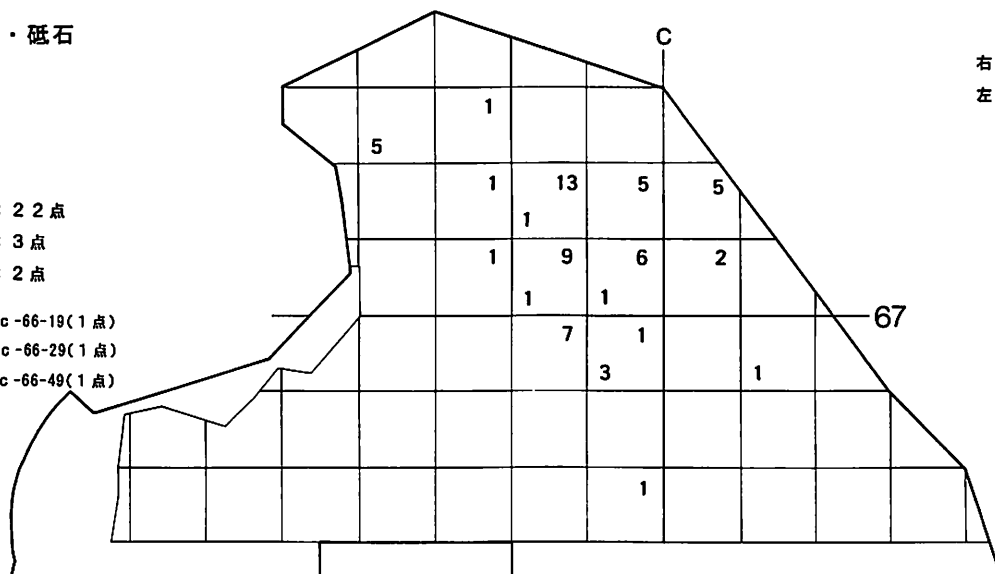
図V-48 金属製品(1)



図V-49 金属製品(2)

陶磁器・砥石

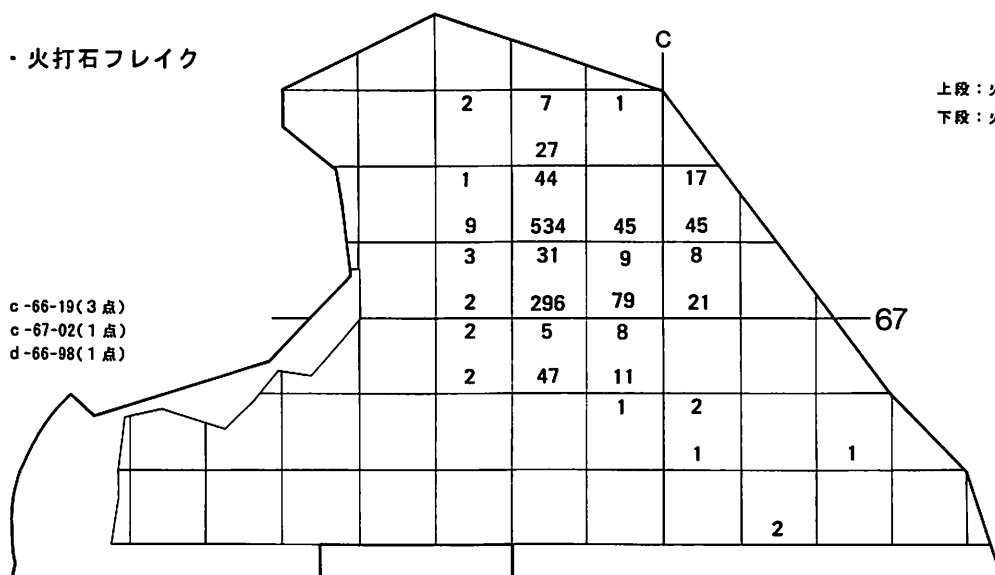
- 捺文土器：2 2 点
- 縄文土器：3 点
- 不明土器：2 点
- 軽石製品：c-66-19(1 点)
- c-66-29(1 点)
- c-66-49(1 点)



右上段：陶磁器  
左下段：砥石

火打石・火打石フレイク

- フレイク：c-66-19(3 点)
- c-67-02(1 点)
- d-66-98(1 点)



上段：火打石  
下段：火打石フレイク

礫(礫片を含む)

- すり石：c-66-09(1 点)
- c-66-19(1 点)
- c-66-18(1 点)
- たたき石：c-66-18(1 点)
- c-66-29(1 点)
- d-66-98(1 点)
- 石 鏝：c-67-11(1 点)
- 石 皿：c-66-29(1 点)
- 台 石：c-66-18(1 点)

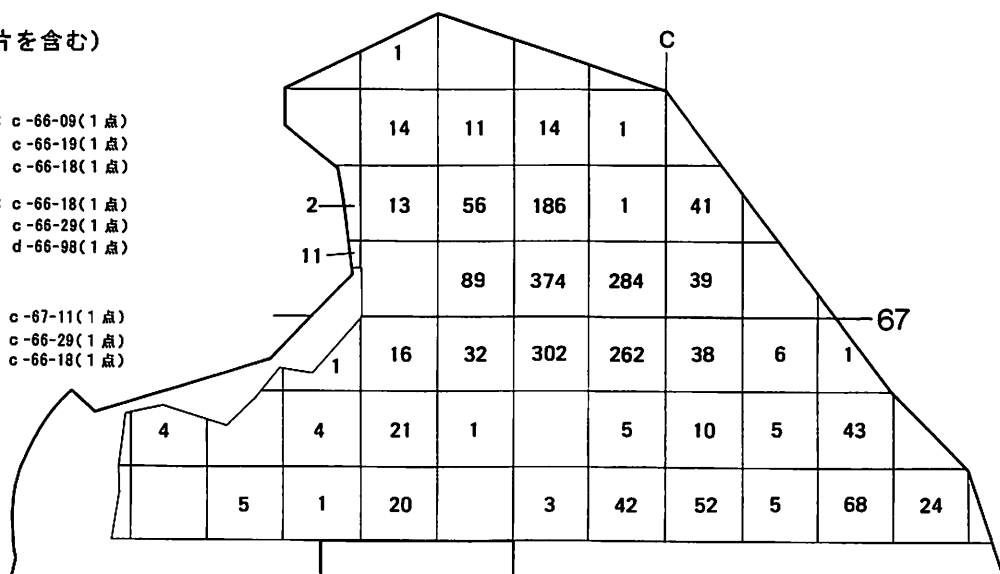
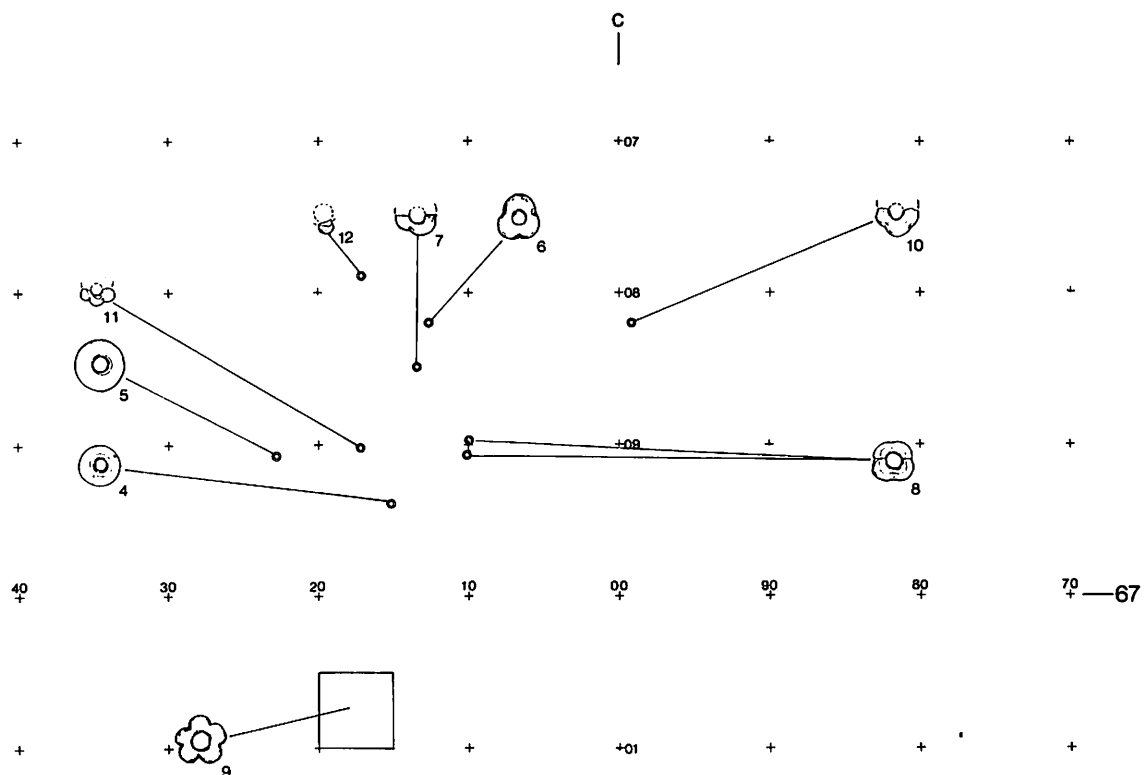
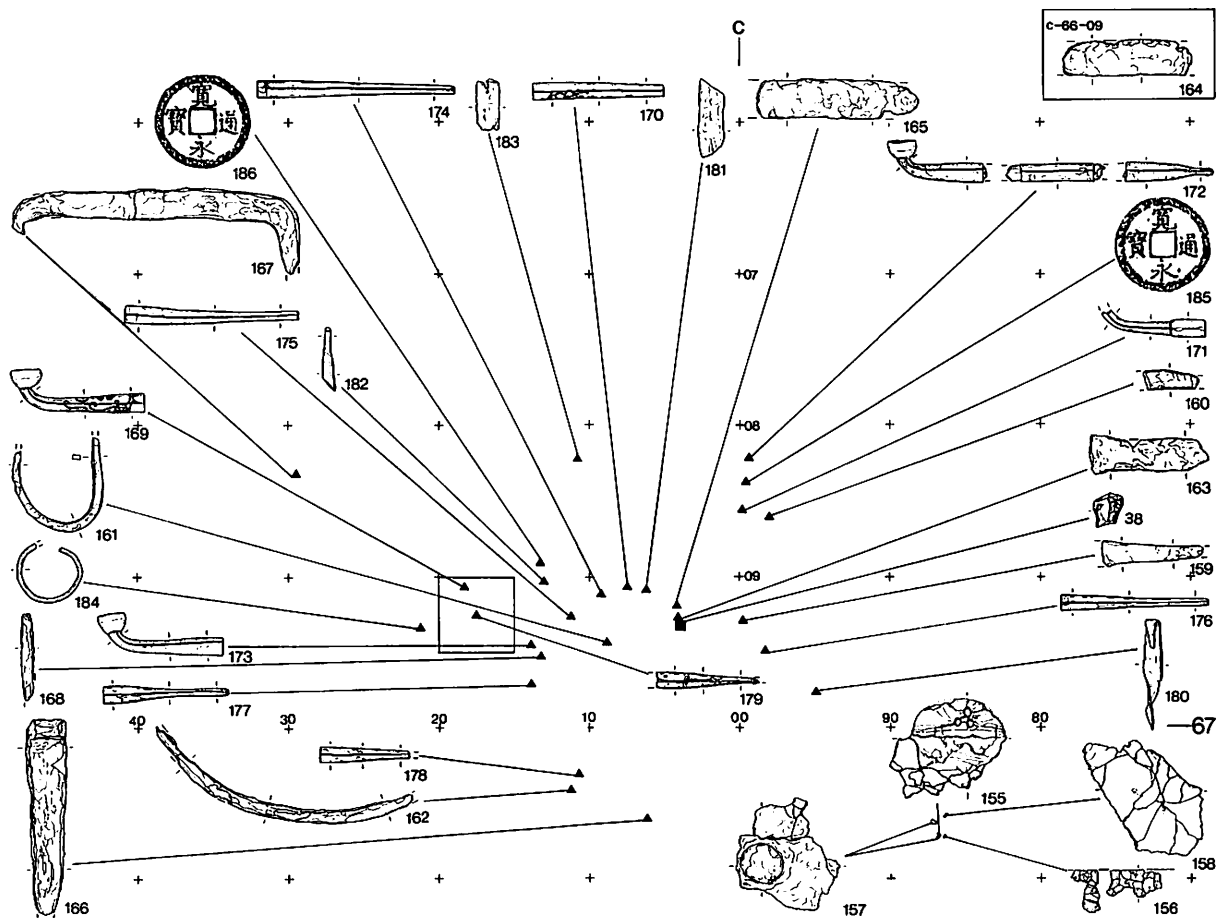


図 V-50 陶磁器、石器・石製品分布図

V 第0 黒色土層の調査



図V-51 ガラス製品分布図



図V-52 金属製品分布図

## (5) 木製品・樹皮製品・繊維製品 (図V-54~323、表VI-29~100、図版34~249、カラー図版1~11)

0 B層の木製品は、調査区縁辺の標高4.5m前後以下から出土している。分布は昨年度報告(北埋調報102)のI B層と大きく異なっている。I B層の木製品分布はほぼ調査区全域に広がり、密集域は調査区の東西に大きく分かれ、c-67-40・41・51とd-67-81・82・91・92に濃密に分布していた。それに対して0 B層の木製品(図V-53、付図1~20)は、調査区中央から南東に向かって細長く分布し、密集域がほぼ連続している。特に調査区中央部のc-66-09・18・19、c-67-00・10周辺とd-67-81・91周辺に濃密な分布が見られる。調査区の中では比較的、やや平坦となっている部分である。濃密な分布域のc-66-09・18・19は灰集中10の南西から南に位置し、0 B層出土の各種生活用具のほとんどの種類が密集して分布している。意図的に切断されたもの等も多く分布していることから、金属製品等と同様に灰集中10に伴う「物送り場」域であったと考えられる。また、d-67-81・91周辺においては舟着場や建材集中と呼称された遺構周辺にあたることから、柱、桁・梁、垂木、母屋等の建材群とそれらに混在する状態で舟用具や舟部材、漁撈具、加工具などの各種用具が出土している。以上のように、0 B層の木製品分布の多くは、灰集中10、舟着場、建材集中に伴う各種生活用具によって構成されていると考えられる。また、木製品の分布状況から、遺跡が南東の斜面裾に沿ってさらに広がっていたものと考えられ、VII章のクラムシェル(重機)調査の木製品からも同様な状況が推測できる。

木製品には掲載した以外にも多量の製品破片が出土している。現在のところ類例や同様の遺跡調査例が少ないことから、今後の資料となるように出来る限りの代表的な木製品や部材を掲載する努力をした。脆弱で保存処理後でなければ実測不可能な漆製品や繊維製品については、カラー図版と写真図版に一部を掲載している。他にも、保存処理を十分に行えれば、実測及び土器・石器同様に接合や復元が可能と考えられる木製品も少なくない。また、木製品が膨大量であることから数量的なデータの集計については掲載することが出来なかった。(通常コンテナに換算して7,500箱程となっている)

木製品の掲載番号、掲載図版番号、名称、出土発掘区、遺物番号、木取り、炭化の有無、樹皮の有無、計測値及び樹種名等については一覧表に記してある。名称記載のうち、折れや割れによる破損が認められるものについては、基本的に名称の末尾に「片」と記し、計測値の数値に( )を付けている。また、刃物による意図的な切断痕の認められるものについては通常の破損品と区別して「切断品」と末尾に記して「物送り儀礼」との関わりに注意した。やや言い回しが長くなるが「切断品」が破損している場合にはその後に「片」を記している。樹種名は基本的に属名称で記しており、推定される樹種名等については、VIII章1節の「木製品の樹種同定」を参照されたい。0 B層及びクラムシェル(重機)調査の木製品の各用具別の分布状況はカラーの付図1~20を参照されたい。

## 交通具 (70~283、付図1~3)

## 舟部材 (70~204、付図1~3)

舳片切断品片(70)：丸木舟の舳を舟底の立上る部分で船体から切断した痕跡が認められる。先端部は中央から右舷を欠損している。舳の器厚は約19cmと厚く、舷側部分を剥がれるように欠損している。不要となった船体を「舟(物)送り」したものであろう。舳先端は角形に加工され、短い庇状に張出している。舳先上面に盛り上りはない。舳先左舷には2.7×2.5cm程の角孔が穿たれており、その下方には上面から左舷側に斜めの角孔が穿たれている。上面の角孔は舳綱などを通すための孔或いは木幣(イナウ)を挿すための孔であろう。舷側の角孔は舷側板を綴ったための角孔であろうか。

舳舷側板片(71・72)：いずれも板綴舟の舳に近い丸木舟部の右舷側板片である。71の上縁には5ヶ所の角孔が並んでいる。舷側板を綴った角孔と考えられ、上方が綴じ紐等により摩耗している。72



には角孔が確認出来ないが、上縁の一部が厚く盛り上がっている。

**板綴舟舷側板 (74・92~109)** : 74は本遺跡最大の板材であり、長さ3.66m、幅31.00cm、厚さ1.85cmの板目の板材である。85点程に割れていた。表面には鉞(手斧)の削り痕が鮮明であり、両側縁には舟本体、舷側板、車権受台部等とを綴った22cm前後の等間隔の角孔が列になっている。上棚と考えられる。角孔の大きさは2×3cm前後の大きさであり、垂直な2個単位の角孔が穿たれている部分には車権受台部の抉部が固定されていたのであろう。板の両端は腐朽や摩耗が著しいが、出土時の形態的な観察によると、中心部から僅かに反りながら切り出しナイフ状に細く加工されていたものと思われる。角孔は小刀等で表面から削るように掘り込まれ、最後に軸状のものを打ち込んで穿孔したものと考えられる。裏面の角孔周囲には板表面の剥離が認められる。92~109は厚さ2cm前後の板材であり、すべてに同様の方法で角孔が数カ所穿たれている。角孔の縁には紐や縄の緊縛による潰れや摩耗が見られ、前述同様に裏面の角孔周囲に剥離が認められる。本来は長かった舷側板を再加工、或いは転用したものであろう。92~101は角孔の穿たれた幅広の板材である。92・94・96の表面には顕著な削り痕が認められる。97の厚さは3.9cmもあり、やや湾曲している。中央付近には溝状の加工があり、小孔が2カ所に穿たれている。101は表裏とも炭化している。102~106は角孔のあるやや細長い板材である。107は上下の角孔部から半損した楕円形の板材である。106・107は表面の加工痕が顕著である。

**舟材 (73・75~91・110~113・115~117)** : 機能や用途を限定することは出来ないが、形態や樹種から舟部材の可能性のあるものを取りまとめた。73は表裏や側縁部の削り痕が顕著であり、上部の大きく抉られた角孔のある厚板材である。75は両側に角孔付きの突起が付けられた「Y」字状の板材である。下部には角形の抉りと角孔が認められる。表面が凸形となる断面形態であり、裏面は平坦に削られている。舳先に付けられた飾り等であろうか。76は中央部の角形の溝の両側縁が突起している。77は表面に左右対称の抉りがある蒲鋒形の太角材であり、中央部が角形に抉られている。78は切断された半割材で、中央部に貫の残存する角孔と隅丸方形の凹みがある。79は角形の凹みのある上部に張出した中央部を残して、両端が薄く削られている。削り痕が顕著である。80は両側縁に抉りがあり、断面が蒲鋒形となる太角材の半損品である。81は上部に角形の溝がある角材であり、角に2カ所のホゾが彫り込まれている。82は斜めに切り出された両端部をもつ台形の厚板材片である。83は両側縁に粗い抉りのある角材である。84には2カ所の角孔が穿たれ、上面が一段低く削り出されている。側縁部中には角形の抉りがある。85~91は平面形が台形となる板材であり、ほぼ対称となる位置に角孔が穿たれている。舟底部の隔壁等であろうか。85は長辺側に溝付きの角孔が2カ所穿たれている。87は短辺側にやや大きい角孔が2カ所穿たれている。表面には削り加工やまな板状の刃物痕が多数認められる。88は4隅に角孔が穿たれている。89は大型の板材で上下にはほぼ等間隔の角孔が穿たれている。表面には刃物痕が見られる。90は短辺に2カ所の角孔があり、表裏には鉞(手斧)による方向性のある削りが顕著である。91は短辺側に2カ所の角孔がある。板の幅が狭く、矢筒翼部の可能性もある。110~113・115・116は板綴舟のあばらと考えられるものである。いずれも「く」の字状に屈曲している。110・111・113は枝分かれした材を加工したものである。110の上部には角形の平坦部が作出され、角孔が穿たれている。屈曲した下部は丸木材となっており、端部に抉入がある。111は上部に平坦面が作出され、角孔が穿たれている。113の表面は面取り加工されている。115・116は1本の丸木を屈曲させたものである。115の先端は斜めに一面を切り出している。116は表裏から斜めに切り出された、欠損した両端部となっている。112は屈曲した丸木材の一方に角孔が穿たれ、もう一方の断面は角形となるように削られている。表面にはイト、パが刻まれており、アイヌの所有物と考えられるが、和舟等の舵取り棒に似ている。117は丸材の上方に角形の貫が残存し、貫板には円形の木釘が残存して

いる。下端部は上方から下方に向かって斜めに削り出されている。土掘棒の可能性もある。

**舟ミニチュア (114)** : 舳先は斜めに立上り、艫は角形に削り落されている。舟内部は粗く彫り込まれ、舟底部が平らとなるように整形されている。和舟等の模造品であろうか。

**車權受台部 (118~155)** : 舷側板に縛り付けた車權の台座である。両端部に舷側板に縛り止めるための抉りが付けられている。抉り面の裏側には平坦面が作出され、舷側板と密着させる構造となっている。車權を受ける軸部(挿入される軸)の構造から立ち木の枝分れ部分を軸とした枝利用式と台座に後で軸を差し込んだ軸差込式の二種類に大きく分けられる。軸差込式は丸い頭部の軸が差し込まれる丸い軸孔の開く丸軸差込式と角形の頭部が差し込まれた角形の軸孔の開く角軸差込式に2分される。軸差込式のものとは枝利用式に比べて軸周辺の台部幅が広く、断面が隅丸二等辺三角形や長方形となるものが多い。舷側板との接着面の面積は枝利用式よりも少なく、木取りは柾目となるものが多い。

118~124は枝利用式である。枝利用式の軸は傾斜しており、枝付け根の上部が車權の回転運動により摩耗している。また、木取りは樹心を残す丸木或いは半割状のものが多い。119・121・123・124は断面が角形となるものである。119は断面を角形とするために表裏に削り痕が顕著である。120は表面の加工が丹念であるが、両端に抉りがなく未製品と考えられる。両端にはアタリのための削りがわずかに認められる。121の断面は角形であり、右端部は表裏から抉られている。舷側板への装着が表裏にかかわらず、装着可能な構造であった可能性がある。左端部抉りを欠損している。122は軸と両端の抉り部を欠損している。124の軸は他に比べて短く、平坦面には刃物を打ち当てたまな板状の刃物痕が顕著である。右端の抉り部を欠損している。138は一方の抉り部のみの破片であるが、木取りや断面形態から枝利用式と考えられる。

125~133・140は丸軸差込式である。125には丹念な加工痕が認められ、折れた丸軸が残存している。126は両端の抉り部が極端に小さく、表面には2本の短刻状のイトッパが認められる。128は角材に抉りを付けたものであり、両端部側がやや薄く加工されている。129~132・140は抉り部やその周辺から折損したものである。133は炭化している。140の表面にはアイウシ文( { } 文・トゲ文)が線刻されている。

134~137は角軸差込式である。134の長方形の角孔には角軸頭部が残存し、左右に固定のための楔が打ち込まれている。135には角軸の頭部が残存している。右側の抉り部を欠損した小型のものである。136・137は角孔から割剥がれるように欠損している。139は軸孔と抉り部を欠損しており、表面にはメカジキが線刻されている。2本組の短刻でイトッパが刻まれている。

141~152は抉り部のみの破片である。143・148~152は意図的に切断されている。141・142・150の表面にはイトッパが刻まれている。142の端部は炭化している。153~155は軸孔と抉り部を欠損している。154・155には切断痕が認められる。154には角軸と思われる痕跡が認められる。

**車權受台部・軸 (156~204)** : 軸は頭部断面の形態が円形となる丸軸部と方形となる角軸部に分けられる。いずれも頭部直下が車權の回転運動により、摩耗し帯状に括れている。摩耗部による抉れのために強度を失って折れているものも多い。

156~187は頭部断面が円形となる丸軸差込式の丸軸部である。156~161・165・171・174・176・177・179・182・183・185・186の木取りは板柾取り或いは半割取りとなるものである。162~164・166・172・173・175・178・180・181・184・187の木取りは樹心を残す丸木取りとなるものである。159・160は先端のみを細く加工している。169の頭部には切断痕が認められる。170の頭部直下は使用による摩耗が著しい。172は腐朽が著しい。171・173~183は頭部から摩耗部の破片である。184~187はほとんど使用されていないためか摩耗が少なく、頭部と軸部の区分が明瞭ではない。

188～201は頭部断面が方形となる角軸差込式の角軸部である。多くの場合は、角形となる頭部を意図的に削りだしている。188・190・191・201は頭部と軸部の区別が明瞭ではない。木取りは丸木取りとなるものがほとんどなく、柁目或るいは板目取りが大半を占める。188・189の頭部には固定のための楔が打ち込まれている。190の頭部には角形の小孔が穿たれている。191～198・201には角形の貫孔が穿たれている。191は貫孔から上部を欠損している。195・196・201は角孔に貫板が残存している。194～198・200は頭部～摩耗部の破片である。199は頭部の一部を欠損している。200の頭部は下部に縁を残して表裏を薄く削っている。202～204は頭部を欠損した摩耗のある軸部の破片である。

#### 舟用具 (205～283、付図2・3)

車櫂(205～225) : 全体は軸孔周辺で緩やかに膨らんで最大幅となり、軸差込孔は全長の1/3程の部分に穿たれる。櫂柄(軸)は水掻部に比べて極端に短い。水掻部は外洋等の波抵抗を避けるために通常の早櫂よりも幅が狭く、断面が凸レンズ形になる。軸孔及び孔口付近は舟の進行方向に向かって、やや楕円形に摩耗しているものが多い。軸部(柄)と水掻部では平坦面が90度ずれて柁目、板目が逆転するように木取りされている。

205～207・209～213は肩部及び軸孔部の破片である。209の両端部は切断されている。206・210は上部が切断されている。206の表面にはイト、パが刻まれており、210の下部は炭化している。207・208・213には上下2ヶ所にほぼ同じ大きさの軸孔が穿孔されている。208・214は水掻部を欠損している。柄(軸)の端部がほぼ同じ太さであり、断面が円形である。215～217は肩部破片である。217は斜めに切断されている。215の上部割れ口には軸孔の痕跡が見られる。218～225は水掻部の破片である。先端部に向かってやや幅細になり、先端形が「U」字形になるものが多い。224・225は一方向から刃を打ち当て切断している。224は炭化している。

早櫂(226～248) : 242は水掻部の一部を欠損するほぼ完形のものである。全長200.03cm、水掻部幅18.3cmである。柄(軸)端部には「Y」字形の握部が挿入されるものである。水掻部肩部はナデ肩であり、水掻部は先端に向かってやや幅が細くなる。先端形が「U」字形となっている。243の柄(軸)上部は潰れたように欠損しており、明瞭な肩部を持たない。水掻部の中央部が最大幅となり、先端部に向かってやや細くなり、先端形は「U」字形となっている。水掻部表面にはまな板状の刃物痕が多数認められる。244は柄(軸)上部を欠損する。水掻部肩部の肩は張り出し、幅広である。先端部は角形となっている。水掻部の長さは他と比べ極端に短い。表面にはまな板状の刃物痕が多数認められる。245の柄(軸)上部は摩耗し、細くなっている。水掻部肩部は僅かに張り出すナデ肩である。水掻部の幅は先端部に向かってやや細くなり、先端形は「U」字形となっている。246はほぼ完形のものである。全長150.4cm、水掻部幅6.60cmである。水掻部肩部は張出し、幅は先端部まで変わらず、先端形は角形となっている。247は柄(軸)と水掻部周縁を欠損している。水掻部肩部は張り出すタイプと推測され、幅が先端部まで変わらず、先端形が角形となるものであろう。248は柄(軸)上部を欠損する。明瞭な水掻部肩部を持たず、水掻部は柄(軸)から徐々に幅広となって先端部が最大幅となる。先端部は山形に切り出されている。226・227・231・232は肩部を持つ破片である。226は柄(軸)上部を欠損しており、肩部がナデ肩となるものである。水掻部は摩耗し薄くなっている。土掘棒として転用された可能性がある。227は柄(軸)上部が切断されている。水掻部肩部は張出し、刻みが付けられている。231は肩の張り出す水掻部肩部破片である。232は肩の張り出す水掻部肩部破片であり、水掻部が切断されている。228～230は柄(軸)部の破片である。229・230は切断されており、229にはイト、パが刻まれている。233～241は水掻部である。233～235・237・239は意図的に切断されている。233の先端形は「V」字形となっている。236・238・240・241は水掻部破片である。236の上

部に丸孔の痕跡が認められる。238の表裏には加工痕が顕著であり、表面にはまな板状の刃物痕が多数認められる。先端形は241の角形と除いて「U」形となるものが多い。

いずれも水掻部の表面に製作時以降の刃物傷が無数にみられるものは、舟上で一時的にまな板として利用した痕跡とも考えられる。

**早權握部(249～259)：**權柄(軸)の末端に装着される握部であり、形態が「T」字形となるもの(249・252・256～258・259)と「Y」字形になるもの(250・251・253・254・255)がある。柄(軸)挿入部の孔はすべて角形である。249・251の稜線は面取りされており、孔には目釘が打ち込まれた柄(軸)が残存している。251には楔が打ち込まれている。252には二本の目釘が打ち込まれた柄(軸)が残存している。253には表裏及び上面に「X」「=」を組み合わせたイトッパが鮮明に刻まれている。また、木釘孔が6カ所あり、うち5カ所に木釘が残存している。表面に像嵌或るいは何かを固定したのであろうか。右端部が炭化している。254は角孔から半分を欠損している。表裏には短刻によるイトッパが刻まれている。255はこれまで最大の握部である。全長は26.8cmあり、角孔に目釘の打たれた柄(軸)が残存している。舵とり用の權に装着された大型の握部であろうか。256には目釘の打たれた柄(軸)が残存している。257には斜め2本の短刻によるイトッパが刻まれている。258の中央はややふくらみ、角孔には目釘と楔の打込まれた柄(軸)が残存している。259には目釘が残存している。

**あか汲み(260～283)：**260は開口部の広い塵取形のものである。一木を横木取りして汲みだし部から柄部までを削り出している。側板及び内面には製作時の削り痕が顕著に認められる。把手部は水を掻き出す際に、把手部が舟底に当たり邪魔にならないように角度をつけている。把手端部には紐孔が穿たれ、表面には短刻によるイトッパが刻まれている。底面は平坦であり、側板は開くように立ち上がる。先端部の摩耗が著しい。底部裏には加工痕とは別の多数の刃物痕が認められ、内面は部分的に炭化している箇所がある。261は塵取形で肩の角張るものである。把手部の上部と水掻部を半損している。把手部と底面の角度は少く、底面裏には炭化した箇所がある。262は塵取形で把手が短く、把手部と底面の角度や比高さがほとんどない。底面は平坦であり、側板は開くように立ち上がる。側板部が浅いことから、塵取の可能性もある。263は塵取形で長い把手が削りだされ、側板部を欠損している。底面は平坦であり、側板は僅かに開いている。先端部には補修時の溝付きの孔が穿たれており、帯状樹皮紐で結束していたと考えられる。264は底部から左側板部にかけての破片である。265は把手部を欠損しており、側板部口唇に縁取り線が刻まれている。中央部から半損しており、2個1対になる補修孔が穿たれている。底部は丸底となっている。266は底部と左側板の破片であり、底面はやや丸い。267は底部右側の破片であり、側板部を欠損している。268は右側板部の破片である。269は右側板部を欠損した底部破片である。270は左側板の破片である。271は右底部から側板にかけての破片である。272は補修孔にサクラ樹皮の残存する底部破片である。273は左側板部の破片である。側板には底部を固定した時に木釘痕が認められる。274～283は把手片である。274～276・278～283は側板を残して破損している。274・275の把手端部は腐朽・摩耗している。276の把手端部に紐孔が穿たれており、上面にイトッパが刻まれている。277は把手端部に環状の紐孔を作出しており、端部には滑り止め用の突起が作出されている。278・279の把手端部には滑り止め用の突起が作出されている。280は端部に向かって太くなり、把手端部は斜めに切り出されている。281・282・283は窓状となる把手部である。281は角形の窓状の把手部である。282は三角窓状となる把手部の上部破片であり、上面に「X」、「I」、「X」字状のイトッパが刻まれている。283は三角窓状となる把手部の下部破片である。

**漁撈具(284～396、付図4～7)**

**回転式離頭銚中柄部(284～348)：**回転式離頭銚中柄は1本式(284～311・338・348)と2本組式

(312~331・334~337・339~347)に分けられる。いずれも基部の裏面に棹(柄)部と密着させるための平坦面が作出され、樹皮や紐などで固定する帯状の挟り部が削り出されている。1本式は先端部から基部にかけて直線的な構造となっており、帯状の挟り部分付近が最大幅となるように整形されている。裏面には矢中柄部同様に木の髄を溝状に残しているものが多い。1本式(平均長35.881cm)は2本組式(平均長25.05cm)よりも長いものが多い。2本組式は基部の帯状の挟り部分付近で屈曲し、先端部に向かって緩やかに湾曲する。1本式同様に帯状の挟り部分付近が最大幅となっている。裏面には溝状の髄部分が加工により切り落されて短く残存している。2本組式は屈曲部の作出される構造から判断して、素材となる樹木が1本式よりも太いものが選択されている。1本式・2本組式には、先端部に離頭銚先を挿入した摩耗や潰れ等の痕跡を残すもの(285~294・297~299・301・316・319・322・325~327・329・339・334~339)や挿入および使用により先端部を折損したもの(300~304・309・314・320)がある。これらから先端部は銚先中に1.5~2.5cm程挿入されていたものと推定される。先端部の径は1本式が0.7~1.2cm程の太さであるのに対して、2本組式では0.4~0.8cm程の太さのものが多く、1本式よりも鋭く尖っている。装着された銚先もこれに対応して、1本式では大型のものが使用され、2本組式では小型のものが使用されていたと推測される。以上から出土した回転式離頭銚中柄部は銚先を装着して、実際に漁猟等に使用したものであることが理解できる。1本式の291の挟り部は2段となっており、帯状の高まりで区分されている。296・297には明瞭な挟り部がなく、1段低く加工し、基部に向かって徐々に細くなる基部のような形状となっている。298~301・303・304には挟り部及び基部的な加工が見られない。1本式には基部に短刻列を付けるものは希であり、基部破片の348がその例である。2本組式には基部に短刻列を付けるものが多く、312~314・308・319・323・324・326・327・328・340・341・344・347の基部には短刻列が付けられている。324や347のように階段状に挟ったものもある。縛り付けた樹皮紐や縄・紐等がずれないように、滑り止めとして加工したものであろう。329・332・334~339は基部を欠損している。340~348は基部破片である。307の基部は切断されており、311・341は先端部が切断されている。

**回転式離頭銚指掛部(349~363)**：離頭銚棹を投げる際に指を引掛ける部分である。棹(柄)部の最後に挿入し樹皮などを巻き締めて固定される。大型の矢筈状の形態であり、指を掛ける部分が広がった「U」字形に挟られている。内部は髄を削り抜いて円錐台形の空洞となっている。上部は帯状に挟り、籬状の高まりで区画して、巻き締める樹皮紐等がずれないように加工している。平面形は先端の孔口部から「U」字形の指掛部に向かって幅広となる。先端の孔口部断面はいずれも円形であり、「U」字形の指掛部断面では楕円形となるものが多い。形態的には以下の4種類が認められる。

先端の孔口が小さく、指掛部が「U」字形に大きく開くもの(349~354)。先端の孔口が大きく、寸足らずで、指掛部が「U」字形に大きく開くもの(355・356)。先端の孔口から「U」字形の指掛部に向かって徐々に幅広となるもの(357~359・361)。先端の孔口から「U」字形の指掛部まで寸胴となるもの(362・363)等がある。349には差込式の細帯状樹皮が巻かれており、側面に小孔が貫通している。小孔の下にはイトヅバが刻まれている。350には帯状の挟りの下に2段の細い籬状の高まりが作出されている。351・357・359・363は孔口直下に細い溝状の挟りが廻っている。352は孔口を欠損している。353は1/3程の破片であるが、短刻列やアイウシ文等のイトヅバ状文様が刻まれている。354は「U」字形の指掛部片である。355・359~362の孔口直下の帯状溝は斜めに挟られている。356には帯状の挟りと籬状の高まりが作出され、罫引線にそってイトヅバが刻まれている。

**回転式離頭銚棹(柄)片(396)**：両端部を欠損している。表面の半面が炭化している。

**銚先状製品片(333)**：先端にヤスのような返しを付けた特殊な形態である。先が小さく、これ自



体で銛として機能するのか、或いは特殊な銛先を装着するための加工であるのか不明である。

**魚突鉤銛台部 (366~377)** : 回転する鉄製の鉤を嵌め込む溝が彫られ、溝内の先端部分には鉄鉤を付けた紐を通す、丸孔が穿たれている。溝の下方には鉤に付けられた紐を固定するための帯状の袢りがある。基部には棹(柄)部と密着させるために平坦面が作出されている。素材となる材はアジサイ属などの柔らかい髓のある樹種であり、ほとんどが丸木取りである。出土した魚突鉤銛台部は小型でやや細いものが多いことから、サケ以外のやや小型魚の捕獲に使用したものであろう。364・365はミニチュアである。溝や溝内の小孔、基部平坦面、袢り部等が細部まで作出されている。366~368・369の石突部は使用により、潰れや摩耗が認められる。367の先端部には石突部保護のために細帯状の樹皮が巻き縛られていた痕跡が残る。368の基部表面には斜めの短刻列が刻まれている。367~369には溝の直下に帯状の袢り部が2段作出されている。364・366・369は基部を欠損している。370・371は未製品であり、溝上部に孔が穿たれていない。370は石突部と基部側が切断されている。製作に失敗し廃棄されたものであろうか。371は下部を欠損した棒状に細長い素材を利用したものである。372は石突部と基部側を欠損している。上部の溝は孔部分から折れており、帯状の袢り部が3段作出されている。袢り部付近には野引線が廻り、その上にイト、パ状の短刻が刻まれている。中央部は部分的に炭化している。373・376は裏面に平坦面の作出された基部破片である。棹(柄)に装着する帯状の袢りがある。374・375・377は上端部の切断された基部である。裏面には平坦面が作出され、帯状の袢りが2~3段付けられている。374には短刻列が刻まれている。377の切断面は部分的に炭化している。

**魚突鉤銛棹(柄) (383~385・390・392・393・395)** : 棹(柄)の径は3cm前後のものが多く、完全な状態で出土したものはない。383~385・392・393には装着時に樹皮紐や縄などで固定するための袢りが付けられたものである。383の上部は切断されている。384・385・392には平坦面が作出されている。384は面取り加工された材であり、上部の断面は角形となっている。下部を欠損している。385は上面に2カ所の袢りと側縁に1カ所の袢りがある。392の先端側は僅かに抉られており、下部に向かって僅かに湾曲している。390は面取り加工した材であり、部分的に削り痕が明瞭である。下部は摩耗・腐朽により欠失している。

**回転式離頭銛中柄または魚突鉤銛台の基部片 (378~382)** : いずれも柄に装着するための帯状の袢り部と裏面に平坦面が作出されている。回転式離頭銛中柄では1本式の基部と考えられる。378・379・380・382の上部は切断されている。378には2カ所に袢り部が作出されている。380は材の厚さや下端部に袢りがあることから棹(柄)の先端部の可能性もある。381・382の木取りが丸木材であることから魚突鉤銛台の基部の可能性もある。

**回転式離頭銛または魚突鉤銛の棹(柄) (386~389・391・394)** : 枝や節などがなく細長い棒状となるものを取りまとめた。386の上部は切断され、下部に平坦面が作出されている。387の上部には粗い平坦面と袢りが認められる。下部は中央部の表裏から徐々に薄く削りだされている。388の左側は中央部から面取り加工されており、右側の先端は突起状に細く加工されている。389は左側を破損しており、右先端は凸形に丸い。388・389とも樹種がサクラ属であることから早樫などの柄(軸)の破損品の可能性もある。391は径が1.5cm前後と細く、左側を破損している。394は両端部を欠損しており、中央部が摩耗によりやや細くなっている。回転式離頭銛の棹(柄)の握り部であろうか。

**狩猟具 (397~439、付図8)**

**矢中柄・矢(鏃)部 (397~418)** : 397~400は矢中柄部である。いずれも断面は丸形である。397・398・400には明瞭な基部が作出されている。397は先端部と基部を欠損している。398の先端は丸く摩耗している。400の先端はやや扁平となり、摩耗している。矢(鏃)が装着された痕跡と考えられる。

399には明瞭な基部が認められない。先端が摩耗し、下端部は杭先状に削られている。401～404は先端部の形態が円錐形や凸形となるものであり、鳥などに射って打撃により捕えたものであろうか。401・403の先端は円錐状に削りだされている。断面は丸く、401には明瞭な基部が作出されている。403の表面には樹皮が残存している。402の先端は凸形であり、横に抉りが認められる。断面は角形に近く、基部を欠損している。404は先端部のみが僅かに突起状になっている。断面は丸形で基部に向かって徐々に細く加工されている。405～414は先端部が平坦となっているものである。鳥用の矢（鏃）あるいは練習用、子供の玩具用であらうか。405は明瞭な基部が作出され、表面に短刻によるイトッパが刻まれている。断面は丸形である。406は体部から基部に向かって徐々に細く加工されている。407の上部は細く基部の付け根が最大径となっている。408～411は基部に向かって徐々に細く加工され、基部を欠損している。断面は丸形であり、先端部が最大径となっている。412～414は寸胴形で細長い体部である。断面は不整形であり、明瞭な基部が作出されている。414の表面には短刻によるイトッパが刻まれている。415は先端部を欠損した寸胴形のものである。上部には野引線に沿って短刻によるイトッパが刻まれている。断面は楕円形で、明瞭な基部が作出されている。416の先端は丸く、体部が細長い寸胴形のものである。断面は楕円形で、明瞭な基部が作出されている。417の先端部は丸く、体部下端部から徐々に細くなって基部としている。断面は丸形である。418の先端は表裏から削られ山形となっている。断面は半円形であり、基部は徐々に細く加工されている。417・418も鳥用の矢（鏃）等であらうか。

**矢柄部 (419～423) :** 419～421は弓の弦を掛ける「U」字状に抉られた矢筈部を残す矢柄片である。419の先端部は矢や矢中柄の基部の挿入により割れている。長さ32.0cm、径0.85cmである。胴部上方に最大径があり、両端に向かってやや細く加工され、矢筈部が僅かに太くなっている。重心の位置を前方とするための加工であらうか。胴部下方には細く薄いサクラ樹皮が螺旋状に隙間なく巻き留められている。420は胴部中央より上方が摩耗しており、先端部を僅かに欠損している。長さ37.90cm、径0.85～0.87cmである。矢筈の上方がやや細く加工されており、矢筈横が炭化している。421には先端部に矢や矢中柄基部を装着した紐等の痕跡が僅かに見られる。419同様に胴部上方に最大径があり、両端に向かってやや細く加工され、矢筈部が僅かに太くなっている。長さ41.50cm、径0.90cmである。422・423は矢に関わる用具と考えられる。422は竹管の先端に帯状の装着痕が認められるものであり、胴部にも螺旋状に樹皮などが巻かれていた痕跡が残る。下部を欠損している。423は上部に抉りのあるものであり、下部は炭化している。

**矢筈部 (424～426) :** 弓の弦を掛ける「U」字状に抉られた部分である。424～426は大型の矢柄の筈部と考えられるものである。424は上下を欠損している。425の上部は切断され、矢柄部と筈部を区分するように削りだしている。426は矢柄に装着する寸胴形の筈部であり、筈部が表裏から山形に削られている。着脱式の筈部であらうか。

**弓 (427～429) :** 427は中央部から下部を欠損している。上部の筈部は山形に削られた先端となり、表裏に3本の短刻が刻まれている。その両側縁には2本の刻みがある。断面は円形で、木取りは丸木取りである。表面が丹念に磨かれている。428は上下端部を欠損している。表面には薄く加工した幅0.6cm程のサクラ樹皮を螺旋状に巻いている。断面は円形であり、表面が磨かれている。樹種はニシキギ属である。429は弓筈部の破片である。下部は炭化し欠損している。端部を段状に細く削り込んで筈部としており、表面に薄く加工した幅0.5cm程のサクラ樹皮を螺旋状に巻いている。断面は円形であり、表面が磨かれている。樹種はイチイである。

テン捕り罠切断品片？(430)：粗く削られた籠状の板材であり、この部分が反動で落下し小型獣の首などを押さえつけるらしい(北海道開拓記念館 出利葉氏のご教授による)。上部を欠損しているが、蔓や紐などを縛ったと思われる抉られた部分が認められる。断面は長方形であり、下部はやや薄く切り出されている。

仕掛弓台部ミニチュア(431・432)：復元図(アイヌ民族誌より)のような、スリット部を持つタイプである。復元図の矢と樹皮製矢筒の位置は本来は仕掛弓台上部に位置すべきものと言われる。432は弓を固定する側を欠損している。柁目の薄い板材を使用しており、小孔の開けられた尾部は山形に加工している。小孔は引きがねの紐を結び止める部分であり、線刻で囲んである。スリット部は下部を破損している。431は完形の台部である。弓を固定する部分は「V」字に抉り、その後方には弓及び毒矢を保護する樹皮製筒を縛り留めるための抉りが上下にある。中央には弦の張りを調整するスリット部があり、尾部には引きがねの紐を結び止める小孔が穿たれている。雛型として作成されたものであろうか。

矢筒翼部(433~439)：矢筒の両側に付けられる翼部分と考えられる。433~435・436・438は有孔板材の片側を波状に加工し、側縁部に短刻によるイトッパを刻んでいる。433~435は有孔板材の片側を3連のアイウシ文(∩)状に抉り込んでいる。433には矢筒に縛り止めたサクラの樹皮紐が上下の角孔に残存している。側縁には「=」「=」の短刻によるイトッパが刻まれている。434は2カ所の角孔から縦に欠損している。側縁には「=」「X」「=」の短刻によるイトッパが刻まれている。435には5カ所の角孔が認められ、角孔部から縦に欠損している。表面には3連の突起の付けられた円形文が彫刻されており、中央は2重の円形文となっている。裏面にも薄く円形文の痕跡が認められる。円形文の突起は抉られたアイウシ文状の先端部につながっている。436は片側の中央部のみをアイウシ文(∩)状に抉り込んでおり、その上下には「=」「／／」「=」の短刻によるイトッパ部を角形に削り残している。板の中央には長方形の孔が1カ所、上部には角孔が2カ所、下部には角孔が2カ所穿たれている。表裏には鉞(手斧)による削り痕が顕著である。437には凸形の板の上下に小孔が斜めに各2カ所穿たれている。438の片側は3連のアイウシ文(∩)状に抉り込んでいる。表面の腐朽・摩耗が著しいが、側縁部にかすかに短刻によるイトッパが認められる。439は上下端を欠損する有孔板材であり、側縁部に大型の刻み列が認められる。

#### 切截具(440~496、付図9)

罠(440)：楕円形の中央部に刀身に挿入する細長い台形の孔が穿たれている。縁辺は角を落して丸く加工してある。

刀柄(441)：全体は緩く反っており、柄頭は山形に切り出されている。柄縁と柄頭側には頭部挿入式のサクラの細帯状樹皮が巻締められており、中央の2カ所に巻き締められていた痕跡が認められる。表面には黒漆が塗られ、目釘孔やそれを含む孔が一線上に11カ所穿たれている。柄頭側には銅釘と鉄釘が残存している。像嵌や目貫等で飾られていた可能性がある。断面は楕円形であり、木取りは柁目である。

山刀(442)：柄頭に向かって緩く反り、湾曲した柄頭の下部には突起が作出されている。柄縁には頭部挿入式のサクラの細帯状樹皮が巻締められており、その後に籠状の高まりがある。片側表面には茎挿入のためスリットが開けられ、中央部が带状に低く削られている。ここには樹皮が巻かれていたと推定される。2カ所に目釘が残存している。

小刀柄(443~474)：形態的には大きく3つに分けられる。柄全体が緩く反り、柄頭が湾曲するもの(443~456・469・470)。柄全体が直線的であり、柄頭のみが斜め或いは抉られるもの(457・458)。

柄全体が直線的であり、柄頭が平坦となるもの(459~463・466~468・473)とがある。443は小口を欠損している。スリットの後に2本の罫引線が廻っている。表裏にはモレウ文様が彫られている。444にはスリットと罫引線が認められる。445の柄縁には罫引線が廻り、樹皮が巻かれていた痕跡がある。448にはスリットが認められる。449は小口側を一段細く削りだしている。451は柄縁に罫引線が廻り、スリットが認められる。柄縁には樹皮が巻かれていた痕跡がある。453は柄縁に帯状の溝が廻り、上下に8連の抉りが連続している。表裏にはその抉りを繋ぐように短刻列が刻まれている。スリットが認められる。454にはスリットと罫引線が認められる。455はスリット部から剥がれるように割れている。456は表面の加工が粗く、柄縁を欠損している。457は半身となっており、表面には大小の四角形が彫り込まれている。上部側縁には抉りがある。内面は挿入された茎の形に凹んでいる。柄頭は斜めに切り出され一段薄く加工されている。458は柄縁から柄頭に向かってやや細くなり、柄頭は斜めに抉られている。459は目釘の他に9カ所の木釘孔がある。柄縁と柄頭側に罫引線が廻っており、表面にイトッパが刻まれている。460は中央部に箍状の高まりを削りだしている。柄縁の一部が炭化している。461は柄縁に向かってやや細く加工されている。463には幅0.7cmほどの薄いサクラ樹皮が5連巻かれている。464は曲線的な彫刻の見られる破片である。柄縁には樹皮を巻いた痕跡と2本の罫引線がある。465は全面に線刻で細密な文様を彫り込んでいる。柄頭は斜めとなっている。466は表面に帯状の抉りと罫引線が認められる。上部縁辺には罫引線に沿って刻目がある。467には帯状の抉りが2カ所に認められる。446・468~473は未製品である。小口に茎挿入の掘り込みがない。468の柄頭を欠損している。柄頭側には円形の線刻が認められる。469の表面には円形のイトッパ?が刻まれている。471の表面には扇子形のイトッパ?が刻まれている。

**小刀模造品(474・475)** : 474の削り加工は丹念である。棟の反りがない直線的な平棟片切刃造りである。茎は短く、区は刃部側のみである。全体は切先に向かって細く鋭く切り出されている。475は粗く削り出されており、断面が厚い。茎から切先に向かって緩やかに反っている。平棟片切刃造りである。茎は短く、区は刃部側のみである。交易や製作を依頼する場合の雛形であろうか。

**小刀樹皮製鞘(476~482)** : 樹皮を折りたたみ、その縁を縫い留めて鞘としたものである。製作形態には次の4種がある。復元図のとおりA. 一枚のシラカバ樹皮を短軸方向に1回折重ねた後、さらに長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(476)。B. 予め切り揃えた繊維方向の同じ2枚のシラカバ樹皮を重ねて、長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(477・478・480)。C. 予め切り揃えた繊維方向の異なる2枚のシラカバ樹皮を重ねて、長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(479・482)。D. 1枚のシラカバ樹皮を重ねて、長軸方向に1回折りたたんで鞘としたもの(481)。476は突起部の張出しが小さく、角形である。10カ所の縫い孔がある。477は突起部の張出しが小さく、斜めに切り出された角形である。14カ所の縫い孔と縫いの内側に2カ所の吊り紐用の孔がある。478は突起部の張出しが大きく、丸形である。下部は欠損している。大きめの10カ所の縫い孔が現存し、縫い孔の外側に2カ所の吊り紐用の孔がある。479は突起部の張出しが小さく、角形である。下部の上面の樹皮は欠損している。表面には曲線的な線刻が描かれている。細く小さな13カ所の縫い孔があり、縫い孔の外に2カ所の吊り紐用の孔がある。480は突起部の張出しが大きく、丸形である。下部は欠損している。15カ所の縫い孔が現存し、縫い孔の外に2カ所の吊り紐用の孔がある。481は突起部の張出しが小さく、丸形である。下部を欠損している。表面には曲線的な線刻が描かれ、縫い孔に沿って罫引線が引かれている。11カ所の縫い孔が現存し、縫い孔の外に2カ所の吊り紐用の孔がある。482は突起部の張出しが大きく、角形である。下部を欠損している。表面には曲線的な線刻が描かれ、縫い孔に沿って罫引線が引かれている。11カ所の縫い孔が現存し、縫い孔に挟まれて1カ所の吊り紐用

の孔がある。

**鞘片 (483・484)** : 鞘板と考えられるものである。483は薄い柾目板に罫引線と樹皮紐を挿入した短いスリットが認められる。484は2枚重ねの柾目板に頭部挿入式のサクラの細帯状樹皮巻が固定されている。

**山刀鞘帯執部 (485~496)** : 鞘に細帯状の樹皮紐で装着・固定し、帯等に引っ掛けるフック状の突起部分である。485・486・487は装着される上下端を欠損している。485・486の形態は丸形であり、窓部は楕円形ぎみである。487・489の形態は角形であり、窓部は長楕円形となっている。上部が炭化している。488・490~495は片側のみ破片である。490の上部は切断されており、形態に合わせて表裏に三角形の彫刻がある。493の下部には抉りのある装着部が残存している。494・495はフック状に加工されていない。496は装着部などが粗く加工された未製品である。

**袋式鉄斧柄 (497・498・543)** : 鉄斧の膝柄と考えられるものである。497は小型で袋部が丸形となる鉞(手斧)が装着されたものであり、装着部の付け根が摩耗している。498は大型の袋式鉄斧が装着されたものであろうか。柄頭が削り出されており、表面に2本の筋状に装着痕が見られる。風呂鍬の柄やそのまま鍬として使用したとも考えられる。下端部は切断されている。543は股木材の未製品である。

#### 農耕・採集具 (499~510、付図10)

**鉤鍬片 (499・500)** : 股木材を利用した木鍬である。使用により先端部が摩耗している。499は上部に樹皮が残存し、先端部を欠損している。500の先端部は鋭く切り出され、下部を欠損している。

**土掘棒 (501~510)** : 棒状材を利用した根菜等の食物採集や農耕用の土掘具である。いずれも先端部のみが表裏から筒状に削られ、先端が「V」字状の断面となる。先端部には使用による摩耗、ささくれ、潰れが認められる。504~506は角材の先端部を加工したものである。504は先端部を欠損している。505・506は両端が表裏から削られており、先端部に剥離が認められる。507は上端部の節部分から欠損している。断面は凸レンズ形であり、權水搔部の転用品とも考えられる。508は面取りされた楕円材の裏面のみを中央部から削り出している。509は丸木材の両端部を表裏から削って先端部としている。510は丸木材の先端部のみを削り出している。先端部が折損している。

#### 工具 (511~548、付図11)

**縦槌 (511~542)** : 以下の4種類に分けられる。A. 股木の幹を頭部に、枝を柄に利用した枝利用式 (511~525)。B. 頭部の側縁を台形に抉って、上部断面が台形となる柄を横から挿入する抉り式 (526~531)。C. 頭部上部から垂直に角孔を穿孔し、貫通した角孔に柄を挿入する柄孔式 (532~540)。D. 頭部下部から垂直に角孔を彫り込み、貫通していない角孔に柄を挿入する柄差込式 (この層では出土していない) 等がある。

枝利用式には頭部に対して柄が極端に斜めのもの (515・518・520~522・525) と垂直なもの (511~514・516・517・519・523・524) がある。いずれも打面に使用による潰れや摩耗等が認められる。513の頭部はやや角形となっている。515・516・520・521には樹皮が残存している。521の柄部は炭化している。528には折れた柄部が残存している。531は柄の抉りの横に「V」字形の抉りがある。533の頭部はふたつに割れている。532・537の頭部は角孔開口部を溝状に抉っている。534は頭部の一部が炭化している。535~539には折れた柄部が残存している。541・542は頭部の未製品である。

**縦槌または鉄斧柄部 (544~548)** : いずれも胴部の断面は楕円形である。544の上端部は細い角形に削られている。545の上端部は切断されている。546の上端部は幅広の角形に削られている。547・548の上端部は切断されている。



**農耕・工具 (549~570、付図11)**

**横槌 (549~570) :** 横槌は敲打部と柄部が一直線になったものである。農具、工具、食品加工など用途を限定することは難しい。ここでは渡辺 誠 (1985) の形態分類に、本遺跡の特殊な形態のHタイプ、Iタイプを独自に追加している。

敲打部と柄部の境界が直角に近いものは、太くて短い形態のAタイプ (0 B層にはない)、細く長い形態のBタイプ (565・569?)、極端に細長い形態のCタイプ (0 B層にはない) に分けられる。敲打部と柄部の境界が斜めに傾斜するものは、太くて短い形態のDタイプ (0 B層にはない)、細くて長い形態のEタイプ (549~561・563・567・568・570) に分けられる。敲打部先端にタガ状隆帯の見られるもののFタイプ (0 B層にはない)、敲打部と柄部の境界が不鮮明なもののGタイプ (562)、敲打部と柄部の境界が明瞭であり、敲打部が丸く柄部が極端に長いもののHタイプ (564)、敲打部が極端に大きく片側に偏り、柄部が短いもののIタイプ (566) 等がある。

550・553・559は柄部を欠損している。552・558・559は敲打部の叩き痕が顕著である。555は断面が角形となっている。557には敲打した刃物傷様の痕跡が無数に認められる。562の断面は隅丸三角形となり、敲打部にイト、パが刻まれている。柄部には2本組の曲線の線刻が廻っている。敲打部には叩き痕が顕著である。魚叩棒あるいは皮なめし用具であろうか。564は柄部端を欠損している。魚叩棒であろうか。565は敲打部の先端が炭化している。566の敲打部は角形であり、上部に刃物痕が認められる。567は両側に節が残っている未製品である。568は敲打部の上面が大きく抉られており、先端部に切断痕が顕著である。569は枝分かかれ部が残存しており、未製品の可能性がある。570は長さ64.7 cm、敲打部径11.0~9.9 cmの掛矢である。敲打部には樹皮が残存しており、叩き痕が顕著である。打点部の樹皮が剥がれている。

**作業台 (台木) (571~576) :** 平坦面部に鉋等の刃を打ち当てた無数の線状切傷痕が残存するものである。571は小型の板材である。無数の刃物痕により、中央部が凹んでいる。表面には「+」や ( ) 等の彫刻状のものも見られる。裏面の中央は炭化して凹んでいる。まな板や発火具等の台として使用されたものであろう。572・573は厚板材である。表裏に切傷痕が多数残存する。574は太い角材である。表面や側面に多数の線状切傷痕が残存する。575・576は丸木材側縁の平坦面に鉋等による無数の刃物痕が残存するものである。575の右端部は炭化している。576の右端部と裏面が炭化している。

**発火具・炉鉤・燈火用具 (577~624、付図12)**

**発火具 (577~600) :** 577は火打金の握部と思われる。内部が溝状に抉られ、表面に目釘孔がある。通常の火打金と装着形態が異なることから、穂摘具や芋引金の可能性も考えられる。578~589はヒキリ棒である。摩擦面はやや凸形に炭化しており、擦焼け痕はヒキリ棒に対してほぼ水平となっている。578~581はニレ属を素材としたものである。断面はいずれも円形である。578・580・582は全長が短く、上部が細く加工されている。ソケット等に挿入して使用した可能性もある。583~588はスギ、ヒノキ属等の針葉樹を素材としており、桶・樽材の転用と考えられる。断面は楕円形となるものが多い。583の上部は板状に削られ、炭化している。イト、パ状の線刻が認められる。584~587の上部は意図的に斜めに削られており、ソケットや柄に装着されたものであろうか。584には木釘孔が認められる。587の先端部側縁にはヒキリウスが彫り込まれている。589はアジサイ属を素材としたものであり、髓のある丸木材を使用している。590~600はヒキリ板である。木取りのほとんどが柁目取りである。ヒキリウスは1~4カ所作出されており、小型の材に多く残されている。592は2カ所、593は2カ所、594は4カ所である。ヒキリ板はヒキリ棒に比べ、素材とした樹種の種類が多く、590~595はスギ・ヒノキ類等の針葉樹材、596はカツラ属、597はニガキ属?、598はコナラ属、599はハリギリ属、600

はモクレン属等を素材としている。590には木釘孔が4カ所認められる。591は端部抉入部付の板材を転用している。590・592～596は細い角材や板材を素材としている。597は丸木材に平坦面を作出している。598・600は板材や有孔板材を転用したものであり、600は車輻軸部を転用している。590・598の端部には切断痕がある。

炉鉤 (601～619) : 鉤下部が焦げているもの (601・605～608・618) と焦げの無いもの (602～604・609～617・619) がある。焦げの無いものも鉤部の形態から炉鉤として扱っている。器具等を吊り下げたフックの可能性もある。601～609は板材や角材を素材としている。601の上部には吊り孔があり、鉤が3段連続した自在鉤である。602には吊り孔があり、イトッパが刻まれている。604には吊り紐用の抉りがある。605は全面を炭化したものである。610～619は丸木材を素材としている。その内の612～619は枝分かれした股木材を鉤部としている。611・613・614・615には吊り紐用の抉りがある。614・616・617には樹皮が残存している。614・619は用具掛け用のフックの可能性もある。

燈火用挟木 (620～624) : 螺旋状に巻いて筒形にしたシラカバ樹皮を挟み込み、燈火 (松明) として使用したものである。火の点いた樹皮を挟むため、内側が炭化している。620は「Y」字状に分かれた枝の内面が炭化している。621～624は割り裂いた丸木材の上部と内面が炭化している。623の割れ目下部には楔を斜めに挟み込んでいる。624は割り裂かれた上端部を欠損している。

#### 容器類 (625～718、付図13～16)

樽 (625～635・637～641・645・646・653・655～672・673～718) : 625は側板の廻る底部片である。表面には箍が嵌められていた痕が顕著である。626～633は栓孔のある蓋板片である。627・628は部分的に炭化しており、628には円弧状の焼印がある。634・645・646は栓孔のない蓋板片である。634には判読不明の墨書きがある。645の表面には刃物痕が多数あり、まな板として使用された可能性がある。646には丸に「杉□□」の焼印が押されている。635・637～641・653は蓋または底板である。635は完全な形である。653は木釘が残存し、下部が炭化している。655～672は側板である。656・657・659・665は切断されている。663・664には箍の痕跡がある。673～718は栓である。先の細い698・704・714・718等は徳利などの栓とも考えられる。

桶 (642～644・647～652・654) : 642～644・647～652・654は底板片である。644は炭化している。651は下部が切断されている。

桶・樽蓋または底板片 (636) : 側縁に木釘が3カ所残存している。腐朽・摩耗が著しい。

曲げ物 (719～739) : 719・720は桶の把手片である。719の上部側縁にはイトッパが刻まれている。720は把手の抉り部である。721～725は側板片である。722には木釘孔が2カ所確認できることからクレゾコであったと考えられる。725は内面に罫引線が無く、5枚の柾目板をサクラ樹皮の紐で縫い綴っている。726～738は底板である。729・731には炭化部分がある。731は破損後に炭化したものである。730・732～735・738は側板を固定する木釘孔や木釘が残存するクレゾコの底板である。734・735には表裏に刃物痕が多数認められる。734の中央には3カ所の小孔が見られ、蓋板の可能性もある。734・737～739は生漆塗のものである。737には樹皮紐が縫い込まれている。739はシントコ (行器) 等の蓋板と考えられ、生漆が塗られている。表裏に刃物痕があり、「干」と墨書きされている。

箱物 (740～770) : 740～755・758・760・766は折敷等の側板片である。756・757・759・763は箱物の底板である。765は表面や側縁部に木釘孔のある箱物側板である。768はアイウシ文状の脚部であり、曲線が線刻されている。753には刃物傷が見られる。759～764には漆が塗られている。757には巴文状の彫刻が刻まれている。759は生漆が塗られ、サクラ樹皮紐で縫われている。760は黒漆地に赤漆が塗られており、曲線文が彫刻されている。761は表裏とも黒漆塗りである。762・763は生漆地に赤漆が

塗られている。764は黒漆地に赤漆が塗られ、四角で区画された中に草花文が描かれている。割板を樹皮紐で縫い合わせている。753・766・767には部分的な炭化箇所がある。767・769・770は脚部であろうか。769・770の上部には「V」字形の抉りがある。

漆塗椀 (771~779・781~783) : 漆膜は分析過程であるため、肉眼的観察による。ここでは朱と赤を区別せず、赤漆と記している。木地や膜の劣化が著しいため、詳細な観察は出来ていない。曲げ物、箱物等も同様な状況である。木地は半数以上がブナ属であり、トチノキ属、ケヤキ属がこれに続く、モクレン属やハンノキ属等も見られる。771~777・779は口縁部破片である。778・783は胴部破片である。781・782は口縁部から底部破片であり、深く抉られた高台の付くものである。771・775は内外面とも赤漆塗りである。772~774・776・777・781~783は内外面とも黒漆地に赤漆塗りである。778・779は内面に赤漆が塗られ、外面は黒漆が塗られている。779の外面には赤漆で文様が描かれている。

漆塗キセルラウ (780) : 赤漆が塗られている。雁首や吸口に挿入される部分には漆膜がない。

割物容器 (784~786) : 784は盆状容器の切断品である。側縁が緩く立ち上がる。785・786は粗い削りの皿あるいは盆状の容器片であり、側縁が僅かに立ち上がる。787は厚板材の周縁を残して盆状としたものであろう。788は厚板材の周縁を残すように浅く削り込んだものである。下部を欠損している。山形となる上部の表面には刃物痕があり、表裏には小さな炭化痕が所々に見られる。

#### 食具 (789~1043、付図17)

杓子 (789~808) : 789は頭部のみを半損している大型のものであり、一木から削り出している。頭部は柄の付け根から「く」の字状に極端に屈曲する。内面は使い込まれて黒色の光沢を持つ部分がある。裏面には加工時の削り痕が顕著である。柄は緩やかに内反りし、柄端部には全面に彫刻を施した窓の開く耳が付けられている。柄の断面は楕円形である。790・791は柄の残る頭部破片である。792~797・799・800は頭部破片である。798・801~803は柄の先端が僅かに残る頭部破片である。793と802は同一個体である。796と798は同一個体であり、接合する。804は柄部である。断面は楕円形で緩やかに内反りする。柄端部には円形の幾何学的文様が彫刻されている。805~808は柄の耳部である。805は小型杓子のもので、弧状文様が刻まれている。806は全面にアイウシ文やモレウ文が彫刻されている。807は窓付きのものである。2本の線刻で輪郭を縁取るように彫刻されている。808は中央孔に沿って文様が構成されている。809は窓の開く耳に付けられた木鎖の破片と思われる。810は柄の耳部と考えられる。

篋 (811~841) : 篋状の形態のものをとりまとめた。形態は4種に分けた。A. 篋部と柄部が明瞭に区分できるもの (811・817・823・828)、B. 柄部から篋先に向かって徐々に幅広になるもの (812~816・818・820~827・829・831~835・837・839)、C. 柄部との篋先と幅にほとんど差が無いもの (819・830・836)、D. 先のみを篋状に加工したもの (840・841)、E. 破損などにより全体形態が不明なもの (838)等がある。811は片側に柄部が寄っている。812は篋に小孔が穿たれている。813・815・817は小型の匙状のものである。814・818等は櫛のミニチュアの可能性もある。821は先端のみを削り出している。823は篋先に炭化部分がある。828は柄部を欠損しており、菱形文様が付されている。830は上部の割れ口にイト、パあるいは彫刻がある。831の上部は炭化している。834は薄い柾目板を加工したものであり、中央に樹皮紐等を通す小さなスリットがある。838は薄い柾目板の柄端部であり、突起のある四角形が彫刻されている。840は板材の先端のみ篋状に加工したものであり、上部が炭化している。841は有孔板材の端部を薄く篋状に加工したものである。

両口箸 (842~886) : 胴部に最大径があり、両端に向かって徐々に細く削ったものである。先端部は平らに加工されている。最大長は29.50cm、最小長17.00cm、平均長22.48cm (破損を除く) である。

樹種はアジサイ属が28.9%、スギ類が41.8%、ヒノキ・アスナロ類が26.8%であり、針葉樹材が全体の68.6%を占める。アジサイ属のものは長短の差が大きく、針葉樹材のものは20cm前後の長さにまとまっている。桶・樽等を転用し、再加工したものと考えられる。

片口箸 (887~929) : 基部端に最大径があり、先端部に向かって細く削り出したものである。922の基部端側縁には刻目がある。900・926は部分的に炭化している。最大長は42.76cm、最小長17.10cm、平均長27.65cm (破損を除く) である。樹種はアジサイ属が70.7%、スギ類は19.8%、アスナロ類4.3%、イチイ1.7%であり、アジサイ属が主体を占める。アジサイ属のものは長短の幅が大きいが、針葉樹材のものは20cm前後の長さのものが多い。両口箸同様に桶・樽等の転用によると考えられる。

串状製品 (930~1043) : 断面の形態と両端部の加工により細分した。930・931は細串、932~939は丸串、940~949は楕円串、950~959は両先串、960~979は平角串、980~988は角串、1006~1011は三角串、1012~1016は割串や半割串、1017~1019は長串状の素材等である。943・944・947・948・950・955・956・966・975・987・993・1016・1030は部分的に炭化している。火箸や串焼き用として使用されたのであろう。950の中央部には短刻が付けられている。980には桶・樽の木釘が残存している。999~1002の基部には紐孔が穿たれている。1003・1004の基部には短刻が付けられている。1005は大きく屈曲している。1020~1043はタケやササ製の串である。1020~1038は割裂いたものを串としている。1030は端部が炭化している。この中には桶や樽の籬先片も含まれていると考えられる。籬を意図的に使用したかどうかは判断出来ない。1039~1043は環状のまま串としたものである。串全体の最大長は56.8cm、最小長14.9cm、平均長27.06cm (破損を除く) である。

#### 装身具 (1044~1046)

1044は丸い頭部の簪片と考えられる。1045は挽歯堅櫛である。歯は8本である。上部には樹皮等が巻かれていた痕跡がある。樹種はヒノキ?アスナロ?属である。1046は根付けと考えられる。断面が卵形の頂部側に紐孔が貫通している。孔を取り囲むように短刻等で文様が彫刻されている。

#### 紡織編具 (1047~1078)

1047~1049は薄い柾目板の片側縁に細かな刻目列を付けている。1048の刻みはアイウシ文にも見える。1049は鋸等の雛形とも考えられる。1050は断面が三角形の角材の頂部に刻目列を付けている。1051は細板材の側縁にほぼ等間隔に刻目列を付けている。すだれ編等の経糸を掛けるケタとも考えられる。1052~1056は細角材の側縁に鋸歯状の刻目列を付けている。1057の表面は丹念に削られている。1058には下部にも同様の孔が付くと推定される。中央部には帯状溝が2本廻っており、表裏に同様の文様が彫刻されている。1047~1056は繊維加工に関わる遺物と考えたい。1057・1058は織機等の部品の一部ではないだろうか。

コモ槌 (木錘) (1059~1078) : すだれ編等の錘である。上部や胴部には経糸となる紐・縄を巻き留める抉入部がある。形態には、A. 上部の左右に抉りのある板材のもの (1059・1063)、B. 上部に抉りが廻る角材のもの (1060~1062)、C. 上部の左右に抉りのある半割材のもの (1064・1065)、D. 上部に抉りが廻る丸木材のもの (1066~1073)、E. 丸木材の側縁部に抉りのあるもの (1074~1076)、F. その他、特殊な形態のもの (1077・1078) 等がある。1065は樹皮付きの材である。1066・1076は小型のものである。1074・1075は側縁を「V」字状に抉っている。1077は丸木材切断品の左右を抉ったものである。1078は円柱状に加工した材の片側上部を抉ったものである。

#### 歩行具 (1079~1108、付図19)

下駄 (1079~1087) : 1079は露卯下駄 (差歯下駄) である。上面観は台先から前歯にかけて幅広となるやや膨らんだ逆長台形である。両歯ともに欠損している。前歯は小孔であり、ほぼ中央に位置す

る。台先から前壺に向かってひび割れがある。横緒は後歯の後方にあり、内側に傾斜している。横断面は裏側が台形状に膨らんでいる。差歯柄挿入孔は2個一組の角孔であり、前歯の左角孔が大きい。裏側には前後に歯挿入溝がある。1080～1085は連歯下駄である。1080の上面観は台先の幅がやや広く、台尻に向かって僅かに細くなる逆長台形である。前壺は中央やや左よりに位置し、後歯には飾り側板が台尻に向かって付けられている。横緒孔は後歯の直後にあり、板角縁から飾り側板の内側に急に内傾している。前壺には鼻緒片が残存していた。歯は下方に向かって幅広となり、右側に張出す台形である。右足用の下駄と考えられる。両歯の裏面（接地面）には鉄鋏が打ち込まれていた痕跡がある。氷雪時歩行の滑り止めと考えられる。台尻の裏面には「X」字のイトップが刻まれている。1081の上面観は長方形である。前歯はやや前方に位置しており、後歯は台尻の最後部に付けられている。両歯とも歯高が低い。前壺は角孔であり、中央やや右に位置する。前歯前方に接するように開けられている。横緒は角孔であり、後歯前方に位置している。1082の上面観は僅かに台先の幅が広い逆長台形である。前壺は円孔でほぼ中央に位置する。横緒孔は円孔で後歯前方に位置しやや前方に傾斜する。両歯とも下方に向かって広がり、左右の角が切り落されている。1083の上面観は台先が先の丸い隅丸方形であり、後歯から台尻を欠損している。前壺は円孔でほぼ中央に位置する。歯は下方に向かって垂直であり、歯高は低い。1084の上面観は台先が広がり、台尻が山形となる細長い将棋駒形である。前壺は角孔でほぼ中央に位置する。横緒孔は角孔であり、後歯に接して後方に位置している。両歯とも下方に向かって僅かに広がる。1085は台尻の一部と後歯の破片である。台尻は角が落されている。横緒孔は角孔で後歯の前方にある。歯は下方に向かってやや広がる。1086は歯部に角孔が穿たれた破片であろうか。1087の上面観は小判型である。台先上面が炭化している。前壺、横緒ともに円孔である。表裏に刃物痕が認められる。

**カンジキ (1088～1090) :** 1088～1090は短輪型の瓢箪形カンジキである。1088の両端は細く、凸形と凹形の構造が結合するように加工されている。全体は前方部へ向かって反り上がっている。先端には結合のための小孔が1カ所に見られる。上面には乗緒を縛り、固定する抉りが3カ所にある。抉り周辺には、樹皮紐または皮紐等を縛り付けた痕跡がある。内側には平行に横軸（棒）を差し込んだ孔が前8対、後9対に開けられている。横軸先端が折れて刺さっている箇所もある。1089は半損したもので、後部側を欠損している。上面には乗緒を縛り、固定する抉りが3カ所にある。内側には横軸（棒）を差し込んだ孔が前7カ所、後3カ所に開けられている。1090は先端部または後部の軸孔部の破片である。孔が3カ所に認められる。

**カンジキ軸 (1091～1108) :** 短輪型瓢箪形カンジキの横軸と考えられるものである。両口箸に似た形態のものである。両端は軸孔に差し込むために、鉛筆先端様に削り出している。軸は瓢箪形の形状に差し込まれる構造から、輪の形態に合わせて長さに幅がある。長さは16～26cm前後、径は0.6～1.0cm前後が中心である。

#### 交易・伝達具 (1109～1115)

**木札 (1109～1115) :** 板材の片側上方に1カ所の孔を穿ったものである。表面には削り痕の明瞭なものがあり、表面を何度か削って使用したのであろう。札の大きさはほぼ均一化されており、長さ5.5cm×幅4.0cm×厚さ0.6cm程である。1109の表面には翼を上方に広げた鶴丸文が線刻されている。裏面には翼を横に広げて直立した鶴が線刻されている。千歳発または千歳行きを意味する絵文字であろうか。ちなみにシコツが千歳と改名したのは、0黒層の最終年代（1739年）よりも後の文化元年（1804年）である。鶴の丸文は室町時代以降流行した公家の日野氏の代表的家紋でもある。1113は中央部が炭化している。1114の下部両側縁は斜めに切り出されている。



### 祭祀・儀礼具（1116～1160、付図20）

**花矢（1116～1123）**：1116～1118は柳葉形のものである。1116は先端部側と基部側に2本組の野引線が廻り、野引線の上に短刻が刻まれている。先端、基部とも破損するが、1118と同形態のものである。1117は先端部側と基部側に野引線とは別に短刻が廻っている。1118は先端突起(鏃部)が長く、明瞭な基部が作出されている。先端部側には2段の短刻が廻り、基部側には短刻、円形、アイウシ文等で文様が構成されている。1119～1121・1123は先端突起(鏃部)の付け根に最大径があり、基部に向かって次第に細くなるものである。いずれも長い先端突起(鏃部)が付けられている。削花等の痕跡もない。明瞭な基部は作出されていないが、基部側に矢柄挿入時の摩擦や色調差等が認められる。1119は表面に刻目が付けられている。1122は先端突起(鏃部)が短く小さい。先端部にはアイウシ文、モレウ文等で基部全面に曲線的で明瞭な円を配した幾何学模様が刻まれている。先端の鏃は長さ約0.7cmである。いずれも削花や赤布は確認できない。黒色彩色も不明である。

**捧酒箸（1124～1141）**：1124～1127・1130・1133～1136は短刻によってイトッパが刻まれている。1124・1125は大きさから飾り串とも考えられる。1128・1129は弧線文や直線文で文様を構成している。1131・1132の表面には「||X||」等の刻みや線刻によってイトッパが刻まれている。1134と1135は接合する同一個体である。1137～1141は先端のみが舌状に削り出されており、イトッパや文様が付されていない。いずれの裏面先端にもパルンベが見られない。

**木幣状製品（1142～1147・1151～1160）**：1142～1144は木幣(イノウ)である。これらには上面が平坦に加工された頭部があり、その直下には下方から上方に向かって長く何度も削った刃物痕やササクレ痕が多数確認できる。頭部直下に作出された削りかけ(キケ)は土中で腐朽し、痕跡だけが残されている。1144の頭部には短刻が刻まれている。1145には下方から抉入部に向かって削られた痕跡がある。1146の上下端部には野引線上に2～4段の短刻が並行に廻り、表面には螺旋状に引かれた野引線に沿って短刻が列となって廻っている。1147の上部には鎖状の複雑な曲線文が帯状に彫刻されている。その下には粗い「X」と2本の短刻が付されており、中央部が細く削られている。1151～1160はイトッパや短刻の付された製品をまとめた。丸木材の中には木幣(イノウ)の破片が含まれている可能性がある。1151・1153・1154・1159は「||」「X」「||」等の組合せが刻まれるもの、1152・1155・1156は短刻が並行に廻るもの、1157～1160は複雑に短刻が組み合わせられたものである。

**刀ミニチュア（1148～1150）**：1148は鞘及び柄の付けられた刀片である。表面に直線と刻目列文様が掘り込まれている。柄頭の形態は小刀(マキリ)に似ている。1149は両区をつく平棟の刃部片である。1150は彫刻された刀鞘片かもしれない。まじない用や製作依頼時の雛形の可能性もある。

### 加工材（1161～1176）

1161～1164は円盤状製品である。1162・1164は半損している。1162・1163は炭化部分がある。1165～1167は有孔円盤状製品である。1167は半損し、周縁が炭化している。紡錘車の可能性もある。1168・1169は円錐台形製品である。1168は半損している。1170は角形の突起が抉りだされている。1171は環状突起が付けられた製品の柄や把手であろうか。1172は三日月状に削られたものであり、仕掛弓などの引き金であろうか。1173は角形の栓状のものである。1174・1176は抉入が多段となる丸木材である。1174の樹芯部には角孔がある。1176の抉入部には撚り糸(S撚り)が巻かれていた。1175は下部の炭化した環状製品である。

### 各種用具の部品や素材等（1177～1374）

**ピン状製品（1177～1209）**：A. 両端部に先端部を持つもの(1177・1179)、B. 片側のみに先端部があるもの(1178・1180～1209)に分けられる。1206の上部は削りかけ(キケ)状に幾重にも割り裂

かされている。1209は先端部のみ細く削りだし、上端部が叩き潰れている。

軸状製品（1210～1300）：上部が太く先端部に向かって細くなる。ピン状製品に似るが、先端部が丸形または平坦となる。1210～1221は半割材を素材としている。1222～1232・1234～1243は丸木材を素材としている。1233・1244～1286は半割や丸木材以外を素材としている。1287～1300は角軸状製品である。1212・1248・1274・1276にはイトッパが付されている。

楔状製品（1301～1321）：A. 先端部が凸形となるもの（1302～1310・1314・1318・1320・1321）、B. 先端部が角形となるもの（1301・1311～1313・1315～1317・1319）がある。1309の先端部には小孔が穿たれている。1319の上部は炭化し、抉りが付けられている。

捧酒箸（筥）状製品（1322～1374）：削りかけやイトッパはないが、先端部加工・断面形等の形態の特徴から捧酒箸状とした。同時に素材となりうるものをまとめた。樹種はスギ、ヒノキ、アスナロ等の針葉樹材が主体であり、当遺跡出土の捧酒箸も同様である。素材は桶や樽等の側板と考えられる。

〈抉入部付の部品や部材〉：材に付けられた抉りが廻っているものである。

1375～1380・1382～1394・1396・1410は端部抉入部付丸木材である。1377・1380はコモ槌の可能性はある。1390は魚叩棒とも考えられる。1396は魚突鉤鋸の棹（柄）の可能性はある。1381・1395は抉入部付丸木材である。1397～1400・1402・1403・1412は端部抉入部付丸材である。1412は車權受台部の角軸の可能性もある。1404・1405・1408は端部抉入部付半割材である。1406は端部抉入部付楕円材片である。1407は端部抉入部付半円状材片である。1409は端部抉入部付割材である。いずれも下部が切断されている。1411は端部抉入部付板材である。1413～1415は端部抉入部付屈曲丸木材であり、3本まとめて出土した。下部にホゾ先が作出されており、組み合わせで使用されるものであろう。1416・1417は両端部抉入部付角材である。他層や他地区からも出土している規格性のある用具である。

〈抉付の部品や部材〉材の左右または一部分が抉られているものである。

1418は両端部抉付丸木材である。1401は端部抉付丸材片である。1419～1428は端部抉付丸木材である。1419にはイトッパが付いている。1429～1434は抉付丸木材である。1433は炉鉤の未製品の可能性がある。1436・1438・1440・1441は端部抉付半割材である。1440にはイトッパが付いている。1443は多段抉付半割材片である。抉りが連続しており、ゴザ編みの経糸等をかけるケタであろうか。1444～1446・1450・1452は抉付角材片である。1447～1449・1451は端部抉付角材である。1453～1461は抉付板材である。1462～1464・1466は抉付蒲鉾状板材である。1465は多段抉付半円状材である。1469・1470は抉付紡錘状材である。1472～1479は抉付楕円板材である。1467は抉付板材片である。

〈ホゾ先付の部品や部材〉

1468はホゾ先付角材片である。1471は端部ホゾ先付角材切断品である。

〈有孔丸木材〉

1480は抉入部付有孔丸木材片である。1481～1483は有孔丸木材である。1481と1482は炭化しているが同一個体の可能性がある。1484は端部有孔湾曲丸木材である。1485は両端部有孔丸木材である。

〈有孔角材〉

1486～1489は有孔角材である。1490は抉付有孔角材である。1491は端部有孔角材である。

〈有孔板材〉板綴舟の舷側板（棚板）の破片やその再加工品が多数を占めると考えられる。

1492・1495・1497～1511・1513～1539は有孔板材である。1493・1496は有孔薄板材である。1494は有孔細板材片である。1512は抉付有孔板材である。側縁には抉りが付き、表面に線刻が見られる。1527は下部が炭化し、刃物痕が多数見られる。1529は表が炭化し、裏面に刃物痕が多数見られる。角孔は片側から彫った後に打ち抜いて作成するため、裏面の孔口に剥離痕が見られるものが多い。

### ＜角材＞

1541～1550・1552・1553は角材である。1542には線刻が見られる。1544・1550・1553は下部が炭化している。1551は細角材である。下部が炭化している。

### ＜半割材＞

1554・1555は半割材である。1554は割串の可能性はある。1555の下部は炭化している。

### ＜板材＞

1556～1561・1563～1576は板材である。1556にはイトッパが付いている。1560の側縁には刻目がある。1561には刃物痕が多数見られる。1574には鋸で挽かれた痕跡や刃物痕が多数見られる。1577～1589は厚板材である。1584には角溝がある。1586～1589には鉾などによる削り痕が顕著に確認できる。

### 杭・建築部材・建材等 (1590～1663)

角杭状製品片 (1590)：上部を欠損する。

割杭状製品 (1591～1597)：割加工により製作された角杭である。1593の両端は杭状に加工されている。1596は下部が炭化している。

丸杭状製品 (1598～1621)：1598・1619の上端部は炭化している。1599・1600・1602・1613・1614・1616～1618の上端部は切断されている。1600には細帯状樹皮が巻かれている。1605の側縁には挟りがある。1608・1609・1618は両端が杭状に切り出されている。

丸木材 (1622～1628)：1622は下端部に切断痕がある。1627の上端部は切断されている。1623の上端部は切断され、下端部の木口には鋸で挽いた痕跡がある。1624の上端部は炭化している。

丸材 (1629～1631)：1631は上端部が切断されている。

屋根縫針先 (1632～1636)：1632～1634は孔のある先端部破片である。1634の下部は炭化している。1635は割材であり、上部を欠損している。1636は孔部分で欠損している。

建築部材・加工材等 (1637～1640)：1637～1640は「Y」字状となる部材である。1637は「Y」字状の両端部に挟入部が作出されている。1640は裏面に平坦面が作出され、下端部に固定のための挟りがある。漁撈具や狩猟具の可能性はある。

建材 (1641～1663)：1641は階段状の挟りが付けられた高床式倉庫梯子である。桁や梁材の可能性もある。1642は上部に挟りがある桁または梁材である。1643には挟入部が作出されており、桁または梁材とも考えられる。1644は桁または梁材の切断品である。側面に刃物痕が多数見られる。1645は受部付建材の切断品である。上部が切断され、その下部が炭化している。1646は桁または梁材の切断品であり、下端部を欠損している。1647は桁または梁材の切断品であり、上端部には切断痕が顕著である。中央部側縁にも刃物痕が多数認められる。1648は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材であり、受部が鉋などで整形されている。1649は建築部材片であり、上部を欠損する。1650は受部を両面から切り出して山形とした受部付建材片である。1651は先端をホゾ先状に切り出したものである。1652は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材であり、下部が炭化している。1653は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材であるが、表裏から削って受部を調整している。1654は受部付柱材と考えられるが、受部が3段に枝分れしており、肉や魚の干し柱の可能性もある。1655は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材片である。枝分かれ部分を欠損している。1656～1660は桁または梁材である。1656・1660の端部は切断されている。1657は1/4割材であり、右端部側に平坦面が作出されている。1661～1663は柱頭が「Y」字状となる受部付柱材である。いずれも先端を杭先状に鋭く切り出している。

### 木端類 (1664～1680)

1664～1667は板材木端である。1667は矢筒翼部の破片とも考えられる。1668～1670・1675は不規則

に切り出された木端である。1671は角材の木端である。1672は丸木材の切片である。1673・1674・1676～1679は丸木材の木端である。1680は厚板材の木端である。

#### 炭化材 (1681～1686)

1681の中央が円形に凹んでいる。1682の先端には僅かな加工が見られる。1683は溝付である。1684～1686は樹皮付の材が炭化したものである。

#### 竹製品 (1687～1693)

1687は環状竹製品に円孔を貫いている。1688には楕円孔が2カ所に認められる。1689はフォーク状に加工している。1690は表面に刃物痕がある。1691は下部が炭化している。1692は両端を切り落している。1693は側縁を調整加工している。

#### 樹皮製品 (1694～1776)

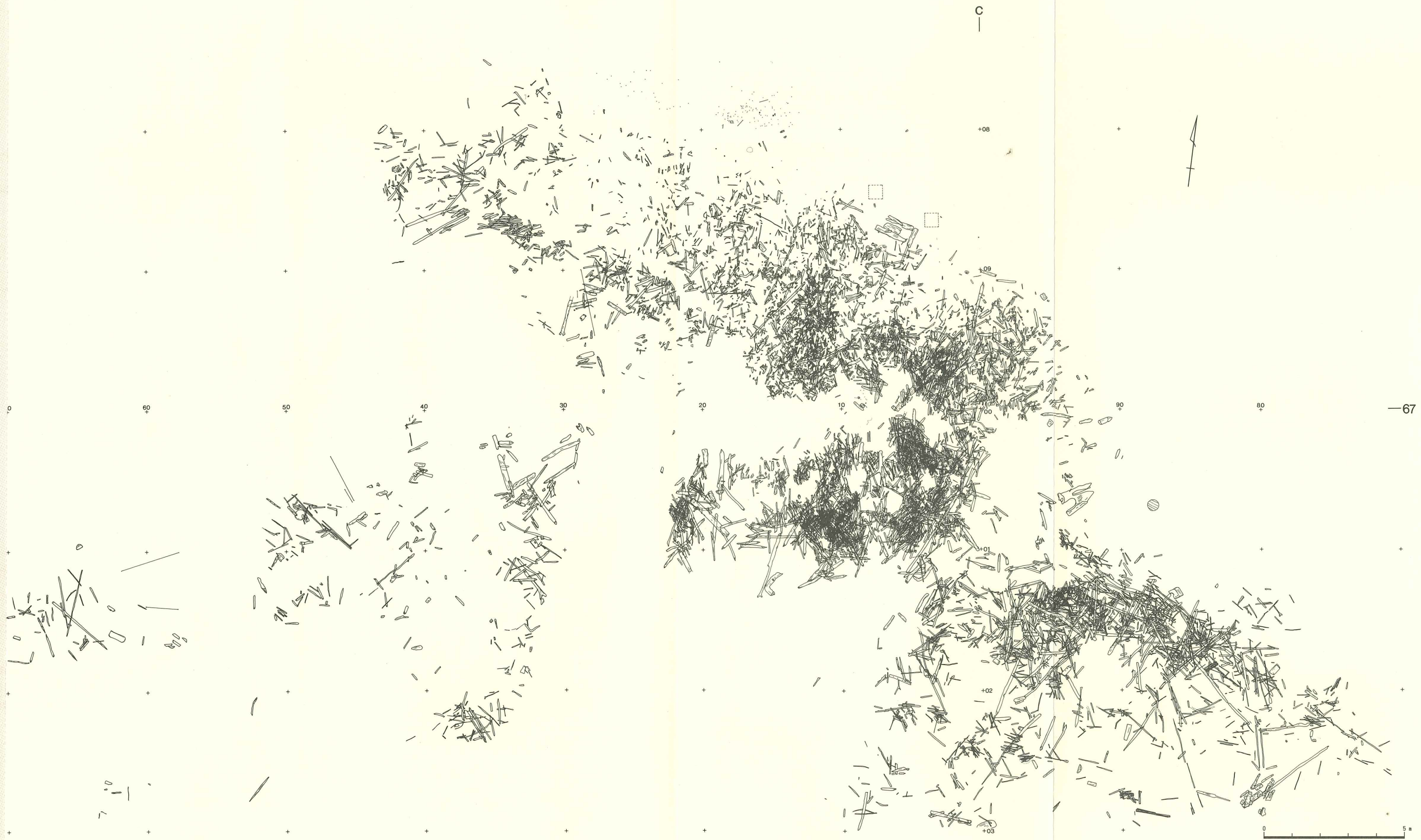
1695・1706は切截された樹皮である。1706には小孔がある。1696は円形に切り揃えた樹皮が巻かれたものである。1697・1698・1769・1770・1772～1775は燈火用や各種用具の素材とする筒状の樹皮である。1770は炭化している。1699の側縁には刻み列が付けられている。1694・1700～1703は樹皮製容器片である。1694には縫合用の小スリットが3列見られる。1700～1702は樹皮製容器の把手片である。1700・1702には容器と固定する扶入部が確認できる。1703は土圧で潰れた容器片であり、口縁部に補強材として軸が挟み込まれている。把手の付けられる手桶(ヤニヤトッシ)であろう。1704は容器や鞘などの素材となる切り揃えた樹皮である。1705は礫を包んだ細長い樹皮であり、両側縁には紐などで縛り止めた痕跡がある。漁撈時の錘石としたのであろうか。1707～1776は細帯状樹皮巻(結束固定具)である。1707～1749は結束式の細帯状樹皮巻である。1750～1756・1759・1764は頭部差込式の細帯状樹皮巻である。1751～1756・1759は頭部挿入式の細帯状樹皮巻である。1757・1758・1760～1763・1776は釘打込式の細帯状樹皮巻である。釘打込式の樹皮は概して厚い。1764は細帯状樹皮であり、先端部が細長く加工されていることや樹皮が薄いことから頭部差込式の切れたものであろう。1765・1766は極細い樹皮を巻いたものであり、切截痕がある。

#### 繊維製品 (1777～1793、図版246～249)

1777はZ撚り(左撚り)の細い撚り縄の集合から組紐が伸びている。編み袋(サラニブ)等であろう。1778～1787は撚り縄片である。1778・1779はS撚り(右撚り)した径1.3cm前後のものである。1780はS撚り(右撚り)した3本の細縄を巻き束ねている。1781はZ撚り(左撚り)した径2.0cm前後のものである。1782はS撚り(右撚り)した径0.8cm前後のものである。1783はS撚り(右撚り)した径1.0cm前後のものである。1784・1787・1788はS撚り(右撚り)した径0.6cm前後のものである。1785はS撚り(右撚り)したものを2本巻き束ねている。1786はZ撚り(左撚り)したものを巻き束ねている。1789は幅0.8cm前後の結束した紐である。1790はS撚り(右撚り)したものを4本巻き束ねている。1791は屋根材と思われカヤ状の植物繊維である。1792・1793は繊維素材である。

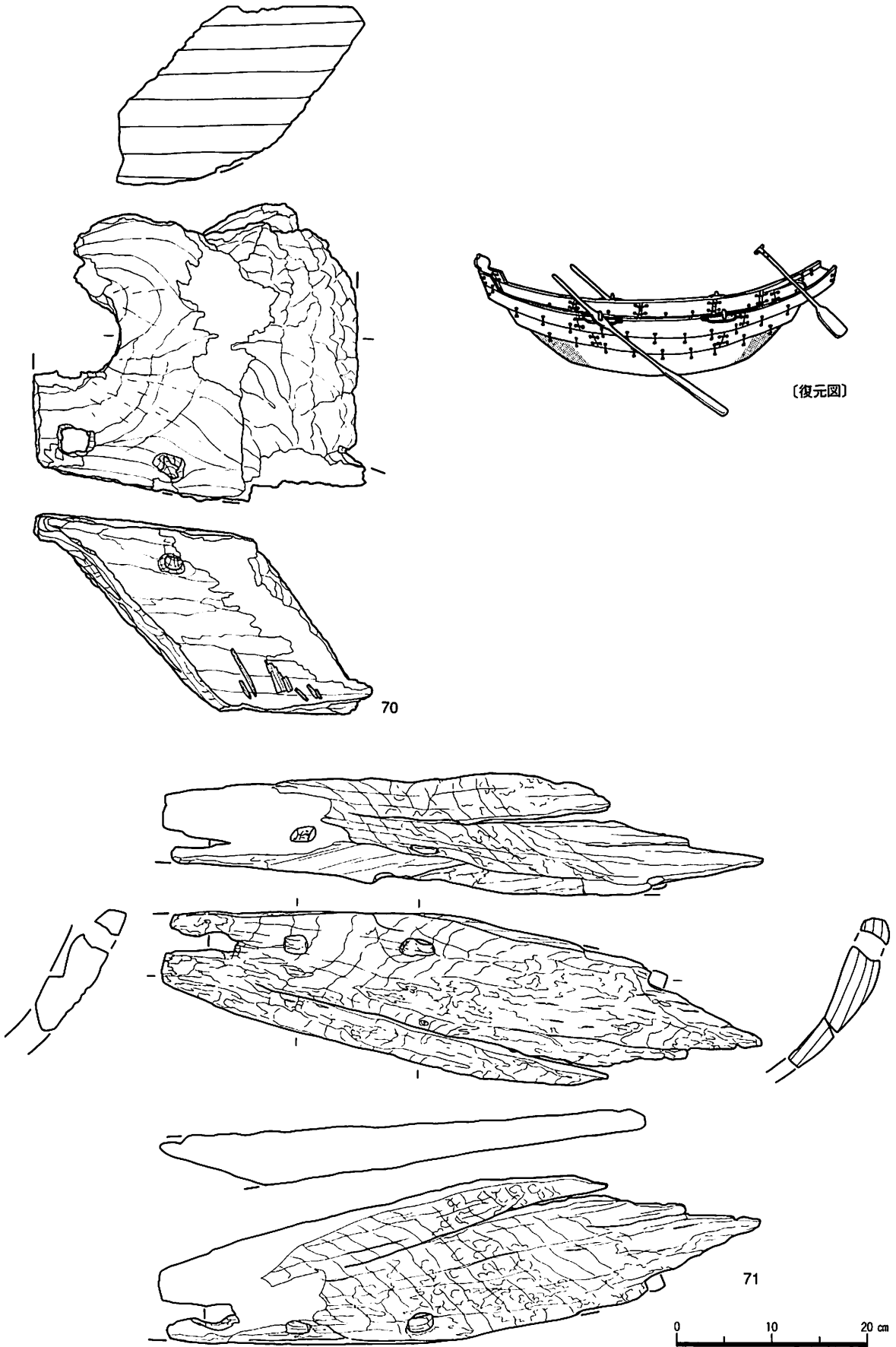
(田口 尚)





図V-53 木製品分布図





図V-54 舟部材1 (舳・舷側板)

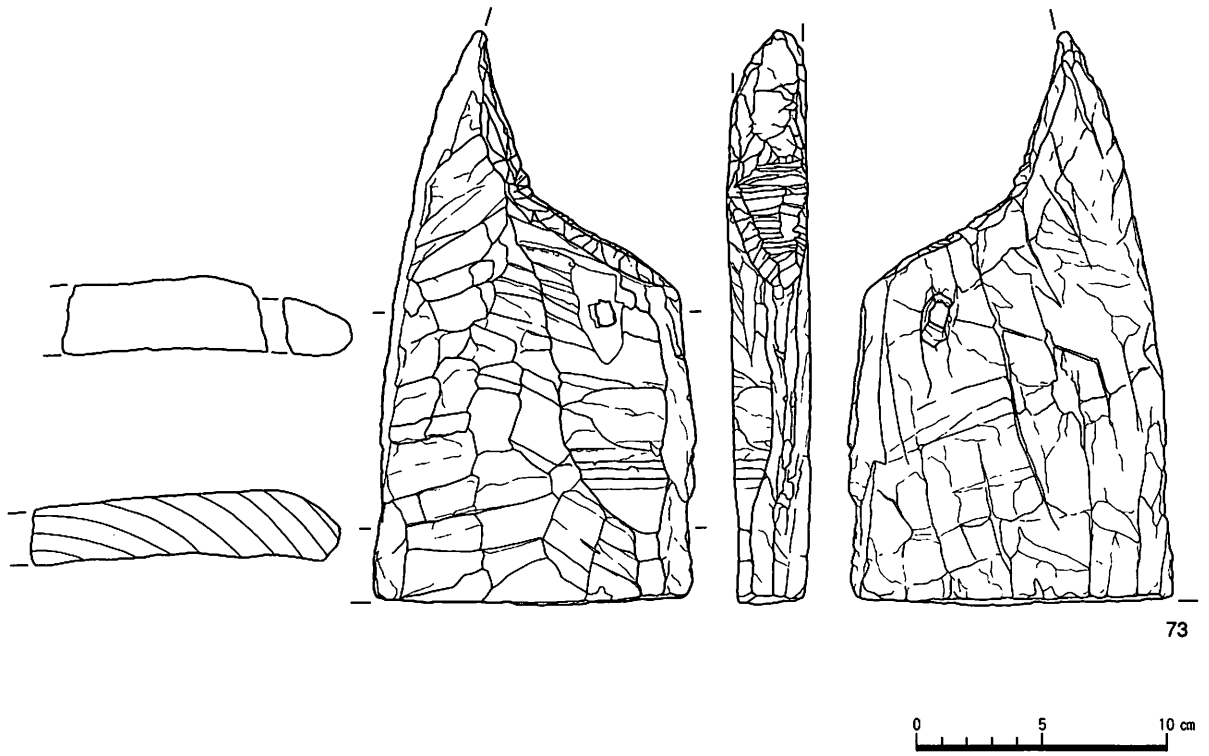
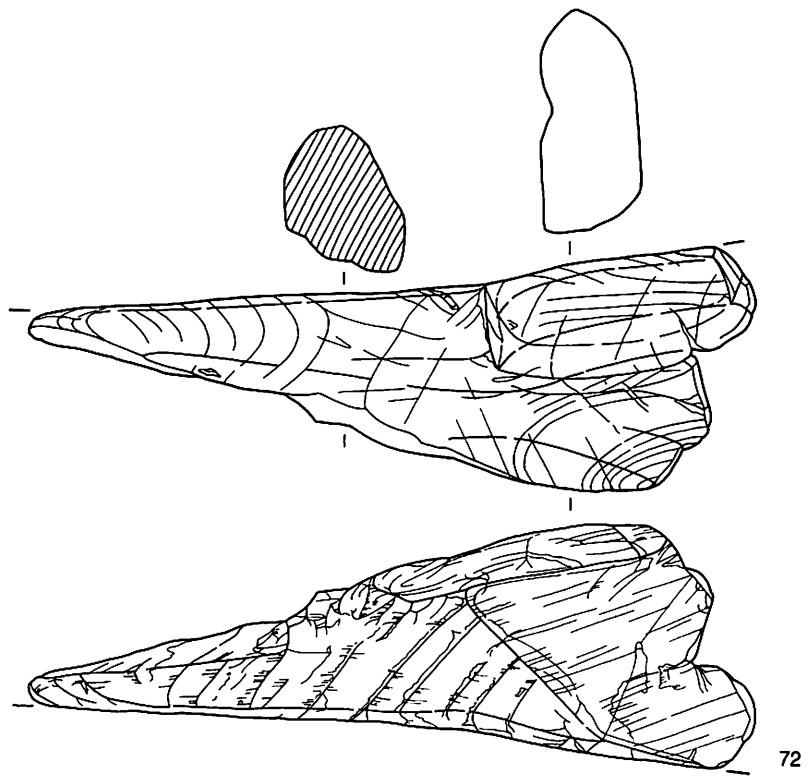
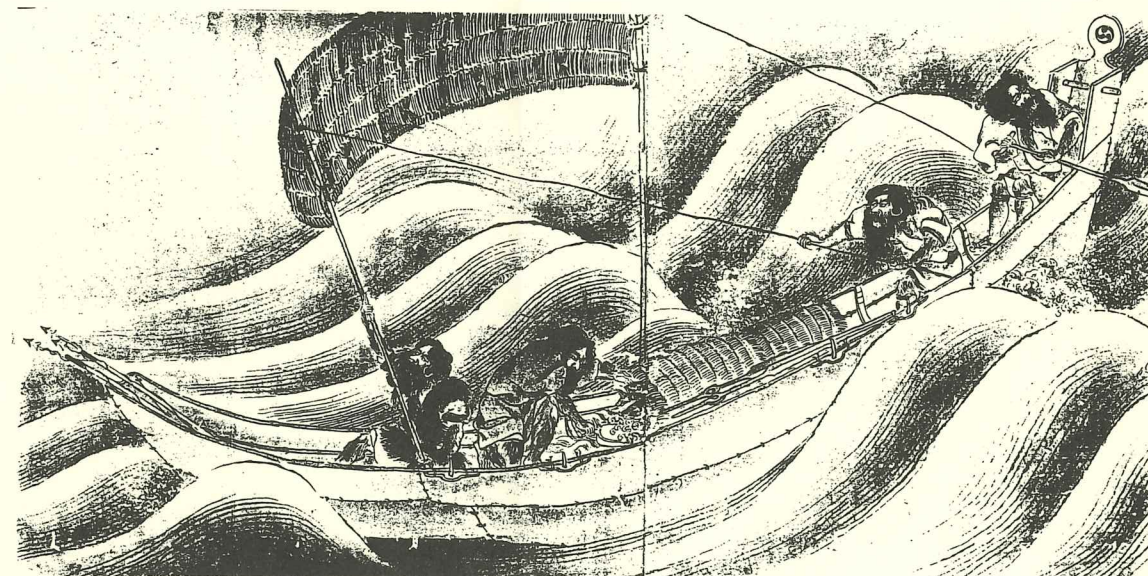
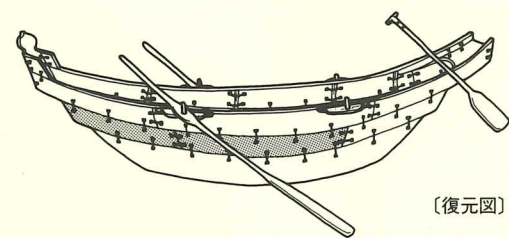
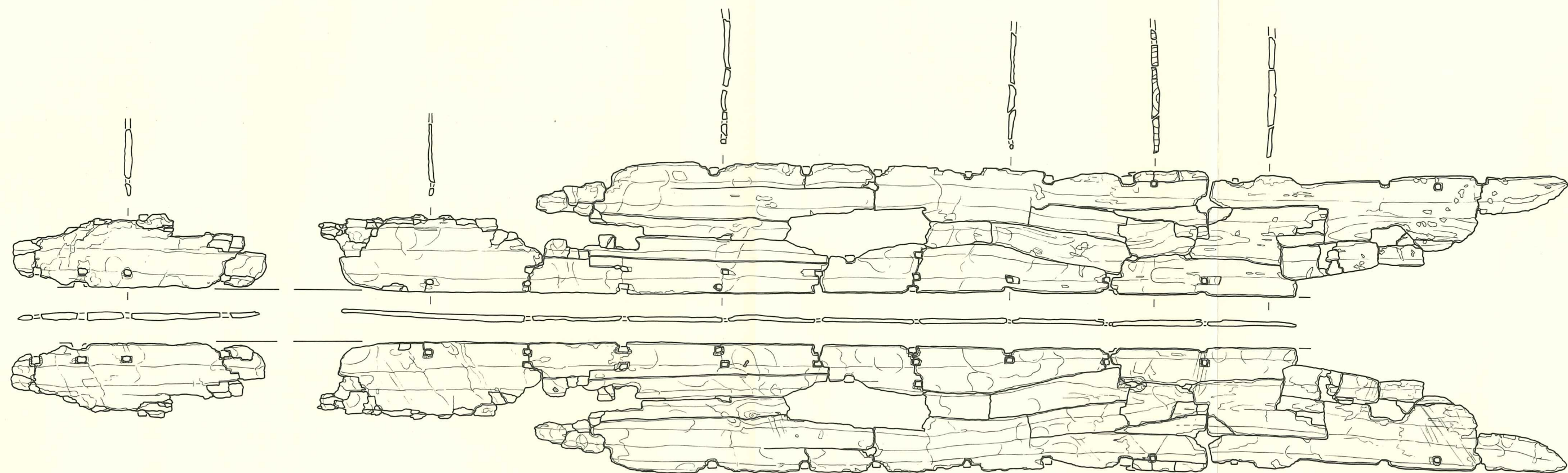


図 V - 55 舟部材 2 (舷側板・舟材)



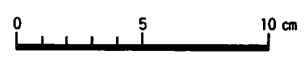
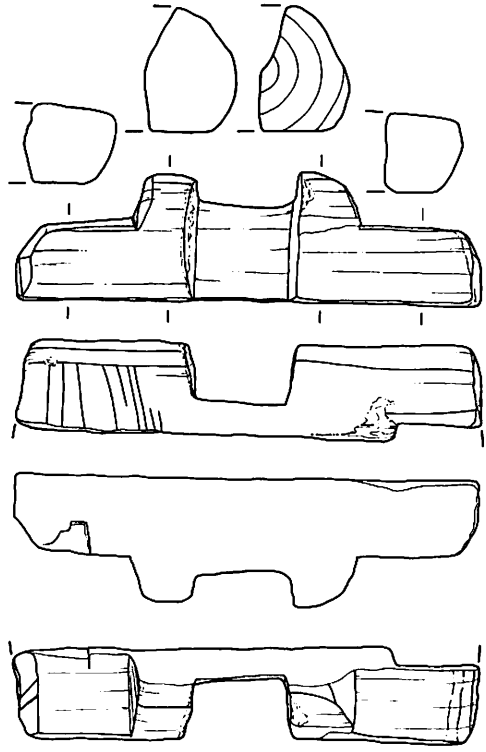
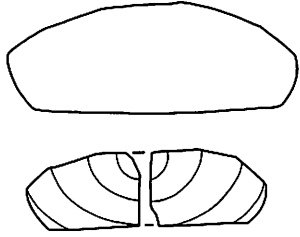
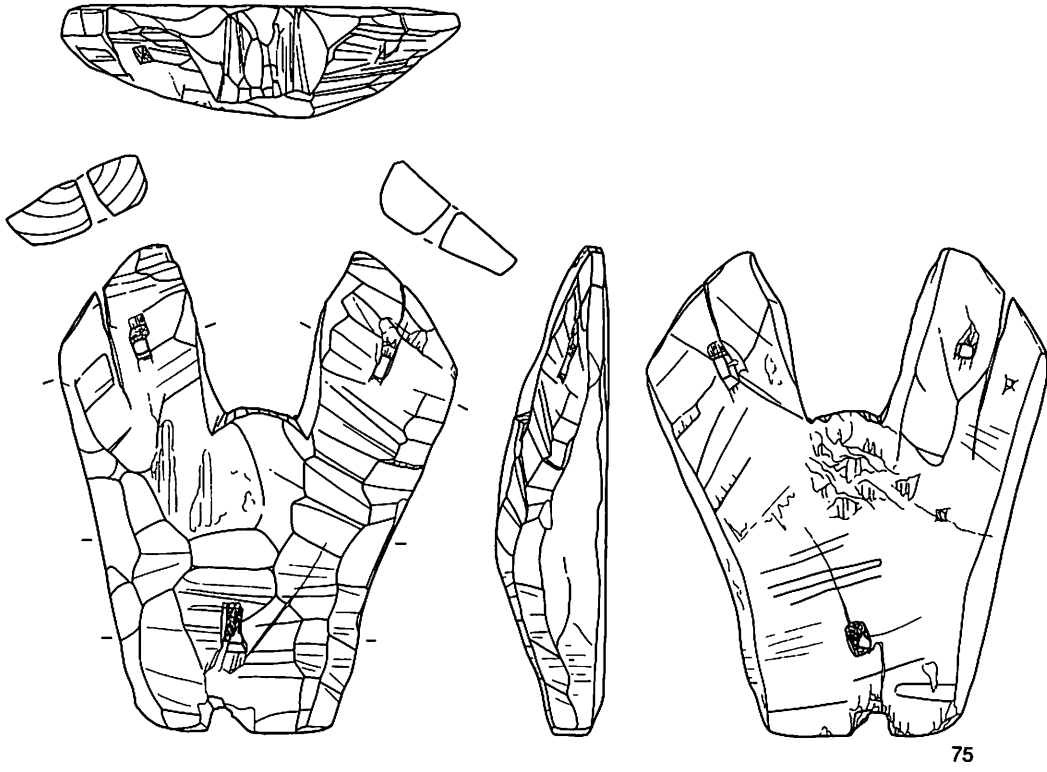
【蝦夷生計図説】より



74

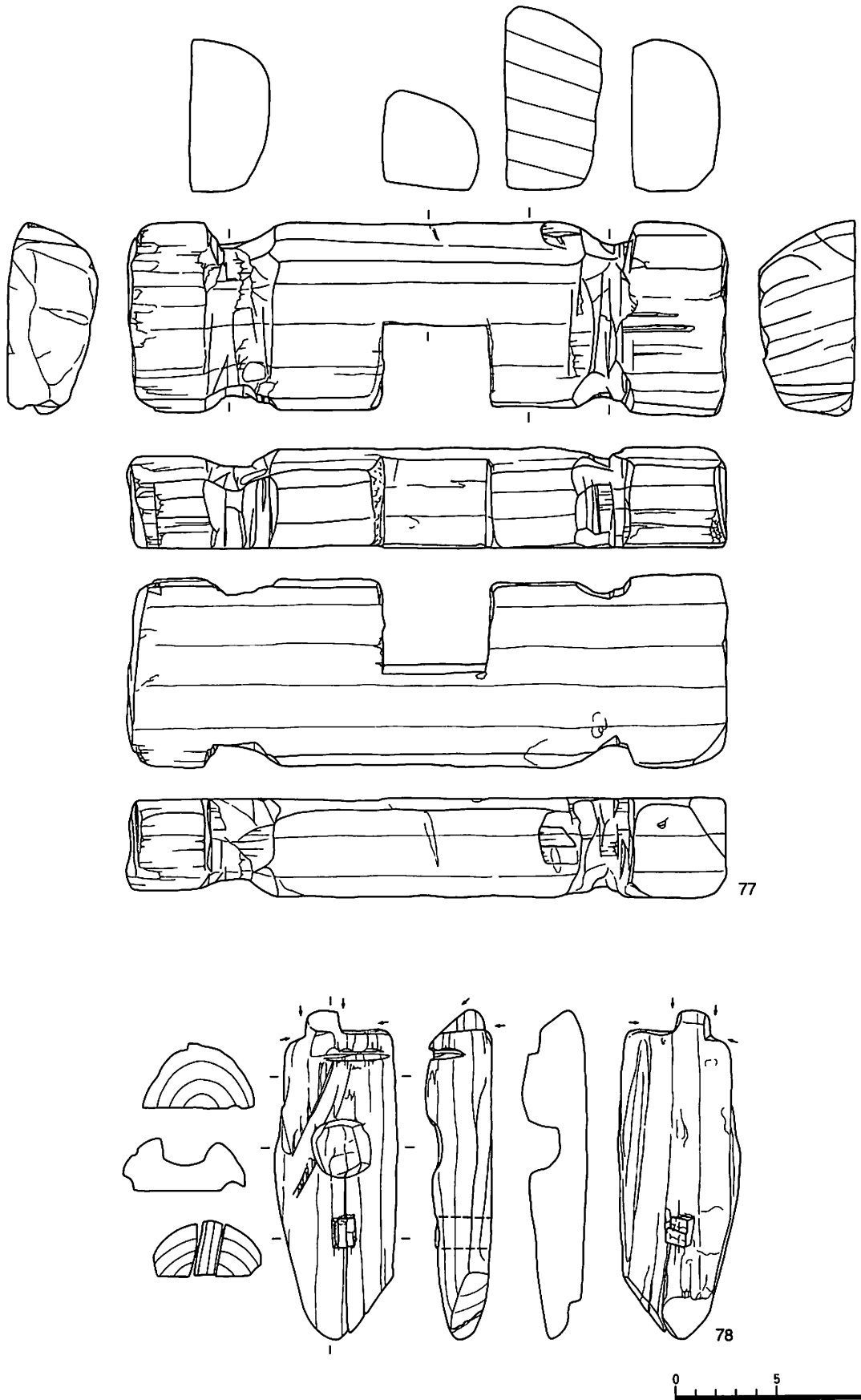


図V-56 舟部材3 (舷側板)



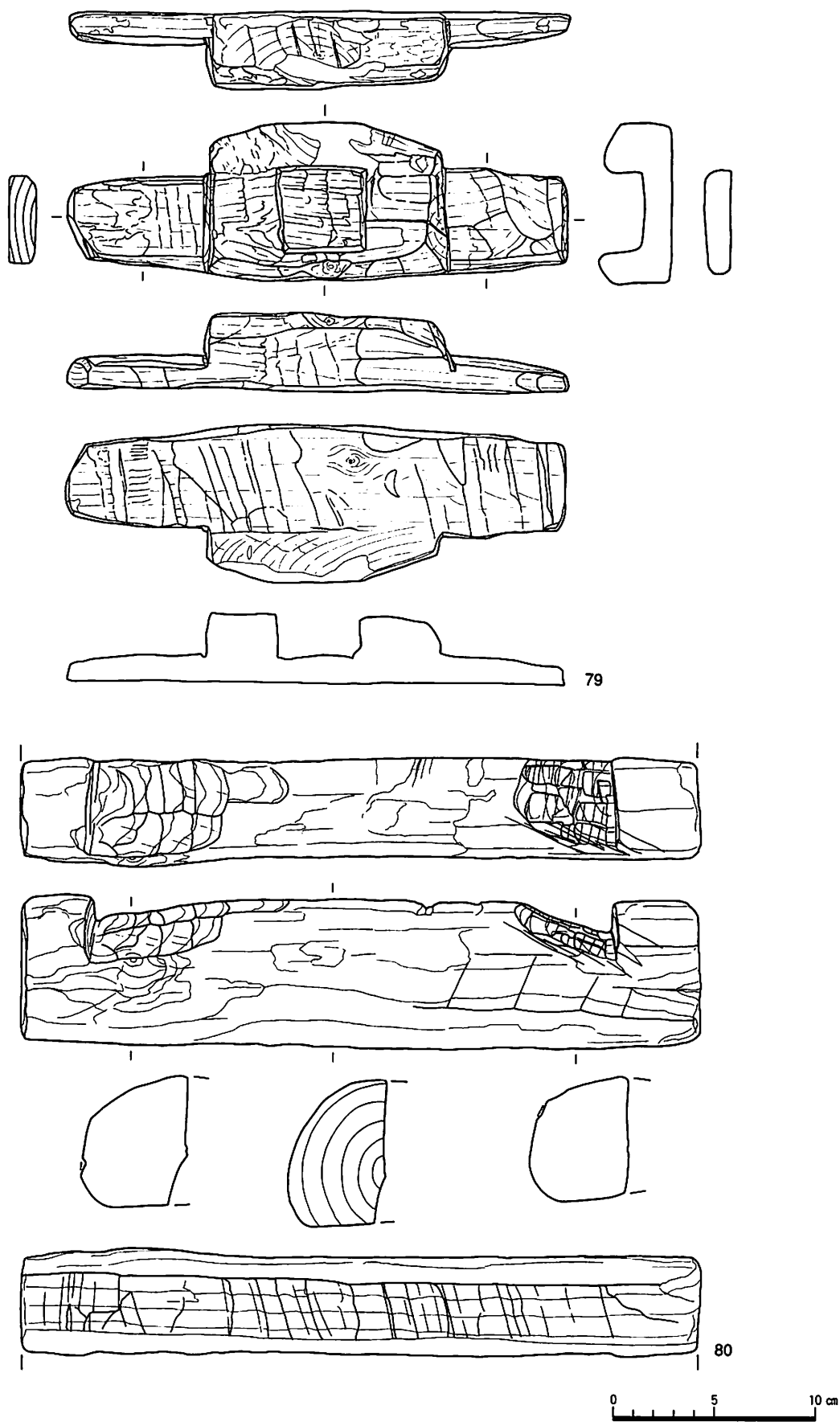
图V-57 舟部材4 (舟材)



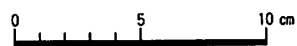
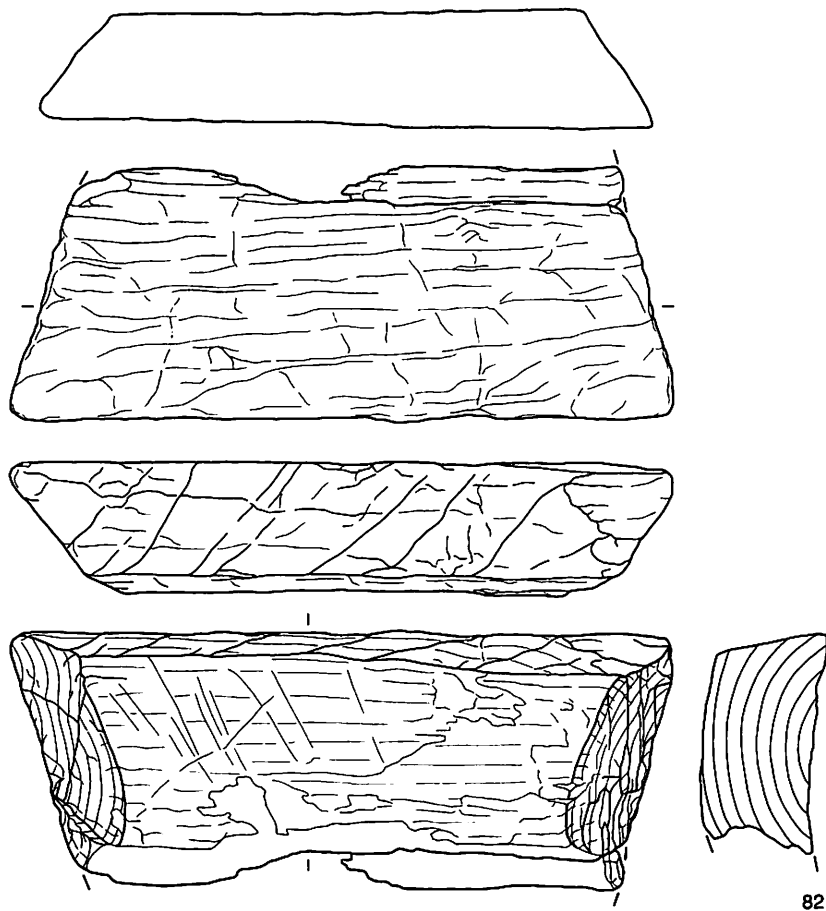
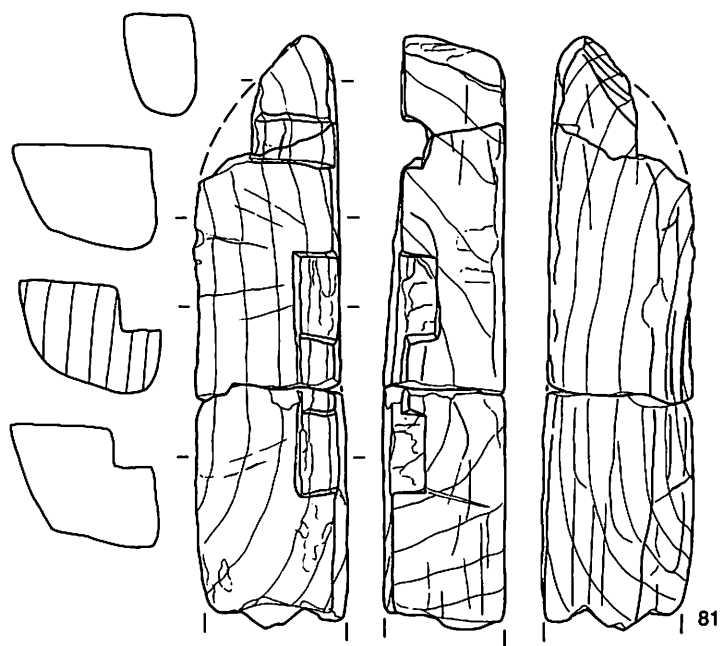


図V-58 舟部材5 (舟材)





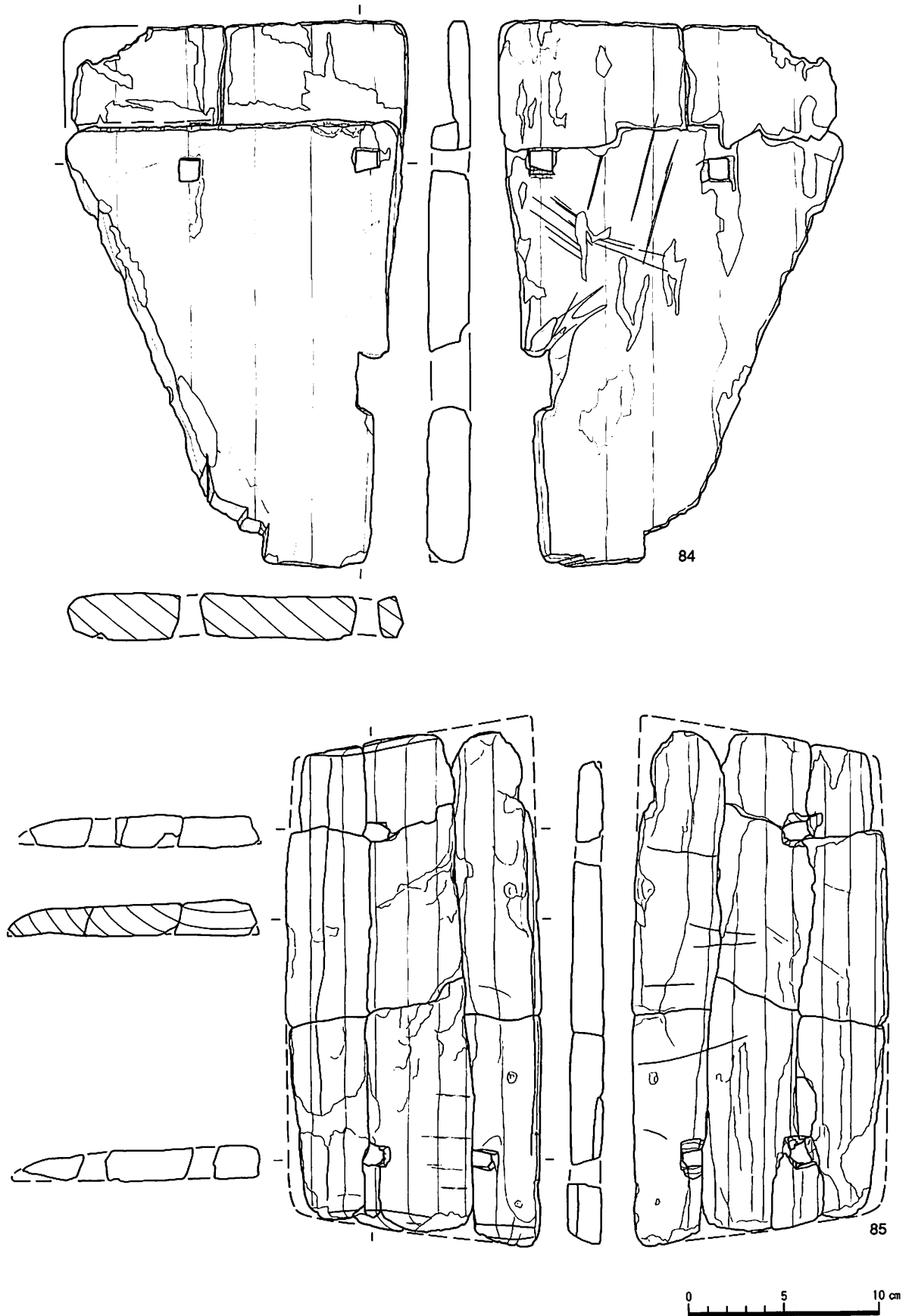
图V-59 舟部材6 (舟材)



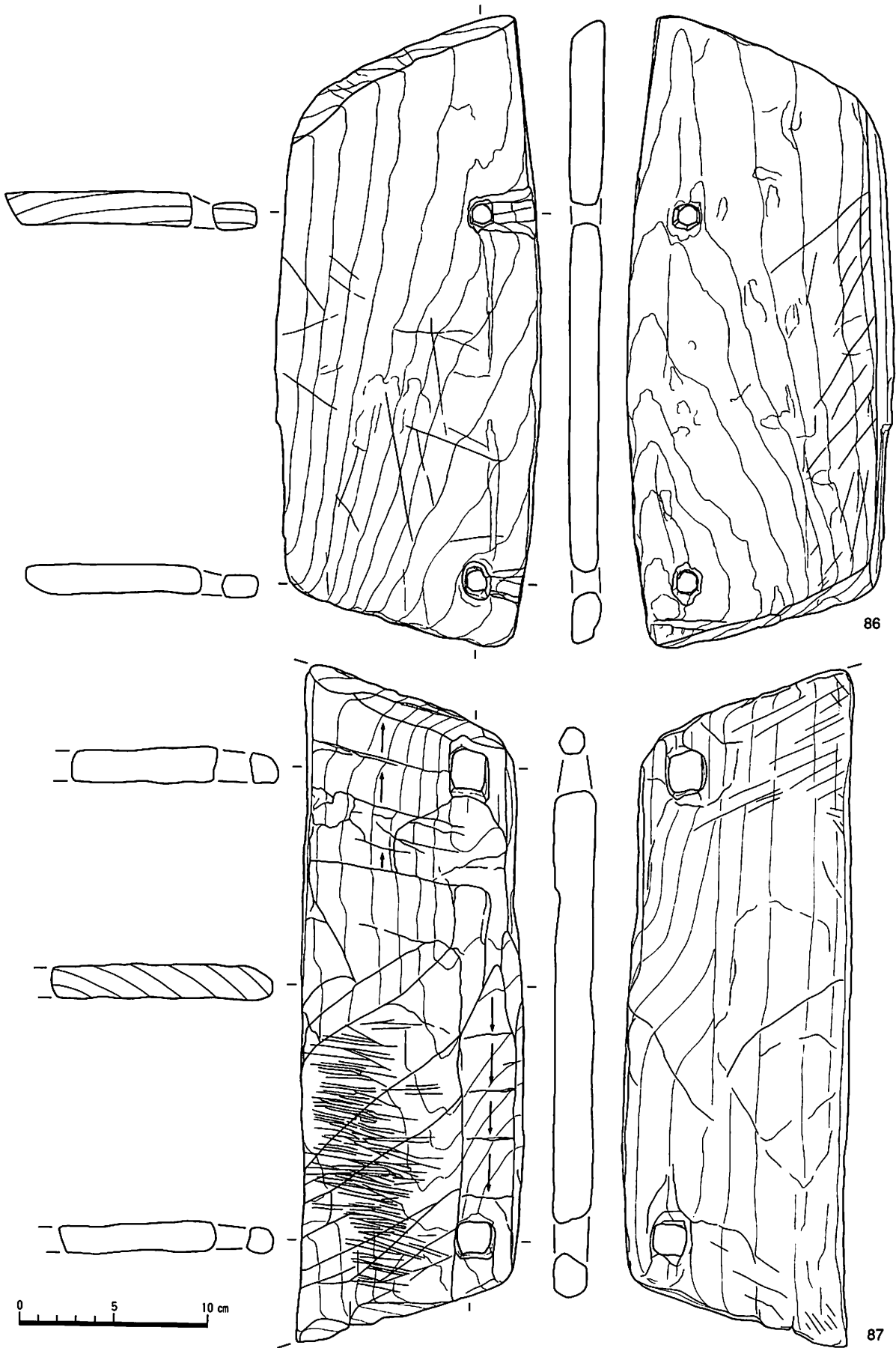
図V-60 舟部材7 (舟材)



図V-61 舟部材8 (舟材)

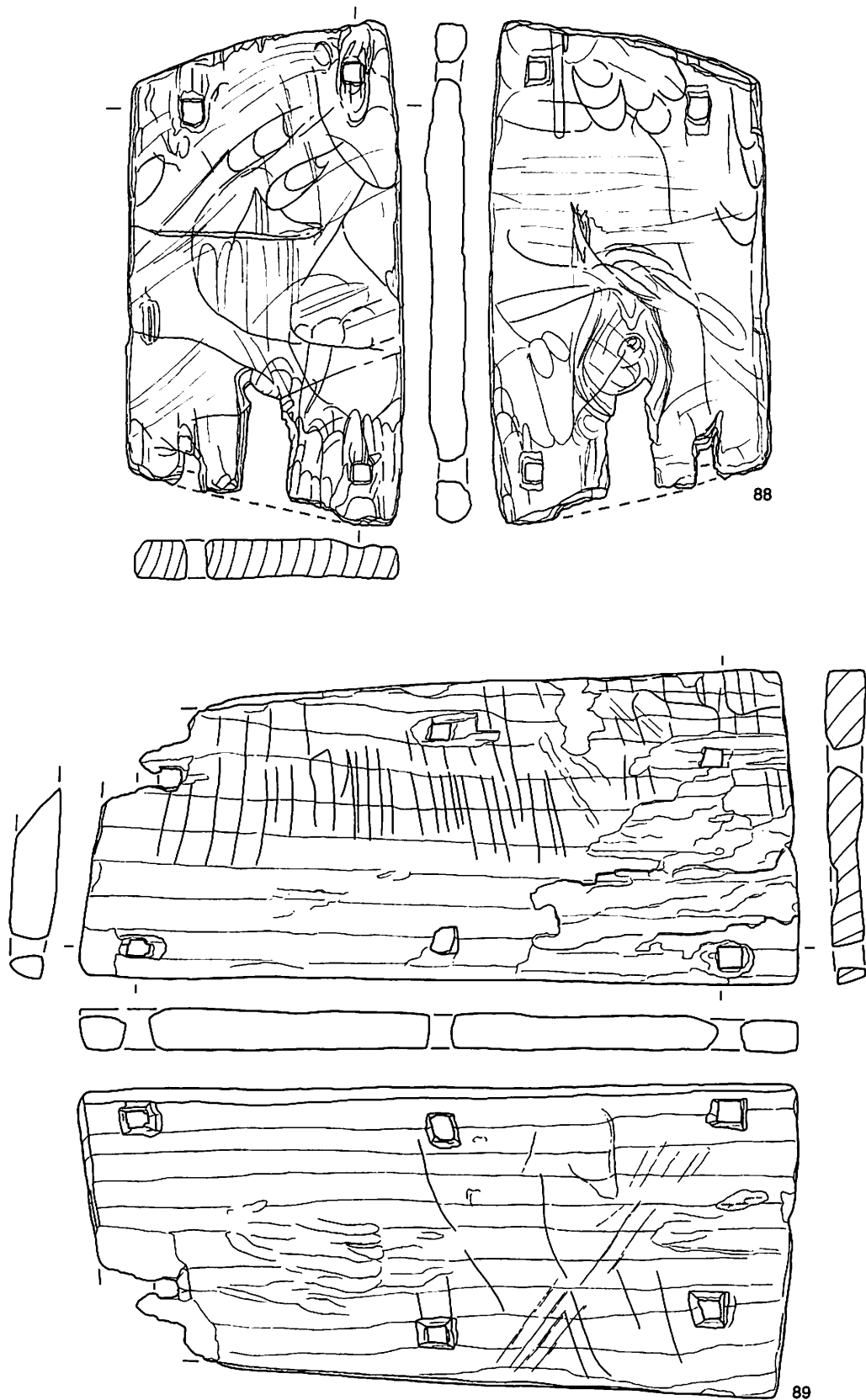


図V-62 舟部材9 (舟材・舷側板)



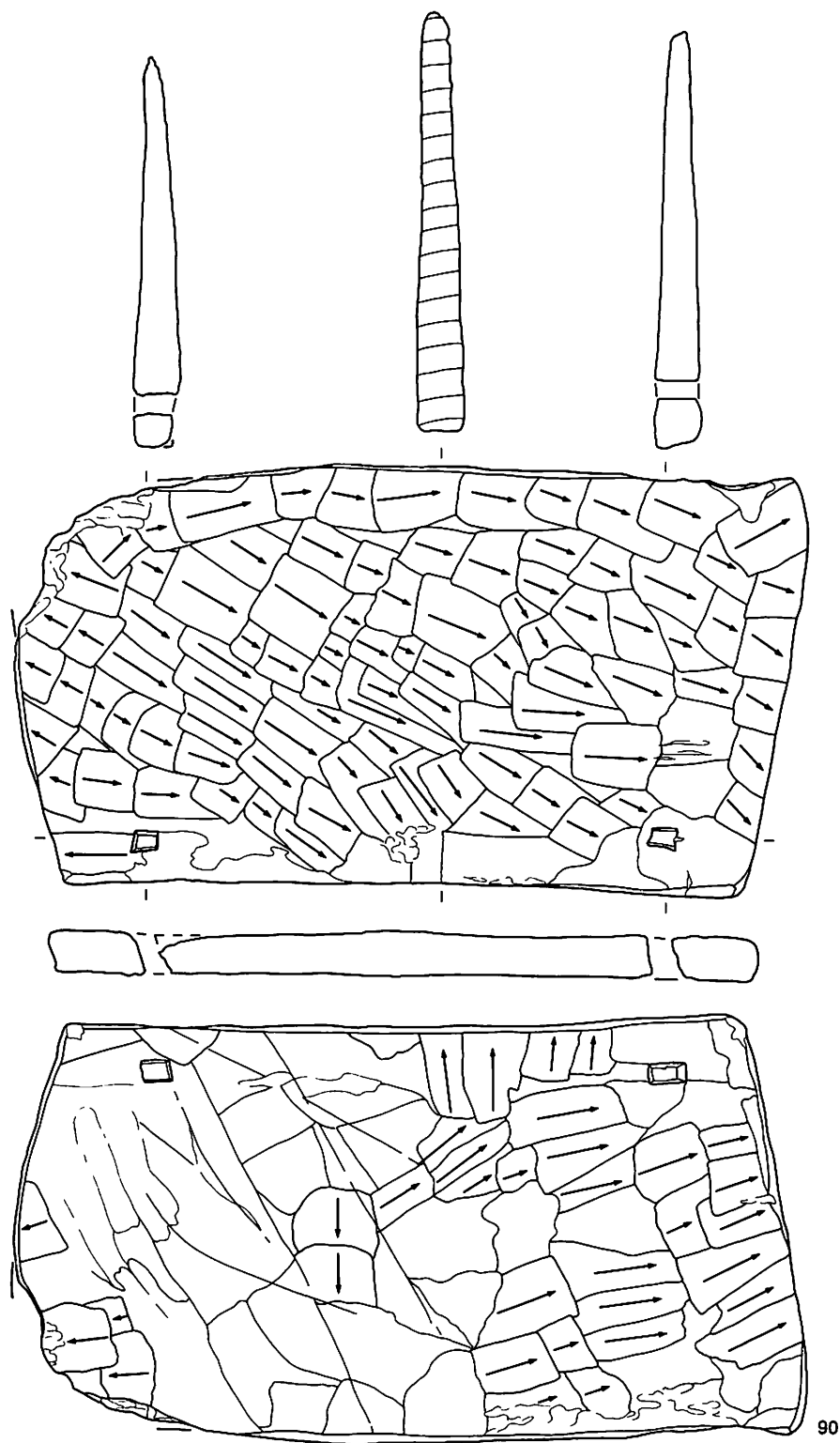
図V-63 舟部材10 (舟材)



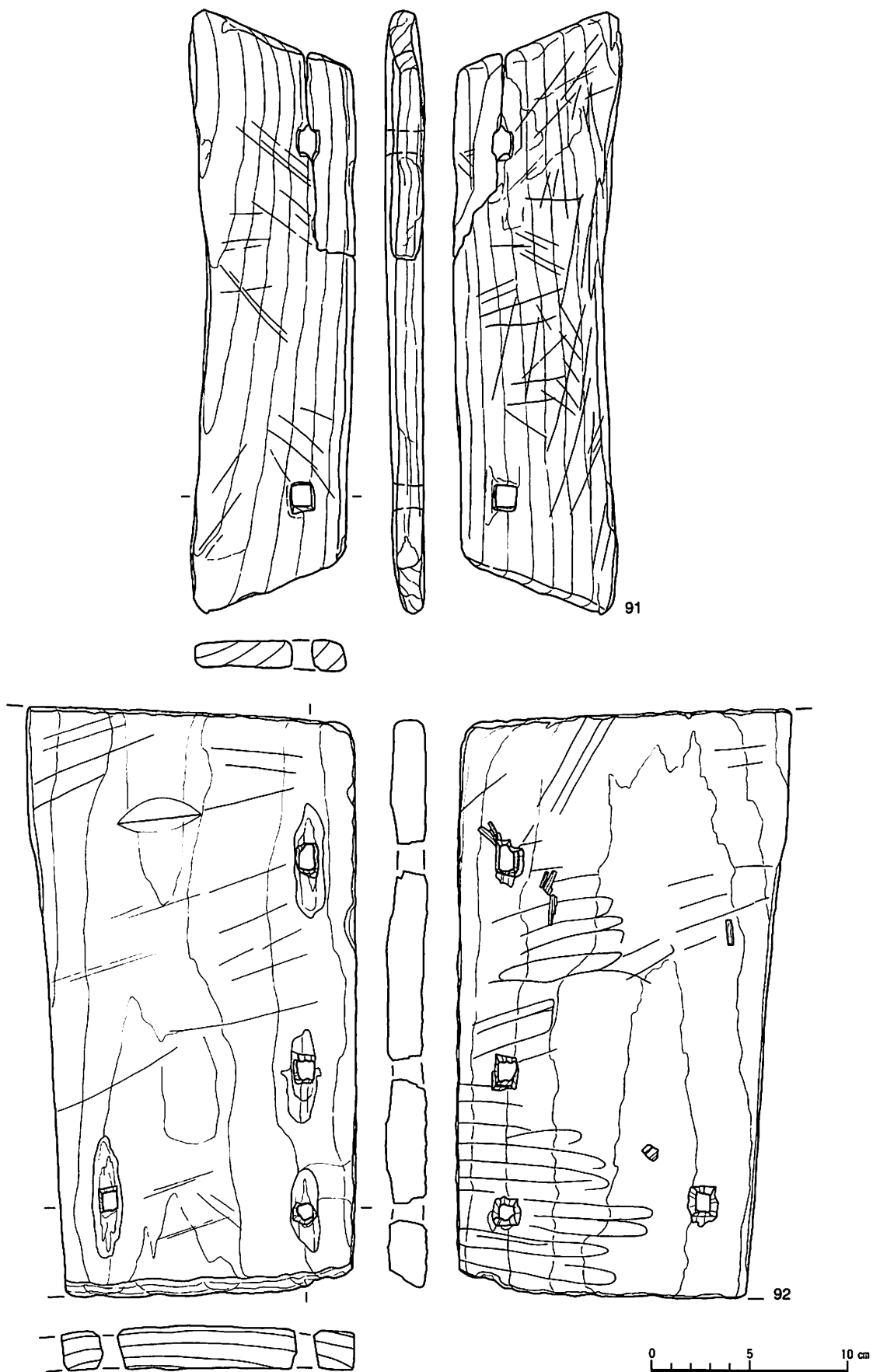


0 5 10 cm

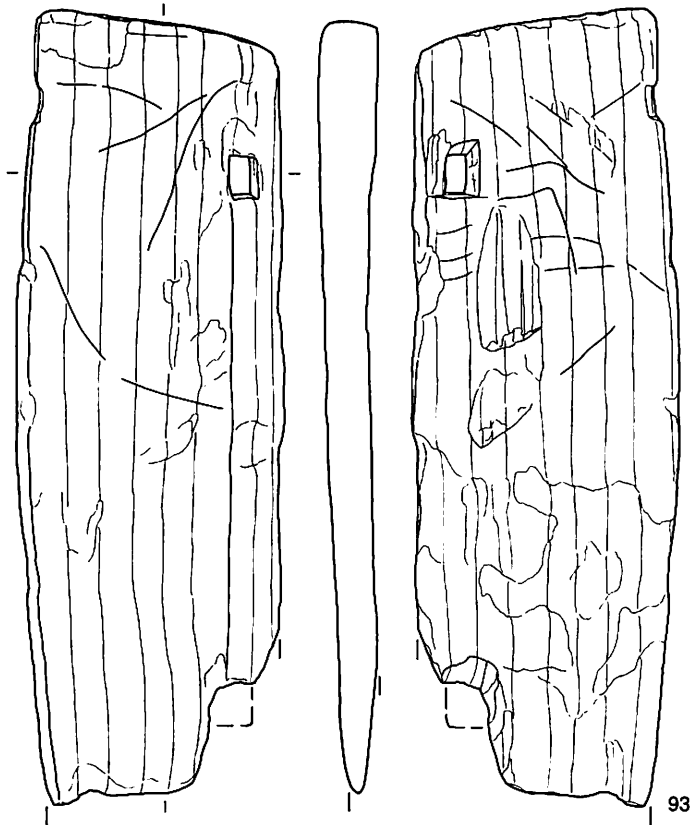
図V-64 舟部材11 (舟材)



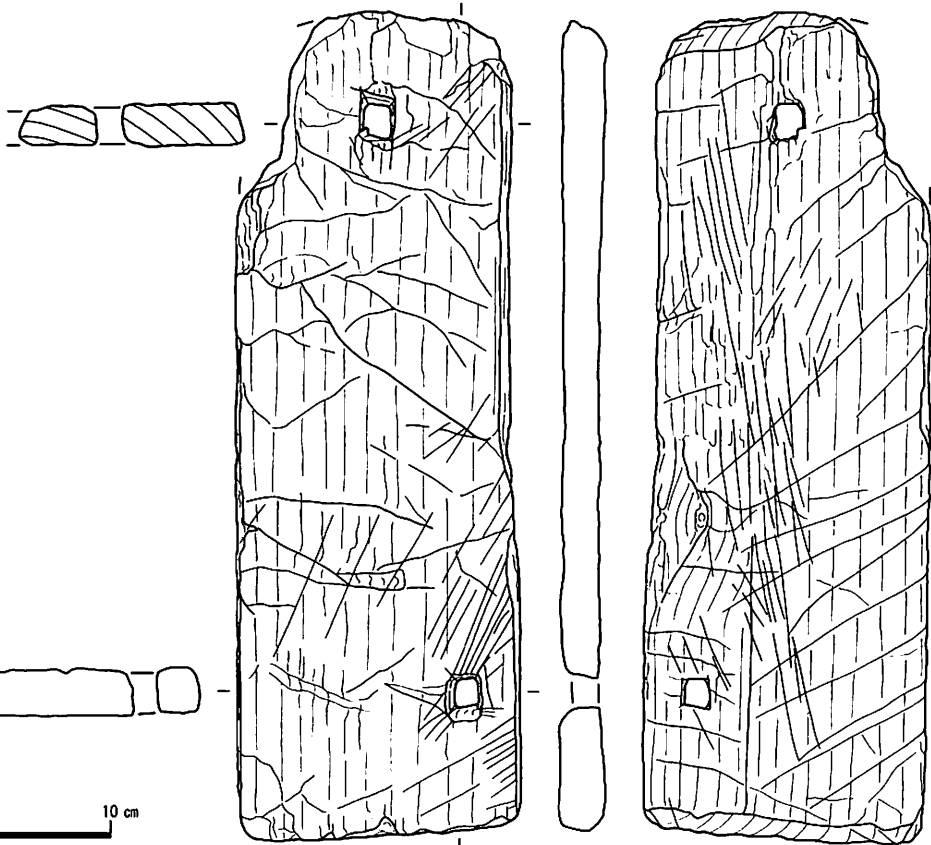
図V-65 舟部材12 (舟材)



図V-66 舟部材13 (舟材・舷側板)

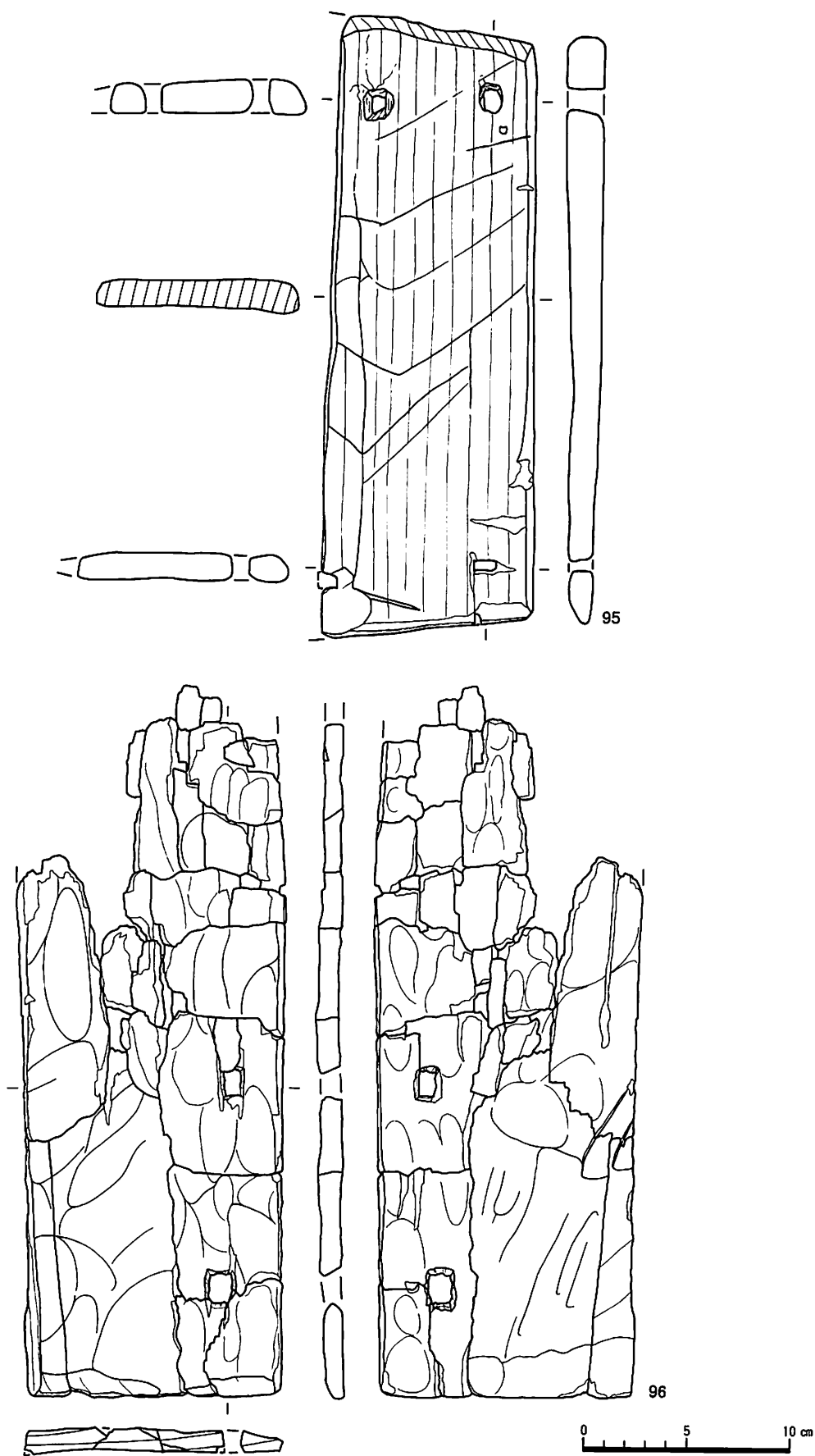


93



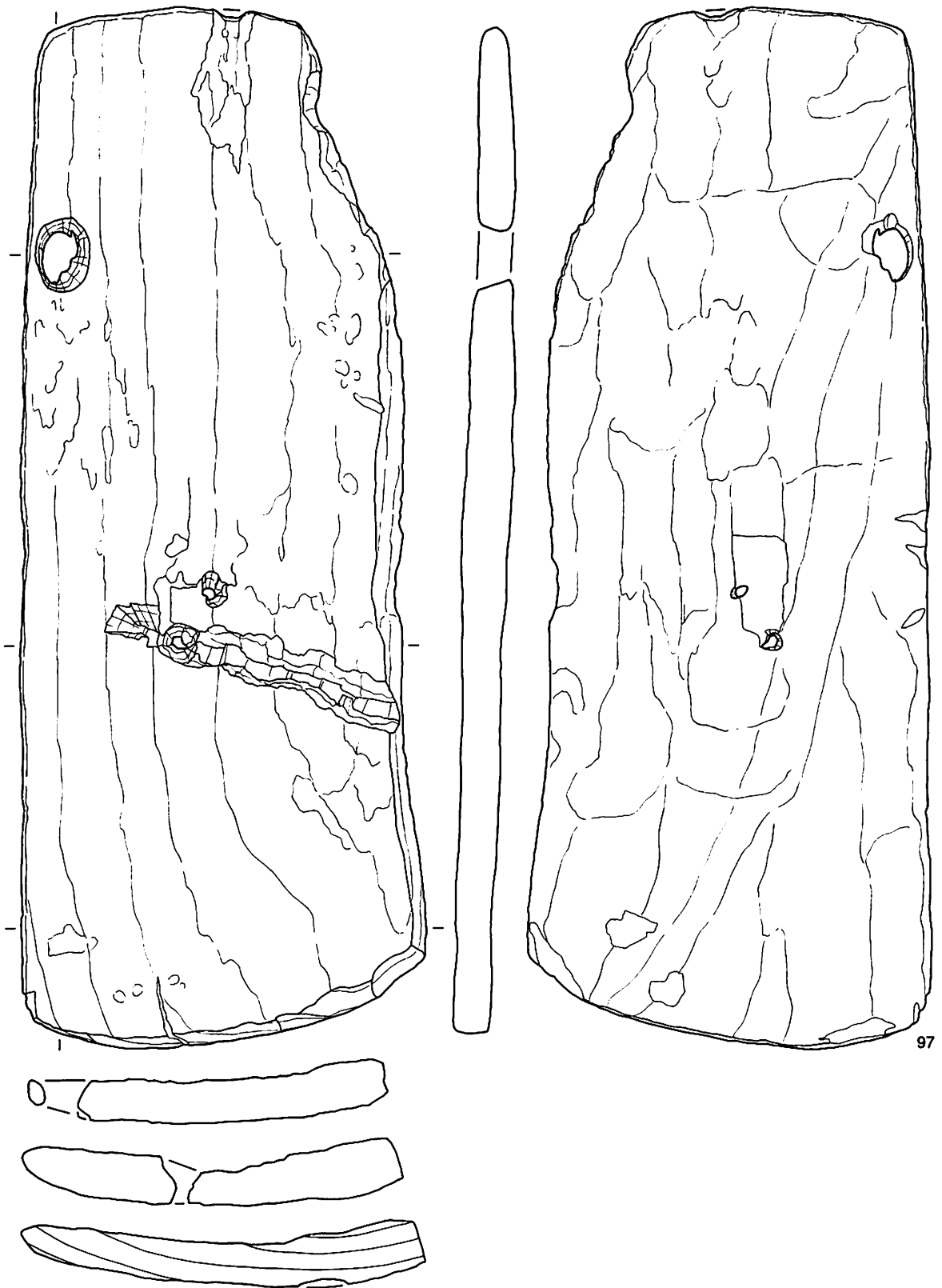
94

図V-67 舟部材14 (舷側板)

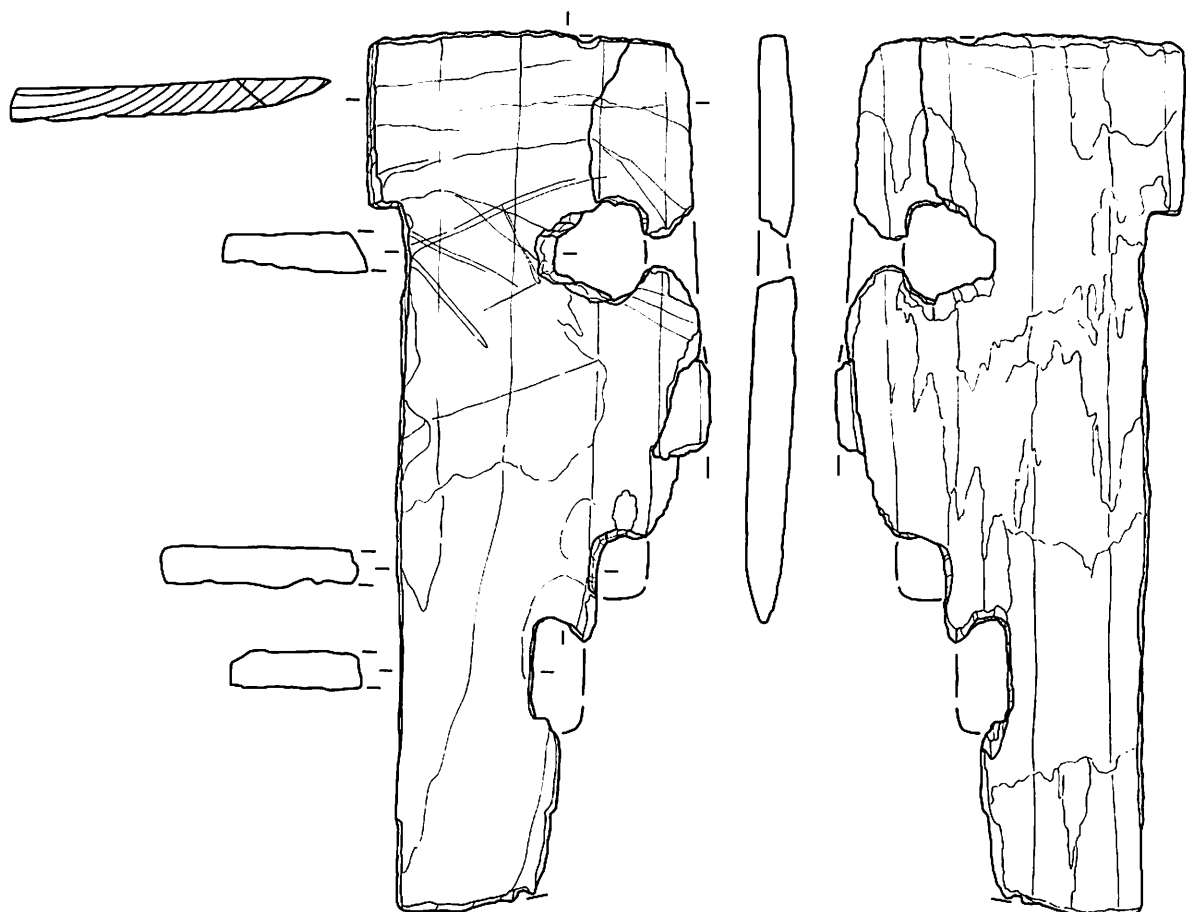


図V-68 舟部材15 (舷側板)

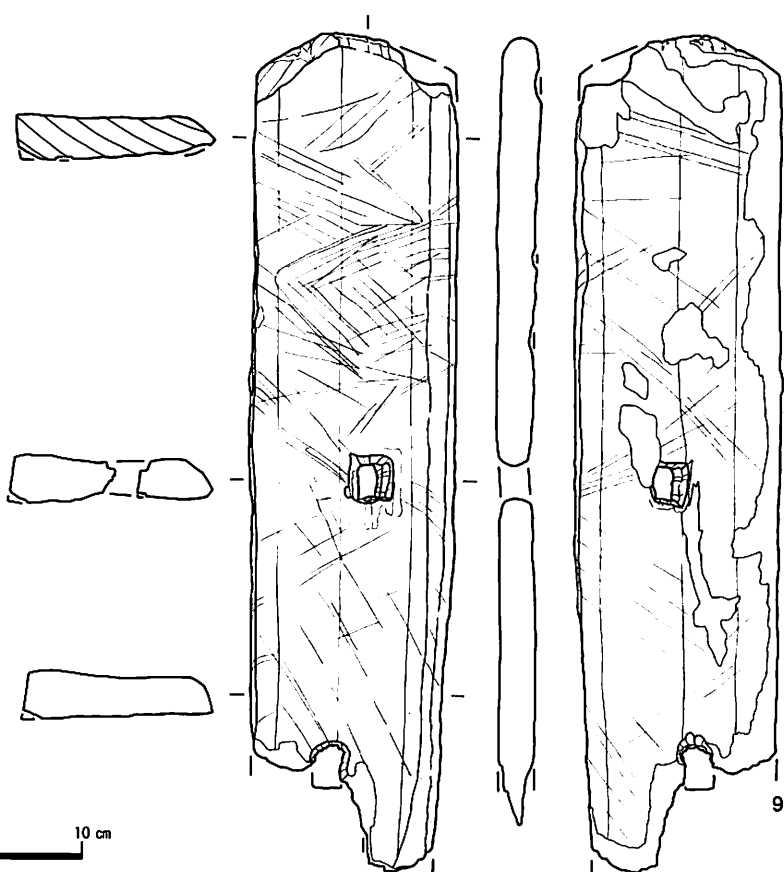




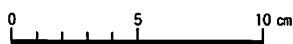
図V-69 舟部材16 (舷側板)



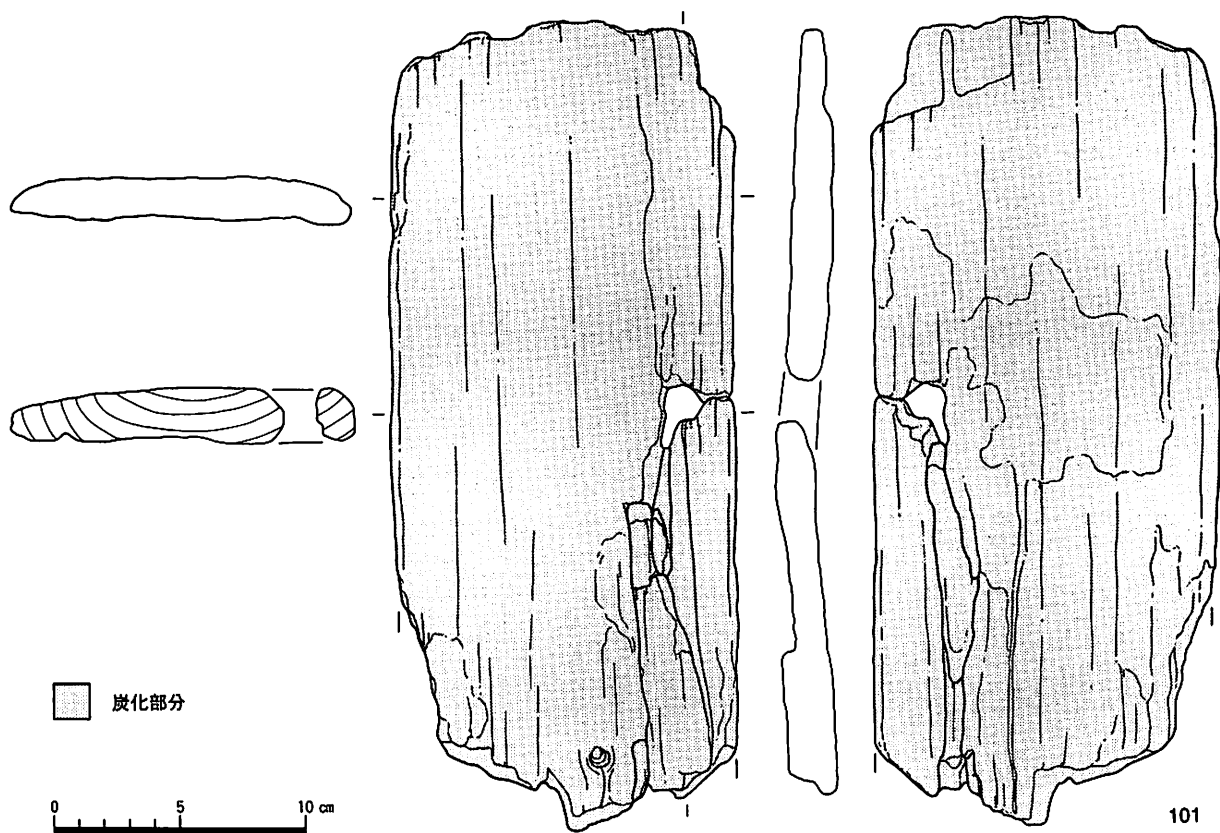
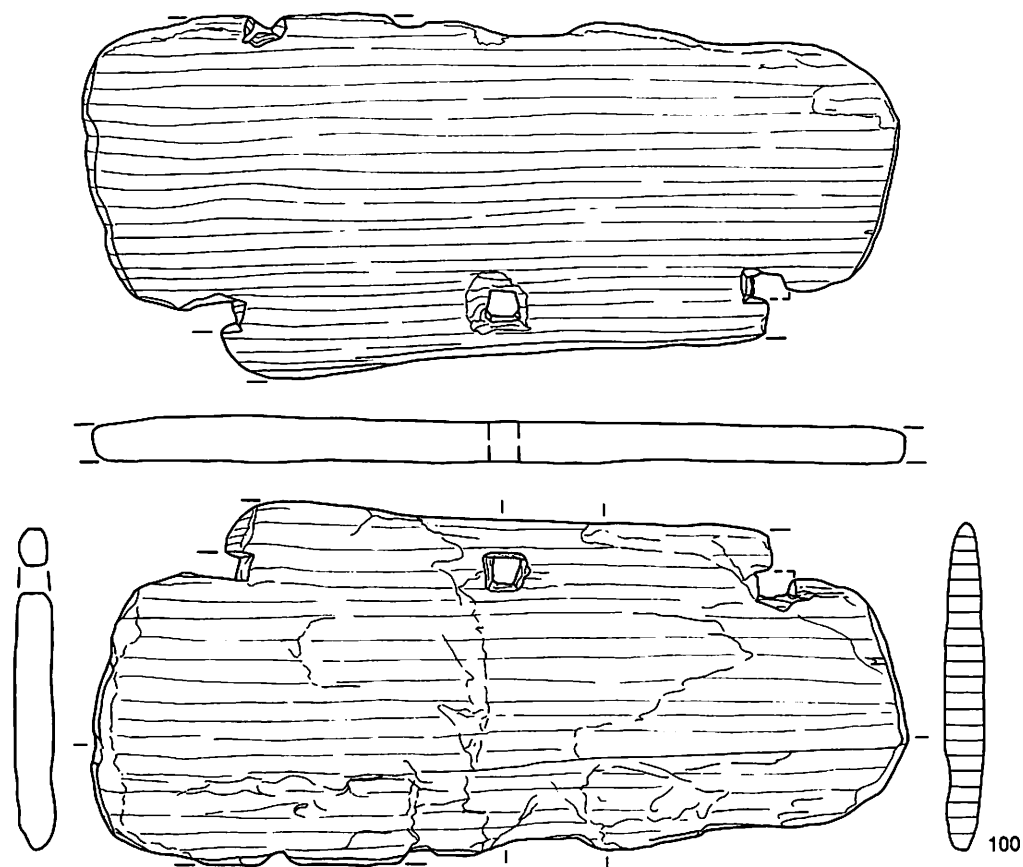
98



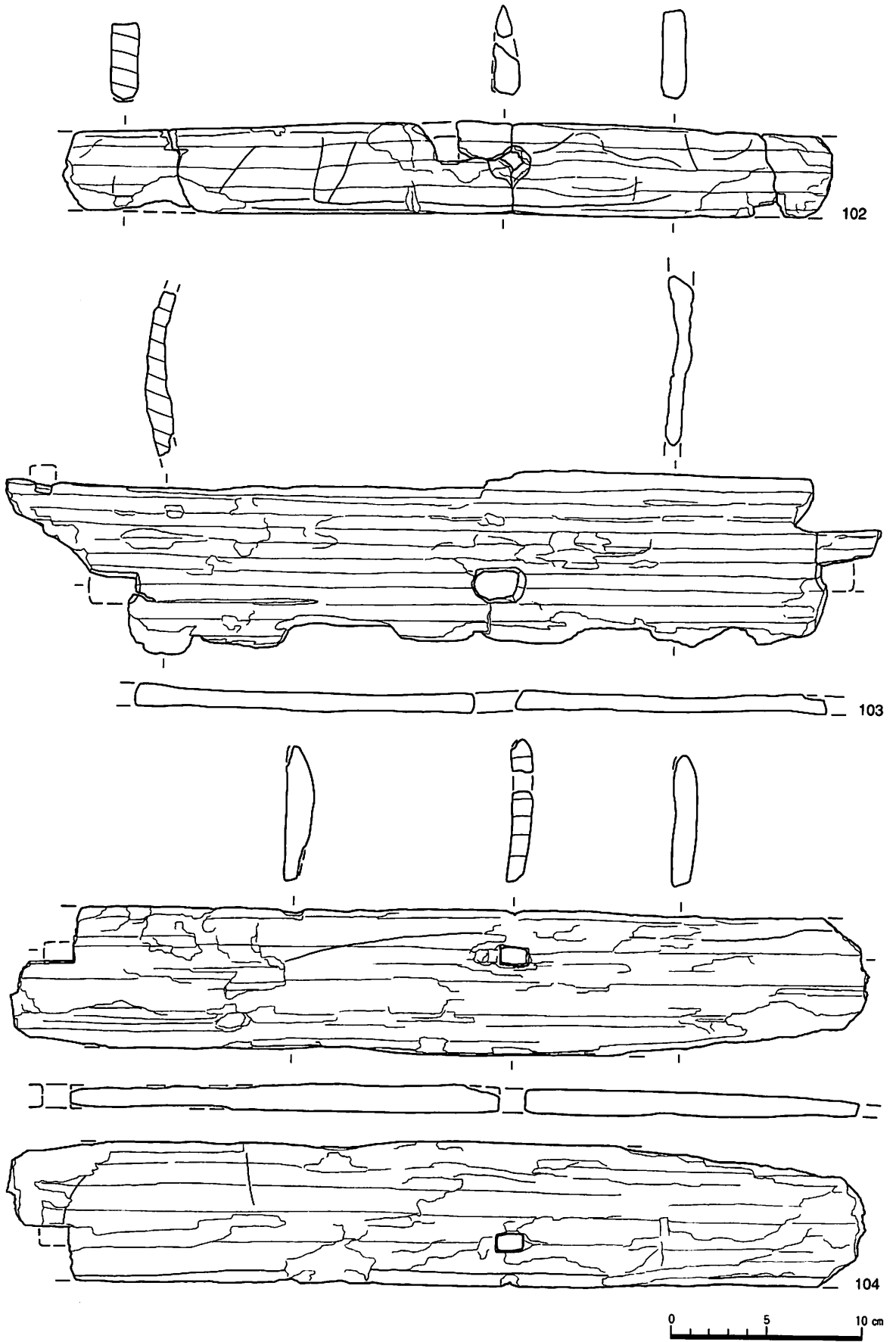
99



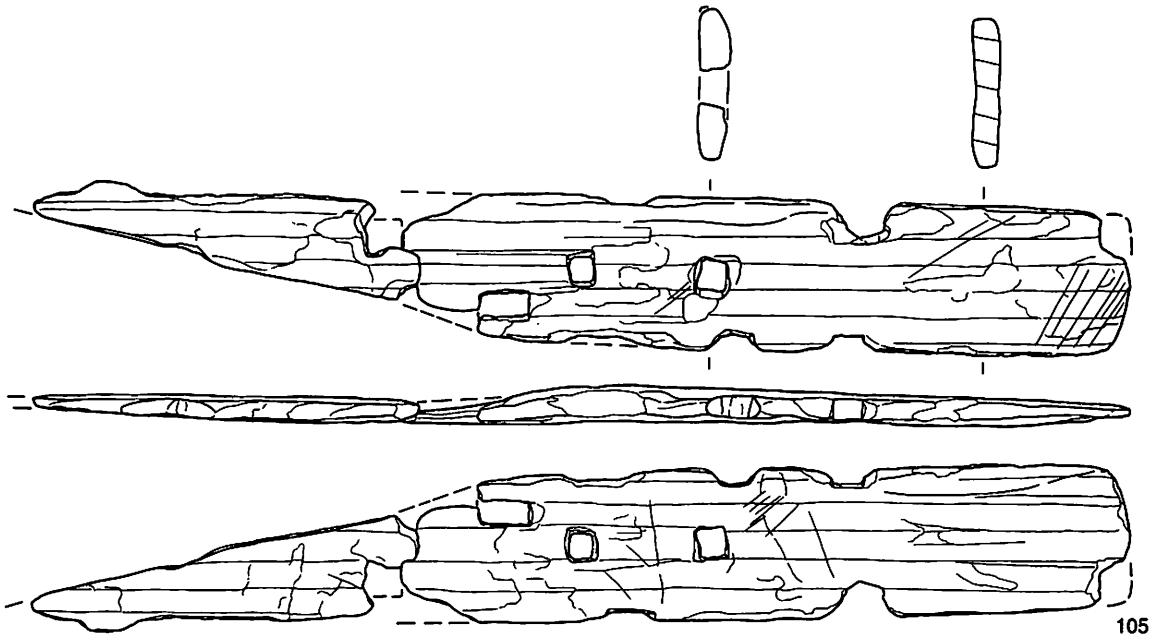
図V-70 舟部材17 (舷側板)



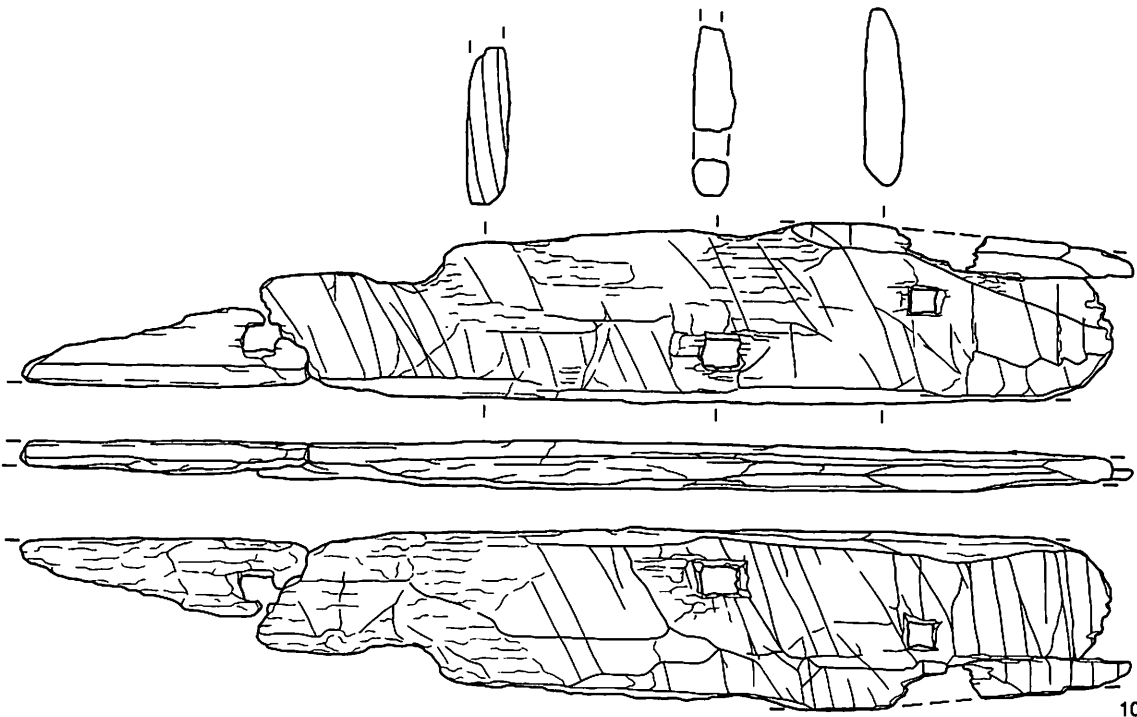
図V-71 舟部材18 (舷側板)



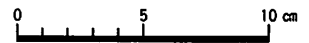
図V-72 舟部材19 (舷側板)



105

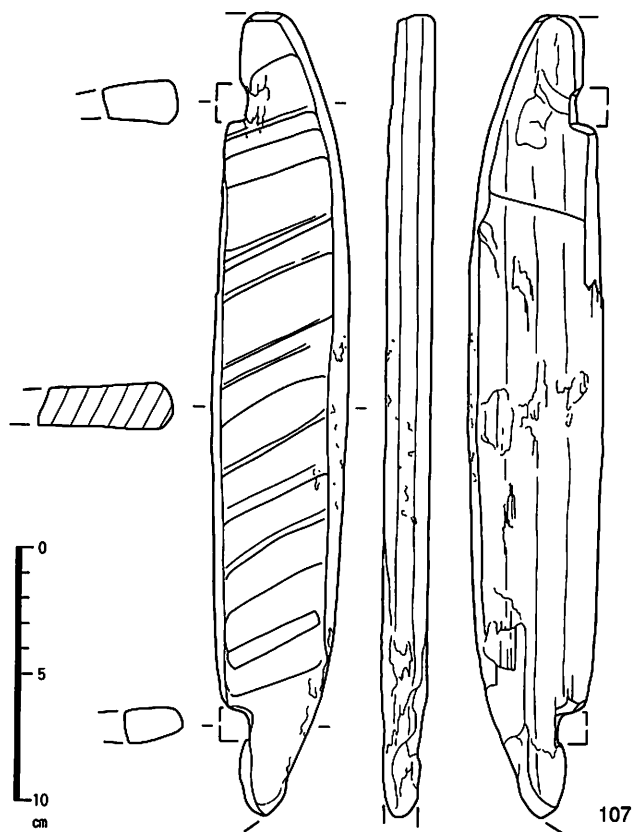


106

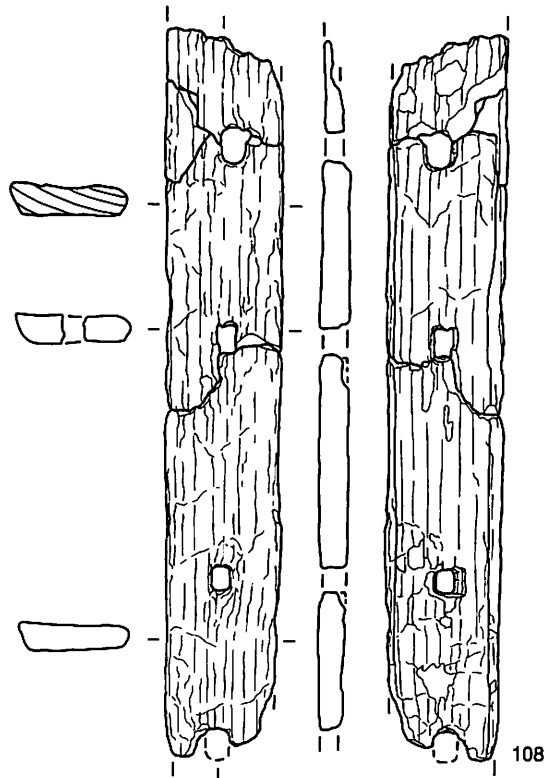


図V-73 舟部材20 (舷側板)

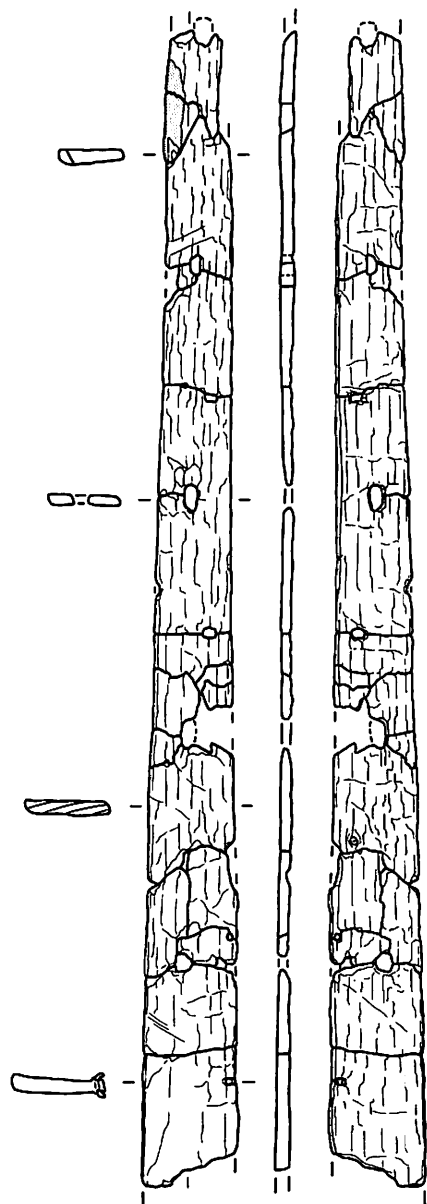




107



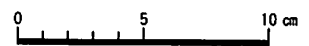
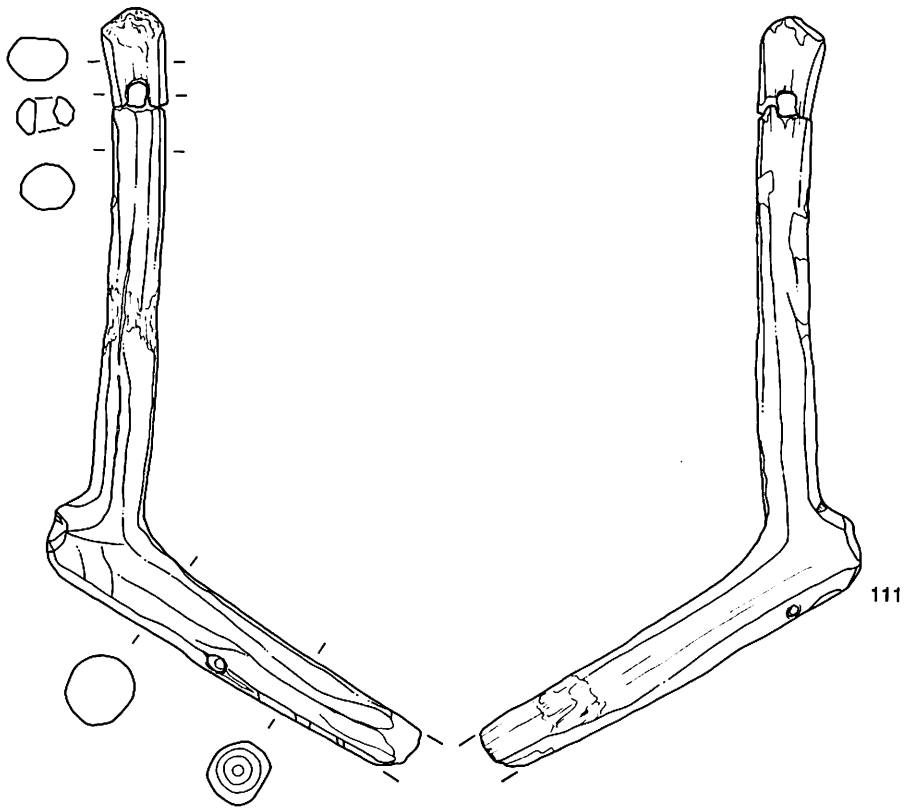
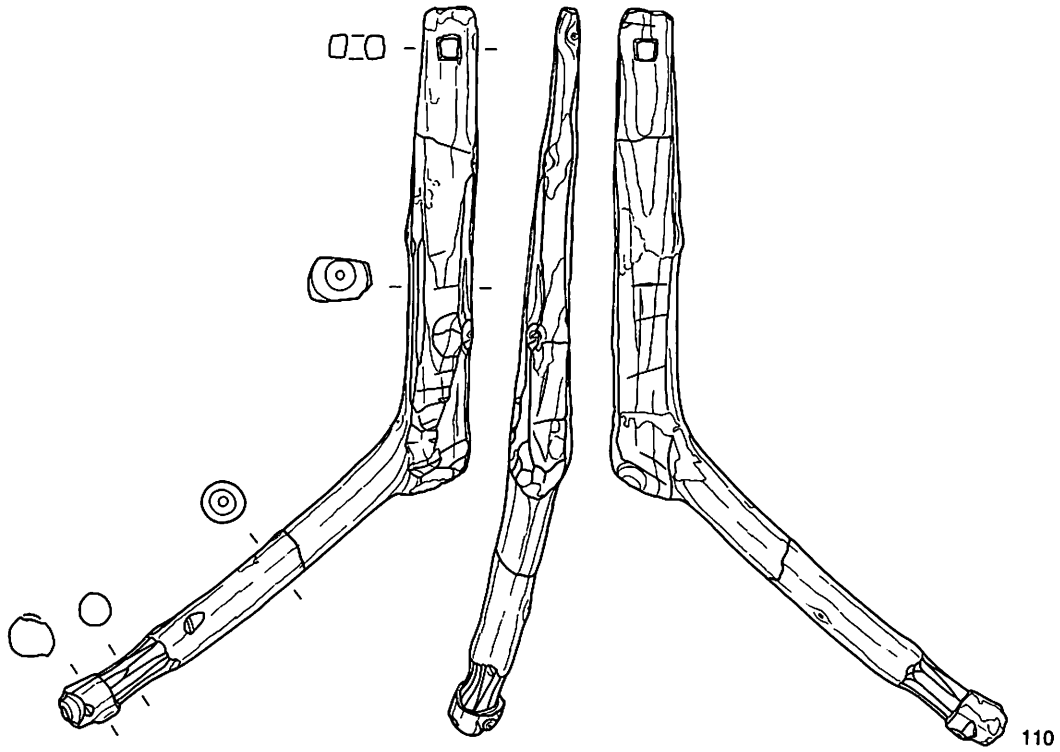
108



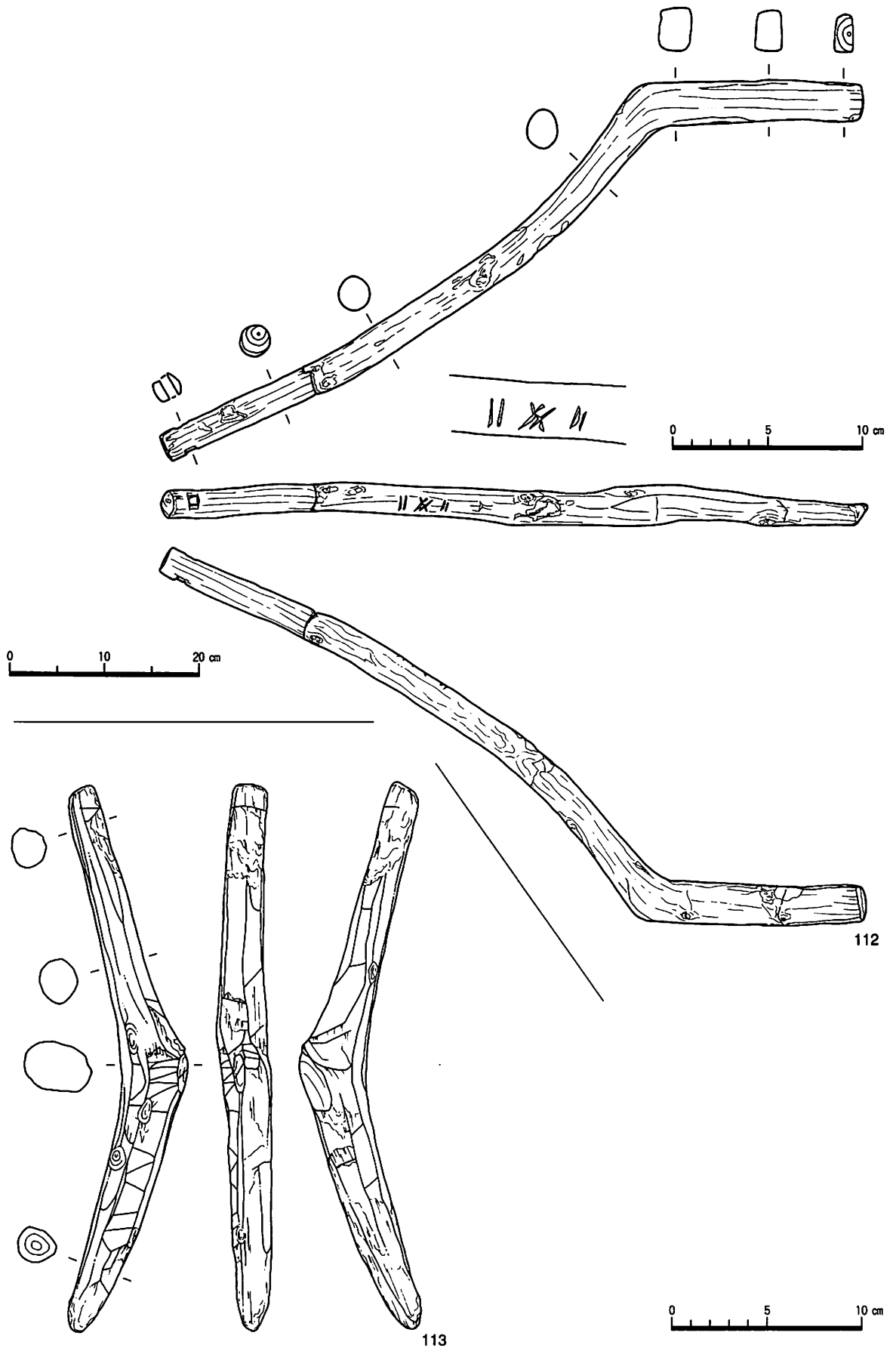
109

0 10 20 cm

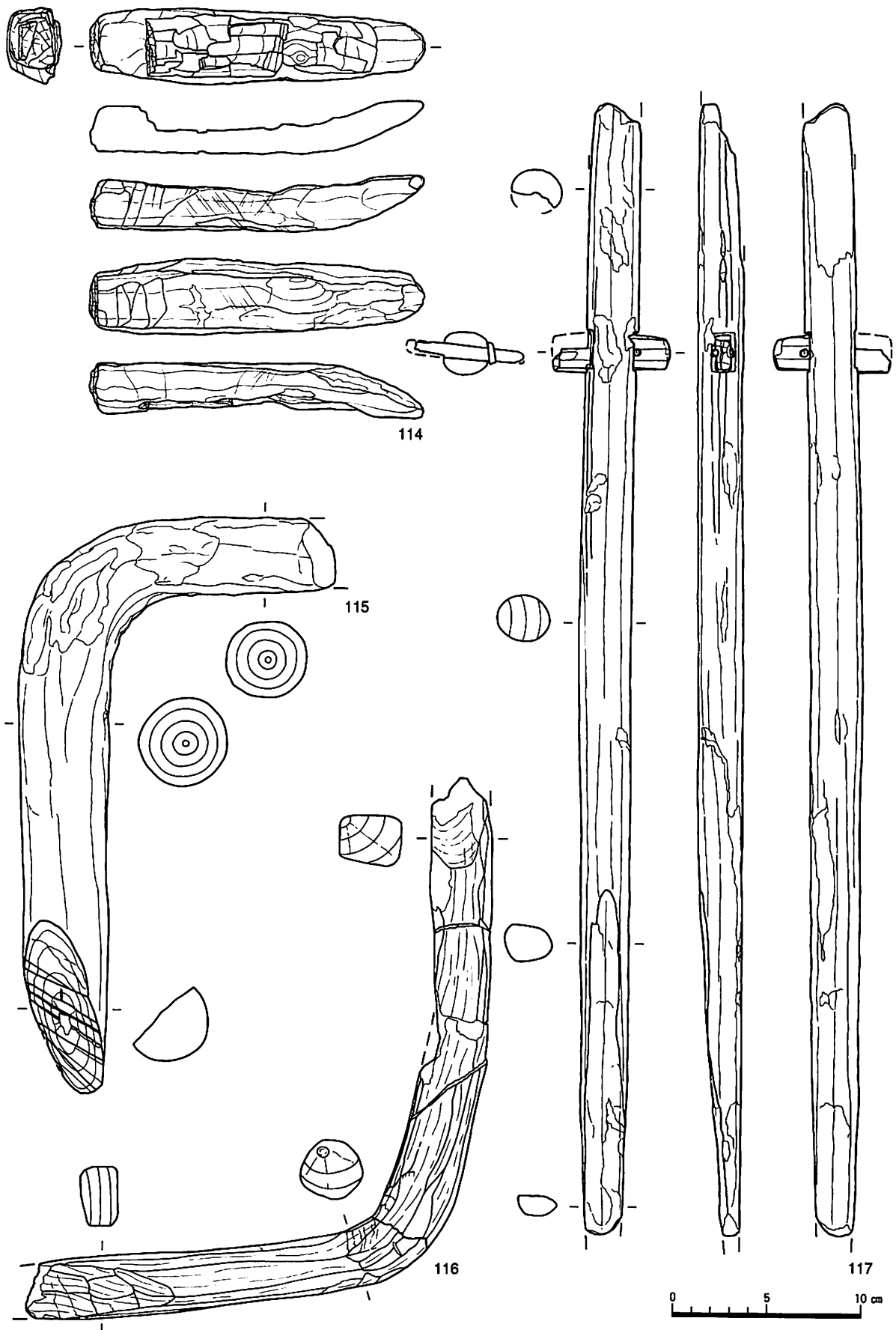
図V-74 舟部材21 (舷側板)



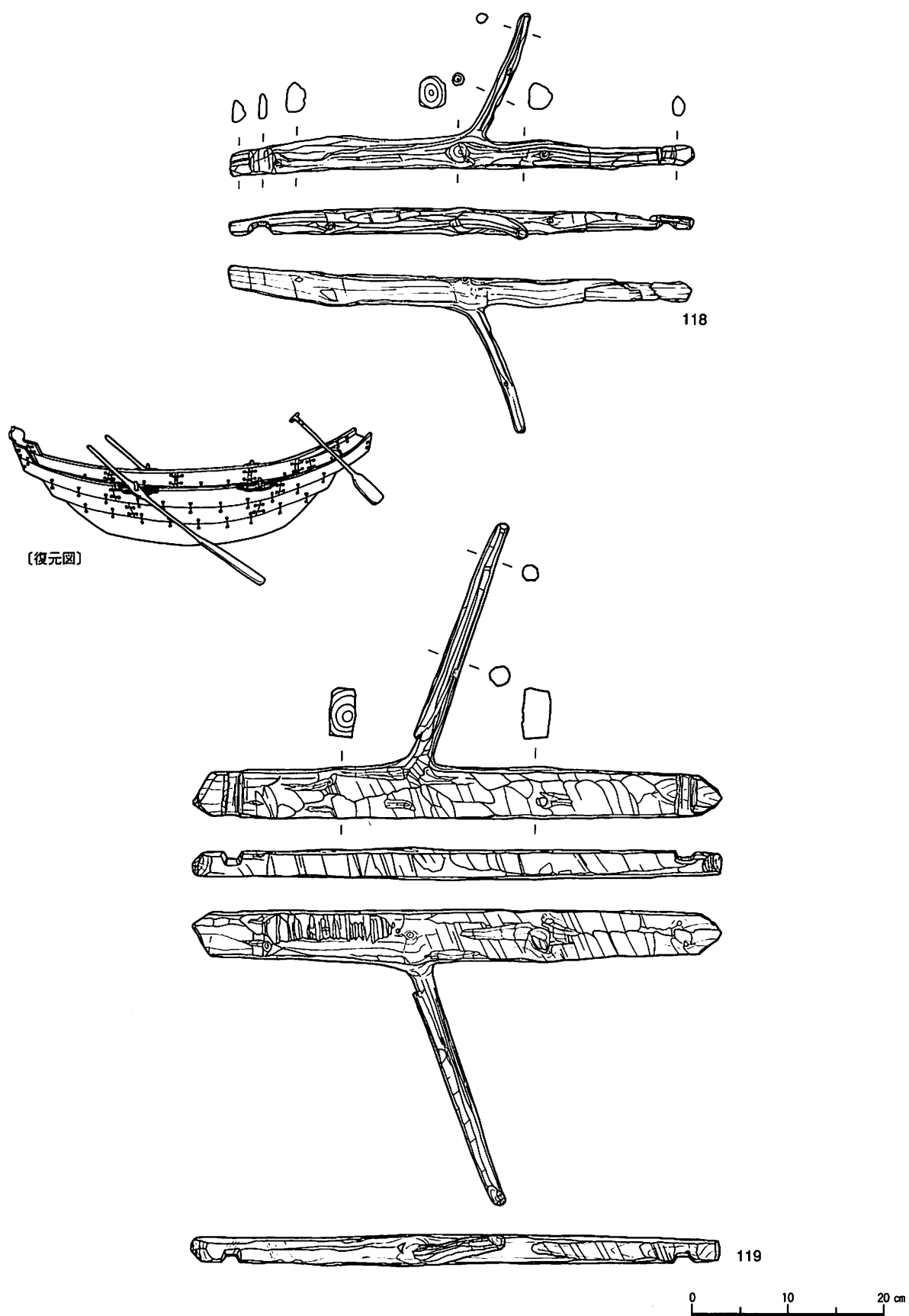
図V-75 舟部材22 (舟材)



図V-76 舟部材23 (舵棒・舟材)

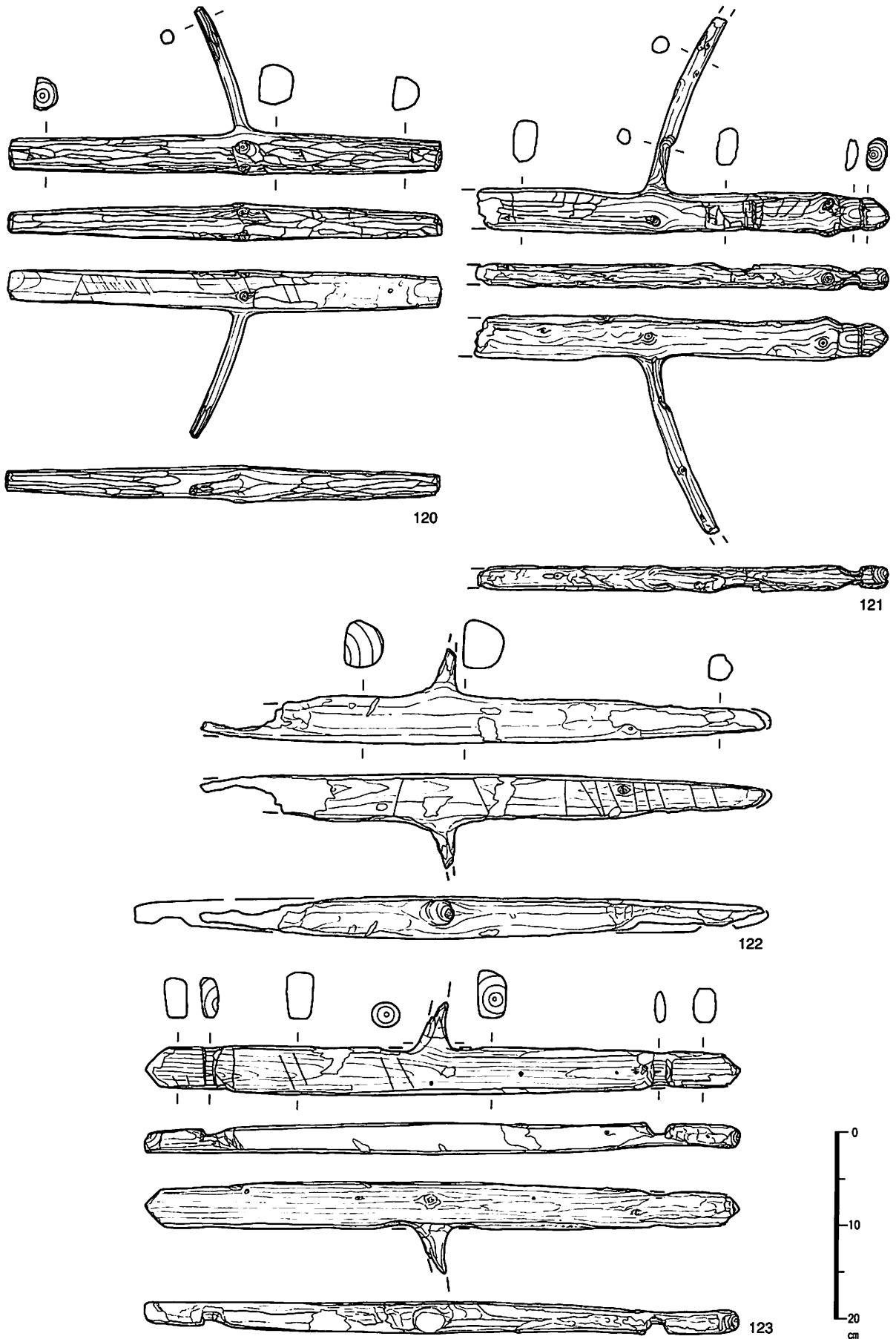


図V-77 舟部材24 (舟ミニチュア・舟材)

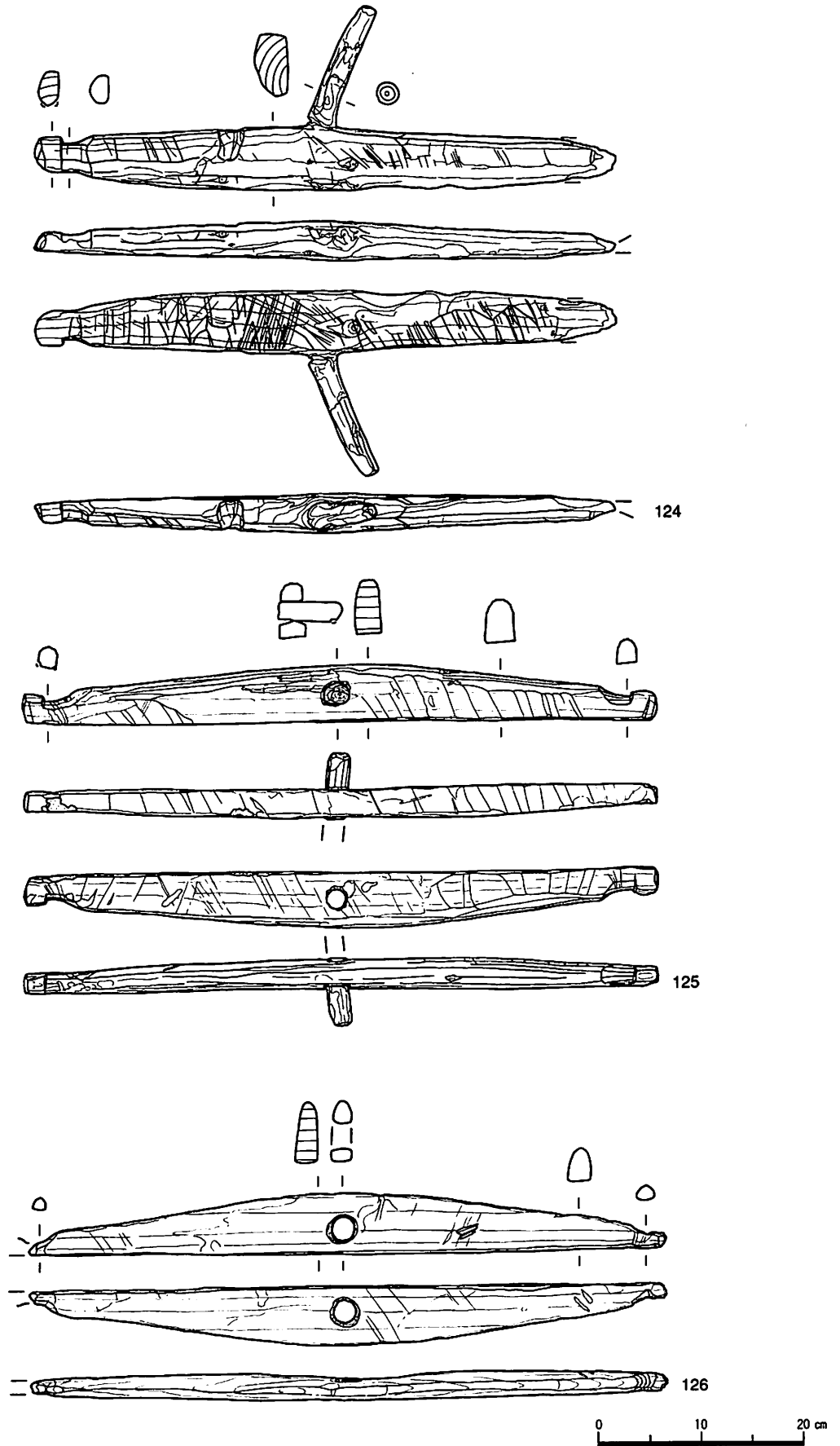


図V-78 舟部材25 (車權受台部①)

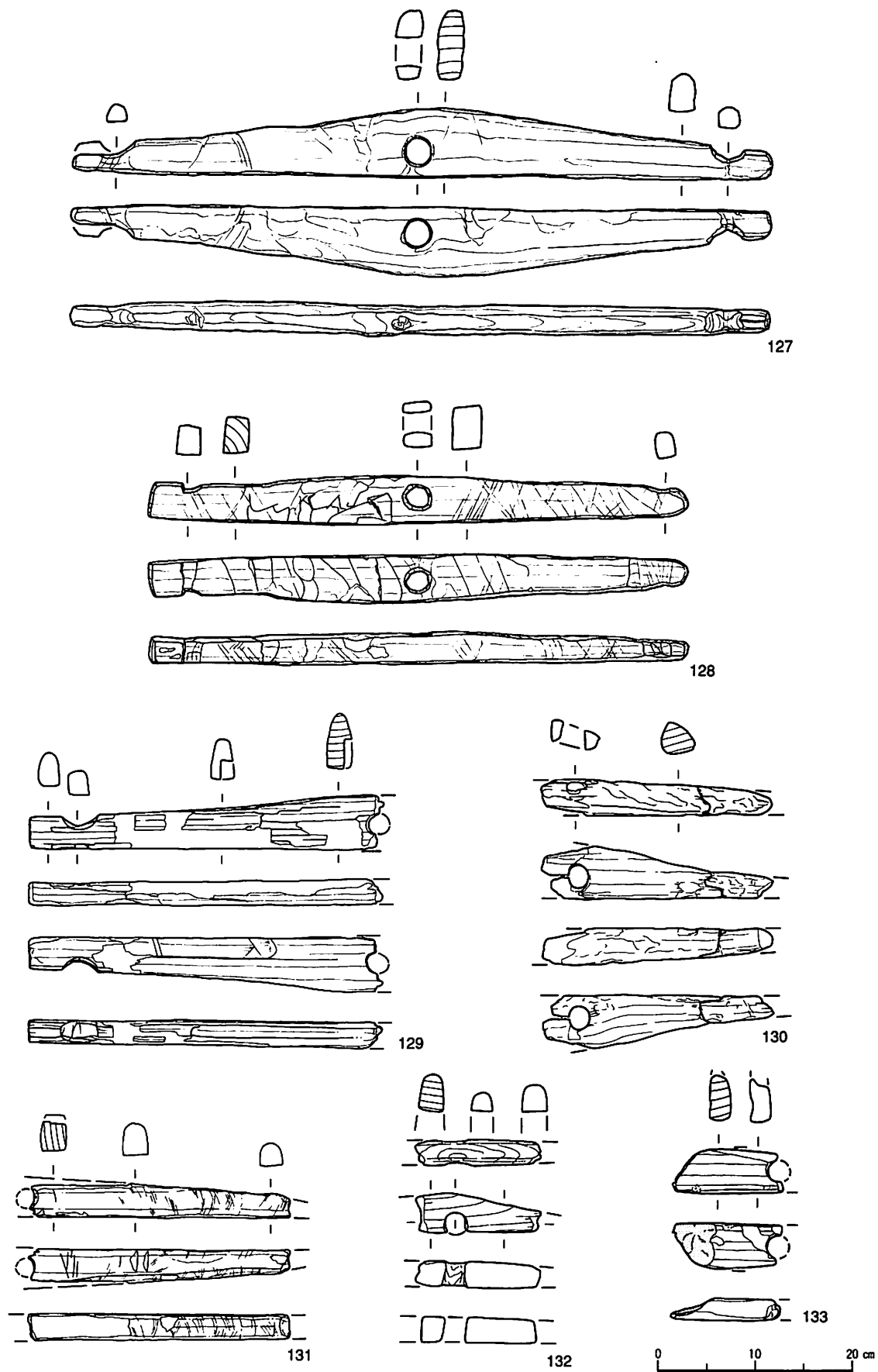




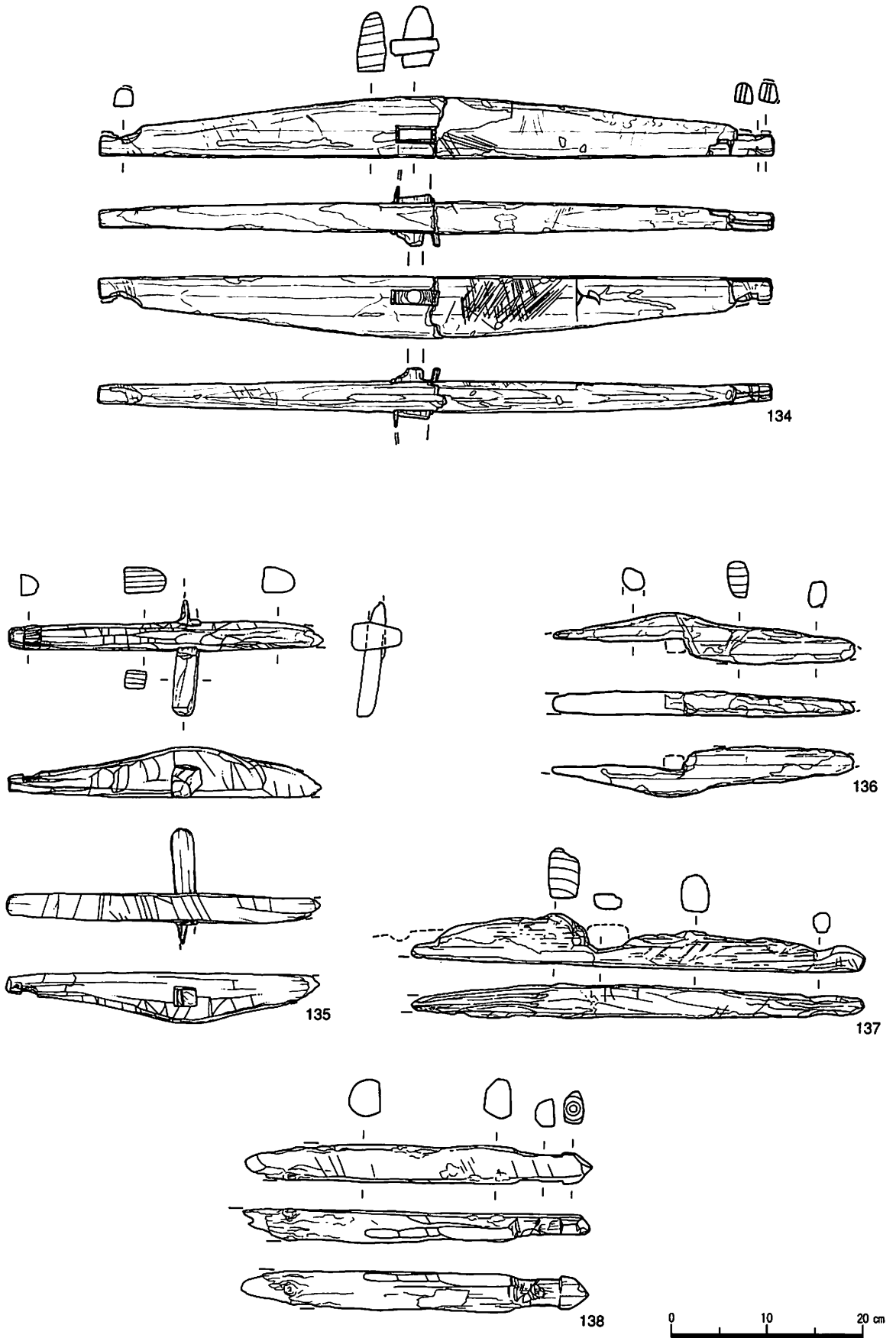
図V-79 舟部材26 (車權受台部②)



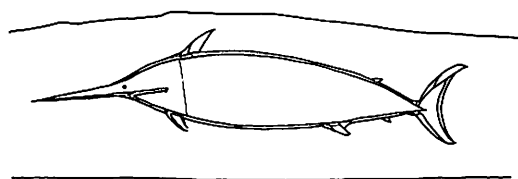
图V-80 舟部材27 (車權受台部③)



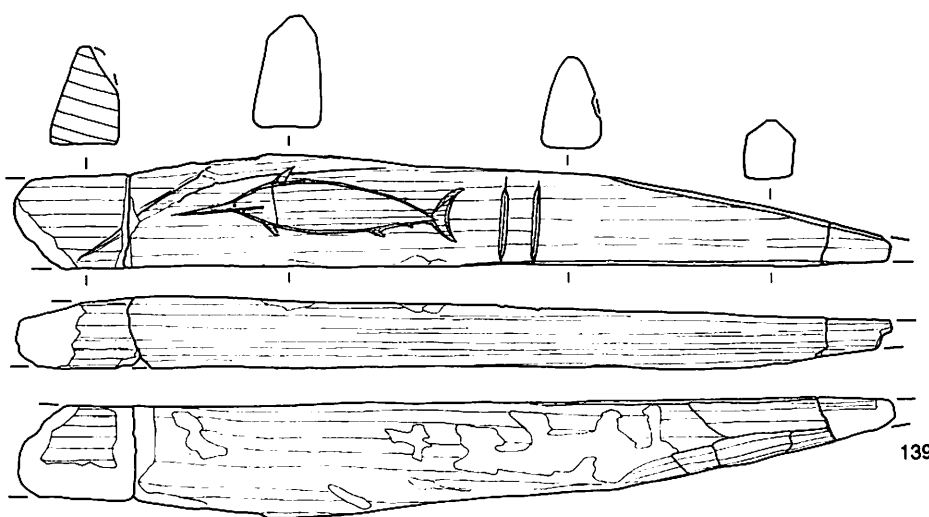
図V-81 舟部材28 (車權受台部④)



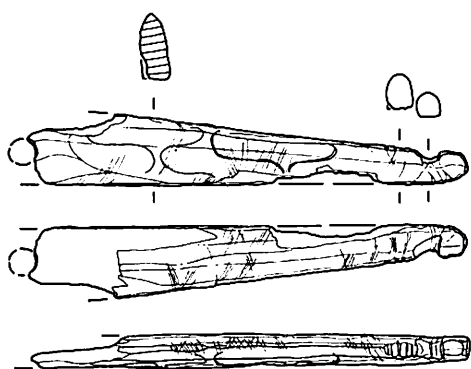
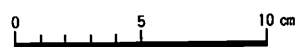
図V-82 舟部材29 (車權受台部⑤)



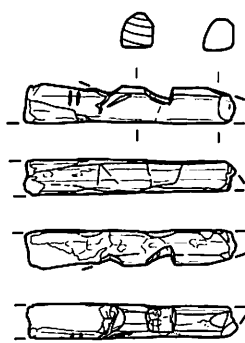
拡大図



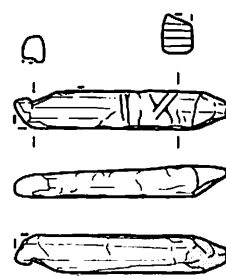
139



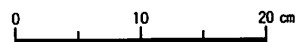
140



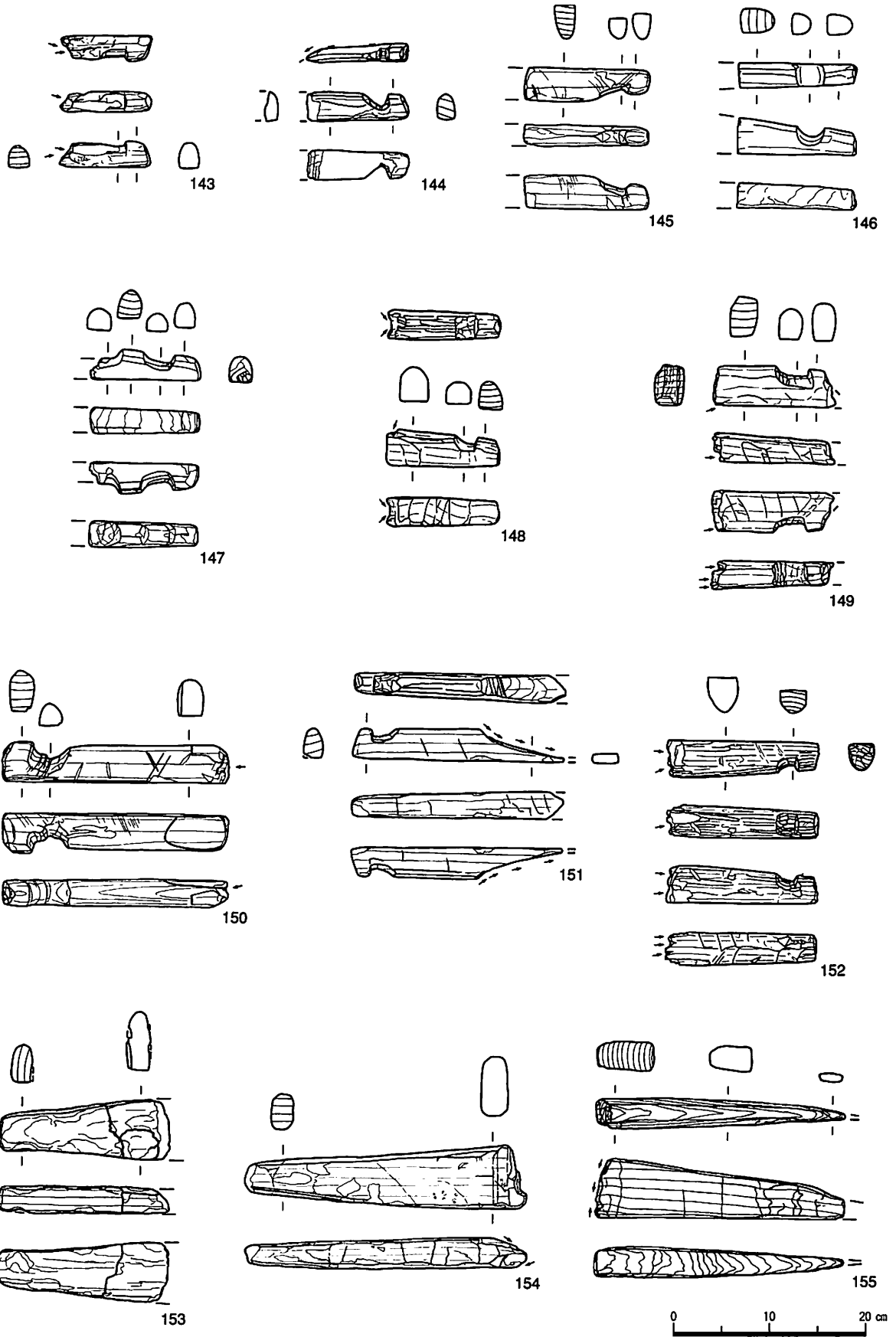
141



142

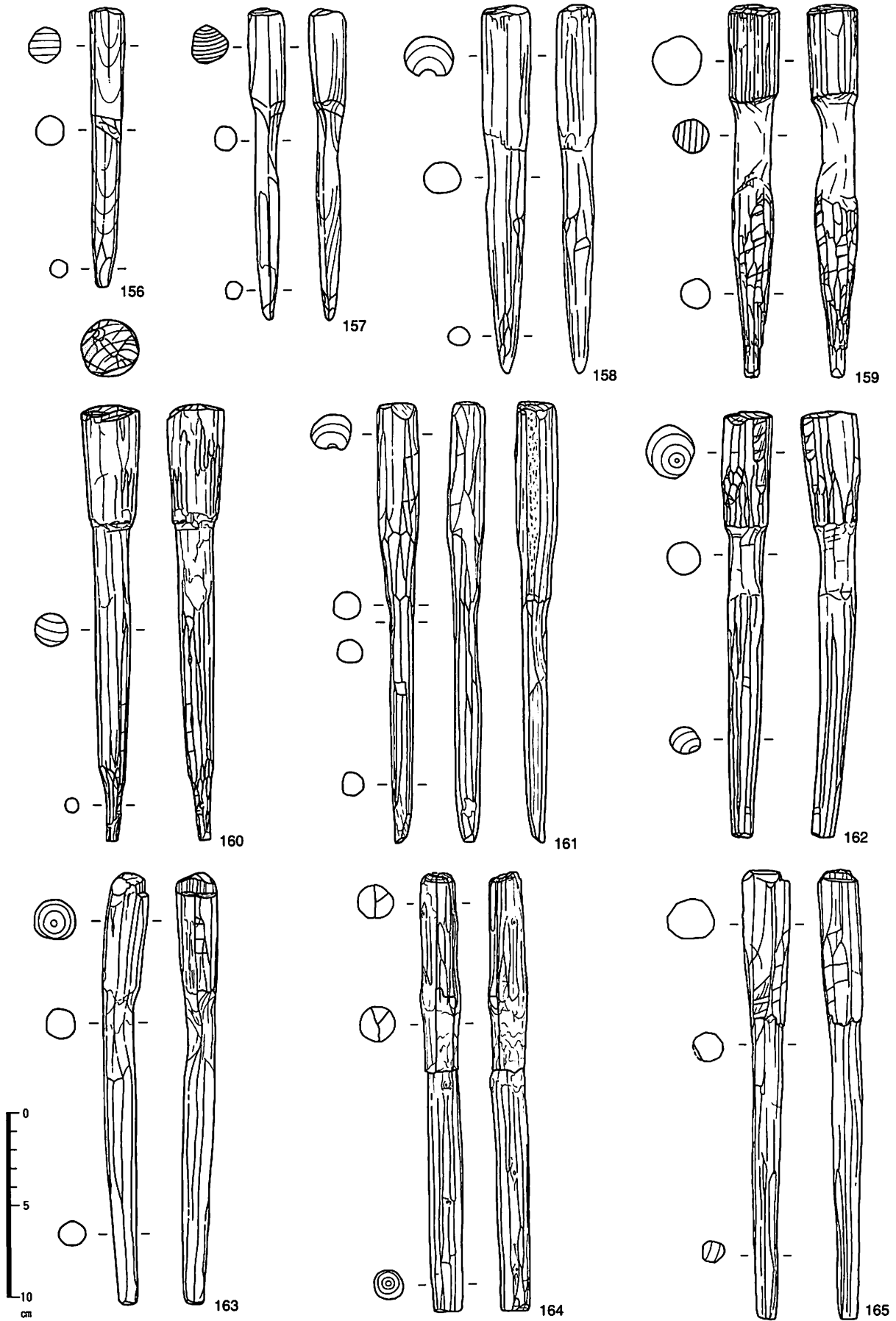


図V-83 舟部材30 (車權受台部⑥)

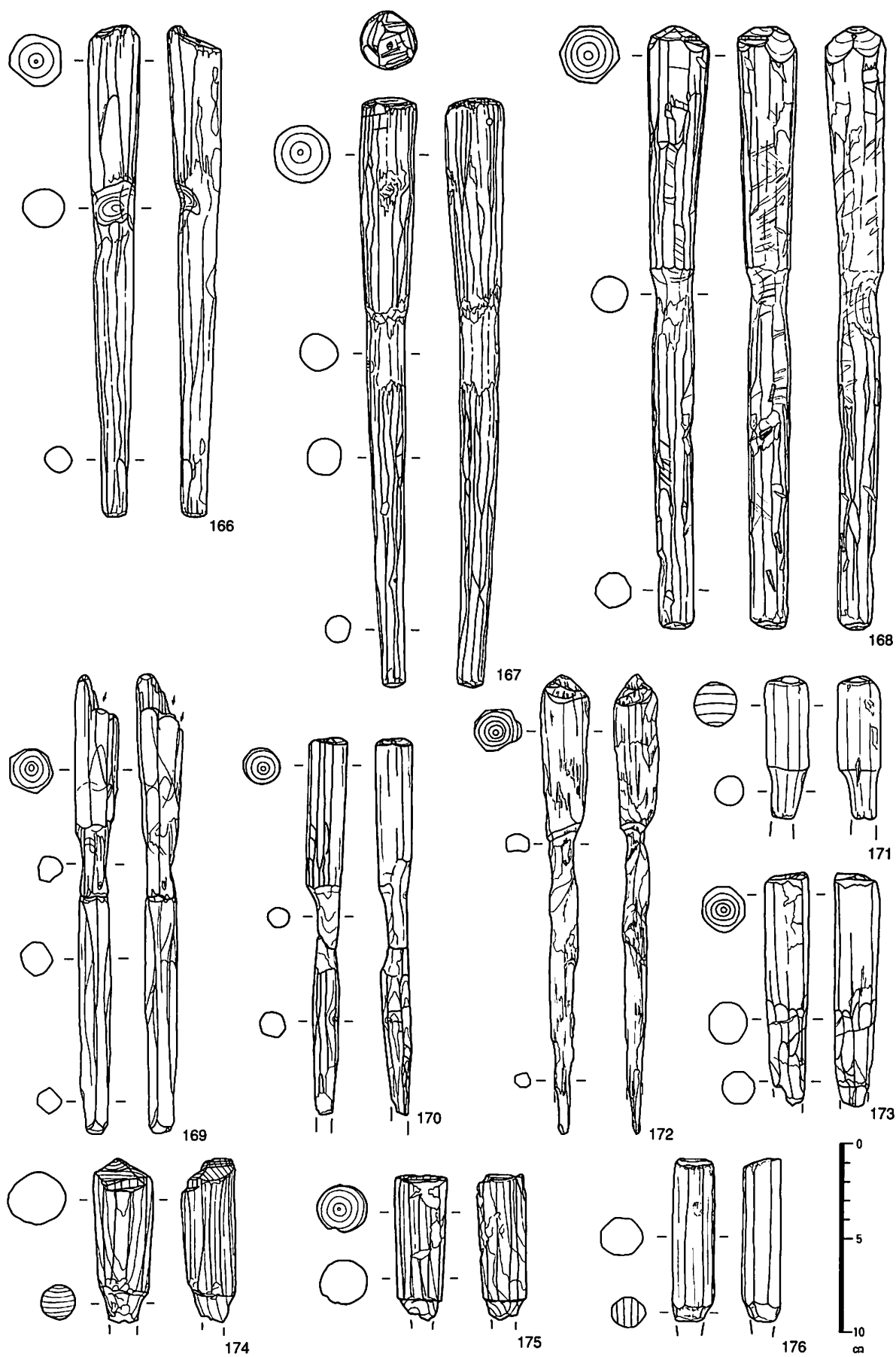


図V-84 舟部材31 (車權受台部⑦)

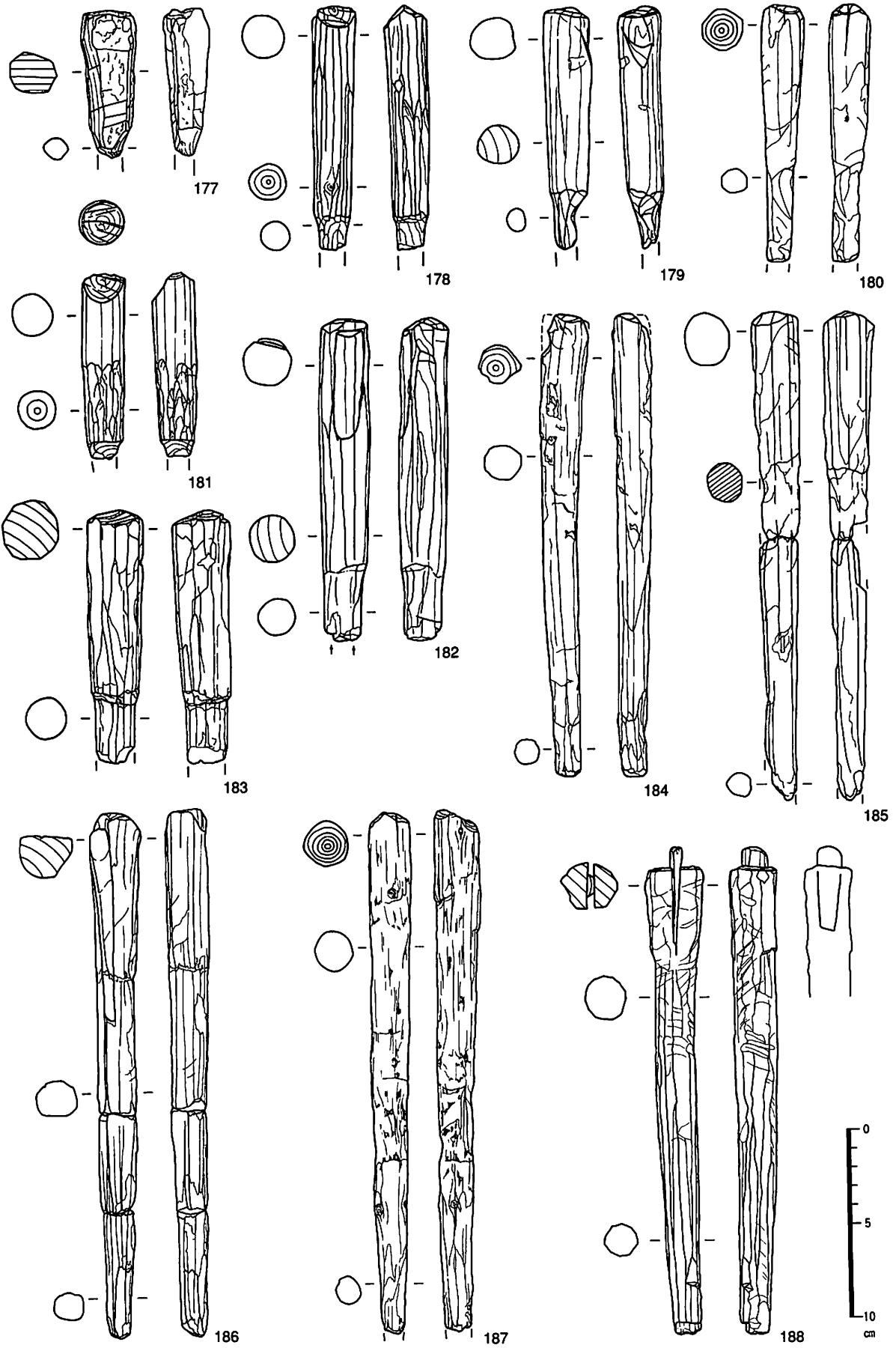




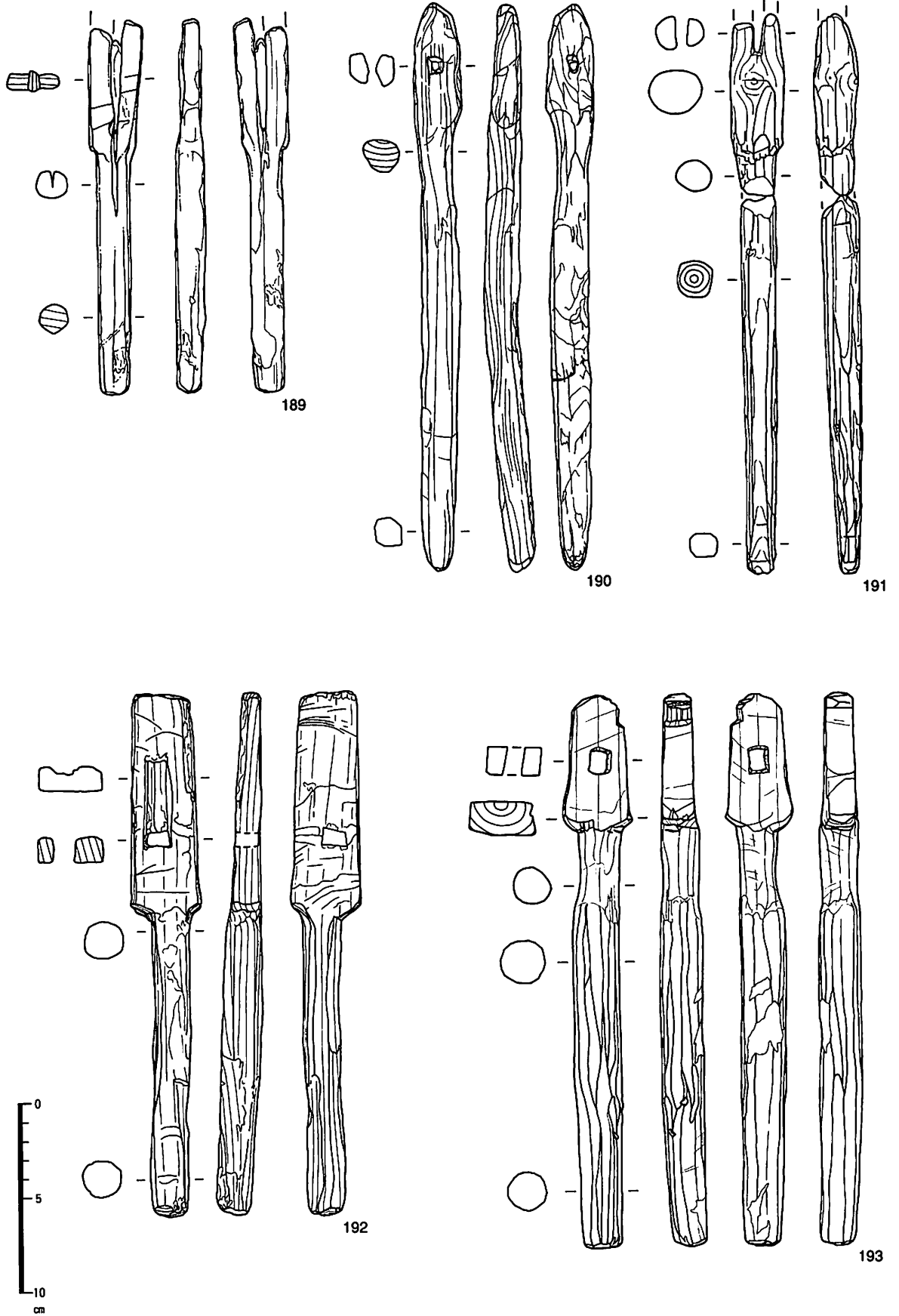
図V-85 舟部材32 (車權受台部軸①)



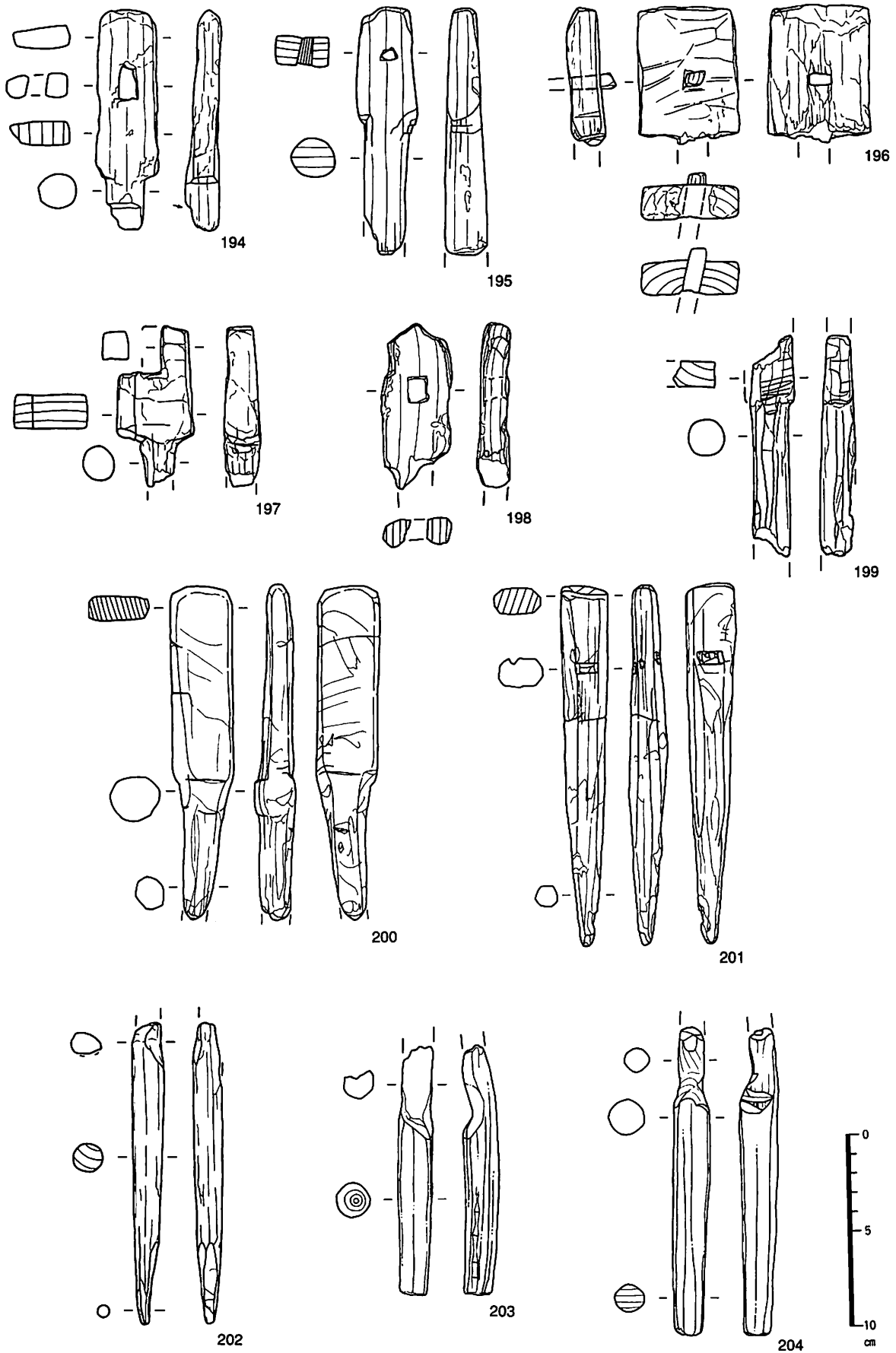
図V-86 舟部材33 (車權受台部軸②)



図V-87 舟部材34 (車權受台部軸③)

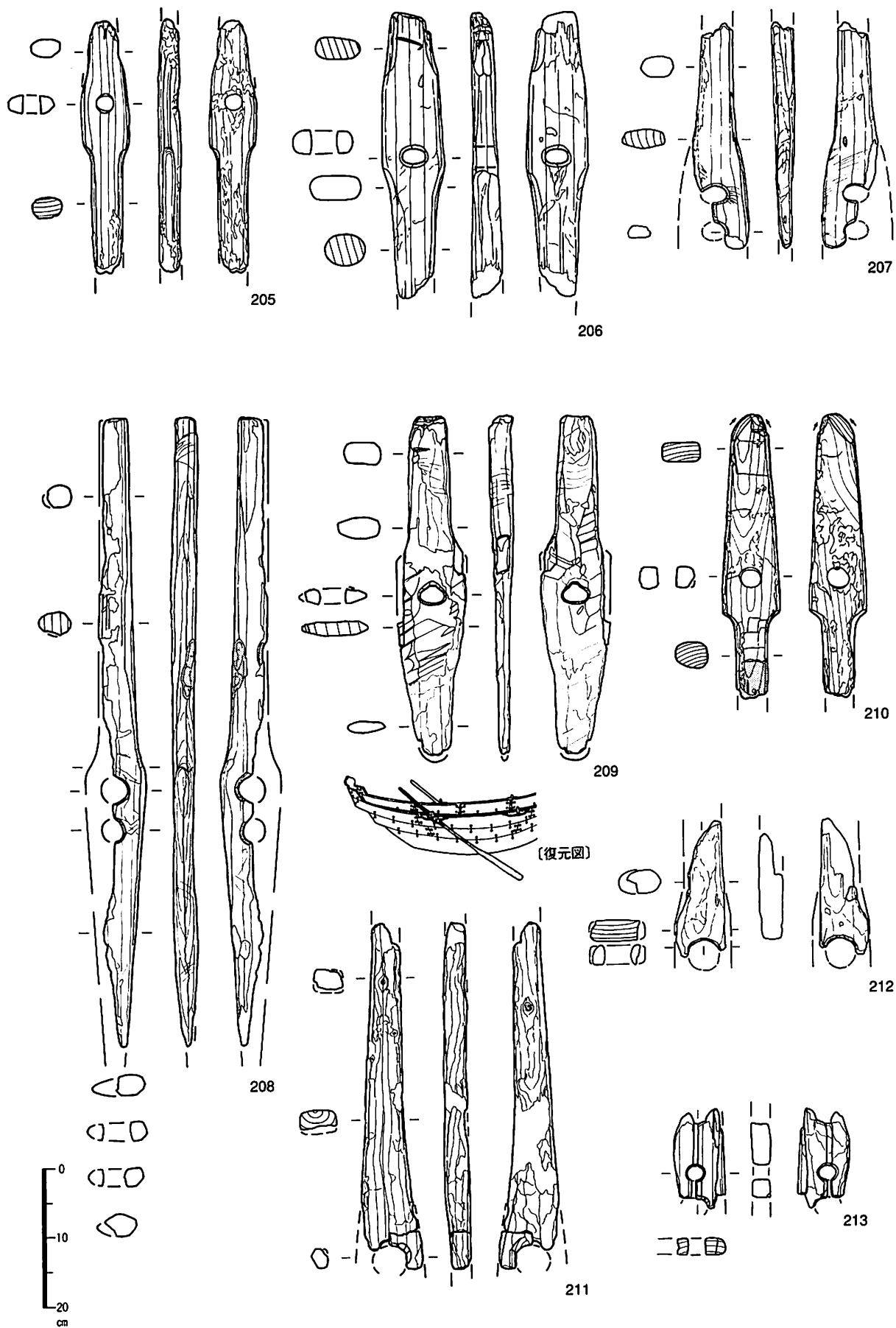


図V-88 舟部材35 (車權受台部軸④)



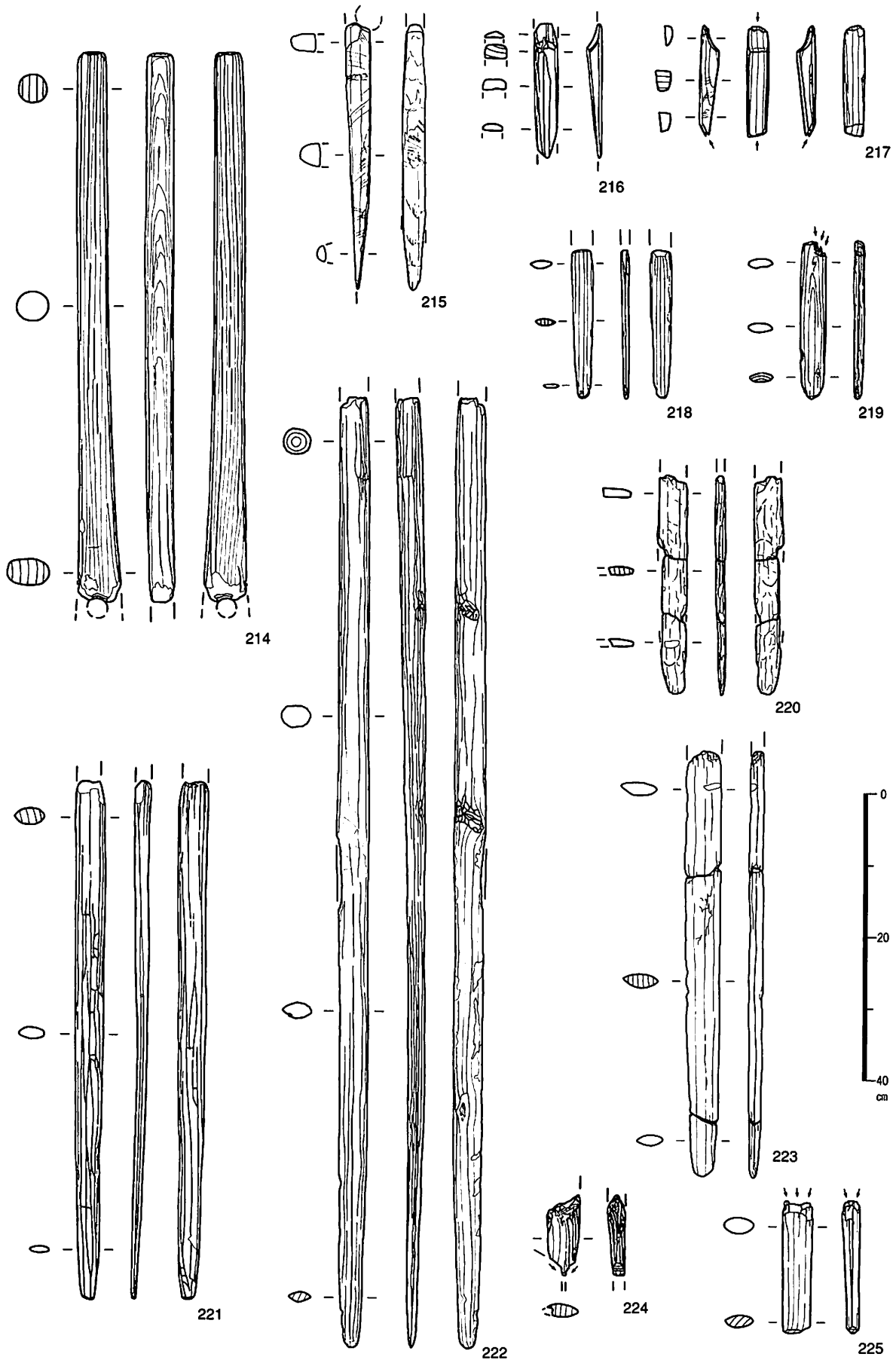
図V-89 舟部材36 (車權受台部軸⑤)

V 第0黒色土層の調査

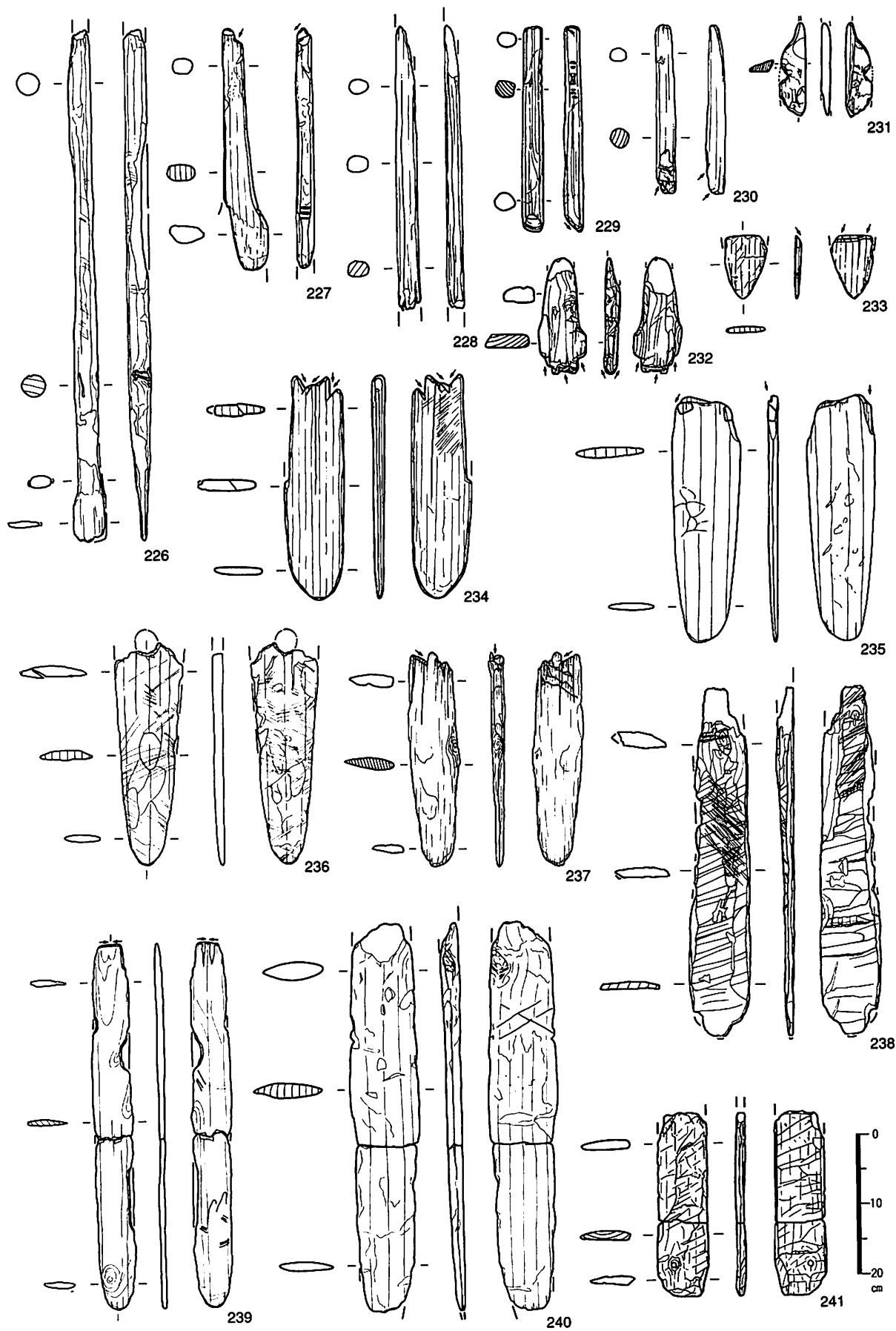


図V-90 舟用具1 (車權①)

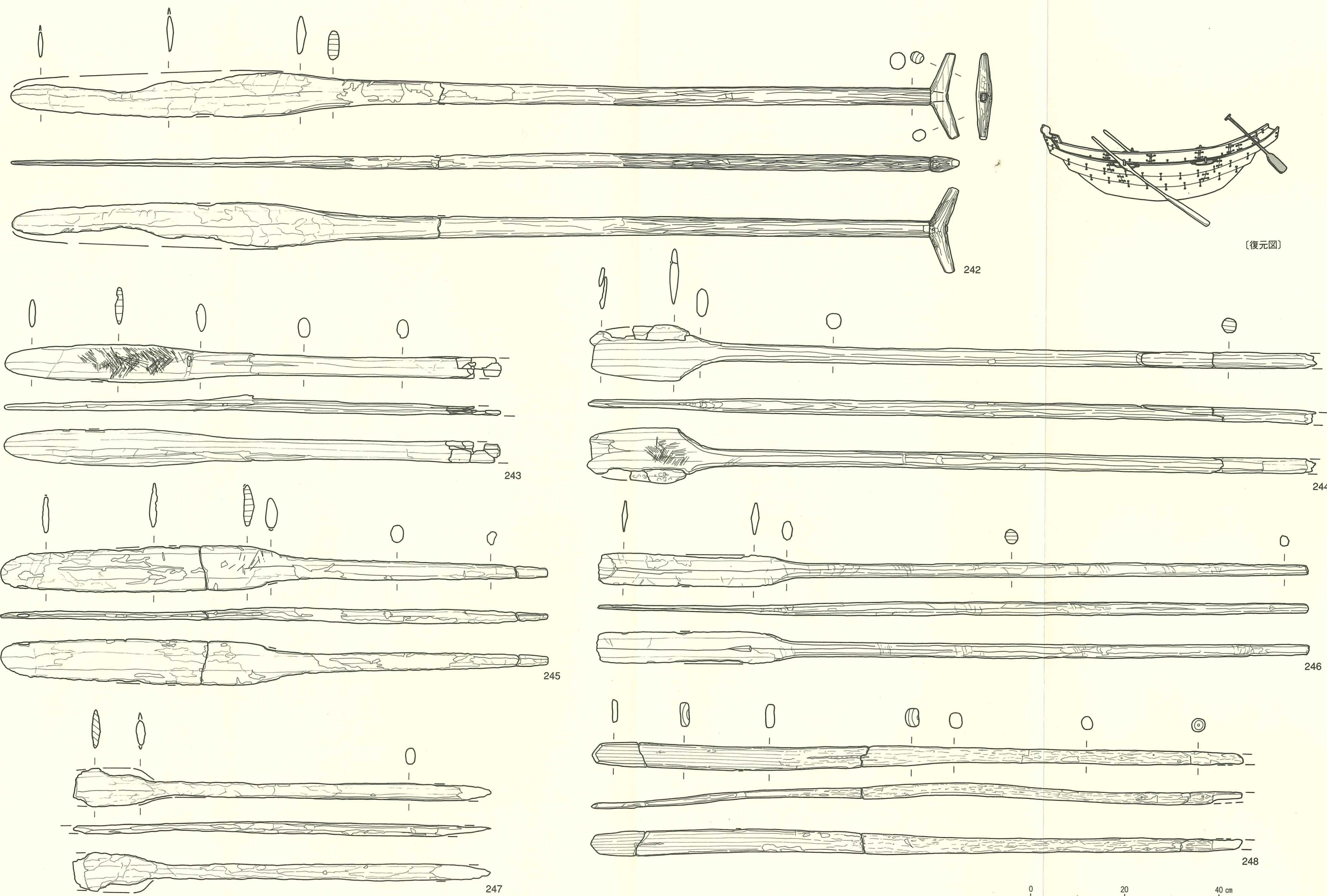




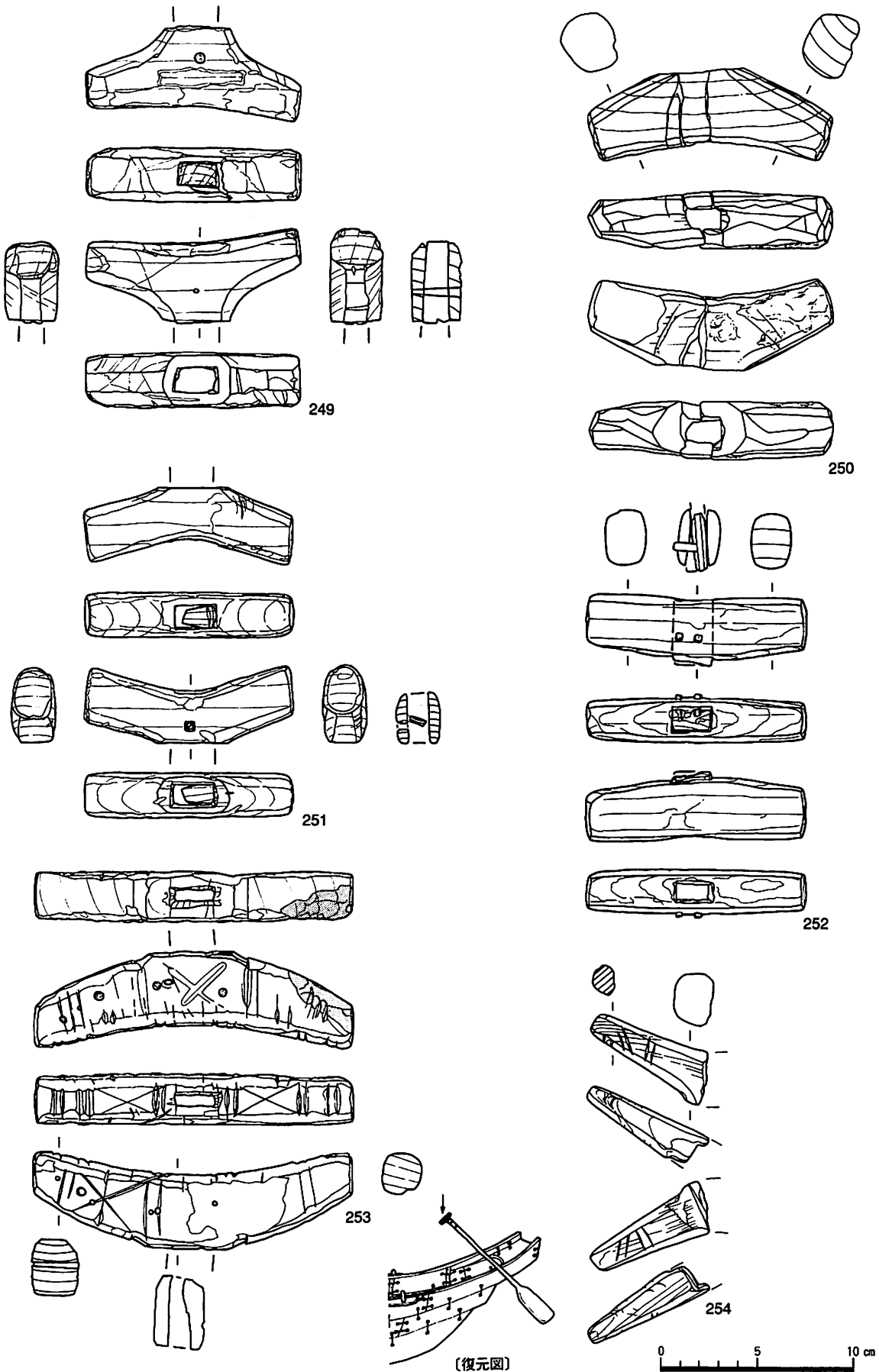
図V-91 舟用具2 (車櫂②)



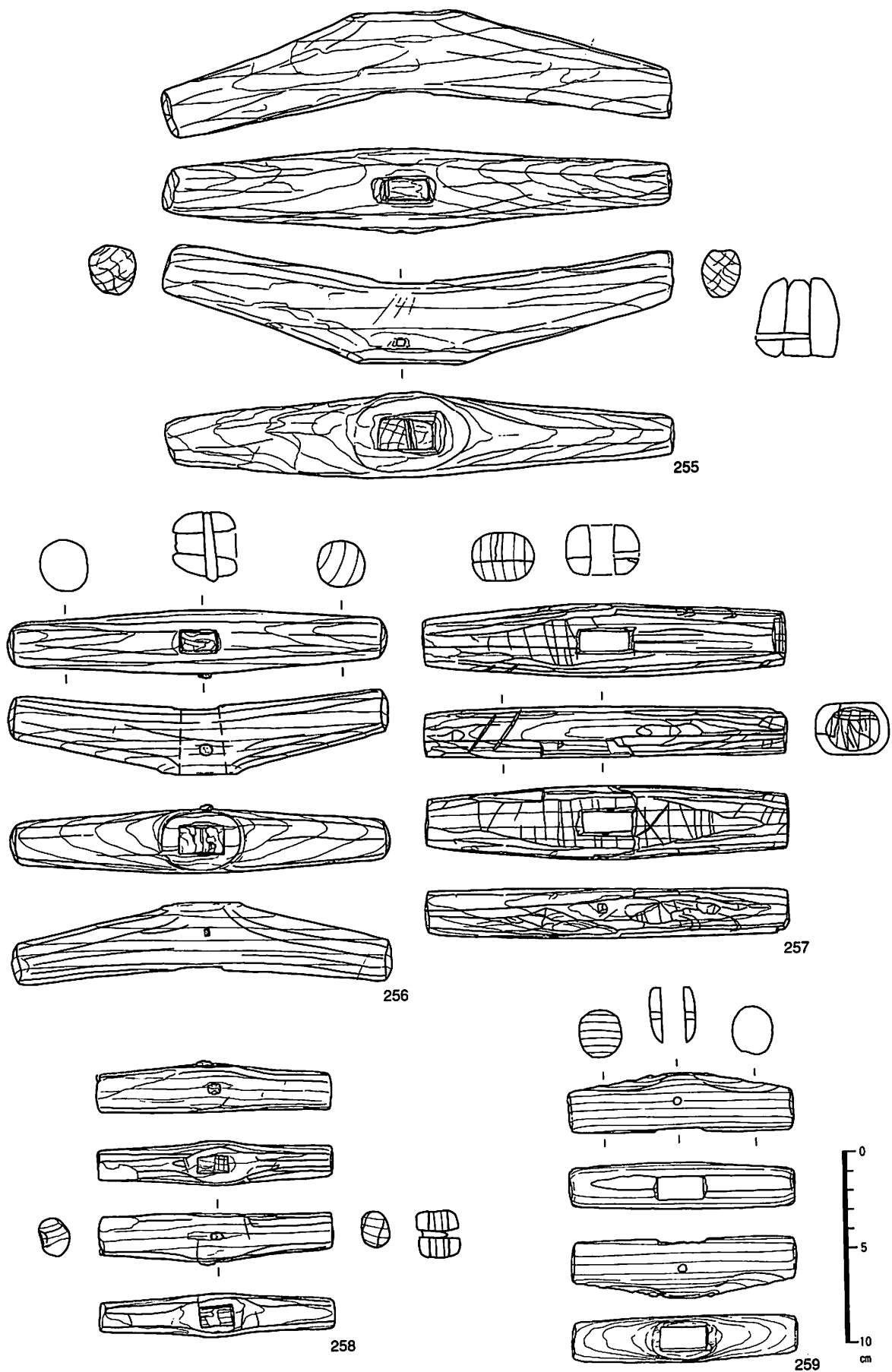
図V-92 舟用具3 (早權①)



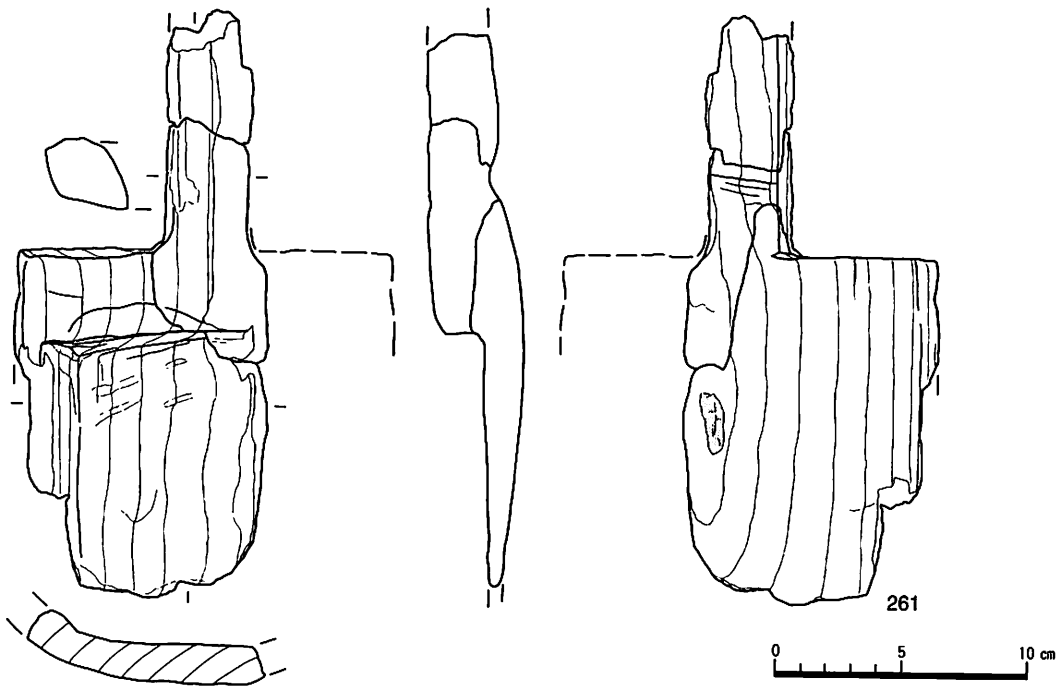
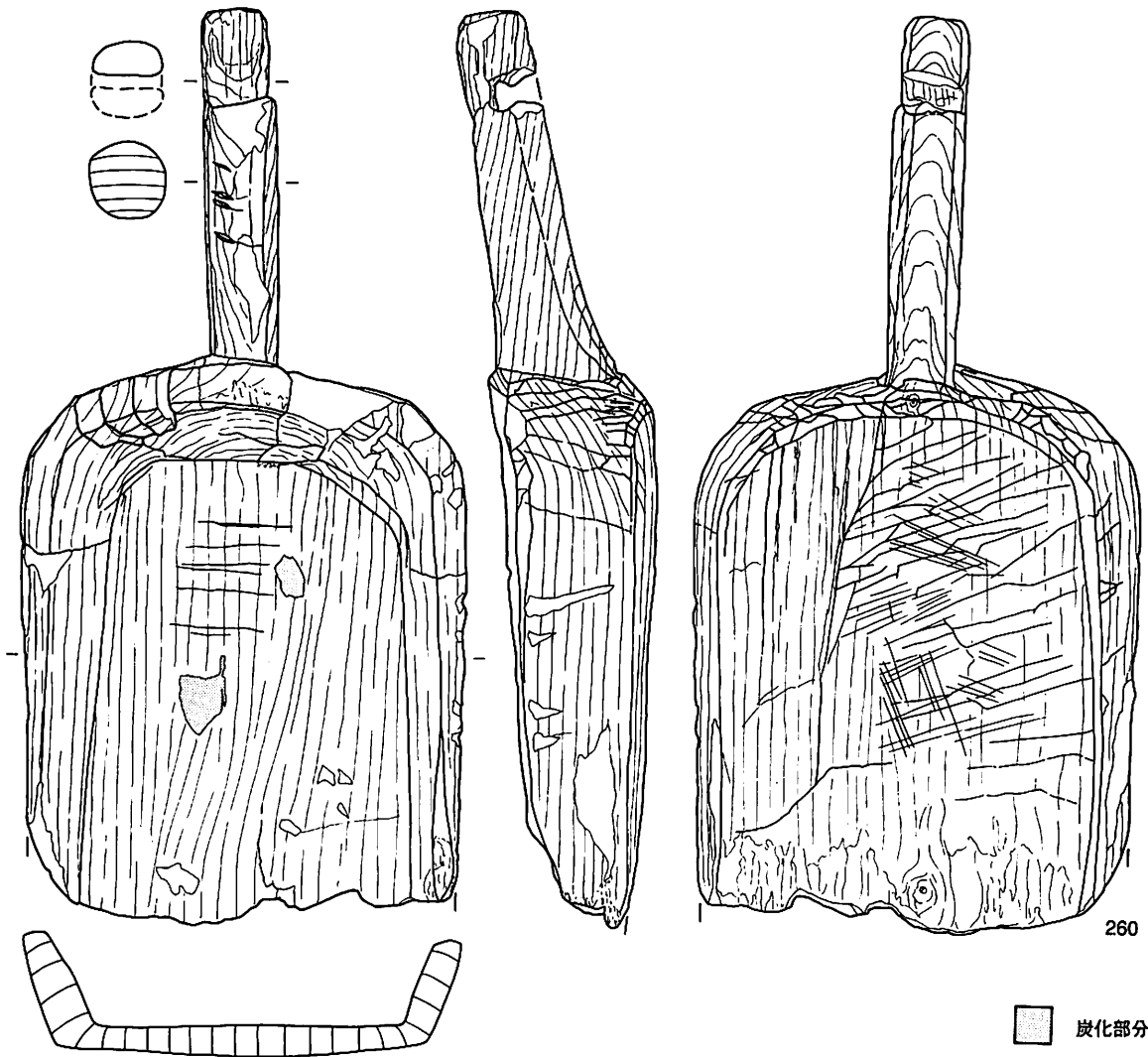
図V-93 舟用具4 (早權②)



図V-94 舟用具5 (早權握部③)



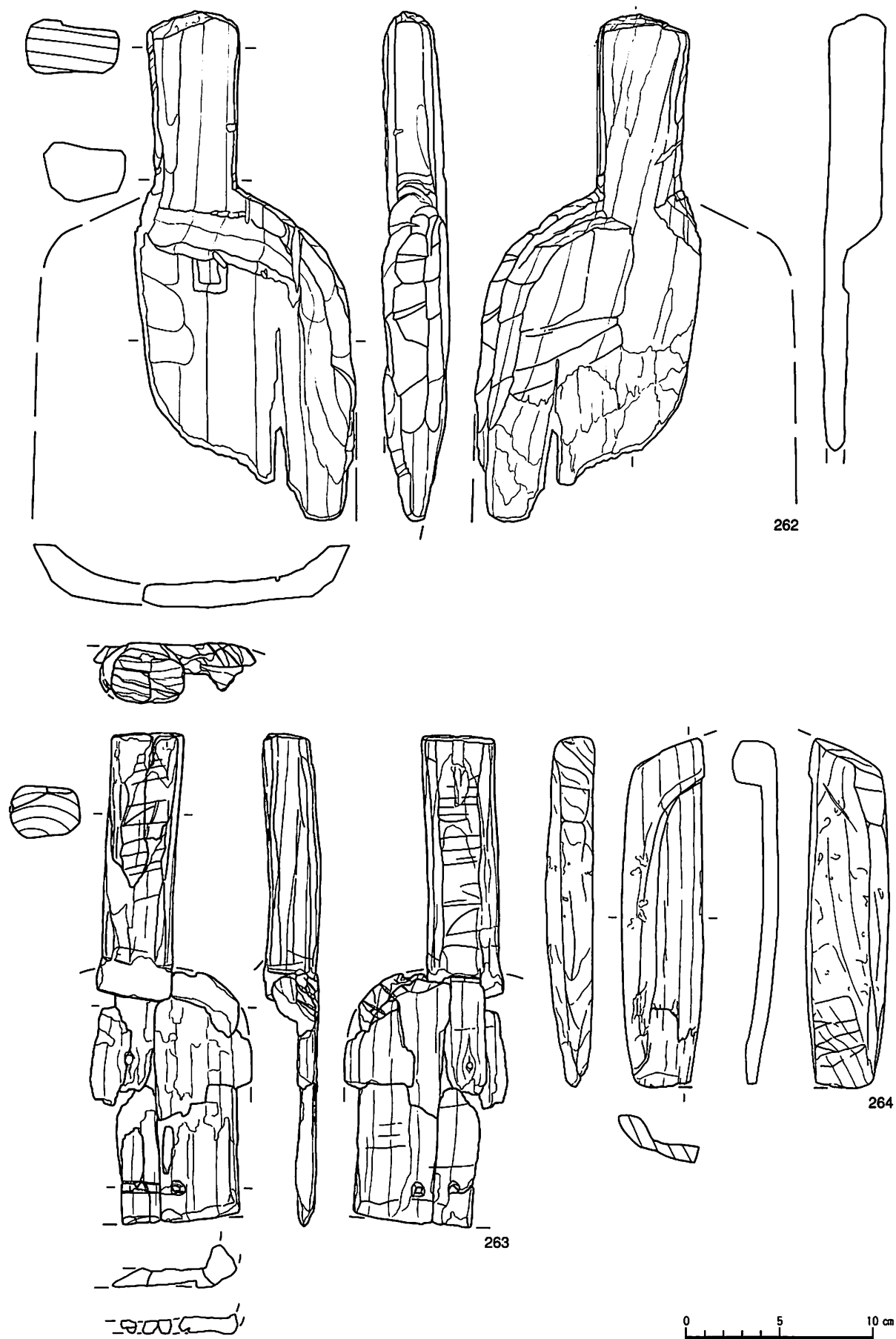
図V-95 舟用具6 (早櫂握部④)



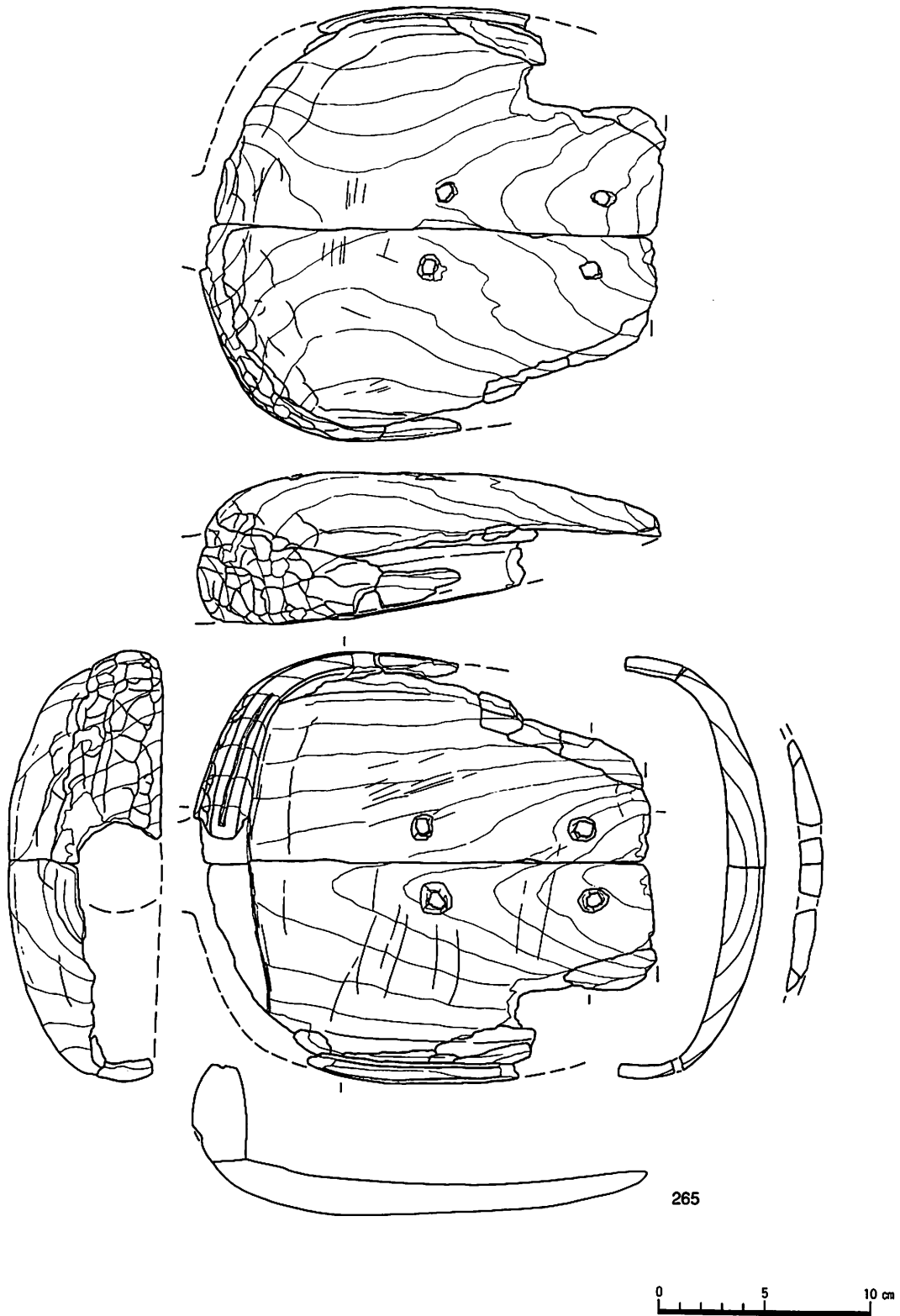
図V-96 舟用具7 (あか汲み①)



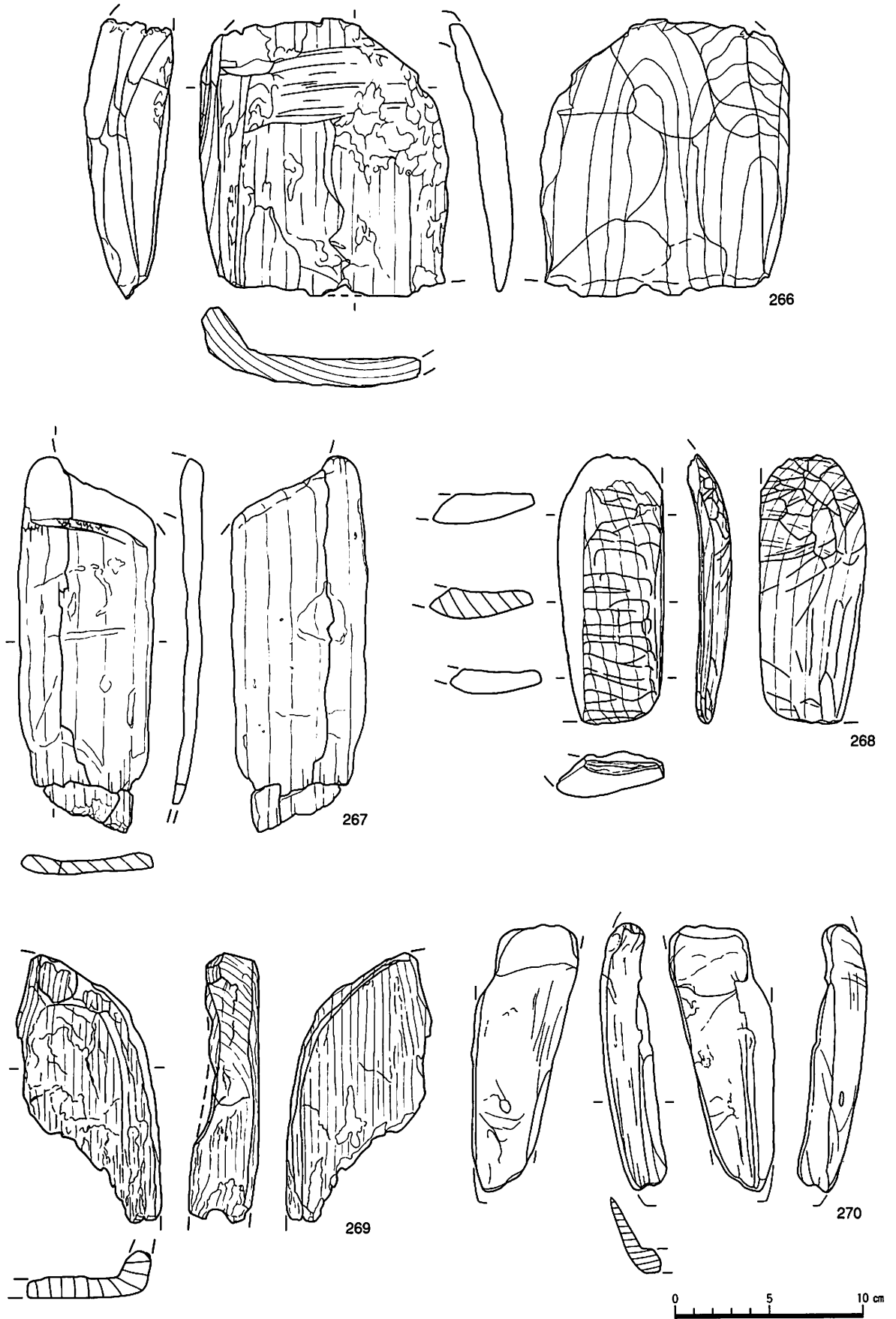
V 第0黒色土層の調査



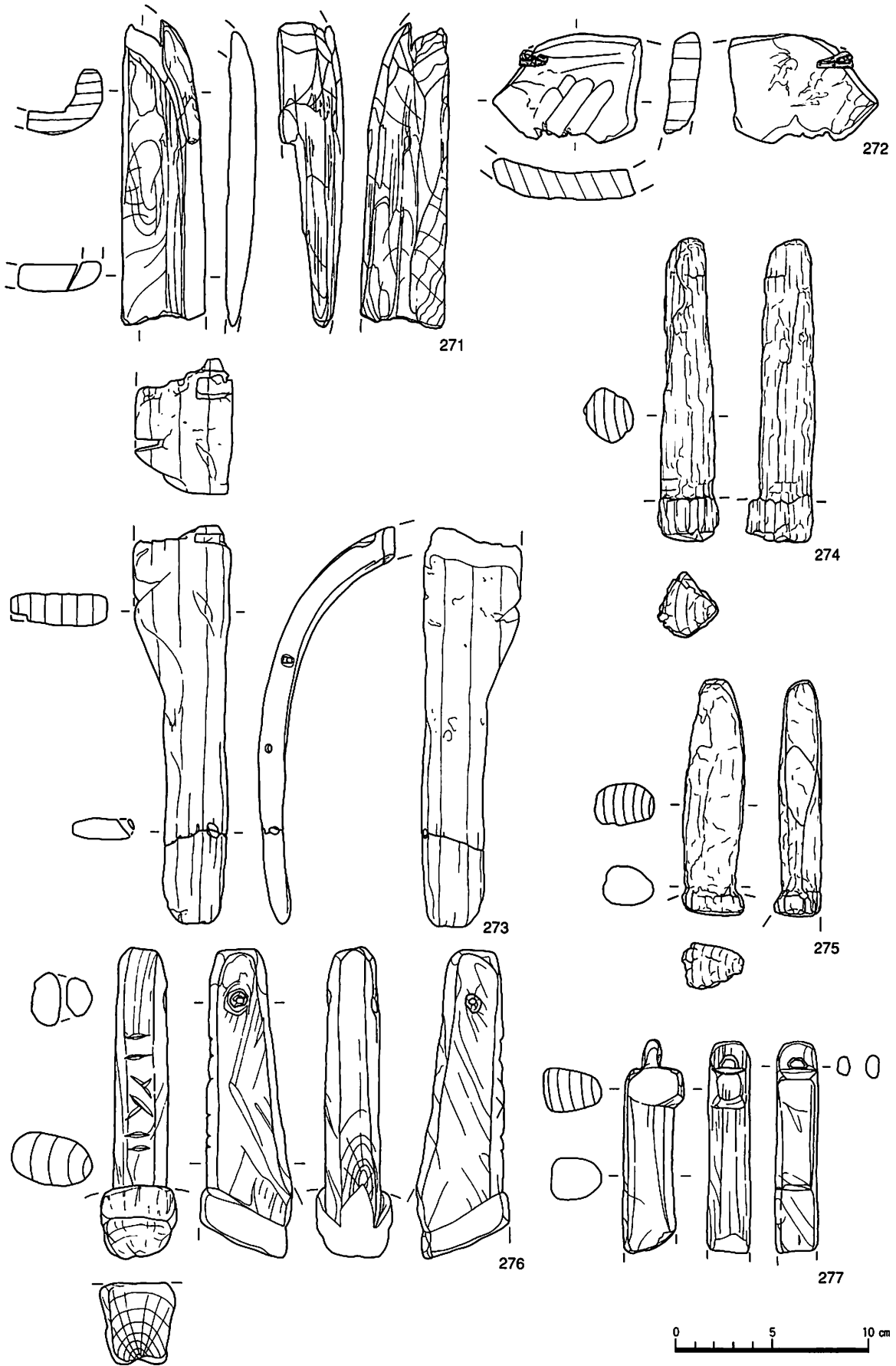
図V-97 舟用具8 (あか汲み②)



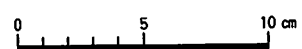
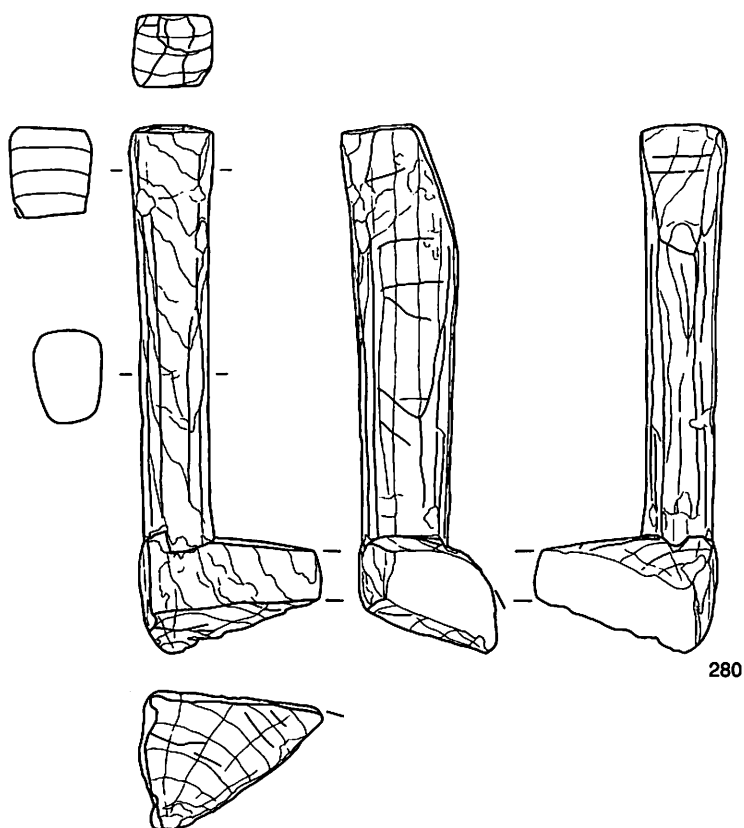
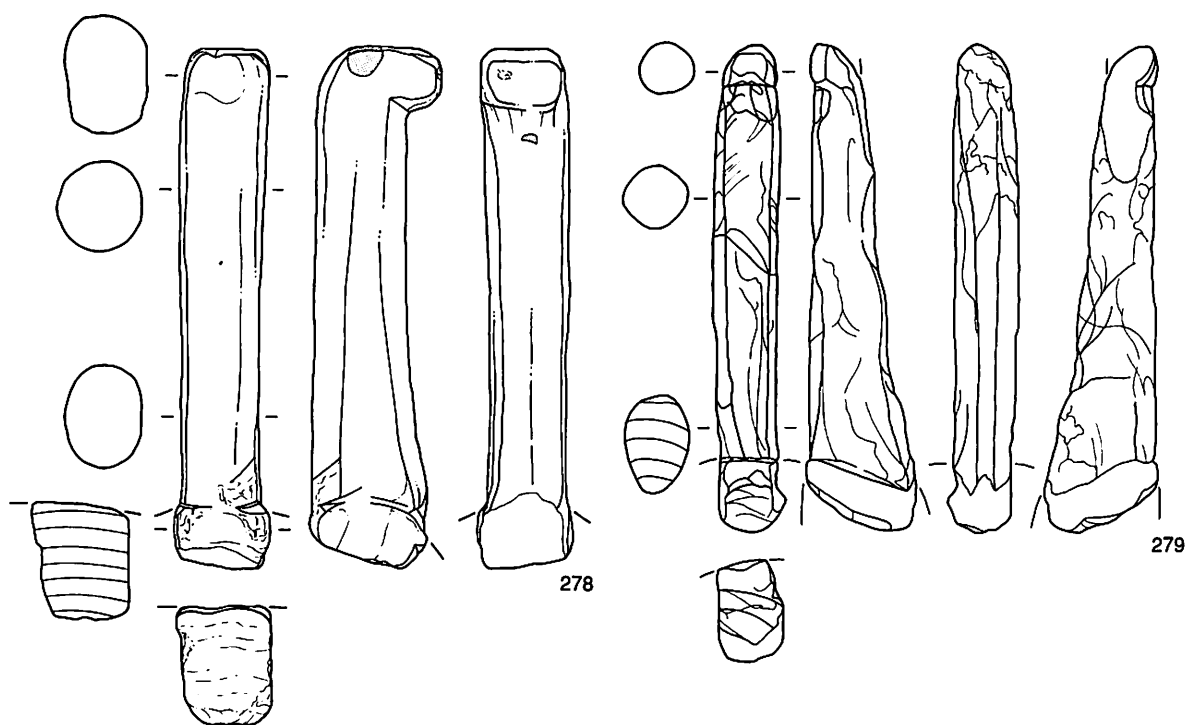
図V-98 舟用具9 (あか汲み③)



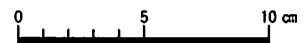
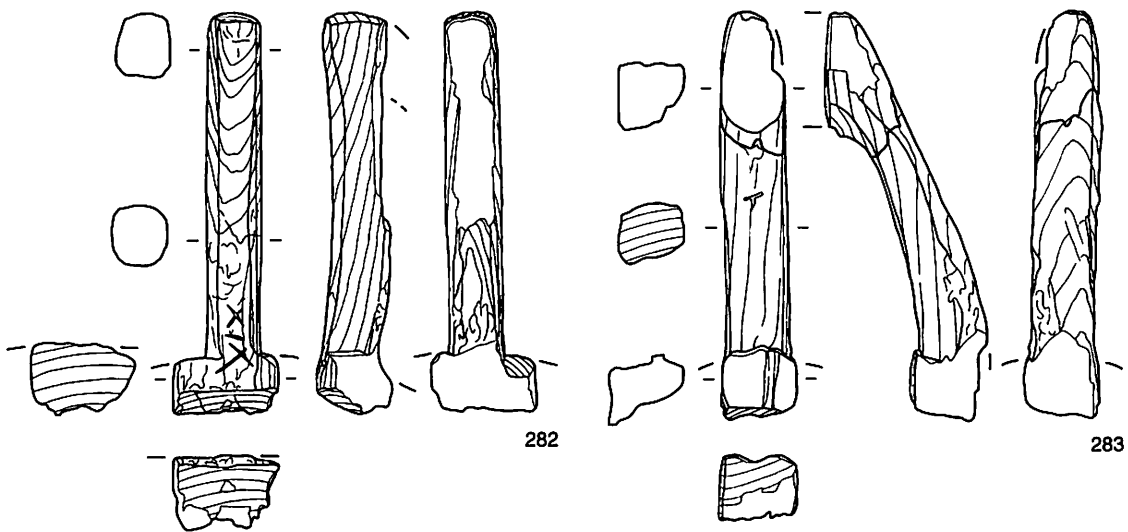
図V-99 舟用具10 (あか汲み④)



図V-100 舟用具11 (あか汲み⑤)

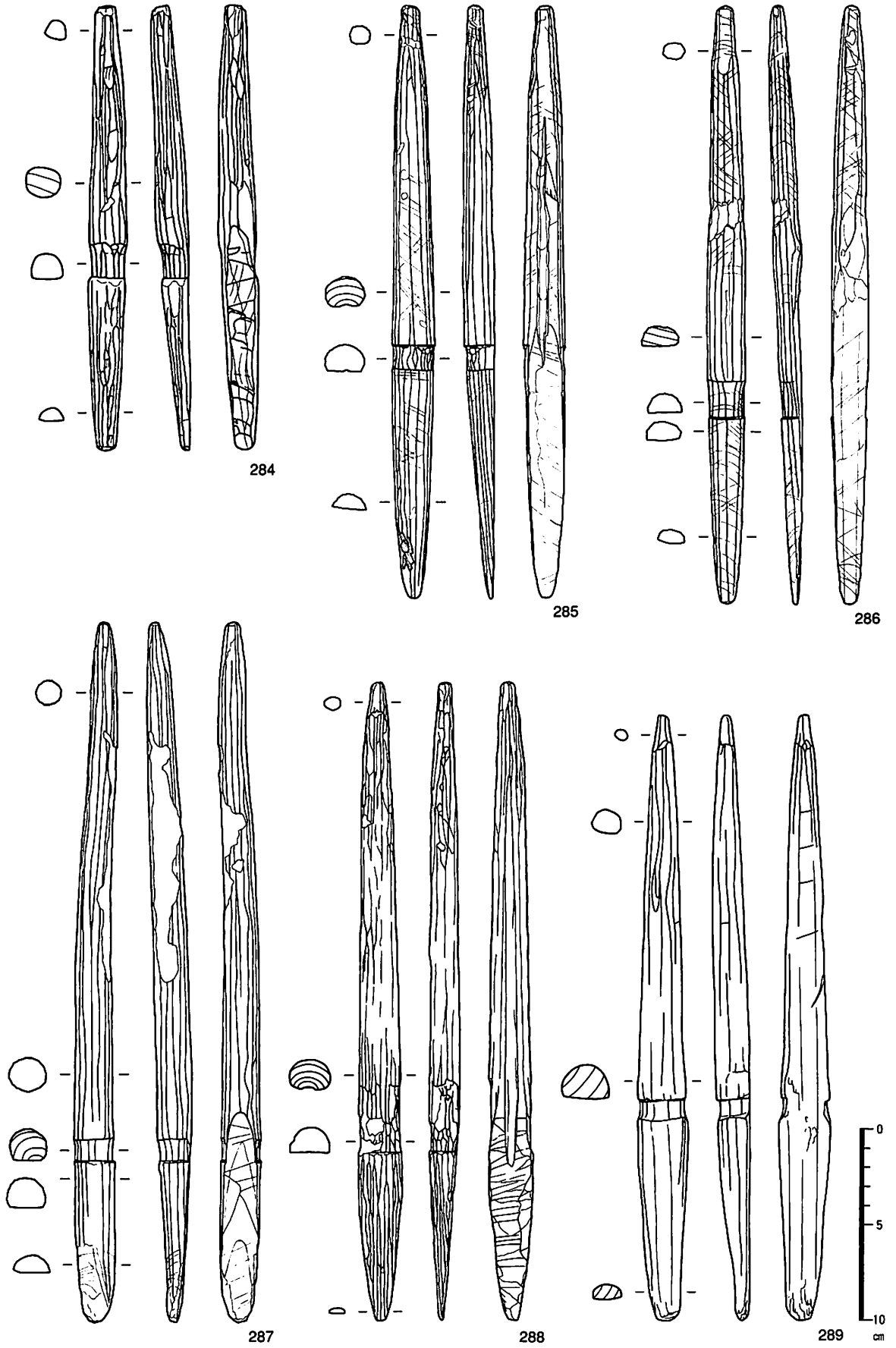


図V-101 舟用具12 (あか汲み⑥)

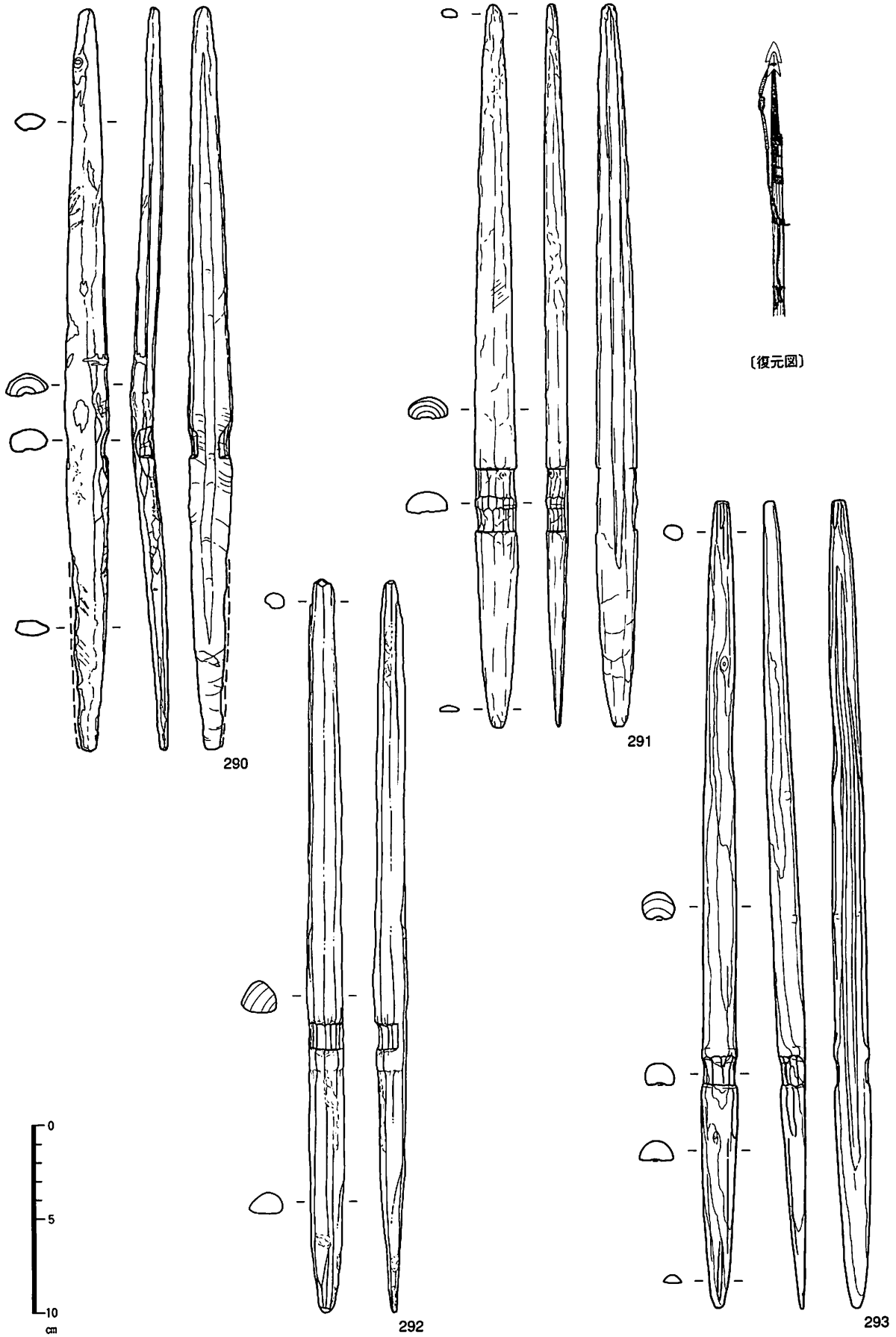


図V-102 舟用具13 (あか汲み⑦)

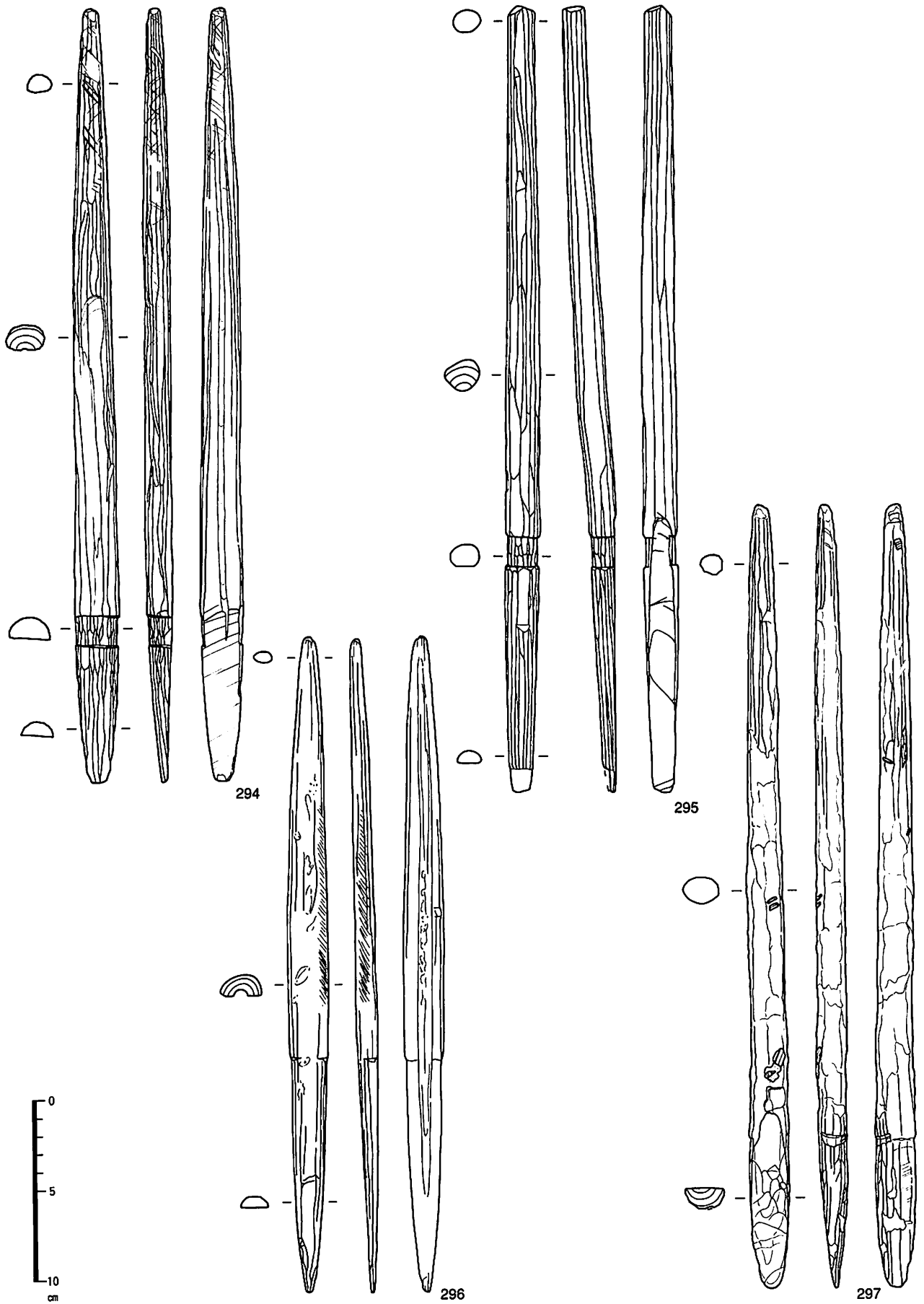




図V-103 漁撈具1 (回転式離頭鉤中柄①)



図V-104 漁撈具2 (回転式離頭銚中柄②)



図V-105 漁撈具3 (回転式離頭鉗中柄③)

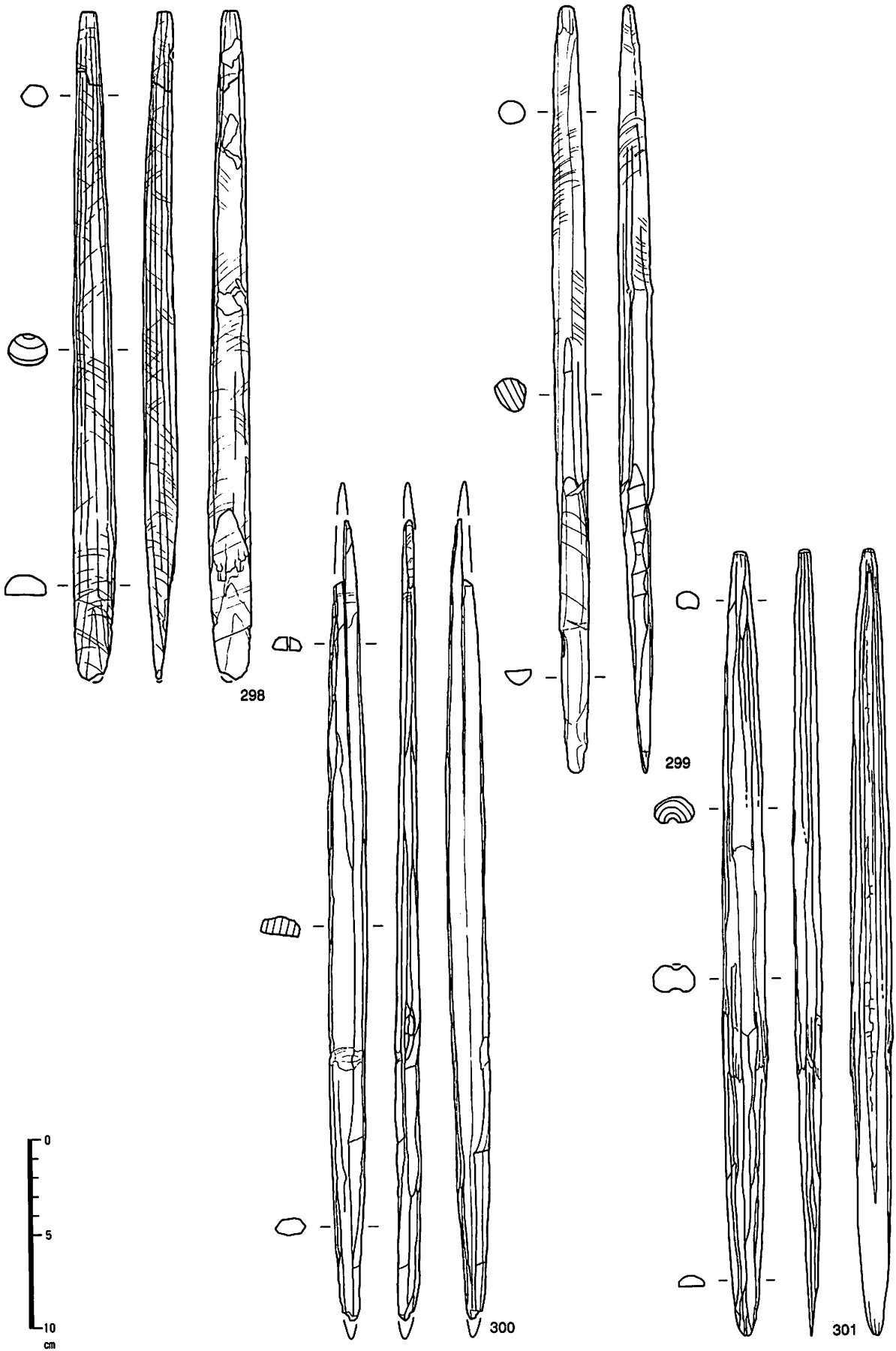
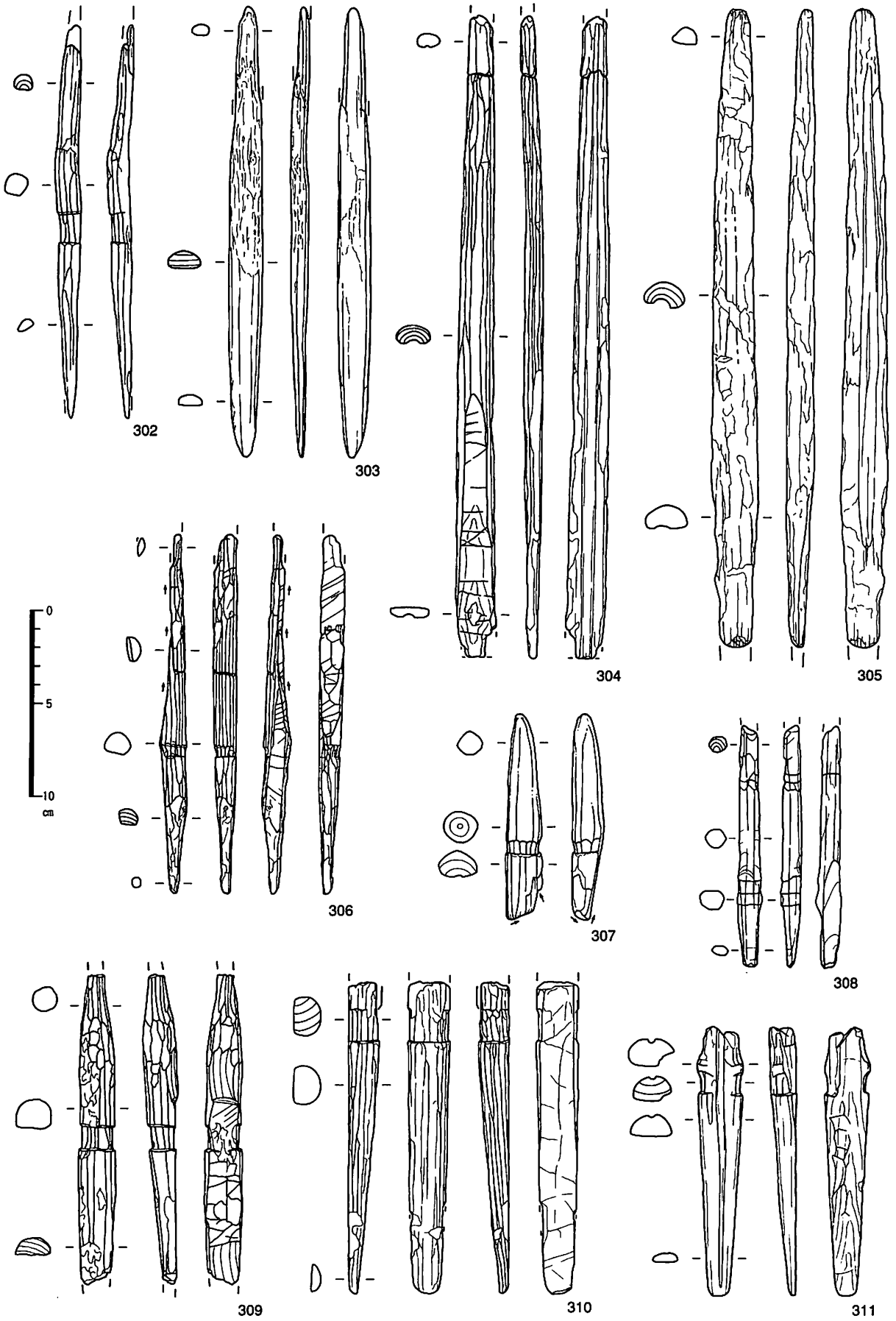
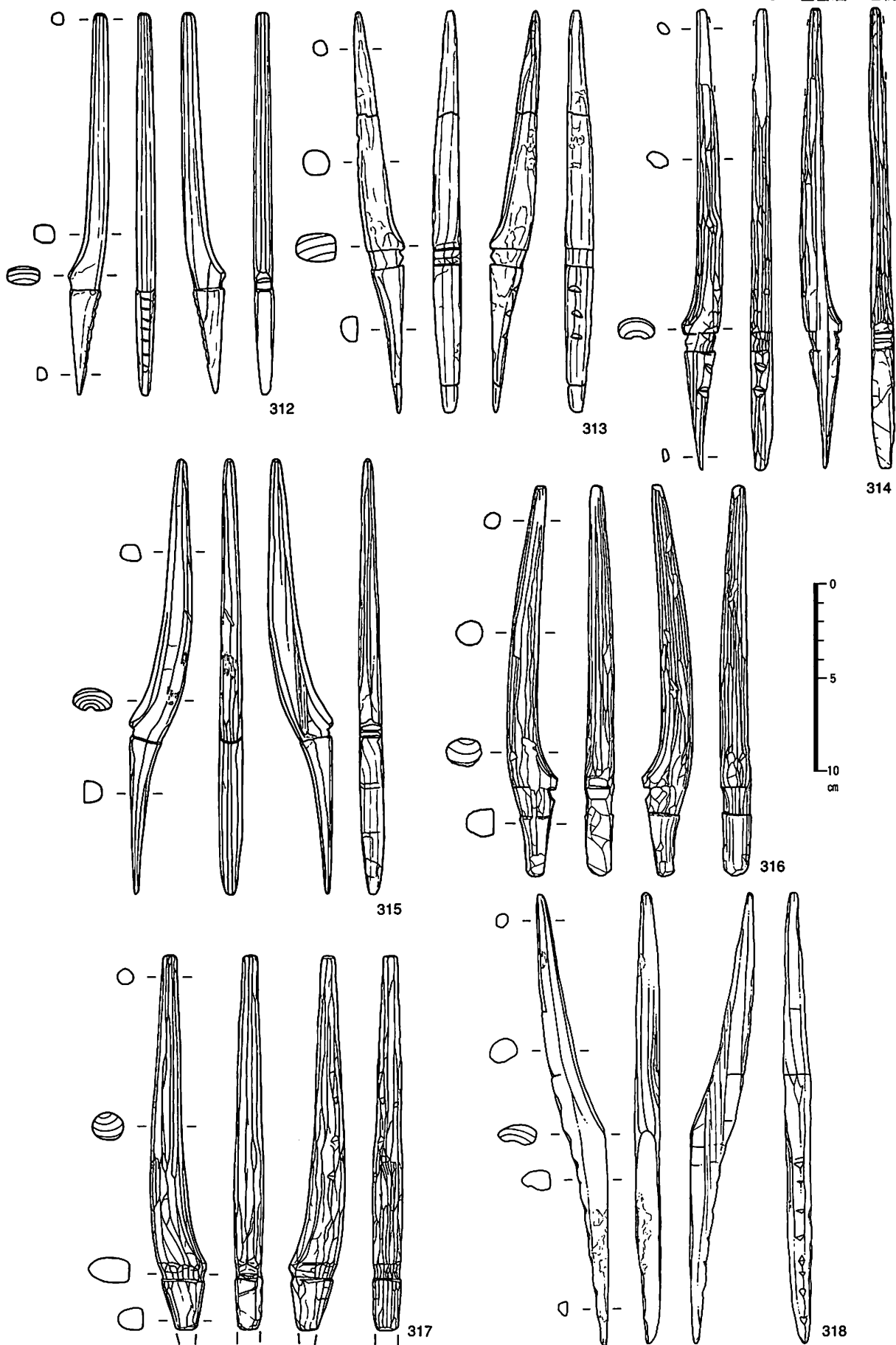


図 V-106 漁撈具 4 (回転式離頭銚中柄④)

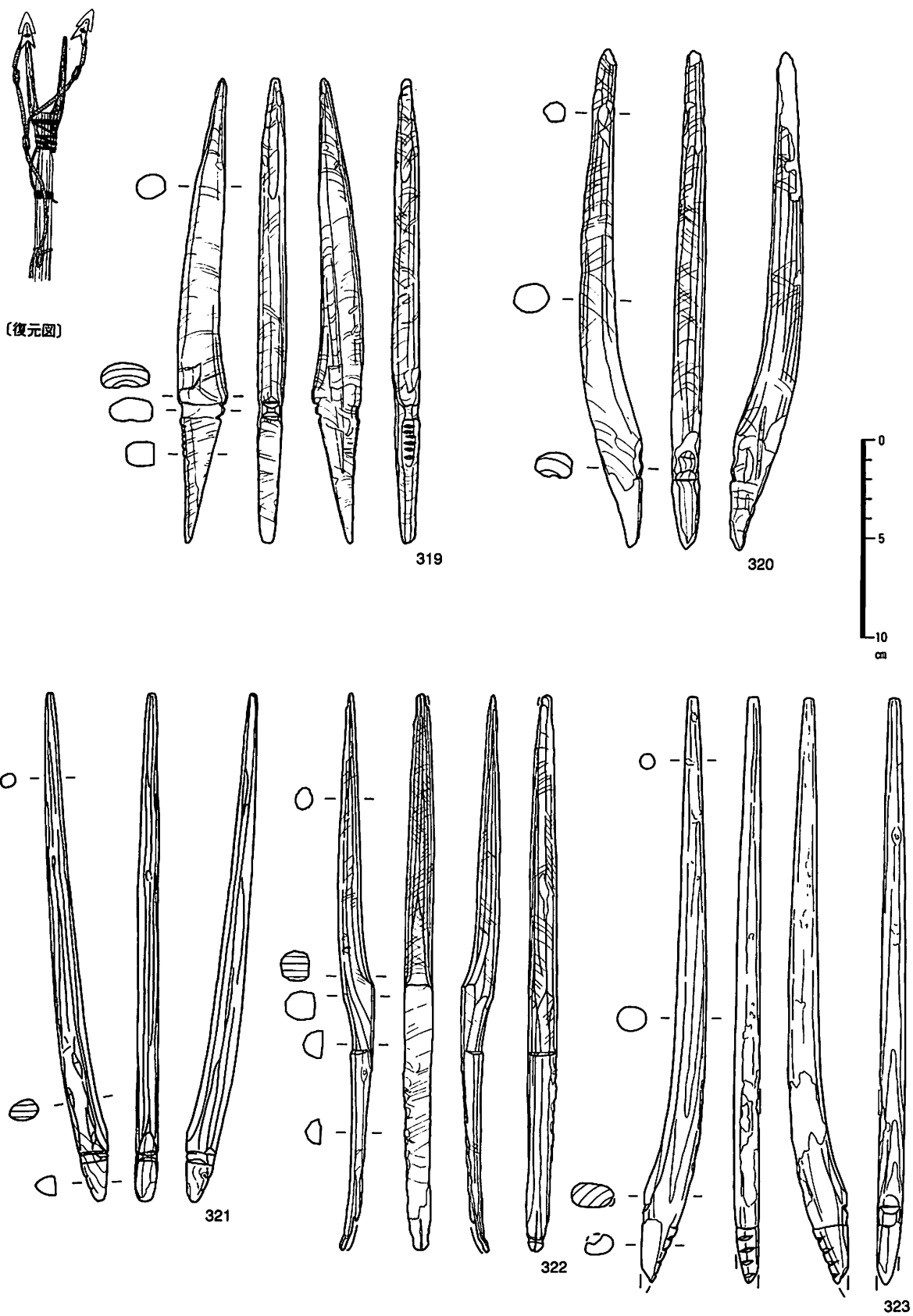


図V-107 漁撈具5 (回転式離頭鉤中柄⑤)

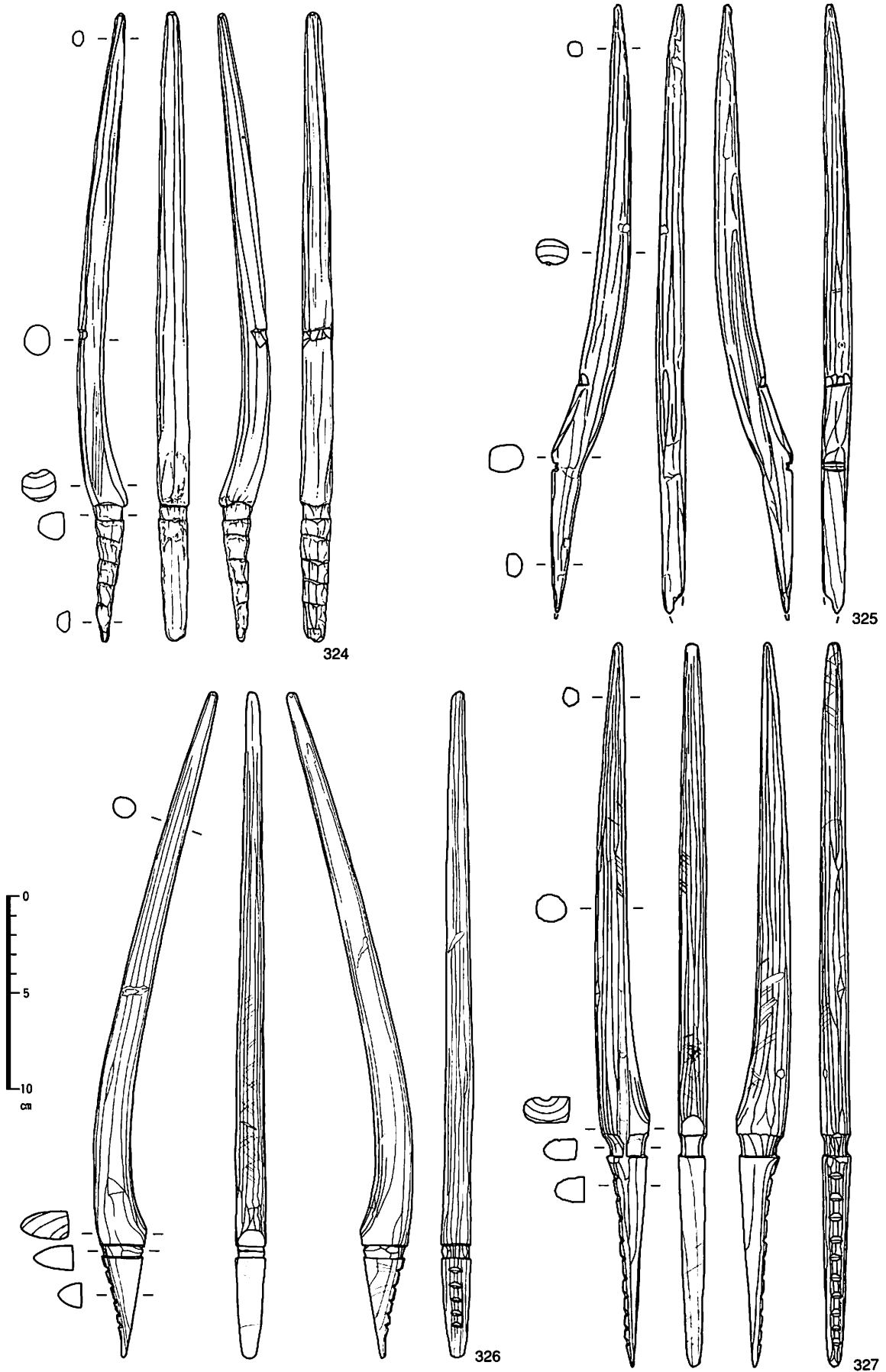


図V-108 漁撈具6 (回転式離頭鉤中柄⑥)

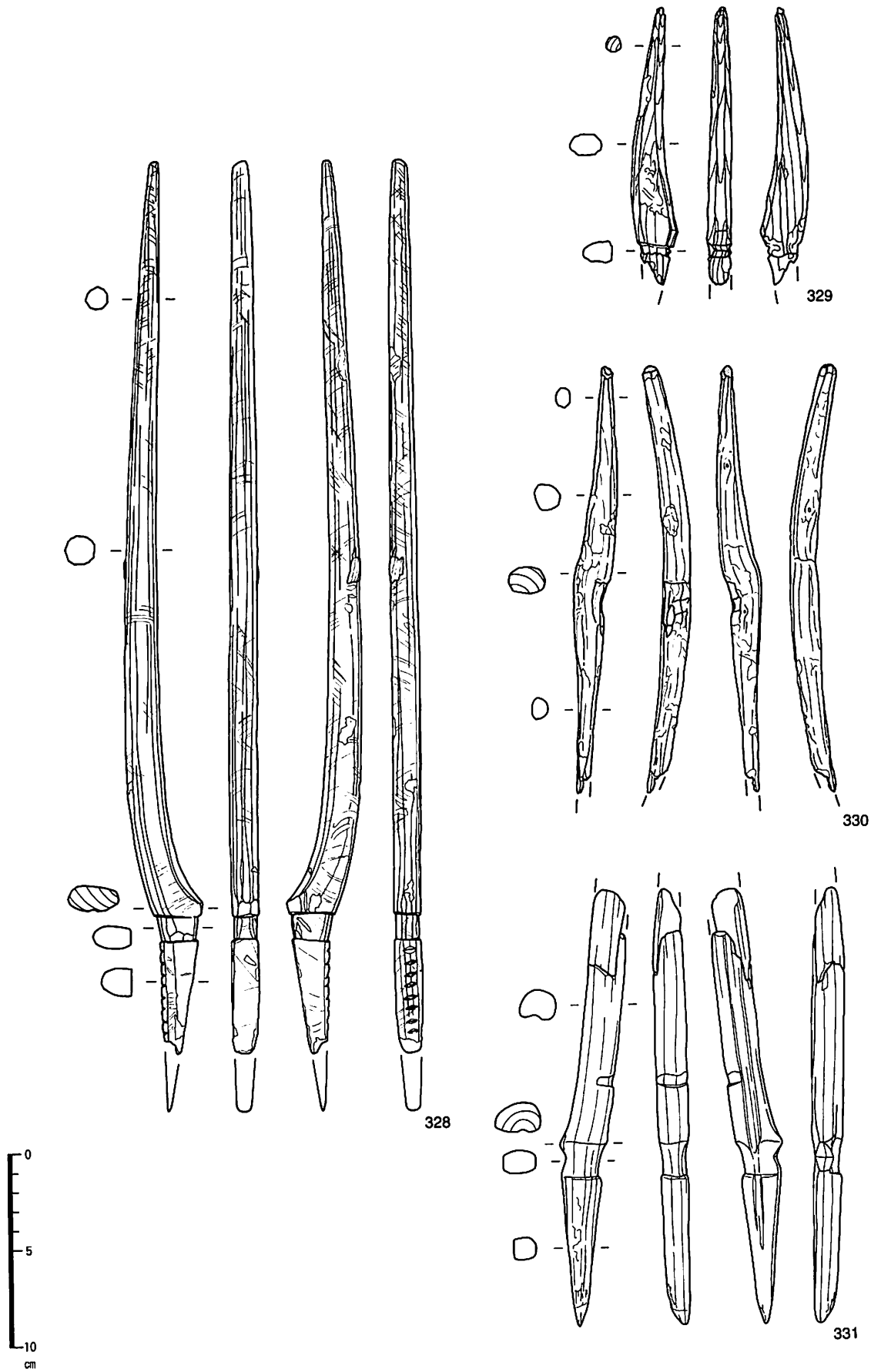




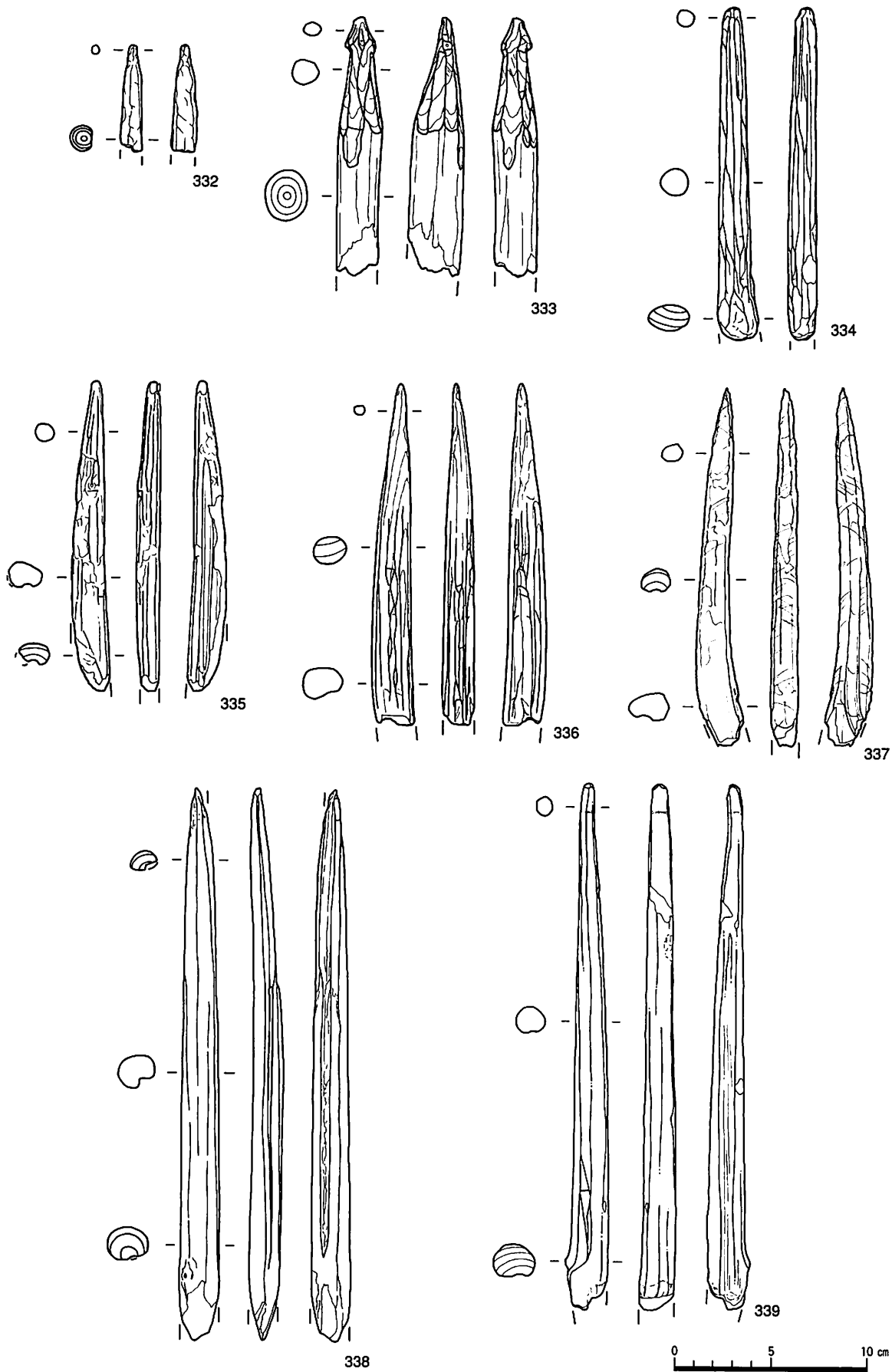
図V-109 漁撈具7 (回転式離頭銛中柄⑦)



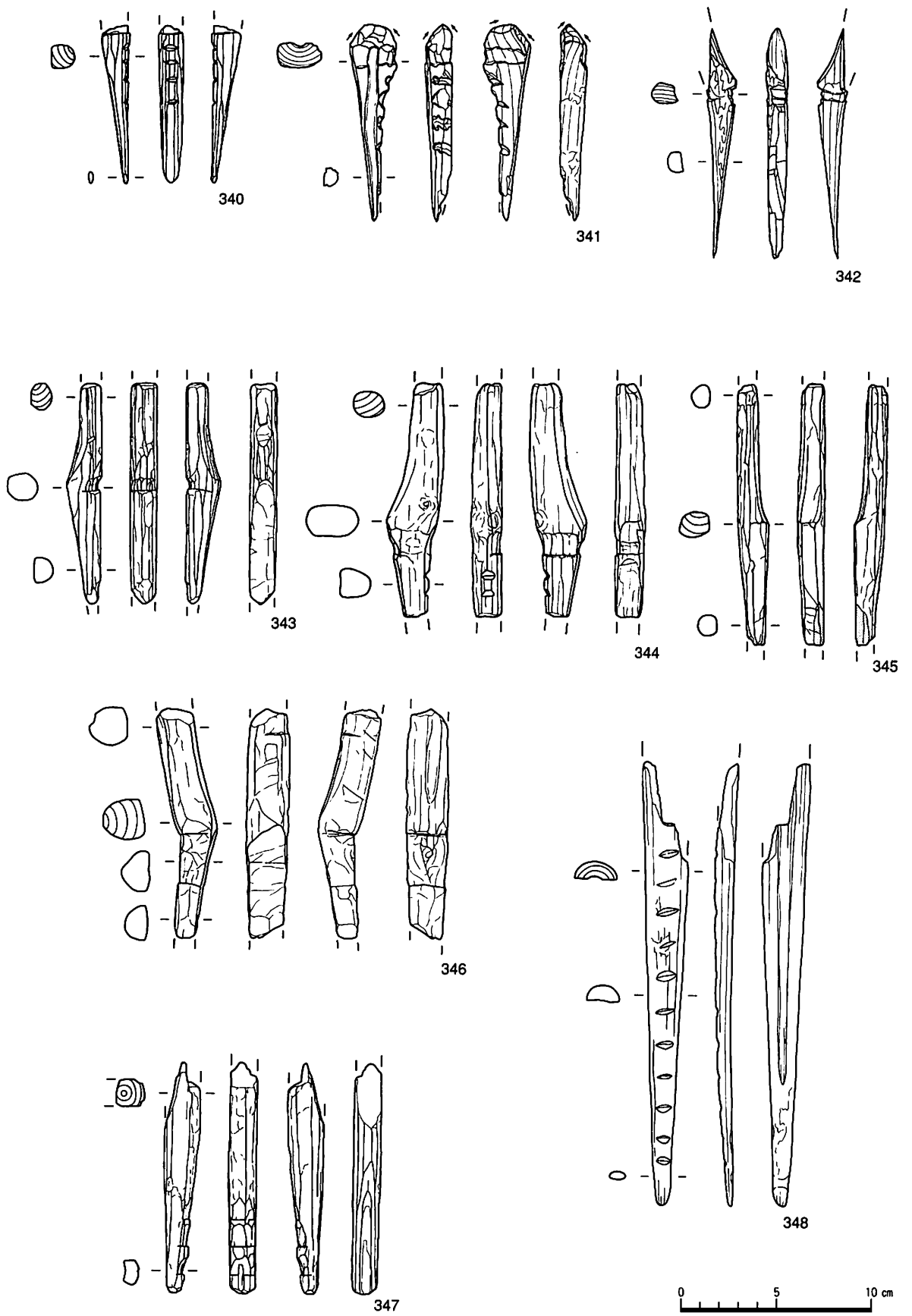
図V-110 漁撈具8 (回転式離頭銛中柄⑧)



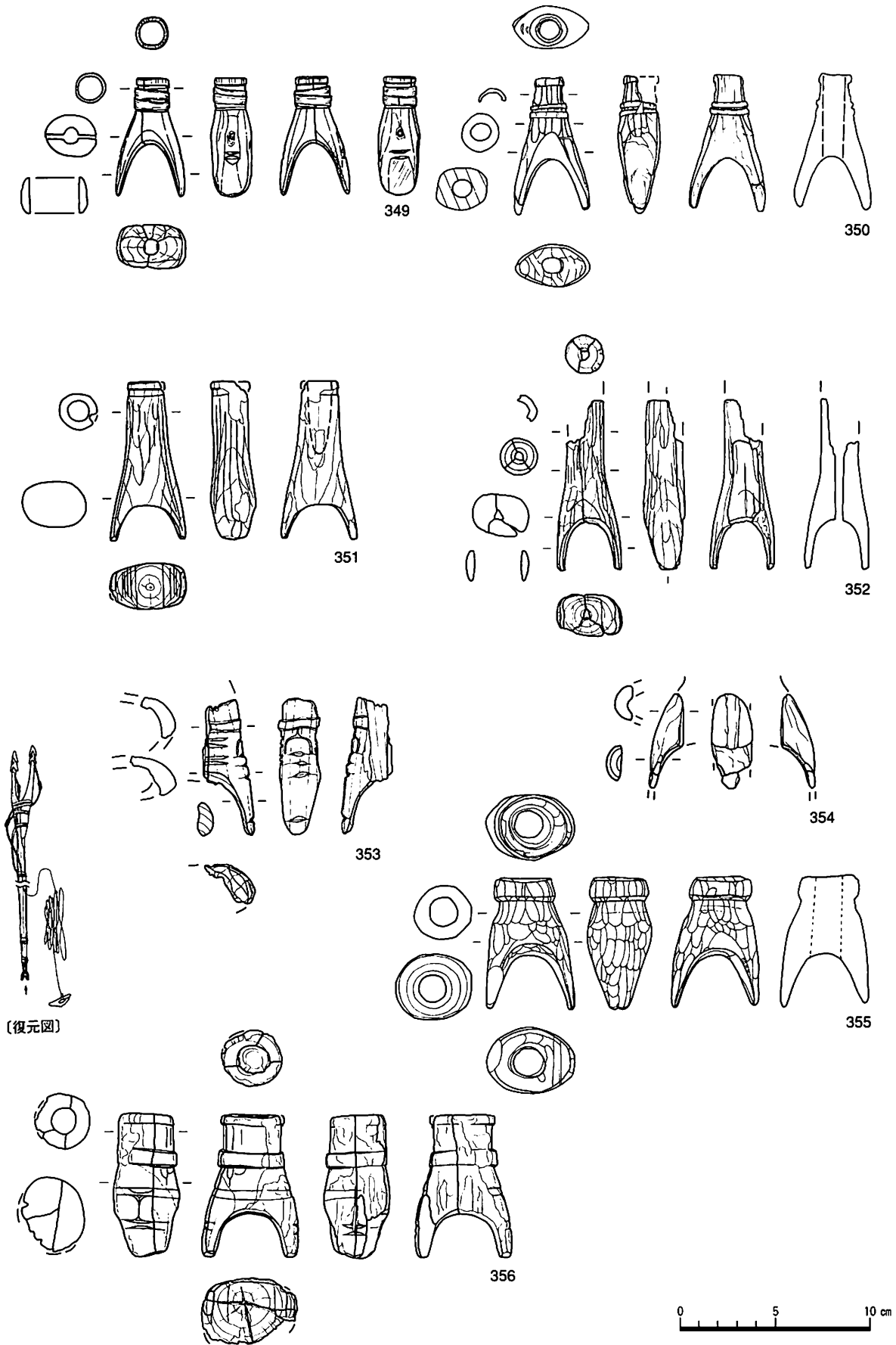
図V-111 漁撈具9 (回転式離頭鉤中柄⑨)



図V-112 漁撈具10 (回転式離頭銛中柄⑩)

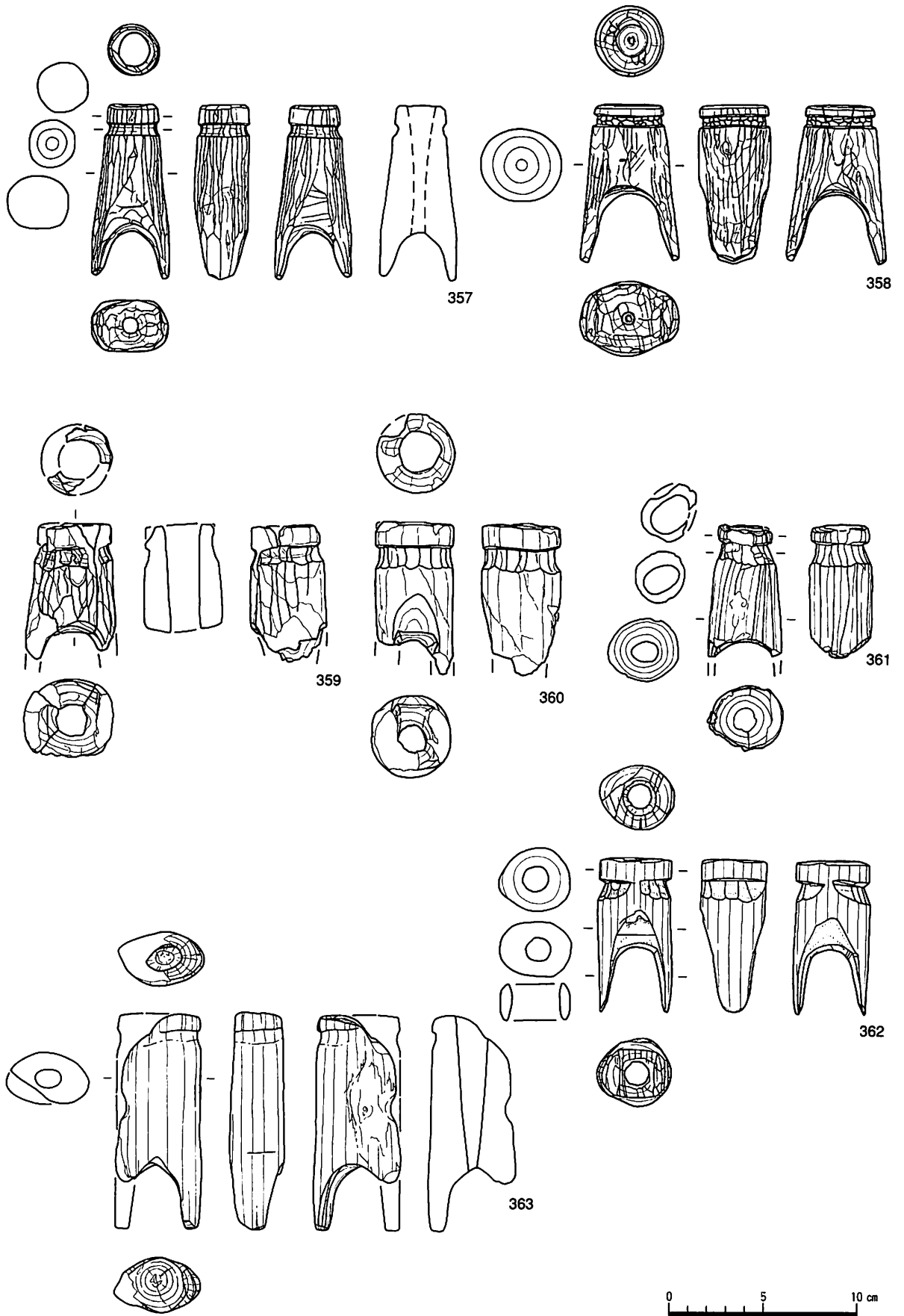


図V-113 漁撈具11 (回転式離頭鉤中柄①)

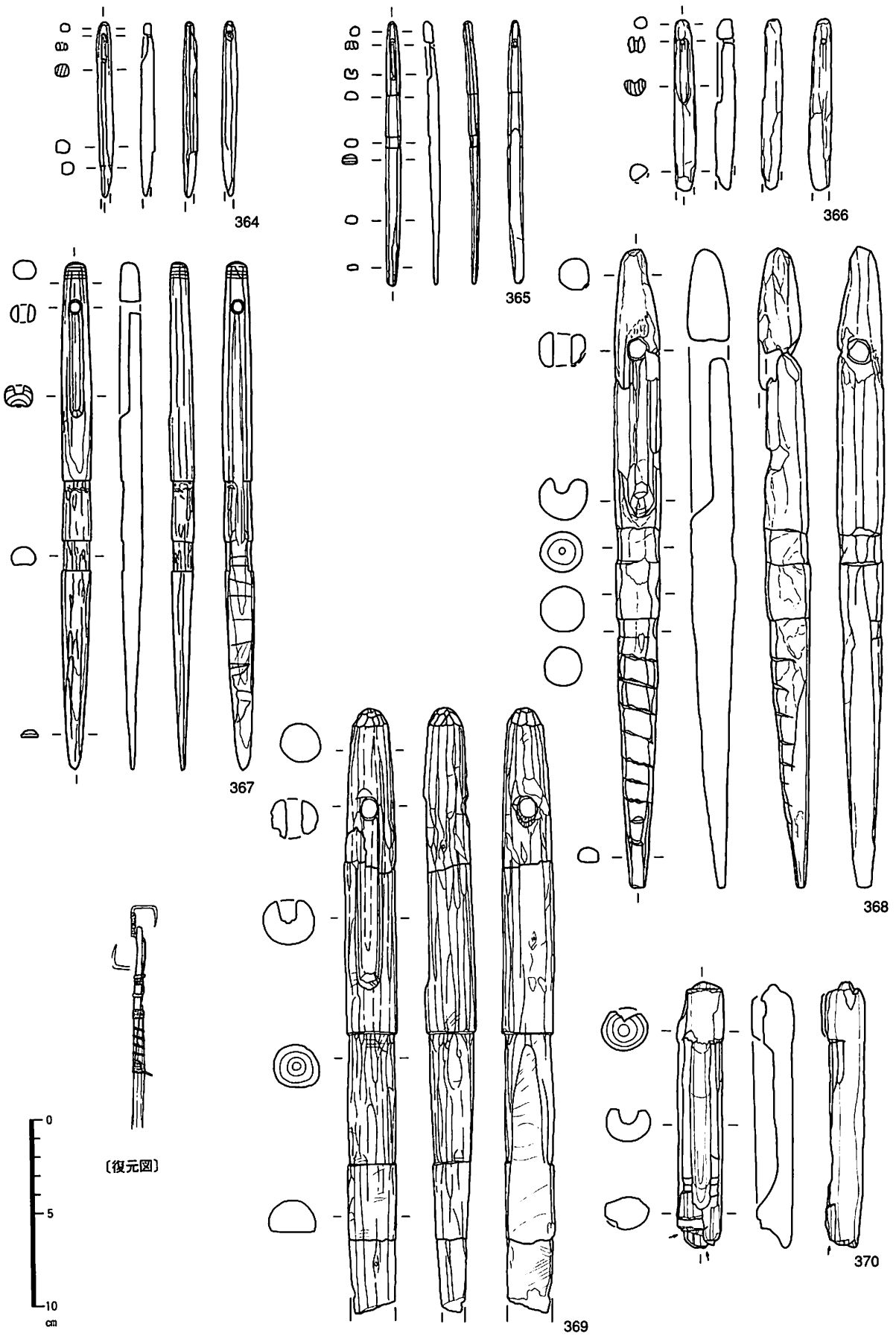


図V-114 漁撈具12 (回転式離頭鉤指掛部①)

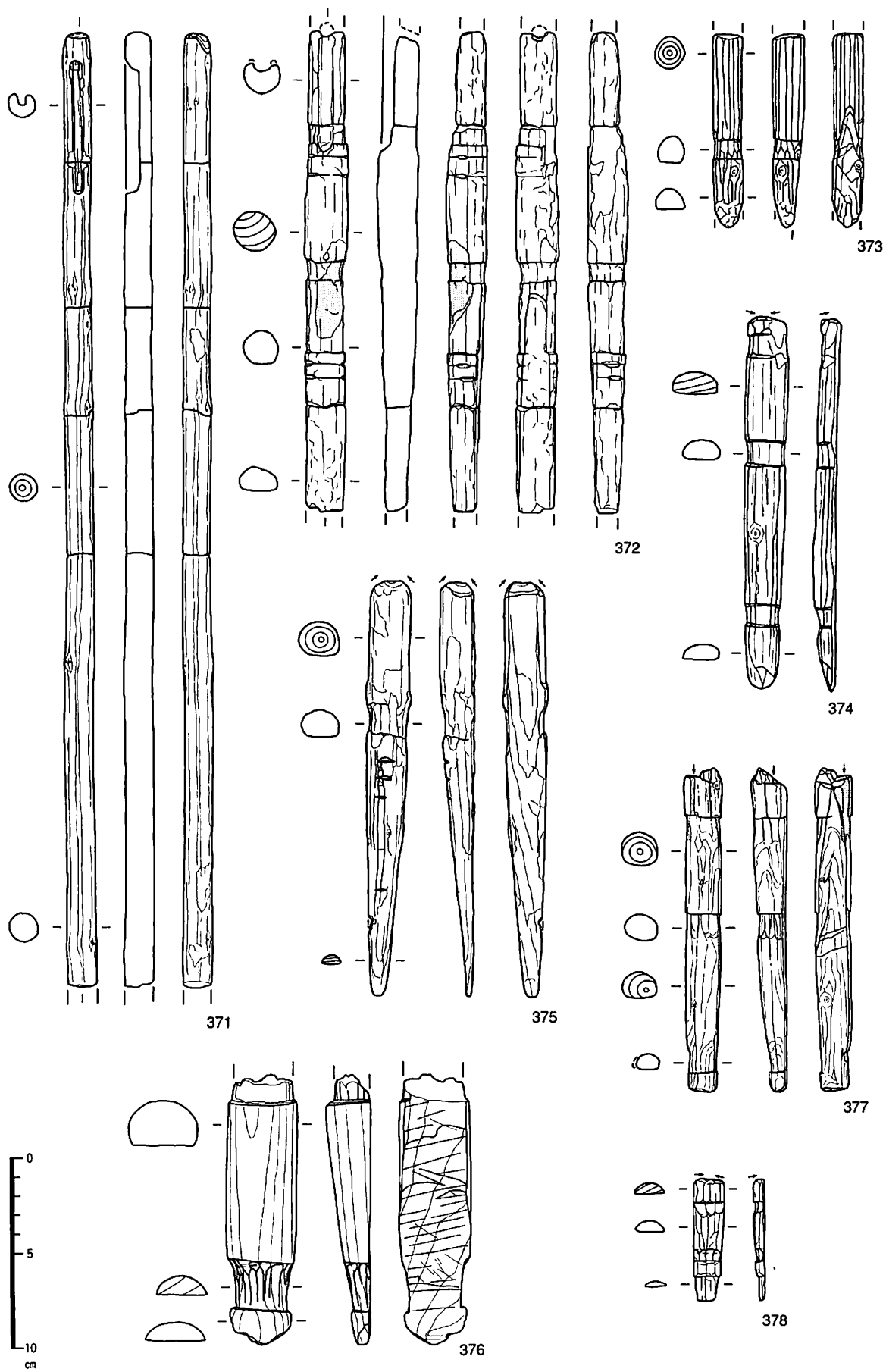




図V-115 漁撈具13 (回転式離頭銚指掛部②)



図V-116 漁撈具14 (魚突鉤鈎鈎台部①)



図V-117 漁撈具15 (魚突鉤銆台部②/基部)

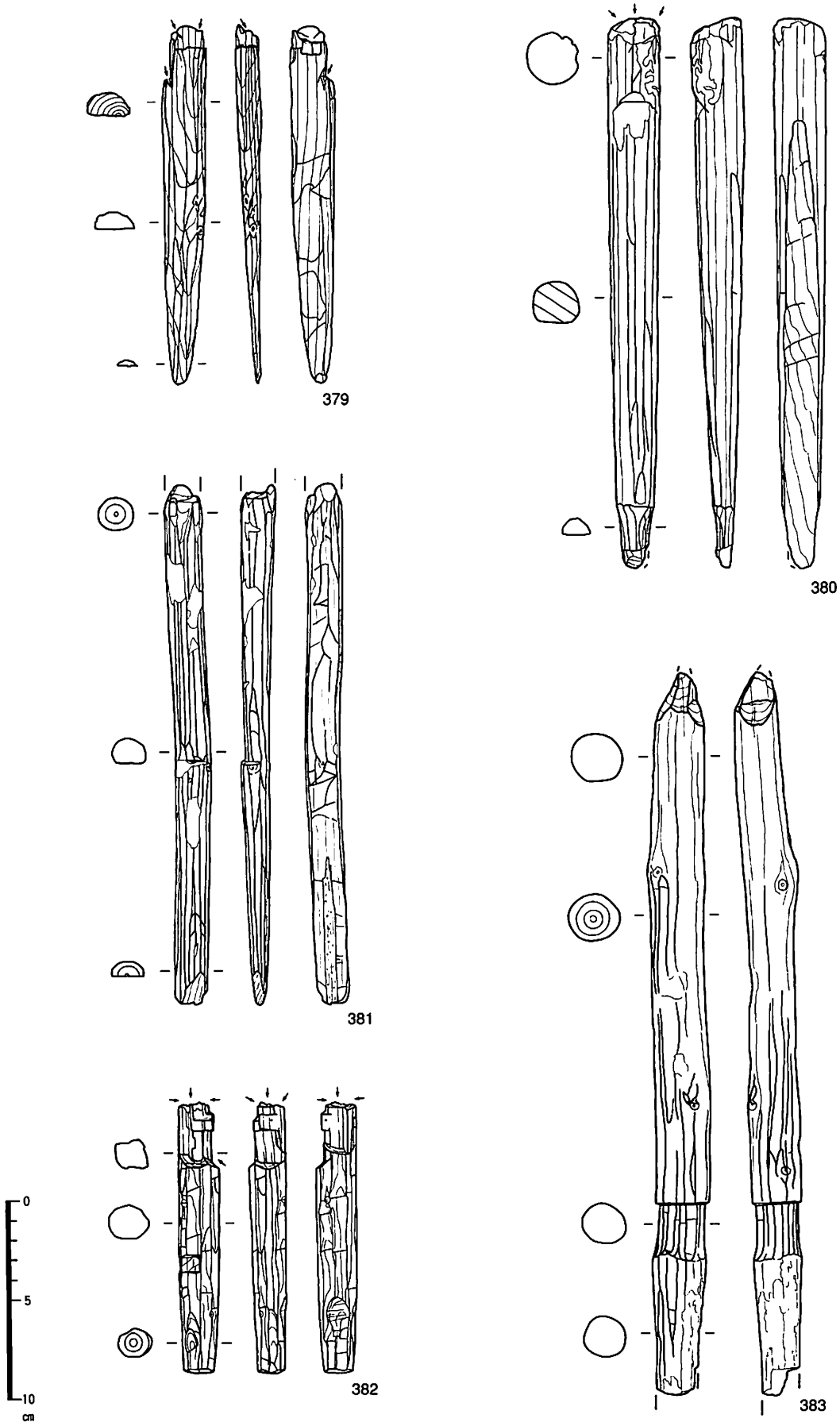
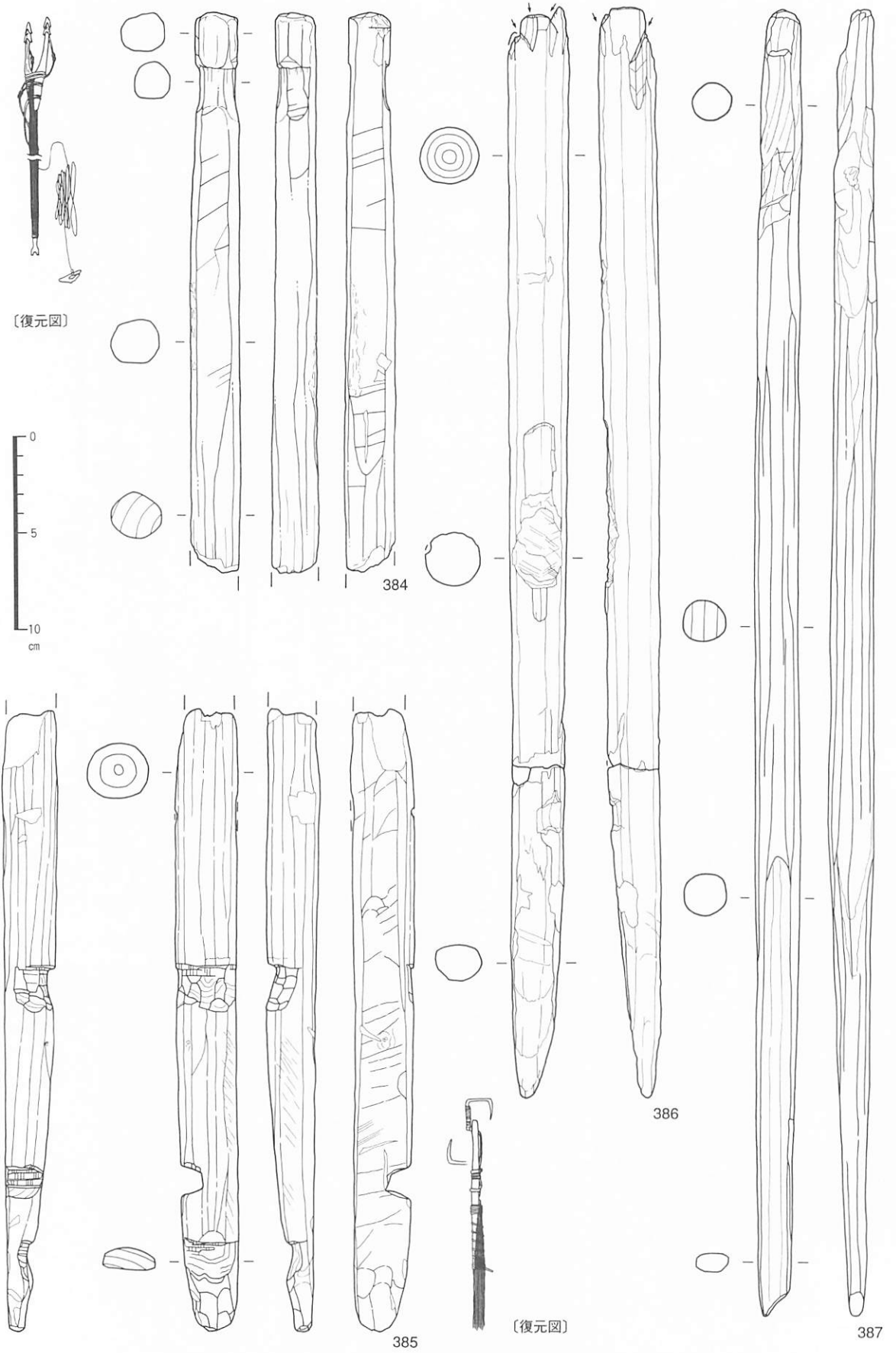
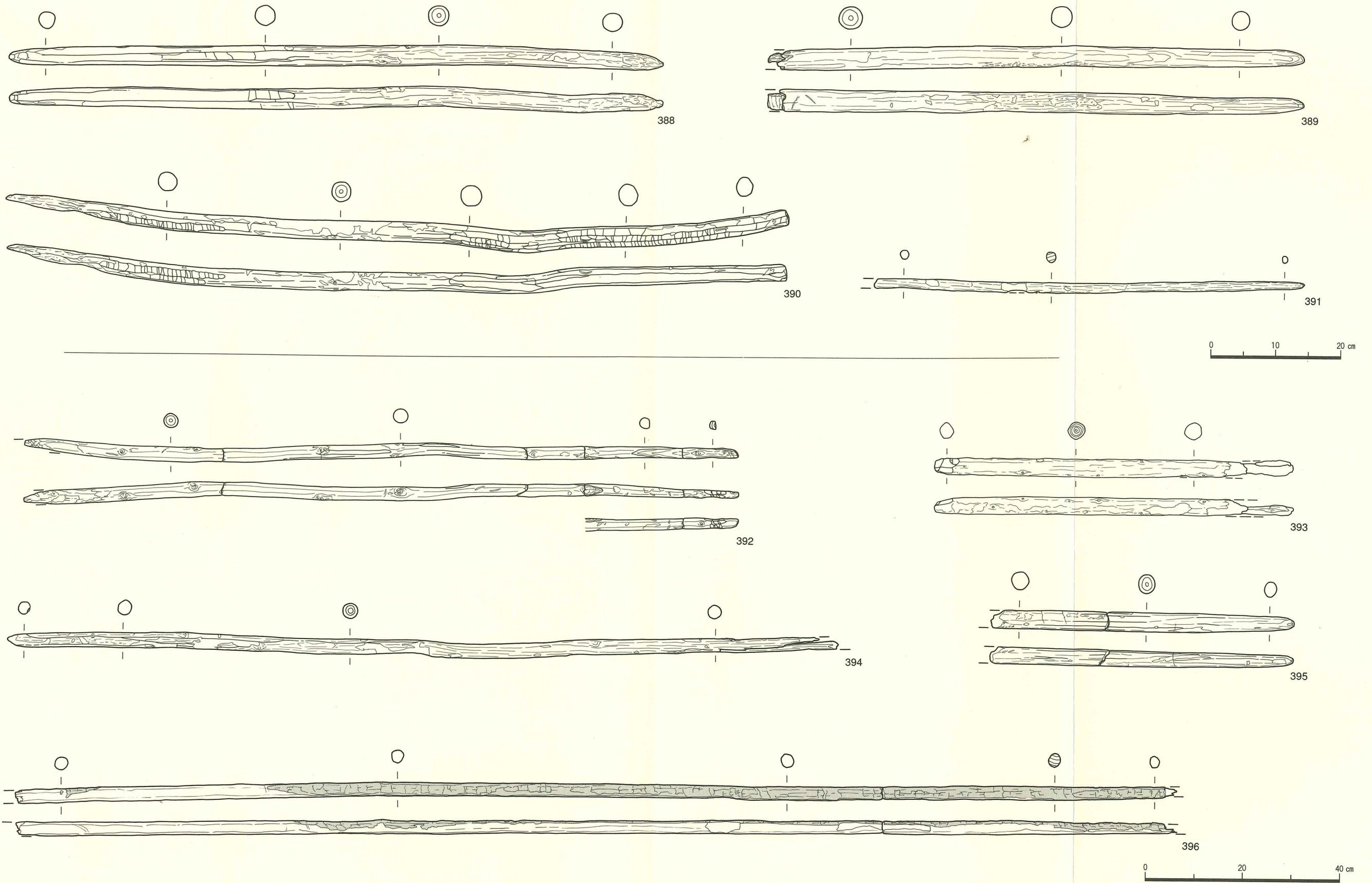


図 V-118 漁撈具16 (回転式離頭銚中柄・魚突鉤銚台/基部/棹)

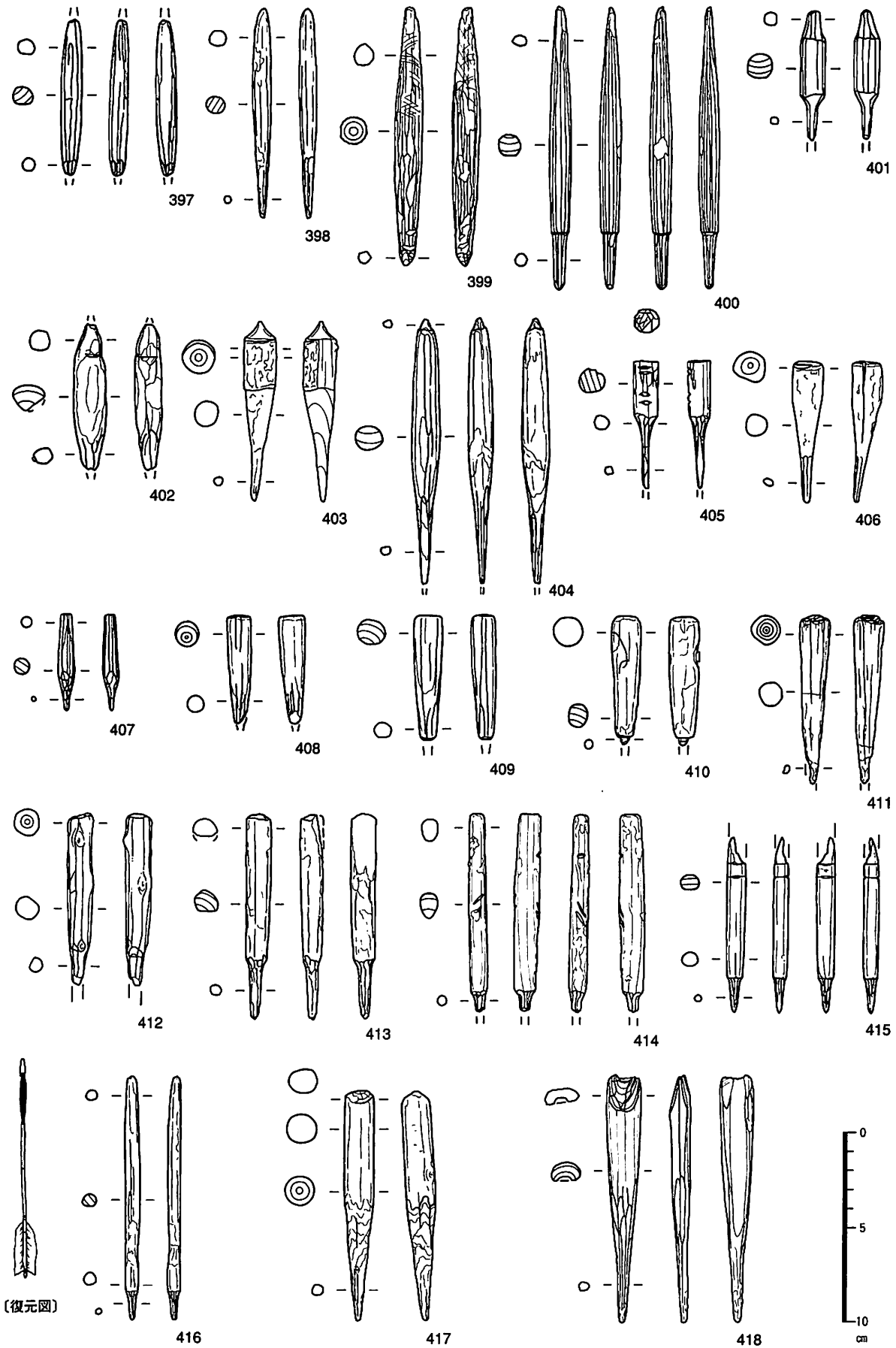


図V-119 漁撈具17 (回転式離頭鉆・魚突鉤鉆/棹①)

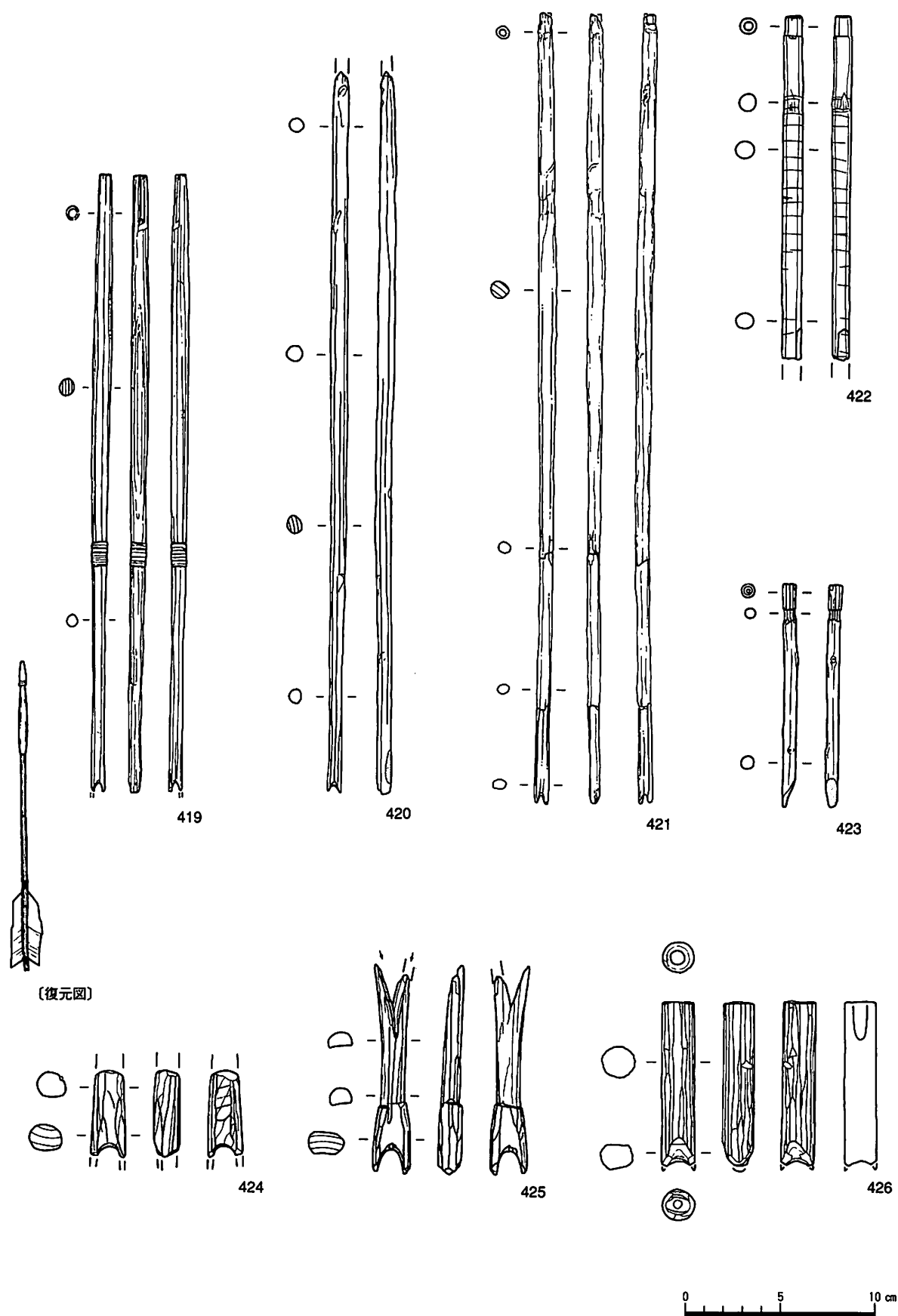


図V-120 漁撈具18 (回転式離頭鉞・魚突鉤鉞/棹②)

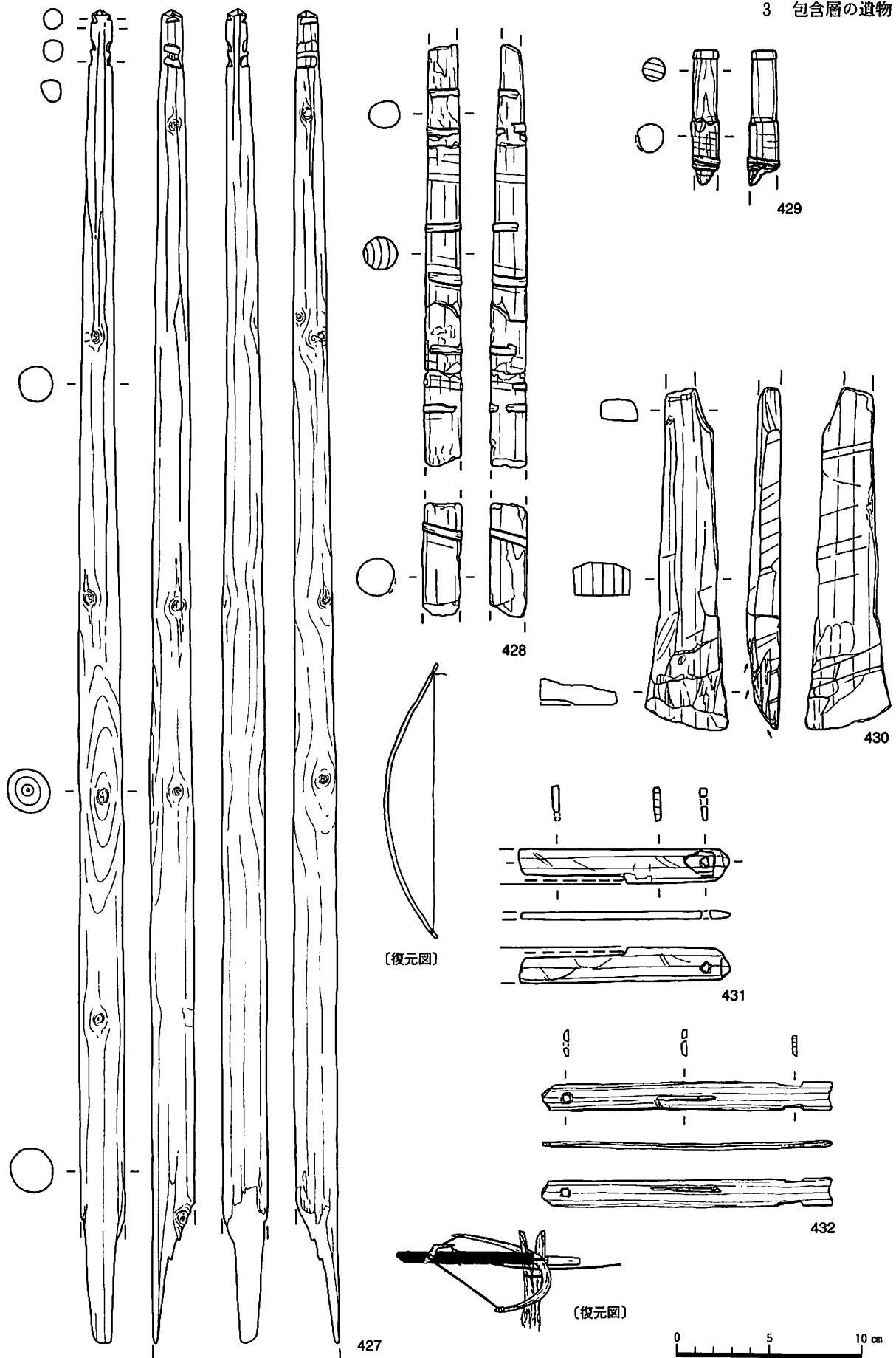




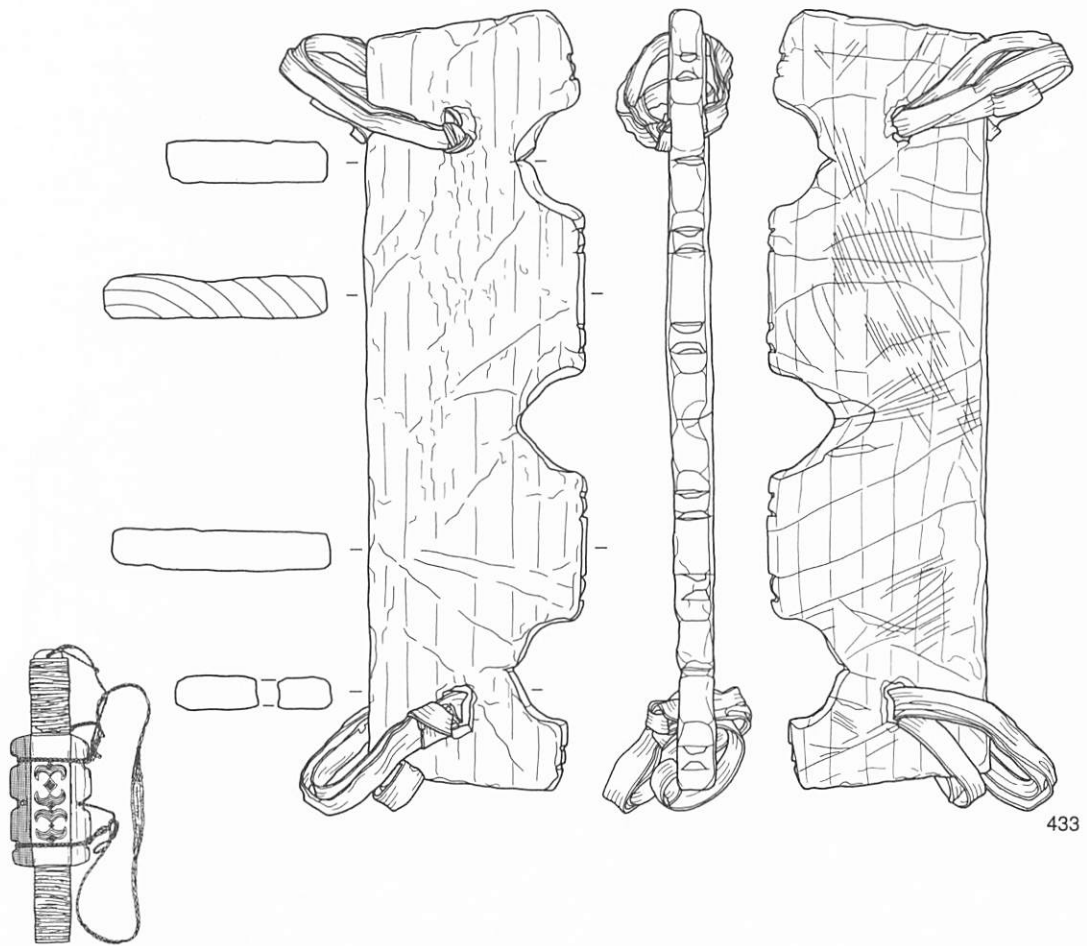
图V-121 狩猎具1 (矢・矢中柄)



図V-122 狩猟具2 (矢柄・矢筈)

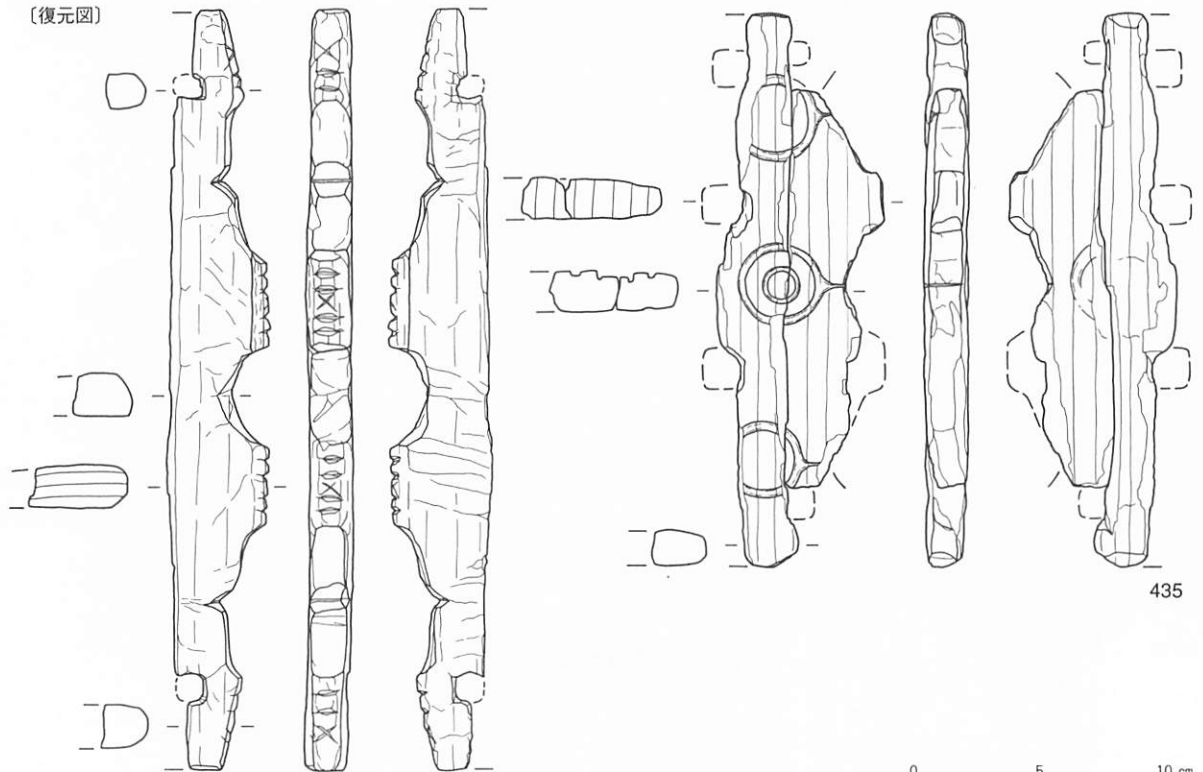


図V-123 狩猟具3 (弓・仕掛弓台部ミニチュア・巽部材?)



433

〔復元図〕

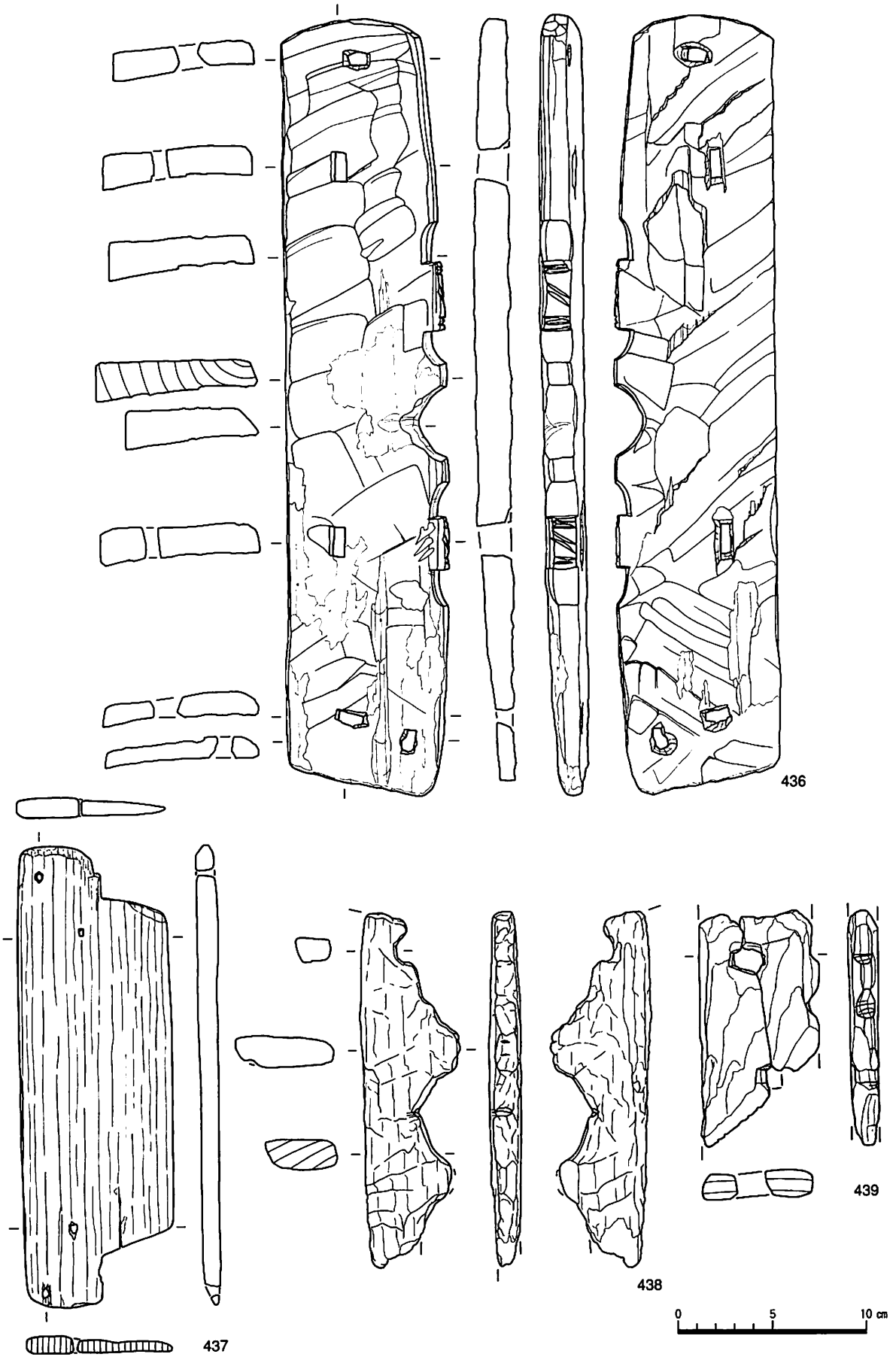


434

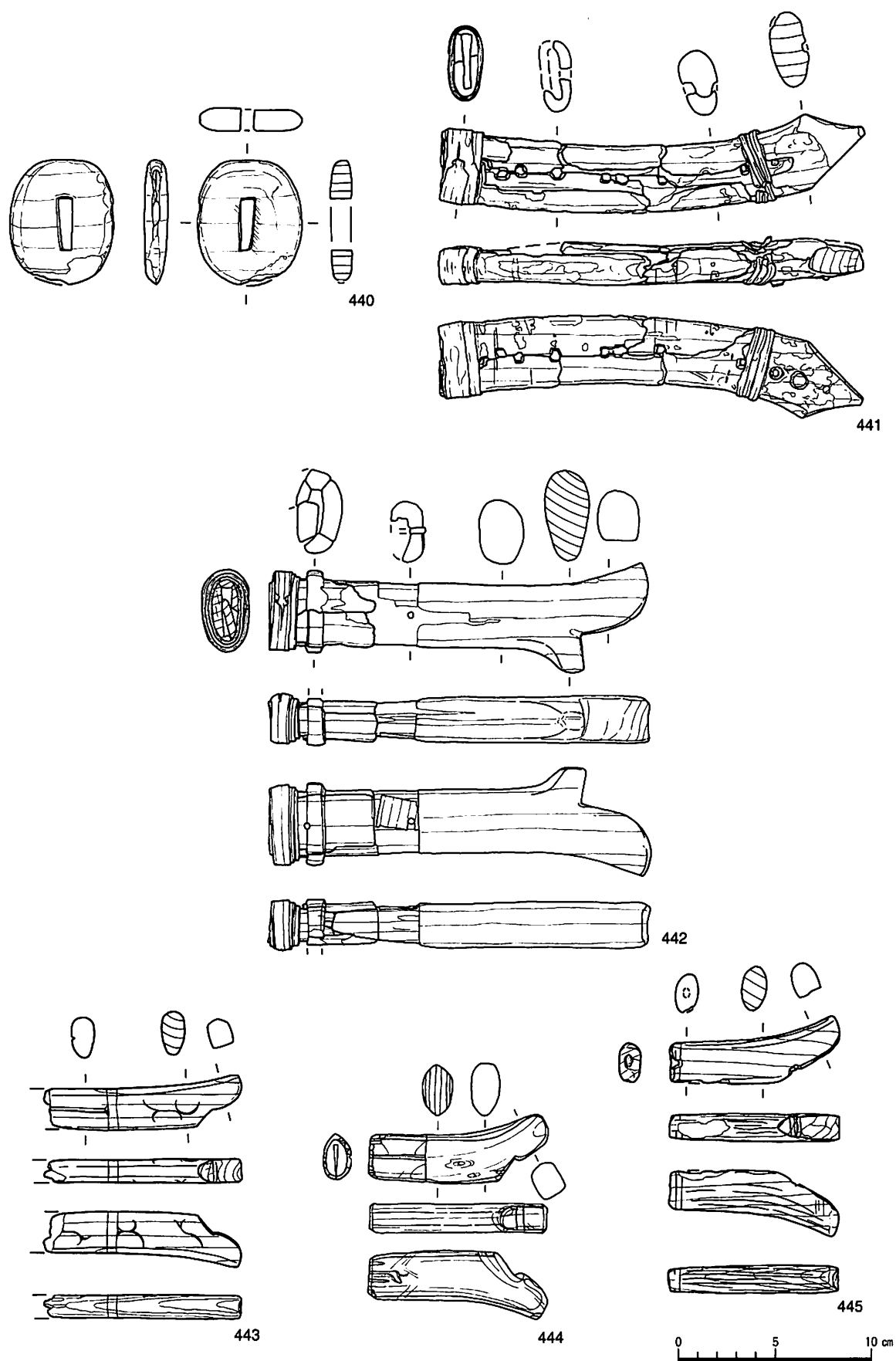
435



図V-124 狩猟具4 (矢筒翼①)

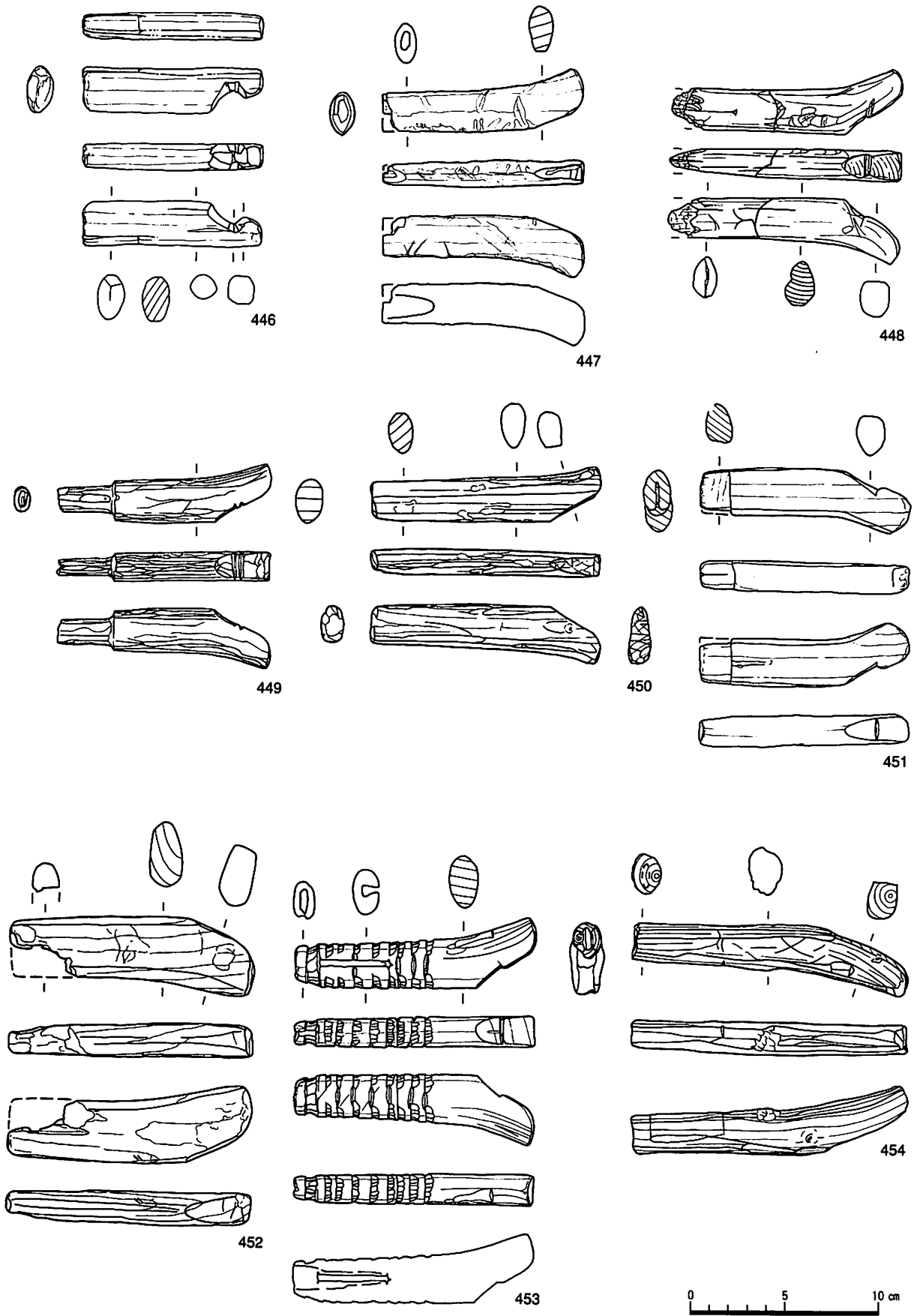


図V-125 狩猟具5 (矢筒翼②)

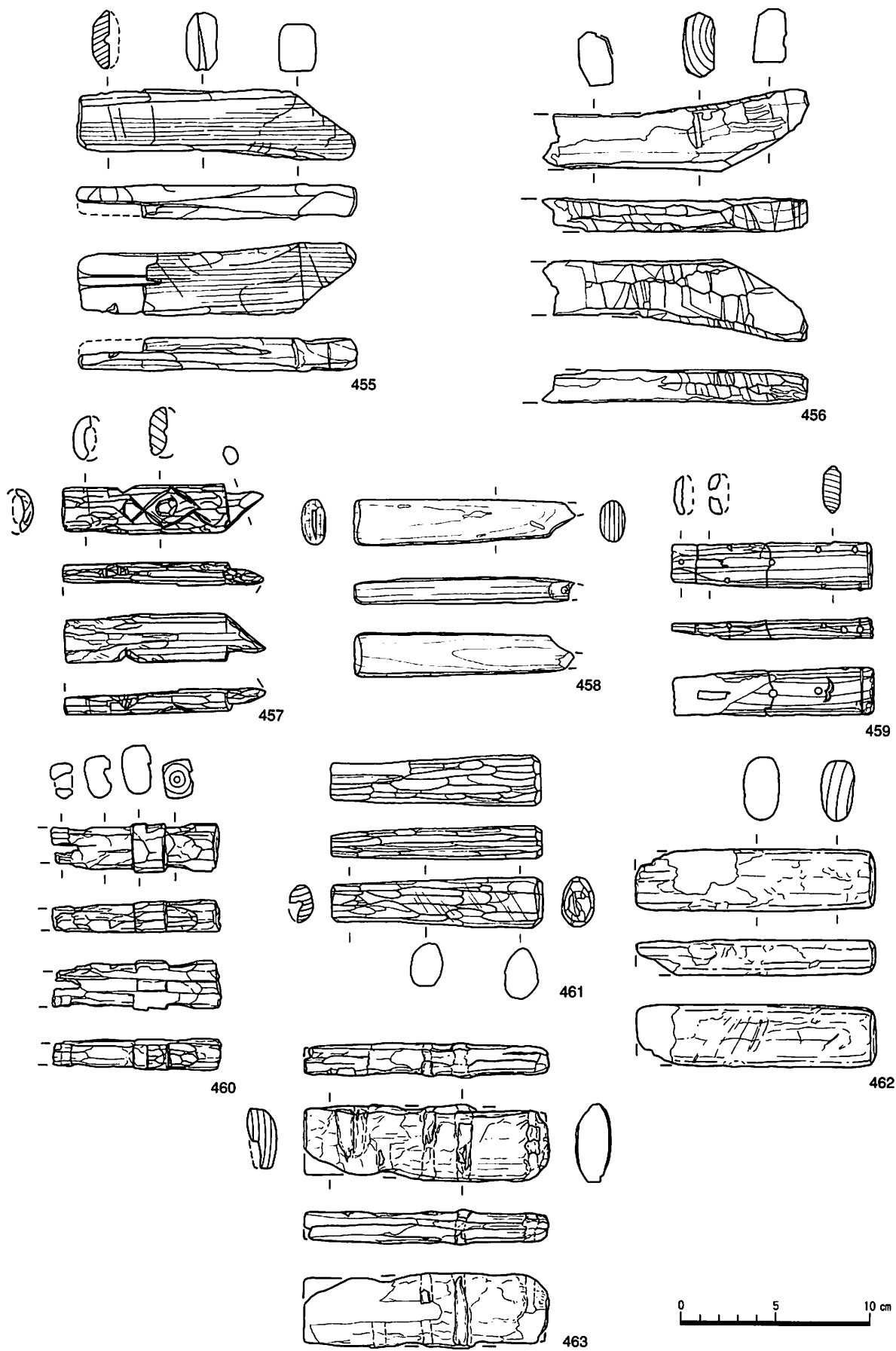


図V-126 切截具1 (鏢・刀柄・山刀柄・小刀柄①)

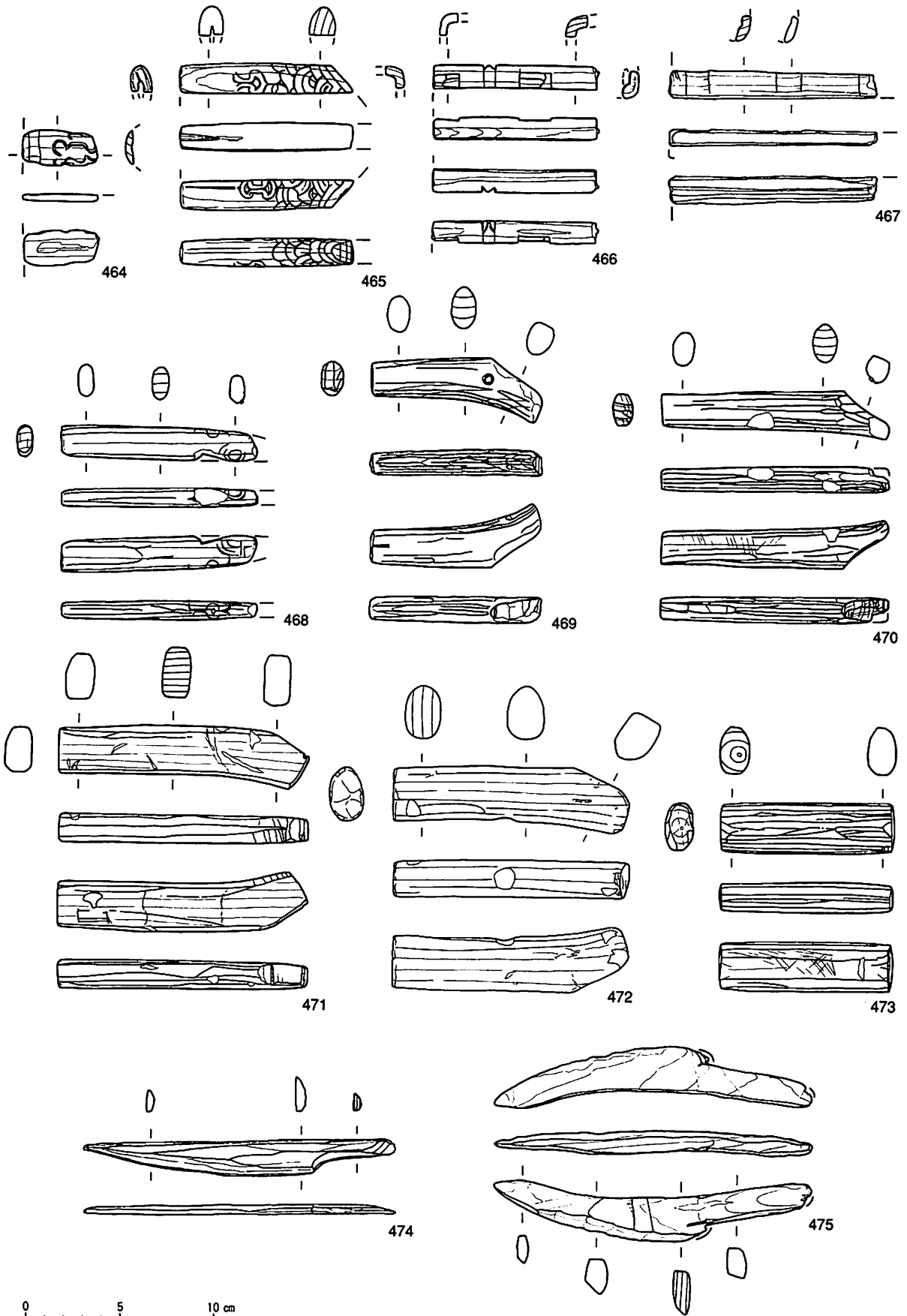




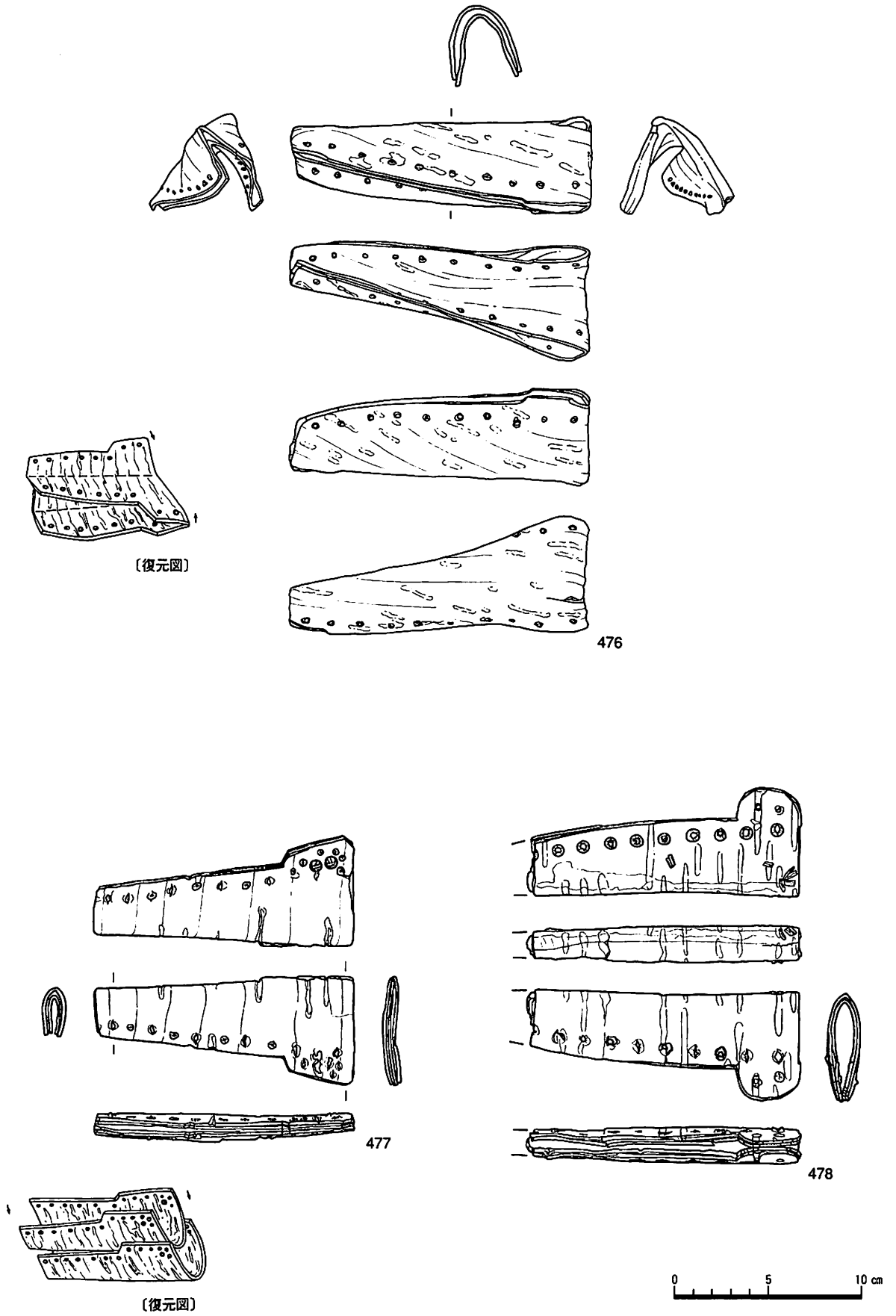
図V-127 切截具2 (小刀柄②)



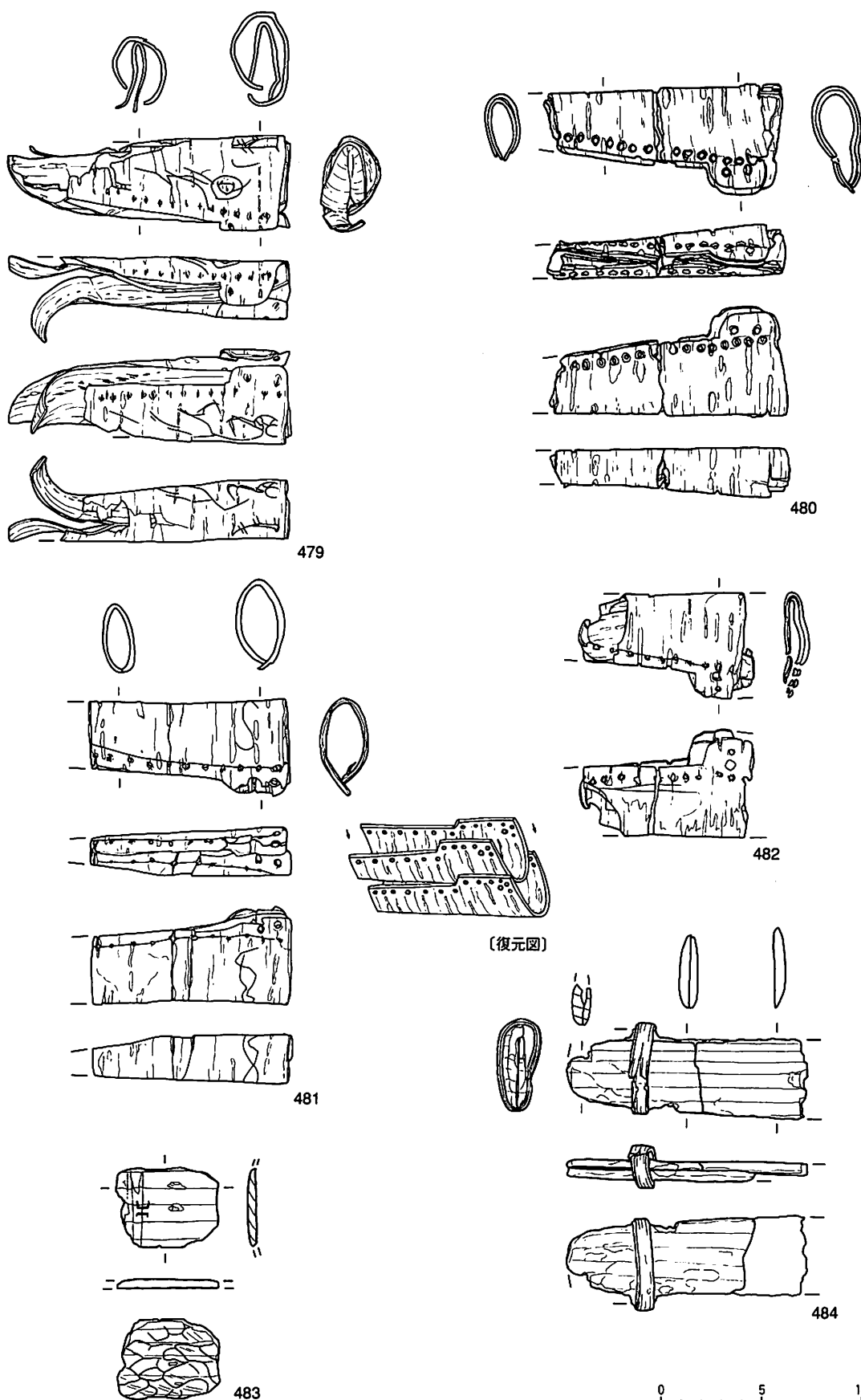
図V-128 切截具3 (小刀柄③)



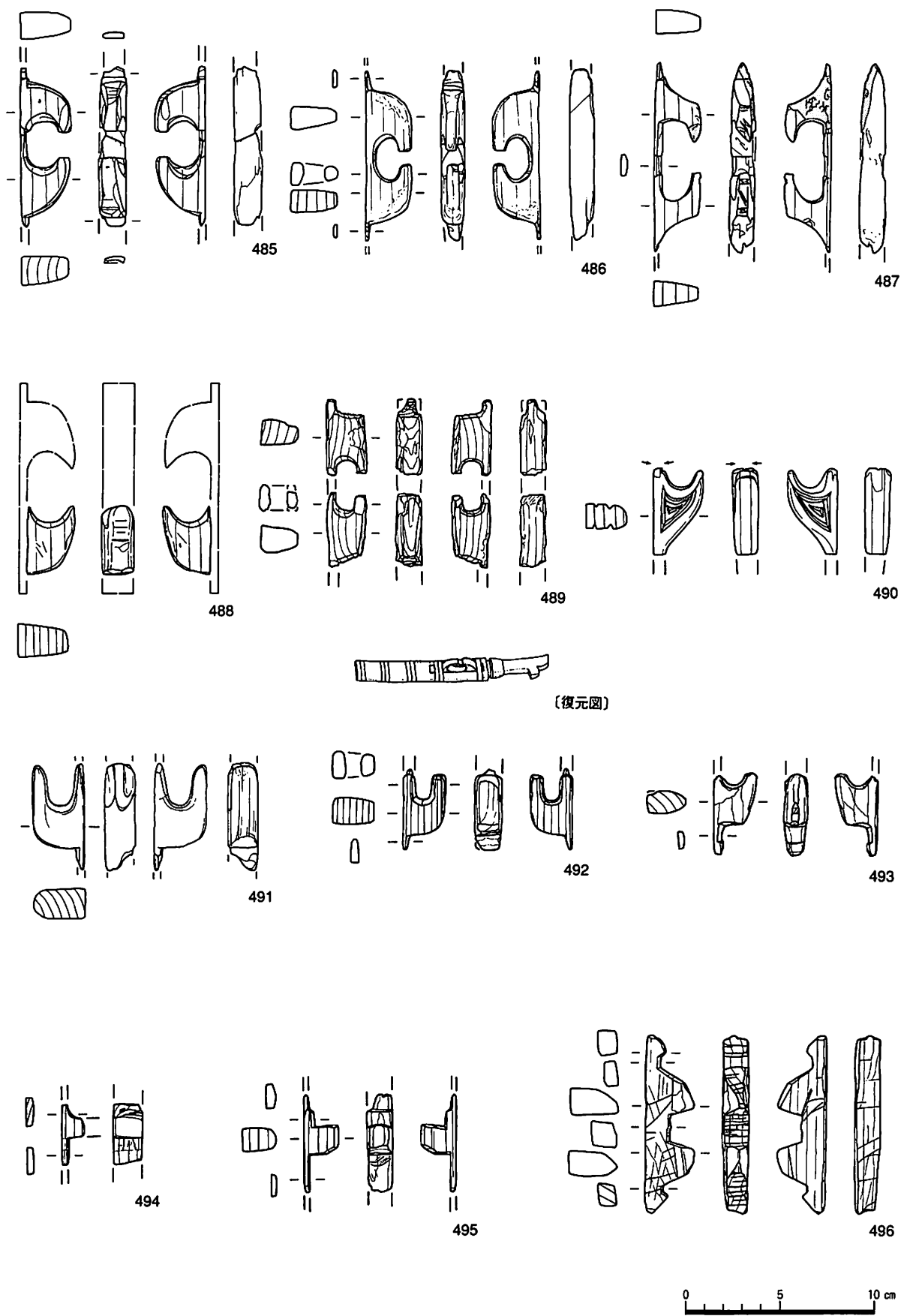
図V-129 切截具4 (小刀柄④・小刀柄未製品・小刀模造品)



図V-130 切截具5 (小刀樹皮製鞘①)

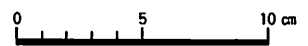
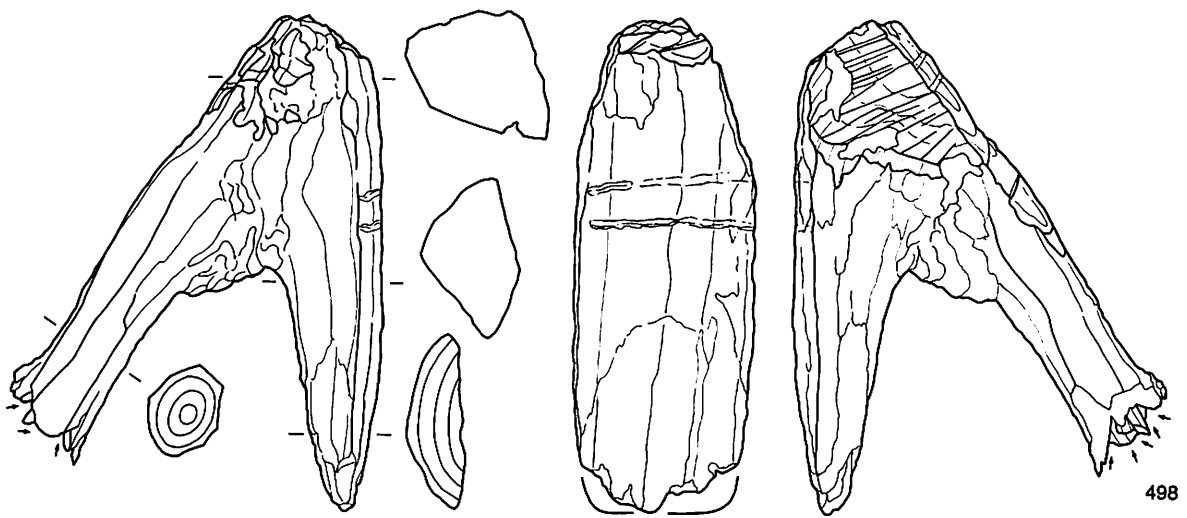
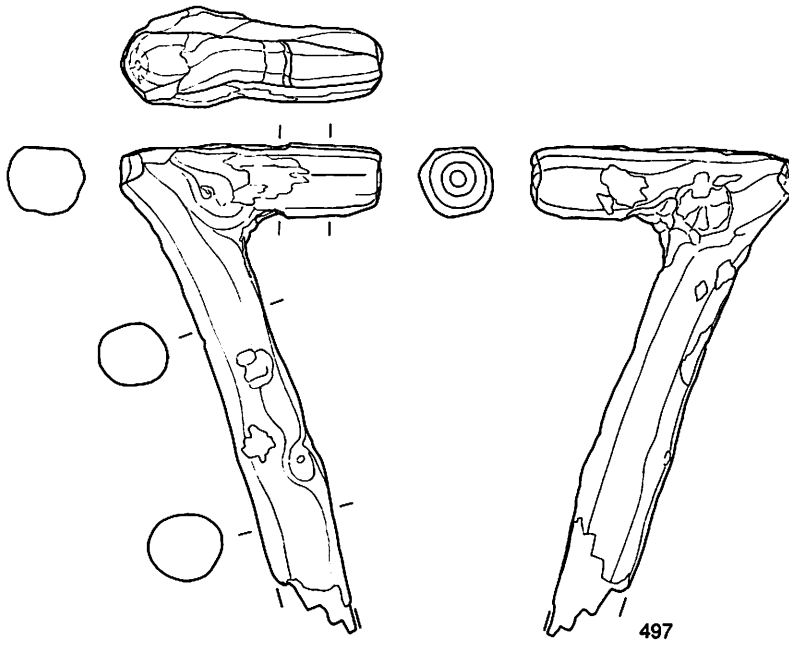


図V-131 切截具6 (小刀樹皮製鞘②/木製鞘)

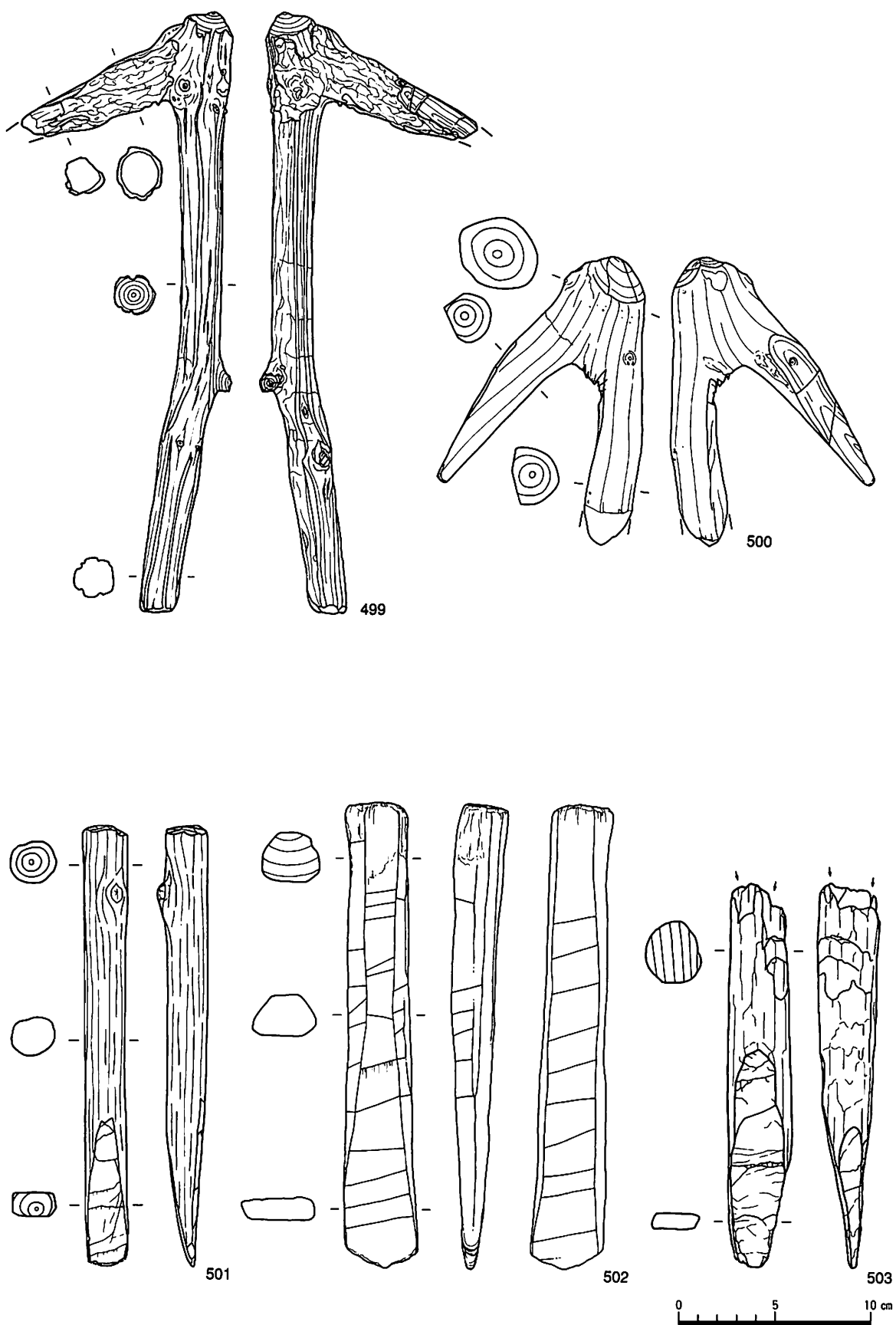


図V-132 切截具7 (山刀鞘帯執部)

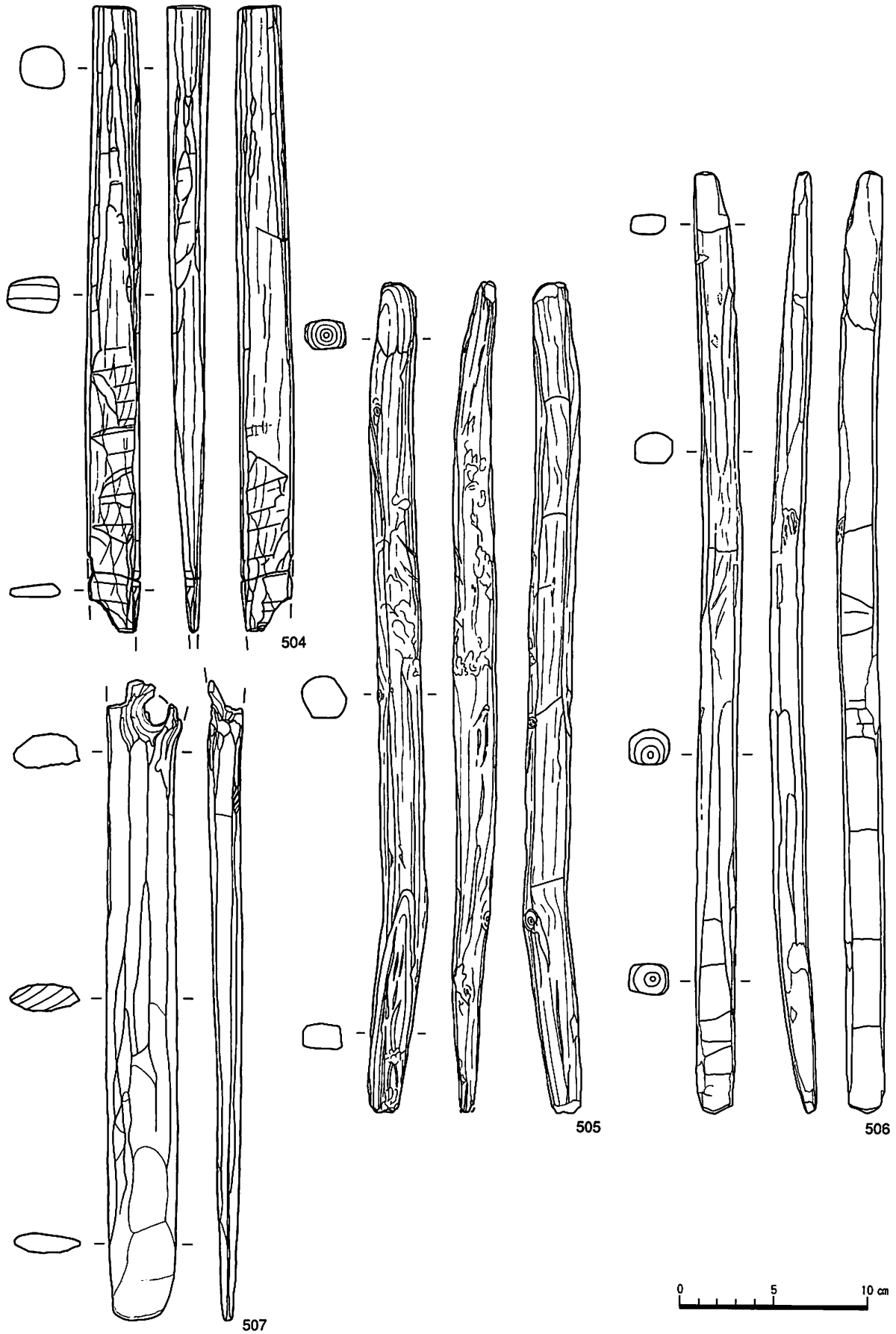




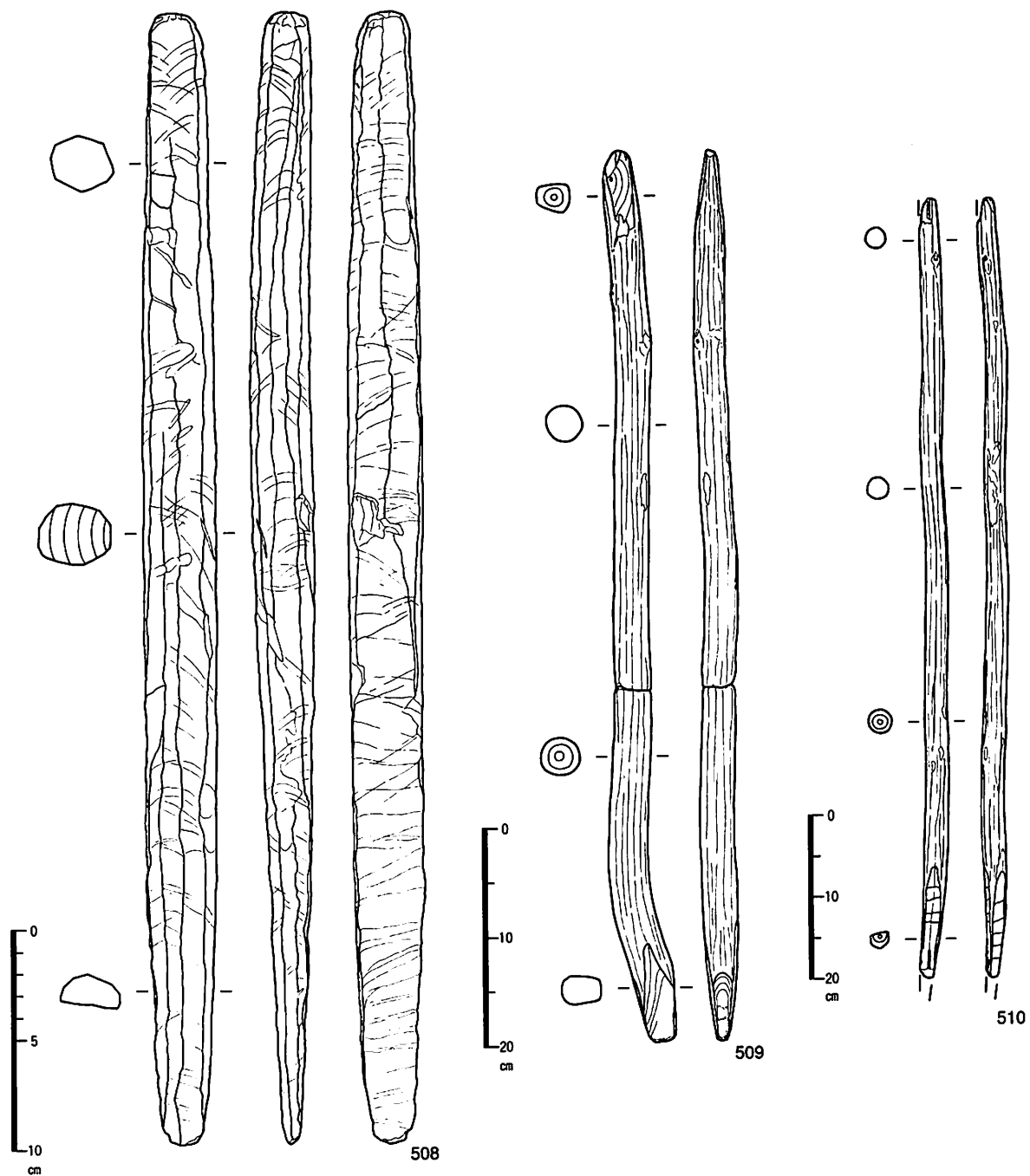
図V-133 切截具8 (袋式鉄斧柄)



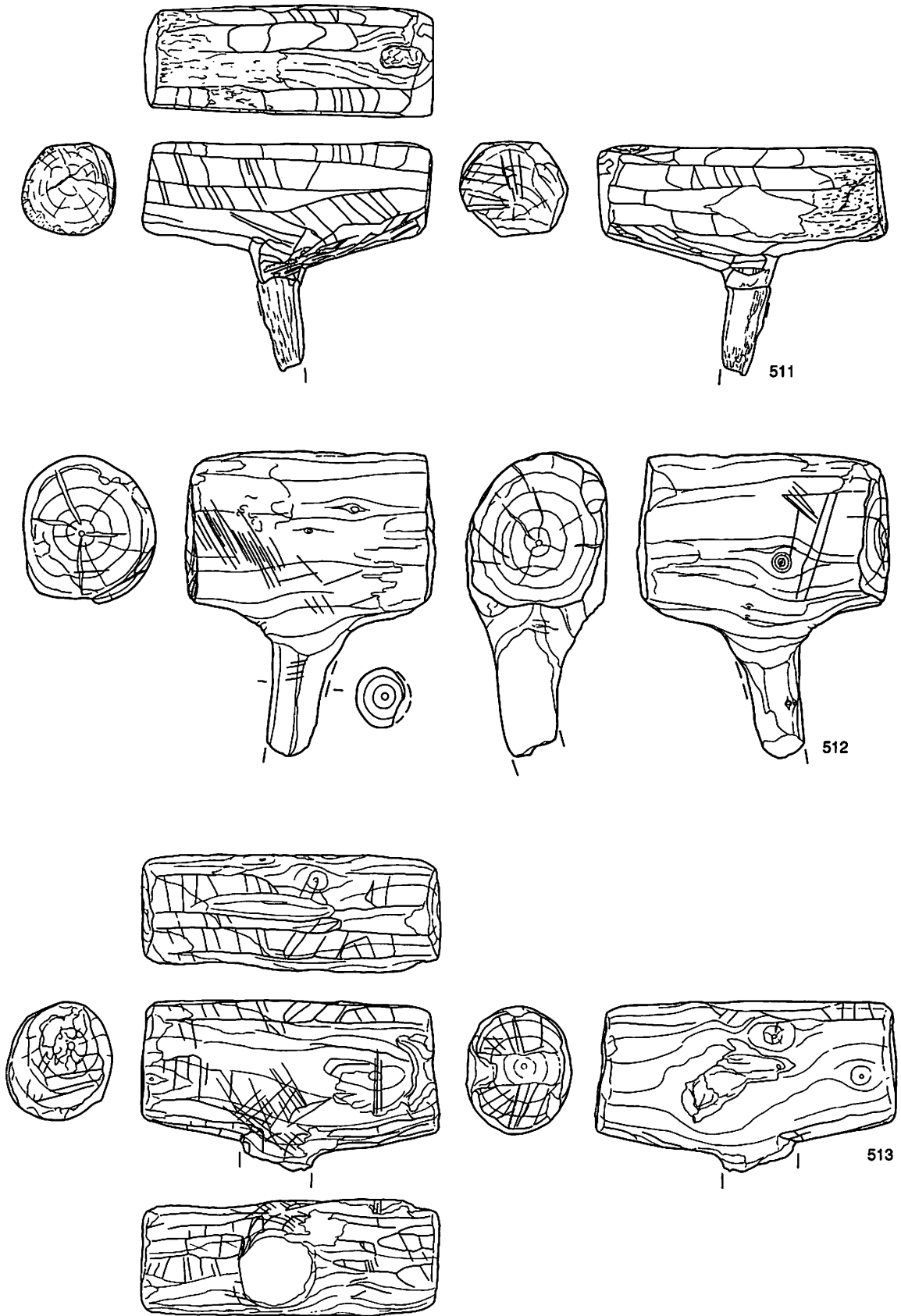
図V-134 農耕・採集具1 (鈎鍬/土掘棒①)



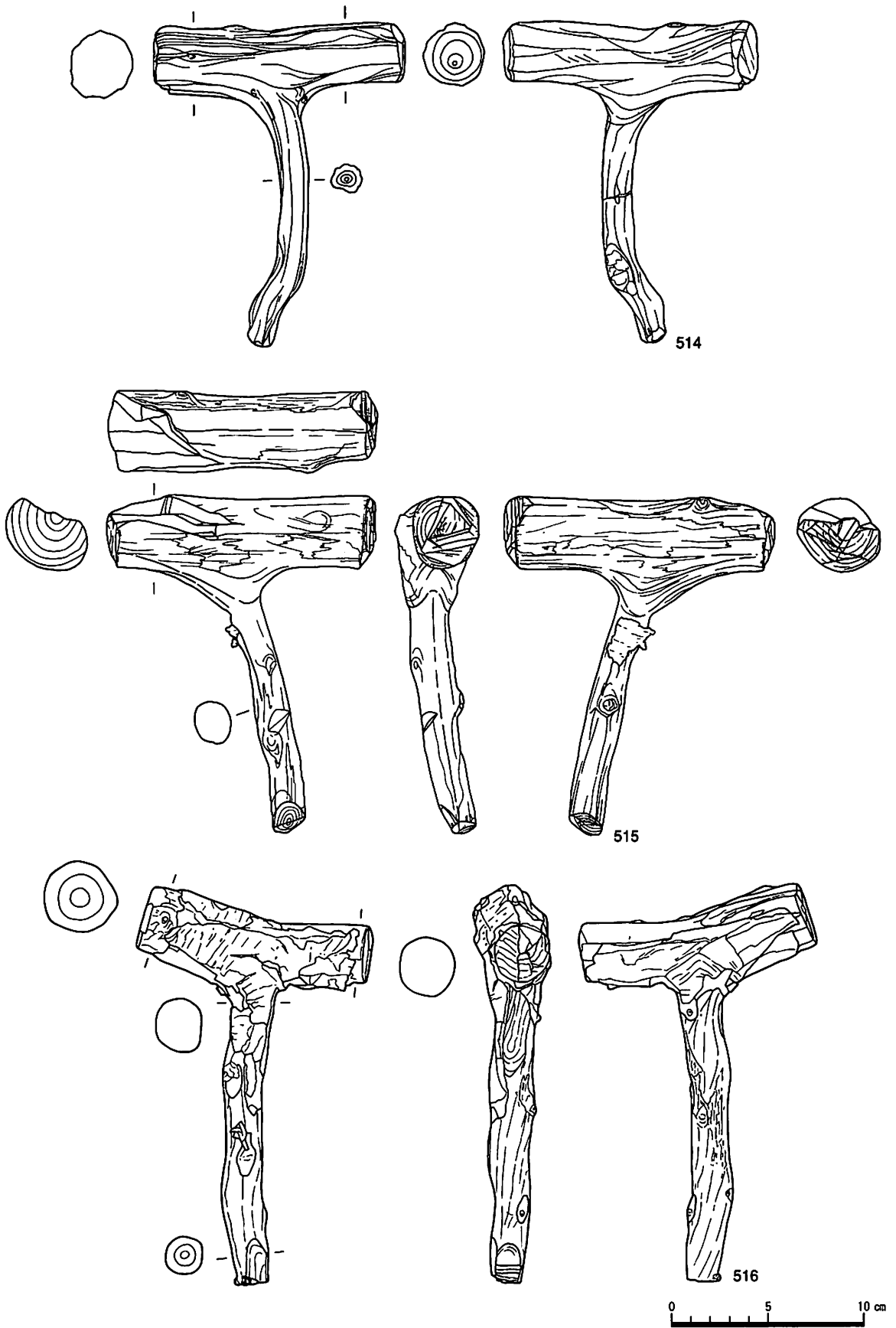
図V-135 農耕・採集具2 (土掘棒②)



図V-136 農耕・採集具3 (土掘棒③)

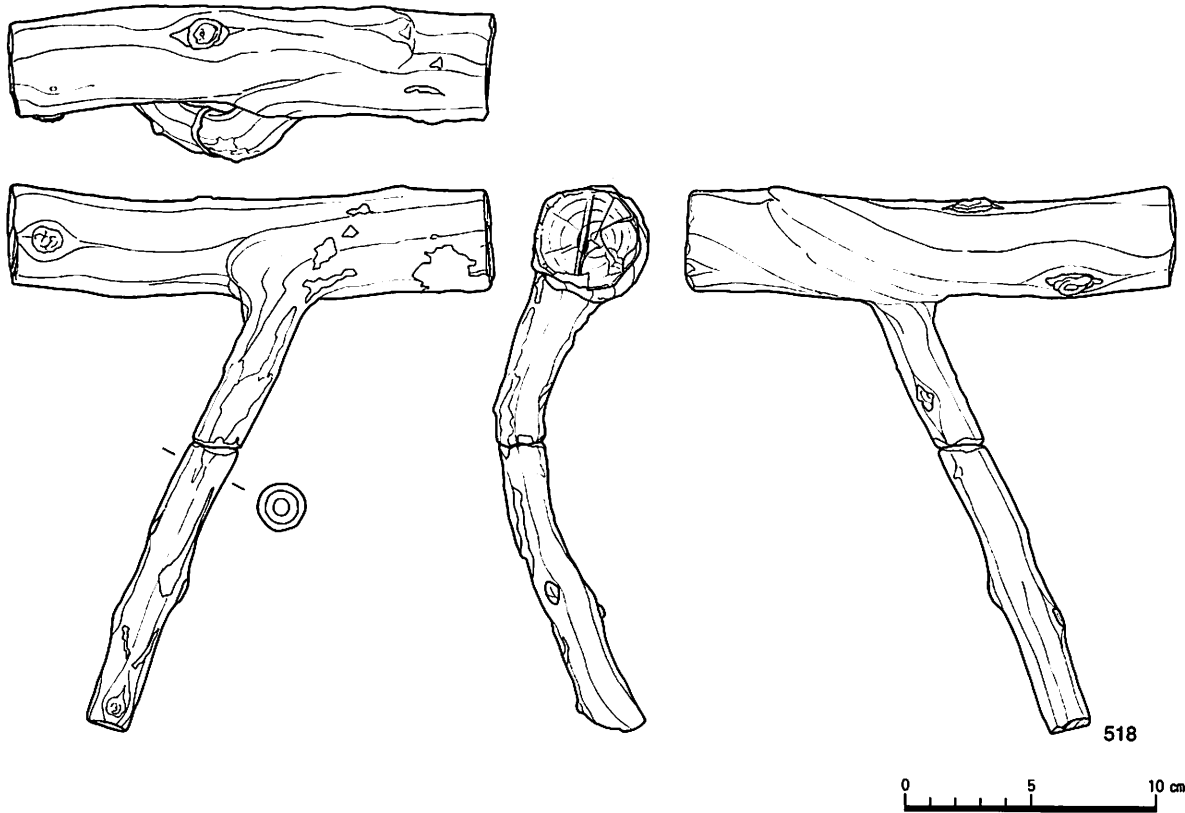
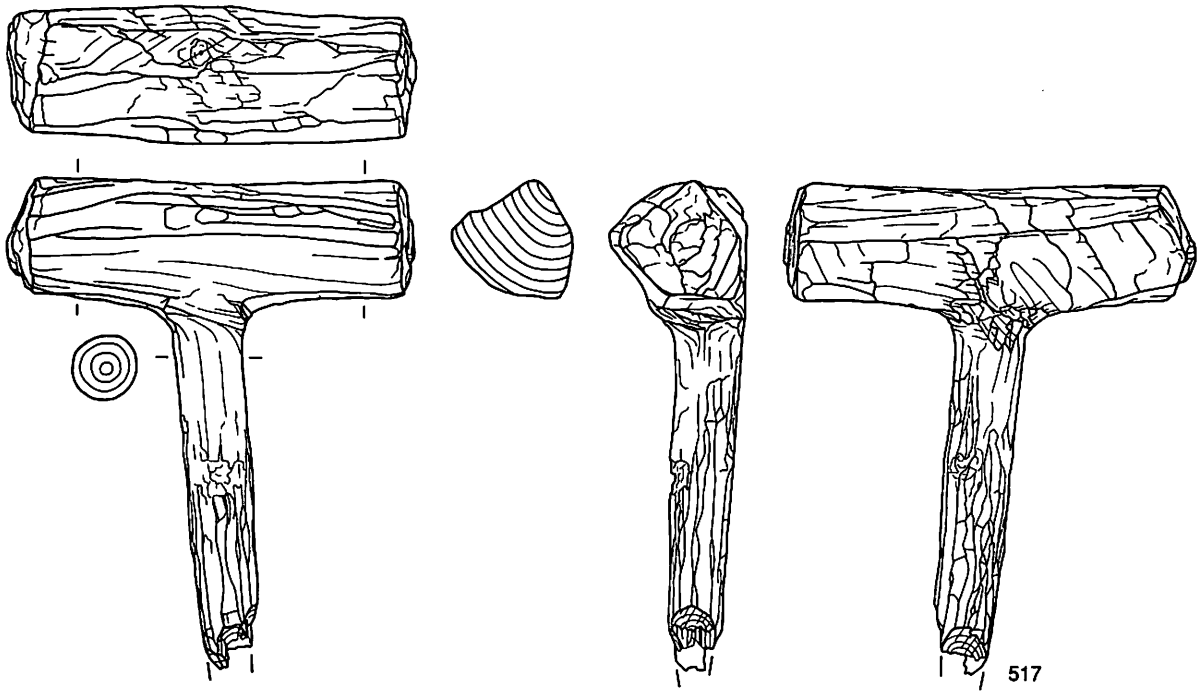


図V-137 工具1 (縦槌①)

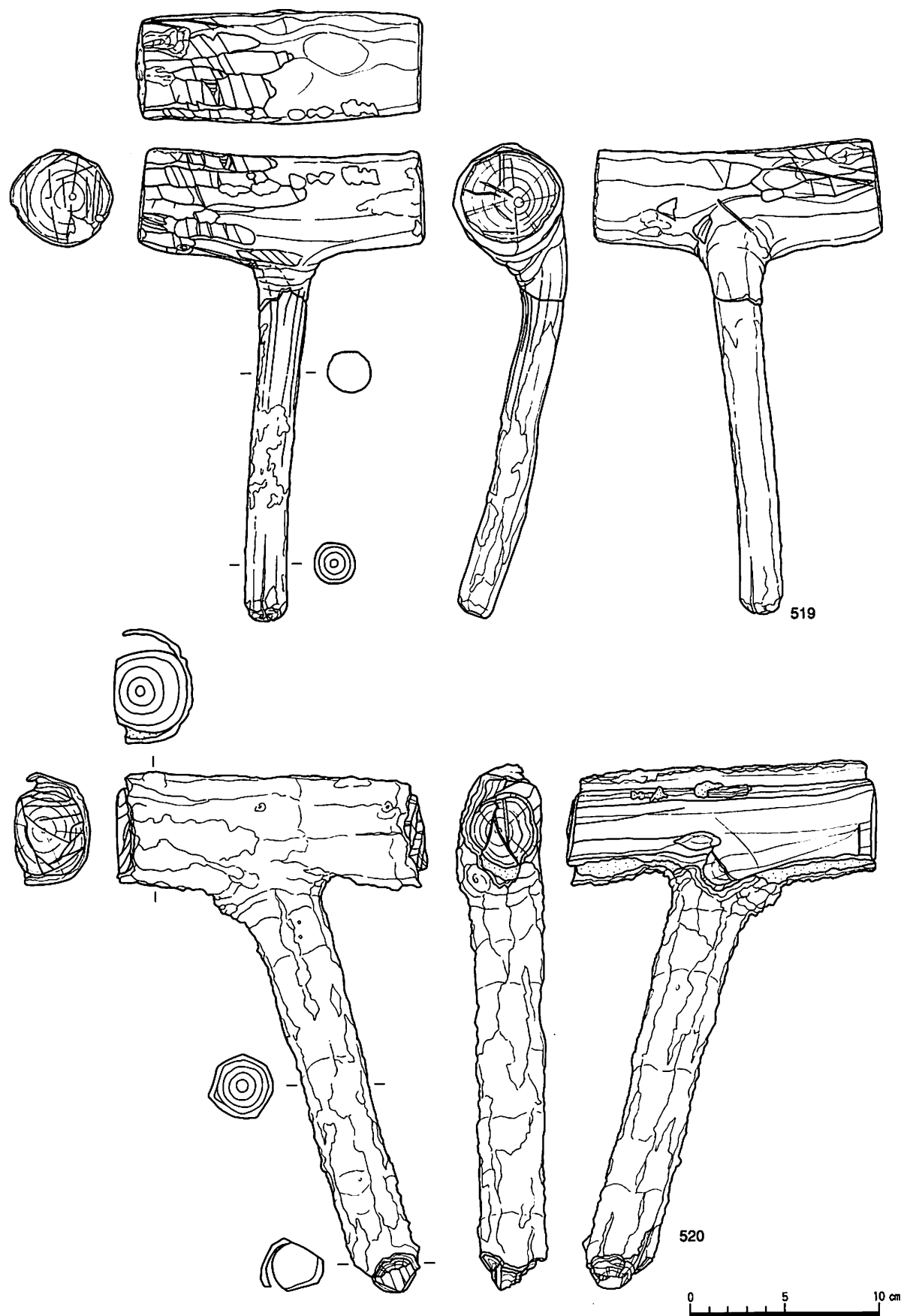


図V-138 工具2 (縦槌②)

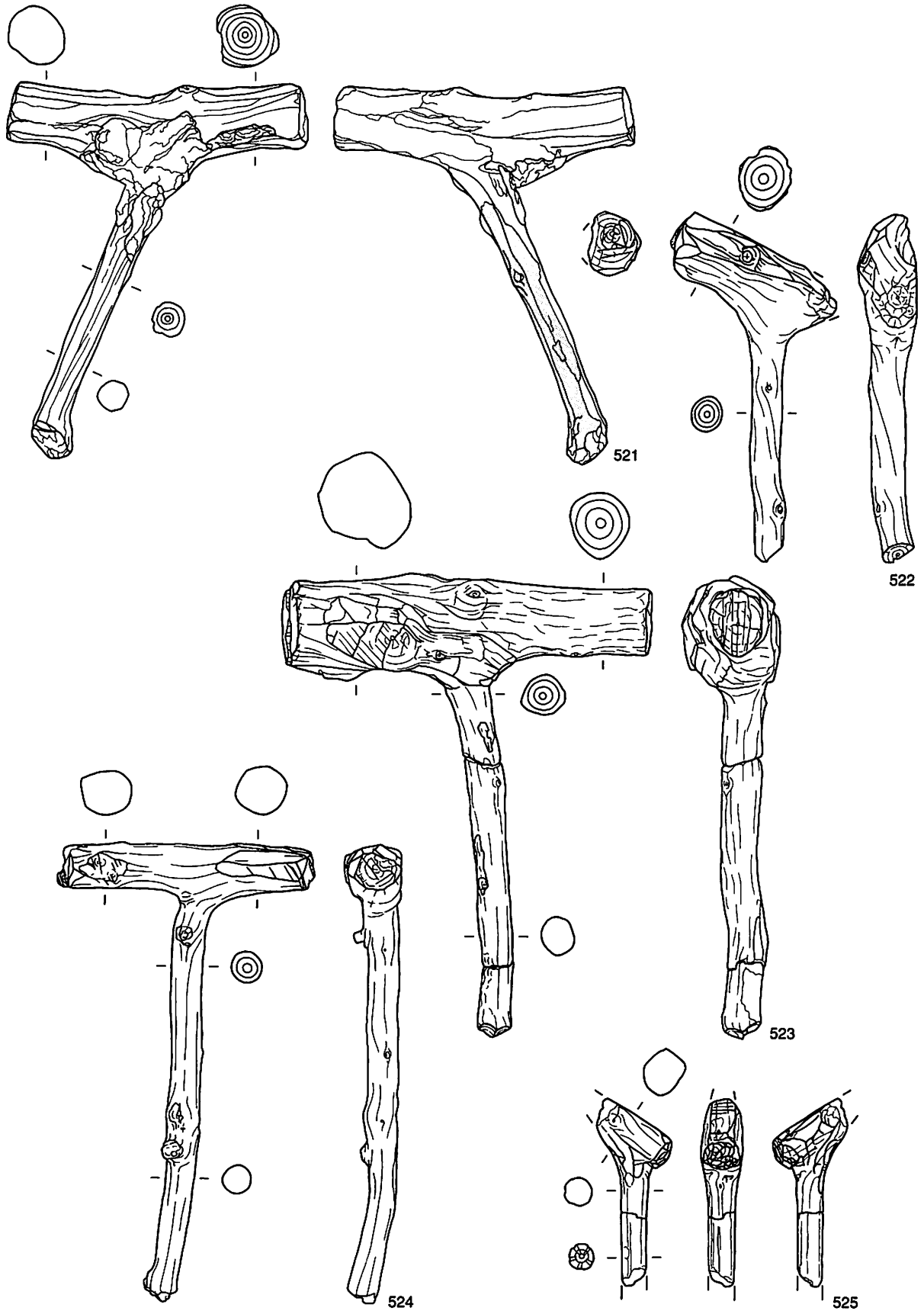




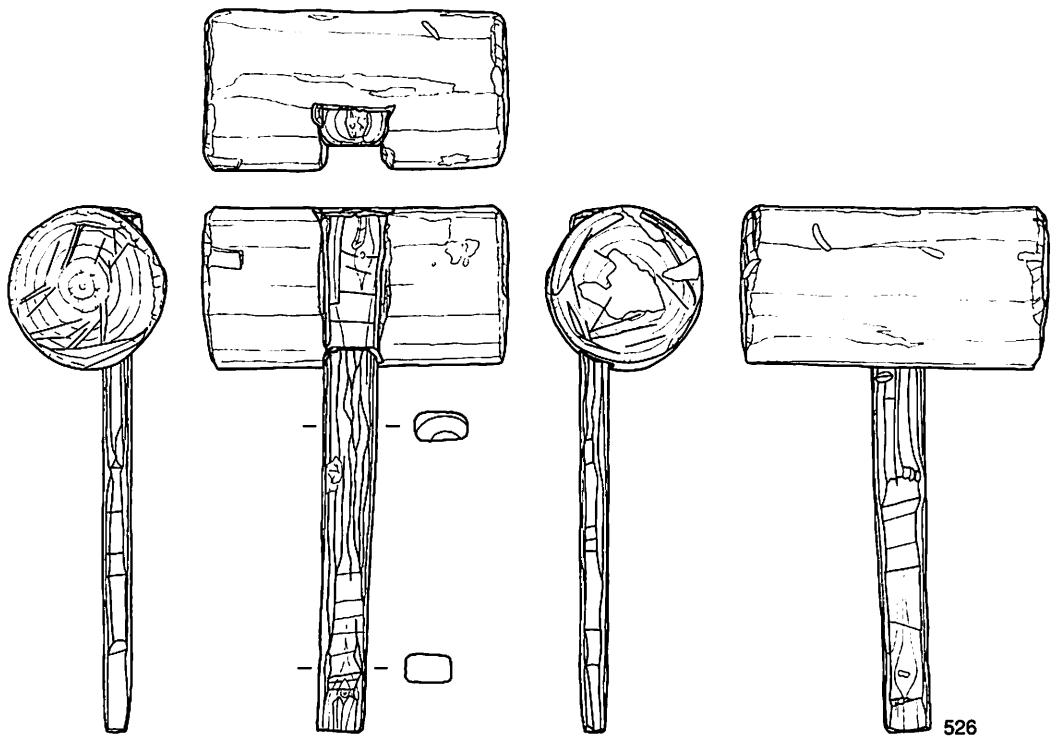
図V-139 工具3 (縦槌③)



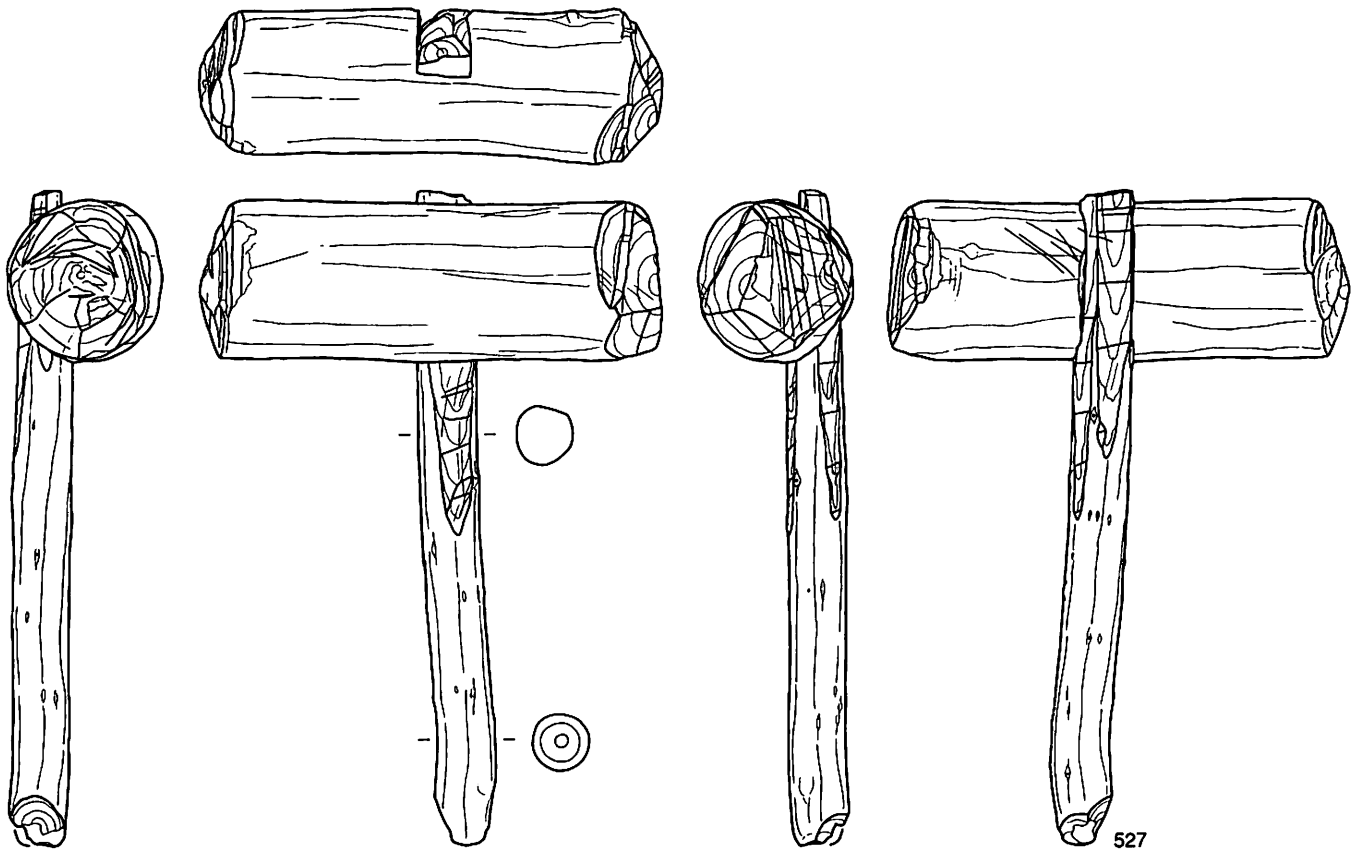
図V-140 工具4 (縦槌④)



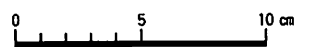
図V-141 工具5 (縦植⑤)



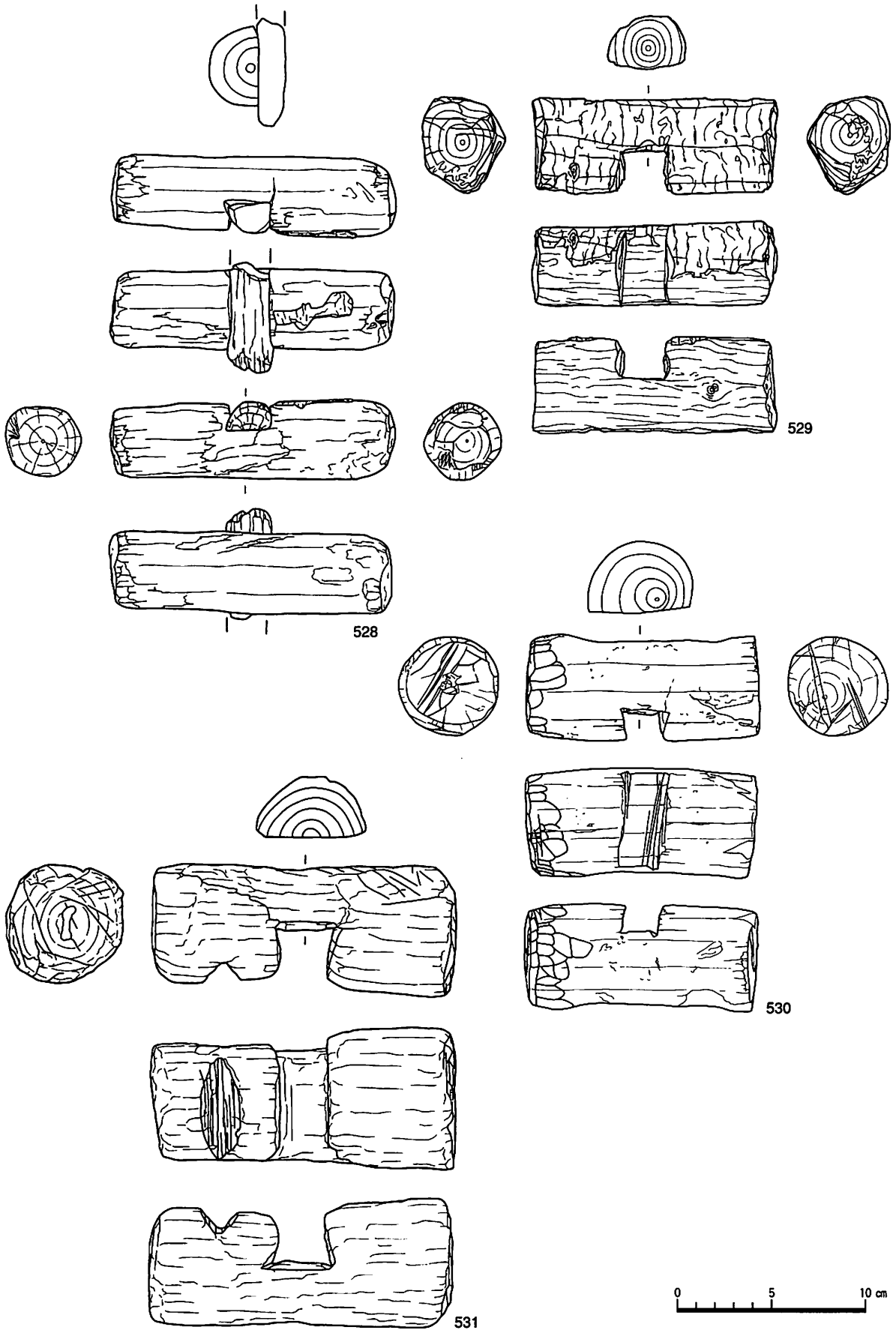
526



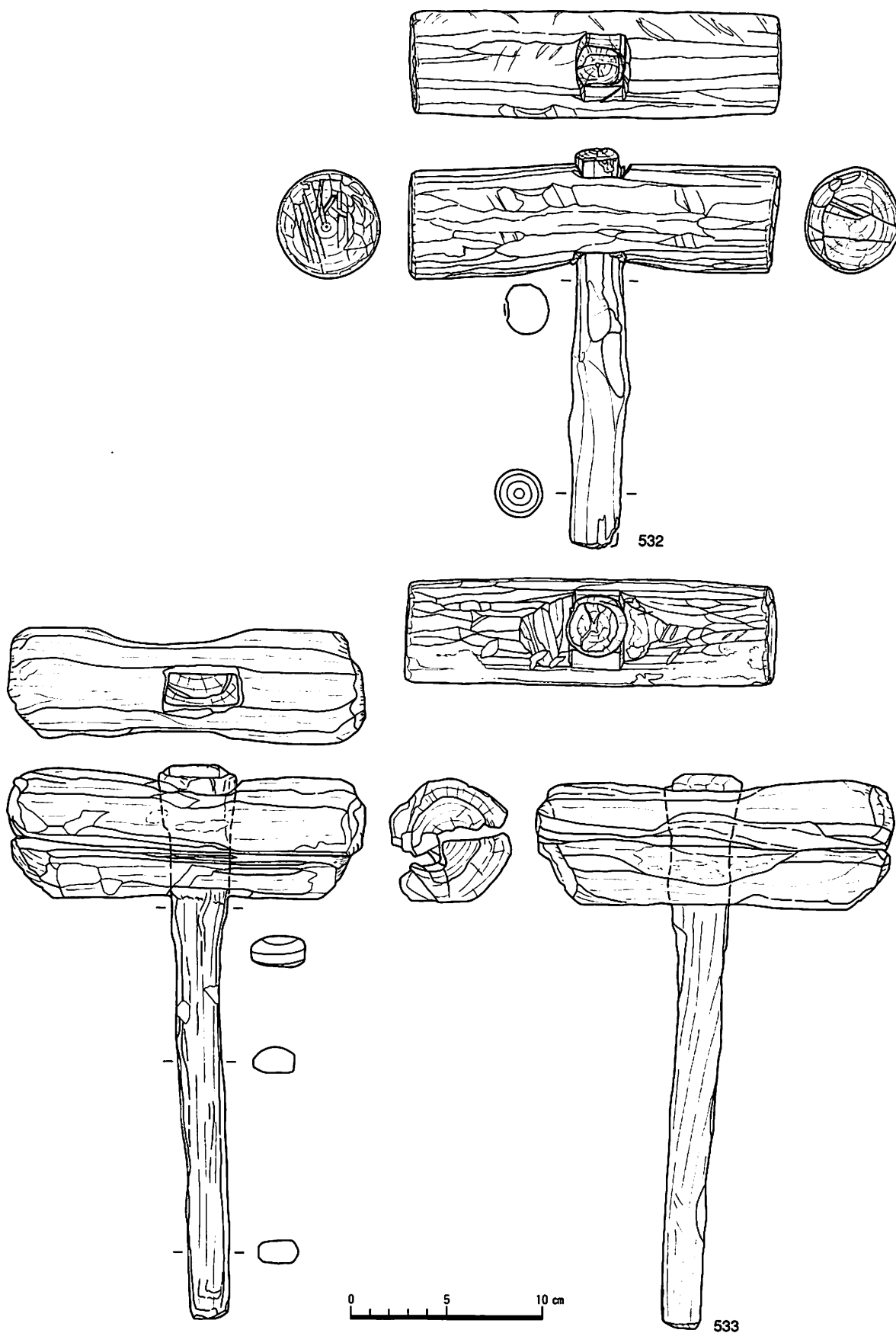
527



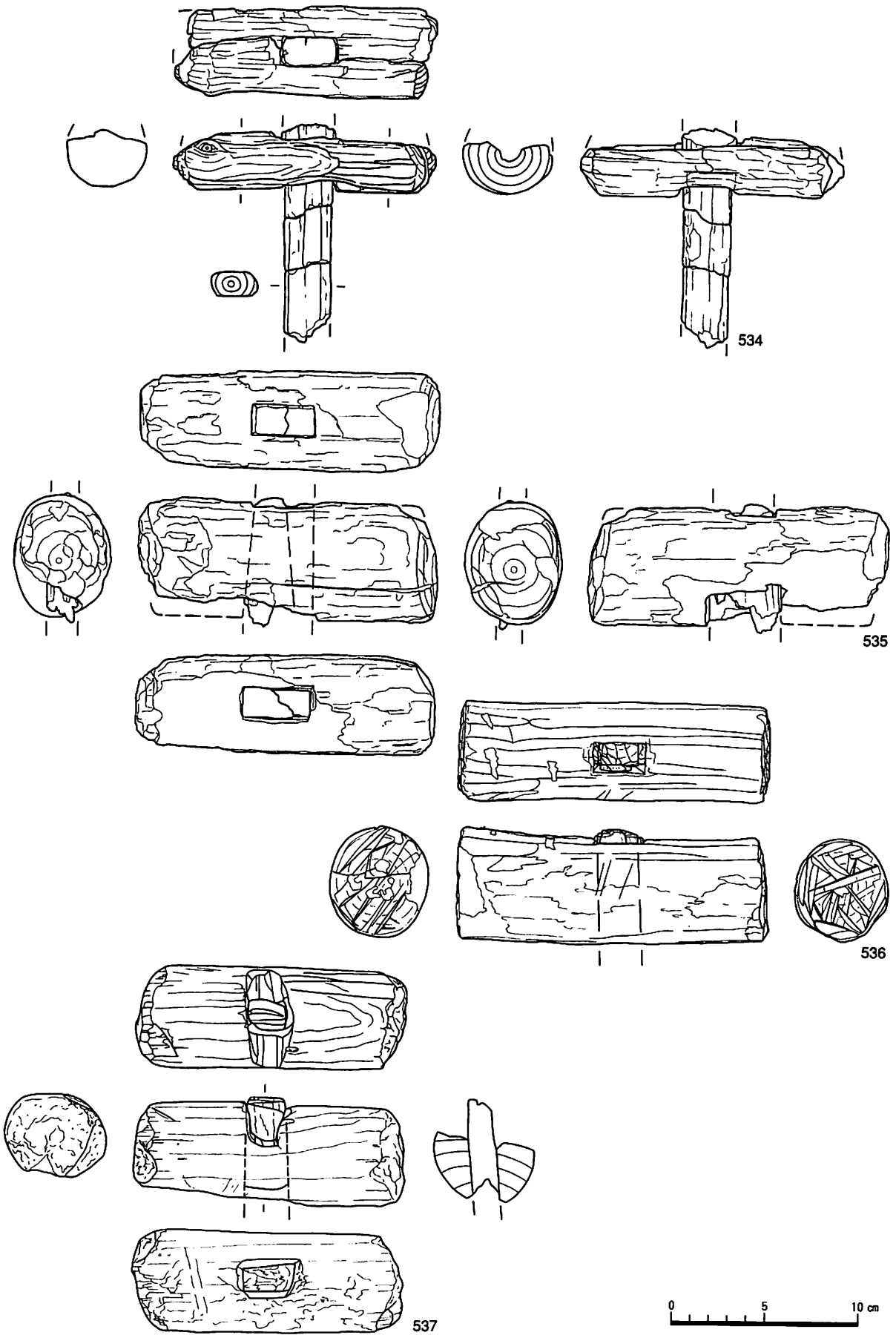
図V-142 工具6 (縦槌⑥)



図V-143 工具7 (縦槌⑦)

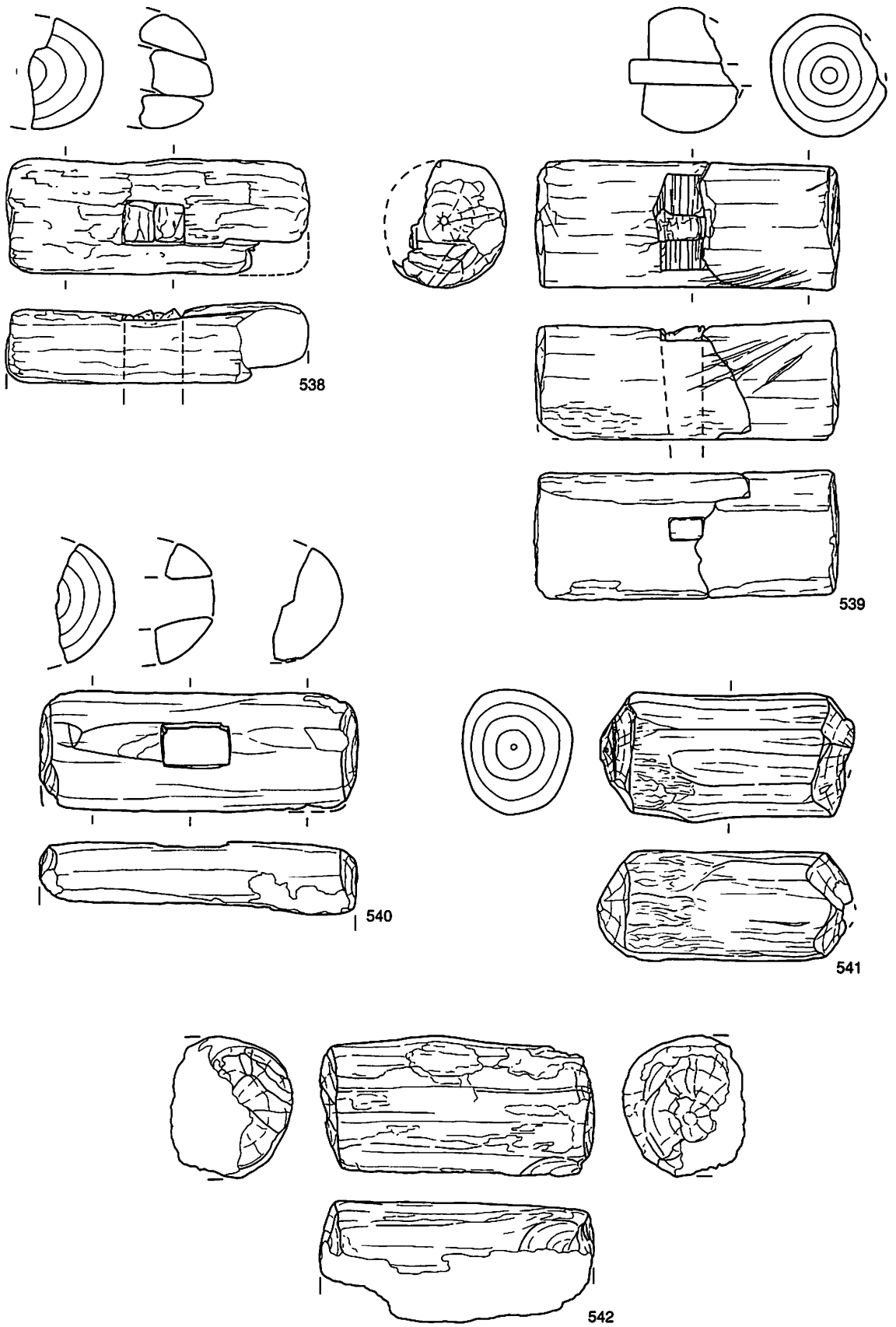


図V-144 工具8 (縦槌⑧)

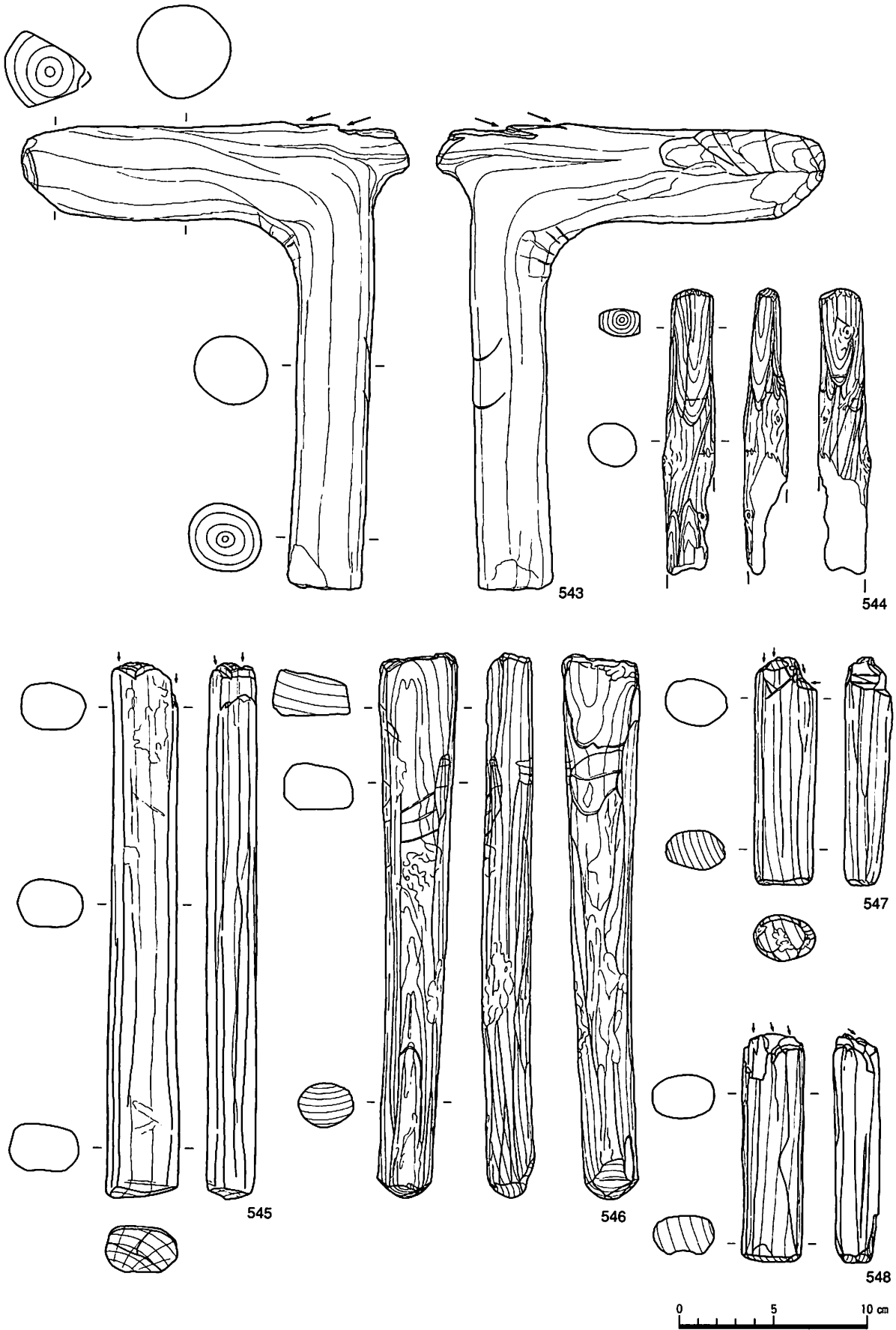


図V-145 工具9 (縦槌⑨)

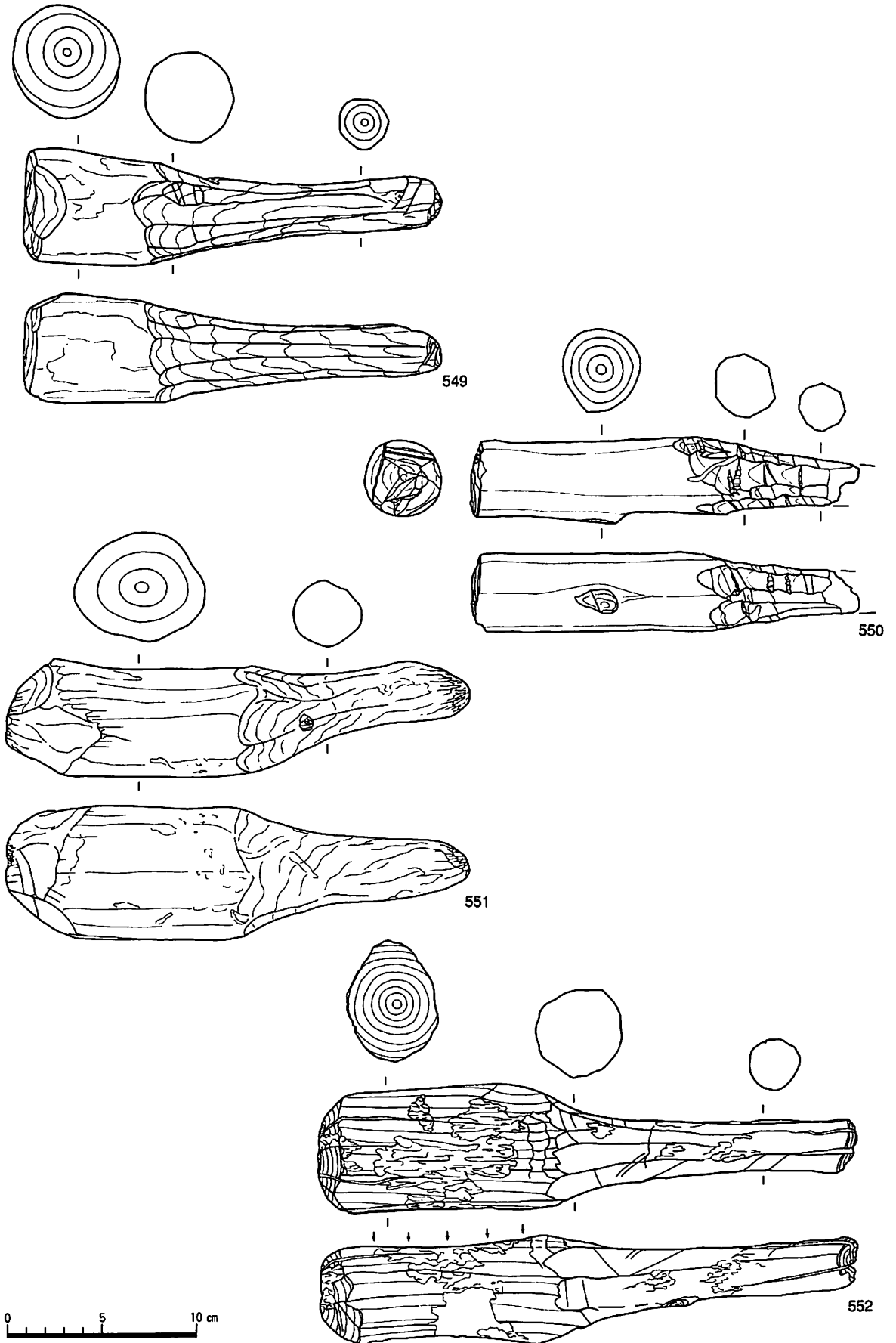




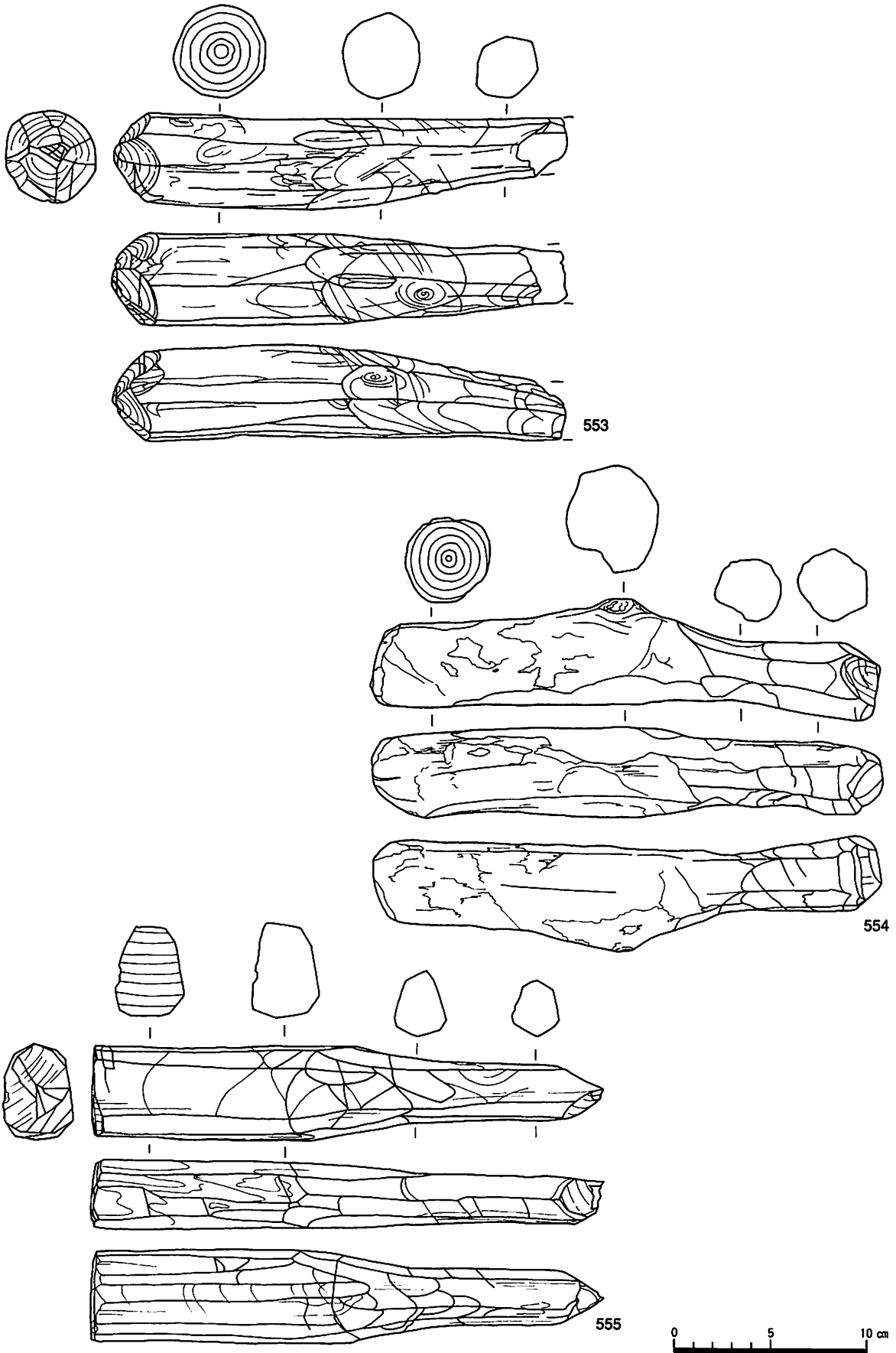
図V-146 工具10 (縦槌⑩)



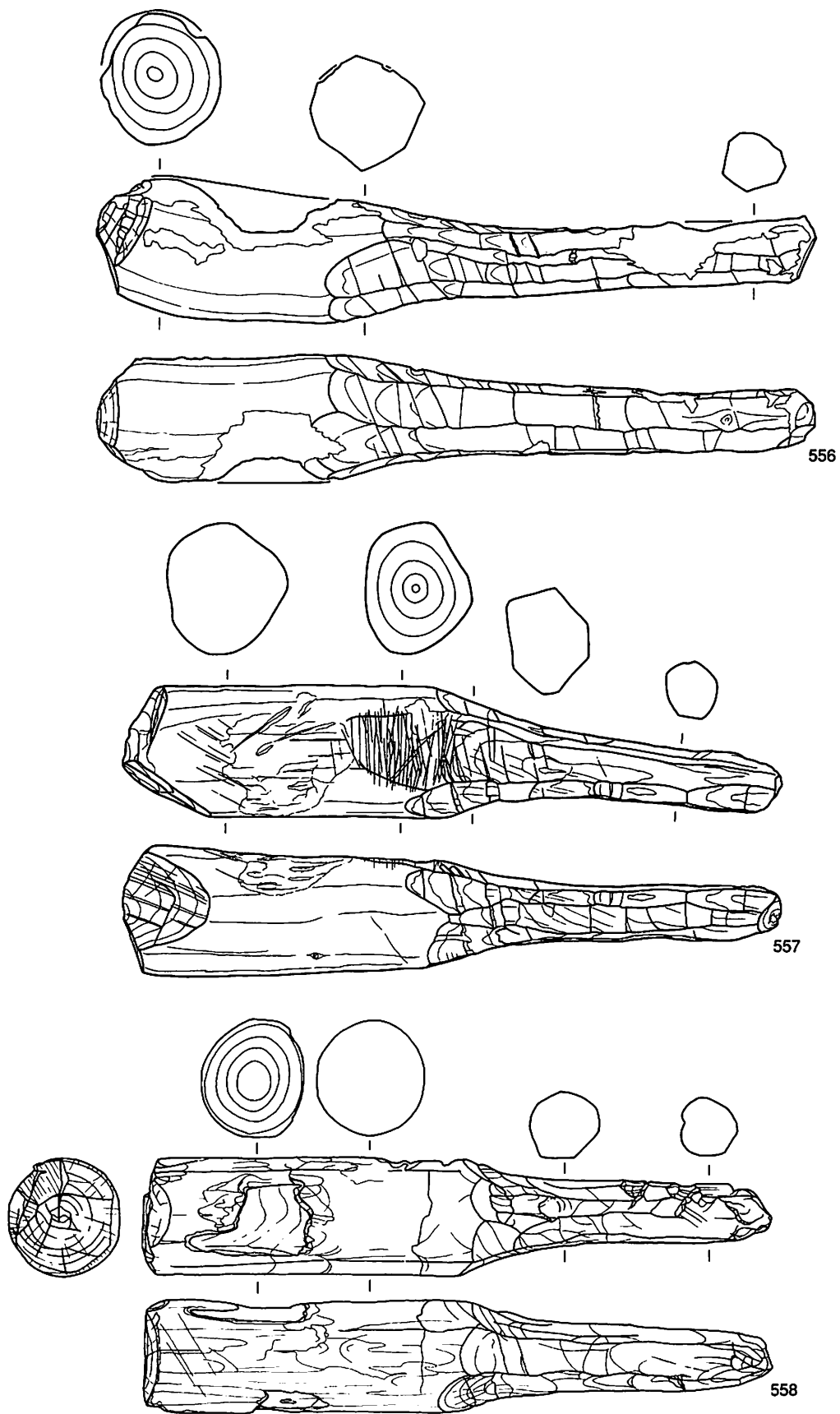
図V-147 工具11 (鉄斧または縦槌柄)



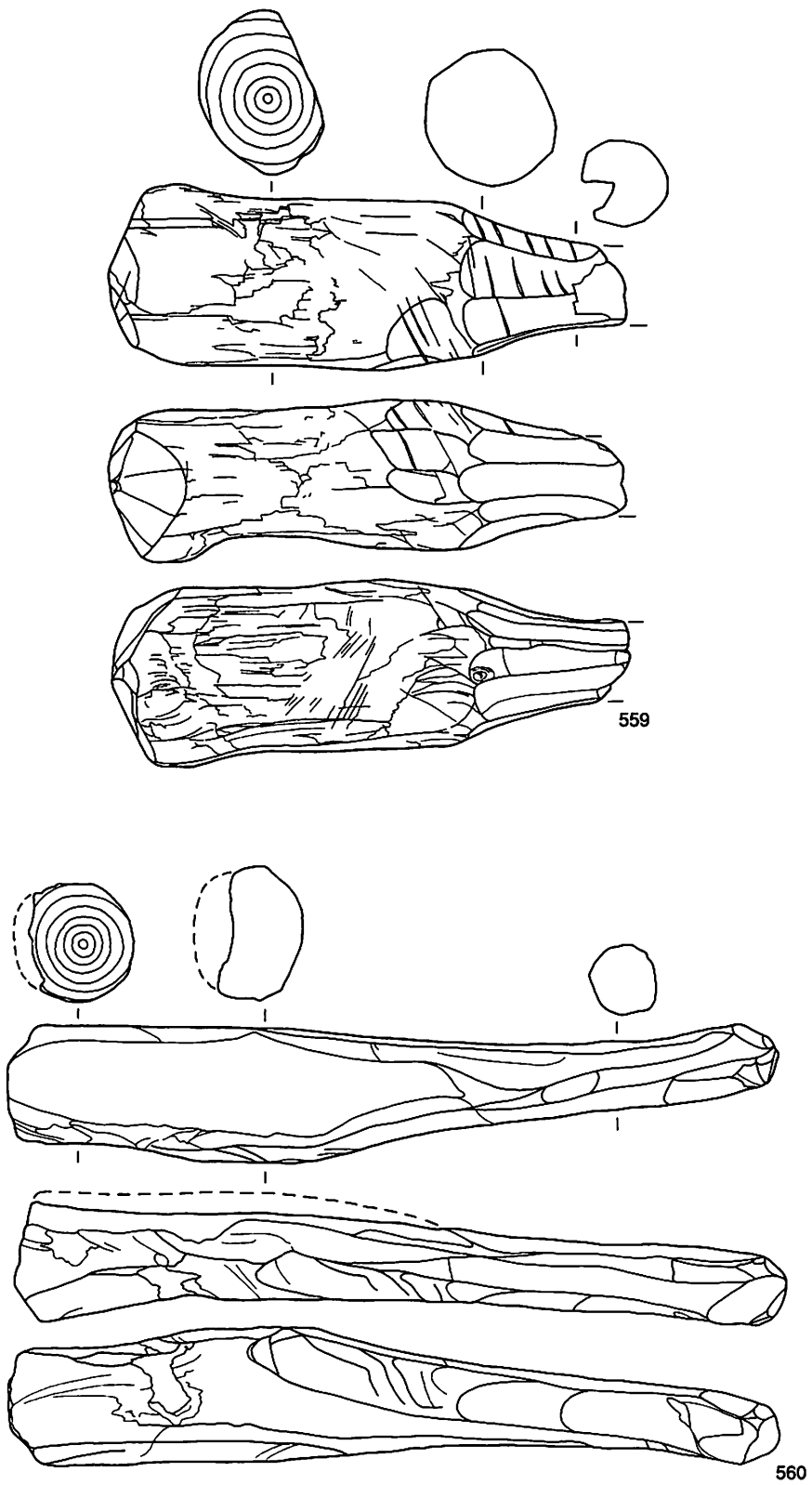
図V-148 農耕・工具1 (横槌①)



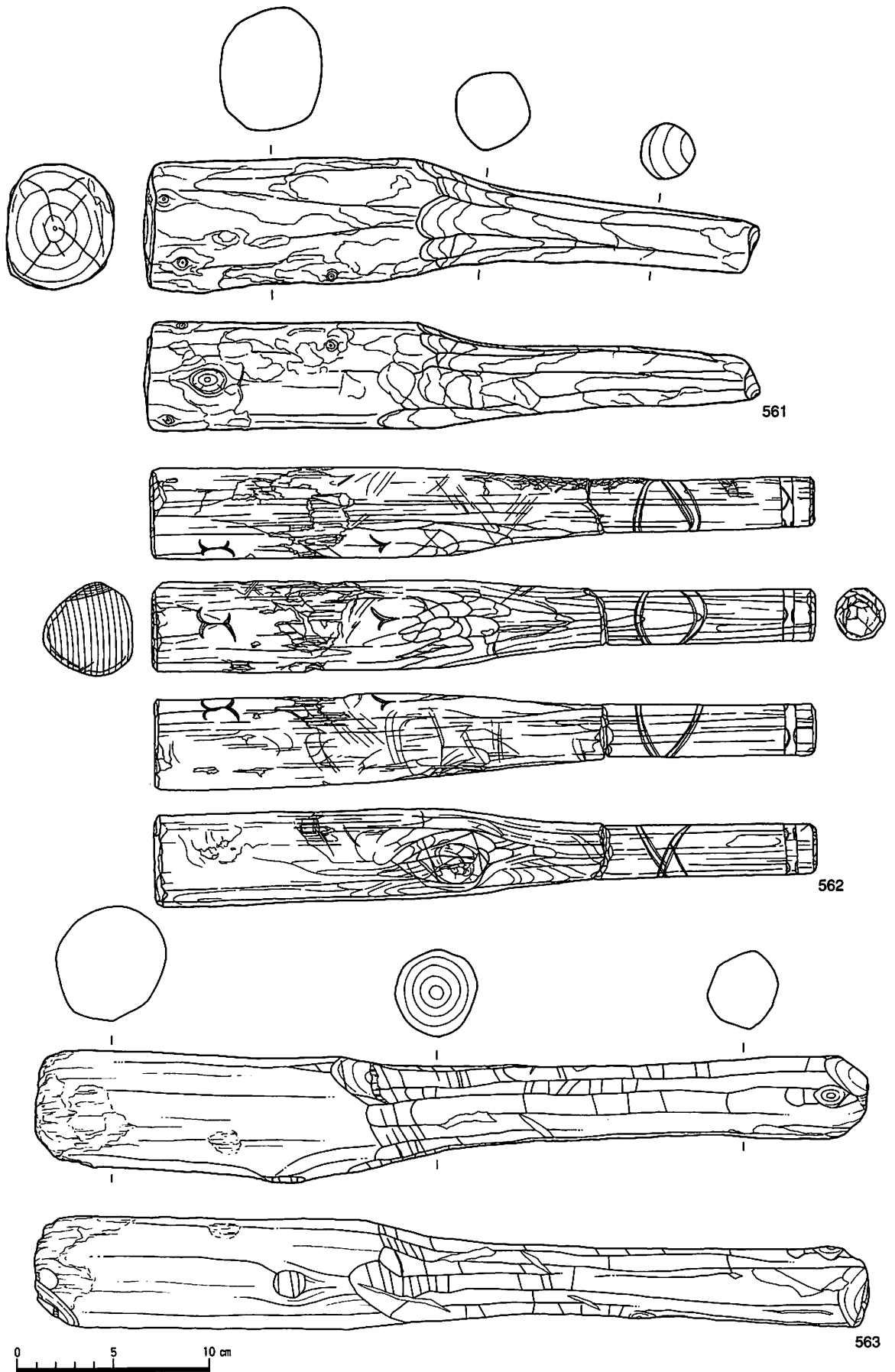
図V-149 農耕・工具2 (横槌②)



図V-150 農耕・工具3 (横槌③)

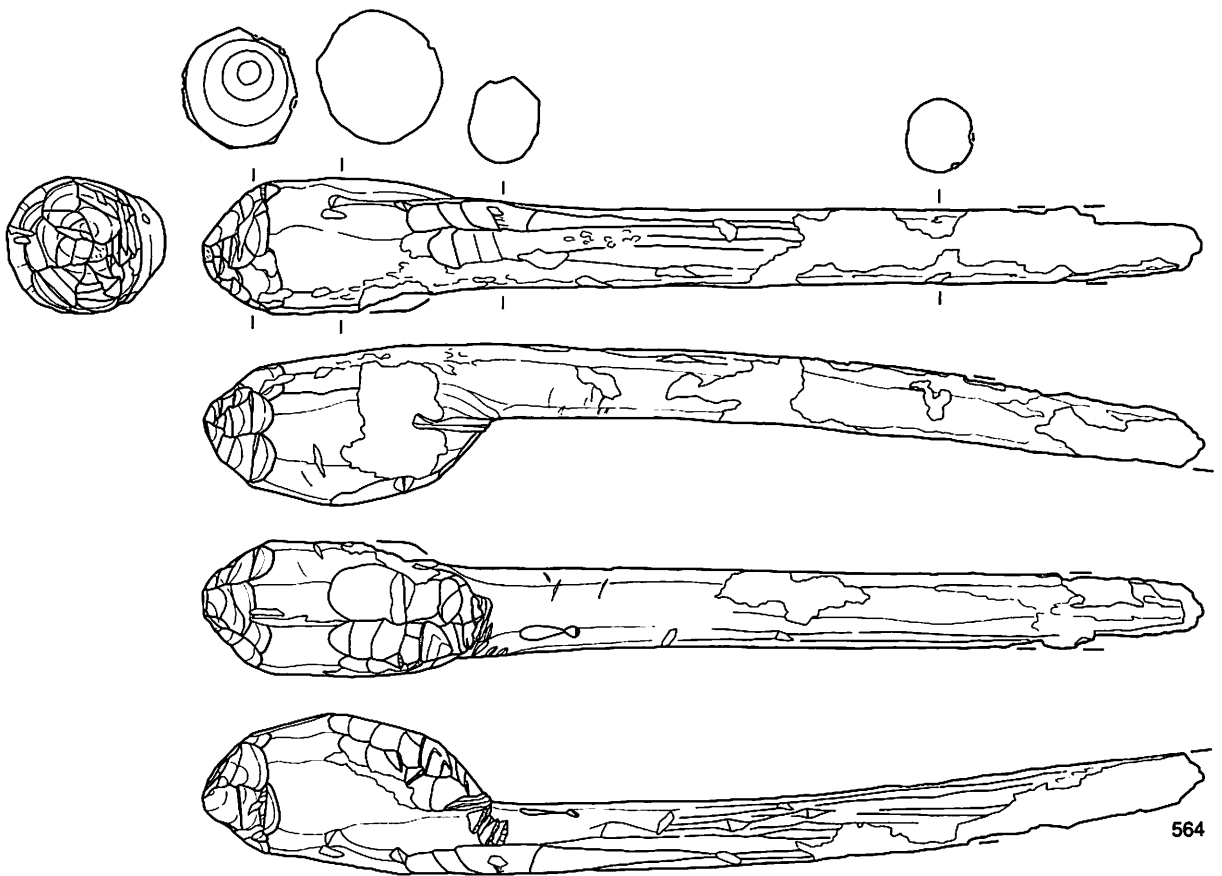


図V-151 農耕・工具4 (横槌④)

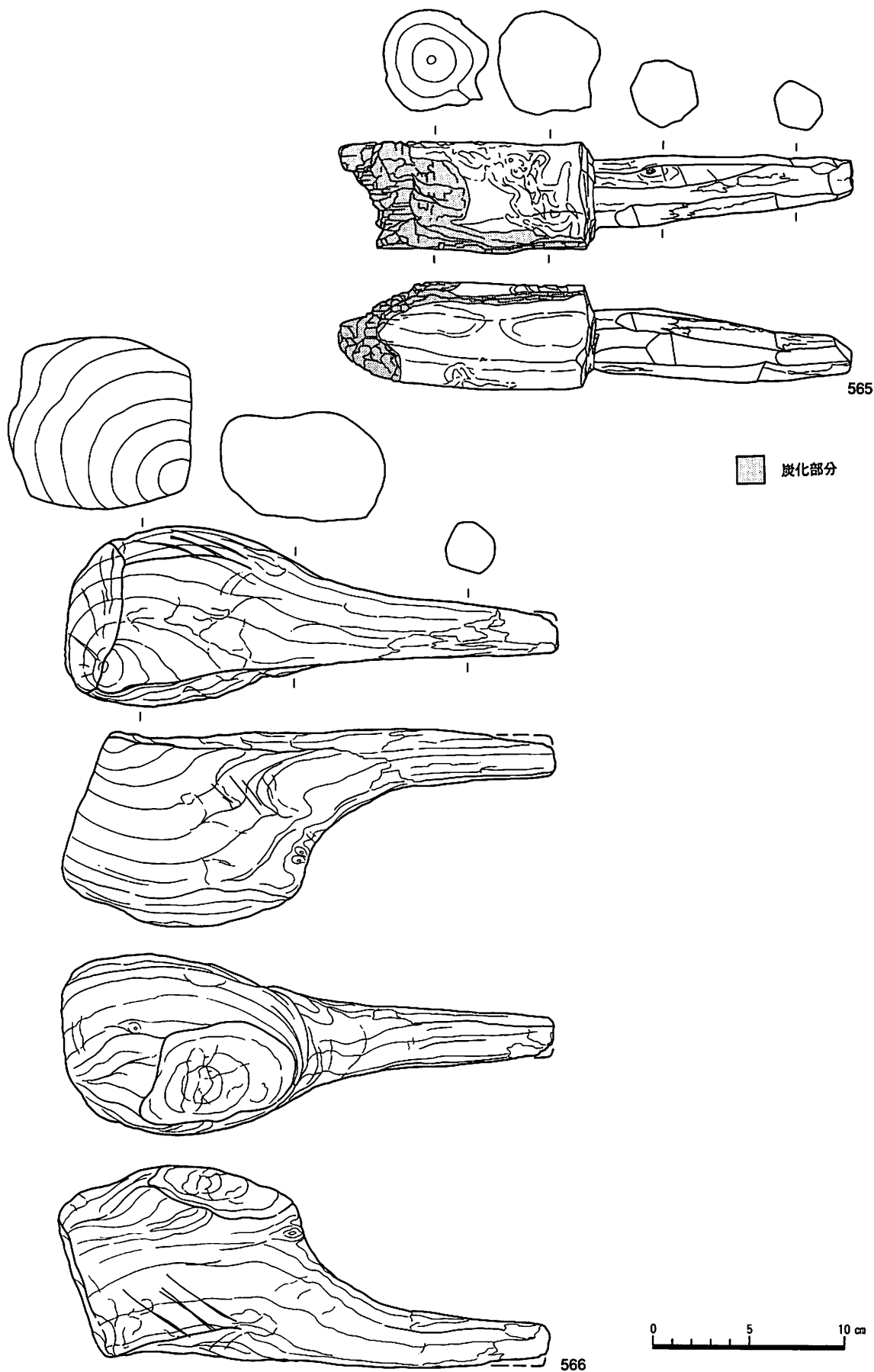


図V-152 農耕・工具5・漁撈具? (横槌⑤)

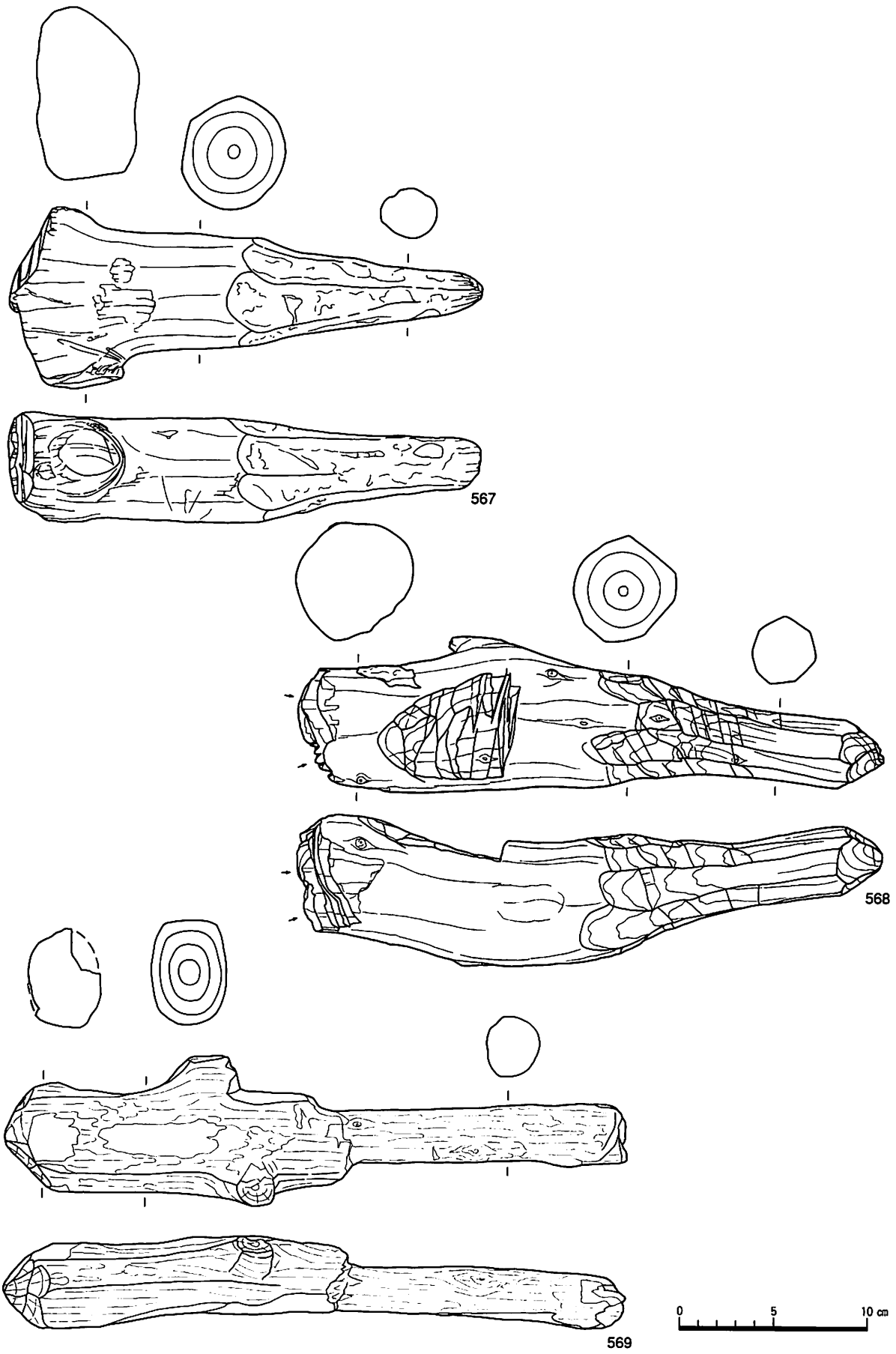




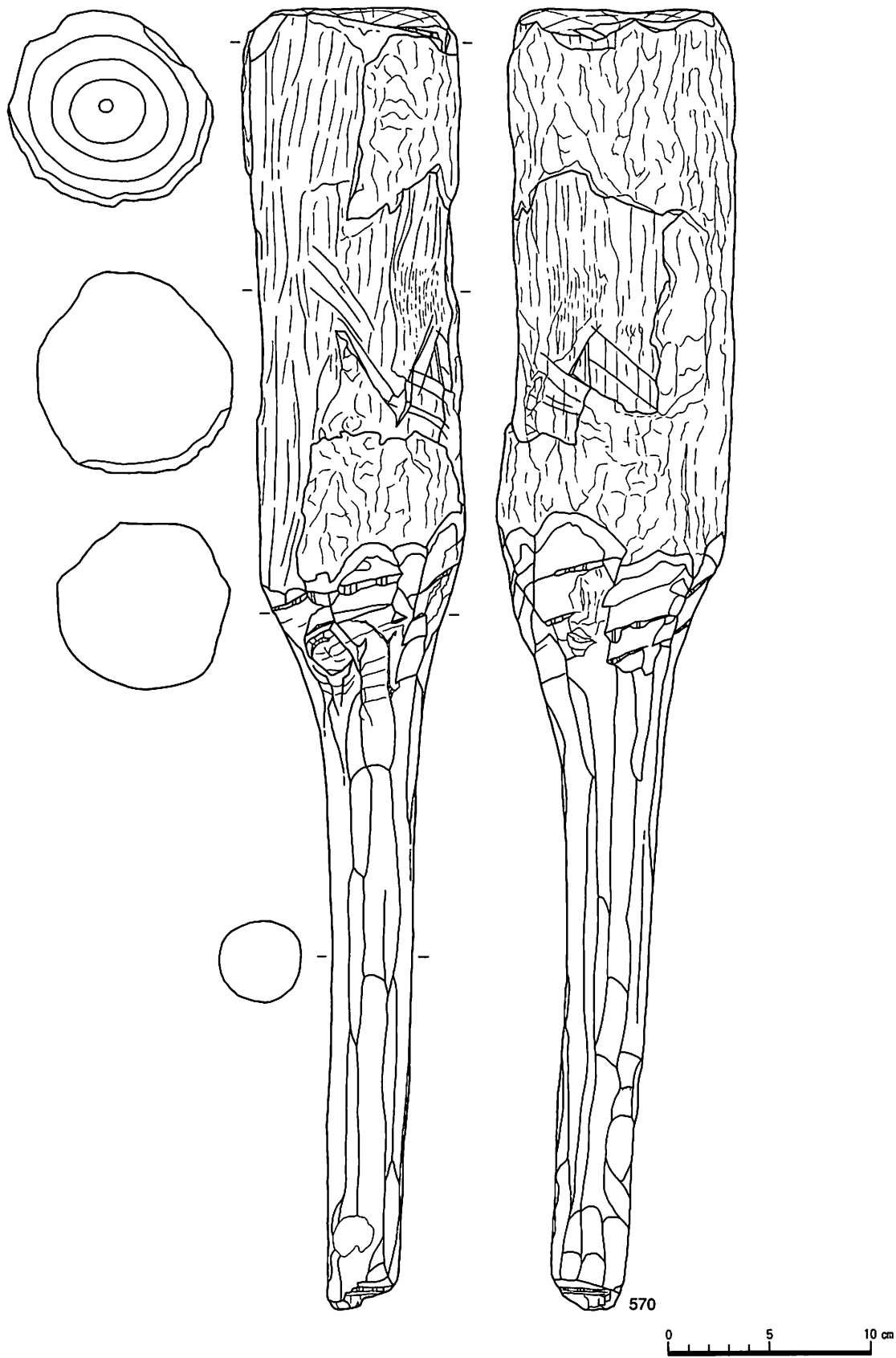
図V-153 農耕・工具6 (横槌⑥)



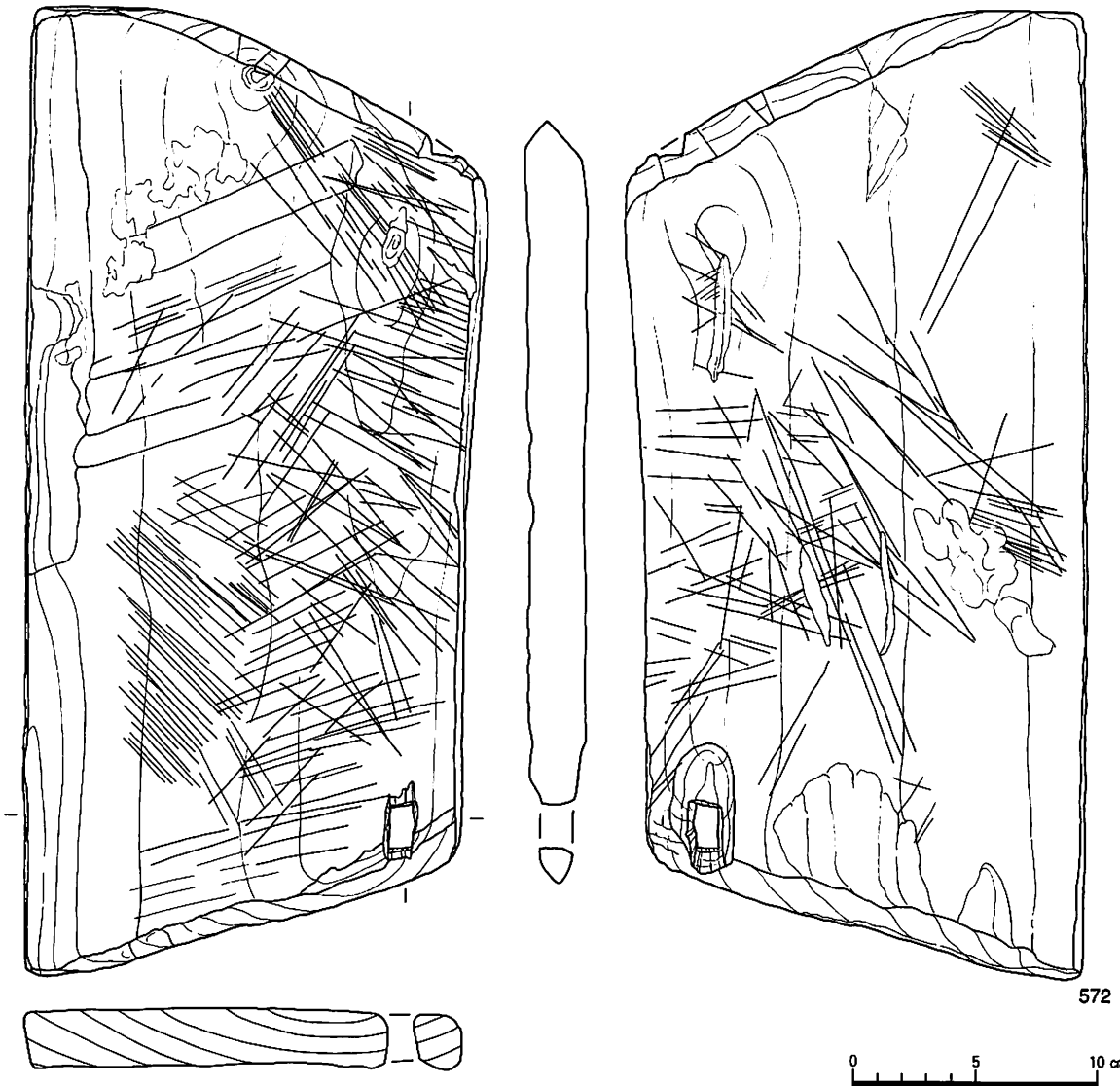
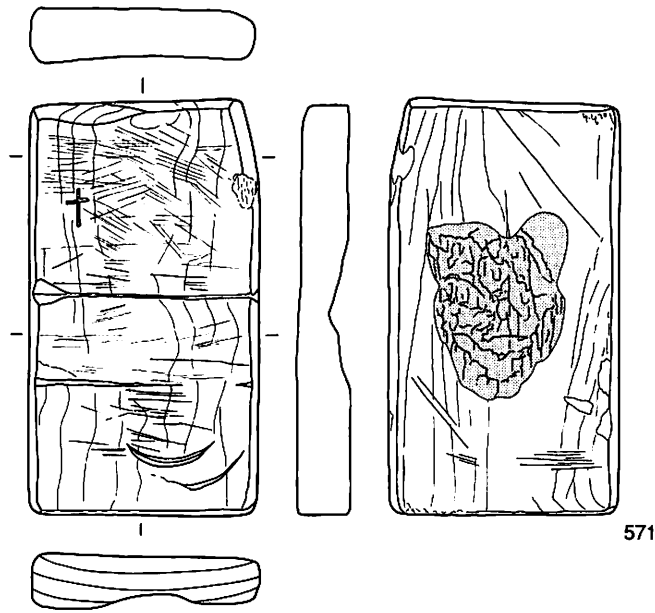
図V-154 農耕・工具7 (横槌⑦)



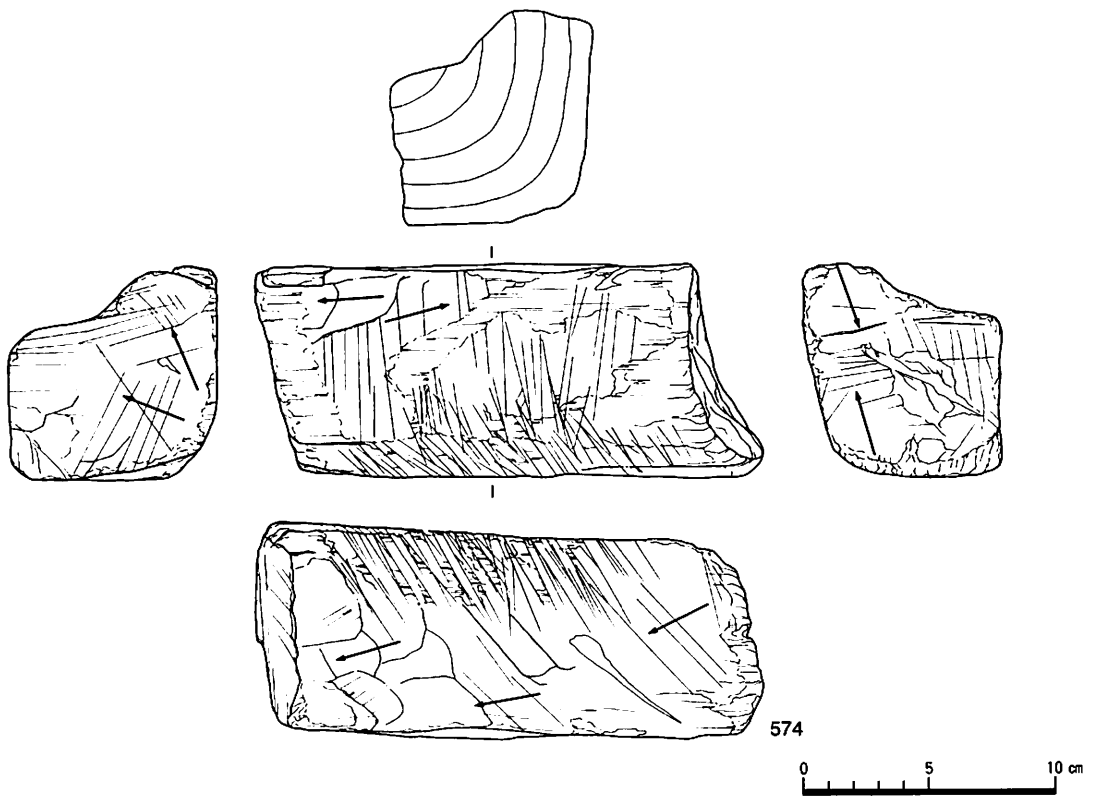
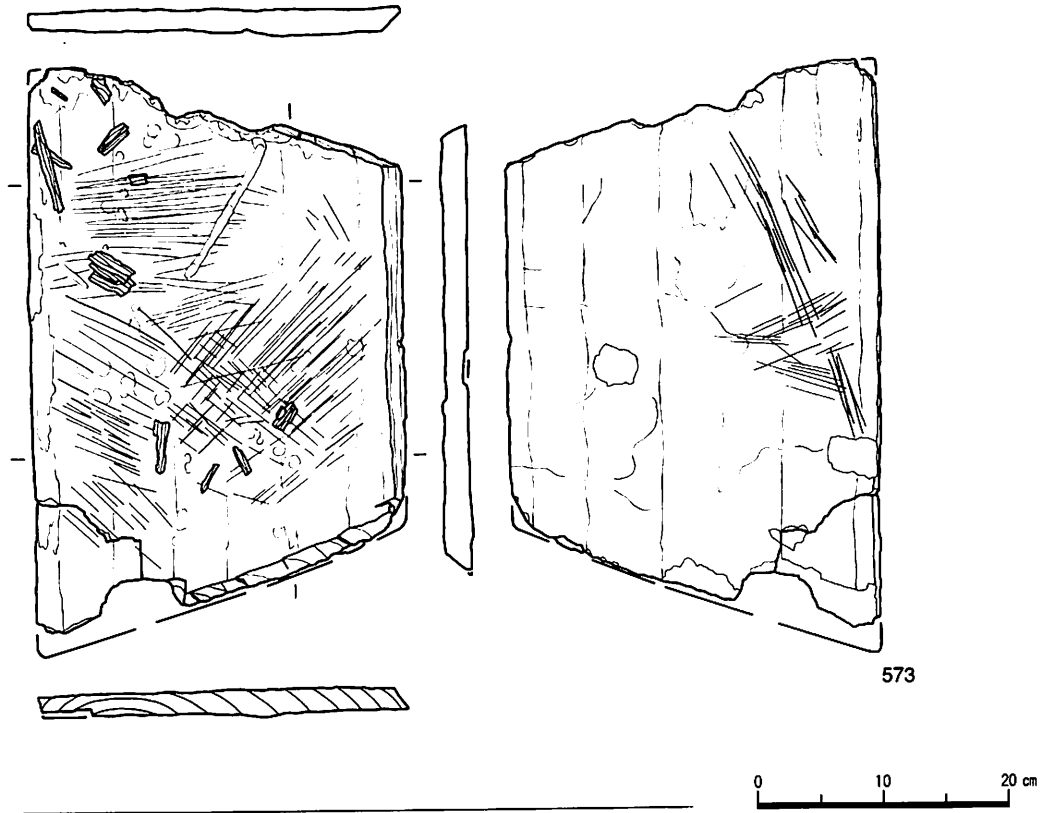
図V-155 農耕・工具8 (横槌未製品)



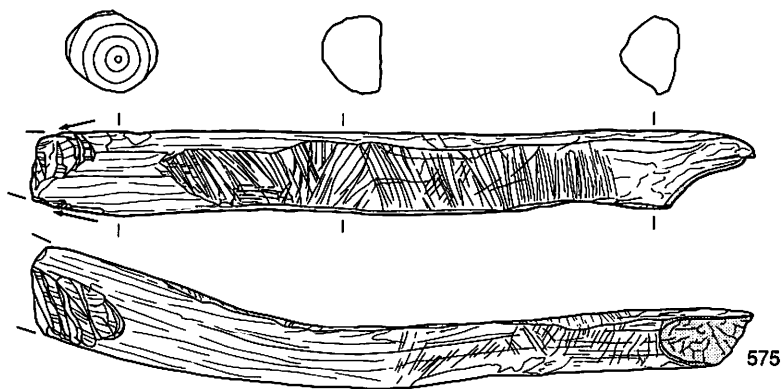
図V-156 農耕・工具9・土木具（掛矢）



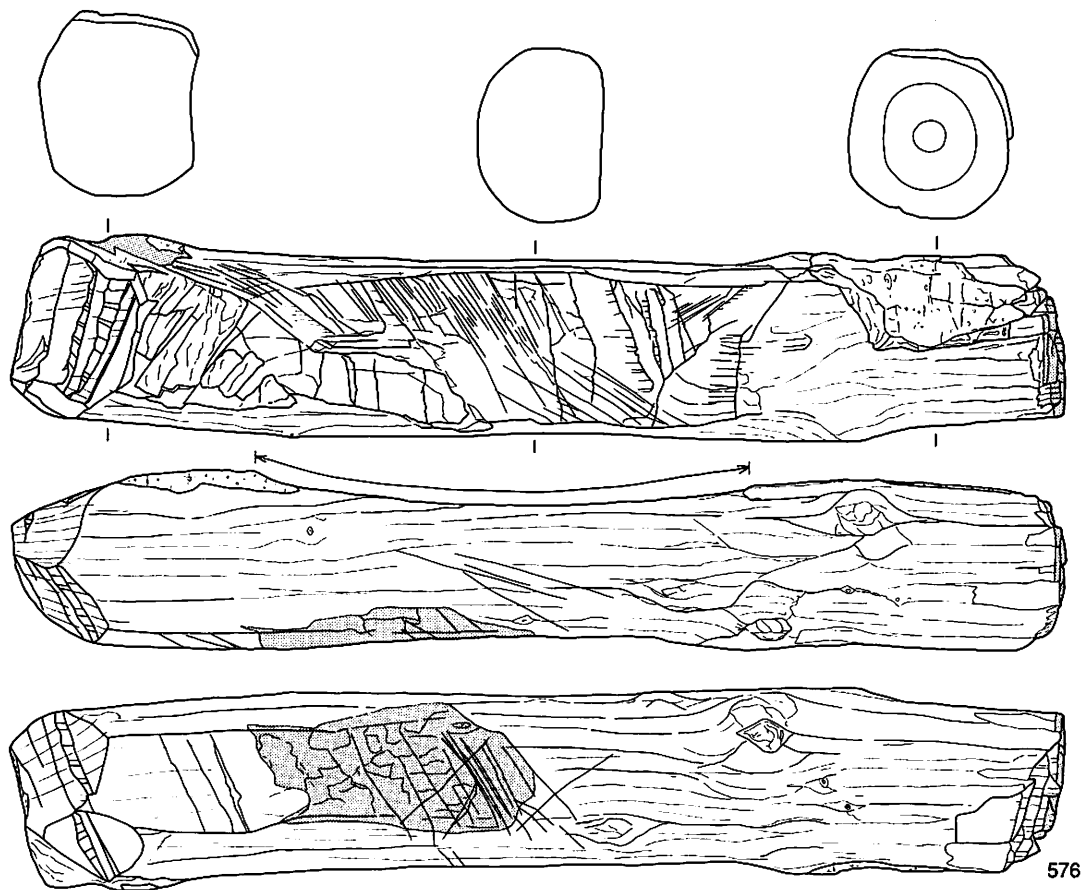
図V-157 農耕・工具10 (作業台①)



図V-158 農耕・工具11 (作業台②)



0 10 20 cm



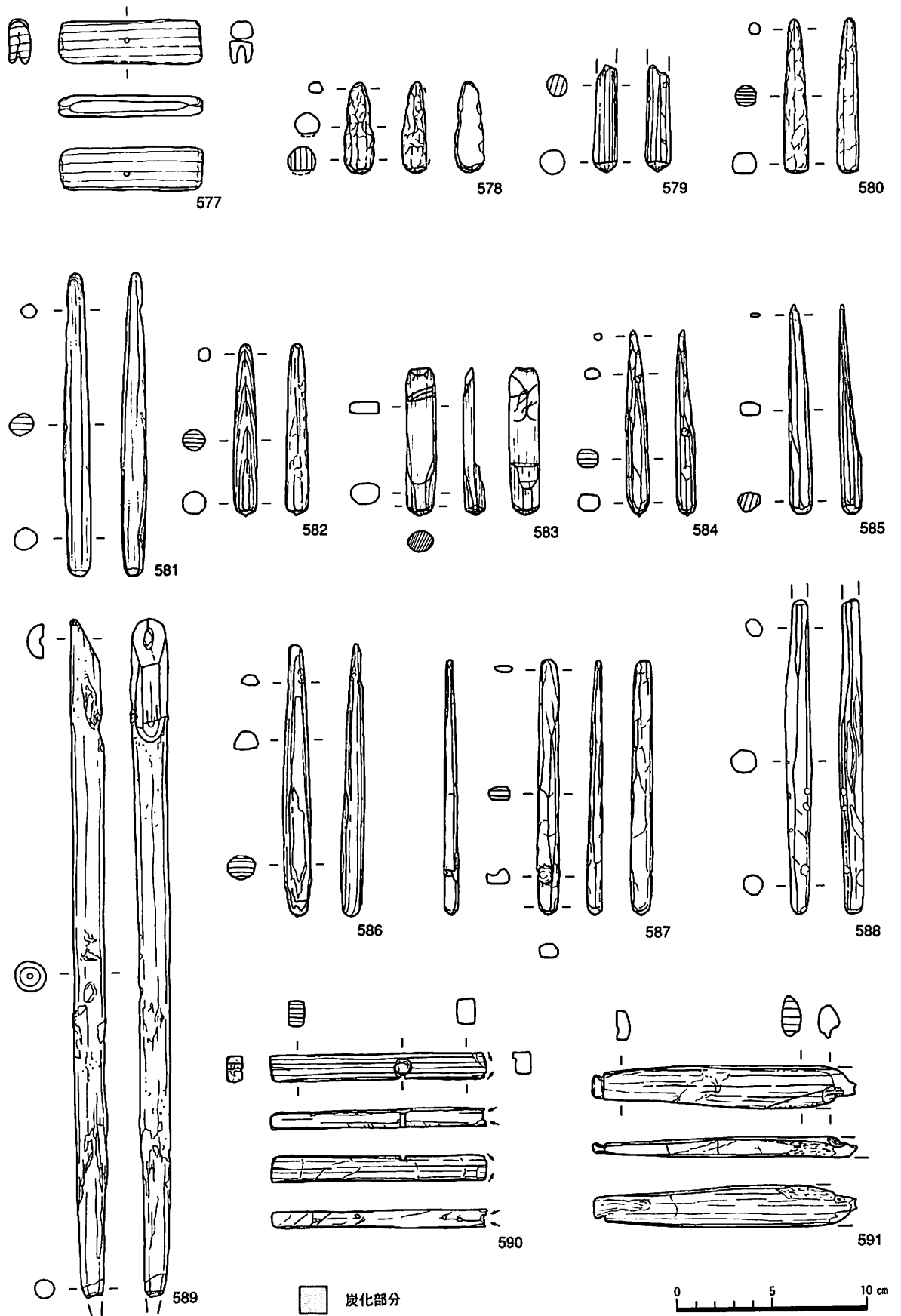
0 5 10 cm

■ 炭化部分

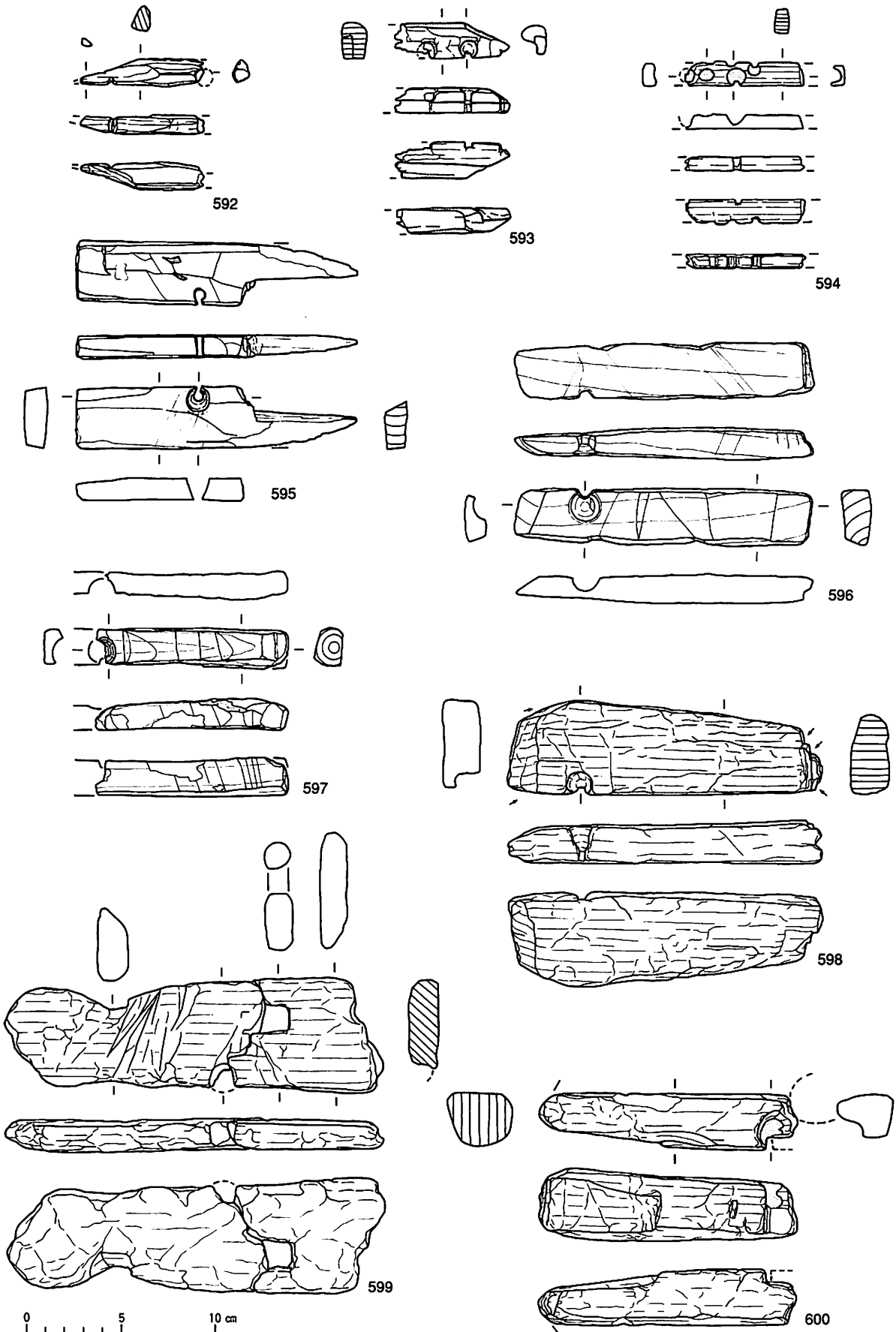
図 V - 159 農耕・工具12 (作業台③)



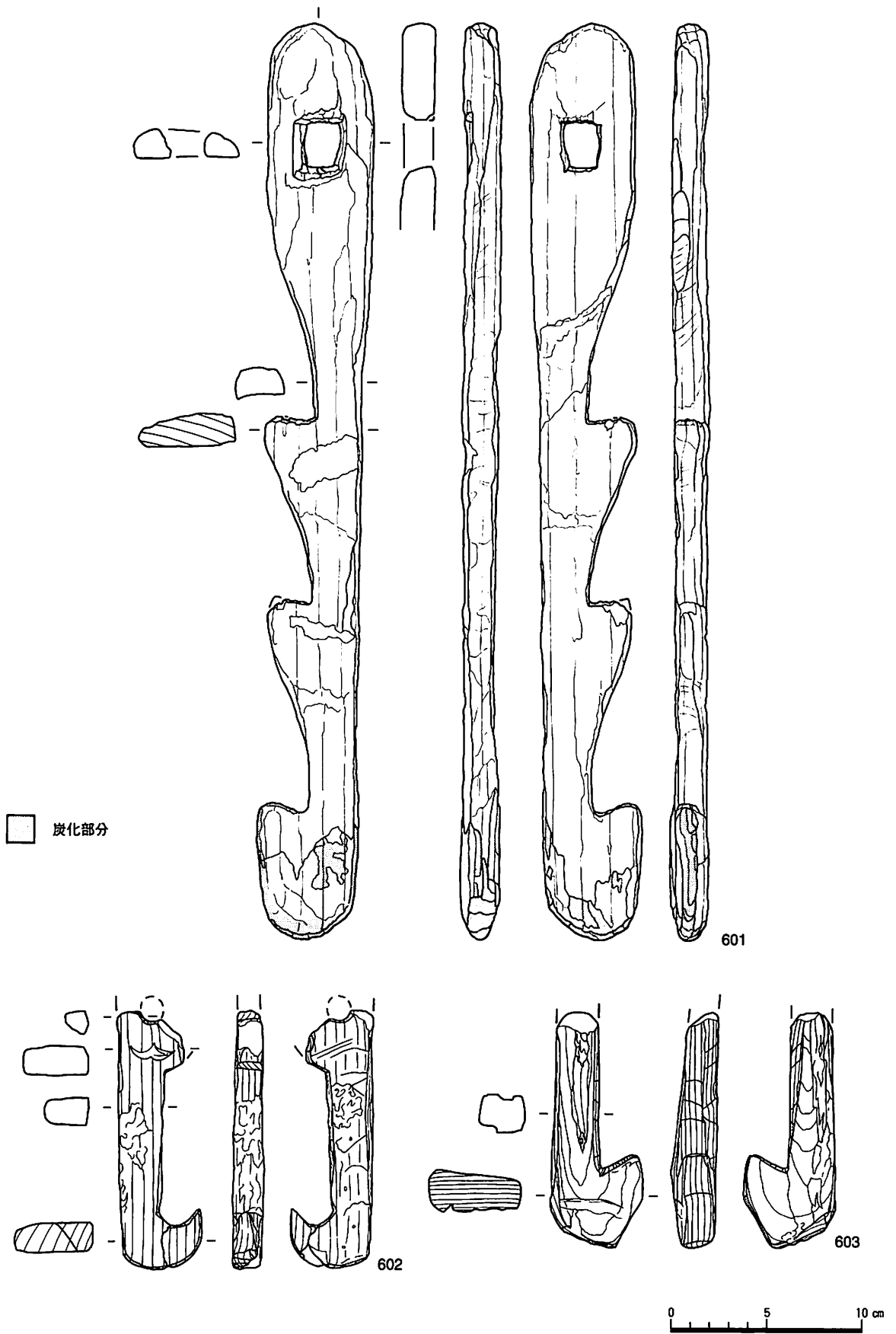
V 第0黒色土層の調査



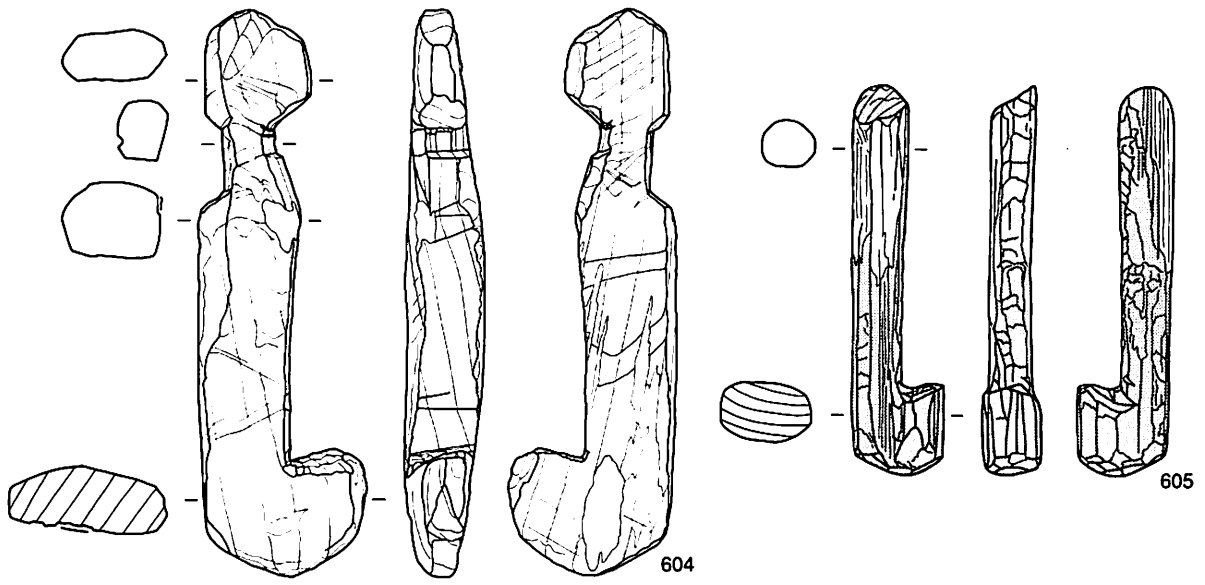
図V-160 発火具（ヒキリ棒・ヒキリ板①）



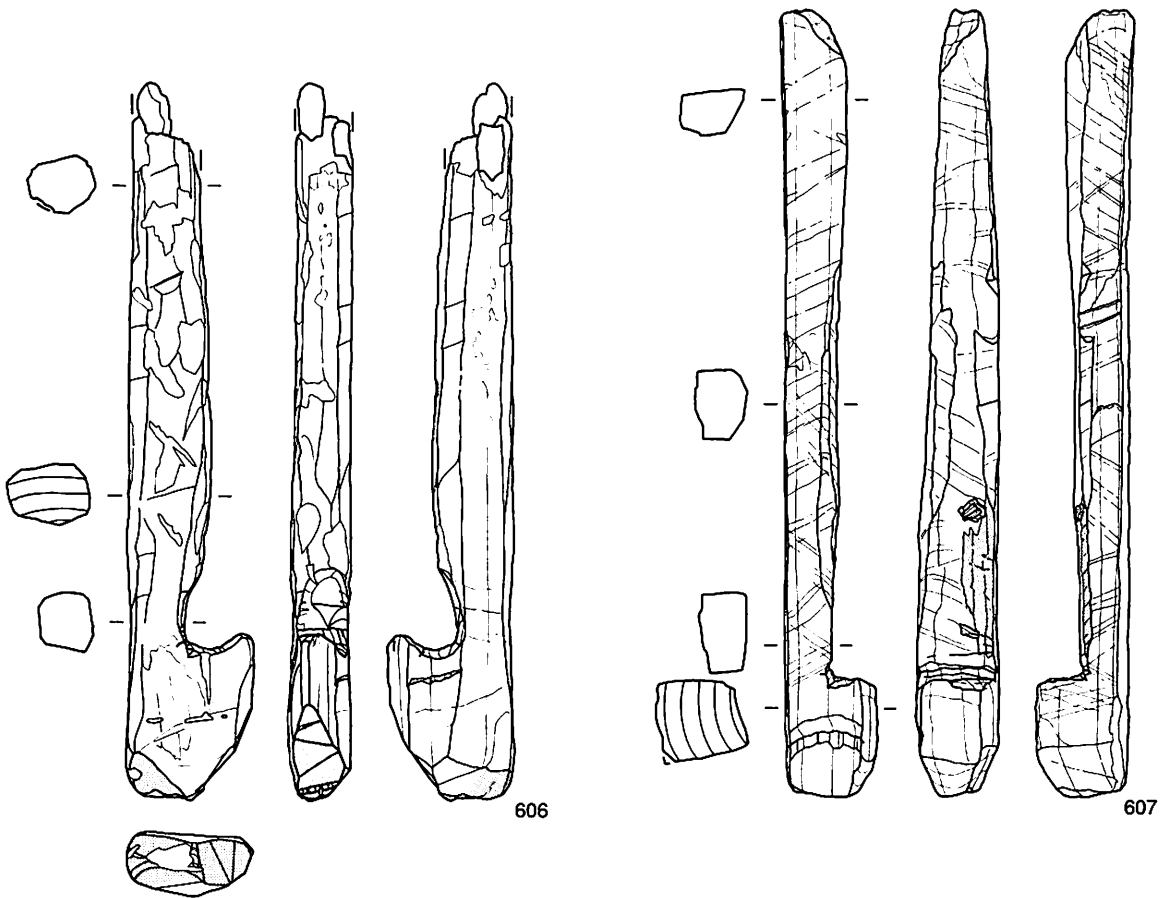
図V-161 発火具 (ヒキリ棒・ヒキリ板②)



図V-162 炉鉤 1

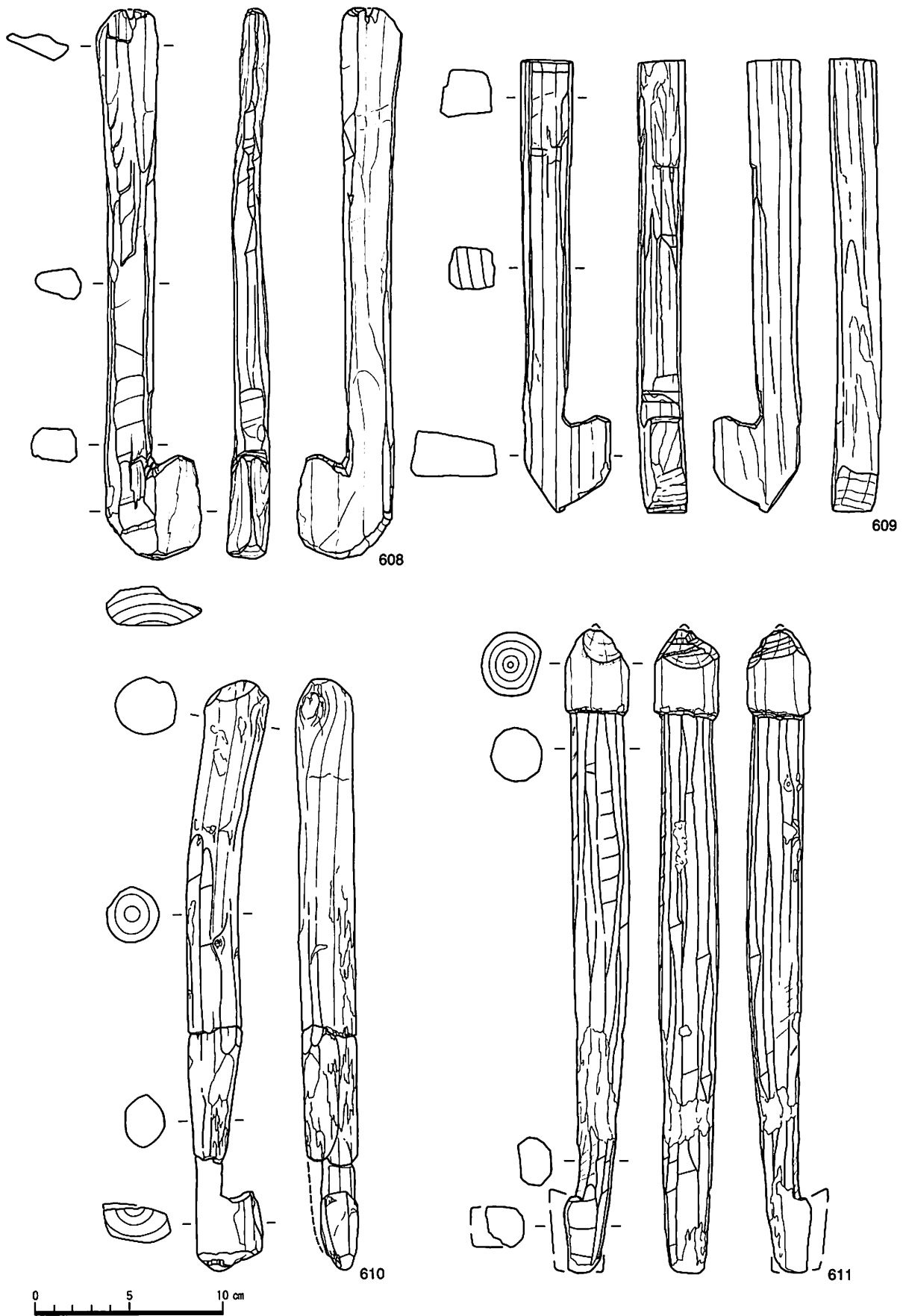


□ 炭化部分



0 5 10 cm

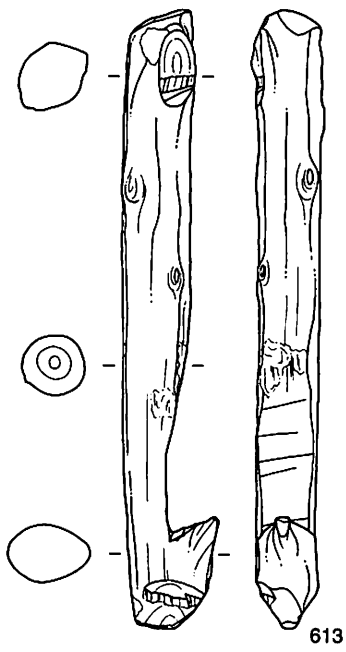
図V-163 炉鉤 2



図V-164 炉鉤3



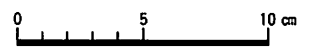
612



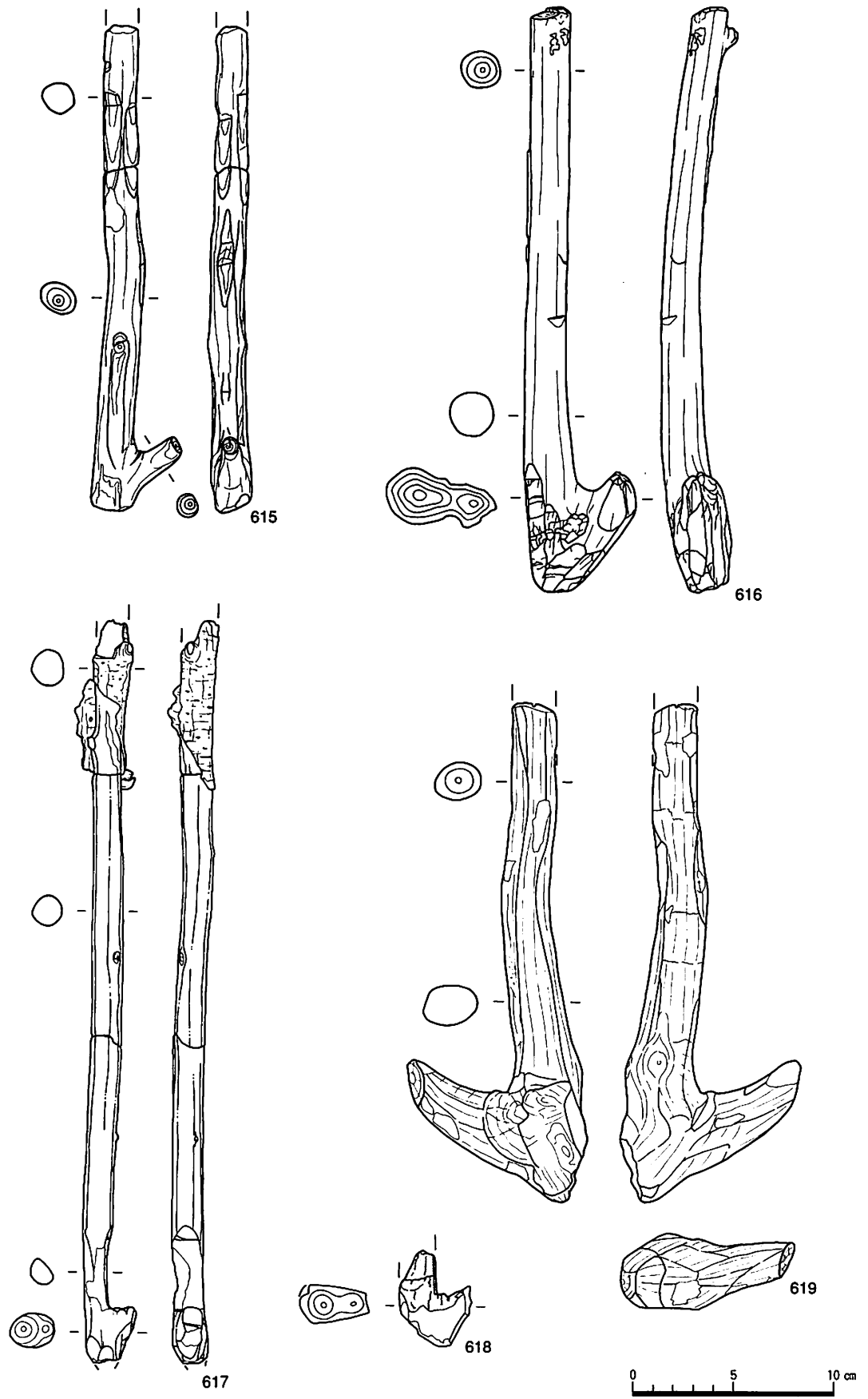
613



614

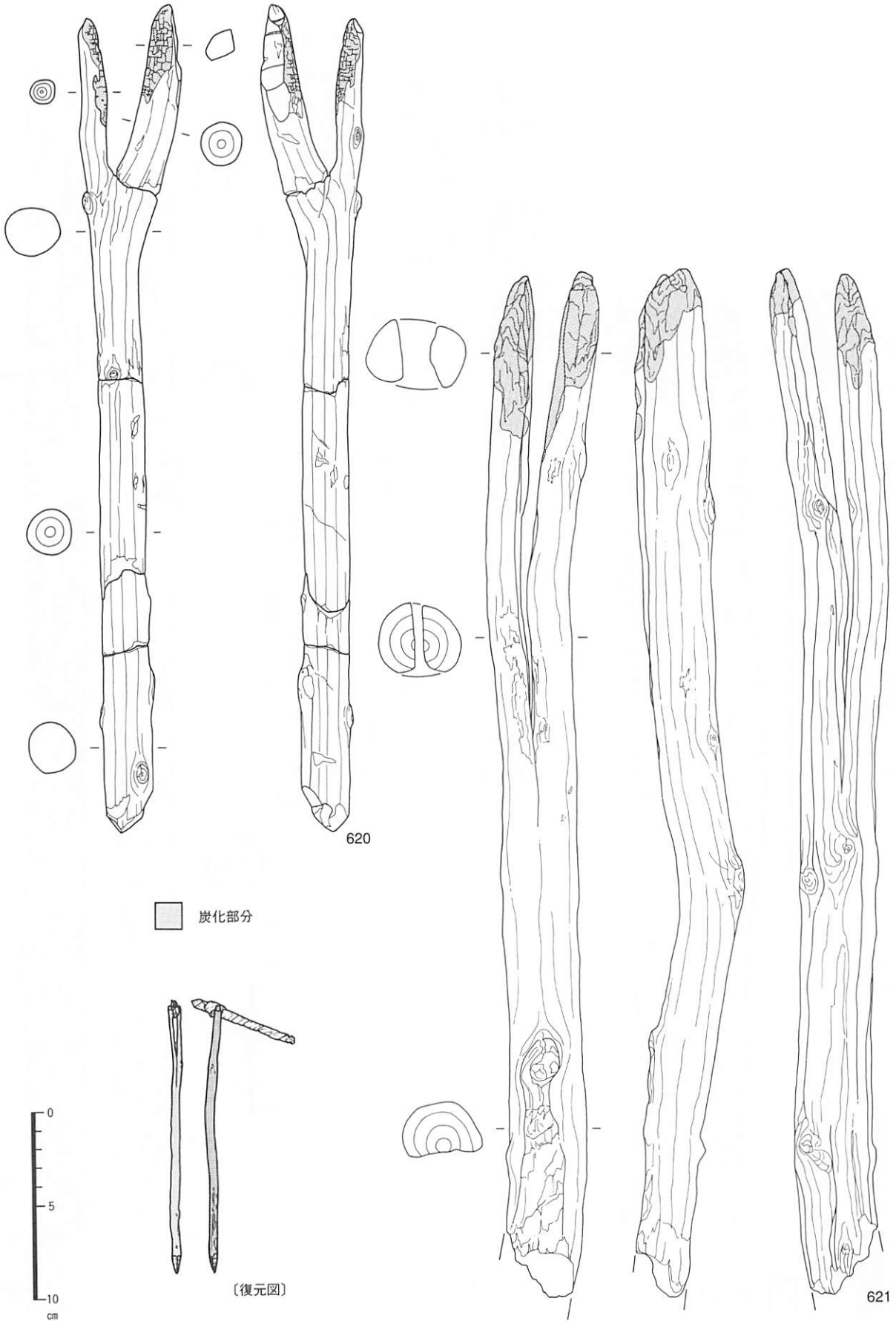


図V-165 炉鉤4

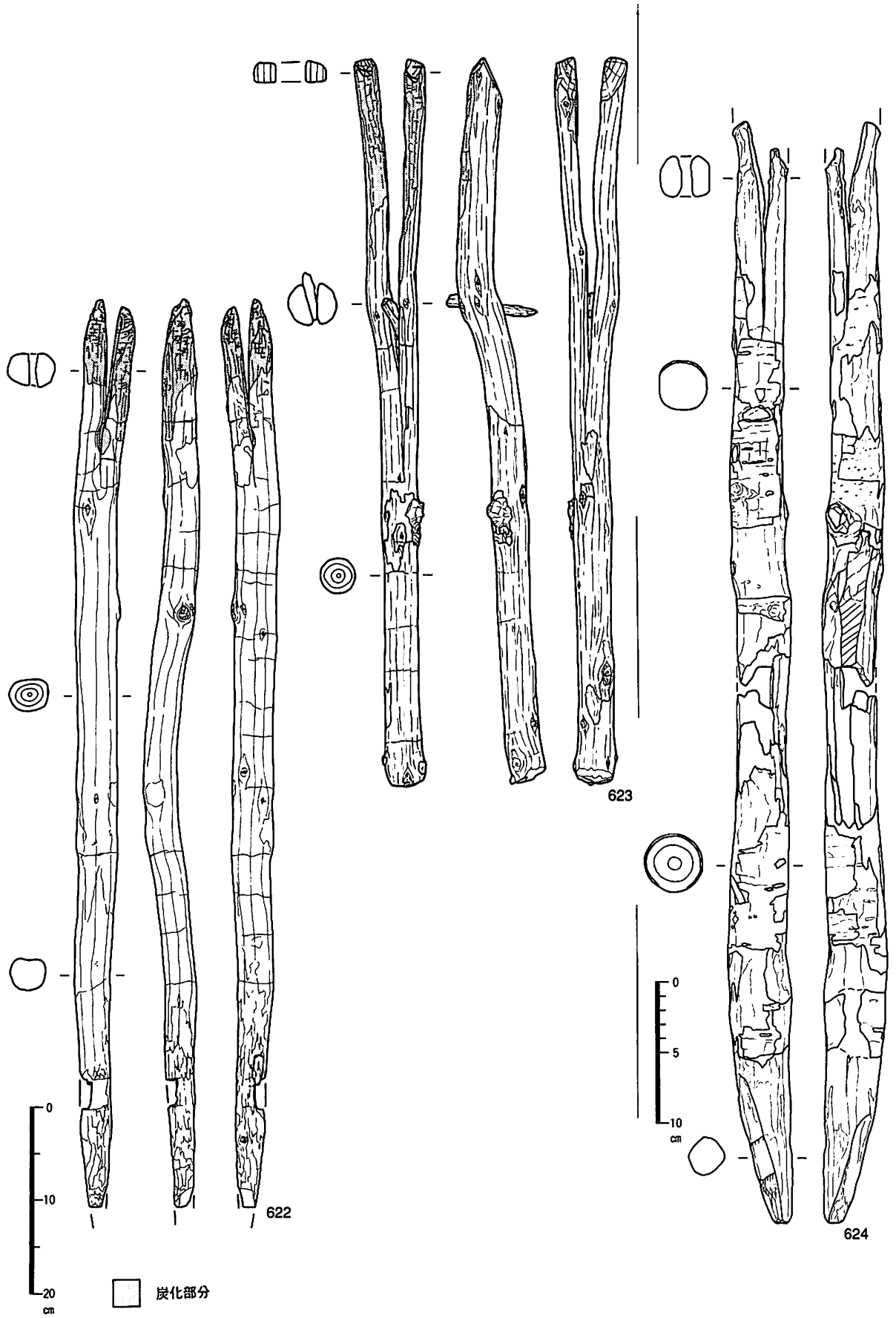


図V-166 炉鉤 5

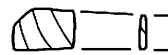
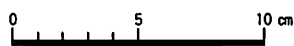
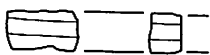
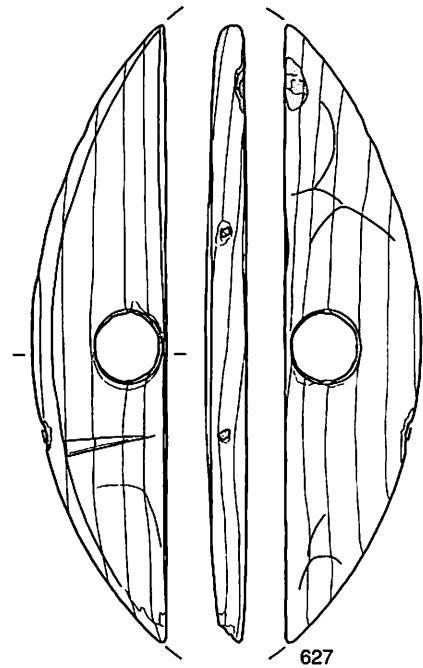
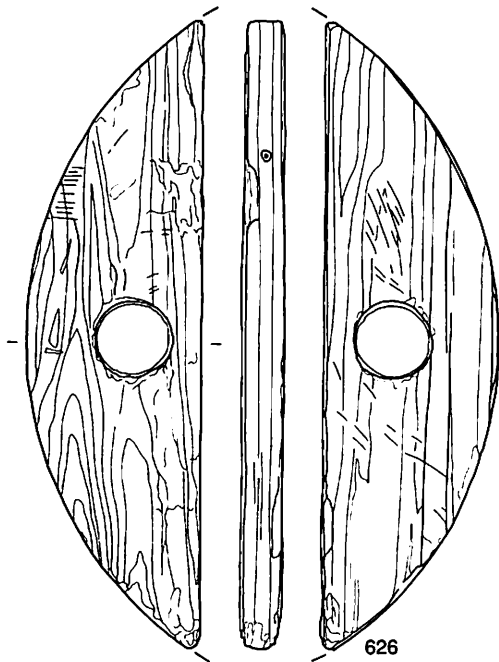
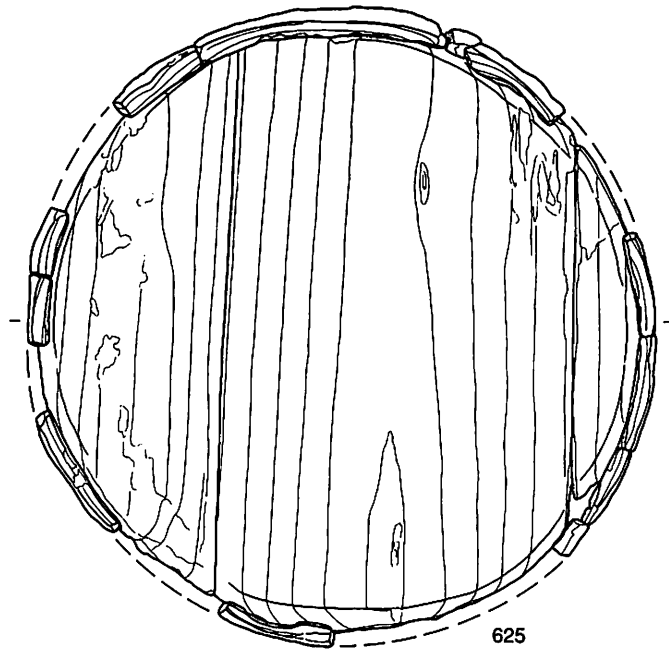
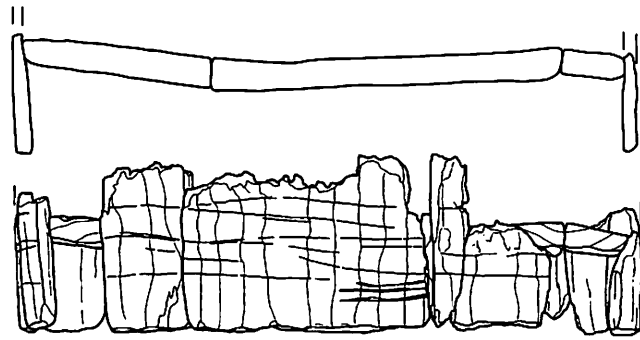




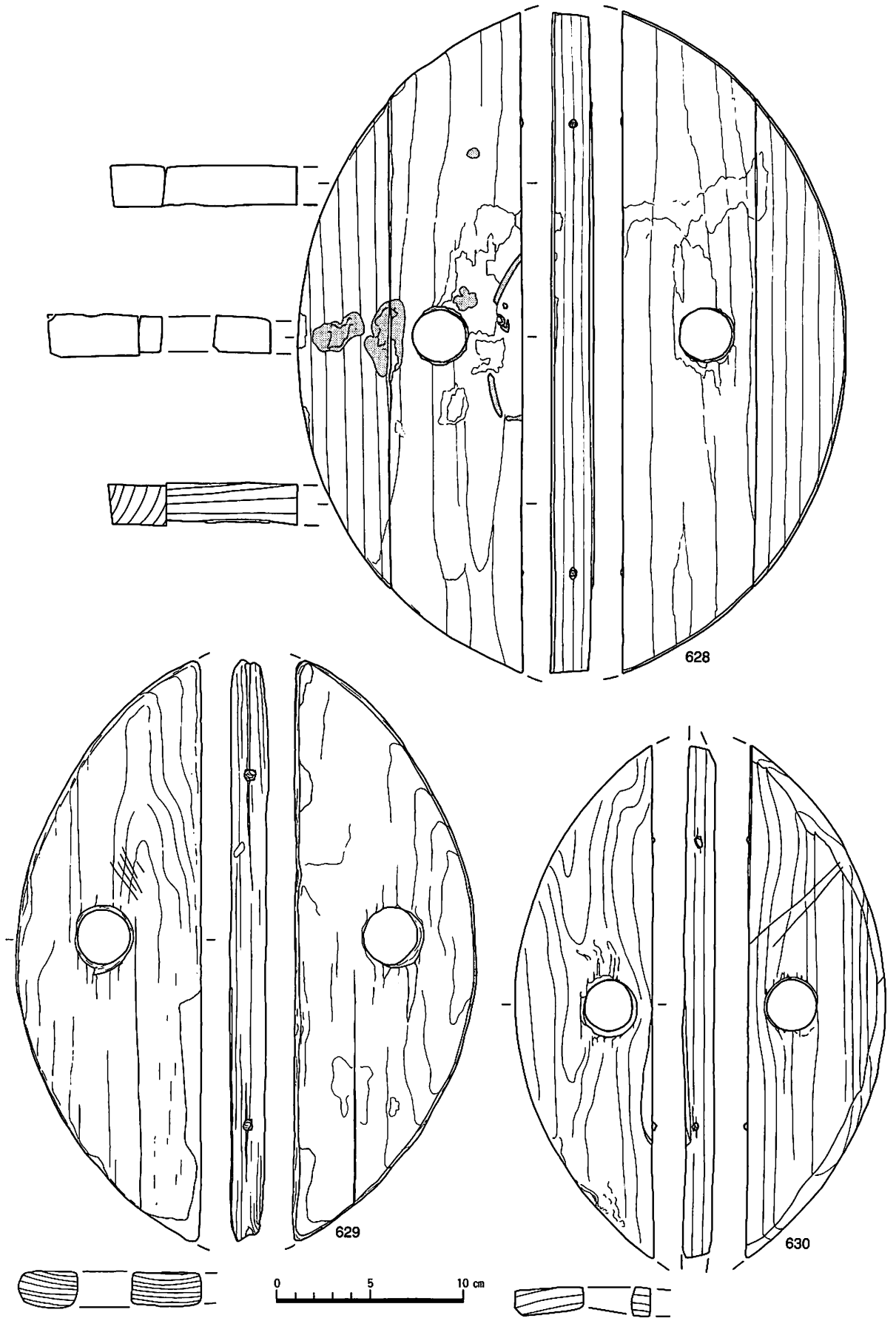
図V-167 燈火用挟木①



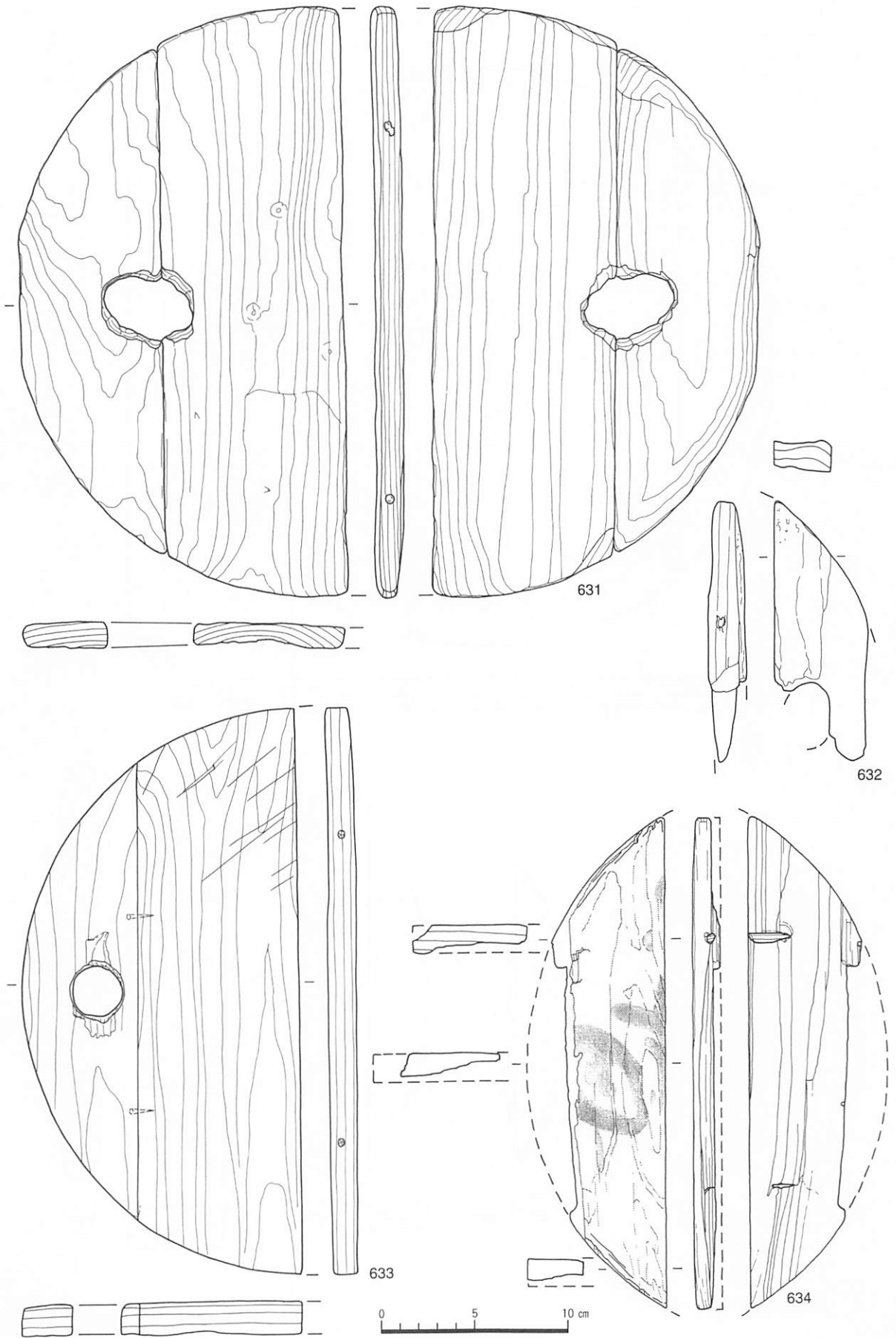
図V-168 燈火用挟木②



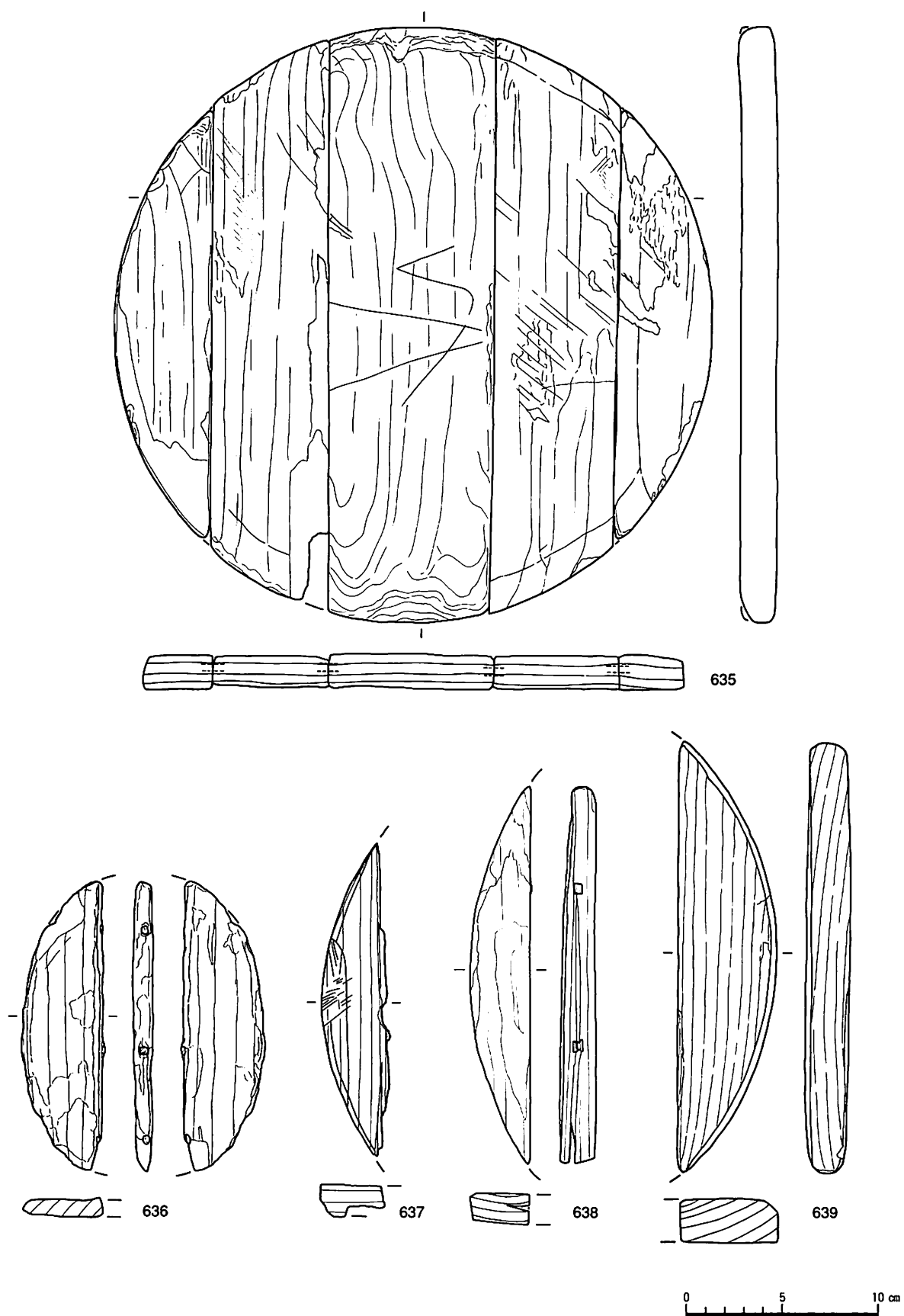
図V-169 容器類1 (樽底板・樽蓋板①)



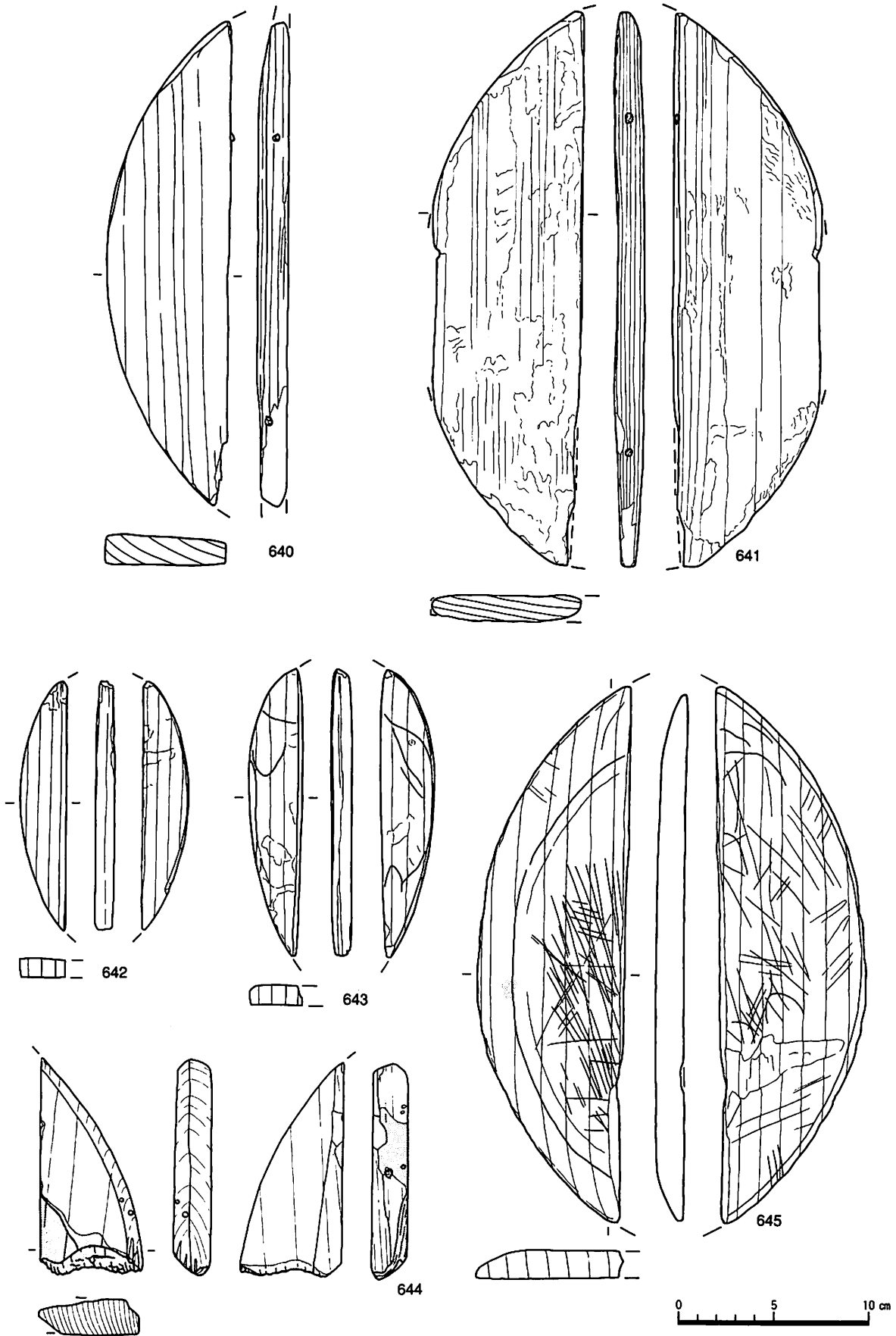
図V-170 容器類2 (樽蓋板②)



図V-171 容器類3 (樽蓋板③)

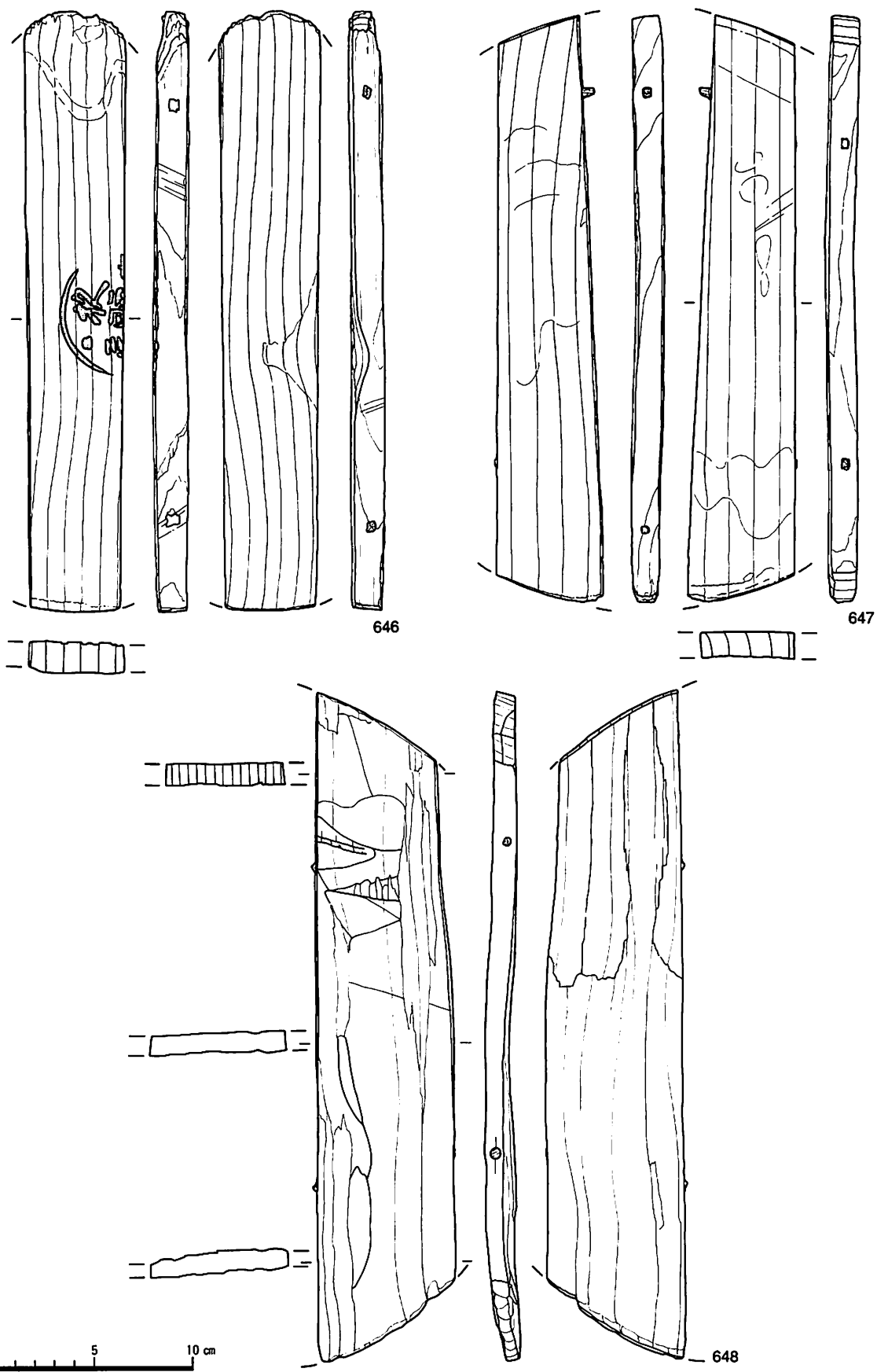


図V-172 容器類4 (樽蓋板④)

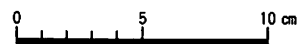
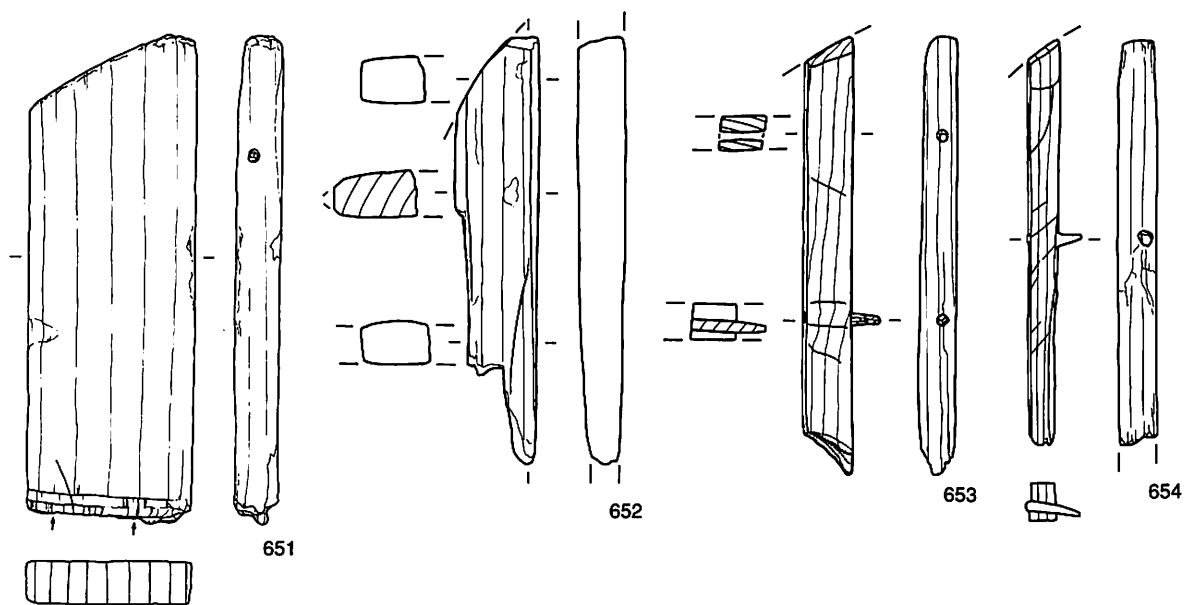
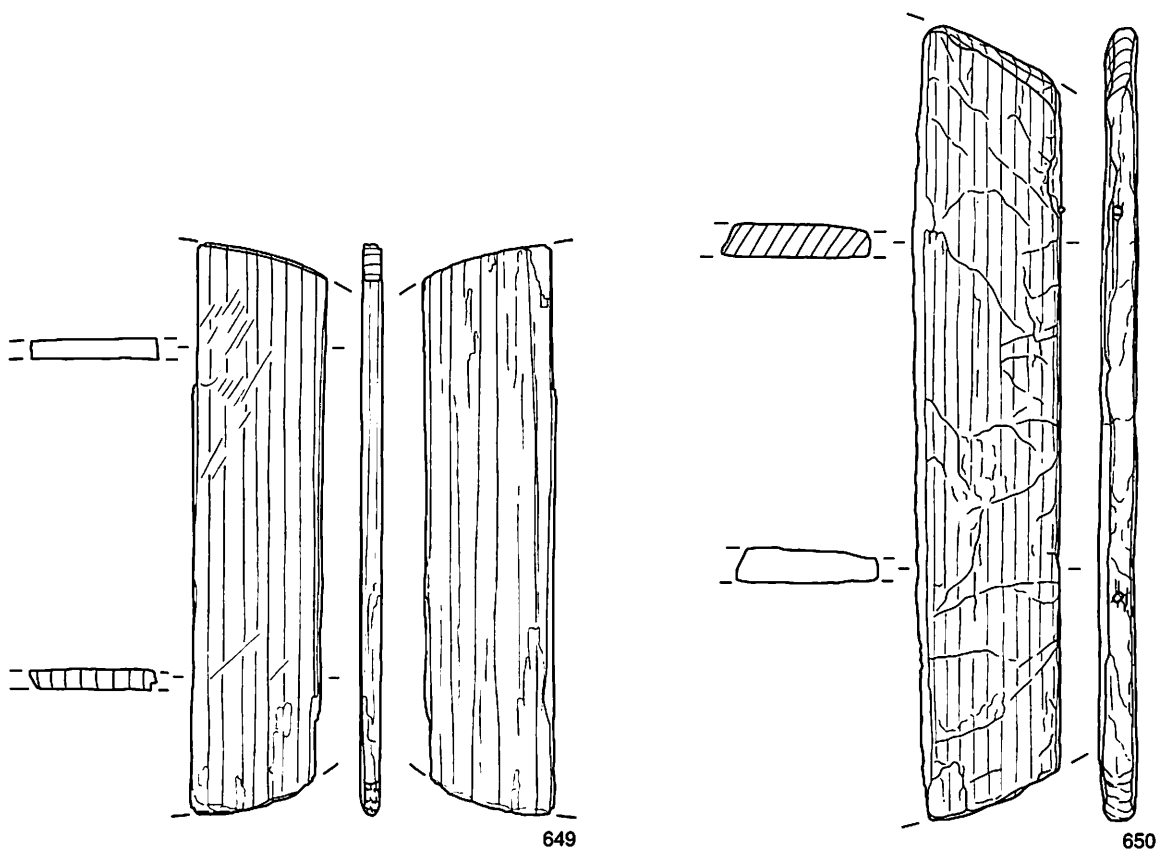


図V-173 容器類5 (樽蓋板⑤、桶底板①)

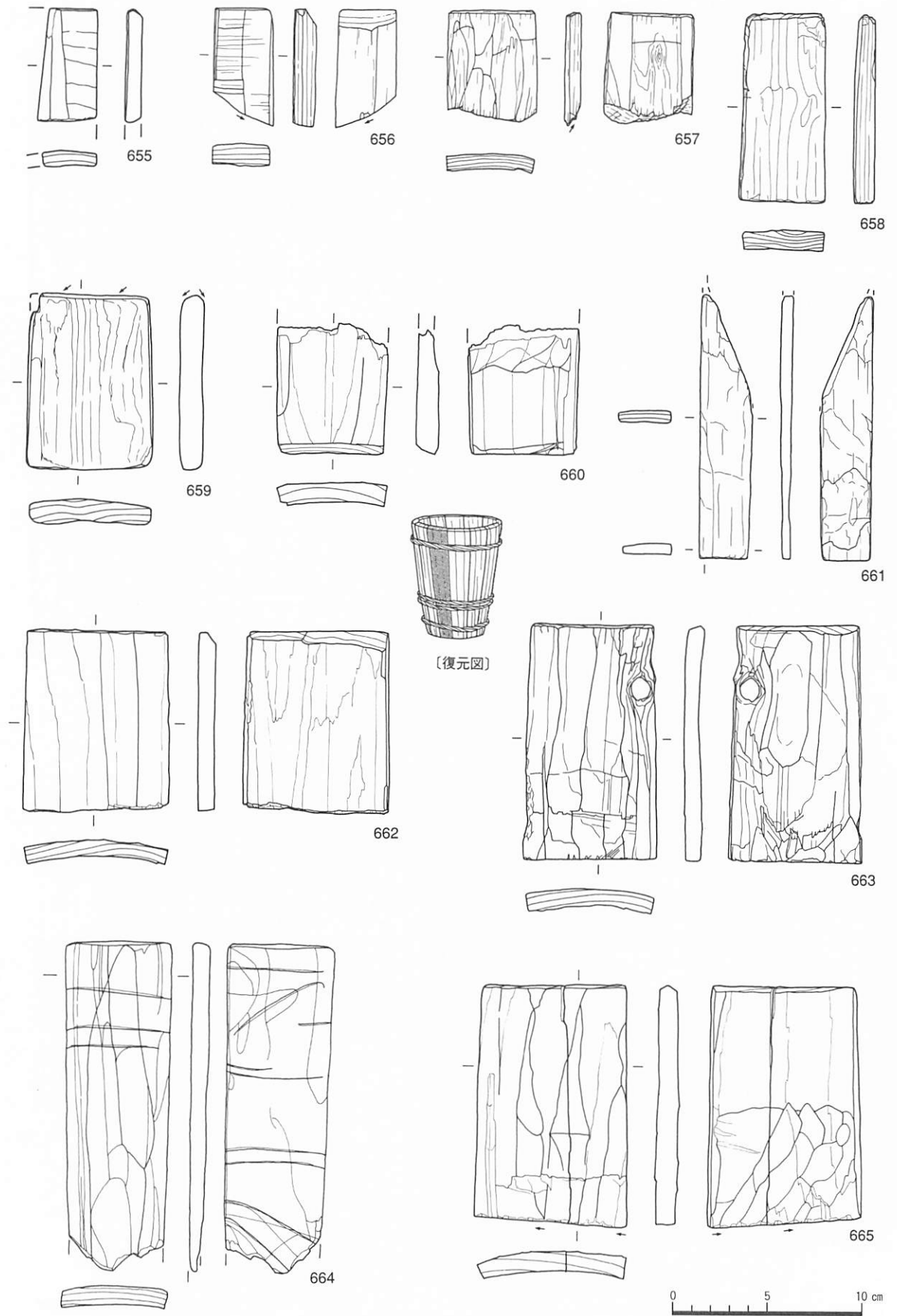




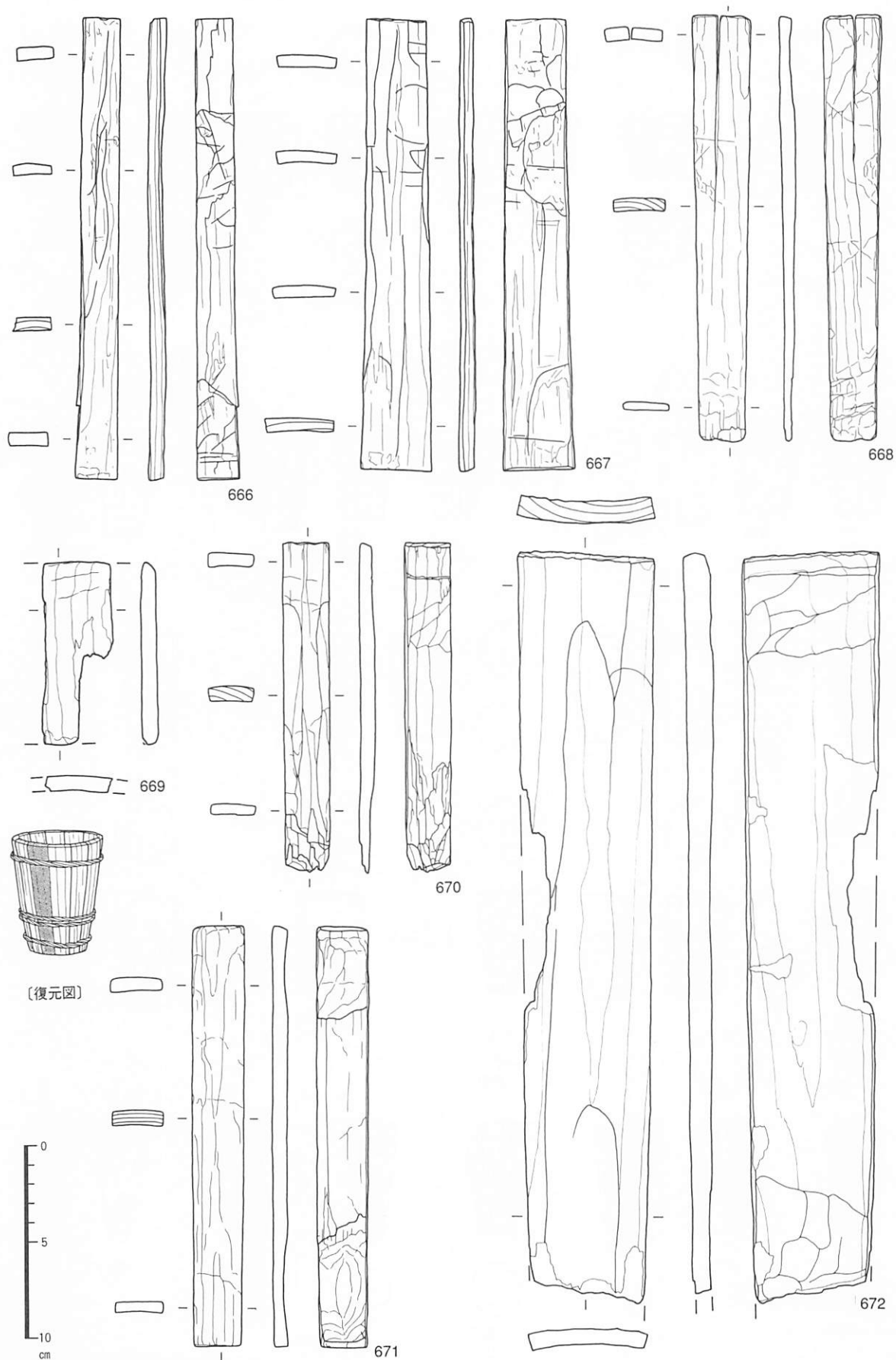
図V-174 容器類6 (桶底板②)



図V-175 容器類7 (桶底板③)



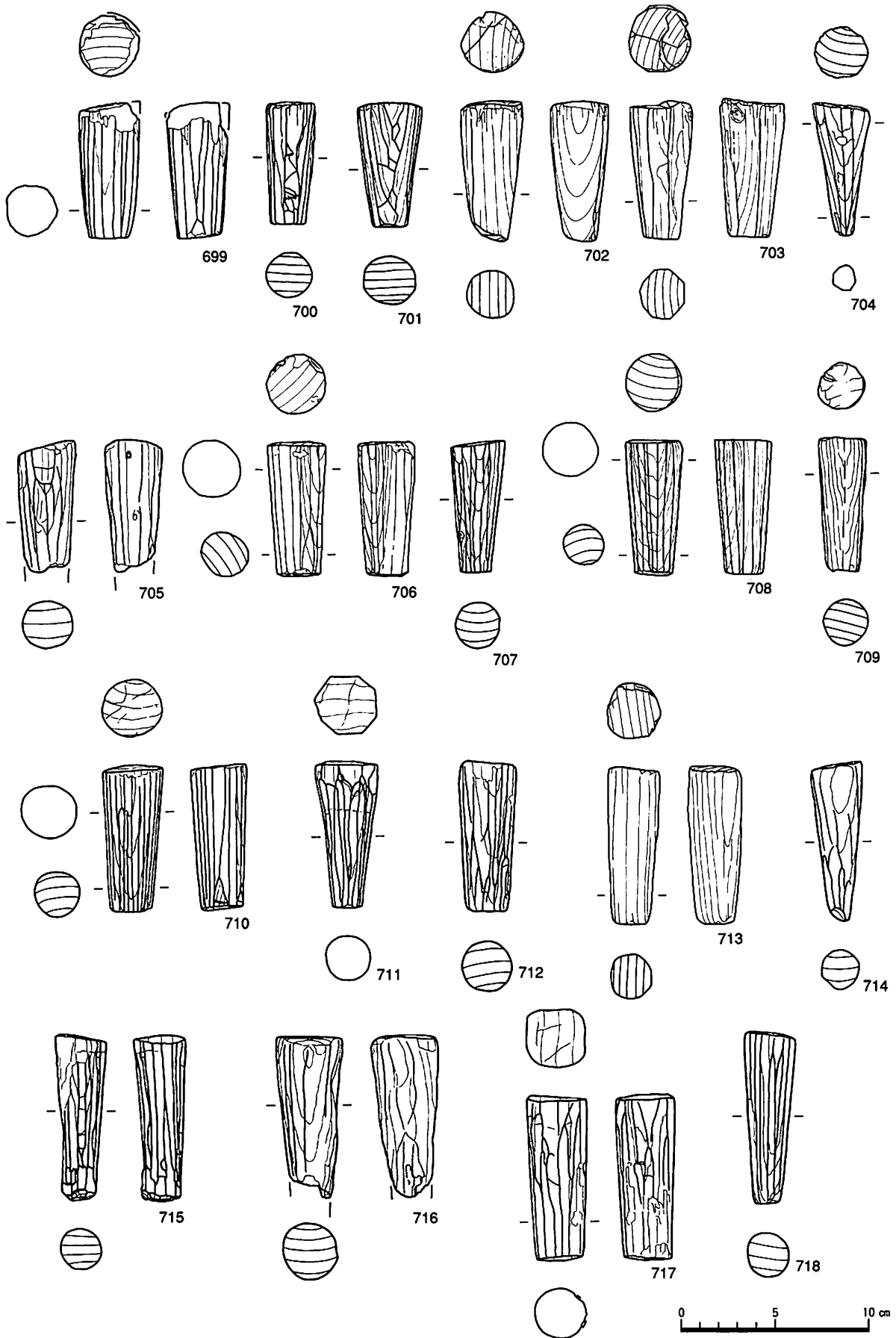
図V-176 容器類 8 (樽側板①)



図V-177 容器類9 (樽側板②)

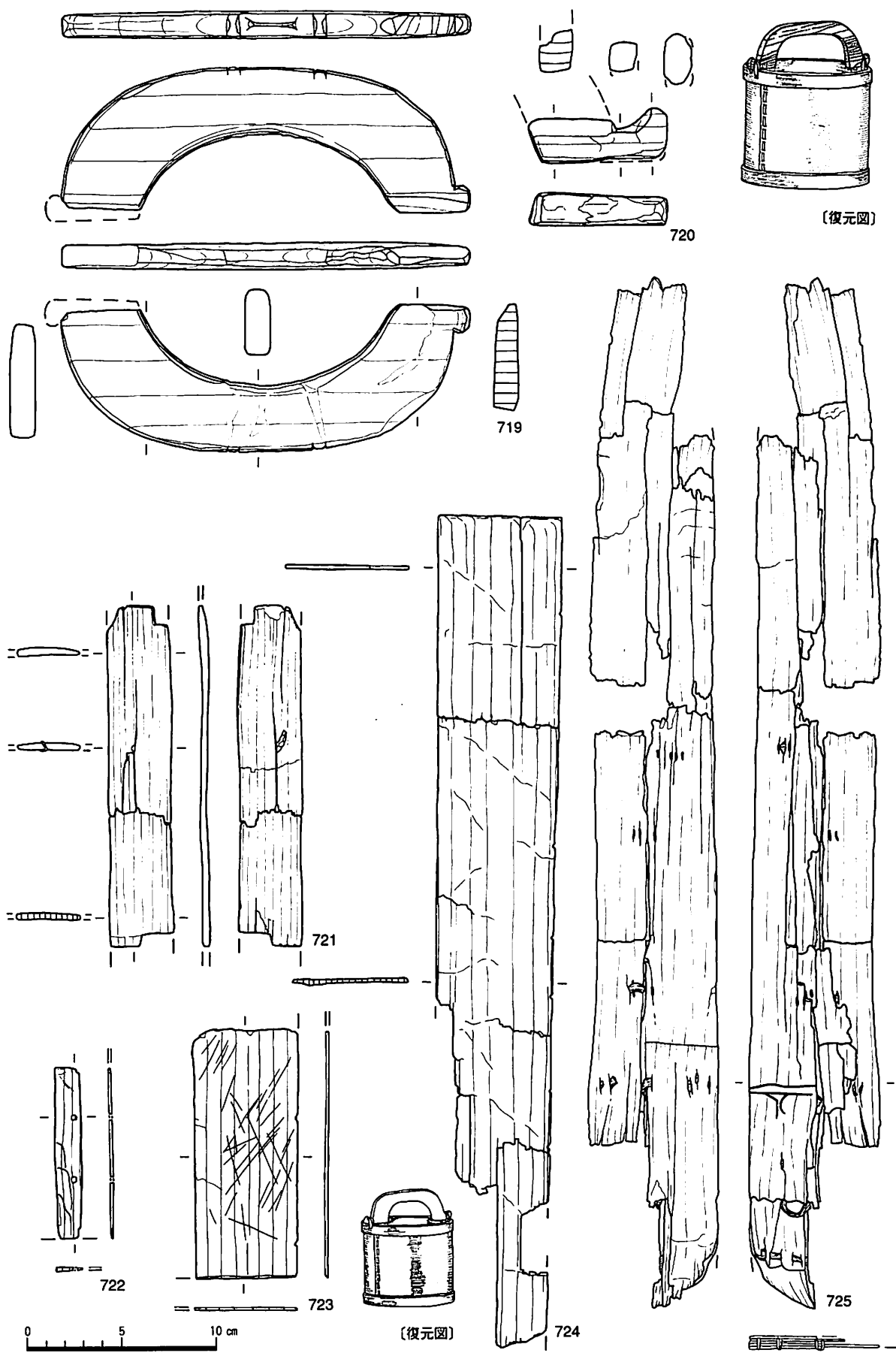


図V-178 容器類10 (樽栓①)



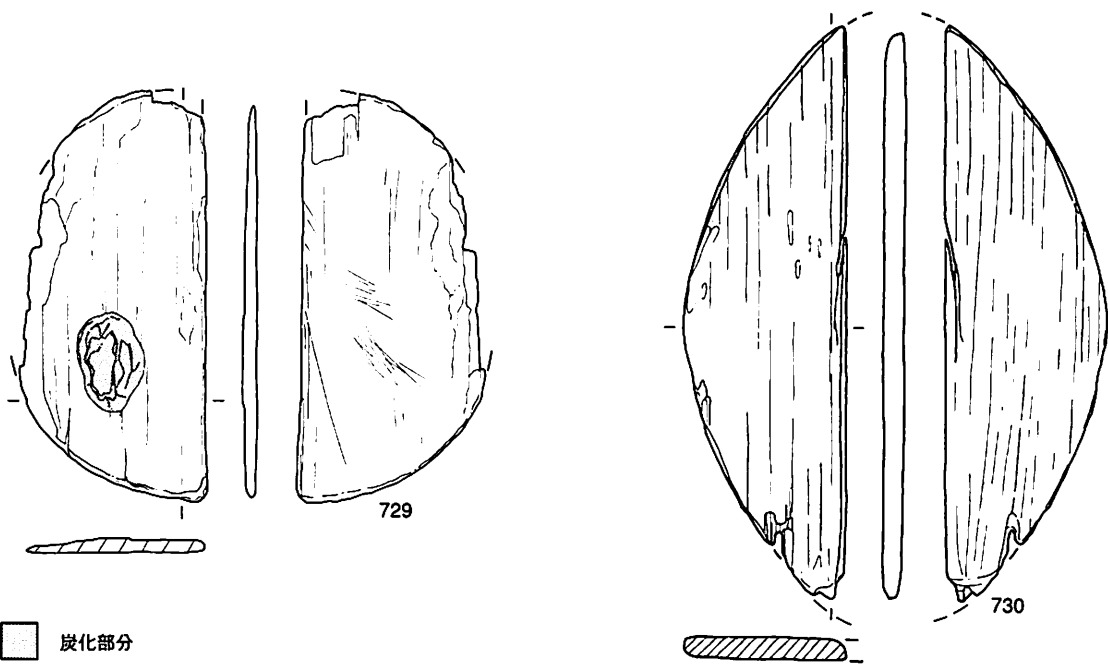
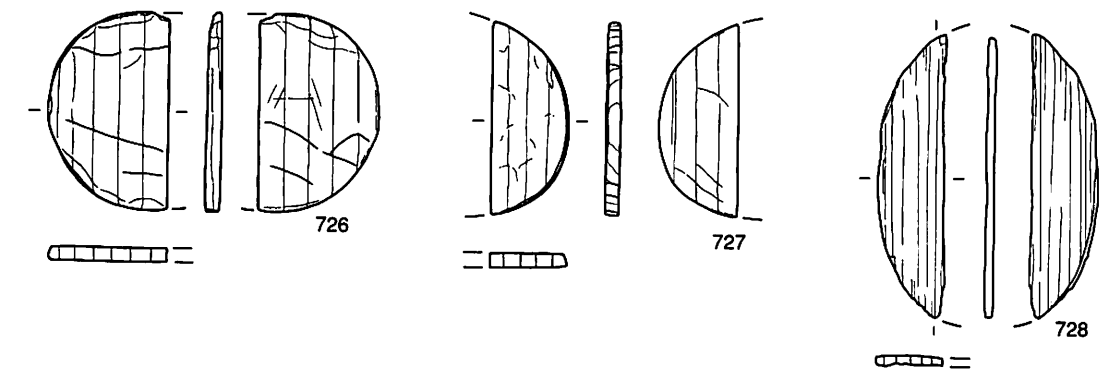
図V-179 容器類11 (樽栓②)

V 第0 黒色土層の調査

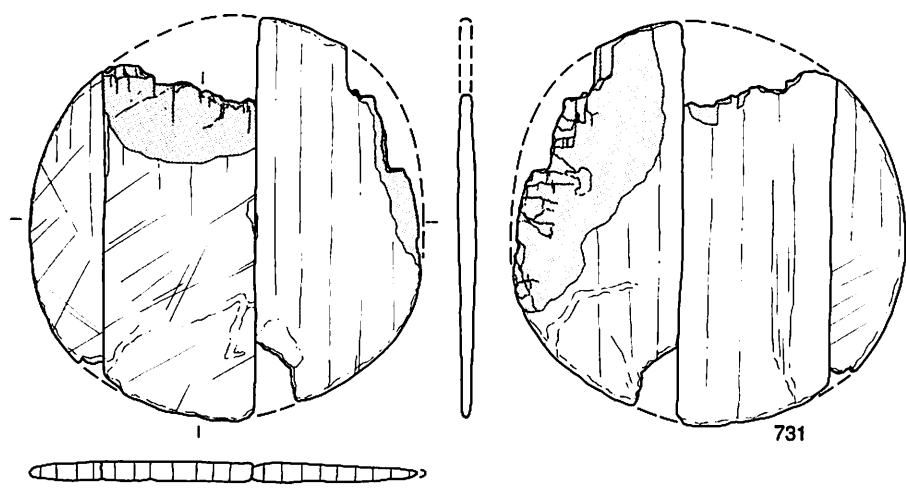


図V-180 容器類12 (曲げ物把手/側板)



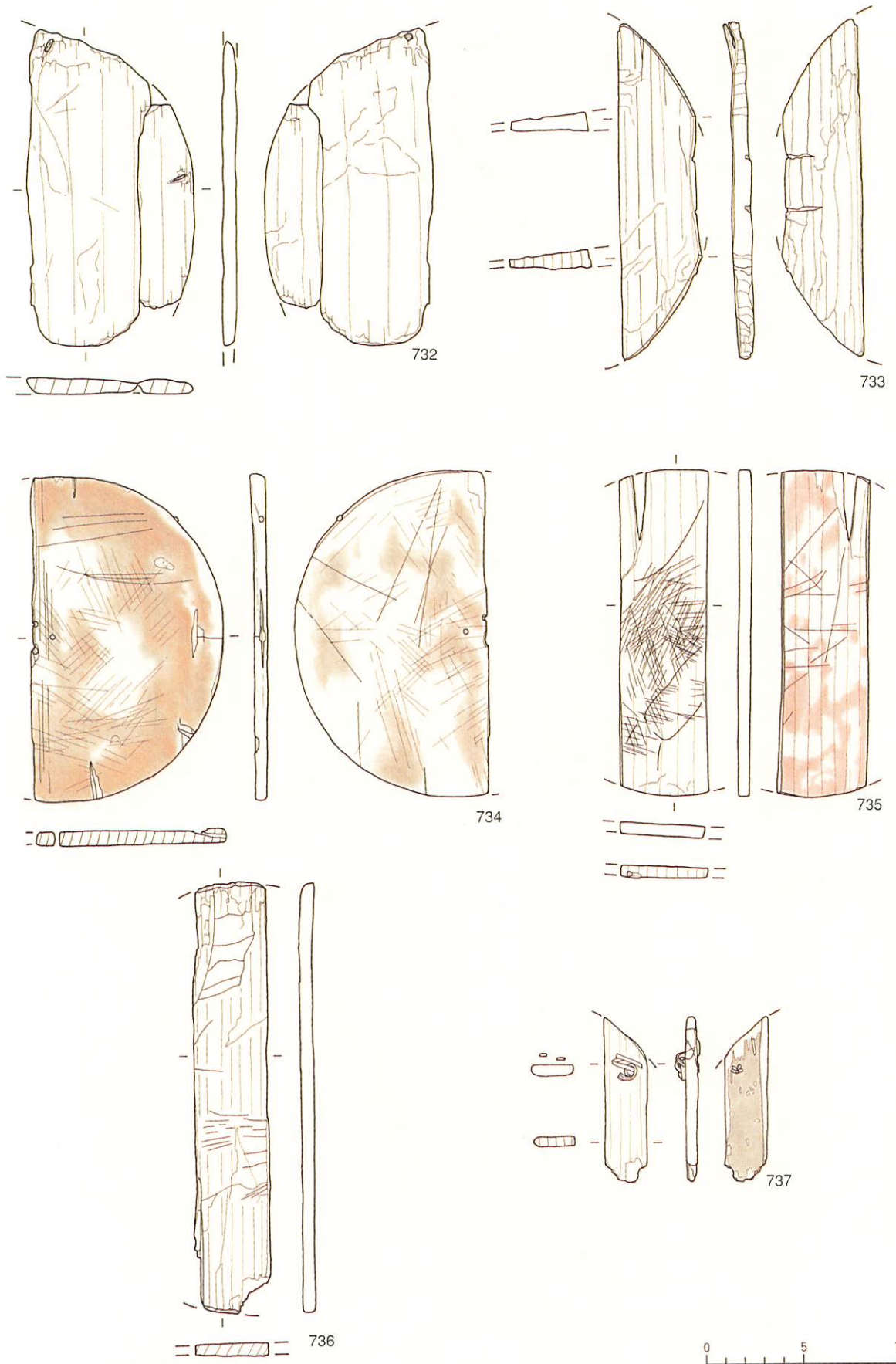


■ 炭化部分

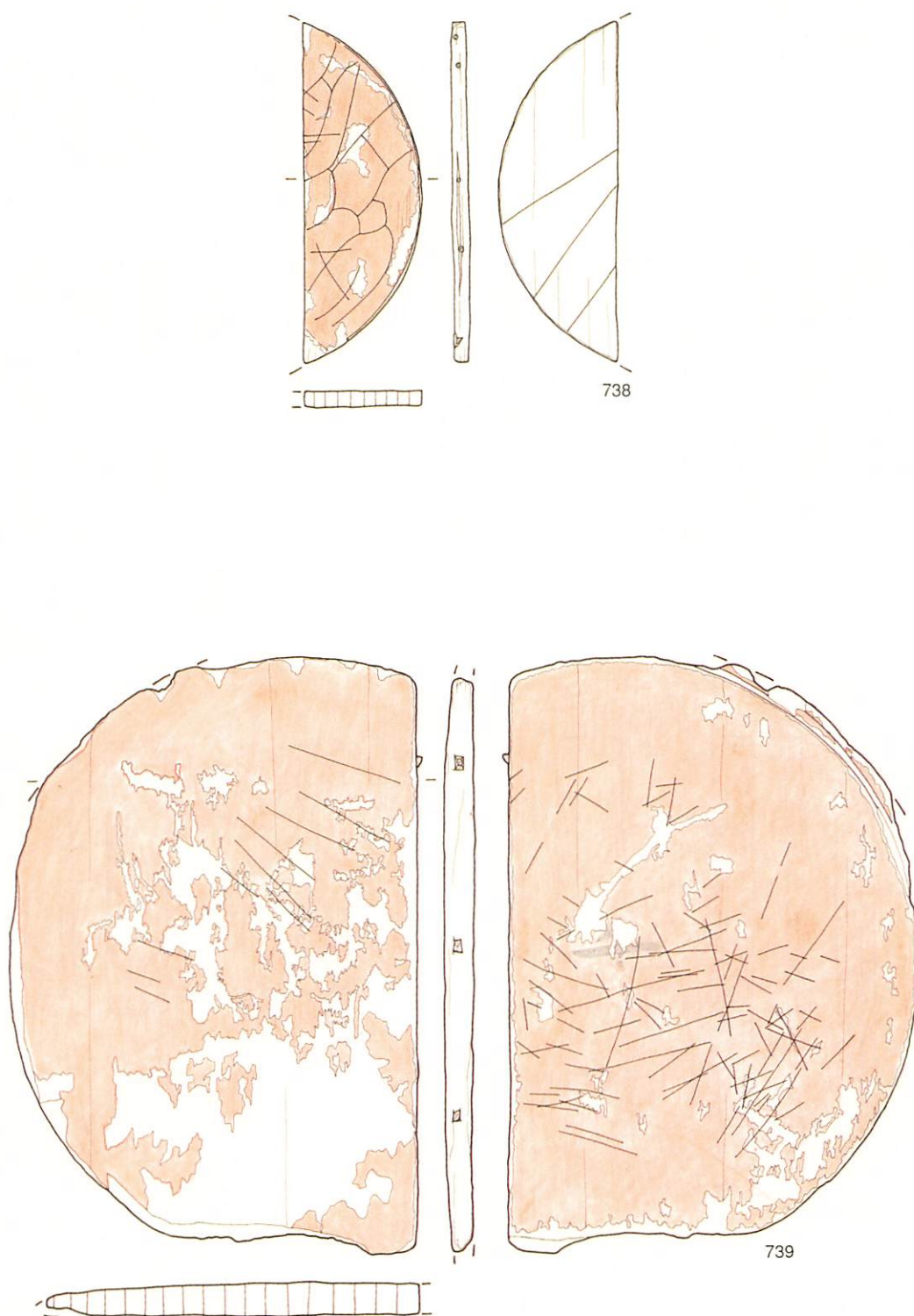


0 5 10 cm

図V-181 容器類13 (曲げ物底板①)

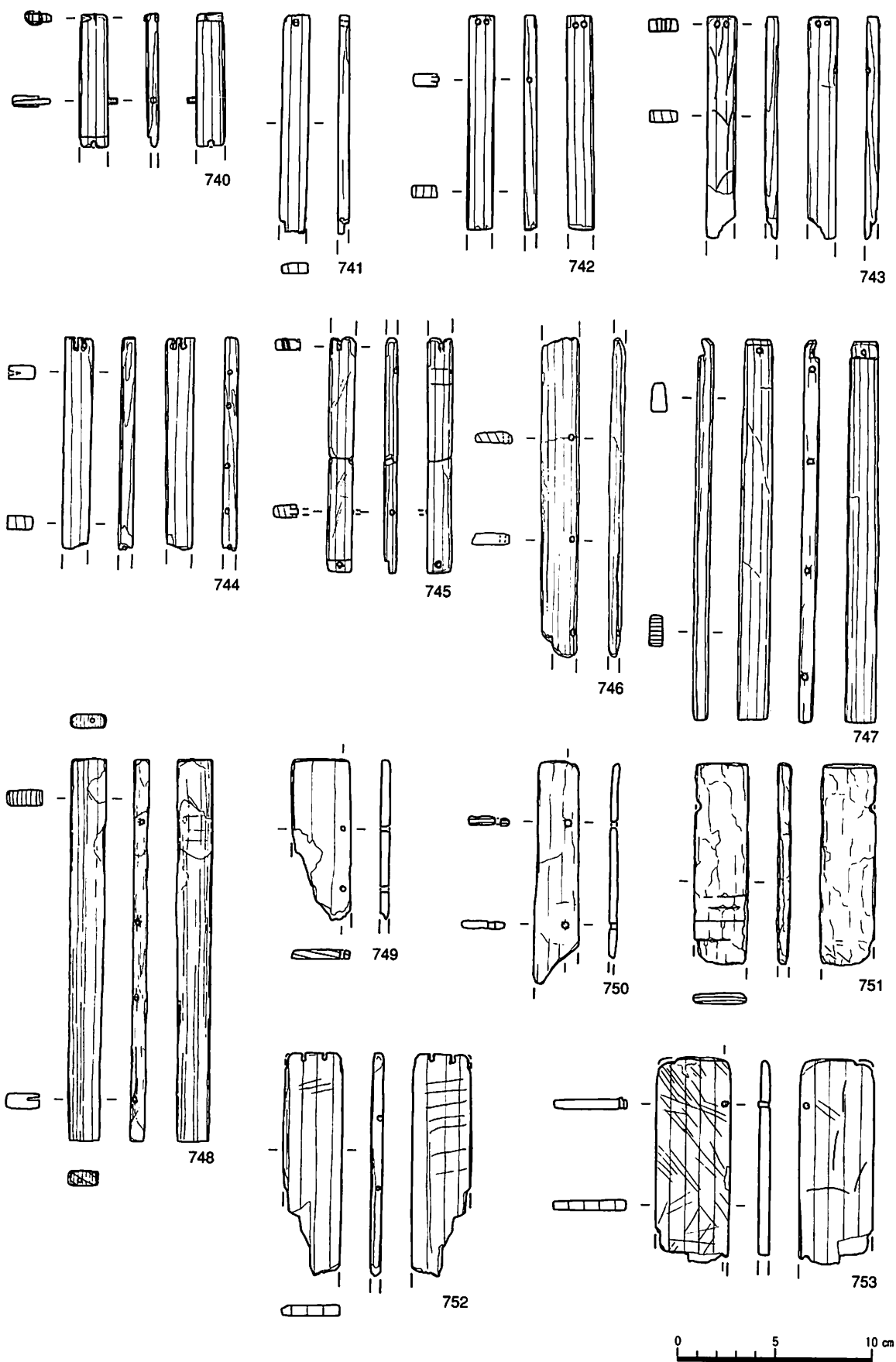


図V-182 容器類14 (曲げ物底板②)

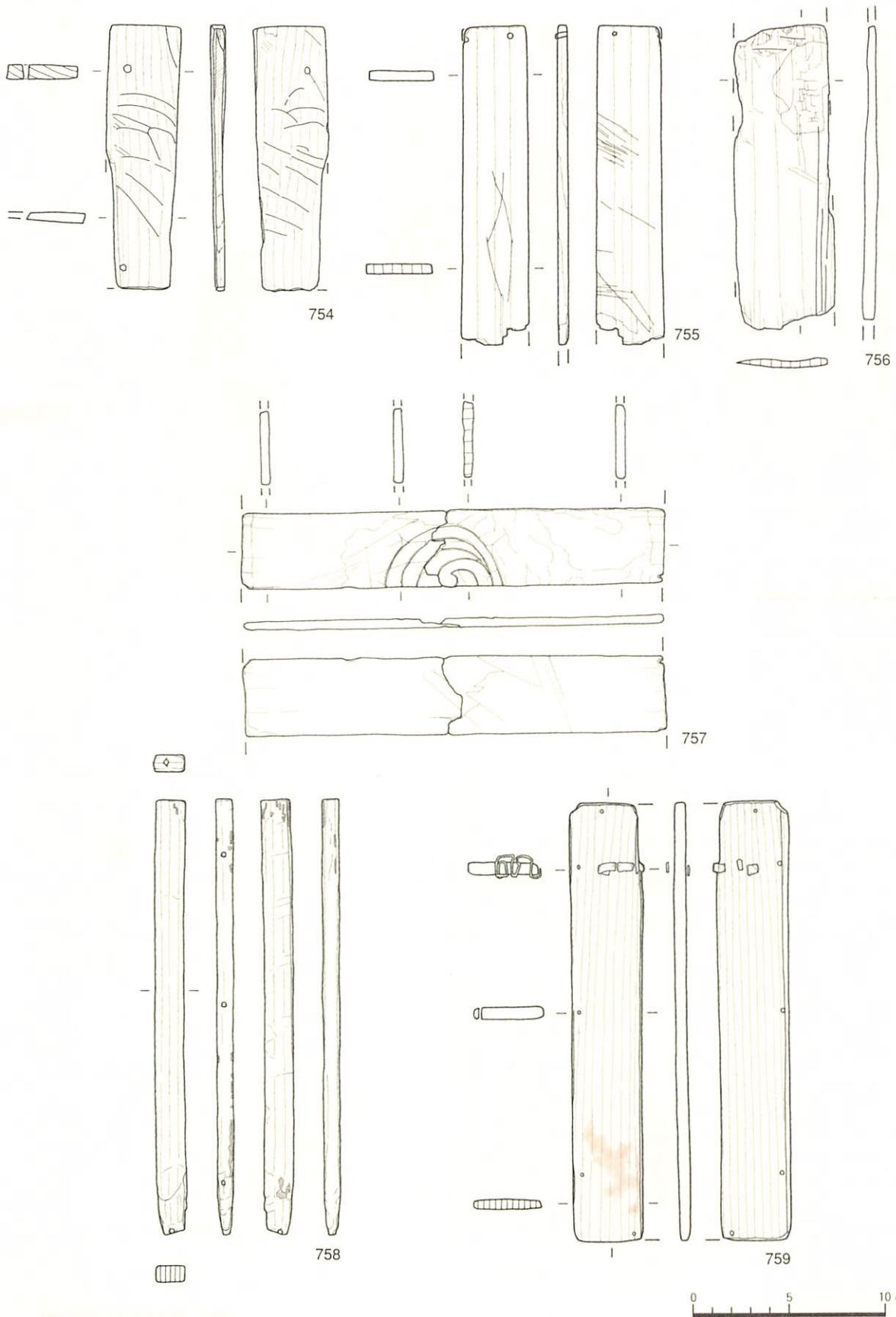


図V-183 容器類15 (曲げ物底板③)

V 第0 黑色土層の調査

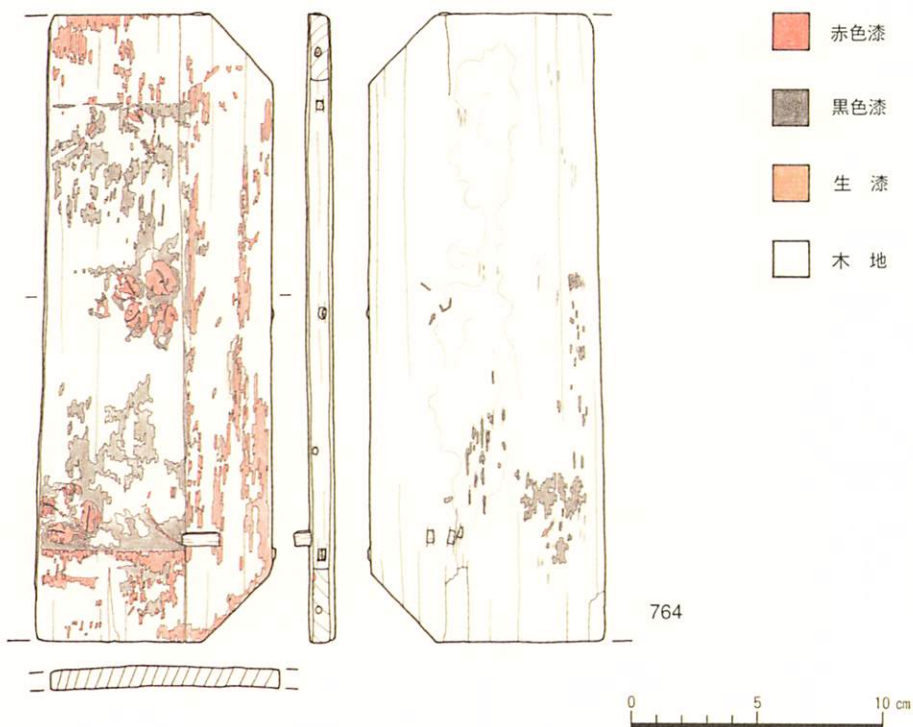
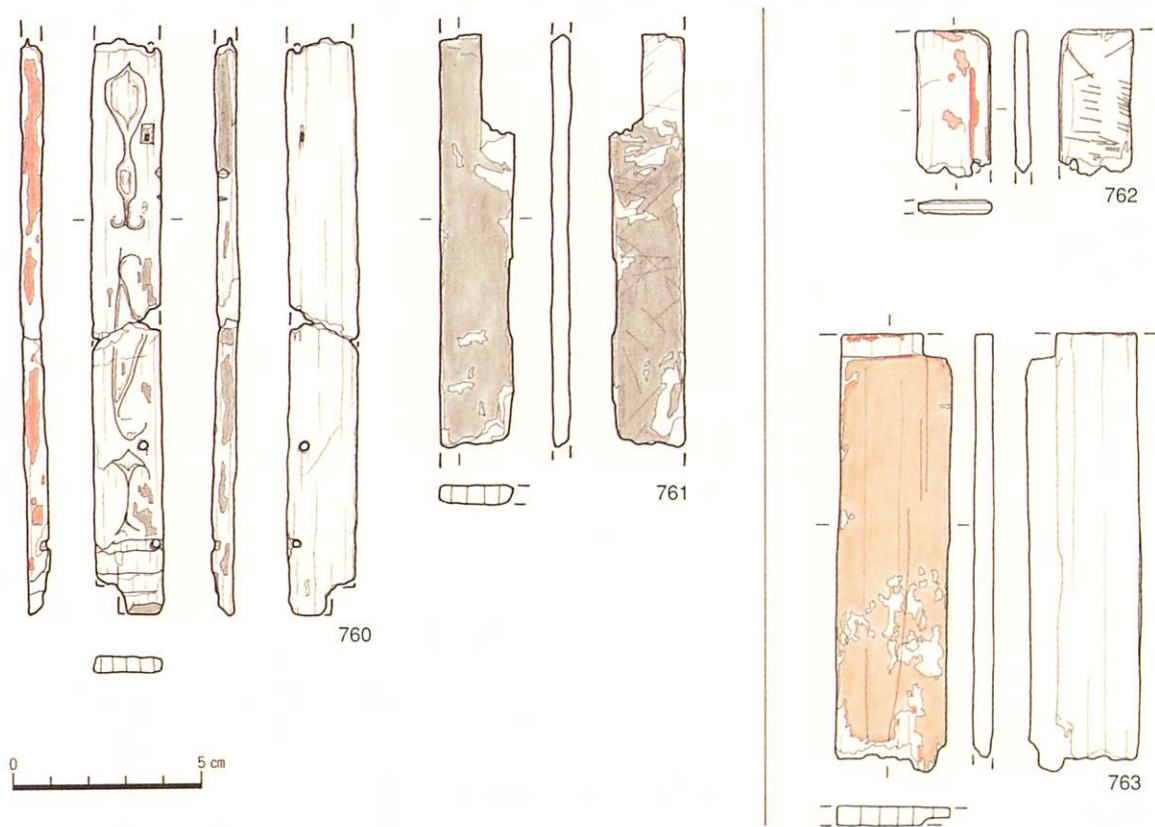


図V-184 容器類16 (箱物側板①)

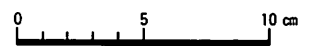
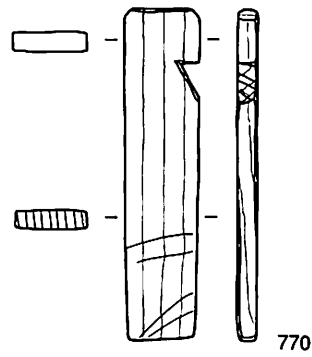
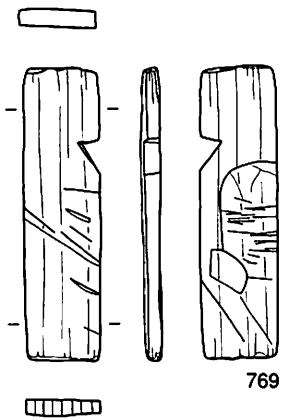
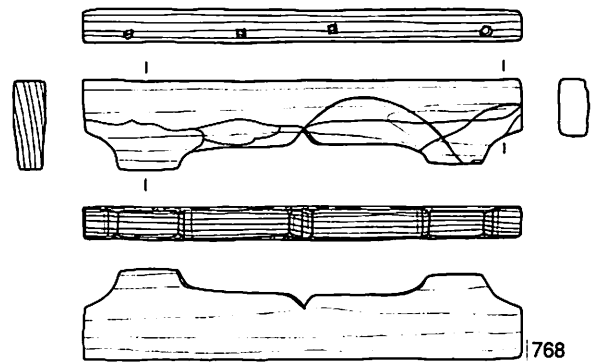
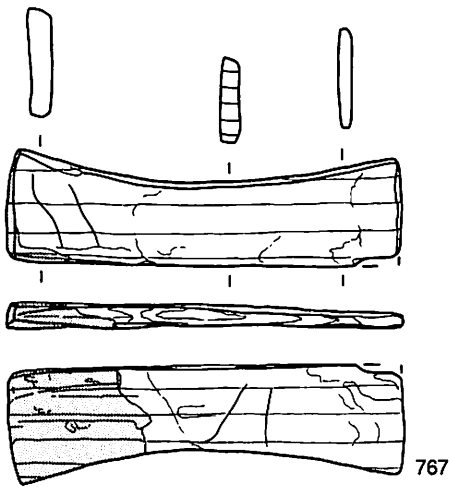
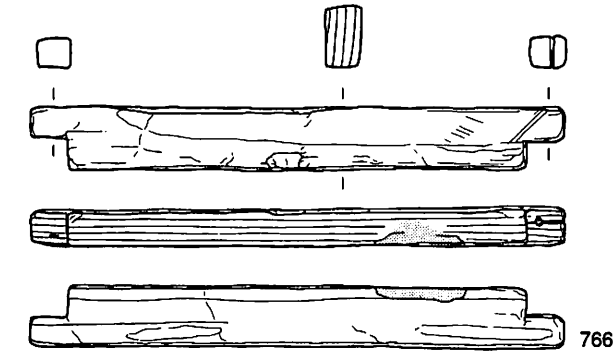
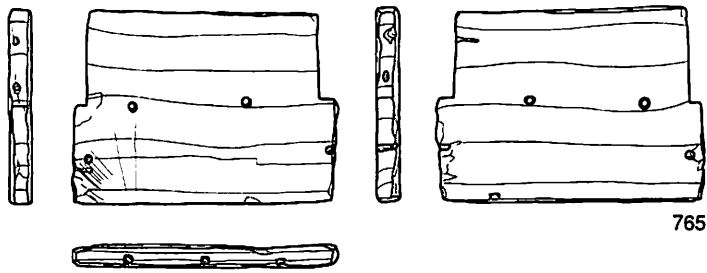


図V-185 容器類17 (箱物側板②・底板)



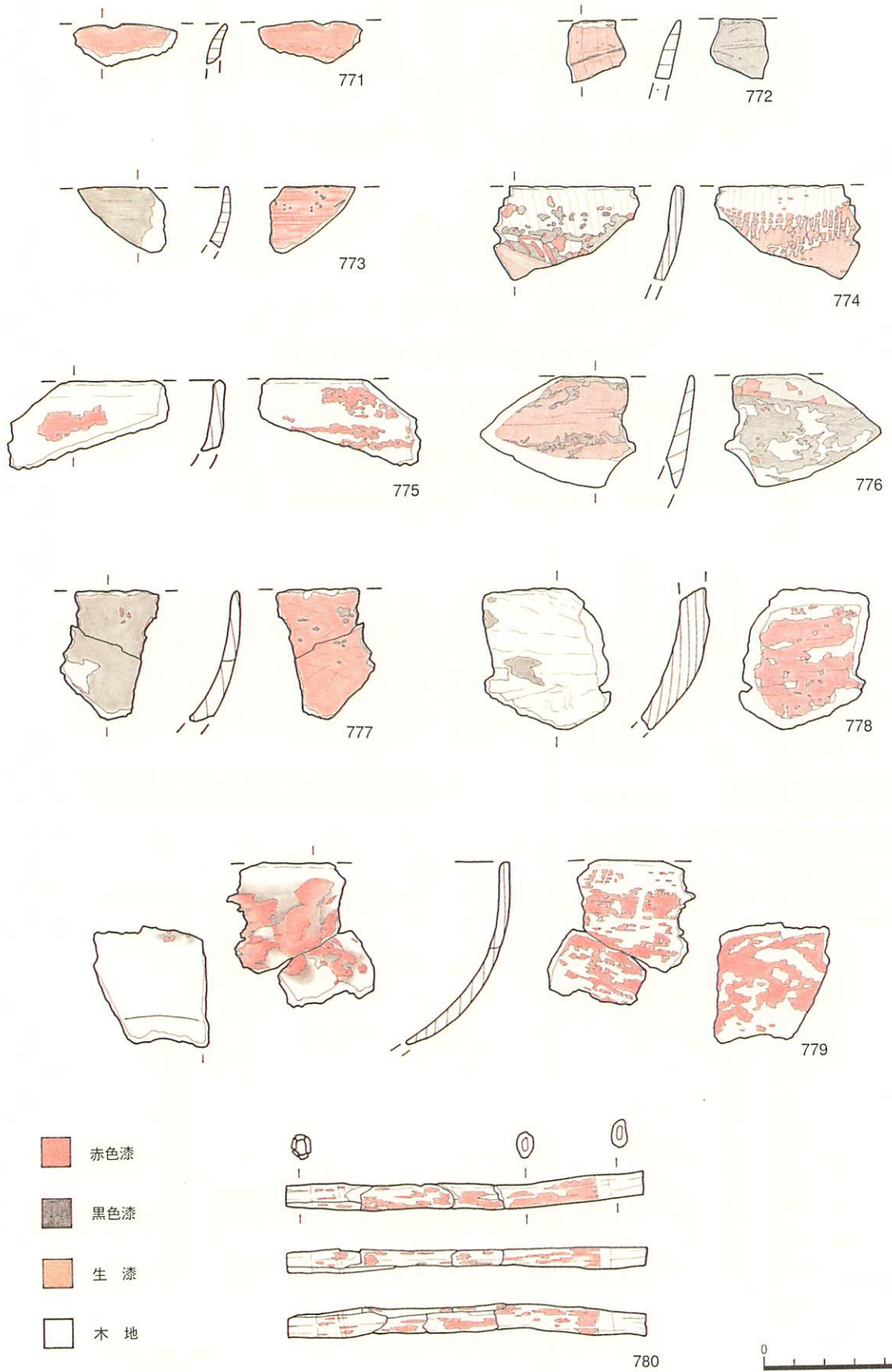


図V-186 容器類18 (箱物側板③・底板)

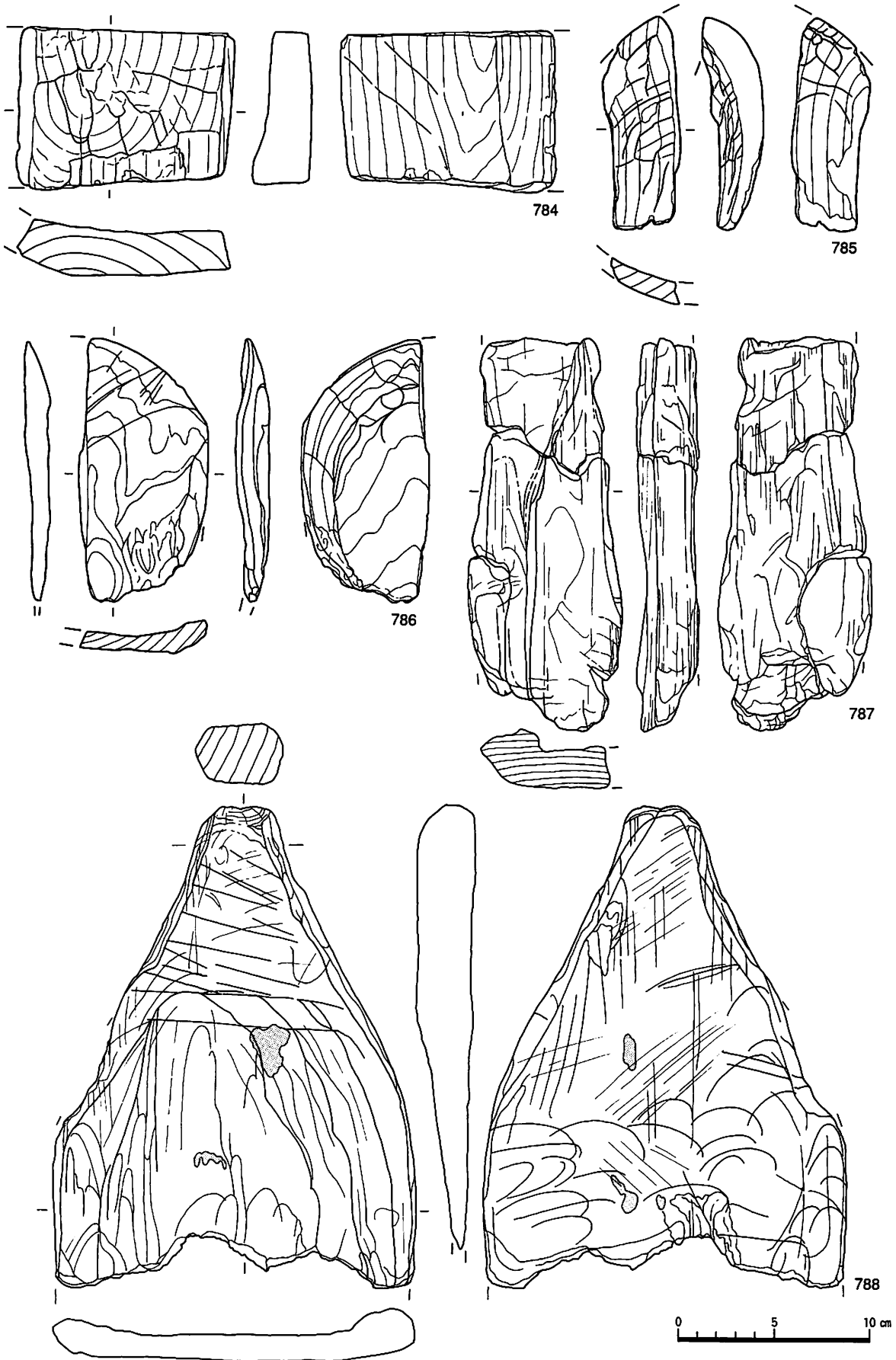


図V-187 容器類19 (箱物側板④・脚部)

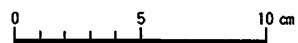
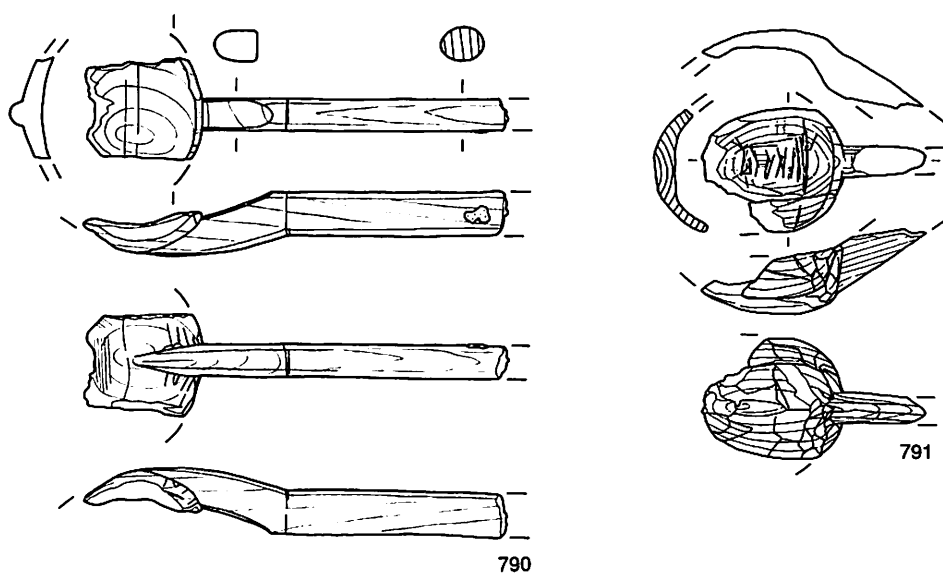
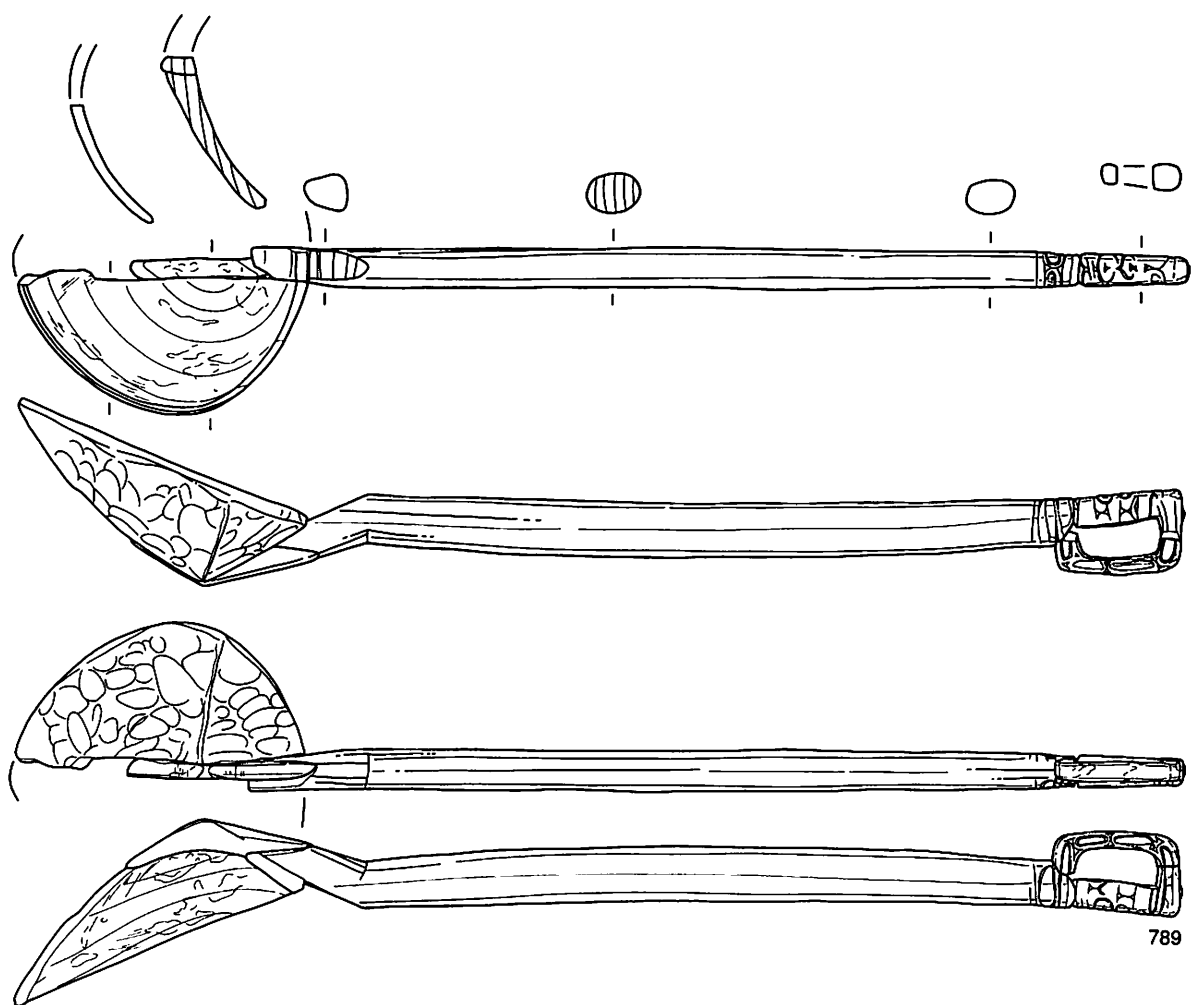




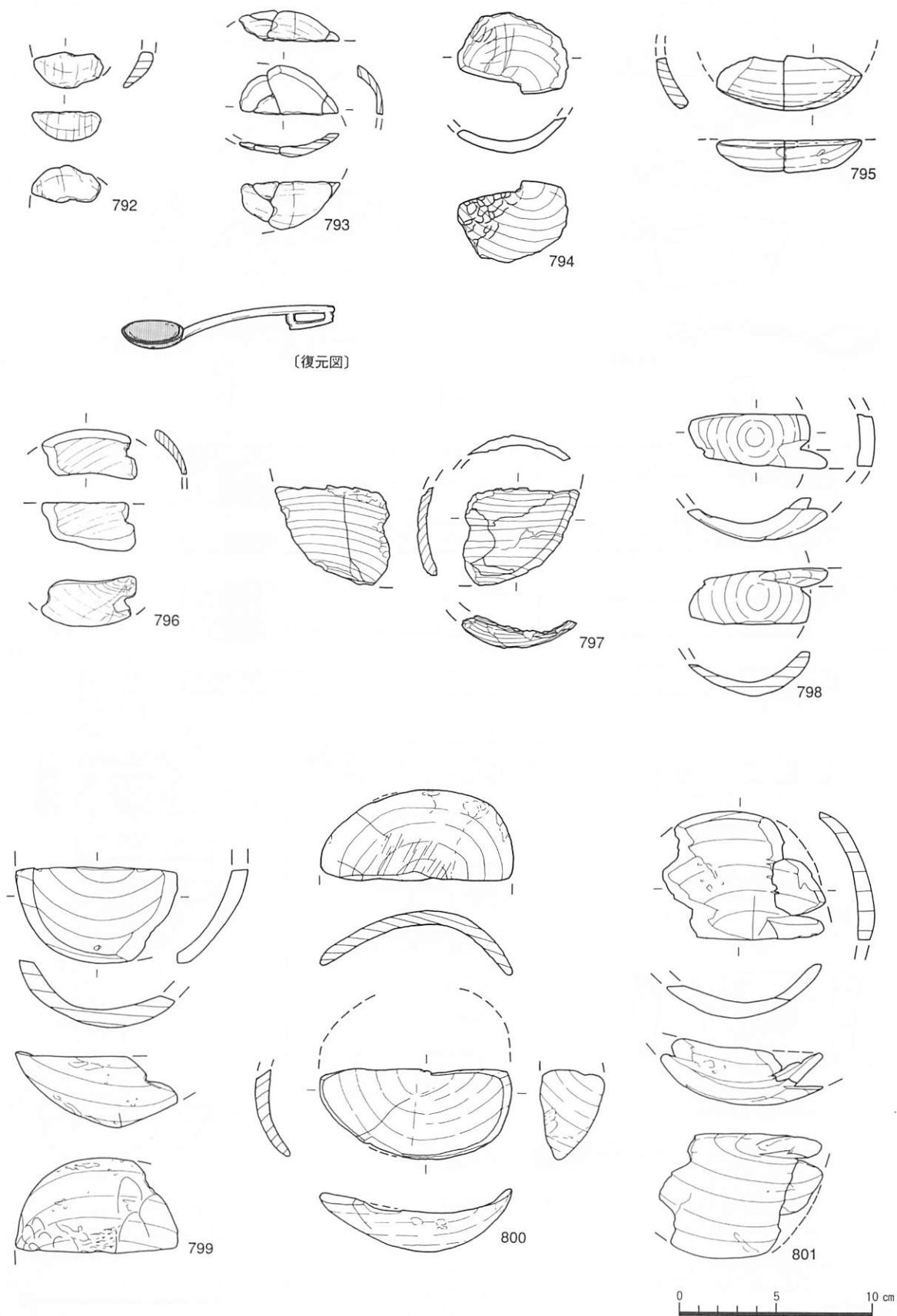
図V-188 容器類20・喫煙具（漆塗椀・漆塗キセルラウ）



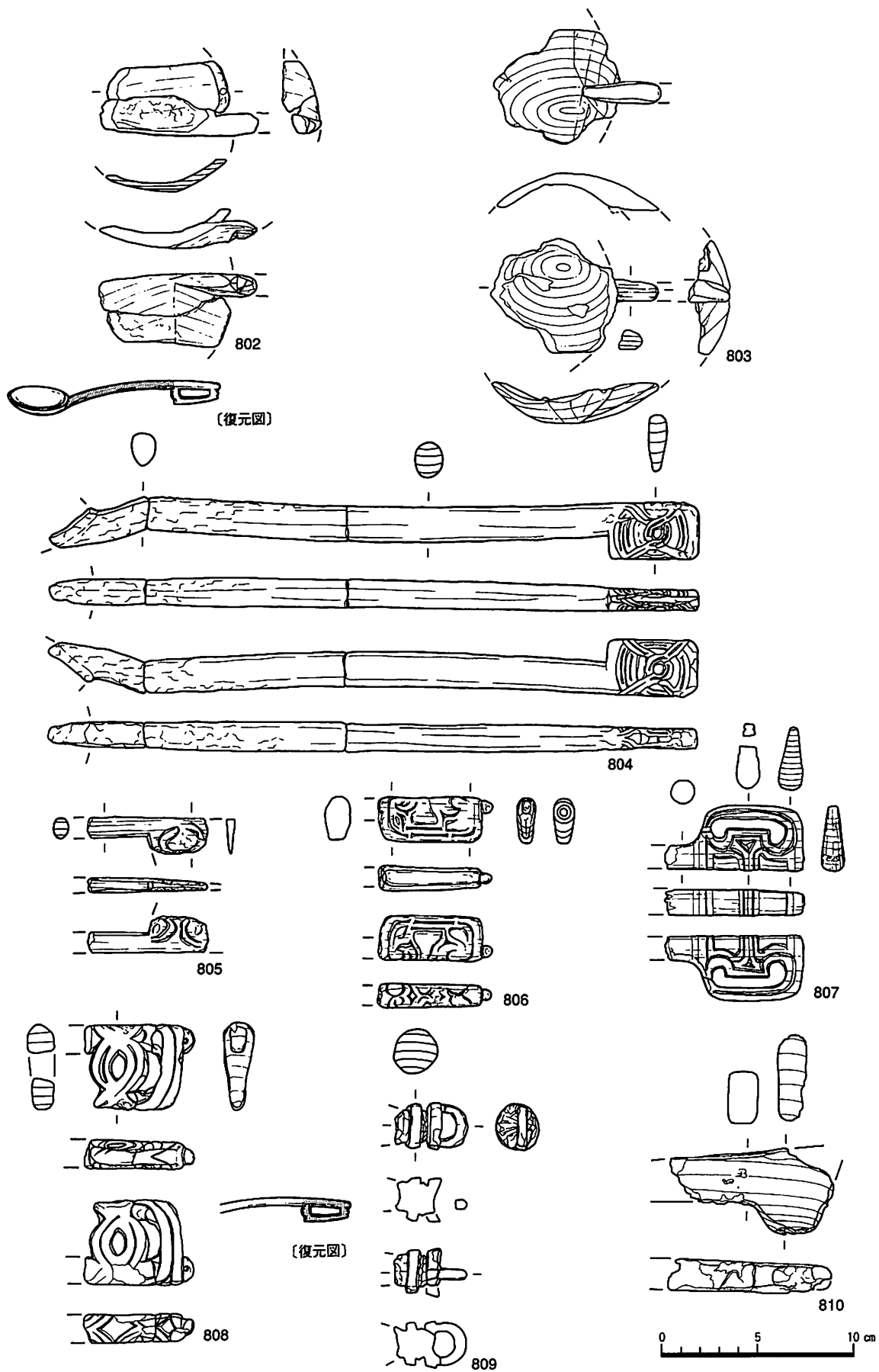
図V-189 容器類21 (剝物容器)



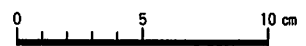
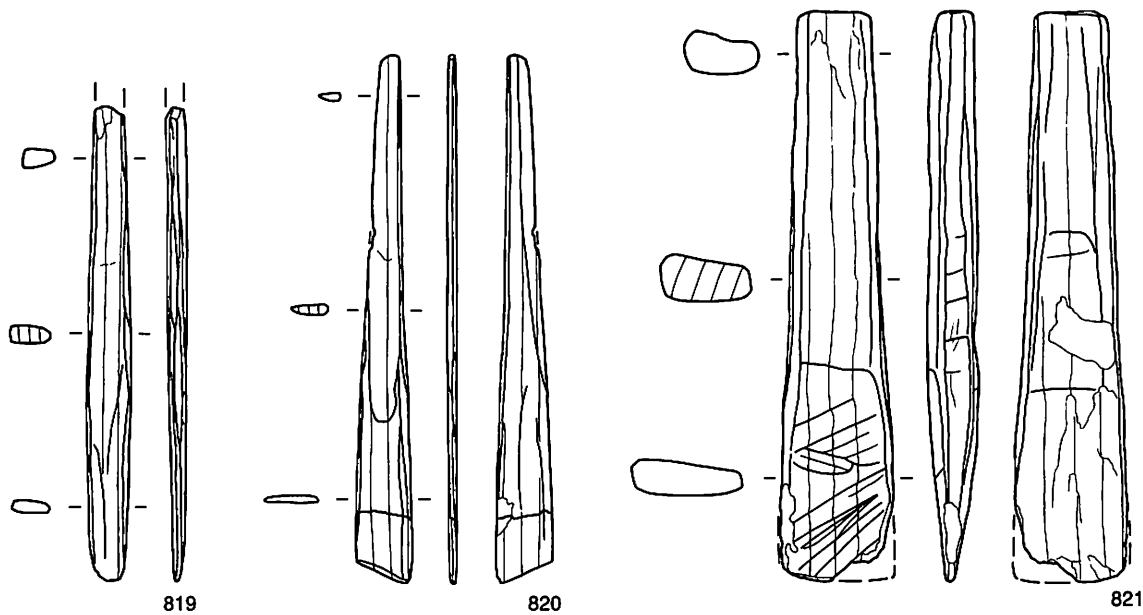
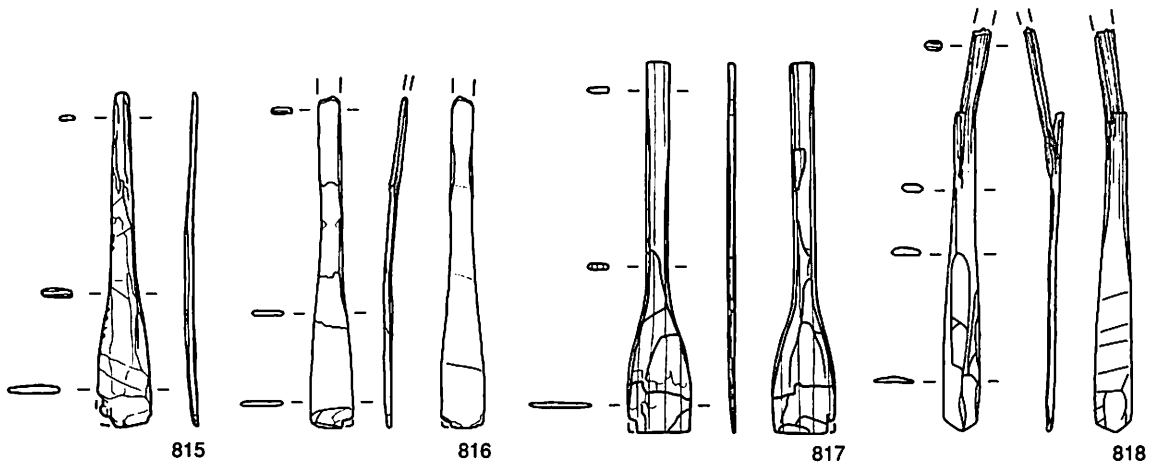
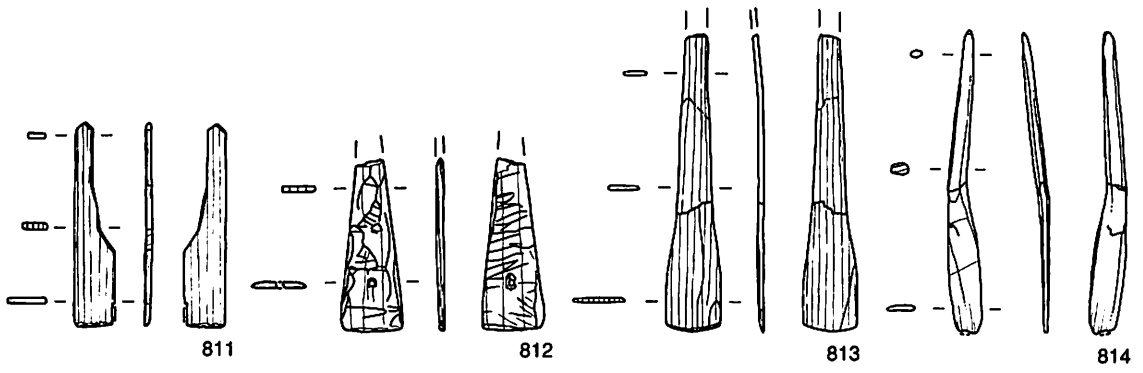
図V-190 食用具1 (杓子①)



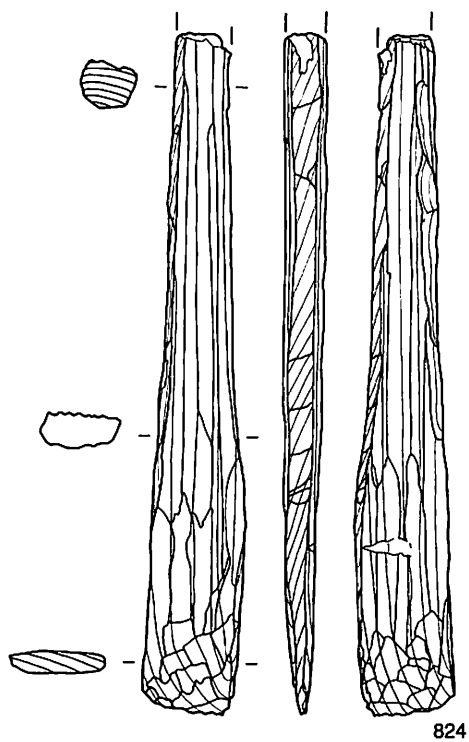
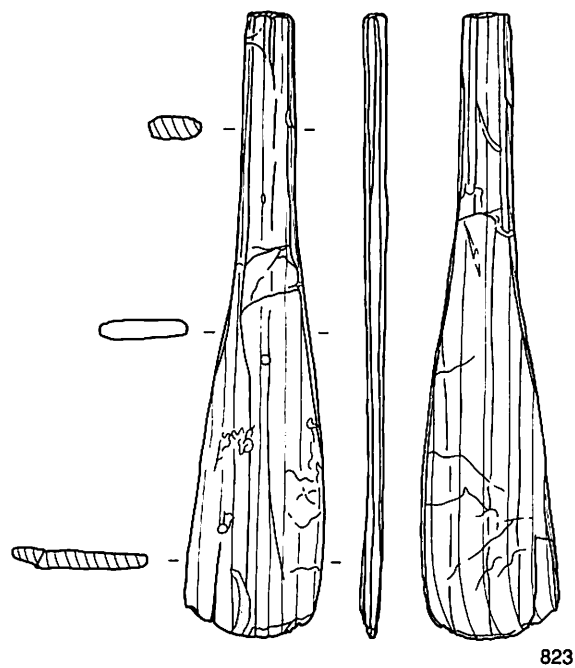
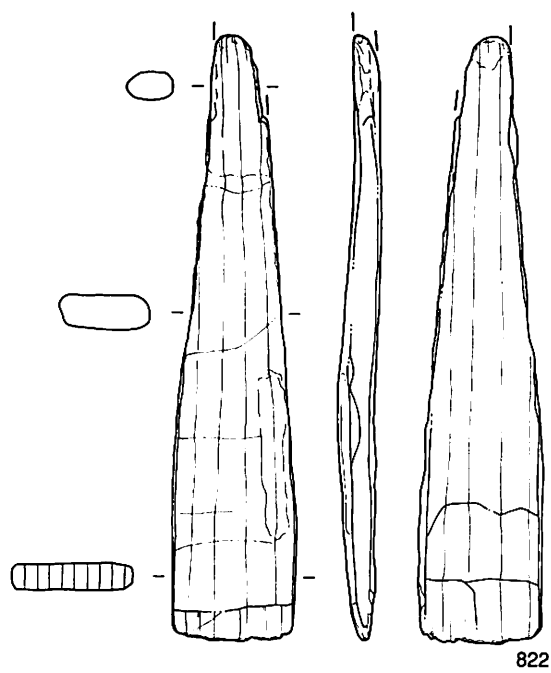
図V-191 食具2 (杓子②)



図V-192 食用具3 (杓子③)

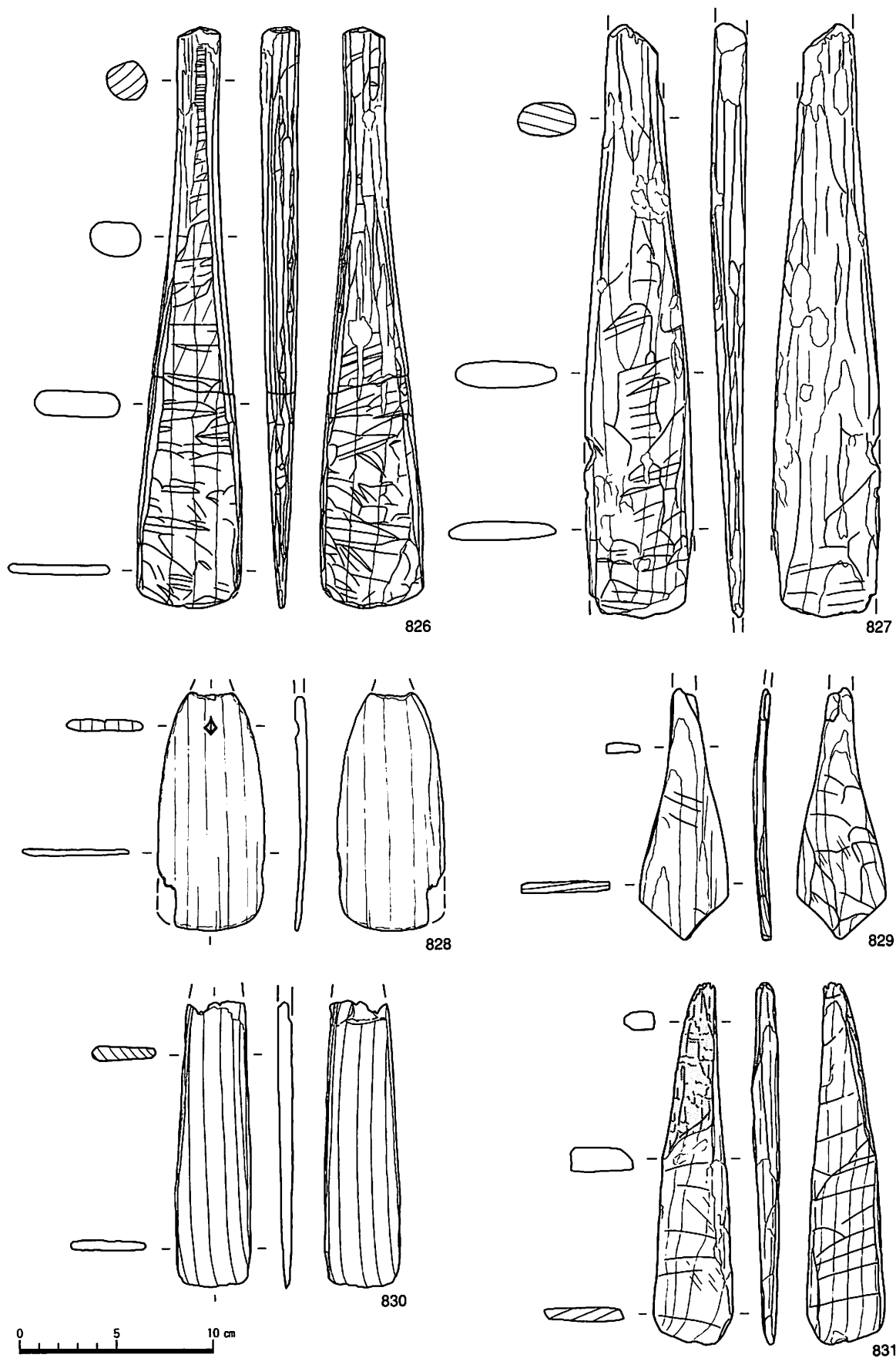


図V-193 食具4 (篋①)

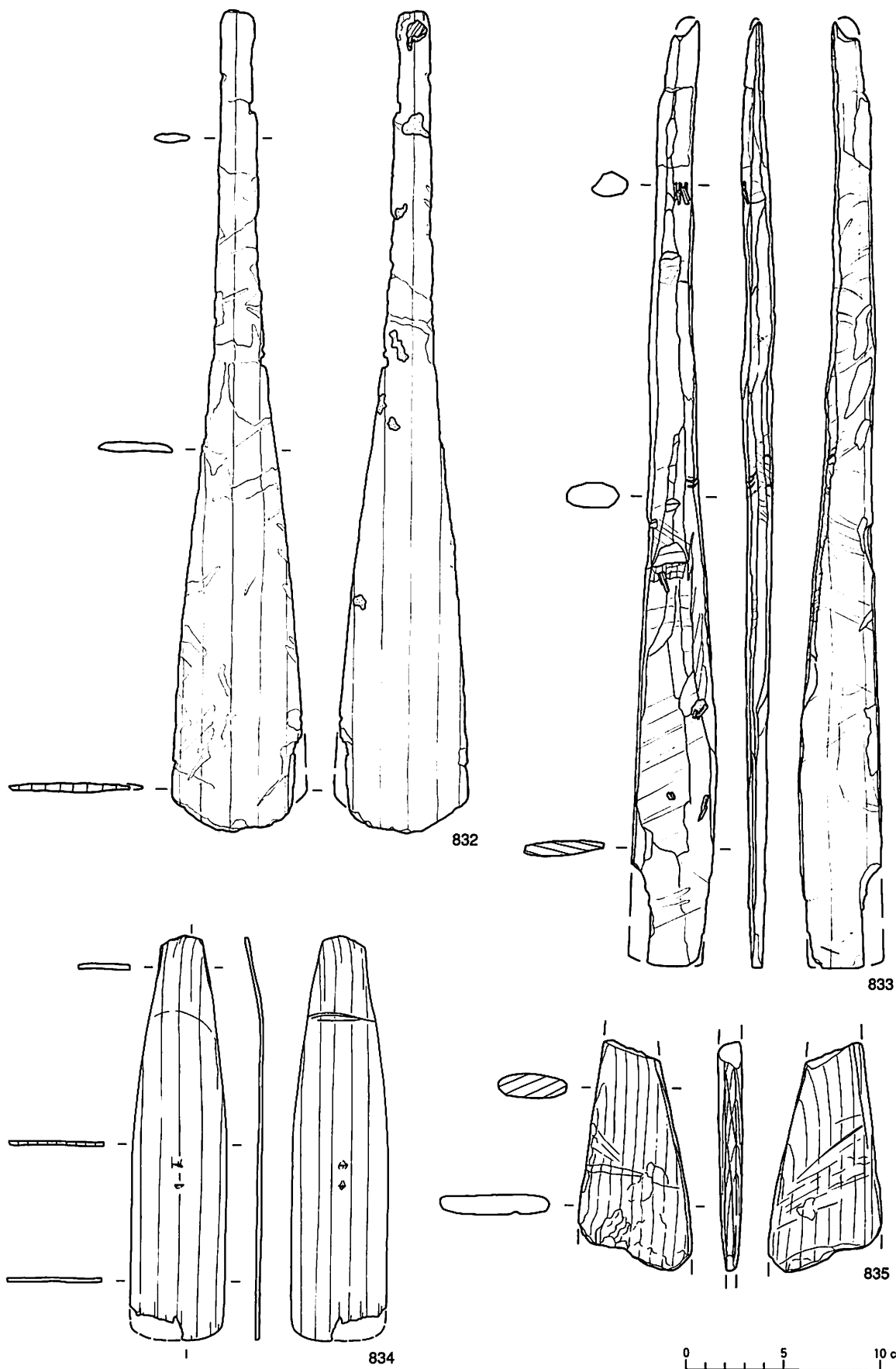


図V-194 食用具5 (筥②)

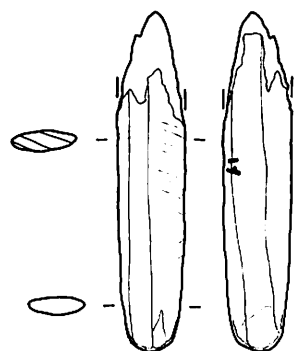




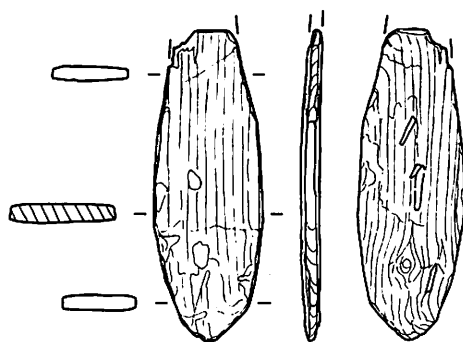
图V-195 食用具6 (篋③)



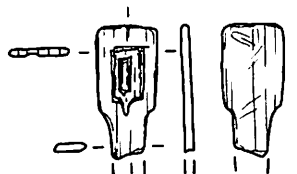
図V-196 食用具7 (籠④)



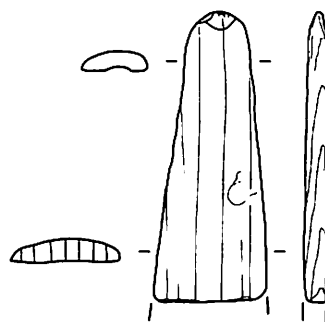
836



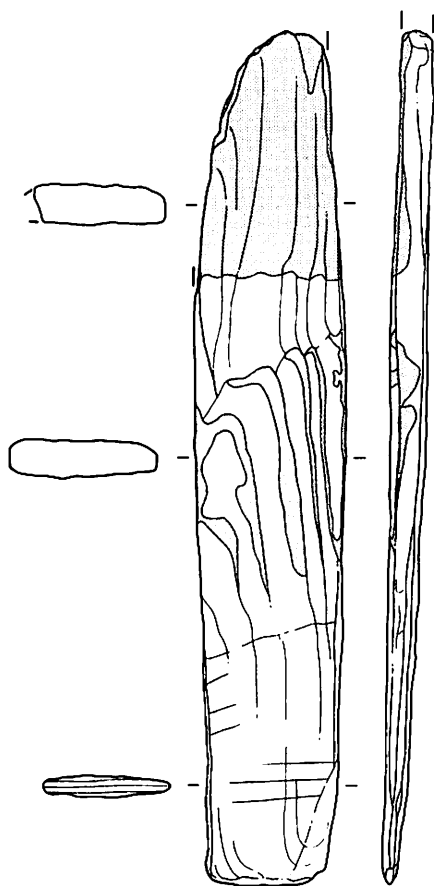
837



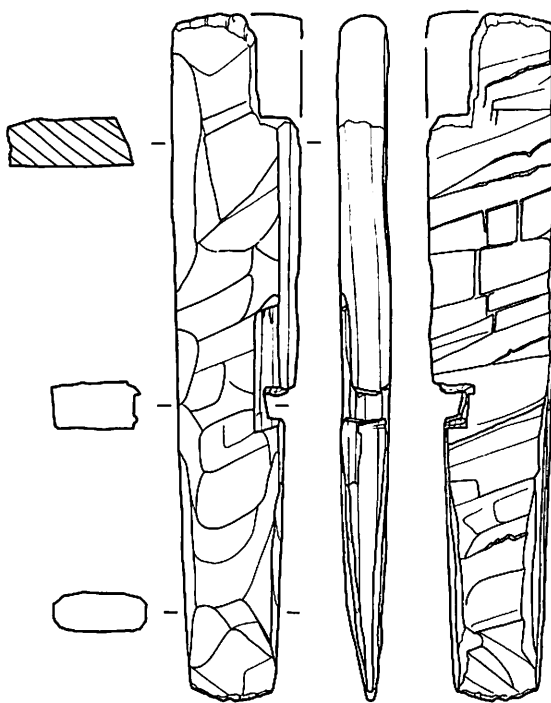
838



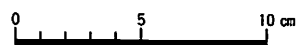
839



840

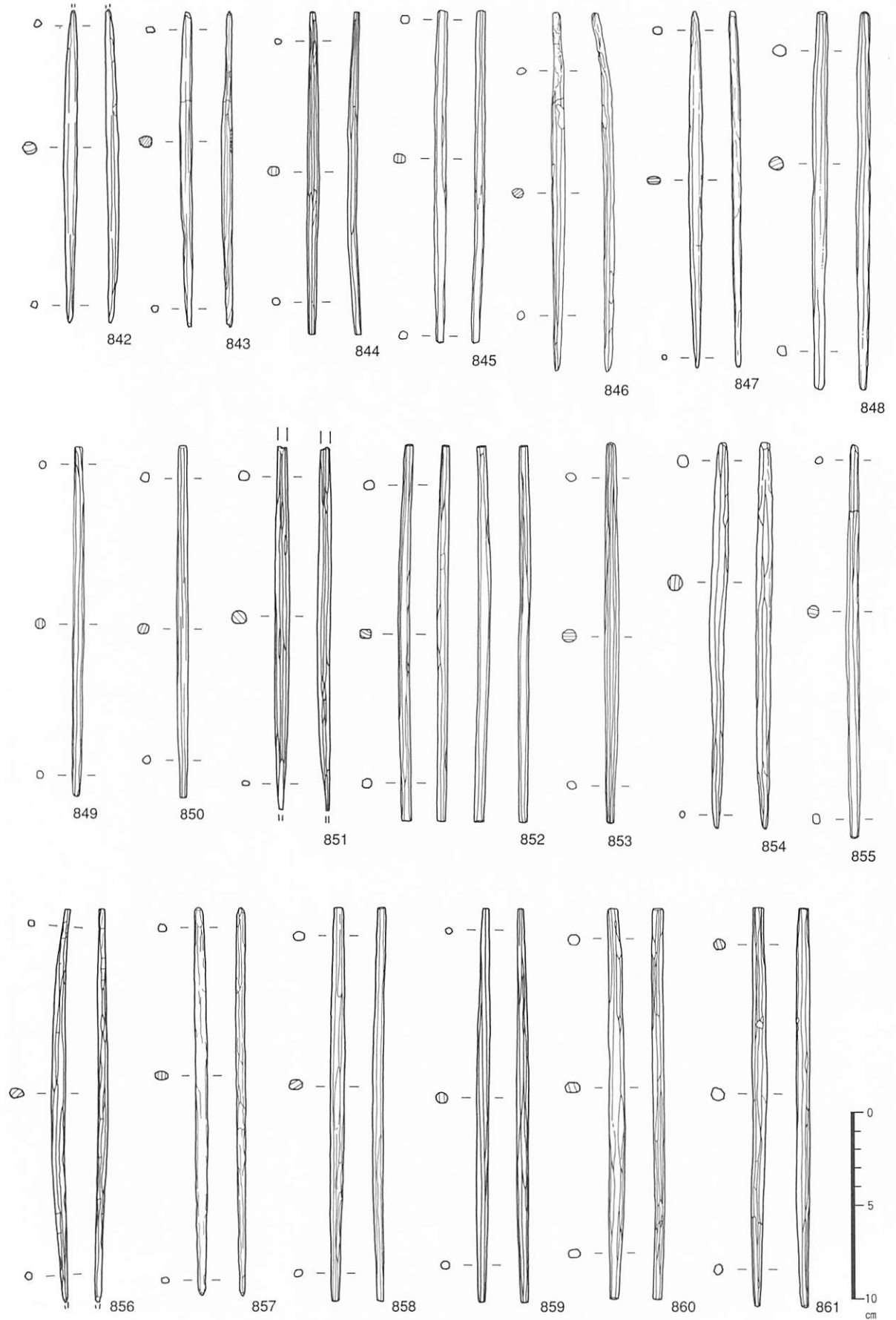


841

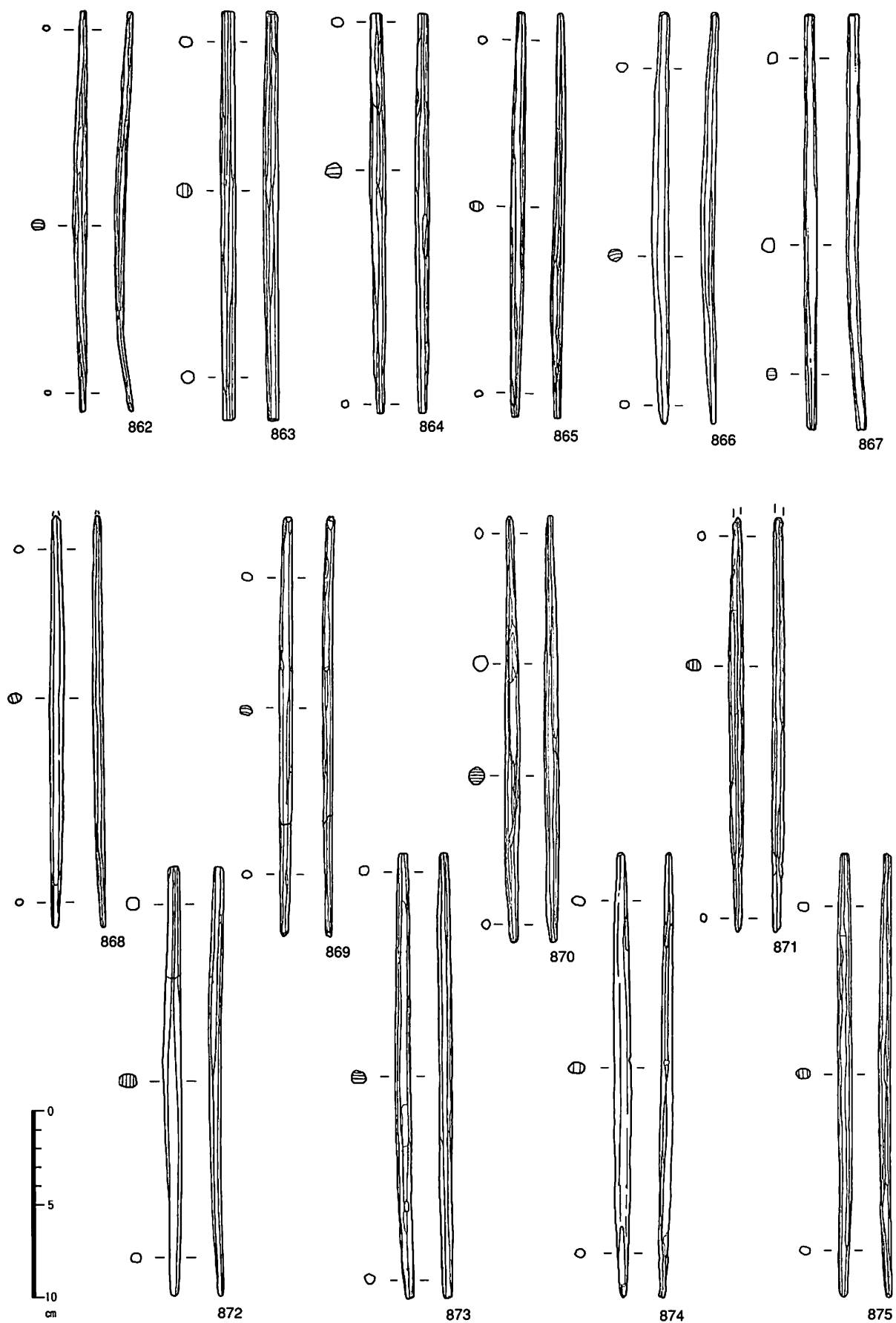


図V-197 食用具8 (篋⑤)

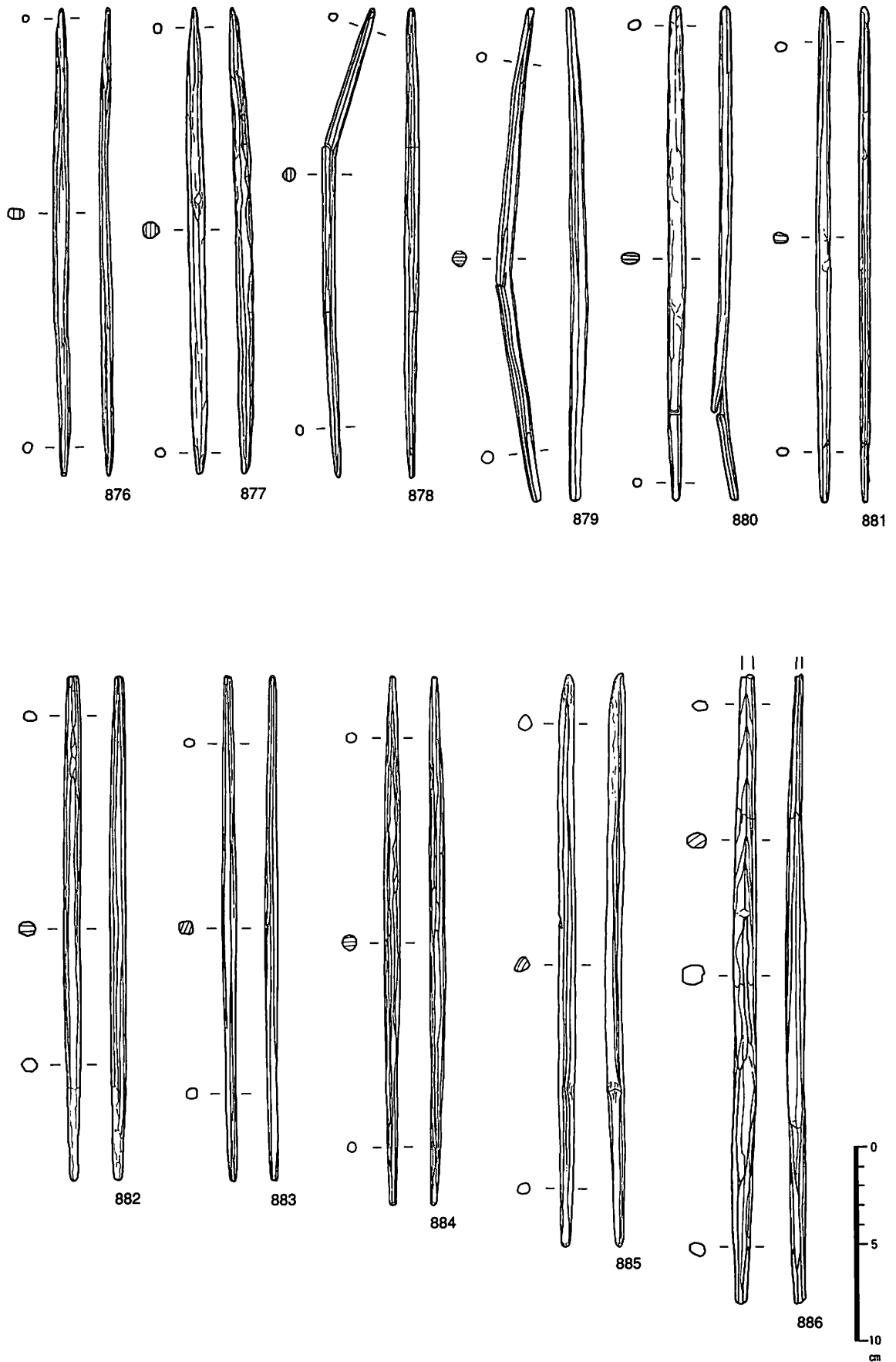
V 第0 黒色土層の調査



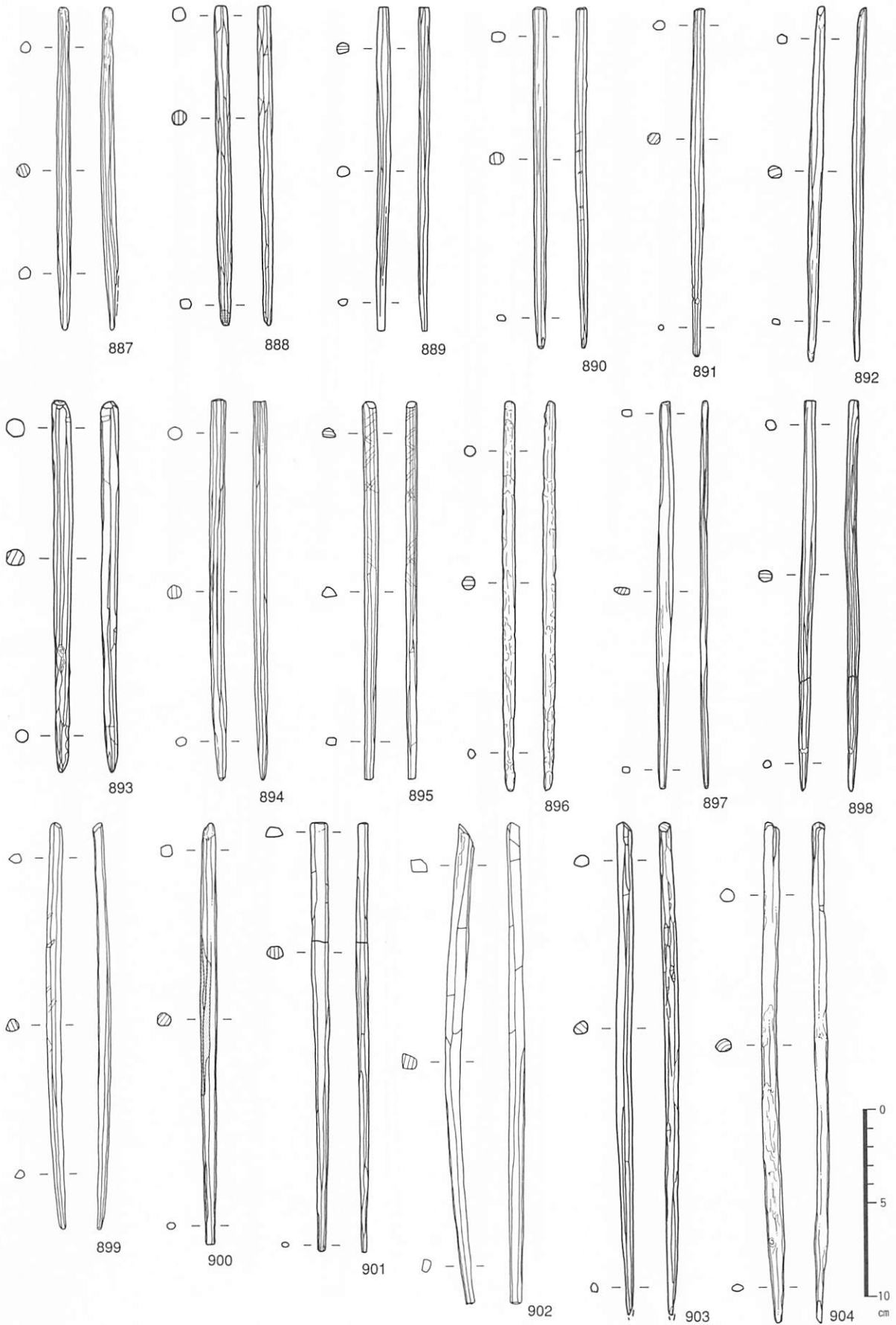
図V-198 食用具9 (両口箸①)



図V-199 食用具10 (両口箸②)

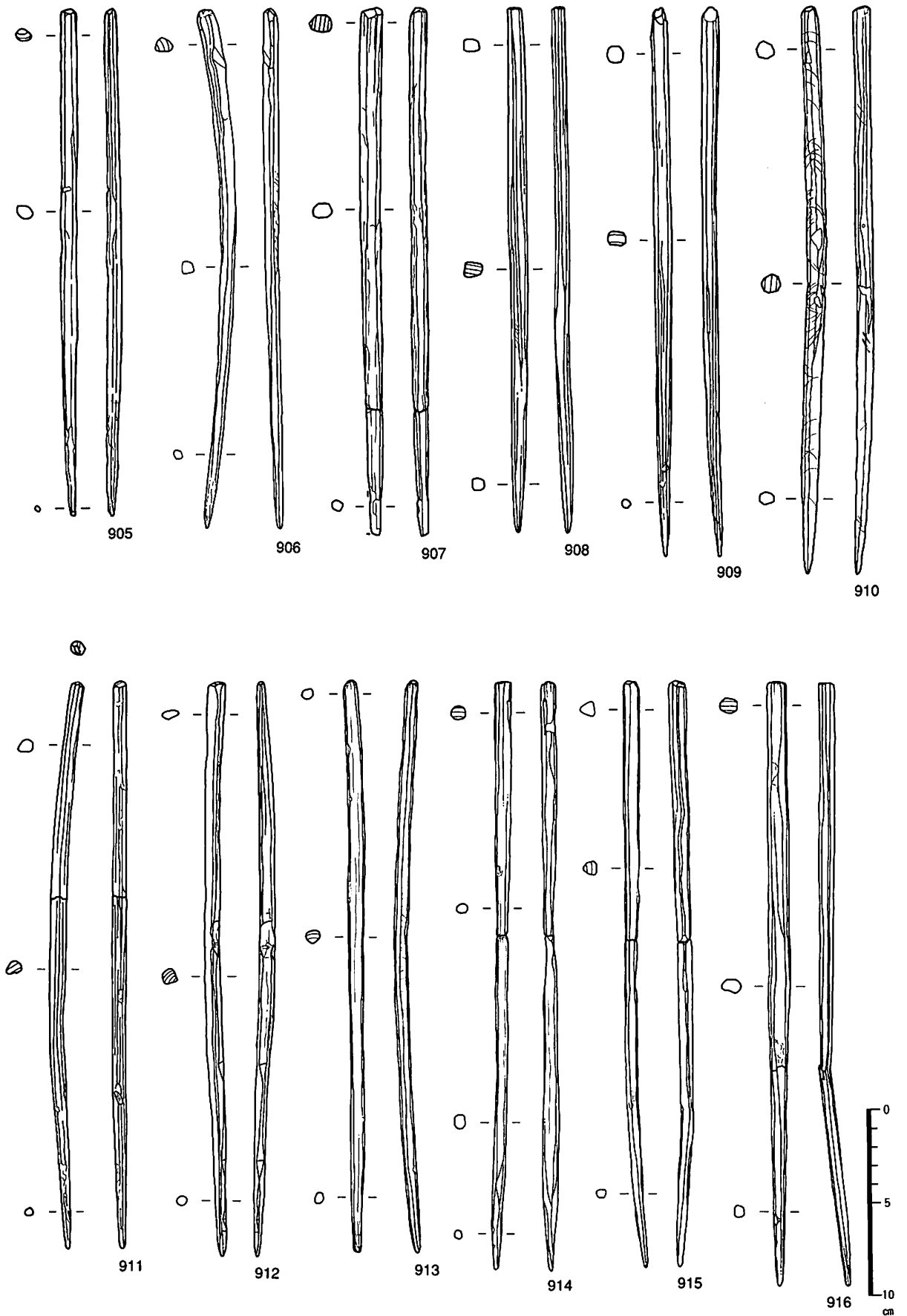


図V-200 食用具11 (両口箸③)

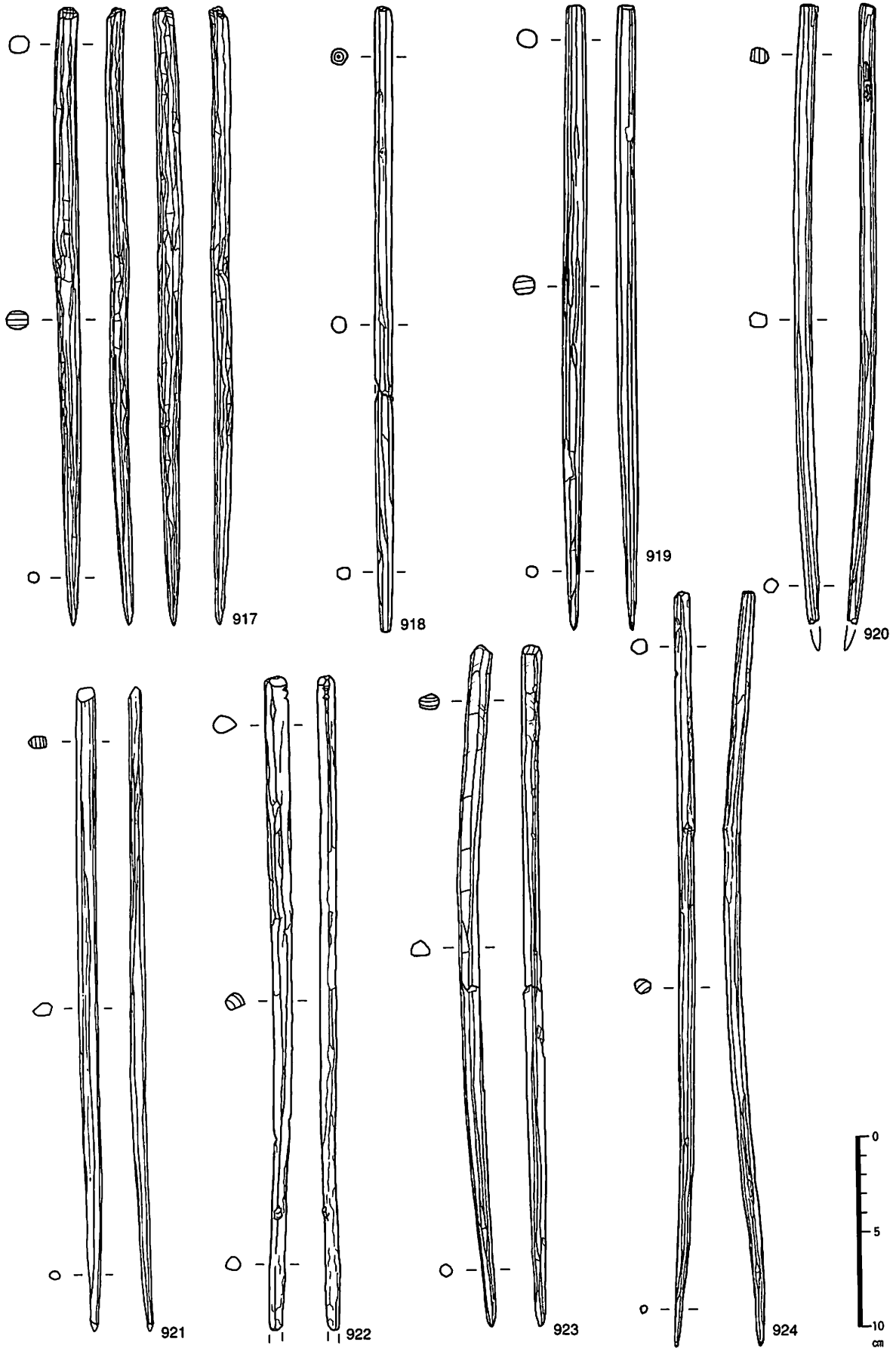


図V-201 食用具12 (片口箸①)

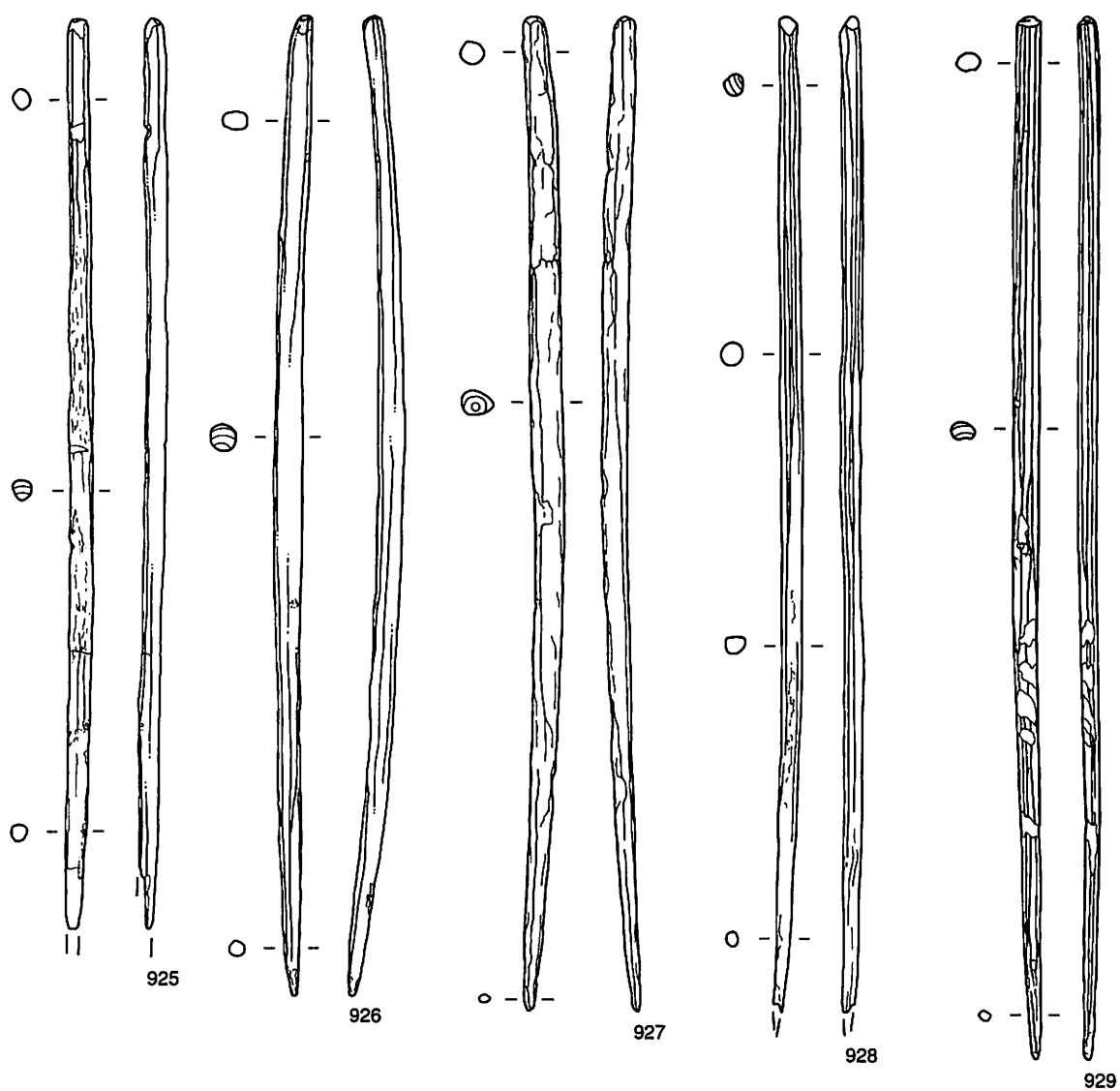




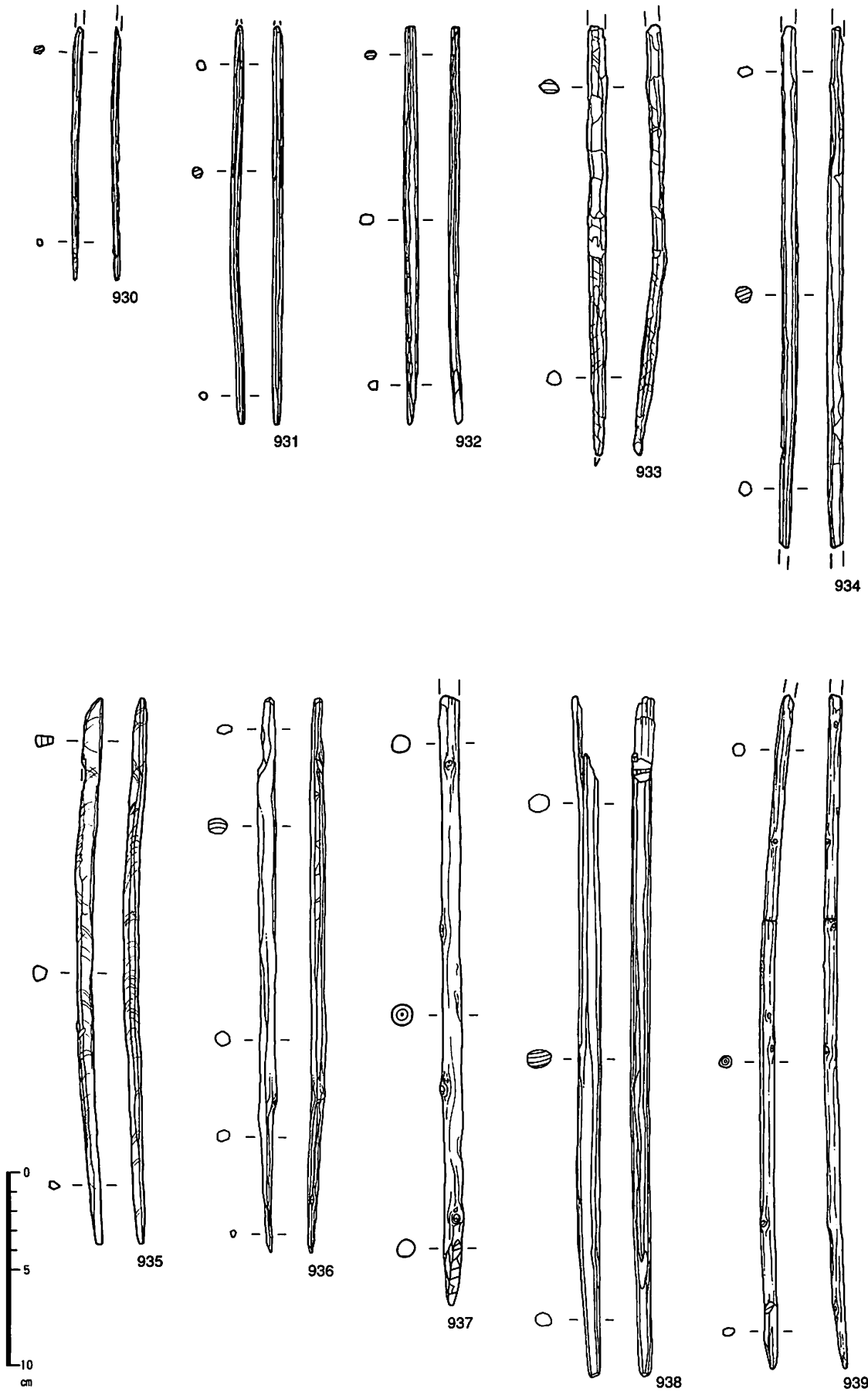
図V-202 食用具13 (片口箸②)



図V-203 食用具14 (片口箸③)

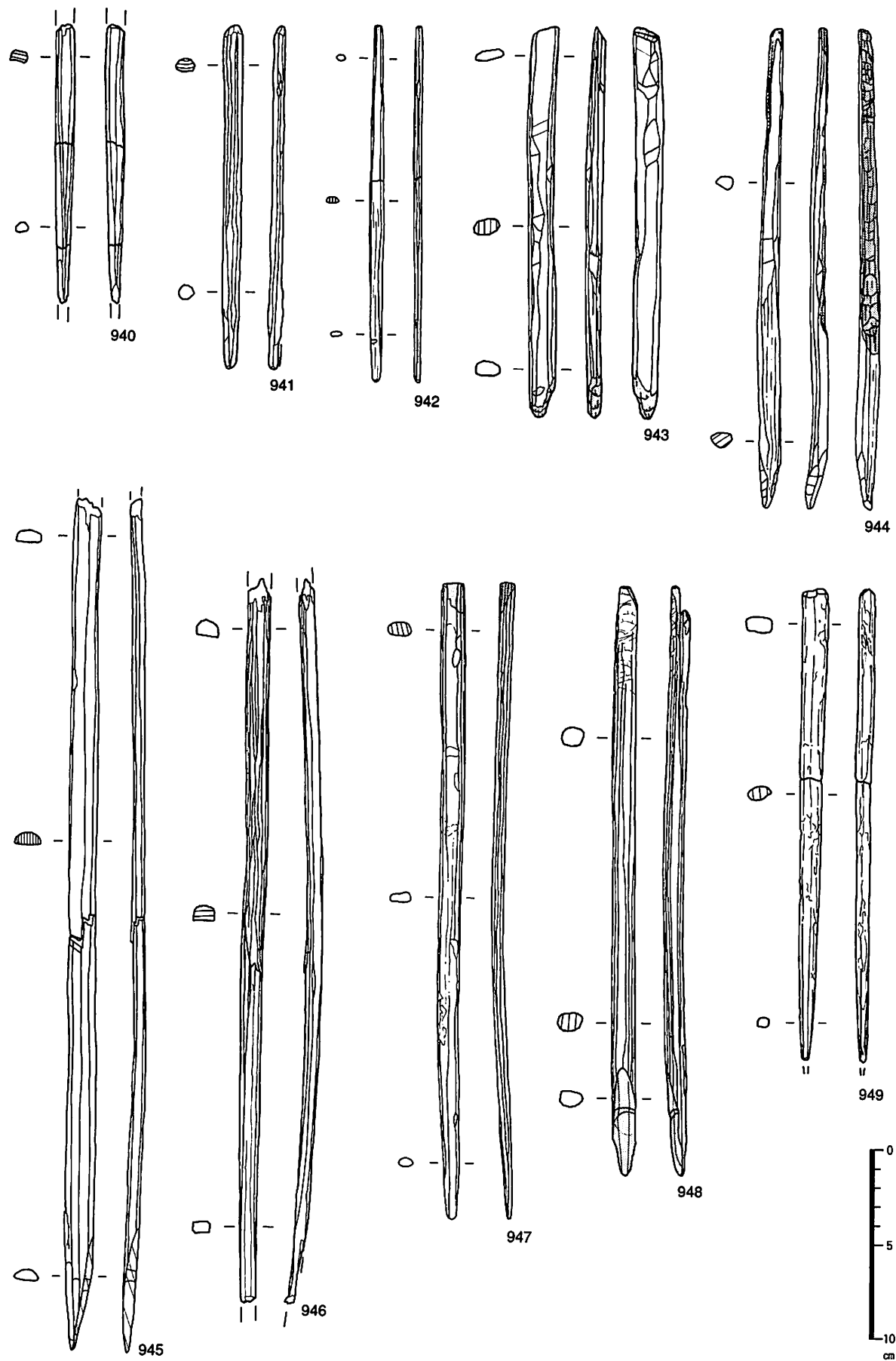


図V-204 食具15 (片口箸④)

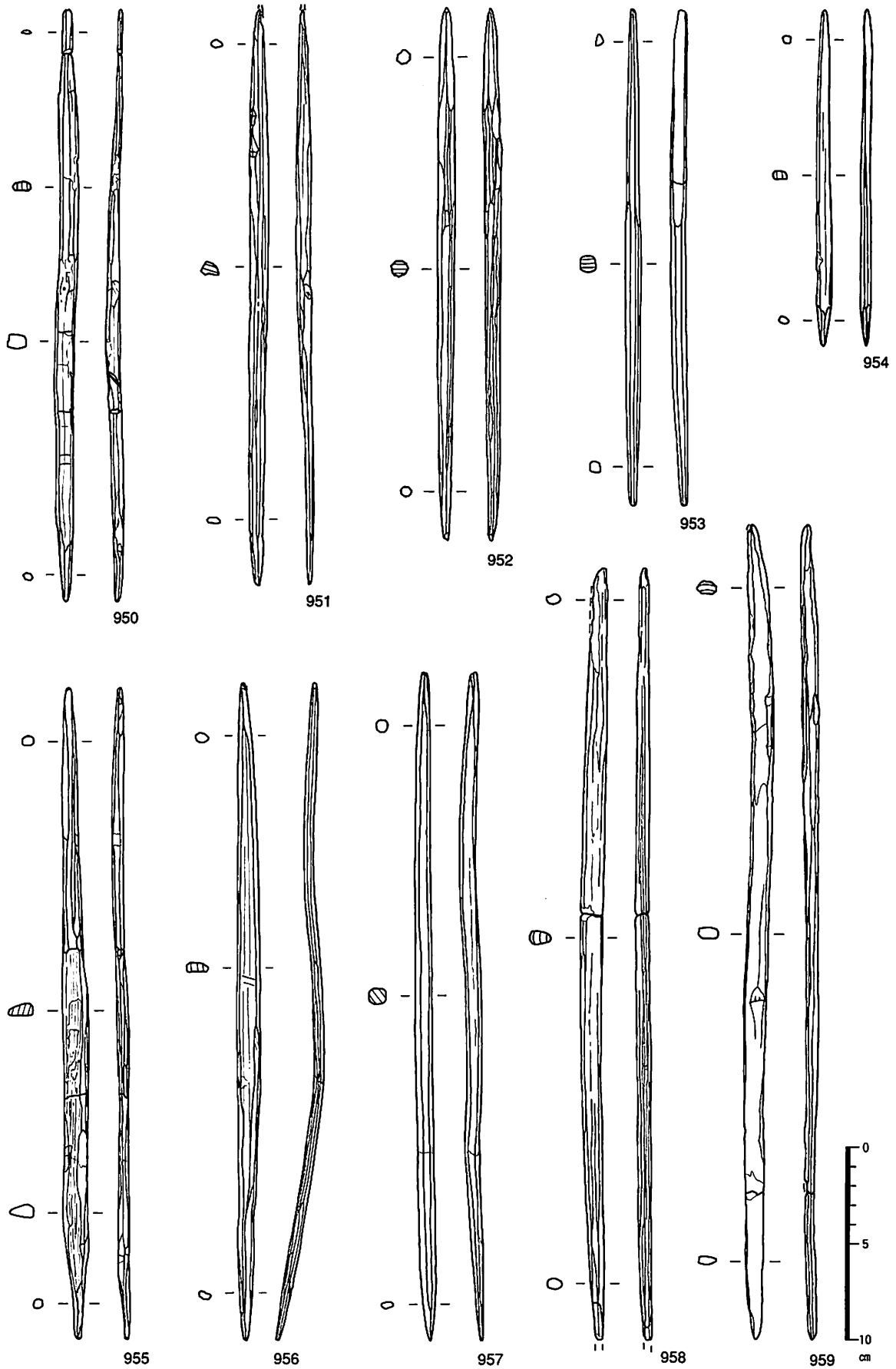


図V-205 食用具16 (串①)

V 第0 黑色土層の調査

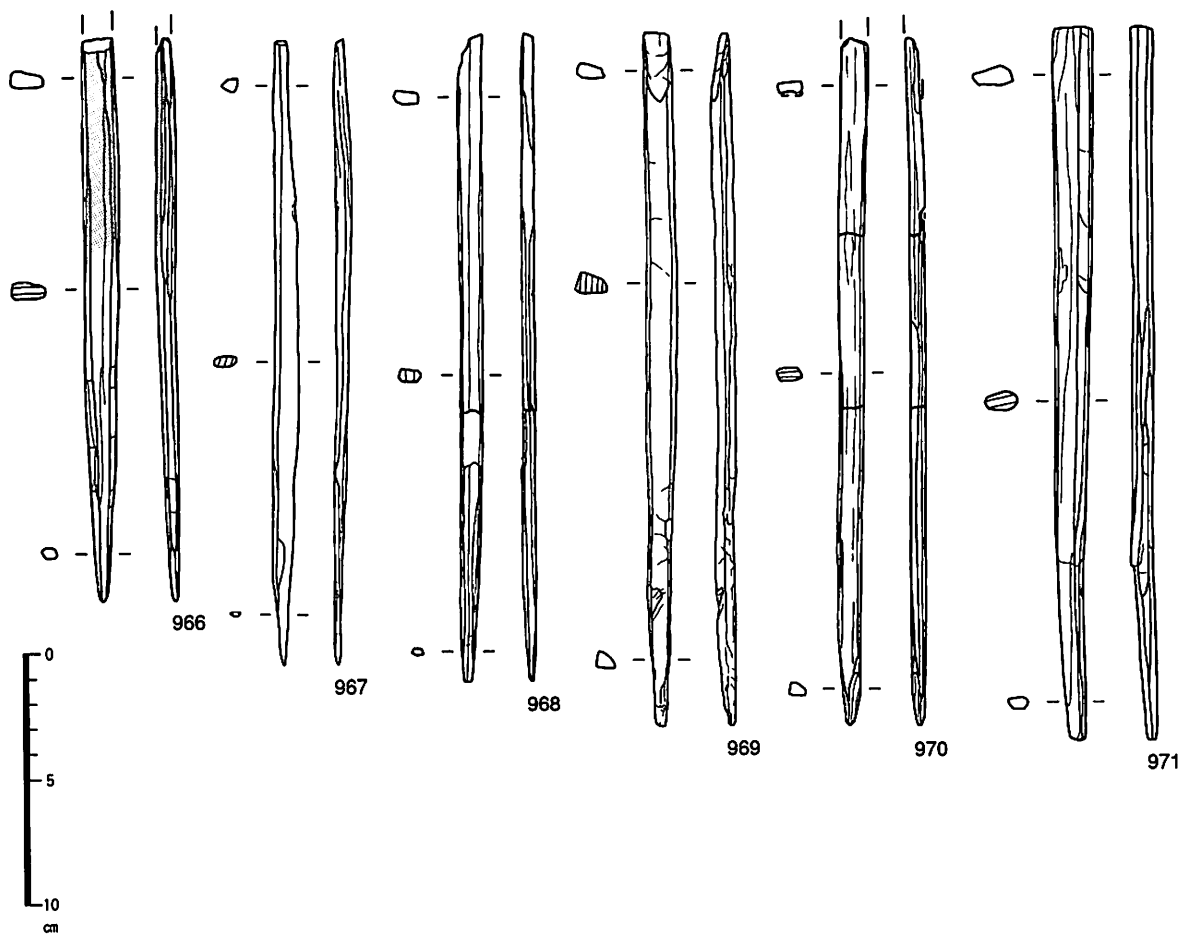
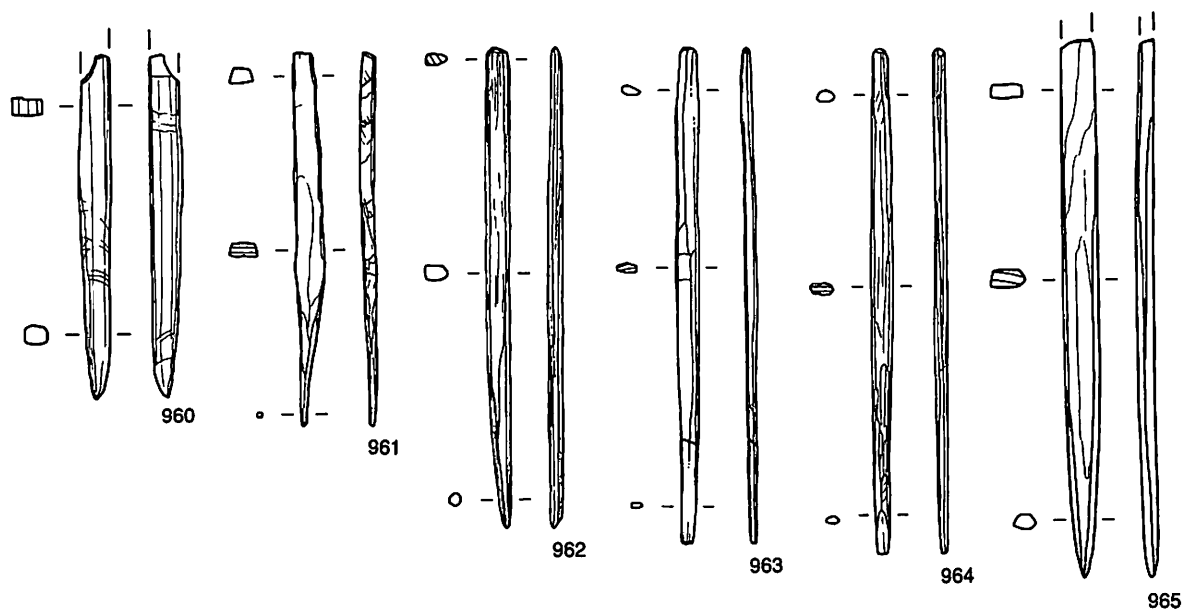


图V-206 食用具17 (串②)



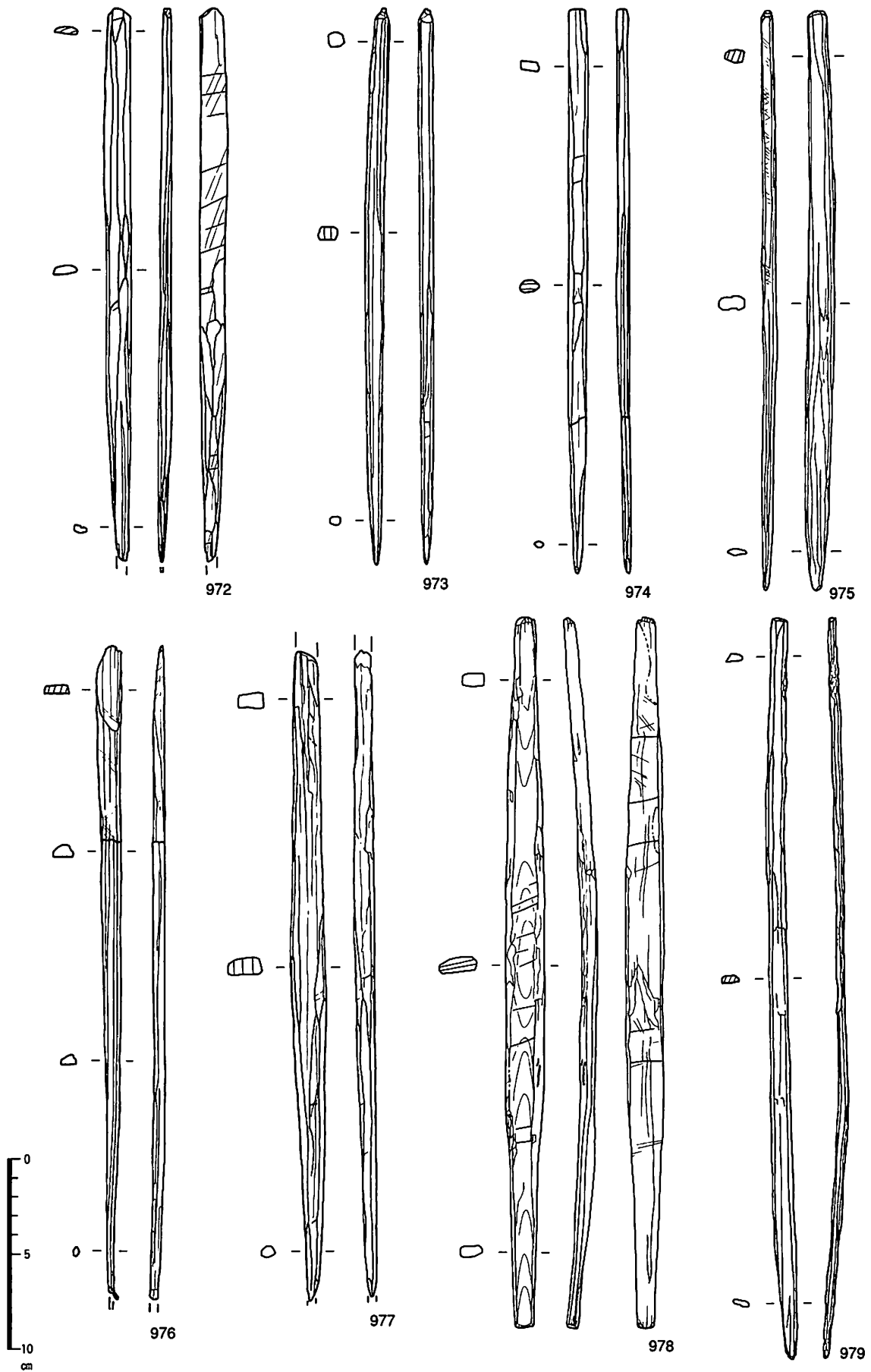
図V-207 食用具18 (串③)

V 第0黒色土層の調査



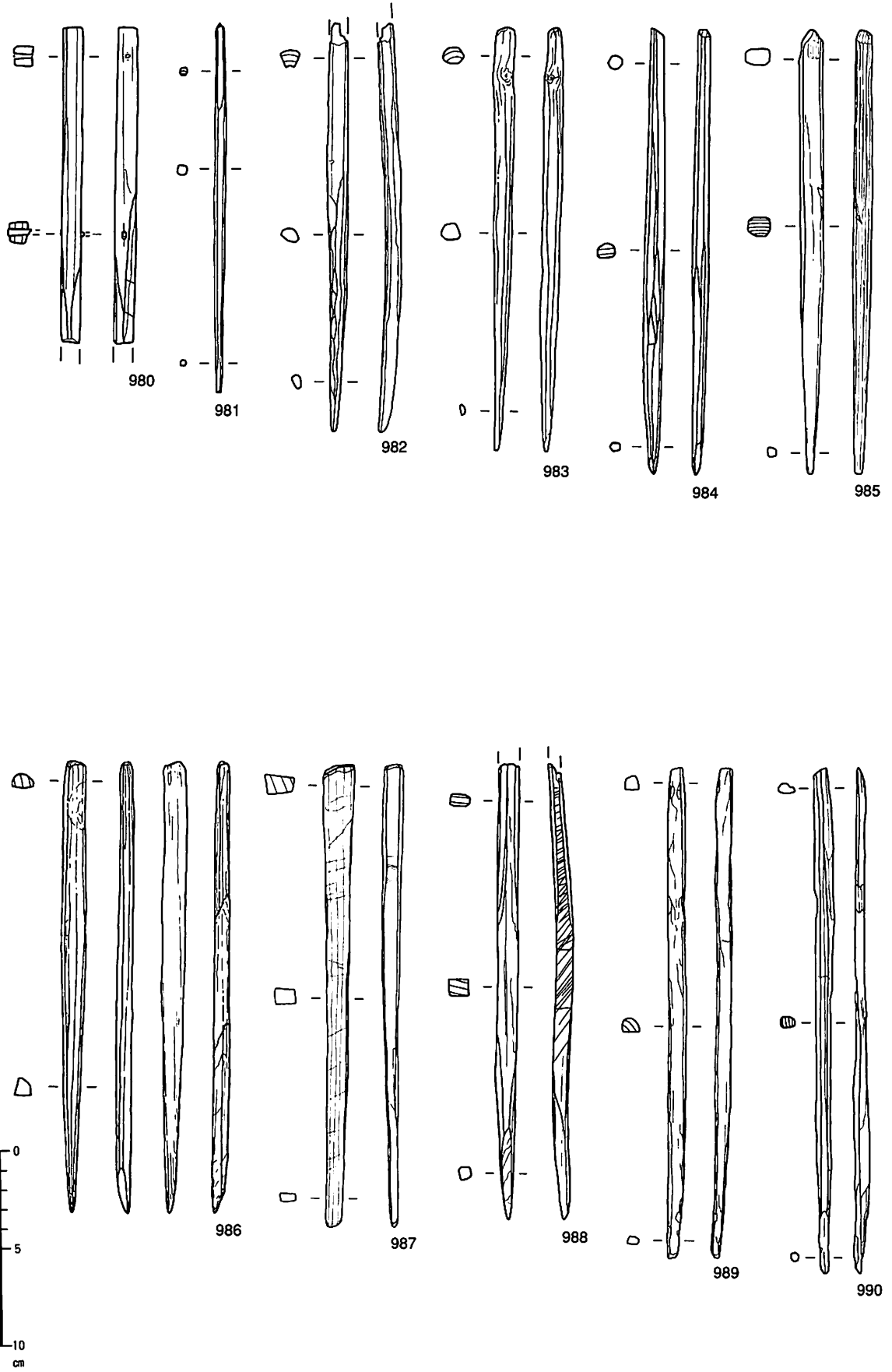
図V-208 食用具19 (串④)



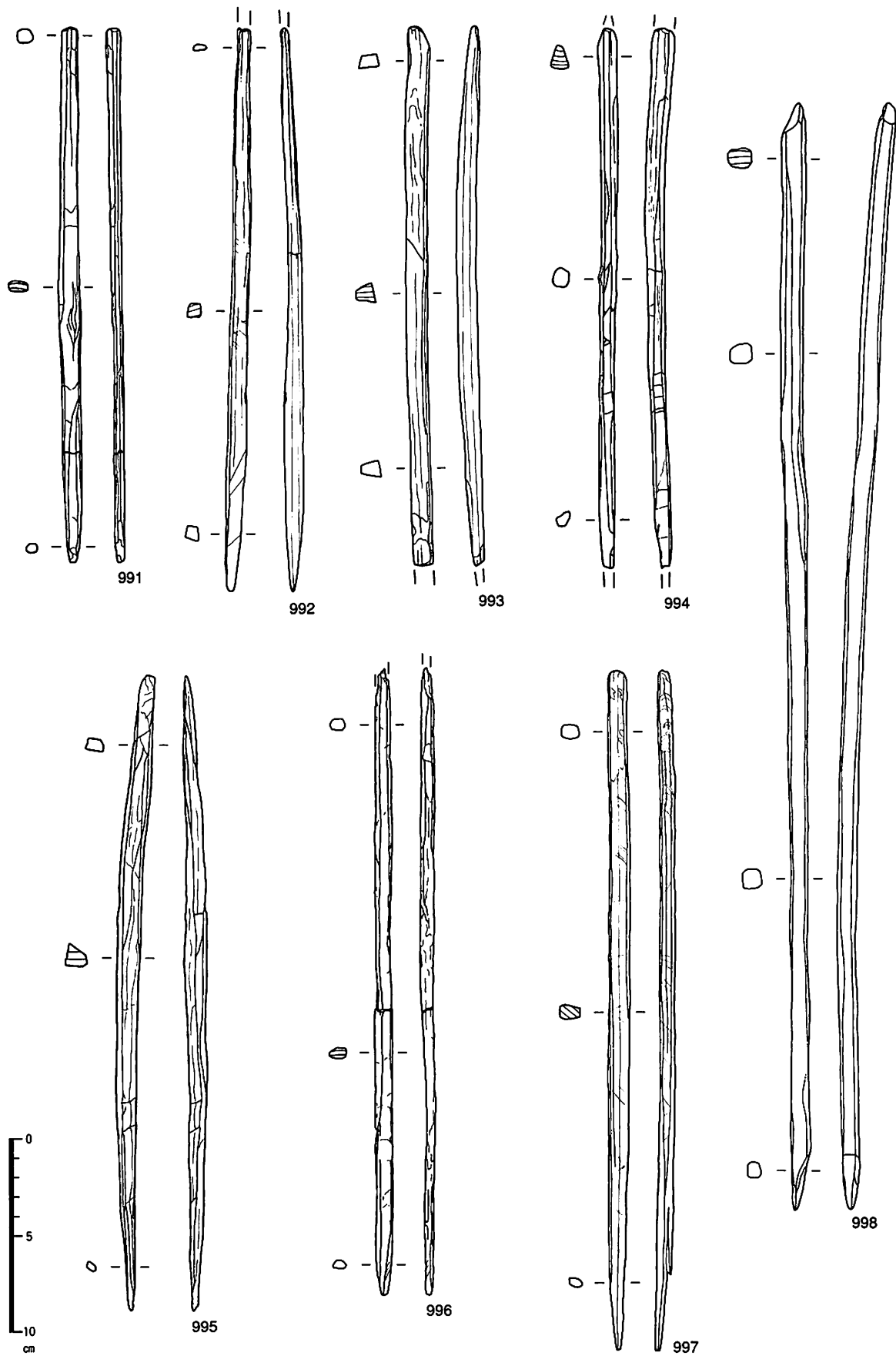


図V-209 食用具20 (串⑤)

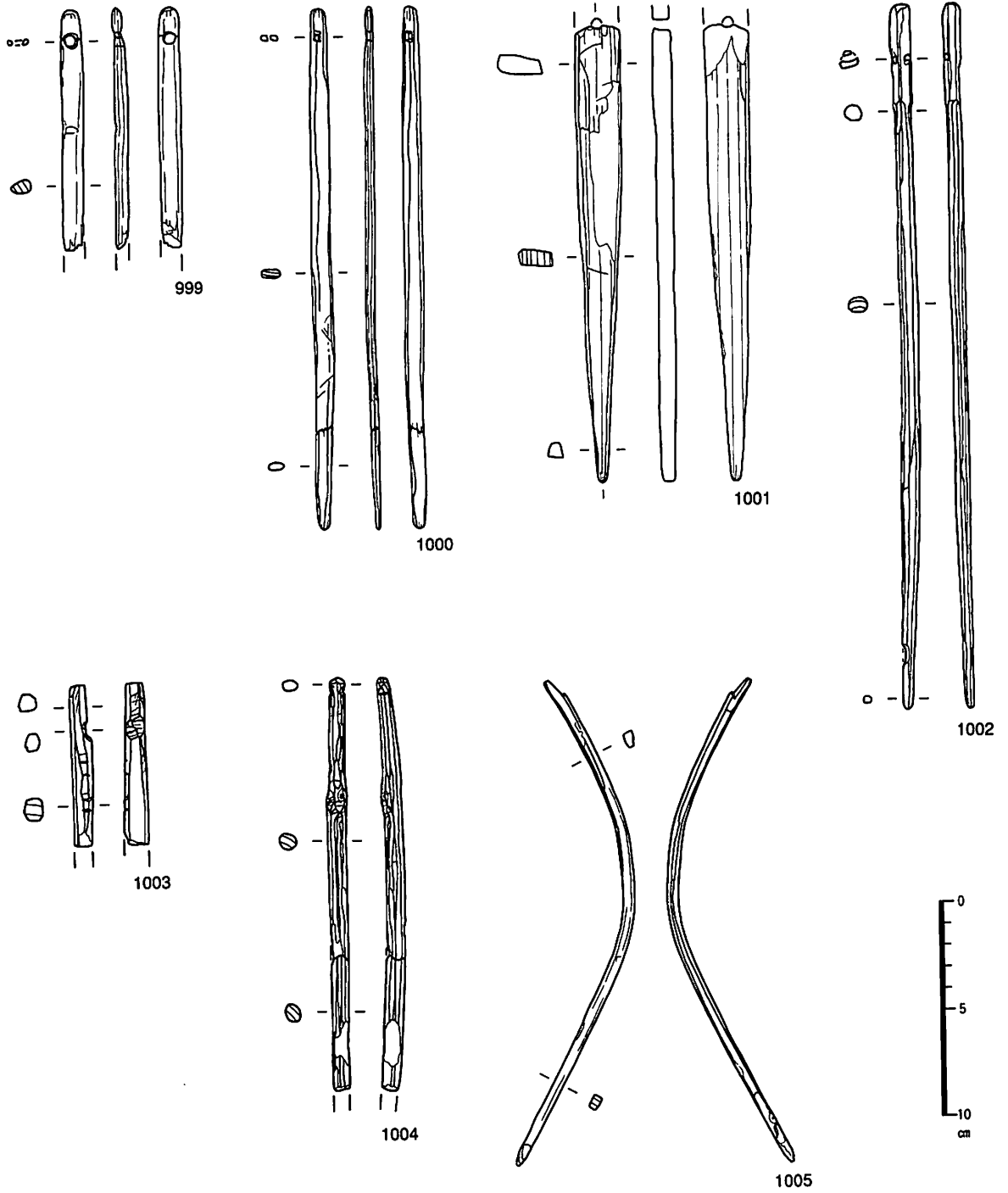
V 第0 黑色土層の調査



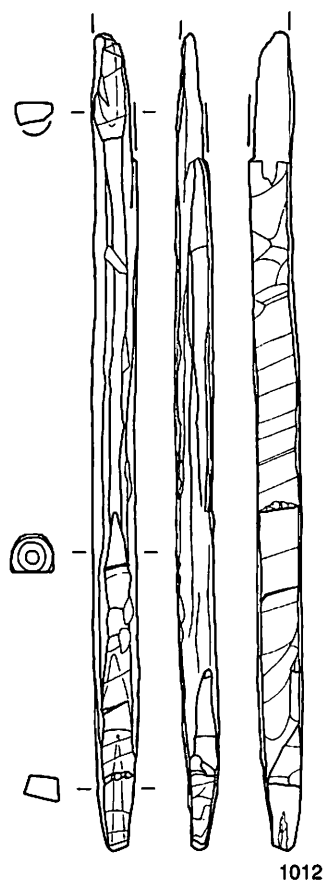
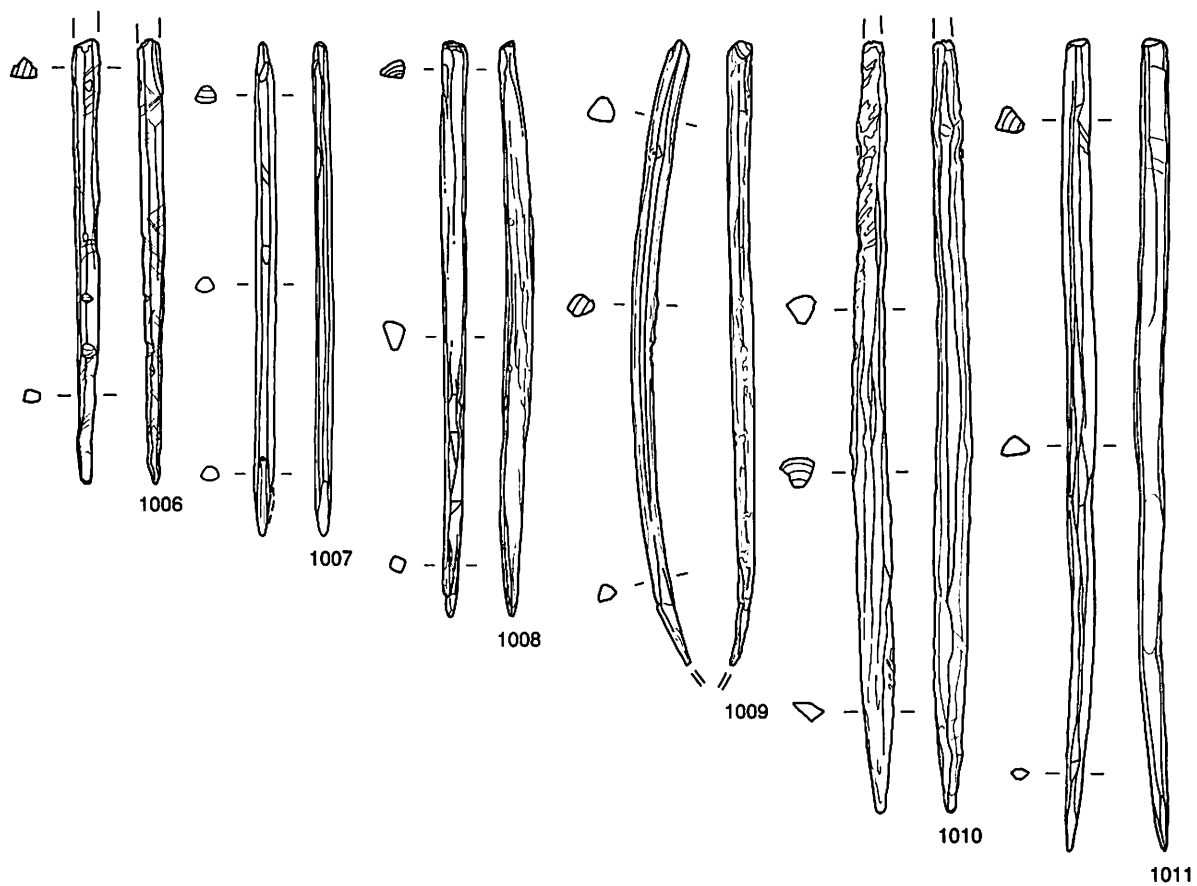
図V-210 食用具21 (串⑥)



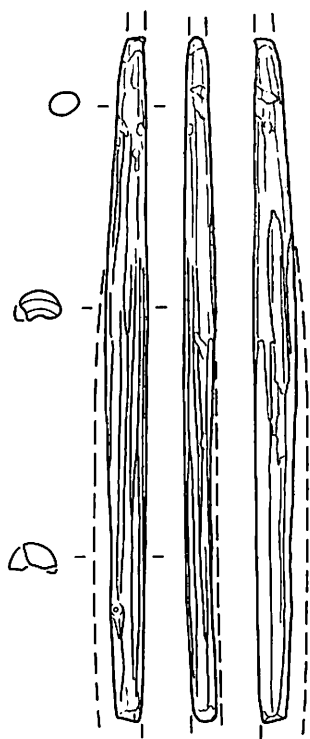
図V-211 食用具22 (串⑦)



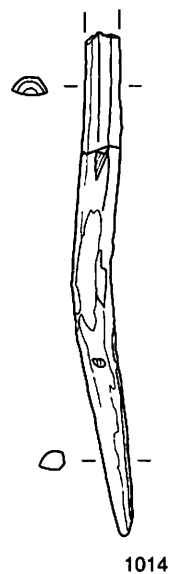
図V-212 食用具23 (串⑧)



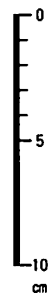
1012



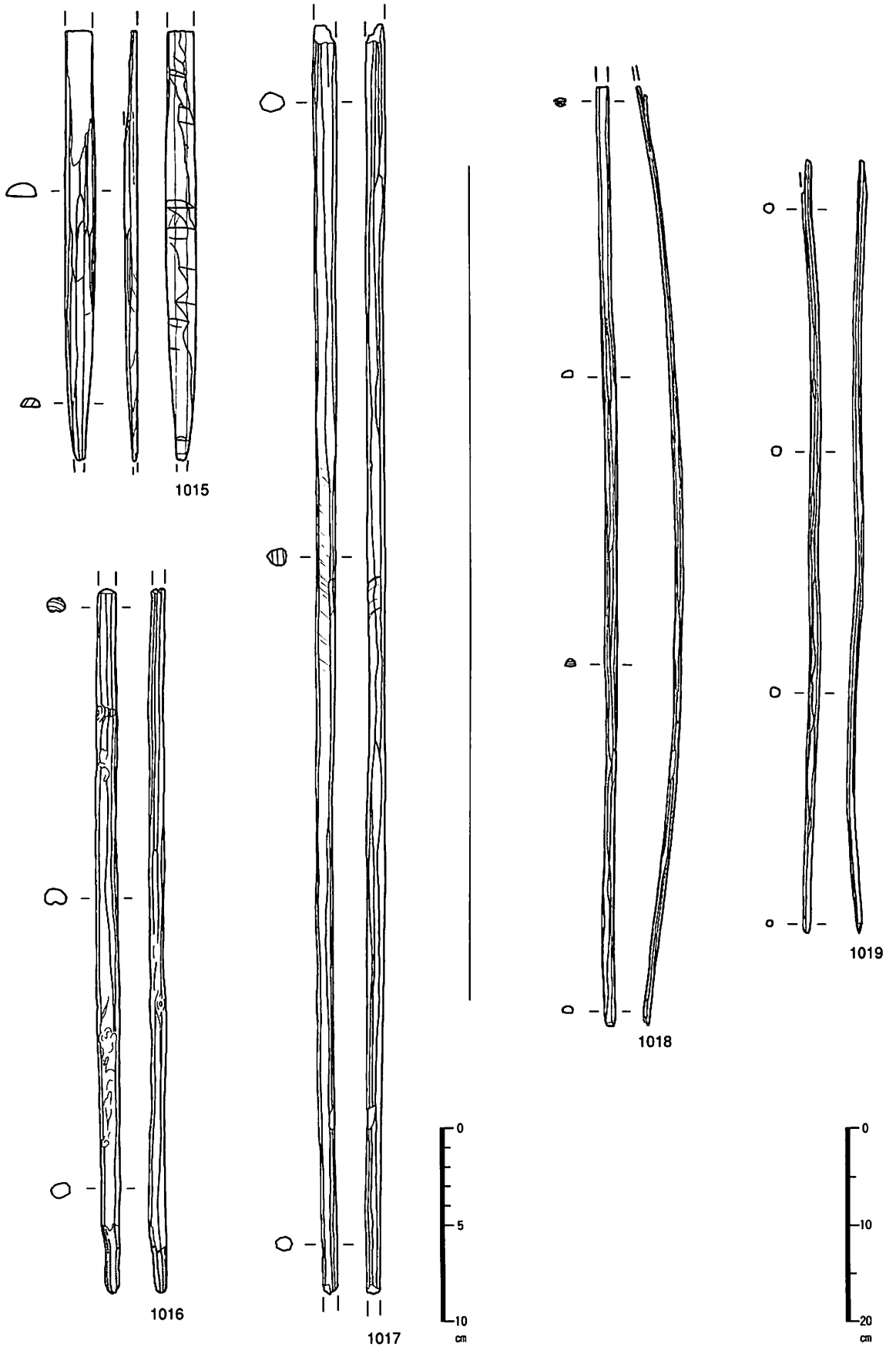
1013



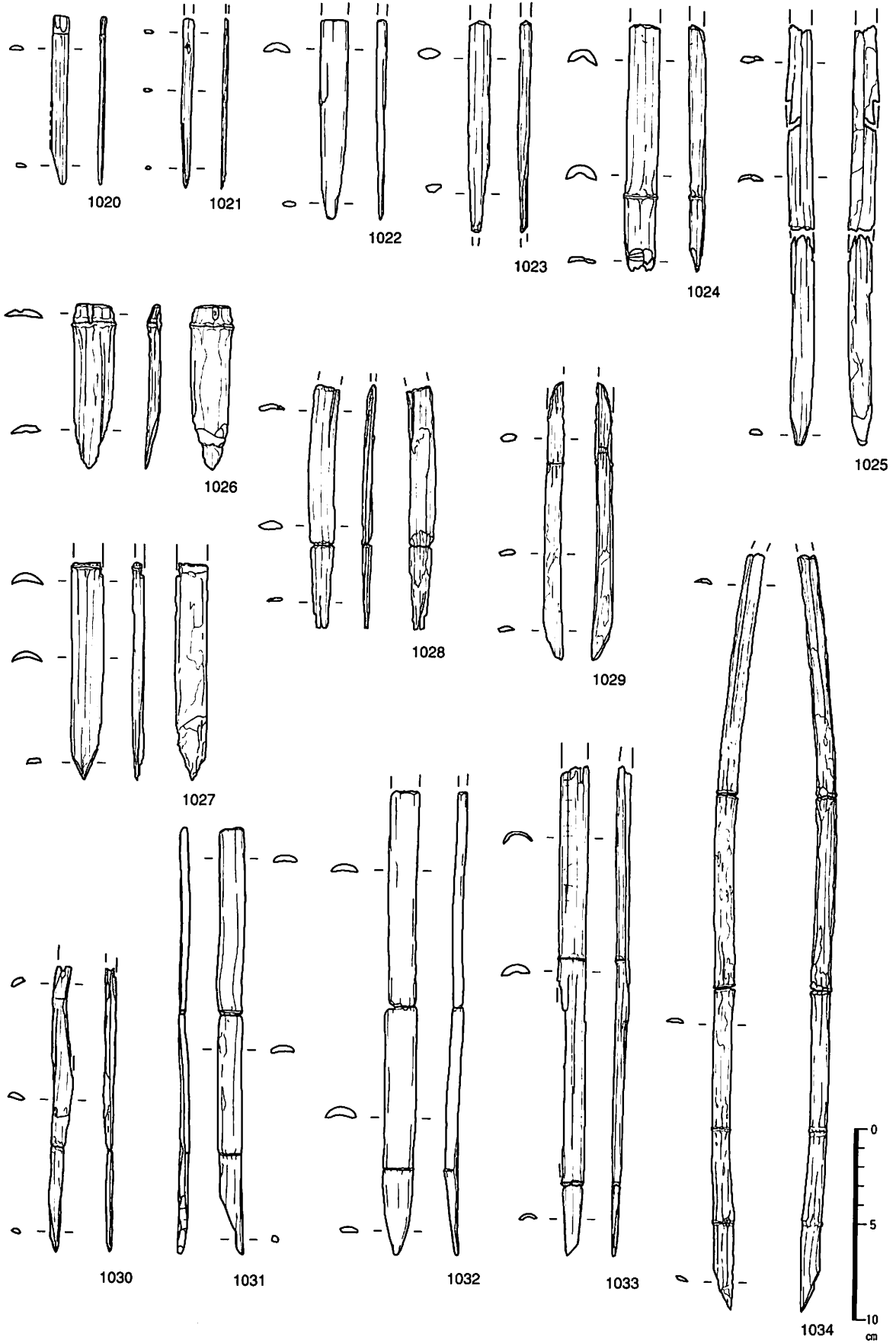
1014



図V-213 食用具24 (串⑨)

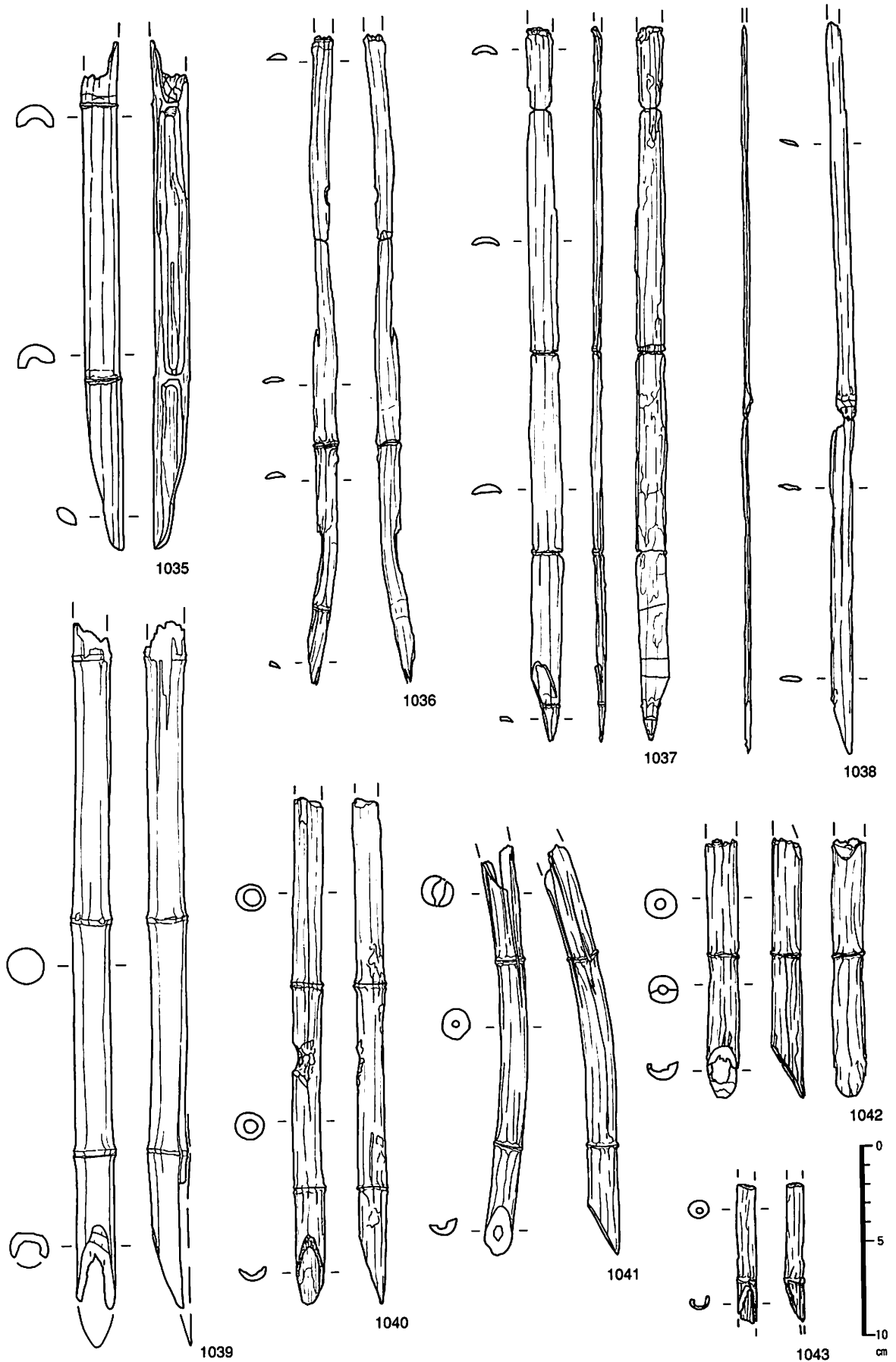


図V-214 食用具25 (串⑩)

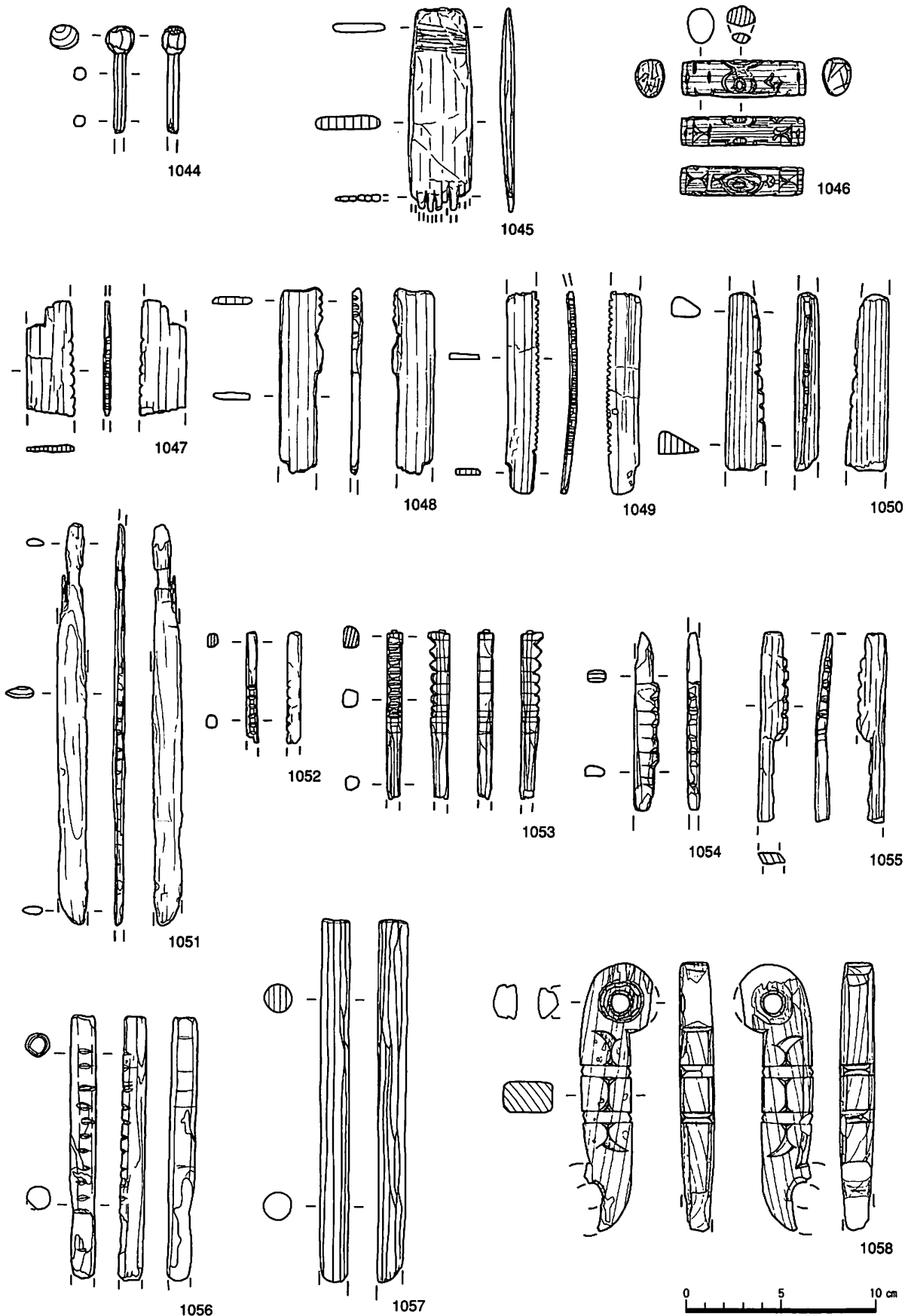


図V-215 食用具26 (串①)

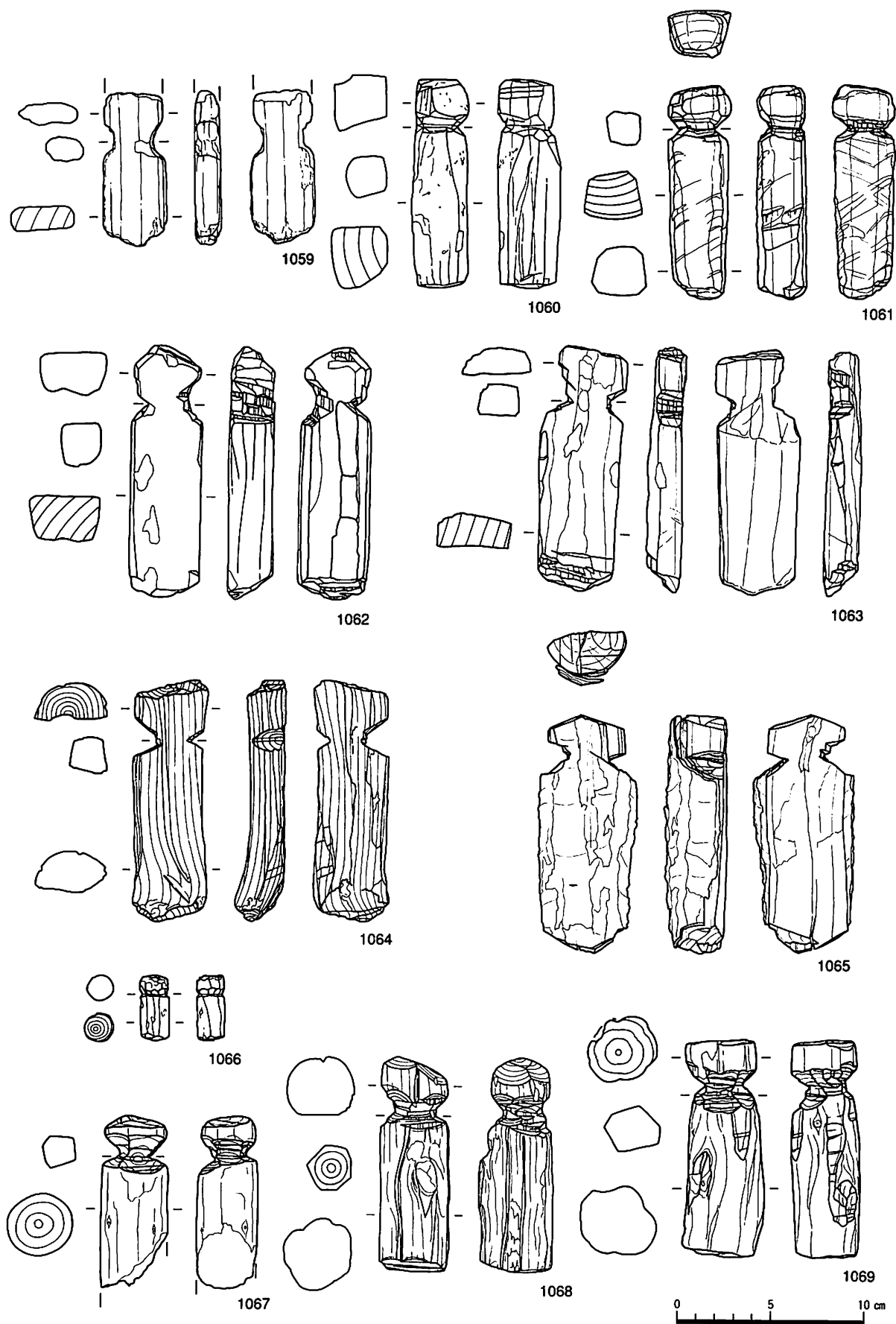




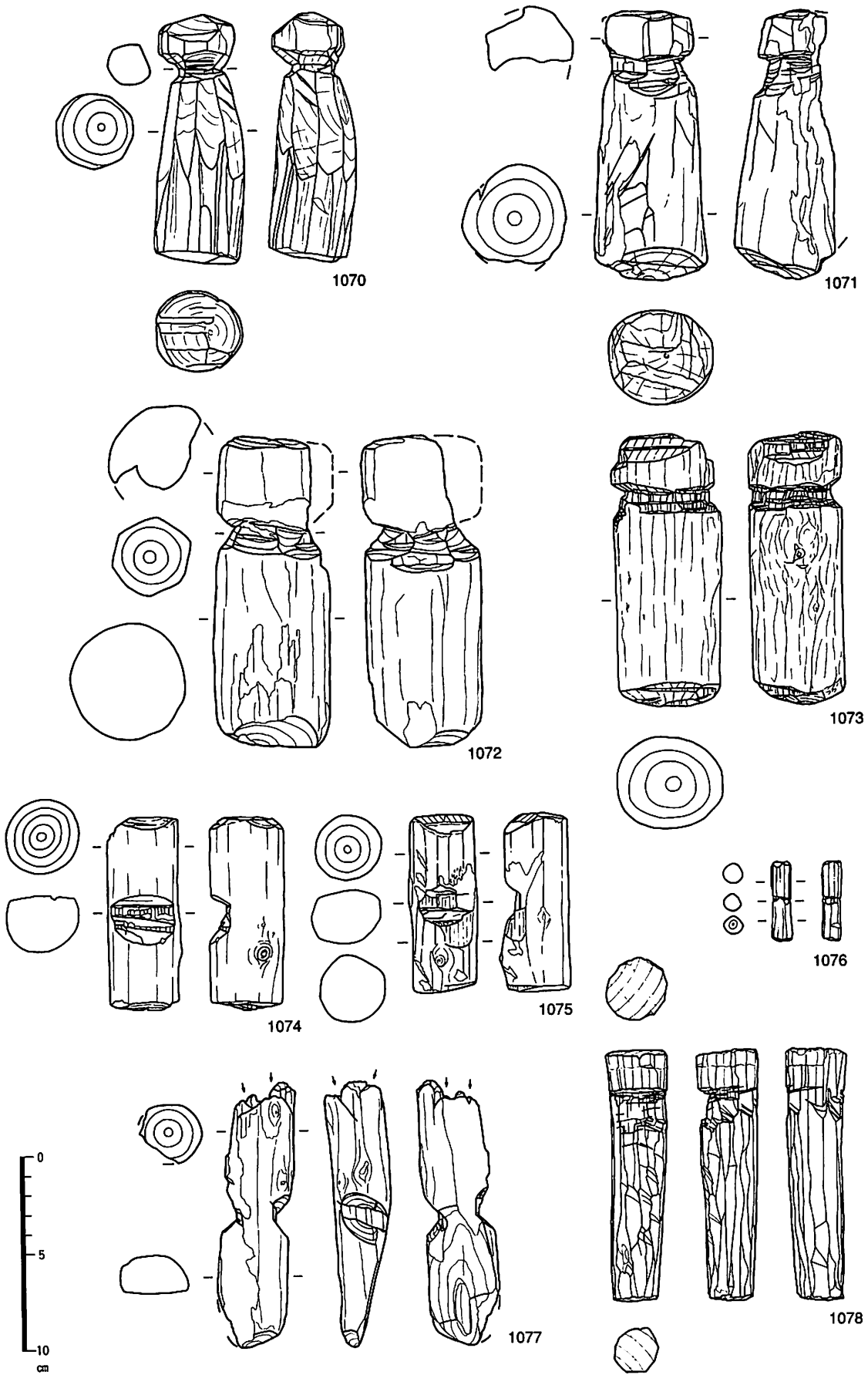
図V-216 食用具27 (串②)



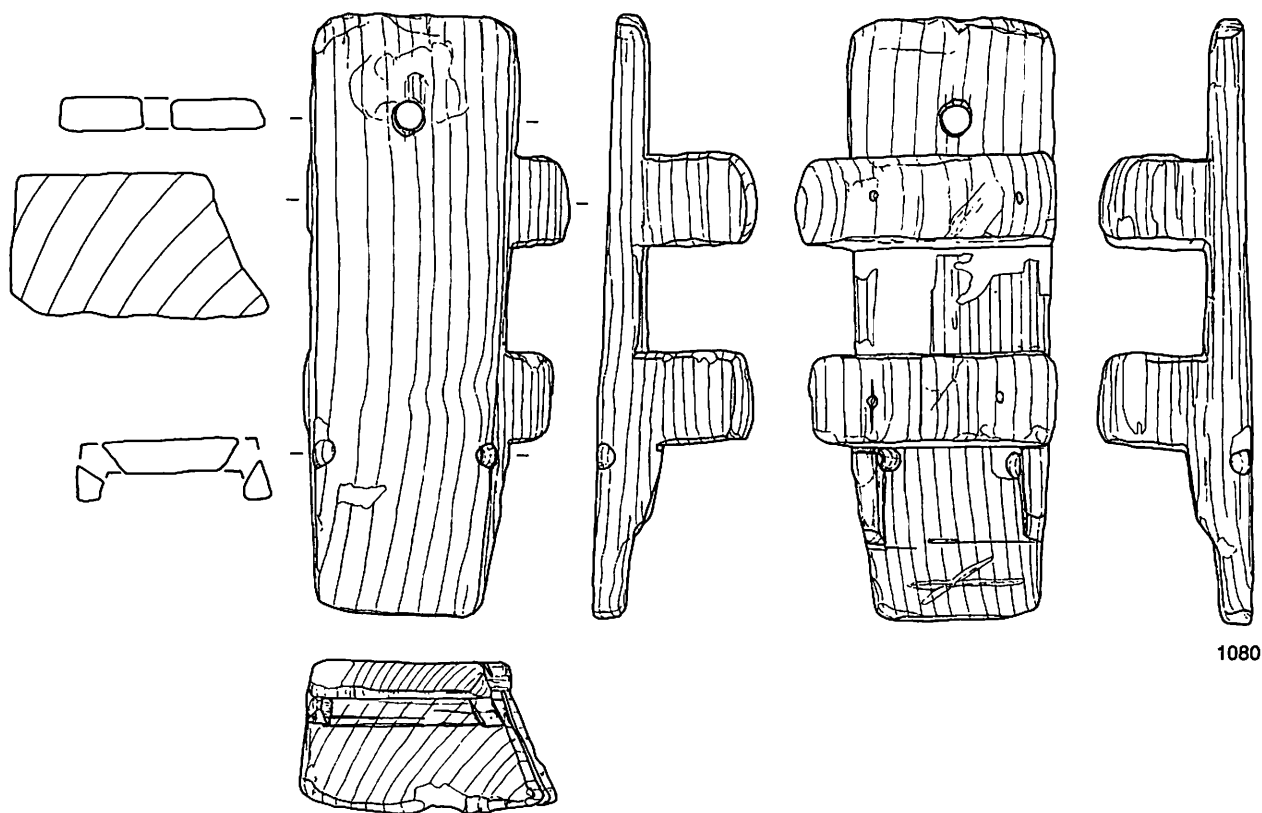
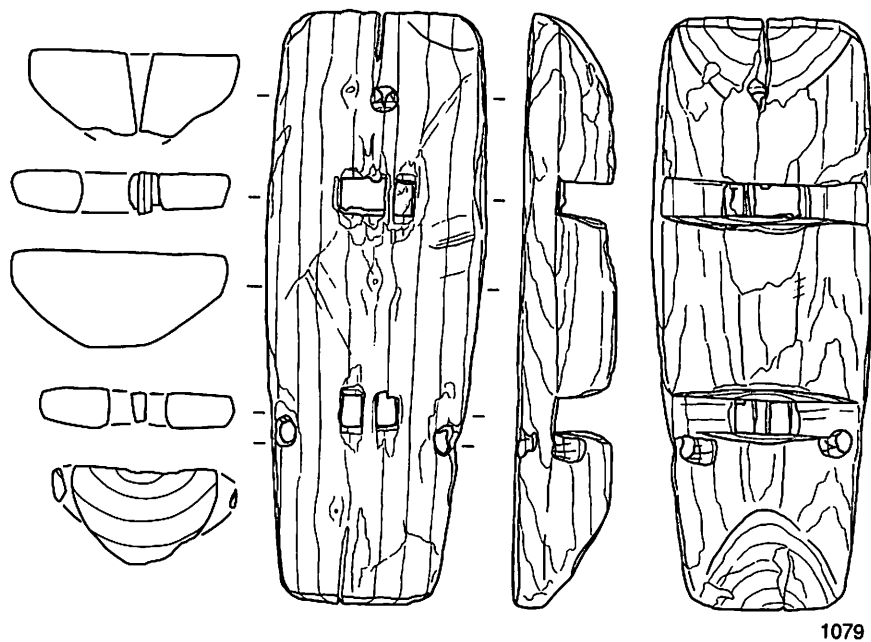
図V-217 装身具・紡織編具 1



図V-218 紡織編具2 (木錘①コモ槌など)

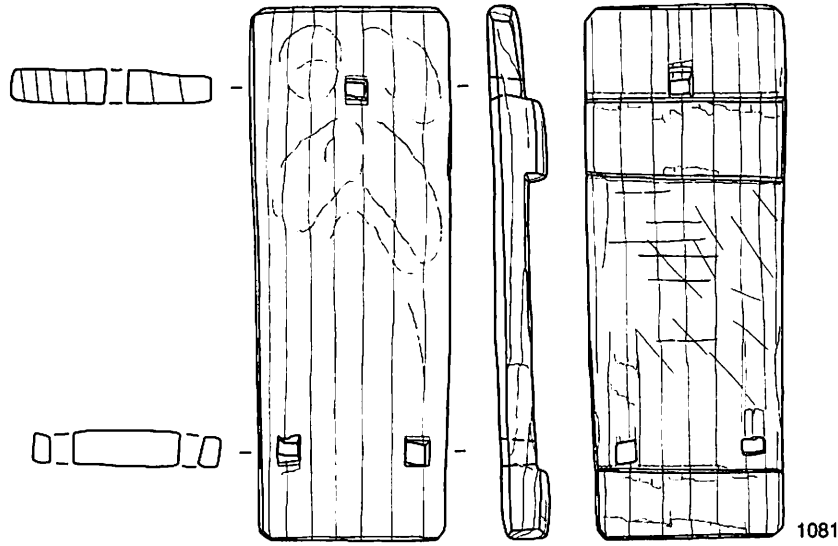


図V-219 紡織編具3 (木錘②コモ槌など)

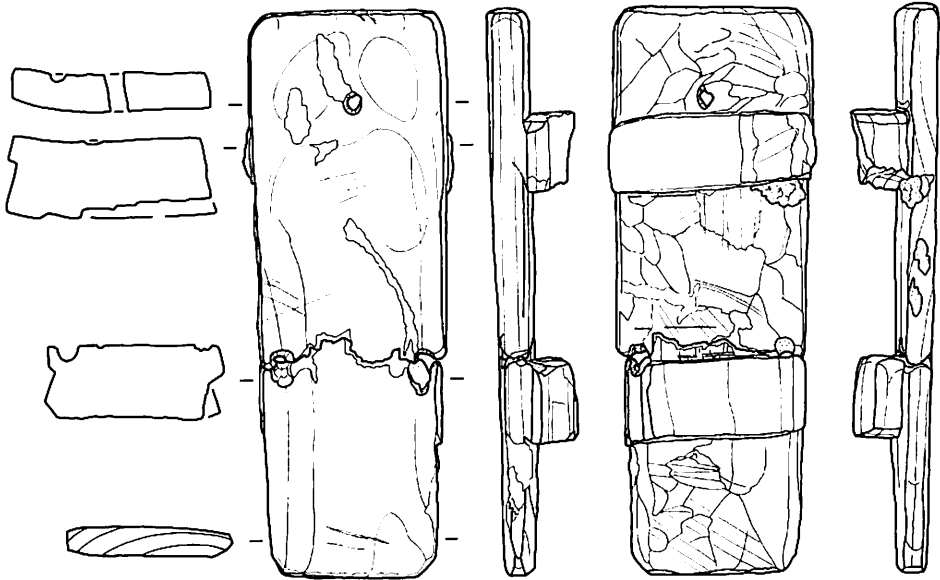


0 5 10 cm

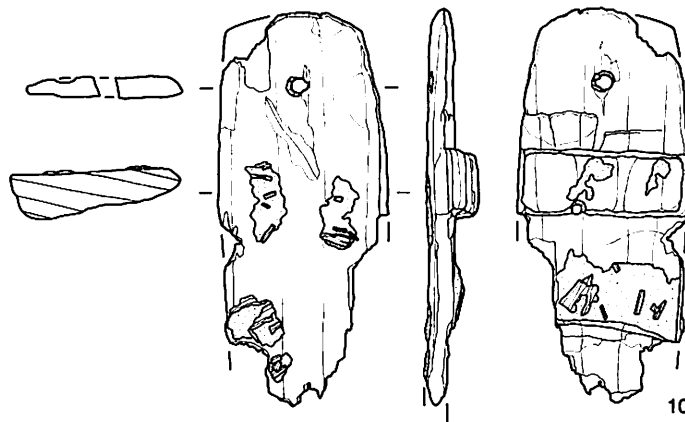
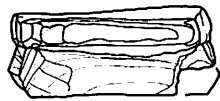
図V-220 歩行具1 (下駄①)



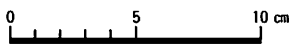
1081



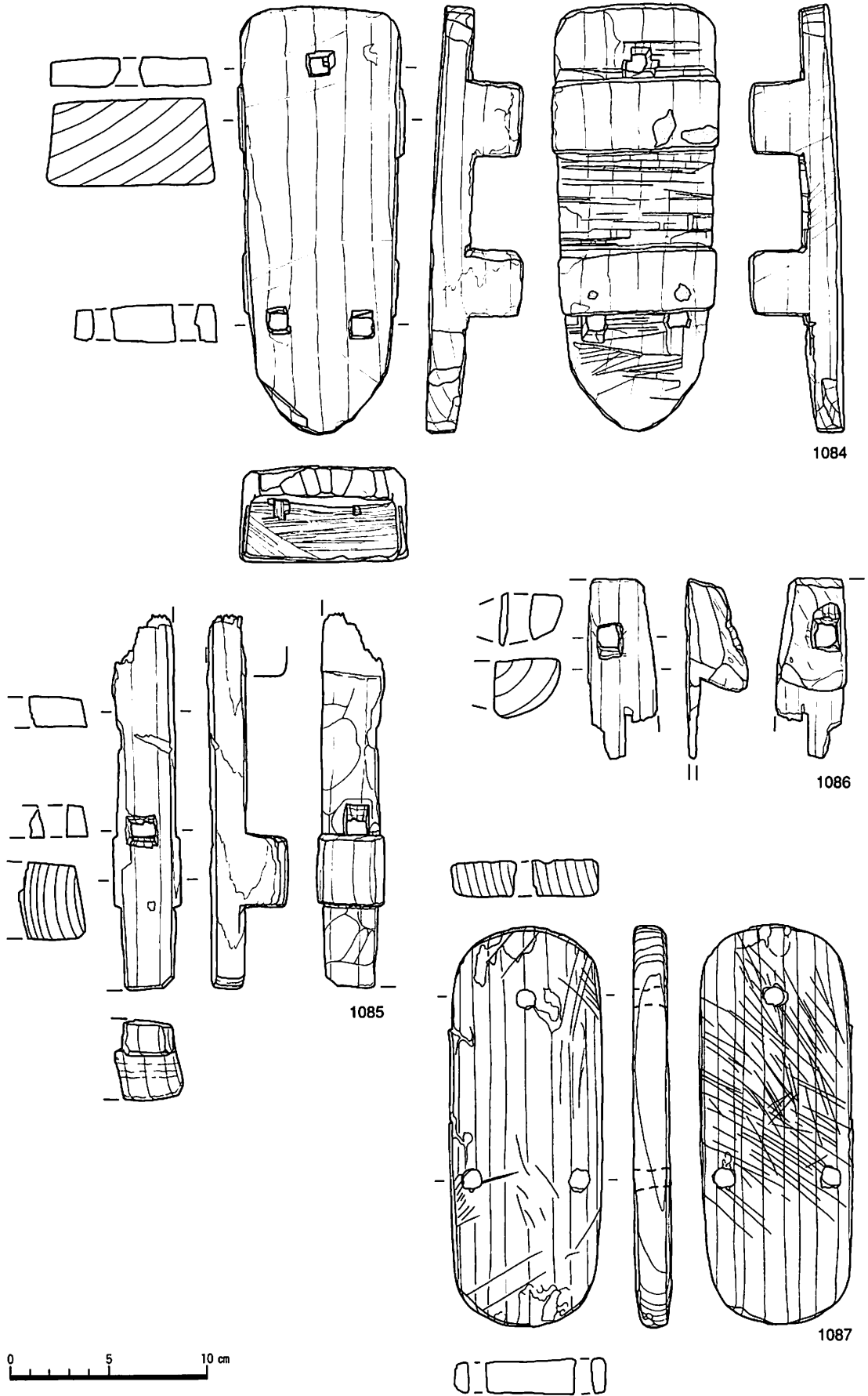
1082



1083

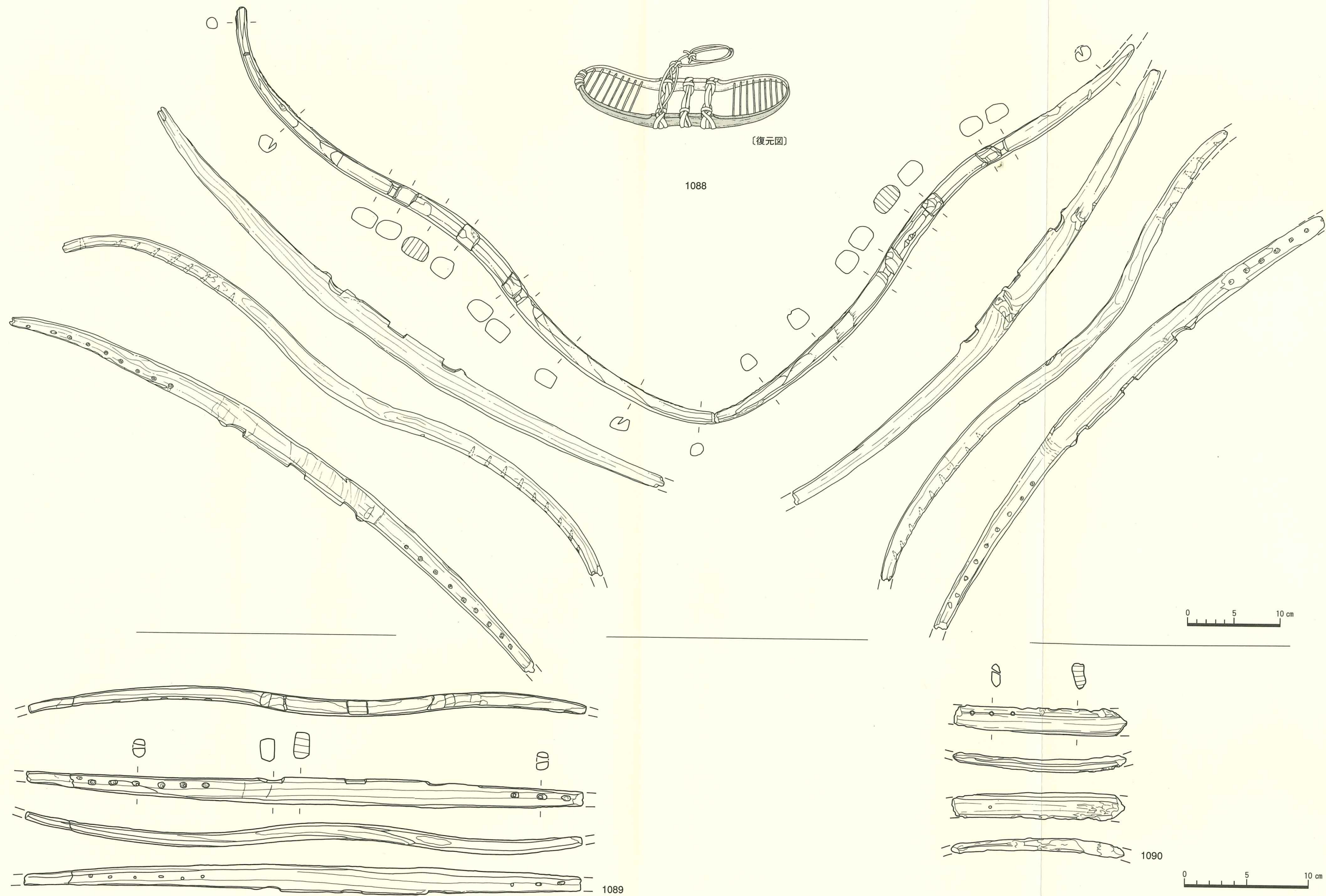


図V-221 歩行具2 (下駄②)



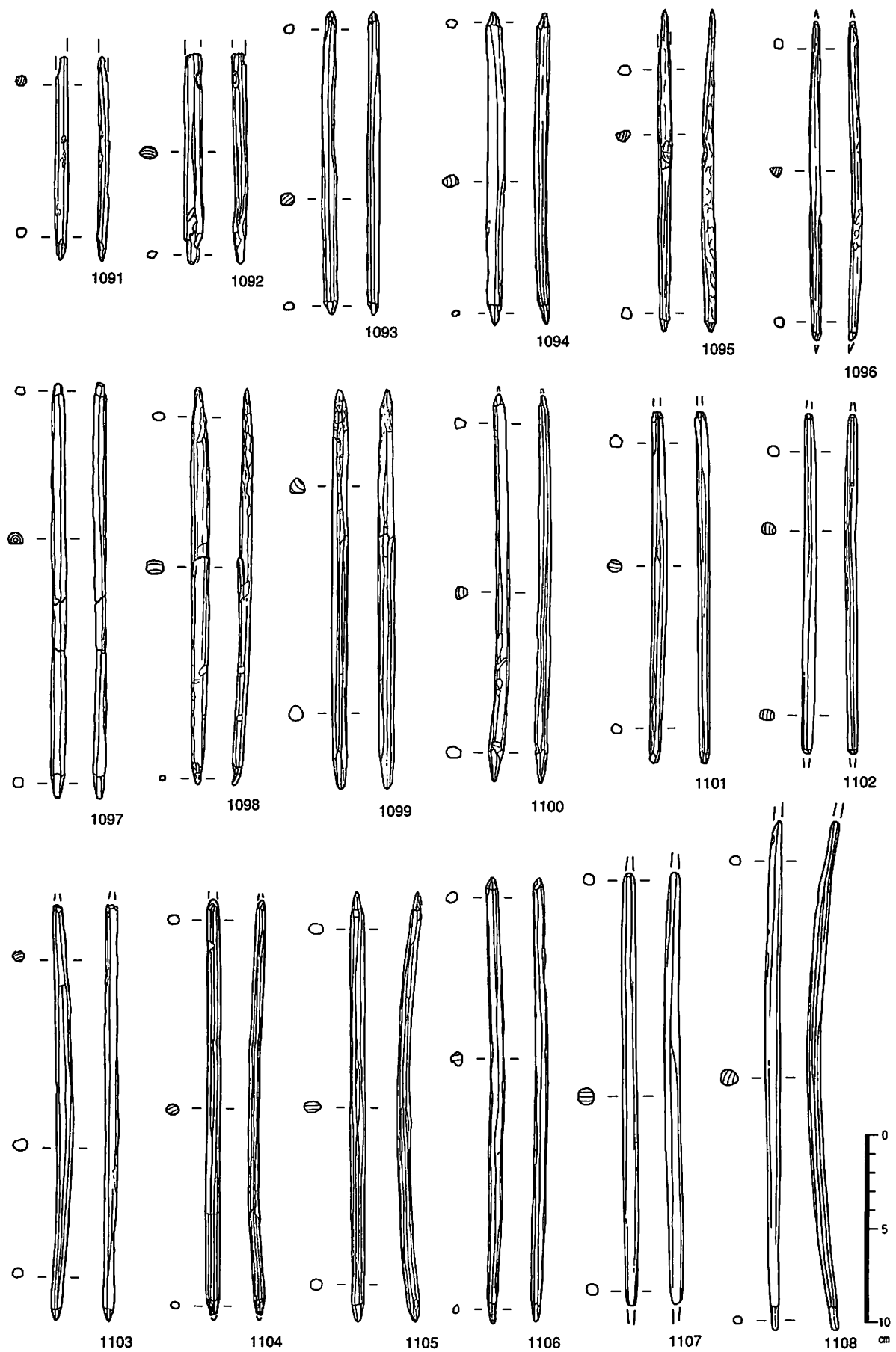
図V-222 歩行具3 (下駄③)



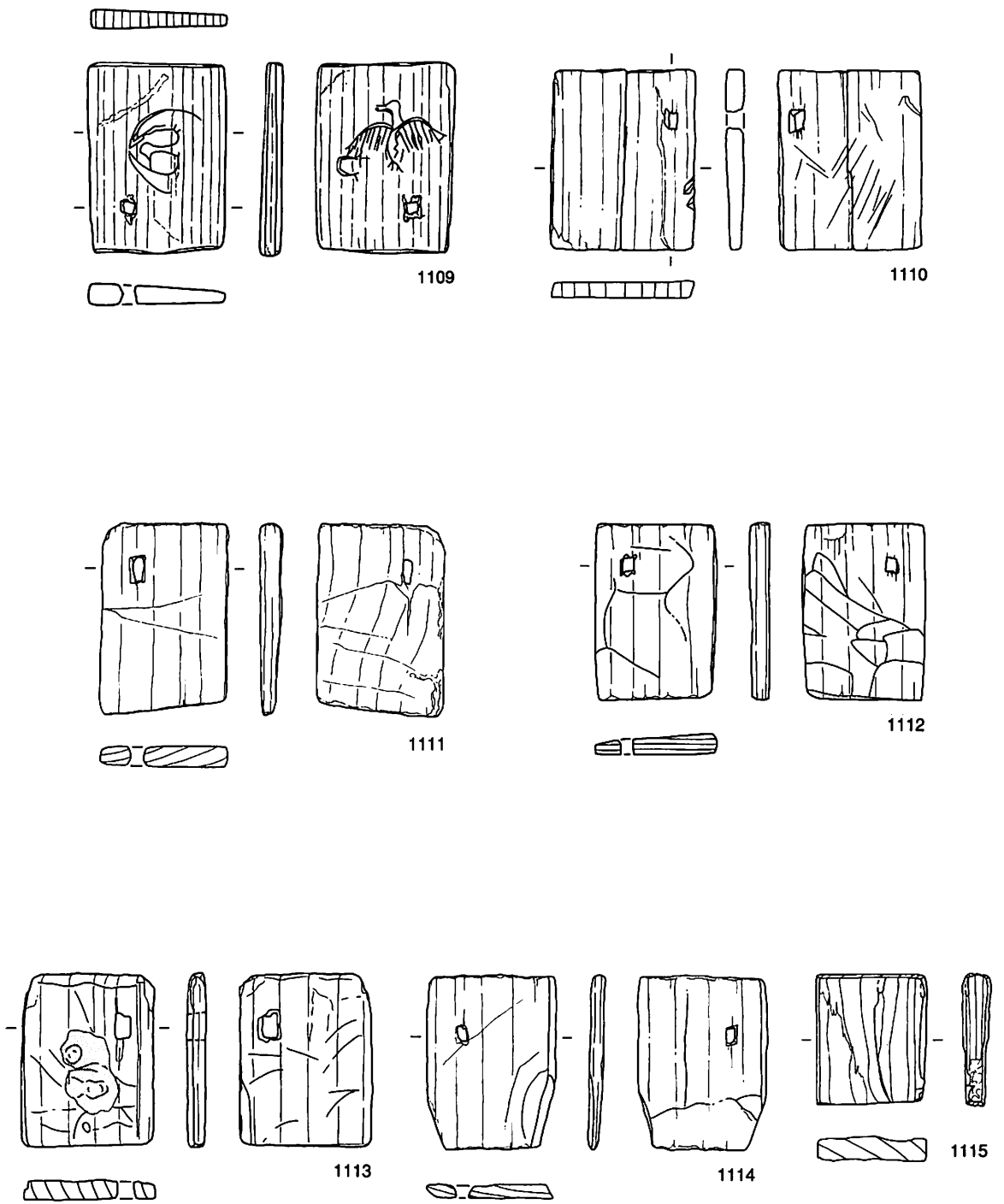


図V-223 歩行具4 (カンジキ本体)



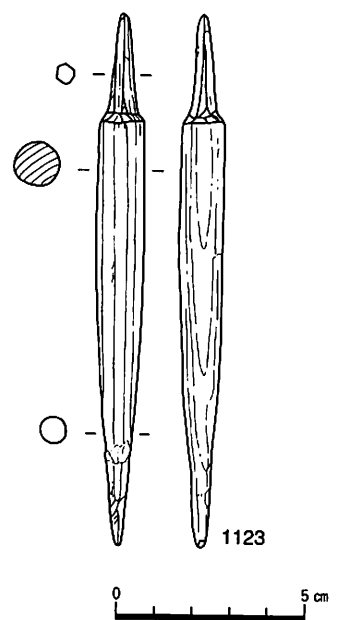
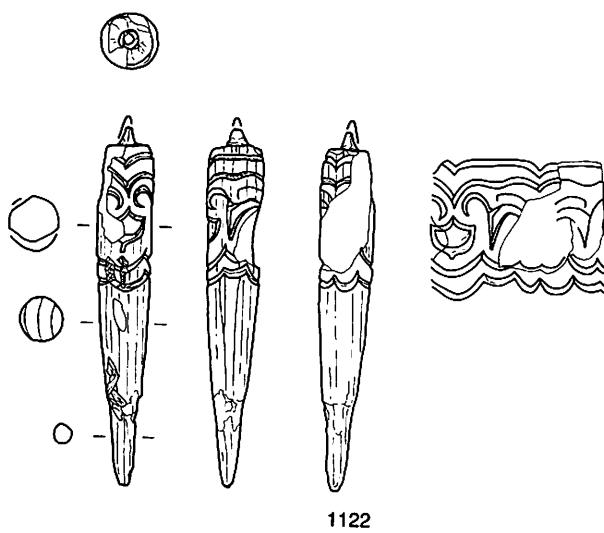
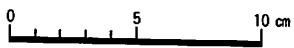
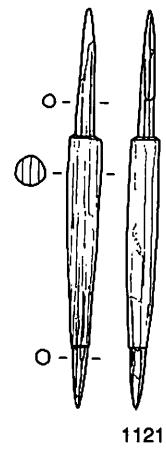
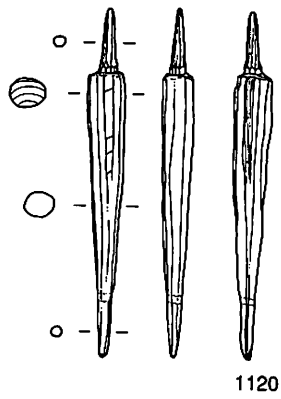
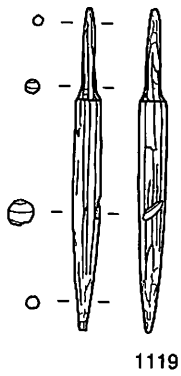
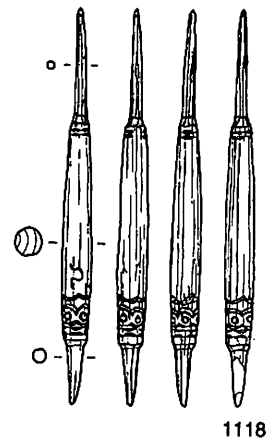
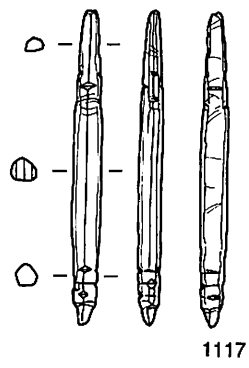
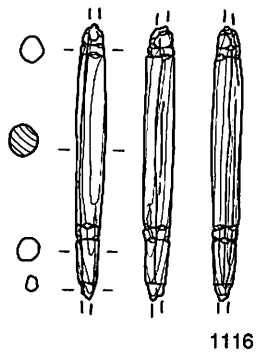


図V-224 歩行具5 (カンジキ軸)



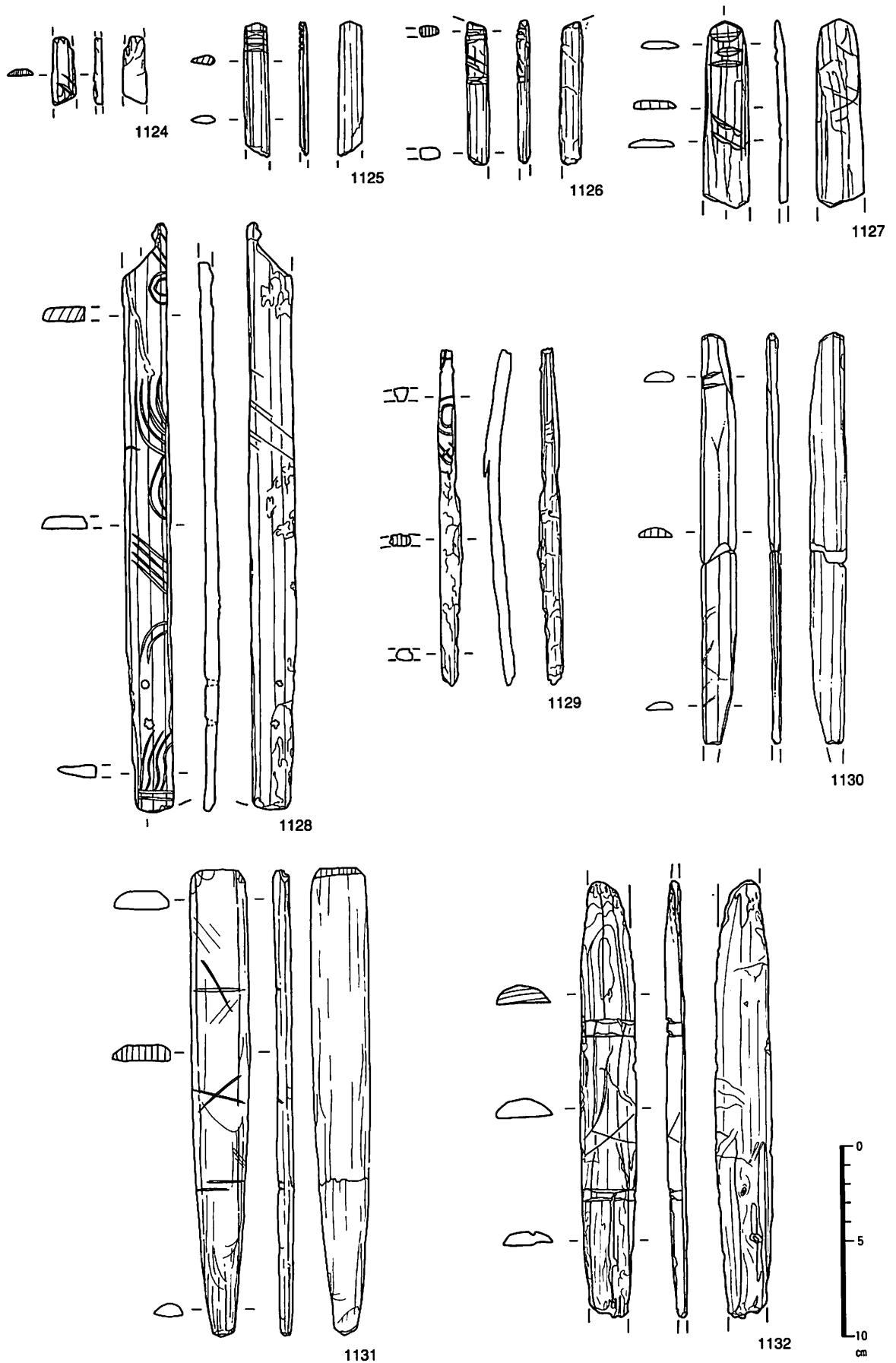
0 5 cm

図V-225 交易・伝達具(木札)

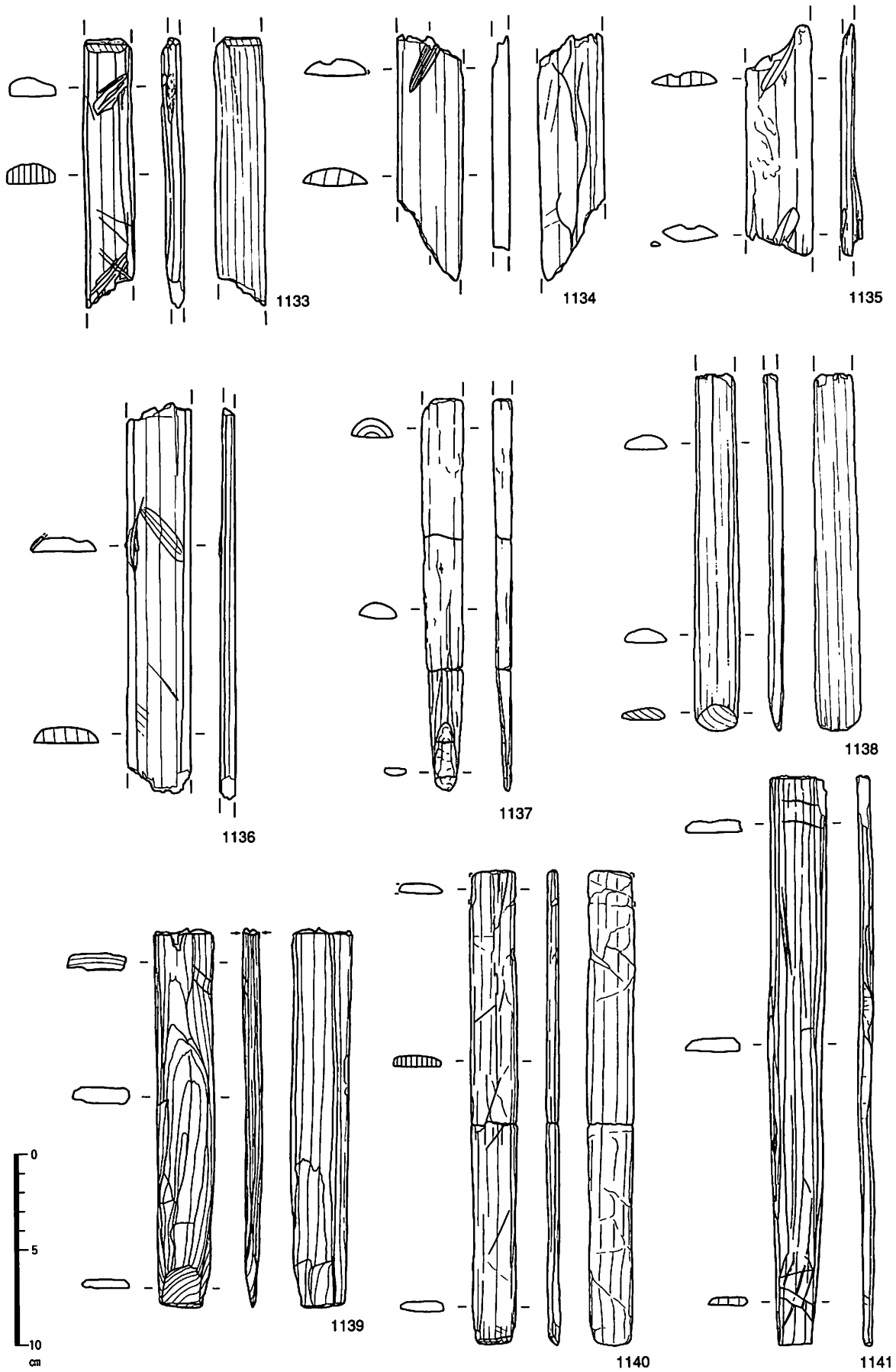


図V-226 祭祀・儀礼具1 (花矢)

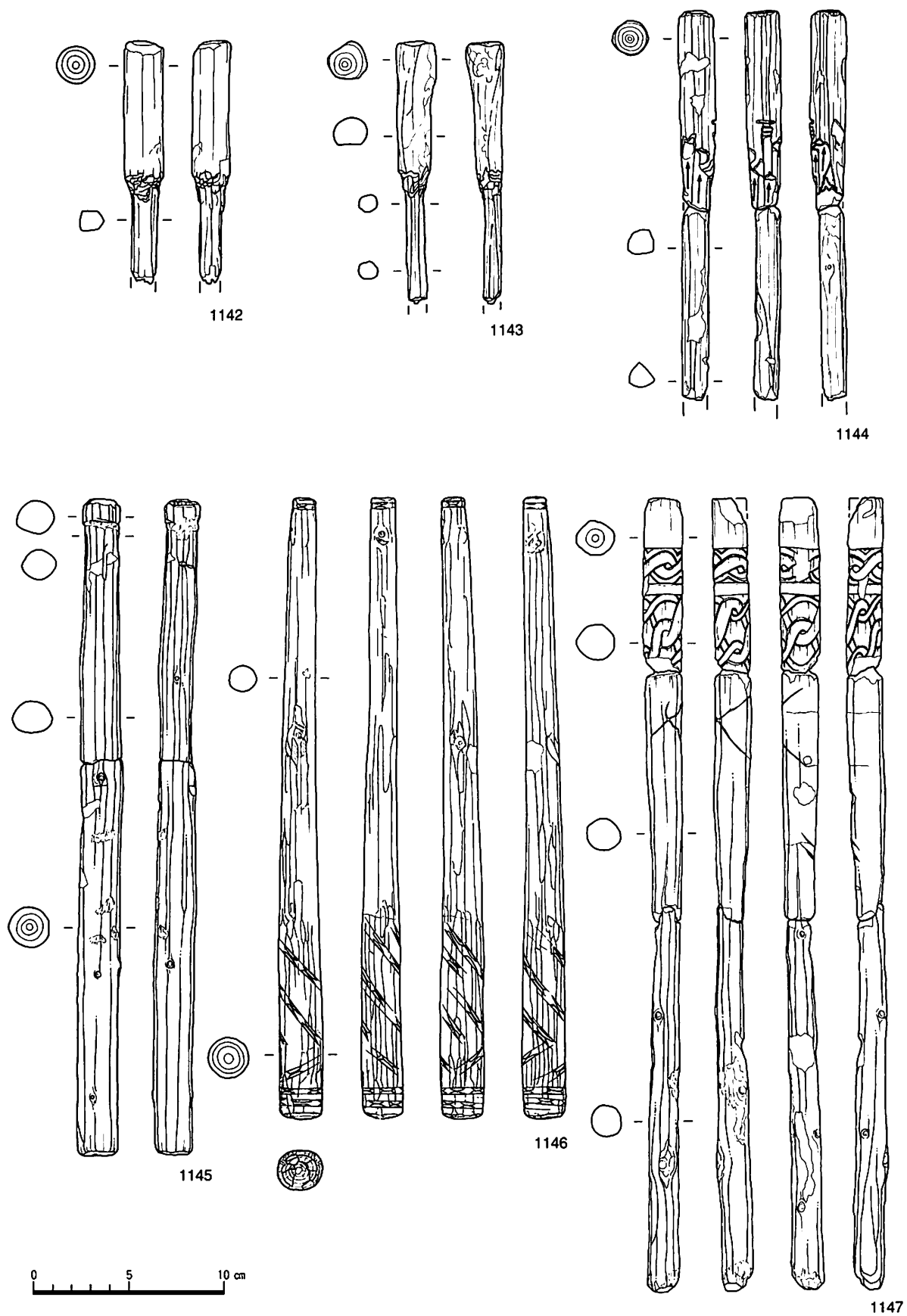
V 第0 黒色土層の調査



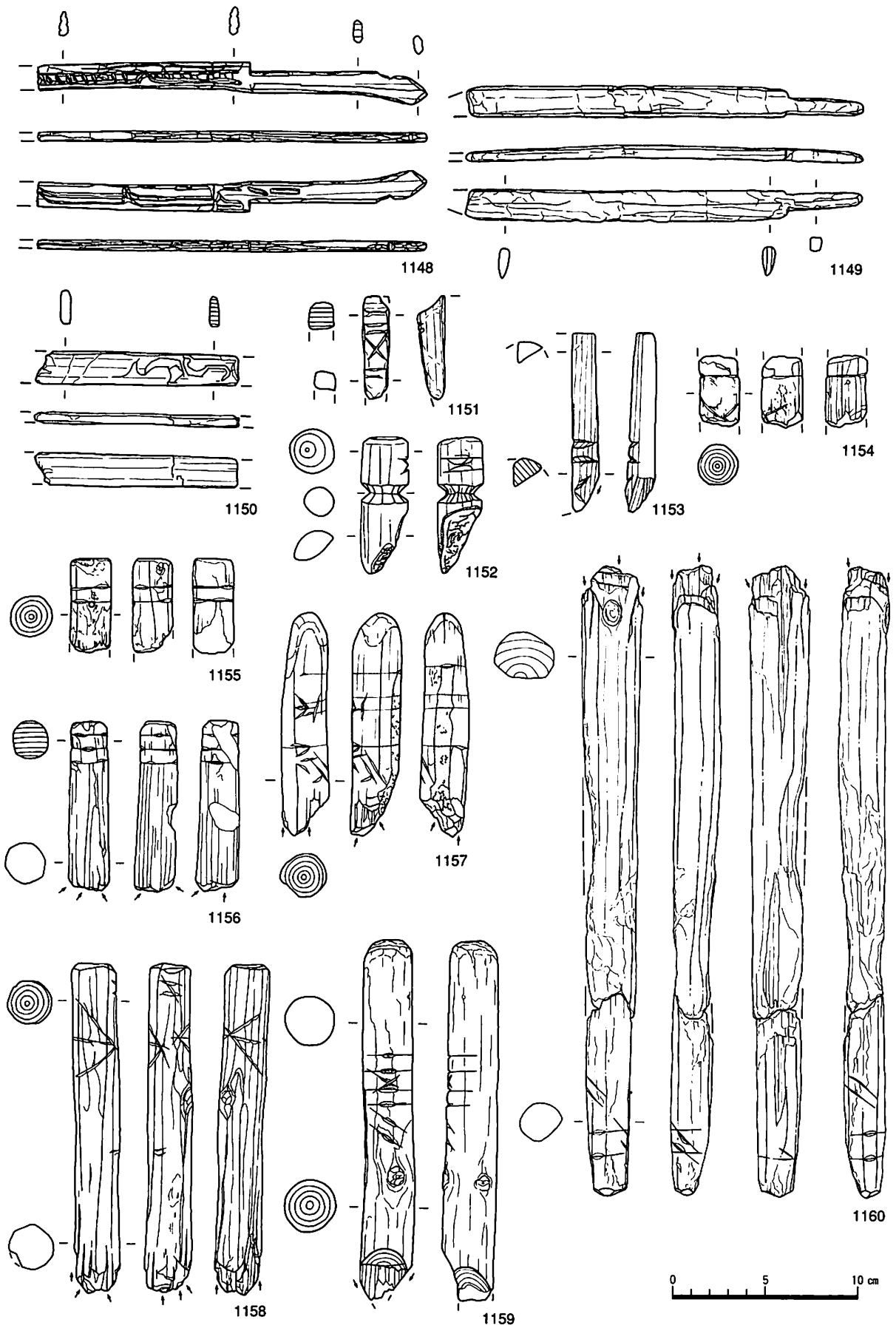
図V-227 祭祀・儀礼具2 (飾り串・捧酒箸〔篋〕①)



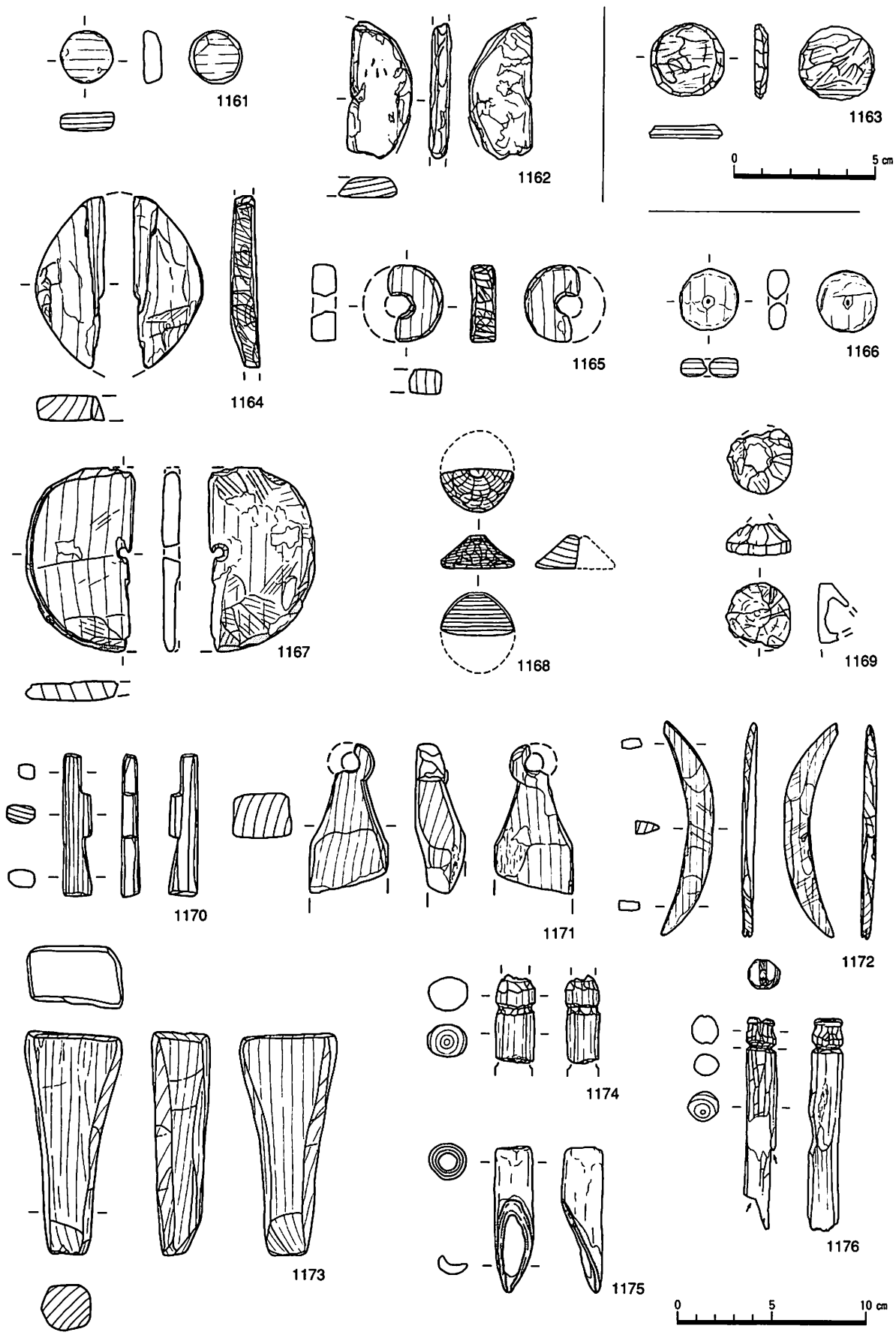
図V-228 祭祀・儀礼具3 (捧酒箸〔篋〕②)



図V-229 祭祀・儀礼具4 (木幣・木幣状製品①)

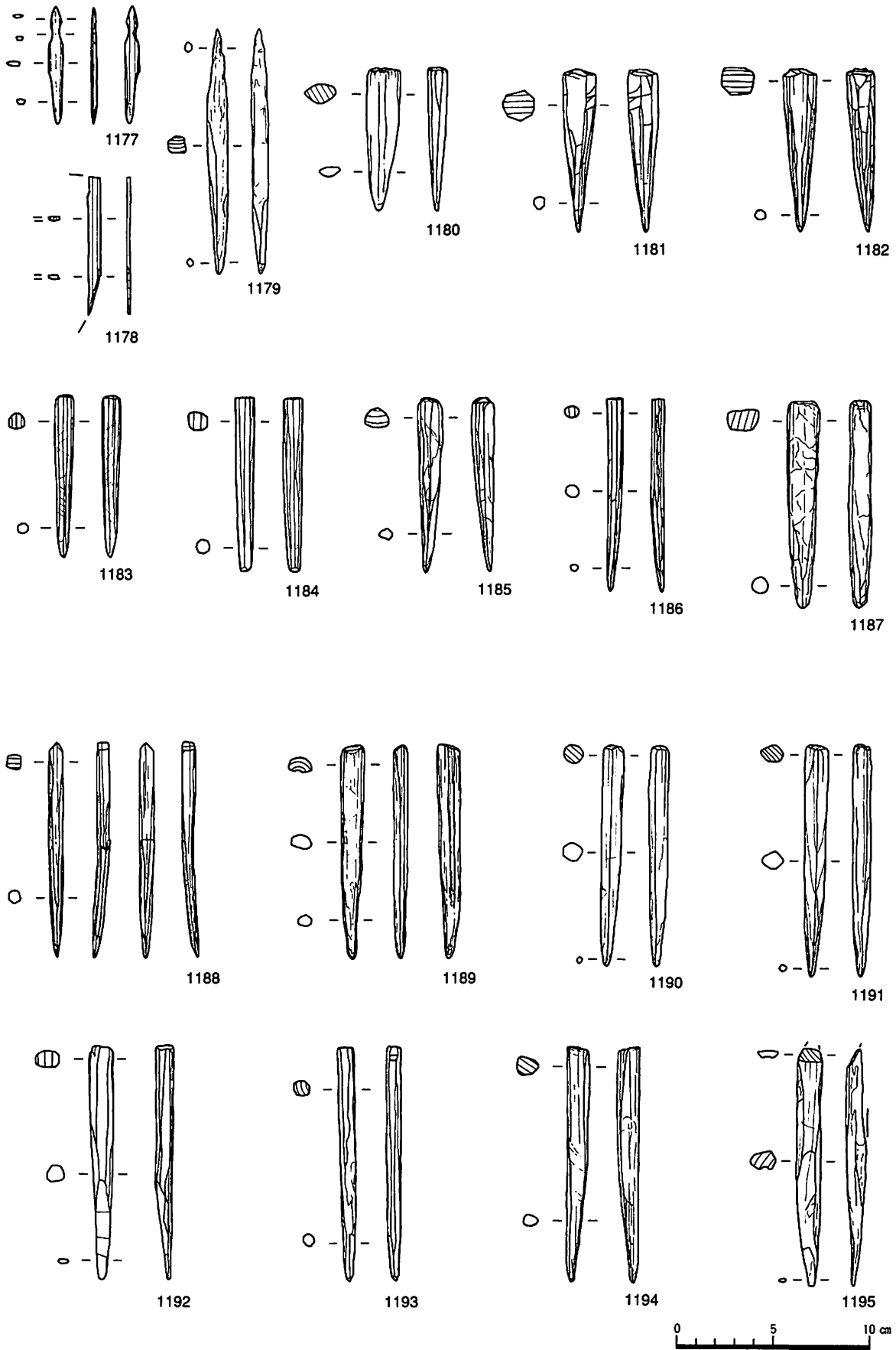


図V-230 祭祀・儀礼具5 (刀ミニチュア・木幣状製品②他)



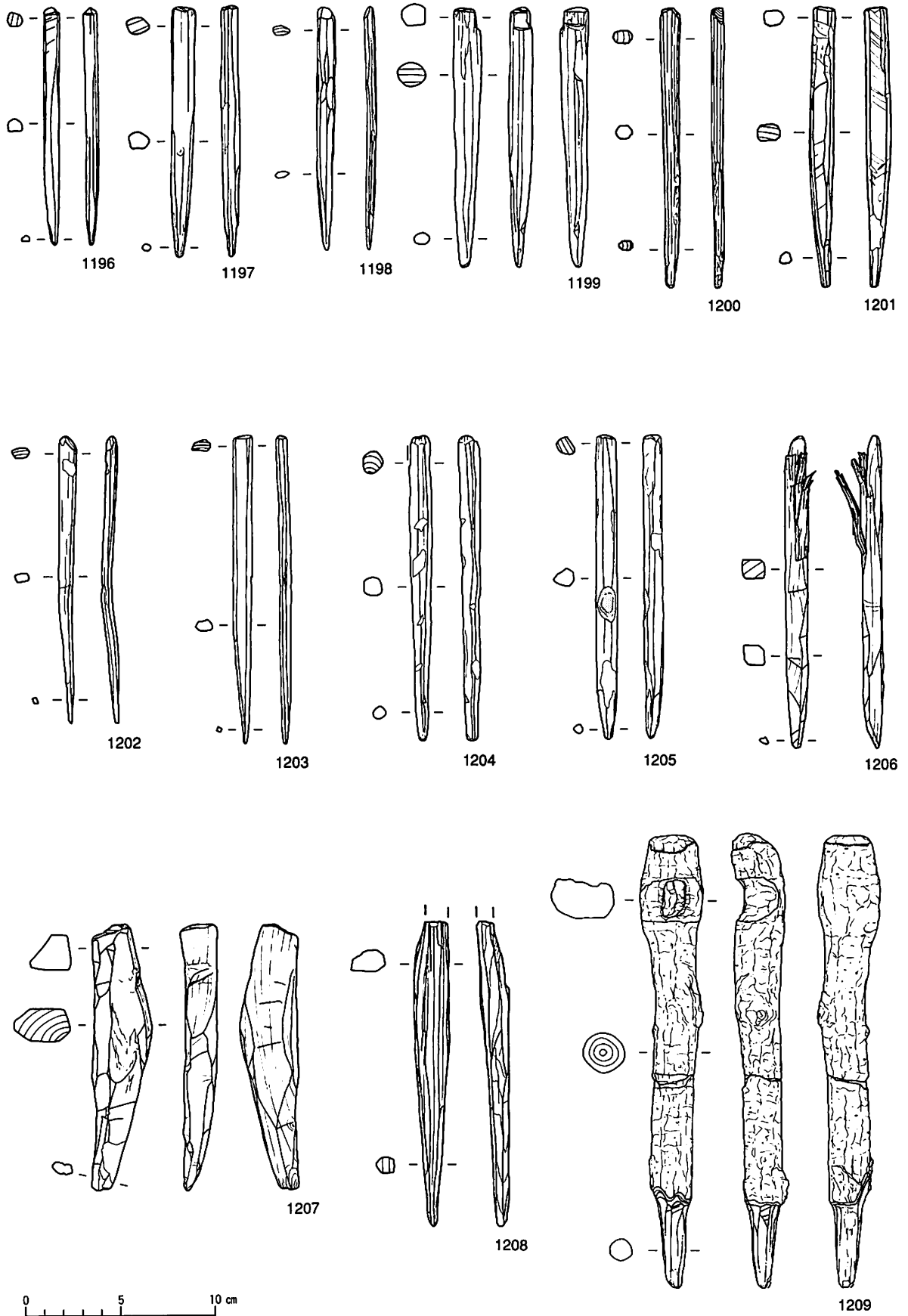
図V-231 加工材（円盤・有孔円盤・円錐状製品他）



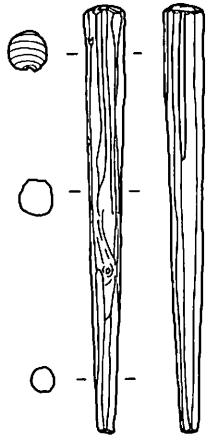


図V-232 ピン状製品 1

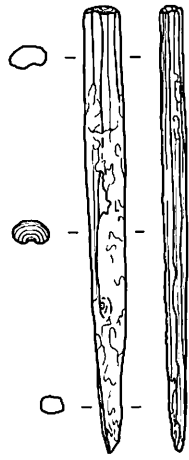
V 第0 黒色土層の調査



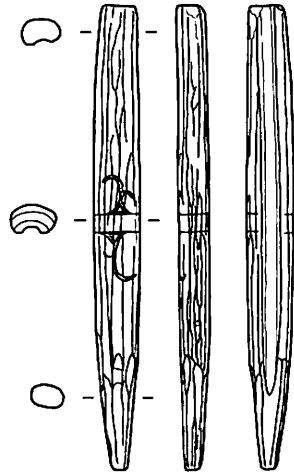
図V-233 ピン状製品2



1210



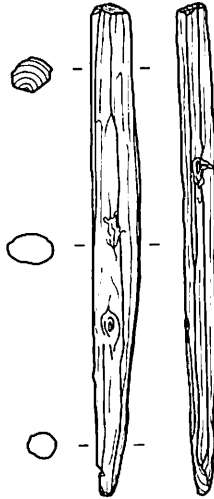
1211



1212



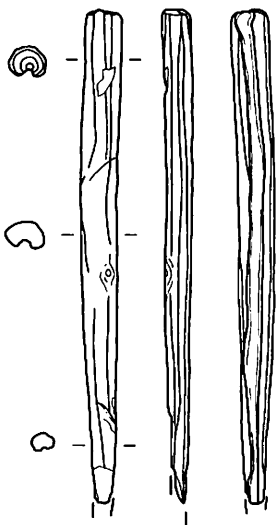
1213



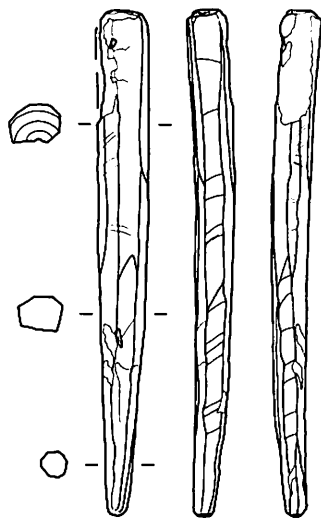
1214



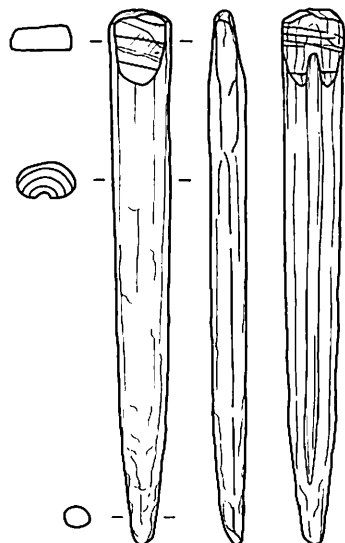
1215



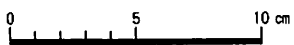
1216



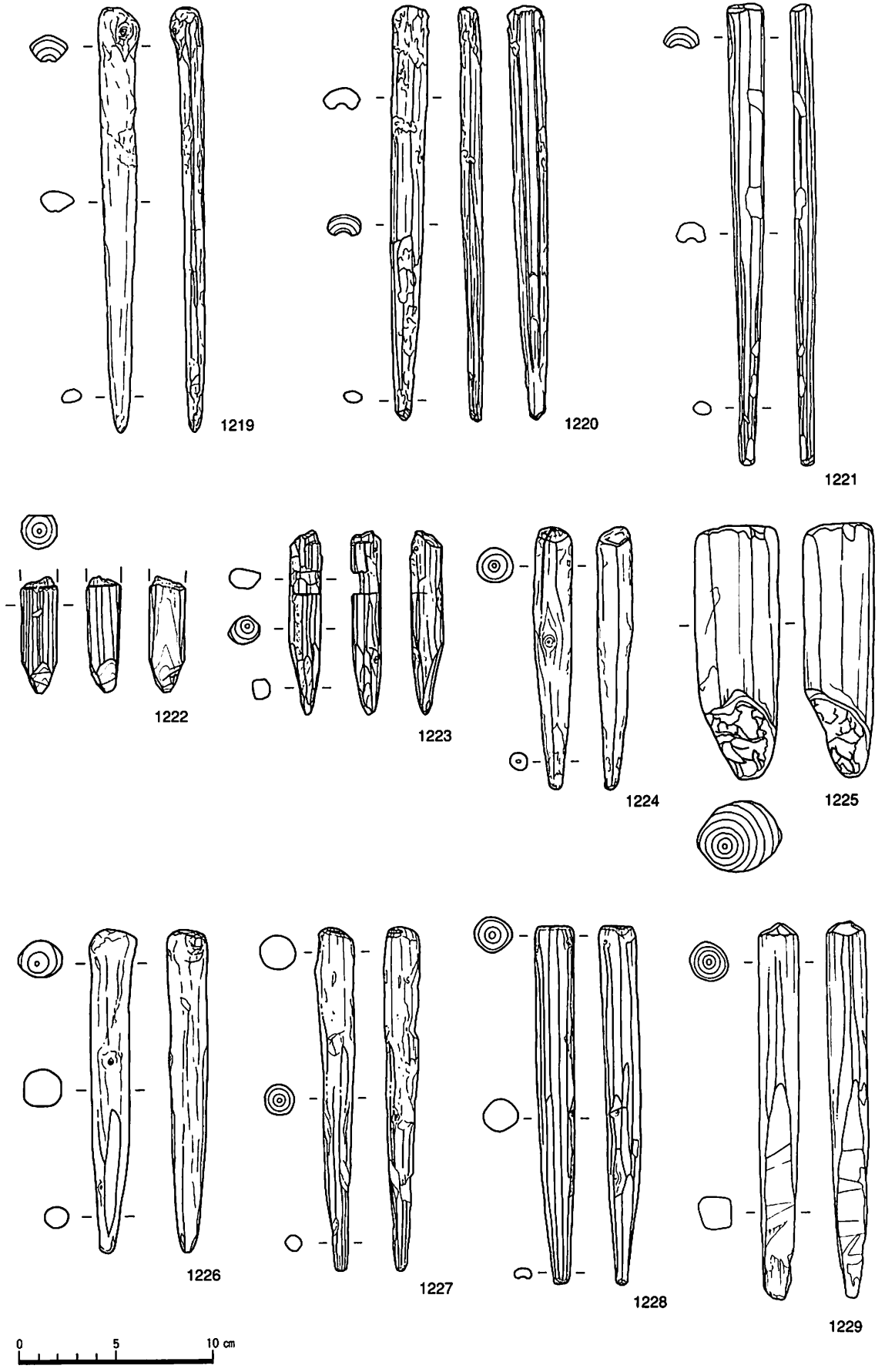
1217



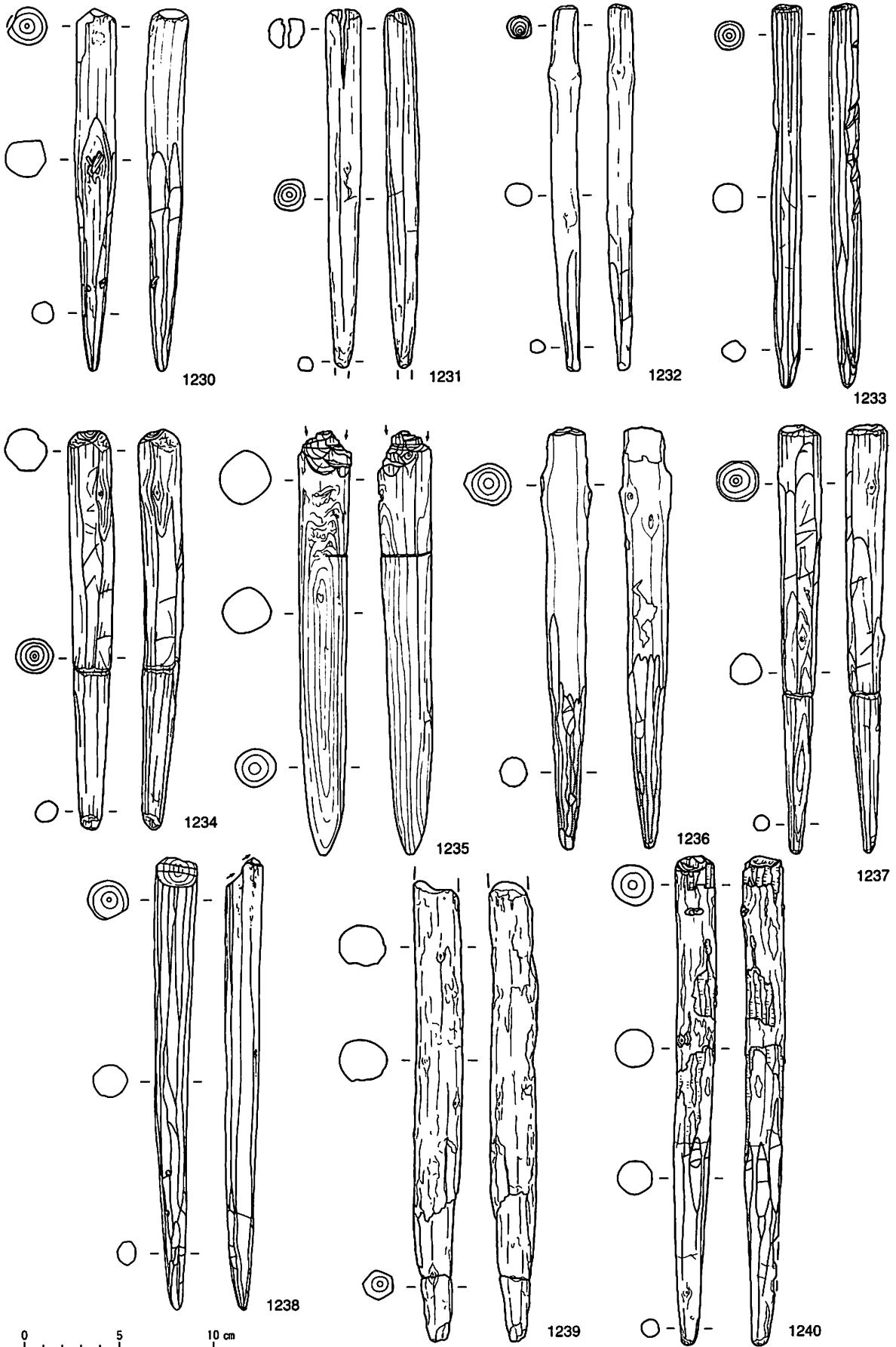
1218



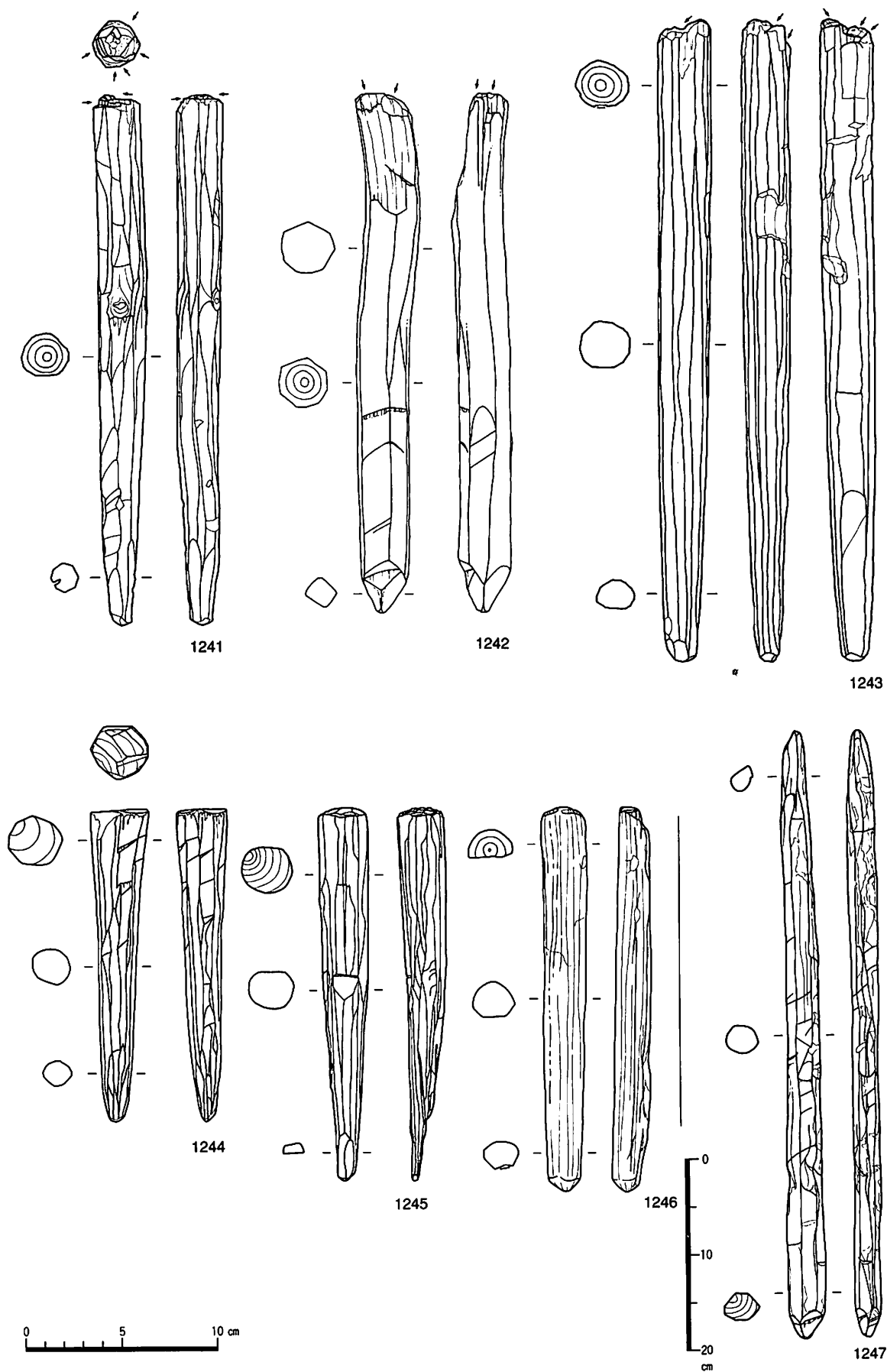
図V-234 軸状製品1



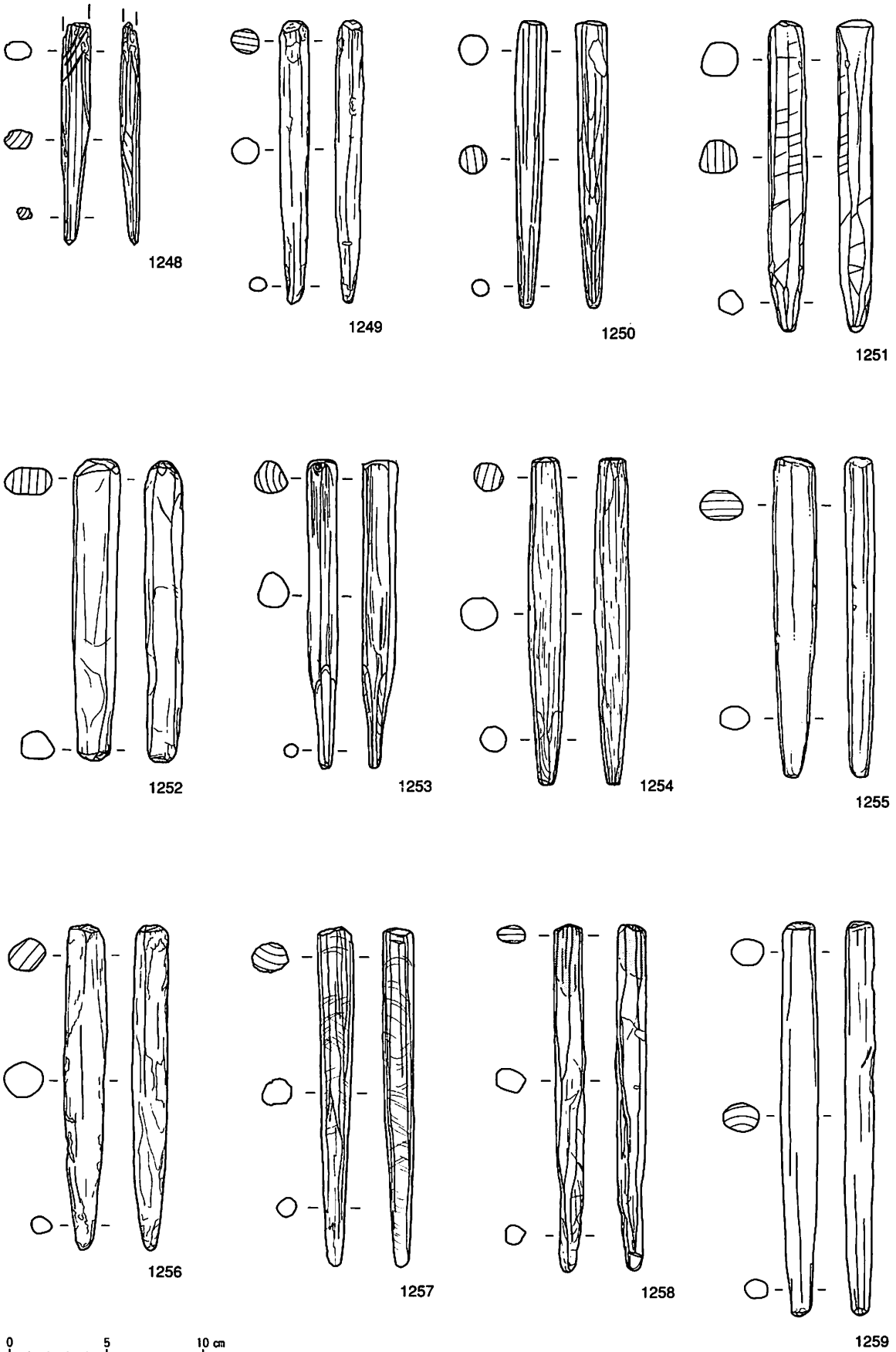
図V-235 軸状製品 2



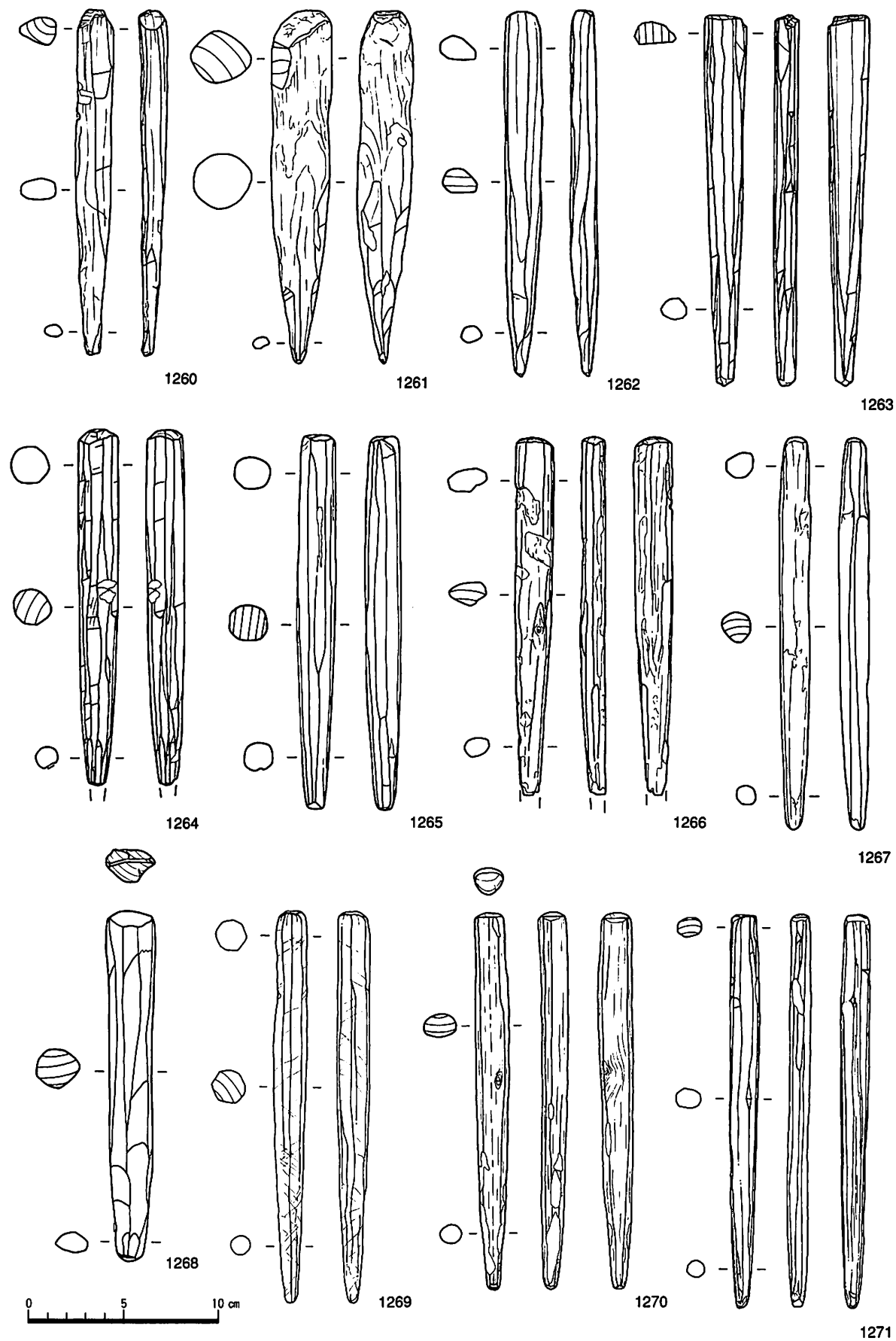
図V-236 軸状製品 3



図V-237 軸状製品 4

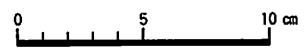
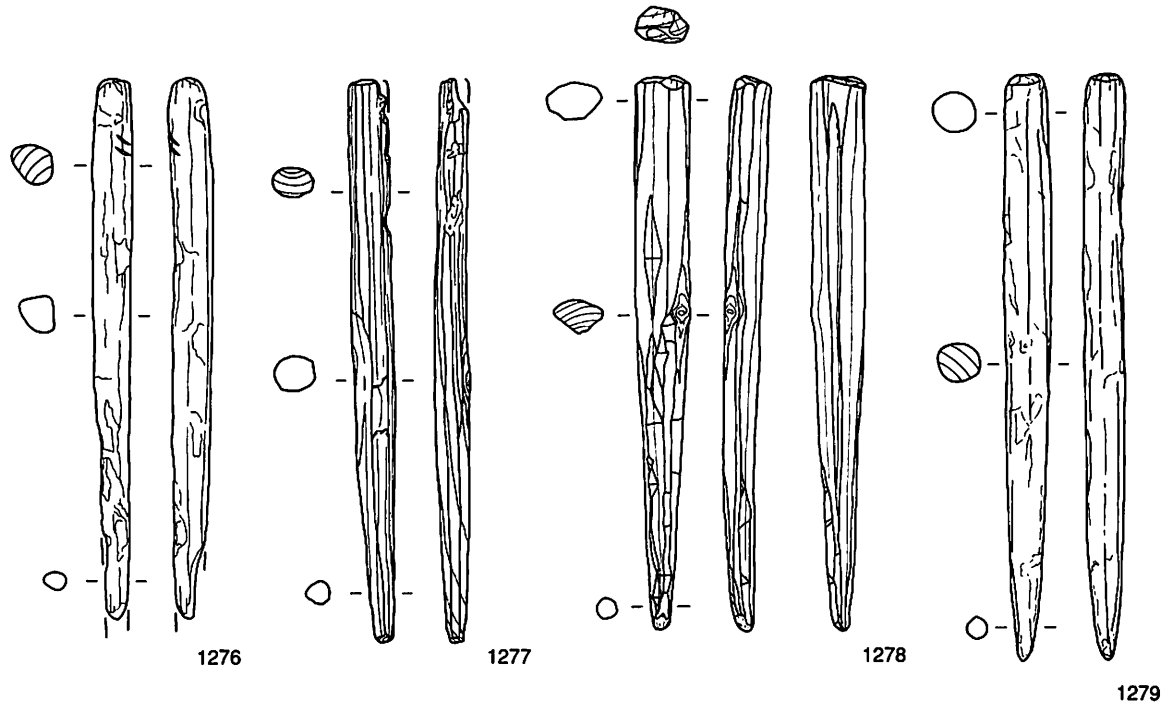
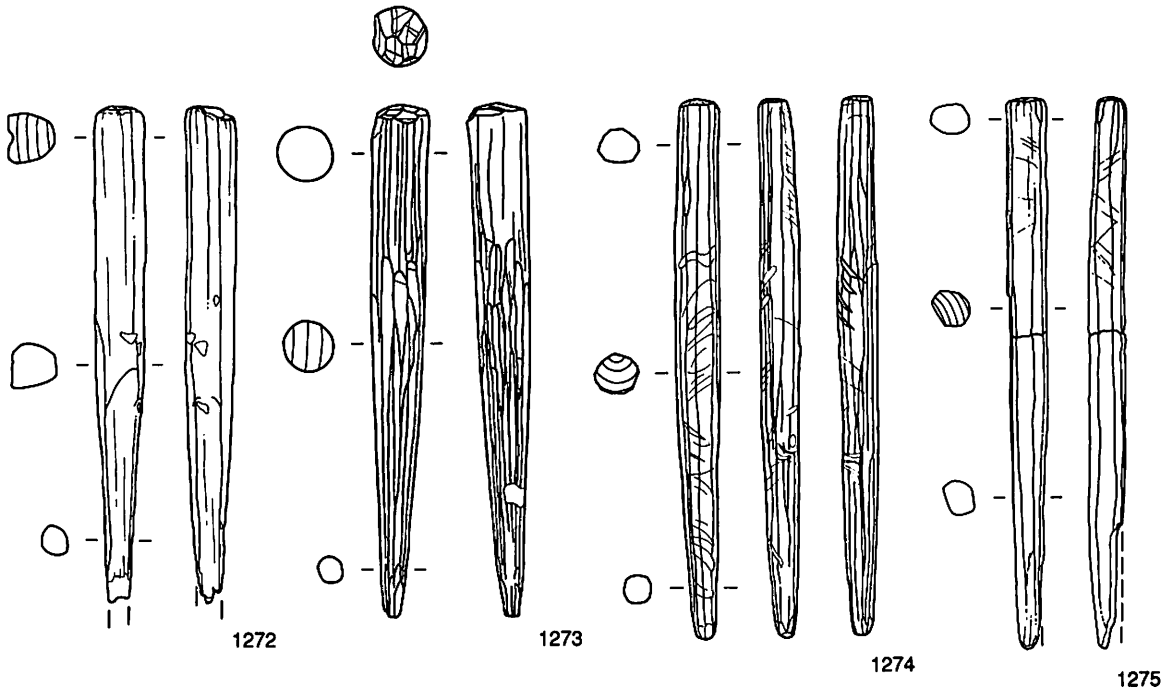


図V-238 軸状製品5



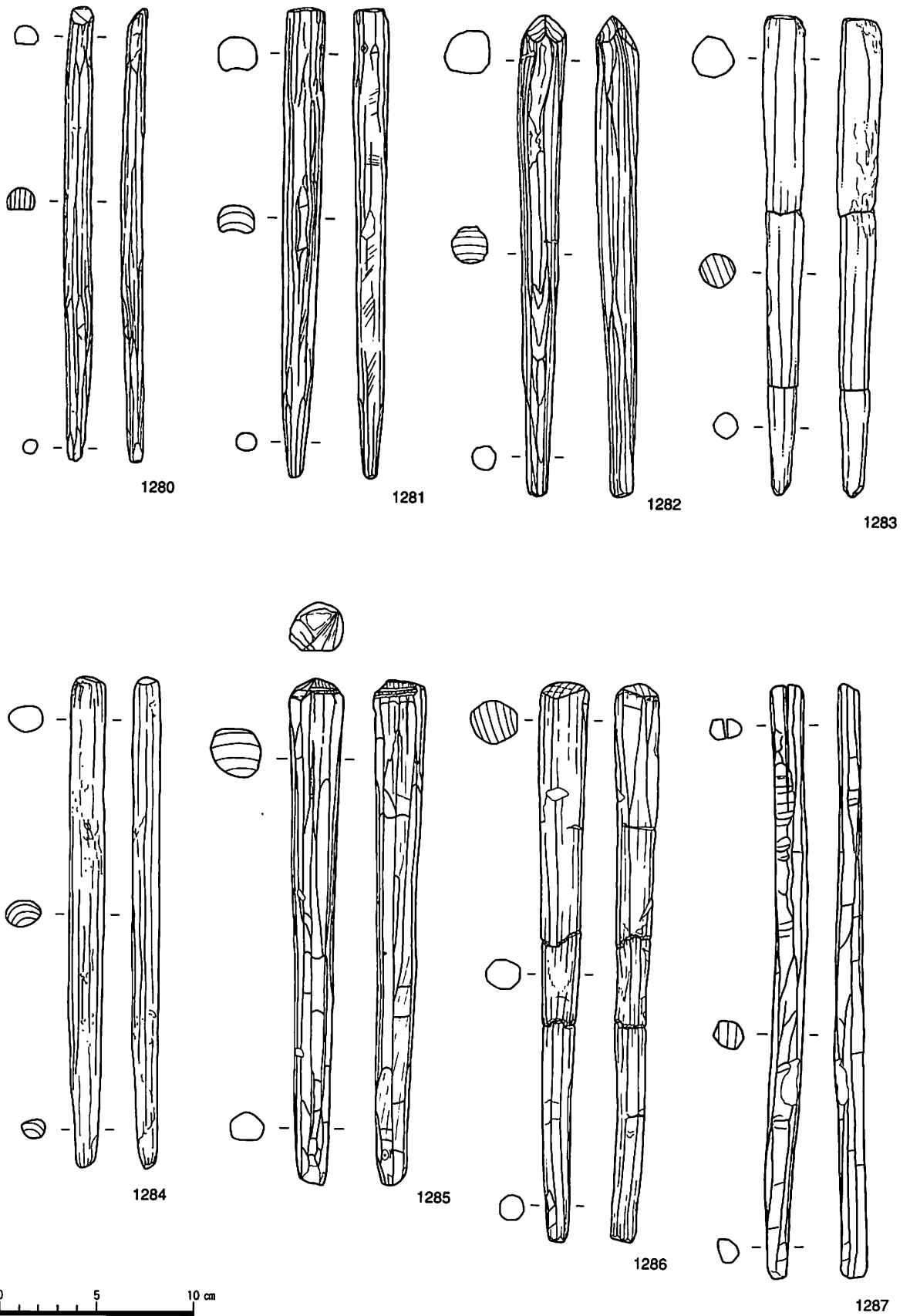
図V-239 軸状製品6





図V-240 軸状製品7

V 第0 黑色土層の調査



図V-241 軸状製品8

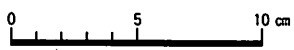
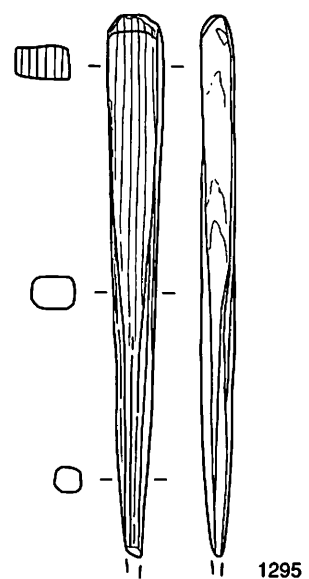
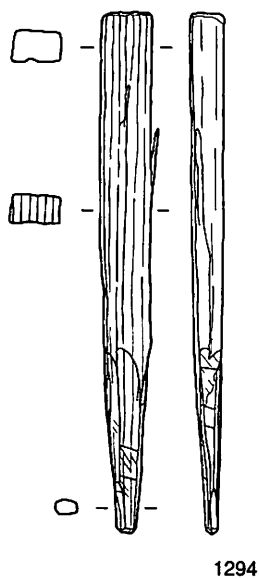
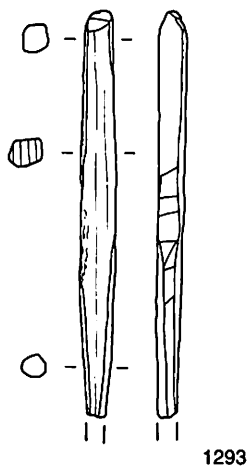
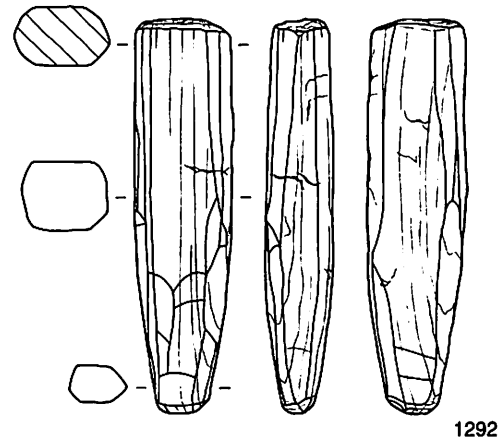
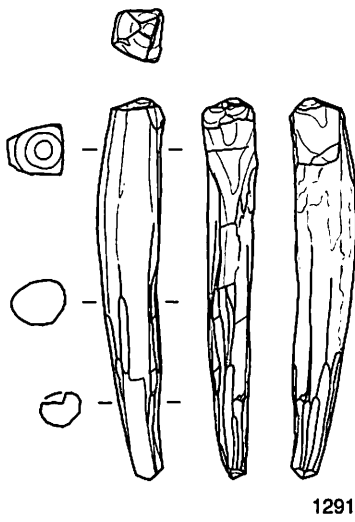
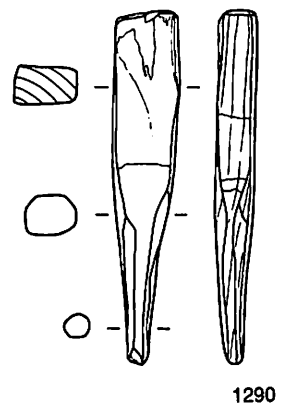
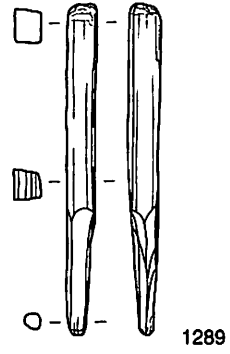
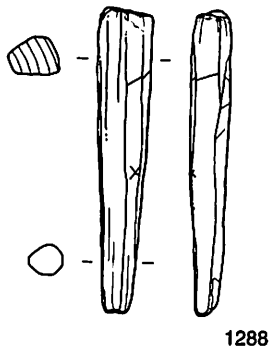
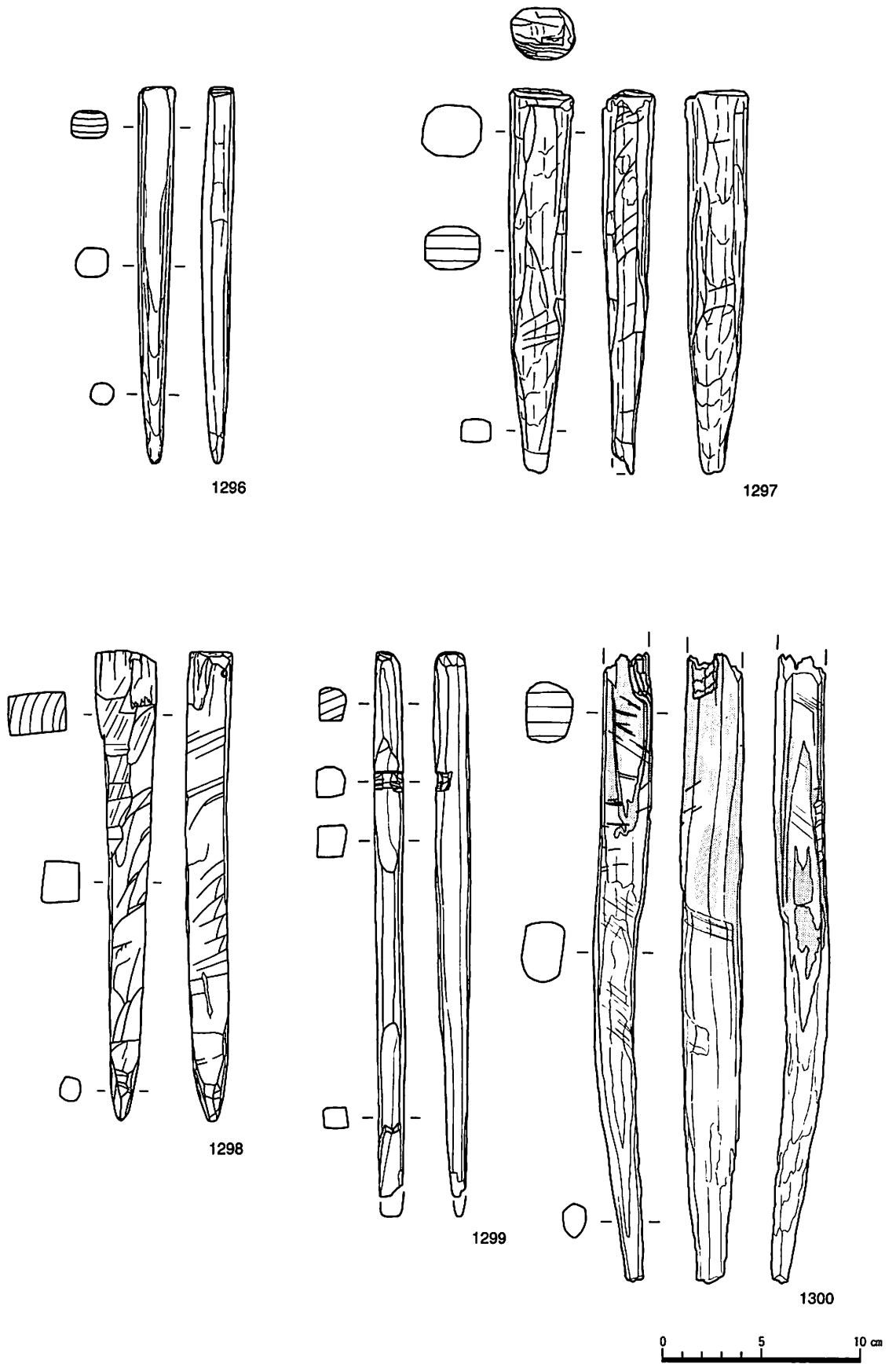
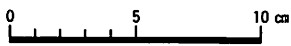
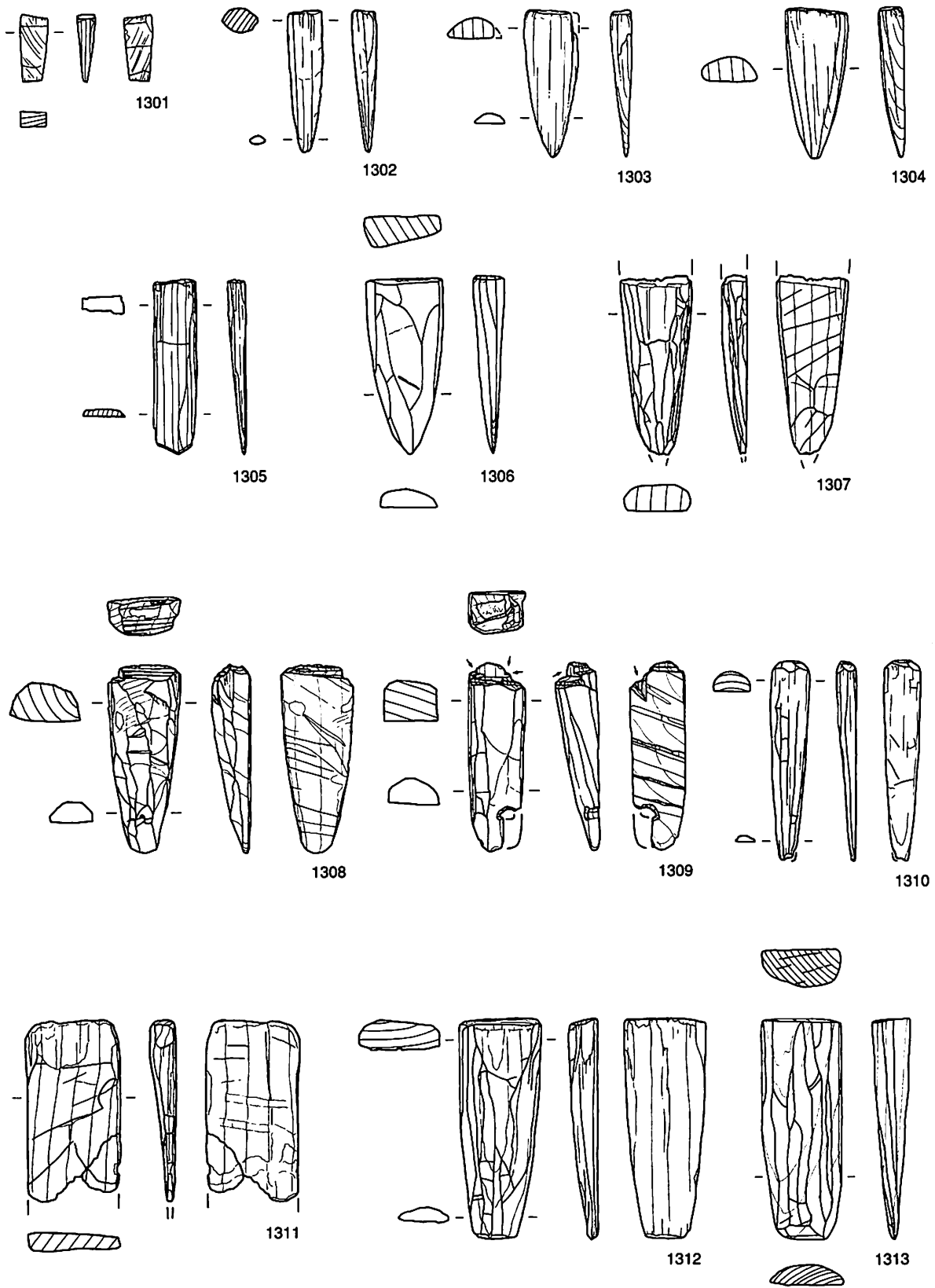


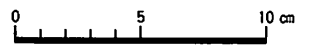
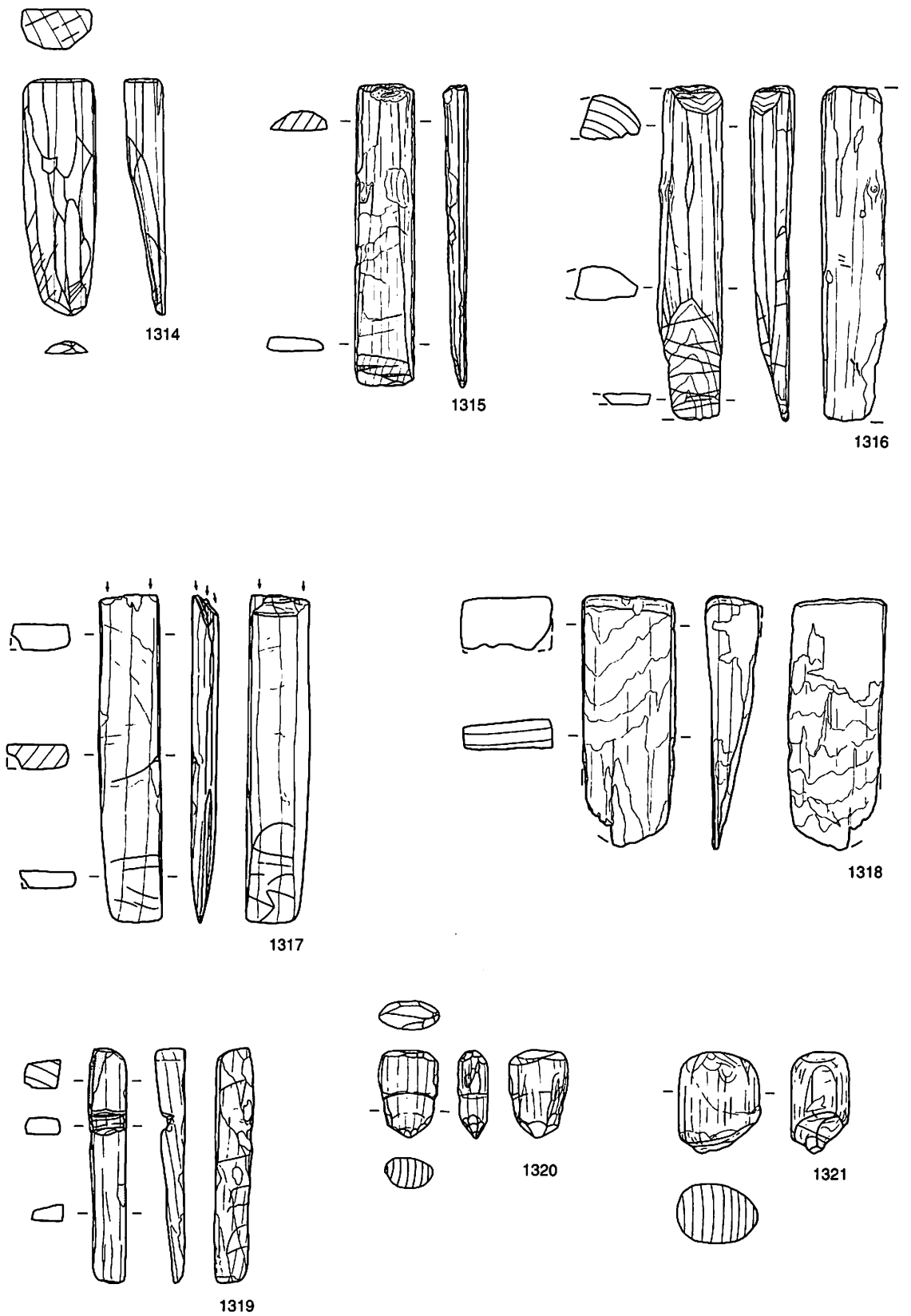
图 V-242 轴状製品 9



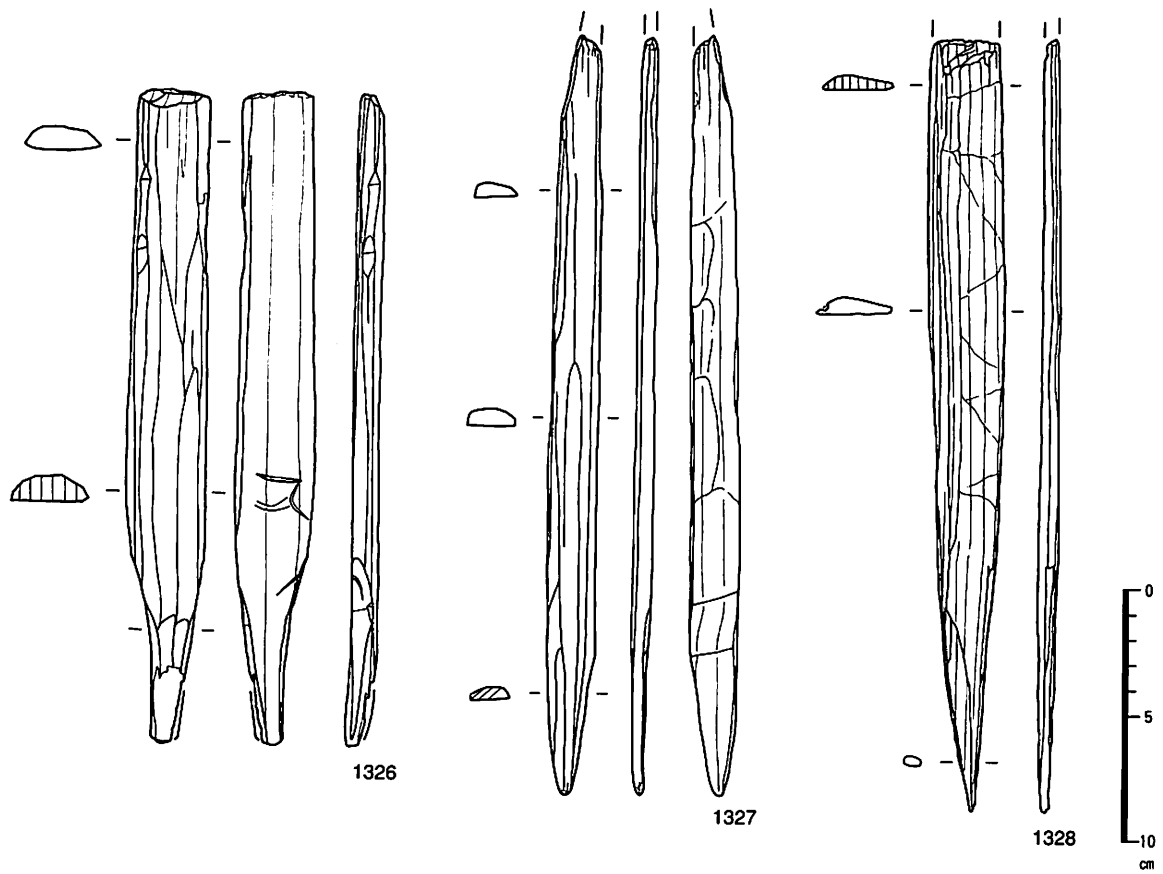
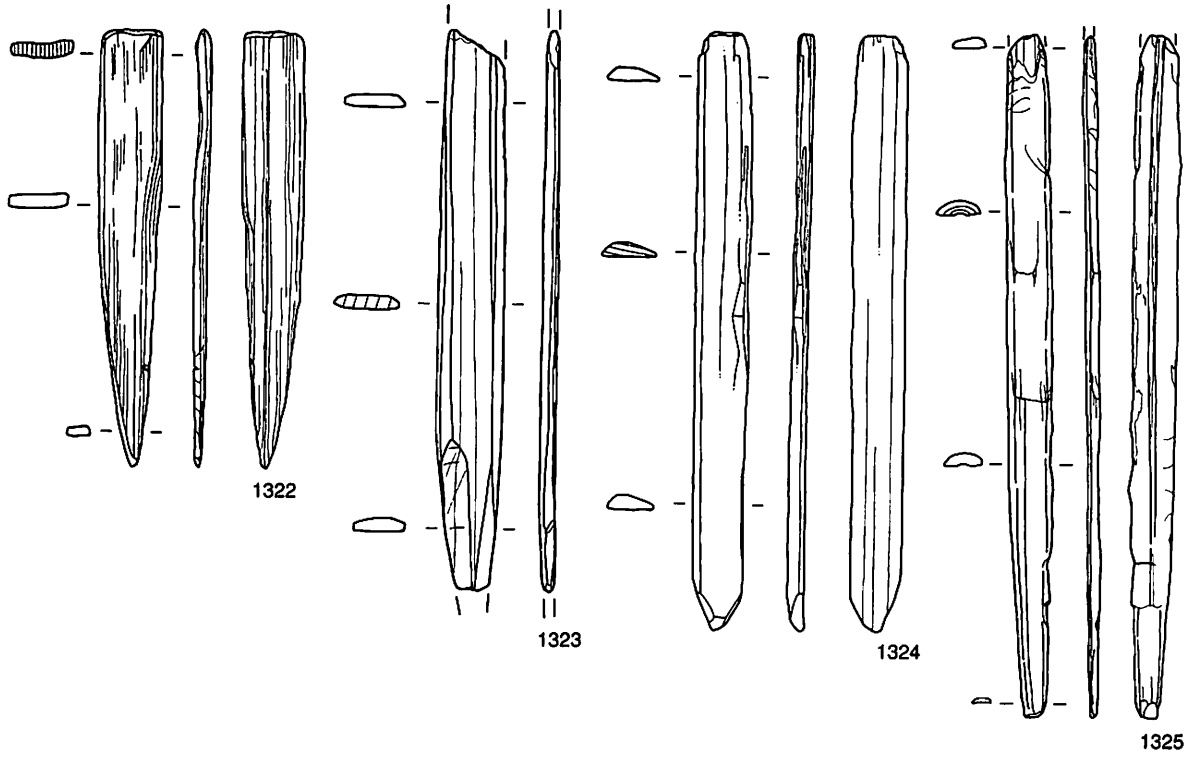
図V-243 軸状製品10



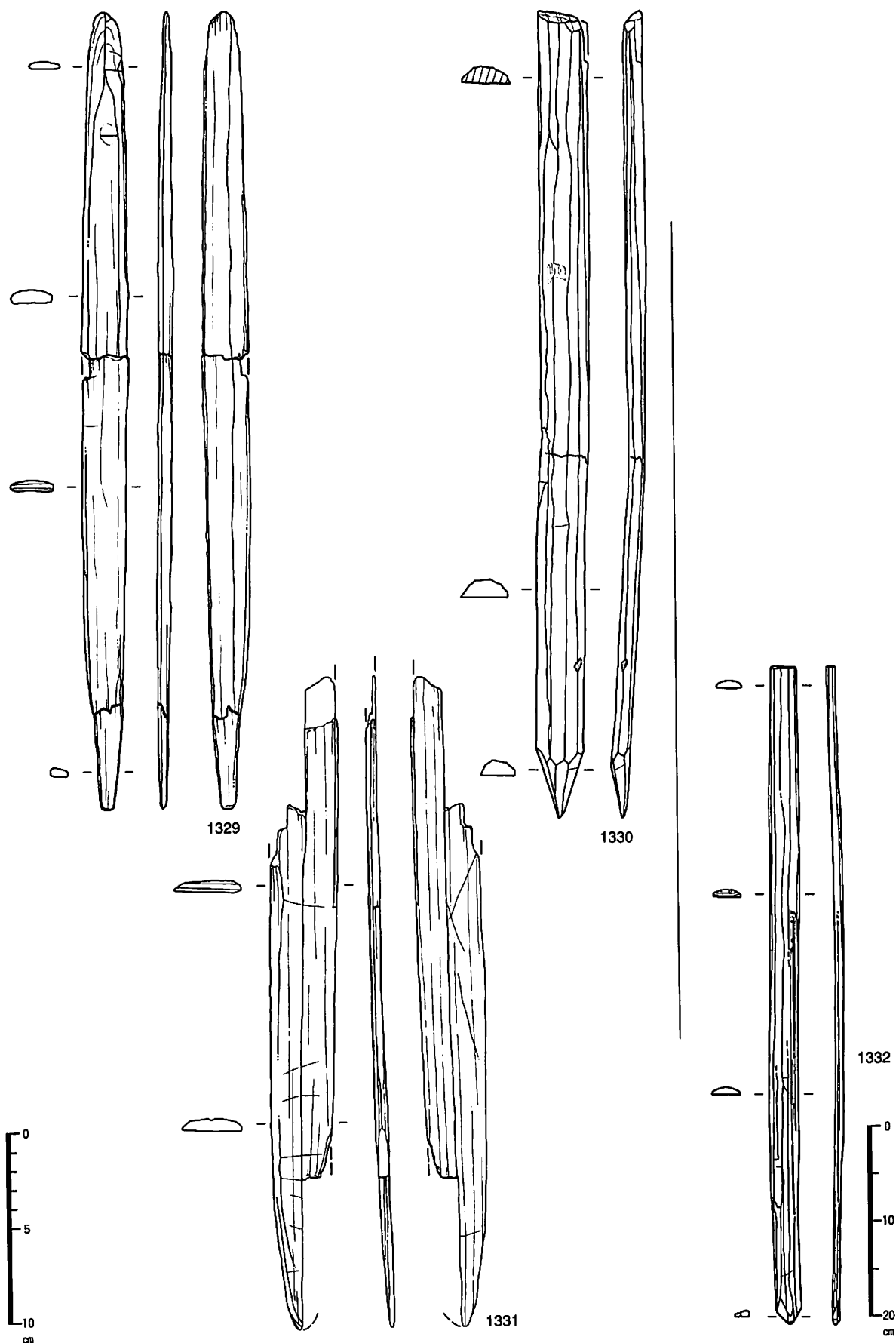
図V-244 楔状製品 1



図V-245 楔状製品 2

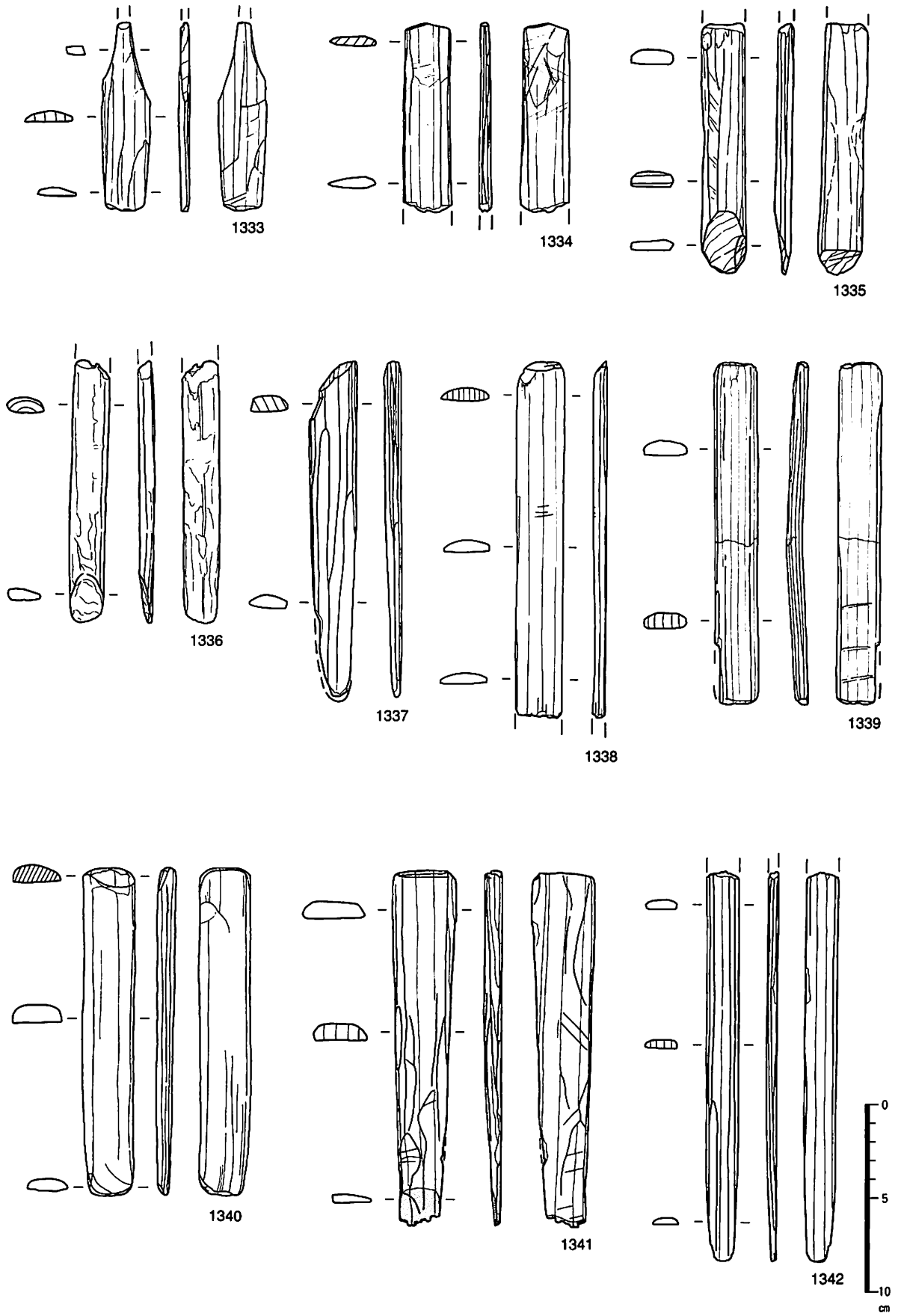


図V-246 捧酒箸（筥）状製品1

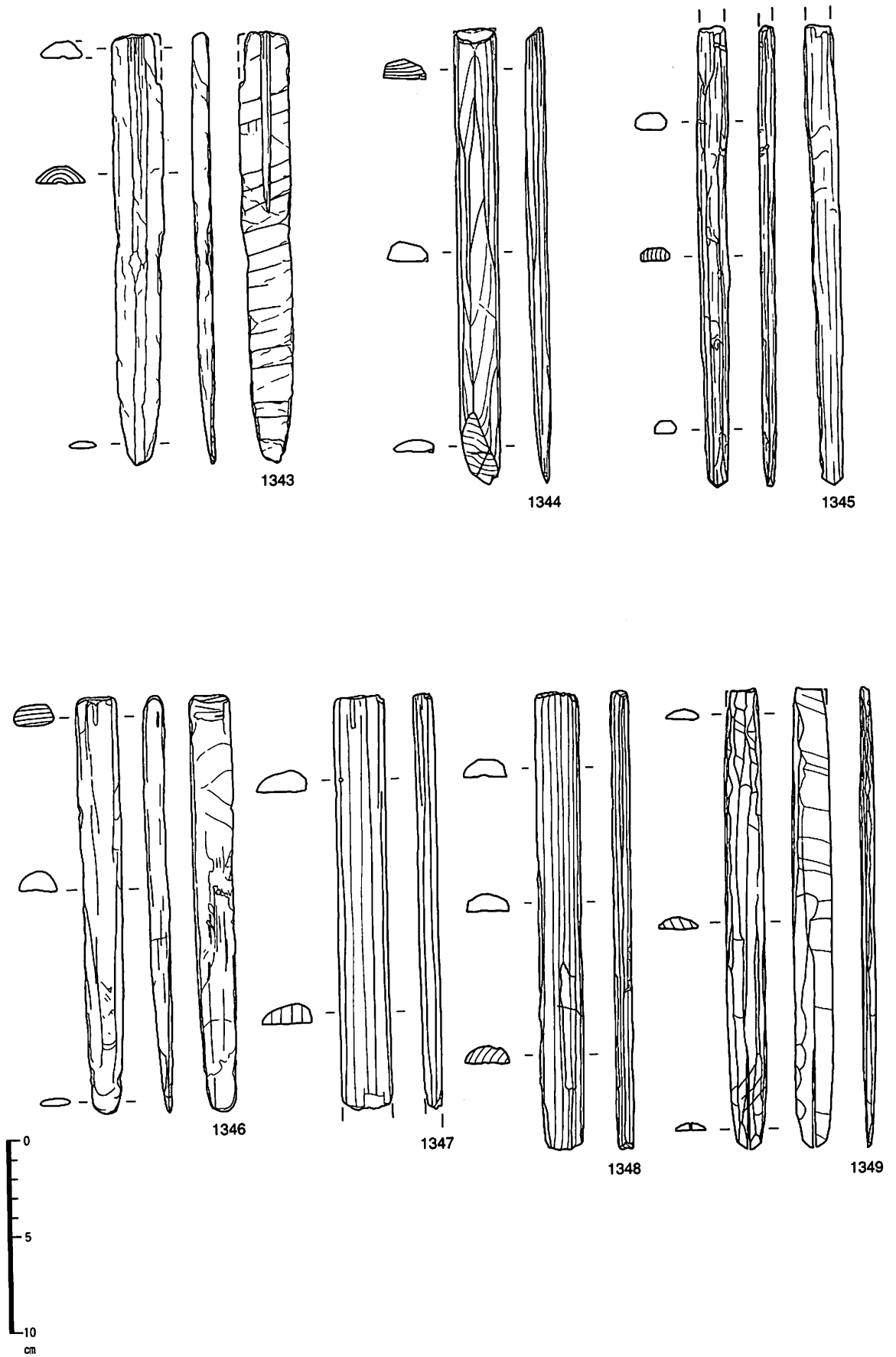


图V-247 棒酒箸(筴)状製品 2

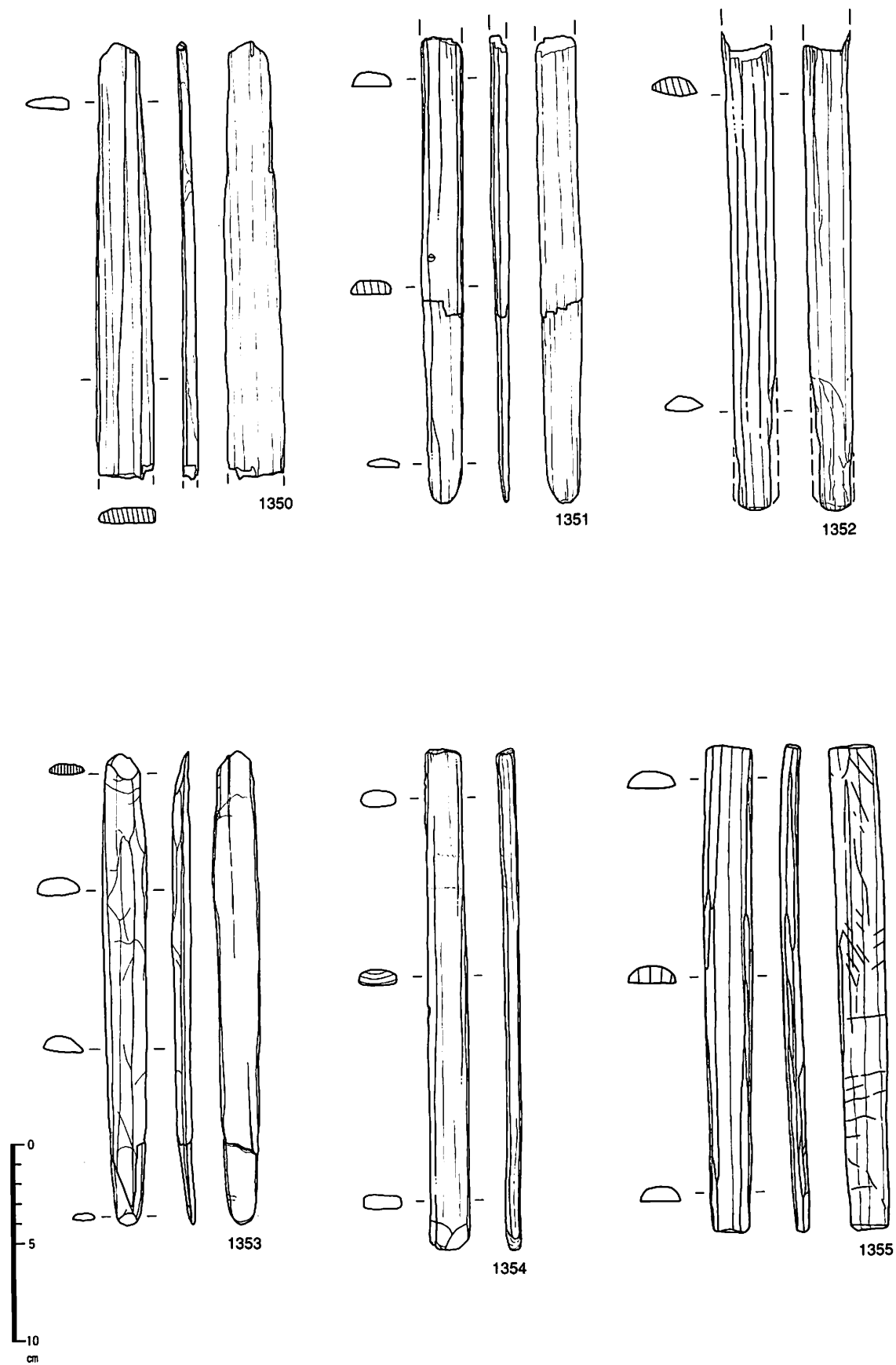




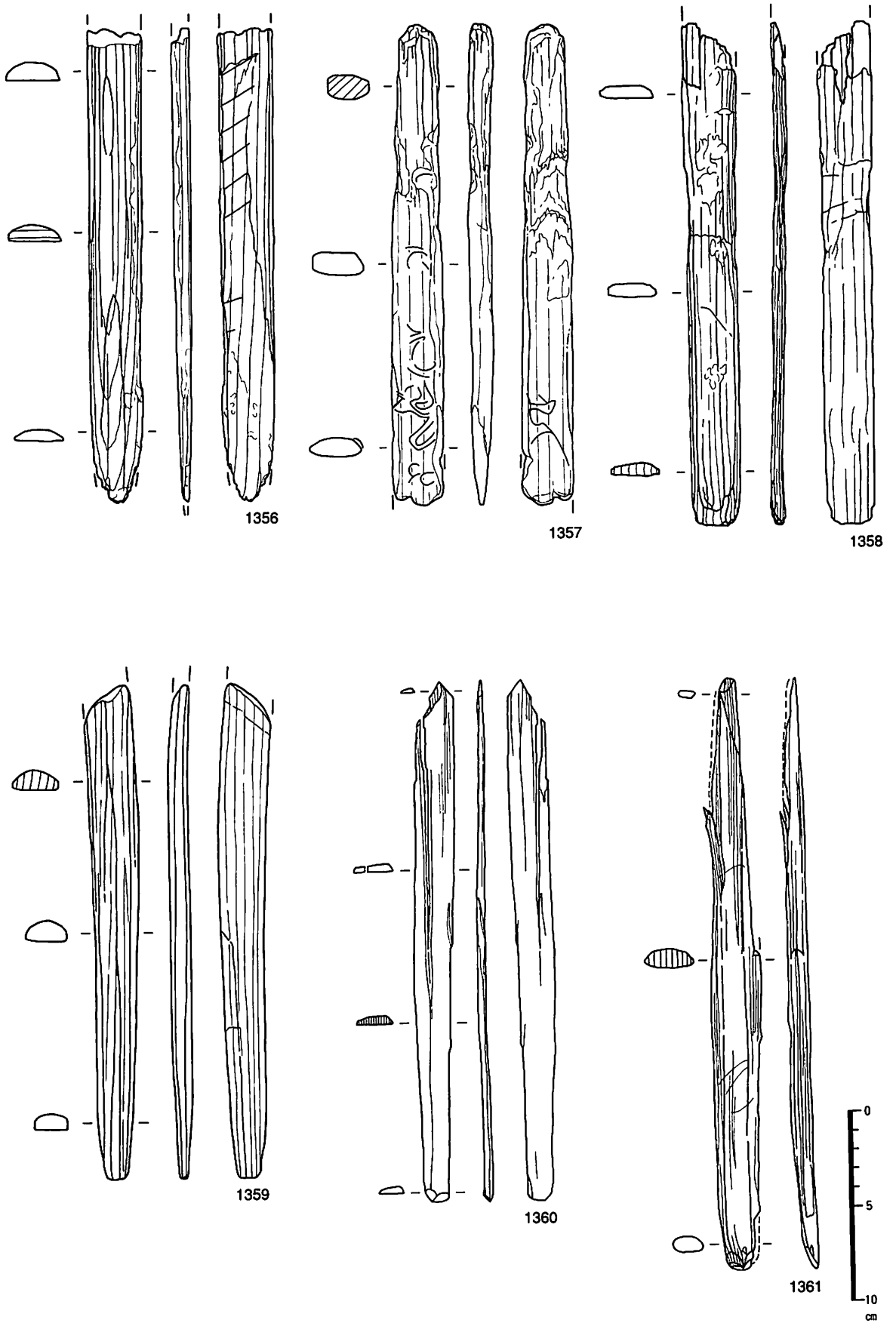
図V-248 棒酒箸（筥）状製品 3



図V-249 棒酒箸(筥)状製品4



図V-250 捧酒箸（筥）状製品5



図V-251 棒酒箸(篋)状製品6

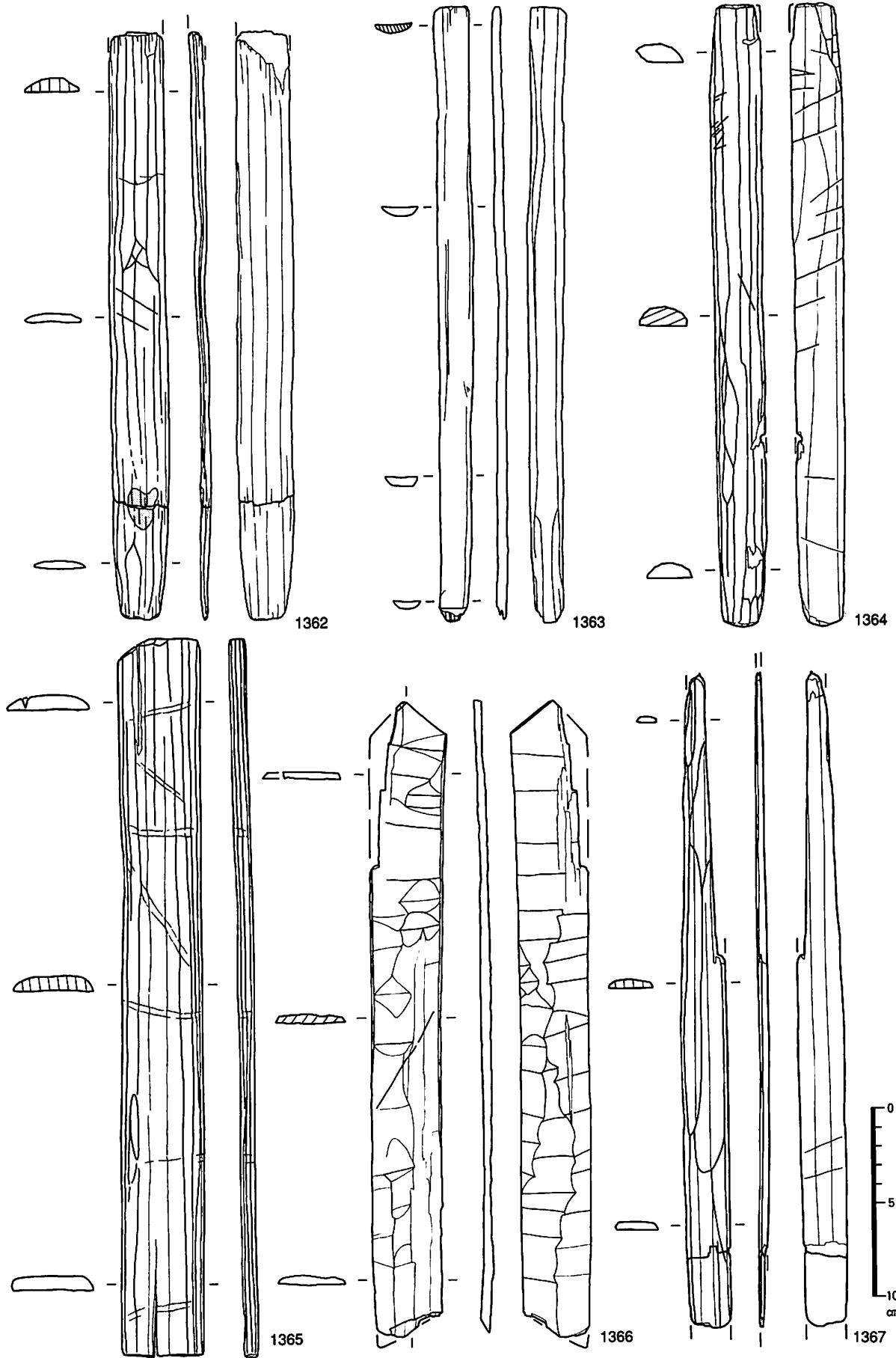
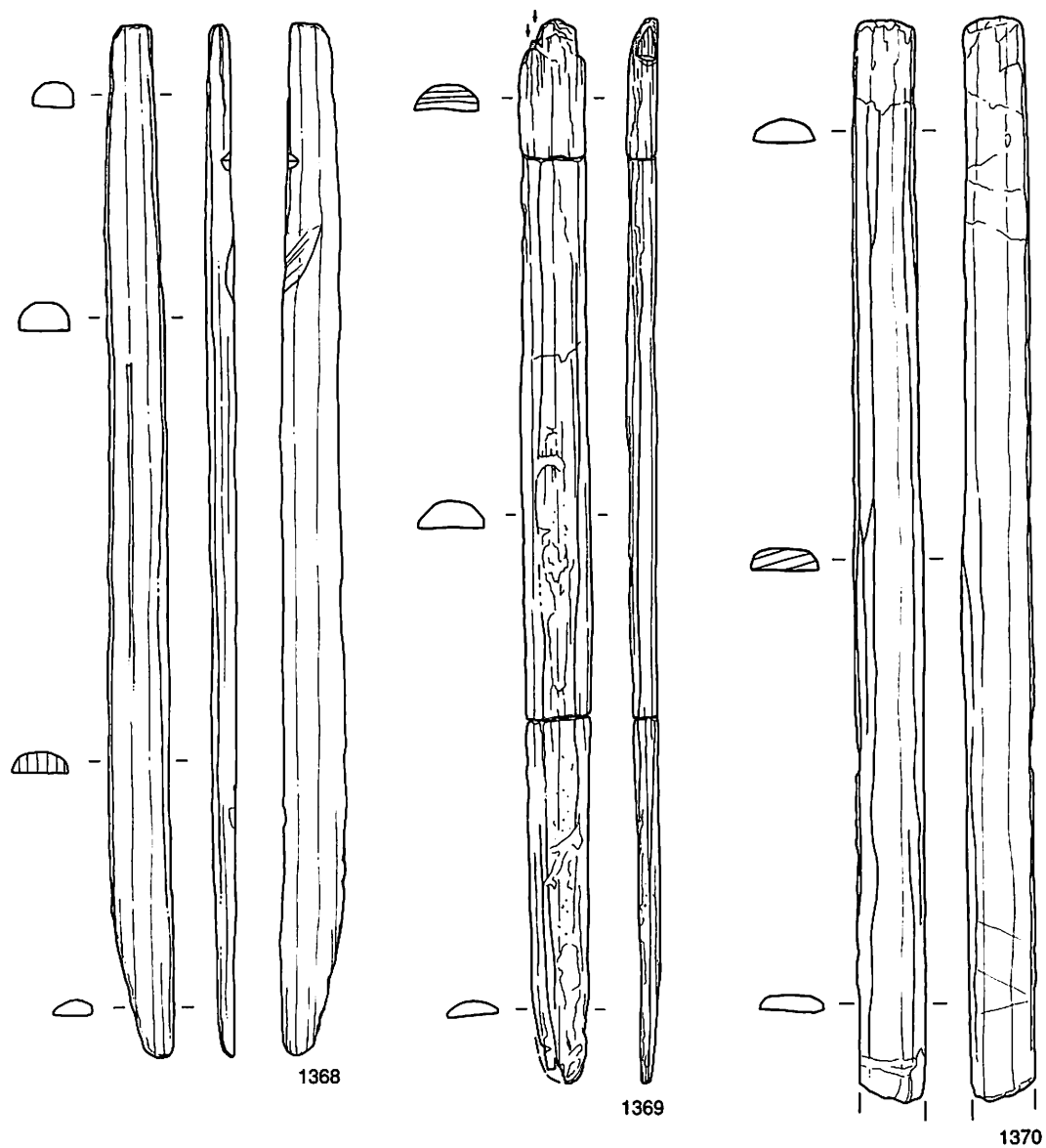
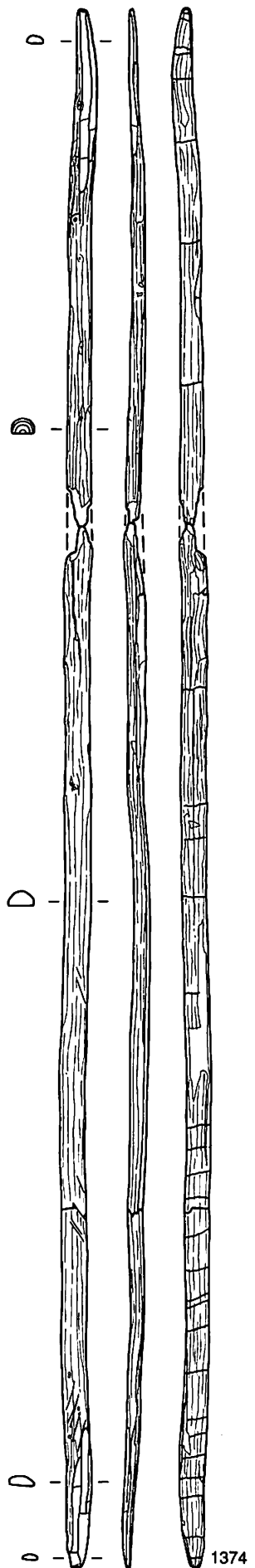
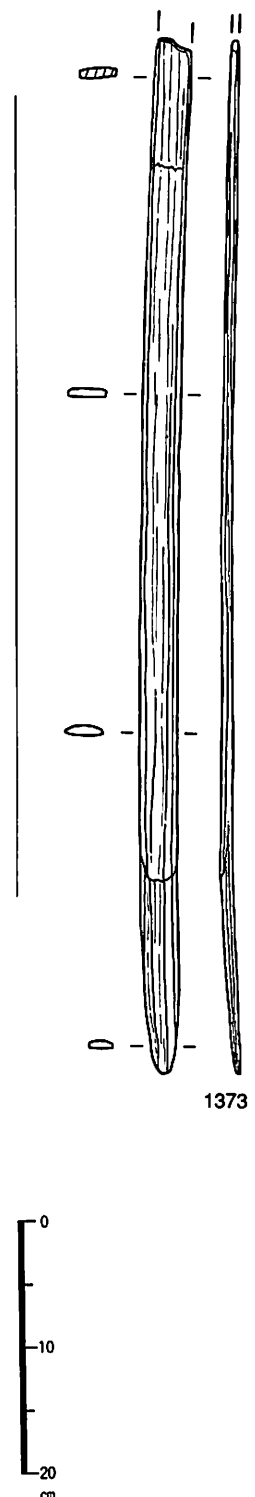
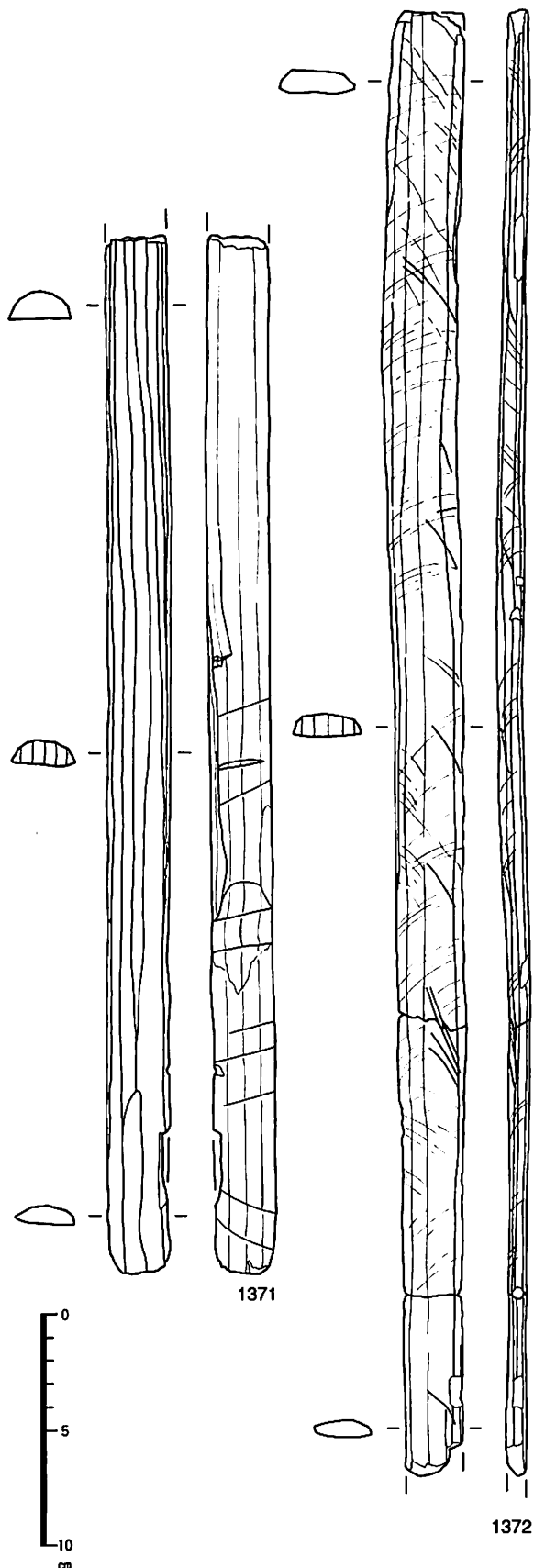


图 V-252 捧酒箸（篔）状製品 7

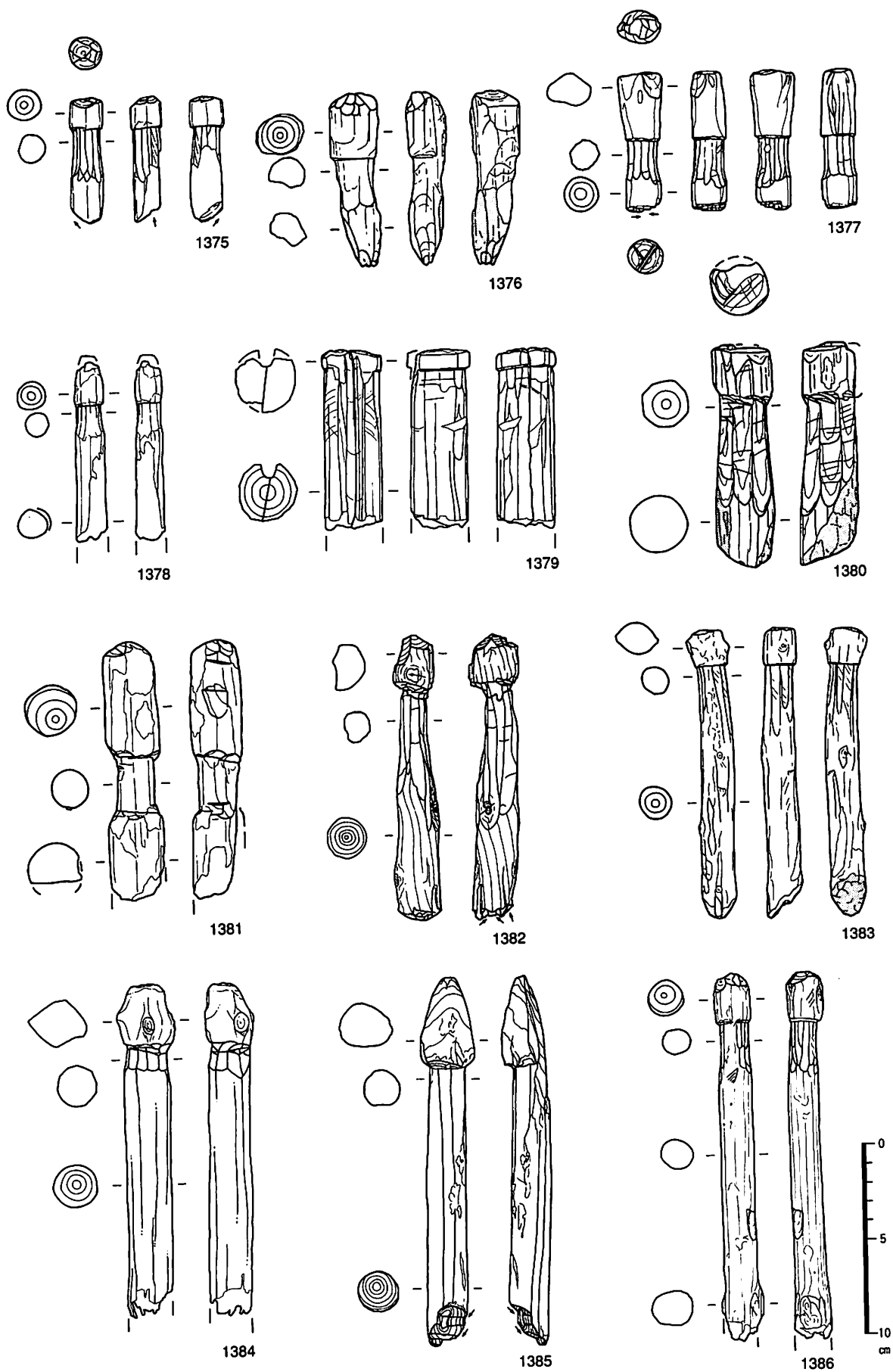


図V-253 棒酒箸（筴）状製品 8



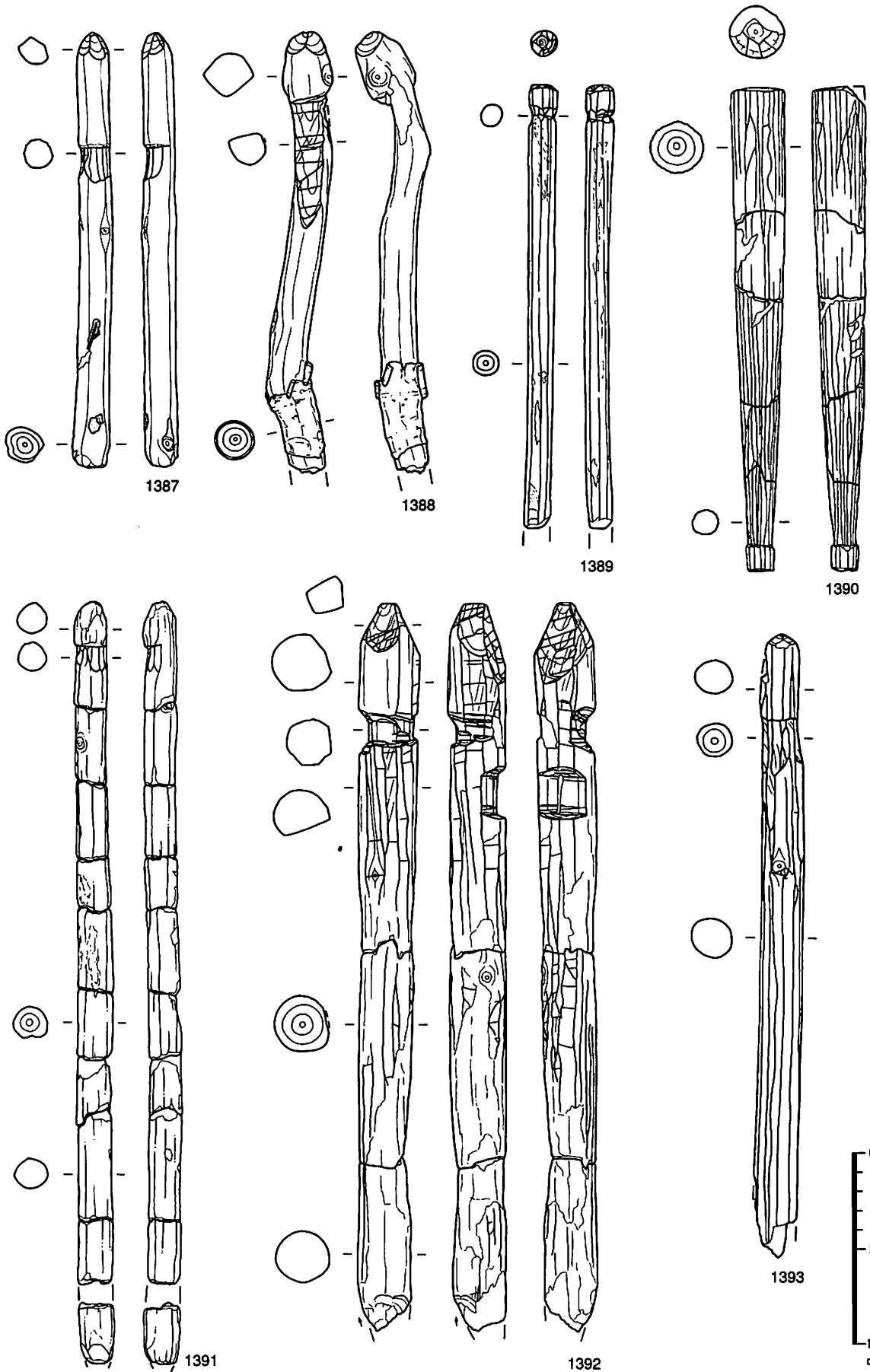
図V-254 捧酒箸（筴）状製品9

V 第0 黒色土層の調査

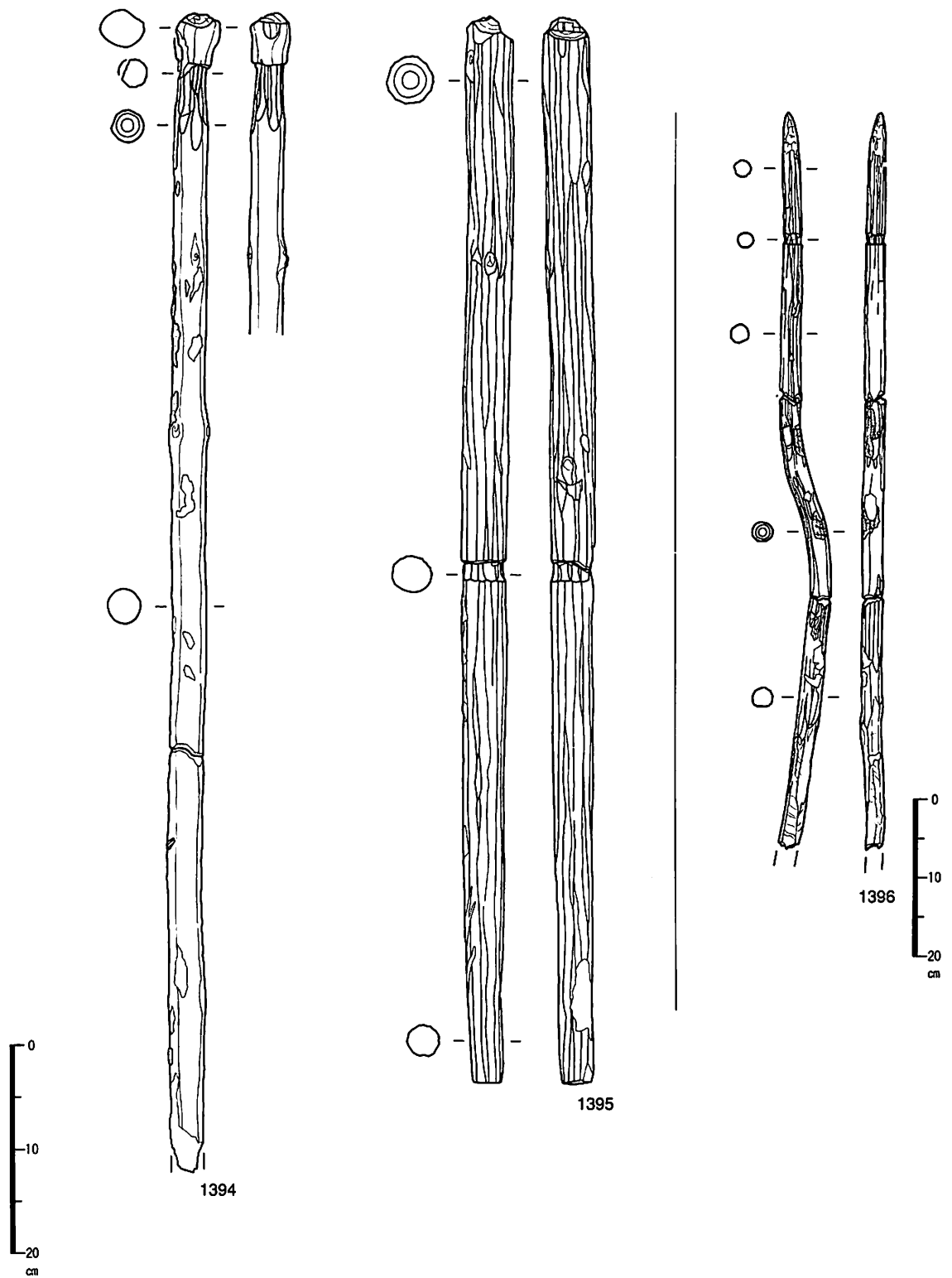


图V-255 扶入部付丸木材 1





図V-256 扶入部付丸木材 2



図V-257 挿入部付丸木材 3

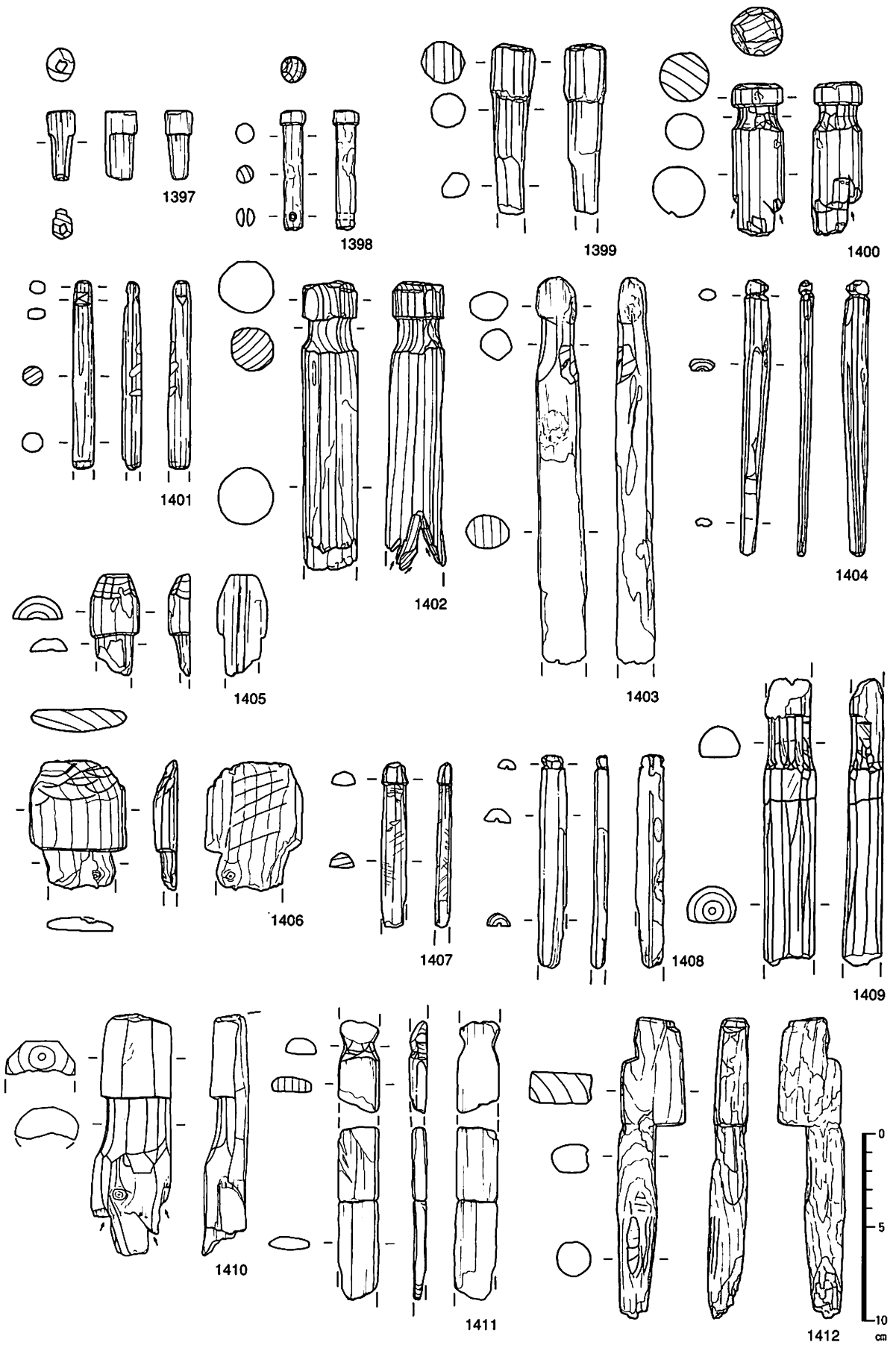
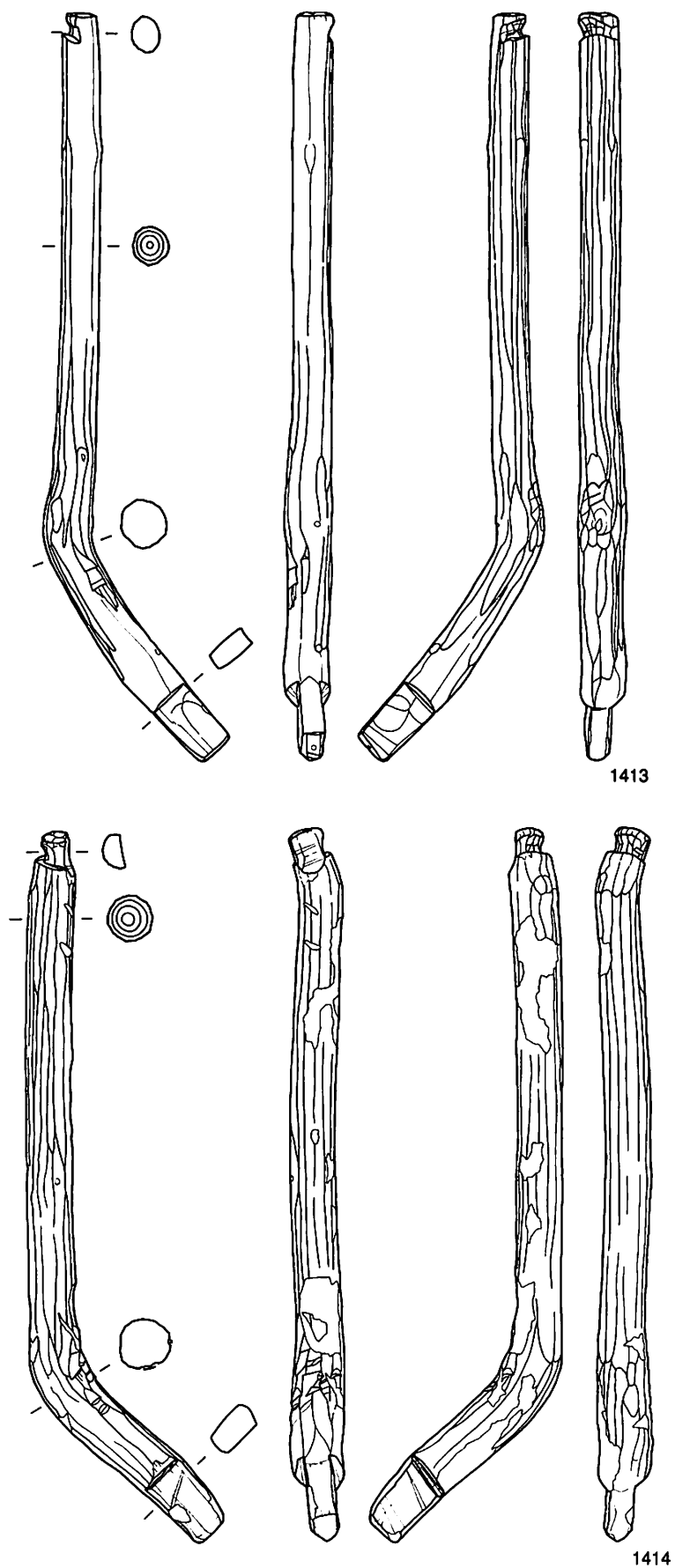


图 V-258 挟入部付丸材 1



図V-259 両端部抉入部付丸木材 1

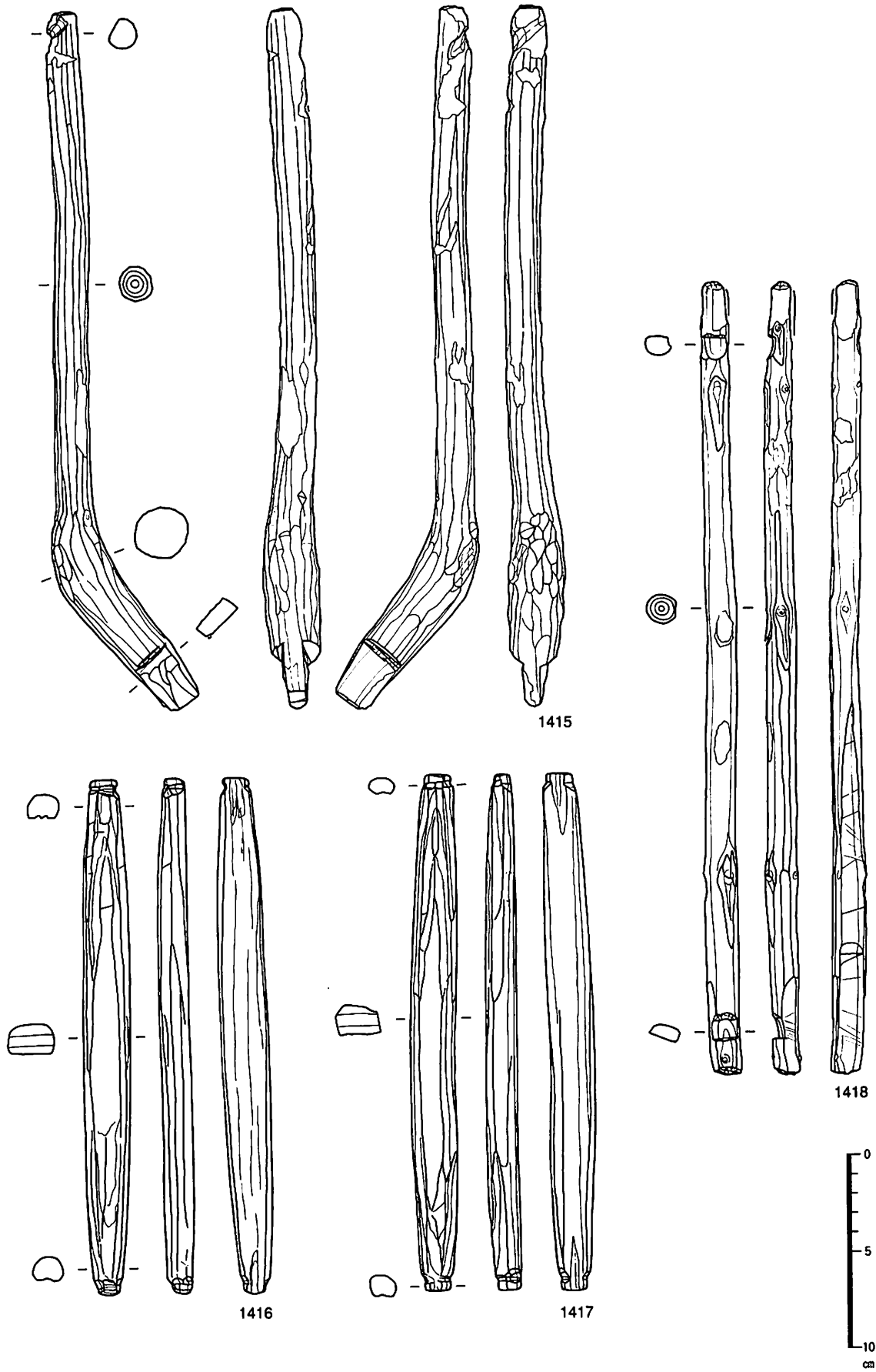
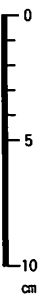
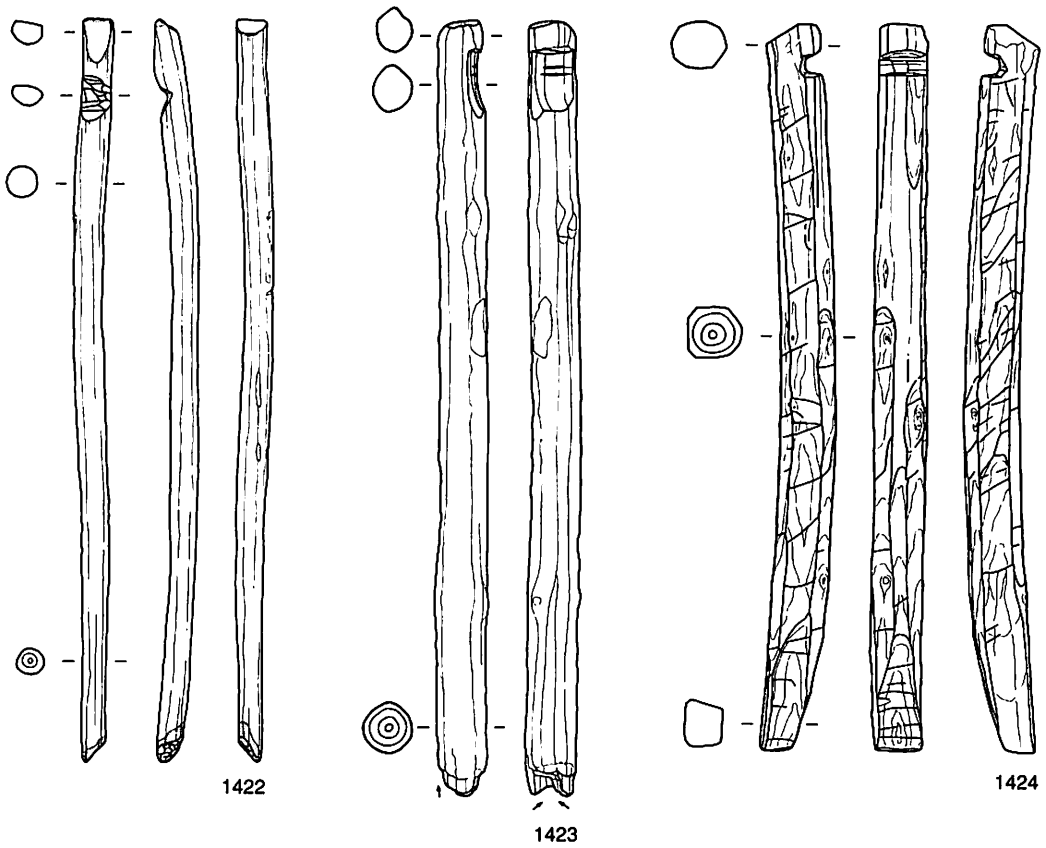
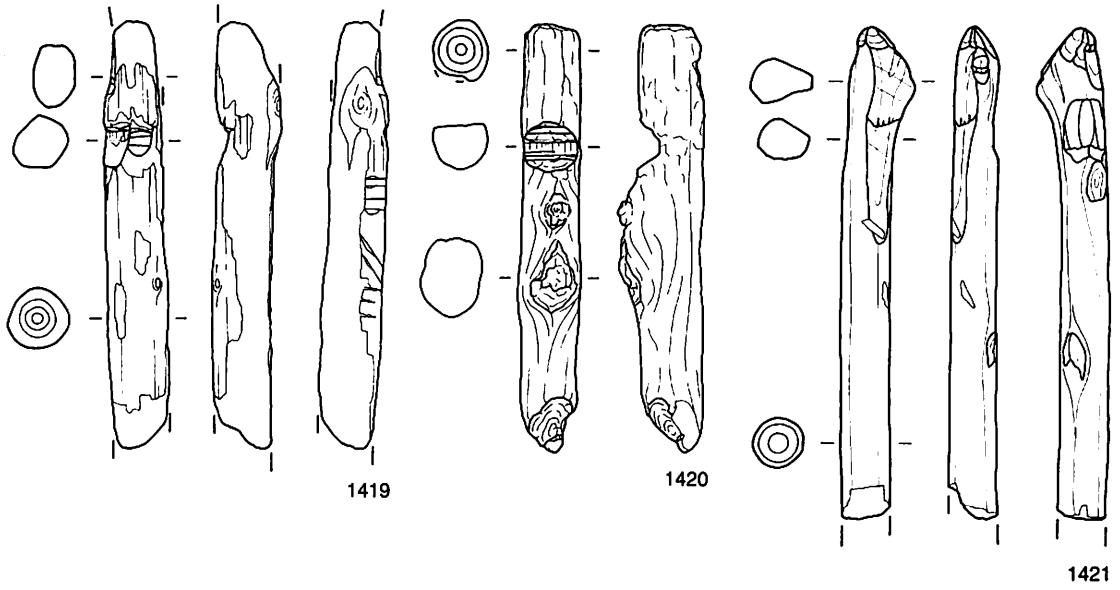
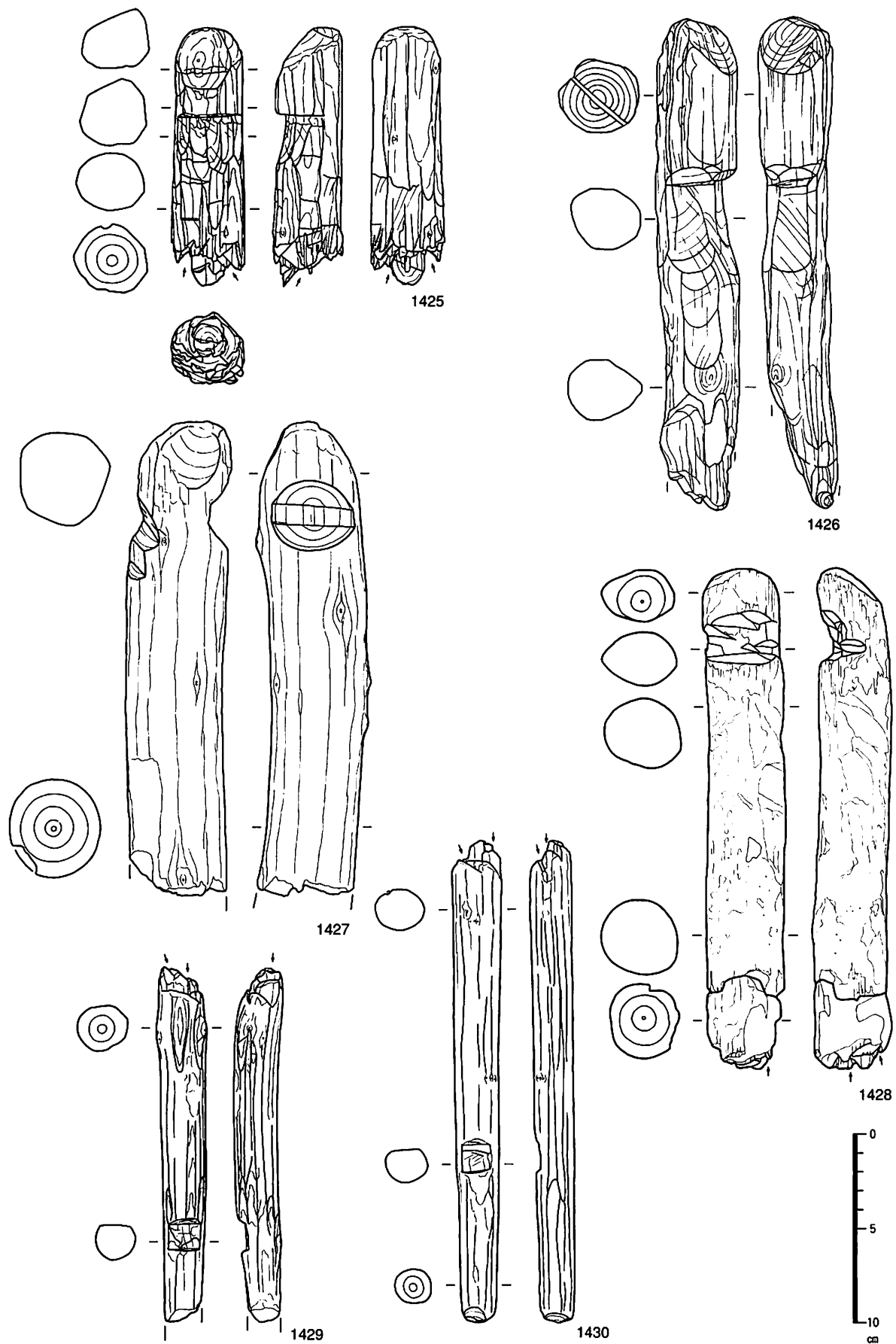


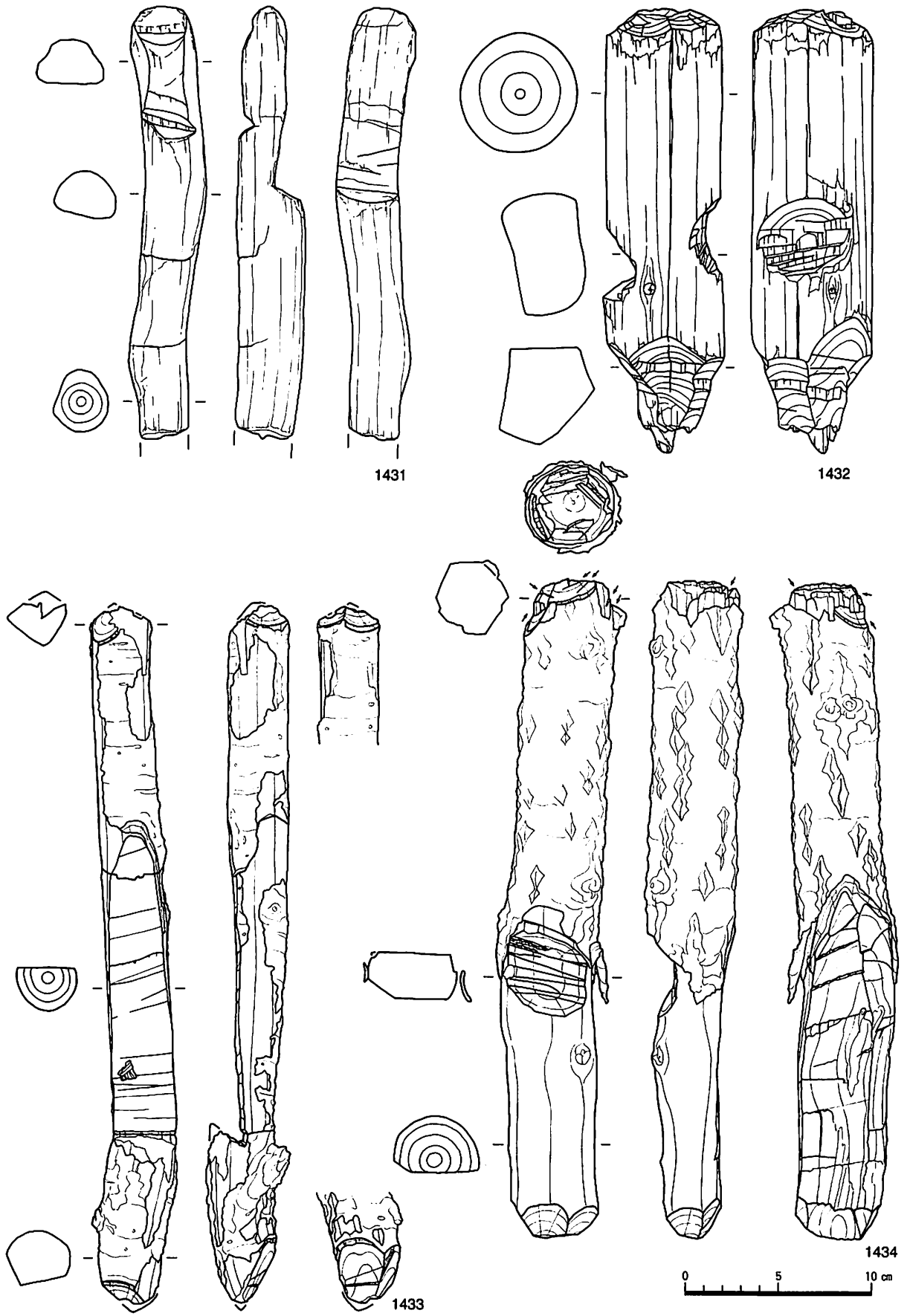
图 V-260 両端部抉入部付丸木材 2・丸材



図V-261 挟付丸木材 1

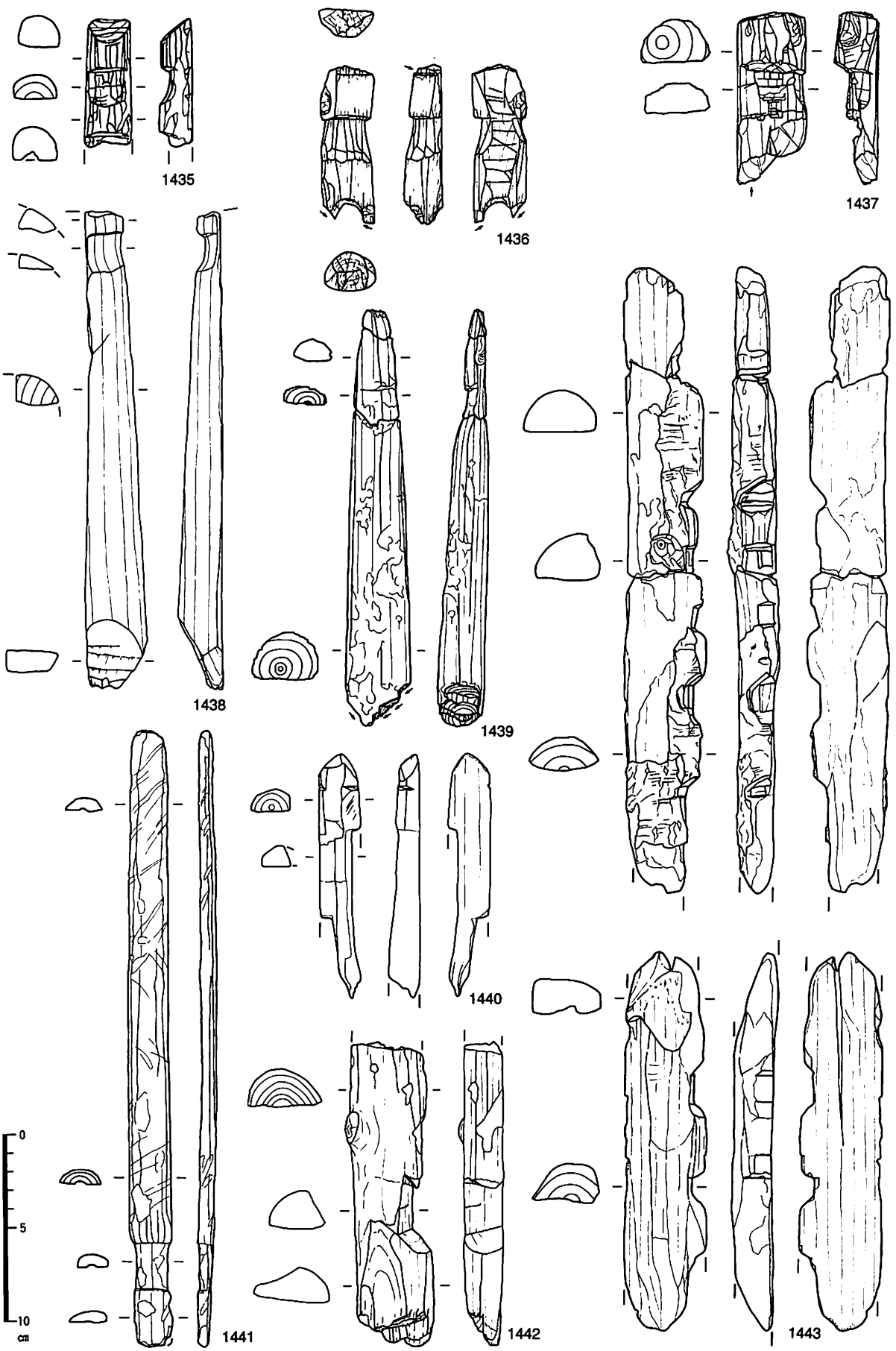


図V-262 挟付丸木材 2

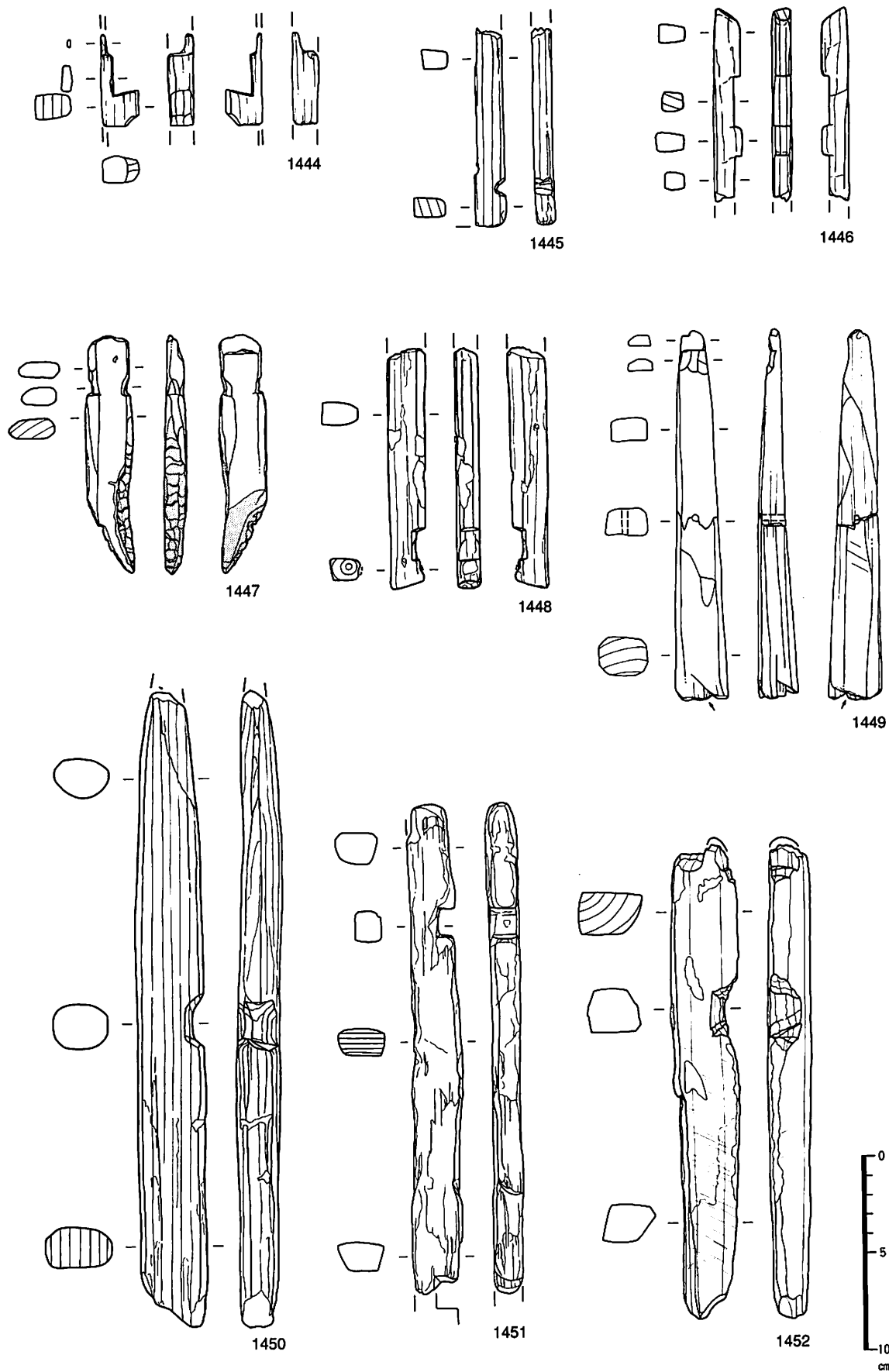


図V-263 扶付丸木材 3

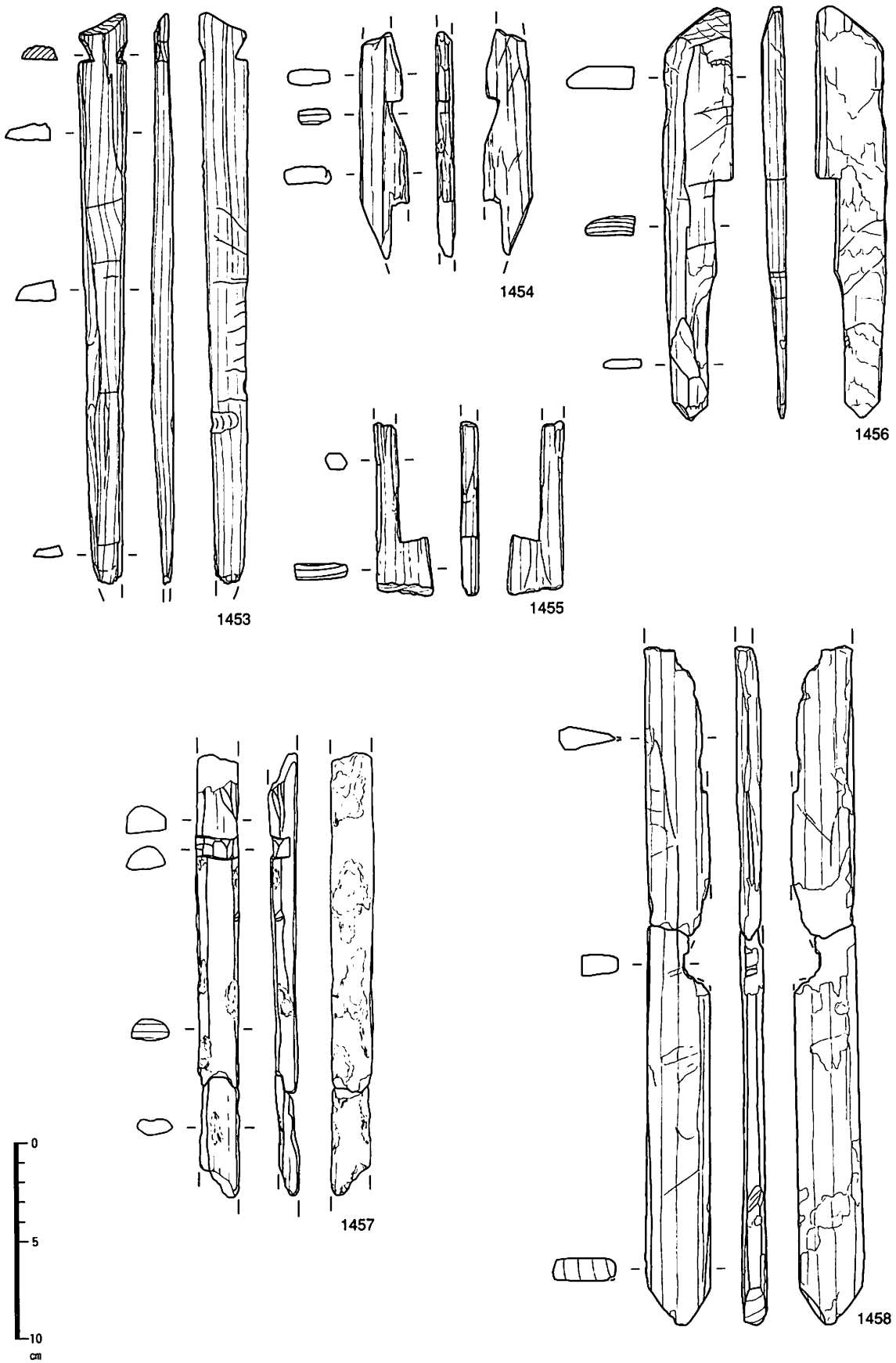




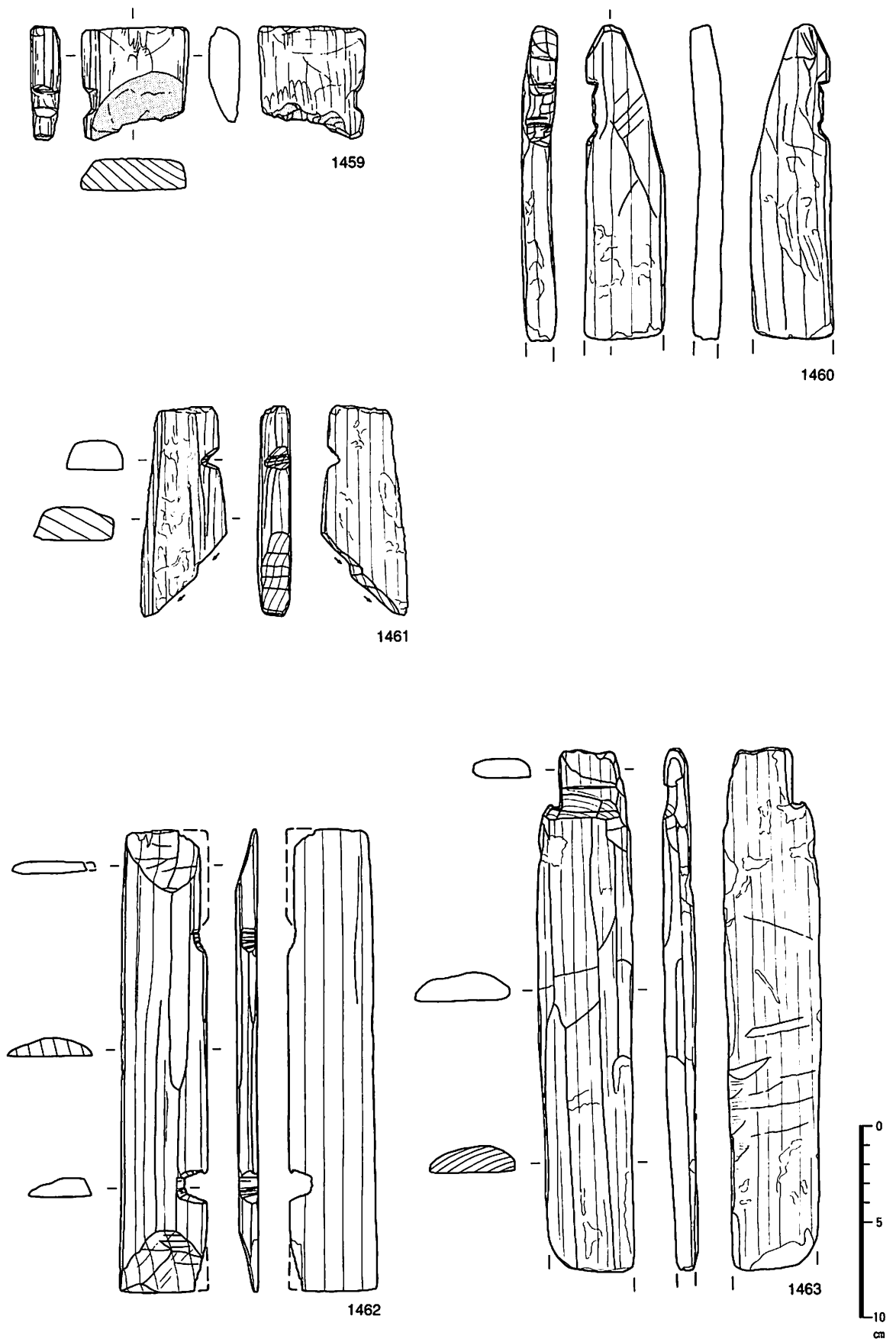
図V-264 扶付半割材



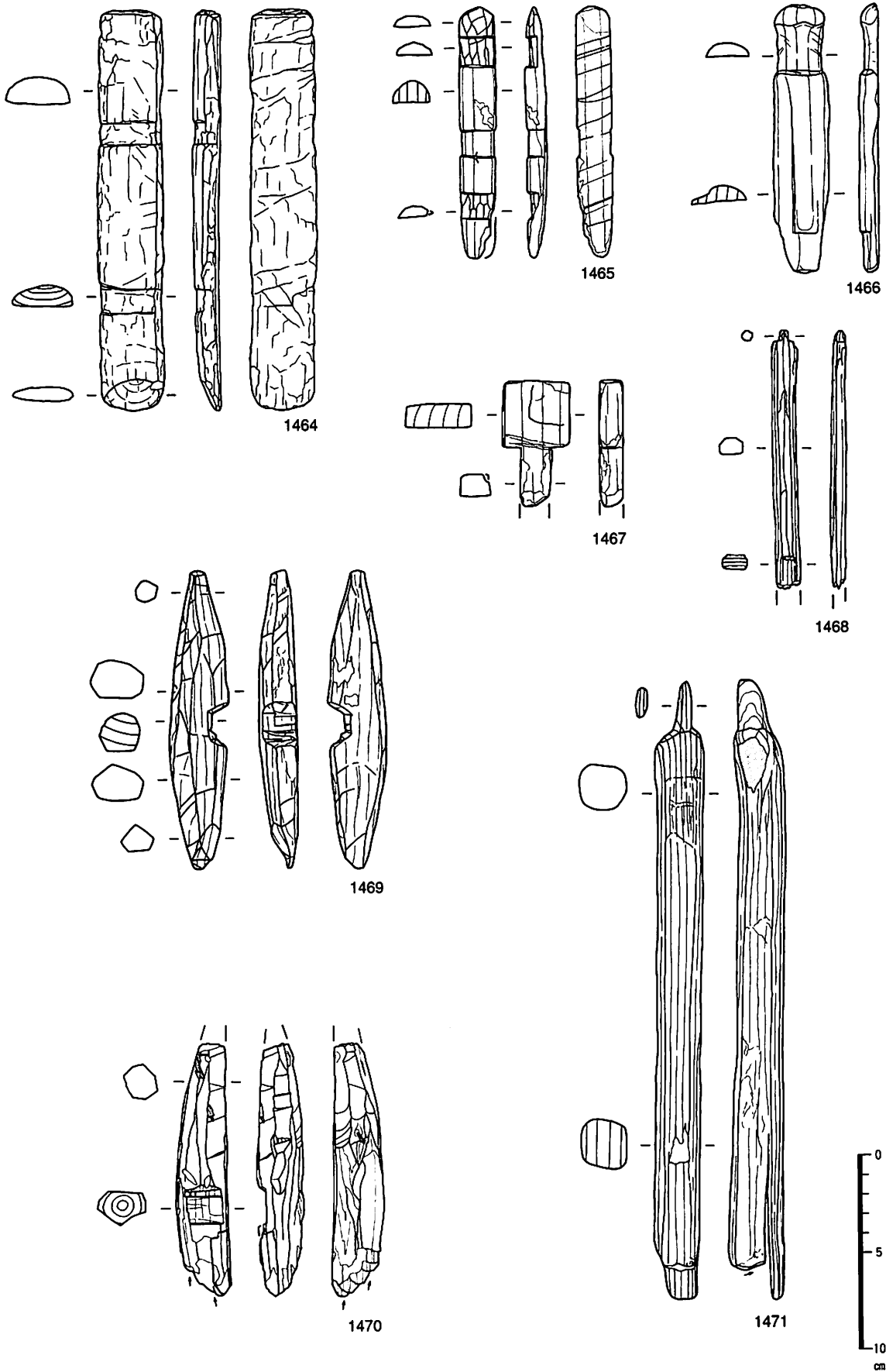
図V-265 挟付角材



図V-266 挟付板材 1

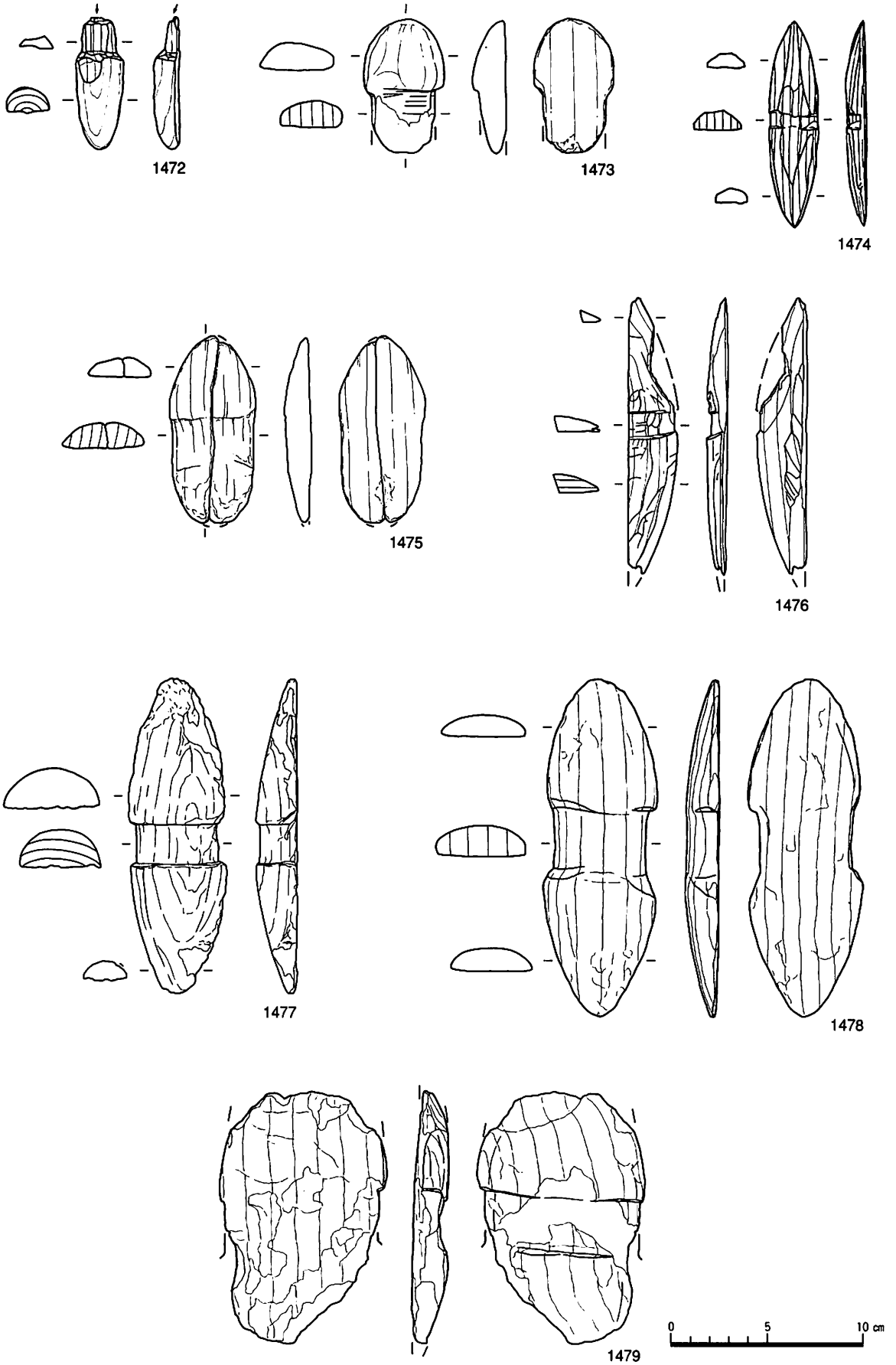


図V-267 挟付板材 2

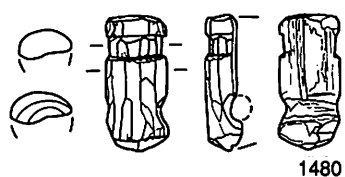


図V-268 挟付半円状材・挟付紡錘状材・ホソ先付角材他

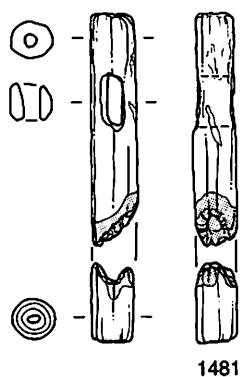
V 第0 黒色土層の調査



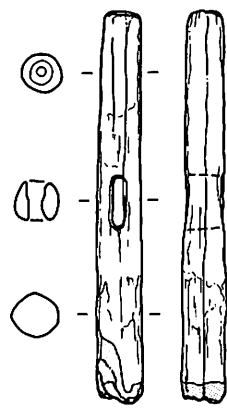
図V-269 挟付楕円板材



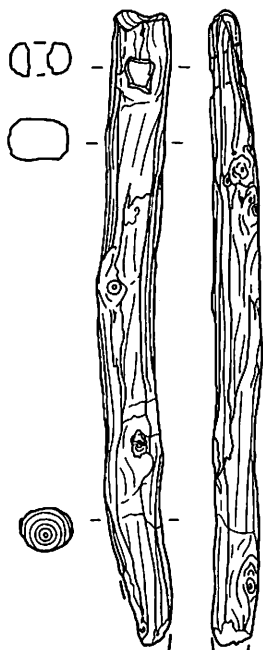
1480



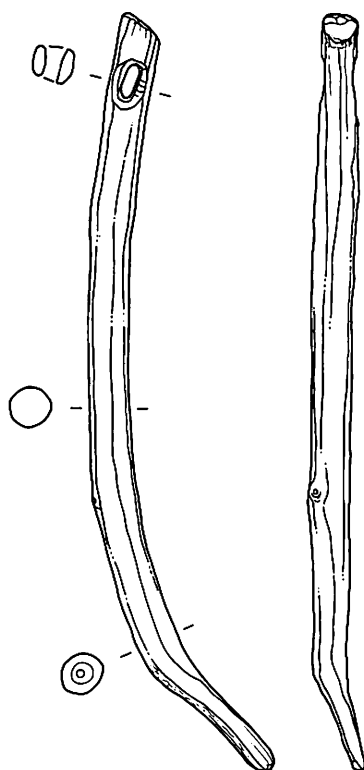
1481



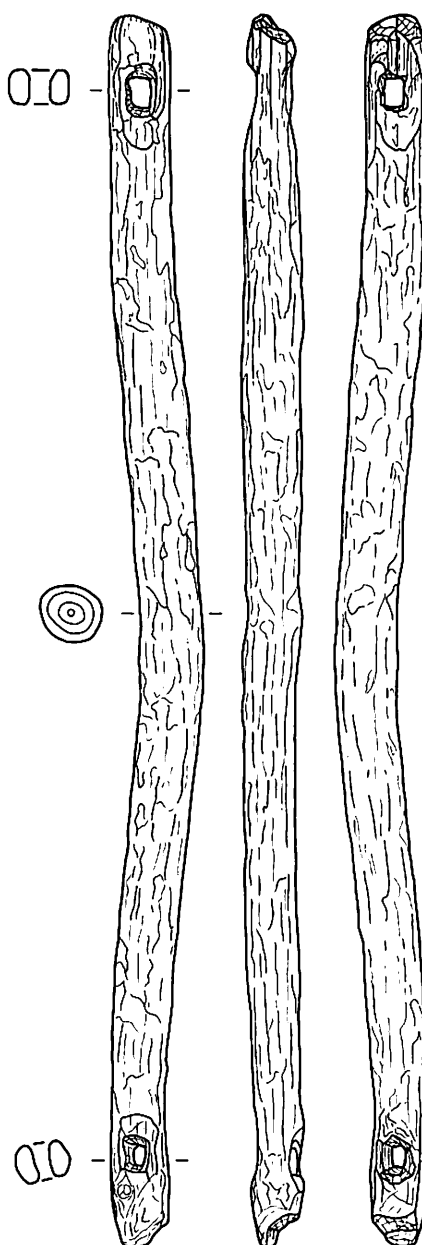
1482



1483



1484



1485

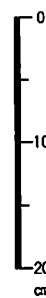
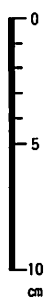
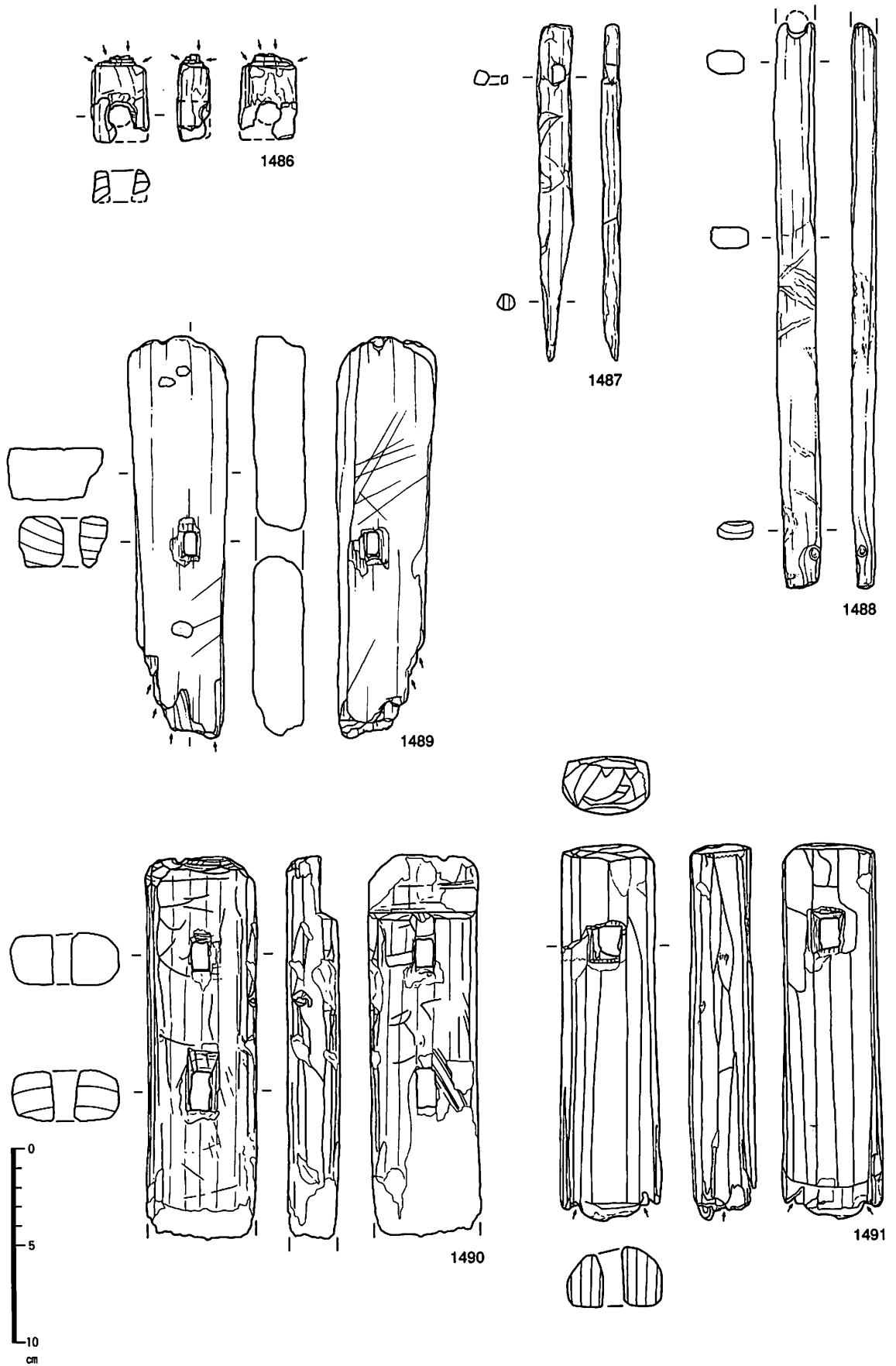
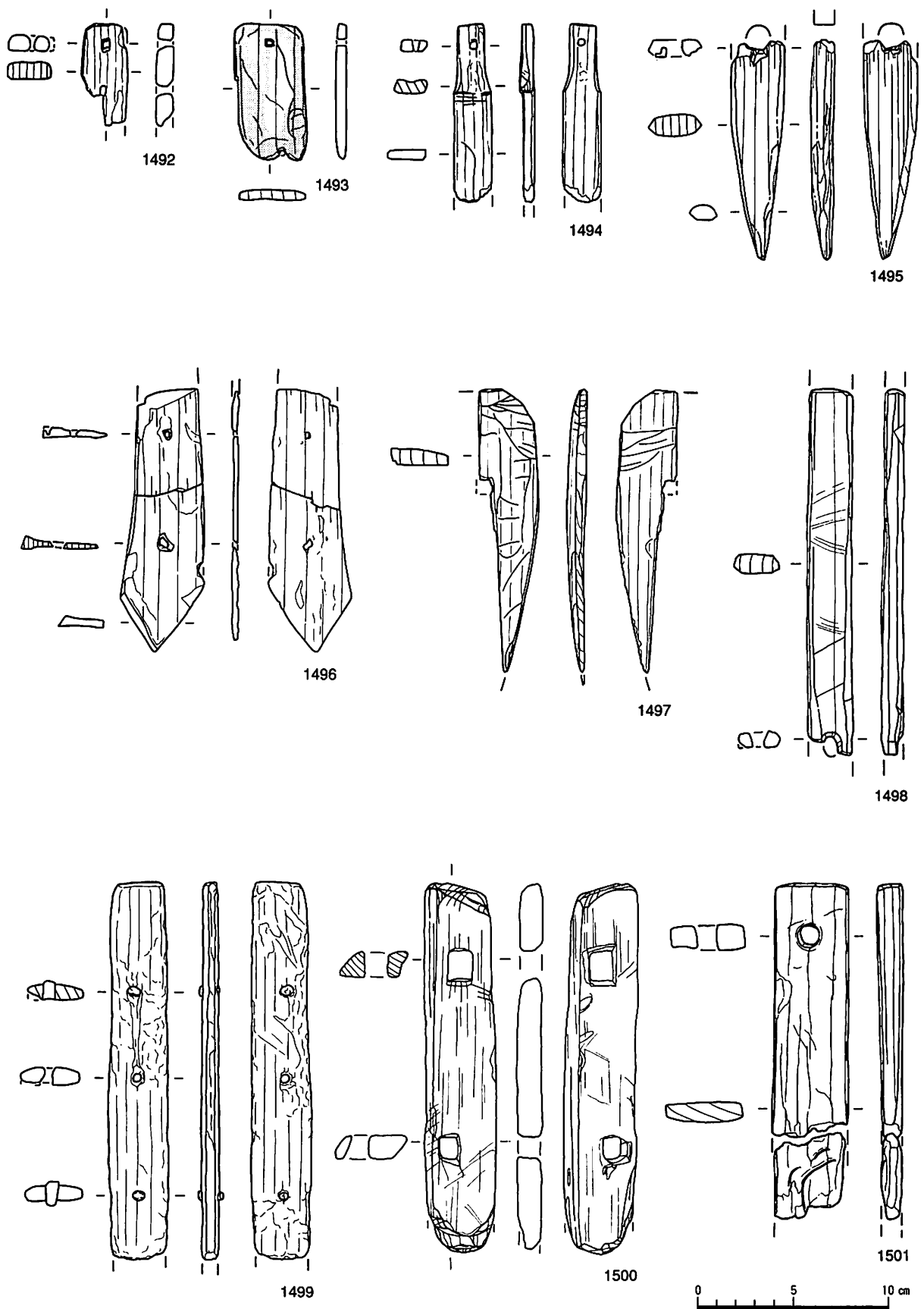


图 V-270 有孔丸木材



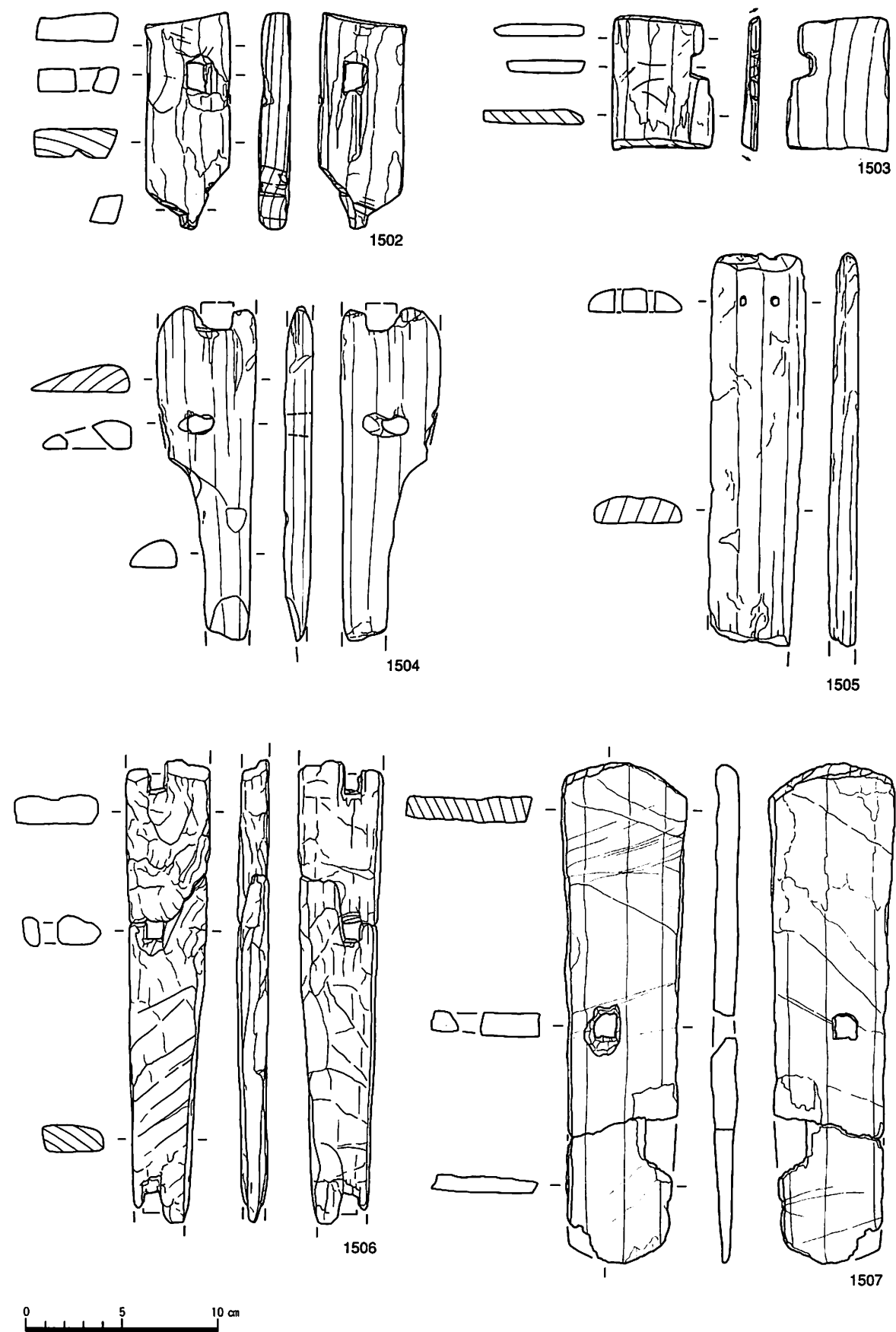
図V-271 有孔角材



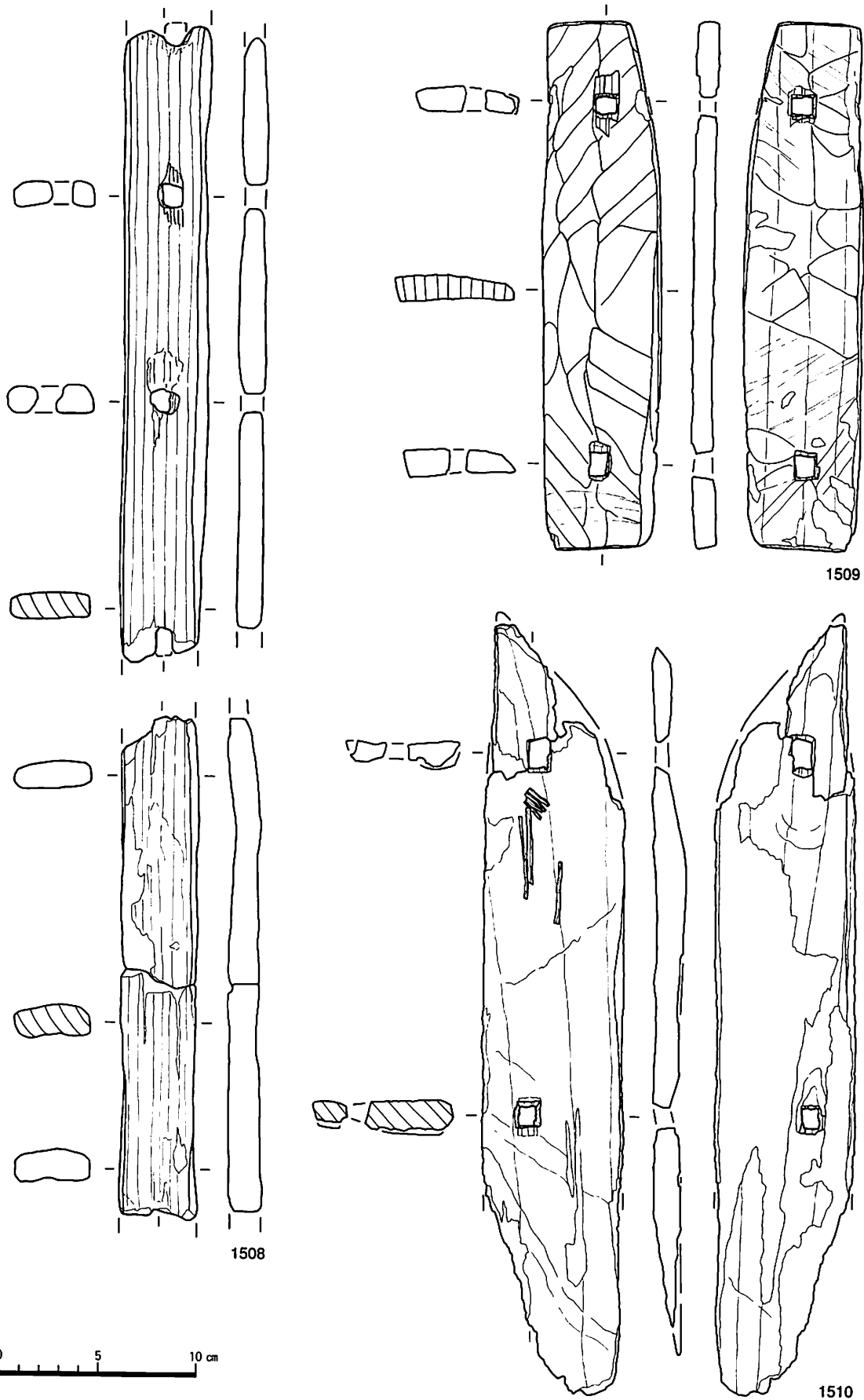


图V-272 有孔板材 1

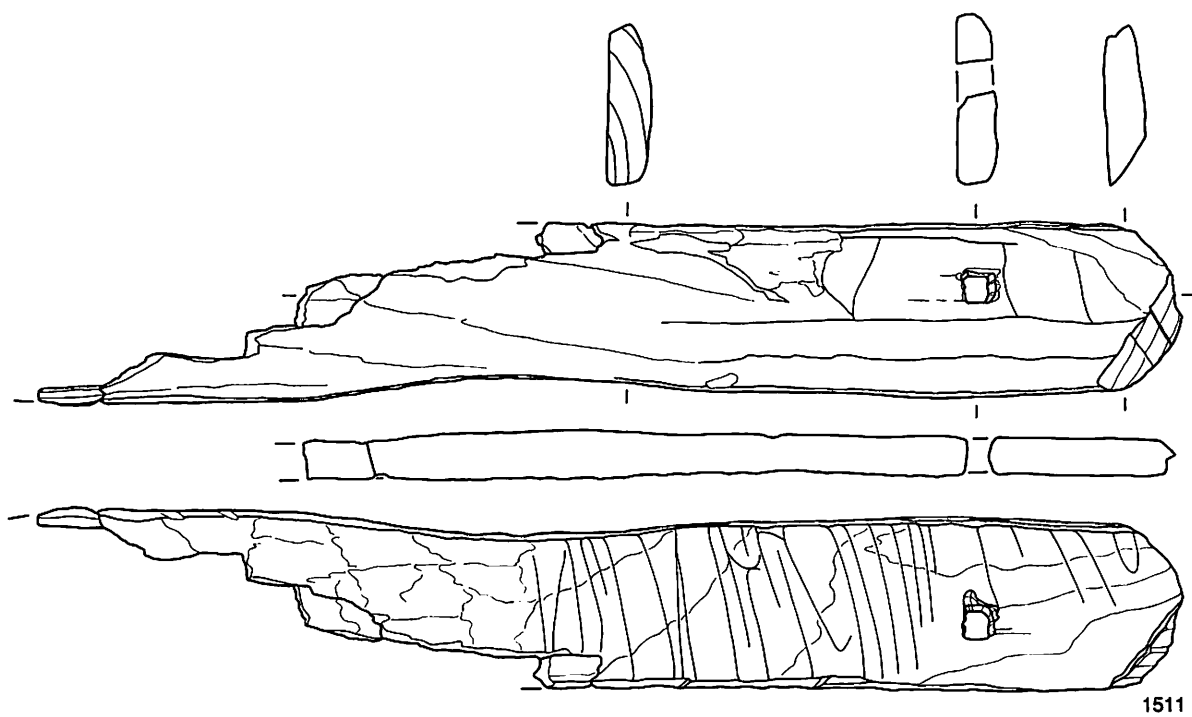
V 第0 黑色土層の調査



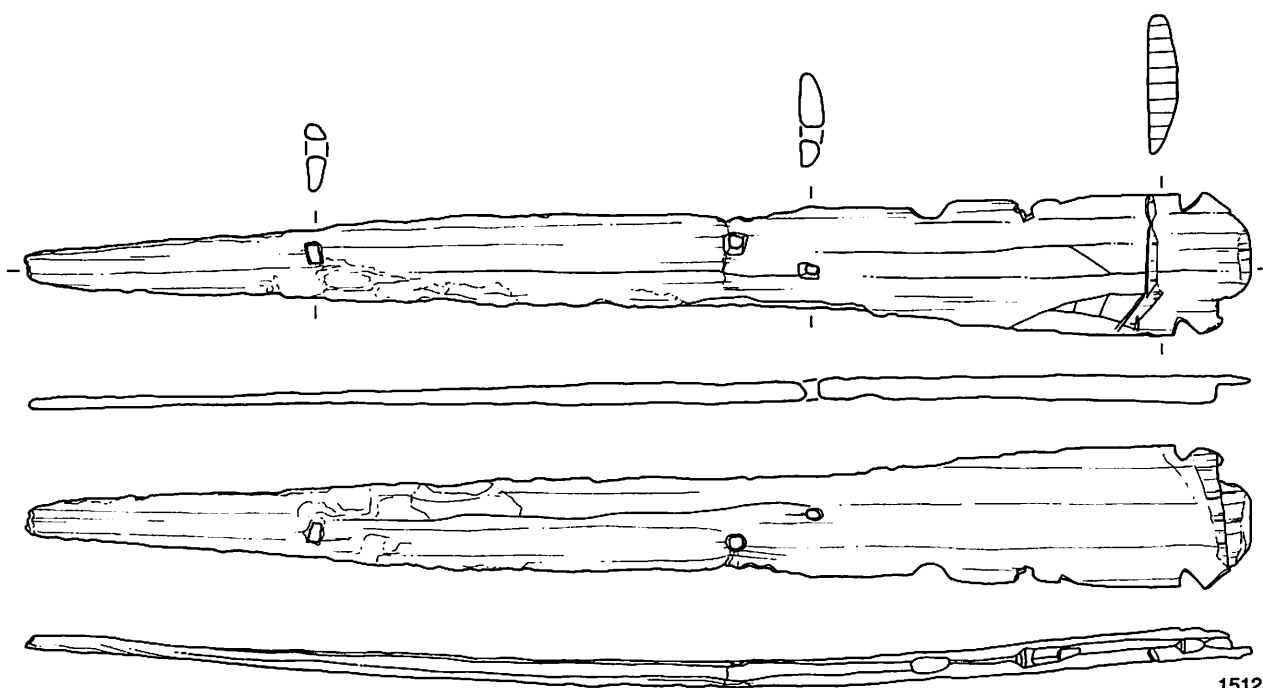
图V-273 有孔板材 2



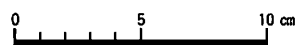
图V-274 有孔板材3



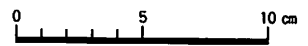
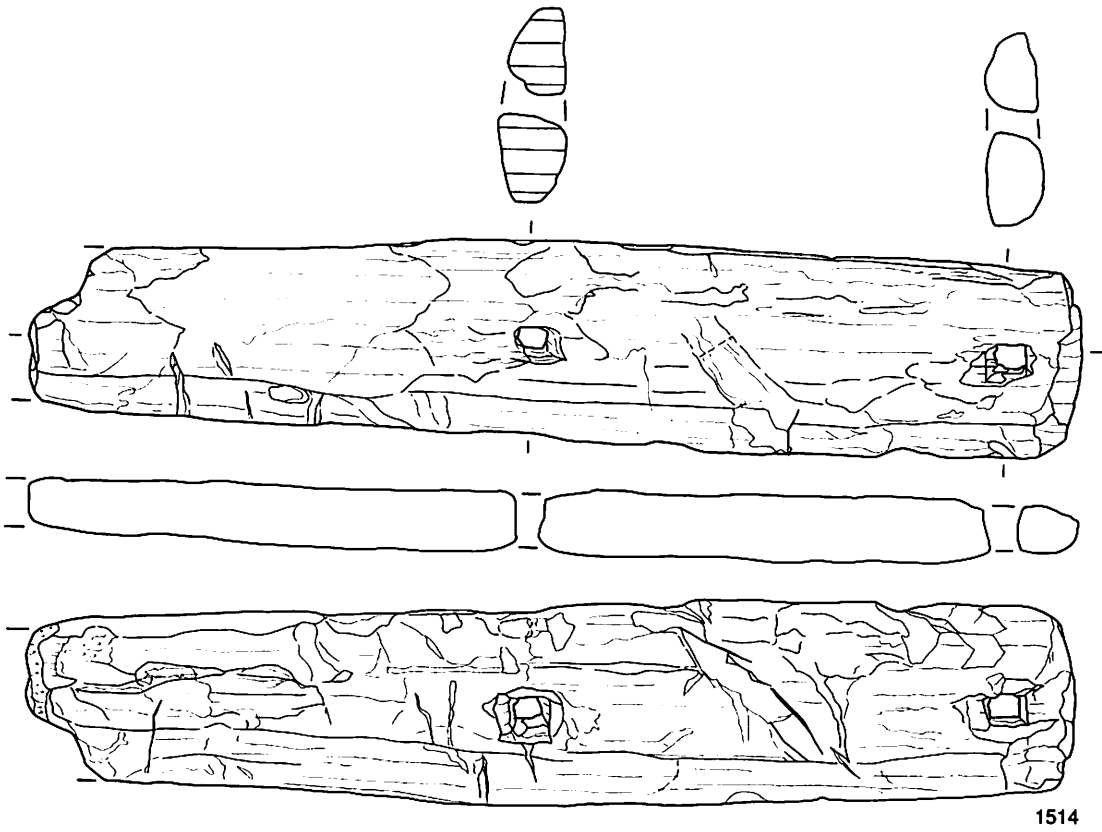
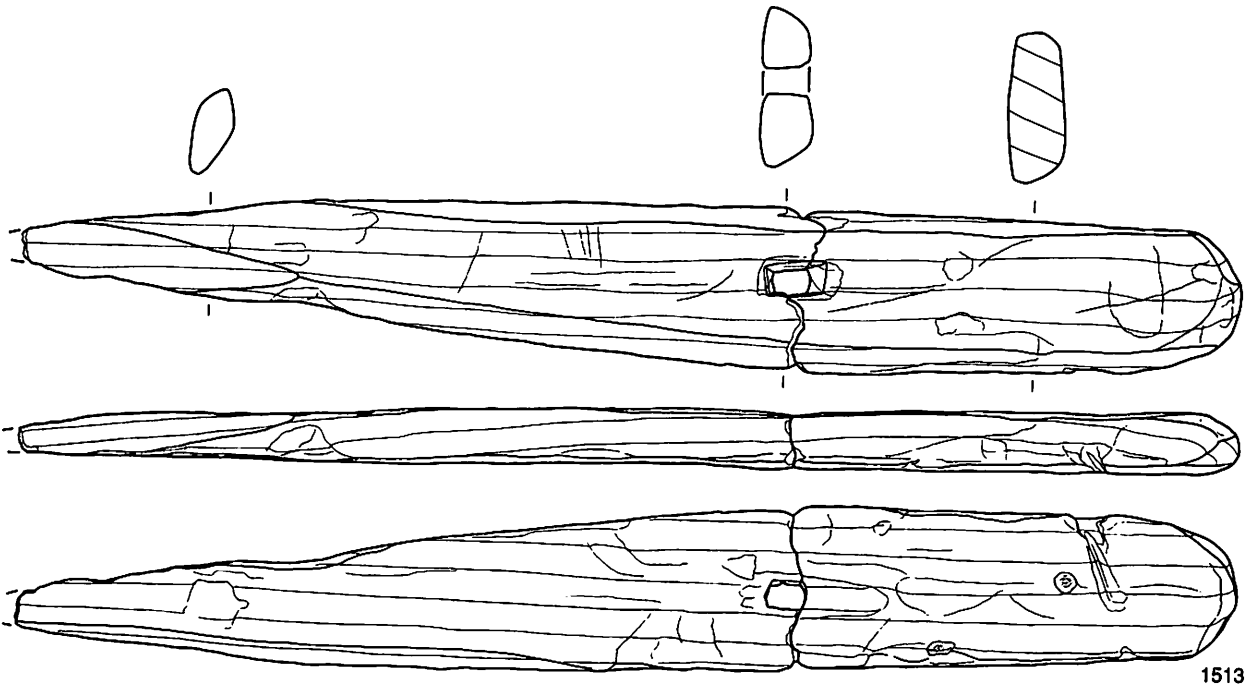
1511



1512

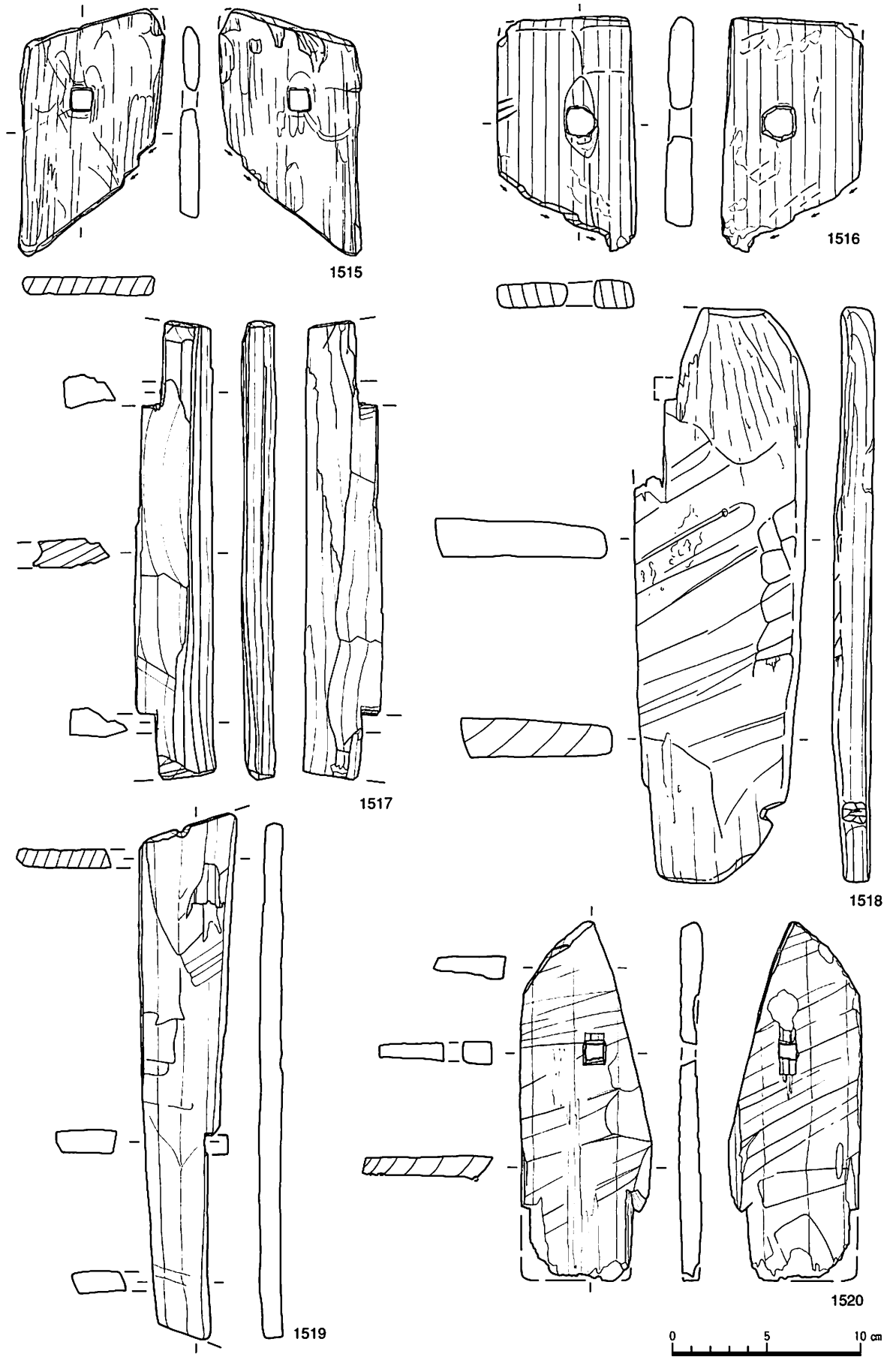


図V-275 有孔板材 4

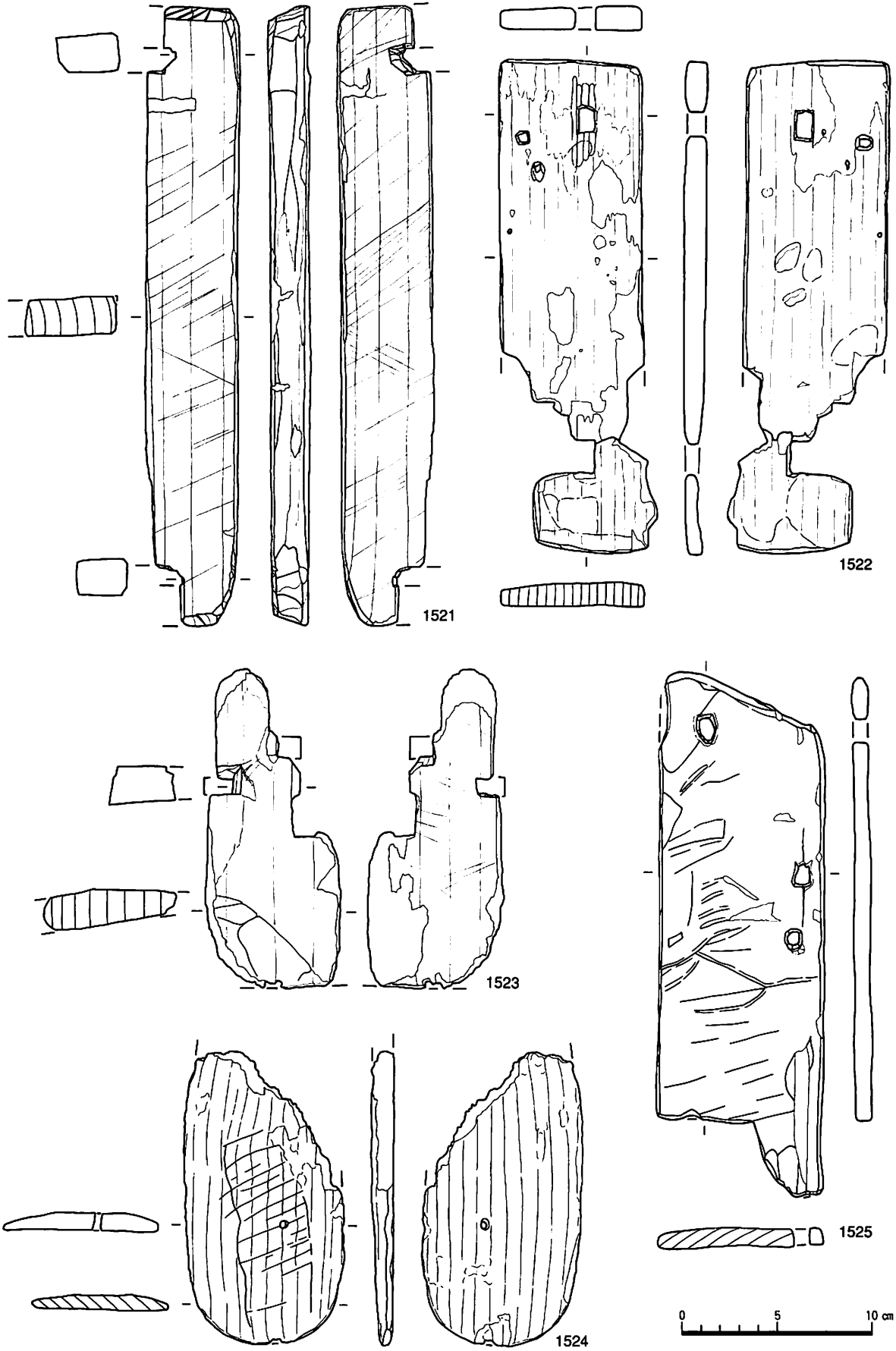


图V-276 有孔板材5

V OB層の調査

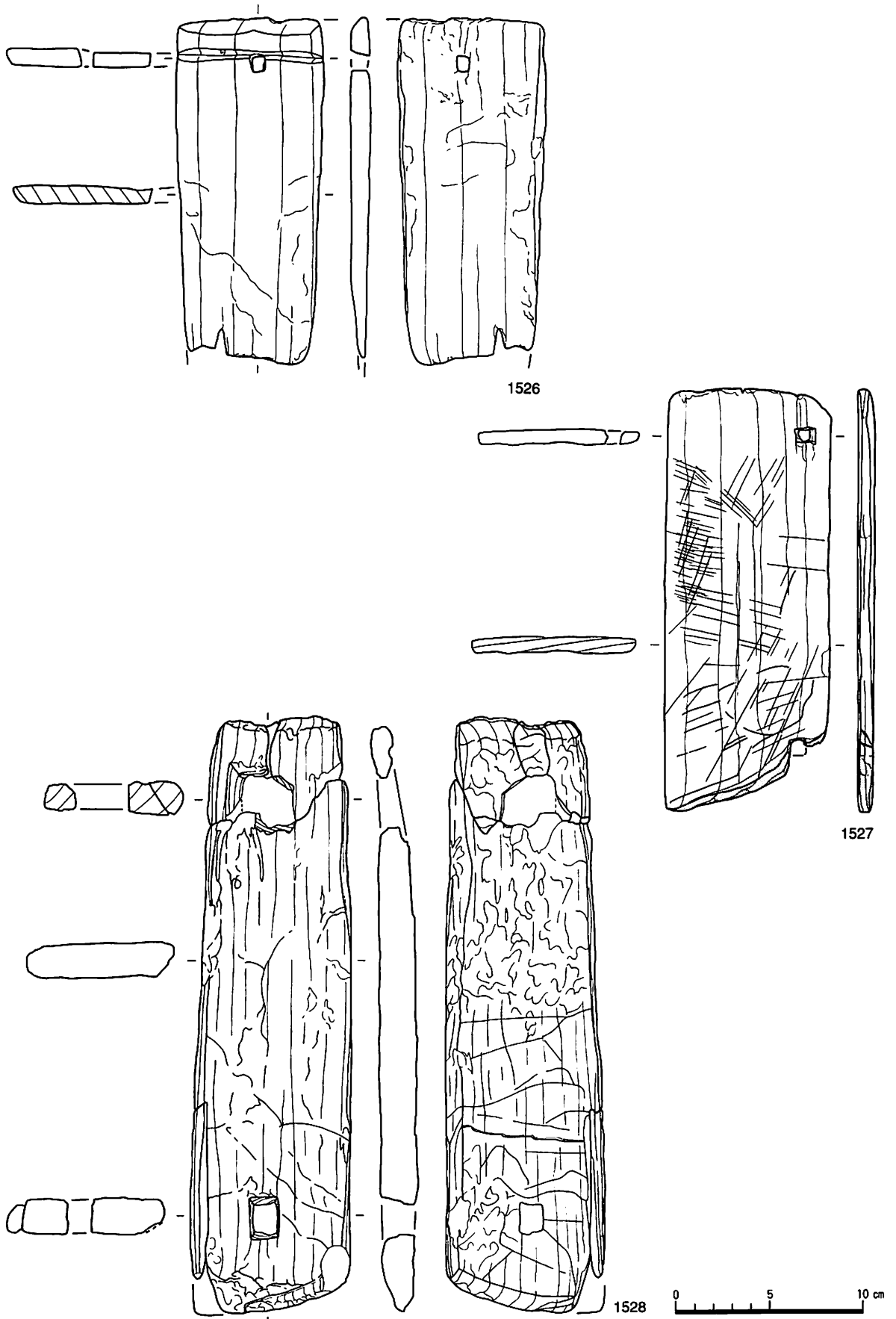


図V-277 有孔板材6



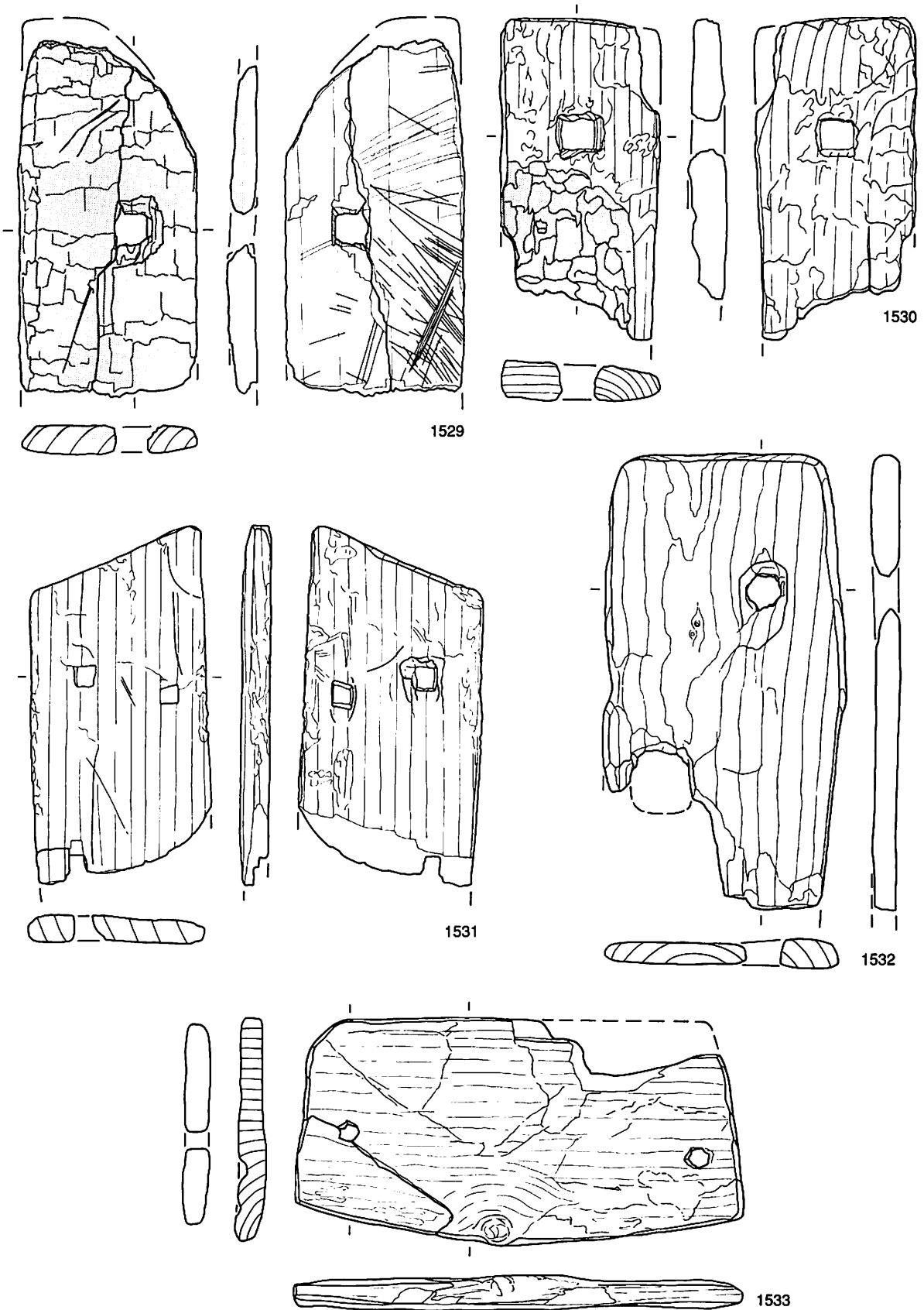
図V-278 有孔板材 7

V 第0 黑色土層の調査

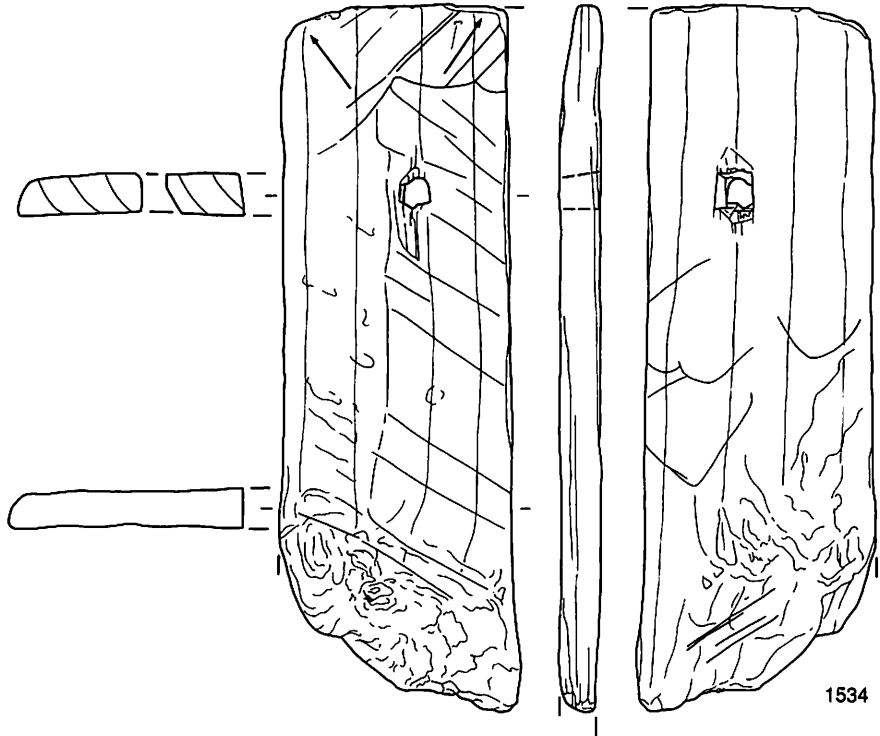


図V-279 有孔板材 8

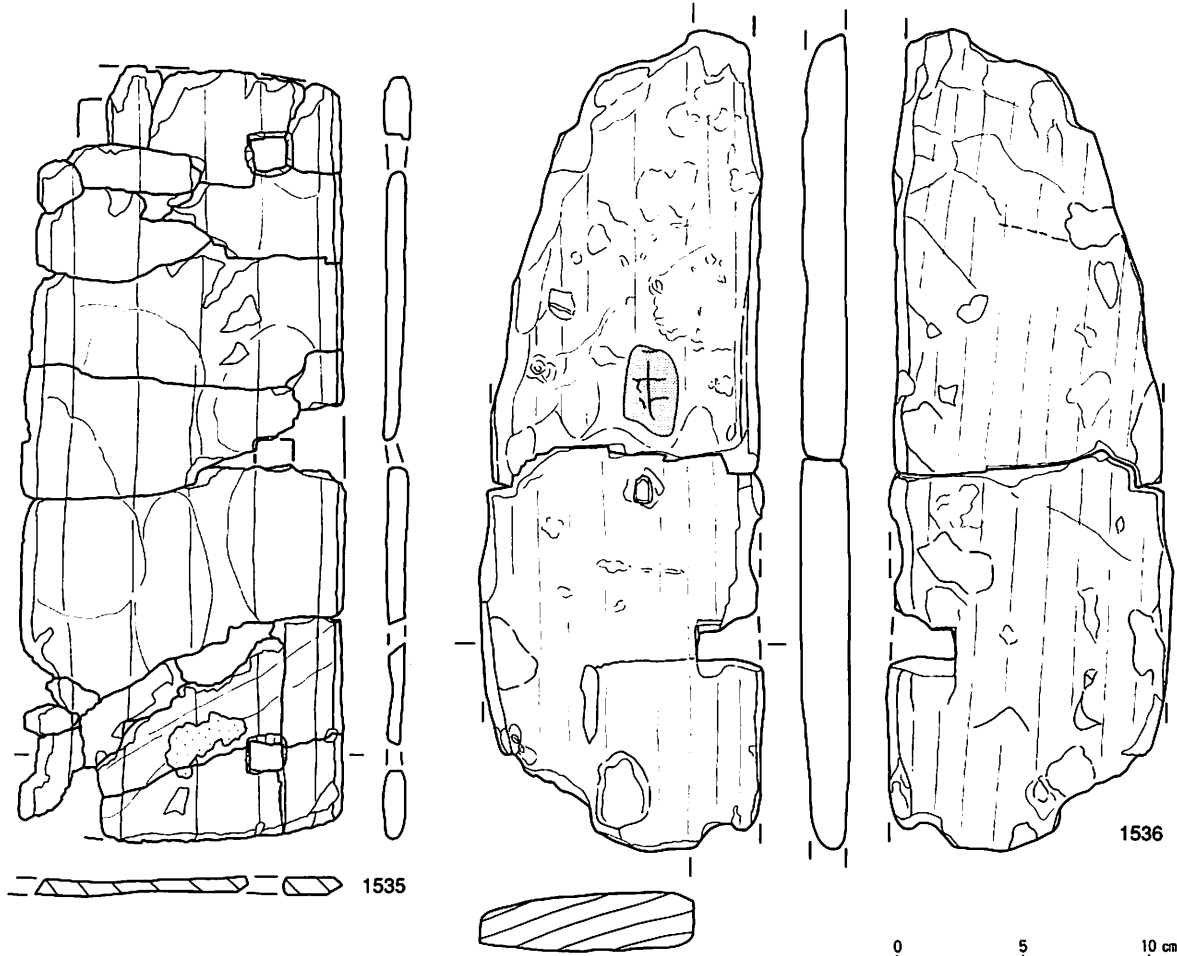




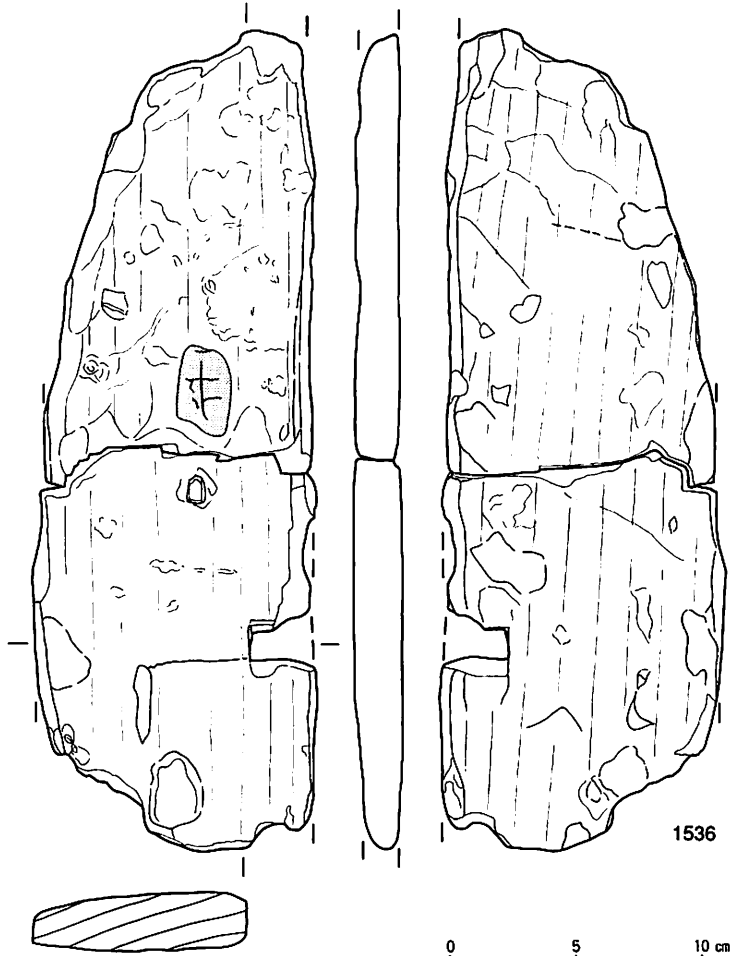
図V-280 有孔板材9



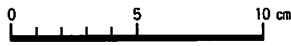
1534



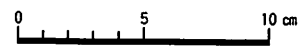
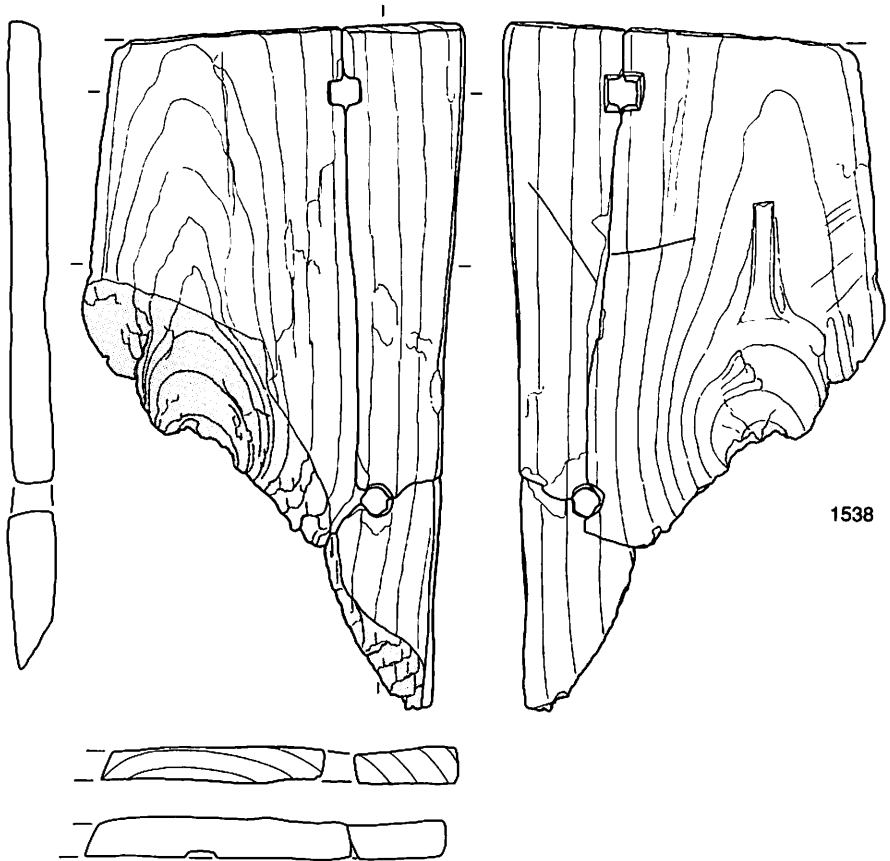
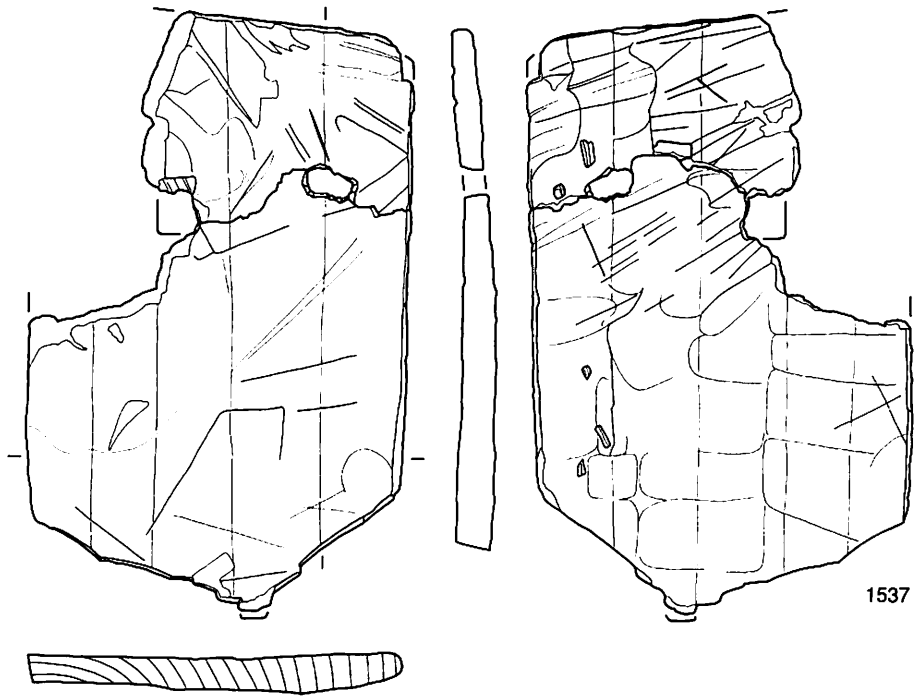
1535



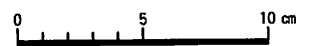
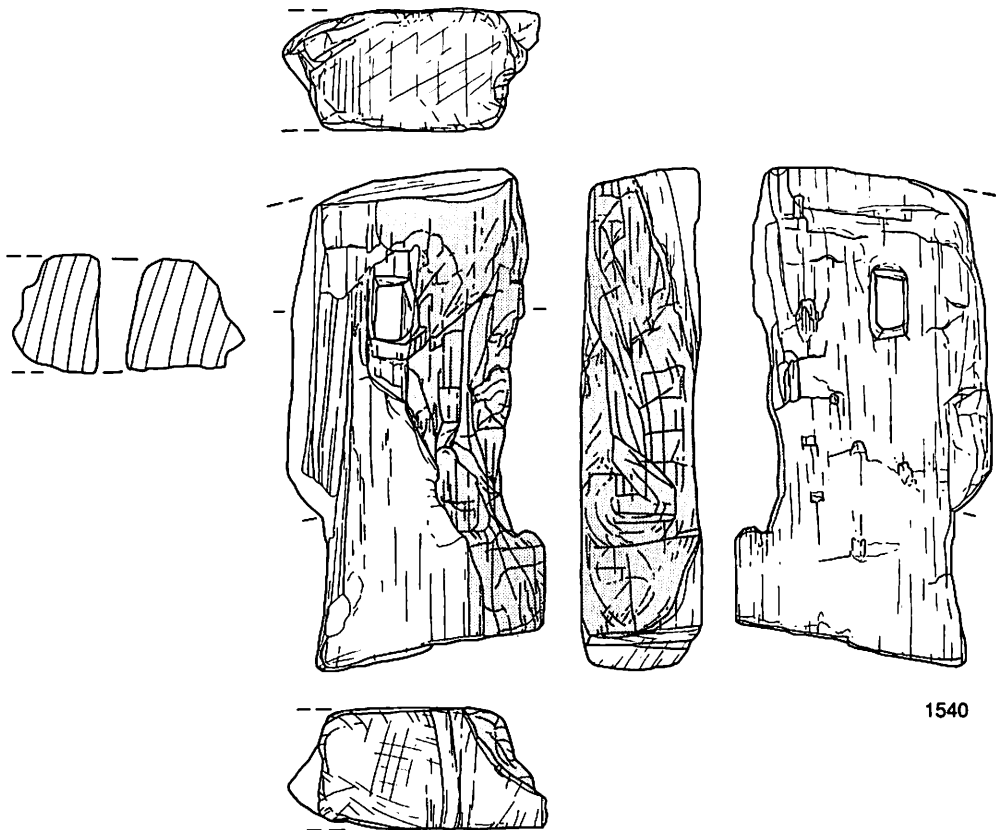
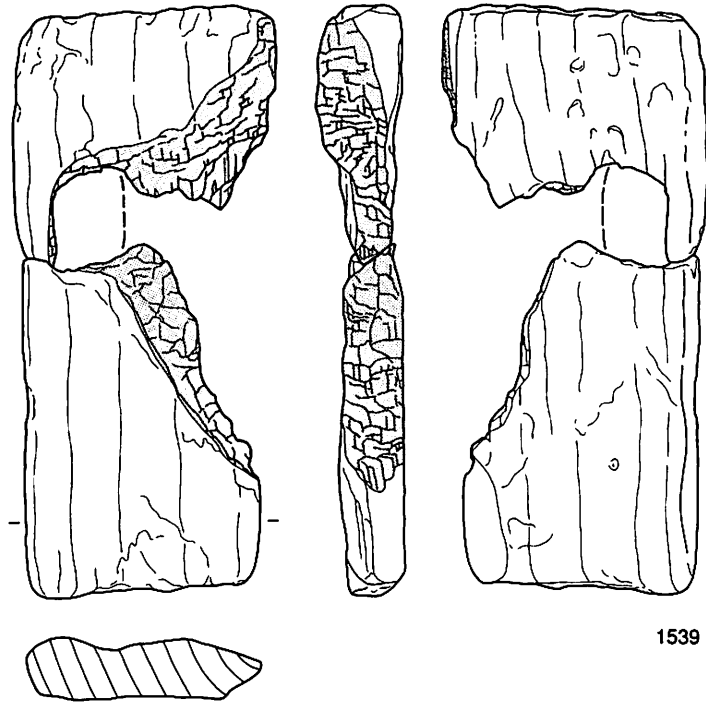
1536



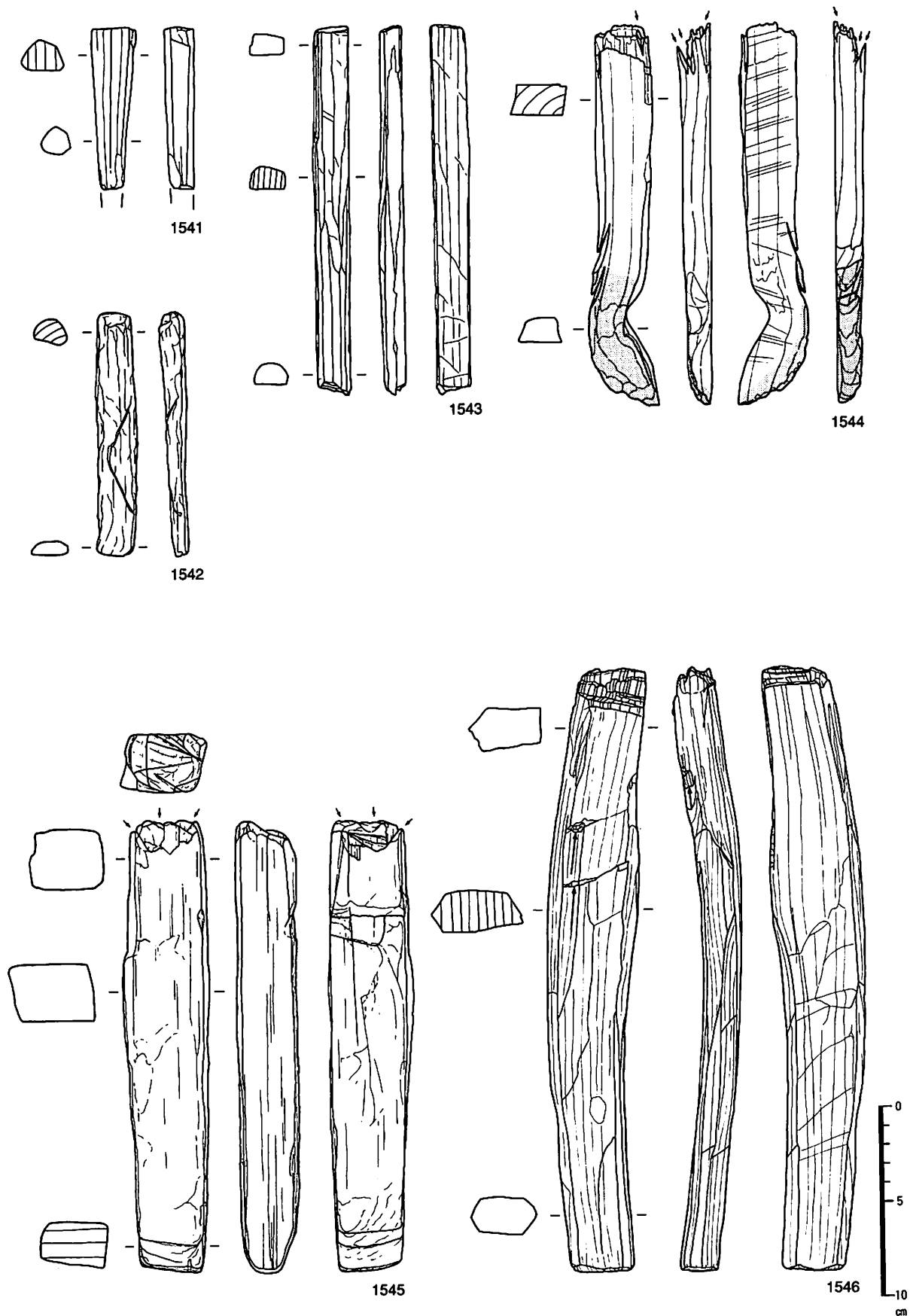
図V-281 有孔板材10



図V-282 有孔板材11

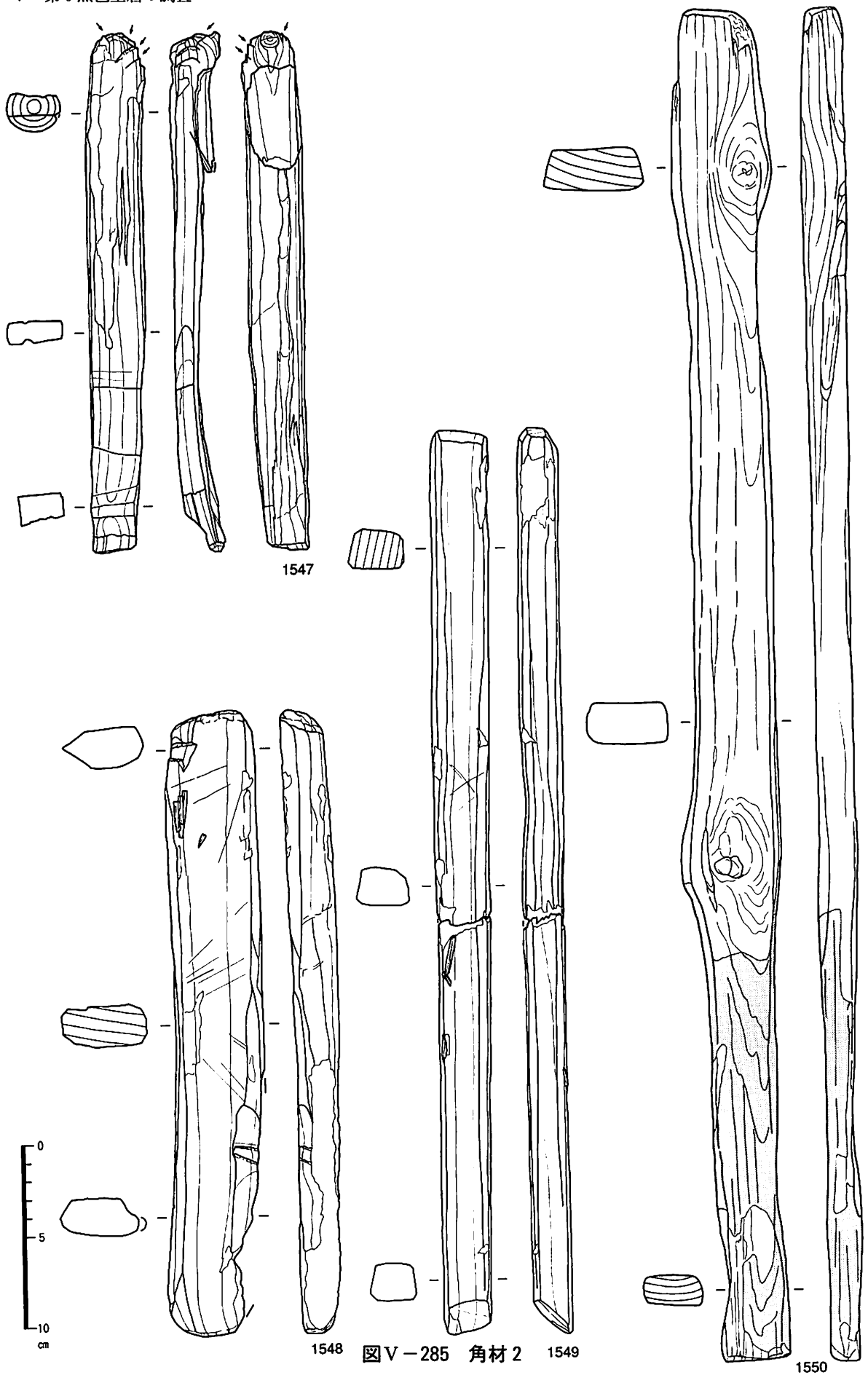


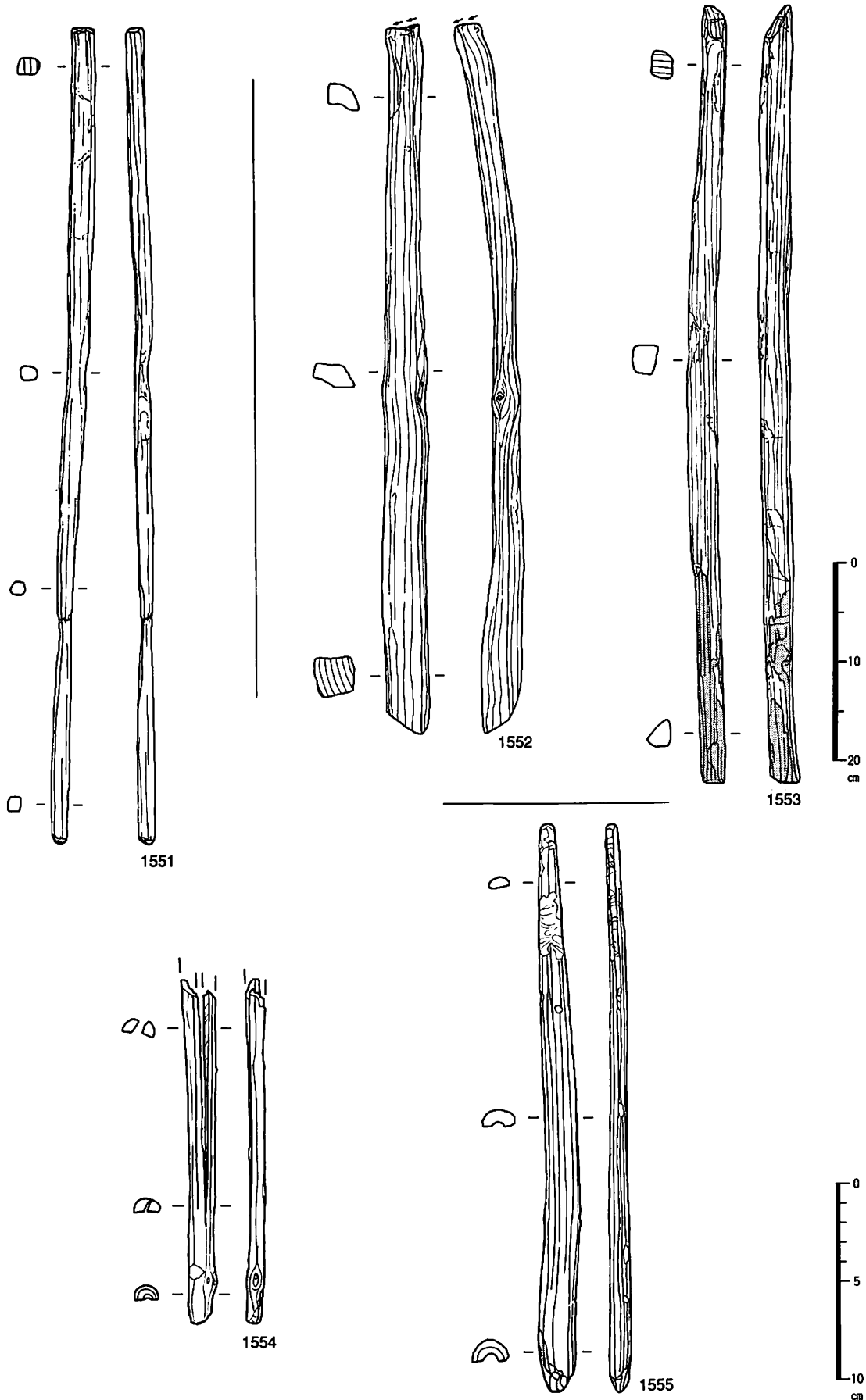
図V-283 有孔板材12



図V-284 角材 1

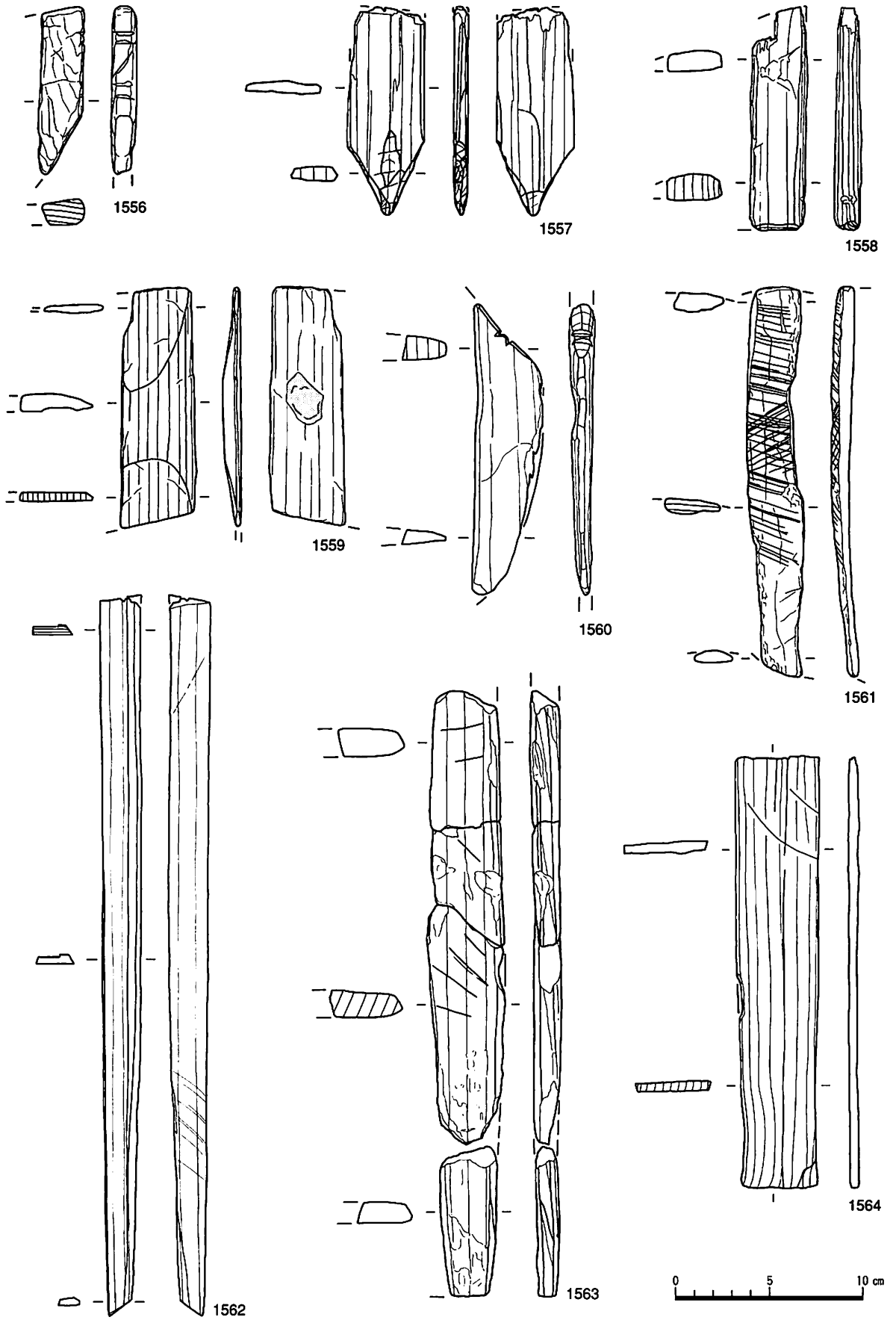
V 第0 黑色土層の調査





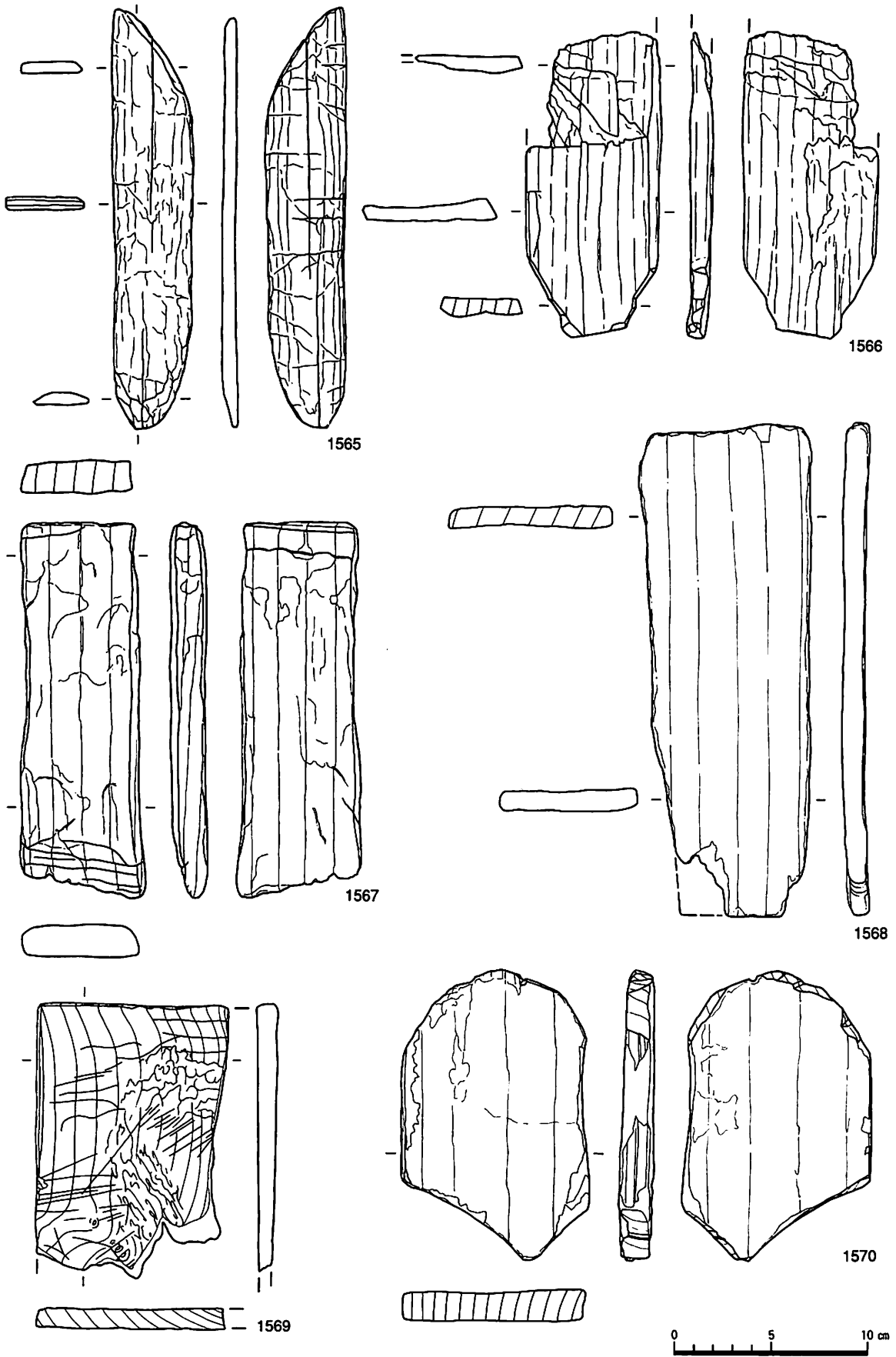
图V-286 角材・割材

V 第0 黑色土層の調査

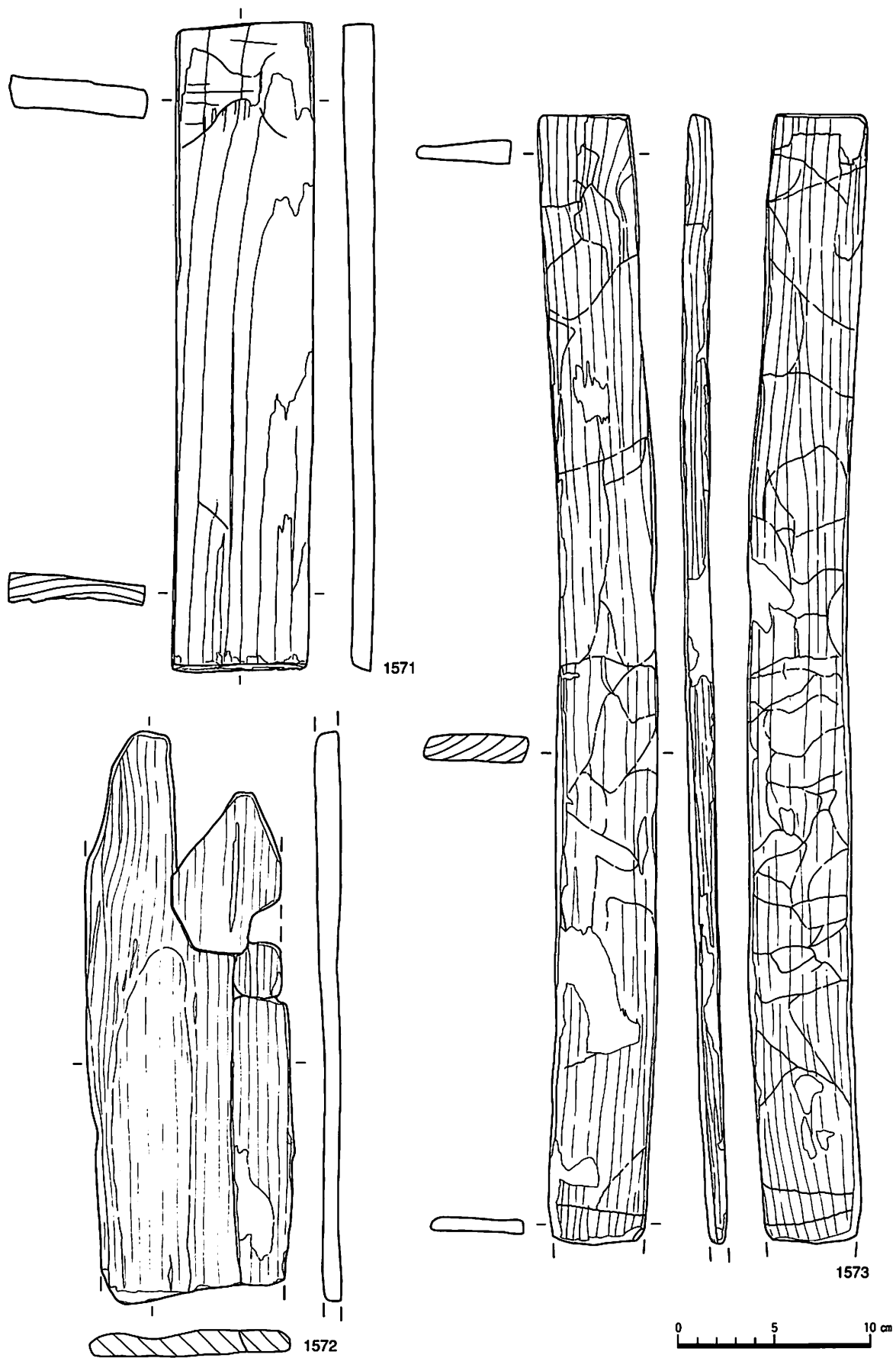


図V-287 板材1

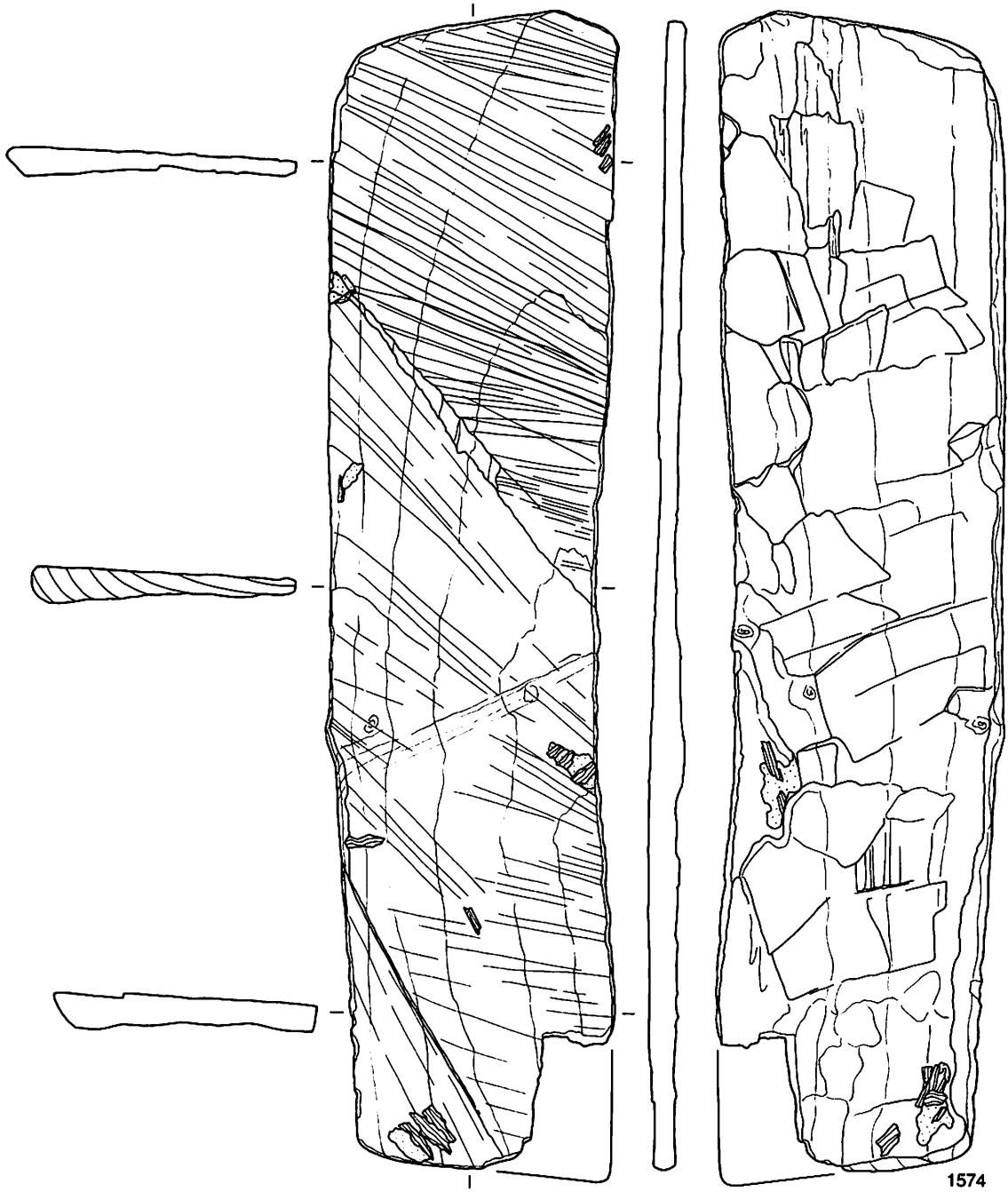




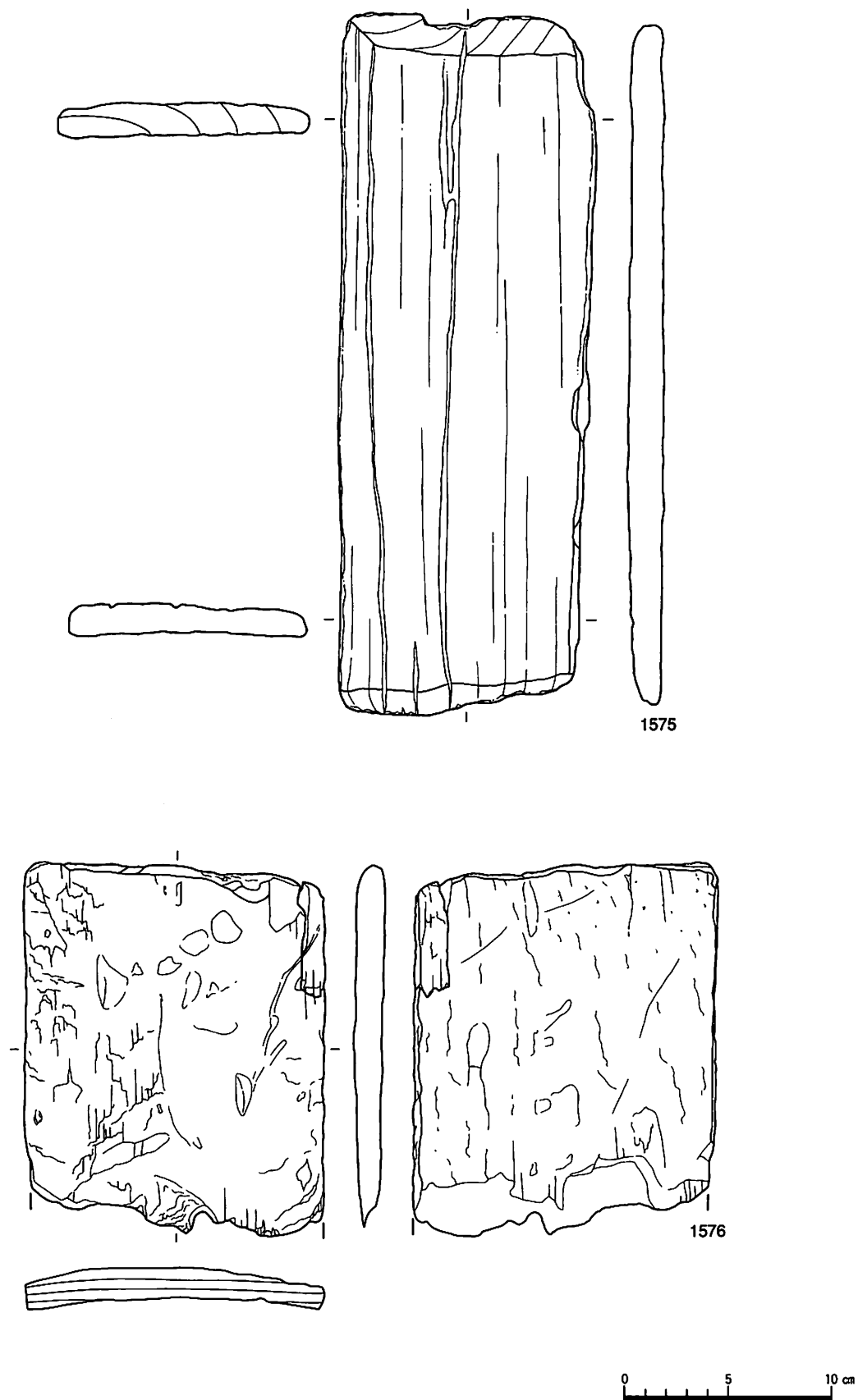
図V-288 板材2



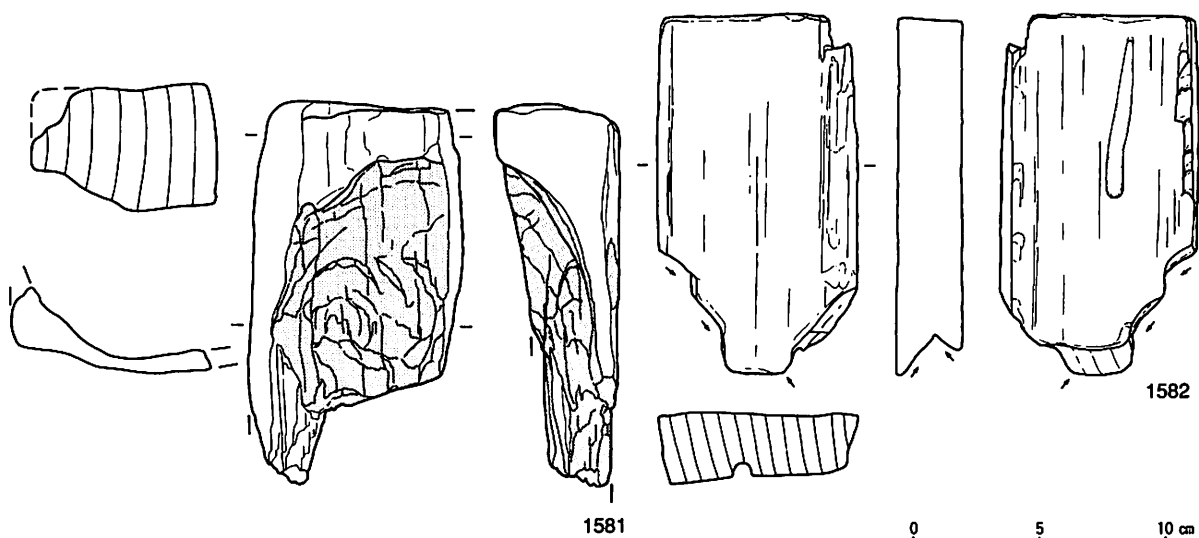
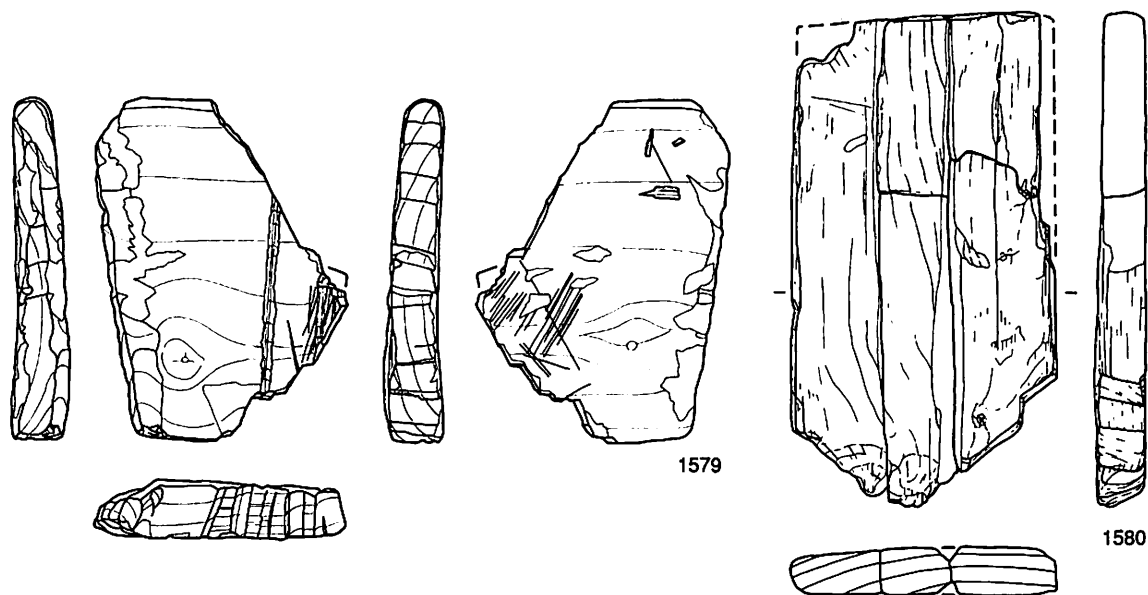
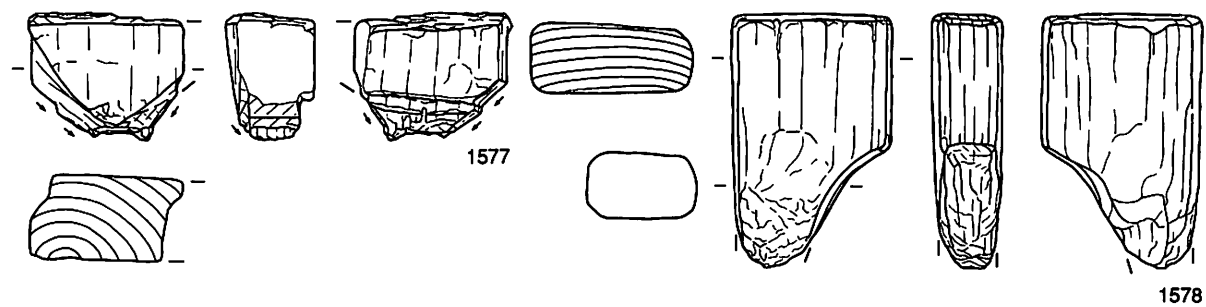
図V-289 板材3



図V-290 板材 4

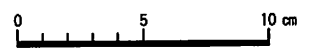
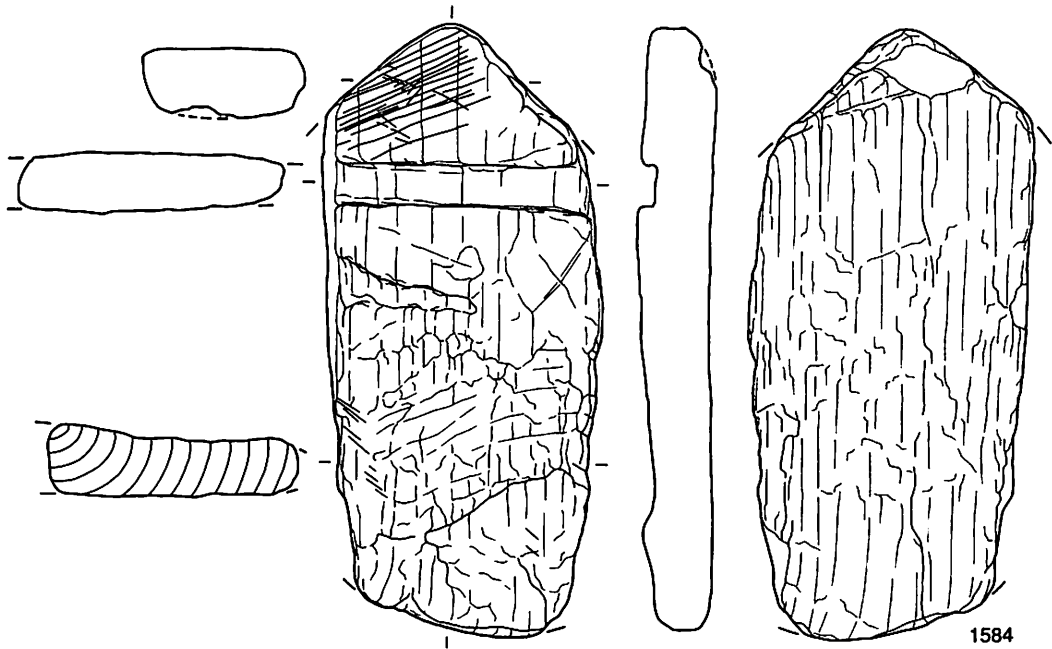
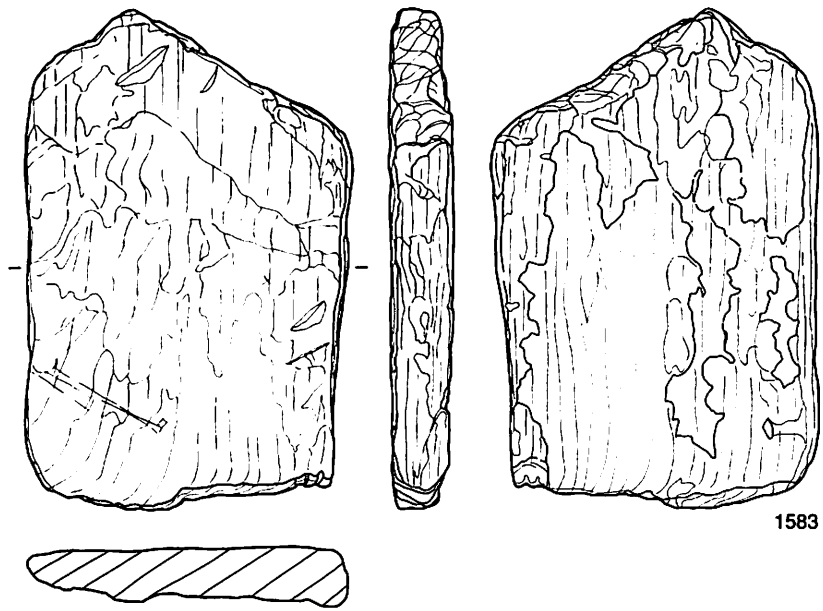


図V-291 板材5

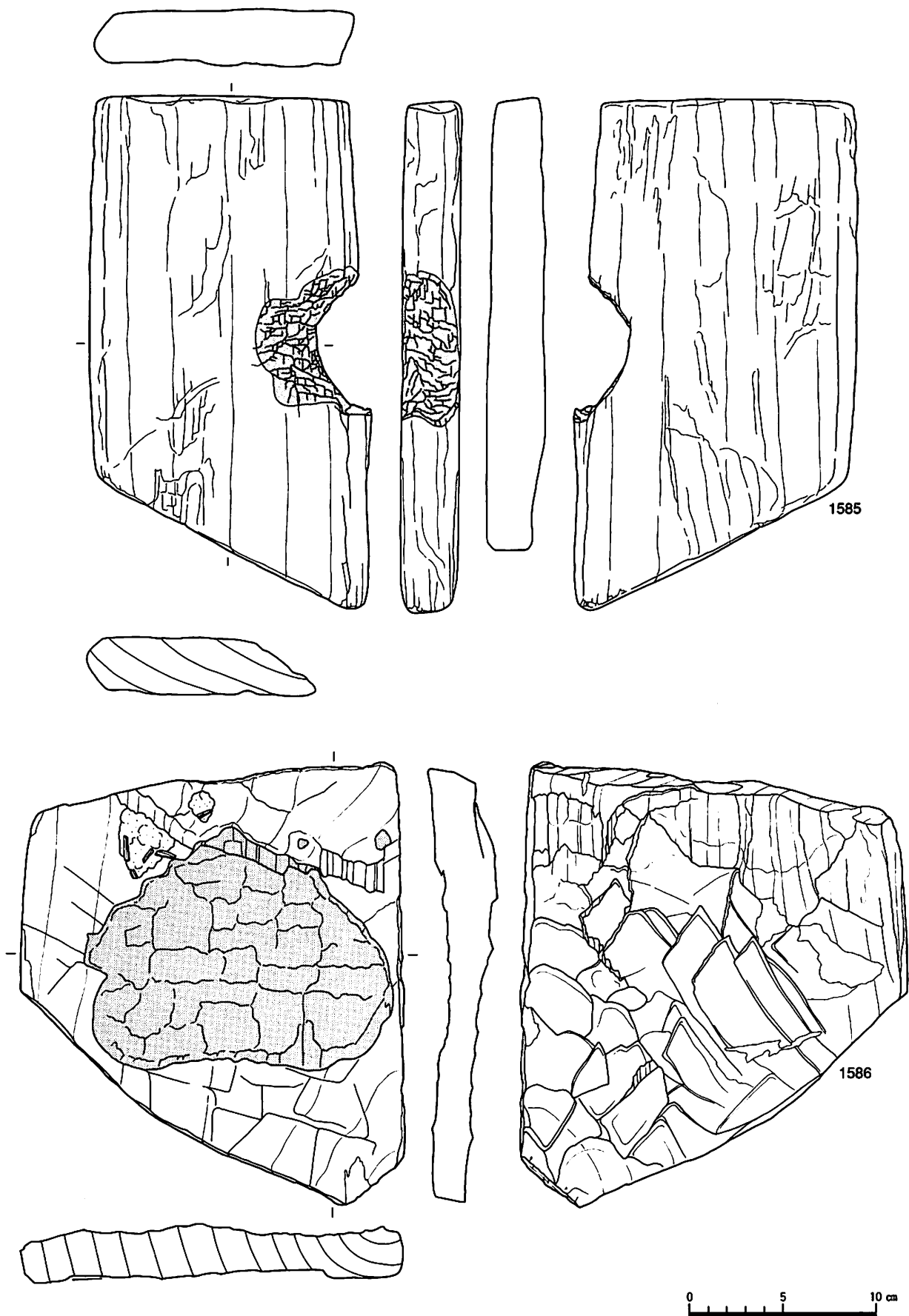


0 5 10 cm

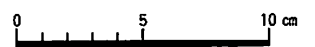
図V-292 板材6



図V-293 板材7

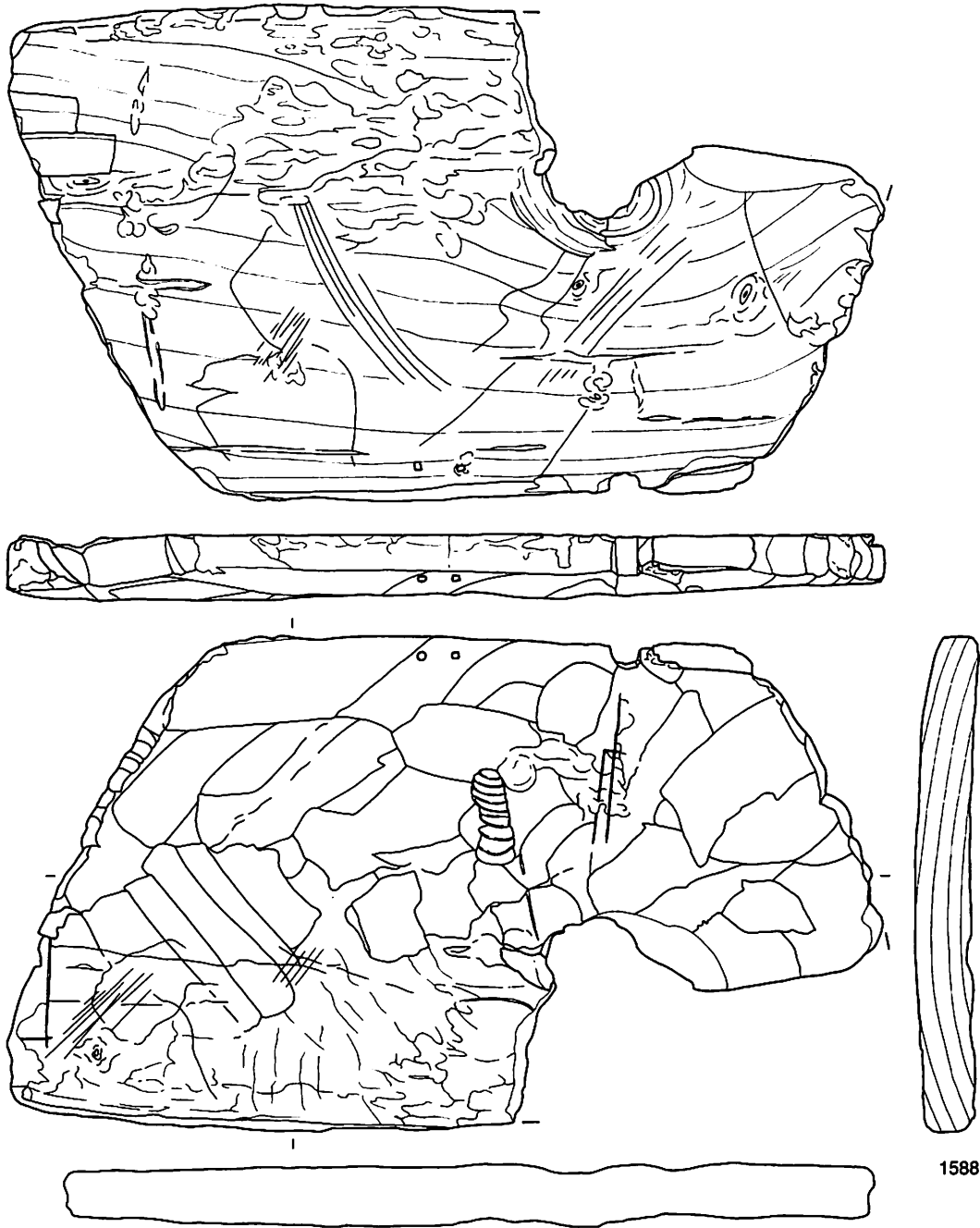


図V-294 板材8

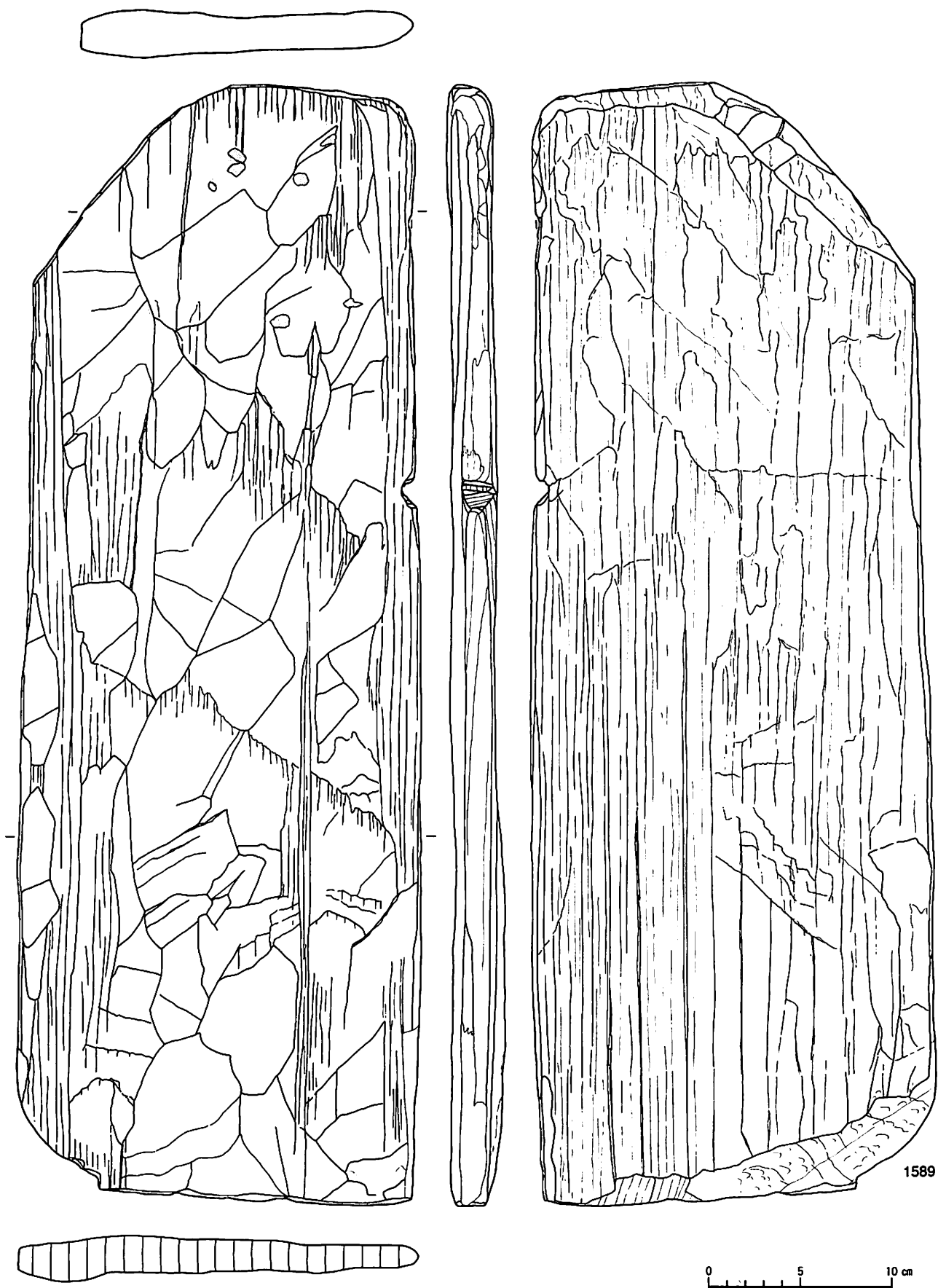


図V-295 板材9

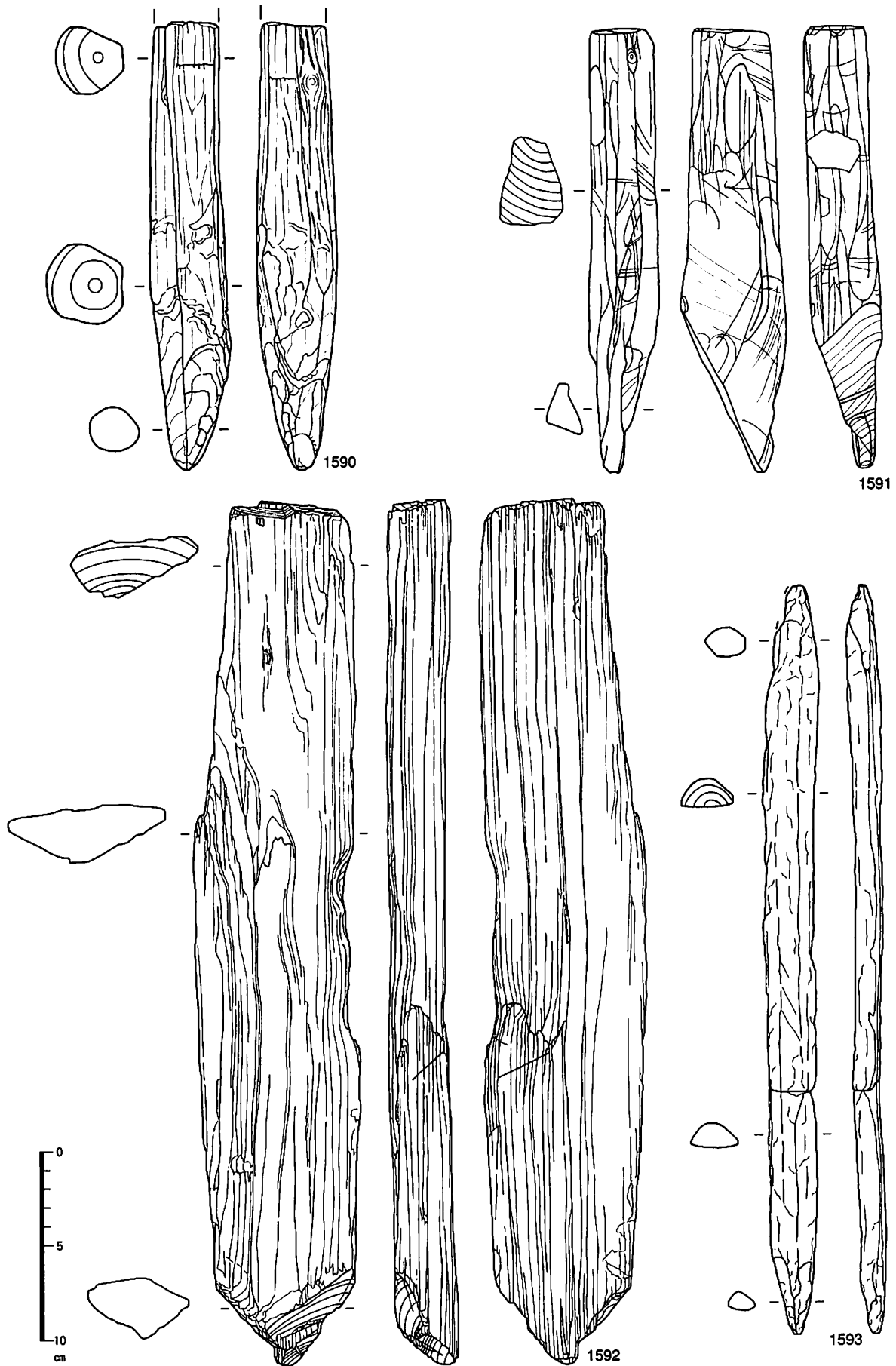




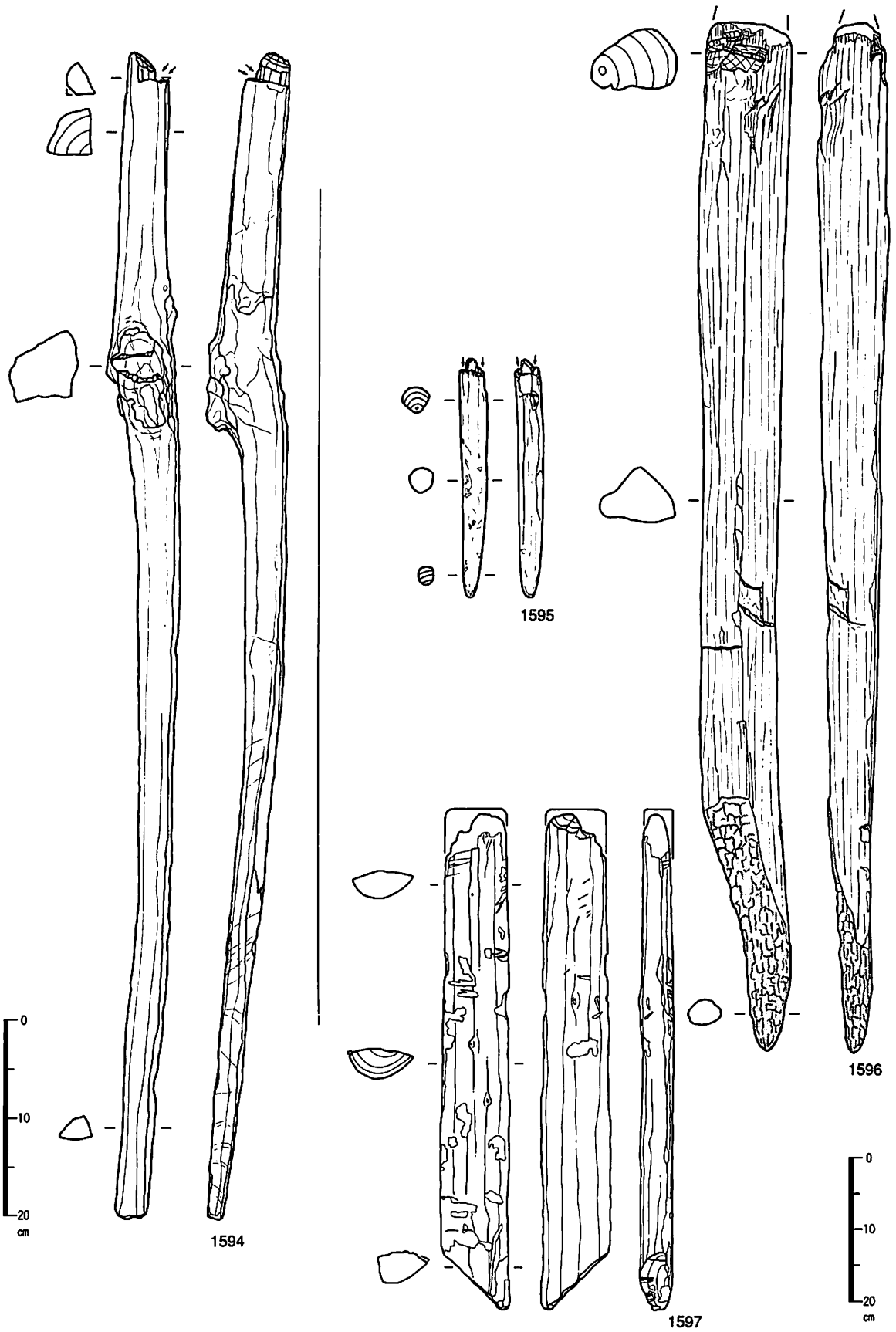
図V-296 板材10



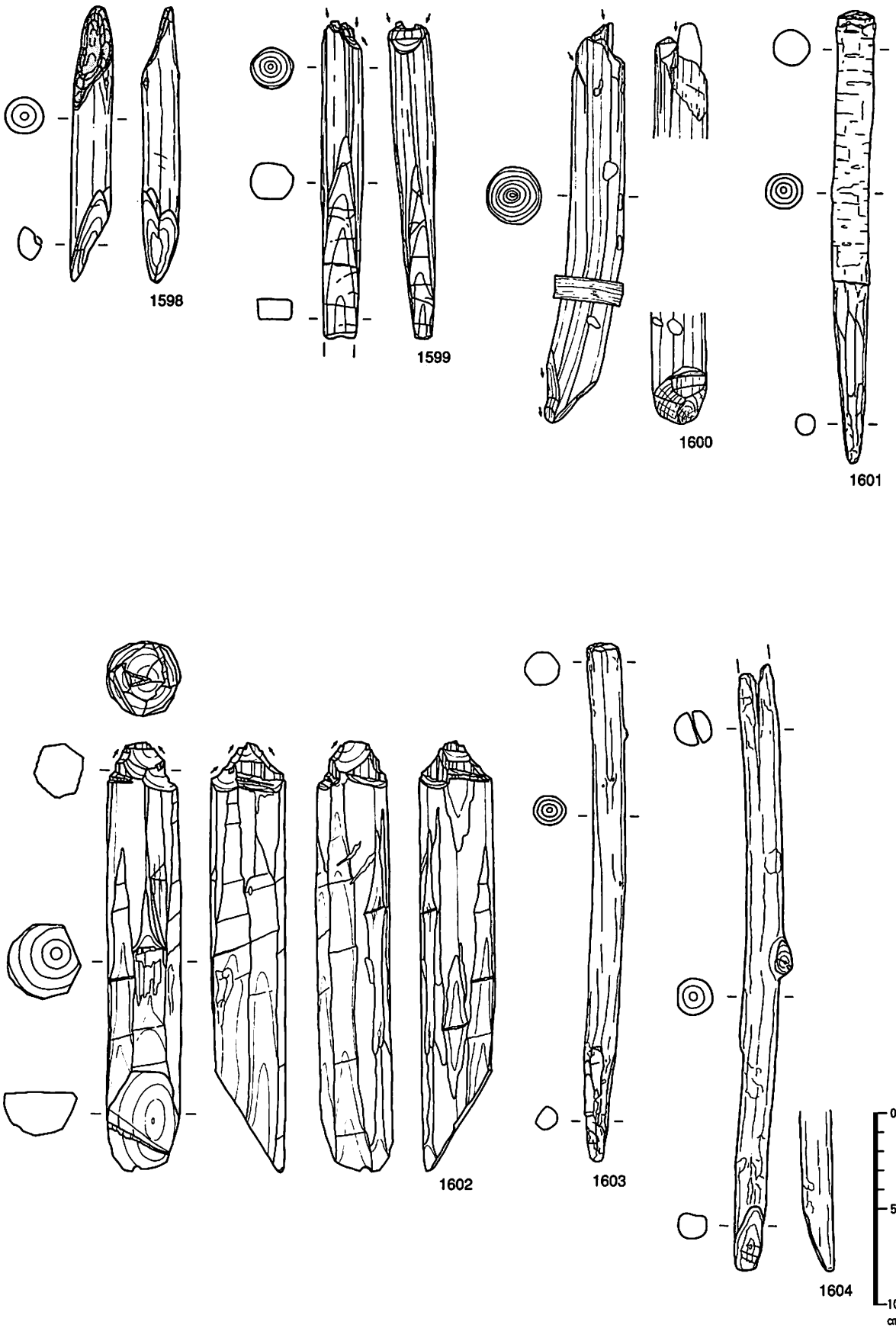
図V-297 板材11



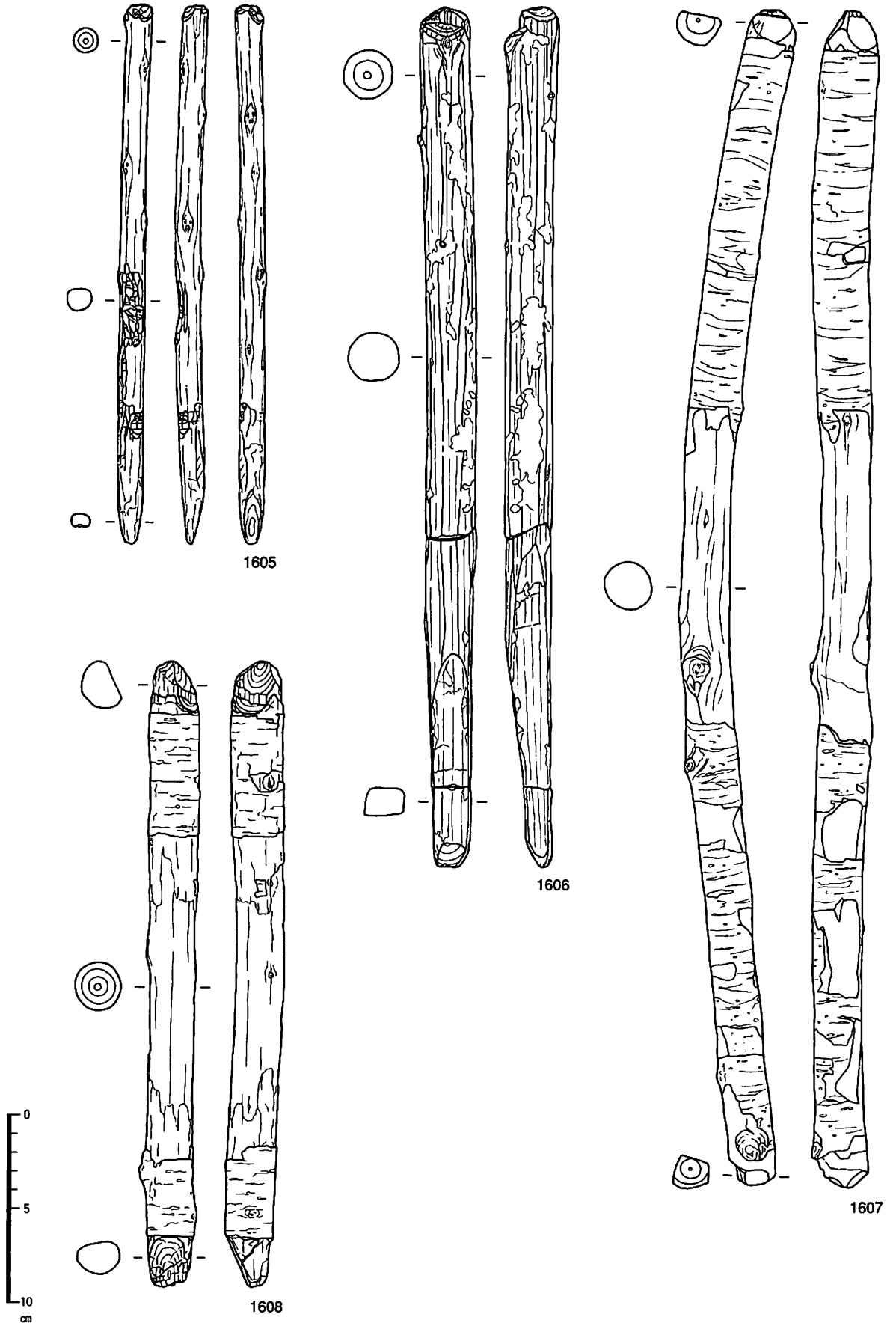
図V-298 角杭状製品・割杭状製品 1



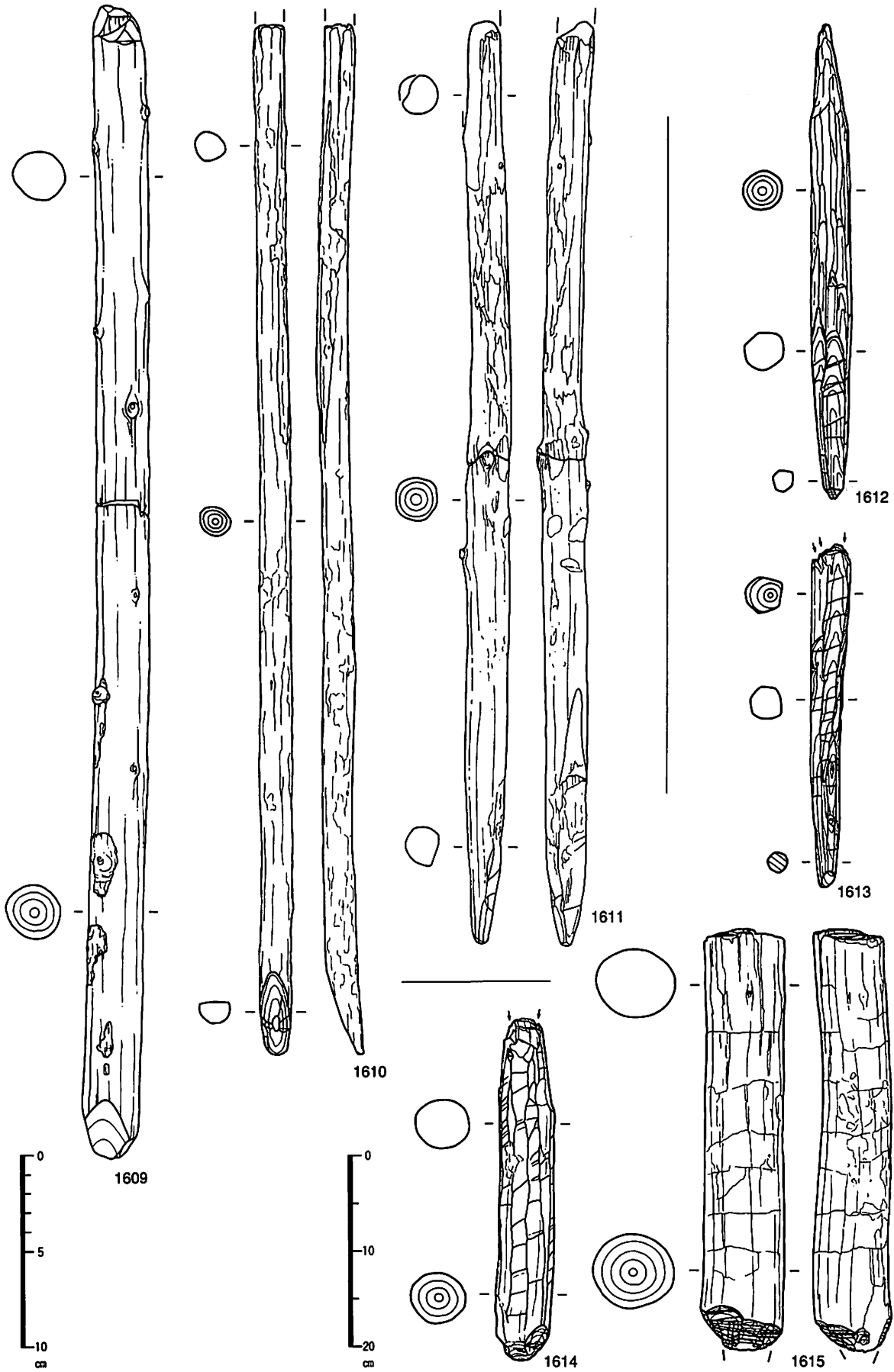
図V-299 角杭状製品・割杭状製品2



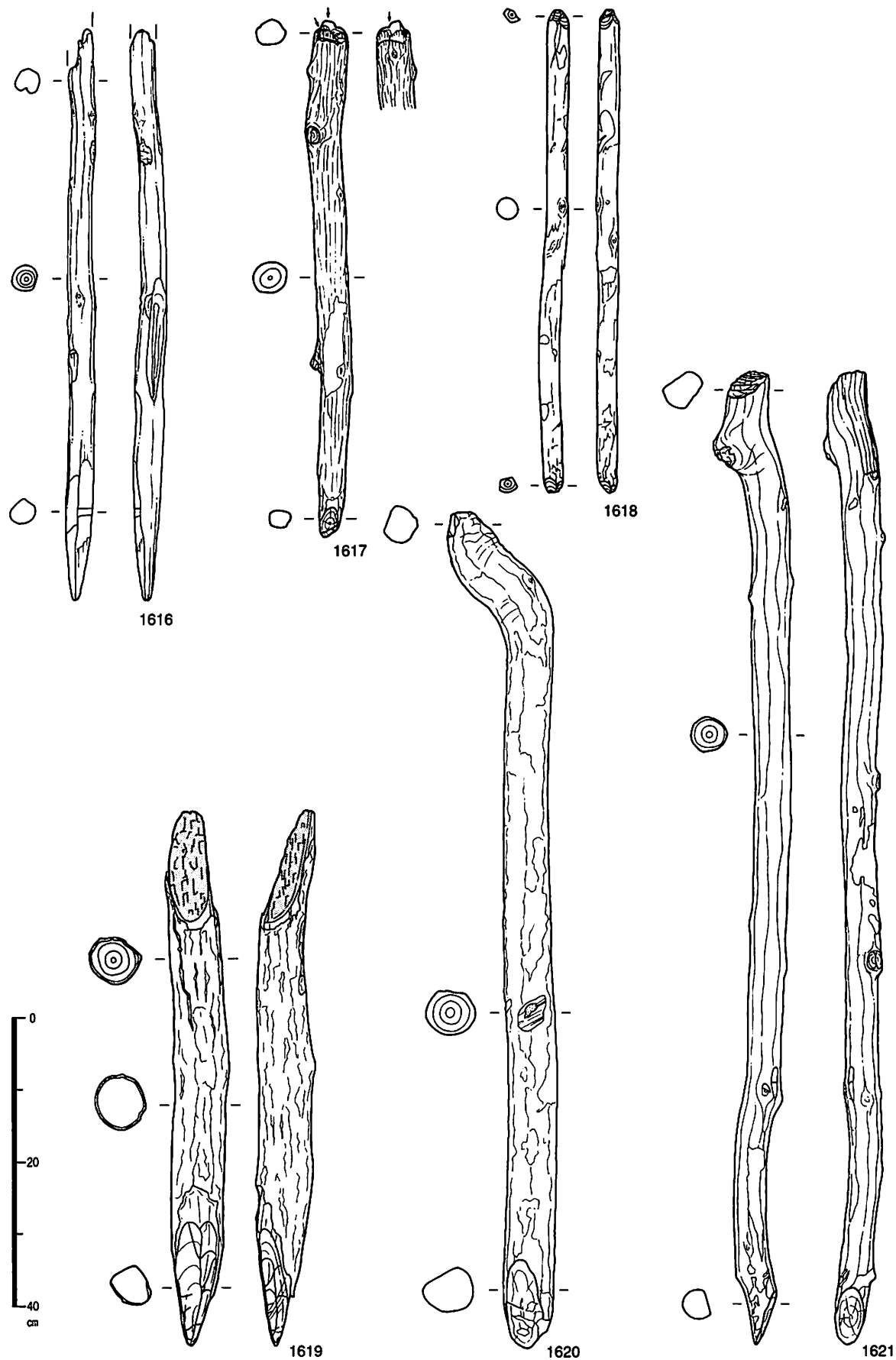
図V-300 丸杭状製品 1



図V-301 丸杭状製品 2

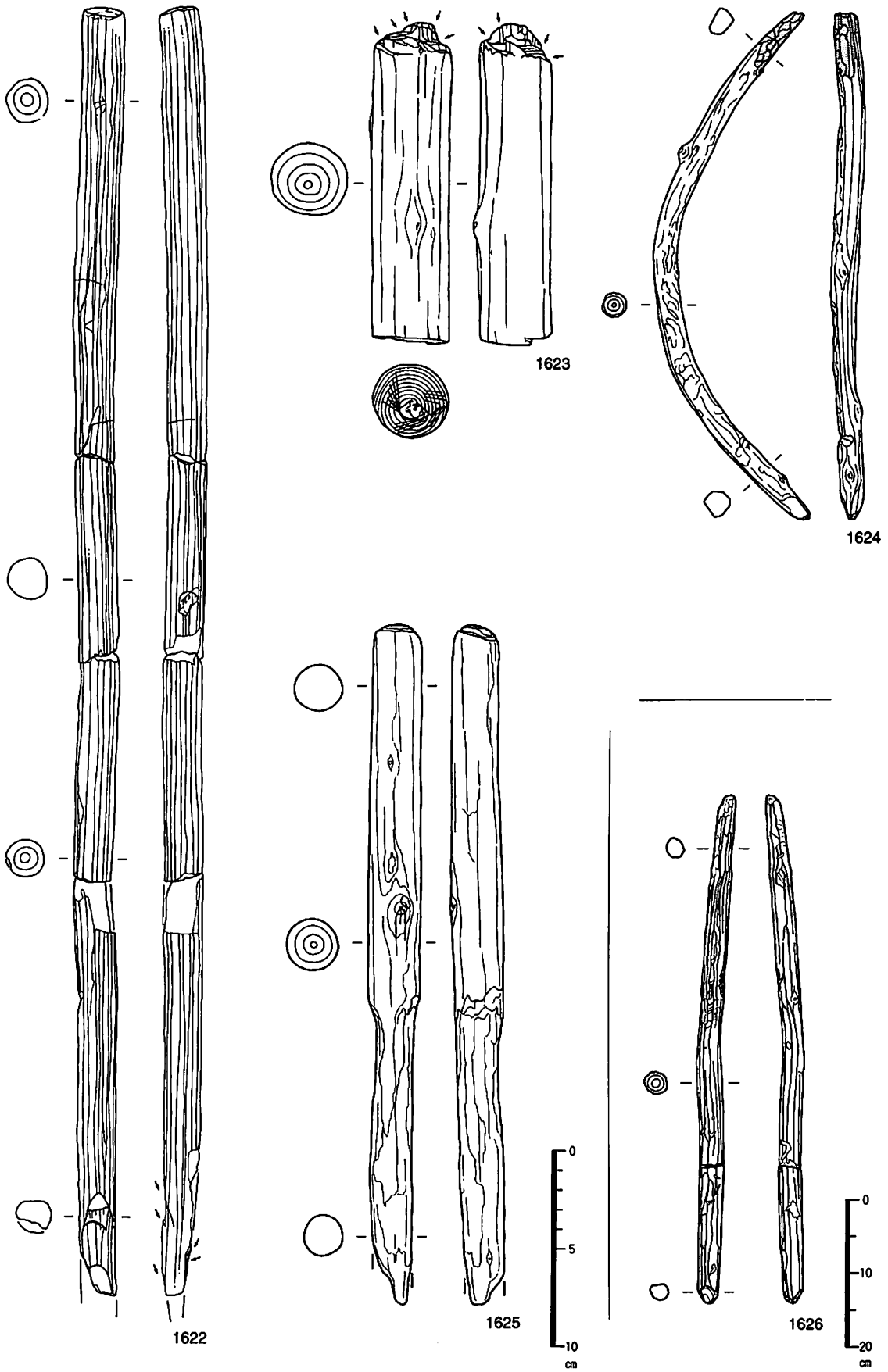


图V-302 丸杭状製品3

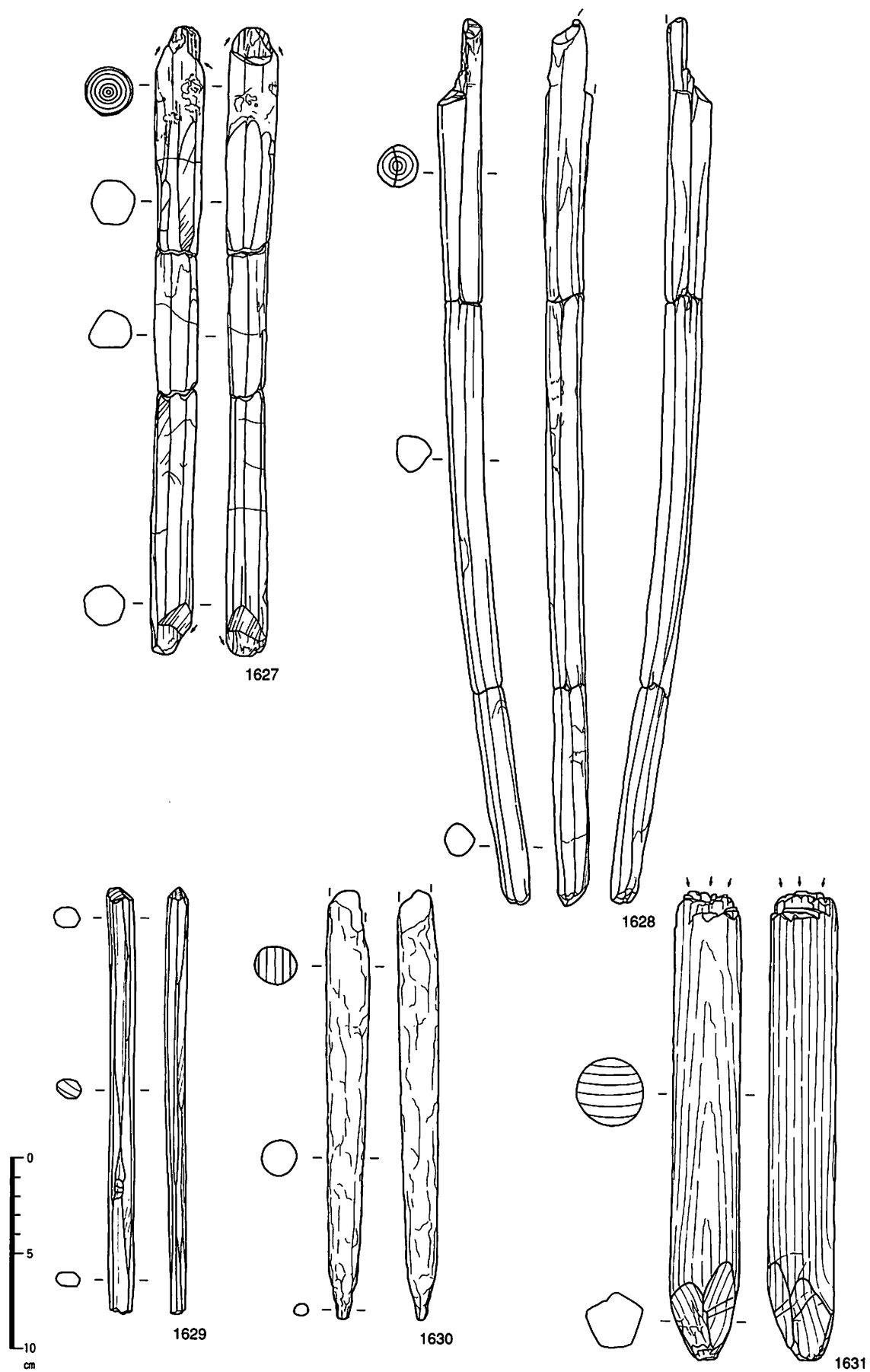


図V-303 丸杭状製品4

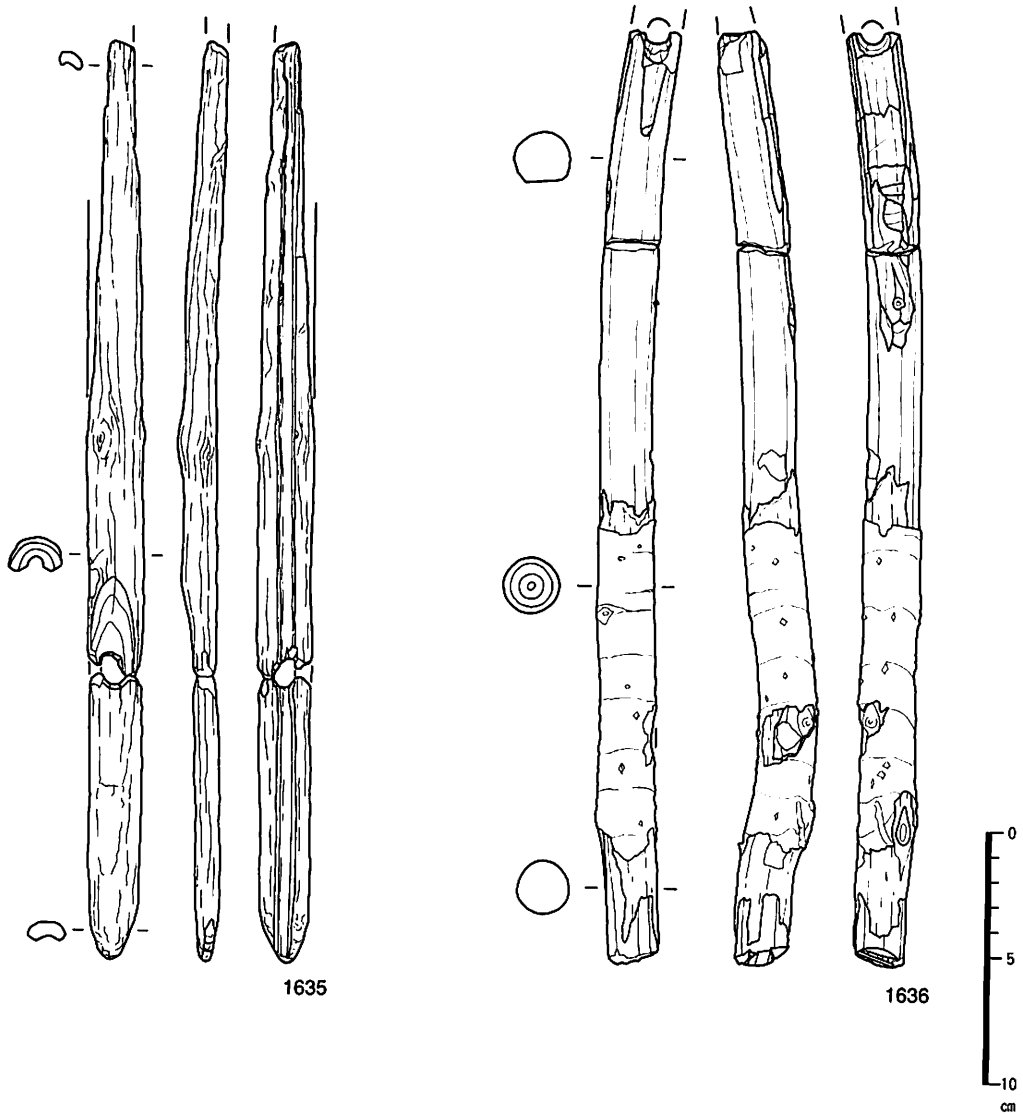
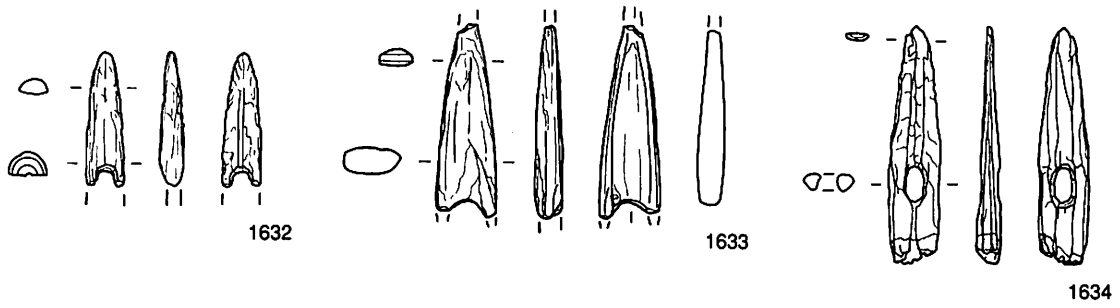




图V-304 丸木材 1

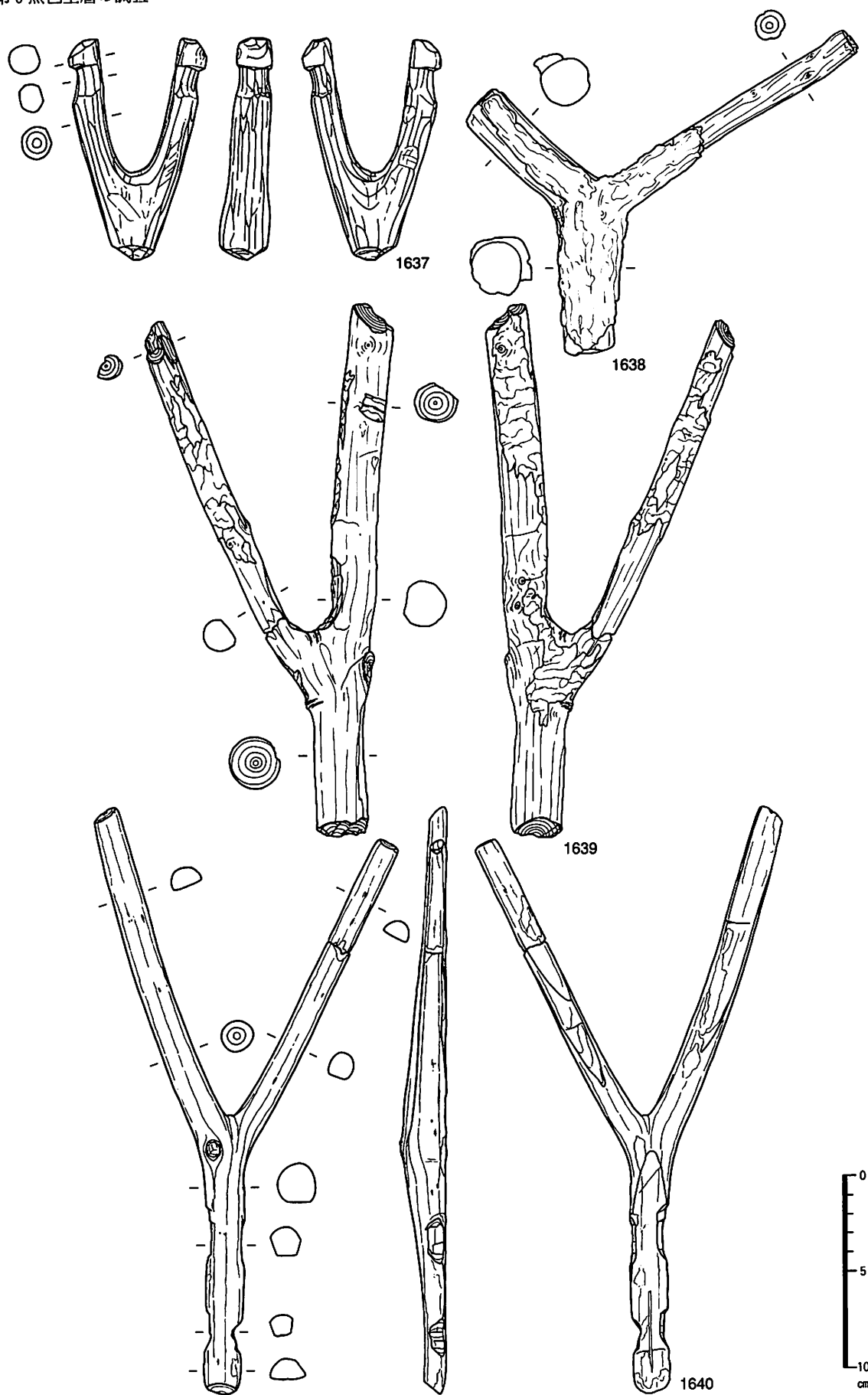


図V-305 丸木材 2 / 丸材

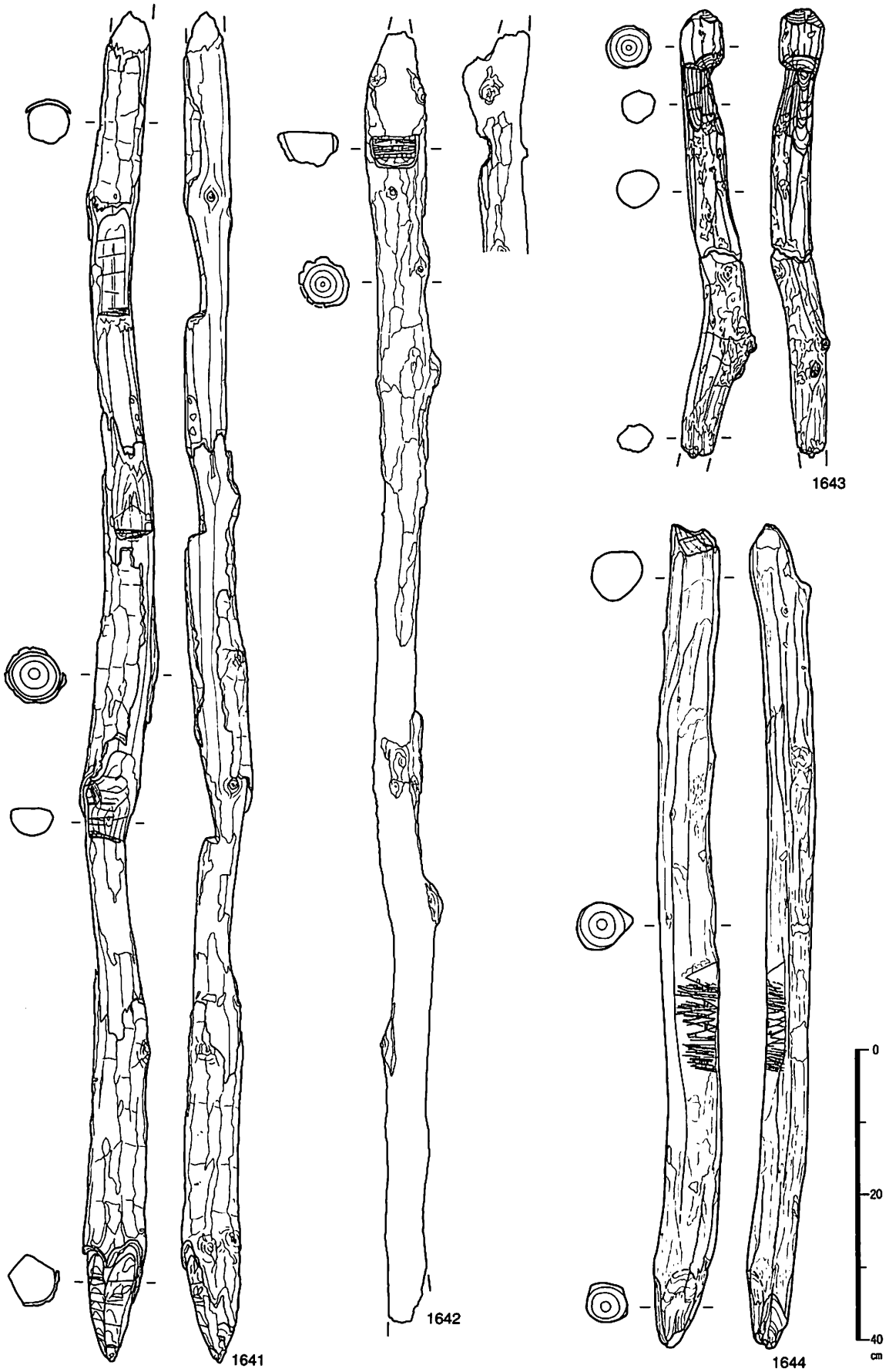


図V-306 屋根縫針

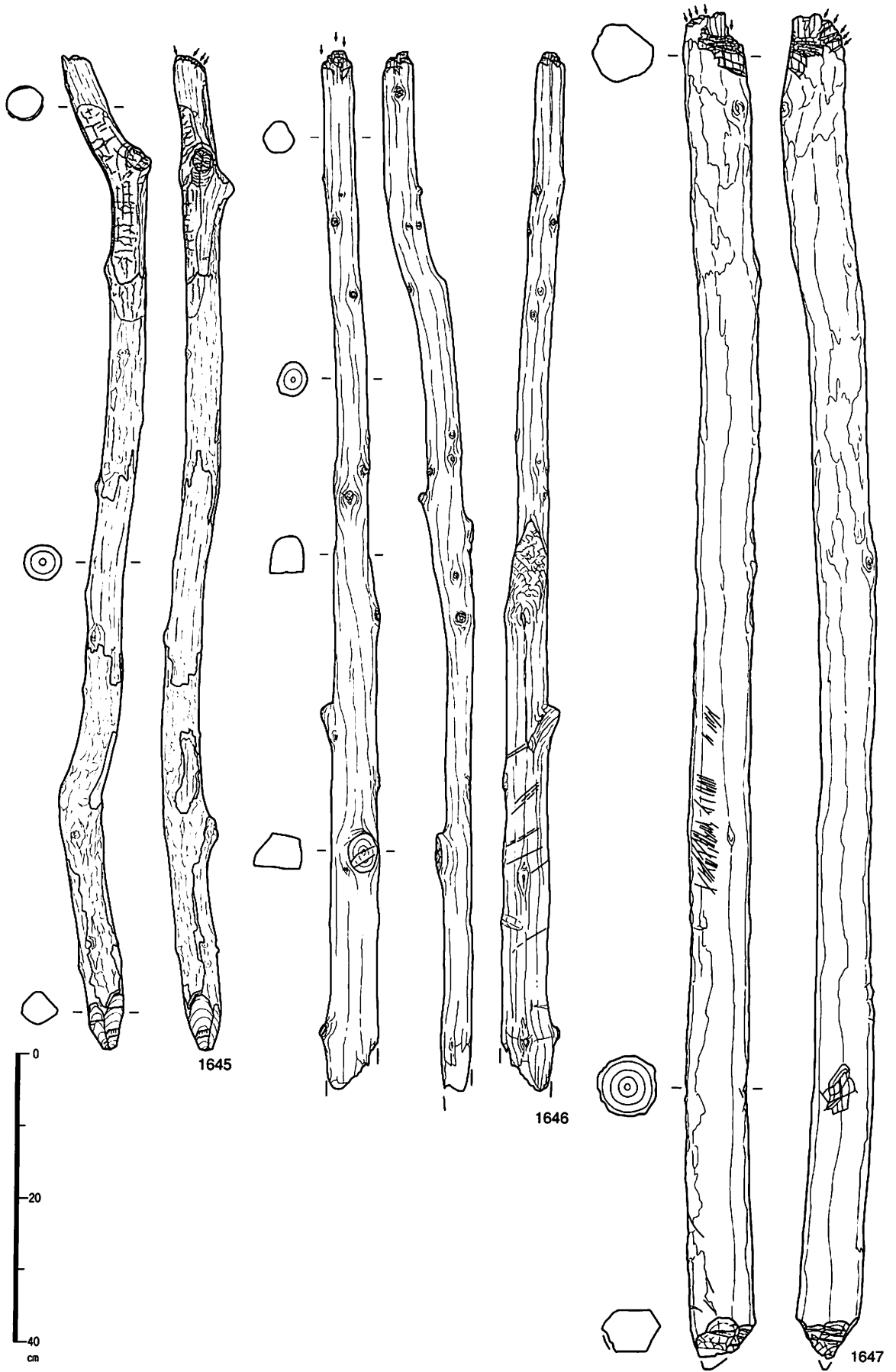
V 第0 黑色土層の調査



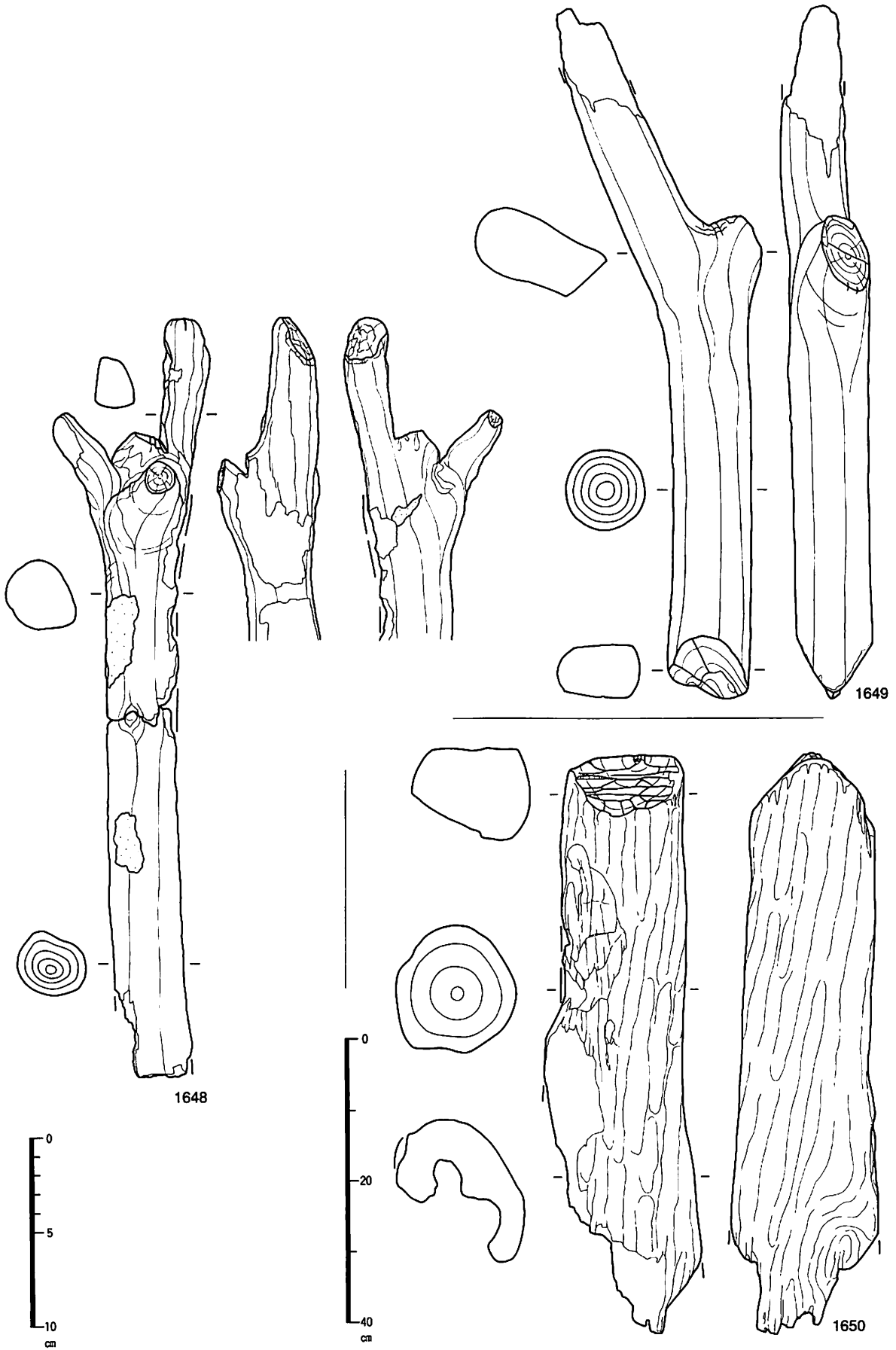
図V-307 建築部材類



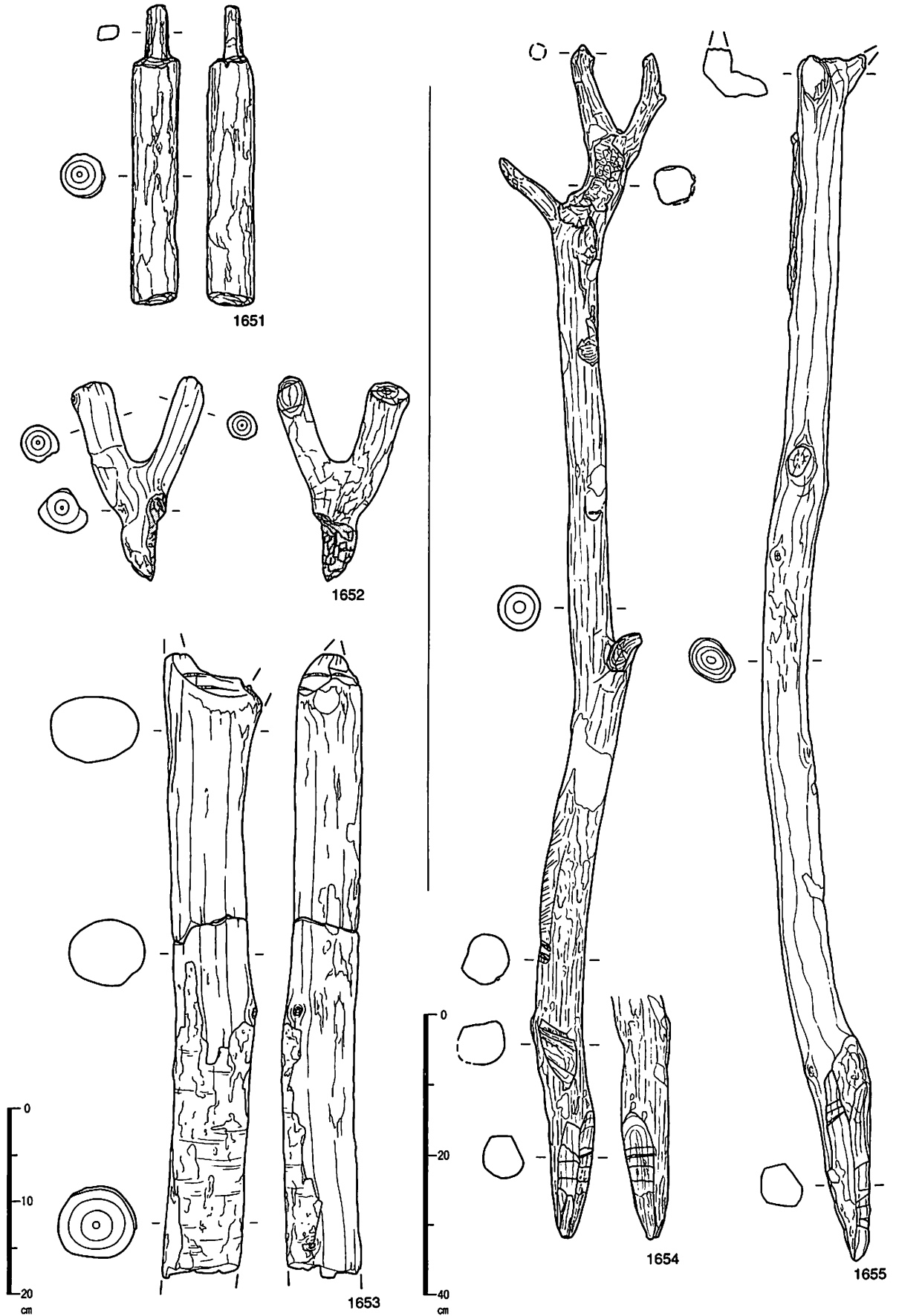
図V-308 建材1 (柱類・桁・梁)



図V-309 建材2 (柱類・桁・梁)

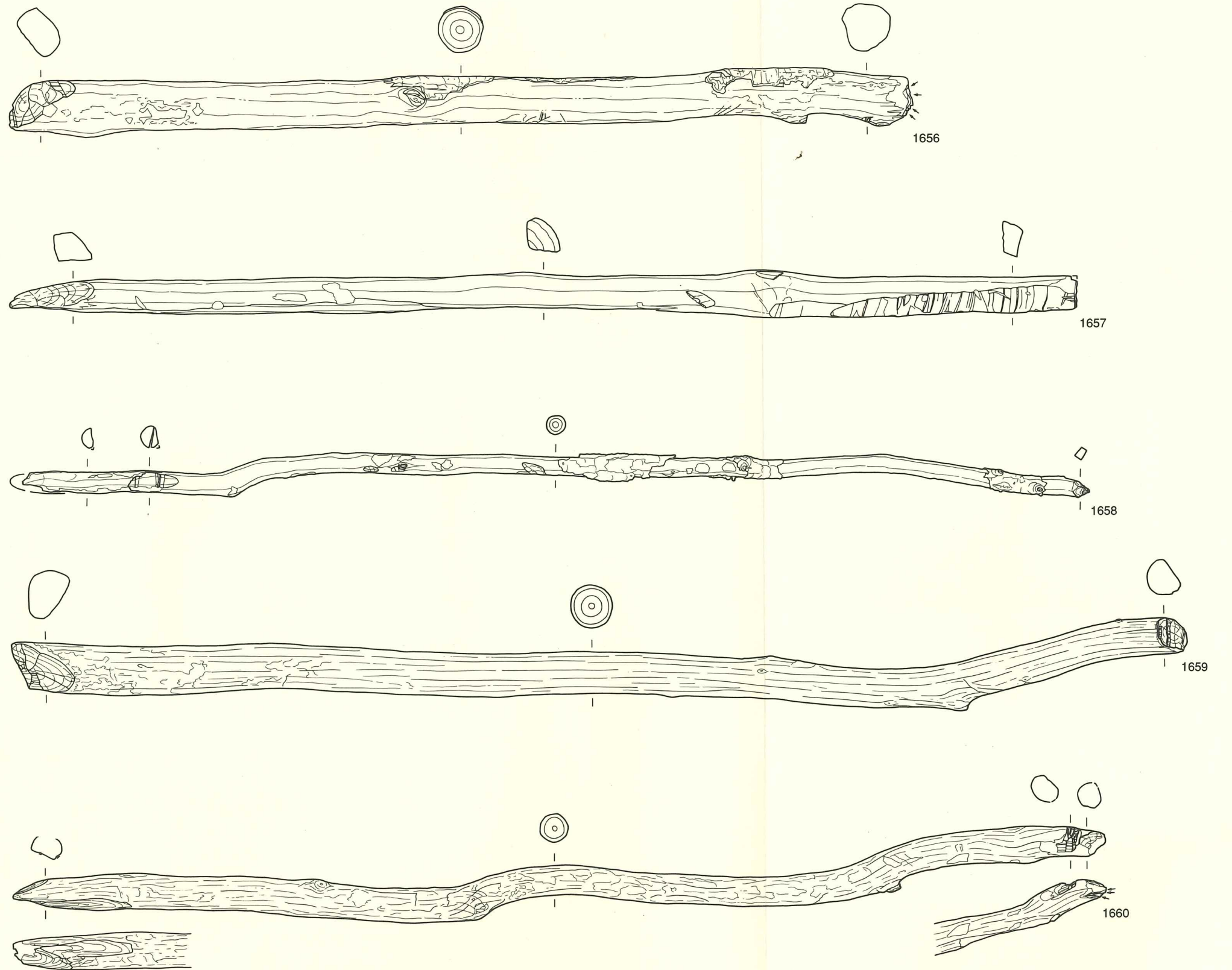


図V-310 建材3 (柱類・桁・梁)



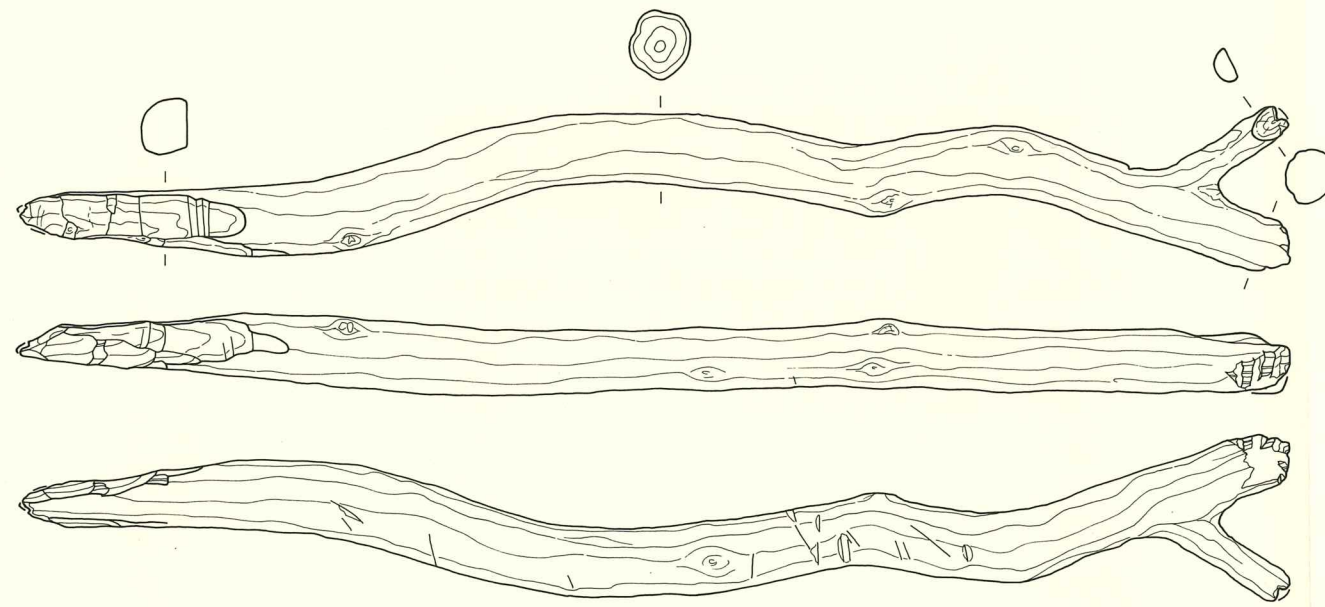
図V-311 建材4 (柱類・桁・梁)



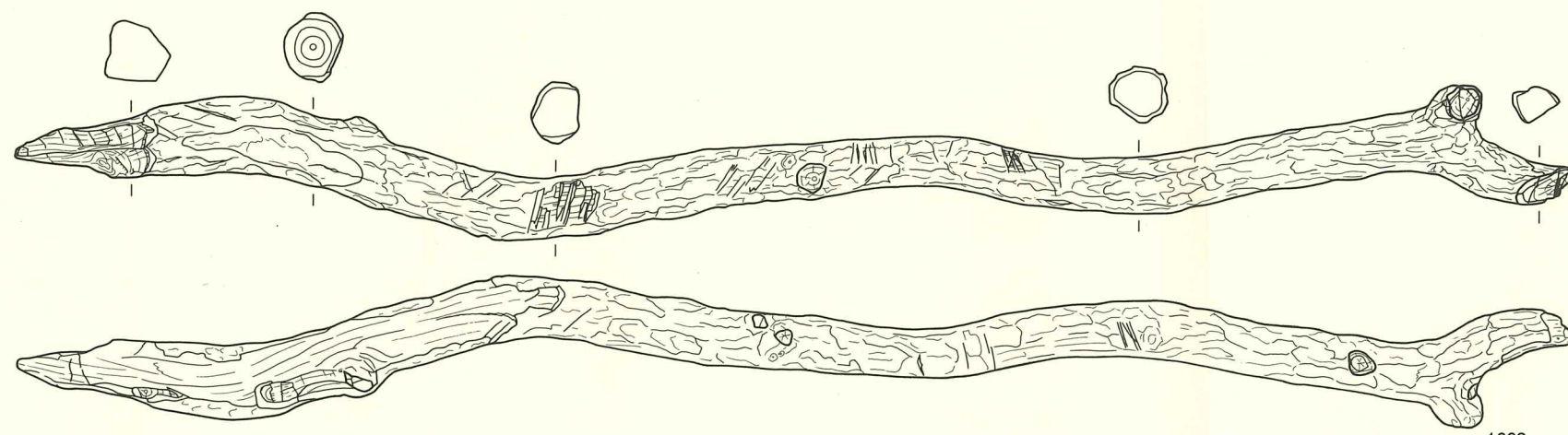


図V-312 建材5 (桁・梁・母屋)

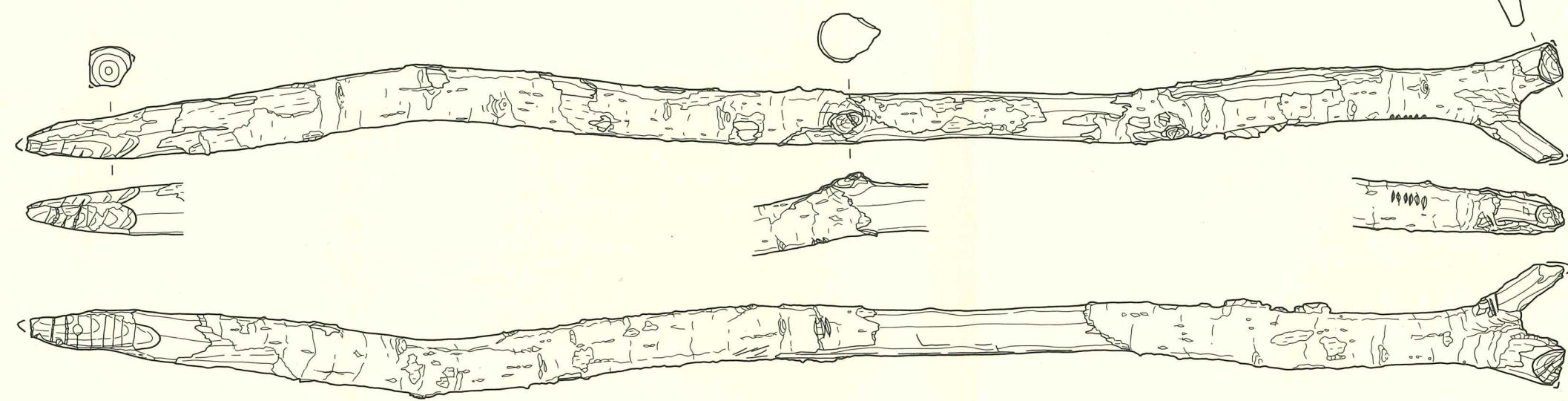




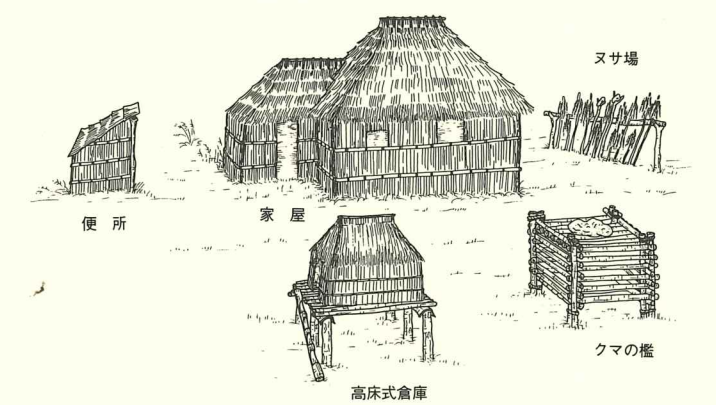
1661



1662



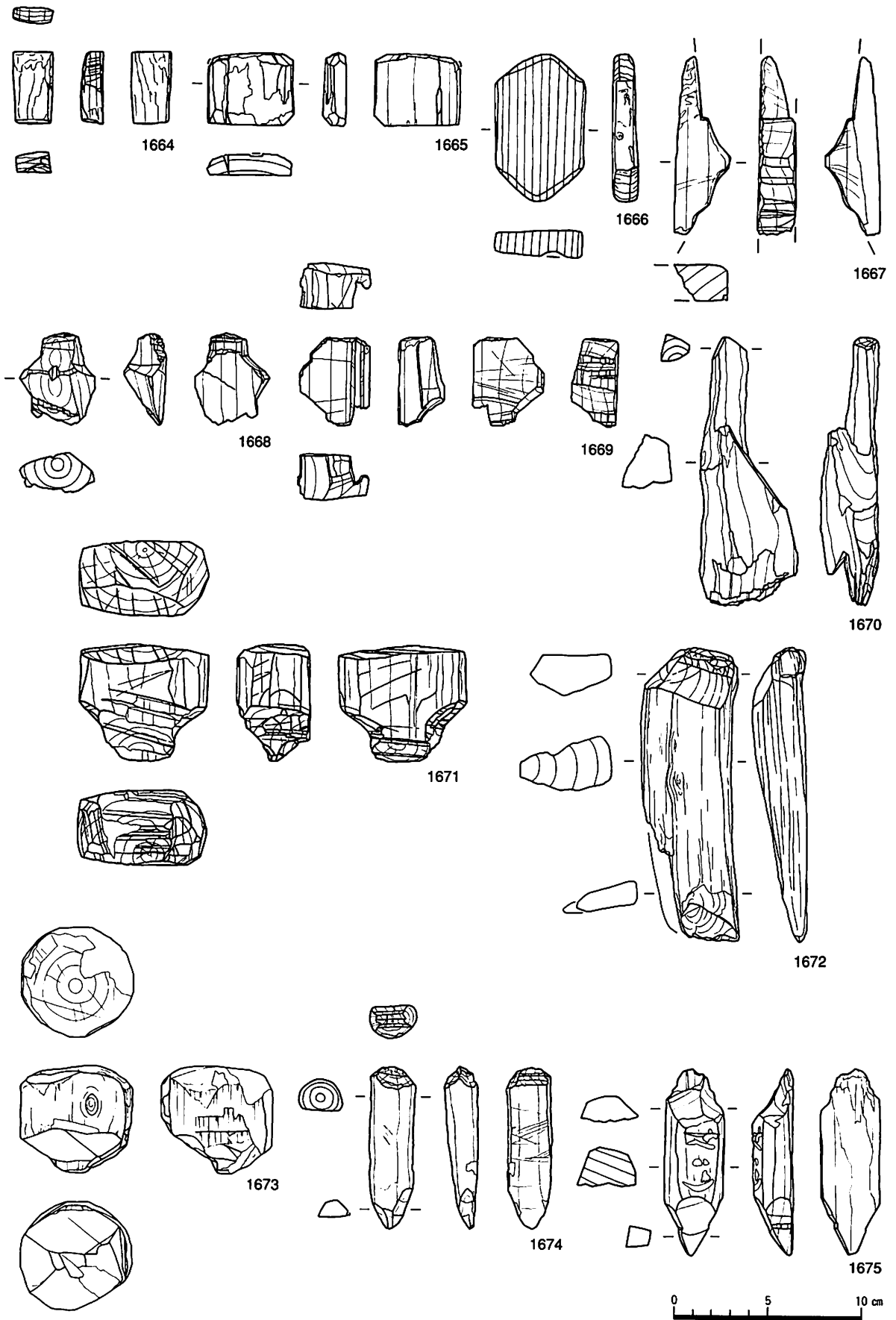
1663



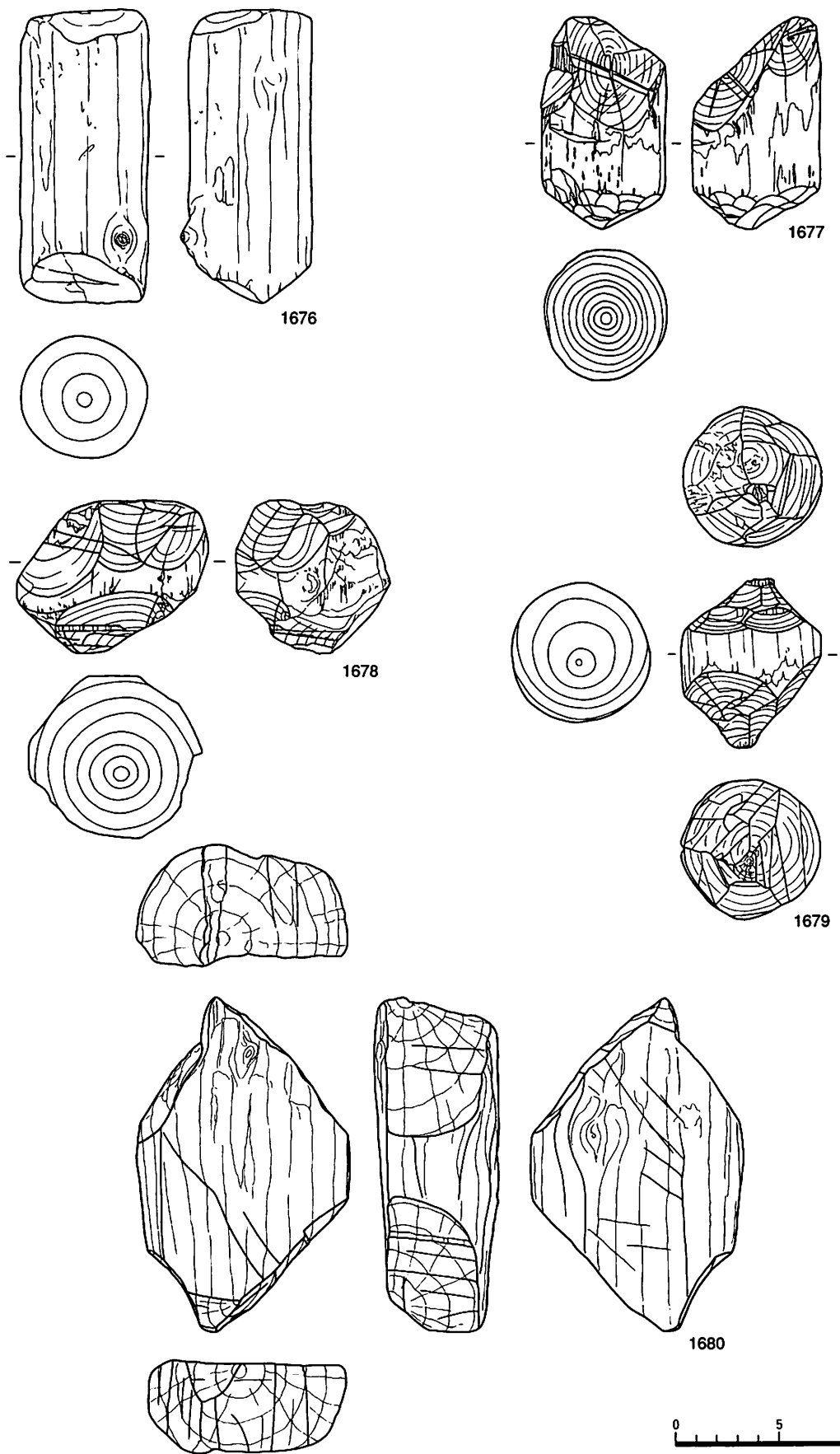
アイヌ民族誌に加筆

図V-313 建材6 (柱類)

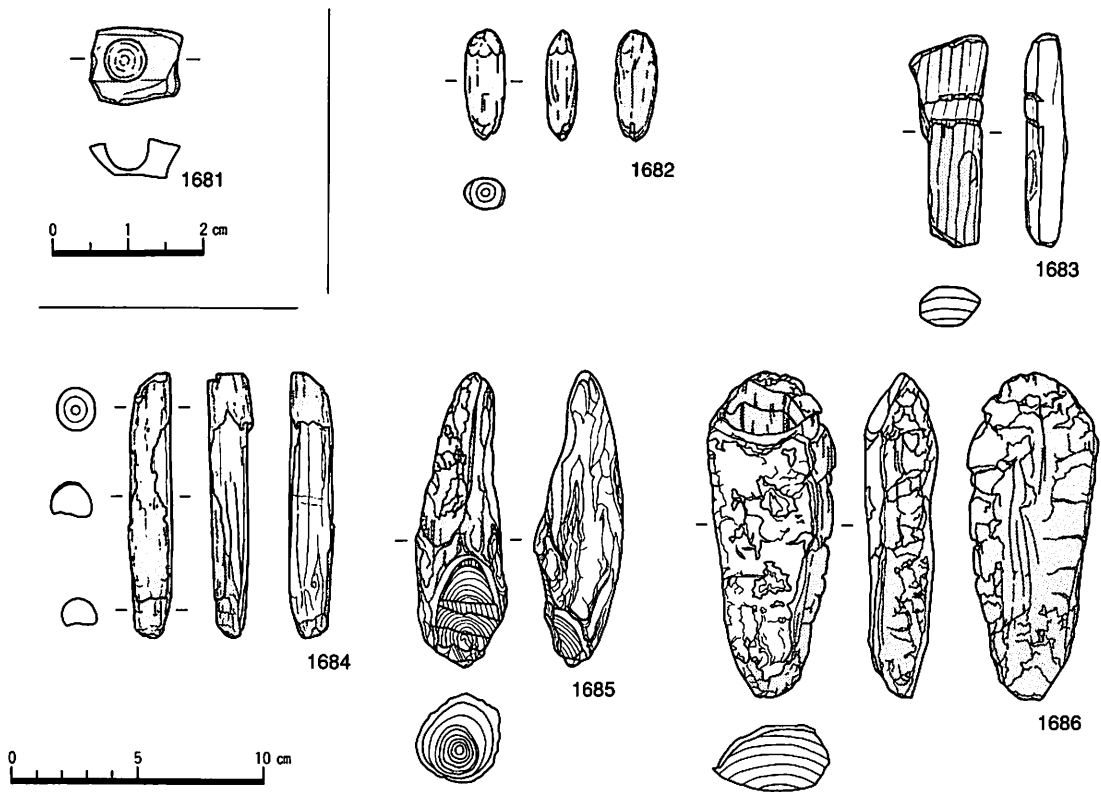




図V-314 木端 1

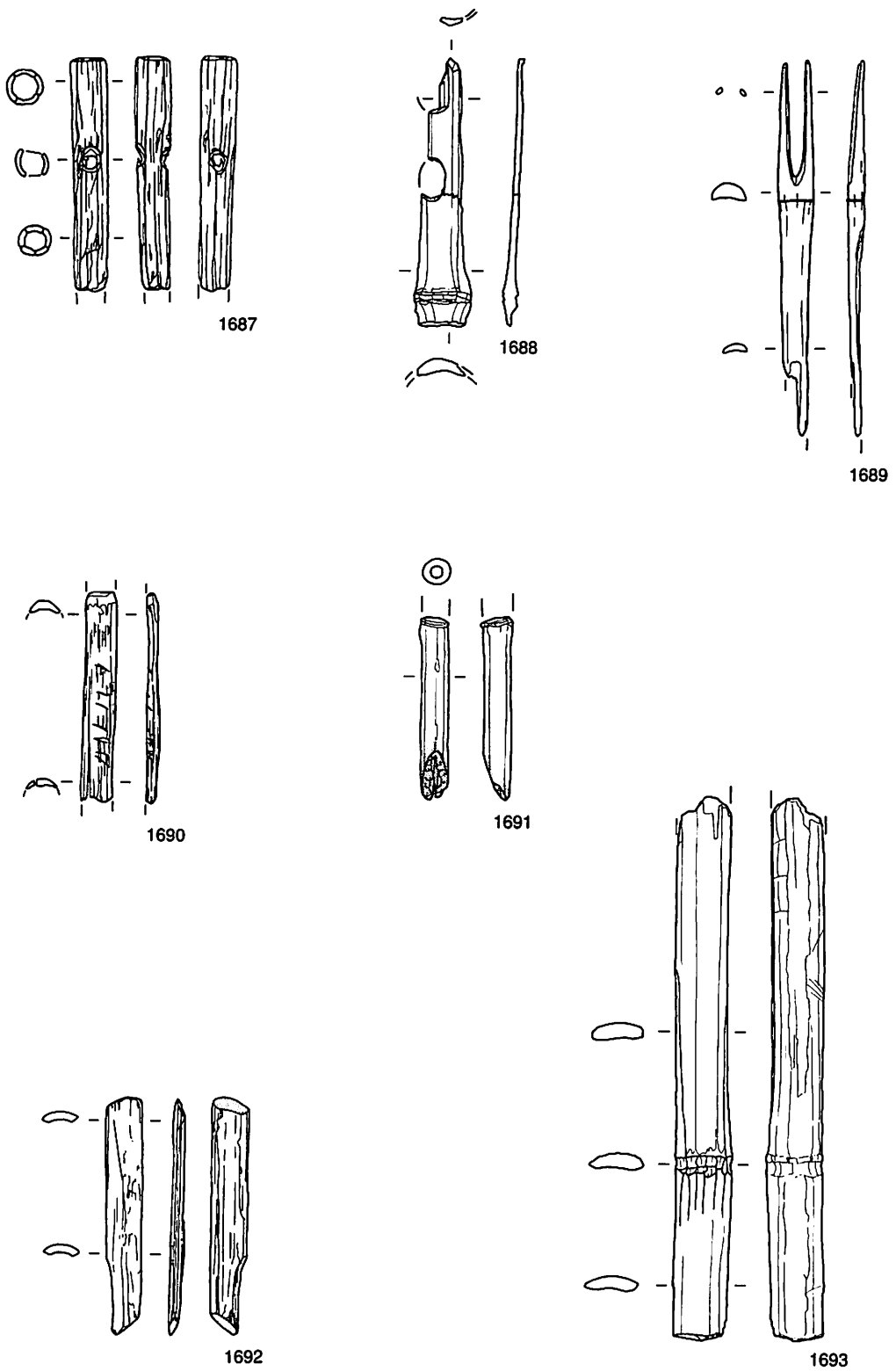


図V-315 木端2



図V-316 炭化材

V 第0 黑色土層の調査



図V-317 竹製品

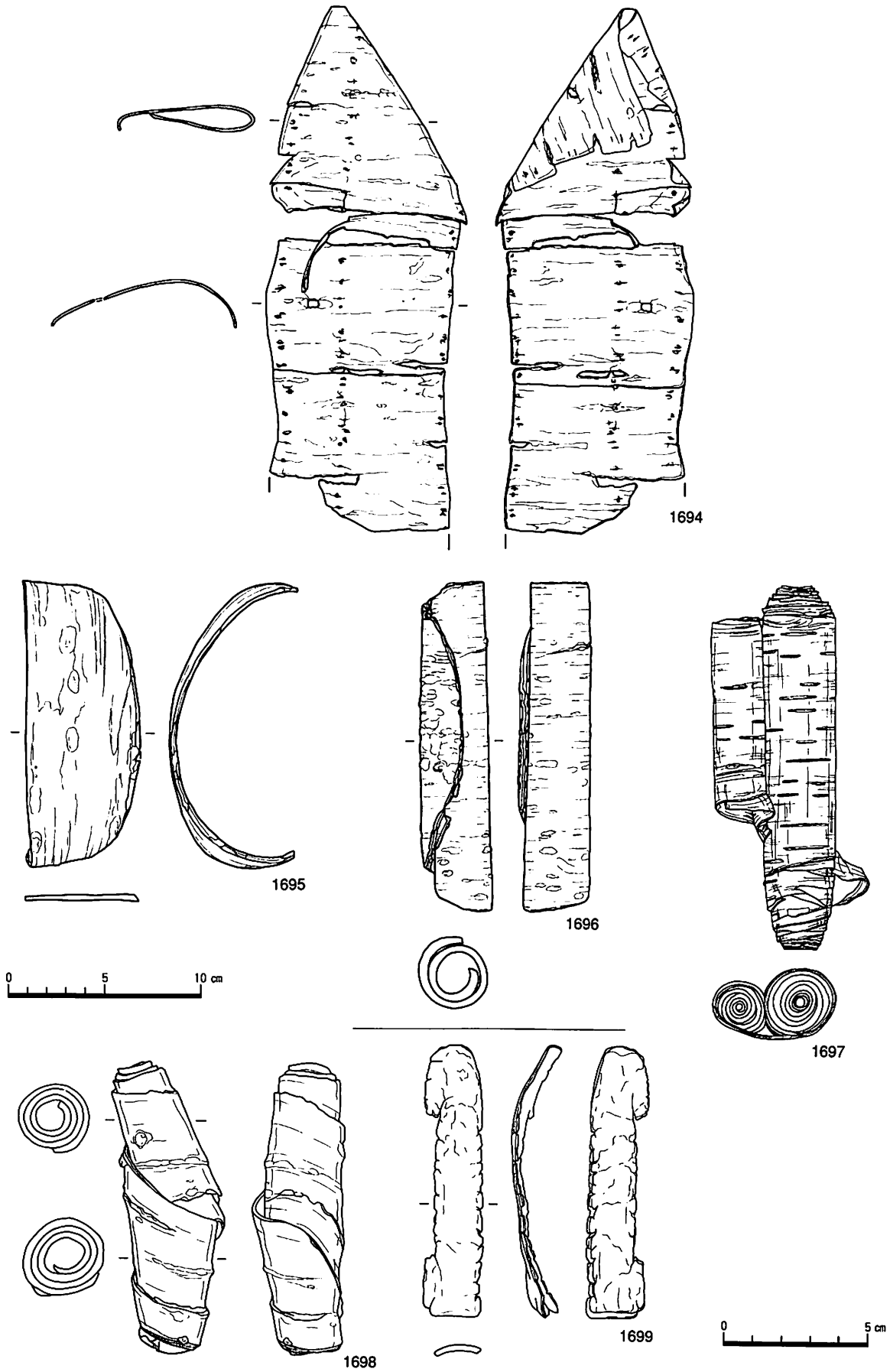
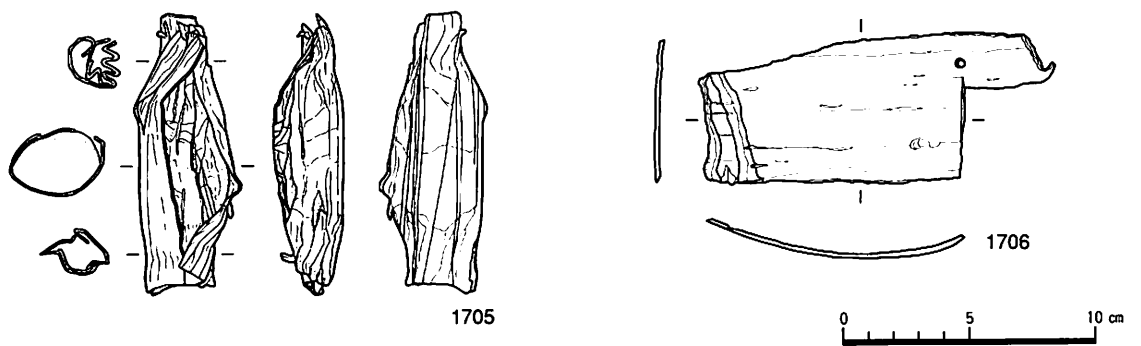
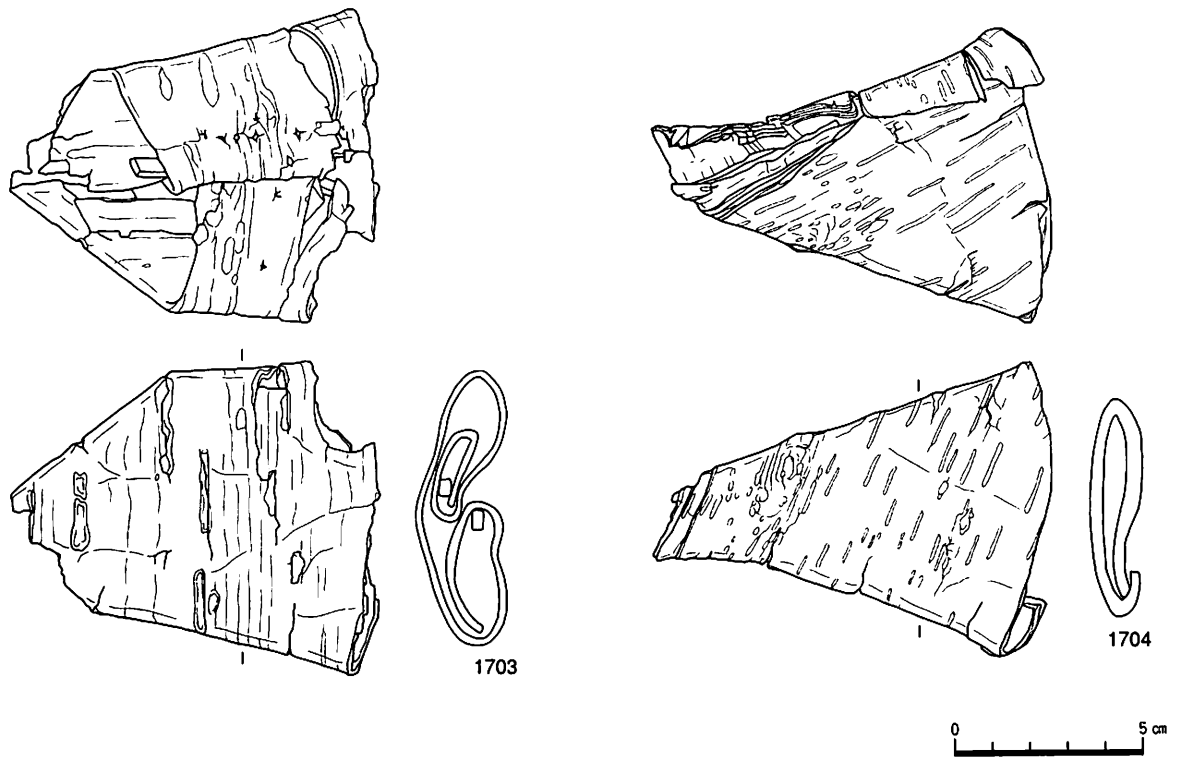
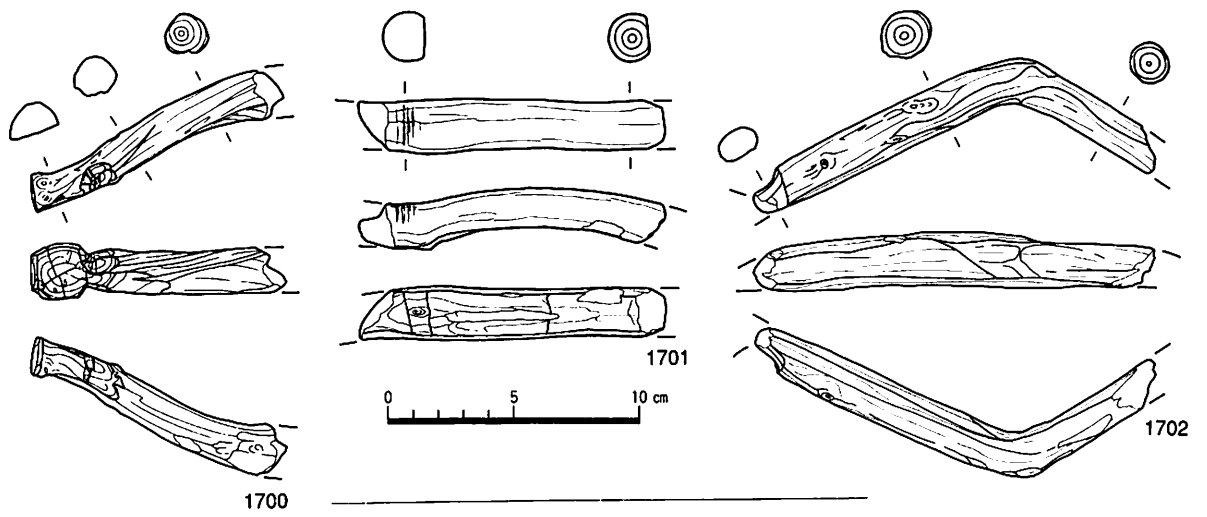


図 V - 318 樹皮製品 1

V 第0 黑色土層の調査



図V-319 樹皮製品2 (樹皮製容器他)



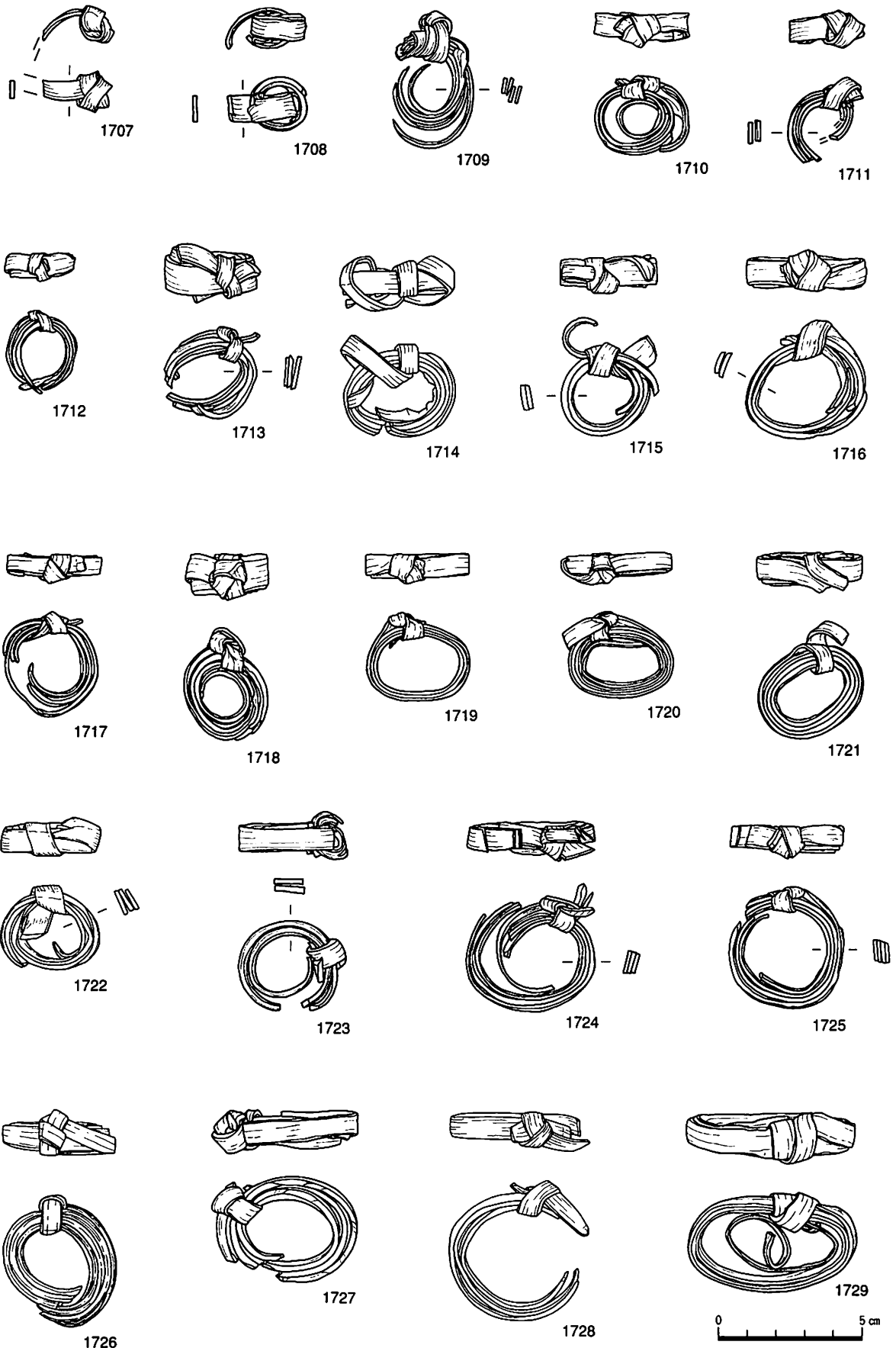
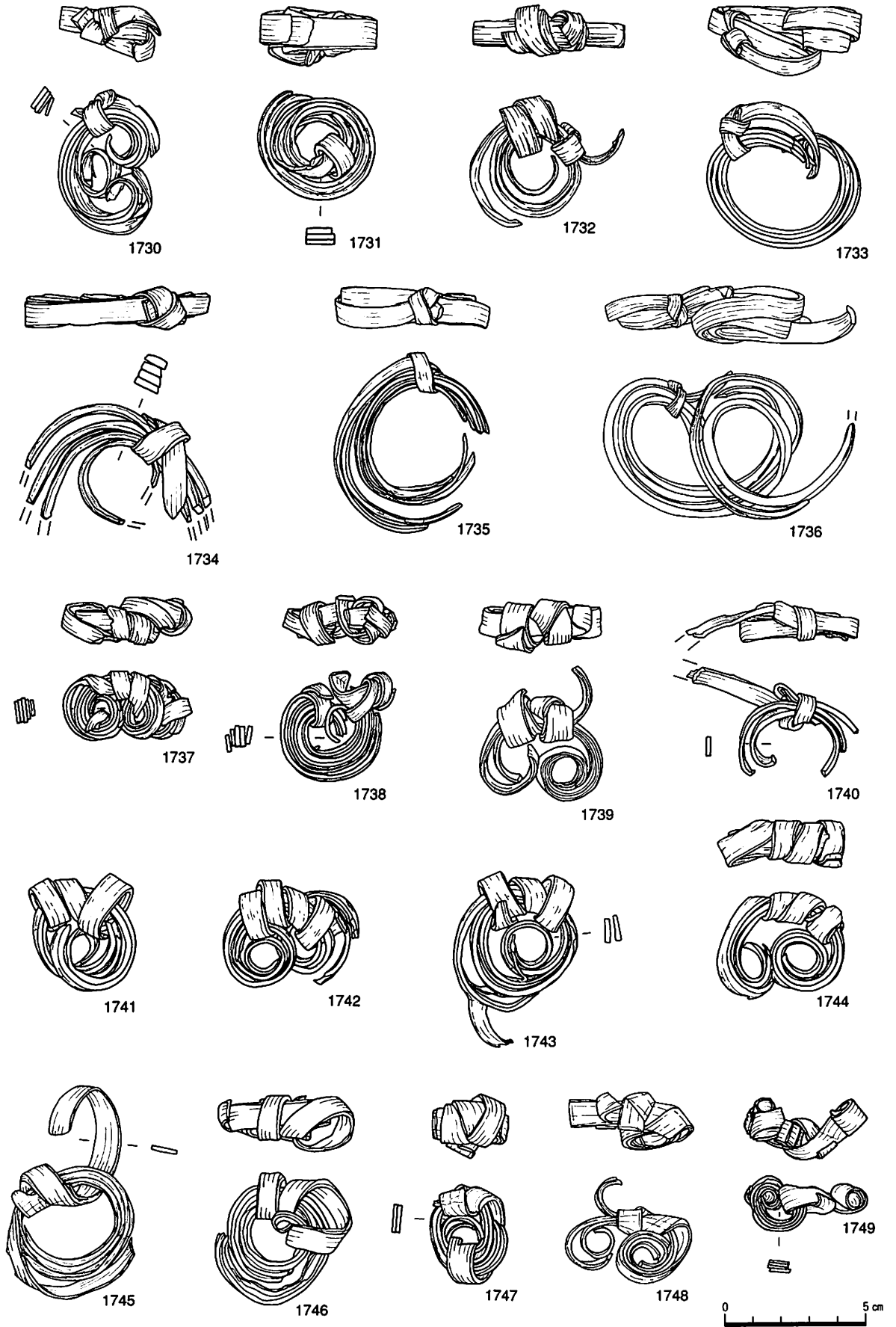


図 V-320 樹皮製品 3 (結束固定具①)

V 第0 黑色土層の調査



図V-321 樹皮製品4 (結束固定具②)

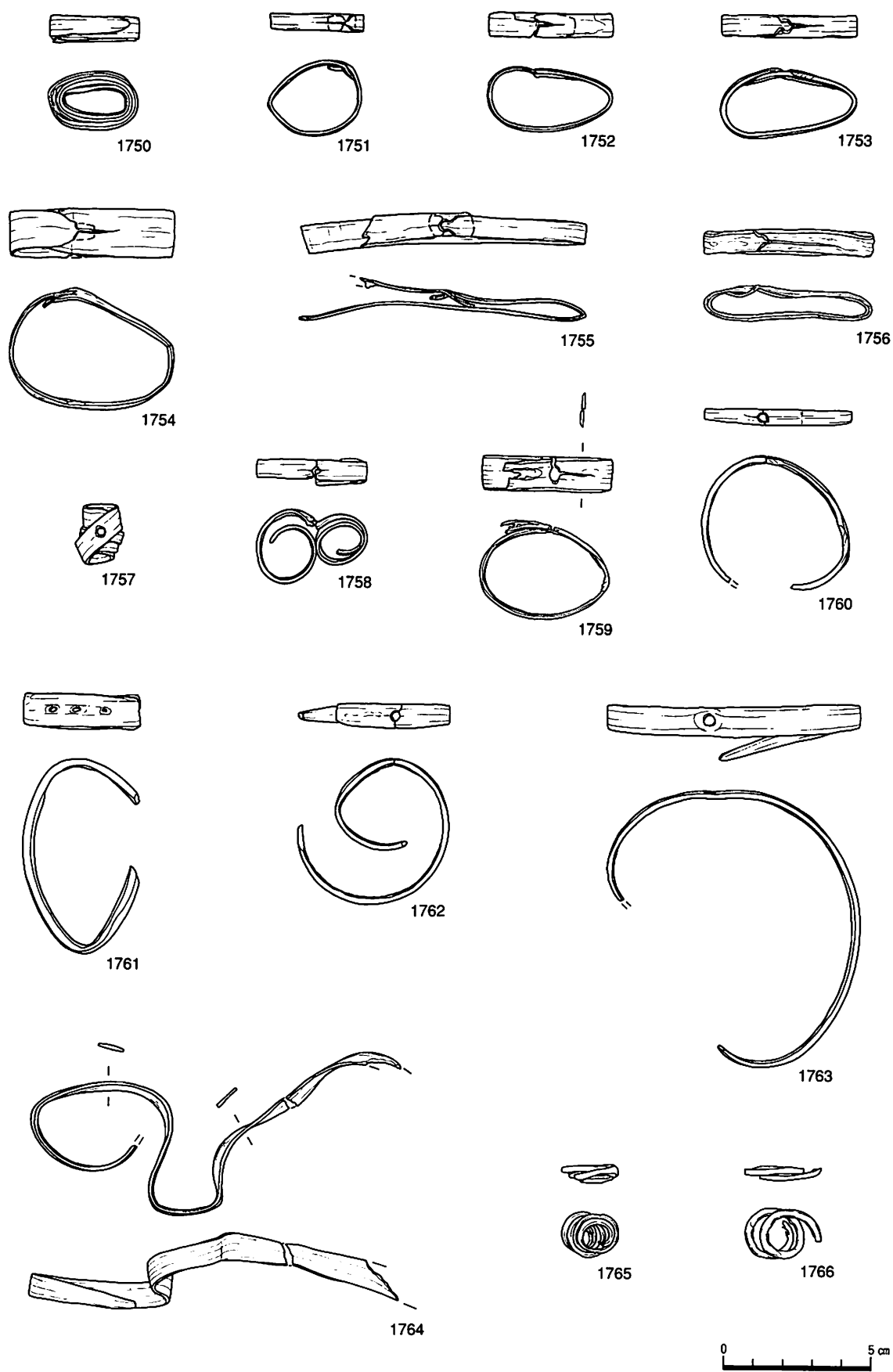
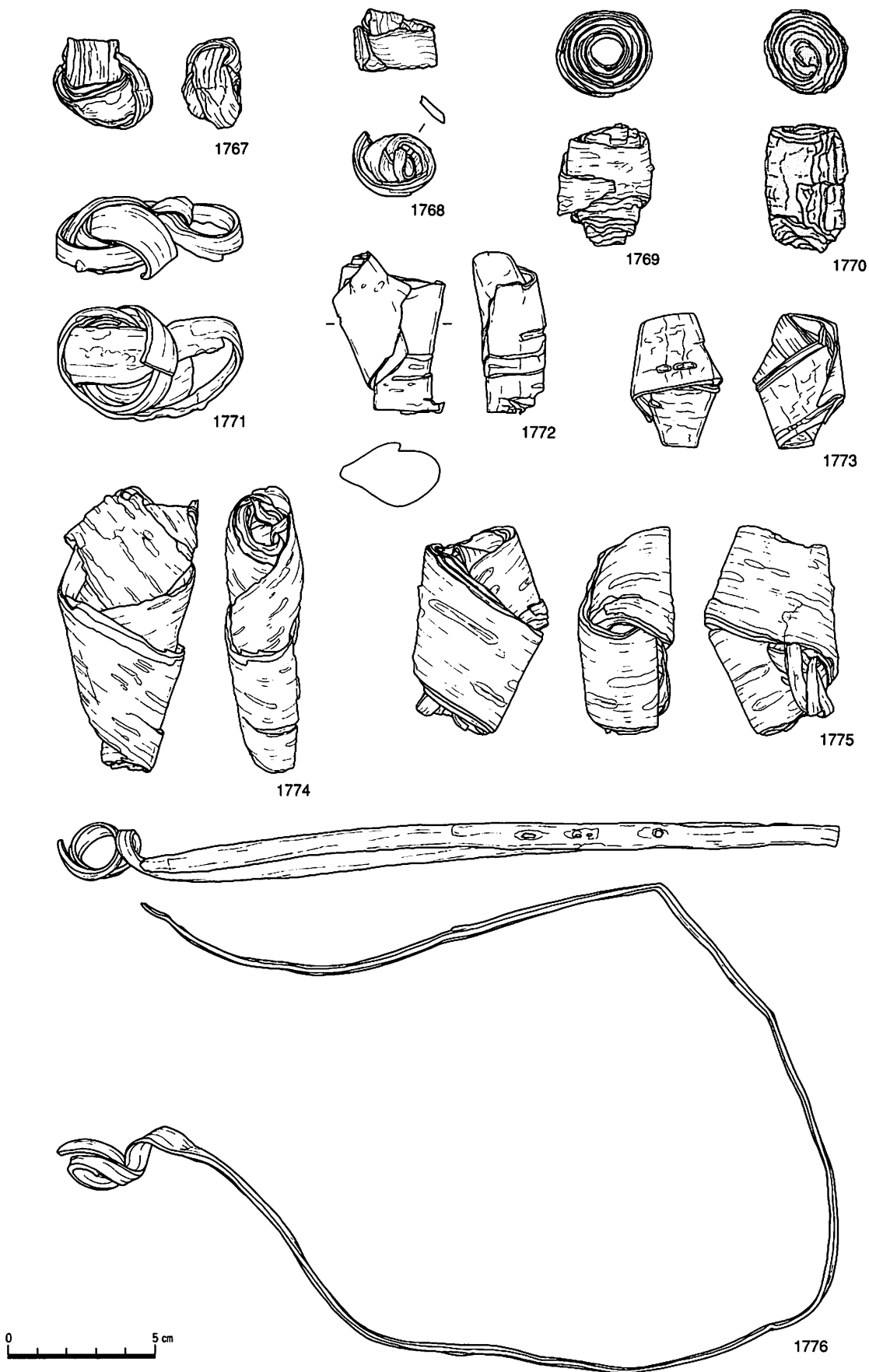


図 V-322 樹皮製品 5 (結束固定具③)



図V-323 樹皮製品6 (結束固定具④)

表V-29 0 B層掲載木製品(1)

図 号	国 産 品 番 号	産物名称	発掘区	運物番号	樹皮 木取り	樹 皮 種	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
70	34	軸切断品片	d-67-81-d	2478	板目		ハリギリ	( 34.80 ) ( 31.00 ) ( 20.30 )	( 7460.0 )	1	2点接合。
71	34	軸舷側板片	c-67-51-d	14814	板目		カツラ	( 63.80 ) ( 13.10 ) ( 12.75 )	( 1810.0 )	1	1 右舷、軸付近。
72	35	軸舷側板片	d-67-91-a	15481	横木		カツラ	( 28.40 ) ( 9.40 ) ( 4.80 )	( 440.0 )	1	1 右舷。
73	35	舟部材片?	c-66-08-c	1374	追証		カツラ	( 22.60 ) ( 12.80 ) 3.20	( 487.7 )	1	1 有孔厚板材片。
74	36	板舷舟舷側板片	c-66-09-a c-66-09-c c-67-00-d	14819	楕目		ハリギリ	( 366.25 ) ( 31.00 ) 1.85	( 3516.0 )	1	85 約85点接合。ほぼ等間隔に角孔あり。 保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
75	37	舟部材?	c-66-09-b	623	股木		カエデ	19.20 15.95 4.50	517.0	1	1 「Y」字状有孔板材。
76	35	角状付舟部材片	c-66-19-a	5530	半割		ハンノキ?	18.40 ( 5.15 ) ( 3.75 )	( 164.7 )	1	1
77	37	両端部挟入部付舟部材片	c-66-18-b	1883	楕目		ハリギリ	29.95 9.40 4.90	992.0	1	2点接合。床部?
78	38	凹貫付舟部材切断品	c-66-29-a	1888	半割		ガマズミ?ハイノキ?ミツバウツ キ? 貫:ガマズミ?ハイノキ?	16.25 6.15 3.30	162.0	1	2点接合(貫含む)。貫入孔1箇所。木取り貫・板目。
79	38	凹付舟部材	c-67-00-b	7865	丸木		コナラ	24.70 7.90 3.90	317.8	1	1 中央に角凹有り。
80	39	両端部挟付舟部材片	d-67-81-b d-67-81-c	3999	1/2割		トネリコ	33.58 7.36 ( 5.40 )	( 848.0 )	1	1
81	38	ホノ孔付舟部材片	d-66-99-c d-66-99-d d-67-91-a	2812 3591	横木		カツラ	( 23.55 ) 6.04 4.85	( 183.1 )	1	3点接合。計測値は保存処理後・接合後の値。
82	39	舟部材片	c-66-19	15092	板目		ハンノキ	26.20 ( 10.20 ) 5.40	( 798.0 )	1	2点接合。
83	40	両端部挟付舟部材	d-67-81-d d-67-91-a	3011	1/3割		コナラ	55.65 7.20 5.50	1310.0	1	1 両端部挟付角材。
84	44	有孔舟部材	c-67-32-d	10274	追証		ハリギリ	28.45 18.10 2.50	689.0	1	3点接合。有孔板材。
85	41	有孔舟部材片	d-67-82-b	4431	追証		シナノキ	( 26.50 ) 13.50 2.03	( 222.8 )	1	11 11点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
86	41	有孔舟部材	c-66-09-c	15351	板目		カツラ	33.20 14.20 1.85	678.0	1	1 有孔板材。
87	42	有孔舟部材片	d-67-92-c d-67-92-d	4889	追証		ケリ	( 35.70 ) ( 11.90 ) 2.20	( 630.0 )	1	1 有孔板材片。
88	42	有孔舟部材片	c-66-29-d	215	楕目		ハンノキ	23.62 13.30 1.80	( 406.3 )	1	1 有孔板材片。
89	43	有孔舟部材片	c-67-00-a	701	板目	○	ハンノキ	34.23 14.80 2.00	( 763.0 )	1	1 有孔板材片。
90	43	有孔舟部材片	d-67-91-b d-67-91-c	4964	楕目		オニグルミ	( 32.80 ) 2.10 17.70	( 856.0 )	1	1 有孔板材片。
91	44	有孔舟部材	c-67-10-b	12485	板目		ハリギリ	30.54 8.65 2.00	318.0	1	2点接合。有孔板材。
92	44	板舷舟舷側板片	c-66-09-d	2690	板目		トネリコ	30.00 ( 17.00 ) 2.30	( 937.0 )	1	1 有孔板材片。角孔4ヶ所あり。
93	45	板舷舟舷側板片	c-66-09-b	1116	楕目		ハリギリ	( 31.60 ) 11.64 2.36	( 502.0 )	1	1 有孔板材片。

表V-30 0 B層掲載木製品 (2)

図 番 号	國 旗 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 数	備 考
94	45	板綴舟舷側板片	c-66-38-d	13356	追粧		ハリギリ	32.70	11.30	1.80	1	1有孔板材片。
95	45	板綴舟舷側板片	c-67-41-a	10607	粧目		ハリギリ	29.80	( 10.40 )	1.90	1	1有孔板材片。
96	45	板綴舟舷側板片	d-67-91-b	5339	板目		ハンノキ	( 34.55 )	13.00	1.40	1	31点接合。有孔板材片。重量は保存処理後の値。
97	46	板綴舟舷側板	c-66-19-b	2060	板目		ハリギリ	51.80	20.00	3.90	1	1有孔板材。
98	46	板綴舟舷側板片	c-66-09-c	1957	板目		ハリギリ	34.80	12.40	1.80	1	3点接合。有孔板材片。
99		板綴舟舷側板片	c-67-00-a	1792	板目		シナノキ	( 33.10 )	8.20	1.90	1	1有孔板材片。
100	46	板綴舟舷側板片	d-66-99-c	2160	粧目		ハリギリ	( 32.30 )	14.20	1.85	1	1有孔板材片。
101	47	板綴舟舷側板片	d-67-82-b	4431 ㊶	板目	○	ハリギリ	( 31.95 )	14.00	2.00	1	7点接合。全体炭化。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
102	47	板綴舟舷側板片	d-67-72-c	4431 ㊷	粧目		シナノキ	( 40.60 )	4.80	1.53	1	5点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
103	47	板綴舟舷側板片	c-67-02-c	3338	粧目		ハリギリ	( 46.40 )	( 9.75 )	1.33	1	2点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
104	47	板綴舟舷側板片	d-67-92-d	6059	粧目		ハンノキ	( 45.50 )	7.60	1.50	1	1有孔板材片。
105	47	板綴舟舷側板片	c-67-10-c	15360	粧目		ハリギリ	( 43.90 )	6.00	1.40	1	2点接合。有孔板材片。
106	47	板綴舟舷側板片	d-67-72-a d-67-72-d	4512	板目		ハンノキ	( 45.00 )	7.10	1.90	1	3点接合。有孔板材片。
107	48	板綴舟舷側板片	c-66-29-a	1856	粧目		ハリギリ	( 31.50 )	( 5.40 )	1.95	1	1有孔板材片。
108	48	板綴舟舷側板片	c-66-19-b c-66-09-c	4770	追粧		ハンノキ	( 58.30 )	9.45	2.30	1	4点接合。有孔板材片。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
109	48	板綴舟舷側板片	c-67-01-c	11998	追粧	○	ハンノキ	( 90.60 )	7.70	1.20	1	18点接合(樹皮1点含む)。有孔板材片。樹皮綴りあり。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
110	48	舟あばら	d-66-99-d	2521	舷木		クワ	28.70	16.20	4.70	1	2点接合。端部挿入部付屈曲有孔丸木材。
111	49	舟あばら片	c-66-28-c	15398	丸木		ハシドイ	( 29.70 )	( 15.10 )	3.10	1	2点接合。端部有孔屈曲丸木材片。
112	49	舵棒?	c-66-09-b	1050	丸木		コナラ	75.60	6.30	4.15	1	2点接合。端部有孔屈曲丸木材。イトクハ付。
113	50	舟あばら	c-67-10	15112	丸木		ヤナギ	28.60	6.35	2.90	1	1端部挿入部付屈曲丸木材。
114	50	舟ミニニチュア	c-66-28-b	14414	横木		ハンノキ	18.00	4.00	2.90	1	1ペルト出土。
115	50	舟あばら片	c-66-38-b	13746	丸木		トネリコ	30.36	( 16.90 )	4.92	1	1屈曲丸木材片。
116	50	舟あばら片	c-67-00-c	12534	1/4桷		コナラ	( 24.50 )	( 29.00 )	3.60	1	2点接合。屈曲丸木材片。
117	50	舟部材片	d-67-91-a	4835	粧目		サクラ 質：サクラ 丸釘：ハリギリ	( 60.05 )	6.22	2.42	1	3点接合(質と木釘付含む)。貫付丸材片。木釘付孔1ヶ所。貫に丸釘1ヶ所。

表V-31 0 B層掲載木製品 (3)

図版 番号	運物名称	発細区	運物番号	木取り 皮	樹種	掛種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備考
118	51 車懸受台部	c-66-19-c	4233	股木		コナラ	48.80 17.05 2.90	250.0	1	3	3点接合。枝利用式。
119	51 車懸受台部	c-67-00-a d-67-90-d	718	股木		イチイ	30.40 55.70 3.30	800.0	1	1	枝利用式。
120	52 車懸受台部	d-67-81-c	3133	股木		モミ	47.00 17.70 4.00	474.0	1	1	枝利用式。
121	52 車懸受台部片	c-66-19-d c-66-29-a	14318	股木		モミ	( 44.10 ) ( 22.50 ) ( 2.50 )	( 405.0 )	1	1	ベルト出土。枝利用式。
122	51 車懸受台部片	d-67-72-a	4485	股木		スギ	( 60.85 ) ( 10.00 ) 4.40	( 680.0 )	1	1	枝利用式。
123	52 車懸受台部片	c-67-00-c	12560	股木		モミ	64.50 ( 9.70 ) 3.20	( 690.0 )	1	1	枝利用式。
124	53 車懸受台部片	c-66-28-b	14690	股木		トウヒ	( 56.80 ) 17.93 3.82	( 736.0 )	1	1	枝利用式。
125	53 車懸受台部片	c-66-09-c	333	柱目		モクレン 軸：カツラ	62.10 5.60 ( 6.40 )	( 560.0 )	1	3	3点中2点接合2点突頭(軸片含む)。丸軸差込式。軸片入。
126	53 車懸受台部片	c-66-28-c c-66-29-d	284	柱目		モクレン	( 62.40 ) 5.80 2.70	( 460.0 )	1	1	丸軸差込式。
127	54 車懸受台部片	c-66-28-c c-66-29-d	283	柱目		スギ	72.20 7.00 3.30	( 820.0 )	1	1	丸軸差込式。
128	54 車懸受台部	c-66-28-b	1234	追証		カツラ	55.80 4.80 3.10	540.0	1	1	丸軸差込式。
129	54 車懸受台部片	c-66-27-c	15012	柱目		ヒノキ?アスナロ?	( 36.60 ) 5.60 ( 2.80 )	( 207.2 )	1	10	内部腐食。保存処理後実測。計部値は保存処理後の値。
130	54 車懸受台部片	c-67-10-a	7973	板目		ハンノキ	( 23.50 ) ( 5.47 ) ( 3.70 )	( 178.1 )	1	2	2点接合。丸軸差込式。
131	54 車懸受台部片	d-66-99-c	2824	板目		コナラ	( 27.00 ) ( 3.20 ) ( 2.65 )	( 176.0 )	1	1	丸軸差込式。
132	54 車懸受台部片	c-66-09-c	1916	柱目		トネリコ	( 12.70 ) ( 4.10 ) ( 2.75 )	( 71.6 )	1	1	丸軸差込式。
133	- 車懸受台部片	c-66-09-c	627	柱目		○モクレン	( 11.10 ) ( 4.60 ) ( 2.20 )	( 63.2 )	1	1	丸軸差込式。
134	55 車懸受台部片	d-67-82-d d-67-92-a	4871	柱目		モクレン 軸：カエデ 楔：スギ	70.55 6.30 6.10	( 725.0 )	1	7	7点接合(軸片と楔含む)。角軸差込式。彫刻付。軸片入。軸片に楔入。 切痕あり。木取り受台部：柱目、軸：板証、楔：板証。
135	54 車懸受台部片	d-67-91-b d-67-91-c	5245	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ? 軸 と楔：ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 32.70 ) ( 11.90 ) 5.20	( 310.0 )	1	3	3点接合(軸片と楔含む)。角軸差込式。軸片入。軸片に楔入。 木取り本体：板目、軸：板証。
136	54 車懸受台部片	c-67-10-b	12579	柱目		クリ	( 31.20 ) 5.30 2.65	( 154.9 )	1	1	角軸差込式。
137	54 車懸受台部片	c-67-10-b	15348	柱目		モクレン	( 47.60 ) ( 5.10 ) 3.50	( 348.8 )	1	1	角軸差込式。
138	55 車懸受台部片	d-67-91-c	5358	丸木		モミ	( 36.40 ) ( 3.88 ) ( 3.32 )	( 270.0 )	1	1	
139	56 車懸受台部片?	c-66-18-b	1565	柱目		ハンノキ	( 34.60 ) 4.40 2.80	( 228.1 )	1	33	3点接合。メカジキの彫刻付。
140	56 車懸受台部片	c-66-19-d	2383	柱目		サクラ	( 35.10 ) ( 5.60 ) ( 2.60 )	( 232.0 )	1	1	アイウシ文付。
141	56 車懸受台部片	c-66-19-b	2633	柱目		ハンノキ	( 16.80 ) ( 3.15 ) 2.85	( 91.9 )	1	1	イトクハ付。

表 V-32 0 B層掲載木製品 (4)

図 号	國 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備考
142	56	車權受台部片	c-66-18-c	1461	○	モクレン	( 17.00 ) ( 3.10 ) 2.50	( 81.9 )	1	1	イトクハ付。
143	55	車權受台部切断品	c-67-00-a	6451		ハンノキ	9.40 2.70 2.00	31.0	1	1	
144	55	車權受台部切断品片	d-67-91-a	5028		クルミ	( 10.60 ) 3.15 ( 1.90 ) ( 29.6 )		1	1	
145	55	車權受台部片	c-66-19-d	2438		カツラ	( 12.90 ) 3.45 2.10 ( 64.0 )		1	1	
146	55	車權受台部片	c-67-41-d	10632		カエデ	( 12.40 ) ( 3.75 ) ( 2.50 ) ( 73.3 )		1	1	
147	55	車權受台部片	c-67-41-d	10754		カエデ	( 11.20 ) 3.05 2.50 ( 45.1 )		1	1	
148	55	車權受台部切断品	c-67-00-a	719		ハンノキ	11.70 3.00 3.80 ( 87.2 )		1	1	
149	55	車權受台部切断品片	d-66-99-d	2549		モミ	( 12.65 ) 4.40 3.00 ( 107.3 )		1	1	
150	55	車權受台部切断品	d-67-81-c d-67-81-d	3271		モクレン	23.70 4.10 2.75 199.0		1	2	2点接合。
151	55	車權受台部切断品片	c-67-10-b	12490		ハンノキ	( 22.30 ) 3.23 2.80 ( 106.4 )		1	1	
152	55	車權受台部切断品	c-66-09-b	863		ハンノキ	15.60 3.80 3.30 120.2		1	1	
153	56	車權受台部片	c-66-38-a	13725		ハリギリ	( 18.13 ) ( 6.18 ) ( 2.84 ) ( 179.6 )		1	3	3点接合。
154	56	車權受台部切断品	c-67-10-a c-67-10-b	8952		モクレン(コブシ)	28.80 6.40 2.75 328.1		1	1	角軸差込式。
155	56	車權受台部切断品片	c-66-09-b	1933		モクレン	( 26.20 ) 3.20 6.10 ( 279.2 )		1	1	
156	57	車權受台部軸	c-66-09-c	404		カエデ	15.10 1.90 1.90 30.0		1	1	丸軸差込式。
157	57	車權受台部軸	c-67-10-b	15152		カエデ	16.60 1.90 2.05 28.7		1	1	丸軸差込式。
158	57	車權受台部軸	c-66-28-b	1231		アジサイ	19.70 2.62 2.15 62.0		1	1	丸軸差込式。
159	57	車權受台部軸	c-66-09-c	743		カエデ	20.00 2.70 2.70 66.5		1	1	丸軸差込式。
160	57	車權受台部軸	d-67-91-c	5004	○	カエデ	23.70 3.10 3.08 77.9		1	1	丸軸差込式。
161	57	車權受台部軸	c-67-10-b	8935		アジサイ	23.80 2.40 1.80 54.6		1	1	丸軸差込式。
162	57	車權受台部軸	c-66-09-c	1113		クワ	22.94 2.58 3.04 74.0		1	1	丸軸差込式。
163	57	車權受台部軸	c-66-09-b	375		カエデ	23.40 2.20 2.20 49.0		1	1	丸軸差込式。
164	57	車權受台部軸	c-66-18-b	2083		トネリコ?	23.40 2.15 2.10 59.7		1	5	5点接合。丸軸差込式。
165	57	車權受台部軸	c-66-09-d	2492		カエデ	24.40 2.50 2.20 55.7		1	1	丸軸差込式。



表V-33 0 B層掘載木製品(5)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 部位	樹皮 痕	掛種	長さ×幅×厚さ(cm)		重量(g)	個 体 数	備考	
166	57 車權受台部軸	c-66-19-b	3827	丸木		キハダ?	25.90	2.62	2.78	87.0	1	1 丸軸差込式。
167	58 車權受台部軸	c-66-19-b	3828	丸木		カシ	31.00	2.90	3.05	118.0	1	1 丸軸差込式。
168	58 車權受台部軸	c-66-09-c	179	丸木		モクレン	31.50	3.10	3.10	131.0	1	1 丸軸差込式。
169	58 車權受台部軸切断品	c-66-09-b	243	丸木		ヤナギ	24.20	2.30	2.30	5.2	1	2点接合。丸軸差込式。
170	58 車權受台部軸片	c-66-28-b	14419	丸木		ニガキ	( 19.90 )	2.00	1.92	( 38.0 )	1	2ベルト出土。2点接合。丸軸差込式。
171	58 車權受台部軸片	c-66-29-a	14801	板証		カエデ	( 7.50 )	2.32	2.30	( 25.2 )	1	1 丸軸差込式。
172	58 車權受台部軸片	c-66-28-b	15392	丸木		ニガキ?	( 24.10 )	2.50	2.35	( 45.3 )	1	1 丸軸差込式。
173	58 車權受台部軸片	c-67-10-b	15311	丸木		ヤナギ	( 12.00 )	2.30	2.40	( 45.0 )	1	1 丸軸差込式。
174	58 車權受台部軸片	d-67-91-b	5857	板証		サクラ	( 8.70 )	3.10	2.80	( 48.1 )	1	1 丸軸差込式。
175	58 車權受台部軸片	d-67-91-a	5823	丸木		トネリコ	( 7.75 )	2.80	2.55	( 37.2 )	1	1 丸軸差込式。
176	58 車權受台部軸片	c-66-19-a	5511	板証		カエデ	( 8.60 )	2.25	2.10	( 31.0 )	1	1 多角形軸差込式。
177	58 車權受台部軸片	c-66-28-c	516	板目		不要	( 7.70 )	2.90	2.41	( 32.0 )	1	1 丸軸差込式。
178	58 車權受台部軸片	d-66-99-c	2218	丸木		トネリコ	( 12.90 )	2.35	2.28	( 42.1 )	1	1 丸軸差込式。
179	- 車權受台部軸片	c-67-00-c	9778	板証		クワ	( 12.80 )	2.50	2.30	( 42.2 )	1	1 丸軸差込式。
180	58 車權受台部軸片	c-66-29-a	15465	丸木		トネリコ	( 13.45 )	2.25	2.15	( 34.1 )	1	1 丸軸差込式。
181	- 車權受台部軸片	d-66-99-c	2816	丸木		トネリコ	( 9.66 )	2.32	2.30	( 32.4 )	1	1 丸軸差込式。
182	58 車權受台部軸片切断品	c-66-19-c	3874	板証		カエデ	16.96	2.70	2.59	78.9	1	2点接合。丸軸差込式。
183	58 車權受台部軸片	d-67-91-a	5175	板証		カエデ	( 13.30 )	3.00	3.10	( 73.4 )	1	1 丸軸差込式。
184	59 車權受台部軸	c-66-09	15027	丸木		ヤナギ	24.50	2.40	2.05	60.7	1	1 丸軸差込式。
185	59 車權受台部軸片	c-66-18-c c-66-18-d	820	板証		カエデ	( 25.90 )	2.50	2.70	( 74.0 )	1	2点接合。丸軸差込式。
186	59 車權受台部軸	c-66-19-b	15461	1/4割		オニグルミ	28.00	2.70	2.25	89.2	1	6点接合。丸軸差込式。
187	59 車權受台部軸片	c-66-18-a	15485	丸木		モミ	( 27.80 )	2.20	2.40	( 84.9 )	1	1 丸軸差込式。
188	59 車權受台部軸	c-66-19-a	2614	追証		カエデ 標:カエデ	26.00	3.05	2.45	84.0	1	2点接合(接合心)。丸軸差込式。樹入。木取り軸部。追証。標:板目。
189	59 車權受台部軸片	c-66-18-d	695	板目		カエデ 標:カエデ	( 19.60 )	2.80	1.60	( 40.0 )	1	2点接合。角軸差込式。樹入。

表V-34 0 B層掘載木製品 (6)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 片	備考
190	車權受台部軸	c-66-09-b	15022	板目	クワ	29.80 ( 29.60 )	77.6 ( 82.7 )	1	1 角軸差込式。貫孔1ヶ所。
191	車權受台部軸	c-67-00-d	7952	丸木	トネリコ	2.80	2.40	1	2点接合。角軸差込式。貫孔1ヶ所。
192	車權受台部軸	c-66-09-b c-66-09-c	861	板目	コナラ	27.40	101.8	1	1 角軸差込式。貫孔1ヶ所。
193	車權受台部軸	c-66-09-b	2175	半割	コナラ	28.90	119.0	1	1 角軸差込式。貫孔1ヶ所。
194	車權受台部軸切断品	c-66-29-a	1886	板目	クワ	11.45	34.7	1	1 角軸差込式。貫孔1ヶ所。
195	車權受台部軸	c-67-00-a	1921	板目	カエデ	( 12.80 )	( 48.9 )	1	2点接合(貫含む)。角軸差込式。貫孔1ヶ所。木取り目：板紐。
196	車權受台部軸頭部片	c-66-38-b	13421	板目	カエデ 根：カエデ	( 7.07 )	( 55.0 )	1	2点接合(貫含む)。角軸差込式。貫孔1ヶ所。
197	車權受台部軸	c-66-19-b	4650	板目	カエデ	( 8.40 )	( 31.2 )	1	2点接合。角軸差込式。貫孔1ヶ所。
198	車權受台部軸	c-66-28-a	842	板目	カエデ	( 8.10 )	( 29.7 )	1	1 角軸差込式。貫孔1ヶ所。
199	車權受台部軸	c-67-01-a	3519	板目	カエデ	( 11.45 )	( 28.3 )	1	1 角軸差込式。
200	車權受台部軸	c-67-10-c	15148	板目	カエデ	( 17.30 )	( 62.4 )	1	1 角軸差込式。
201	車權受台部軸	c-67-10-b	15155	板目	クワ? 貫：クワ?	18.50	48.5	1	2点接合(貫含む)。角軸差込式。貫孔1ヶ所。
202	車權受台部軸	c-66-19-b	4663	板紐	アジサイ	( 15.80 )	( 24.4 )	1	
203	車權受台部軸	c-66-19-a	5542	丸木	モミ	( 13.00 )	( 31.1 )	1	
204	車權受台部軸	d-67-91-c	5310	板紐	カエデ	( 16.20 )	( 37.8 )	1	
205	車權柄部片	d-67-92-d	4932	板目	ハンノキ	( 36.40 )	( 406.0 )	1	11孔式。
206	車權柄部片	c-67-30-b	10197	板目	○モクレン	( 41.10 )	( 884.0 )	1	55点中1点実測。孔式。イトクバ付。
207	車權柄部片	c-67-00-d	7358	板目	トネリコ	( 32.75 )	( 360.0 )	1	12孔式。
208	車權柄部片	c-67-01-a	3538	板目	○モクレン	( 89.10 )	( 790.0 )	1	12孔式。
209	車權柄部切断品片	c-66-29-d	211	板目	モクレン	( 47.75 )	( 610.0 )	1	4点接合。1孔式。孔寸法縦2.50cm×横3.70cm。
210	車權柄部切断品片	c-67-10-b c-67-10-c	8575	板目	○キハダ	( 40.80 )	( 722.0 )	1	11孔式。
211	車權柄部片	c-67-00-c	12569	半割	モクレン	( 51.50 )	( 678.0 )	1	2点接合。孔1ヶ所。
212	車權柄部片	c-66-19-d	2391	板目	モクレン	( 19.90 )	( 224.0 )	1	2点接合。孔1ヶ所。
213	車權柄部片	c-66-19-d	4745	板目	モクレン(コブシ)	( 14.30 )	( 154.0 )	1	77点中6点実測。2孔式。

表V-35 0B層掲載木製品(7)

図 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り 樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	備 考	
214	62 単樫柄部片	c-67-10-d	9649	板目	サクラ	( 76.00 ) 5.90 ( 37.70 ) ( 3.60 ) ( 3.25 ) ( 240.0 )	4.00 ( 1080.0 )	1	1 孔1ヶ所。	
215	- 単樫柄部片?	c-66-28-b	1413	板目	モクレン	( 18.90 ) ( 1.90 )	3.20 ( 54.0 )	1	1 孔1ヶ所。	
216	62 単樫柄部片	c-66-09-d	1183	板目	ヒノキ/アスナロ?	15.45 2.70	2.98	1	1	
217	62 単樫柄部切断品	d-66-99-c	2219	板目	ヒノキ/アスナロ?ネズコ?	( 20.90 ) 3.02	1.15 ( 36.0 )	1	1	
218	62 単樫水掻部片	c-66-09-c	365	板目	サクラ	21.90 3.50	1.30 71.6	1	1	
219	62 単樫水掻部切断品	c-66-19-a	4739	板目	キハダ	( 30.80 ) 4.20	1.50 ( 96.6 )	1	33点接合。	
220	62 単樫水掻部片	c-66-19-a	3904	板目	シナノキ	( 71.90 ) 4.00	2.30 ( 300.0 )	1	1	
221	62 単樫水掻部片	c-67-10-a	9660	板目	キハダ	( 132.50 ) 4.40	3.40 ( 1020.0 )	1	1	
222	62 単樫水掻部片	d-67-91-a d-67-91-b	5224	丸木	サクラ	( 59.90 ) 5.10	2.00 ( 369.0 )	1	33点接合。	
223	62 単樫水掻部片	c-67-32-d	10324	板目	ハンノキ	( 11.40 ) ( 4.60 )	2.55 ( 66.7 )	1	1	
224	62 単樫水掻部切断品片	c-66-18-c	990	板目	○サクラ	18.60 4.10	2.50	1	1	
225	62 単樫水掻部切断品	d-67-72-d	4434	追紐	ヒノキ/アスナロ?	( 72.85 ) 4.50	3.30 ( 455.0 )	1	土樹種?	
226	65 早樫柄部片	d-67-72-c	4433	板目	サクラ	( 34.40 ) ( 6.30 )	2.60 ( 255.0 )	1	1 肩部刻み付。	
227	65 早樫柄部切断品片	c-67-40-b	10585	板目	オニグルミ	( 40.50 ) 3.19	2.40 ( 204.0 )	1	1	
228	65 早樫柄部片	c-67-02-c	3344	追紐	ハンノキ	29.60 3.00	2.60	1	1 イトクバ付。	
229	65 早樫柄部切断品	c-66-09-b	15029	板目	モクレン	24.00 2.70	2.90	1	1	
230	65 早樫柄部切断品	c-66-19-a	5616	板目	モクレン	( 13.30 ) ( 4.75 )	1.40 ( 34.0 )	1	1	
231	65 早樫柄部片	c-66-09-d	15366	板目	モクレン	( 16.00 ) 6.65	2.15 ( 118.3 )	1	1	
232	65 早樫柄部切断品片	c-66-09	15043	追紐	トネリコ	8.80 ( 6.10 )	0.80 ( 24.0 )	1	1	
233	66 早樫水掻部先端部切断品片	c-66-09-d	1198	板目	モクレン	31.50 8.30	1.70	244.0	1	1
234	66 早樫水掻部切断品	c-67-10-b	9867	板目	コナラ	34.65 9.78	1.40	296.2	1	33点接合。
235	66 早樫水掻部切断品	c-66-29-a	1845	板目	モクレン	( 32.00 ) ( 9.60 )	( 1.80 ) ( 263.0 )	1	1 丸孔あり。	
236	66 早樫水掻部片	c-66-29-b	2338	板目	モクレン	36.10 7.00	2.10	211.0	1	1
237	66 早樫水掻部切断品	c-67-10-a	6803	追紐	モクレン(コブシ)					

表 V-36 0 B 層掲載木製品 (8)

図 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体	破 片	備 考
238	早樫水掻部片	d-67-81-d	3059	榎目		ヤナギ	( 50.60 ) 8.70 ( 2.40 )	( 412.0 )	1	1	
239	早樫水掻部切断品	c-67-01-a	11947	追衹		ハシドイ	52.80 5.55 1.00	159.0	1	2	2点接合。
240	早樫水掻部片	c-66-09-b	2174	榎目		モクレン	( 42.00 ) 2.05 7.45	( 297.8 )	1	2	2点接合。
241	早樫水掻部片	c-66-09-c	744	追衹		モクレン	( 26.30 ) 7.40 1.30	( 167.9 )	1	2	2点接合。
242	早樫片	c-67-40-c	10581 10753	榎目		モクレン	200.03 18.30 3.20	( 1890.0 )	1	3	3点接合。木取り廻部。榎目、榎目。
243	早樫片	d-67-92-a	4930	榎目		スギ	( 105.65 ) 7.80 3.70	( 800.0 )	1	11	11点接合。他に接合しない破片多数あり。
244	早樫片	d-67-71-c d-67-72-d	3611	榎目		モクレン	( 153.00 ) 11.80 3.10	( 1350.0 )	1	5	5点接合。裏面に刃物痕あり。
245	早樫片	d-67-82-b	4361	榎目		トネリコ	116.70 9.70 3.20	( 960.0 )	1	4	4点接合。切痕あり。
246	早樫	d-67-81-b	2477	榎目		サクラ	150.40 6.60 2.80	820.0	1	1	
247	早樫片	d-67-92-a d-67-92-b d-67-92-d	3330	追衹		サクラ	( 86.80 ) 8.10 2.80	( 410.0 )	1	1	
248	早樫片	c-67-00-b c-67-00-c c-67-01-d	9809	丸木		ヤナギ	( 137.50 ) 5.30 2.70	( 810.0 )	1	3	3点接合。
249	早樫握部	c-66-19-b	2640	榎目		ハンノキ 軸：ハンノキ	11.30 4.90 2.80	84.0	1	3	3点接合(柄片と目釘含む)。柄片入。目釘入1ヶ所。 木取り本体：榎目、榎目。
250	早樫握部	c-66-09-c	339	榎目		カツラ	4.80 12.70 3.00	( 94.0 )	1	3	3点接合。
251	早樫握部	c-66-19-c	2643	榎目		モクレン 榎：ハンノキ	10.00 4.00 2.30	57.0	1	2	2点接合(榎含む)。榎入。目釘孔1ヶ所あり。木取り本体：榎目、榎目。
252	早樫握部	c-66-19-b	3846	榎目		ハンノキ 軸と目釘：ヒノキ？アスナロ？	11.45 3.70 2.55	( 64.6 )	1	4	4点接合(柄片と目釘2点含む)。柄片入。目釘入孔2ヶ所。
253	早樫握部	c-66-09-b	148	榎目		○ハンノキ	16.55 5.05 2.60	116.0	1	1	1イトクバ付。木釘孔6ヶ所の内、木釘入5ヶ所。
254	早樫握部片	c-66-09-b	15068	榎目		カエデ	( 7.15 ) 2.37 1.80	( 15.8 )	1	1	1イトクバ付。
255	早樫握部	c-67-00-b c-67-00-c	9812	追衹		モクレン(コブシ) 榎：ハンノキ	26.80 6.25 4.40	276.4	1	3	3点接合(目釘と柄片含む)。柄片入。目釘入孔1ヶ所。 木取り本体：追衹、榎目。
256	早樫握部	d-67-91-b	4046	板榎		キハダ 軸：サクラ 目釘：アジサイ	19.90 3.60 4.30	( 141.2 )	1	3	3点接合(柄片と目釘含む)。柄片入。目釘入孔1ヶ所。
257	早樫握部	d-66-99-c	2031 2039 2814	榎目		スギ？ネズコ？ヒノキ？	19.00 2.60 3.85	141.6	1	3	3点接合。線刻付。目釘孔1ヶ所。
258	早樫握部	c-67-00-c	9810	榎目		ハコヤナギ 軸：モミ	12.40 2.65 2.30	46.0	1	4	4点接合(榎と目釘と柄片含む)。柄片入。柄片に榎入。目釘入孔1ヶ所。 木取り本体：榎目、榎目。
259	早樫握部	c-66-09-b	862	榎目		スギ？ネズコ？ヒノキ？	11.90 3.10 2.40	55.1	1	3	3点接合(目釘2点含む)。目釘入孔2ヶ所。角孔寸法2.45cm×1.30cm。
260	あか汲み片	c-67-51-a	10567	榎木		○ハリギリ	( 36.60 ) 17.80 8.10	( 782.0 )	1	5	5点接合。イトクバ付。

表V-37 0B層掲載木製品(9)

図層 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備考
261	あか汲み片	d-67-90-b d-67-90-c	4967	横木	ハリギリ	( 23.3 ) ( 10.1 ) 3.72 ( 270.1 )	( 270.1 )	1	3	3点接合。
262	あか汲み片	d-67-92-c d-67-92-d	3329	横木	ハリギリ	( 27.00 ) ( 12.00 ) 3.70 ( 328.0 )	( 328.0 )	1	3	3点中1点実測。
263	あか汲み片	d-67-92-a	4869	横木	ヤナギ	26.05 ( 8.80 ) ( 2.85 ) ( 90.8 )	( 90.8 )	1	12	12点接合。補修孔あり。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
264	あか汲み片	c-66-09-b	595	横木	キハダ	( 18.55 ) ( 4.40 ) ( 2.59 ) ( 76.0 )	( 76.0 )	1	1	
265	あか汲み片	c-66-09-b c-66-09-a	1063 3680	横木	ハンノキ	( 21.90 ) 20.40 ( 7.20 ) ( 233.7 )	( 233.7 )	1	8	8点接合。補修孔2対あり。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
266	あか汲み片	c-67-00-a	7160	横木	ハンノキ	( 14.65 ) 13.20 4.50 ( 202.4 )	( 202.4 )	1	1	1底面閉板。
267	あか汲み片	c-67-00-a c-67-00-b	6469	横木	ハンノキ	( 19.72 ) ( 1.20 ) ( 7.30 ) ( 87.2 )	( 87.2 )	1	4	4点接合。
268	あか汲み片	c-66-19-b	2920	横木	ハンノキ	( 14.13 ) ( 5.70 ) ( 2.35 ) ( 70.7 )	( 70.7 )	1	1	
269	あか汲み片	c-67-41-a	10617	横木	ハリギリ	( 14.20 ) ( 7.00 ) 3.60 ( 74.7 )	( 74.7 )	1	2	2点接合。
270	あか汲み側板片	d-66-99-c	15446	横木	ハリギリ	( 14.00 ) ( 5.70 ) ( 2.80 ) ( 45.6 )	( 45.6 )	1	1	
271	あか汲み片	c-66-27-b	15036	横木	ヒノキ?アスナロ?	( 15.60 ) ( 4.40 ) ( 3.40 ) ( 77.7 )	( 77.7 )	1	1	
272	あか汲み側板片	c-67-00-a	15189	横木	ハリギリ	( 5.60 ) ( 7.75 ) ( 1.75 ) ( 47.1 )	( 47.1 )	1	2	2点接合(樹皮含む)。容器側板片?樹皮結束付。
273	あか汲み側板片	c-66-29-a	1887	横木	ハリギリ	( 20.40 ) ( 5.10 ) ( 7.00 ) ( 96.0 )	( 96.0 )	1	3	3点接合。底板補修の木釘孔3ヶ所。
274	あか汲み柄片	d-67-91-a	4850	横木	ハンノキ	( 15.70 ) ( 3.10 ) ( 3.40 ) ( 72.4 )	( 72.4 )	1	1	
275	あか汲み柄片	c-66-28-a	1390	横木	カエデ	( 12.20 ) ( 3.20 ) ( 2.40 ) ( 56.5 )	( 56.5 )	1	1	
276	あか汲み柄片	c-67-10-b	15153	横木	ハンノキ	( 16.10 ) ( 3.90 ) ( 4.80 ) ( 139.5 )	( 139.5 )	1	1	1イトクバ付。
277	あか汲み柄片	c-67-10-c	15327	横木	ハンノキ	( 11.10 ) 2.25 3.10 ( 48.9 )	( 48.9 )	1	1	
278	あか汲み柄片	c-66-18-c	1832	横木	ハリギリ	( 20.60 ) ( 3.80 ) ( 4.80 ) ( 230.0 )	( 230.0 )	1	1	
279	あか汲み柄片	c-67-41-d	15451	横木	モクレン	( 19.15 ) ( 4.40 ) ( 2.90 ) ( 113.8 )	( 113.8 )	1	1	
280	あか汲み柄片	c-67-10-b	12539	横木	ハンノキ	( 20.80 ) ( 7.30 ) 6.20 ( 227.3 )	( 227.3 )	1	2	2点接合。
281	あか汲み柄片	c-66-19-a	2588	横木	ハンノキ	( 13.40 ) ( 7.00 ) ( 4.85 ) ( 158.0 )	( 158.0 )	1	3	3点接合。把手部。
282	あか汲み柄片	c-66-19-a	5807	横木	ハリギリ	( 15.90 ) ( 4.15 ) ( 3.00 ) ( 77.3 )	( 77.3 )	1	1	1イトクバ付。把手部。
283	あか汲み柄片	c-67-00-d	7151	横木	ハンノキ	( 16.10 ) ( 3.00 ) ( 6.50 ) ( 76.0 )	( 76.0 )	1	2	2点接合。把手部。
284	回転式鏝頭柄中柄	d-67-91-b d-67-91-c	5263	椀目	カエデ	23.22 1.97 1.67 39.2	39.2	1	1	11本式。



表V-39 0 B層掘載木製品 (11)

図 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備 考
309	回転式燧頭銚中柄片	c-66-09-c	913	板目		カエデ	( 16.60 ) 2.10 1.80	( 34.3 )	1	1	1本式。
310	回転式燧頭銚中柄片	c-67-10-c	15328	1/4割		カエデ	( 16.80 ) 1.70 ( 2.30 )	( 33.8 )	1	1	1本式。
311	回転式燧頭銚中柄基部	d-66-99-d	2543	1/3割		カツラ	14.50 2.50	22.0	1	1	1本式。
312	回転式燧頭銚中柄	c-66-19-a	2198	板目		アジサイ	20.40 2.20	17.4	1	1	2本組式。短刻列付。
313	回転式燧頭銚中柄	c-66-09-a	3678	板目		カエデ	21.50 2.75	26.2	1	3	3点接合。2本組式。短刻付。
314	回転式燧頭銚中柄	c-67-10-c	15330	半割		アジサイ	24.70 2.00	22.4	1	1	2本組式。短刻付。
315	回転式燧頭銚中柄	c-66-09-b	464	半割		アジサイ	23.40 3.40	26.0	1	1	2本組式。
316	回転式燧頭銚中柄	d-67-91-d	5893	1/3割		アジサイ	20.85 2.70	34.0	1	1	2本組式。
317	回転式燧頭銚中柄片	c-67-10	15111	1/4割		アジサイ	( 20.20 ) 3.00 1.60	( 39.6 )	1	1	2本組式。
318	回転式燧頭銚中柄	c-66-09-c	588	半割		アジサイ	24.40 3.70	30.0	1	1	2本組式。短刻列付。
319	回転式燧頭銚中柄	c-66-18-c	2235	半割		アジサイ	23.40 2.40	38.0	1	1	2本組式。短刻列付。
320	回転式燧頭銚中柄	c-67-62-b	10363	半割		アジサイ	25.35 3.40	43.0	1	1	1337とセット。2本組式。
321	回転式燧頭銚中柄	c-66-28-b	14418	板目		アジサイ	25.92 3.40	25.3	1	1	2本組式。短刻列付。
322	回転式燧頭銚中柄	c-66-19-b	2424	板目		アジサイ	28.40 1.40	29.0	1	1	2本組式。
323	回転式燧頭銚中柄片	c-66-09-a	2573	半割		アジサイ	( 29.60 ) 3.18 1.38	( 41.7 )	1	1	2本組式。短刻列付。
324	回転式燧頭銚中柄	c-66-19-b	4228	半割		アジサイ	32.30 2.60	19.0	1	1	2本組式。階段状刻目列付。
325	回転式燧頭銚中柄片	c-66-09-d	1184	板目		アジサイ	( 31.25 ) 4.10 1.55	( 49.2 )	1	1	2本組式。
326	回転式燧頭銚中柄	c-66-09-c	405	追証		アジサイ	34.80 2.50	57.0	1	1	2本組式。短刻列付。
327	回転式燧頭銚中柄	c-66-09-b	1610	半割		アジサイ	37.80 2.50	60.0	1	1	2本組式。短刻列付。
328	回転式燧頭銚中柄片	c-66-09-b	707	1/3割		アジサイ	( 46.00 ) 2.60 1.40	( 80.0 )	1	1	2本組式。短刻列付。
329	回転式燧頭銚中柄片	d-66-99-c	1995	半割		アジサイ	( 14.20 ) 2.20 1.30	( 19.3 )	1	1	2本組式。
330	回転式燧頭銚中柄片	c-66-09-d	1185	1/4割	○	コナラ	( 21.76 ) 2.30 2.45	( 27.1 )	1	1	2本組式。
331	回転式燧頭銚中柄片	c-67-00-b	8200	半割		アジサイ	( 20.35 ) ( 3.50 ) 1.70	( 442.0 )	1	2	2点接合。2本組式。
332	回転式燧頭銚中柄先	c-67-10-c	15358	丸木		ハシドイ	( 5.50 ) 1.20 1.30	( 4.4 )	1	1	

表V-40 0 B層掘載木製品 (12)

図 番 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
333	筥先状製品片	d-66-99-b d-66-99-c	2222	丸木		モミ	( 13.30 ) 2.30 2.80	( 37.3 )	1	1
334	回転式難頭銚中柄片	c-67-10-b	15310	1/4割		アジサイ	( 17.10 ) 2.10 1.50	( 27.6 )	1	12本組式。
335	回転式難頭銚中柄片	c-66-09-d	2876	半割		アジサイ	( 15.90 ) 2.00 1.30	( 20.4 )	1	12本組式。
336	回転式難頭銚中柄片	c-67-10-a c-67-10-b	12063	板目		イチイ	( 17.50 ) 2.05 1.65	( 33.6 )	1	12本組式。
337	回転式難頭銚中柄片	c-67-62-b	10364	半割		アジサイ	( 18.30 ) ( 2.45 ) ( 1.45 )	( 26.0 )	1	1320とセット。2本組式。
338	回転式難頭銚中柄片	c-67-10-b	9727	半割		アジサイ	( 28.70 ) 2.05 16.00	( 54.0 )	1	11本式。
339	回転式難頭銚中柄片	d-67-91-c	5950	半割		カツラ	( 27.20 ) 2.20 1.80	( 49.0 )	1	12本組式。
340	回転式難頭銚中柄基部 片	c-66-18-c	15414	1/4割		アジサイ	( 8.10 ) 1.50 1.30	( 7.0 )	1	12本組式。短刻列付。
341	回転式難頭銚中柄基部	c-67-00-a	7191	半割		アジサイ	10.30 2.45 1.40	13.3	1	12本組式。短刻列付。
342	回転式難頭銚中柄片	c-66-09-b	889	板目		アジサイ	( 11.40 ) ( 1.45 ) ( 1.15 )	( 7.6 )	1	12本組式。
343	回転式難頭銚中柄基部 片	c-66-18-c	15413	1/4割		ヤナギ	( 11.50 ) 1.80 1.40	( 16.3 )	1	12本組式。
344	回転式難頭銚中柄片	c-66-19-b	4669	板目		アサダ	( 12.20 ) 3.00 1.60	( 27.1 )	1	12本組式。短刻付。
345	回転式難頭銚中柄片	c-66-09-c	15069	1/4割		カエデ	( 13.50 ) 1.60 1.40	( 17.0 )	1	12本組式。
346	回転式難頭銚中柄基部 片	c-66-09-b	15418	1/4割		カエデ	( 11.90 ) 3.30 2.20	( 35.2 )	1	12本組式。
347	回転式難頭銚中柄基部 片	c-66-19-b	4693	丸木		クワ?	( 12.10 ) 1.90 1.50	( 18.6 )	1	12本組式。階段状刻目列付。
348	回転式難頭銚中柄基部 片	c-67-00-c	8535	半割		アジサイ	( 23.20 ) ( 2.25 ) 0.90	( 21.9 )	1	11本式。短刻列付。
349	回転式難頭銚指掛部	c-67-10-b	12415	丸木	○	アジサイ	6.15 3.60 2.15	13.4	1	4点接合(樹皮巻2点含む)。イタクバ付。樹皮巻付。目釘孔1カ所。
350	回転式難頭銚指掛部片	c-66-09-b	572	板目		サクラ	7.10 4.00 2.20	( 15.0 )	1	4点接合。
351	回転式難頭銚指掛部	c-66-08-c	945	丸木		クワ?	8.30 4.00 2.40	( 29.7 )	1	1
352	回転式難頭銚指掛部片	d-66-99-b	2496	丸木		ツル性植物 (アドゥ・サルナシ以外)	( 8.70 ) 3.30 2.15	( 18.7 )	1	3点接合。
353	回転式難頭銚指掛部片	c-66-29-a	2100	追証		ヒノキ?アスナロ?	( 7.10 ) ( 2.70 ) ( 2.20 )	( 13.4 )	1	2点接合。イタクバ付。
354	回転式難頭銚指掛部片	d-66-99-d	15450	丸木		ヤナギ	( 4.90 ) ( 1.70 ) ( 2.10 )	( 5.6 )	1	3点接合。
355	回転式難頭銚指掛部	c-66-29-d	285	丸木		ヤナギ	6.80 4.60 3.35	( 33.0 )	1	1
356	回転式難頭銚指掛部	c-66-09-c	362	丸木		ハンノキ	7.50 5.12 3.50	( 21.7 )	1	4点接合。イタクバ付。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。



表V-41 0 B層掲載木製品 (13)

図 番 号	國 番 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り 状況	樹 種	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	備 考
357	86	回転式髹頭銚指掛部	d-66-99-c	2815	丸木		アジサイ	9.18 4.10 2.84	57.2	1	
358	86	回転式髹頭銚指掛部	c-67-10-b	9731	丸木		アジサイ	8.40 4.36 3.90	75.9	1	
359	86	回転式髹頭銚指掛部片	c-66-48-a	13795	丸木		ハコヤナギ	( 7.20 ) ( 4.80 ) 4.10	( 62.8 )	1	33点接合。
360	86	回転式髹頭銚指掛部片	d-67-91-d	5003	丸木		ヤナギ	( 8.00 ) 4.20 4.30	( 65.7 )	1	
361	86	回転式髹頭銚指掛部片	c-67-00-b	6655	丸木		ハンノキ	( 7.00 ) ( 4.00 ) 3.45	( 46.8 )	1	22点接合。
362	86	回転式髹頭銚指掛部	c-66-18-c	1297	丸木		サルナシ?	8.10 3.90 3.40	45.4	1	
363	86	回転式髹頭銚指掛部片	c-66-18-a	522	丸木		コナラ	11.36 4.60 2.89	( 68.0 )	1	
364	87	魚突鉤銚台部ミニチュ ア片	c-66-19-d	2303	板証		アジサイ	( 9.20 ) 0.70 0.65	( 2.8 )	1	
365	87	魚突鉤銚台部ミニチュ ア	c-66-19-d	2301	板目		アジサイ	13.90 0.80 0.50	3.2	1	
366	87	魚突鉤銚台部片	c-66-09-d	15367	板証		モクレン	( 9.00 ) 1.20 1.00	( 6.8 )	1	
367	87	魚突鉤銚台部	c-66-08-c	1379	半割		アジサイ	27.00 1.58 1.29	32.4	1	樹皮紐巻痕あり。
368	87	魚突鉤銚台部	d-66-99-c	2540	丸木		キハダ	34.00 2.50 2.40	96.1	1	22点接合。短刻列付。
369	87	魚突鉤銚台部片	c-66-18-c	828	丸木		ハコヤナギ	( 32.40 ) 2.70 2.70	( 128.5 )	1	44点接合。
370	87	魚突鉤銚台部切断品片	c-66-19-b	2937	丸木		ナナカマド?リンゴ?	14.10 2.40 ( 2.00 )	( 40.0 )	1	
371	87	魚突鉤銚台部未製品片	d-67-91-b d-67-91-c	5239	丸木		ヤナギ	( 49.85 ) 1.60 1.60	( 80.1 )	1	77点中5点接合5点実測。残り2点接合の可能性あり。
372	88	魚突鉤銚台部片	c-66-19-b	2929	1/4割		カエデ	( 25.20 ) 2.25 2.15	( 67.0 )	1	33点接合。イトクハ付。
373	88	魚突鉤銚台部片	d-67-82-a	15224	丸木		トネリコ	( 10.10 ) 1.50 1.70	( 17.4 )	1	1ペルト出土。
374	88	魚突鉤銚台部切断品	c-66-09-a	4294	板目		アジサイ	19.50 2.30 1.20	( 34.4 )	1	
375	88	魚突鉤銚台部切断品	d-66-99-b	2223	丸木		アジサイ	21.80 2.40 1.85	45.8	1	1短刻付。
376	88	魚突鉤銚台部片	c-66-19-b	2923	板目		モクレン	( 14.10 ) 3.80 2.40	( 66.9 )	1	
377	88	魚突鉤銚台部切断品	c-66-19-d	2300	丸木		モミ	16.80 2.00 1.80	36.6	1	
378	88	回転式髹頭銚中柄・魚 突鉤銚台/基部切断品	c-66-19-b	15013	逆証		カエデ	7.40 1.60 0.60	3.4	1	
379	88	回転式髹頭銚中柄・魚 突鉤銚台/基部切断品	d-66-99-c	2000	半割		アジサイ	17.75 2.20 1.20	26.4	1	
380	88	回転式髹頭銚中柄・魚 突鉤銚台/基部切断品	d-67-81-c	3163	逆証		スギ	27.53 2.55 2.68	102.1	1	

表 V-42 0 B層掘載木製品 (14)

図 番 号	図 番 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
381	88	回転式難頭鋸中柄・魚突鉤鋸台/基部片	c-67-10-a	8928	丸木		アジサイ	( 26.00 ) 1.80 1.70	( 44.0 )	1 1	
382	88	回転式難頭鋸中柄・魚突鉤鋸台/基部切断品	c-66-09-b	620	丸木		モミ	13.50 2.00 1.80	32.5	1 1	
383	88	魚突鉤鋸棒(柄)片	c-67-00-a	7174	丸木		コナラ	( 36.30 ) 2.90 2.70	( 166.5 )	1 1	
384	89	魚突鉤鋸棒(柄)片	c-66-28-a	15397	板紐		サクラ	( 29.10 ) 2.60 2.45	( 140.0 )	1 1	
385	89	魚突鉤鋸棒(柄)片	c-67-00-b	7858	丸木		キハダ	( 32.20 ) 3.20 2.80	( 171.4 )	1 1	
386	89	回転式難頭鋸・魚突鉤鋸/棒(柄)切断品	c-66-09-b	429	丸木		トネリコ	56.70 3.10 3.00	324.0	1	33点接合。
387	89	回転式難頭鋸・魚突鉤鋸/棒(柄)	c-67-10-d	9659	板紐		サクラ	67.90 2.40 2.40	230.0	1 1	
388	90	回転式難頭鋸・魚突鉤鋸/棒(柄)	c-67-10-b c-67-11-a	9709	丸木		サクラ	101.80 3.20 3.20	660.0	1 1	
389	89	回転式難頭鋸・魚突鉤鋸/棒(柄)片	d-67-91-a	5181	丸木		サクラ	( 82.80 ) 3.30 3.50	( 640.0 )	1	22点接合。
390	90	魚突鉤鋸棒(柄)	c-67-02-a	4944	丸木		ヤナギ	121.60 3.40 3.10	740.0	1 1	
391	89	回転式難頭鋸・魚突鉤鋸/棒(柄)片	c-67-00-c	12595	板紐		コナラ	( 66.70 ) 1.70 1.40	( 100.0 )	1 1	
392	90	魚突鉤鋸棒(柄)片	d-67-91-b	5329	丸木		トネリコ	( 146.15 ) 3.20 3.25	( 765.0 )	1	55点接合。
393	90	魚突鉤鋸棒(柄)片	c-67-00-c c-67-00-d	7574	丸木		モミ	( 73.70 ) 3.70 3.60	( 625.0 )	1	44点接合。
394	90	回転式難頭鋸・魚突鉤鋸/棒(柄)片	d-67-81-b d-67-71-c	3991	丸木		ハンノキ	( 172.30 ) 3.10 3.00	( 1020.0 )	1	22点接合。
395	89	魚突鉤鋸棒(柄)片	c-67-61-a	10167	丸木		ヤナギ	( 61.70 ) 3.90 3.40	( 510.0 )	1	22点接合。
396	90	回転式難頭鋸棒(柄)片	c-67-61-a c-67-61-c c-67-61-d	10163	板紐		○シナノキ	( 239.50 ) 2.90 2.90	( 1355.0 )	1	22点接合。
397	91	矢中柄片	c-66-18-c	15468	板紐		ハシドイ	( 8.20 ) 1.10 1.00	( 5.4 )	1 1	
398	91	矢中柄	c-67-02-c	3357	板紐		アジサイ	11.00 1.01 0.98	5.6	1 1	
399	91	矢中柄	c-67-12-b	2647	丸木		ハギ?	13.50 1.40 1.40	15.0	1 1	
400	91	矢中柄	c-66-18-b	2433	半割		アジサイ	14.75 1.15 1.10	10.0	1 1	
401	91	矢片	c-66-19-d	2296	板紐		アジサイ	( 6.80 ) 1.30 1.25	( 5.5 )	1	1鳥用?
402	91	矢片	c-66-09-d	15371	1/4割		カハノキ	( 7.65 ) 1.75 1.40	( 10.5 )	1	1鳥用?イトクハ付。
403	91	矢	c-66-09-c	403	丸木	○	カエデ	9.40 1.71 1.77	12.0	1	1鳥用?
404	91	矢中柄片	d-67-92-a	15231	板紐		アジサイ	( 13.88 ) 1.50 1.35	( 13.9 )	1	1鳥用?

表V-43 0 B層掲載木製品 (15)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 残痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	破 片	備考
405 91	矢片	c-66-09-d	2564	板柱		イチイ	( 6.65 ) 1.30 1.20	( 4.8 )	1	1	1 烏用?イトクハ付。
406 91	矢	c-66-09-c	402	丸木		ハシドイ?	7.32 1.65 1.64	7.0	1	1	1 烏用?
407 91	矢	d-66-99-c	2513	板柱		スギ?ネズコ?	5.10 0.85 0.85	1.8	1	1	1 烏用?
408 91	矢片	c-66-18-c	15296	丸木		ハシドイ	( 5.64 ) 1.30 1.40	( 5.8 )	1	1	1 烏用?
409 91	矢片	c-66-09-d	15372	1/4割		コナラ	( 6.50 ) 1.52 1.30	( 8.0 )	1	1	1 烏用?
410 91	矢片	c-66-09-a	15423	板柱		ヤナギ	( 6.73 ) 1.56 1.60	( 10.5 )	1	1	1 烏用?線刻付。
411 91	矢片	c-66-28-b	15079	丸木		コナラ	( 8.80 ) 1.60 1.55	( 8.8 )	1	1	1 烏用?
412 91	矢片	c-66-19-a	5535	丸木		ハギ	( 9.00 ) 1.40 1.50	( 10.4 )	1	1	1 烏用?
413 91	矢	c-66-18-d	2910	追柱		アジサイ	10.80 1.40 1.23	9.7	1	1	1 烏用?
414 91	矢片	c-66-18-b	2091	板目		アジサイ	( 10.20 ) 0.95 1.30	( 9.2 )	1	1	1 烏用?イトクハ付。
415 91	矢中柄片	d-66-99-b	2536	板柱		アジサイ	( 9.15 ) 1.00 0.80	( 4.2 )	1	1	1 イトクハ付。
416 91	矢	d-67-91-a	4975	1/4割		アジサイ	12.90 0.76 0.70	4.4	1	1	
417 91	矢	c-66-19-b	3947	丸木		ハシドイ	12.20 1.63 1.55	17.1	1	1	1 烏用?
418 91	矢	c-66-09-a	866	1/3割		アジサイ	13.10 1.80 1.10	9.8	1	1	1 烏用?
419 92	矢柄	d-67-81-b d-67-81-c	2993	板柱	○	モミ	32.00 0.85 0.85	15.7	1	2	2点接合(樹皮巻含む)。楕圓帯状樹皮巻付。
420 92	矢柄片	c-67-32-d	10298	板柱		○ ヒノキ?アスナロ?	( 37.90 ) 0.83 0.87	( 22.0 )	1	1	
421 92	矢柄	c-67-32-d	10275	板柱		モミ	41.50 0.90 0.90	( 18.6 )	1	3	3点接合。
422 92	矢柄片?	c-66-19-d	2376	環		イネ科(ササ)	( 18.10 ) 1.00 1.00	( 12.0 )	1	2	2点接合。環状竹製品片。
423 92	矢柄?	c-66-19-a c-66-19-b	4698	丸木	○	ハギ	11.70 0.70 0.70	3.9	1	1	
424 92	矢筈片?	c-66-09-c	15426	板目		カエデ	( 4.59 ) 1.80 1.35	( 7.7 )	1	1	1 大型。
425 92	矢筈切断品	c-67-10-b	15318	板目		モミ	10.95 2.00 1.25	11.1	1	1	1 大型。
426 92	矢筈片	c-66-19-a	6075	丸木		アジサイ	( 8.65 ) 1.75 1.60	( 18.0 )	1	1	
427 93	弓片	c-67-40-c c-67-50-b	10571	丸木		イチイ	( 72.30 ) 3.42 2.40	( 270.0 )	1	1	
428 93	弓片	c-67-02-c	3354	1/4割	○	ニシキギ	( 30.80 ) ( 2.05 ) ( 2.00 ) ( 74.2 )	( 2.00 )	1	13	13点中11点接合と2点接合13点実測(樹皮巻8点含む)。細帯状樹皮巻付。樹皮巻痕多数あり。樹皮の幅0.55cm。他に樹皮破片多数あり。計測値は推定値。

表V-44 0 B層掘靴木製品 (16)

図 番 号	器 名 称	発掘区	遺物番号	木取り 樹皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体	備 考
429	弓筈片	c-67-10-b	15433	板痕 ○	イチイ	( 7.20 ) ( 1.55 ) ( 1.72 )	( 11.5 )	1	2点接合 (樹皮巻含む)。樹皮巻付。
430	テン補り尻切断品片?	c-67-02-b	4954	板痕	モクレン	( 18.15 ) 1.80	( 4.40 )	1	
431	仕掛弓台部ミニチュア片	c-66-09-a	15064	板痕	ヒノキ?アスナロ?	( 11.36 ) ( 1.83 )	( 0.41 )	1	線刻付。
432	仕掛弓台部ミニチュア	c-66-19-a	2744	板痕	スギ	15.85 1.45	0.30	1	
433	矢筒翼	c-67-10-c	8479	追痕 ○	ハリギリ	31.60 10.70	6.00	1	3点接合 (樹皮巻2点含む)。側縁イトクハ付。細帯状樹皮巻 (結束式) 付。樹皮なしの計測値は長さ30.60cm×幅8.80cm×厚さ1.90cm。
434	矢筒翼片	c-66-18-b	1482	板痕	コナラ	30.00 ( 4.00 )	( 1.90 )	1	2点接合。側縁イトクハ付。
435	矢筒翼片	c-66-18-b	15052	板痕	ハリギリ	21.80 ( 6.75 )	( 1.80 )	1	2点接合。彫刻付。
436	矢筒翼	d-67-81-b	3182	追痕	ハリギリ	41.20 8.40	2.30	1	5ヶ所角孔あり。側縁イトクハ付。
437	矢筒翼	c-66-08-b	1144	板痕	ヒノキ?アスナロ?	24.50 8.10	1.10	1	
438	矢筒翼片	c-66-09-b	717	追痕	ハンノキ	( 18.70 ) ( 5.30 )	( 1.70 )	1	側縁イトクハ付。
439	矢筒翼片?	c-66-18-d	14421	板痕	カツラ	( 12.35 ) 6.39	( 1.60 )	1	2ベルト出土。2点接合。
440	翼	c-66-19-d	2408	板痕	カエデ	6.30 5.40	1.20	1	
441	刀柄	d-66-99-c	2541	板痕 ○	カエデ	22.10 5.15	( 2.50 )	1	10点接合 (樹皮巻含む)。黒漆塗。樹皮巻付。釘孔11ヶ所内。細釘入1ヶ所。細釘入1ヶ所。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
442	山刀柄	d-66-99-c d-66-99-d	2784	板痕 ○	カエデ	19.10 4.60	( 2.40 )	1	4点接合 (目釘2点と樹皮巻含む)。細帯状樹皮巻 (頭部挿入式)。目釘入孔2ヶ所付。
443	小刀柄片	c-66-19-a	15181	板痕	カエデ	( 10.20 ) 2.85	( 1.25 )	1	イトクハ付。野引線あり。
444	小刀柄	c-66-28-c	281	板痕	スギ?	9.15 3.50	1.50	1	野引線あり。
445	小刀柄	c-66-08-c	15470	追痕	カエデ	8.90 3.46	( 1.40 )	1	野引線あり。
446	小刀柄	c-66-28-c	518	追痕	スギ	9.51 2.33	1.42	1	
447	小刀柄片	c-66-18-b	1869	板痕	カエデ	10.70 3.30	( 1.30 )	1	
448	小刀柄片	c-66-09-c	219	板痕	カエデ	( 12.25 ) 2.40	( 1.50 )	1	2点接合。
449	小刀柄	c-66-19-a	5503	板痕	カエデ	11.40 3.10	1.50	1	サビ付着。刻み付。
450	小刀柄	d-66-99-b	2842	追痕	スギ?	12.20 3.00	1.35	1	
451	小刀柄	c-66-19-a	5567	板痕	ヒノキ?アスナロ?	11.10 3.35	1.60	1	
452	小刀柄片	c-66-18-c	15462	板痕	カバノキ	13.10 4.10	( 1.77 )	1	

表V-45 0 B層掲載木製品 (17)

図 番 号	図 庫 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 残	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備 考
453	97	小刀柄	d-66-99-d	2797	柱目		イチイ	12.90 3.70 1.60	35.0	1	1	彫刻付。
454	97	小刀柄	d-66-99-c d-67-90-d	1975	半割		カエデ	14.60 3.80 1.75	42.5	1	1	
455	97	小刀柄片	c-66-28-a	846	柱目		カエデ	14.70 3.80 1.90	( 71.7 )	1	1	
456	97	小刀柄片	d-66-99-c	2051	板目		カエデ	( 14.10 ) 3.50 1.65	( 52.0 )	1	1	
457	98	小刀柄片	c-66-19-a	15082	柱目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	10.62 ( 2.51 ) ( 1.20 )	( 19.7 )	1	1	彫刻付。
458	98	小刀柄片	c-67-10-a	6802	板目		モクレン(コブシ)	( 11.65 ) 2.40 1.40	( 25.0 )	1	1	
459	97	小刀柄片	d-67-90-b	6327	柱目		カエデ 目釘: アジサイ	10.60 2.50 1.05	( 17.6 )	1	3	3点接合(目釘含む)。イトクハ付。木釘孔9ヶ所の内、木釘入7ヶ所。 他に目釘入孔1ヶ所。
460	97	小刀柄片	c-66-09-b	257	丸木	○	アジサイ	( 8.90 ) 2.55 1.70	( 22.1 )	1	1	
461	98	小刀柄	c-66-08-c	235	柱目		ネズコ?	11.15 2.60 1.80	( 32.6 )	1	1	
462	98	小刀柄片	c-66-09-d	2697	板目		カエデ	12.60 3.30 1.90	( 54.7 )	1	1	
463	97	山刀柄片	c-67-61-d	10138	板目	○	モクレン	12.90 4.00 1.80	47.5	1	8	8点接合(樹皮巻7点含む)。細帯状樹皮巻付。
464	98	小刀柄片	c-66-18-b	15404	柱目		カエデ?	( 4.04 ) ( 1.89 ) ( 0.45 )	( 2.1 )	1	1	彫刻付。
465	98	小刀柄片	c-66-18-a	15406	板目		カエデ	( 9.30 ) ( 1.58 ) 1.50	( 15.8 )	1	1	彫刻付。
466	98	小刀柄片	c-66-19-a	15480	柱目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 8.90 ) ( 1.20 ) ( 1.15 )	( 7.2 )	1	1	野引線あり。
467	98	小刀柄片	c-66-19-b	5485	柱目		ネズコ?アスナロ?	( 11.00 ) ( 1.45 ) ( 0.90 )	( 10.6 )	1	1	
468	98	小刀柄未製品片	c-66-37-b	15400	柱目		カエデ	( 10.50 ) 1.70 1.00	( 13.0 )	1	1	彫刻付。
469	98	小刀柄未製品	c-66-08-c	1355	柱目		カエデ	9.05 3.38 1.40	20.6	1	1	彫刻付。
470	98	小刀柄未製品	c-66-08-c	15440	柱目		カエデ	12.15 2.53 1.35	( 22.4 )	1	1	
471	98	小刀柄未製品	c-66-08-c	1151	柱目		カエデ	13.20 3.30 1.50	43.0	1	1	イトクハ付。
472	98	小刀柄未製品	c-66-09-b	1918	板目		ミズキ?	12.45 3.48 1.90	55.4	1	1	
473	98	小刀柄未製品	c-66-09-b	2166	丸木		ニシキギ	9.10 2.60 1.55	30.8	1	1	
474	98	小刀模造品	c-66-19-d	2364	板目		スギ?ヒノキ?ネズコ?	16.60 1.88 0.50	9.0	1	1	離型。
475	98	小刀模造品片	c-66-18-c	1833	板目		カツラ	( 16.95 ) 2.25 1.10	( 24.0 )	1	1	離型。
476	99	小刀樹皮製鞘	d-67-91-a	5232	樹皮	○	樹皮	15.90 5.10 6.10	45.3	1	1	1枚折り。

表 V-46 0 B層掲載木製品 (18)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
477	99 小刀樹皮裂鞘	c-66-27-c	157	樹皮	○	樹皮	13.80 5.70 1.40	33.2	1		2点接合(樹皮2枚重ね)。
478	100 小刀樹皮裂鞘片	c-66-09-a	145	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	( 14.55) 5.80 1.95	( 49.0)	1		2点接合(樹皮2枚重ね)。
479	99 小刀樹皮裂鞘	c-67-00-c	9787	樹皮	○	樹皮	13.95 4.70 4.20	( 19.4)	1		2点接合(縦横方向の異なる樹皮の2枚重ね)。線刻付。
480	100 小刀樹皮裂鞘片	c-67-23-a	15020	樹皮	○	樹皮	( 11.84) 5.47 2.54	( 30.5)	1		4点接合(樹皮2枚重ね)。
481	100 小刀樹皮裂鞘片	c-67-10-b	9708	樹皮	○	樹皮	( 9.95) 4.80 2.40	( 16.6)	1		線刻付。
482	100 小刀樹皮裂鞘片	c-66-08-d	520	樹皮	○	樹皮	( 8.41) 5.28 1.55	( 19.0)	1		2点接合(樹皮2枚重ね)。
483	100 鞘板片?	d-67-91-d	15475	板目		モクレン	( 5.12)( 3.93)( 0.45)	( 7.0)	1		
484	100 鞘板片	d-67-91-d	3328	板目	○	モクレン	( 11.90) 4.80 2.15	( 28.7)	1		3点接合(樹皮巻含む)。細帯状樹皮巻付(頭部挿入式)。
485	101 山刀鞘帯執部片	c-66-09-c	363	板目		カエデ	( 8.30) 2.70 1.47	( 14.0)	1		2点接合。
486	101 山刀鞘帯執部片	c-66-08-c	1603	板目		カエデ	( 8.90) 12.60 2.50	( 13.0)	1		
487	101 山刀鞘帯執部片	c-66-09-a	1201	板目	○	カエデ	( 9.90) 2.45 1.32	( 10.0)	1		1イトクハ付。
488	101 山刀鞘帯執部片	c-66-09-c	546	板目		カエデ	( 3.43)( 2.55) 1.71	( 9.0)	1		
489	101 山刀鞘帯執部片	c-66-29-a	2111	板目		カエデ	( 8.80) 2.15 1.40	( 14.5)	1		2計測値は推定値。
490	101 山刀鞘帯執部切断品片	c-66-29-a	1836	板目		カエデ	( 4.50) 2.61 1.40	( 8.4)	1		1彫刻付。
491	101 山刀鞘帯執部片	c-66-09-c	175	板目		カエデ	( 5.60) 2.78 1.60	( 12.0)	1		4点接合。
492	101 山刀鞘帯執部片	c-66-08-c	1126	板目		クワ?	( 4.20) 2.25 1.40	( 7.0)	1		
493	101 山刀鞘帯執部片	c-66-18-b	1276	連紐		トネリコ	( 4.40) 2.24 1.28	( 5.2)	1		
494	101 山刀鞘帯執部片	d-67-91-d	15478	板目		カエデ	( 3.20)( 1.20) 1.55	( 2.6)	1		
495	101 山刀鞘帯執部片	c-66-09-b	15376	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 5.20) 1.85 1.35	( 4.8)	1		
496	101 山刀鞘帯執部未製品	c-66-19-a	2746	板目		アジサイ	9.40 2.64 1.40	19.2	1		
497	102 袋式鉄拳柄片	c-66-19-b	4777	板目		コナラ	( 19.50) 10.35 3.95	( 184.0)	1		
498	102 袋式鉄拳柄切断品片	c-66-19-a	4744	板目		コナラ	14.90 14.50 7.30	( 556.0)	1		
499	103 鈎板片	c-66-28-c	15482	板目	○	コナラ	30.85 ( 11.20) 3.90	( 169.2)	1		
500	103 鈎板片	c-67-00-a	8194	板目		トネリコ	( 14.80)( 10.70) 3.60	( 141.3)	1		

表 V-47 0 B 層掲載木製品 (19)

図 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 部位	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備考
501	103 土掘棒	c-67-10-d	6774	丸木	コナラ	22.60 2.60 2.10	83.0	1	1	
502	103 土掘棒	c-66-19-a	5565	1/6割	コナラ	23.90 3.80 2.60	143.1	1	1	
503	103 土掘棒切断品	c-66-18-c	1423	板柁	コナラ	19.70 3.30 3.20	113.4	1	1	
504	104 土掘棒片	d-67-91-a	5201	板目	カエデ	( 33.20 ) 2.85 2.20	( 124.5 )	1	2	2点接合。厚さの薄い部分は0.50cm。
505	104 土掘棒	c-66-18-a	15483	丸木	クマシデ	44.20 2.40 2.30	166.6	1	1	
506	104 土掘棒	c-66-09-c	1926	丸木	ハシドイ?	49.70 1.75 2.10	134.2	1	1	
507	104 土掘棒片	c-66-09-b	1787	板目	モクレン	( 33.80 ) 3.50 1.80	( 128.0 )	1	1	1? 疑?
508	105 土掘棒	d-66-99-c	2287	柁目	カエデ	51.80 3.40 2.80	286.0	1	1	
509	105 土掘棒	c-66-19-b	3913	丸木	ハシドイ	81.00 4.00 3.20	620.0	1	2	2点接合。
510	105 土掘棒片	c-67-01-d c-67-11-a	12433	丸木	モクレン	( 93.80 ) 2.80 2.80	( 470.0 )	1	1	
511	106 縦翅片	c-67-40-b	10592	股木	クマシデ	( 11.50 ) 14.80 5.60	( 343.2 )	1	2	2点接合。枝利用式。
512	106 縦翅片	c-66-39-a	14491	股木	コナラ	( 15.30 ) 12.90 7.20	( 649.0 )	1	1	枝利用式。
513	106 縦翅片	d-66-99-c	2821	股木	ハンノキ	( 8.65 ) 15.30 5.95	( 496.3 )	1	1	枝利用式。
514	107 縦翅	d-67-91-d	15345	股木	コナラ	16.60 13.25 3.35	151.0	1	1	枝利用式。
515	106 縦翅	c-67-11-c	12028	股木	リンゴ?ハシドイ?	17.30 14.10 4.35	199.0	1	1	枝利用式。横断面寸法幅3.70cm×厚さ3.50cm。
516	106 縦翅	c-66-09-d	2197	股木	ハシドイ?	20.50 12.30 4.00	164.4	1	5	枝利用式。
517	107 縦翅片	d-67-81-c	4407	股木	モミ	( 19.20 ) 16.40 5.40	( 381.2 )	1	1	枝利用式。
518	107 縦翅	c-66-19-c	7236	股木	ハシドイ?リンゴ?	22.60 19.60 6.20	317.0	1	2	2点接合。枝利用式。
519	108 縦翅	d-67-81-c	3560	股木	カエデ	24.85 15.30 6.00	445.0	1	2	2点接合。枝利用式。
520	108 縦翅	c-66-19-a	2613	股木	コナラ	27.70 16.50 4.50	464.0	1	1	枝利用式。
521	109 縦翅	c-66-18-b	15005	股木	コナラ	19.40 15.70 3.90	196.5	1	1	枝利用式。
522	109 縦翅片	d-67-91-a	4845	股木	ハシドイ	17.90 ( 8.80 ) 3.10	( 88.4 )	1	1	枝利用式。
523	109 縦翅	d-67-91-a	5176	股木	ハンノキ	23.80 19.30 5.20	316.4	1	3	3点接合。枝利用式。
524	109 縦翅未製品?	c-66-09-b	721	股木	ハンノキ	23.30 13.50 2.80	109.6	1	1	枝利用式。

表V-48 0 B層掲載木製品 (20)

図版 番号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
525	縦樋ミニチュア片?	c-67-10-b	12471	股木		コナラ	( 9.80 ) ( 3.95 ) 2.20	( 24.4 )	1	2	2点接合。
526	縦樋	d-67-81-d	3549	丸木		カバノキ 柄:カエデ	20.70 12.30 6.30	391.0	1	2	2点接合(柄含む)。挟り式。木取り頭部:丸木、柄:板目。
527	縦樋	d-66-99-b	2224	丸木		カエデ 柄:ヤナギ	25.80 18.36 6.16	554.0	1	2	2点接合(柄含む)。挟り式。
528	縦樋片	c-67-00-b	8212	丸木	○	コナラ 柄:コナラ	( 5.90 ) 14.95 4.10	( 195.6 )	1	2	2点接合(柄片含む)。挟り式。木取り柄:半割。
529	縦樋頭部	c-66-29-a	2106	丸木	○	ハンノキ	13.20 5.10 4.50	199.6	1	1	挟り式。
530	縦樋頭部	c-66-29-a	1247	丸木		ハシドイ	12.30 5.60 5.75	272.0	1	1	挟り式。
531	縦樋頭部	d-67-91-a	4843	丸木		ヤナギ	16.30 6.90 7.50	467.8	1	1	挟り式。挟付。
532	縦樋	d-66-99-c	2217	丸木		カエデ 柄:ヤナギ	20.60 19.60 5.60	539.0	1	2	2点接合(柄含む)。柄孔式。木取り頭部:丸木、柄:丸木。
533	縦樋	c-67-30-b	10238	丸木		コナラ 柄:コナラ	28.90 18.60 6.50	500.2	1	3	3点接合(柄含む)。柄孔式。柄の幅4.00cm×厚さ1.70cm。越断面寸法長さ6.50cm×幅5.10cm、長さ6.40cm×幅6.10cm。木取り頭部:丸木、柄:板目。
534	縦樋片	c-67-02-b	4943	半割	○	トリネコ 柄:ヤナギ	( 11.50 ) 14.15 4.95	( 70.2 )	1	5	5点接合(柄含む)。柄木取り頭部:半割、柄:丸木。保存処理後表測。 計測値は保存処理後の値。
535	縦樋頭部片	d-66-99-c d-66-99-d	2657	丸木		トリネコ? 柄:ヤナギ	( 6.80 ) 16.20 5.30	( 309.6 )	1	2	2点接合(柄片含む)。柄片入。柄孔式。木取り頭部:丸木、柄:板目。
536	縦樋頭部	c-66-19-a	4198	丸木		トリネコ 柄と椀:トリネコ	( 16.80 ) 6.10 5.30	( 378.0 )	1	5	5点接合(柄片と椀含む)。柄片に椀3本入。柄孔式。 木取り頭部:丸木、柄:半割、椀(3本とも):板目。
537	縦樋頭部	c-66-29-a	1248	1/4割		カエデ 柄:カエデ	( 5.80 ) 14.50 5.80	( 291.0 )	1	2	2点接合(柄片含む)。柄片入。
538	縦樋頭部片	c-67-00-b	8219	丸木		カエデ 柄:コナラ	15.45 ( 5.90 ) ( 4.10 )	( 202.2 )	1	3	3点接合(柄片2点含む)。柄孔式。柄片入。木取り柄:板目。
539	縦樋頭部片	d-67-81-c d-67-81-d	3015	丸木		ヤナギ 柄:ヤナギ	15.70 6.40 6.00	( 391.0 )	1	3	3点接合(柄片含む)。柄片入。柄孔式。木取り頭部:丸木、柄:板目。
540	縦樋頭部片	c-66-09-c c-66-19-b	928	丸木		カエデ 別個体:クマシデ	16.25 ( 6.10 ) ( 3.75 )	( 191.6 )	1	1	柄孔式。
541	縦樋頭部未製品	c-66-28-d	426	丸木		ハンノキ	12.90 6.40 5.60	313.0	1	1	
542	縦樋頭部片	d-66-99-c	2534	股木		ミズキ?	14.10 7.15 ( 6.25 )	( 332.7 )	1	1	1枚利用式?筋直有り。
543	鉄斧柄部未製品	c-66-19-c	3868	股木		コナラ	24.58 20.70 5.27	572.0	1	1	
544	縦樋または鉄斧柄部片	c-66-09-c	15421	丸木		サクラ	( 15.05 ) 2.80 2.35	( 47.5 )	1	1	
545	縦樋または鉄斧柄部断片	c-67-11-a	12465	板目		コナラ	28.60 3.80 2.60	226.8	1	1	
546	縦樋または鉄斧柄部	c-67-00	15114	板目		ニレ	29.10 4.10 2.60	212.4	1	1	
547	縦樋または鉄斧柄部断片	c-66-09-b	15046	柱目		モクレン	12.25 3.25 2.50	70.2	1	1	彫刻付。
548	縦樋または鉄斧柄部断片	c-67-10-c	15324	柱目		カエデ	12.20 3.30 2.40	70.5	1	1	



表 V-49 0 B層掲載木製品 (21)

図版 番号	運物名称	採掘区	運物番号	木取り 樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 片	備考	
549	115 横礎	c-66-19-b	3853	丸木	ハシドイ	22.13	6.15	5.70	302.0	1	Eタイプ。
550	115 横礎片	d-67-81-c	4022	丸木	ナナカマド?ハシドイ?	( 20.40 )	4.60	4.10	( 208.0 )	1	Eタイプ。
551	115 横礎	c-67-00-b	8184	丸木	カエデ	24.50	6.20	7.00	487.4	1	Eタイプ。
552	115 横礎	c-66-29-a	2134	丸木	ヤナギ	28.60	6.55	5.70	423.2	1	Eタイプ。
553	116 横礎片	c-66-29-d	298	丸木	コナラ	( 23.70 )	5.00	4.70	( 313.8 )	1	2点接合。Eタイプ。
554	116 横礎	d-66-99-d	15477	丸木	クマシデ	26.40	6.30	4.70	324.7	1	Eタイプ。
555	116 横礎	d-67-81-c	3132	板目	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	26.50	5.00	3.60	294.0	1	Eタイプ。
556	116 横礎	d-67-81-c	4016	丸木	ハンノキ	35.10	6.10	6.90	( 457.0 )	1	Eタイプ。
557	117 横礎	c-66-28-b	14691	丸木	ハンノキ	32.10	6.35	6.20	541.0	1	Eタイプ。
558	117 横礎	d-67-81-b	3186	丸木	ヤナギ	30.60	5.70	5.50	474.0	1	Eタイプ。
559	117 横礎片	c-67-10	15113	丸木	カエデ	( 22.10 )	8.00	6.50	( 606.0 )	1	Eタイプ。
560	118 横礎片	c-67-10-c	15156	丸木	コナラ	32.90	5.90	( 5.00 )	( 409.2 )	1	Eタイプ。
561	118 横礎	c-67-00-b	7861	丸木	ハンノキ	32.30	6.76	5.66	582.0	1	Eタイプ。
562	119 横礎	c-67-00-a	6673	板目	モクレン	29.70	4.80	4.80	404.0	1	2点接合。Gタイプ。イトクハ、彫刻、練刻、短刻付。
563	118 横礎	d-67-91-d	5308	丸木	ハンノキ	43.60	6.90	6.10	798.0	1	Eタイプ。
564	121 横礎片	d-66-99-c	2486	板木	ナナカマド	( 40.00 )	5.20	6.30	( 366.0 )	1	Hタイプ。叩練片。
565	120 横礎	c-66-09-b	1910	丸木	○カエデ	26.90	5.75	5.51	354.4	1	Bタイプ。
566	120 横礎	c-66-19-d	2913	板木	カエデ	25.70	9.40	10.40	854.0	1	Iタイプ。
567	119 横礎未製品	c-67-00-b	8196	丸木	ハンノキ	25.00	9.60	5.75	501.1	1	Eタイプ。
568	120 横礎未製品	c-66-09-b c-66-09-c	1115	丸木	コナラ	31.45	7.90	8.10	751.0	1	Eタイプ。
569	119 横礎未製品	c-66-18-c	669	丸木	コナラ	33.40	7.60	4.00	442.0	1	Bタイプ?
570	121 横礎	c-66-18-b	1326	丸木	○ハンノキ	64.70	11.00	9.90	2.8	1	Eタイプ。樹矢。
571	122 作業台	c-66-08-c	1141	板目	○モクレン	16.30	9.20	2.10	280.0	1	まな板?彫刻付。刃物痕多数あり。
572	122 作業台	d-67-71-c	3180	板目	カツラ	39.30	19.00	2.80	1642.0	1	まな板?両面刃物痕多数あり。角孔1ヶ所。

表 V-50 0 B 層掲載木製品 (22)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)		重量(g)	個体	破片	備考
573	123 作業台片	c-66-19-b c-66-19-c	2059	追征		ハコヤナギ	( 45.40 ) 29.80	2.40	( 1910.0 )	1		4点接合。まな板?刃物痕多数あり。
574	123 作業台	c-66-38-b	13419	1/4割		トチノキ	20.30	8.40	( 996.0 )	1		2点接合。刃物痕多数あり。
575	124 作業台片	d-66-99-c d-67-90-d c-67-00-a	2250	丸木		コナラ	( 58.10 )	7.40	( 1520.0 )	1		1 刃物痕多数あり。
576	124 作業台	d-67-81-d	3563	丸木		ハンノキ	42.10	7.00	( 1399.0 )	1		1 刃物痕多数あり。
577	125 火花式発火具握部?	c-66-19-b	5619	紐目		ヒノキ?アスナロ?	7.55	2.35	1.10	15.2	1	1 穂筒具?芋引釜?目釘孔1ヶ所。
578	125 ヒキリ棒片	c-66-09-d	15382	板征		ニレ	4.70	1.50	( 1.30 )	( 5.3 )	1	1
579	125 ヒキリ棒片	d-67-82-a	4382	板征		ニレ	( 5.50 )	1.28	1.27	( 6.0 )	1	1
580	125 ヒキリ棒	c-66-09-c	15025	板征		ニレ	8.00	1.30	1.10	7.5	1	1
581	125 ヒキリ棒	c-66-18-c	680	板征		ニレ	15.90	1.35	1.30	17.0	1	1
582	125 ヒキリ棒	c-66-09-a	15160	板征		ニレ	9.00	1.20	1.20	8.2	1	1
583	125 ヒキリ棒	c-67-10-d	6769	紐目		スギ?	7.65	1.60	1.10	7.0	1	1
584	125 ヒキリ棒	d-66-99-d	15172	板征		スギ 木釘.同定不可能	9.80	1.20	1.00	6.5	1	1 木釘入孔1ヶ所。
585	125 ヒキリ棒	c-66-09-d	15365	板征		ヒノキ?アスナロ?	11.00	1.20	1.10	7.2	1	1
586	125 ヒキリ棒	c-66-19-a	5810	板征		スギ	14.20	1.50	1.20	14.0	1	1
587	125 ヒキリ棒	c-66-18-c	15407	板目		ヒノキ?アスナロ?	13.30	1.20	0.80	8.2	1	1 側面にヒキリウス1ヶ所あり。
588	125 ヒキリ棒片	c-66-09-a c-66-09-b	1102	板征		スギ	( 15.45 )	1.33	1.25	( 17.0 )	1	1
589	125 ヒキリ棒片	c-67-00-a	6401	丸木		アジサイ	( 35.70 )	2.00	1.68	( 76.0 )	1	1
590	125 ヒキリ板切断品	c-66-09-d	15361	紐目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	11.50	1.40	1.00	13.6	1	1 ウス未使用。ウス1ヶ所。木釘孔4ヶ所。
591	125 ヒキリ板片	c-66-08-c	1152	紐目		ヒノキ?アスナロ?	( 13.90 )	( 2.25 )	( 1.05 )	( 18.7 )	1	1 端部伏付。ウス1ヶ所。
592	126 ヒキリ板片	c-66-18-b	15093	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 6.60 )	1.40	1.00	( 4.9 )	1	1 ウス2ヶ所?
593	126 ヒキリ板片	c-66-09-b	15066 15373	紐目		ヒノキ?アスナロ?	( 6.00 )	1.90	1.30	( 9.3 )	1	1 2点接合。ウス2ヶ所。
594	126 ヒキリ板片	c-66-18-c	15094	紐目		ヒノキ?アスナロ?	( 6.20 )	1.30	0.70	( 4.6 )	1	1 ウス4ヶ所。
595	126 ヒキリ板片	c-66-08-c	1142	紐目		スギ?ネズコ?	( 15.00 )	3.30	1.30	( 36.0 )	1	1 ウス1ヶ所。
596	126 ヒキリ板	c-66-09-a	2179	追征		カツラ	15.95	3.00	1.70	53.0	1	1 ウス1ヶ所。

表 V-51 0 B層掲載木製品 (23)

図版番号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体数	破片	備考	
597 126	ヒキリ板片	c-66-18-b	1872	丸木	○	ニガキ?	( 10.30 ) 2.00 1.60	( 21.0 )	1	1	ウス1ヶ所。	
598 126	ヒキリ板切断品	c-66-28-c	15058	板目		コナラ	15.70 5.00 2.30	130.6	1	1	ウス1ヶ所。	
599 126	ヒキリ板	c-66-29-c	15042	追紐	○	ハリギリ	20.10 6.10 1.70	129.1	1	2	2点接合。挟付有孔板材。ウス1ヶ所。	
600 126	ヒキリ板片	c-66-18-c	15415	板目		モクレン	( 13.70 ) 3.00 3.70	( 94.0 )	1	1	ベルト出土。ウス1ヶ所。車櫃の再利用。	
601 127	炬鈎	c-67-00-a	7864	板目	○	スギ	47.75 5.45 1.90	280.0	1	1	自在鈎?	
602 127	炬鈎片	d-67-91-c	5840	追紐		シナノキ	( 13.50 ) 4.25 1.65	( 48.5 )	1	3	3点中2点接合2点実測。イトクバ付。	
603 127	炬鈎片	c-66-09-d	1950	板目		カツラ	( 12.30 ) 4.85 2.35	( 63.6 )	1	1		
604 127	炬鈎	c-66-19-a	2452	追紐		カツラ	22.30 6.50 3.10	195.0	1	1		
605 127	炬鈎	c-66-08-b	1145	板目	○	ヒノキ?アスナロ?	15.30 3.60 2.30	56.0	1	1		
606 128	炬鈎片	c-66-38-a	13393	板目	○	ヤナギ	( 28.20 ) 5.20 2.50	( 158.0 )	1	5	5点中3点接合3点実測。	
607 128	炬鈎	d-66-99-d	2805	板目	○	ニレ	31.00 3.65 3.25	161.0	1	1		
608 128	炬鈎	c-66-38-d	13370	板目	○	カツラ	28.95 5.55 2.30	107.0	1	1		
609 128	炬鈎	d-67-81-c	3195	板目		ヒノキ?スギ?	24.00 4.65 2.60	140.6	1	1		
610 128	炬鈎	d-67-91-a d-67-91-b	5012	丸木		ヤナギ	31.40 3.02 3.50	( 180.4 )	1	3	3点接合。	
611 128	炬鈎片	c-66-09-b	411	丸木		ハンノキ	34.30 ( 3.30 ) 3.35	( 196.0 )	1	1		
612 129	炬鈎	c-66-38-d	13439	股木		ヤナギ	26.50 6.20 3.80	161.0	1	1		
613 129	炬鈎	c-66-09-b	713	股木		ヤナギ	24.60 3.50 2.80	120.0	1	1		
614 129	炬鈎	d-67-91-b	5227	股木	○	ヤナギ	26.20 2.70 6.20	147.5	1	2	2点接合。	
615 129	炬鈎片	c-66-37-b	14428	股木		ハシドイ	( 24.27 ) 4.50 1.93	( 61.3 )	1	2	2点接合。	
616 129	炬鈎	c-66-18-b	1455	股木	○	ヤナギ	28.70 5.50 2.90	114.3	1	1		
617 129	炬鈎片	c-66-18-b	1518	股木	○	カバノキ	( 36.90 ) 2.55 1.75	( 68.0 )	1	3	3点接合。	
618 -	炬鈎片	c-66-09-a	597	股木	○	コナラ	( 4.80 ) ( 3.62 )	1.86	( 13.0 )	1	1	
619 129	炬鈎片	c-67-10-a	7969	股木		コナラ	( 24.50 ) 8.60 3.60	( 162.9 )	1	1		
620 130	炬火用材木	d-67-91-a	5209	股木	○	ヤナギ	44.20 2.55 5.50	214.3	1	5	5点接合。端部二股丸木材片。内面炭化。	

表 V-52 0 B層掲載木製品 (24)

図 番 号	國 産 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
621	130	燈火用技術片	c-66-09-b	1078	丸木	コナラ	( 54.40 ) ( 5.50 ) ( 4.05 )	( 540.0 )	1	1内面炭化。
622	131	燈火用技術片	c-67-01-b	3471	丸木	コナラ	( 97.60 ) ( 5.40 ) ( 4.00 )	( 1100.0 )	1	2点接合。内面炭化。
623	131	燈火用技術片	c-67-10-c c-67-11-d	8469	丸木	コナラ 根:ハンノキ	77.70 ( 7.60 ) ( 9.90 )	880.0	1	2点接合(根含む)。根入。内面炭化。
624	131	燈火用技術片?	c-67-02-a	6050	丸木	サクラ	( 78.70 ) ( 4.10 ) ( 4.40 )	( 759.0 )	1	20点中6点接合6点実測。
625	132	樽底部片	d-67-80-c	2360 ① ⑤	板目 榫目	スギ	34.00 ( 33.00 ) ( 9.40 )	( 786.0 )	1	18点中14点接合14点実測。木取り榫目。板目・底板:板目・榫目 保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
626	132	樽蓋板片	c-66-18-c	1337	板目	スギ?ネズコ?	( 25.00 ) ( 6.90 ) ( 1.70 )	( 189.0 )	1	木釘孔2ヶ所の内、木釘1ヶ所。
627	132	樽蓋板片	c-66-48-a	14602	榫目	スギ	( 24.34 ) ( 5.40 ) ( 1.68 )	( 126.7 )	1	木釘孔2ヶ所。
628	132	樽蓋板片	d-67-81-c	3151	板目 榫目	スギ?	( 35.10 ) ( 12.10 ) ( 2.30 )	( 638.0 )	1	2点接合(内部木釘2本で接合)。榫目付。木釘入孔2ヶ所。
629	133	樽蓋板片	c-67-10-c	6763	板目	スギ?	( 30.90 ) ( 10.00 ) ( 2.00 )	( 391.0 )	1	木釘入孔2ヶ所。
630	133	樽蓋板片	c-66-29-a	1838	板目	スギ 木釘:イネ科(ササ)	( 27.20 ) ( 7.50 ) ( 1.70 )	( 212.3 )	1	木釘入孔2ヶ所。
631	133	樽蓋板片	d-67-92-b	4862	板目	スギ 木釘:イネ科(ササ)	31.40 ( 17.40 ) ( 1.50 )	( 549.0 )	1	2点接合(内部木釘2本で接合)。木釘入孔2ヶ所。
632	133	樽蓋板片	c-67-60-b	10751	板目	スギ 木釘:イネ科(ササ)	30.50 ( 14.90 ) ( 1.60 )	( 575.0 )	1	2点接合。木釘入孔2ヶ所。
633	134	樽蓋板片	c-66-09-a c-66-09-d	1208	板目	スギ	( 13.85 ) ( 5.00 ) ( 2.00 )	( 59.0 )	1	木釘入孔1ヶ所。
634	133	樽蓋板片	c-66-09-d	2555	板目	スギ?	( 26.20 ) ( 6.12 ) ( 1.50 )	( 104.0 )	1	2点接合(木釘付含む)。榫目付。木釘入孔2ヶ所の内、木釘付1ヶ所。
635	134	樽蓋または底板	c-67-51-c	10171 10172 10173 10174 10175	板目	スギ 木釘:イネ科(ササ)	30.70 ( 31.30 ) ( 2.00 )	677.0	1	8点接合(木釘付含む)。木釘孔15ヶ所の内、木釘付3ヶ所、木釘入孔12ヶ所。 保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
636	134	樽蓋または底板片	c-67-00-b	9811	榫目	スギ? 木釘:スギ?	( 15.10 ) ( 4.35 ) ( 1.10 )	( 38.4 )	1	木釘入孔3ヶ所。
637	134	樽蓋または底板片	c-66-09-d	906	板目	スギ	( 16.30 ) ( 3.45 ) ( 1.70 )	( 47.8 )	1	
638	134	樽蓋または底板片	c-67-00-b	9282	板目	スギ?	( 19.50 ) ( 3.20 ) ( 1.90 )	( 68.0 )	1	木釘入孔2ヶ所の内、木釘付1ヶ所。
639	134	樽蓋または底板片	c-66-09-d	1181	板目	スギ	( 22.50 ) ( 5.10 ) ( 2.30 )	( 172.0 )	1	
640	135	樽蓋または底板片	c-66-29-a	1237	板目	スギ 木釘:イネ科(ササ)	( 25.25 ) ( 6.60 ) ( 1.60 )	( 167.0 )	1	2点接合(木釘付含む)。木釘入孔2ヶ所の内、木釘付1ヶ所、木釘入孔1ヶ所。
641	135	樽蓋または底板片	c-67-30-c	10177	板目	スギ? 木釘:イネ科(ササ)	( 29.10 ) ( 7.80 ) ( 1.50 )	( 214.9 )	1	木釘入孔2ヶ所。
642	135	樽蓋または底板片	c-66-09-a d-66-99-d	2722	榫目	スギ?ネズコ?	( 12.95 ) ( 2.40 ) ( 1.00 )	( 21.9 )	1	

表 V-53 0 B層掲載木製品 (25)

図面 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	樹皮 木取り	樹 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備考
643	桶底板片	c-66-09-a	2877	楕円		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 15.04 ) ( 2.80 )	1.10 ( 32.1 )	1	1	
644	桶底板片	c-67-00-a	6402	楕円	○	スギ?	( 11.30 ) ( 5.40 )	1.90 ( 67.0 )	1	1	木釘孔1ヶ所。
645	桶蓋板片	c-67-10-b	15246	楕円	○	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 27.90 ) ( 7.80 )	1.52 ( 219.8 )	1	1	表面刃物痕あり。
646	桶蓋板片	d-67-81-b d-67-81-d	3095 ㊟	楕円	○	スギ 木釘:イネ科(ササ)	30.25 ( 5.05 )	1.60 ( 217.0 )	1	1	焼印付。木釘孔4ヶ所の内、木釘入2ヶ所。
647	桶底板片	d-67-81-b d-67-81-d	3095 ㊠	楕円		スギ 木釘:イネ科(ササ)	( 29.60 ) ( 5.30 )	1.40 ( 190.0 )	1	2	2点接合(木釘付含む)。木釘孔4ヶ所の内、木釘入1ヶ所、木釘付1ヶ所。
648	桶底板片	d-67-81-d	2474	楕円		スギ? 木釘:イネ科(ササ)	( 33.60 ) ( 7.00 )	1.60 ( 235.0 )	1	1	木釘入孔4ヶ所。
649	桶底板片	c-66-09-d	2491	楕円		スギ?	( 22.40 ) ( 5.20 )	0.85 ( 85.4 )	1	1	
650	桶底板片	c-66-38-c	13491	楕円		スギ 木釘:イネ科(ササ)	( 31.50 ) ( 5.80 )	1.40 ( 227.6 )	1	1	木釘入孔2ヶ所。
651	桶底板切断品	c-66-29-d	300	楕円		スギ?	19.25 6.64	1.90 215.0	1	1	木釘入孔2ヶ所(両側面に各1ヶ所)。
652	桶底板片	c-67-10-b	12417	楕円		不要	( 17.04 ) ( 3.31 )	1.92 ( 71.5 )	1	1	
653	桶蓋または底板片	c-66-19-b	3845	楕円	○	スギ 木釘:イネ科(ササ)	17.25 ( 3.10 )	1.53 ( 42.4 )	1	2	2点接合(木釘付含む)。木釘孔2ヶ所の内、木釘付1ヶ所。
654	桶底板片	c-67-10-c	8481	楕円		スギ 木釘:イネ科(ササ)	( 15.90 ) ( 1.15 )	1.50 ( 24.7 )	1	2	2点接合(木釘付含む)。木釘孔1ヶ所。
655	樽胴板片	c-66-09-b	437	楕円		スギ?ネズコ?	( 5.90 ) ( 3.10 )	0.85 ( 13.0 )	1	1	
656	樽胴板切断品	c-67-01-a	11959	楕円		スギ?ネズコ?	6.20 3.20	1.20 18.0	1	1	
657	樽胴板切断品	c-67-00-a	6542	楕円		スギ?	5.80 4.70	0.80 17.0	1	1	
658	樽胴板	c-67-00-b	9288	楕円		スギ?ネズコ?	9.90 4.60	1.10 44.0	1	1	
659	樽胴板切断品	c-66-09-d	1121	楕円		スギ	9.20 6.60	1.30 57.0	1	1	
660	樽胴板片	c-66-19-a	2426	楕円		スギ	( 6.80 )	1.25 ( 39.0 )	1	1	
661	樽胴板片	c-66-19-a	2591	楕円		スギ	( 14.00 )	2.80 ( 18.6 )	1	1	1671と同一個体。
662	樽胴板	c-67-31-c c-67-31-d	10250	楕円		スギ?	9.60 7.80	1.30 63.0	1	1	
663	樽胴板	c-66-18-c	1462	楕円		スギ	12.40 7.10	1.00 74.4	1	1	タガ痕あり。
664	樽胴板片	c-66-29-d	291	楕円		スギ	( 17.30 )	0.95 ( 75.2 )	1	1	タガ痕あり。
665	樽胴板切断品	c-66-19-a	4729 4773	楕円		スギ?ネズコ?	12.85 8.15	1.20 105.0	1	2	2点接合。
666	樽胴板	c-66-19-a	3896	楕円		スギ	24.05 2.20	0.94 33.6	1	1	1667と同一個体?

表V-54 0 B層掲載木製品 (26)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体 数	備考
667	138 樽脚板	c-66-19-a	3893	板目		スギ	23.60 3.70 0.90	50.8	1	1666と同一個体?
668	138 樽脚板	c-66-09-d	242	板目		スギ	22.30 3.05 0.80	38.1	1	
669	- 樽脚板片	c-66-09-c	15030	板目		スギ	9.47 ( 3.72 ) 0.90	( 20.1 )	1	
670	138 樽脚板片	c-66-09-d	2705	板目		スギ?	( 17.15 ) 2.40 0.80	( 26.4 )	1	1 タガ痕あり。
671	138 樽脚板	c-66-19-a	2592	板目		スギ	22.10 2.75 0.80	40.2	1	1661と同一個体。
672	138 樽脚板片	c-66-19-b c-66-19-c	2061	板目		スギ	( 39.30 ) 7.10 1.60	( 270.0 )	1	
673	139 栓	c-66-08-c	15063	丸木	○	サクラ?	3.26 1.70 1.70	4.7	1	1 徳利栓?
674	139 樽栓	c-66-18-b	1502	板証		ヒノキ?アスナロ?	3.20 3.50 3.50	25.2	1	
675	139 樽栓	c-66-08-c	2887	板証		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	3.30 3.14 3.00	17.9	1	
676	139 樽栓	c-66-09-d	2888	板証		スギ?ヒノキ?	4.40 3.20 3.10	24.7	1	
677	139 樽栓	c-66-08-c	1358	板証		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	4.10 3.23 2.87	24.4	1	
678	139 樽栓	c-66-09-d	2203	板証		ヒノキ?アスナロ?	4.20 3.40 3.45	33.4	1	
679	139 樽栓	c-66-18-b	532	板証		スギ	4.42 3.02 3.00	28.0	1	
680	139 樽栓	c-66-08-b	237	板証		スギ	4.80 3.00 2.65	24.6	1	
681	139 樽栓	c-66-19-b	501	板証		スギ	4.66 3.10 3.10	27.8	1	
682	139 樽栓	c-66-08-c	1146	板証		スギ	5.05 2.80 2.80	22.0	1	
683	139 樽栓	c-66-18-b	633	板証		スギ?	5.00 2.60 2.40	21.1	1	
684	139 樽栓	c-66-09-b	2266	板証		スギ	5.90 2.79 2.44	22.6	1	
685	139 樽栓	c-66-19-a	2457	板証	○	スギ	5.70 3.00 3.00	33.0	1	
686	139 樽栓	c-66-09-c	576	板証		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	5.50 3.10 3.10	34.0	1	
687	139 樽栓	c-66-19-a	2455	板証		スギ?	5.30 3.00 3.05	33.0	1	
688	139 樽栓	c-67-00-a	6541	板証		ヒノキ?アスナロ?	5.05 3.10 3.20	33.1	1	
689	139 樽栓	c-66-19-a	2768	板証		ネズコ?スギ?	5.50 3.25 3.30	38.0	1	
690	139 樽栓	c-67-00-a	6640	板証		スギ?ネズコ?	5.30 3.40 3.45	40.0	1	

表V-55 0 B層掲載木製品 (27)

図 号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取 位置	樹 皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備考
691	139	樽栓片	c-66-19-a	5793	板栓		スギ	5.70 3.50 ( 1.60 )	( 19.7 )	1	1	
692	139	樽栓	c-66-09-d	481	板栓		スギ	6.00 3.30 3.20	41.5	1	1	
693	139	樽栓	c-66-18-c	991	板栓		スギ	5.76 2.92 2.93	31.4	1	1	
694	139	樽栓	c-66-19-b	2924	板栓		ネズコ?スギ?	5.70 3.40 3.45	39.2	1	1	
695	139	樽栓	c-66-09-d	15031	板栓		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	5.97 3.30 3.22	37.4	1	1	
696	139	樽栓	c-66-18-b	1275	板栓		ヒノキ?アスナロ?	6.20 2.75 2.62	25.3	1	1	
697	139	樽栓	c-66-18-d	823	板栓		ヒノキ?アスナロ?	6.20 3.00 3.05	3.1	1	1	
698	139	樽栓	c-66-09-d	216	板栓		スギ	6.20 2.76 2.65	19.0	1	1	徳利栓?
699	140	樽栓片	c-66-19-b	2623	板栓		スギ	7.15 3.20 3.10	( 47.0 )	1	1	
700	140	樽栓	c-66-18-b	1501	板栓		スギ	6.40 2.50 2.50	28.2	1	1	
701	140	樽栓	c-66-09-d	1186	板栓		スギ	6.50 3.40 3.20	37.0	1	1	
702	140	樽栓	c-66-18-d	529	板栓		スギ	7.38 3.34 3.17	44.0	1	1	
703	140	樽栓	c-66-08-c	535	板栓		スギ	7.27 3.31 3.40	49.0	1	1	
704	140	樽栓	c-66-18-b	811	板栓		スギ	6.90 2.90 2.80	25.6	1	1	徳利栓?
705	140	樽栓片	c-66-18-b	1294	板栓		スギ	( 6.96 ) 3.10 3.03	( 39.6 )	1	1	木釘入孔1ヶ所。
706	140	樽栓	c-66-18-c	1333	板栓		スギ?	7.00 3.20 3.00	44.0	1	1	
707	140	樽栓	c-67-20-b	14286	板栓		スギ	7.00 2.92 2.93	32.5	1	1	ベルト出土。
708	140	樽栓	d-66-99-c	2493	板栓		スギ	7.00 3.00 3.00	37.4	1	1	
709	140	樽栓	c-66-18-b	1485	板栓	○	ヒノキ?アスナロ?	7.10 2.50 2.50	25.2	1	1	上面焼印あり。
710	140	樽栓	c-66-09-d	2889	板栓		スギ?	7.77 3.30 3.00	47.8	1	1	
711	140	樽栓	d-67-81-d	3027	板栓		スギ	7.77 3.33 3.06	39.2	1	1	
712	140	樽栓	c-66-18-b	1284	板栓		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	7.97 3.10 3.03	50.2	1	1	
713	140	樽栓	c-66-18-d	527	板栓		スギ	8.30 2.73 2.89	43.0	1	1	
714	140	樽栓	c-66-08-c	1362	板栓		スギ	8.40 2.70 2.53	28.8	1	1	徳利栓?

表 V-56 0 B 層掲載木製品 (28)

国 番号	国 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体	破 片	備 考
715	140	榿栓	c-66-48-a	14603	板紐		スギ	8.86 ( 8.57 ) 2.76 ( 3.54 ) 2.80 ( 3.54 )	37.0 ( 58.1 )	1	1	
716	-	榿栓片	c-66-18-c	14769	板紐	○	スギ	8.80 ( 8.57 ) 2.75 ( 3.10 ) 2.67 ( 3.10 )	38.0 ( 64.6 )	1	1	1 ベルト出土。
717	140	榿栓	d-67-91-b	5246	板紐		スギ?ネズコ?	9.16 ( 21.75 ) 2.70 ( 7.70 ) 1.40 ( 117.0 )	117.0 ( 20.6 )	1	1	1 傾斜イトクマ付。
718	140	榿栓	c-66-09-c	15050	板紐		スギ?	7.32 ( 7.32 ) 2.90 ( 2.90 ) 1.78 ( 20.6 )	20.6 ( 17.0 )	1	1	
719	141	曲げ物把手片	c-67-00-a	42	紐目		ヒノキ?アスナロ?	18.00 ( 18.00 ) 3.40 ( 3.40 ) 0.50 ( 17.0 )	17.0 ( 2.1 )	1	1	4 点接合 ( 樹皮含む )。細帯状樹皮付。
720	141	曲げ物脚板片	d-66-99-c	15100	紐目		スギ?ネズコ?ヒノキ?	9.10 ( 9.10 ) 1.42 ( 1.42 ) 0.24 ( 2.1 )	2.1 ( 11.8 )	1	1	1 クレ底。木釘入2ヶ所。
721	141	曲げ物脚板片	c-67-10-b	12093	紐目	○	スギ?ネズコ?ヒノキ?	13.20 ( 13.20 ) 5.66 ( 5.66 ) 0.20 ( 11.8 )	11.8 ( 42.7 )	1	1	1 傾斜刻み付。
722	141	曲げ物脚板片	c-67-10-b	15200	紐目		ヒノキ?アスナロ?	44.00 ( 44.00 ) 6.50 ( 6.50 ) 0.20 ( 42.7 )	42.7 ( 68.4 )	1	1	5 5 点接合。傾斜刻み付。
723	141	曲げ物脚板片	表探	15024	紐目		ヒノキ?アスナロ?	54.50 ( 54.50 ) 6.90 ( 6.90 ) 0.75 ( 0.75 )	68.4 ( 16.9 )	1	1	樹皮縦りあり。破片多数あり。保存処理後表面。計測値は保存処理後の値。
724	141	曲げ物脚板片	d-67-91-a d-67-91-b d-67-91-d	5203	紐目		ヒノキ?アスナロ?	7.80 ( 7.80 ) 4.80 ( 4.80 ) 0.60 ( 16.9 )	16.9 ( 10.6 )	1	1	
725	141	曲げ物脚板片	d-67-91-a	4515	紐目	○	スギ?	7.58 ( 7.58 ) 3.15 ( 3.15 ) 0.59 ( 10.6 )	10.6 ( 8.0 )	1	1	
726	142	曲げ物底板片	c-67-20-b	9699	紐目		スギ?	11.13 ( 11.13 ) 2.64 ( 2.64 ) 0.42 ( 8.0 )	8.0 ( 47.0 )	1	1	
727	142	曲げ物底板片	c-67-10-c	15323	紐目		ヒノキ?アスナロ?	16.10 ( 16.10 ) 7.40 ( 7.40 ) 0.60 ( 47.0 )	47.0 ( 80.2 )	1	1	1 クレ底。木釘1ヶ所。
728	142	曲げ物底板片	c-66-18-a	523	紐目		スギ?ネズコ?	22.75 ( 22.75 ) 6.45 ( 6.45 ) 0.90 ( 80.2 )	80.2 ( 112.0 )	1	1	3 3 点接合。
729	142	曲げ物底板片	c-66-38-d	13369	紐目	○	スギ?	16.00 ( 16.00 ) 15.55 ( 15.55 ) 0.80 ( 112.0 )	112.0 ( 75.4 )	1	1	2 ベルト出土。2 点接合。クレ底。木釘入孔2ヶ所。
730	142	曲げ物底板片	c-66-09-d	499	紐目		スギ	16.20 ( 16.20 ) 8.70 ( 8.70 ) 0.70 ( 75.4 )	75.4 ( 42.5 )	1	1	1 クレ底。
731	142	曲げ物底板片	c-66-08-c	659	紐目	○	ヒノキ?アスナロ?	17.20 ( 17.20 ) 4.20 ( 4.20 ) 1.00 ( 42.5 )	42.5 ( 85.7 )	1	1	2 2 点接合 ( 木釘付含む )。クレ底。生漆塗。木釘孔9ヶ所の内。木釘付1ヶ所。
732	143	曲げ物底板片	c-66-29-a	14809	紐目		ヒノキ?アスナロ? 木釘: 同定不可能	16.65 ( 16.65 ) 10.00 ( 10.00 ) 0.75 ( 85.7 )	85.7 ( 29.9 )	1	1	1 クレ底。生漆塗。木釘孔1ヶ所。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
733	143	曲げ物底板片	c-66-09-d	907	紐目		ヒノキ?アスナロ?	16.60 ( 16.60 ) 4.60 ( 4.60 ) 0.70 ( 29.9 )	29.9 ( 55.2 )	1	1	
734	143	漆塗曲げ物底板片	c-66-09-c	475	紐目		スギ 木釘: スギ	22.30 ( 22.30 ) 4.00 ( 4.00 ) 0.75 ( 55.2 )	55.2 ( 8.0 )	1	1	2 2 点接合 ( 樹皮巻含む )。底面生漆塗。樹皮巻付。
735	143	漆塗曲げ物底板片	c-66-19-b	4090	紐目		ヒノキ?アスナロ?	8.40 ( 8.40 ) 2.20 ( 2.20 ) 1.25 ( 8.0 )	8.0 ( 42.2 )	1	1	
736	142	曲げ物底板片	c-66-09-d	909	紐目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	15.30 ( 15.30 ) 5.40 ( 5.40 ) 0.80 ( 42.2 )	42.2 ( 15.30 )	1	1	1 クレ底。生漆塗。木釘孔5ヶ所。
737	143	漆塗曲げ物底板片	c-66-09-b	714	紐目	○	ヒノキ?アスナロ?					
738	カ ラ 9	漆塗曲げ物底板片	c-66-08-c	1360	紐目		スギ?					



表V-57 0 B層掲載木製品 (29)

図版 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 度	樹 皮	種類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備考
739	カ- 9	漆塗曲げ物蓋板片	c-66-08-c	1345	板目		スギ	18.60 ( 26.90 ) × 1.40 ( 604.0 )		1	1	1 シントコ差?生漆塗。内面張青あり。木釘孔3ヶ所の内、木釘入2ヶ所。
740	144	箱物側板片	c-66-09-c	15425	板目	○	ヒノキ?アスナロ?ネズコ? 木釘:ヒノキ?アスナロ?	1.94 ( 6.78 ) × 0.70 ( 5.2 )		1	3	3点接合(木釘付と樹皮含む)。木釘孔2ヶ所の内、木釘付1ヶ所。 樹皮綴りあり。
741	144	箱物側板片	c-66-09-b	15281	板目		スギ	1.40 ( 11.10 ) × 0.60 ( 8.3 )		1	1	木釘孔2ヶ所。
742	144	箱物側板片	c-67-10-b	15319	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?スギ? 木釘:針葉樹	1.36 ( 10.93 ) × 0.65 ( 9.5 )		1	1	木釘入孔3ヶ所。
743	144	箱物側板片	c-66-09-c	15070	板目		ヒノキ?アスナロ? 木釘:針葉樹	1.50 ( 11.30 ) × 0.68 ( 10.3 )		1	1	木釘入孔3ヶ所。
744	144	箱物側板片	c-66-09-b	15428	板目		スギ?ネズコ?	1.46 ( 10.80 ) × 0.75 ( 10.6 )		1	1	木釘孔7ヶ所。
745	144	箱物側板片	c-66-09-c	15284	板目	○	ヒノキ?アスナロ?ネズコ? 木釘:針葉樹	1.30 ( 11.98 ) × 0.68 ( 9.0 )		1	3	3点接合(樹皮含む)。木釘孔3ヶ所の内、木釘入1ヶ所。樹皮綴り1ヶ所あり。
746	144	箱物側板片	c-67-10-b	12581	板目		スギ	1.95 ( 16.30 ) × 0.70 ( 17.5 )		1	1	木釘孔4ヶ所の内、木釘入3ヶ所。
747	144	箱物側板	d-67-81-b	3968	板目		スギ?	0.80 ( 19.50 ) × 1.60 ( 21.8 )		1	1	木釘孔6ヶ所の内、木釘入4ヶ所。
748	144	箱物側板	c-66-18-b	2072	板目		スギ?ネズコ?	1.80 ( 19.40 ) × 0.75 ( 27.0 )		1	1	木釘入孔6ヶ所。
749	144	箱物側板片	d-66-99-d	15476	板目		スギ	3.10 ( 8.20 ) × 0.54 ( 10.4 )		1	1	木釘孔2ヶ所。
750	144	箱物側板片	c-66-09-a	15370	板目		ヒノキ?アスナロ? 木釘:針葉樹	2.30 ( 11.40 ) × 0.48 ( 7.8 )		1	1	木釘孔2ヶ所の内、木釘入1ヶ所。
751	144	箱物側板片	c-66-08-b	15432	板目		スギ	2.80 ( 10.20 ) × 0.80 ( 14.9 )		1	1	線刻付。
752	144	箱物側板片	d-66-99-c	15447	板目		スギ	3.03 ( 11.39 ) × 0.60 ( 15.6 )		1	1	木釘孔4ヶ所の内、木釘入1ヶ所。
753	144	箱物側板片	c-66-09-c	15374	板目	○	ヒノキ?アスナロ?ネズコ? 木釘:針葉樹	3.80 ( 10.50 ) × 0.56 ( 19.4 )		1	1	木釘入孔1ヶ所。
754	145	箱物側板片	c-66-09-b	864	板目		ヒノキ?スギ? 木釘:同定不可能	3.70 ( 13.50 ) × 0.80 ( 23.6 )		1	1	木釘入孔2ヶ所。
755	145	箱物側板片	c-66-09-d	911	板目		ヒノキ?アスナロ? 木釘:ヒノキ?アスナロ?	3.55 ( 16.60 ) × 0.55 ( 0.1 )		1	1	木釘入孔1ヶ所。
756	145	箱物側板片	c-66-09-b	373	板目	○	不要	5.12 ( 15.90 ) × 0.70 ( 38.0 )		1	1	
757	145	箱物側板片	c-66-09-c	585 716	板目		スギ?ヒノキ?	4.00 ( 22.25 ) × 0.50 ( 25.6 )		1	2	2点接合。巴文彫刻付。保存処理後美測。計測値は保存処理後の値。
758	145	漆塗箱物側板	c-66-18-c	1422	板目		ヒノキ	1.60 ( 22.80 ) × 0.90 ( 29.3 )		1	1	折敷側板。生漆塗。木釘孔4ヶ所の内、木釘入3ヶ所。
759	145	漆塗箱物側板片	c-66-09-a	2178	板目	○	ヒノキ?アスナロ? 木釘:針葉樹	3.70 ( 22.90 ) × 0.65 ( 40.0 )		1	2	2点接合(樹皮含む)。生漆塗。木釘入孔5ヶ所。樹皮綴りあり。
760	カ? 9	漆塗箱物側板片	c-66-09-b	1114 1924	板目		ヒノキ?アスナロ?	1.90 ( 15.30 ) × 0.70 ( 14.6 )		1	2	2点接合。黒漆地に赤漆塗。彫刻付。
761	カ? 9	漆塗箱物側板片	c-67-00-a	5953	板目		スギ?	1.90 ( 10.80 ) × 0.60 ( 10.2 )		1	1	黒漆塗。
762	カ? 9	漆塗箱物側板片	c-66-18-b	1287	板目		スギ	3.00 ( 5.70 ) × 0.60 ( 8.1 )		1	1	赤漆塗。木釘孔1ヶ所。

表V-58 0 B層掲載木製品 (30)

図 番 号	図 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 片	備考
763	カ7-9	漆塗箱物底板片	c-66-09-c	2901	板目		スギ?アスナロ?	( 17.10 ) ( 4.50 ) 0.90	( 51.4 )	1	1 生漆地に赤漆塗。
764	カ7-9	漆塗箱物蓋板片	c-66-19-b	5655	板目	○	スギ?ヒノキ?	24.70 ( 9.50 ) 1.70	( 192.1 )	1	2点接合(樹皮含む)。黒漆地に赤漆塗。草花文を描く。樹皮綴りあり。木釘孔8ヶ所の内、木釘入4ヶ所。
765	145	箱物脚板	c-66-17-c	75	板目		スギ?ネズミ?目釘:スギ?ネズミ?	7.60 10.70 0.90	56.0	1	1 木釘孔9ヶ所の内、木釘入8ヶ所、不明1ヶ所。丸孔2ヶ所。
766	145	箱物脚板	c-66-09-c	15285	板目	○	スギ 木釘:イネ科(ササ)	21.20 2.50 1.50	68.6	1	1 木釘入孔1ヶ所。木釘痕1ヶ所。
767	145	箱物脚部?	c-66-09-d	2881	板目	○	モクレン	15.75 4.70 1.03	39.9	1	
768	145	箱物脚部	c-67-20-b	6596	板目		スギ	17.50 3.50 1.25	61.0	1	1 木釘孔4ヶ所の内木釘入1ヶ所。線刻付。
769	145	箱物脚部?	c-66-09-b	369	板目		スギ?	11.60 3.11 0.80	24.0	1	1 扶付板目板。
770	145	箱物脚部?	c-66-09-b	1103	板目		ヒノキ?アスナロ?	13.16 3.03 0.82	31.1	1	1 扶付板材。
771	カ7-10	漆塗柄片	c-66-28-b	1406	横木		ケヤキ	( 1.40 ) ( 3.40 ) 0.60	( 1.0 )	1	1 口縁部。内外面赤漆塗。
772	カ7-10	漆塗柄片	c-66-08-c	946	横木		ハンノキ	( 2.00 ) ( 1.90 ) 0.50	( 1.2 )	1	1 口縁部。内外面黒漆地に赤漆塗。
773	カ7-10	漆塗柄片	c-67-00-c	12075	横木		モクレン	( 2.20 ) ( 2.90 ) 0.40	( 1.2 )	1	1 口縁部。内外面黒漆地に赤漆塗。
774	カ7-10	漆塗柄片	c-66-09-c	2196	横木		ブナ	( 3.10 ) ( 4.80 ) 0.45	( 4.0 )	1	1 口縁部。内外面黒漆地に赤漆塗。
775	カ7-10	漆塗柄片	c-66-09-c	802	横木		ブナ	( 2.90 ) ( 5.30 ) 0.60	( 4.4 )	1	1 口縁部。内外面赤漆塗。
776	カ7-10	漆塗柄片	c-66-09-d	15262	横木		トチノキ	( 3.65 ) 5.15 ( 0.60 )	( 5.7 )	1	1 口縁部。内外面黒漆地に赤漆塗。
777	カ7-10	漆塗柄片	c-66-09-d	2560	横木		ブナ?	( 4.30 ) ( 3.20 ) 0.80	( 3.8 )	1	1 2点接合。口縁部。内外面黒漆地に赤漆塗。
778	カ7-10	漆塗柄片	c-67-10	15257	横木		トチノキ	( 4.70 ) ( 4.30 ) 1.00	( 11.8 )	1	1 胴部。内面赤漆塗、外面黒漆塗。
779	カ7-10	漆塗柄片	c-66-09-d	2578	横木		ブナ	( 6.00 ) ( 9.30 ) 0.50	( 10.3 )	1	1 3点中2点接合。口縁部。内面赤漆塗、外面黒漆地に赤漆で文様を描く。計測値は推定値。
780	カ7-10	漆塗キセルラウ	c-66-18-b	1464 1486	横木		イネ科(ササ)	11.90 0.90 0.80	4.0	1	1 8点接合。赤漆塗。
781	カ7-10	漆塗柄片	c-66-09-a	2730	横木		ブナ	( 14.30 ) ( 13.50 ) ( 6.20 )	( 147.0 )	1	1 8点接合。内外面黒漆地に赤漆塗。破片多数あり。
782	カ7-10	漆塗柄片	c-66-19-d	2902	横木		トチノキ	( 10.70 ) ( 7.00 ) ( 3.10 )	( 57.0 )	1	1 5点接合。内外面黒漆地に赤漆塗。破片多数あり。
783	カ7-11	漆塗柄片	c-67-00-d	7554	横木		ブナ	( 2.97 ) ( 8.88 ) ( 0.60 )	( 13.0 )	1	1 6点接合と3点接合と他1点。内面赤漆塗、外面黒漆塗。計測値は推定値。
784	146	刳物容器片	d-66-99-d	2530	板目		ハリギリ	8.40 ( 11.30 ) ( 3.75 )	( 199.9 )	1	1 盆?
785	146	刳物容器片	c-66-18-b	2241	横木		ハリギリ	( 11.03 ) ( 4.10 ) ( 3.30 )	( 39.6 )	1	1
786	146	刳物容器片	c-67-10-b	15154	横木		トネリコ	( 13.55 ) ( 6.80 ) ( 1.80 )	( 69.6 )	1	1 底部。

表 V-59 0 B層掲載木製品 (31)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 図	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備考
787	146 塩鉢容器片	c-67-00-d	7131	板目	ハコヤナギ	( 20.50 ) ( 8.05 ) 3.05	( 240.0 )	1	33点接合。
788	146 塩鉢容器片	c-66-29-d	214	板目	カツラ	( 25.00 ) 19.00 3.15	( 640.0 )	1	
789	147 杓子片	c-66-29-a c-66-29-b	1835 1846 2339	板目	カエデ	46.60 ( 6.60 ) 7.20	( 68.5 )	1	55点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
790	147 杓子片	c-66-09-b	1092	板目	モクレン	( 16.85 ) ( 4.05 ) 2.70	( 34.0 )	1	
791	147 杓子片	c-66-09-c	1604	板目	ハリギリ	( 8.90 ) ( 4.85 ) ( 2.25 )	( 19.2 )	1	
792	147 杓子頭部片	c-66-29-a	15041	板目	モクレン	( 3.60 ) ( 1.90 ) ( 1.55 )	( 3.2 )	1	
793	147 杓子頭部片	c-66-09-c	15430	板目	モクレン	( 5.10 ) ( 2.45 ) ( 1.55 )	( 3.1 )	1	44点接合。802と同一個体。
794	147 杓子頭部片	c-66-37-b	13764	板目	カエデ	( 5.70 ) ( 4.20 ) ( 1.05 )	( 9.9 )	1	
795	148 杓子頭部片	c-66-09-d	500	板目	カエデ	( 7.50 ) ( 2.80 ) ( 1.70 )	( 7.1 )	1	2点接合。
796	148 杓子頭部片	c-66-18-c	15412	板目	モクレン	( 4.95 ) ( 2.60 ) ( 1.60 )	( 5.6 )	1	1798と同一個体。
797	148 杓子頭部片	c-66-09-d	1948	板目	モクレン	( 5.10 ) ( 6.05 ) ( 1.65 )	( 10.9 )	1	
798	148 杓子頭部片	c-66-18-c	1865	板目	モクレン	( 7.15 ) ( 2.85 ) ( 2.20 )	( 10.7 )	1	1796と同一個体。
799	148 杓子頭部片	c-66-18-b	1878	板目	モクレン	( 8.30 ) ( 4.90 ) ( 3.90 )	( 25.3 )	1	33点中1点実測。
800	148 杓子頭部片	c-66-09-c	573	板目	モクレン	( 9.90 ) ( 4.70 ) ( 3.30 )	( 26.0 )	1	
801	148 杓子頭部片	c-66-09-d	626	板目	モクレン	( 8.45 ) ( 6.55 ) ( 3.40 )	( 24.0 )	1	2点接合。
802	148 杓子頭部片	c-66-09-c	15004	板目	モクレン	( 8.20 ) ( 3.80 ) ( 2.00 )	( 12.4 )	1	2点接合。793と同一個体。
803	148 杓子頭部片	c-66-09-b	594	板目	モクレン	( 8.70 ) ( 5.90 ) ( 2.10 )	( 17.0 )	1	
804	149 杓子柄片	c-66-19-b	4682	板目	カエデ	( 34.10 ) ( 2.90 ) ( 1.50 )	( 67.2 )	1	33点接合。彫刻付。
805	149 杓子柄片	c-67-10-a	15199	板目	モクレン	( 6.25 ) ( 1.90 ) 0.80	( 3.9 )	1	1彫刻付。
806	149 杓子柄片	c-66-28-b	15395	板目	ニレ	( 5.90 ) 2.40 1.25	( 11.7 )	1	1彫刻付。
807	149 杓子柄片	c-66-29-a	1465	板目	カエデ	( 7.20 ) 3.35 1.35	( 15.6 )	1	1彫刻付。
808	149 杓子柄片	c-66-08-c	1600	板目	モクレン	( 5.70 ) 4.45 1.50	( 18.4 )	1	2点接合。彫刻付。
809	149 杓子柄木頭片	c-66-19-b	4714	板目	カエデ	( 3.80 ) 2.40 2.20	( 6.9 )	1	2点接合。

表V-60 0 B層掲載木製品 (32)

図 番号	図版 番号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量(g)	個 体	破 片	備 考
810	149	杓子柄片?	c-67-10-d	8968	柃目		モクレン	( 8.50 ) ( 4.50 ) ( 1.70 )	( 30.6 )	1	1		
811	150	笥ミニチュア	c-66-09-b	15291	柃目		ヒノキ?アスナロ?	7.95 1.70 0.20	2.2	1	1		
812	150	笥片	c-66-18-b	2240	柃目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 6.78 ) 2.45 0.30	( 2.9 )	1	1	1孔あり。	
813	150	笥片	c-66-08-c	1128	柃目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 11.70 ) 2.10 0.20	( 10.0 )	1	2	2点接合。	
814	150	笥	c-66-19-a	5794	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	11.90 1.45 1.10	2.8	1	1		
815	150	笥片	c-66-18-b	1454	板目		ヒノキ?アスナロ?	13.30 ( 2.10 ) 0.40	( 3.8 )	1	1		
816	150	笥片	c-66-09-d	15362	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 13.00 ) 1.75 0.25	( 3.4 )	1	1		
817	150	笥	d-67-91-b	5023	柃目		スギ?ヒノキ?	14.70 2.50 0.30	3.9	1	2	2点接合。	
818	150	笥片	c-67-30-c	15209	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 15.80 ) 1.50 0.35	( 4.0 )	1	1		
819	150	笥片	d-66-99-c	2221	柃目		ヒノキ?アスナロ?	( 19.10 ) 1.74 0.80	( 16.9 )	1	1		
820	150	笥	d-67-92-a	4925	柃目		ネズコ?ヒノキ?	21.00 2.26 0.39	9.1	1	2	2点接合。	
821	150	笥片	c-66-28-a	960	柃目		カエデ	( 22.85 ) ( 4.50 ) 1.95	( 121.4 )	1	1		
822	151	笥片	c-66-18-c	670	柃目		ヒノキ?アスナロ?	( 24.00 ) 4.90 1.50	( 103.0 )	1	1		
823	151	笥	d-66-99-c d-67-90-d	5960	柃目	○	ヒノキ?アスナロ?	24.65 5.40 0.90	54.6	1	1	炭化部分焼印?	
824	151	笥片	c-66-19-a	4742	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 27.10 ) 3.80 ( 1.70 )	( 946.0 )	1	1		
825	151	笥片	c-67-01-a	6483	柃目		トネリコ	28.28 ( 5.00 ) 2.38	( 151.0 )	1	2	2点接合。	
826	152	笥	d-67-91-a	3625	板目		カエデ	29.66 5.45 2.00	122.4	1	2	2点接合。	
827	152	笥片	c-66-19-d	2618	板目		ヤナギ	( 30.30 ) 5.60 1.90	( 146.8 )	1	1		
828	152	笥片	c-66-19-b	5463	柃目		ヒノキ?アスナロ?	( 12.20 ) 5.55 0.55	( 22.5 )	1	1	1イタクバ付。	
829	152	笥片	d-66-99-d	2900	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 12.82 ) 4.60 0.65	( 18.6 )	1	2	2点接合。	
830	152	笥片	c-67-00-a	7199	追証		ヒノキ?アスナロ?	( 14.70 ) 4.00 ( 0.70 )	( 28.5 )	1	1	1イタクバ付。	
831	152	笥	d-66-99-c	2813	追証	○	ヤナギ	18.54 4.10 1.45	48.2	1	1		
832	153	笥片	c-66-08-b	1606	柃目		スギ?	42.10 ( 6.40 ) 0.50	( 60.0 )	1	1		
833	153	笥片	c-66-09-b	147	板目		コナラ	( 48.30 ) 4.10 1.50	( 114.0 )	1	1		

表 V-61 0 B層掲載木製品 (33)

図 番 号	園 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	破 片	備考
834	154	筒片	d-67-91-c	5005	榎目		スギ	20.65 ( 11.75 )	4.90 ( 16.7 )	1	1	樹皮縛り孔2ヵ所あり。
835	154	筒片	c-66-09-d	2733	追庇		トネリコ	5.86 ( 13.30 )	44.4 ( 17.0 )	1	1	
836	154	筒片	c-66-18-c	1863	板目		モクレン	2.65 ( 12.25 )	24.0 ( 3.4 )	1	1	
837	154	筒片	c-66-19-b	4069	追庇		キハダ?	4.30 ( 5.20 )	0.90 ( 0.35 )	1	1	
838	154	筒片部片	c-67-31-b	15387	榎目		ヒノキ?アスナロ?	2.40 ( 11.42 )	27.0 ( 217.4 )	1	1	彫刻付。
839	154	筒片	c-66-28-b	1226	榎目		スギ	6.10 ( 33.80 )	1.95 ( 188.0 )	1	1	
840	154	筒未製品片	d-67-91-b	5328	板目	○	スギ	6.10 ( 16.75 )	2.00 ( 4.0 )	1	1	
841	154	筒未製品	c-66-29-a	1839	追庇		スギ	5.15 ( 17.00 )	0.65 ( 4.4 )	1	1	
842	155	阿口箸片	d-66-99-c	2542	1/4柄		アジサイ	0.70	0.60	1	1	
843	155	阿口箸	c-66-28-d	844	板庇		ヒノキ?アスナロ?	17.00	0.60	1	1	
844	155	阿口箸	d-67-81-c	3250	板庇		スギ	17.30	0.75	1	1	
845	155	寸附箸	c-66-09-b	771	板庇		ヒノキ?アスナロ?	17.90	0.50	1	1	
846	155	阿口箸	c-66-09-d	2879	板庇		アジサイ	19.10	0.45	1	1	
847	155	阿口箸	c-66-18-b	15458	板目		ヒノキ?アスナロ?	19.00	0.40	1	1	
848	155	阿口箸	d-67-91-c d-67-91-d	5309	板庇		ヒノキ?アスナロ?	20.05	0.75	1	1	
849	155	阿口箸	d-67-81-b d-67-81-c	3998	板庇		スギ?ネズコ?	18.60	0.58	1	1	
850	155	阿口箸	c-66-18-b c-66-08-c	14803	板庇		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	18.60	0.55	1	1	
851	-	阿口箸片	c-66-09-b	1104	板庇		ヒノキ?アスナロ?	( 19.50 )	0.70 ( 7.0 )	1	1	
852	155	阿口箸	c-66-19-d	2445	板庇		スギ	20.15	0.50	1	1	
853	155	阿口箸	c-66-19-a	5801	板庇		スギ?ネズコ?ヒノキ?	20.35	0.64	1	1	
854	155	阿口箸	c-66-09-c	747	板庇		ヒノキ?アスナロ?	27.00	0.90	1	1	
855	155	阿口箸	d-67-81-b	3983	板庇		スギ	20.80	0.68	1	1	2点接合。
856	155	阿口箸片	c-66-18-a c-66-18-b c-66-18-c	1293	板庇		ヒノキ?アスナロ?	( 21.20 )	0.55 ( 5.2 )	1	1	
857	155	阿口箸	c-66-09-d	15369	榎目		ヒノキ?アスナロ?	20.90	0.50	1	1	

表V-62 0 B層掲載木製品 (34)

図 番 号	図 番 号	遺物名称	系地区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体	破 片	備 考
858	155	両口箸	d-66-99-c	2049	板紐		スギ	21.00	0.75	0.60	5.9	1	
859	155	両口箸	c-66-09-a	3676	板紐		スギ	21.16	0.68	0.68	5.8	1	
860	155	両口箸	c-66-09-c	1211	紐目		スギ	21.10	0.80	0.60	7.3	1	
861	155	両口箸	c-66-18-b	2087	板紐		スギ	21.50	0.70	0.68	7.0	1	
862	155	両口箸	c-66-18-c	1421	板目		ヒノキ?アスナロ?	21.50	0.70	0.60	4.7	1	
863	155	両口箸	c-66-09-c	1212	板紐		スギ	21.90	0.80	0.80	9.7	1	
864	155	両口箸	d-67-91-b d-67-91-c	5259	板紐		ヒノキ?アスナロ?	24.00	0.90	0.80	7.6	1	
865	155	両口箸	d-67-91-a d-67-91-b	4988	紐目		スギ?ネズコ?ヒノキ?	21.80	0.70	0.60	6.0	1	
866	155	両口箸	c-66-09-c	547	板紐		スギ	22.00	0.90	0.80	8.0	1	
867	156	両口箸	d-67-91-d	5926	板紐		ヒノキ?アスナロ?	22.30	0.70	0.70	9.0	1	
868	156	両口箸片	c-66-08-c	1365	板紐		ヒノキ?アスナロ?	( 22.40 )	0.73	0.56	( 5.4 )	1	
869	156	両口箸	c-66-09-d	1196	板紐		スギ	22.60	0.70	0.50	5.8	1	2点接合。
870	156	両口箸	d-66-99-d	15243	板紐		ヒノキ?アスナロ?	22.90	0.90	0.90	2.5	1	自然乾燥。計測値は乾燥後の値。
871	-	両口箸片	c-67-02-a c-67-02-b	4952	紐目		ヒノキ?アスナロ?	( 22.20 )	0.70	0.60	( 6.2 )	1	
872	156	両口箸	c-66-08-c	1154	紐目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	23.00	0.95	0.70	8.0	1	
873	156	両口箸	c-66-08-c c-66-08-d	15442	板紐		ヒノキ?アスナロ?	24.00	0.80	0.70	9.9	1	
874	156	両口箸	c-66-18-b	806	板紐		スギ?	23.90	0.90	0.80	8.4	1	
875	156	両口箸	c-66-19-a	2774	板紐		スギ	23.80	0.70	0.60	7.0	1	
876	156	両口箸	c-66-09-d	2557	紐目		スギ?ヒノキ?	24.00	0.85	0.63	7.0	1	
877	156	両口箸	c-67-10-c	15355	板紐		アジサイ	24.10	0.80	0.90	10.7	1	
878	156	両口箸	c-66-09-a	2568	板紐		スギ	24.00	0.75	0.76	7.0	1	
879	156	両口箸	c-66-19-a	2743	板紐		スギ	25.40	0.80	0.80	9.0	1	
880	156	両口箸	d-66-99-d	15443	板目		ヒノキ?アスナロ?	25.40	0.90	0.60	9.9	1	
881	156	両口箸	c-66-08-c	1350	板紐		スギ?ヒノキ?ネズコ?	25.38	0.70	0.60	7.5	1	

表 V-63 0 B層掲載木製品 (35)

図 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)			重量 (g)	個 体 片	備 考
882	156	両口箸	c-66-28-c	271	板痕	スギ?ヒノキ?	26.10	0.80	0.75	10.0	1	
883	156	両口箸	c-66-08-c	1153	板痕	スギ	25.90	0.70	0.65	5.8	1	
884	156	両口箸	c-66-09-a	2710	板痕	スギ	27.20	0.75	0.75	9.0	1	
885	156	両口箸	c-66-09-d	2878	1/4削	アジサイ	29.50	0.80	0.90	14.0	1	
886	156	両口箸片	c-66-08-c	1356	板痕	ヒノキ?	( 32.42 )	1.14	1.00	( 22.8 )	1	
887	157	片口箸	c-66-09-a	2882	板痕	スギ	17.10	0.70	0.70	6.0	1	
888	157	片口箸	c-66-18-c	15033	板痕	○ヒノキ?アスナロ?	17.10	0.80	0.70	7.5	1	
889	157	片口箸	c-66-19-a	5584	板目	ヒノキ?アスナロ?	17.20	0.75	0.54	5.0	1	
890	157	片口箸	c-66-09-d	1202	板痕	スギ	18.20	0.70	0.70	5.1	1	
891	157	片口箸	d-67-91-b	4402	板痕	スギ?	18.40	0.70	0.64	5.0	1	
892	157	片口箸	d-66-99-c	1994	板痕	スギ	18.80	0.70	0.60	4.6	1	
893	157	片口箸	c-67-00-b	12017	板痕	アジサイ	19.80	1.00	0.90	11.0	1	
894	157	片口箸	d-67-81-b	3104	板痕	スギ	20.30	0.80	0.70	8.0	1	
895	157	片口箸	c-66-18-b	2076	板痕	スギ	20.20	0.70	0.53	6.0	1	
896	157	片口箸	d-66-99-c	1993	板痕	アジサイ	20.60	0.70	0.70	5.6	1	
897	157	片口箸	c-66-19-b	4159	板目	アジサイ	20.70	0.90	0.38	5.0	1	
898	157	片口箸	d-67-91-d	4827	板痕	ヒノキ?アスナロ?	20.70	0.73	0.60	6.2	1	2点接合。
899	157	片口箸	c-66-09-a	2871	板痕	アジサイ	21.90	0.70	0.65	6.0	1	
900	157	片口箸	d-67-72-d	4444	板痕	○スギ?	22.40	0.85	0.76	9.0	1	
901	157	片口箸	d-67-91-b	5249	板目	ヒノキ?アスナロ?	23.20	0.90	0.70	7.5	1	2点接合。
902	157	片口箸	d-67-81-c	3153	板痕	スギ	25.70	0.90	0.80	12.0	1	
903	157	片口箸片	c-67-10-c	14263	板痕	アジサイ	( 26.50 )	0.85	0.76	( 11.0 )	1	1ペルト出土。
904	157	片口箸	c-67-02-c	6029	1/4削	アジサイ	26.90	0.90	0.70	12.0	1	
905	157	片口箸	c-67-10-b	7596	1/3削	アジサイ	27.20	0.90	0.80	12.2	1	

表V-64 0 B層掲載木製品 (36)

図版 番号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り 段階	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備考
906	157 片口箸	c-66-09-a	2883	1/4割	コナラ	27.90 1.00 0.80	11.0	1	
907	157 片口箸	d-67-92-a	15479	板証	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	28.30 1.20 0.90	18.2	1	2点接合。
908	158 片口箸	c-66-08-c	1138	板目	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	28.10 0.90 0.75	14.0	1	
909	158 片口箸	c-66-09-b	1093	板証	スギ	29.40 0.90 0.90	16.1	1	
910	158 片口箸	c-66-09-b	1611	板証	アジサイ	30.30 1.00 0.90	17.0	1	
911	158 片口箸	c-66-09-b	859	板証	アジサイ	30.40 0.80 0.70	10.9	1	2点接合。
912	158 片口箸	c-66-19-a	4154	1/5割	イチイ	30.70 0.93 0.86	12.0	1	
913	158 片口箸	c-66-19-a	4224	1/4割	アジサイ	37.00 1.10 1.35	13.0	1	
914	158 片口箸	d-67-82-a	4371	板証	スギ?	31.60 1.24 0.80	13.0	1	2点接合。
915	158 片口箸	d-67-81-b	3978	1/6割	アジサイ	31.50 1.10 1.10	13.0	1	2点接合。
916	158 片口箸	d-67-81-b	4002	板証	スギ	32.20 1.10 1.60	18.0	1	
917	158 片口箸	c-66-09-b	226	板証	イチイ	32.40 1.25 0.90	25.0	1	
918	158 片口箸	c-67-10-b	8938	丸木	アジサイ	32.80 0.90 0.80	17.5	1	2点接合。
919	159 片口箸	d-67-92-b	4962	板証	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	32.95 1.20 1.00	27.5	1	
920	- 片口箸片	d-66-99-c	1996	板証	スギ	( 32.60 ) 0.85 0.75	( 18.0 )	1	
921	159 片口箸	d-67-81-b	3101	板目	スギ	33.80 1.00 0.75	17.0	1	
922	159 片口箸片	c-67-00-d c-67-10-a	7988	1/4割	アジサイ	( 34.60 ) 1.20 0.90	( 21.8 )	1	端部刻目付。
923	159 片口箸	c-66-09-c	2213	1/4割	アジサイ	35.90 1.00 0.90	19.0	1	2点接合。
924	159 片口箸	c-66-09-d	2575	1/4割	アジサイ	39.90 0.90 0.90	19.5	1	
925	159 片口箸片	c-67-31-b	10329	1/4割	アジサイ	( 37.30 ) 1.00 0.90	( 20.0 )	1	
926	159 片口箸	c-67-31-b	10335	1/4割	アジサイ	40.30 1.10 1.10	32.0	1	
927	159 片口箸	c-67-00-d	7454	丸木	アジサイ	40.90 1.30 1.10	35.3	1	
928	159 片口箸片	c-67-32-d	10284	1/4割	アジサイ	( 40.75 ) 0.98 0.89	( 23.0 )	1	
929	159 片口箸	d-67-92-a	15343	半割	アジサイ	42.76 1.02 0.70	23.5	1	



表V-65 0B層掲載木製品 (37)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体	接 片	備考	
930 160	細串片	c-66-18-a	805	板痕	ヒノキ?アスナロ?	( 12.90 )	0.50	0.40	( 1.5 )	1	1	
931 160	細串片	c-66-18-b	1292	板痕	ヒノキ?アスナロ?	( 20.40 )	0.48	0.50	( 3.5 )	1	1	
932 160	丸串	c-66-18-b	2435	板痕	スギ	20.40	0.65	0.45	5.0	1	1	
933 -	丸串片	c-66-18-b	2432	板痕	アジサイ	( 22.10 )	0.90	0.80	( 9.0 )	1	1	
934 -	丸串片	c-66-18-d	1499	板痕	カツラ	( 31.80 )	0.90	0.75	( 10.0 )	1	1	
935 160	丸串	c-66-18-c	2099	榫目	コナラ	28.20	0.90	0.70	11.0	1	1	
936 160	丸串	c-66-19-a	3756	1/4割	イチイ	28.50	0.93	0.80	12.0	1	1	
937 160	丸串片	c-67-32-d	10282	丸木	ハギ	( 31.40 )	1.15	1.12	( 25.0 )	1	1	
938 160	丸串	d-66-99-d	2502	板目	スギ	34.90	1.00	1.00	24.0	1	1	
939 160	丸串片	c-66-19-b	4094	丸木	イヌエンジュ	( 34.80 )	1.96	1.20	( 12.0 )	1	2	2点接合。
940 -	楕円串片	c-66-18-b	2431	板目	スギ	( 14.70 )	0.90	0.60	( 5.7 )	1	3	3点接合。
941 160	楕円串	c-66-09-b	1777	1/3割	アジサイ	18.10	1.00	0.65	8.0	1	1	
942 160	楕円串	d-67-81-b	3166	榫目	スギ	18.70	0.60	0.35	3.0	1	2	2点接合。
943 160	楕円串	c-66-09-b	151	榫目	○スギ?	20.50	1.60	0.90	18.0	1	1	
944 160	楕円串	c-66-18-c c-66-18-d	2911	透榫	○スギ	25.10	1.05	0.80	13.0	1	1	
945 160	楕円串片	c-67-00-d	6676	榫目	スギ?ネズコ?ヒノキ?	( 44.95 )	1.50	0.70	( 31.0 )	1	2	2点接合。
946 160	楕円串片	c-66-09-c	1946	板目	モミ	( 38.15 )	1.15	0.75	( 24.0 )	1	1	
947 160	楕円串	c-66-09-a	2869	榫目	○イチイ	33.50	1.20	0.70	18.0	1	1	
948 161	楕円串	d-66-99-b d-67-90-a	2227	板痕	○ヒノキ?	31.05	1.25	1.05	28.0	1	1	両端部炭化。
949 161	楕円串片	c-66-18-b	2078	榫目	スギ?ネズコ?	( 24.85 )	1.40	0.90	( 16.4 )	1	2	2点接合。
950 161	両先串	c-66-08-c	1361	榫目	アジサイ	30.55	1.00	0.88	12.2	1	2	2点接合。短刻付。
951 161	両先串片	c-66-08-c	1384	1/4割	アジサイ	( 29.72 )	1.00	0.80	( 10.5 )	1	1	
952 161	両先串	c-66-08-c c-66-18-b	1799	板痕	スギ	27.60	0.80	0.90	12.0	1	1	
953 161	両先串	c-66-19-d	2299	板痕	ヒノキ?アスナロ?	25.70	0.80	0.80	8.4	1	1	

表 V-66 0 B 層掲載木製品 (38)

図 号	図 番 号	通物名称	発掘区	遺物番号	木取り 樹皮	樹 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重 量 (g)	個 体	破 片	備 考
954	161	両先串	c-67-10-b	12491	板紐		アジサイ	17.40	0.80	0.54	4.9	1	
955	161	両先串片	c-66-08-c	1164 1165	紐目		ヒノキ?アスナロ?	33.80	1.30	0.60	14.2	1	33点接合。
956	161	両先串	c-66-08-c	1148	紐目		スギ	34.06	1.23	0.54	14.7	1	
957	161	両先串	c-66-08-c	1380	板紐		スギ?ネズコ?	34.65	0.89	1.10	17.5	1	
958	161	両先串片	c-67-02-a	3406	紐目		アジサイ	( 40.00 )	1.13	0.79	( 20.0 )	1	33点接合。
959	161	両先串	d-66-99-c	1986	板目		アジサイ	42.25	1.10	0.75	21.0	1	22点接合。
960	-	平角串片	c-66-19-d	2420	紐目		スギ	( 13.50 )	1.20	0.75	( 10.0 )	1	
961	162	平角串	c-66-18-c	1434	板目		ヒノキ?アスナロ?	14.90	1.20	0.60	4.7	1	
962	162	平角串	d-66-99-d	2504	追紐		スギ	19.15	1.00	0.60	9.0	1	
963	162	平角串	c-67-00-a	706	板目		コナラ	19.65	0.90	0.50	5.0	1	22点接合。
964	162	平角串	c-66-18-b	1357	板目		スギ	19.80	8.50	0.50	5.2	1	
965	162	平角串片	c-66-08-c	1354	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 21.30 )	1.40	0.70	( 16.3 )	1	
966	162	平角串片	c-66-09-b	941	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 22.46 )	1.40	0.80	( 16.0 )	1	
967	162	平角串	c-66-19-a	1891	紐目		ヒノキ?アスナロ?	24.25	1.00	0.60	9.8	1	
968	162	平角串	d-67-81-d	3275	紐目		スギ	25.70	0.98	0.56	9.0	1	22点接合。
969	162	平角串	c-66-28-b	c-66-29-a	1419	紐目	ヒノキ?アスナロ?	27.60	1.20	0.80	16.6	1	
970	162	平角串片	c-66-19-a	c-66-19-b	4780	板目	イチイ	( 27.35 )	1.05	0.60	( 12.5 )	1	33点接合。
971	162	平角串	c-66-18-b	15053	板目		ヒノキ?アスナロ?	28.40	1.60	0.84	24.5	1	
972	162	平角串片	c-67-01-d	15196	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 29.00 )	1.40	0.70	( 14.2 )	1	
973	162	平角串	d-67-81-d	3277	紐目		スギ	29.10	1.00	0.78	15.2	1	
974	162	平角串	c-66-38-b	c-66-28-c	13743	板目	スギ	29.55	1.00	0.60	13.1	1	22点接合。
975	162	平角串	c-66-09-b	149	紐目		スギ?ヒノキ?	30.40	1.40	0.70	19.0	1	
976	162	平角串片	c-66-18-d	694	紐目		スギ	( 34.30 )	1.30	0.60	( 14.4 )	1	22点接合。
977	162	平角串片	c-66-09-d	2565	紐目		スギ	( 34.10 )	1.83	1.10	( 35.1 )	1	

表 V-67 0 B 層掲載木製品 (39)

図 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	密度 (g)	個 体	破 片	備考
978	163 平角串	c-66-19-b	3857	板目		イヌエンジュ	37.30 2.01 0.90	49.0	1	1	
979	163 平角串	c-66-29-d	15486	板目		ヒノキ?アスナロ?	38.90 1.10 0.50	15.0	1	1	
980	163 角串片	c-67-10-b	15314	板証		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?スギ? 木釘・ヒノキ料	( 16.06 ) ( 1.20 ) 1.08	( 18.2 )	1	1	木釘孔2ヶ所の内、木釘入り1ヶ所。桶底板再利用。
981	163 細角串	d-67-72-a	4507	板証		ヒノキ?アスナロ?スギ?	18.90 0.60 0.50	2.7	1	1	
982	- 角串片	c-66-28-b	1477	1/4割		アジサイ	( 20.80 ) 1.05 0.80	( 10.0 )	1	1	
983	163 角串	c-66-19-a	5556	1/4割		アジサイ	21.48 1.02 1.01	13.0	1	1	
984	163 角串	d-66-99-c	2220	板証		ヒノキ?アスナロ?	22.70 0.98 0.80	11.6	1	1	
985	163 角串	c-66-09-b	2171	板目		ヒノキ?アスナロ?	22.50 1.20 0.95	14.0	1	1	
986	163 角串	c-66-29-a	1837	板目		スギ	22.85 1.25 0.85	14.0	1	1	
987	163 角串	c-66-19-a	2590	板目		○スギ?ヒノキ?	23.60 1.50 1.00	20.0	1	1	
988	163 角串片	c-66-09-a c-66-09-d	2567	板目		スギ	( 23.24 ) 1.10 0.85	( 16.5 )	1	1	
989	163 角串	c-66-09-b	725	1/4割		アジサイ	25.20 0.90 0.80	13.2	1	1	
990	163 角串	d-67-91-a	5832	板目		ヒノキ?アスナロ?	25.90 0.80 0.75	2.3	1	1	自然乾燥。計測値は乾燥後の値。
991	163 角串	d-67-91-b	5243	板目		ヒノキ?アスナロ?	27.60 1.10 0.70	11.2	1	1	2点接合。
992	163 角串片	d-67-81-c	4036	板証		スギ	( 29.00 ) 1.57 1.06	( 14.0 )	1	1	
993	163 角串片	c-66-19-a	5566	板目		○ヒノキ?アスナロ?	( 27.75 ) 1.13 1.12	( 23.0 )	1	1	
994	163 角串片	c-67-31-a	10262	1/6割		アジサイ	( 27.80 ) 0.95 1.20	( 15.2 )	1	1	
995	164 角串	c-66-19-b	2627	板証		スギ	32.90 1.20 1.20	20.2	1	1	
996	164 角串片	c-66-08-c	1381	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 32.50 ) 0.90 0.70	( 12.1 )	1	1	2点接合。
997	164 角串	c-66-18-c	1490	追証		スギ	35.15 1.05 0.75	20.0	1	1	
998	164 角串	d-67-81-c	3561	板証		スギ?ヒノキ?ネズコ?	56.80 1.24 1.10	57.0	1	1	
999	164 有孔楕円串基部片	c-66-18-c	1857	板目		アジサイ	( 11.15 ) 1.50 0.61	( 5.6 )	1	1	2点接合。
1000	164 有孔平角串	c-67-00-a	366	板目		ハリギリ	23.35 0.90 0.42	7.0	1	1	2点接合。
1001	164 有孔平角串片	c-66-28-d	542	板目		スギ?	( 21.23 ) 2.12 0.85	( 23.0 )	1	1	

表 V-68 0 B層燻炭木製品 (40)

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
1002 164	有孔丸串	d-67-91-a	5186	木取り 1/4割	アジサイ	33.00 1.00 0.80	14.4	1	1	紐孔付。
1003 164	挟付角串片	c-66-09-c	15424	板紐	アジサイ	( 7.52) 1.00 1.10	( 5.6)	1	1	短刻付。
1004 164	端部挟付角串状製品片	c-66-19-c	15438	1/4割	ガマズミ?ハイノキ?	( 19.40) 0.93 0.88	( 9.3)	1	1	2点接合。
1005 164	屈曲角串状製品	c-66-09-a	2868	板目	イチイ	22.80 5.70 0.82	7.6	1	1	
1006 -	三角串片	c-66-18-c	2094	紐目	コナラ	( 17.65) 1.00 0.80	( 8.0)	1	1	
1007 165	三角串	c-66-09-a	2696	1/4割	アジサイ	19.60 0.70 0.60	6.0	1	1	
1008 165	三角串	c-66-19-b	4101	1/5割	○ハイノキ?	22.60 1.02 1.05	12.0	1	1	
1009 165	三角串片	c-66-09-d	1951	1/4割	コナラ	( 24.80) 1.00 1.00	( 10.9)	1	1	
1010 165	三角串片	c-66-09-c	586	1/4割	イボタノキ?	( 30.70) 1.40 1.10	( 25.0)	1	1	
1011 165	三角串	c-66-09-c	2190	1/6割	クワ	32.20 1.10 0.90	16.0	1	1	
1012 165	半割串片	c-66-09-c	927	半割	ハイノキ	( 32.70) 1.70 1.40	( 54.0)	1	1	
1013 165	割串片	d-66-99-d	2659	1/3割	アジサイ	( 27.40) ( 1.66) ( 1.25)	( 32.4)	1	1	
1014 -	半割串片	c-66-09-d	592	半割	ヤナギ	( 20.10) 1.55 0.80	( 14.0)	1	1	2点接合。
1015 165	半割串片	c-66-19-a	3801	追紐	スギ?	( 22.80) 1.55 0.70	( 13.2)	1	1	
1016 165	半割串片	c-67-10	15116	半割	○アジサイ	( 36.40) 1.20 0.90	( 26.1)	1	1	
1017 165	長串状製品片	d-67-81-b	3971	板紐	スギ	( 65.60) 1.10 0.95	( 44.0)	1	1	
1018 165	長串状製品片	c-66-19-d	2393	板目	スギ	( 97.50) 1.20 0.70	( 54.7)	1	1	
1019 165	長串状製品片	c-66-19-d	2309	板紐	スギ	( 79.90) 1.10 1.00	( 43.3)	1	1	
1020 166	割竹串	c-66-19-d	7257	1/4割	イネ科(ササ)	8.70 0.85 0.30	1.0	1	1	
1021 166	割竹串片	c-66-29-d	15466	1/6割	イネ科(ササ)	( 8.75) 0.55 0.20	( 0.6)	1	1	
1022 166	割竹串片	c-66-19-d	14799	半割	イネ科(ササ)	( 14.00) 1.50 0.50	( 3.8)	1	1	
1023 166	割竹串片	c-66-29-d	2113	1/3割	イネ科(ササ)	( 11.00) 1.15 0.60	( 4.6)	1	1	
1024 166	割竹串片	c-67-00-a	15334	半割	イネ科(ササ)	( 12.90) 1.75 0.90	( 10.0)	1	1	
1025 166	割竹串片	c-66-18-b	15294	半割	イネ科(ササ)	( 21.90) ( 1.30) ( 0.40)	( 4.6)	1	1	3点接合。許容値は推定値。

表 V-69 0 B層掲載木製品 (41)

図 番 号	國 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 段階	樹 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
1026	166	割竹串	c-66-09-d	15073	半割		イネ科(ササ)	8.50 2.30 0.70	5.3	1	1
1027	166	割竹串片	c-66-18-b	15566	半割		イネ科(ササ)	( 11.40 ) ( 1.65 ) ( 0.55 )	( 5.0 )	1	1
1028	166	割竹串片	c-67-00-a	15190	半割		イネ科(ササ)	( 12.70 ) 1.30 0.50	( 5.4 )	1	2点接合。
1029	166	割竹串片	c-66-39	15080	1/4割		イネ科(ササ)	( 14.50 ) 0.95 0.40	( 2.8 )	1	1
1030	166	割竹串片	c-66-09-d	15075	1/4割	○	イネ科(ササ)	( 15.10 ) ( 1.00 ) ( 0.55 )	( 3.3 )	1	2点接合。
1031	166	割竹串	c-66-29-b	5142	1/4割		イネ科(ササ)	22.40 1.30 0.50	8.3	1	2点接合。
1032	166	割竹串片	c-66-19-a	14795	半割		イネ科(ササ)	( 24.40 ) 1.60 0.60	( 13.7 )	1	2点接合。
1033	166	割竹串片	c-66-09-c c-66-09-d	1958	半割		イネ科(ササ)	( 25.60 ) 1.50 0.70	( 10.0 )	1	2点接合。
1034	166	割竹串片	c-67-00-c	15454	半割		イネ科(ササ)	( 39.55 ) 1.05 0.35	( 8.2 )	1	3点接合。桶タガ片?
1035	167	割竹串片	c-66-19-d	2297	半割		イネ科(ササ)	( 26.70 ) 2.10 1.20	( 23.8 )	1	1
1036	167	割竹串片	c-66-18-c	15299	半割		イネ科(ササ)	( 34.00 ) 1.25 0.35	( 8.1 )	1	3点接合。桶タガ片?
1037	167	割竹串片	c-67-10-b	15313	半割		イネ科(ササ)	( 37.35 ) 1.60 0.55	( 17.6 )	1	5点中3点接合3点実測。桶タガ片?
1038	167	割竹串片	c-66-29-a	2131	1/4割		イネ科(ササ)	( 38.20 ) 1.20 0.50	( 8.0 )	1	2点接合。桶タガ片?
1039	167	環状竹串片	c-66-09-b	374	環		イネ科(ササ)	( 36.00 ) 2.10 2.10	( 83.0 )	1	1
1040	167	環状竹串片	c-66-28-b	15391	環		イネ科(ササ)	( 26.60 ) 1.65 1.70	( 43.4 )	1	1
1041	167	環状竹串片	c-66-09-a	15331	環		イネ科(ササ)	( 21.55 ) 2.30 1.60	( 37.2 )	1	1
1042	167	環状竹串片	c-66-18-c	15297	環		イネ科(ササ)	( 13.50 ) 1.70 1.60	( 24.0 )	1	3点中2点接合2点実測。
1043	167	環状竹串片	d-66-99-c	15099	環		イネ科(ササ)	( 7.35 ) 1.00 1.00	( 4.2 )	1	3点接合。
1044	168	棒状製品片	c-66-18-b	2086	半割		ハシドイ	( 5.60 ) 1.45 1.25	( 3.3 )	1	1
1045	168	棒状製品片	c-66-09-d c-66-09-c	760	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 10.60 ) 3.40 0.70	( 17.0 )	1	1 堅歯?
1046	168	根付?	c-66-29-d	269	板目		カエデ	6.50 1.90 1.50	13.6	1	1 彫刻、短刻付。
1047	168	薄板目板片	c-67-00-a	15452	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 6.00 ) 2.50 0.40	( 3.4 )	1	1 彫刻目列付。
1048	168	細板材片	c-66-09-b	711	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 9.70 ) 2.25 0.50	( 7.0 )	1	1 彫刻目列付。
1049	168	細板材片	c-66-09-b	619	板目		スギ?スズコ?	( 10.50 ) 1.70 0.70	( 4.9 )	1	1 彫刻目列付。

表V-70 0 B層掲載木製品 (42)

図 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個体 数	備考
1050	168	細板材片	c-66-09-d	2180	榎目		ヒノキ?アスナロ?	( 9.30 ) 2.10 1.20	( 12.8 )	1	1 側縁刻目列付。
1051	168	糸織め具片	c-66-18-a	15484	板目		イチイ?	21.20 1.65 0.60	( 11.1 )	1	1 側縁刻目付。
1052	168	細角材片	c-66-18-b	15411	板証		ヒノキ?アスナロ?	( 5.80 ) 0.60 0.70	( 2.1 )	1	1 側縁刻目列付。
1053	168	細角材片	c-66-18-c	15298	板証		ヒノキ?アスナロ?	( 8.80 ) 0.80 1.10	( 5.1 )	1	1 側縁刻目列付。
1054	168	細角材片	c-66-08	2361	板目		スギ?ヒノキ?アスナロ?	( 9.25 ) ( 1.30 ) 0.70	( 4.6 )	1	1 側縁刻目列付。
1055	168	細角材片	c-66-09-b	15427	榎目		ヒノキ?アスナロ?	( 9.80 ) 1.50 0.80	( 4.4 )	1	1 側縁刻目列付。
1056	168	細角材片	c-66-09-d	15363	丸木		アジサイ	( 13.90 ) 1.40 1.30	( 17.1 )	1	1 側縁短刻列付。
1057	168	編機部材片	c-66-19-b	5753	板証		スギ	( 19.20 ) 1.50 1.50	( 34.2 )	1	1 丸材片。
1058	168	彫刻付織機部材片	c-66-28-c	504	追証		スギ	( 14.10 ) ( 3.50 ) 1.80	( 49.6 )	1	1 阿細部有孔加工材片。
1059	169	コモ縄片	c-66-28-b	15467	榎目		ハコヤナギ	( 8.10 ) 3.45 1.40	( 27.7 )	1	1 割材。
1060	169	コモ縄片	c-66-18-b	634	榎目		カエデ	11.00 3.00 3.41	( 79.0 )	1	1 割材。
1061	169	コモ縄	c-66-19-a	2602	板証		カエデ	11.30 3.30 2.65	72.0	1	1 割材。
1062	169	コモ縄	c-66-09-a	2177	榎目		カエデ	13.30 3.80 2.35	90.4	1	5 5点接合。割材。
1063	169	コモ縄	c-66-09-c c-66-09-d	587	榎目		カエデ	12.90 4.60 1.90	64.0	1	1 割材。
1064	169	コモ縄	d-66-99-c	1977	半割		コナラ	12.80 4.10 2.40	76.2	1	1 割材。
1065	169	コモ縄	d-67-91-a	3594	半割	○	コナラ	12.60 5.35 3.35	106.0	1	1 割材。
1066	169	コモ縄	c-66-18-b	2082	丸木		ヤナギ	3.50 1.60 1.50	5.9	1	1 小型。丸木材。
1067	169	コモ縄片	c-66-19-c	3872	丸木		トネリコ	( 9.20 ) 3.64 3.30	( 66.6 )	1	1 丸木材片。
1068	169	コモ縄	c-66-09-b	368	丸木		コナラ	11.39 3.82 3.96	110.0	1	1 丸木材。
1069	169	コモ縄	c-66-09-b	1048	丸木		コナラ	11.60 4.43 3.70	114.8	1	1 丸木材。
1070	170	コモ縄	c-67-40-b	10187	丸木		コナラ	12.80 4.50 4.10	142.0	1	1 丸木材。頭部寸法幅(3.90)cm×厚さ(3.50)cm。
1071	170	コモ縄片	c-66-28-a	950	丸木		ハンノキ	13.80 5.87 ( 5.20 )	( 209.0 )	1	1 丸木材片。
1072	170	コモ縄片	c-66-18-b	1359	丸木		ヤナギ	15.80 6.10 ( 6.20 )	( 348.8 )	1	1 丸木材片。
1073	170	コモ縄	c-66-29-a	2346	丸木		ハンノキ	14.00 5.60 4.80	277.4	1	1 丸木材。

表V-71 0 B層掲載木製品 (43)

図 番 号	運物名称	発細区	運物番号	木取り 樹皮扱	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備考
1074	コモ礎	c-66-28-b	1414	丸木	カエデ	9.90 3.80 3.80	106.1	1	丸木材。
1075	コモ礎	c-66-09-c c-66-09-d	1120	丸木	ヤナギ	9.10 3.50 3.70	76.0	1	丸木材。
1076	コモ礎	d-67-91-a	15344	丸木	アジサイ	4.00 1.05 0.97	2.9	1	小型丸木材。
1077	コモ礎切断品	c-66-19-c	7228	丸木	ウルシ?	13.69 3.62 3.06	( 76.0 )	1	丸木材。
1078	コモ礎	c-66-19-d	7254	板柱	スギ?	13.00 3.10 3.20	80.0	1	
1079	下駄	d-66-99-d	2856	半割	キハダ 差樹:カツラ	23.40 8.85 3.98	423.7	1	2点接合(差樹含む)。差樹式。木取り本体;半割。差樹:榎目。
1080	下駄	c-66-18-b	1500	追柱	ハリギリ	23.80 10.40 6.20	504.0	1	2点接合。冬用鉄釘跡4ヶ所あり。鼻緒残存。
1081	下駄	d-67-91-a	4985	柱目	スギ?	21.00 2.30 8.00	245.2	1	1点樹式。
1082	下駄片	c-66-09-c	1217 1607	板目	モクレン	22.40 ( 8.40 ) 3.50	( 261.0 )	1	2点接合。差樹式。
1083	下駄片	c-66-09-a	2713	板目	モクレン	( 15.70 ) 6.90 2.00	( 68.0 )	1	1点樹式。
1084	下駄	d-67-81-d	3096	追柱	カツラ	21.50 8.60 4.80	400.0	1	1点樹式。
1085	下駄片	c-66-29-a	2327	柱目	スギ?ネズコ?	( 18.70 ) ( 3.50 ) 4.10	( 101.0 )	1	1点樹式。
1086	下駄片	c-67-10-a	7966	1/4割	キハダ	( 9.00 ) ( 3.50 ) ( 3.20 )	( 30.0 )	1	1点樹式。
1087	下駄	c-66-18-c	824	柱目	○スギ	20.20 7.80 1.95	257.4	1	無樹式。
1088	カンジキ片	c-66-29-a	1847	柱目	クワ	( 128.80 ) 2.20 3.20	( 480.0 )	1	2点接合。チンル。一輪型。瓢箪型。前後各9本の軸孔あり。
1089	カンジキ片	c-66-09-c	2358	柱目	クワ 軸:アジサイ?	( 45.33 ) ( 2.53 ) 2.20	( 78.5 )	1	2点接合。チンル。一輪型。瓢箪型。前10本、後3本の軸孔あり。 内、軸孔入り3ヶ所。
1090	カンジキ片	c-67-10-c	15385	柱目	クワ	( 14.00 ) ( 2.25 ) ( 1.50 )	( 22.2 )	1	チンル。一輪型。瓢箪型。3本の軸孔あり。
1091	カンジキ軸片	c-67-00-d	6687	1/4割	アジサイ	( 10.80 ) 0.75 0.55	( 3.0 )	1	
1092	カンジキ軸片	c-66-19-c	15439	板目	アジサイ	( 11.20 ) 1.00 0.75	( 5.2 )	1	
1093	カンジキ軸	c-66-29-a	15300	板柱	アジサイ	16.15 0.75 0.60	5.6	1	
1094	カンジキ軸	c-67-10-d	15019	1/6割	アジサイ	16.60 0.90 0.70	7.4	1	
1095	カンジキ軸片	c-66-19-b	4673	1/6割	アジサイ	( 17.20 ) 0.70 0.70	( 5.3 )	1	
1096	カンジキ軸片	d-67-91-a	4537	1/3割	アジサイ	( 17.00 ) 0.60 0.60	( 4.2 )	1	
1097	カンジキ軸	c-67-00-c	7378	丸木	アジサイ	22.00 0.80 0.70	7.0	1	3点接合。

表V-72 0 B層掲載木製品 (44)

図版 番号	運物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	破 個 体 片	備考
1098 175	カンジキ軸	d-66-99-c	2830	板目		アジサイ	21.20 1.00 0.86	8.5	1	
1099 175	カンジキ軸	d-66-99-d	2799	1/4割		アジサイ	21.10 0.85 0.90	11.0	1	
1100 175	カンジキ軸片	c-66-29-a	1475	1/6割		アジサイ	( 20.50) 0.70 0.60	( 6.0)	1	
1101 175	カンジキ軸片	c-66-09-c c-66-09-d	1962	1/4割		アジサイ	( 18.50) 0.80 0.60	( 6.2)	1	
1102 175	カンジキ軸片	c-66-08-c	1131	1/4割		アジサイ	( 18.00) 0.65 0.60	( 5.0)	1	
1103 175	カンジキ軸片	c-66-19-c	7221	1/4割		アジサイ	( 22.30) 0.90 0.70	( 9.1)	1	
1104 175	カンジキ軸片	c-67-00-d	7156	板目		アジサイ	( 22.10) 0.70 0.60	( 7.5)	1	
1105 175	カンジキ軸	d-67-81-d	2984	板証		アジサイ	23.00 0.85 0.70	8.0	1	
1106 175	カンジキ軸	c-66-19-a	3909	板証		アジサイ	23.50 1.00 0.90	9.0	1	
1107 175	カンジキ軸片	c-66-09-b	2173	板証		アジサイ	( 23.10) 0.75 0.80	( 10.1)	1	
1108 175	カンジキ軸片	c-66-09-d	1119	1/4割		アジサイ	( 26.60) 0.80 0.70	( 9.0)	1	
1109 176	木札	c-66-08-c	646	柱目		ヒノキ?	4.20 5.70 0.60	12.0	1	1 穂の線刻面付。
1110 176	木札	c-66-08-c	534	柱目		スギ?ヒノキ?	5.47 4.48 0.55	12.0	1	2 2点接合。
1111 176	木札	c-66-08-c	648	板目		ヒノキ?アスナロ?	5.90 4.00 0.70	14.0	1	
1112 176	木札	c-66-08-c	647	板目		ヒノキ?アスナロ?	5.40 3.79 0.65	10.0	1	
1113 176	木札	c-66-19-a	2606	柱目		○スギ?	5.30 4.16 0.60	10.6	1	
1114 176	木札	c-66-08-c	649	板目		ヒノキ?アスナロ?	5.40 4.00 0.50	8.0	1	
1115 176	木札未製品	c-66-18-b	810	造証		ヒノキ?	4.00 3.40 0.85	8.7	1	
1116 177	花矢片	c-67-10-b	15379	板証		アジサイ	( 10.90) 1.20 1.30	( 10.2)	1	1 イトクハ付。
1117 177	花矢	c-66-38-a	13427	柱目		アジサイ	12.35 1.10 0.95	7.0	1	1 イトクハ付。
1118 177	花矢	d-66-99-c	2359	1/4割		アジサイ	15.50 1.15 1.10	9.4	1	1 彫刻、イトクハ付。
1119 177	花矢	c-66-19-a	2741	1/4割		アジサイ	12.70 1.10 1.10	7.4	1	1 刻み付。
1120 177	花矢	c-66-09-b	410	半割		アジサイ	13.85 1.50 1.20	11.0	1	1 矢筒表着痕あり。
1121 177	花矢	c-66-09-d	1605	板証		アジサイ	15.70 1.28 1.17	10.6	1	



表 V-73 0 B層掲載木製品 (45)

図 番 号	国 産 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
1122	177	花矢片	d-66-99-d	2820	榎目		アジサイ	9.50 ( 1.40) 1.45 ( 10.0)	( 10.0)	1	1彫刻付。
1123	177	花矢	c-66-09-d	240	板		アジサイ	14.00 1.20	11.0	1	1矢柄表者痕あり。
1124	178	棒酒箸片	c-66-08-c	15472	榎目		ヒノキ?アスナロ?	( 3.50) ( 1.30) 0.40 ( 3.4)	( 3.4)	1	1イトクハ付。
1125	178	棒酒箸片	c-66-08-c	15469	榎目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 6.95) 1.30 0.45 ( 3.2)	( 3.2)	1	1イトクハ付。
1126	178	棒酒箸片	c-66-18-c	15405	榎目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 7.30) ( 1.10) 0.60 ( 4.1)	( 4.1)	1	1イトクハ付。
1127	178	棒酒箸片	c-67-00-c	9755	榎目		スギ?	( 9.70) 2.46 0.40 ( 7.3)	( 7.3)	1	1イトクハ付。
1128	178	棒酒箸片	c-67-00-d c-67-10-a	6694	榎目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 30.85) ( 2.40) ( 0.80) ( 42.6)	( 42.6)	1	1彫刻付。木釘孔2カ所。
1129	178	棒酒箸片	c-67-00-d	7936	榎目		スギ?	( 17.70) ( 1.20) ( 0.80) ( 8.5)	( 8.5)	1	1彫刻付。
1130	178	棒酒箸片	c-67-40-b	10182	榎目		ヒノキ?	( 21.30) 1.90 0.70 ( 15.2)	( 15.2)	1	22点接合。イトクハ付。
1131	178	棒酒箸	c-66-09-c	239	榎目		ネズコ?スギ?	24.50 3.00 0.85 44.9	44.9	1	1イトクハ付。
1132	178	棒酒箸片	c-66-29-a	15096	板		ヤナギ	( 23.10) 2.90 0.95 ( 41.7)	( 41.7)	1	1イトクハ付。
1133	179	棒酒箸片	c-66-29-d	387	榎目		スギ	( 13.65) 2.60 1.10 ( 26.0)	( 26.0)	1	1イトクハ付?
1134	179	棒酒箸片	c-66-18-c	14698	榎目		ヒノキ?アスナロ?	( 12.74) 3.43 0.93 ( 23.4)	( 23.4)	1	1イトクハ付?
1135	179	棒酒箸片	c-66-28-b	1219	榎目		ヒノキ?アスナロ?	( 11.82) 3.50 1.10 ( 21.0)	( 21.0)	1	1イトクハ付?
1136	179	棒酒箸片	c-66-19-a	3890	榎目	○	スギ?ネズコ?	( 20.20) 3.46 0.80 ( 42.2)	( 42.2)	1	1イトクハ付?樹皮縦り1カ所。
1137	179	棒酒箸片	c-66-19-a c-66-18-b	14796	半割		ヤナギ	( 20.50) 2.20 1.00 ( 22.8)	( 22.8)	1	33点接合。
1138	179	棒酒箸片	c-66-19-a	5544	造紐		ヒノキ?アスナロ?	( 18.50) 2.30 0.80 ( 24.3)	( 24.3)	1	
1139	179	棒酒箸切断品	c-66-29-a	2104	板		ヒノキ?アスナロ?	19.80 3.10 0.90 43.7	43.7	1	
1140	179	棒酒箸	c-66-19-a	3902 3903	榎目		ヒノキ?	25.00 2.45 0.65 27.6	27.6	1	22点接合。線刻付。
1141	179	棒酒箸	c-66-09-d	766	榎目		スギ?ヒノキ?	29.70 2.90 0.80 49.7	49.7	1	
1142	180	木幣片	d-67-91-a	5042	丸木		ヤナギ	( 12.40) 2.00 2.00 ( 30.0)	( 30.0)	1	1削りかけの痕跡あり。
1143	180	木幣状製品片	c-67-10-c	15359	丸木		タニウツギ?ハイノキ?	( 13.70) ( 2.10) 2.00 ( 23.0)	( 23.0)	1	1削りかけの痕跡あり。
1144	180	木幣状製品片	c-67-00-c	15453	丸木		ヤナギ	( 20.50) 1.95 1.90 ( 40.4)	( 40.4)	1	22点接合。短刻付。削りかけの痕跡あり。
1145	180	木幣状製品	d-66-99-c	1609	丸木		トネリコ	34.40 2.20 2.15 117.0	117.0	1	22点接合。

表V-74 0 B層掲載木製品 (46)

図 号 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)		重量(g)	個 体 数	密 片	備 考
1146 180	木筒状製品	c-67-10-c	8574	丸木		ミツバウツギ?	32.50	2.30	2.10	86.0	1	1 短刻列付。
1147 180	木筒状製品	d-67-91-b	5282	丸木		ヤナギ	41.50	2.10	1.85	91.5	1	33点接合。イトクハ、彫刻付。
1148 181	刀ミニチュア片	c-66-19-b	3855 15184	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 21.10 )	( 2.20 )	0.55	( 11.8 )	1	22点接合。短刻列付。
1149 181	刀刃部ミニチュア片	c-66-28-b	1478	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 20.40 )	1.60	0.60	( 16.4 )	1	
1150 181	細板材片	c-66-18-c	15410	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 11.00 )	1.80	0.60	( 9.8 )	1	1 線刻面付。
1151 181	角材片	c-66-28-c	15396	板目		ハリギリ	( 5.50 )	1.40	( 1.50 )	( 7.2 )	1	1 イトクハ付。
1152 181	端部挟入部付丸木材	c-66-09-b	1903	丸木	○	モミ	7.25	2.55	2.50	23.8	1	1 イトクハ付。
1153 181	割材切断品片	c-67-00-c	15238	逆紐		ヒノキ?アスナロ?	( 9.60 )	( 1.50 )	( 10.8 )	( 10.8 )	1	1 イトクハ付。
1154 181	丸木材片	c-66-19-d	15436	丸木		ヤナギ	( 3.80 )	2.30	2.20	( 12.6 )	1	1 イトクハ付。
1155 181	丸木材片	d-66-99-c	15449	丸木		ヤナギ	( 5.10 )	2.20	2.20	( 17.5 )	1	1 イトクハ付。
1156 181	丸材切断品	c-66-08-c	15471	板紐		ハリギリ	9.05	2.25	2.20	30.1	1	1 イトクハ付。
1157 181	丸木材切断品	c-66-18-c	15095	丸木	○	ヤナギ	11.90	2.60	2.65	50.5	1	1 イトクハ付。
1158 181	丸木材切断品	c-67-30-c	15021	丸木		スギ?	17.60	2.45	2.55	8.4	1	1 イトクハ付。
1159 181	丸木材切断品片	c-66-09-a d-66-99-d	2725	丸木		モミ	( 19.50 )	2.75	2.90	( 110.9 )	1	1 イトクハ付。
1160 181	半割材切断品	d-67-82-d	14335	半割		オニグルミ	33.90	3.30	2.70	154.3	1	22点接合。イトクハ付。
1161 182	円盤状製品	c-66-09-c	340	板目		カエデ	2.67	2.80	1.00	5.0	1	
1162 182	円盤状製品片	c-66-09-d	15381	板目	○	ヤナギ	( 7.10 )	( 3.40 )	1.05	( 16.4 )	1	
1163 182	円盤状製品	c-66-18-c	629	板目	○	スギ?アスナロ?ヒノキ?	2.60	2.60	0.50	2.2	1	
1164 182	円盤状板材片	c-66-09-d	2891	板目		ハンノキ	( 8.98 )	3.67	1.52	( 25.3 )	1	22点接合。
1165 182	有孔円盤状製品片	c-66-28-a	949	板目		ヒノキ?アスナロ?	4.00	( 3.00 )	1.33	( 10.3 )	1	
1166 182	有孔円盤状製品	c-66-08-c	660	板目		カツラ	3.20	3.10	1.10	8.0	1	
1167 182	有孔円盤状製品片	c-66-09-d	2556	板目	○	トチノキ	9.60	( 5.57 )	1.05	( 36.7 )	1	
1168 182	円錐台形製品片	c-67-10-d c-67-20-a	15204	板目		スギ	3.90	( 2.30 )	1.70	( 6.1 )	1	1 ベルト出土。
1169 182	円錐台形製品片	c-66-08-b	1382	丸木		ヤナギ	3.40	( 3.10 )	( 1.60 )	( 8.9 )	1	

表V-75 0B層掲載木製品(47)

図原 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	破 片	備考
1170	182 挟付加工材	c-66-08-c	1130	榫目	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	7.40 1.50 0.95	6.0	1	1	
1171	182 有孔加工材片	c-66-19-b	467	榫目	カエデ	( 7.75 ) 4.10 2.60	( 34.0 )	1	1	
1172	182 三日月状製品	c-66-19-a	2615	榫目	スギ?ヒノキ?	11.20 1.50 0.70	7.0	1	1	
1173	182 加工材	c-67-00-b	7857	追衿	ハリギリ	11.80 5.00 3.00	94.2	1	1	
1174	182 多段挟入付丸木材片	c-66-09-d	15383	丸木	トネリコ	( 4.60 ) 2.10 1.80	( 11.8 )	1	1	樹芯部角孔あり。
1175	182 環状製品	c-66-29-a	14776	丸木	○ハギ?	7.80 2.10 2.20	14.4	1	1	1ペルト出土。
1176	182 多段挟入付丸木材切断 品	d-67-91-b	5337	丸木	ハリギリ	11.20 1.60 1.60	18.6	1	1	1繩付。
1177	183 挟付ピン状製品	c-66-19-d	3823	1/8榫	イネ科(ササ)	6.10 0.73 0.25	0.6	1	1	
1178	183 ピン状製品片	c-66-19-a	5817	榫目	ヒノキ?アスナロ?	( 7.15 ) ( 0.70 ) 0.20	( 0.8 )	1	1	
1179	183 両ピン状製品	c-66-18-c	15416	板榫	ヒノキ?アスナロ?	12.60 1.00 0.80	6.3	1	1	1ペルト出土。
1180	183 片ピン状製品	c-66-19-b	5607	追衿	ヒノキ?アスナロ?	7.30 1.70 1.10	5.5	1	1	
1181	183 片ピン状製品	c-66-19-a	5547	板榫	ヒノキ?アスナロ?	8.35 1.70 1.60	11.3	1	1	
1182	183 片ピン状製品	c-66-19-b	4659	板目	ヒノキ?アスナロ?	8.40 1.70 1.40	9.5	1	1	
1183	183 片ピン状製品	c-66-18-c	2443	板榫	サクラ	8.35 0.85 0.80	3.7	1	1	
1184	183 片ピン状製品	c-66-18-b	2071	板榫	スギ	8.90 1.00 0.95	5.9	1	1	
1185	183 片ピン状製品	c-66-19-d	2378	板榫	サクラ	9.00 1.24 1.18	6.0	1	1	
1186	183 片ピン状製品	c-66-19-a	3899	板榫	イチイ	9.96 0.82 0.70	3.4	1	1	
1187	183 片ピン状製品	c-66-18-b	14797	榫目	ハリギリ	10.70 1.70 1.20	13.8	1	1	
1188	183 片ピン状製品	c-66-19-d	2369	板榫	スギ?ヒノキ?ネズコ?	11.10 0.77 0.62	4.0	1	1	
1189	183 片ピン状製品	c-66-19-a	2771	半割	アジサイ	11.00 1.20 1.15	6.3	1	1	
1190	183 片ピン状製品	c-66-09-c	15352	板榫	コナラ	11.30 1.15 1.10	7.4	1	1	
1191	183 片ピン状製品	c-66-09-a	15045	板榫	ヒノキ?アスナロ?	11.90 1.30 0.90	8.6	1	1	
1192	183 片ピン状製品	c-66-19-a	3930	榫目	スギ?ヒノキ?	12.20 1.26 0.85	8.0	1	1	
1193	183 片ピン状製品	c-66-29-a	2129	板榫	ヒノキ?アスナロ?	12.20 0.90 0.80	5.8	1	1	

表V-76 0 B層掲載木製品 (48)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮目	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体	板 片	備考
1194 183	片ビン状製品	c-66-19-d	2379	板目	スギ	12.20	11.60 0.97	6.0	1	1	
1195 183	片ビン状製品片	c-66-09-c	15353	逆証	コナラ	( 12.35 )	1.25 ( 1.00 )	( 8.4 )	1	1	
1196 183	片ビン状製品	c-66-09-d	15072	板証	スギ?ネズコ?ヒノキ?アスナロ?	12.35	0.85 0.70	5.2	1	1	
1197 183	片ビン状製品	c-66-28-d	15015	板証	スギ?ネズコ?	13.00	1.30 0.95	9.4	1	1	
1198 183	片ビン状製品	c-66-19-b	2921	板目	ニワトコ	12.70	0.90 0.50	4.0	1	1	
1199 183	片ビン状製品	c-66-19-a	3775	板目	アジサイ	13.50	1.49 1.30	16.0	1	1	
1200 183	片ビン状製品	d-67-91-a	5829	板目	アジサイ	14.65	1.10 0.70	6.2	1	1	
1201 183	片ビン状製品	c-66-19-a	2429	板目	キハダ	14.60	1.20 0.90	11.0	1	1	
1202 183	片ビン状製品	c-66-29-a	15401	板目	ハギ?	15.17	0.90 0.60	4.4	1	1	
1203 183	片ビン状製品	c-66-29-a	15283	板目	スギ?ネズコ?	16.20	1.00 0.55	6.7	1	1	
1204 183	片ビン状製品	c-66-19-a	3790	1/4割	ハシドイ	15.90	1.24 1.12	13.0	1	1	
1205 183	片ビン状製品	c-67-00-d	15115	板証	モクレン	16	1.1 1	13.2	1	1	
1206 183	片ビン状製品	c-66-09-d	15044	板証	ヒノキ?アスナロ?スギ?	16.40	1.60 2.50	16.4	1	1	木幣?上部削りかけ?
1207 183	太片ビン状製品	d-67-81	15222	1/4割	ヤナギ	13.90	3.00 2.00	39.2	1	1	
1208 183	片ビン状製品片	c-66-18-b c-66-18-c	2090	板証	スギ	( 15.80 )	1.80 1.50	( 20.0 )	1	1	
1209 183	太片ビン状製品	c-67-00-d	7127	丸木	カバノキ	23.90	3.30 3.00	91.4	1	2	2点接合。
1210 184	軸状製品	c-66-09-c c-66-09-d	936	半割	アジサイ	17.10	1.70 1.55	26.2	1	1	
1211 184	軸状製品	d-66-99-d	1992	半割	アジサイ	17.80	1.55 1.00	16.8	1	1	
1212 184	軸状製品	c-66-09-d	2890	半割	アジサイ	18.43	1.82 1.30	29.0	1	1	イトクハ付。
1213 184	軸状製品片	c-66-19-a	5808	半割	アジサイ	( 18.15 )	2.00 1.30	( 30.1 )	1	1	
1214 184	軸状製品	d-66-99-c	2141	半割	サクラ	19.60	1.95 1.35	32.1	1	1	
1215 184	軸状製品	c-66-09-a	2570	半割	アジサイ	19.36	2.30 1.33	38.0	1	1	
1216 184	軸状製品片	c-66-19-b	4782	半割	アジサイ	( 19.80 )	1.50 1.20	( 22.1 )	1	1	
1217 184	軸状製品	c-66-09-c	593	半割	カエデ	20.10	2.00 1.50	36.0	1	1	

表V-77 0 B層掲載木製品 (49)

図 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体	破 片	備考
1218	184 軸状製品	c-66-19-a	4701	半割		アジサイ	21.30	2.50	1.50	47.0	1	1
1219	184 軸状製品	c-66-28-a	1398	1/3割		アジサイ	21.90	2.10	1.60	28.6	1	1
1220	184 軸状製品	c-67-00-d	6690	半割		アジサイ	21.15	1.95	1.10	28.8	1	1
1221	184 軸状製品	c-66-09-a	2714	半割	○	アジサイ	23.80	1.80	1.05	28.0	1	1
1222	184 軸状製品片	c-66-19-c	7220	丸木		不変	( 5.90 )	1.85	1.80	( 12.0 )	1	1
1223	184 端部共付軸状製品	c-66-08-c	1798	半割		カエデ	9.30	1.60	1.50	12.1	1	1
1224	184 軸状製品	c-67-10-c	15325	丸木		トネリコ	13.30	2.00	1.85	26.3	1	1
1225	185 多角軸状製品	c-67-11-a	15337	丸木	○	ヤナギ	12.90	4.45	3.75	129.5	1	1
1226	185 軸状製品	c-67-10-a	6798	丸木		カエデ	16.60	2.45	1.85	42.0	1	1
1227	- 軸状製品	c-66-09-b	372	丸木		カツラ?	17.75	1.98	1.83	31.0	1	1
1228	185 軸状製品	c-66-09-d	15368	丸木		アジサイ	18.60	2.05	1.90	43.6	1	1
1229	185 軸状製品	d-66-99-c	2834	丸木		ナナカマド	19.55	2.00	2.00	55.0	1	1
1230	185 軸状製品	c-66-19-b	2632	丸木		イヌエンジュ	18.90	2.20	2.00	46.0	1	1
1231	185 軸状製品片	c-67-11-a	15205	丸木		コナラ	( 18.90 )	1.85	1.70	( 34.4 )	1	1
1232	185 軸状製品	c-66-09-c	15286	丸木		ガマズミ?ハイノキ?	19.30	1.75	1.40	23.0	1	1
1233	185 軸状製品	d-67-81-c d-67-82-d	4400	板紐		サクラ	20.10	1.56	1.59	35.0	1	1
1234	185 軸状製品	c-67-40-c	15386	丸木		カエデ	20.10	2.45	2.20	58.7	1	2点接合。
1235	185 軸状製品切断品	c-66-18-b	631	丸木		スギ?ヒノキ?	22.10	2.80	2.80	100.0	1	1
1236	185 軸状製品	c-66-19-d	2405	丸木	○	コナラ?	22.00	2.60	2.20	60.0	1	1
1237	185 軸状製品	c-67-00-a	15456	丸木		トネリコ	22.60	2.30	2.20	52.8	1	2点接合。
1238	185 軸状製品切断品	d-66-99-d	2800	丸木		モミ	23.75	2.10	1.90	54.0	1	1
1239	- 軸状製品片	d-66-99-d	2844	丸木		ヤナギ	( 24.40 )	2.64	2.55	( 86.8 )	1	2点接合。
1240	185 軸状製品	c-67-10-b	15316	丸木	○	カエデ	25.90	2.20	2.30	66.2	1	1
1241	185 軸状製品切断品	c-67-32-d	10305	丸木		トネリコ	27.60	2.00	2.40	98.0	1	1

表V-78 0 B層掲載木製品 (50)

図 番 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り 状況	樹 種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備考
1242 185	多角軸状製品切断品	c-67-10-b	8532	丸木	ウルシ	27.00 3.35 3.00	143.5	1 1	
1243 185	軸状製品切断品	d-66-99-c	2035	丸木	トネリコ	33.40 2.70 2.50	145.0	1 1	
1244 186	軸状製品	c-66-19-b	3834	1/3割	コナラ	13.10 3.00 2.71	55.0	1 1	
1245 186	軸状製品	c-66-09-d	1949	1/3割	イチイ	19.50 2.60 2.45	68.3	1 1	
1246 186	軸状製品	c-66-19-a	3808	丸木	ハシドイ	19.90 2.33 1.90	64.0	1 1	
1247 185	多角軸状製品	d-67-81-a d-67-81-b d-67-81-d	3210	1/4割	サクラ	60.40 3.90 3.15	440.0	1 1	
1248 186	軸状製品片	d-67-91-a	5881	逆柱	ヒノキ?アスナロ?	( 10.35 ) 1.50 1.10	( 10.9 )	1 1	イトクバ付?
1249 186	軸状製品	c-67-10-c	15201	板柱	コナラ	14.40 1.50 1.40	19.3	1 1	
1250 186	軸状製品	c-66-19-b	3860	板柱	トネリコ	14.67 1.58 1.60	22.0	1 1	
1251 186	軸状製品	c-66-19-b	407	板柱	カエデ	16.00 2.00 1.90	40.0	1 1	
1252 186	軸状製品	c-67-10-c	15329	柱目	カエデ	15.60 2.40 2.00	47.9	1 1	
1253 186	軸状製品	c-66-19-a	5787	1/4割	アジサイ	15.90 1.40 1.60	16.6	1 1	自然乾燥。計測値は乾燥後の値。
1254 186	軸状製品	c-66-19-a	2762	板柱	コナラ	16.80 1.90 1.80	39.8	1 1	
1255 186	軸状製品	c-66-19-d	5517	板目	カエデ	16.45 2.25 1.50	36.8	1 1	
1256 186	軸状製品	c-66-29-d	15287	板柱	カツラ	16.80 2.20 1.80	39.8	1 1	
1257 186	軸状製品	c-66-19-d	2366	板柱	カエデ	17.55 1.80 1.50	28.0	1 1	
1258 -	軸状製品	d-66-99-b d-66-99-c	2535	板目	○ニレ	17.88 1.56 1.30	21.0	1 1	
1259 186	軸状製品	d-67-92-a	15342	1/4割	アジサイ	20.40 1.90 1.50	41.3	1 1	
1260 186	軸状製品	c-66-29-d	15060	1/4割	コナラ	18.20 1.90 1.50	26.6	1 1	
1261 186	大軸状製品	c-66-29-d	15402	板柱	コナラ	18.60 3.25 3.00	94.2	1 1	
1262 186	軸状製品	c-67-20-a	14266	板目	カツラ	19.22 2.02 1.41	33.8	1 1	1ペルト出土。
1263 186	軸状製品	c-66-09-d	2703	柱目	イチイ	19.50 2.10 1.20	31.0	1 1	
1264 186	軸状製品片	c-67-00-d	7129	板柱	カエデ	( 18.80 ) 2.12 2.00	( 41.5 )	1 1	
1265 186	軸状製品	c-66-09-b c-66-09-c	378	板柱	コナラ	19.70 2.00 1.90	53.0	1 1	

表V-79 0B層掲載木製品(51)

図原 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 破 片	備考
1266	187 軸状製品片	c-66-09-b	621	板目		ハシドイ?	( 18.70 ) 2.00 1.30	( 28.8 )	1	1
1267	187 軸状製品	d-66-99-c d-67-90-d	2289	1/4割		アジサイ	20.80 1.65	32.8	1	1
1268	187 軸状製品	c-67-00-c	8506	板目		クマシテ	18.50 2.60	55.6	1	1
1269	187 軸状製品	d-66-99-d	2818	板証		アジサイ	20.80 1.65	36.0	1	1
1270	187 軸状製品	c-67-00-d	6623	1/4割		アジサイ	20.00 1.80	31.0	1	1
1271	187 軸状製品	d-67-81-c	4006	半割		アジサイ	20.70 1.51	24.0	1	1
1272	187 軸状製品片	c-66-19-b	5609	板目		ハリギリ	( 19.70 ) 2.00	( 45.4 )	1	1
1273	187 軸状製品	c-67-01-b	3485	板証		カエテ	20.30 2.25	57.0	1	1
1274	187 軸状製品	c-66-19-d	2406	1/4割		カエテ	21.30 1.70	37.0	1	1 イトクハ付。
1275	187 軸状製品片	c-66-19-b	4169	1/5割		カエテ	21.85 1.60	( 30.0 )	1	2点接合。
1276	187 軸状製品片	c-66-28-a	1308	1/4割		カエテ	( 21.50 ) 1.70	( 34.7 )	1	1 イトクハ付。
1277	187 軸状製品片	c-66-19-a	5806	1/4割		アジサイ	22.55 1.65	( 33.9 )	1	1
1278	187 軸状製品	c-66-09-c	183	1/4割		アジサイ	21.95 2.10	38.5	1	1
1279	187 軸状製品	c-66-28-a	15394	板証		アサダ	23.35 1.90	45.8	1	1
1280	187 軸状製品	c-66-29-a	14777	板目		ヒノキ?アスナロ?	23.40 1.40	24.7	1	1 ベルト出土。
1281	187 軸状製品	c-66-09-b	1059	1/4割		アジサイ	24.20 2.10	56.7	1	1
1282	188 軸状製品	c-66-19-a	5813	板証		トネリコ	24.85 2.35	66.9	1	1
1283	188 軸状製品	c-66-19-d c-66-19-a	5516	板証		トネリコ	24.70 2.20	62.0	1	3点接合。
1284	188 軸状製品	c-67-00-a	6456	1/4割		アジサイ	25.20 1.82	48.0	1	1
1285	188 軸状製品	c-67-30-b	10213	板証		ハシドイ	25.90 2.80	100.7	1	1
1286	188 軸状製品	c-66-09-b	15417	板証		コナラ	28.90 2.55	74.9	1	3点接合。
1287	188 角軸状製品	c-66-19-a	2782	板証		ハシドイ	30.73 1.60	47.0	1	1
1288	188 角軸状製品	d-67-91-a	5311	板目		カエテ	12.00 2.20	24.0	1	1
1289	188 角軸状製品	c-67-10-c	15354	板証		ヒノキ?アスナロ?スギ?	13.00 1.20	14.0	1	1

表 V-80 0 B層掲載木製品 (52)

図 番 号	國 標 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 片	備考
1290	188	角軸状製品	c-66-09-c	377	板目		ハリギリ	13.90 2.50 1.50	32.0	1	1
1291	188	角軸状製品	c-66-19-b	5749	丸木		不要	15.00 2.70 2.20	43.0	1	1
1292	188	太角軸状製品	d-66-99-d	15474	造桁		スギ?ネズコ?	15.50 3.90 2.70	125.6	1	1
1293	189	角軸状製品片	c-66-19-b	5454	榫目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 16.10 ) 1.43 1.10	( 16.7 )	1	1
1294	189	角軸状製品	c-66-19-a	4221	榫目		ヒノキ?アスナロ?	20.90 2.00 0.90	38.0	1	1
1295	189	角軸状製品片	c-66-27-b	25	榫目		ヒノキ?アスナロ?	( 21.50 ) 2.20 1.30	( 39.0 )	1	1
1296	189	角軸状製品	c-66-09-c	376	板目		カエデ	18.90 1.80 1.50	30.0	1	1
1297	189	角軸状製品	c-66-09-d c-66-08-c	2886	板目		カエデ	19.22 3.20 2.60	91.2	1	1
1298	189	角軸状製品	c-66-28-d	397	榫目		イチイ	23.70 3.06 2.20	103.0	1	1
1299	189	挟付角軸状製品片	c-66-09-a	2874	板目		スギ	( 27.60 ) 1.50 1.70	( 52.0 )	1	1
1300	189	角軸状製品片	c-66-38-b	13412	榫目	○	スギ?ネズコ?	( 31.50 ) 2.90 3.25	( 156.0 )	1	1 切痕あり。
1301	190	楔状製品	c-66-18-a	521	板目		スギ?ネズコ?ヒノキ?	3.32 1.42 0.92	3.0	1	1
1302	190	楔状製品	c-66-19-b	4653	造桁		ヒノキ?アスナロ?	7.20 1.80 1.30	6.5	1	1
1303	190	楔状製品片	c-66-19-a	5796	榫目		ヒノキ?アスナロ?	7.40 ( 2.80 ) 1.10	( 9.8 )	1	1
1304	190	楔状製品	c-66-19-a	5521	榫目		ヒノキ?アスナロ?	7.50 3.25 1.30	18.8	1	1
1305	190	楔状製品	c-67-00-d	7577	榫目		スギ	8.80 2.20 0.90	10.6	1	1
1306	190	楔状製品	c-67-10-a	7979	榫目		スギ?ネズコ?	8.85 3.90 1.50	23.9	1	1
1307	190	楔状製品片	c-67-10-b	12542	榫目		スギ?ネズコ?	( 8.98 ) 3.63 1.30	( 24.8 )	1	1
1308	190	楔状製品	c-66-19-b	2626	造桁		ハリギリ	9.40 3.65 1.95	33.0	1	1
1309	190	楔状製品切断品片	c-66-19-b	2625	板目		カツラ	9.35 2.80 2.05	( 29.0 )	1	1 孔1ヶ所。
1310	190	楔状製品	c-66-09	15002	板目		アジサイ	10.00 1.95 1.00	9.8	1	1
1311	190	楔状製品片	c-67-10-b	12499	榫目		不要	( 9.15 ) 4.75 1.35	( 28.9 )	1	2点接合。
1312	190	楔状製品	c-67-00-a	15017	板目		ヒノキ?アスナロ?スギ?ネズコ?	11.10 4.20 1.50	40.3	1	1
1313	190	楔状製品	c-67-10-a	6804	板目		スギ?ネズコ?	11.20 4.00 1.90	50.0	1	1



表 V-81 0 B層掲載木製品 (53)

図 号	団 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	皿重 (g)	個 体	破 片	備 考
1314	190	楔状製品	c-67-00-d	6631	板目			スギ?ネズコ?	11.70 3.65 1.95	46.0	1	1	
1315	190	楔状製品	d-66-99-c	2836	板目			サクラ	14.80 2.85 1.20	29.0	1	1	
1316	190	楔状製品片	c-67-01-b	15232	板目			カエデ	16.50 ( 3.20) 2.25 ( 62.2)		1	1	
1317	190	楔状製品切断品	c-66-19-a	3953	追板			スギ?ネズコ?ヒノキ?	16.30 3.10 1.30 ( 48.6)		1	1	
1318	190	楔状製品片	d-66-99-b	2678	板目			カツラ	12.45 4.80 ( 2.70) ( 75.0)		1	1	
1319	190	挟付楔状製品	c-66-09-a	2728	板目		○	カツラ	11.55 1.80 1.56 18.0		1	1	
1320	190	挟付楔状製品	c-66-09-c	176	板目			カエデ	4.30 3.00 1.50 11.2		1	1	
1321	190	挟付楔状製品	c-66-09-d	482	板目			モクレン	5.00 4.10 2.98 36.4		1	1	
1322	191	椀酒箸状製品	c-66-18-c c-66-28-b	15332	板目			ヒノキ?アスナロ?スギ?ネズコ?	17.20 2.48 0.50 13.5		1	1	1ベルト出土。
1323	191	椀酒箸状製品片	c-66-09-b	1110	板目			ヒノキ?アスナロ?	( 22.40) 2.62 0.60 ( 27.6)		1	1	
1324	191	椀酒箸状製品	c-66-18-b	1806	板目			スギ	23.70 2.20 0.70 20.7		1	1	
1325	191	椀酒箸状製品片	c-67-10-b	15346	半割			アジサイ	( 27.10) 1.80 0.50 ( 17.6)		1	1	
1326	191	椀酒箸状製品	c-66-19-a	2779	板目			スギ?	26.00 3.05 1.00 54.0		1	1	綿糸付。
1327	191	椀酒箸状製品片	d-67-91-c	5385	板目			スギ	( 30.20) 1.93 0.72 ( 32.3)		1	1	
1328	191	椀酒箸状製品片	c-67-10-d	7319	板目			ネズコ?スギ?	( 30.80) 3.00 0.80 ( 32.6)		1	1	
1329	192	椀酒箸状製品	d-67-91-b	5333	板目			ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	41.80 2.50 1.00 48.0		1	1	33点接合。
1330	192	椀酒箸状製品	c-66-18-b	1817	板目			スギ?ヒノキ?	42.50 2.55 1.00 75.0		1	1	
1331	191	椀酒箸状製品片	d-67-91-a	3587	板目			スギ?ヒノキ?	( 35.50) 3.44 0.63 ( 43.0)		1	1	33点接合。
1332	191	椀酒箸状製品素材	c-66-18-c c-66-19-d	2308	板目			ヒノキ?アスナロ?	69.60 3.00 0.80 110.0		1	1	
1333	192	椀酒箸状製品片	c-66-19-a	2607	板目			スギ?ネズコ?ヒノキ?	( 9.90) 2.55 0.60 ( 8.3)		1	1	
1334	192	椀酒箸状製品片	c-66-19-b	4147	板目			スギ?	( 9.95) 2.60 0.75 ( 12.0)		1	1	
1335	192	椀酒箸状製品片	d-66-99-d	2802	板目			スギ?	( 13.20) 2.50 0.90 ( 20.6)		1	1	
1336	192	椀酒箸状製品片	c-67-10-b c-67-00-c	12511	板目			ヤナギ	( 13.85) 1.95 0.85 ( 16.0)		1	1	
1337	-	椀酒箸状製品片	d-66-99-d	2849	板目			スギ?	( 17.80) 2.50 0.90 ( 23.0)		1	1	

表 V-82 0 B 層掲載木製品 (54)

図 号	図形 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 部位	樹 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 数	破 片	備考
								( 18.80 )	2.48				
1338	192	棒酒著状製品片	c-66-09-c	364	板目		スギ?ネズコ?	18.00	2.30	26.4	1	1	
1339	192	棒酒著状製品	c-66-09-b	1788	板目		スギ?	17.40	2.70	35.3	1	1	
1340	192	棒酒著状製品	c-67-00	15302	板目		スギ?ネズコ?	18.95	3.37	38.4	1	1	
1341	192	棒酒著状製品	c-66-09-a	2865	板目	○	スギ?	( 20.80 )	1.70	( 14.1 )	1	1	
1342	192	棒酒著状製品片	c-66-19-b	4656	板目		スギ	22.40	2.60	30.6	1	1	
1343	192	棒酒著状製品	c-66-19-b	4660	半割		アジサイ	23.60	2.16	39.0	1	1	
1344	193	棒酒著状製品	d-67-72-a	4493	板目		ヒノキ?	( 23.95 )	( 1.65 )	( 23.0 )	1	1	
1345	193	棒酒著状製品片	d-67-90-b	6337	板目		ヒノキ?アスナロ?	21.60	2.05	32.0	1	1	
1346	193	棒酒著状製品	c-66-28-b	15038	板目		コナラ	( 21.32 )	2.60	( 46.4 )	1	1	
1347	193	棒酒著状製品片	c-66-18-b	14802	板目	○	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	24.00	2.30	40.6	1	1	
1348	193	棒酒著状製品	c-66-09-b	890	追証		モミ	23.75	2.00	22.0	1	1	
1349	193	棒酒著状製品	c-66-19-b	4141	板目		スギ?ヒノキ?	( 22.10 )	2.90	( 31.0 )	1	1	
1350	193	棒酒著状製品片	c-67-10-d	6773	板目		スギ?	( 23.60 )	2.10	( 27.3 )	1	2	2点接合。
1351	193	棒酒著状製品片	c-66-19-b	5601	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 24.20 )	2.34	( 34.0 )	1	1	
1352	193	棒酒著状製品片	c-66-38-b	13293	板目		スギ?ネズコ?ヒノキ?	24.00	2.25	28.7	1	2	2点接合。
1353	194	棒酒著状製品	c-66-19-a	15460	板目		ヒノキ?アスナロ?スギ?	25.45	2.10	35.0	1	1	
1354	194	棒酒著状製品	c-66-09-d	324	板目		スギ?ネズコ?	24.72	2.45	39.4	1	1	
1355	194	棒酒著状製品	d-67-81-c	3150	板目		ヒノキ?スギ?	( 24.90 )	2.80	( 45.2 )	1	1	
1356	194	棒酒著状製品片	d-66-99-d	2484	板目		スギ	( 25.20 )	2.75	( 60.0 )	1	1	線刻付。
1357	194	棒酒著状製品片	c-67-02-d	3417	板目		サクラ	( 26.50 )	2.90	( 40.2 )	1	3	3点接合。
1358	194	棒酒著状製品片	d-67-90-b	5880	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 26.00 )	2.50	( 44.0 )	1	1	
1359	194	棒酒著状製品片	c-66-09-d	1125	板目		ヒノキ?アスナロ?	27.30	1.90	15.2	1	1	
1360	194	棒酒著状製品	c-66-09-d	15377	板目		ヒノキ?アスナロ?スギ?	31.00	( 2.60 )	( 16.9 )	1	1	自然乾燥。計測値は乾燥後の値。
1361	194	棒酒著状製品片	d-67-91-d	5849	板目		ヒノキ?アスナロ?						

表 V-83 0 B 層掲載木製品 (55)

図 番 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り 樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
1362	195 棒酒箸状製品片	c-67-01-b	3433	○	ネズコ?	( 30.15 ) 3.01	0.79 ( 42.0 )	1	22点接合。
1363	195 棒酒箸状製品	c-66-27-c	15245		ネズコ?ヒノキ?アスナロ?スギ?	34.10	0.60	1	
1364	195 棒酒箸状製品	d-66-99-d	2848		スギ?	33.00	1.05	1	
1365	195 棒酒箸状製品	c-66-09-b	709		ヒノキ?アスナロ?	38.30	1.10	1	
1366	196 棒酒箸状製品片	c-66-09-c c-66-09-d	2292		ヒノキ?ネズコ?スギ?	( 33.85 ) 3.75	0.50 ( 44.0 )	1	
1367	195 棒酒箸状製品片	d-67-92-a	4923		ヒノキ?アスナロ?	( 35.00 ) 2.44	0.50 ( 26.1 )	1	22点接合。
1368	196 棒酒箸状製品	d-67-91-c	5355		ヒノキ?アスナロ?	41.80	1.25	1	
1369	196 棒酒箸状製品切断品	c-66-19-b	4143		トネリコ	43.20	1.22	1	33点接合。
1370	196 棒酒箸状製品片	d-66-99-d	2853		スギ?	( 44.00 ) 2.80	1.00 ( 85.0 )	1	
1371	197 棒酒箸状製品片	d-67-81-c	3086		スギ?	( 45.00 ) 2.70	1.20 ( 106.0 )	1	
1372	197 棒酒箸状製品素材片	c-66-19-b	3835		キハダ	( 63.55 ) 3.15	1.10 ( 144.0 )	1	33点接合。切痕あり。
1373	197 棒酒箸状製品素材片	c-66-18-c	1010		スギ	( 82.10 ) 3.00	0.70 ( 150.0 )	1	
1374	197 棒酒箸状製品素材	c-66-19-a	4737		ニレ	149.50	2.60	1	33点接合。
1375	198 端部挟入部付丸木材切断品	c-66-19-b	2621		ヤナギ	6.50	1.60	1	
1376	198 端部挟入部付丸木材	c-66-09-d	498		○キハダ	9.00	2.12	1	
1377	198 端部挟入部付丸木材切断品	c-66-19-d	2384		ハシドイ?ナナカマド?	7.25	1.75	1	1 コモ縫?
1378	198 端部挟入部付丸木材片	c-66-19-b	4060		トネリコ	( 9.30 ) 1.60	1.55 ( 14.0 )	1	
1379	198 端部挟入部付丸木材片	d-67-91-d	3319		イヌエンジュ	( 9.35 ) 3.10	3.15 ( 59.0 )	1	22点接合。
1380	198 端部挟入部付丸木材片	c-66-19-b	2922		○ハンノキ	11.60	3.20 ( 3.10 )	1	
1381	198 挟入部付丸木材片	c-66-18-c	1270		トネリコ	( 13.45 ) 2.93	( 2.70 )	1	
1382	198 端部挟入部付丸木材切断品	c-67-00-a	7501		ハシドイ	14.85	2.60	1	22点接合。
1383	198 端部挟入部付丸木材	c-66-09-d	2552		○カエデ	15.20	1.90	1	
1384	198 端部挟入部付丸木材片	c-66-18-b	5549		モミ	( 17.40 ) 3.10	2.50 ( 73.0 )	1	
1385	198 端部挟入部付丸木材切断品	c-66-09-d	912		ハリギリ	19.00	2.80	1	

表 V-84 0 B層掲載木製品 (56)

国 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体	破 片	備考
1386	198 端部挟入部付丸木材片	c-66-08-c	1796	丸木		トネリコ?	( 19.50 ) 2.10 2.00 ( 41.1 )	( 41.1 )	1	1	
1387	198 端部挟入部付丸木材	c-66-19-b	4087	丸木		トネリコ?	22.60 1.95 1.80 49.0	49.0	1	1	
1388	198 端部挟入部付丸木材片	c-66-09-b c-66-09-c	1106	丸木	○	ニガキ	( 23.06 ) ( 3.40 ) ( 3.90 )	( 6.6 )	1	1	湾曲丸木径寸法2.60cm。
1389	198 端部挟入部付丸木材片	c-67-01-a	10130	丸木		モクレン(コブシ)	( 23.00 ) 1.30 1.30 ( 30.8 )	( 30.8 )	1	1	
1390	198 端部挟入部付丸木材	d-67-91-d	5923	丸木		ヤナギ	25.15 2.75 2.75 96.0	96.0	1	1	55点接合。叩き棒?
1391	199 端部挟入部付丸木材片	c-66-19-c	15464	丸木		ヤナギ	( 39.90 ) 2.15 2.10 ( 90.2 )	( 90.2 )	1	1	1010点中9点接合10点実測。計測値は推定値。
1392	199 端部挟入部付丸木材切 断品片	d-67-81-c	4001	丸木		ナナカマド	( 38.10 ) 3.06 3.04 ( 219.8 )	( 219.8 )	1	1	33点接合。
1393	198 端部挟入部付丸木材片	c-66-28-b	14416	丸木		ヤナギ	( 32.60 ) 2.24 2.06 ( 103.2 )	( 103.2 )	1	1	
1394	199 端部挟入部付丸木材片	c-66-18-b	1487	丸木		トネリコ	( 55.40 ) 2.00 1.80 ( 110.0 )	( 110.0 )	1	1	22点接合。
1395	199 挟入部付丸木材	c-66-18-b	1811	丸木		ハンノキ	51.10 2.20 2.20 155.0	155.0	1	1	22点接合。
1396	199 端部挟入部付丸木材片	c-67-01-b	3503	丸木	○	サクラ	( 93.30 ) 2.70 2.60 ( 426.0 )	( 426.0 )	1	1	33点接合。回転式蝶頭銚・魚突銚銚/棒(柄)片?
1397	200 端部挟入部付環状丸材	c-66-08-c c-66-08-d	15441	追紐		ヒノキ?アスナロ?	3.60 1.50 1.75 5.0	5.0	1	1	ソケット?
1398	200 端部挟入部付有孔丸材	c-66-09-d	2489	板紐		アジカハ	6.15 1.25 1.30 5.3	5.3	1	1	
1399	200 端部挟入部付丸材片	c-66-19-b	4128	板紐		キハダ?	( 9.00 ) 2.35 2.20 ( 22.0 )	( 22.0 )	1	1	
1400	200 端部挟入部付丸材切 断品	c-66-18-c	2095	板目		イヌエンジュ	8.00 2.70 2.60 34.3	34.3	1	1	
1401	200 端部挟入部付丸材片	c-66-19-d	2757	板紐		スギ	( 9.90 ) 1.15 1.00 ( 8.1 )	( 8.1 )	1	1	
1402	200 端部挟入部付丸材切 断品	c-66-18-c	825	板目		ヒノキ?アスナロ?	15.40 3.00 3.10 96.1	96.1	1	1	
1403	200 端部挟入部付丸材片	c-66-09-b	1608	板目		サクラ	( 20.50 ) 2.50 2.05 ( 68.0 )	( 68.0 )	1	1	
1404	200 端部挟入部付半割材	c-66-18-c	1329	半割		ハギ	14.50 1.40 0.70 7.5	7.5	1	1	
1405	- 端部挟入部付半割材	c-66-19-a	2616	半割		ヤナギ	( 5.40 ) 2.60 1.18 ( 7.8 )	( 7.8 )	1	1	
1406	200 端部挟入部付半割材	c-67-10-b	12069	板目		モミ	( 6.80 ) 5.20 1.25 ( 24.2 )	( 24.2 )	1	1	
1407	200 端部挟入部付半割材	c-66-19-d	2370	板目		サクラ	( 8.70 ) 1.25 0.70 ( 5.4 )	( 5.4 )	1	1	
1408	200 端部挟入部付半割材	c-66-18-c c-66-28-b	15177	半割	○	ガマズミ?ハインノキ?	( 11.20 ) 1.50 0.80 ( 7.5 )	( 7.5 )	1	1	1ベルト出土。
1409	200 端部挟入部付割材片	d-67-81-c	3089	丸木		ヤナギ	( 15.14 ) 2.78 ( 2.08 )	( 58.1 )	1	1	22点接合。

表 V-85 0 B層掲載木製品 (57)

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
1410	端部扶入部付丸木材切断品片	c-66-09-c	334	丸木		モミ	12.80 ( 4.20 ) ( 2.40 )	( 62.0 )	1	1	
1411	端部扶入部付板材片	c-66-09-d	15422	板目		モクレン	( 14.80 ) 2.25	( 17.0 )	1	3	3点中2点接合3点表側。計測値は推定値。
1412	端部扶入部付丸材	d-66-99-d	2547	迎粧	○クワ		16.00 3.65	2.10	51.5	1	1 車輻受台部軸(角軸差込式)?
1413	端部扶入部付屈曲丸木材	c-66-09-c c-66-09-d	1178	丸木		アジサイ	33.40 8.40	2.10	98.0	1	1 下部ホゾ先付。
1414	端部扶入部付屈曲丸木材	c-66-09-d	1179	丸木		ハシドイ	32.00 8.90	2.40	113.0	1	1 下部ホゾ先付。
1415	端部扶入部付屈曲丸木材	c-66-09-d c-66-19-a	1177	丸木		ハシドイ	36.20 7.40	2.90	124.0	1	1 下部ホゾ先付。
1416	両端部扶入部付角材	c-67-00-c c-67-10-b	12482	板目		スギ?	26.70 2.44	1.50	77.8	1	1
1417	両端部扶入部付角材	c-67-00-c	12074	板目		スギ?	26.77 2.32	1.60	74.9	1	1
1418	両端部扶付丸木材	d-66-99-b	2226	丸木		モミ	40.80 1.70	1.60	71.0	1	1
1419	端部扶付丸木材片	d-67-72-a	15445	丸木		ヤナギ	( 16.80 ) 2.45	2.60 ( 64.9 )	1	1	1 イトクハ付。
1420	端部扶付丸木材	c-66-18-c	1492	丸木		コナラ	16.80 2.50	3.30	76.6	1	1
1421	端部扶付丸木材片	c-66-18-b c-66-19-a	1831	丸木		同定不可能	( 19.45 ) 2.55	1.90 ( 50.0 )	1	1	1
1422	端部扶付丸木材	c-66-19-b	15248	丸木	○	ヤナギ	29.50 1.30	1.20	30.0	1	1
1423	端部扶付丸木材切断品	c-66-28-b	1221	丸木		アジサイ	30.70 2.10	2.00	88.0	1	1
1424	端部扶付丸木材	d-67-81-c	3021	丸木		トネリコ	28.93 2.94	2.22	108.6	1	1
1425	端部扶付丸木材切断品	c-66-09-d	2684	丸木		モミ	13.60 3.90	3.70	116.1	1	1
1426	端部扶付丸木材片	c-66-38-b	13305	丸木		ハンノキ	( 25.85 ) 4.30	3.90 ( 238.0 )	1	1	1
1427	端部扶付丸木材片	d-67-91-d	4859	丸木		クマシデ	( 24.80 ) 6.10	5.70 ( 478.8 )	1	1	1
1428	端部扶付丸木材切断品	c-67-10-c	15280	丸木		ハンノキ	26.20 4.05	4.00	276.0	1	2点接合。
1429	扶付丸木材切断品片	c-67-00-c	9770	丸木		リンゴ?ナカカマド?	( 18.70 ) 2.15	2.35 ( 71.5 )	1	1	1
1430	扶付丸木材切断品	c-67-10-b	12447	丸木		ハシドイ	25.60 2.60	2.20	93.8	1	1
1431	扶付丸木材片	c-67-10-a	15198	丸木		コナラ	( 22.90 ) 4.25	3.80 ( 170.4 )	1	1	1
1432	扶付丸木材切断品	c-66-09-b	399	丸木		モミ	23.50 6.50	6.50	622.0	1	1
1433	扶付丸木材片	c-66-09-b	146	丸木	○	ヤナギ	( 37.50 ) 3.90	4.20 ( 251.0 )	1	1	3点接合。炬釘?

V 第0 黒色土層の調査

表V-86 0 B層掲載木製品 (58)

図 番 号	園 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	樹皮 採取	樹 種	樹 種	長さ×幅×厚さ(cm)	質量(g)	個 数	備 考
1434	204	扶付丸木材切断品	c-66-29-d	391	丸木	○	クマシヤ	35.30 5.60 4.70	496.0	1	1
1435	204	扶付半割材片	c-66-19-a	4755	半割		ガマズミ?ハイノキ?ミツバハツギ?	( 6.74 ) 2.53 1.78	( 18.2 )	1	1
1436	204	端部扶付半割材切断品	c-67-00-d	7132	丸木		スギ?	8.40 2.90 2.00	29.0	1	1
1437	204	扶付半割材切断品	d-67-91-a	3320	丸木		モミ	9.05 3.75 2.35	36.0	1	1
1438	204	端部扶付割材片	c-66-28-c	354	板目		モミ	25.40 ( 3.30 ) ( 2.40 )	( 102.0 )	1	1
1439	204	扶付半割材切断品	c-66-18-c	818	丸木		ヤナギ	22.00 3.60 2.60	100.6	1	3点接合。
1440	205	端部扶付半割材片	c-66-09-c	15429	半割		ヤナギ	( 12.85 ) ( 2.20 )	( 18.0 )	1	1短刻付。
1441	205	端部扶付半割材	d-66-99-d	2792	半割		アジサイ	32.90 2.20 0.75	40.0	1	1
1442	205	扶付半割材片	c-67-00-a	6638	半割		ヤナギ	( 16.20 ) 4.10 2.30	( 80.0 )	1	1
1443	204	多段扶付半割材片	c-67-61-b	10148 10149	半割	○	ヤナギ	( 52.30 ) 4.40 2.60	( 264.2 )	1	44点中3点接合4点実測。計測値は推定値。
1444	205	扶付角材片	c-66-09-b	571	板目		スギ?	( 4.70 ) 1.90 1.35	( 6.0 )	1	1
1445	205	扶付角材片	c-66-09-d	1203	板目		スギ	( 10.02 ) ( 1.60 )	( 13.0 )	1	1
1446	-	扶付角材片	d-66-99-b	2673	板目		スギ	( 9.80 ) 1.45 1.00	( 10.4 )	1	1
1447	205	端部扶付角材	c-66-09-c	15384	追継		○サクラ	12.10 2.40 1.20	20.1	1	1
1448	205	端部扶付角材片	d-67-91-c	5258	丸木		ヤナギ	( 12.35 ) 2.00 1.20	( 20.8 )	1	1
1449	205	端部扶付角材切断品	c-66-09-a	3677	板目		スギ?スズコ? 目釘?スギ?スズコ?	18.80 2.76 2.00	52.0	1	3点接合(木釘付含む)。木釘付孔1ヶ所あり。
1450	205	扶付角材片	c-67-00-c	9784	板目		トウヒ	( 32.70 ) 3.50 2.30	( 170.0 )	1	1
1451	205	端部扶付角材片	d-67-81-a	4317	板目		ハリギリ	( 25.20 ) 2.62 1.62	( 78.0 )	1	1
1452	205	扶付角材片	c-66-09-b	1780	追継		ハリギリ	( 24.45 ) 3.35 2.20	( 120.0 )	1	1
1453	206	扶付板材片	c-66-09-c	1925	追継		○ヒノキ?アスナロ?	( 28.70 ) 2.50 1.10	( 42.8 )	1	1
1454	206	扶付板材片	c-66-09-a	2726	板目		スギ?スズコ?	( 11.30 ) 2.45 0.87	( 14.5 )	1	1
1455	206	扶付板材片	c-66-09-a	2727	板目		スギ?ヒノキ?	( 8.74 ) 2.95 0.95	( 11.1 )	1	1
1456	206	扶付板材	d-67-82-a	4362	板目		ヒノキ?アスナロ?	20.80 3.60 1.20	47.0	1	1
1457	206	扶付板材片	c-66-09-c	332	板目		ハンノキ	( 22.30 ) 2.20 1.50	( 39.0 )	1	2点接合。

表 V-87 0 B 層掲載木製品 (59)

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個体	破片	備考
1458 206	挟付板材片	c-66-09-a c-66-09-b	865	縦目		キハダ	( 34.60 ) 3.20	1.20	( 83.6 )	1	22点接合。	
1459 206	挟付板材	c-66-08-c	234	追粧	○	ハリギリ	5.80	1.68	34.0	1	1	
1460 206	挟付板材片	c-67-11-a	12416	縦目		ハンノキ	( 16.20 ) 4.20	1.70	( 78.0 )	1	1	
1461 -	挟付板材切断品	c-66-18-c	1343	板目		ハリギリ	10.60	4.30	43.6	1	1	
1462 206	挟付鋸銼状板材片	d-67-81-b	3099	縦目		ヒノキ?アスナロ?	23.95	4.50	( 74.0 )	1	1	
1463 207	挟付鋸銼状板材片	c-67-00-d	8001	追粧		イヌエンジュ	( 27.10 ) 5.00	1.40	( 123.1 )	1	1	
1464 207	挟付鋸銼状板材	c-66-18-b	1505	板目		ヤナギ	20.40	3.40	66.2	1	1	
1465 207	多段挟付半円状材	c-66-19-a c-66-19-b	4142	縦目		カエデ	13.75	1.85	14.0	1	1	
1466 207	端部挟付鋸銼状板材	c-66-19-a	5764	縦目		ハリギリ	13.60	2.95	20.0	1	1	
1467 207	挟付板材片	c-66-28-a	951	縦目		カエデ	( 6.40 ) 3.50	1.22	( 17.9 )	1	1	
1468 207	ホノ先付角材片	c-66-18-b	812	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 13.30 ) 1.30	0.80	( 11.9 )	1	1	
1469 207	挟付鋸銼状材	c-66-19-a	3811	板目		トネリコ	15.15	3.00	44.6	1	1	
1470 207	挟付鋸銼状材切断品片	c-66-19-a	2617	丸木		ヤナギ	( 13.00 ) 2.55	2.35	( 39.0 )	1	38点中2点実測。	
1471 207	端部ホノ先付角材切断品	c-67-10-b	9864	縦目	○	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	31.80	2.50	2.90	139.0	1	1
1472 -	挟付精円板材切断品	c-66-09-d	584	半割		クワ	6.80	2.50	11.0	1	1	
1473 208	挟付精円板材片	c-66-09-c	15292	縦目		モクレン	( 6.90 ) 4.20	1.70	( 24.4 )	1	1	
1474 208	挟付精円板材	d-67-91-b	5834	縦目		ヒノキ?アスナロ?	10.60	2.55	17.2	1	1	
1475 208	挟付精円板材片	c-67-10-b	15317	縦目		モクレン	( 9.60 ) 4.50	1.40	( 34.2 )	1	22点接合。	
1476 208	挟付精円板材片	c-66-18-c	2096	板目		スギ?ヒノキ?	( 14.10 ) 2.55	1.00	( 16.1 )	1	1	
1477 208	挟付精円板材	c-66-28-a	1391	板目		ハリギリ	16.20	5.00	87.4	1	1	
1478 208	挟付精円板材	c-67-00-c	9635	縦目		ハリギリ	17.35	5.95	91.0	1	1	
1479 208	挟付精円板材片	c-67-00-b	9828	縦目		シナノキ	( 13.00 ) 8.75	1.90	( 96.2 )	1	1	下駄?
1480 209	挟入部付有孔丸木材片	c-66-09-c	469	丸木		ナナカマド	5.30	2.40	( 9.0 )	1	1	
1481 209	有孔丸木材片	c-66-09-c	15378	丸木	○	アジサイ	( 12.90 ) 1.90	1.70	( 24.4 )	1	21482と同一個体?計測値は推定値。	

表 V-88 0 B層掲載木製品 (60)

図 番 号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り 皮張	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
1482	有孔丸木材	c-66-09-d	15364	丸木	○アジサイ	15.40 1.80 1.80	36.2 ( 74.4 )	1 1	1481と同・個体?
1483	有孔丸木材片	c-66-29-b	2118	丸木	ハシドイ?	( 25.30 ) 2.35	( 74.4 )	1	
1484	端部有孔湾曲丸木材	c-67-00	15303	丸木	アジサイ	30.20	64.1	1	
1485	両端部有孔丸木材	c-67-10-b	9863	丸木	ニガキ	97.80	1550.0	1	1 孔寸法上から1.60cm×2.40cmと1.30cm×1.80cm。
1486	有孔角材切断品片	c-66-19-a	2608	板目	ハンノキ	4.30	9.8	1	2点接合。
1487	有孔角材	c-66-29-a	1258	板目	ハンノキ	17.20	18.0	1	
1488	有孔角材片	c-66-29-d	15403	板目	コナラ	( 29.00 ) 2.20	( 62.1 )	1	
1489	有孔角材切断品	c-66-19-a	5551	板目	○ハリギリ	20.40	207.9	1	
1490	挟付有孔角材片	c-66-09-a	2699	板目	ヤナギ	( 19.50 ) 5.70	( 208.6 )	1	
1491	端部有孔角材切断品	c-67-40-b	10186	板目	スギ?	19.20	224.8	1	
1492	有孔板材片	c-66-29-a	2333	板目	ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 5.20 ) 2.40	( 6.3 )	1	
1493	有孔薄板材	c-66-19-b	15085	板目	○ヒノキ?アスナロ?ネズコ?スギ?	7.16	12.1	1	
1494	有孔細板材片	c-66-18-b	2079	板目	カエデ	( 9.20 ) 2.00	( 8.6 )	1	
1495	有孔板材片	c-66-18-d	528	板目	スギ	( 16.32 ) 2.79	( 22.0 )	1	
1496	有孔薄板材片	c-66-08-c	537	板目	カエデ	( 13.40 ) 4.23	( 14.0 )	1	2点接合。
1497	有孔板材片	c-66-18-c	1328	板目	スギ?ヒノキ?	( 14.70 ) ( 3.20 )	( 18.5 )	1	
1498	有孔板材片	c-66-09-d	2687	板目	ハリギリ	( 19.20 ) 2.30	( 38.0 )	1	
1499	有孔板材片	c-66-09-c	15244	追粧	カエデ 木釘:アジサイ	( 19.80 ) 3.10	( 44.4 )	1	3点接合(木釘付含む)。木釘孔3カ所の内、木釘付2カ所、木釘孔1カ所。
1500	有孔板材片	c-66-38-b	13414	追粧	ハリギリ	( 19.27 ) 3.80	( 63.6 )	1	
1501	有孔板材片	c-66-18-b	15408	板目	カエデ	( 17.44 ) 4.05	( 65.2 )	1	彫刻付?計測値は推定値。
1502	有孔板材	c-66-19-a	3938	板目	ハリギリ	11.20	52.4	1	
1503	有孔板材切断品	c-66-19-a	3911	追粧	スギ?ネズコ?	6.97	20.7	1	
1504	有孔板材片	c-66-18-b	1867	追粧	ハンノキ	( 17.25 ) 5.20	( 59.6 )	1	
1505	有孔板材片	c-66-09-c	1200	板目	モクレン	( 20.28 ) 4.92	( 105.0 )	1	



表V-89 0 B層掲載木製品 (61)

図 番 号	遺物 名 称	発掘 区	遺物 番 号	木取 り	樹皮 痕	樹 種	長 さ × 幅 × 厚 さ (cm)		重 量 (g)	個 体 数	破 片	備 考
1506	210 有孔板材片	c-66-28-b	1412	追紐		ハンノキ	( 24.00 )	4.40	1.60	( 8.9 )	1	22点接合。
1507	210 有孔板材片	d-66-99-c	2054	紐目		ハリギリ	25.95	6.60	2.00	( 140.0 )	1	22点接合。
1508	211 有孔板材片	c-67-50-b	10770	紐目		キハダ	( 57.10 )	4.40	1.70	( 204.2 )	1	3点中2点接合3点実測。計測値は推定値。保存処理後実測。 計測値は保存処理後の値。
1509	211 有孔板材	d-67-81-c	4029	紐目		ハリギリ	26.50	6.10	1.40	162.0	1	1
1510	211 有孔板材片	d-66-99-d	2850	追紐		ウコギ(コシアブラ)	( 39.00 )	7.00	1.60	( 256.0 )	1	22点接合。
1511	211 有孔板材片	d-67-81-b	2951	板目		カツラ	( 45.80 )	6.80	1.80	( 336.0 )	1	88点中4点接合4点実測。
1512	212 挟付有孔板材	d-67-91-c	5932	紐目		ニガキ	49.00	5.60	1.30	125.0	1	1線刻付。
1513	212 有孔板材片	c-67-10-b	15307	追紐	○	ハリギリ	( 48.80 )	6.34	2.45	( 429.1 )	1	22点接合。
1514	212 有孔板材片	d-67-92-b d-67-82-c	5995	紐目		ハリギリ	( 42.00 )	8.10	2.60	( 522.0 )	1	1
1515	- 有孔板材切断品	c-66-09-c	218	紐目		ハリギリ	12.90	7.70	1.00	55.3	1	1
1516	- 有孔板材切断品	c-66-18-c	1341	紐目		ハリギリ	12.20	7.40	1.50	82.6	1	1
1517	213 有孔板材片	d-67-81-d	3274	板目		スギ?ネズコ?	( 24.30 )	( 4.30 )	1.80	( 109.0 )	1	1
1518	213 有孔板材片	d-67-90-d	6383	追紐		ハンノキ	30.20	( 9.20 )	2.10	( 387.0 )	1	1
1519	213 有孔板材片	d-66-99-c	2827	紐目		ハリギリ	( 27.90 )	( 5.00 )	1.20	( 114.0 )	1	1
1520	213 有孔板材片	d-66-99-c	2053	紐目		オニグルミ	18.95	6.95	1.20	( 92.0 )	1	1
1521	213 有孔板材片	d-67-81-c	3240	紐目		スギ?	32.10	( 5.05 )	2.20	( 170.0 )	1	1
1522	213 有孔板材片	c-67-00-b	7411	紐目		ハリギリ	25.70	( 2.50 )	1.20	( 154.5 )	1	22点接合。
1523	214 有孔板材片	c-67-00-d	8154	紐目	○	トネリコ	( 16.60 )	( 7.20 )	( 2.10 )	( 118.0 )	1	1
1524	214 有孔板材片	d-66-99-c	2512	追紐		ハリギリ	( 15.30 )	8.40	1.20	( 74.9 )	1	1
1525	213 有孔板材	c-67-00-c c-67-10-b	8509	板目		ハリギリ	24.70	8.70	1.00	164.0	1	1
1526	214 有孔板材片	c-67-00-a	1898	紐目		モミ	( 18.30 )	( 7.90 )	( 1.02 )	( 113.2 )	1	1溝付。
1527	214 有孔板材	c-67-10-b	15150	板目	○	ヒノキ?アスナロ?	22.27	8.80	0.90	143.8	1	1刃物痕多数あり。
1528	214 有孔板材	c-66-19-d	7239	追紐		ハリギリ	31.60	8.60	2.05	372.1	1	77点中5点接合5点実測。
1529	214 有孔板材片	d-67-91-d	5912	追紐	○	シナノキ	( 18.15 )	9.25	1.60	( 169.0 )	1	44点中2点接合2点実測。裏面に刃物痕多数あり。

表 V-90 0 B層掲載木製品 (62)

図 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 数	破 片	備 考
1530	215	有孔板材片	d-67-81-d	5875	追証	○	ハリギリ	( 16.35 ) ( 8.30 )	2.00	( 163.2 )	1	1	
1531	215	有孔板材片	c-66-18-b	2088	証目		ハリギリ	( 18.30 ) 9.25	1.50	( 155.8 )	1	2	2点接合。
1532	215	有孔板材片	c-66-48-a	14593	板目		キハダ	( 23.50 ) 12.50	1.46	( 271.6 )	1	1	
1533	215	有孔板材片	c-66-09-c	471	証目		ハリギリ	23.20 11.60	1.70	( 242.0 )	1	2	2点接合。
1534	215	有孔板材片	c-66-19-a	5500	追証		ハンノキ	( 27.80 ) ( 9.60 )	1.69	( 330.0 )	1	1	
1535	215	有孔板材片	d-67-81-b	3164	追証		ハコヤナギ	30.60 ( 13.10 )	1.20	( 248.0 )	1	20	20点接合。
1536	216	有孔板材片	c-67-30-b	10190	板目	○	シナノキ	( 32.10 ) 11.20	2.20	( 488.2 )	1	2	2点接合。
1537	216	有孔板材片	c-66-09-b	152	証目		ハリギリ	( 23.50 ) 15.50	1.90	( 272.0 )	1	3	3点接合。
1538	216	有孔板材片	c-66-09-b	622	板目	○	ハリギリ	27.20 ( 15.30 )	2.00	( 403.0 )	1	3	3点接合。
1539	217	有孔板材片	c-67-00-d	8155	追証	○	ハリギリ	23.15 9.55	3.50	( 343.9 )	1	2	2点接合。
1540	217	有孔厚板材片	c-66-19-a	2766	証目	○	カツラ	19.70 ( 10.25 )	4.80	( 555.0 )	1	1	
1541	218	角材片	c-66-09-b	1902	証目		モクレン	( 8.45 ) 2.35	1.60	( 17.9 )	1	1	
1542	218	角材	c-66-19-d	15434	追証		コナラ	12.80 2.10	1.30	20.9	1	1	線刻付。
1543	218	角材	c-67-00-d	15304	証目		ヒノキ?アスナロ?スギ?	19.60 1.90	1.30	39.3	1	1	
1544	-	角材切断品	c-66-19-d	2442	追証	○	スギ?	19.90 2.90	1.60	70.0	1	1	
1545	218	角材切断品	d-66-99-d	2509	板目		カツラ	23.95 4.55	3.24	268.0	1	1	
1546	218	角材切断品	d-66-99-c	2511	証目		スギ?	31.60 4.75	2.45	228.0	1	1	
1547	218	角材切断品	c-66-18-b	2070	板目		キハダ	28.30 3.00	2.70	103.0	1	2	2点接合。
1548	218	角材	c-66-29-d	210	証目		ハンノキ	34.10 4.80	2.40	( 275.0 )	1	1	
1549	218	角材	c-66-09-d	598	証目		モミ	49.50 3.00	2.20	268.0	1	2	2点接合。
1550	219	角材	c-66-08-c	1143	板目	○	スギ?ヒノキ?	74.15 5.60	2.50	640.0	1	1	
1551	219	細角材	d-67-72-d	4445	証目	○	スギ?	41.47 2.40	1.28	30.0	1	2	2点接合。
1552	219	角材切断品	c-67-10-b	12089	1/8割		コナラ	72.30 4.60	4.15	660.0	1	1	
1553	219	角材	c-67-20-b	6605	板証	○	コナラ	79.00 3.00	3.20	510.0	1	1	

表 V-91 0 B層掲載木製品 (63)

図 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備 考
1554	219 半割材片	c-67-32-d	10297	半割	ハギ	( 17.45 ) 1.90 1.00 ( 12.0 )	1	1	1	1 割中?亀裂あり。
1555	219 半割材	d-66-99-c	2244	半割	○アジサイ	28.90 1.80 1.00 27.0	1	1	1	
1556	220 板材片	c-66-19-d	15435	板目	カツラ	( 8.80 ) ( 2.40 ) 1.30 ( 20.0 )	1	1	1	1 御縁イトクハ付。
1557	220 板材	d-67-81-b	3103	板目	スギ?	11.00 4.14 0.80 19.0	1	1	1	
1558	220 板材片	c-67-00-c	7579	板目	ヒノキ?アスナロ?	( 11.85 ) ( 3.00 ) 1.45 ( 38.6 )	1	1	1	
1559	220 板材片	c-67-11-a	15339	板目	○ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 12.60 ) ( 4.10 ) 1.00 ( 28.6 )	1	1	1	
1560	220 板材片	d-67-81-d	3002	板目	モクレン	( 15.40 ) ( 3.40 ) 1.30 ( 29.0 )	1	1	1	1 御縁イトクハ付。
1561	220 板材片	c-67-00-c	15457	板目	ヒノキ?アスナロ?	( 20.80 ) ( 2.90 ) ( 1.10 ) ( 37.2 )	1	1	1	1 刃物痕多数あり。
1562	220 細板材	d-67-81-c	3234	板目	スギ?	38.20 2.20 0.50 29.0	1	1	1	
1563	220 板材片	d-67-91-b	5213	追庇	ハリギリ	( 32.30 ) ( 4.10 ) 1.60 ( 116.9 )	1	4	4	4点中3点接合4点実測。
1564	220 板材	c-66-09-b	873	板目	ヒノキ?アスナロ?	23.00 4.60 0.60 48.7	1	1	1	
1565	220 板材	c-66-27-b	15056	板目	スギ	21.50 4.00 0.80 48.3	1	1	1	
1566	- 板材片	c-66-99-d	2554	板目	カエデ	( 15.50 ) 7.10 1.20 ( 56.5 )	1	1	1	
1567	220 板材	c-66-19-d	3960	板目	ハリギリ	19.40 6.48 1.91 170.9	1	1	1	
1568	221 板材片	c-67-00-a c-66-09-b	703	板目	ハリギリ	25.20 9.00 1.25 ( 189.0 )	1	1	1	
1569	221 板材片	c-66-28-a	841	板庇	ヒノキ?アスナロ?	( 14.15 ) ( 9.95 ) ( 1.15 ) ( 112.9 )	1	1	1	
1570	221 板材	d-67-91-b	5330	板目	ハリギリ	14.95 9.85 1.65 156.0	1	1	1	
1571	221 板材	c-66-18-c	993	板目	スギ?	33.75 7.30 1.63 321.4	1	1	1	
1572	221 板材片	c-67-40-c	10765	追庇	イヌエンジュ	( 29.80 ) 10.60 1.30 ( 130.9 )	1	4	4	4点接合。
1573	221 板材片	d-67-72-d	4443	追庇	サクラ	( 58.60 ) 5.30 1.30 ( 340.0 )	1	1	1	
1574	222 板材片	c-66-29-a	1844	板目	キハダ	51.70 12.60 1.80 ( 624.0 )	1	1	1	1 結核痕、刃物痕多数あり。
1575	222 板材	d-67-92-b	5986	板目	ハリギリ	33.60 12.40 1.80 556.0	1	1	1	
1576	222 板材片	c-66-28-c	510	板目	ハンノキ	( 17.30 ) 15.70 2.00 ( 301.0 )	1	2	2	2点接合。
1577	223 厚板材切断品片	c-66-28-b	1408	半割	コナラ	4.90 ( 6.20 ) 3.60 ( 70.0 )	1	1	1	

表 V-92 0 B 層掲載木製品 (64)

図 番 号	國 番 号	通物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量(g)	個 体 片	備考	
1578	223	厚板材片	d-67-72-d	4440	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 10.00 )	6.50	2.90	( 130.0 )	1	
1579	223	厚板材	c-66-09-b	153	板目		ハリギリ	10.00	13.60	2.30	162.0	1	
1580	-	厚板材片	c-66-19-a	2752	板目		カツラ	19.40	10.65	2.00	( 272.0 )	1	5点接合。
1581	223	厚板材片	c-66-09-b	1095	柱目		○モクレン	( 15.20 )	( 8.37 )	( 5.10 )	( 202.7 )	1	
1582	223	厚板材切断品	c-66-09-c	476	柱目		スギ	14.30	8.00	2.65	233.4	1	
1583	223	厚板材	c-67-31-b	10351	追柱		コナラ	19.60	13.10	2.50	393.0	1	
1584	223	厚板材片	c-67-10	15110	追柱		キハダ	23.70	( 11.40 )	3.15	( 560.0 )	1	薄付。
1585	224	厚板材	c-66-09-b	1915	板目		○カツラ	27.21	15.25	3.10	959.0	1	
1586	224	厚板材	d-67-90-a d-67-90-d	5970	追柱		○ハリギリ	23.70	20.90	4.20	866.0	1	
1587	225	厚板材片	c-66-18-c	2093	追柱		ハリギリ	39.70	19.10	2.50	( 946.0 )	1	舟材?
1588	225	厚板材片	d-67-91-a	5874	板目		ヤナギ	( 37.90 )	21.00	2.80	( 1142.0 )	1	4点接合の舟材?木釘孔2ヶ所。
1589	225	厚板材	c-67-61-b	10365	柱目		○スギ	61.00	22.00	2.90	2370.0	1	
1590	226	角柱状製品片	c-67-31-d	10647	丸木		トネリコ	( 23.50 )	4.00	4.20	( 234.5 )	1	
1591	226	割杭状製品	c-67-00-a	250	柱目		カエデ	23.30	3.75	5.50	228.5	1	
1592	226	割杭状製品	d-67-81-b	4428	1/3割		モミ	45.40	8.30	3.20	646.0	1	
1593	226	割杭状製品	c-67-10-b	15455	半割		ヤナギ	39.50	2.70	1.70	95.4	1	2点接合。
1594	227	割杭状製品切断品	c-66-38-d	13355	1/4割		コナラ	119.30	7.00	7.90	1650.0	1	
1595	227	割杭状製品切断品	c-67-10-c	15279	1/4割		サクラ	32.50	3.45	3.40	217.0	1	
1596	227	割杭状製品片	c-67-00-b c-67-00-c	9818	1/5割	○	○コナラ	( 140.10 )	12.00	8.10	( 7000.0 )	1	1 柱材。
1597	227	割杭状製品片	c-67-02-c	3342	半割		カエデ	67.75	9.50	4.70	( 1625.0 )	1	
1598	228	丸杭状製品	c-66-19-b	3916	丸木		○アジサイ	14.20	2.10	2.10	34.0	1	
1599	228	丸杭状製品切断品片	d-67-91-d	5866	丸木		アジサイ	( 16.40 )	2.25	2.20	( 56.5 )	1	
1600	228	丸杭状製品切断品	c-67-10-c	6764	丸木	○	コナラ	20.80	3.60	3.58	108.0	1	2点接合(樹皮巻き含む)。樹皮巻き付。樹皮寸法幅1.20cm×厚さ0.20cm。
1601	228	丸杭状製品	c-66-28-b	1411	丸木	○	サクラ	23.50	1.90	1.90	54.6	1	

表V-93 0 B層掲載木製品 (65)

図 番 号	国 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 皮 質	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体	破 片	備 考	
1602	228	丸杭状製品切断品	c-66-09-b	596	丸木		モミ	22.50	3.80	3.80	225.0	1	1	
1603	228	丸杭状製品	c-66-28-a	1394	丸木		ハギ	27.10	1.80	1.70	52.1	1	1	
1604	228	丸杭状製品片	c-67-10-b	12493	丸木		ヤナギ	( 31.60 )	2.50	1.92	( 77.9 )	1	1	
1605	228	丸杭状製品	c-67-00-c	12522	丸木		ハギ	28.65	1.50	1.45	40.1	1	1	1 挟付。
1606	228	丸杭状製品	c-67-10-b	12042	丸木		ヤナギ	45.50	2.60	2.80	207.3	1	3	3点接合。
1607	229	丸杭状製品	c-67-10-c	15278	丸木	○	サクラ	63.25	2.78	3.12	390.0	1	1	
1608	228	丸杭状製品	c-67-10-b	15347	丸木	○	サクラ?	33.30	2.90	2.80	165.7	1	1	
1609	229	丸杭状製品	d-67-91-b d-67-91-c	5262	丸木	○	ヤナギ	59.80	2.90	2.80	339.4	1	2	2点接合。
1610	229	丸杭状製品片	c-67-10-b	15349	丸木		ハギ	( 53.50 )	1.70	1.60	( 102.4 )	1	1	
1611	229	丸杭状製品片	c-66-19-b	4144	丸木		ハコヤナギ	( 47.90 )	2.25	2.50	( 153.0 )	1	2	2点接合。
1612	228	丸杭状製品	c-67-12-d	12091	丸木		カエデ	49.80	4.20	4.10	514.0	1	1	
1613	228	丸杭状製品切断品	c-67-10-b c-67-00-c	12570	丸木		ヒノキ?スギ?	35.80	4.03	3.90	317.0	1	1	
1614	228	丸杭状製品切断品	c-67-01-a	11975	丸木		ハンノキ	36.05	5.78	5.53	753.0	1	1	
1615	228	丸杭状製品片	c-67-01-a	9324	丸木		サクラ	( 44.20 )	8.50	8.00	( 2094.0 )	1	1	
1616	230	丸杭状製品片	c-67-10-c	15276	丸木	○	ハンノキ	( 78.00 )	3.85	3.93	( 670.0 )	1	1	
1617	230	丸杭状製品切断品	c-66-28-b	979	丸木		ハンノキ	70.40	5.60	4.10	988.0	1	1	
1618	230	丸杭状製品	c-67-10-c	15277	丸木		エゴノキ?	66.30	3.01	2.93	420.0	1	1	
1619	230	丸杭状製品	c-67-00-b	7863	丸木	○	コナラ	73.00	7.30	7.80	2250.0	1	4	4点接合(樹皮3点含む)。
1620	230	丸杭状製品	c-67-10-b c-67-10-c	9274	丸木		トネリコ	114.60	7.80	7.30	3840.0	1	1	
1621	230	丸杭状製品	c-66-09-a c-66-09-b	938	丸木		カエデ	134.30	8.50	7.20	2560.0	1	1	
1622	231	丸木材片	d-67-91-c	5354	丸木		クワ	( 64.70 )	2.20	2.20	( 196.2 )	1	4	4点接合。面取りあり。
1623	231	丸木材切断品	c-67-11-a	15338	丸木		ニレ	16.25	3.90	3.90	176.4	1	1	1 木口に新鋭痕あり。
1624	231	湾曲丸木材	c-66-18-c	817	丸木	○	ツル性植物?	25.90	1.55	1.40	37.1	1	1	
1625	231	丸木材片	c-66-38-a	13726	丸木		モミ	( 34.60 )	2.65	2.70	( 153.9 )	1	1	1 車轆受台部軸?

表 V-94 0 B層掲載木製品 (66)

図/図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	固体 破片	備考
1626	231 丸木材	c-66-09-b	371	丸木	カエデ	68.50 3.00 2.85	399.0	1	2点接合。
1627	231 丸木材切断品	c-66-09-b	15419	丸木	ヤナギ	32.80 2.55	120.0	1	3点接合。木幣?
1628	231 丸木材片	c-66-29-a	15399	丸木	ヤナギ	( 46.00) 2.30 2.40	( 124.1)	1	4点接合。削った後切断加工あり。
1629	231 細丸材	c-66-09-c	1210	板紐	スギ	22.40 1.30 24.1	24.1	1	
1630	231 丸材片	c-67-10-c	15357	板紐	カエデ	( 22.40) 2.30 2.10	( 61.7)	1	
1631	231 丸材切断品	c-66-09-d	15051	板紐	トネリコ	24.50 3.60 3.50	223.6	1	
1632	232 屋根礎針先片	c-66-28-b	1316	半割	カツラ	( 5.30) 1.50 0.90	( 3.4)	1	
1633	232 屋根礎針先片	c-66-19-a	3897	板目	ヤナギ	( 7.16) 2.42 1.15	( 10.5)	1	
1634	232 屋根礎針先	c-66-18-b	1506	半割	○アジサイ	9.20 2.00 1.00	7.9	1	
1635	232 屋根礎針片	c-66-27-b	15459	半割	アジサイ	( 36.70) 2.30 1.60	( 51.4)	1	2点接合。
1636	232 屋根礎針片	c-67-31-a	10271	丸木	ハシドイ	( 37.10) 2.40 2.60	( 130.0)	1	2点接合。
1637	233 上部部扶入部付Y字状 製品	c-66-09-d	2553	股木	ハンノキ	11.40 7.20 2.65	56.7	1	1建材?
1638	233 Y字状製品	d-66-99-d	2480	股木	コナラ	16.60 20.50 3.00	134.8	1	2点接合。建材?
1639	233 Y字状製品	c-67-10-a c-67-10-d	7317	股木	カエデ	27.30 13.10 3.05	176.0	1	2点接合。建材?
1640	233 下部部扶付Y字状製品	c-66-19-a	2628	股木	ヤナギ	32.50 15.95 2.45	87.4	1	2点接合。建材?
1641	234 高床式倉庫梯子片	d-67-91-c d-67-91-d	5890	丸木	コナラ	( 183.50) 8.70 7.90	( 5425.0)	1	2点接合。桁・梁材片?
1642	234 桁・梁材片	c-67-20-b	7294	丸木	コナラ	( 175.60) 8.70 8.60	( 5150.0)	1	
1643	234 扶入部付建材片	c-67-00-d	7374	丸木	ヤナギ	( 61.40) 7.80 6.00	( 1383.0)	1	2点接合。桁・梁材片?
1644	234 桁・梁材切断品	c-66-19-d c-66-29-a	14778	丸木	カエデ	111.40 7.80 7.70	3760.0	1	1ペルト出土。刃物痕多数あり。
1645	235 受部付柱材切断品	c-67-10-c c-67-11-d	8445	股木	○カエデ	136.90 7.30 7.20	2750.0	1	1柱頭「Y」字状?
1646	235 桁・梁材切断品片	c-67-10-c c-67-20-b	9653	丸木	コナラ	( 141.70) 8.20 5.20	( 2520.0)	1	
1647	235 桁・梁材切断品片	d-67-81-b d-67-81-c	3199	丸木	コナラ	( 181.30) 8.80 8.90	( 10020.0)	1	1刃物痕多数あり。
1648	235 受部付柱材片	c-66-09-a c-66-09-b	1774	股木	コナラ	( 40.10) 7.45 5.30	( 378.0)	1	2点接合。柱頭「Y」字状。
1649	236 建築部材片	c-66-29-a	1474	股木	トネリコ	( 36.50) 6.70 4.20	( 454.0)	1	

表V-95 0 B層掲載木製品 (67)

図 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体	破 片	備 考
1650	236 受部付柱材片	c-66-29-c	276	丸木		カエデ	( 80.40 ) ( 19.50 ) ( 20.70 )	( 13800.0 )	1	1	「人」字状。
1651	236 ホソ先付丸木材	c-67-02-c	6045	丸木		トネリコ	32.23 4.90 5.00	495.4	1	1	
1652	236 受部付柱材	c-66-29-d	390	丸木	○	カエデ	21.60 14.30 5.70	334.0	1	1	柱頭「Y」字状。
1653	236 受部付柱材片	c-67-30-b	10208	股木	○	クマシデ	( 67.20 ) ( 10.30 ) 7.80	( 2877.0 )	1	2	2点接合。柱頭「Y」字状。
1654	237 受部付柱材	c-67-10-b	12565	股木	○	ハシドイ	169.50 19.00 6.30	5350.0	1	1	柱頭三つ又状。
1655	237 受部付柱材片	c-67-10-c	9277	股木	○	コナラ	( 169.10 ) ( 9.60 ) 9.60	( 6075.0 )	1	1	柱頭「Y」字状。
1656	237 桁・梁材切断品	c-67-30-b	10209	丸木	○	ハンノキ	155.10 9.90 10.90	7400.0	1	1	
1657	237 桁・梁材	c-67-10-b c-67-11-a	12578	1/4割		コナラ	184.10 8.20 7.70	5350.0	1	1	
1658	237 桁・梁材片	c-67-00-b c-67-00-c	9803	丸木	○	コナラ	( 187.50 ) 4.80 4.30	( 1625.0 )	1	1	
1659	237 桁・梁材	c-67-10-b c-67-00-c	9722	丸木		カエデ	206.00 8.80 7.20	9350.0	1	1	
1660	238 桁・梁材	d-67-91-a d-67-91-b	5831	丸木		ウルシ(ヌルデ)	191.20 7.60 6.30	4600.0	1	1	
1661	238 受部付柱材	c-66-19-a c-66-19-b	3952	股木		コナラ	133.40 17.50 7.60	4620.0	1	1	柱頭「Y」字状。刃物痕あり。
1662	238 受部付柱材	d-67-91-b d-67-81-c	5221	股木	○	コナラ	179.30 13.30 6.90	5300.0	1	1	柱頭「Y」字状。刃物痕あり。
1663	238 受部付柱材	c-67-11-b	8006	股木	○	ナナカマド	218.10 16.90 8.90	8540.0	1	1	柱頭「Y」字状。短刻列付。
1664	239 板材木端	c-66-19-b	3949	板目		スギ?ネズコ?	3.83 2.15 1.20	3.8	1	1	
1665	239 板材木端	d-67-91-b	5327	板目		ヤナギ	3.85 4.60 1.20	16.0	1	4	4点接合。
1666	239 板材木端	c-66-08-b	1174	柾目		モミ	7.70 4.80 1.40	31.0	1	1	
1667	239 板材木端	c-66-19-b	2468	追衤		ハコヤナギ	( 9.40 ) 2.95 1.90	( 20.0 )	1	1	矢筒翼片?
1668	- 木端	c-66-19-d	2423	丸木		スギ?ヒノキ?ネズコ?	4.80 4.00 2.30	16.0	1	1	
1669	239 木端	c-66-19-d	2395	柾目		スギ?ヒノキ?ネズコ?	4.60 3.80 2.40	22.0	1	1	溝付。
1670	- 木端	c-66-09-d	1795	1/3割		ハンノキ	14.10 5.20 3.05	66.0	1	1	
1671	239 角材木端	d-67-91-b	5238	半割		ハンノキ	6.10 6.88 4.00	99.0	1	1	
1672	- 丸木材切片	c-66-19-a	3788	柾目		クマシデ	15.50 5.20 2.90	98.0	1	1	
1673	239 丸木材木端	c-66-09-d	590	丸木		カバノキ	5.70 5.90 5.90	115.0	1	1	

表V-96 0 B層掲載木製品 (68)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)			重量 (g)	個 体	破 片	備 考
1674	丸木材木端	c-66-18-b	1830	半割		クマシテ	8.60	2.30	1.80	20.0	1	1	
1675	木端	c-66-19-d	7251	板目		不要	9.90	3.15	2.20	34.0	1	1	
1676	丸木材木端	c-67-00-b	8187	丸木		カエテ	14.00	6.30	6.35	384.6	1	1	
1677	丸木材木端	c-66-18-c	15054	丸木		サクラ	10.15	6.20	6.30	205.0	1	1	
1678	丸木材木端	c-67-10	15109	丸木		ハンノキ	7.30	9.30	7.50	223.4	1	1	
1679	丸木材木端	c-66-09-b	370	丸木		ナナカマド?ハシドイ?	8.10	6.70	6.70	62.0	1	1	
1680	厚板材木端	d-67-72-d	4453	半割		ハンノキ	16.20	10.25	6.00	487.8	1	1	
1681	炭化材	c-66-19-a	2427	柱目	○	不要	1.00	1.25	0.65	0.3	1	1	
1682	炭化材	c-66-09-d	483	丸木	○	クリ	4.30	1.60	1.25	4.8	1	1	
1683	炭化材	c-66-09-a	2181	板目	○	ハンノキ	8.30	3.10	1.60	17.8	1	1	隣付。
1684	炭化材	c-67-01-d	12598①	丸木	○	不要	10.45	1.77	1.75	19.3	1	1	
1685	炭化材	c-67-11-a	15341	丸木	○	コナラ	11.70	3.60	3.55	57.8	1	1	
1686	炭化材	c-67-11-a	15336	1/4割	○	ハンノキ	12.85	5.15	3.00	100.5	1	1	
1687	有孔環状竹製品片	c-66-19-a	15182	環		イネ科(ササ)	( 10.45 )	1.60	1.65	( 9.5 )	1	2	2点接合。
1688	有孔竹割製品片	c-66-19-b	5745	1/5割		イネ科(ササ)	( 12.00 )	( 2.60 )	0.87	( 6.0 )	1	2	2点接合。
1689	二股刺突製品片	c-66-29-a	1416	半割		イネ科(ササ)	( 16.80 )	1.60	0.80	( 5.0 )	1	1	
1690	竹割	c-66-19-a	15333	1/3割		イネ科(ササ)	( 9.45 )	( 1.60 )	( 0.60 )	( 5.0 )	1	1	刃物痕あり。
1691	環状竹製品片	d-67-91-d	5894	環	○	イネ科(ササ)	( 8.15 )	1.30	1.30	( 8.0 )	1	1	
1692	割竹製品	c-67-11-a	15340	1/4割		イネ科(ササ)	10.70	1.70	0.60	4.9	1	1	
1693	割竹製品片	c-66-29-d	209	1/4割		イネ科(ササ)	( 24.70 )	2.50	0.80	( 28.0 )	1	1	
1694	樹皮製容器片	c-66-27-b	13	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	( 26.95 )	2.40	9.75	( 26.6 )	1	8	8点中5点接合5点表側。2ヶ所1組の樹皮罅り孔多数あり。
1695	切截樹皮	d-67-81-b	4316	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	14.70	6.20	6.60	22.0	1	1	
1696	筒状樹皮巻	c-66-29-b	5132	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	17.00	3.80	3.80	75.9	1	1	おそらく楕円形を巻いたもの。
1697	筒状樹皮巻	c-66-09-b	154	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	18.90	8.10	3.65	197.5	1	2	2点中1点表側。



表V-97 0 B層掲載木製品 (69)

図 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備 考
1698	241 筒状樹皮巻	c-67-30-b	15208	樹皮 ○	樹皮(カバノキ)	10.10 3.50 3.10	44.6	1	1	燈火用。
1699	241 刻目付樹皮製品	c-66-18-d	15035	樹皮 ○	樹皮(カバノキ)	9.40 2.00 0.90	3.0	1	1	
1700	242 樹皮製容器把手片	d-67-91-a	15233	丸木	コナラ	( 10.10 ) ( 5.55 ) ( 2.25 )	( 22.7 )	1	1	
1701	242 樹皮製容器把手片	c-66-19-b	3888	丸木	カエデ	( 12.30 ) ( 2.13 ) ( 2.30 )	( 30.1 )	1	1	
1702	242 樹皮製容器把手片	c-66-09-c	15048	丸木	ニシキギ	( 16.15 ) ( 6.00 ) ( 2.20 )	( 44.3 )	1	1	
1703	242 樹皮製容器片	d-66-99-c	15444	樹皮 ○	樹皮(カバノキ)	( 9.70 ) ( 7.90 ) ( 2.50 )	( 47.8 )	1	3	3点接合(軸片2点含む)。口縁部軸片入。
1704	242 樹皮製品	c-67-10	15108	樹皮 ○	樹皮(カバノキ)	10.50 7.80 1.40	21.0	1	1	
1705	242 縞包樹皮	c-66-19-d	2294	樹皮 ○	樹皮(カバノキ)	11.10 4.20 2.80	75.7	1	2	2点中1点が縞。両端部縞痕あり。
1706	242 切敷樹皮	c-66-18-b	1808	樹皮 ○	樹皮(カバノキ)	14.20 5.90 0.20	9.6	1	1	小孔あり。
1707	- 細带状樹皮巻	c-66-18-b	1825	樹皮 ○	樹皮	2.45 1.40 1.30	0.6	1	1	結束式。
1708	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	2386	樹皮 ○	樹皮	2.80 1.85 1.40	1.5	1	1	結束式。片方の端に加工あり。
1709	- 細带状樹皮巻	c-66-19-d	7258	樹皮 ○	樹皮	4.70 2.80 1.30	3.2	1	1	結束式。
1710	243 細带状樹皮巻	c-66-09-b	15028	樹皮 ○	樹皮	3.26 2.73 1.20	2.8	1	1	結束式。
1711	- 細带状樹皮巻	c-66-19-a	2783	樹皮 ○	樹皮	2.90 2.60 1.30	1.6	1	1	結束式。
1712	243 細带状樹皮巻	c-66-27	15350	樹皮 ○	樹皮	2.87 2.47 0.95	1.6	1	1	結束式。
1713	- 細带状樹皮巻	c-66-18-b	1824	樹皮 ○	樹皮	3.40 3.10 2.00	3.4	1	1	結束式。
1714	243 細带状樹皮巻	c-66-18-c	1441	樹皮 ○	樹皮	3.00 3.90 1.90	5.4	1	1	結束式。
1715	243 細带状樹皮巻	c-66-18-d	2909	樹皮 ○	樹皮	4.09 3.40 1.25	4.3	1	1	結束式。
1716	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	3825	樹皮 ○	樹皮	4.10 4.30 1.42	5.7	1	1	結束式。
1717	243 細带状樹皮巻	c-67-10-c	15321	樹皮 ○	樹皮	3.60 3.30 1.00	2.3	1	1	結束式。
1718	243 細带状樹皮巻	d-66-99-d	2280	樹皮 ○	樹皮	3.84 2.97 1.59	6.1	1	1	結束式。
1719	243 細带状樹皮巻	c-66-27	15007	樹皮 ○	樹皮	3.60 3.00 1.02	2.8	1	1	結束式。楕円材固定?
1720	243 細带状樹皮巻	c-66-09-c	15375	樹皮 ○	樹皮	3.86 3.00 1.08	3.6	1	1	結束式。楕円材固定?
1721	243 細带状樹皮巻	d-66-99-c	2271	樹皮 ○	樹皮	4.06 3.65 1.40	5.4	1	1	結束式。楕円材固定?

表 V-98 0 B層掲載木製品 (70)

図 番号	通称名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 皮型	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)			重量 (g)	個 体 数	備 考
1722	- 細带状樹皮巻	c-66-08-c	1134	樹皮	○	樹皮	3.50	2.90	1.30	4.0	1	1 結束式。
1723	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	2367	樹皮	○	樹皮	3.80	3.10	1.60	4.0	1	1 結束式。
1724	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	2380	樹皮	○	樹皮	4.50	4.40	1.35	4.7	1	1 結束式。
1725	243 細带状樹皮巻	d-66-99-d	2481	樹皮	○	樹皮	4.20	4.00	1.13	4.6	1	1 結束式。
1726	243 細带状樹皮巻	c-66-09-c	192	樹皮	○	樹皮	4.60	3.93	1.58	7.1	1	1 結束式。
1727	243 細带状樹皮巻	c-67-10-c	15356	樹皮	○	樹皮	5.10	3.66	1.52	6.2	1	1 結束式。
1728	243 細带状樹皮巻	c-66-29-a	1253	樹皮	○	樹皮	4.85	4.85	1.30	5.0	1	1 結束式。
1729	243 細带状樹皮巻	c-67-10-b	15335	樹皮	○	樹皮	5.90	3.47	1.30	7.7	1	1 結束式。楕円材固定?
1730	243 細带状樹皮巻	c-66-18-d	531	樹皮	○	樹皮	5.08	3.48	1.95	7.0	1	1 結束式。
1731	243 細带状樹皮巻	c-66-17-c	205	樹皮	○	樹皮(サクラ)	3.80	4.10	1.90	10.0	1	1 結束式。
1732	243 細带状樹皮巻	c-66-19-a	3760	樹皮	○	樹皮	4.60	5.42	1.78	8.1	1	1 結束式。
1733	243 細带状樹皮巻	c-67-10-b	15308	樹皮	○	樹皮	5.50	5.13	2.40	7.4	1	1 結束式。
1734	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	2464	樹皮	○	樹皮	6.60	4.15	1.50	8.8	1	1 結束式。
1735	243 細带状樹皮巻	d-66-99-b	2282	樹皮	○	樹皮	6.30	5.50	1.43	7.7	1	1 結束式。
1736	- 細带状樹皮巻	c-66-09-a	1938	樹皮	○	樹皮	5.20	8.90	2.00	15.1	1	1 結束式。
1737	243 細带状樹皮巻	c-66-18-b	1826	樹皮	○	樹皮	4.70	2.40	1.65	6.1	1	1 結束式。
1738	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	2446	樹皮	○	樹皮	4.10	3.80	1.80	6.4	1	1 結束式。
1739	- 細带状樹皮巻	c-66-18-c	1435	樹皮	○	樹皮	4.70	4.30	1.70	8.5	1	1 結束式。
1740	243 細带状樹皮巻	c-66-18-c	1864	樹皮	○	樹皮	6.20	3.80	1.40	3.3	1	1 結束式。
1741	243 細带状樹皮巻	c-66-19-d	4721	樹皮	○	樹皮	4.10	3.90	2.25	8.6	1	1 結束式。
1742	- 細带状樹皮巻	c-66-19-a	4749	樹皮	○	樹皮	3.75	4.82	2.50	11.0	1	1 結束式。
1743	243 細带状樹皮巻	c-66-19-a	4722	樹皮	○	樹皮	6.10	4.40	1.90	9.6	1	1 結束式。
1744	- 細带状樹皮巻	c-66-19-d	15090	樹皮	○	樹皮	3.78	4.54	1.65	11.1	1	1 結束式。
1745	- 細带状樹皮巻	c-67-10-d	6768	樹皮	○	樹皮	7.58	4.50	1.70	8.0	1	1 結束式。

表 V-99 0 B層掲載木製品 (71)

國 番 号	國 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 皮 重	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体	破 片	備 考
1746	-	細帯状樹皮巻	c-66-19-b	4657	樹皮 ○		樹皮	4.20	4.90	1.90	10.3	1	1 結束式。
1747	243	細帯状樹皮巻	c-66-17-b	113	樹皮 ○		樹皮	3.50	2.70	2.20	6.3	1	1 結束式。
1748	243	細帯状樹皮巻	c-66-17-b	206	樹皮 ○		樹皮	3.74	4.50	2.00	5.4	1	1 結束式。
1749	243	細帯状樹皮巻	c-66-19-d	2415	樹皮 ○		樹皮	4.40	1.90	2.20	2.8	1	1 結束式。
1750	244	細帯状樹皮巻	c-66-18-c	15295	樹皮 ○		樹皮	3.05	1.96	0.93	2.6	1	4 4点接合。頭部差込式。小刀用。
1751	244	細帯状樹皮巻	c-66-09	15158	樹皮 ○		樹皮	3.20	2.53	0.60	0.6	1	1 頭部挿入式。
1752	244	細帯状樹皮巻	d-67-91-c	15448	樹皮 ○		樹皮	4.30	2.13	0.82	0.9	1	1 頭部挿入式。
1753	244	細帯状樹皮巻	d-67-91-d	15236	樹皮 ○		樹皮	4.63	2.33	0.75	1.6	1	1 頭部挿入式。
1754	244	帯状樹皮巻	c-67-10-b	15380	樹皮 ○		樹皮	5.60	4.10	1.68	2.5	1	2 2点接合。頭部挿入式。
1755	244	細帯状樹皮巻	c-67-10-d	15388	樹皮 ○		樹皮	( 9.80 )	1.40	1.43	( 1.6 )	1	3 3点接合。頭部挿入式。
1756	244	細帯状樹皮巻	d-66-99-c	1997	樹皮 ○		樹皮	5.75	0.90	1.20	1.5	1	1 頭部挿入式。
1757	244	細帯状樹皮巻	c-67-10-d	15389	樹皮 ○		樹皮	2.00	1.65	1.72	1.6	1	1 釘打込式。
1758	244	細帯状樹皮巻	c-66-09-b	15290	樹皮 ○		樹皮	3.80	2.50	0.90	1.2	1	2 2点接合。釘打込式。
1759	244	細帯状樹皮巻	d-66-99-c	2548	樹皮 ○		樹皮	4.43	1.20	3.30	1.9	1	1 頭部挿入式。
1760	244	細帯状樹皮巻	c-66-29-a	15463	樹皮 ○		樹皮	4.50	5.02	0.54	1.2	1	2 2点接合。釘打込式。
1761	244	細帯状樹皮巻	c-67-10	15305	樹皮 ○		樹皮	6.60	3.98	1.20	4.6	1	1 釘打込式。釘孔3ヶ所。
1762	244	細帯状樹皮巻	c-67-10-c	15322	樹皮 ○		樹皮	4.90	5.20	0.83	2.3	1	2 2点接合。釘打込式。
1763	244	細帯状樹皮巻	c-66-19-d	15437	樹皮 ○		樹皮	9.30	8.70	1.90	( 4.1 )	1	2 2点中1点実測。釘打込式。
1764	244	細帯状樹皮	d-66-99-c	2050	樹皮 ○		樹皮	( 12.60 )	5.70	2.60	( 2.3 )	1	2
1765	244	極細帯状樹皮巻	c-66-09-a	15288	樹皮 ○		樹皮	1.60	1.90	0.60	0.7	1	1
1766	244	極細帯状樹皮巻	c-66-09-d	15293	樹皮 ○		樹皮	1.70	2.60	0.50	0.5	1	1
1767	245	帯状樹皮巻	c-66-19-b	4774	樹皮 ○		樹皮(カバノキ)	3.10	3.44	2.00	5.6	1	1 結束式。
1768	245	帯状樹皮巻	d-66-99-d	2498	樹皮 ○		樹皮(カバノキ)	2.90	2.20	2.10	4.1	1	1
1769	245	筒状樹皮巻	c-67-02-d	3336	樹皮 ○		樹皮(カバノキ)	4.10	3.30	2.92	15.2	1	1

表V-100 0 B層掲載木製品 (72)

図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個体	破片	備考
1770 245	筒状樹皮巻	c-66-18-b	2097	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	4.30 2.80 2.80	20.0	1	1	焼火用。
1771 245	帯状樹皮巻	c-66-28-c	15059	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	6.37 3.90 2.80	11.3	1	1	頭部差込式?
1772 245	筒状樹皮巻	c-66-19-a	15081	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	5.50 3.70 2.20	16.2	1	1	焼火用。
1773 245	筒状樹皮巻	c-66-09-b	15289	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	4.50 3.10 1.40	4.0	1	1	焼火用。
1774 245	筒状樹皮巻	c-66-29-a	1264	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	9.68 4.70 2.65	40.5	1	1	焼火用。
1775 245	筒状樹皮巻	c-67-10-b	9866	樹皮	○	樹皮(カバノキ)	7.00 4.63 3.30	34.9	1	1	焼火用。
1776 245	細帯状樹皮	c-67-10-b	15309	樹皮	○	樹皮	26.74 16.55 2.00	9.7	1	1	釘打込式。
1777 246	穂物片	c-66-18-b	2066				( 18.00 ) ( 12.36 ) 2.40	( --- )	1	3	穂物片。計測値は塊。脆弱なため重量計測不能。
1778 246	穂片	d-66-99-c	2260				( 39.15 ) 1.25 1.10	( --- )	1	1	2本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
1779 246	穂片	c-66-09-b	454				( 13.30 ) 18.00 2.80	( --- )	1	1	2本燃り。S燃り。計測値は塊。脆弱なため重量計測不能。
1780 247	穂束片	c-66-28-b	14411				( 20.50 ) 4.30 1.24	( --- )	1	7	2本燃り。S燃り。2本燃り3本を巻束ねている。計測値は塊。脆弱なため重量計測不能。
1781 247	穂片	c-66-38-b	12633				( 24.38 ) 2.18 1.99	( --- )	1	6	3本燃り。Z燃り。脆弱なため重量計測不能。
1782 247	穂片	c-67-10-c	14275				( 4.48 ) 0.86 0.20	( --- )	1	1	3本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
1783 247	穂片	c-67-01-d	12460				( 18.27 ) 1.08 0.40	( --- )	1	3	3本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
1784 248	穂片	c-67-10-b	12494				( 24.30 ) 0.66 0.50	( --- )	1	1	2本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
1785 248	穂片	c-67-10-c	8497				( 20.00 ) 13.60 1.74	( --- )	1	8	3本燃り。S燃り。2本燃り2本を巻束ねている。計測値は塊。脆弱なため重量計測不能。
1786 248	穂片	c-67-00-b	9754				( 10.90 ) 7.43 3.20	( --- )	1	3	3本燃り。Z燃り。3本燃り2本を巻束ねている。計測値は塊。脆弱なため重量計測不能。
1787 248	穂片	c-67-00-c	9862				( 34.37 ) 0.65 0.50	( --- )	1	4	2本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
1788 248	穂片	c-66-09-b	5594				( 22.80 ) 0.60 0.50	( --- )	1	1	2本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
1789 248	穂片	c-66-18-c	2905				( 29.19 ) 2.43 1.28	( --- )	1	1	燃り紐の幅0.78cm。自然乾燥。計測値は乾燥後の値。脆弱なため重量計測不能。
1790 249	穂片	c-66-19-b	4056				( 18.15 ) 1.56 1.10	( --- )	1	4	2本燃り。S燃り。2本燃り4本を巻束ねている。脆弱なため重量計測不能。
1791 249	崖根材	c-66-08-c	852				( 23.00 ) 18.50 1.70	( --- )	1	4	脆弱なため重量計測不能。
1792 249	樹皮繊維素材片	d-66-99-c	2514				( 17.10 ) 7.00 0.30	( --- )	1	3	3点接合。脆弱なため重量計測不能。
1793 249	樹皮繊維素材片	d-66-99-d	2668				( 63.00 ) 8.40 0.90	( --- )	1	2	2点接合。脆弱なため重量計測不能。

## VI 重機（クラムシェル）調査

### 1 調査結果の概要

クラムシェル調査における陶磁器の分布は平成3年度調査区に接する部分に多い。擦文土器は2回目採取地区に多い。砥石・礫なども擦文土器と同じ傾向をもっている。2回目採取地区は低湿部東端の地点に当たるが遺物の分布は濃いようである。この地点から尾根裾をまわって下流側へ約100m行くと平成元年調査区に到達する。  
(田口・鈴木)

### 2 遺物

#### (1) 陶磁器・土器類 (図VI-1~4・7、表VI-1、図版250、カラー図版12-4)

14は珠洲播鉢で吉岡編年V新(15世紀中)である。口縁部には3カ所の打ち欠きが見られる。おそらくは4カ所にあったと思われる。底部は磨滅により薄くなっていた。昭和56年度調査の破片(26点)と平成元年調査の破片(3点)と平成4年クラムシェル調査の破片(3点)とが接合した。昭和56年度出土地点と平成元年出土地点は約32m、平成元年出土地点と平成4年出土地点は約36m離れている。

地点が離れて接合することは、一地点で機能が消失して、使用停止後埋没したのではなく、転用の場があったということである。口縁部の打ち欠きは吊り下げるための掛り(荷造りの縄掛りと言う説もある)と考えられ転用後の用途としては容器・鍋(外面に煤は付着していなかったが)が考えられる。

15は中国製青磁碗で上田分類E類(14世紀後半~15世紀前半)である。約4m離れて接合した。この付近で機能が消失し埋没したものであろう。珠洲播鉢も同じ地点である。また、約10m離れた地点(c-67-30-c)から茶筌が出土している。

16は伊万里染付碗(17世紀前半)である。約2.5m離れて接合した。この付近で機能が消失し埋没したものであろう。

17は伊万里染付碗で、藍色を呈する発色のよい呉須で口縁部外面に2本線と「樹木文?」、年代は17世紀後半?。18は染付小碗で、釉は気泡がなく、そのため器表に小孔がない。藍色を呈する発色の極めてよい呉須で外面に「樹木と竹文?」、年代は不明。

#### (2) 石器・石製品 (図VI-4・7、表VI-1、図版250)

33は両主面を使用する。34は2側縁に両面から打ち欠きが施される。35は3面を使用する。36は礫の原形を保つ。両主面を使用する。37は棒状の礫の片側面を使用する。  
(鈴木 信)

#### (3) ガラス製品 (図VI-5、表VI-2、図版250)

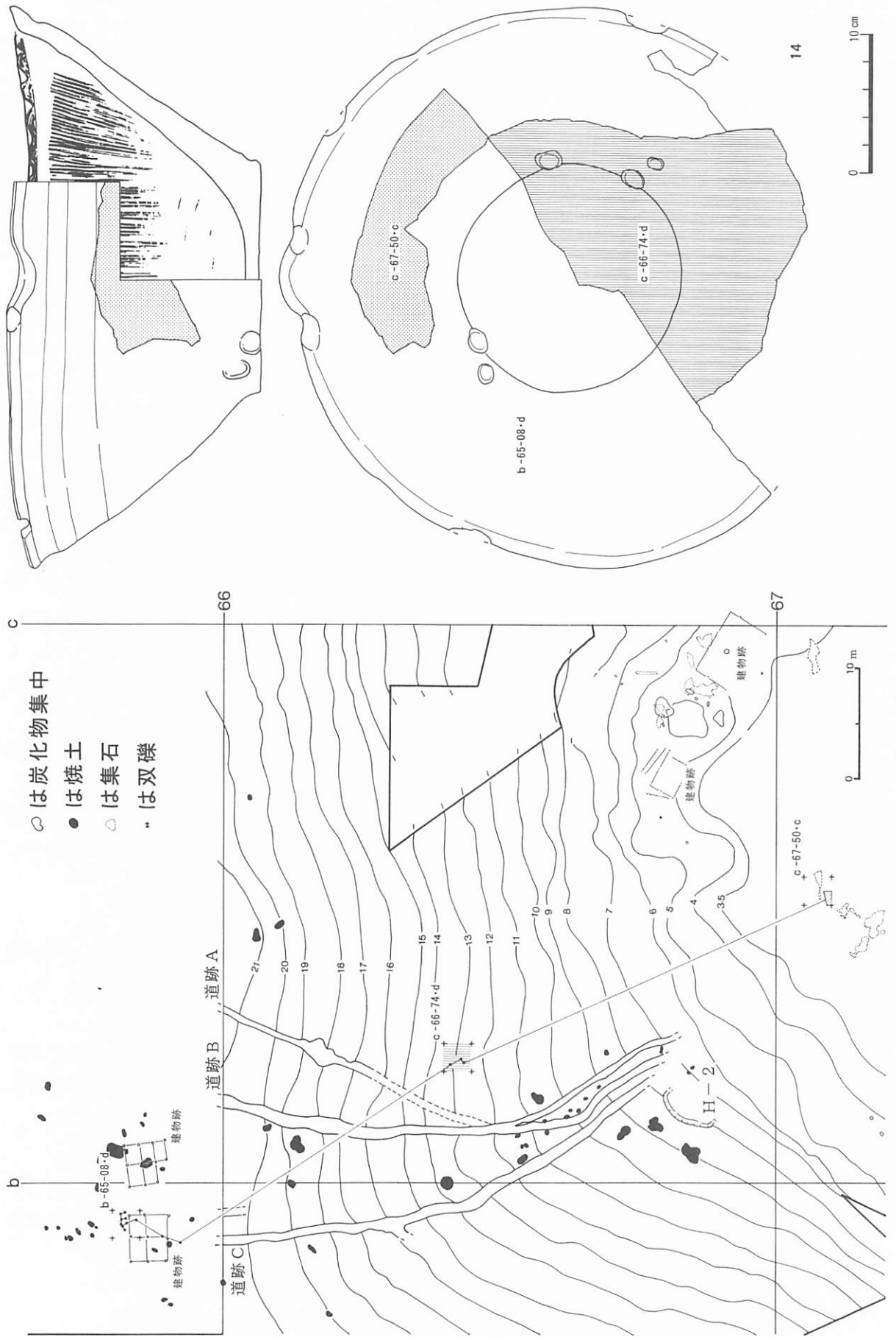
ガラス玉(13・14): 13は側面観が長円形となる丸平玉のビーズ玉である。やや光沢のある青みがかった緑色である。14の表面は一部風化しており光沢が無く、中央部が帯状にわずかに括れる管玉状のビーズ玉である。平成3年度のA'地区との境界から出土した。  
(田口 尚)

#### (4) 金属製品 (図VI-6・8、表VI-3、図版251-1、カラー図版13-1)

金属製品は、平成3年度のA'地区との境界から出土するものが多い。

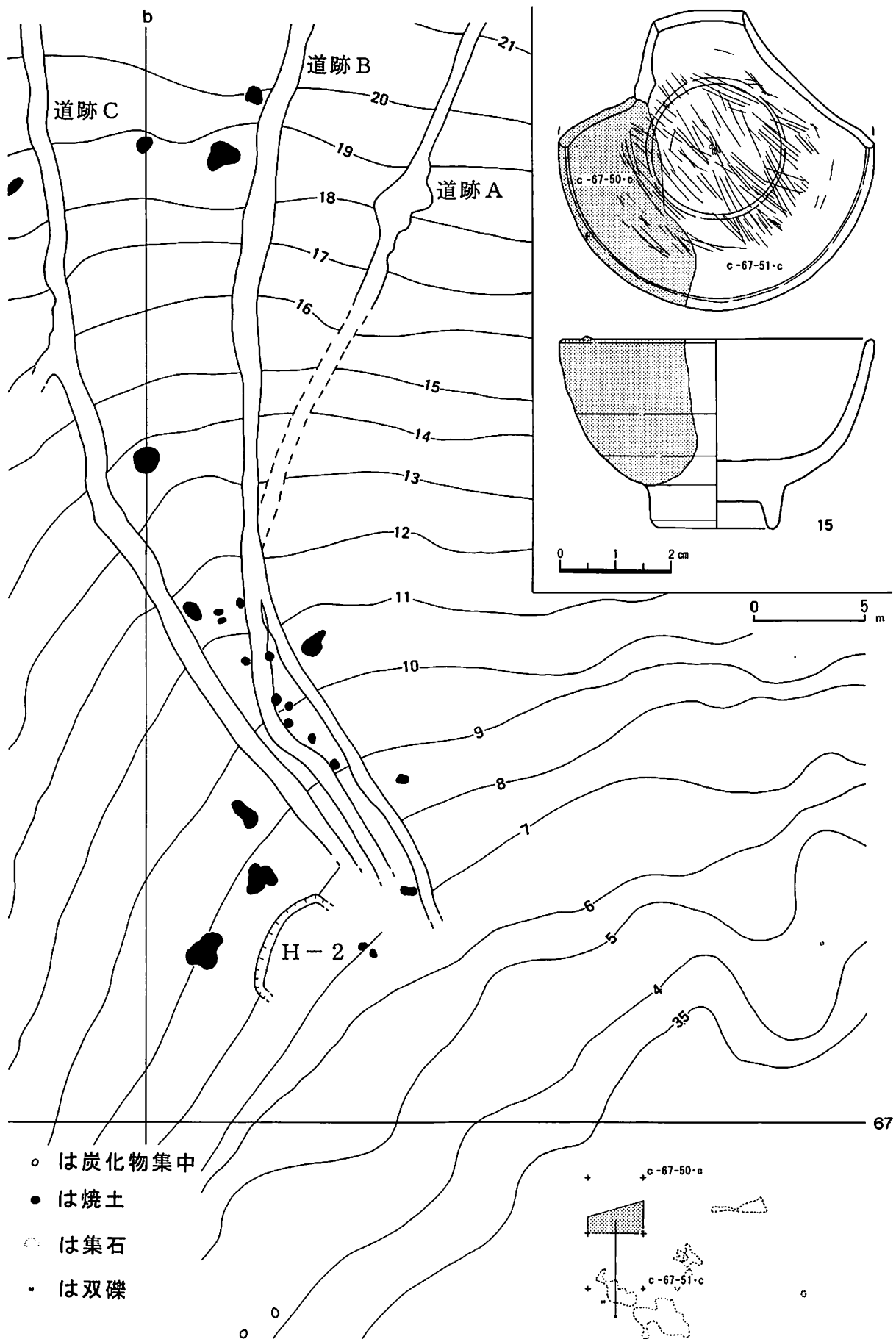
鉄鍋片(187・188): いずれも胴部の小破片である。錆等の腐食が著しく、鉄分が溶脱しており結晶状にひび割れている。

平カスガイ片(189・190): 189はやや細長い形態であり、先端のわずかに欠損した脚部が「ハ」の字に開いている。190の断面は肉厚であり、上面観は側縁部のつぶれによりわずかに内湾している。左側は脚部の先端を欠損しており、右側は胴部から欠損している。火打金に転用された可能性もある。



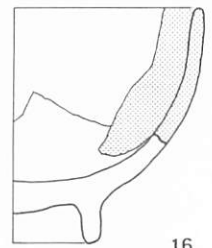
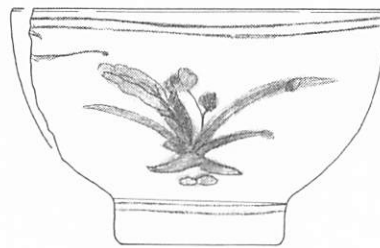
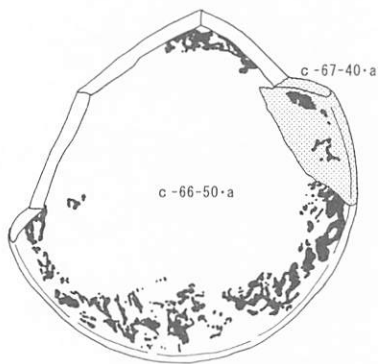
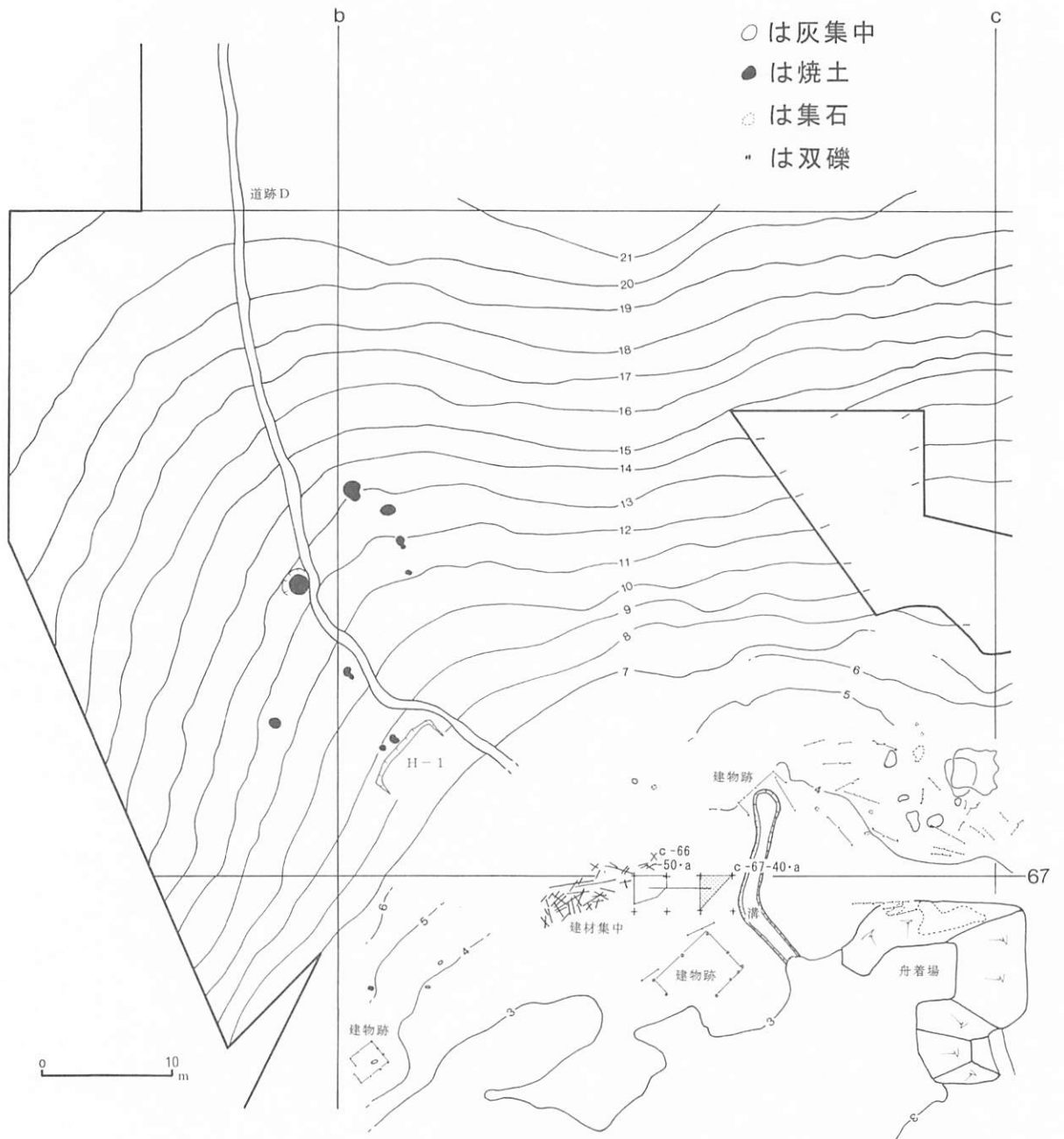
- は炭化物集中  
● は焼土  
○ は集石  
.. は双磔

図VI-1 重機部1



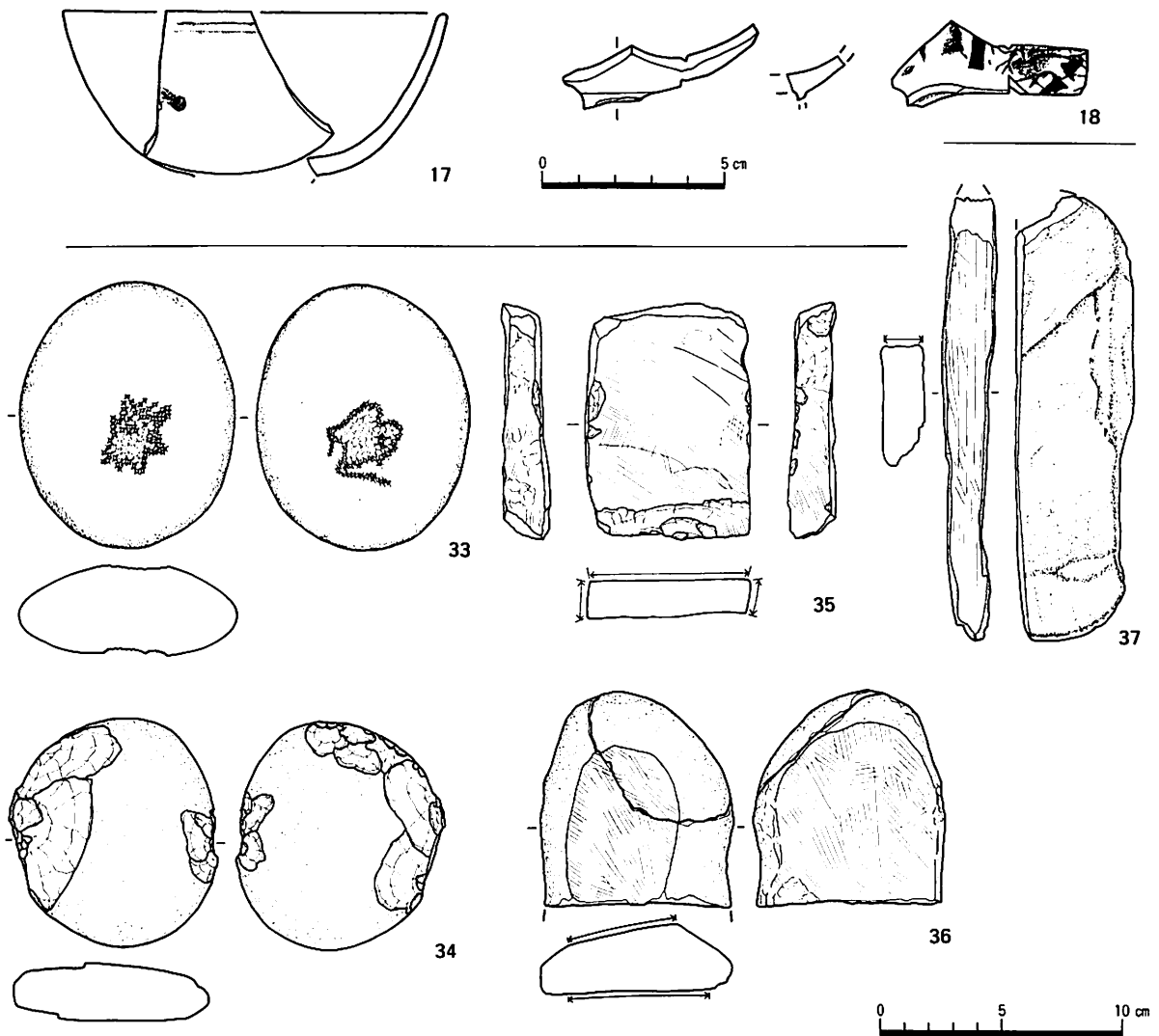
- は炭化物集中
- は焼土
- (虚線) は集石
- は双磔

図VI-2 陶磁器 2



図VI-3 陶磁器3





図VI-4 陶磁器、石器・石製品

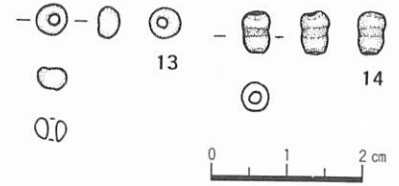
表VI-1 重機調査掲載遺物一覧

図番号	遺物名称	主な発掘区	点数	備考
14	陶器擂鉢	b-65-08-d,c-6674-d, c-67-50-c	32	珠洲 口径約40.5cm 器高約18.2cm
15	青磁碗	c-67-50-c,c-67-51-c	2	中国製 口径11.4cm 器高6.8cm
16	染付碗	c-66-50-a,c-67-40-a	3	伊万里 口径9.4cm 器高6.4cm
17	染付碗	c-66-49-c	1	伊万里
18	染付小碗	d-67-83-d	2	不明
33	くぼみ石	c-97-50-c	1	片麻岩 長さ10.80cm、幅8.75cm、厚さ3.76cm、重さ535.0g
34	石錘	c-66-49-c	1	砂岩 長さ9.30cm、幅8.43cm、厚さ2.42cm、重さ268.9g
35	砥石	d-67-84-d	1	凝灰岩 長さ9.64cm、幅6.62cm、厚さ1.96cm、重さ147.4g
36	砥石	d-67-83-b	2	凝灰岩 長さ8.67cm、幅8.01cm、厚さ3.01cm、重さ266.8g
37	砥石	d-67-64-c	1	凝灰岩 長さ18.70cm、幅4.94cm、厚さ1.92cm、重さ188.0g

VI 重機 (クラムシェル) 調査

弧状角棒片 (191) : 断面が方形で、両端部を欠損した湾曲する棒状の製品である。左右から叩いて整形した痕跡があり、上部の断面がやや長方形となっている。魚突鉤鈔 (マレツ) あるいは魚引掛鈔 (アッ) の破損品の可能性がある。

銅製指輪 (192) : 細い銅板を環状に加工した指輪あるいは指貫と考えられる。表には細かな刻みの付けられた巴文風の文様が左右に彫金され、銅板の縁にそって細い線刻と短刻で輪郭を



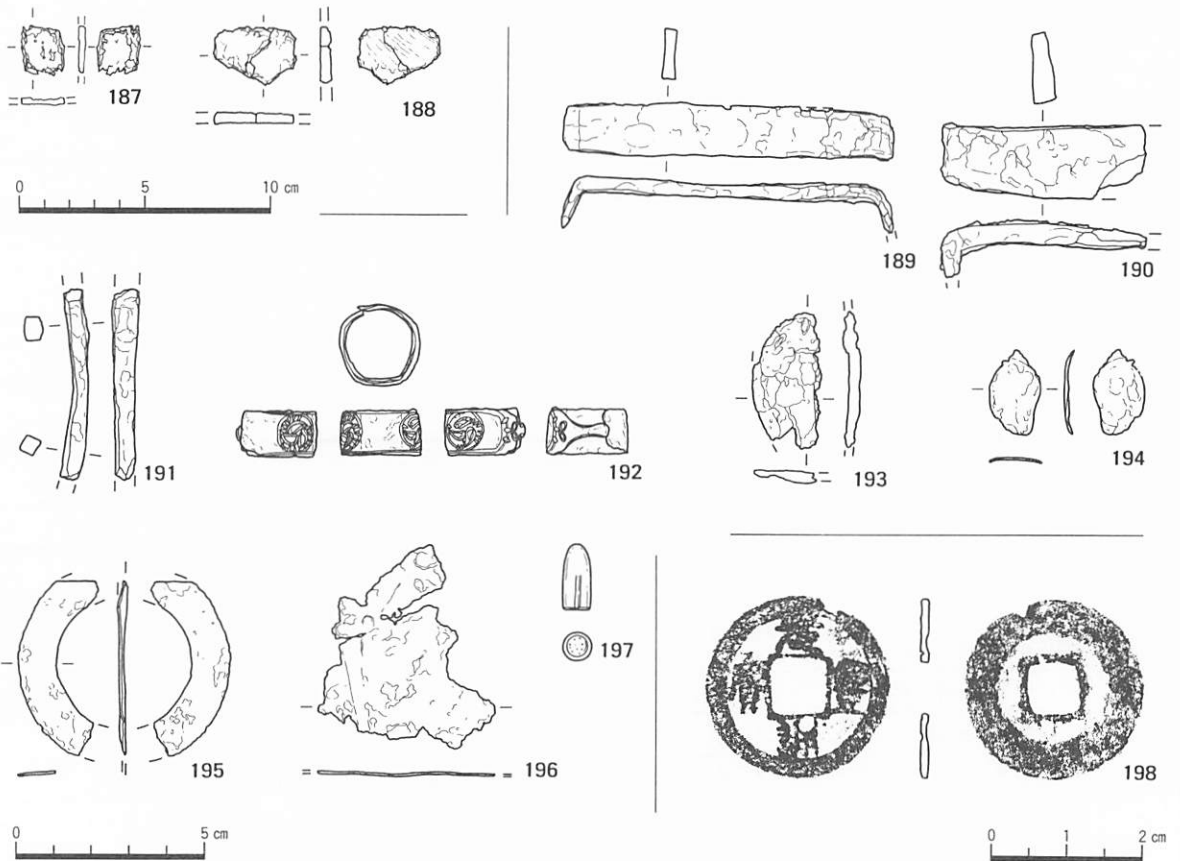
図VI-5 ガラス製品

表VI-2 重機調査掲載ガラス製品

図番号	図版番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個数	破数	備考
13	250	ガラス玉	c-67-51-d	6015		0.40 0.38 0.28	0.1	1	1	緑色。ビーズ玉。材質分析中。
14	250	ガラス玉	c-66-49-c	7190		0.39 0.38 0.55	0.1	1	1	緑色。ビーズ玉。材質分析中。

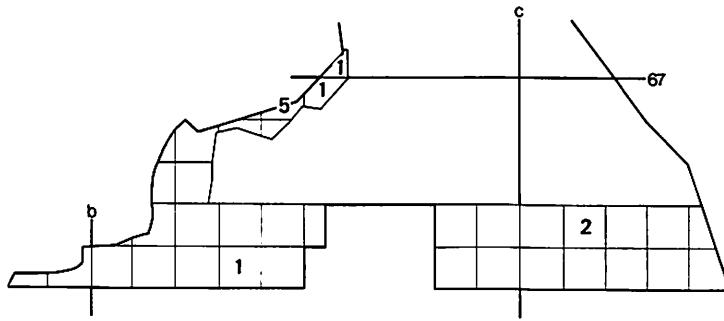
表VI-3 重機調査掲載金属製品

図番号	図版番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個数	破数	備考	保存処理
187	251	鉄鍋片	胴部	c-67-40-c	104		( 1.90 ) ( 1.70 ) 0.50	( 1.0 )	鉄	1	1	[ス]	NAD10
188	251	鉄鍋片	胴部	c-67-60-b	108		( 2.30 ) ( 3.30 ) 0.48	( 3.8 )	鉄	1	1	[ス]	NAD10
189	251	平鏝片		c-67-50-c	98		9.80 1.43 ( 1.40 )	( 14.0 )	鉄	1	1		NAD10
190	251	平鏝片		c-67-50-c	107		( 5.50 ) 1.93 ( 1.54 )	( 10.1 )	鉄	1	2	2点接合。	NAD10
191	251	弧状角棒片		c-67-40-d	103		( 6.05 ) 0.60 0.75	( 4.1 )	鉄	1	1	魚突鉤鈔 [マレツ] の可能性あり。	NAD10
192	251	銅指輪		c-67-50-c	106		2.18 1.20 2.15	6.0	銅	1	1	巴状の文様あり。	インクラック
193	251	銅板片		c-67-40-a	102		( 3.60 ) ( 1.86 ) 0.55	( 3.2 )	銅	1	1		インクラック
194	251	銅板片		d-67-63-d	110		2.22 1.38 0.26	0.4	銅	1	1	飾り板?	インクラック
195	251	環状銅板片		d-67-74-a	109		( 4.65 ) 2.14 0.08	( 2.5 )	銅	1	1		インクラック
196	251	鉄板片		d-67-94-a	230		( 5.40 ) ( 4.70 ) 0.05	( 2.9 )	鉄	1	1		インクラック
197	251	彈丸		c-67-40-a	218		1.72 0.76 0.76	6.9	銅 鉛	1	1		インクラック
198	251	元豊通宝		c-67-51-d	105		2.42 2.42 0.11	3.2	銅	1	1	北宋 1078年初鑄。	インクラック

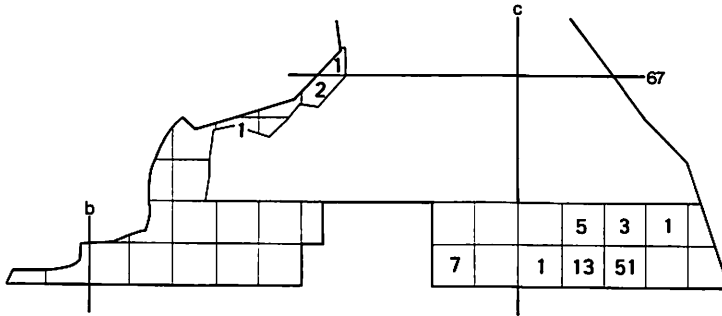


図VI-6 金属製品

陶磁器



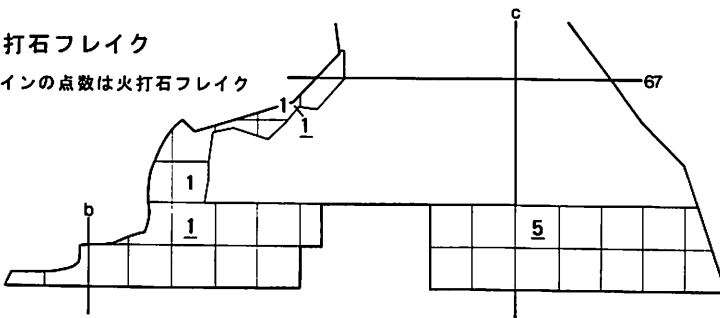
擦文土器



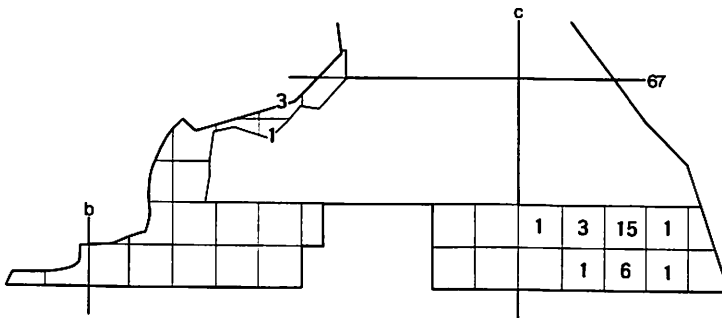
縄文土器：c-66-49(1点)  
 c-67-61(1点)  
 c-67-72(2点)  
 c-67-84(1点)

火打石・火打石フレイク

アンダーラインの点数は火打石フレイク

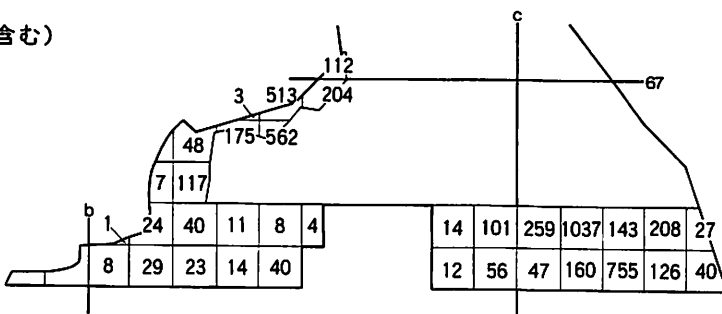


砥石



たたき石：c-67-51(1点)  
 くぼみ石：c-67-50(1点)  
 石 鐘：c-66-49(1点)  
 石 皿：d-67-84(1点)  
 フレイク：d-67-84(1点)  
 Uフレイク：d-67-93(1点)

礫(礫片を含む)



図VI-7 重機調査の陶磁器・石器・石製品分布図

VI 重機 (クラムシェル) 調査

開っている。裏面の一端は細長く加工され、挿入が容易となるように弾性をもたせるように工夫している。

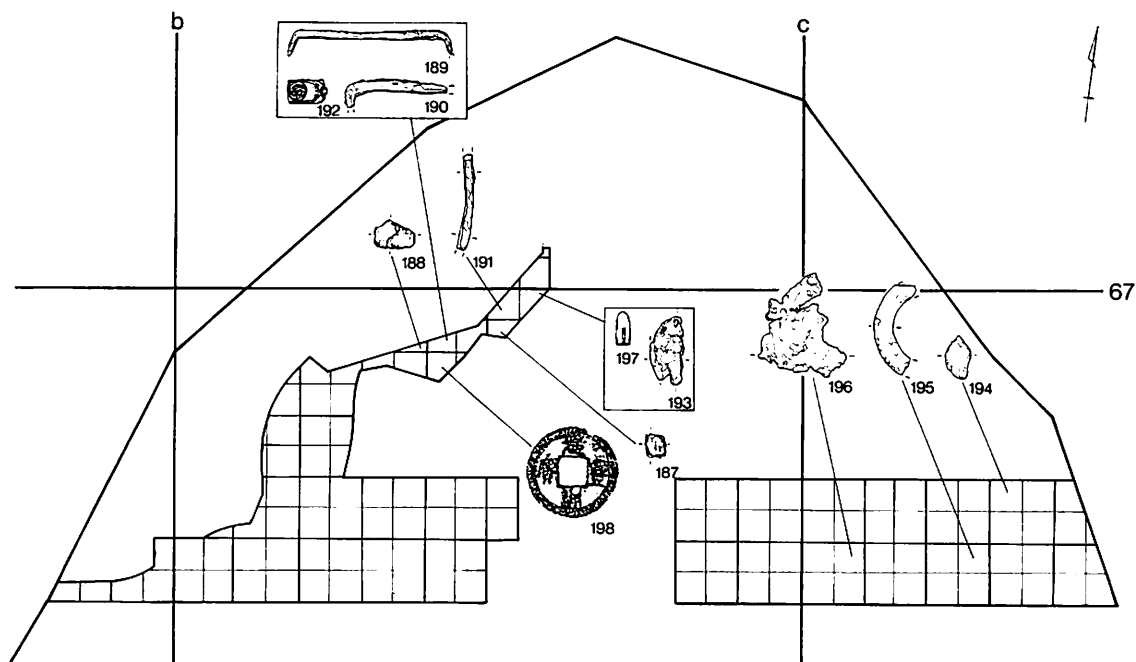
銅板片 (193・194) : 193はやや厚い板状であり、腐食が著しい。194は薄い凸に湾曲したものであり、刀子や小刀の柄等に像嵌する飾り板であろうか。

環状銅板片 (195) : 薄いドーナツ形の板が欠損したものである。

鉄板片 (196) : 極薄い板状のものである。

弾丸 (197) : 径0.67mmの弾丸である。在留アメリカ軍が演習時に使用したものであろうか。

元豊通宝 (198) : 篆書体鑄る。北宋 1078年初鑄。 (田口 尚)



図VI-8 重機調査の金属製品分布図

## (5) 木製品・樹皮製品・繊維製品 (図VI-9~75、表VI-4~18、図版252~301、カラー図版11)

クラムシェル調査の木製品分布(付図1~20)は、H地区(図II-2)中央部のc-67-03・04、c-67-83・84、c-67-93・94等に集中する。遺物はI B~0 B層を含む土壌から採取されたものであることから、出土層位を人力調査と直接比較できないが、遺跡が南東の斜面下に沿って広がっていたことは分布図からも明らかである。製品では櫂、車權受台部等の舟部材、回転式離頭鋸、魚突鉤鋸等の漁撈具がここから多数出土している。この付近は本遺跡の中でも平坦な部分が多く、漁撈に伴う作業場や0 B層で発見された舟着場よりも古い段階のものが存在していた可能性もある。

## 交通具

## 舟部材(1794~1857)

舳(艫)(1794~1796):すべて丸木舟の舳を舟底の立上り部分で切断したものである。いずれも腐朽・摩耗が著しい。1794は両舷側を欠損しており、舳先端は角形の庇状に張り出している。舳先上面と舟内部との境目は舷側と同じ高さで凸状に盛り上がっている。水が内部に侵入するのを防ぐ構造と考えられる。舳先端にはそれぞれ4.8×3.8cm、3.6×3.0cmの角孔が穿たれている。樹心が僅かに舟底よりとなるように横木取りされている。樹種はオニグルミ属である。1795は右舷側板の立上りが僅かに残っており、舳先端は角形の庇状に張り出すが1794よりも短い。舳先上面の凸状の盛り上がりはない。舳先端には2カ所に角孔が存在したと推定されるが、破損により2.8×1.9cm程の角孔しか残存しない。樹種はヤナギ属である。1794・1795の角孔は舳網などを通すための孔、または木幣(イナウ)を挿すための孔であろう。1796は舳先端の庇状の張り出しが短い。前2点に比べて上面の平坦部の幅が広く、舟体が厚い構造となっている。木口面の年輪が乱れていることから、枝別れ部か根(元)に近い部分と考えられる。舳先ではなく艫の可能性もある。

舟部材(1798~1804):舟部材の可能性のあるものを取りまとめた。1798は中央に溝状の抉りがあり、両側端に向かって細く加工されている。1799は上部の立ち上がる舳先状の刳物である。舳先等を転用して刳物容器やコネ鉢としたのであろうか。1800は上部に大孔が穿たれたものであり、孔の周縁は摩耗している。網などが通されていたのであろう。1801は中央部に斜めの孔が穿たれた厚板材である。右端には溝状の抉りがある。和舟等のトコ(床)部であろうか。1802は半割材の先端部を斜めに削りだし、下側に凹みが残存する。1803の角材には角形の抉りがある。1804は下端部の欠損した半割材で、上面に角形の大小の凹みが2カ所ある。上部端に向かって薄く加工されている。

板綴舟舷側板(1797・1805~1807):1797は舟底部の丸木舟の右舷側板であり、舳先に近い部分である。角孔痕が認められる。1805は厚板材の水平位置に角孔が2カ所、右垂直方向に角孔が2カ所認められる。1806は4カ所の角孔が確認できる。1807は大型の板材であり、上部の角孔は水平に等間隔に並んでいる。孔には縄や樹皮などの結束による潰れや摩耗が認められる。

車權受台部(1808~1829):1808~1815は枝利用式である。1808の片側は屈曲しており、抉りが2カ所にある。1811の軸部は左側に寄っている。1812・1813は一方の抉り部を欠損している。1812の裏側平坦面の削りは抉り部付近のみである。1809・1814・1815は表裏を面取りし、角形の断面となっている。1814・1815は両端の抉り部を欠損している。1816~1822は角孔が穿たれた角軸差込式である。1816の右側には切断過程の切痕が見られ、中央部が炭化している。1817・1819・1821は両端部を破損している。1818は抉り部が切断され、角孔部から片側一方を破損している。1820・1822は角孔部から破損している。1823は丸軸差込式であり、丸孔から破損している。1824~1829は抉り部側の破片である。1828・1829の抉り部は破損している。1824~1836は車權受台部の抉り部破片である。

**車權受台部・軸（1830～1838）**：1830～1835・1837は角軸差込式の角軸部である。1836は丸軸差込式の丸軸部である。いずれも頭部直下が車權の回転運動により、摩耗し僅かに括れている。1831・1832は角形の貫孔が穿たれている。1831は軸を破損している。1832は貫孔から上部を欠損している。1833・1834は頭部に楔を打ち込んだものである。1833には楔が残存している。1834は楔の痕跡が残り、縦に割裂けている。1837は加工がやや粗く、頭部を両面から削り出して籠状としており、土掘棒の可能性もある。1838は頭部を欠損した軸部のみの破片である。

#### 舟用具（1839～1857）

**車權（1839～1846）**：1839には大小の軸孔が2カ所に穿たれている。これまでの2孔式とは異なり、上部の軸孔が摩耗により拡大して不安定となったために、新たな軸孔を設けた可能性がある。全体は軸孔周辺で緩やかに膨らみ、上部軸孔部が最大幅となっている。水掻部は柁目、軸柄（部）では板目に木取りされている。1840～1843・1845は柄部片である。1840・1841には軸孔部が認められる。1844・1846は水掻部片である。1846の断面形は凸レンズ状であり、背合わせの二重半円が彫刻されている。1845・1846は同一個体の可能性がある。

**早權（1847～1854・1856）**：1847・1848は早權片である。1847の肩部は水掻部に向かって緩やかに幅を増し、水掻部の先端が尖る形態である。1848は肩部のやや張り出す形態である。1849・1850は肩部片である。1849の柄部は腐朽・摩耗のために細く尖っている。肩部は張り出している。1850の肩部は明確ではなく、水掻部に向かって緩やかに幅を増す。1851～1854は水掻部片である。1851は水掻部の幅が先端まで同幅で、先端が丸い凸形である。1852は先端方向にすぼまり、先端部の幅が狭い。1853は先端が尖った切断品である。1854・1856は柄（軸）部片である。1854は上部側の断面が角形であり、水掻部側が切断されたものと考えられる。1856は下方の水掻部に向かって僅かに幅広となる。

**舟棹（1855）**：河床に突き立てたときの摩耗や潰れと考えられる痕跡が上端部に認められる。

**あか汲み（1857）**：僅かに湾曲したチリトリ形のものであり、左側板のみが残存するものである。上部の器厚が厚く、一木造りのものであろう。

#### 漁撈具（1858～1896）

**回転式離頭銚中柄部（1858～1881）**：回転式離頭銚中柄部は1本式（1858～1872）と2本組式（1873～1881）に分けられる。いずれも基部に柄（棹）部と接合するための平坦面が作出され、樹皮や紐で結び留めるための帯状の袢りや短刻列等が作出されている。1858・1863は紐等を巻留めて棹部と固定するため短刻が刻まれたものである。1859には紐を巻留める帯状の袢りが2カ所ある。回転式離頭銚中柄部の先端部には離頭銚先を挿入した潰れや摩耗の痕跡を残すもの（1860・1863・1864・1867・1871・1877）、使用によって先端部が折損したと考えられるもの（1858・1861・1863・1865・1866）がある。いずれも実用品として銚先を装着して、漁猟に使用した痕跡である。1867～1871は基部を欠損している。1872・1877・1878～1881は先端部を欠損した基部破片である。

**回転式離頭銚指掛部（1882）**：内部は髓を削り抜いて円錐台形の空洞となっている。上部は帯状に高く削りだされ、樹皮などが巻締められた痕跡がある。

**回転式離頭銚中柄部ミニチュア（1883・1884）**：いずれも柄と固定するための袢り部をもち、両端部が細長いことからミニチュアとした。衣服のボタン、袋物などの紐留めの可能性もある。

**魚突鉤銚台部（1885～1893・1895・1896）**：出土した魚突鉤銚台部は小型でやや細いものが多い。サケ以外のやや小型魚の捕獲に使用したものであろう。1885はほぼ完形のミニチュアである。棹（柄）

と固定する溝と紐孔等の細部まで作出されている。1886の石突部は使用による摩耗が認められ、基部先端が斜めに削られている。1887は基部を欠損した未製品である。石突部は凸形に削りだされ、鉄鉤溝まで作出しているが、溝上端部の孔がない。1888は溝から石突部までを欠損している。基部には平坦面が作出されず、下端部が矢などの茎部の様に細く削りだされている。中空の柄に挿入して使用したものであろうか。1889は溝の上部に孔を穿っただけで完成する未製品である。1890は紐孔を穿っただけで完成する未製品である。半截した材を削り過ぎた強度的な欠陥から遺棄された可能性がある。1891は拡大図のとおり、溝部分の作成過程の未製品である。裏面にはイトッパが刻まれている。棒状の丸材製品を転用したものである。1895・1896は魚突鉤銛台基部とした。1895は数段の抉りと縛り留めた樹皮の痕跡が顕著である。1896には抉りと平坦面の作出がある。

**魚突鉤銛棹(柄) (1892・1893) :** 1892はコナラ属の丸木材の先端に魚突鉤銛台部を装着するための抉り部とやや平坦な面を作出している。中央部は折れ、下端部は丸く切断されている。1893は1892と同様の材であり、一段細く削られた下端部から割裂けている。図面上の木取りは検証の結果、丸木取りであった。

**回転式離頭銛中柄または魚突鉤銛台基部片 (1894) :** 柄(棹)に装着するための帯状の抉り部と裏面に平坦面が作出されている。回転式離頭銛中柄の場合では1本式の基部と考えられる。

#### 狩猟具 (1897~1913)

**矢中柄・矢(鏃)部 (1897~1905) :** 1897は交差する上下二段の返しが付けられた矢(鏃)片である。銛先片の可能性もある。1898~1900は矢中柄部である。1898・1900は上下方向に細く尖り、基(茎)部は明瞭ではない。1899の上部にはイトッパ状の短刻が廻っている。1900は下方に基部(茎)の削りだしが認められる。1901の断面は角形で、上端部が平坦に加工されている。鳥用?あるいは子供の練習用?であろうか。1902は円錐形の先端部であり、側縁の平坦面に「N」字状のイトッパが刻まれている。鳥用?であろうか。1903の先端部は鋭く加工されており、その断面は菱形である。両側縁にはかえし状の抉りがある。基部は明瞭ではない。1904は粗く鋭く削られた円錐形の先端部であり、両側縁にかえし状の抉りがある。基部は明瞭ではない。1897・1903・1904はかえしの付けられる構造から、漁撈に使用されたものであろうか。1905の先端部は突起状となっており、先端部から下端部に向かって徐々に細くなる。他に比べ細長く、基部は明瞭ではない。表面の傷や腐朽が著しい。

**矢柄部 (1906・1907) :** いずれも両端部を欠損している。極細いサクラ樹皮が巻留められていることから、矢羽根が付けられていた可能性がある。材質は2点ともモミ属であり、形態が酷似することから同一個体の可能性がある。

**矢筈部 (1908・1909) :** 1908は弦掛け部分が「U」字状に抉られた矢筈部片である。1909は大型矢筈部片である。抉り部先端が欠損し、切断されている部分に摩耗痕がある。太い矢柄状のものに挿入して使用したのであろうか。

**弓 (1910) :** 上端部に弓筈状の抉りがあり、中央部が隆起して一段太く削られている。樹種がカエデ属であることから別の製品の可能性もある。

**矢筒翼部 (1911・1912) :** 1911は上下端部を欠損し、炭化している。矢筒と縛り止める孔の痕跡が認められる。中央部側縁には抉りがある。1912は波状に加工されており、上下端を欠損している。

**抉付Y字状製品 (1913) :** 「Y」字状の両端部に抉りがあり、仕掛弓台などを固定したのであろうか。

### 切截具（1914～1926）

小刀柄（1914・1915・1917・1919～1922）：直線的な柄となるもの（1914・1915・1919）と柄頭が湾曲するもの（1920・1921・1922）がある。1914の断面は楕円形で、並行な直線列と鎖状の彫刻が全面に施されている。柄頭には縦方向に紐通し用の孔が貫通している。1915の断面は長方形で、小縁から刃方にかけて滑り止め用の段状の抉りが6連付けられている。1917は細長い柄で、柄頭が斜めに切り出されている。1918は山刀柄の柄頭の突起部であろうか。1919は2枚の柄板を柄頭部で結束固定したものであろうか。1920の断面は楕円形で、柄頭側は握り固定のために抉りを入れ、曲線的となっている。表面には線刻が並行に廻り、それを繋ぐように茎挿入用のスリットが刻まれている。ここに樹皮などが巻かれていた可能性があり、他と色調が異なっている。1921は柄縁に抉りがあり、茎挿入用のスリットが刻まれている。柄頭は角形に加工され、紐孔が貫通している。1922は未製品であり、小口側が篋状に削りだされ、柄頭は湾曲している。

刀（1916）：断面は楕円形で柄頭がやや大きく丸形に加工されている。柄縁には樹皮の巻かれた痕跡があり、目釘が残存している。山刀柄の可能性もある。

山刀（1918）：山刀柄の柄頭下部に付けられる突起部であろうか。

山刀鞘（1923～1925）：腐朽・摩耗が著しいが、二枚合わせの木製鞘片と考えられる。樹皮を縫うように固定した帯状の溝と角孔が認められる。

小刀樹皮製鞘（1926）：突起部を付けたシラカバ樹皮を重ねて、折りたたんで縫合する構造である。孔は13ヵ所確認でき、鞘口側は炭化している。

### 採集具（1927・1928）

土掘棒（1927・1928）：いずれの先端部にも潰れや摩耗が認められる。1927は上部の切断された角材の先端部を表裏から篋状に粗く削っている。1928は楕円材の先端部を篋状に粗く削っている。

### 工具（1929～1939）

縦槌（1929～1937）：枝利用式（1929～1934）、柄孔式（1936～1937）があり、柄孔式に似るが、角孔が貫通していない柄差込式（1935）もある。枝利用式は頭部に対して柄が斜めのもの（1929～1932・1934）と垂直なもの（1933）とがある。いずれも打面に使用による潰れが認められる。1933は頭部の上半分を欠損している。1935・1937には折れた柄が残存している。

鉄斧柄（1939）：鉄斧に挿入される部分を幅広の角形に加工した柄である。断面は楕円形で、上部には楔の打ち込みにより割裂けている。部分的に作業台にしたような刃物痕が多数見られる。

### 農耕・工具（1938～1944）

横槌（1938・1940～1943）：細くて長い形態のEタイプ（1940～1943）と敲打部と柄部の境界が鮮明な形態のGタイプ（1938）がある。1938は敲打部を欠損しているが、魚叩棒のような棍棒状の柄である。柄部末端には隆帯がある。1940の敲打部先端は斜めの潰れがある。1941の敲打部には叩き痕が顕著である。1942の敲打部の断面は長方形で表面が炭化し、裏面には刃物の打痕が顕著である。1943は敲打部の先端を欠損している。柄部の肩が摩耗しており堅杵片の可能性もある。

堅杵（1944）：柄部の一部と上部搗部を欠損している。下部搗部の搗き面は丸い凸形となっており、潰れや摩耗が見られる。



### 発火具・炉鉤 (1945～1953)

**発火具 (1945～1949)** : 1945～1948はヒキリ板片であり、1949はヒキリ棒である。1945は「V」字刻みやヒキリウスが鮮明である。ウスが6カ所確認できる。1946の周縁は摩耗しているが6カ所のウス、1947には1カ所のウスが確認できる。1948には1カ所のウスがあり、周縁が炭化している。樹種はすべてニレ属である。1949の炭化面は鮮明で、円錐台形となっている。

**炉鉤 (1950～1953)** : 下部が焦げているものはないが、鉤部の形態から炉鉤として扱った。ただし、器具等を吊り下げるための鉤形フックの可能性もある。1950は鉤状の製品破片である。自在鉤(炉鉤)の一部であろうか。1951・1953は鉤部の作出が良く似ている。1953の上部には節目があり、ここに紐等を縛りつけたと考えられる。1952は粗い加工だけの未製品であろう。

### 容器類 (1954～1989)

**桶・樽 (1955～1960)** : 1954は桶底板片、1955～1957は樽栓である。1958～1960は樽側板である。1960の内面加工は顕著で、表面には箍痕跡が見られる。上下端にはネズミ等の歯痕が顕著である。

**曲げ物 (1961～1972)** : 1961・1962は桶の把手である。1963～1970は側板片である。1971・1972は底板である。1963・1965・1967～1969には側板を綴じたサクラ樹皮が縫い込まれている。1964～1969には曲げ加工のための罫引線が引かれている。1967・1969は縁辺部に小孔が確認でき、底板を木釘で固定したクレ底のものである。1971・1972はいずれも側面に3カ所の木釘孔があるクレ底である。

**箱物 (1973～1975・1981)** : 1973はサクラ樹皮で補修した折敷の底板である。1974は木釘の残存する折敷などの側板である。1975は漆塗箱物の底板または蓋板である。表面には生漆が塗られ、まな板として使用したかのように刃物傷が多数見られる。1981は漆塗箱物の蓋板片である。表面は黒漆地に赤漆が塗られ、裏面は黒漆塗りである。

**割物 (1976～1980・1989)** : 1976～1978は盆状容器片である。いずれも口縁部の立ち上りのない皿状の形態である。1976の底部には補修孔が見られる。1977には口縁部の形態にそって刻線が彫刻されている。1979・1980は腐朽・摩耗が著しい。1979はやや厚い盆状容器の底部である。1980は側縁が大きく立ち上がる形態である。1989は白木浅鉢片であり、平面形はやや長円形となっている。外底面には2本線のイト、パが刻まれている。

**漆塗椀 (1983～1987・1988)** : 1982～1983は口縁部破片である。1984・1985は胴部破片である。1986・1987は深く抉られたやや高い高台の付く底部破片である。1988は口縁部から底部までの半損した接合破片である。1982の外面の漆膜は剥がれており、内面全面には黒漆地に朱漆が塗られている。1983・1984は内外面とも黒漆地に朱漆が塗られている。1985の外面には黒漆地に赤漆で草花文?が描かれ、内面全面には黒漆地に赤漆が塗られている。1986の内面には黒漆地に赤漆が塗られ、外面から底面には黒漆が塗られている。1987は内面に赤漆が塗られ、外面から底面にかけて黒漆が塗られている。1988の内面全面には黒漆地に赤漆が塗られ、外面には黒漆が塗られている。

### 食用具 (1990～2019)

**杓子 (1990・1991)** : 1990は頭部を欠損した曲げ物杓子の柄部と考えられる。柄端部の四角形の張出しには「V」字のイト、パ?が刻まれている。1991は杓子の未製品であり、頭部は削られていない。柄部と頭部先端を欠損している。

**篋 (1992～1999)** : 篋状の形態のものを取りまとめた。形態には①篋部と柄部が肩の張出しにより明瞭に区分できるもの(1992)、②柄部から篋先に向かって徐々に幅広になるもの(1993・1995)、③

篋部と柄部が明瞭に区分できないもの(1998)等がある。④柄部と篋部の幅がほとんど同じで篋先のみが薄く加工されているもの(1999)等がある。1992は完形品であり、肩が張出し両側縁部に刻みが付けられている。1993は上端部から篋先まで徐々に幅広となる。1994は輪郭を線刻で縁取りした、篋の柄端部片である。紐通しの孔が穿たれている。1995は上部側縁に抉りのある撥形である。幅の細い方が薄く加工されている。1996・1997は柄部を欠損した篋片である。1998は僅かに肩が張出す早權に似た形態であり、篋先を欠損している。1999は篋先周辺のみが薄く削りだされている。

**箸状製品（2000～2007）**：2000は両口箸の箸先片であり、イトッパ状の2本組の短刻がある。両先端部は平らか或いは丸形である。2001～2004は所謂両口箸で、胴部を太くして両端に向かって徐々に細く削ったものである。2005～2007は所謂片口箸で基部が太く、先端部に向かって細く削り出したものである。先端部は平らか或いは丸形で、基部は斜め、山形、平坦等に加工されている。2006・2007にはイトッパ状の斜めの短刻がある。両口箸はヒノキ・アスナロ属等の針葉樹であり、片口箸はアジサイ属である。

**串状製品（2008～2019）**：串状としたものの先端部が鋭く尖っている。2008～2011の断面は三角形である。2012・2013の断面は角形である。2014・2015の断面は角形で平たい。2016は断面が半円形の割串である。2017～2019はタケ・ササを割り裂いた串である。2015は両端に先端部がある。

#### 歩行具（2020・2021）

**カンジキ（2020・2021）**：短輪型の瓢箪形カンジキの内側に差し込まれる横軸である。両端が鉛筆の先端様に削り出されている。

#### 紡織編具（2022・2023）

2022は両端部を欠損した編物のケタと考えられる。断面は菱形であり、側縁部には刻目列がほぼ等間隔に並ぶ。刻みには経糸の糸ずれが確認できる。2023の断面は上部の丸い雫形で、下部に細かな刻目列がほぼ等間隔に並ぶ。魚網等の製作に使用されたのであろうか。

#### 装身具（2024～2028）

すべて挽歯式の横櫛であり、半円形の両端を切り落した形態である。2024は半損しており、背の断面が山形となっている。2025はほぼ完形品で背の断面が丸い。2024・2025は精巧な作りで表面が平滑である。2026～2028は歯を欠損している。2024・2025の背と歯の根元までの幅は2026～2028と比べて狭い。2026・2028は、2024・2025と比べ歯と歯の間が広く挽き出され、歯厚も厚く粗い作りである。材質は一般的なイスノキである。

#### 祭祀・儀礼具（2029～2037）

**花矢（2029～2031）**：2029は先端に小突起が付けられ、上下に短刻が廻る。2030は小突起の下に短刻が廻っている。2031は長い突起が付けられ、明瞭な基部が作出されている。削花や赤布は確認できない。黒色の彩色も不明である。

**捧酒箸〔篋〕（2032～2037）**：2032～2034の基部は山形或いは丸形に加工されている。2033・2034の中央は平坦に削られ、線刻や短刻のイトッパが刻まれている。2034の先端は舌状に削られている。2032・2033は幅が細く、飾り串の可能性もある。2035～2037はイトッパなどが見られないものである。いずれも裏面のバルンベが見られない。

## 各種加工材(2038~2042)

2038・2039は環状製品である。側面観は稜のある潰れた算盤玉形であり、2038は2/3を欠損している。2040は「H」字形の板材である。いずれも紐や縄の留め具であろうか。2041は孔の穿たれた板材の表面に巴文状の彫刻があるもので、側縁にも短刻列が刻まれている。2042は表裏に3本組の曲線的な「V」字形が線刻されたものである。

## 各種用具の部品や素材等(2043~2115)

軸状製品(2043~2048)：上端部が太く、先端部に向かって細くなる。2043・2048は丸木材のものであり、2044~2047は割材のものである。

楔状製品(2049~2054)：先端部が凸形となるものである。2052の断面は角形である。

ピン状製品(2055~2059)：片側のみに先端部があるもの(2055~2057)と両端部に先端部を持つもの(2058・2059)とに分けられる。2057・2059の先端部は細く削りだされている。

捧酒箸(篋)状製品(2060~2069)：削りかけやイトッパは確認できないが、断面形や先端部加工等の形態から捧酒箸やその素材となりうるものを取りまとめた。

丸材(2070~2073)：2070の表面には3連の「ハ」の字状の文様が刻まれている。2071の上部には炭化部があり、下端部は摩耗・腐朽している。2072・2073は切断されており、2072の表面にはイトッパが刻まれている。

丸木材(2074~2076)：2074の下端部は割裂けたように折れており、表面に3本線が刻まれている。結び束ねられた撚り紐(2129)とともに出土した。2075・2076は両端部を欠損し、粗く表面が加工されている。2076の上部には短刻列が刻まれている。

端部抉入部付角材(2077・2078・2080・2084)：2077・2078は両端部に抉入部が作出されている。2077の中央にはイトッパが刻まれる。2080・2084は頭部のみが円形で、下部は角材となっている。

端部抉入部付丸木材(2079・2081)：2079は抉入部を欠損しており、上部には2段の線刻状に2段の短刻が廻っている。

端部抉付丸材(2082)：上端部は切断され、角形に面取りされた下端部に抉りが付く。

端部抉付角材(2083)：芯もちの丸木材を素材とする角材の上部が左右から角形に抉られている。

端部有孔丸木材(2085・2086・2087・2089・2090)：2085は平坦部を削りだした上部に小孔がある。2086は上端部に角孔がある。2087は上端部に抉入部が作出され、下端部に孔がある。2090は中央に大型の孔があり、上端に抉入部と下端のホゾ先状の加工に角孔が穿たれている。

有孔角材(2091・2092)：2091は両端に角孔が穿孔されている。2092は角孔に貫が残存している。

ホゾ先付有孔丸木材(2088・2094)：2088は貫通孔から上端に向かって浅い溝が彫り込まれており、下端部が炭化している。

ホゾ先付有孔角材(2093・2095)：2093はホゾ先に角孔が穿たれている。2095は上端部に角孔と長方形のホゾが彫り込まれている。

有溝角材(2096)：髓を削り取り、樋状の溝を作出したものである。

杭状製品(2097・2098)：2097は割材を角杭状としたものである。2098は粗く面取り加工した丸杭状製品である。

有孔板材(2099~2104)：角孔は予め片側を掘り込んだ後に、打ち抜いたものが多い。板綴舟の舷側板(棚板)の破片やその再加工品が含まれる。2102は細板材の上部に小孔を穿孔したものである。2104には2対の角孔が穿孔されていた可能性が強い。

## VI 重機（クラムシェル）調査

板材（2105～2113・2115）：2105・2107～2111・2115は厚板材である。2105は上部が山形に切り出されている。2109は手斧による加工痕が表裏に顕著に認められる。2110・2111は同一個体であり、表面にまな板として使用したような刃物痕が多数認められる。2115は両端部を欠損する大型の厚板材である。2106は粗い加工の割板材である。2112・2113は細板材である。2112は上端部を欠損している。2113は上端部の切断されたものである。

角材（2114）：表裏の加工痕が顕著であり、上端部に潰れがあることから、貫板と考えられる。

### 杭・建材等（2116～2118）

建材（2116～2118）：2116・2118は「Y」字状の受部が付く柱材である。2116の「Y」字状の両端部には切断痕が顕著である。2118の下端部には樹皮が残存し、一面のみ削出された杭先状となっている。2117は桁または梁材であり、両端部は杭先状に切り出されている。

### 樹皮製品・結束具（2119～2124）

細带状樹皮巻（2119・2120）：2119は円形材に樹皮を数回巻きつけ、樹皮先端（頭部）を樹皮巻の隙間に挟み込んで固定する頭部差込式である。2120は円形材に樹皮を巻きつけ、予め切り込んであるスリットに、挟り付きの先端（頭部）を差し込んで固定する頭部挿入式である。2120には巻丸材が残存する。

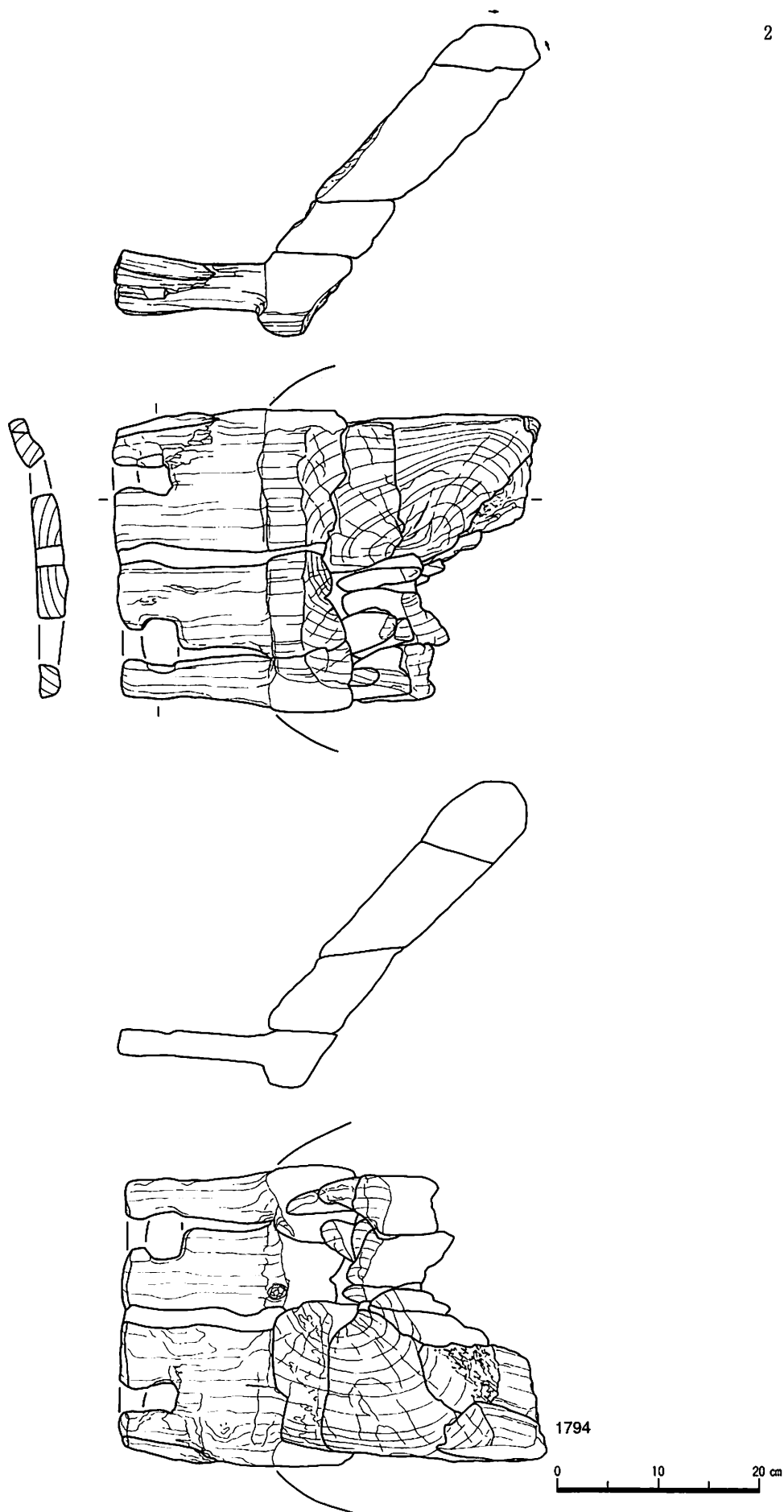
带状樹皮巻（2121・2122）：2121は頭部挿入式のやや幅広の带状樹皮である。2122は带状樹皮を巻き込んだものである。

樹皮板（2123・2124）：厚い樹皮を板状に加工したものである。いずれも両端部を欠損している。

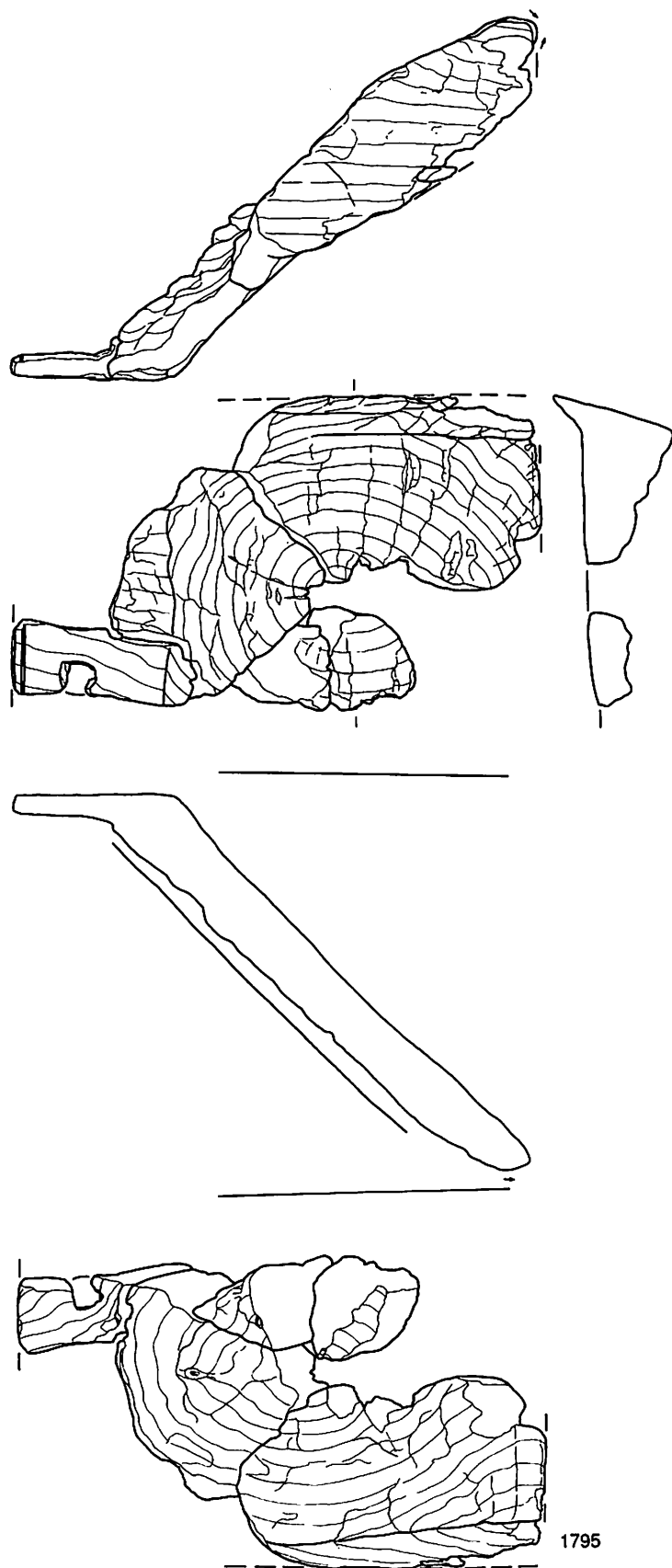
### 繊維製品（2125～2130）

2125～2128は撚り縄である。2125・2126は径2cm前後の3本撚りの太縄片であり、Z撚り（左撚り）である。2127・2128は径0.5cm前後のS撚り（右撚り）の縄である。2127は撚りの緩い2本撚りである。2128は撚りの緩い3本撚りであり、環状に束ねてある。2129は結び束ねられた撚り紐であり、丸木材片（2074）と共伴したものである。部分的にZ撚り（左撚り）となっている部分がある。2130は織物・編物・縄等の素材となる樹木の内樹皮である。繊維がバラバラとなっていない状況から推測して、泥や水に晒していたか、または乾燥のために干竿に掛けられていたものであろう。

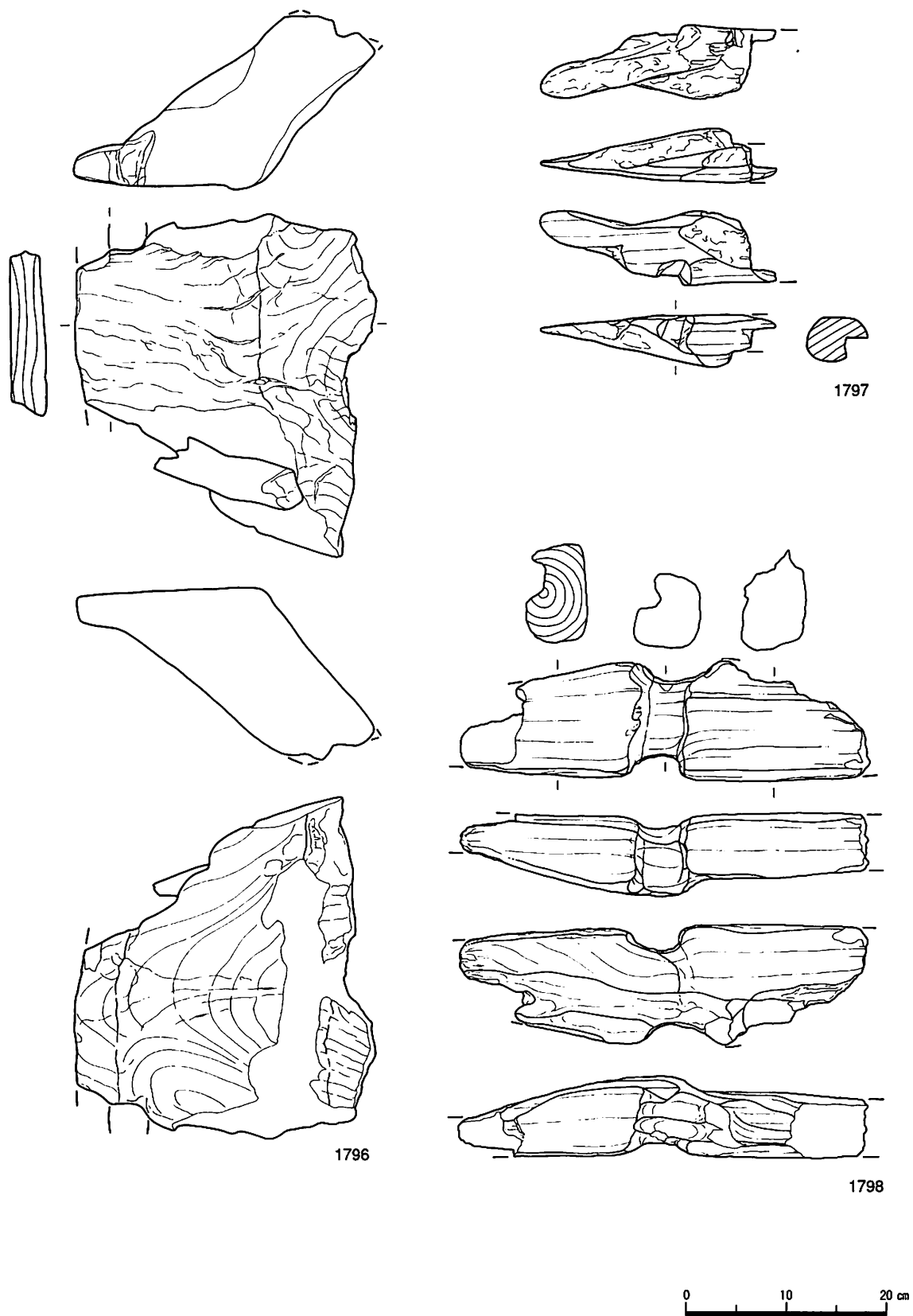
（田口 尚）



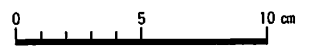
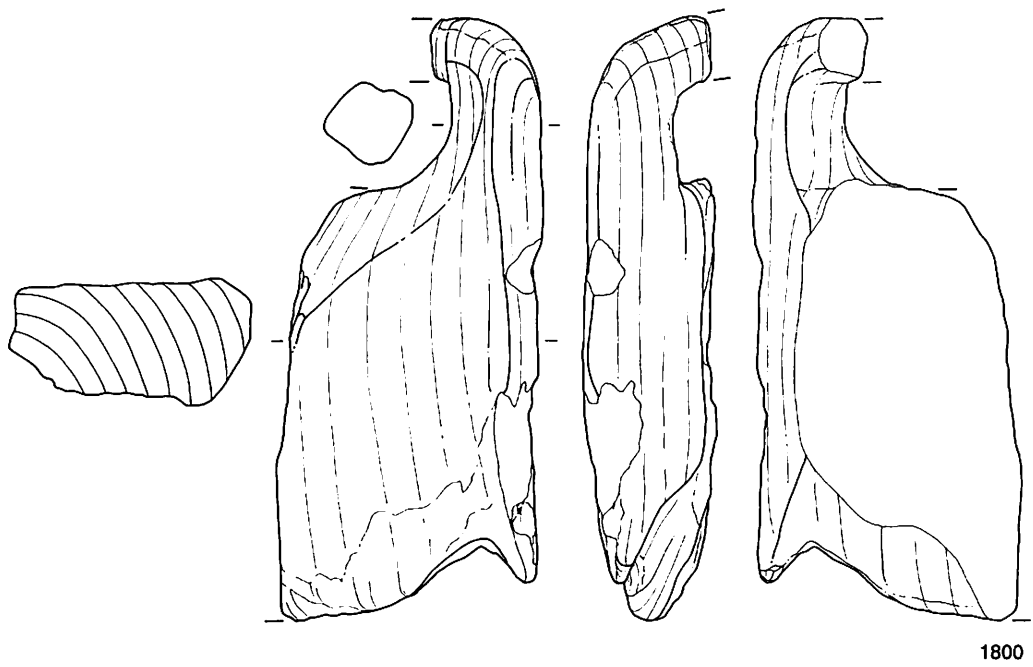
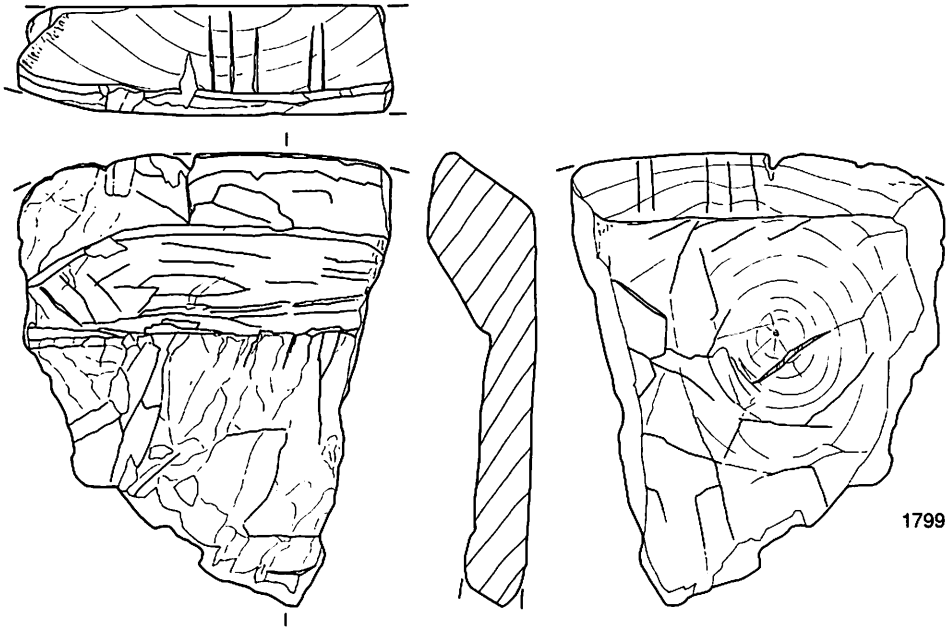
图VI-9 舟部材 1 (轴①)



図VI-10 舟部材 2 (軸②)

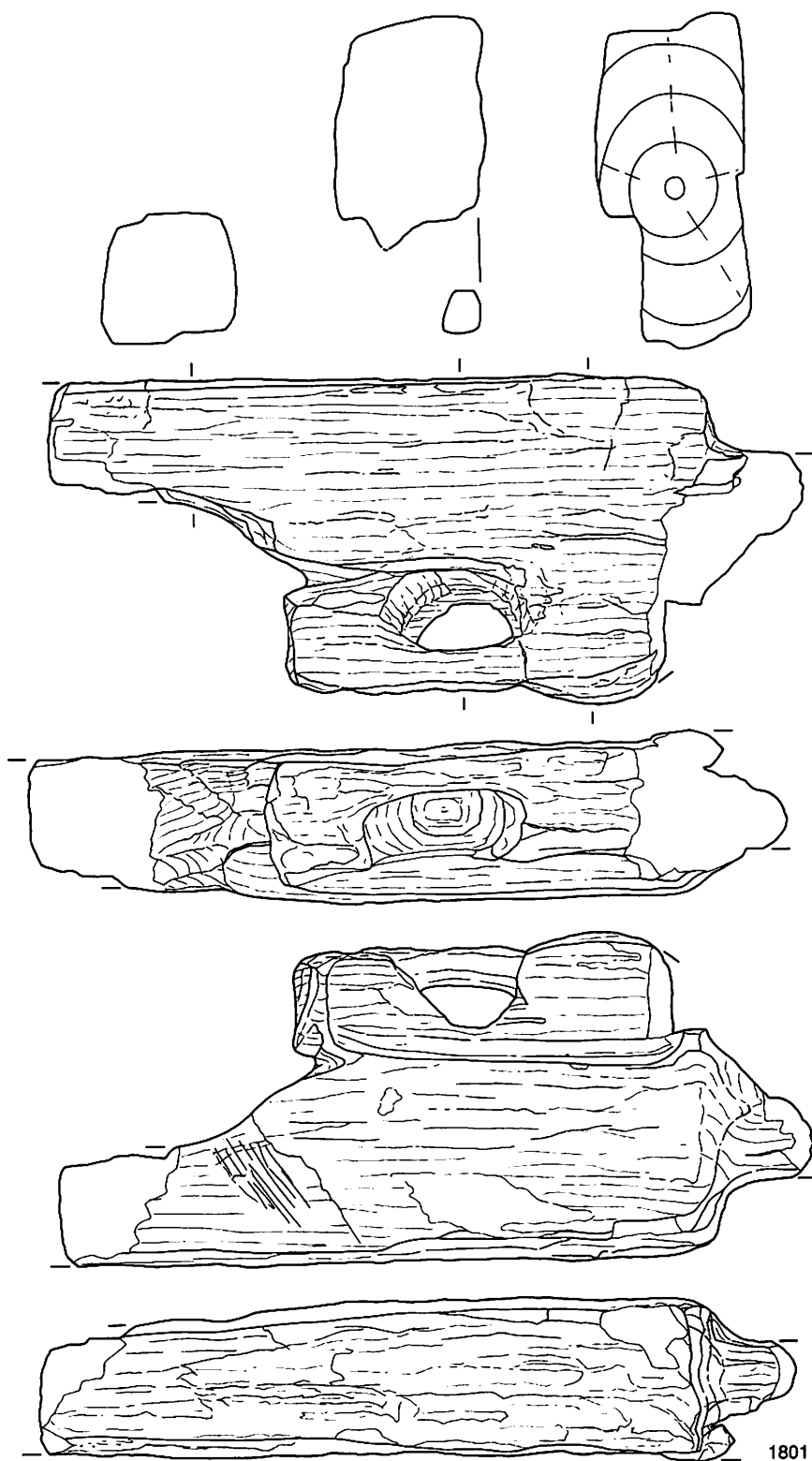


图VI-11 舟部材3 (舳③・舟材①)

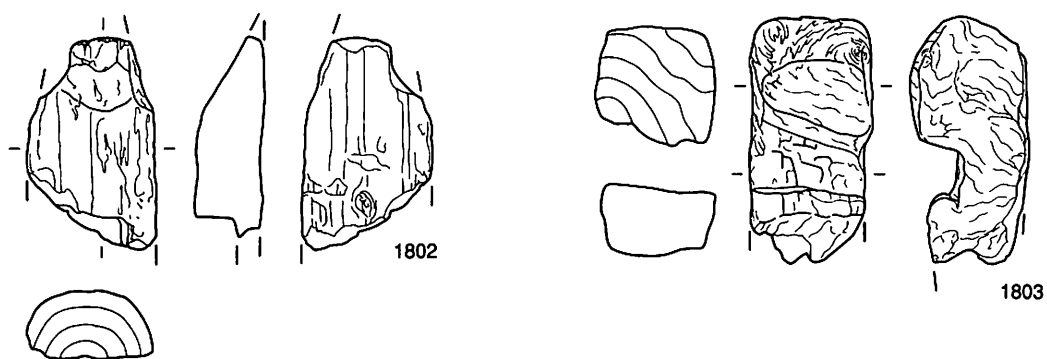


图VI-12 舟部材 4 (舟材②)

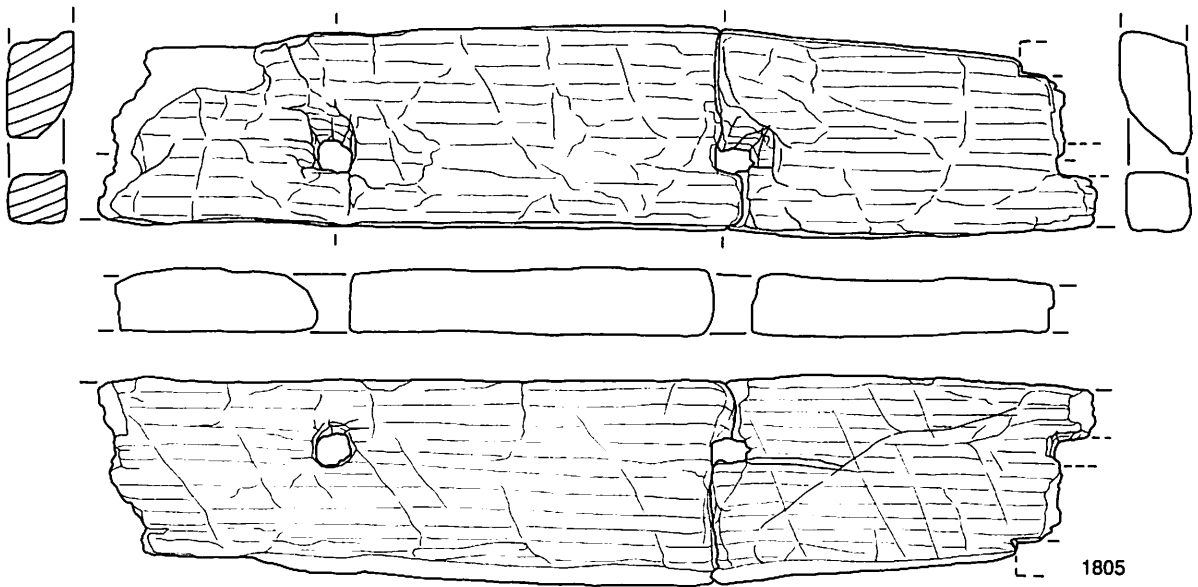




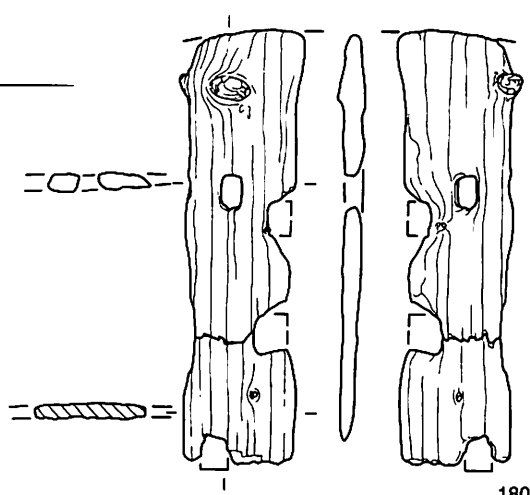
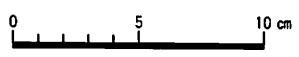
图VI-13 舟部材 5 (舟材③)



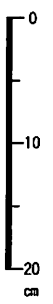
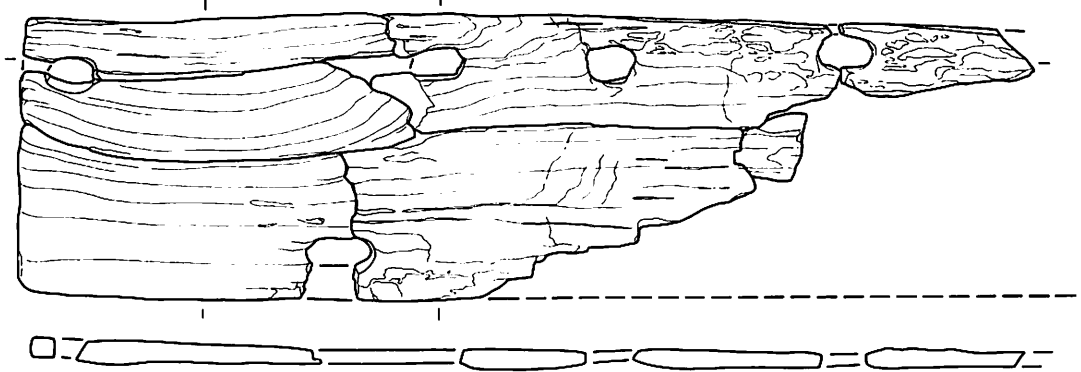
図VI-14 舟部材6 (舟材④)



1805



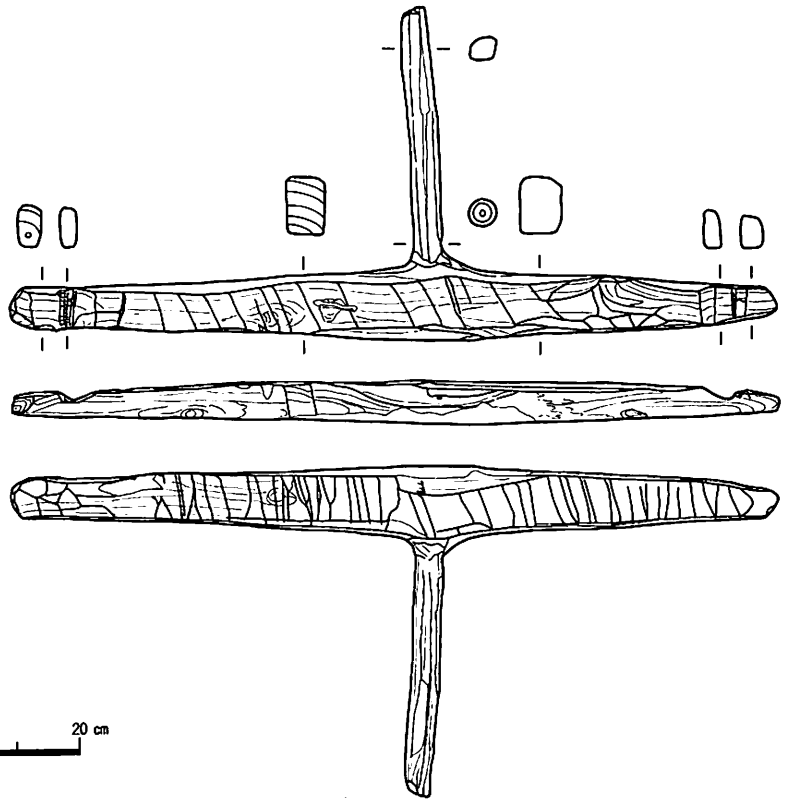
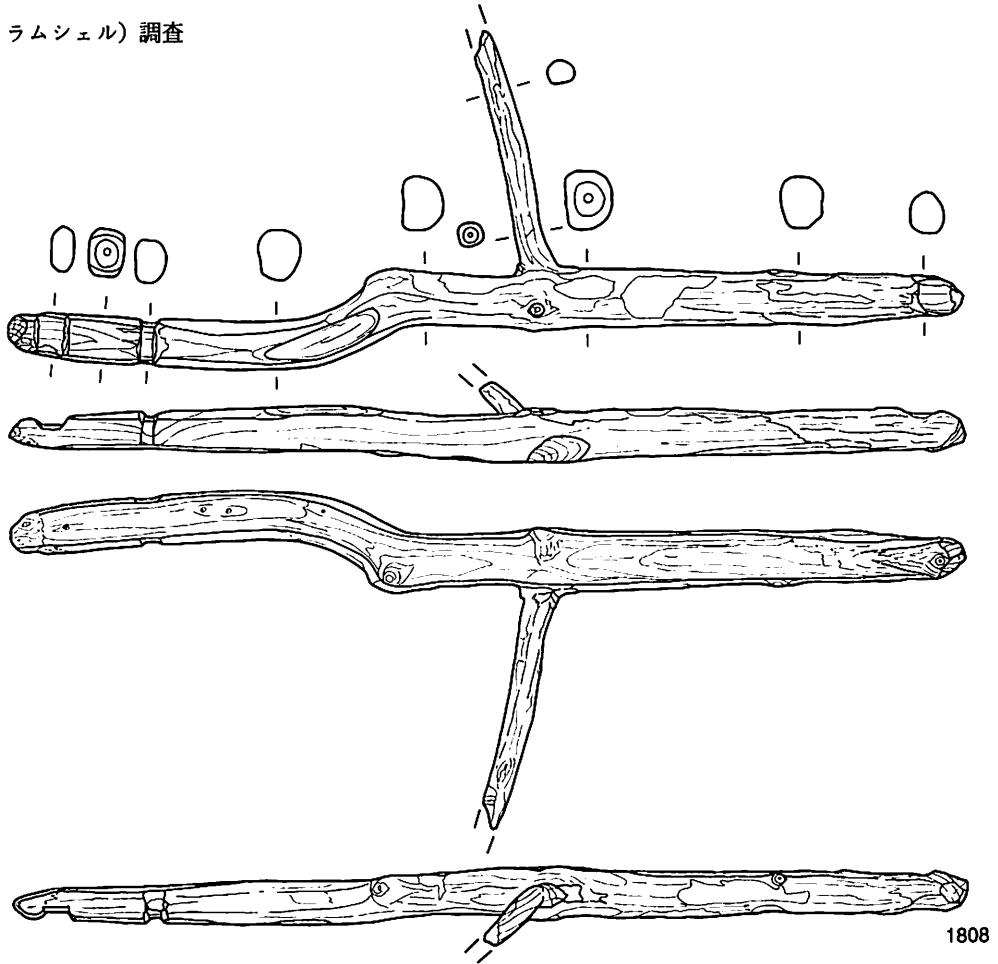
1806



1807

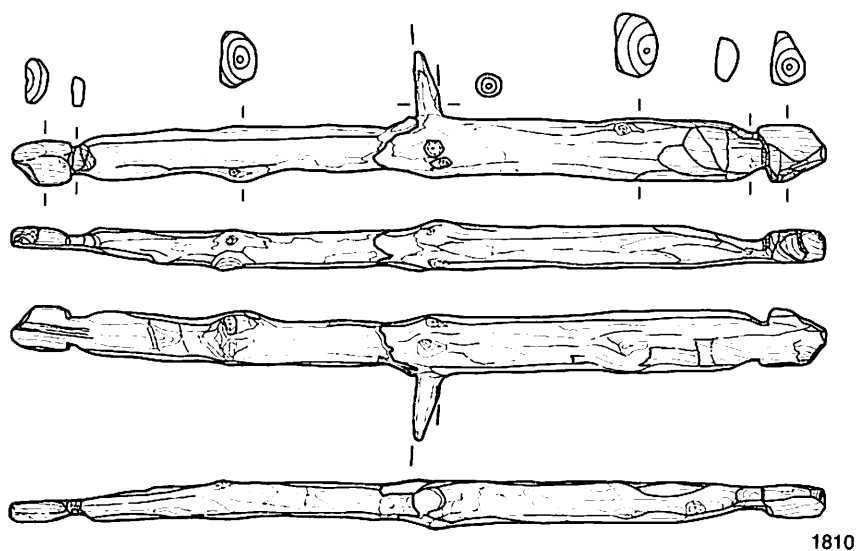
图VI-15 舟部材7 (舟材⑤・舷側板)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

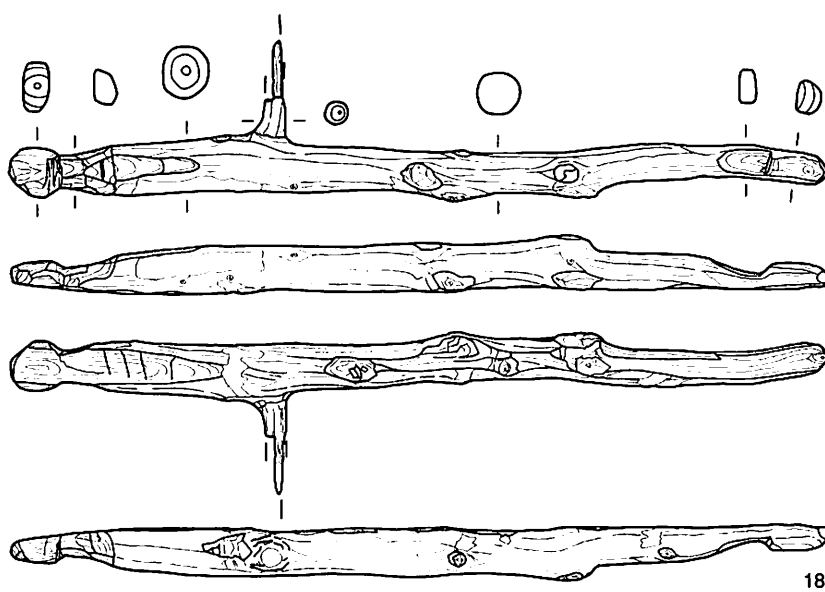


0 10 20 cm

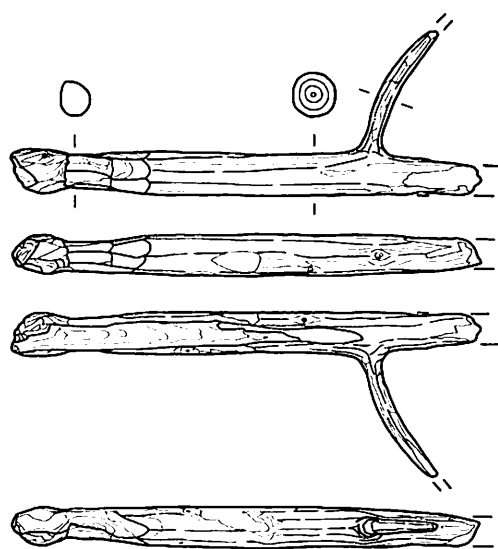
図VI-16 舟部材 8 (車權受台部①)



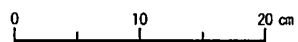
1810



1811

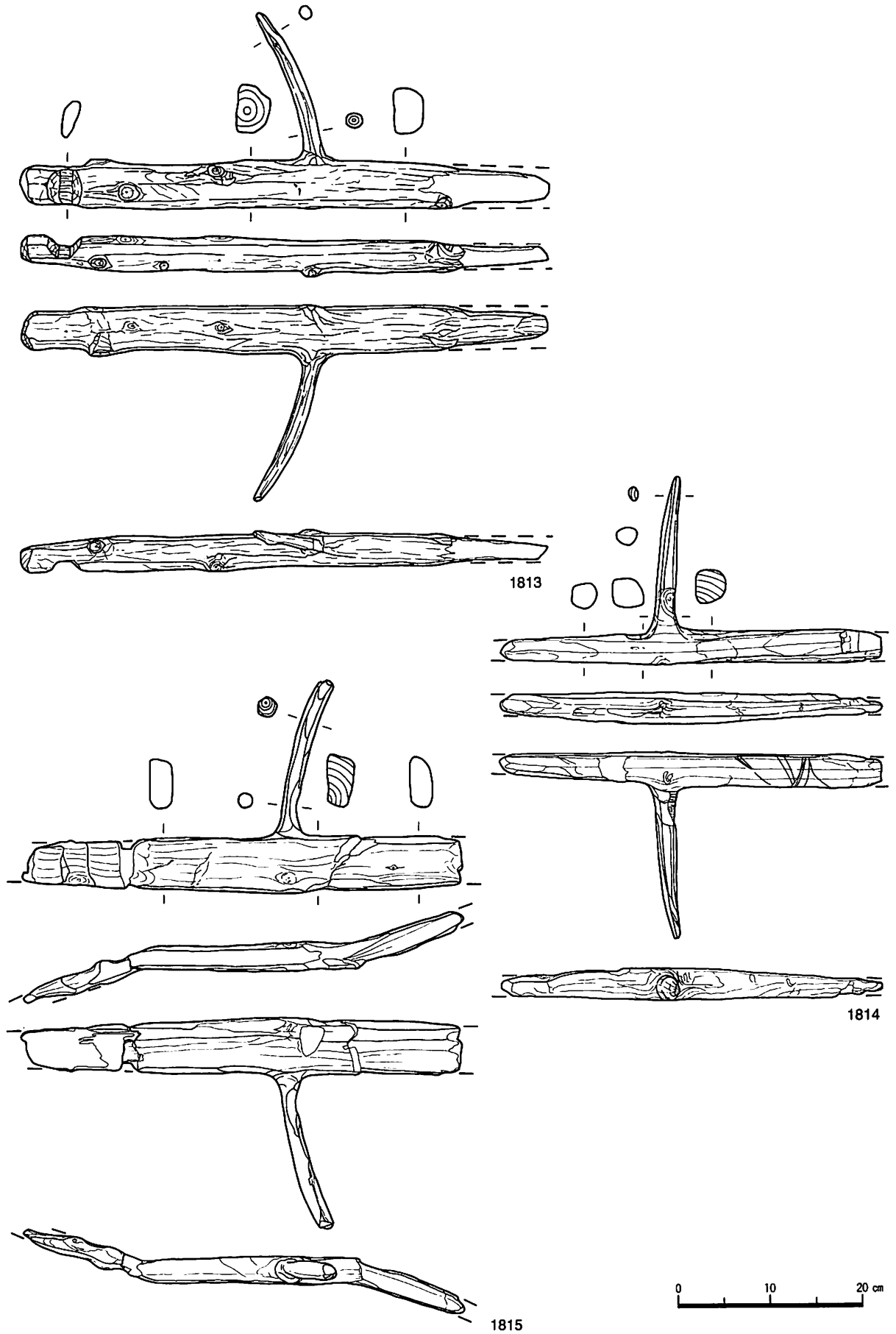


1812

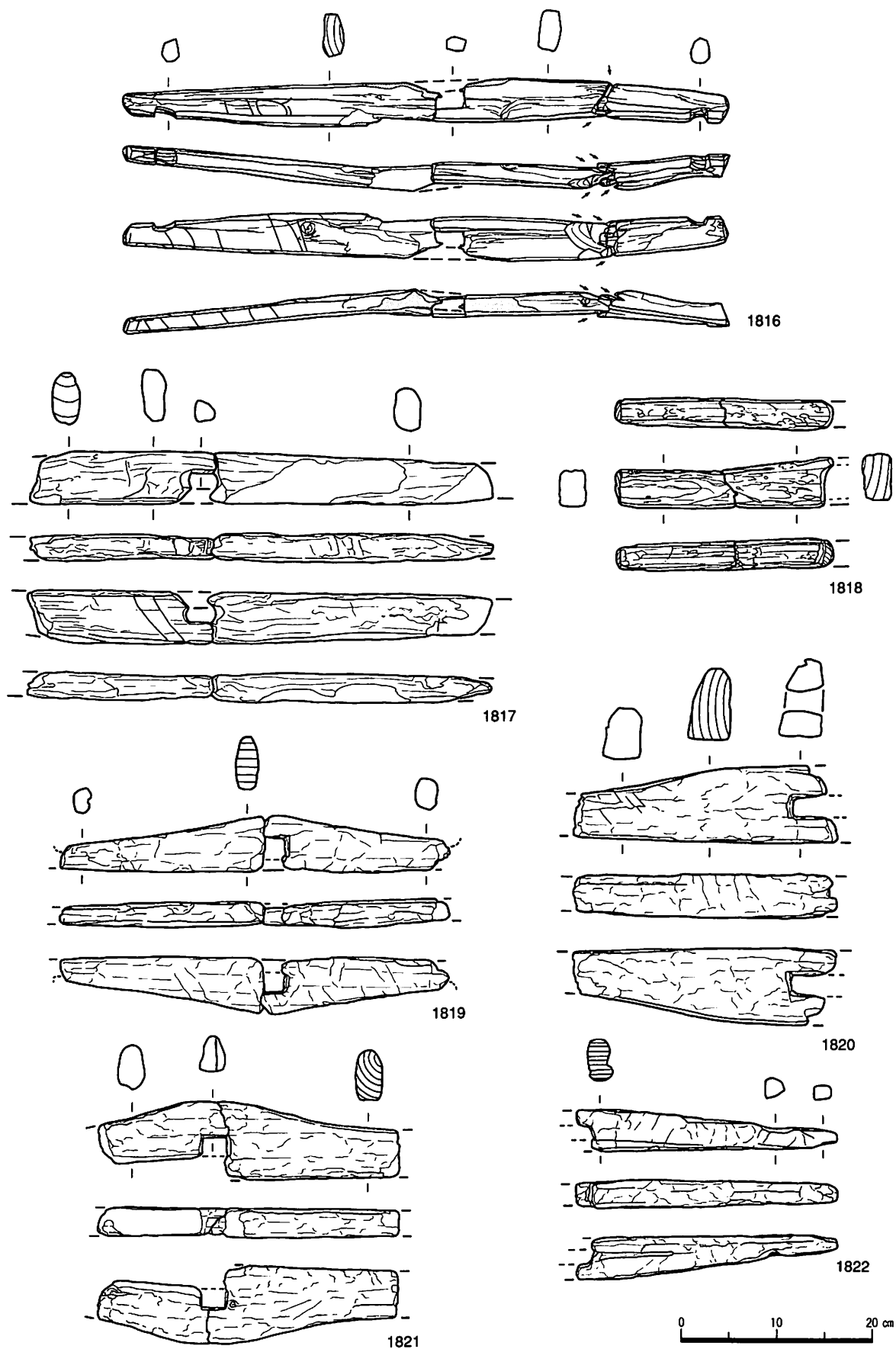


图VI-17 舟部材9 (車權受台部②)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

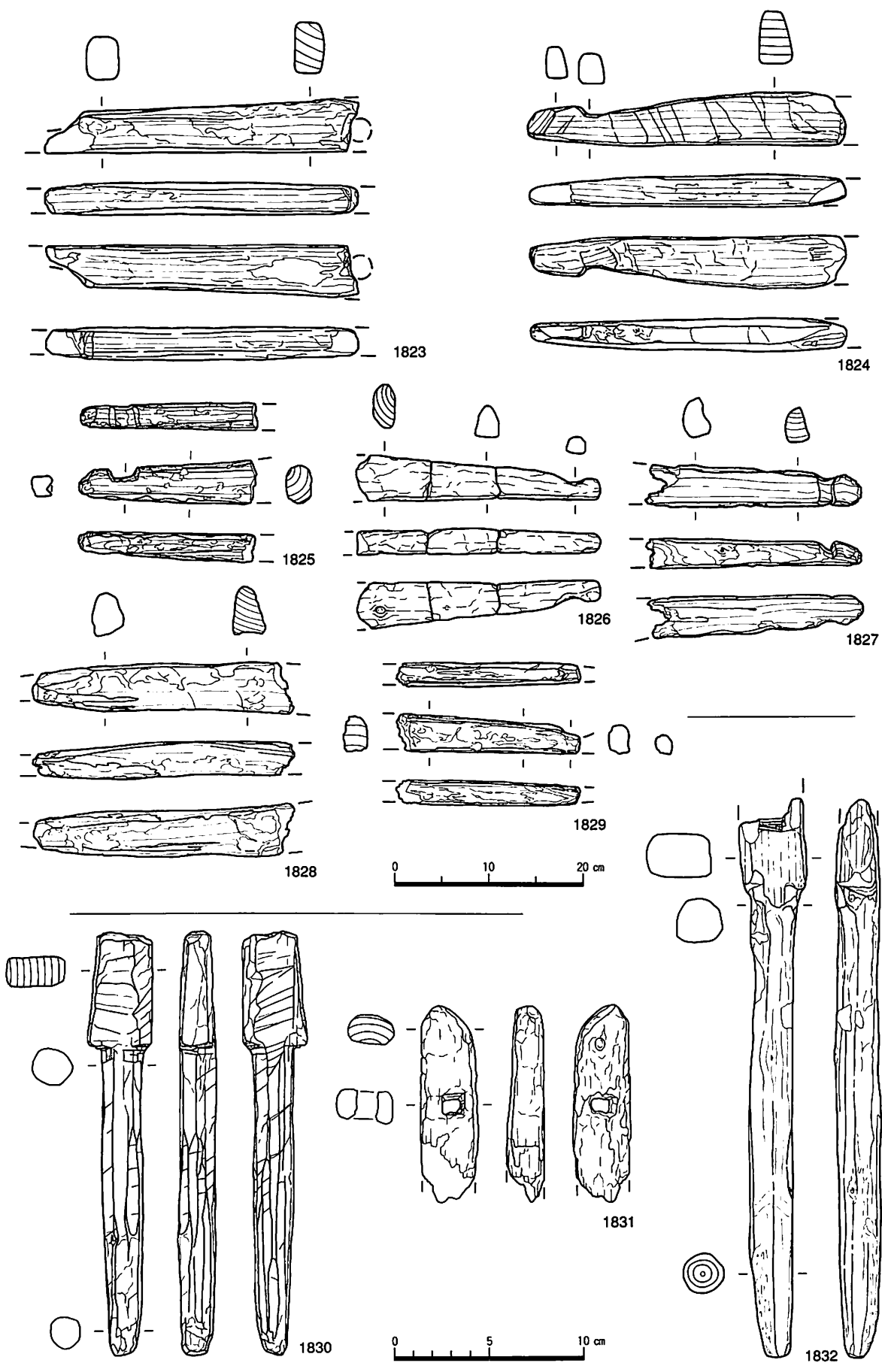


図VI-18 舟部材10 (車權受台部③)



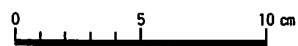
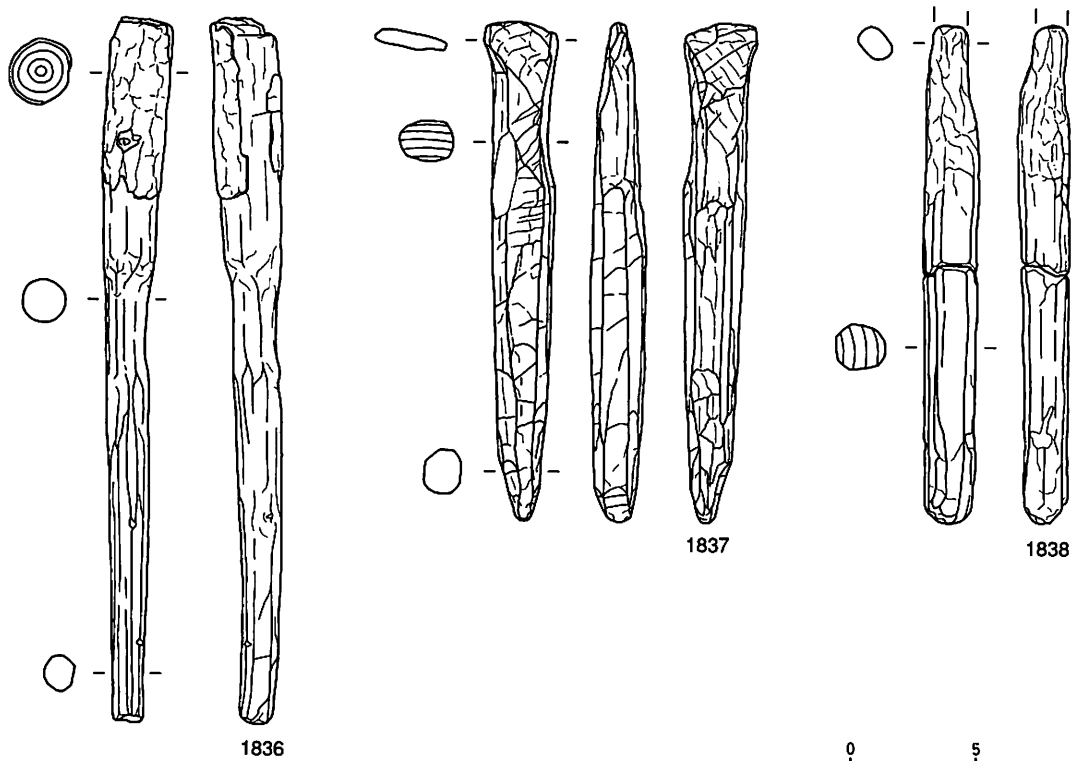
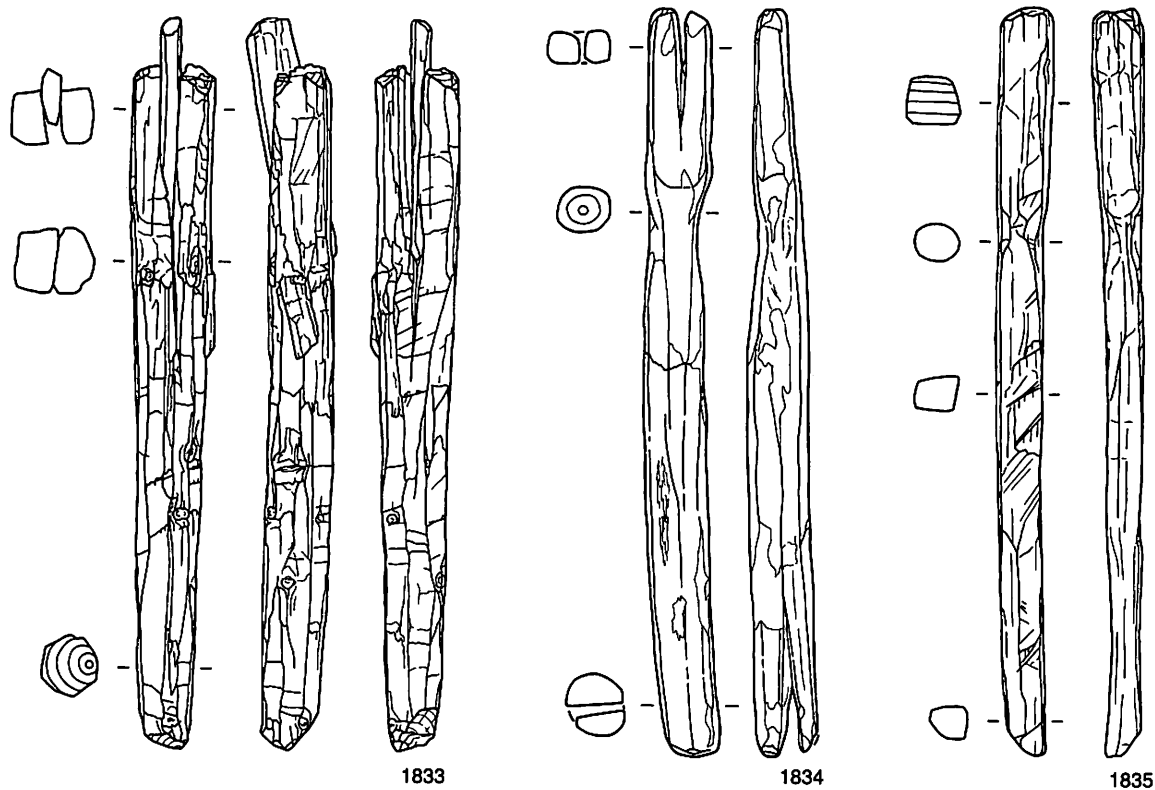
图VI-19 舟部材11(車權受台部④)

VI 重機 (クラムシェル) 調査



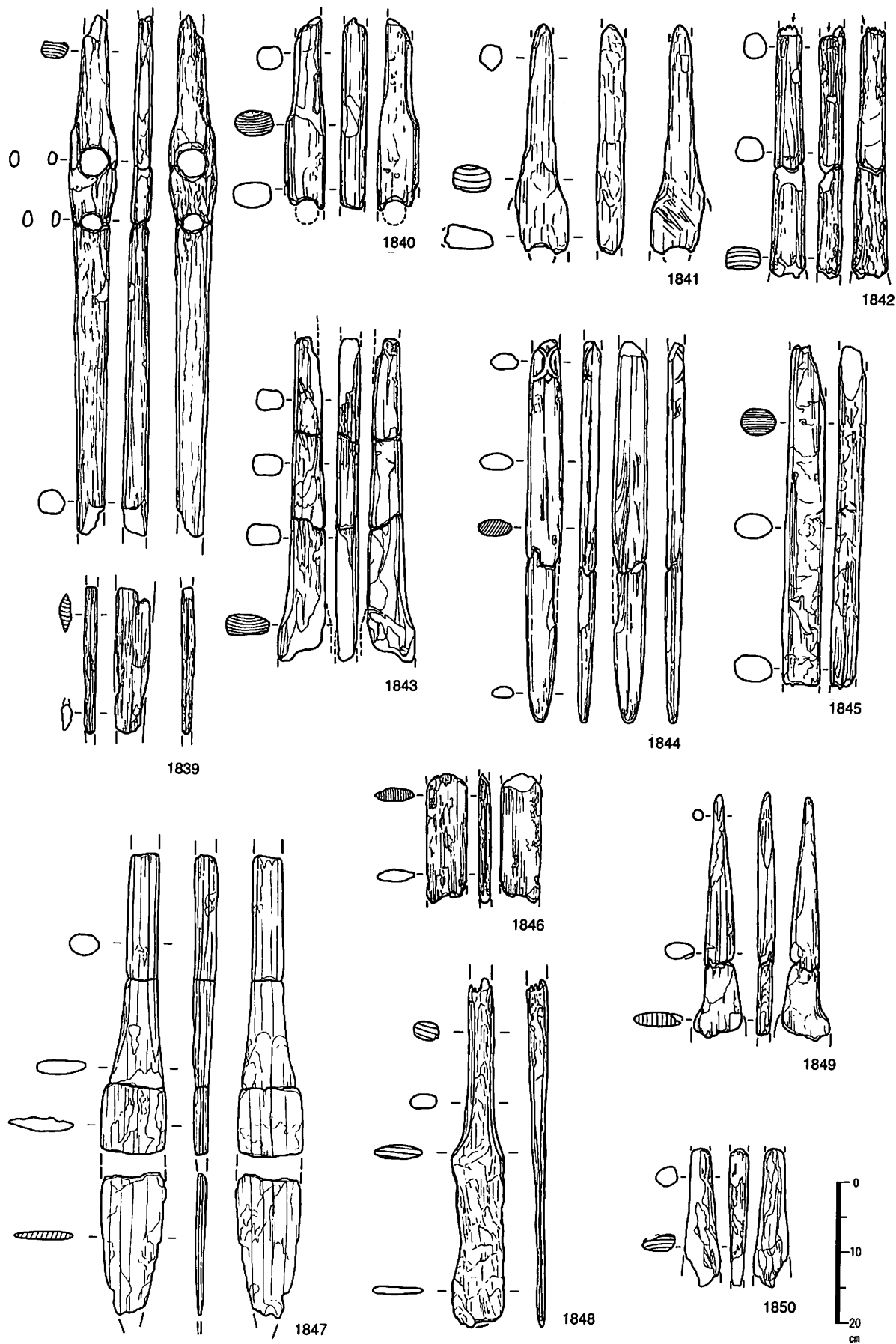
図VI-20 舟部材12 (車權受台部⑤/軸)



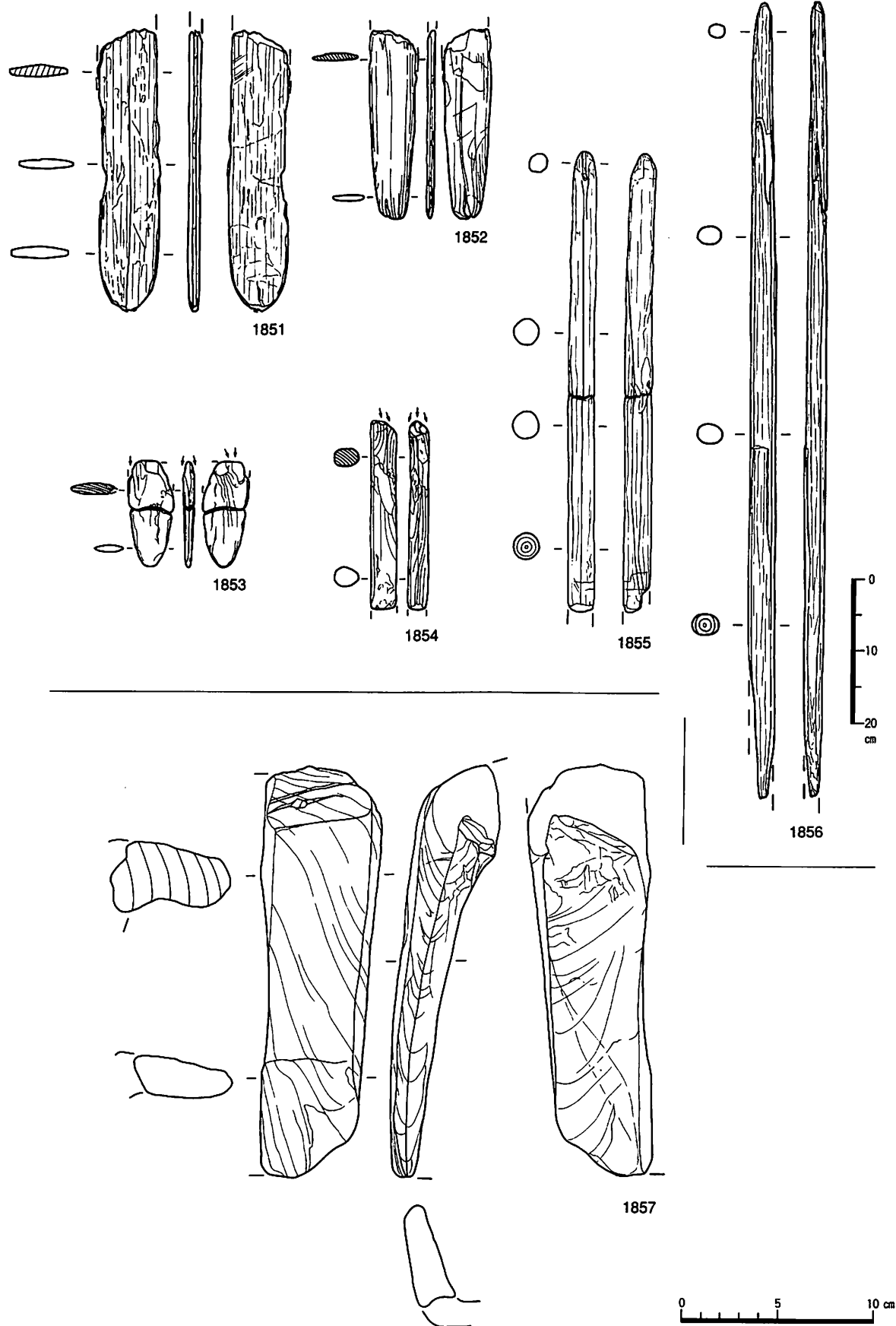


图VI-21 舟部材13 (車權受台部軸)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

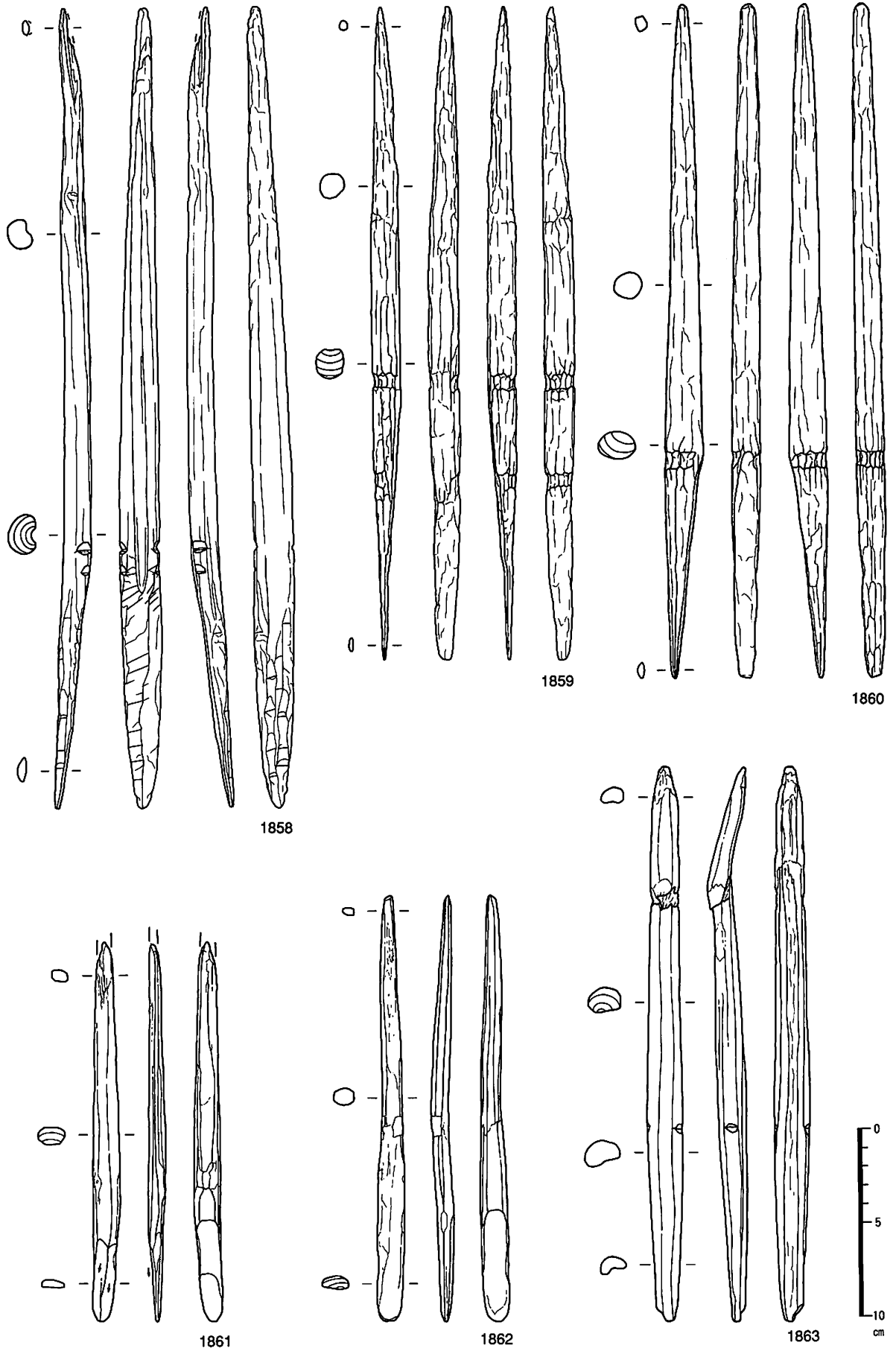


図VI-22 舟用具1 (車權・早權①)

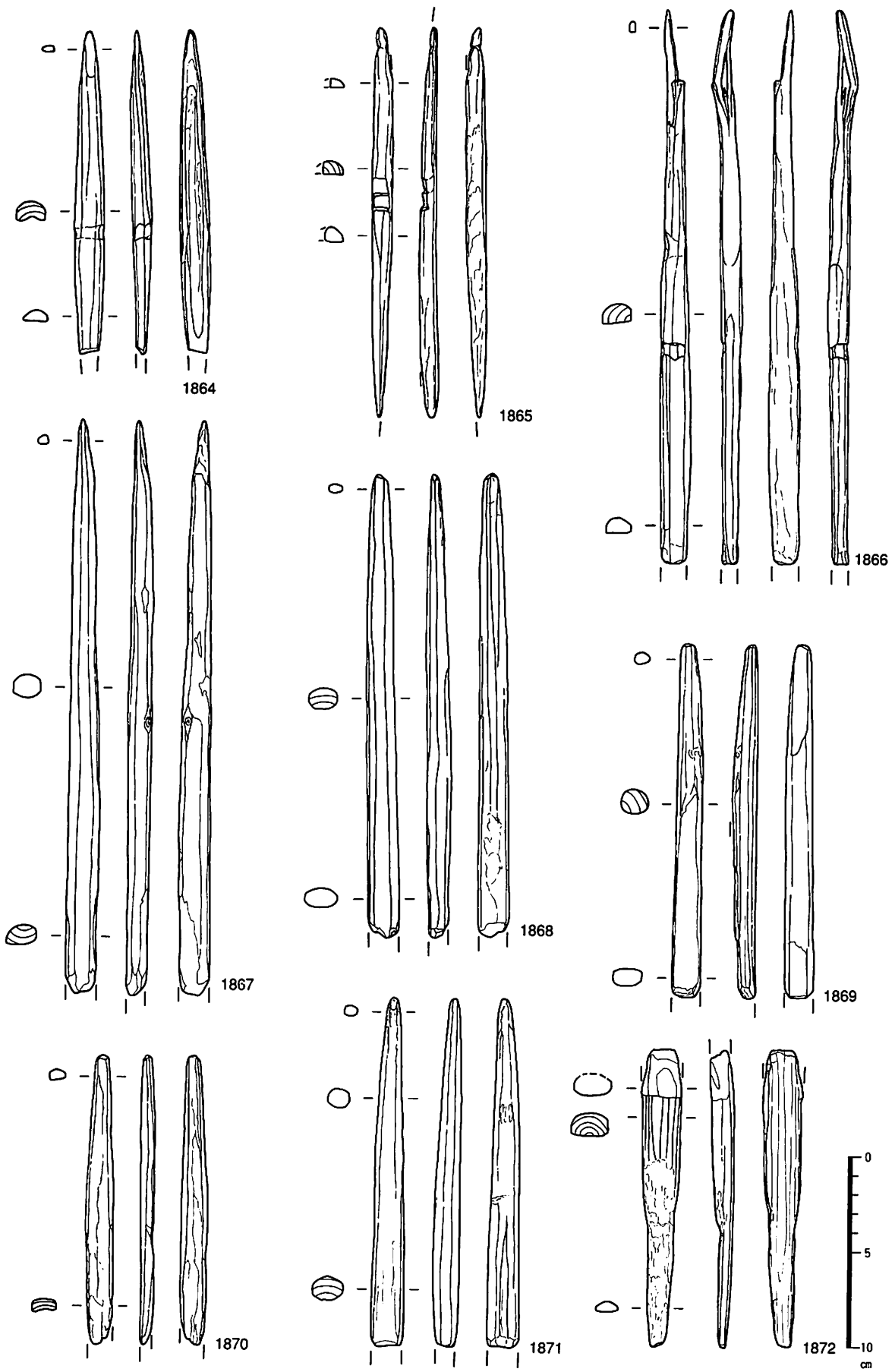


図VI-23 舟用具2 (早權②・あか汲み)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

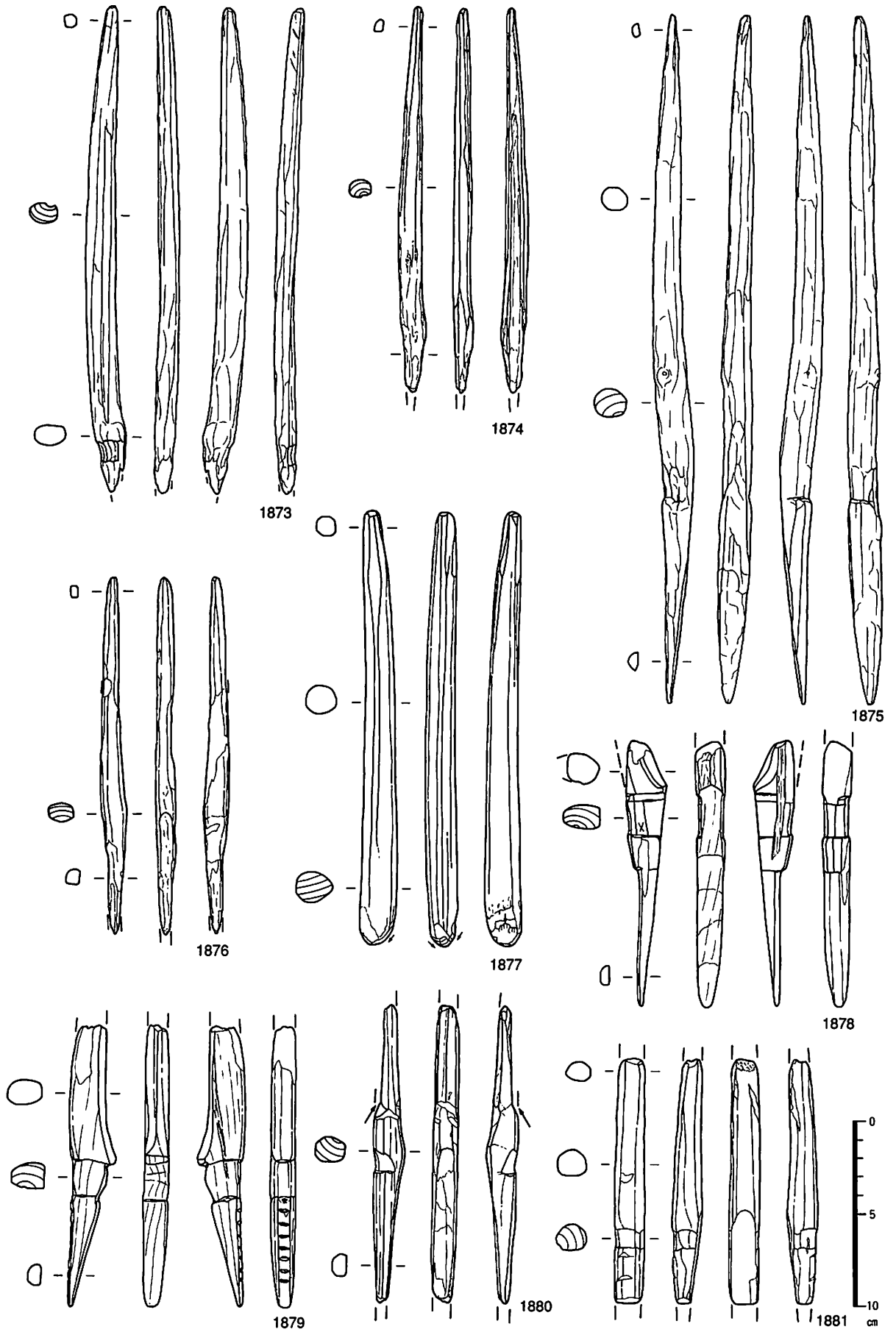


図VI-24 漁撈具 1 (回転式離頭鉗中柄①)

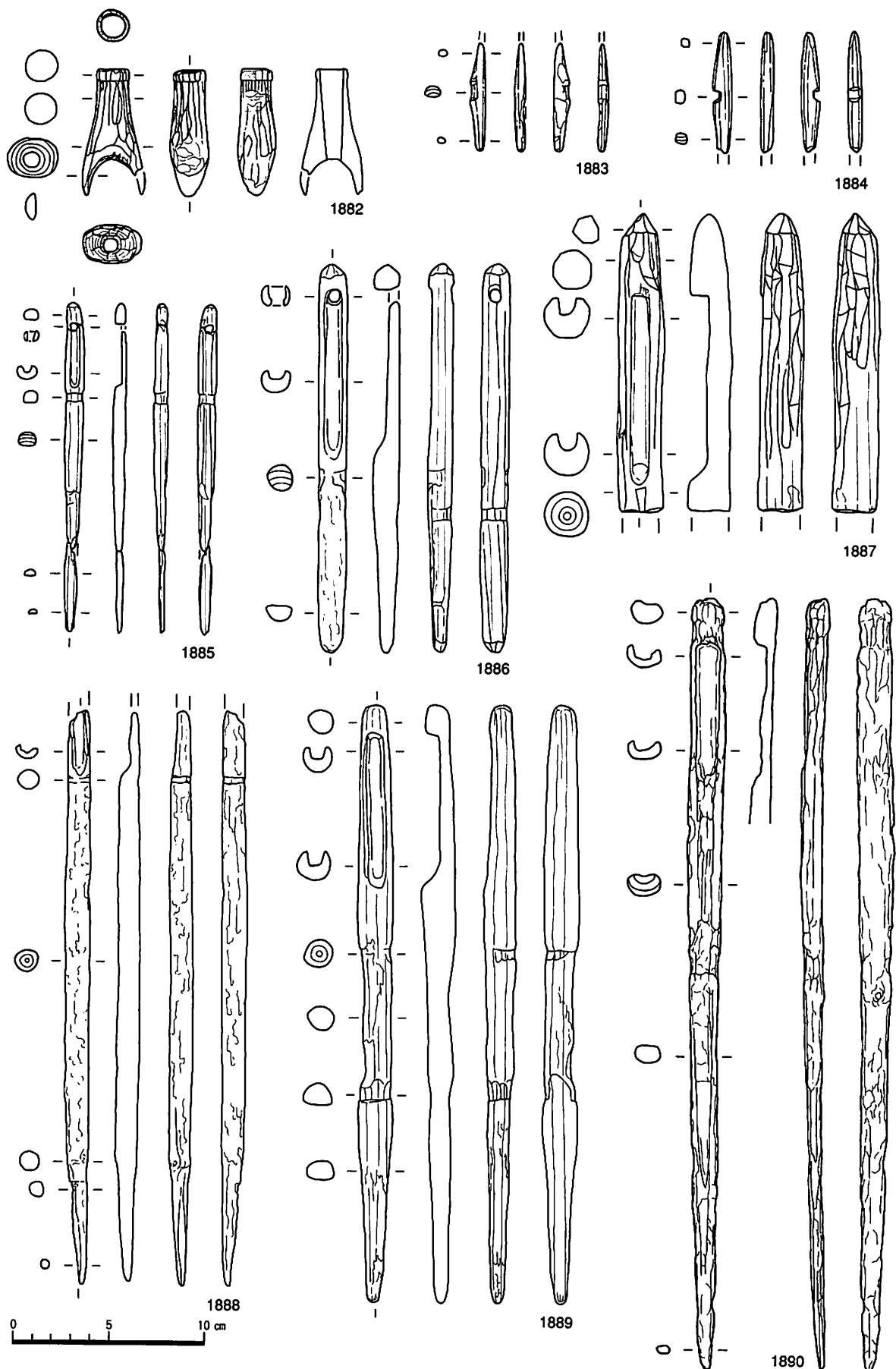


图VI-25 渔捞具2 (回轉式離頭銚中柄②)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

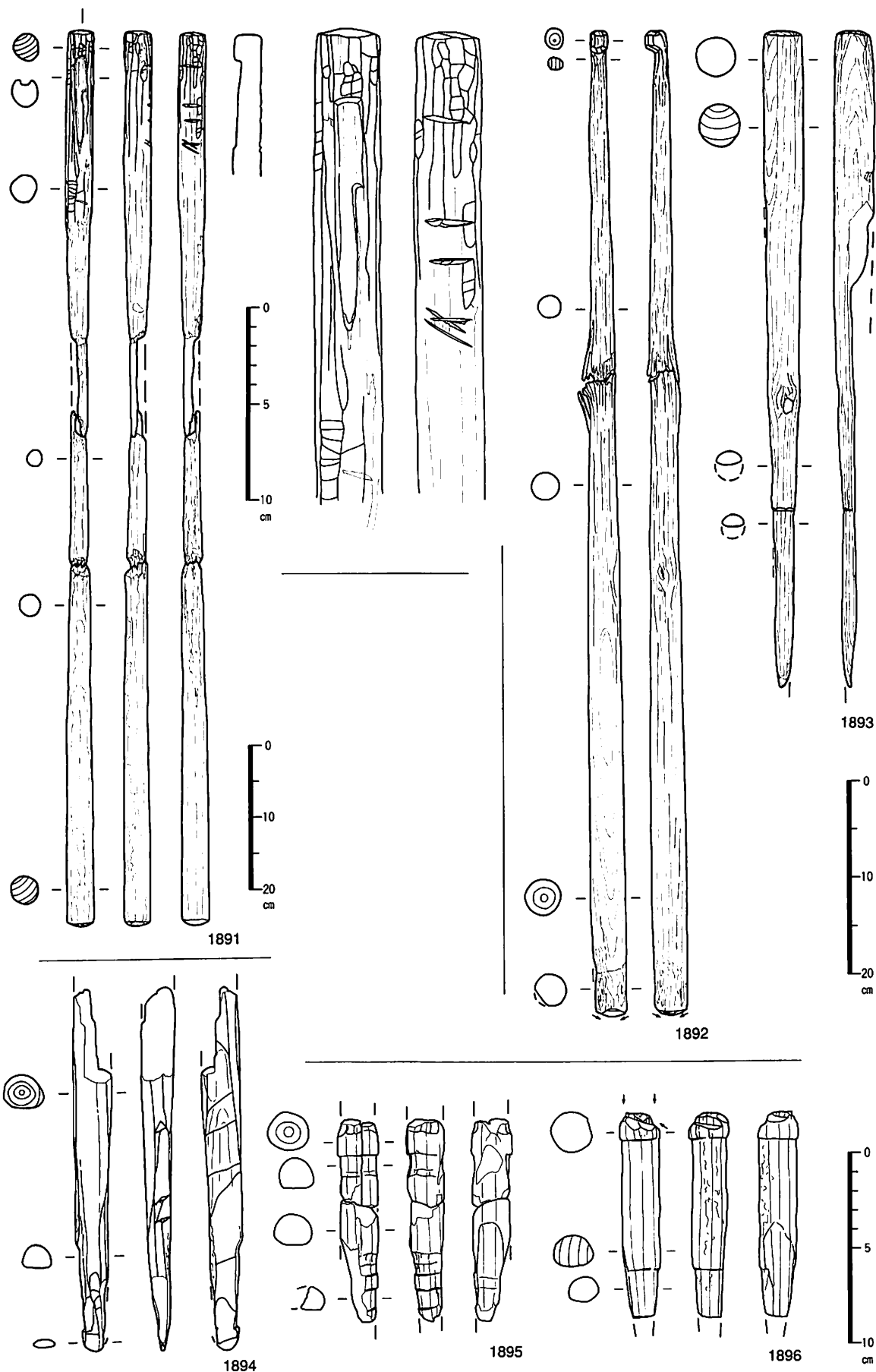


図VI-26 漁撈具3 (回転式離頭鉤中柄③/指掛部)



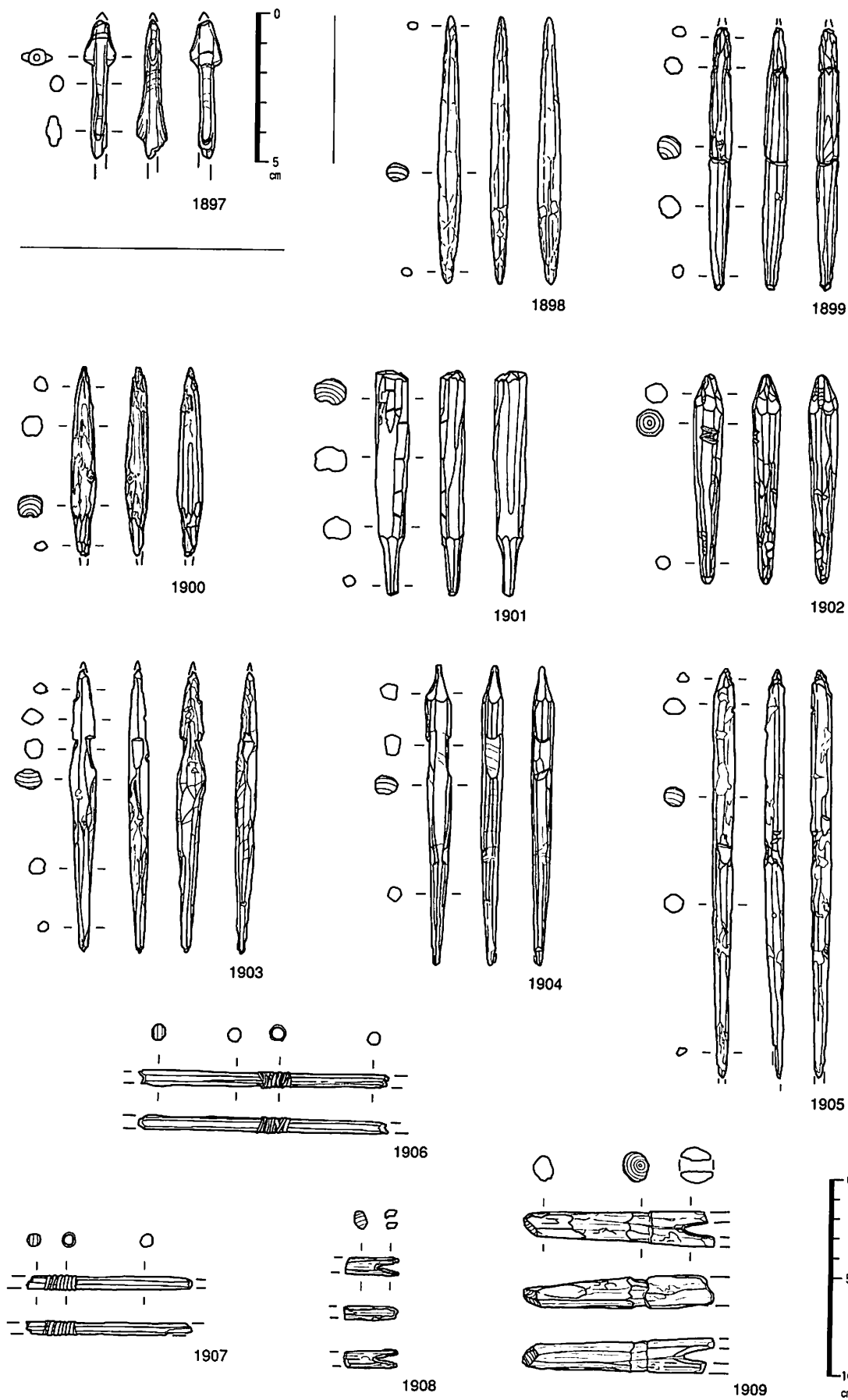
图VI-27 漁撈具4 (回轉式離頭鉗指掛部・魚突鉤鉗台部)

VI 重機 (クラムシェル) 調査



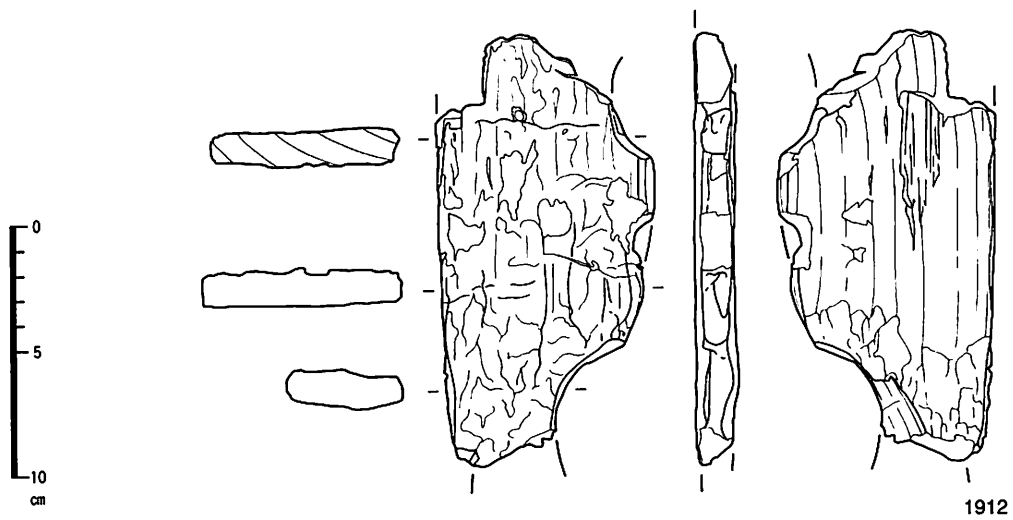
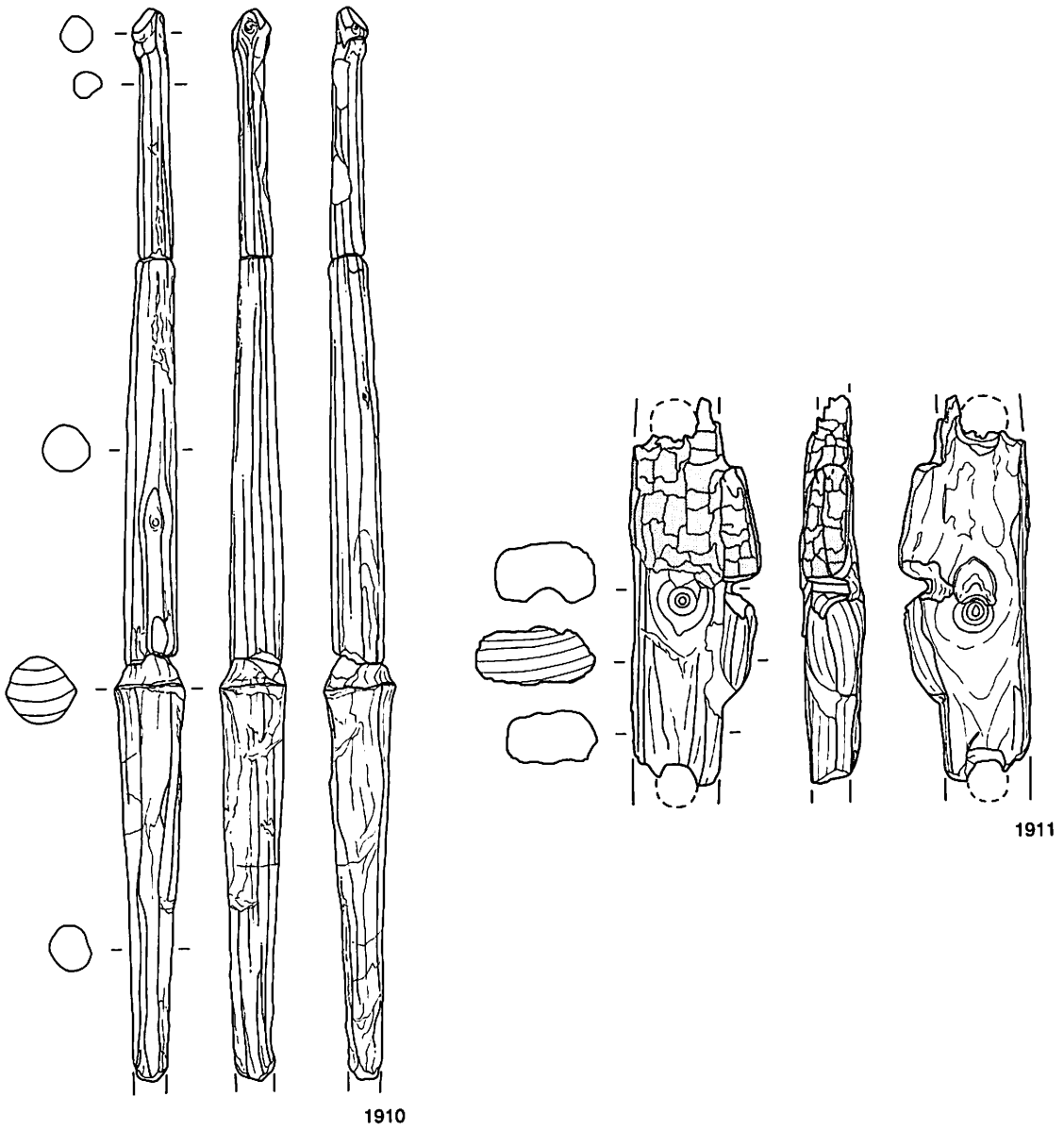
図VI-28 漁撈具5 (回転式離頭鉆・魚突鉤鉆/棹)



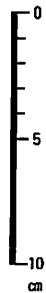
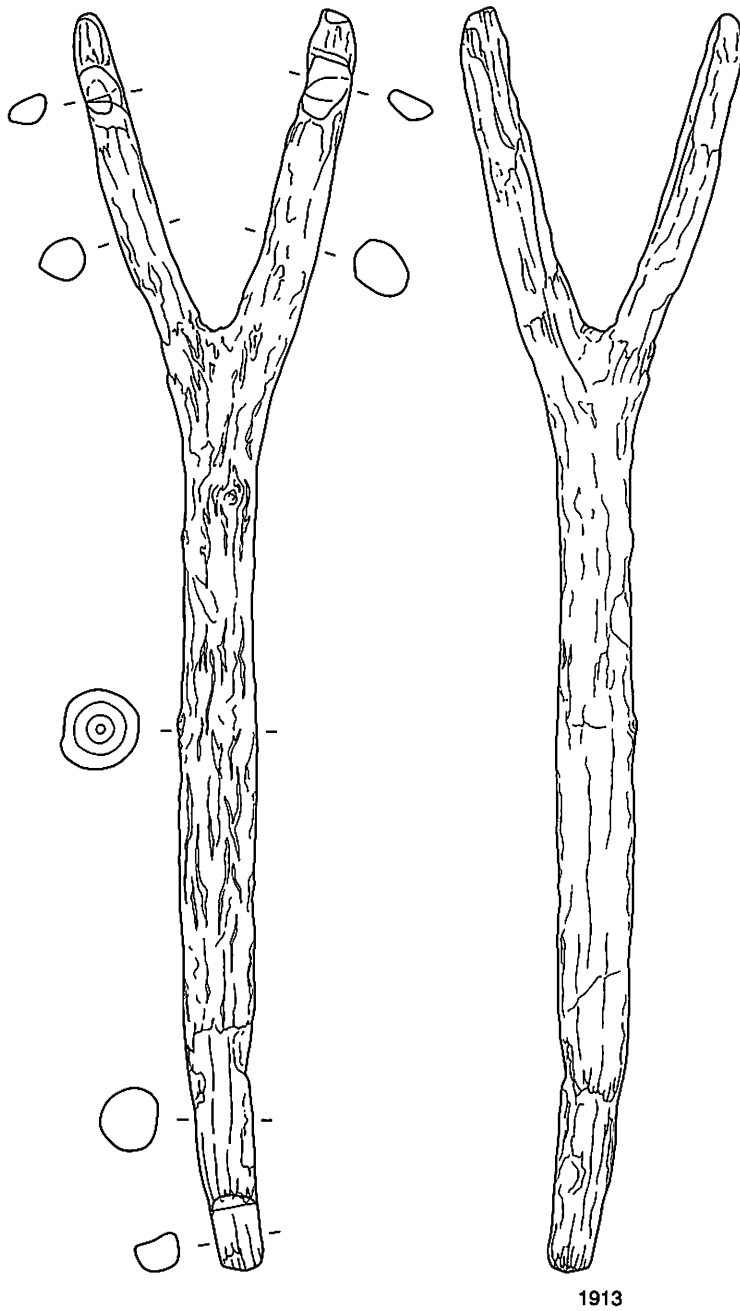


图VI-29 狩猎具1 (矢·矢中柄·矢筈)

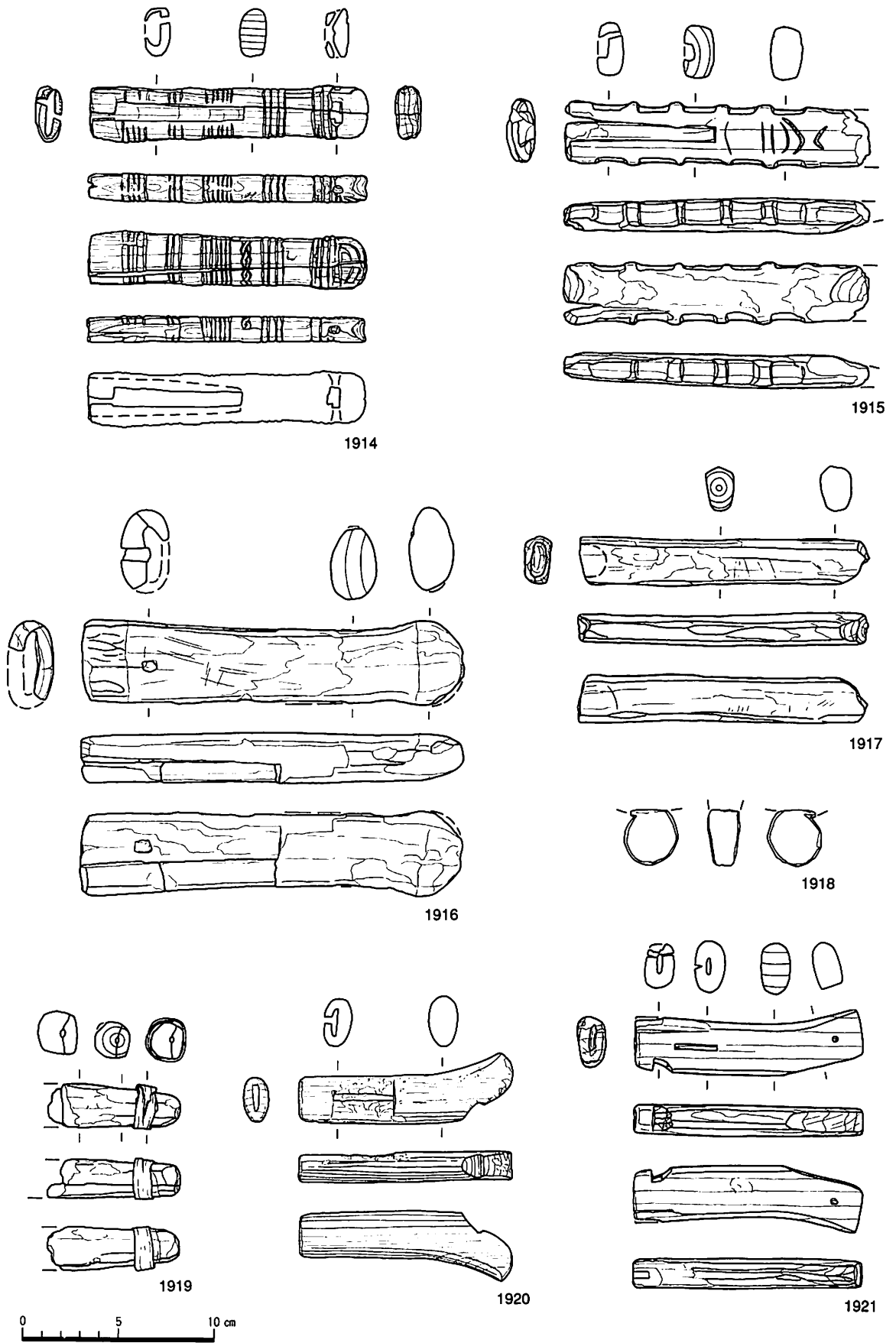
VI 重機 (クラムシェル) 調査



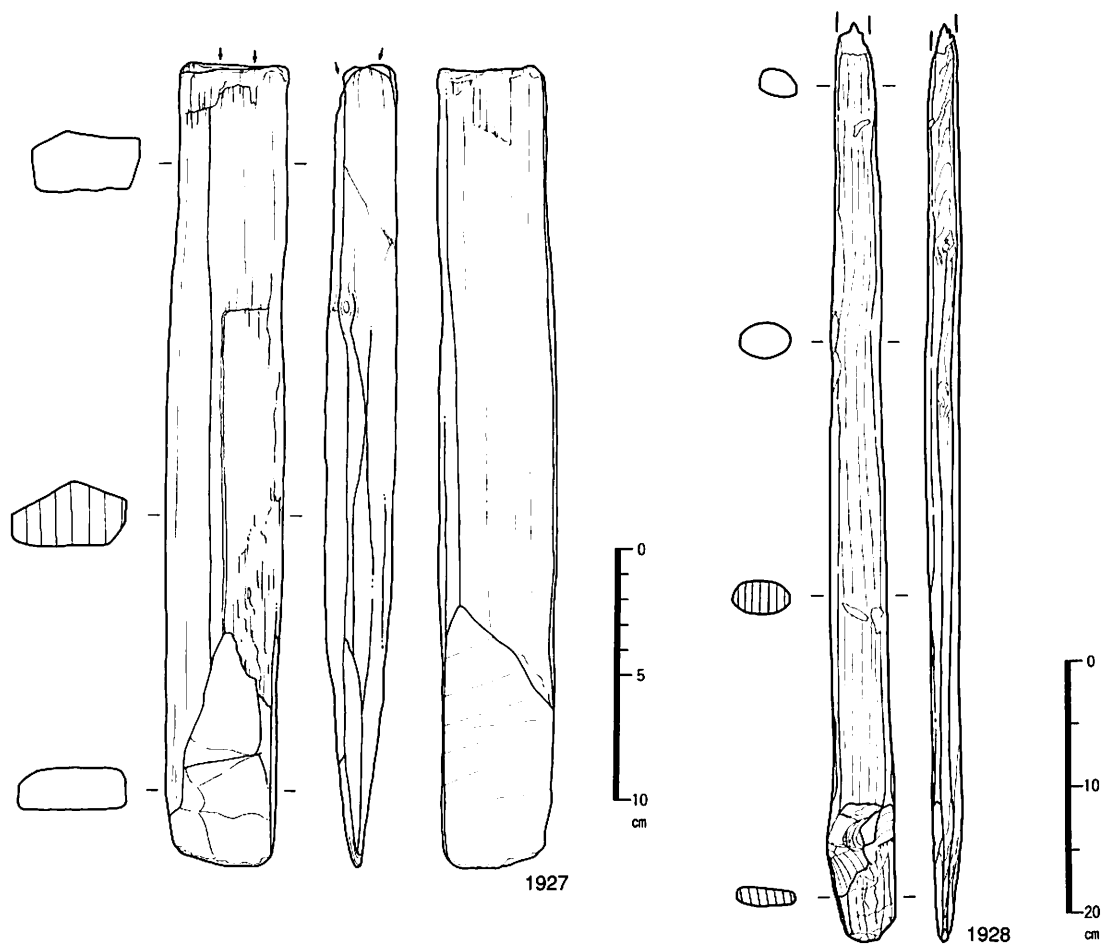
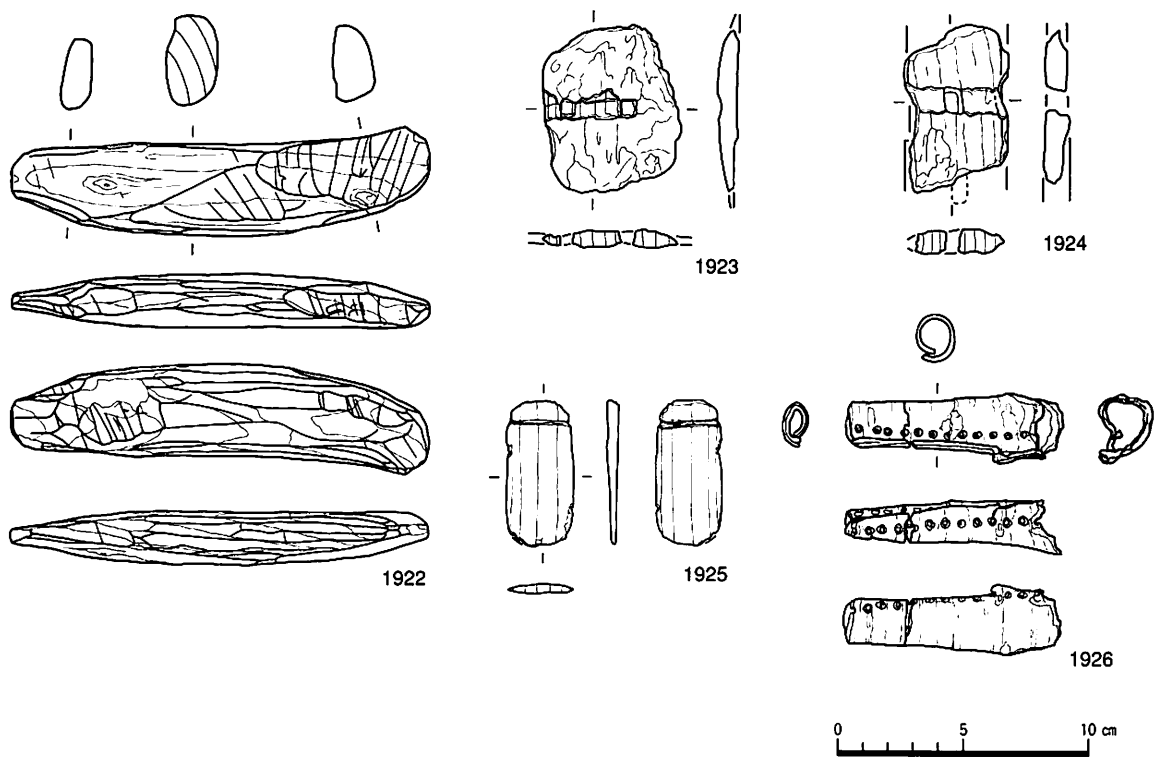
図VI-30 狩猟具2 (弓・矢筒翼未製品?)



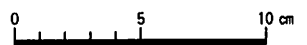
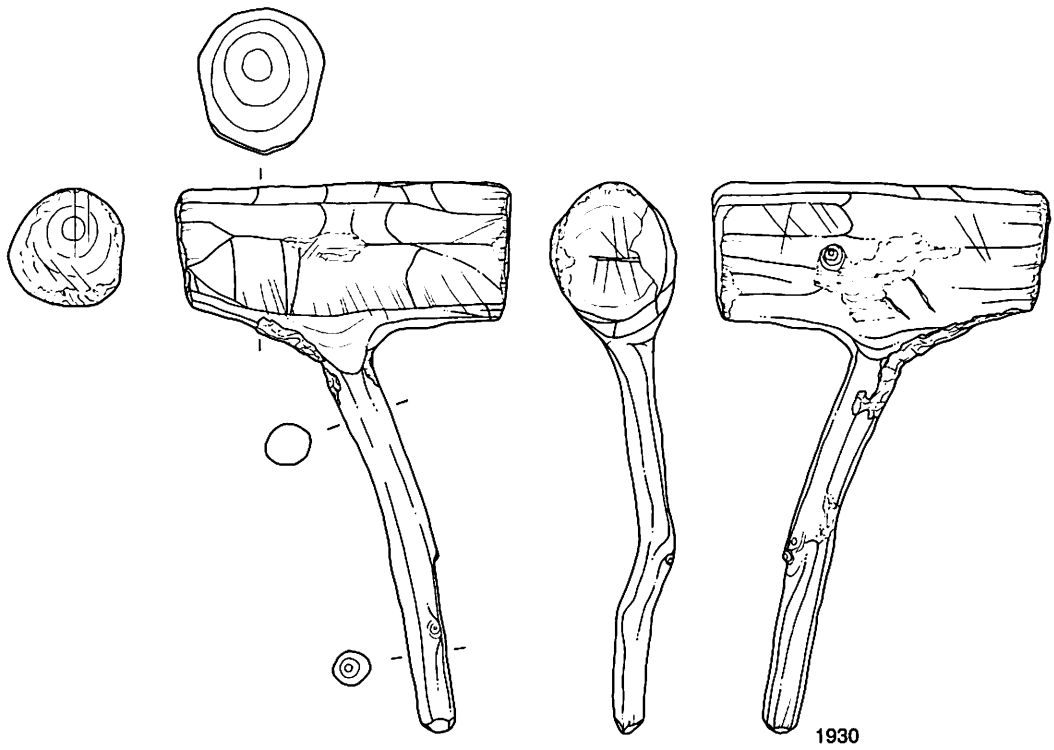
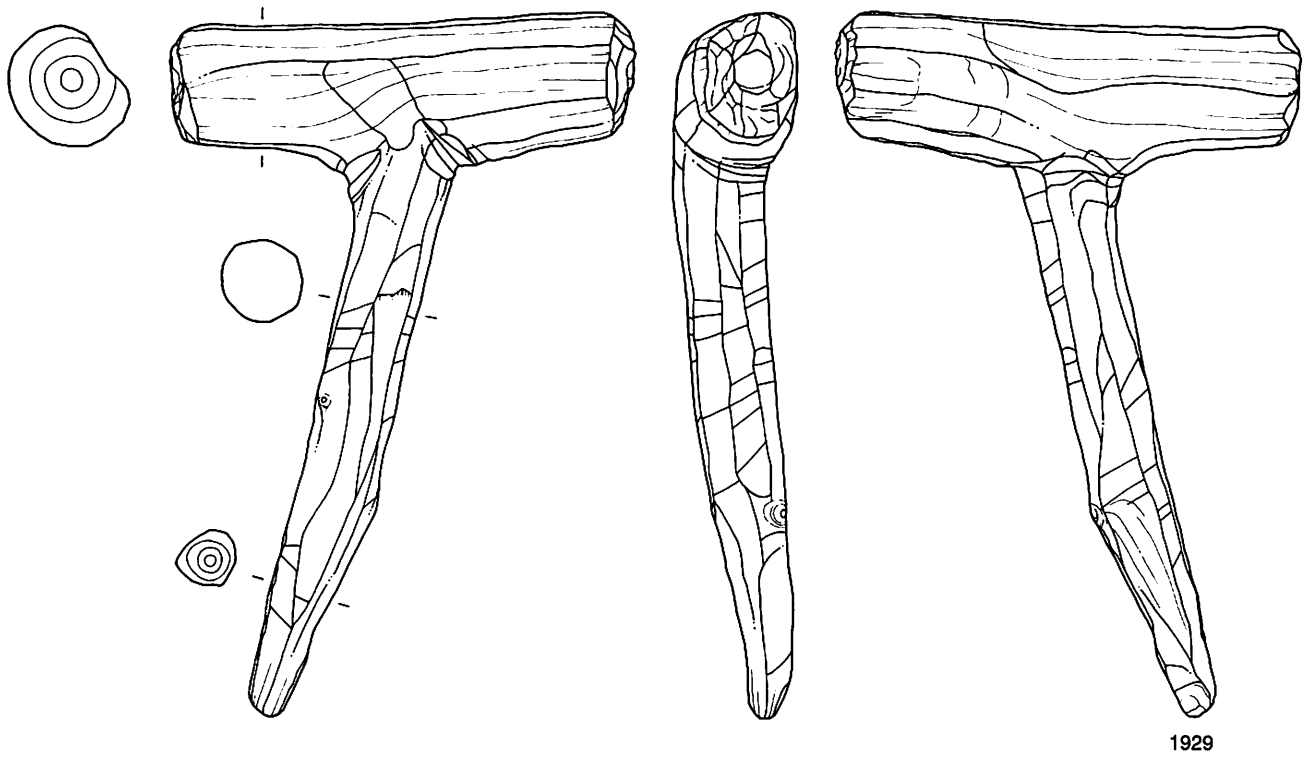
图VI-31 狩猎具3 (翼部材?)



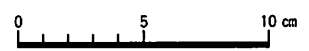
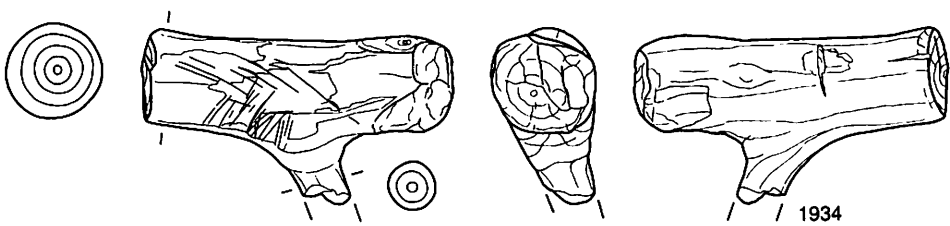
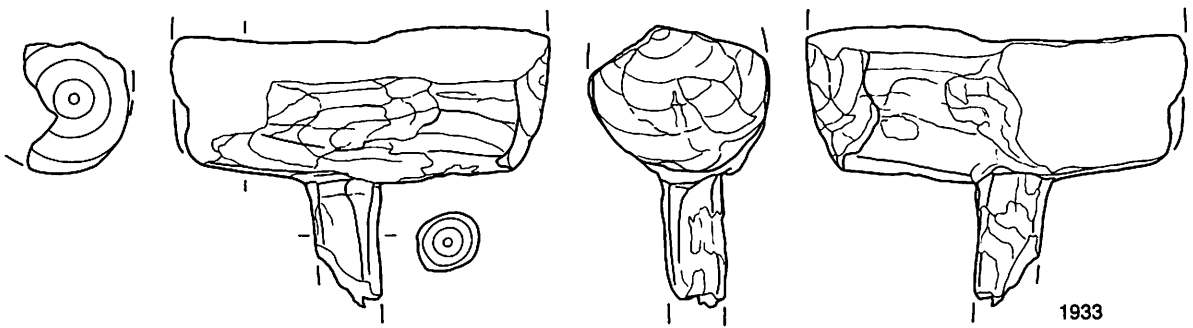
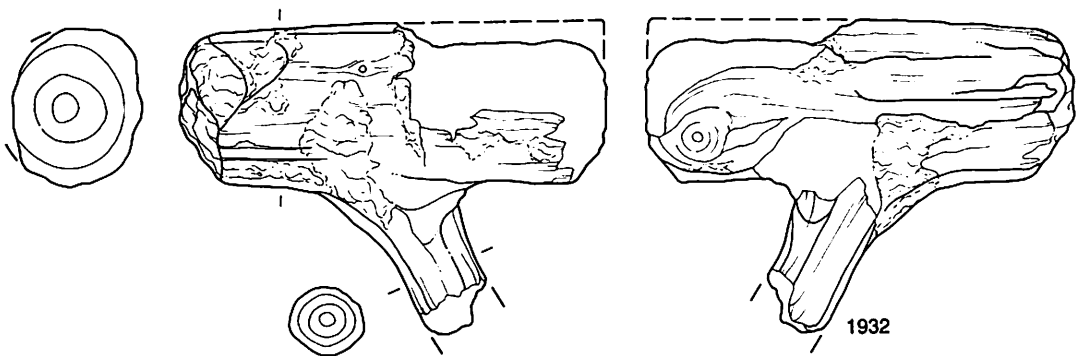
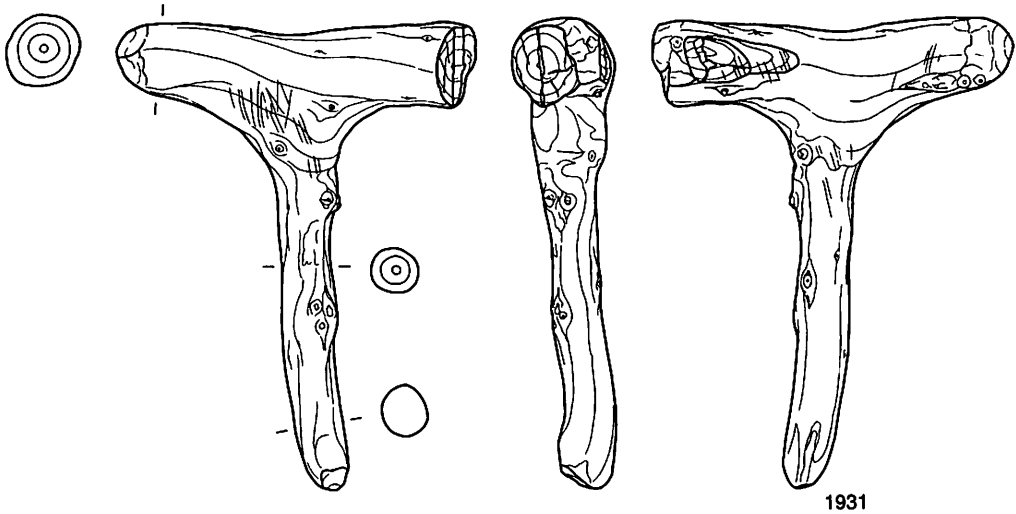
图VI-32 切截具1 (小刀柄・山刀柄)



图VI-33 切截具2・採集具（小刀柄未製品・鞘・土掘棒）

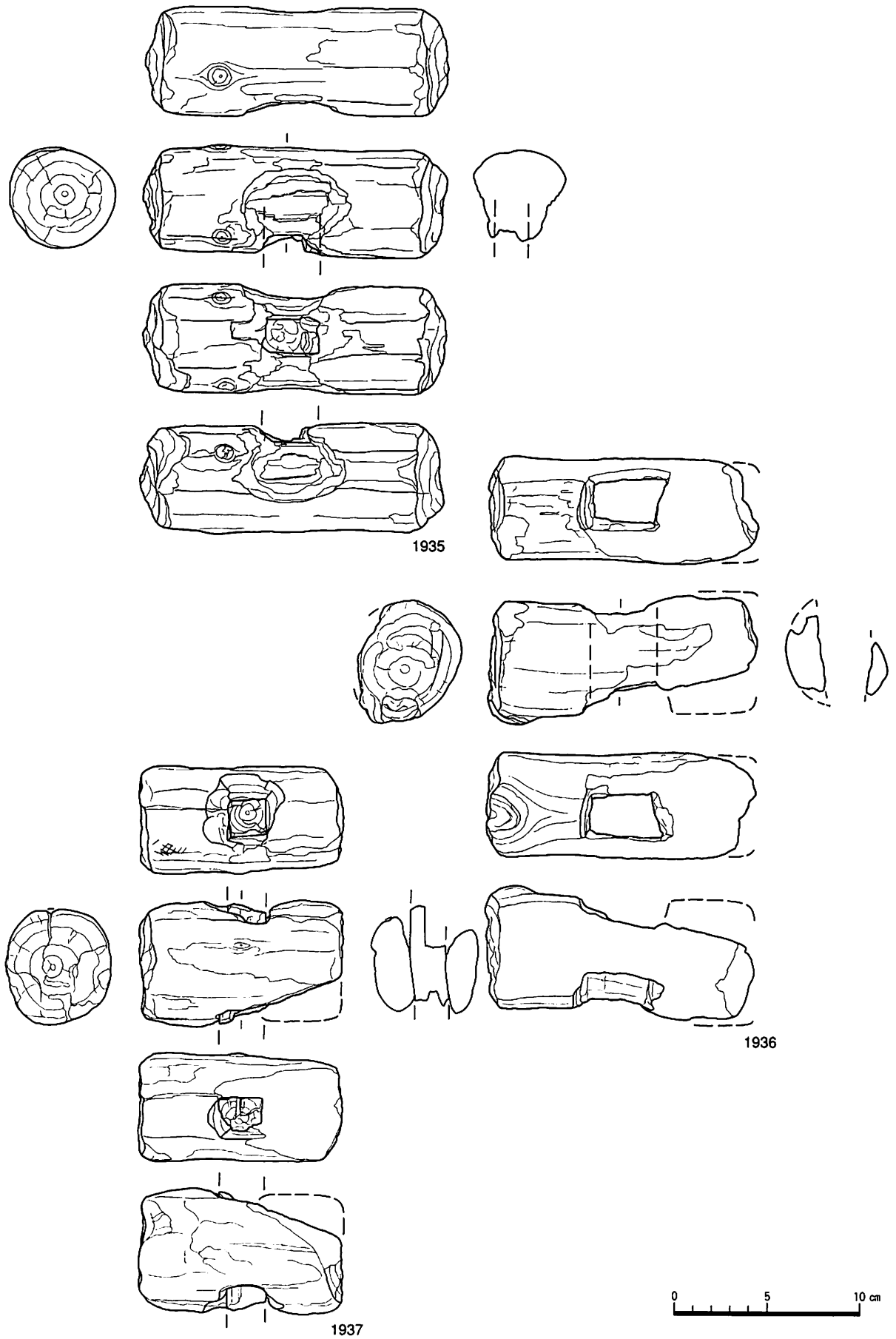


図VI-34 工具1 (縦槌①)



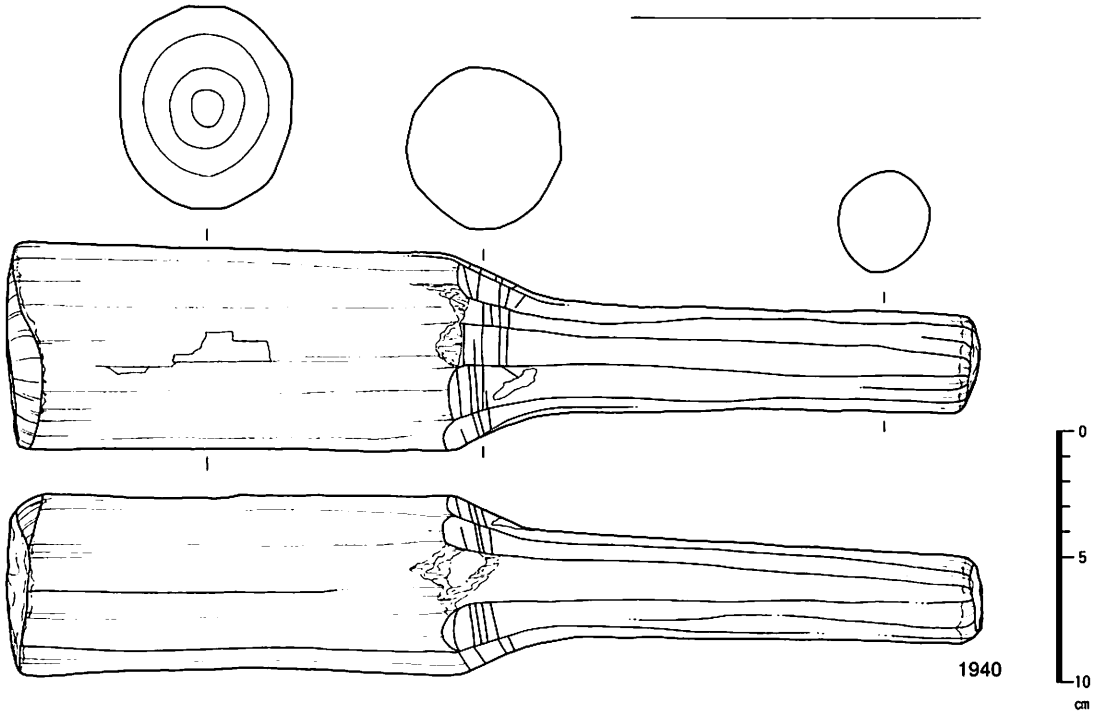
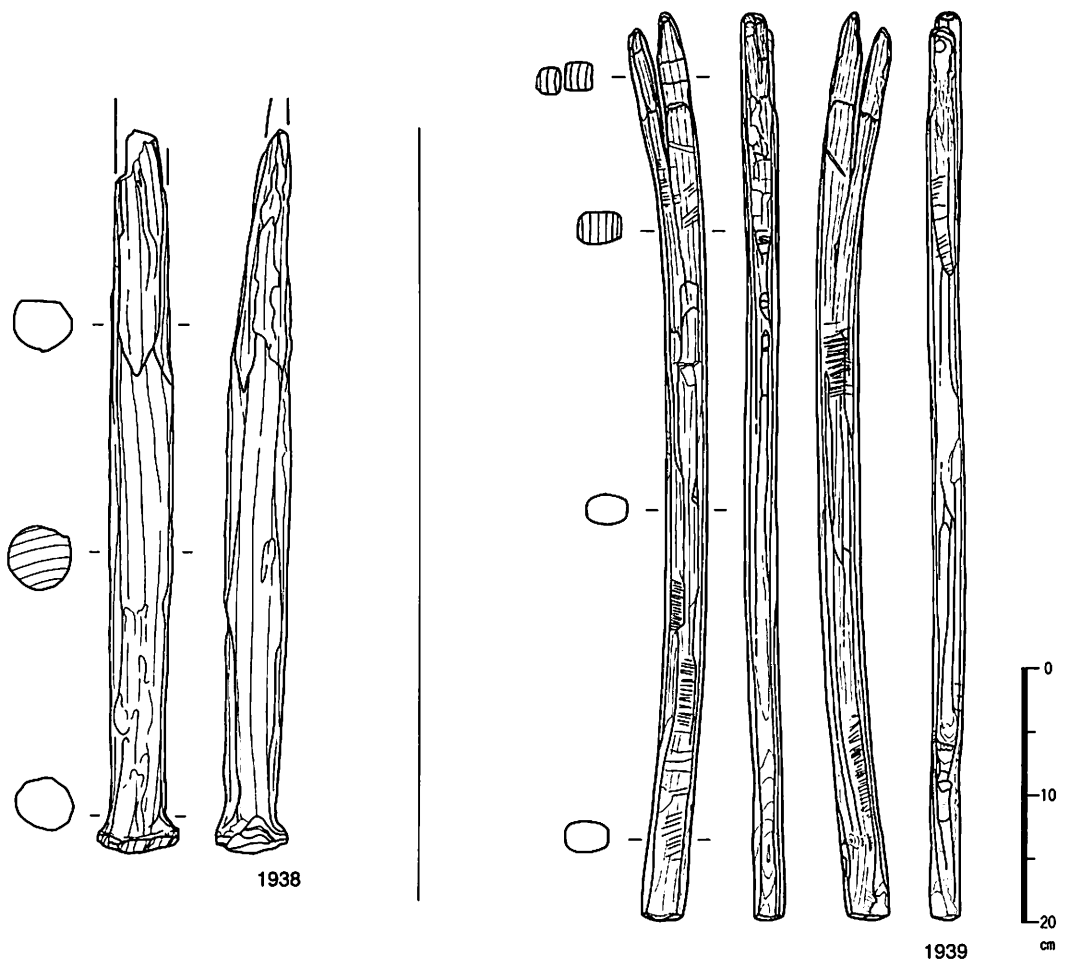
图VI-35 工具2 (縦槌②)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

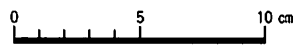
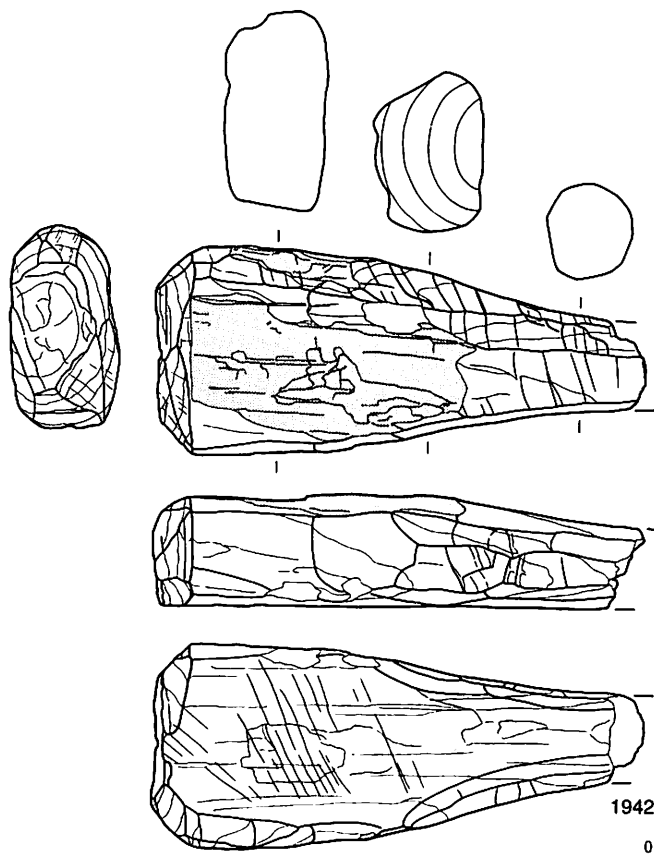
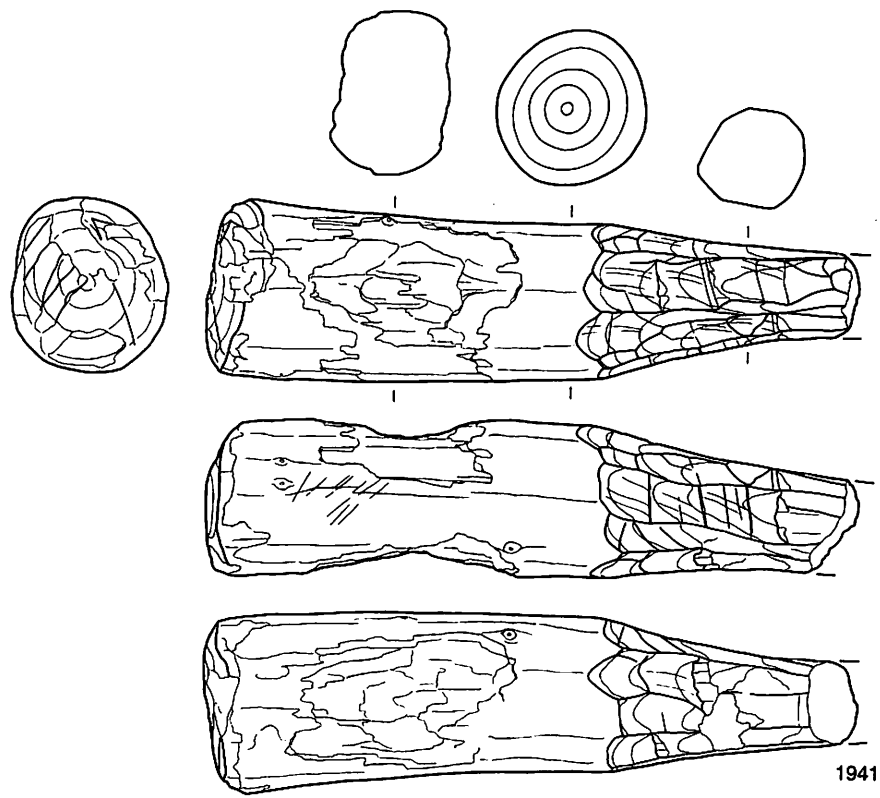


1937  
 1936  
 1935  
 図VI-36 工具3 (縦槌③)

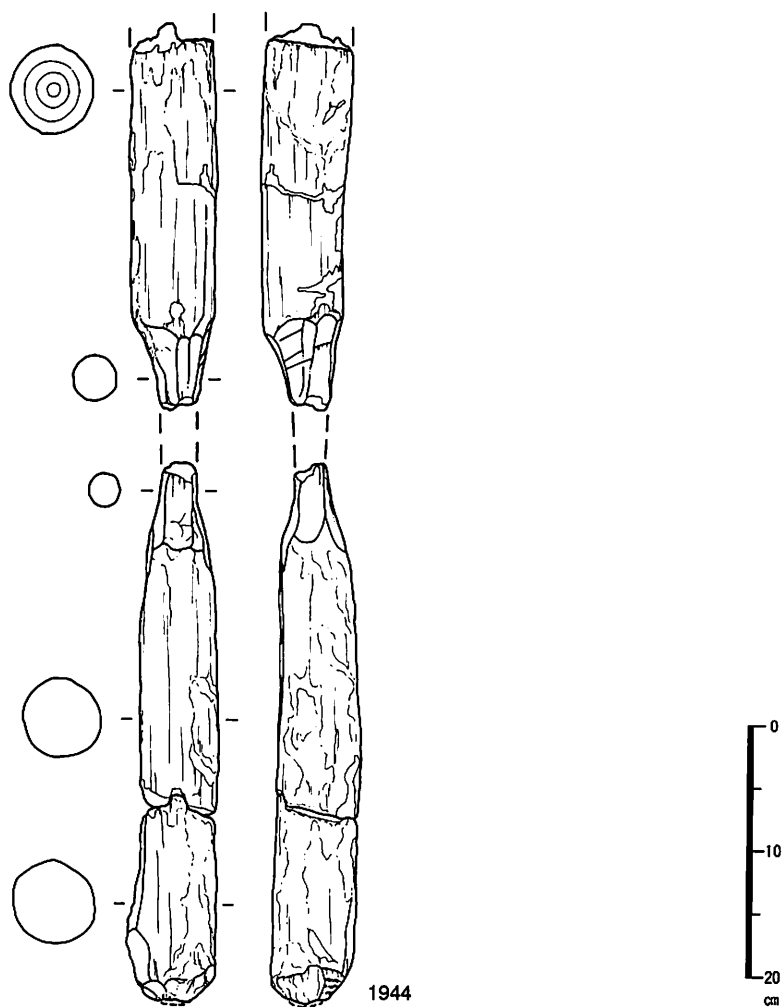
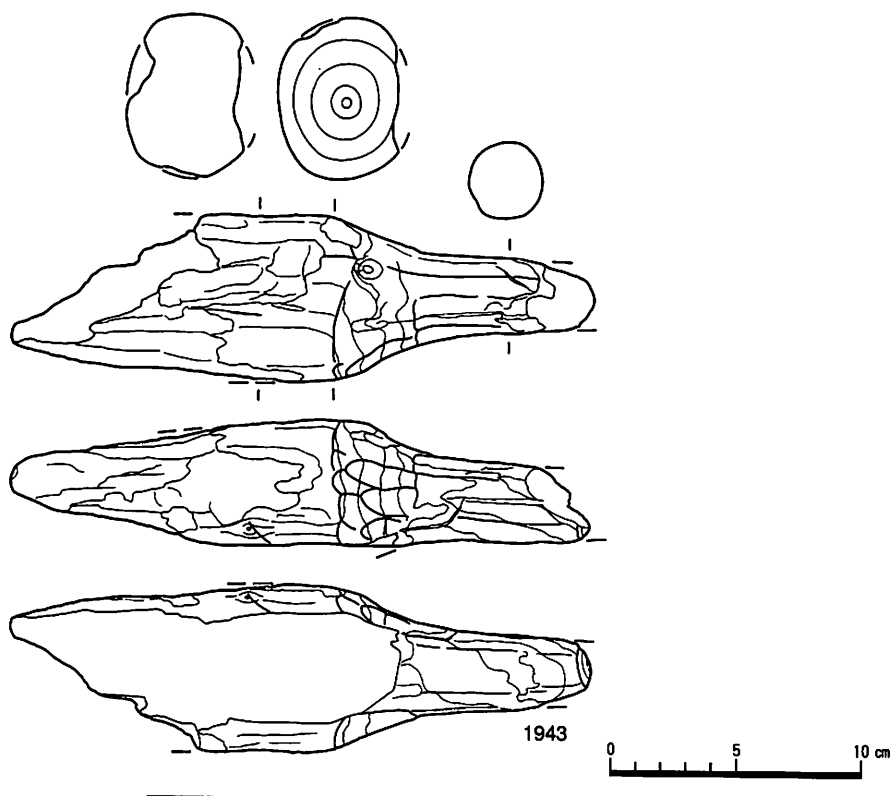




图VI-37 農耕・工具1 (鉄斧柄・横槌①)

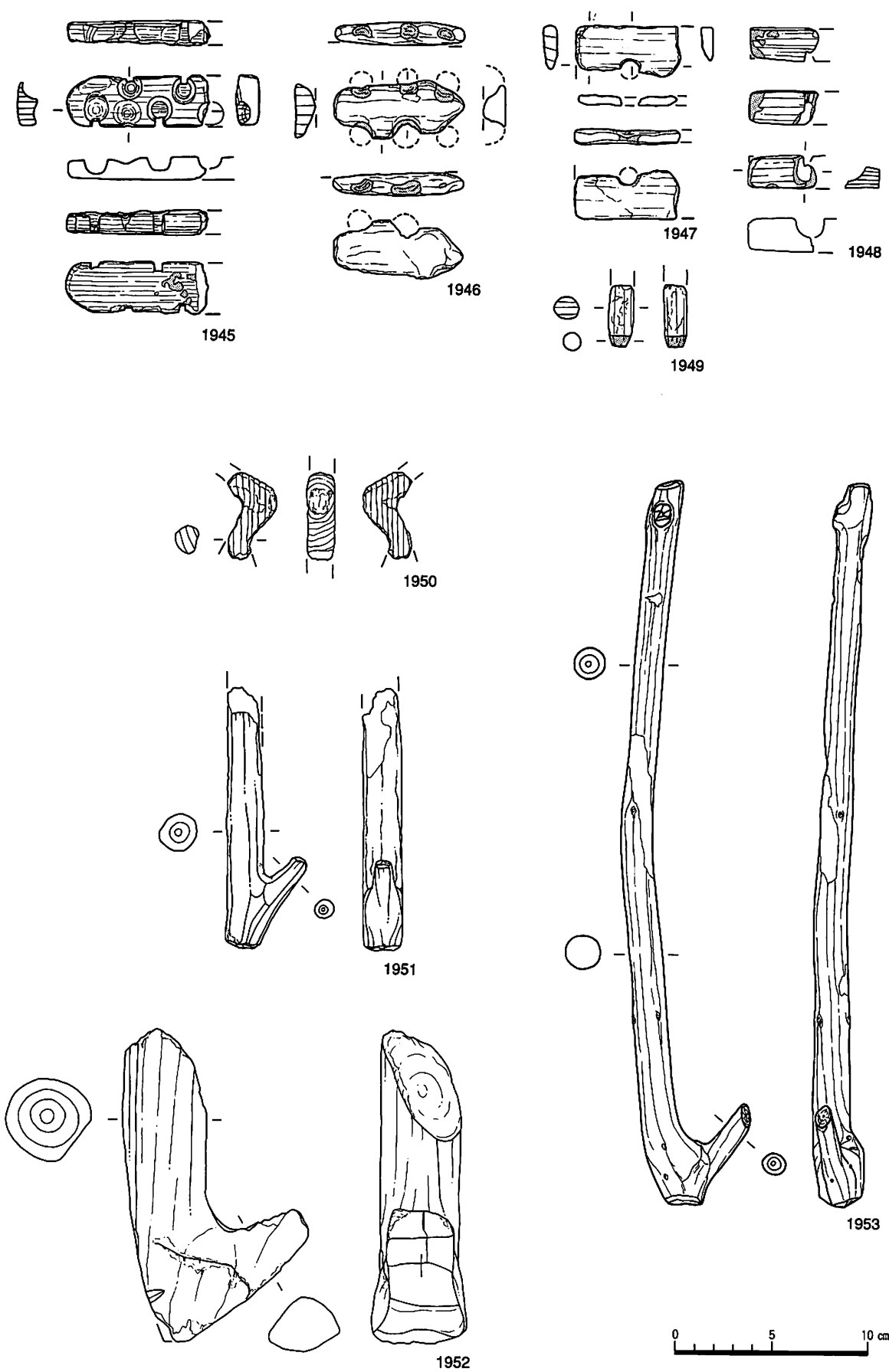


図VI-38 農耕・工具 2 (横槌②)

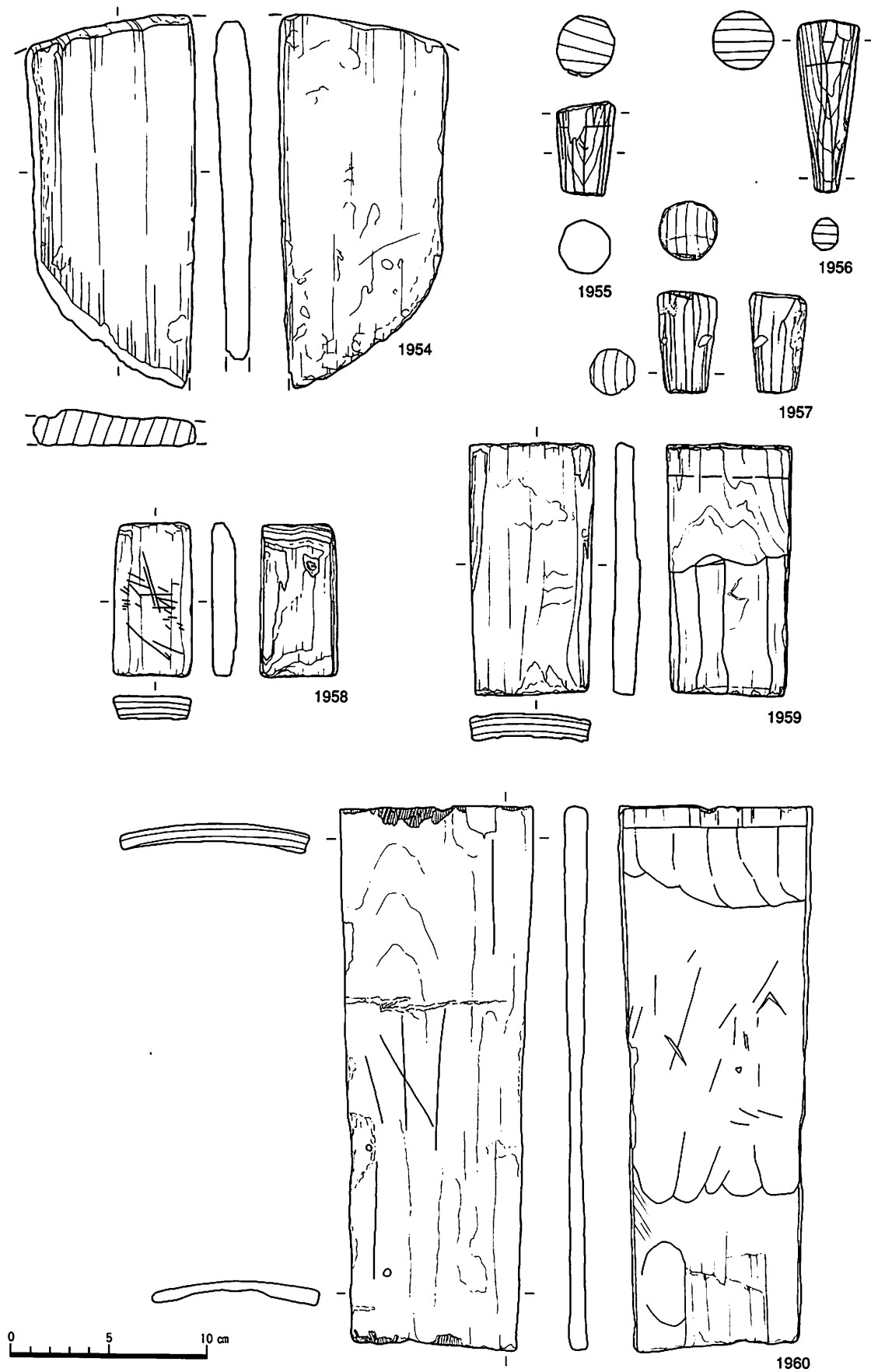


图VI-39 農耕・工具3 (横槌③・竖杵)

VI 重機 (クラムシェル) 調査

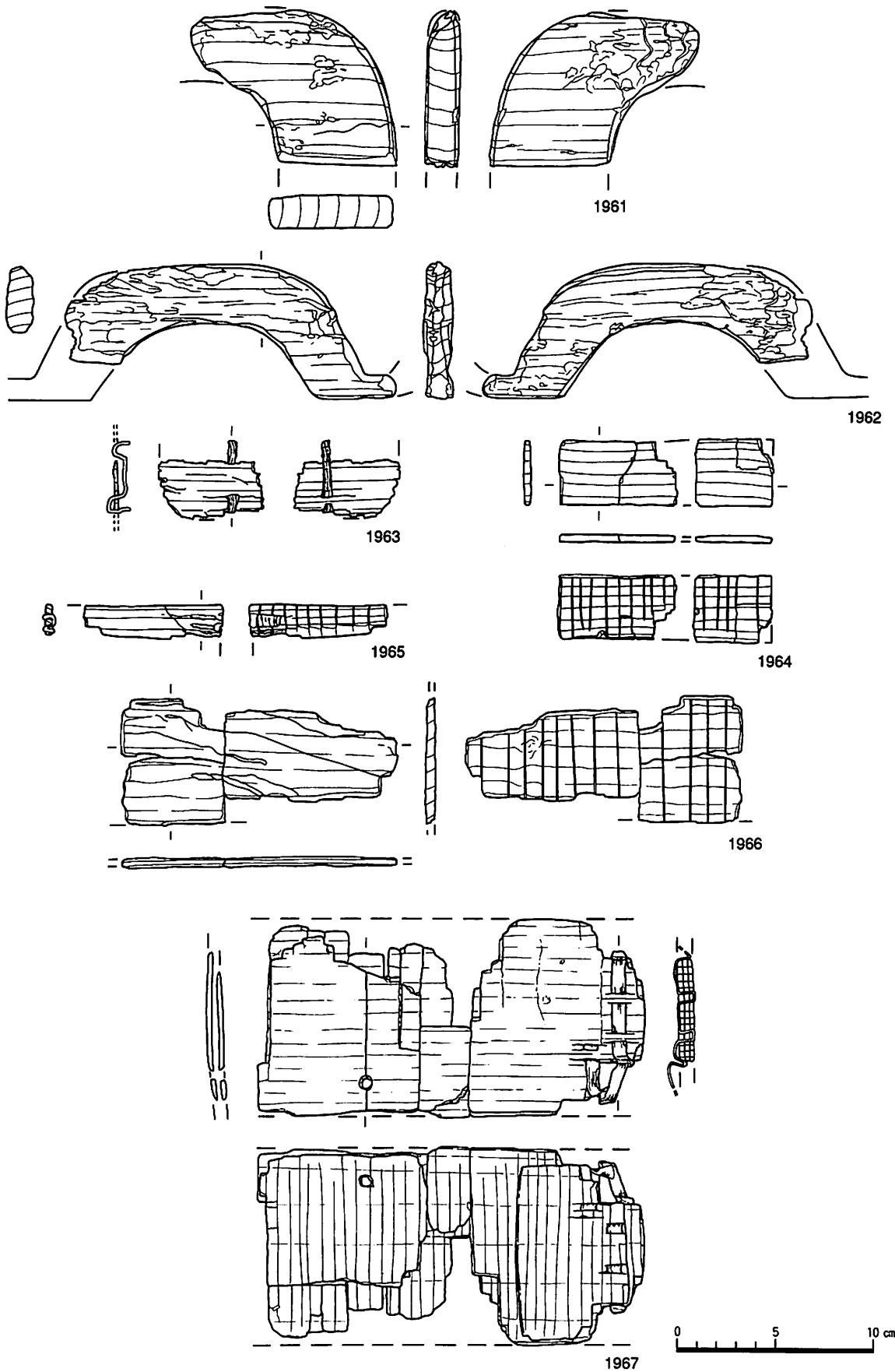


図VI-40 発火具・鈎状製品

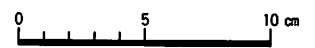
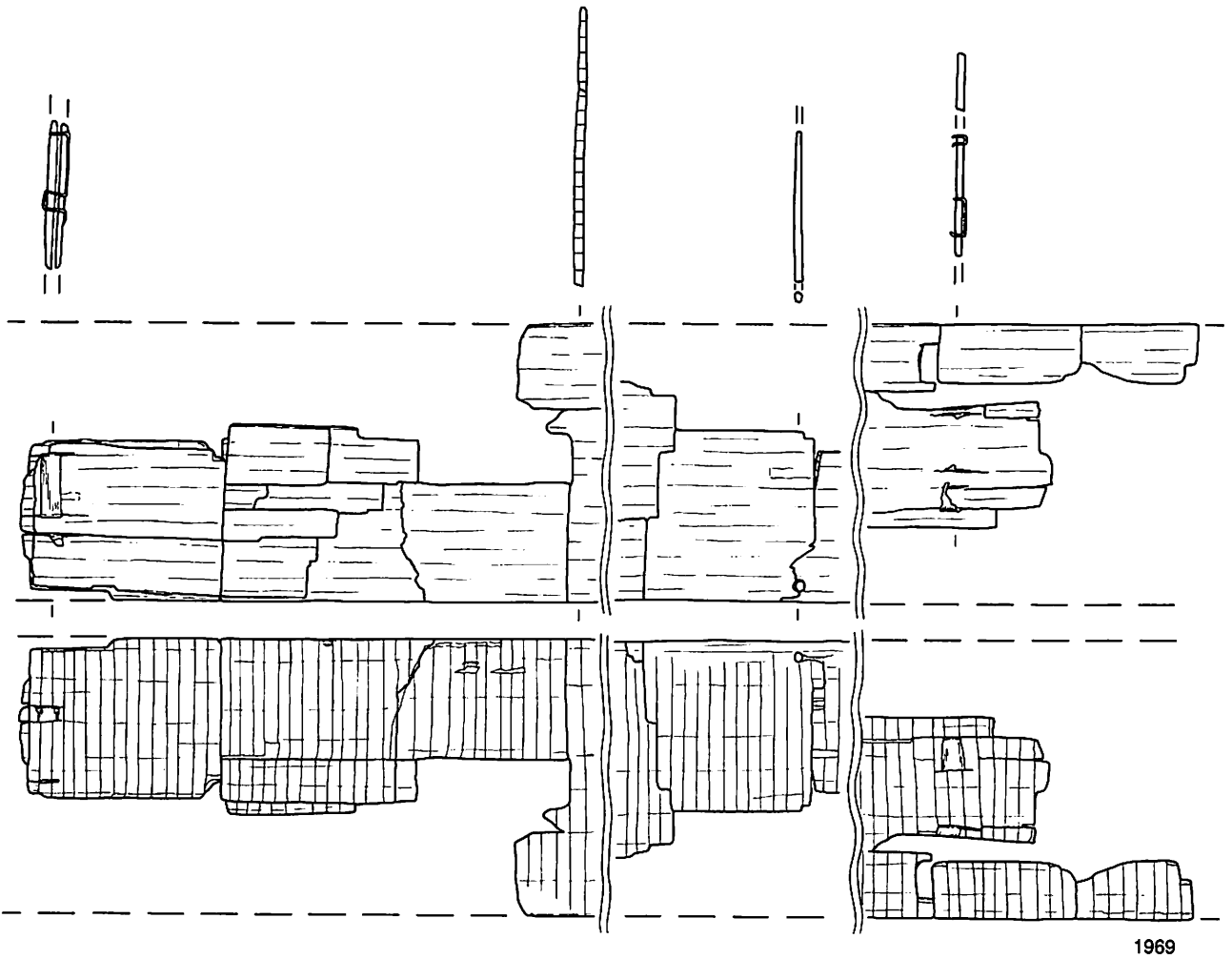
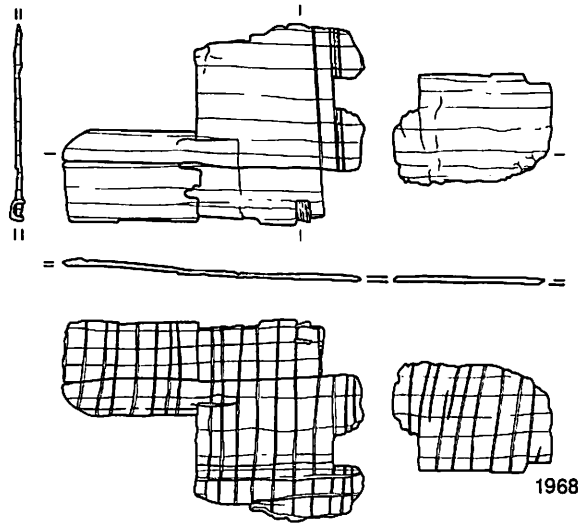


图VI-41 容器類 (桶・樽)

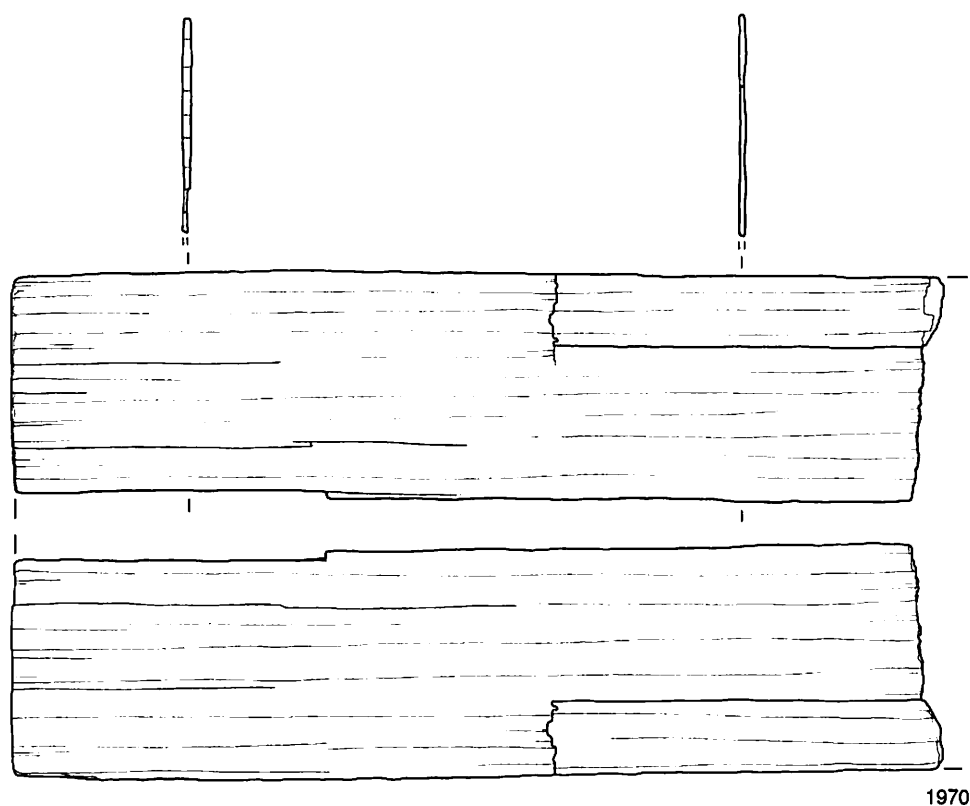
VI 重機 (クラムシェル) 調査



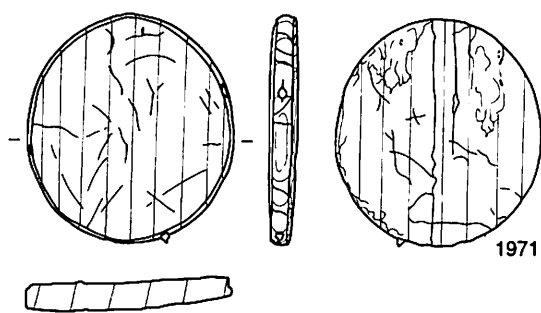
図VI-42 容器類1 (曲げ物把手・側板)



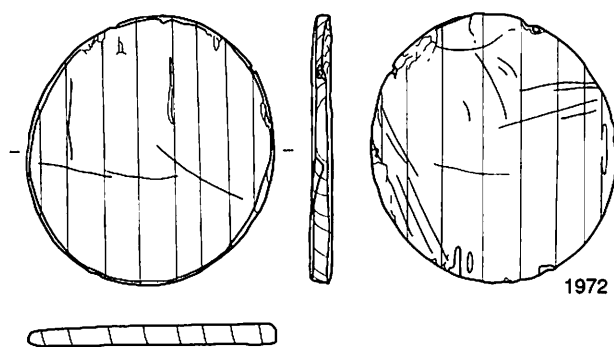
图VI-43 容器類2 (曲げ物側板)



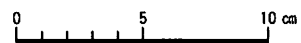
1970



1971

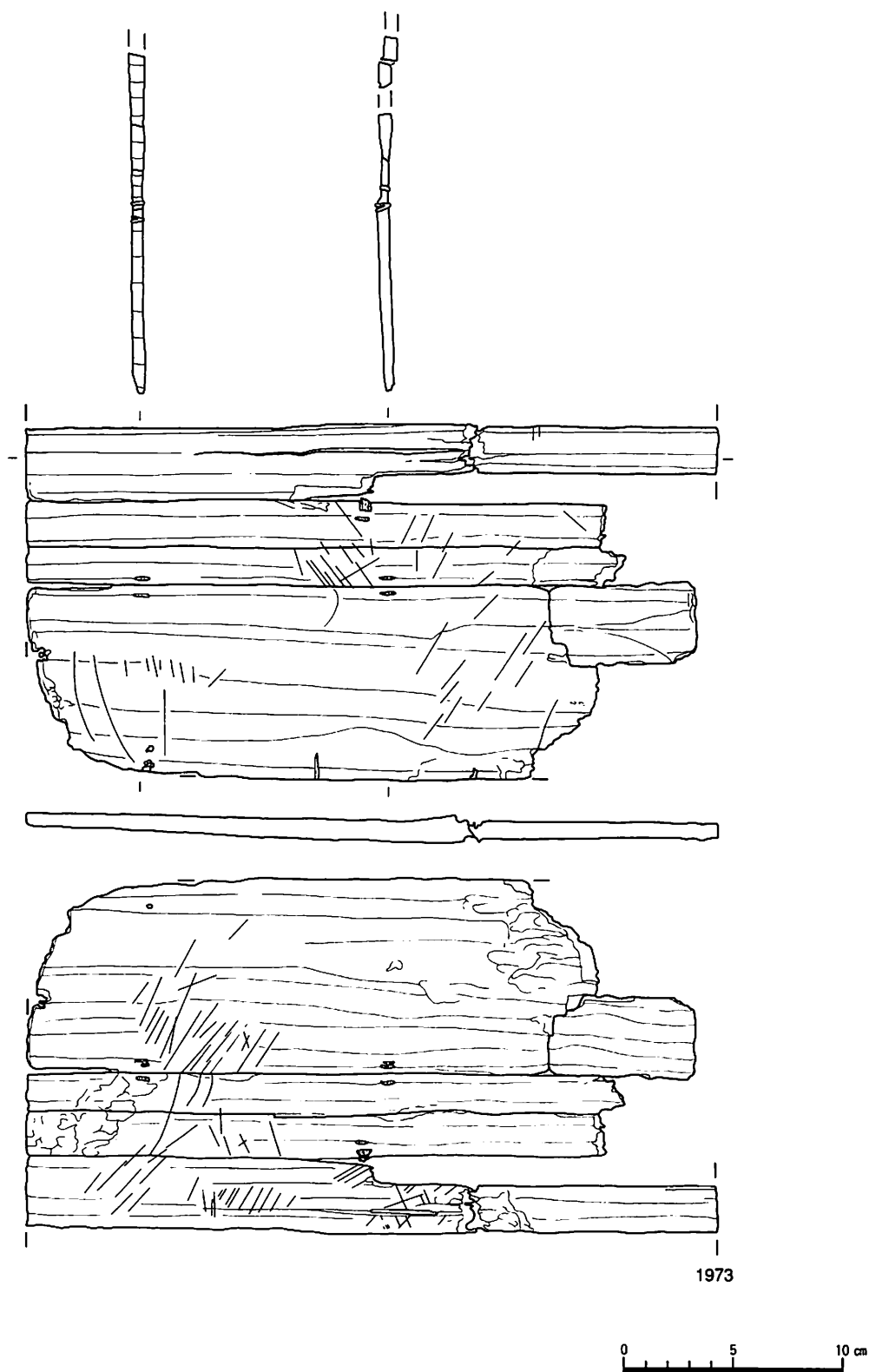


1972

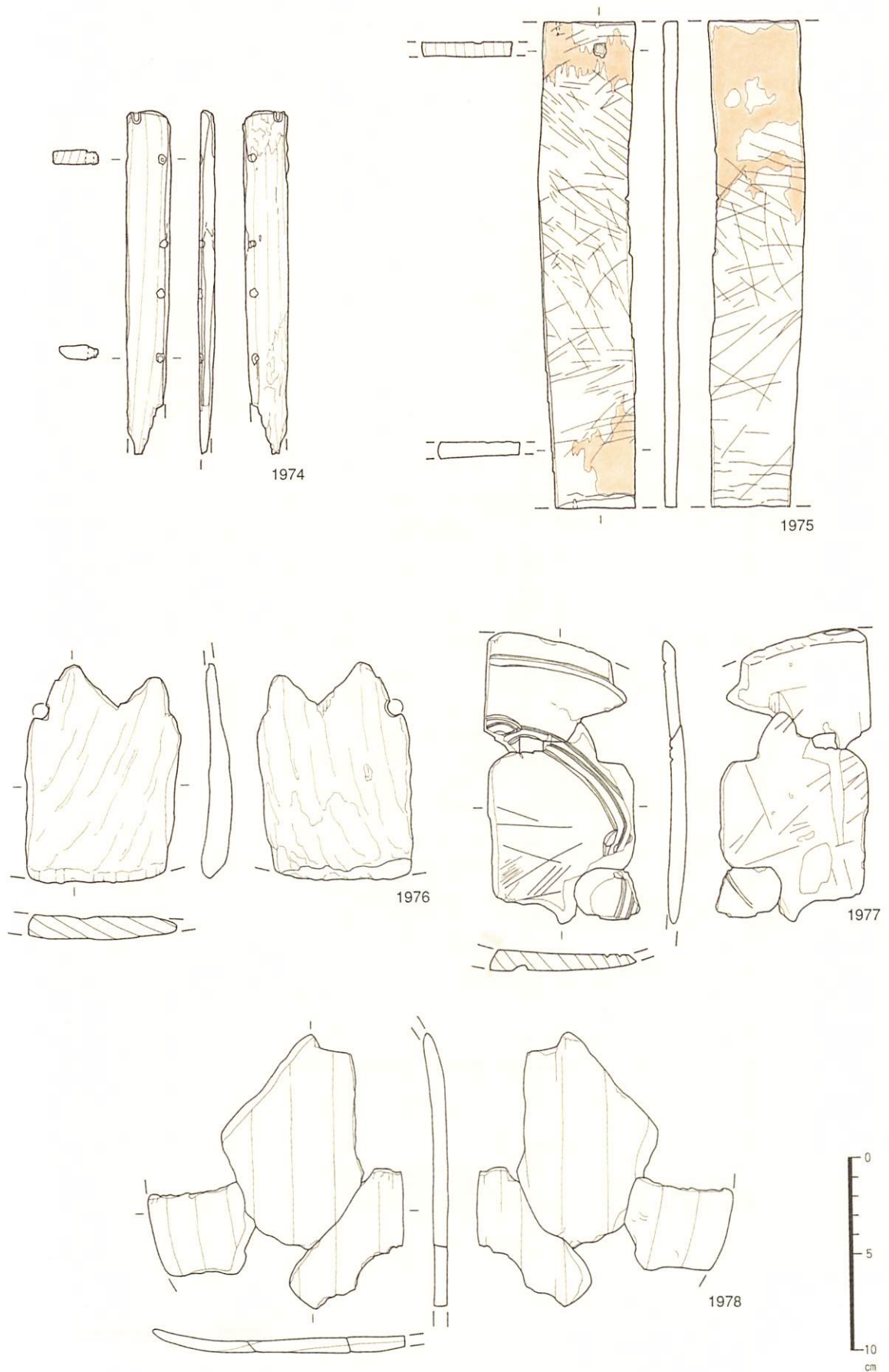


図VI-44 容器類3 (曲げ物側板・底板)

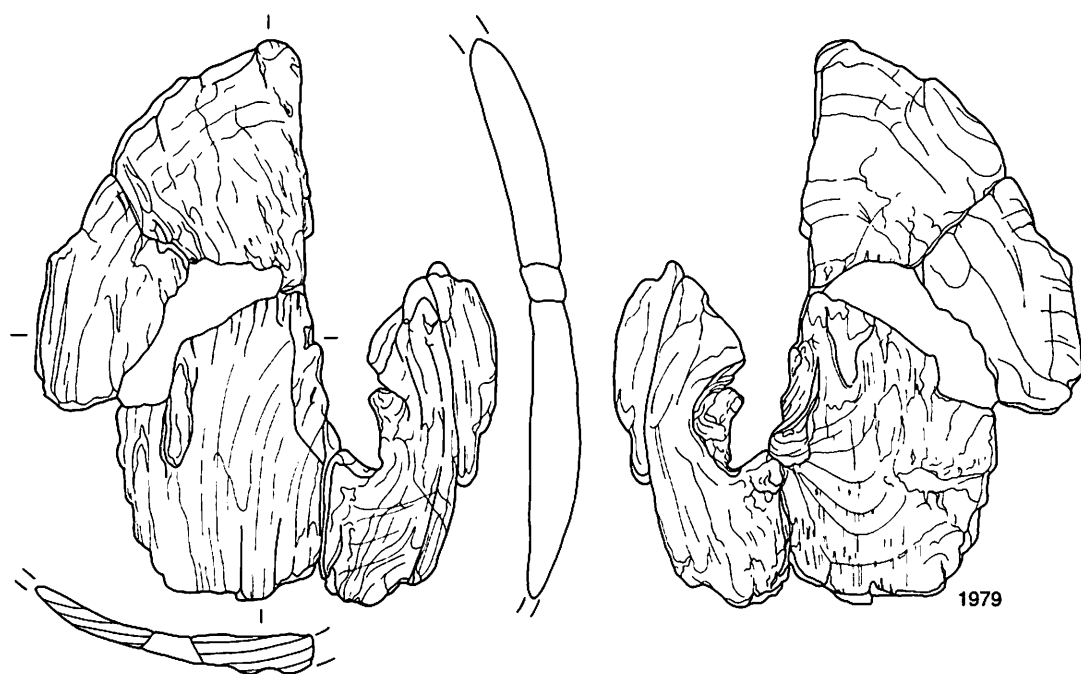




图VI-45 容器類4 (折敷底板)



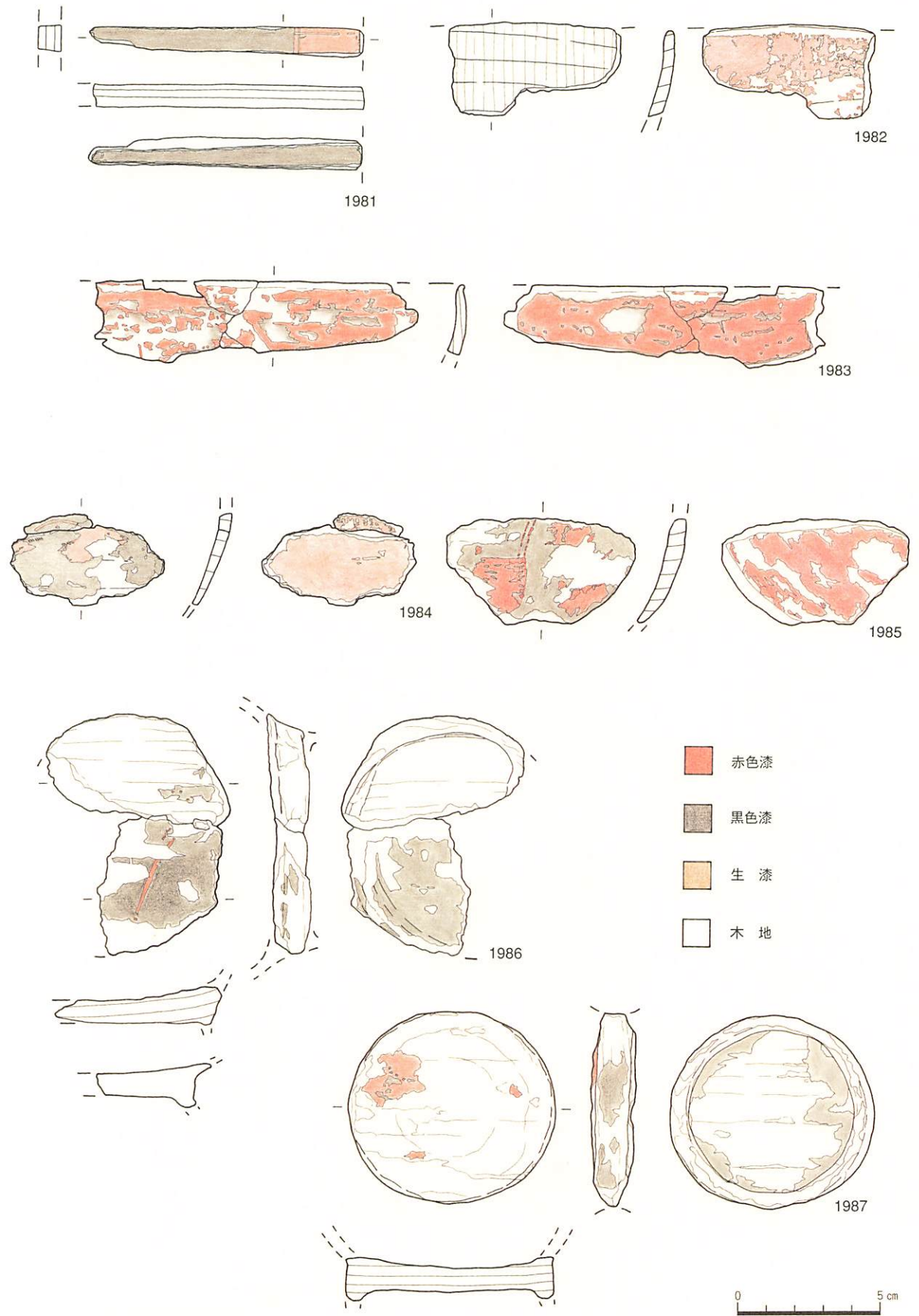
図VI-46 容器類 5 (箱物・盆・剝物)



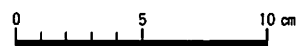
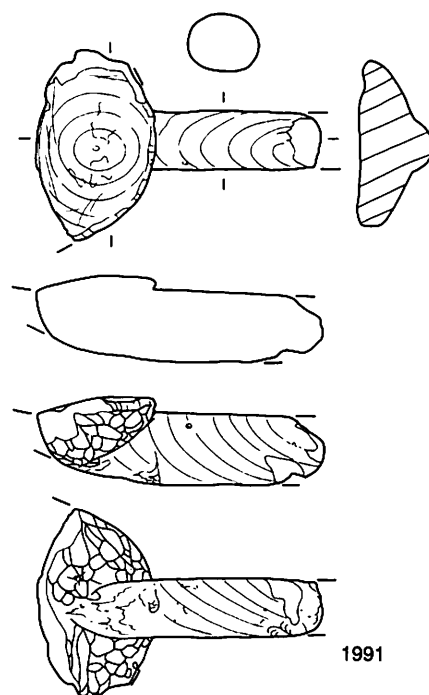
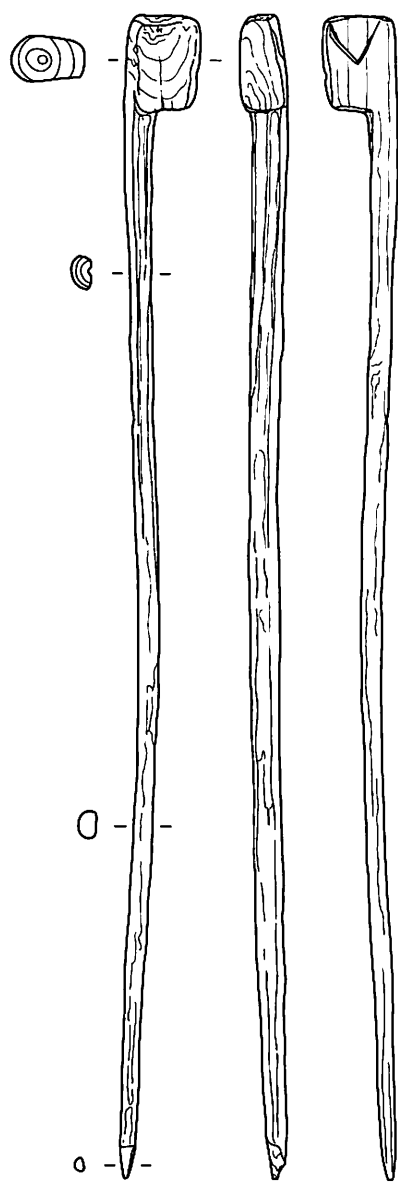
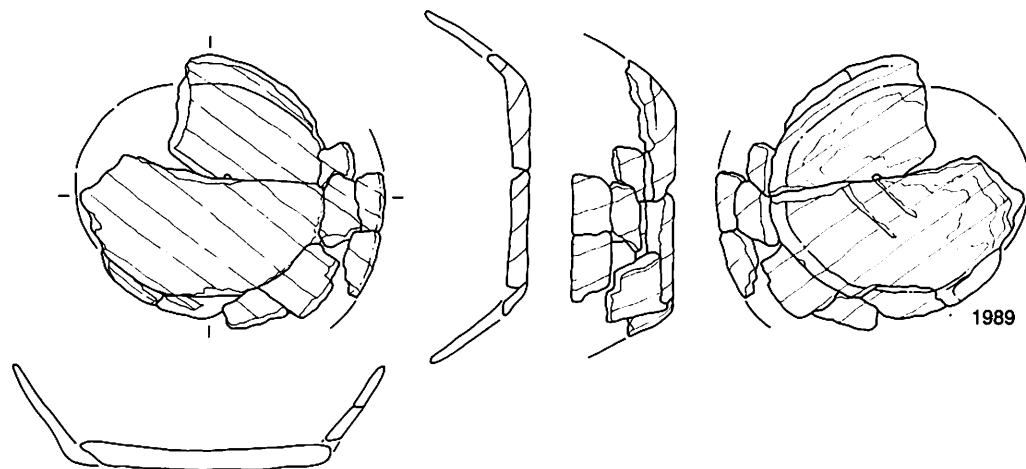
0 5 10 cm

图VI-47 容器類6 (盆・剥物)

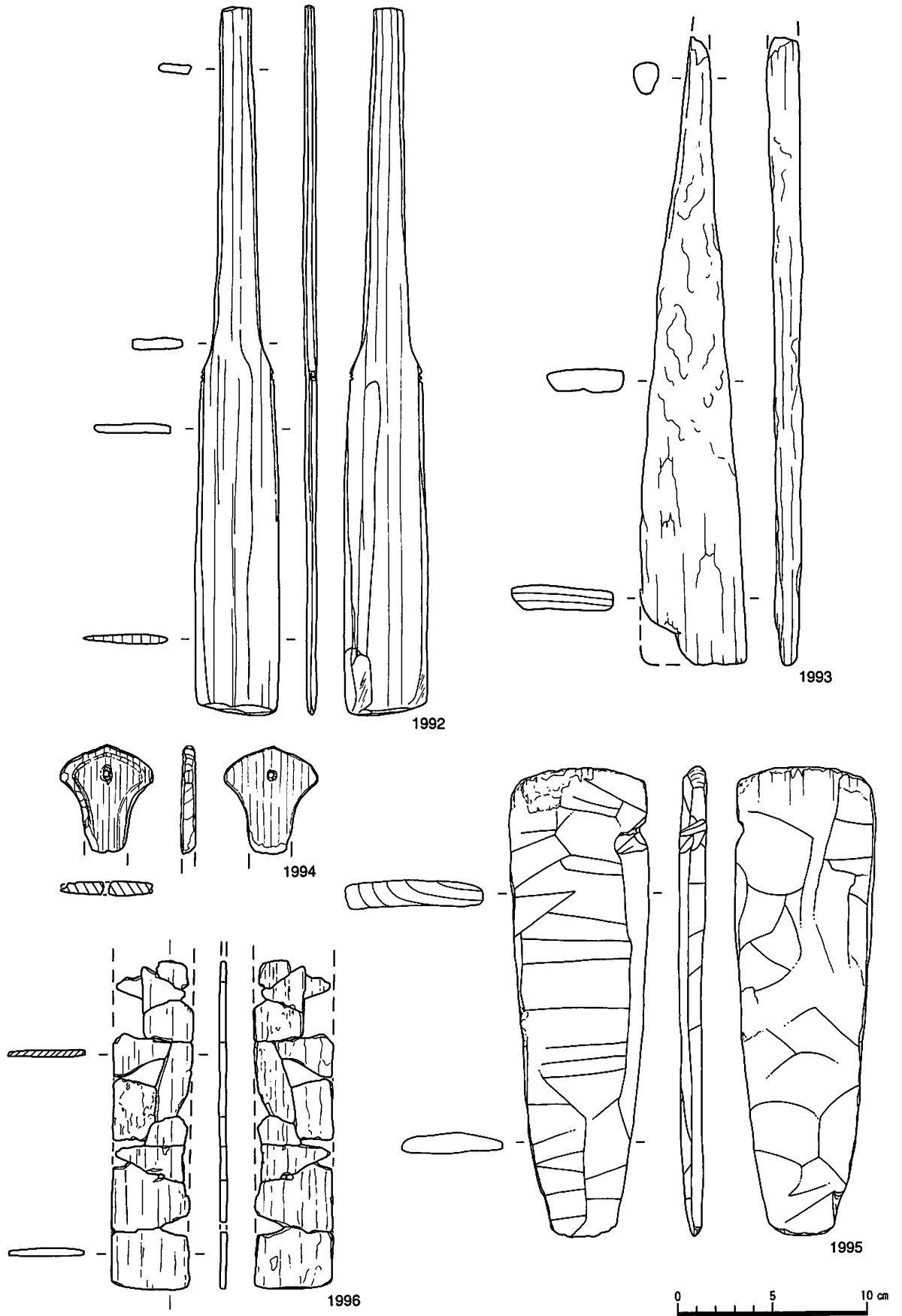
VI 重機 (クラムシェル) 調査



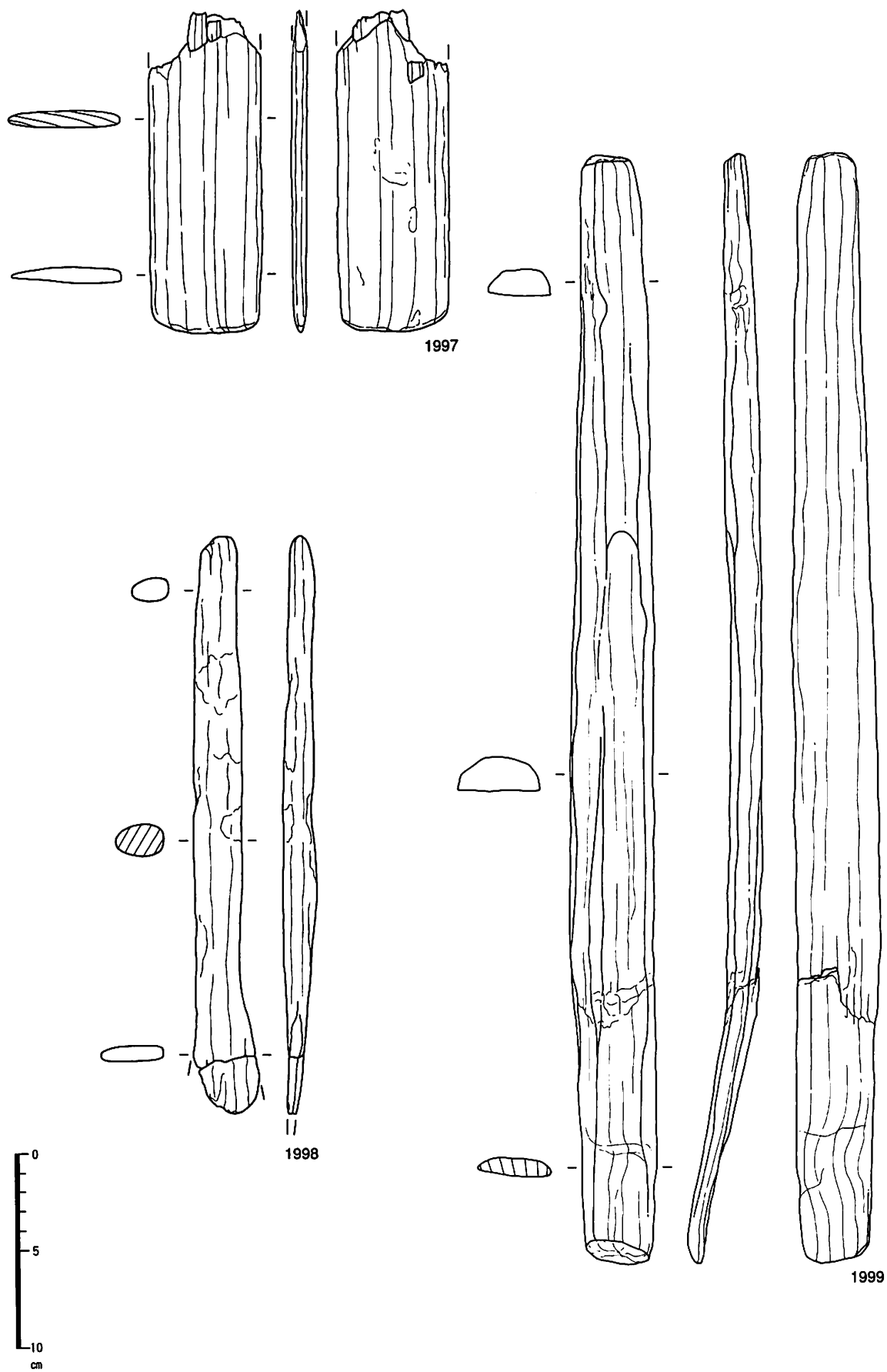
図VI-48 容器類7 (漆塗箱物底板・漆塗椀)



图VI-49 容器類8・食用具1 (剝物・杓子柄)

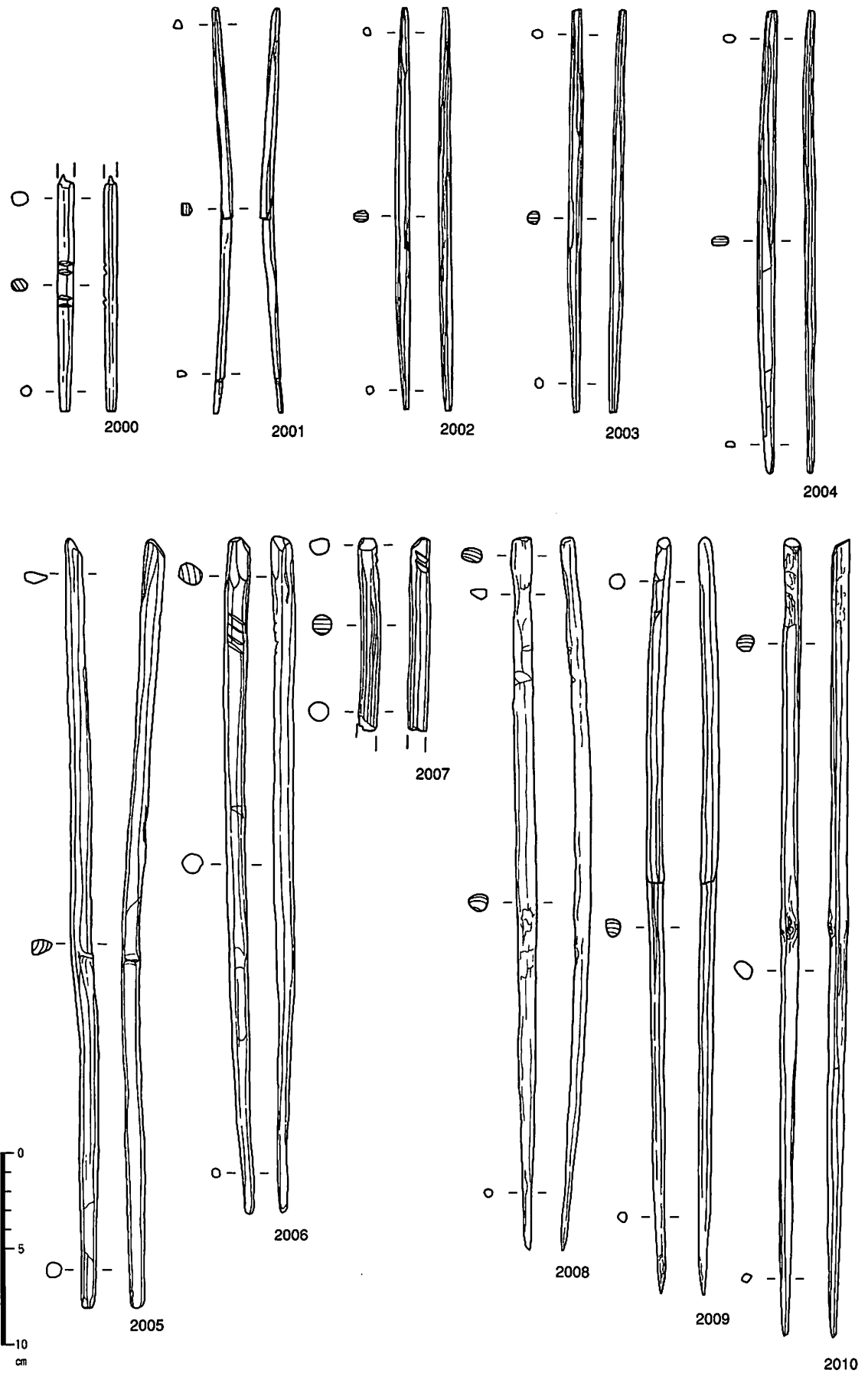


図VI-50 食用具 1 (筥①)



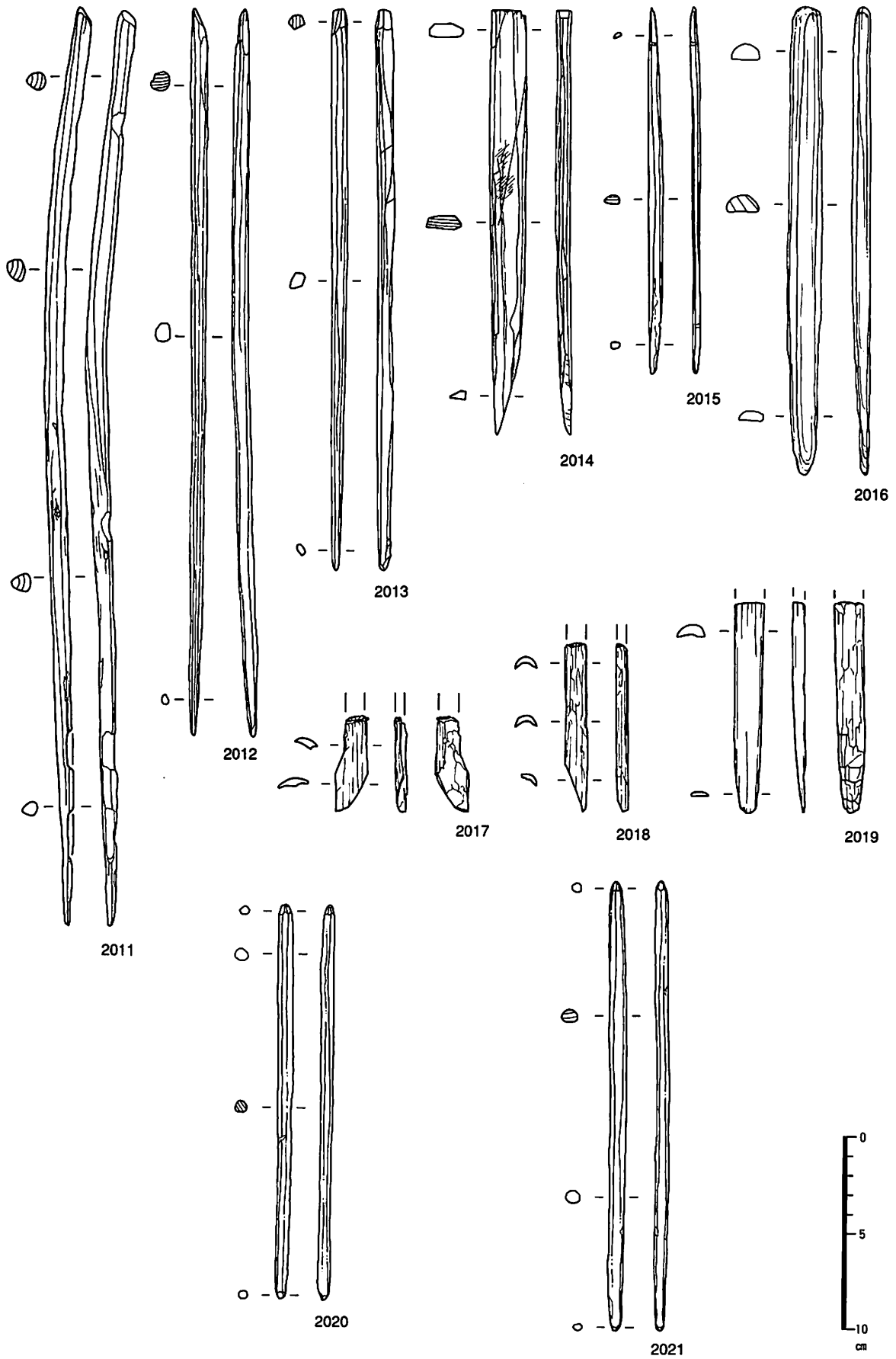
图VI-51 食用具 2 (箸②)

VI 重機 (クラムシェル) 調査



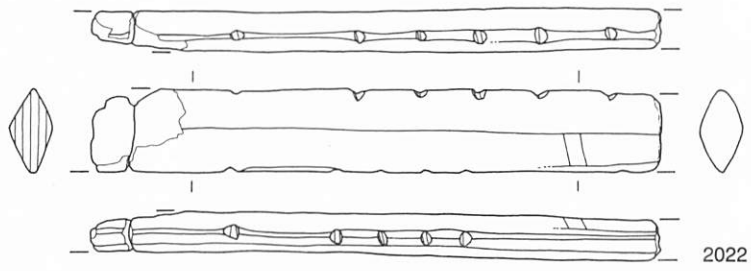
図VI-52 食用具3 (両口箸・片口箸)



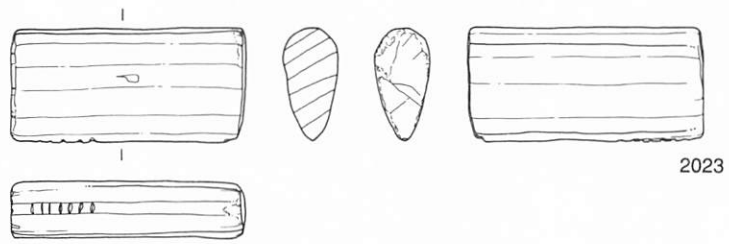


図VI-53 食用具4 (串)・歩行具 (カンジキ軸)

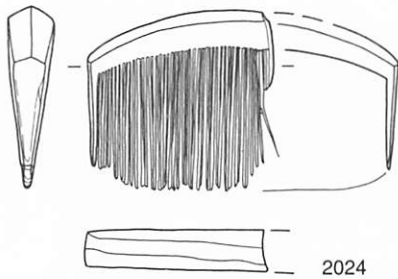
VI 重機 (クラムシェル) 調査



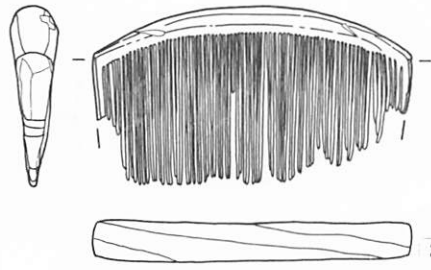
2022



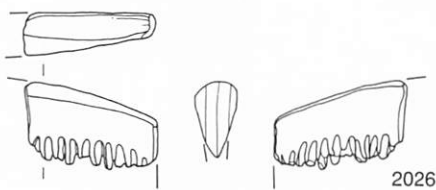
2023



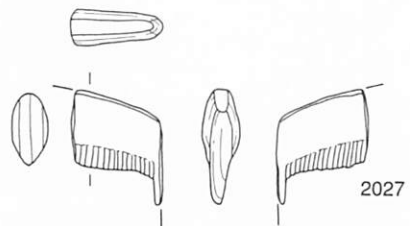
2024



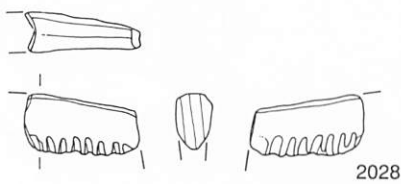
2025



2026



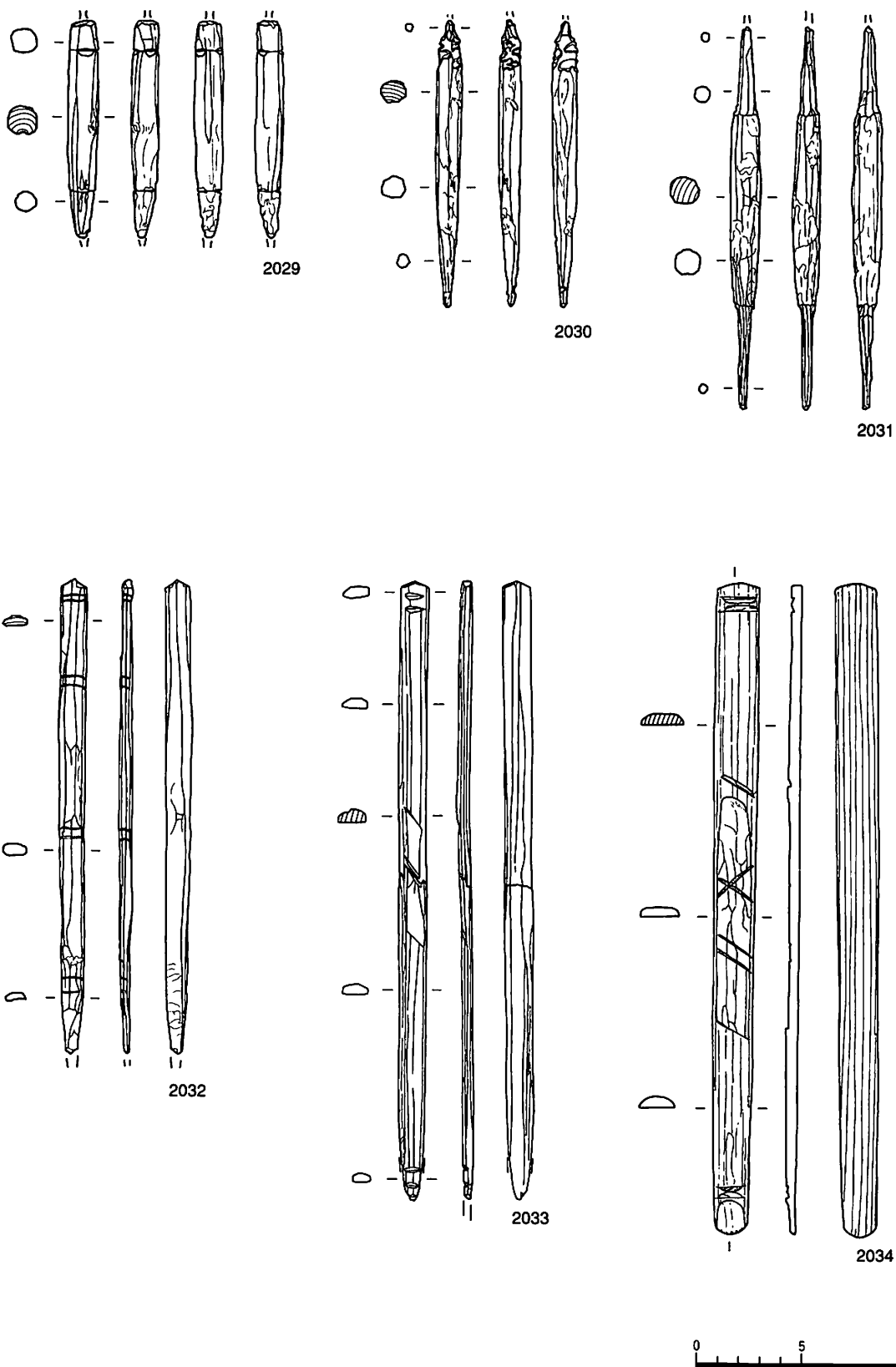
2027



2028

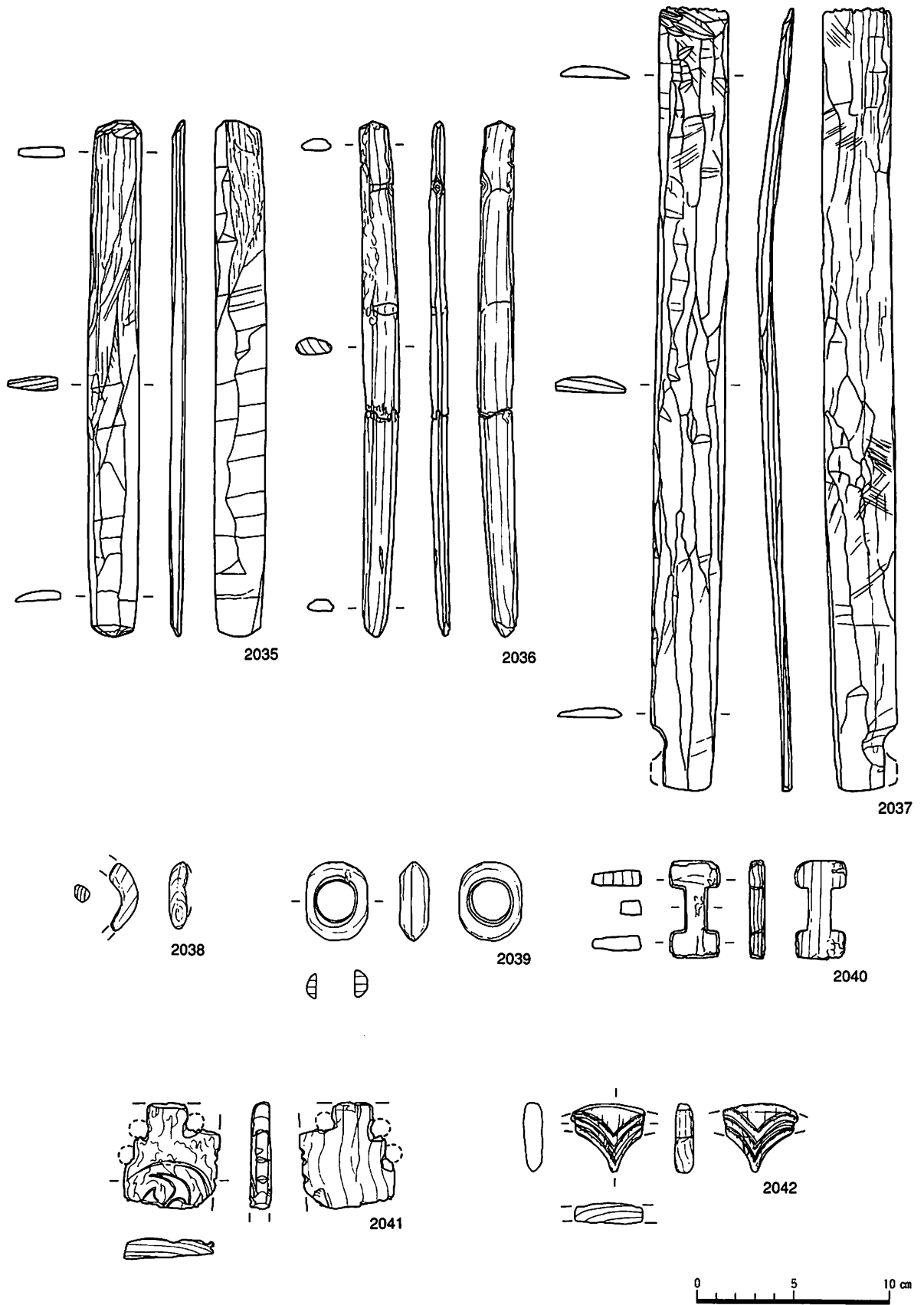


図VI-54 紡織編具・装身具 (櫛)

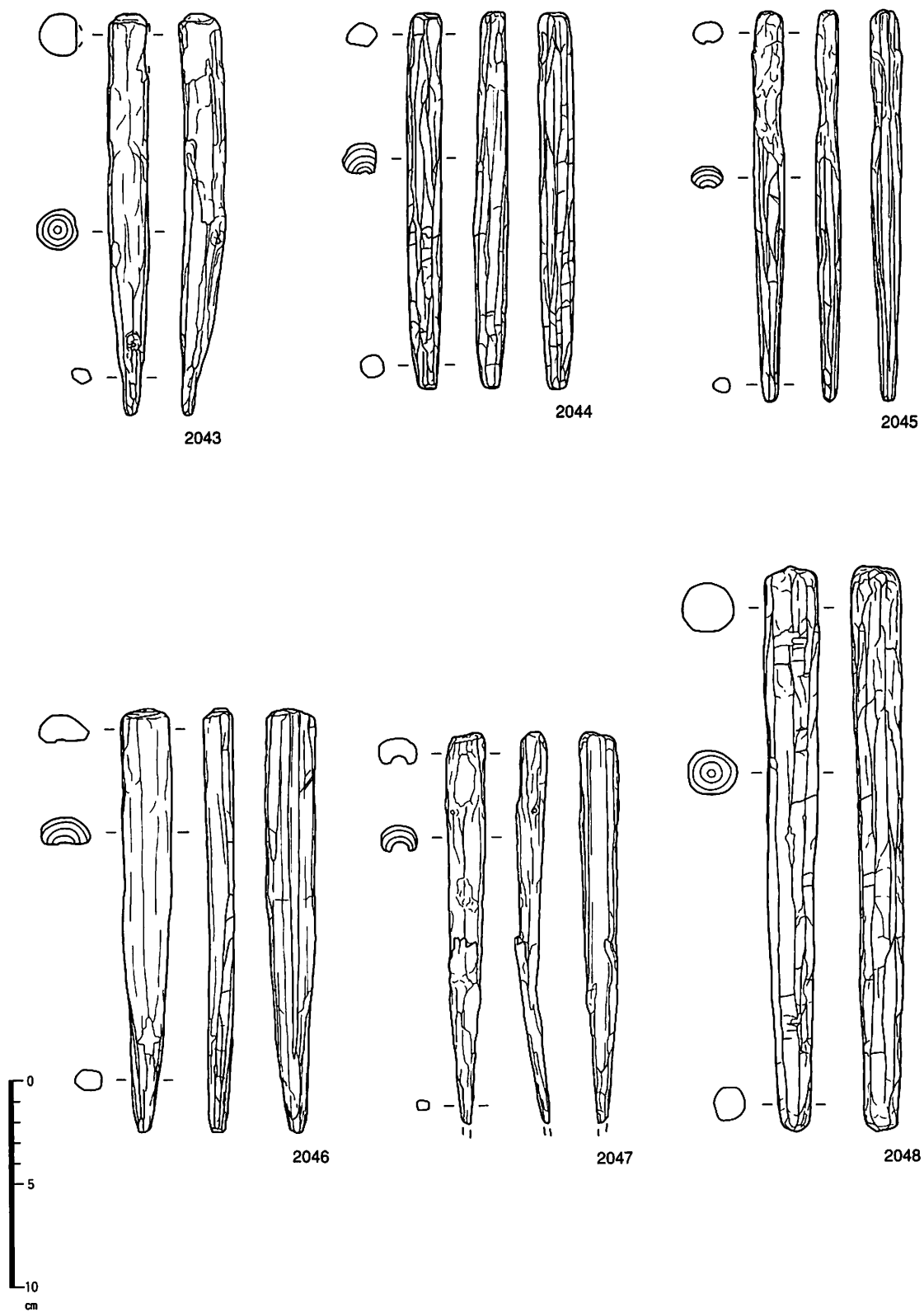


図VI-55 祭祀・儀礼具（花矢・飾り串・捧酒箸〔筥〕）

VI 重機 (クラムシェル) 調査

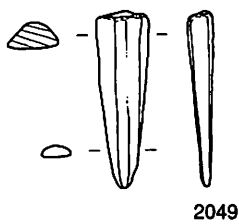


図VI-56 祭祀・儀礼具 (捧酒箸〔筥〕)・加工材

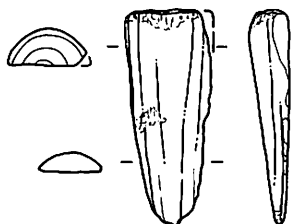


图VI-57 轴状製品 1

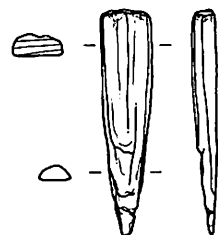
VI 重機 (クラムシェル) 調査



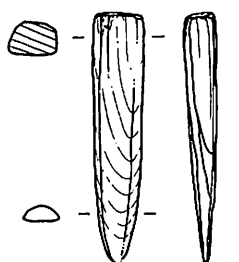
2049



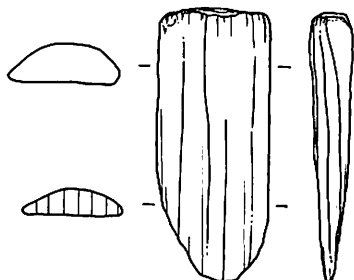
2050



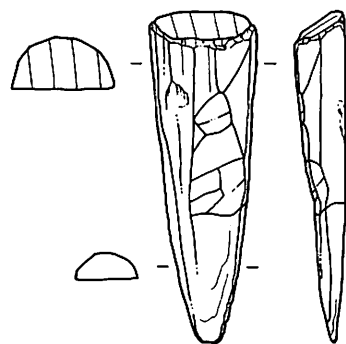
2051



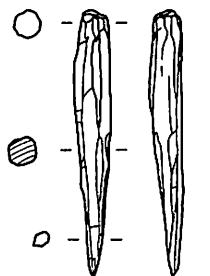
2052



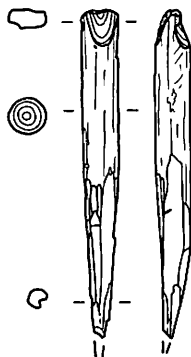
2053



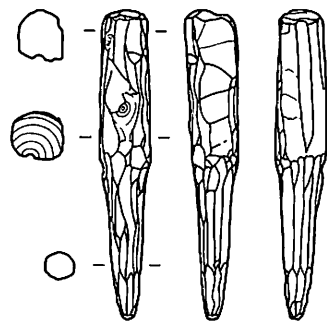
2054



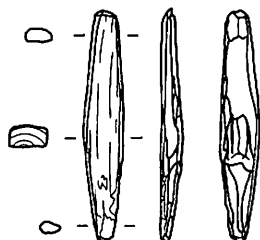
2055



2056



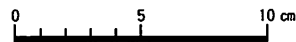
2057



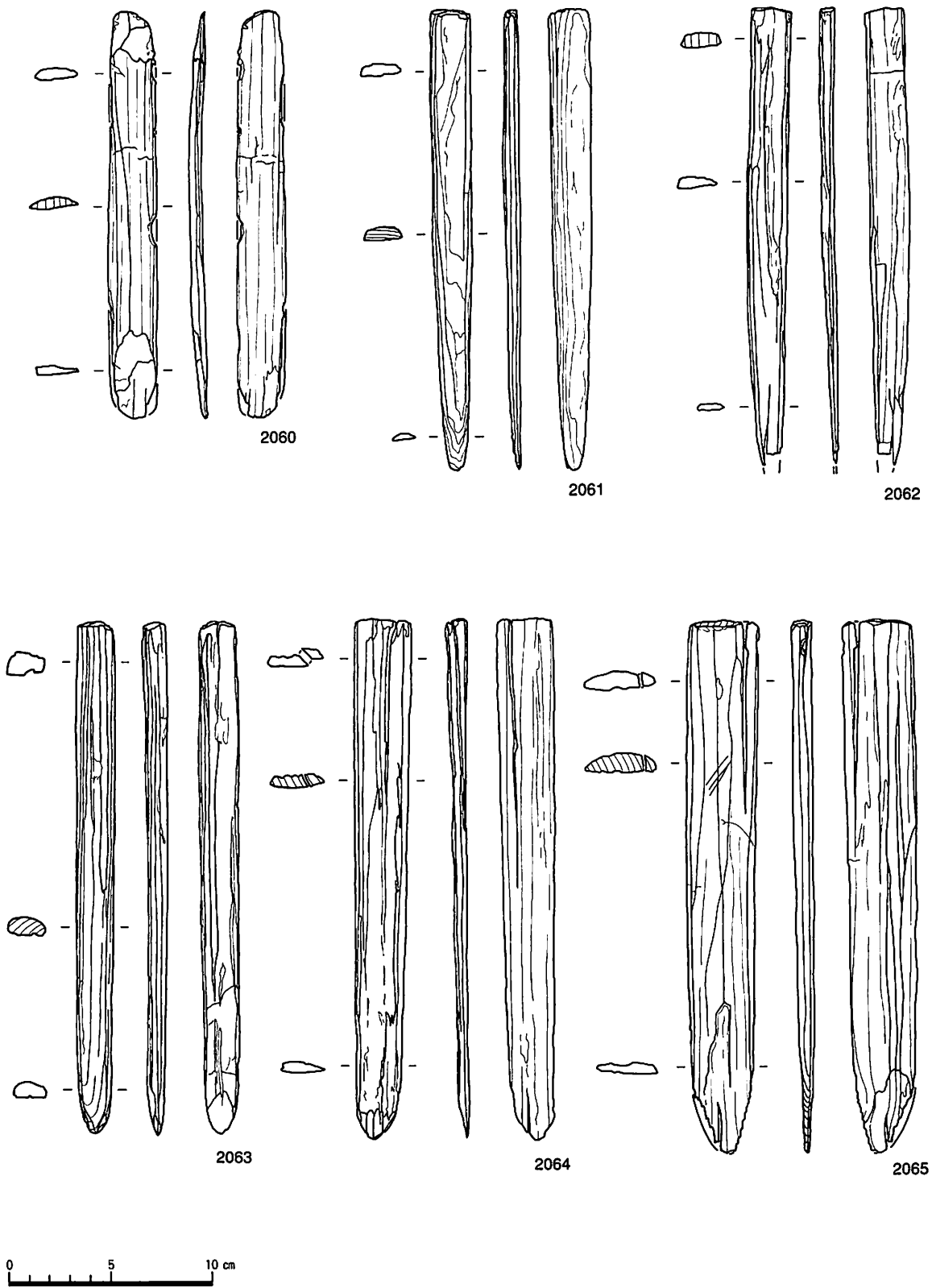
2058



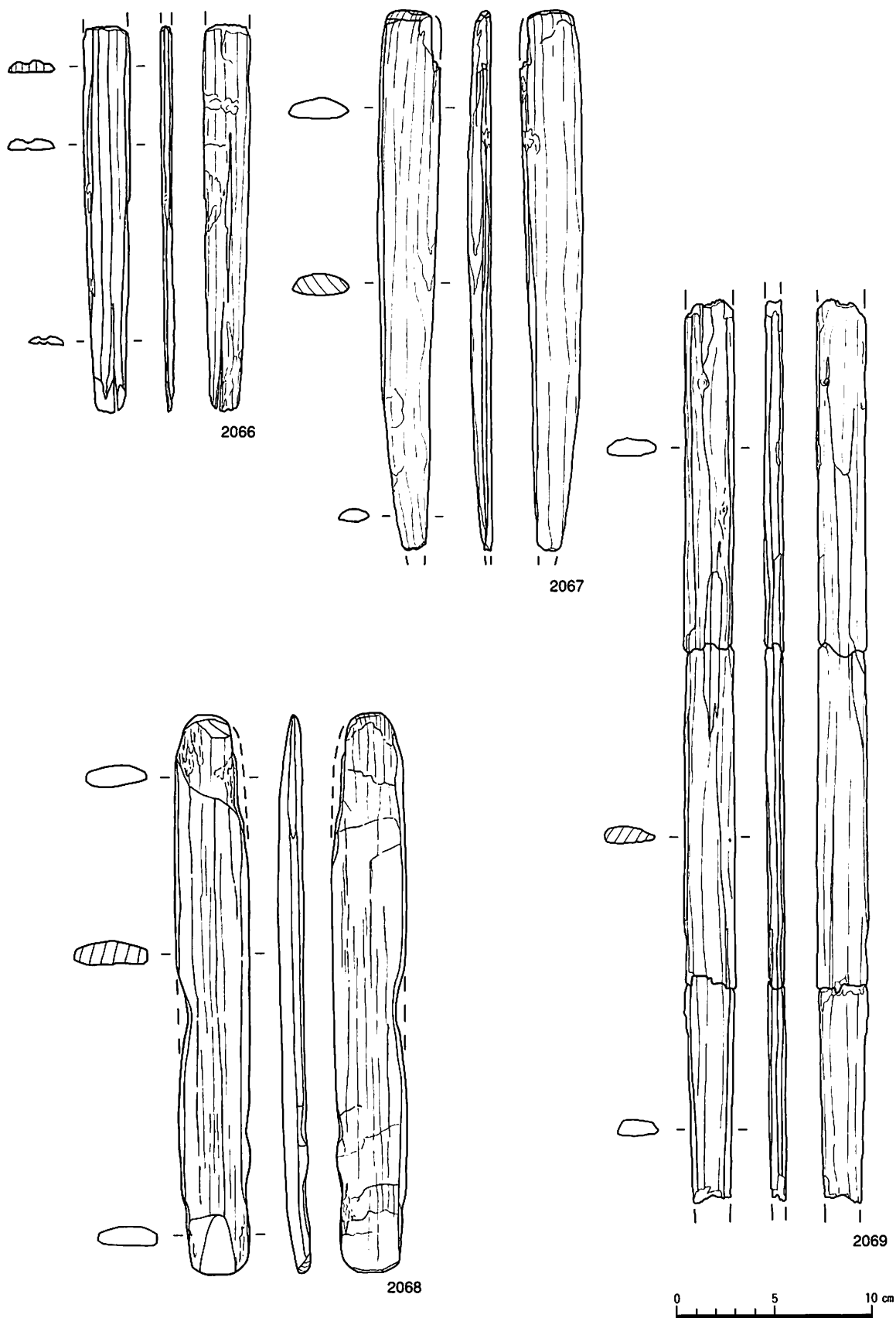
2059



図VI-58 楔状製品・ピン状製品

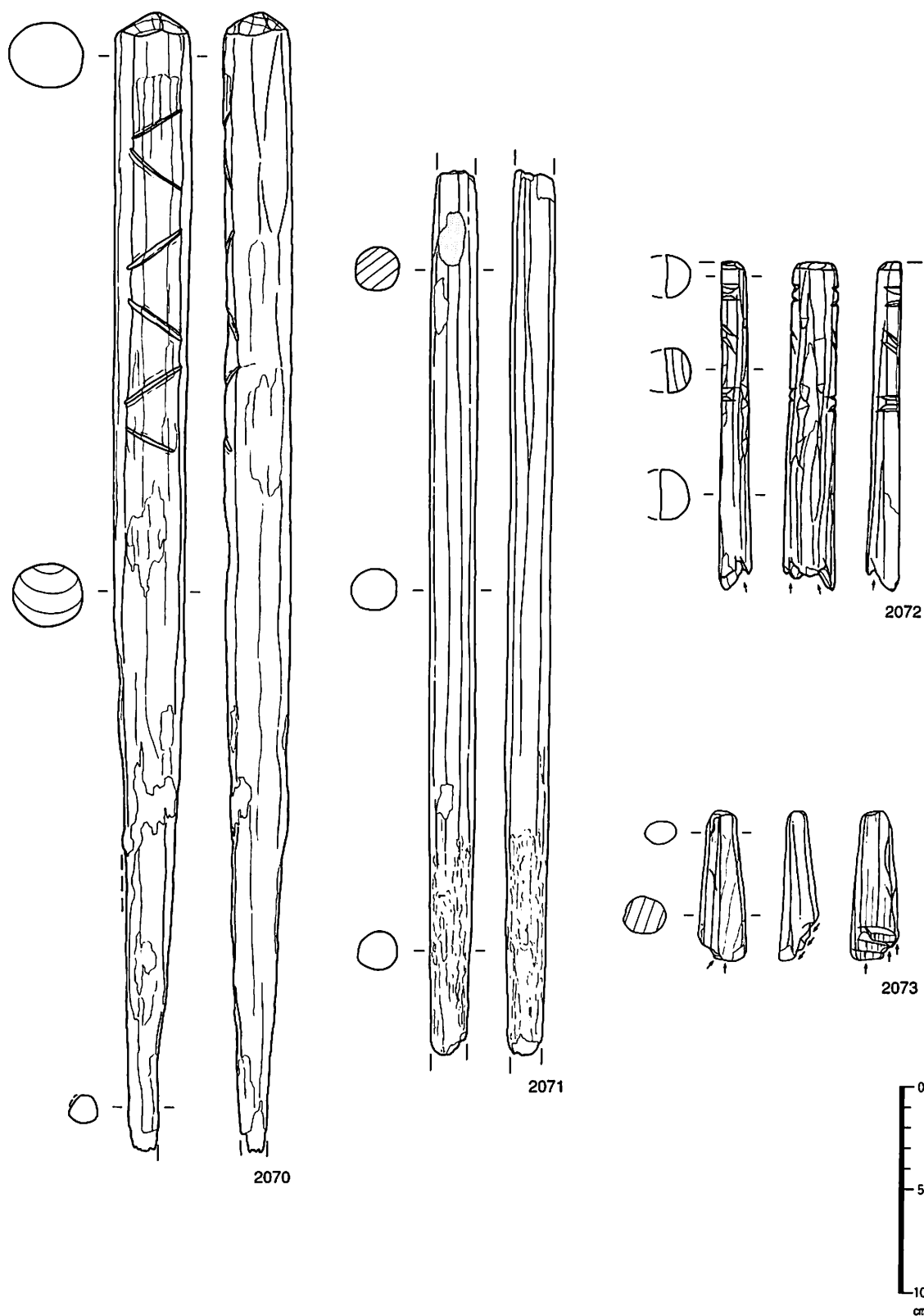


图VI-59 棒酒箸状製品 1

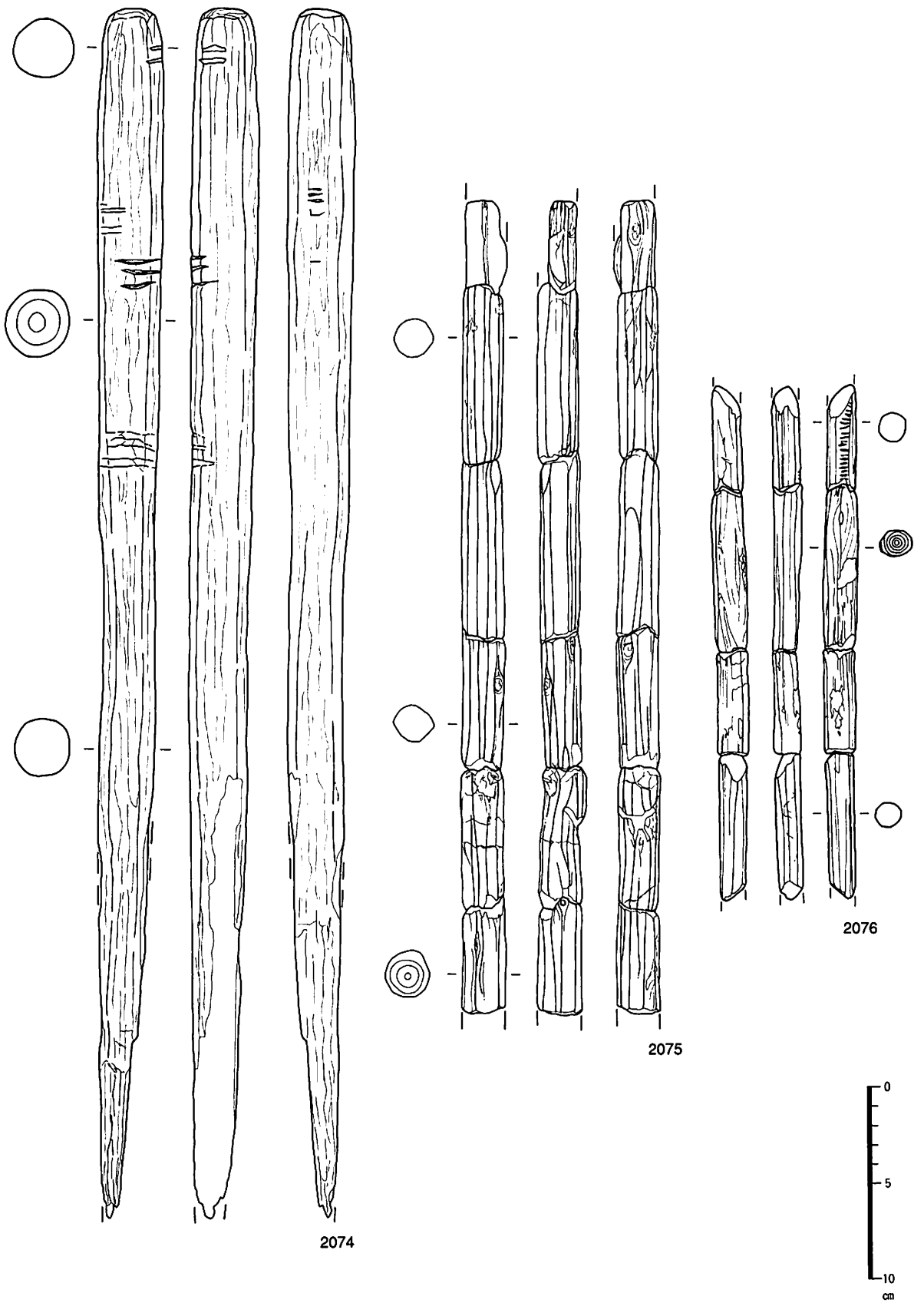


図VI-60 捧酒箸状製品 2

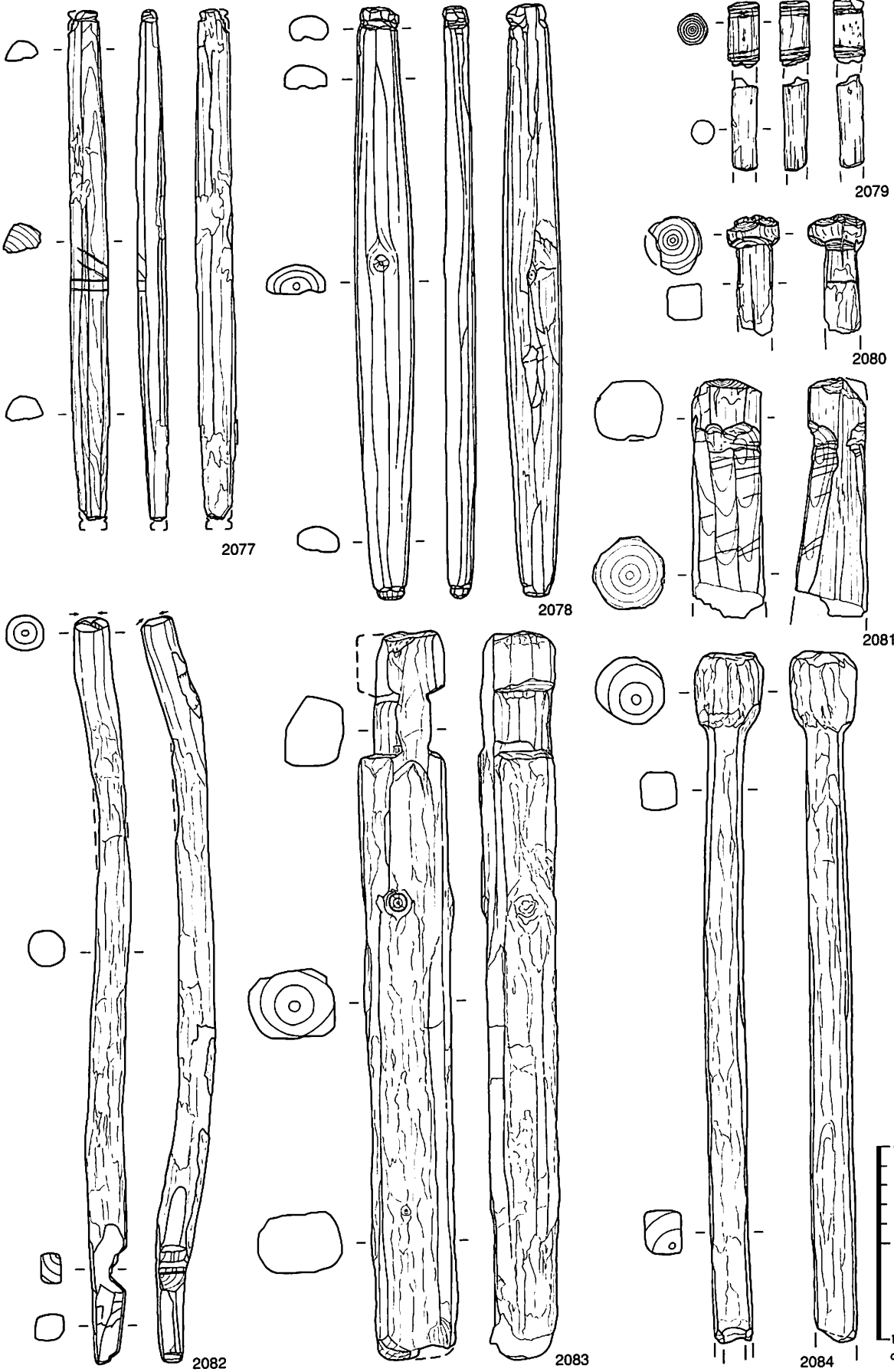




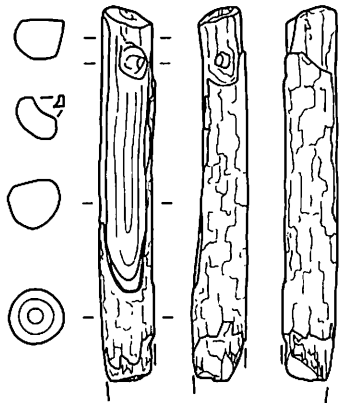
图VI-61 丸材



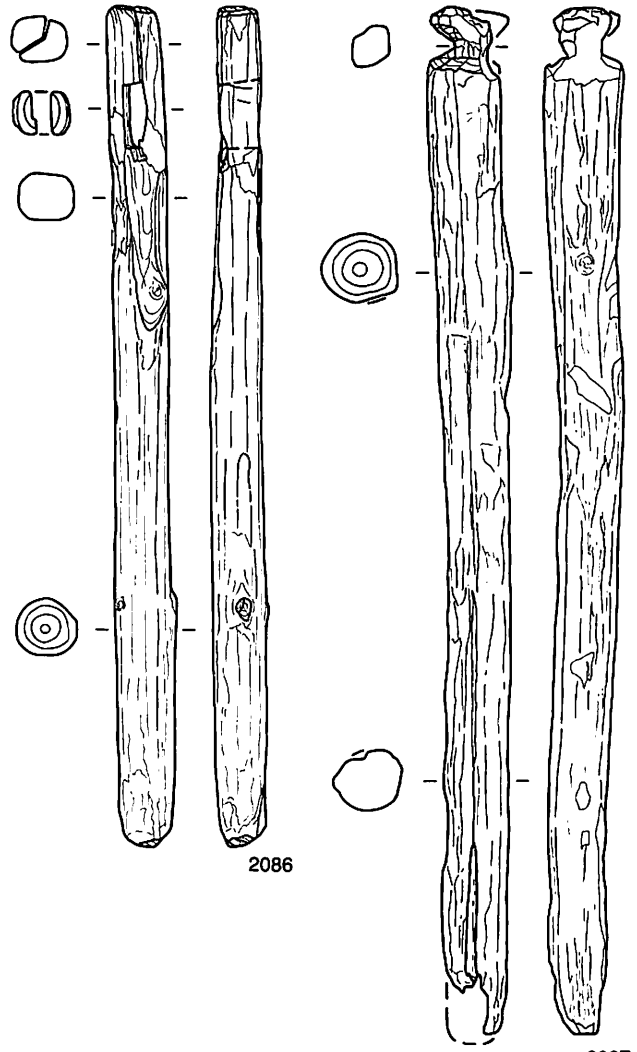
図VI-62 丸木材



図VI-63 挟入部付丸木材・角材



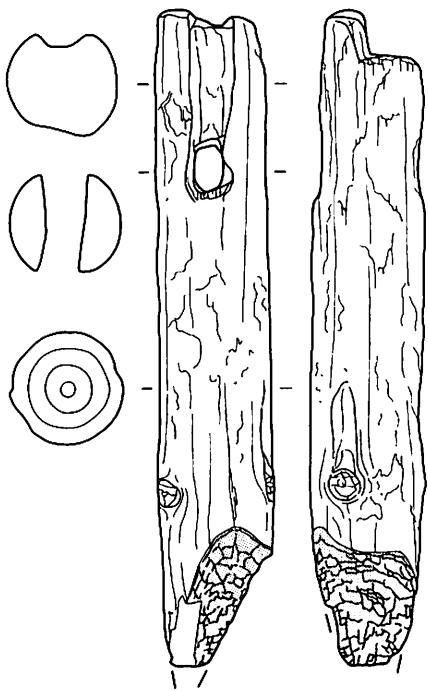
2085



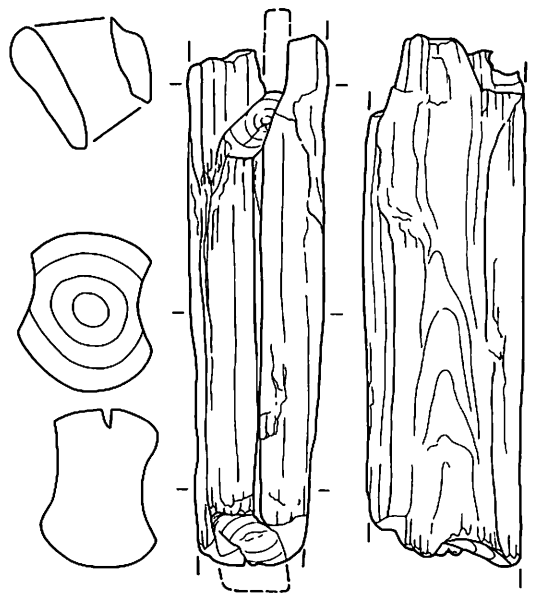
2086

2087

0  
10  
20  
cm



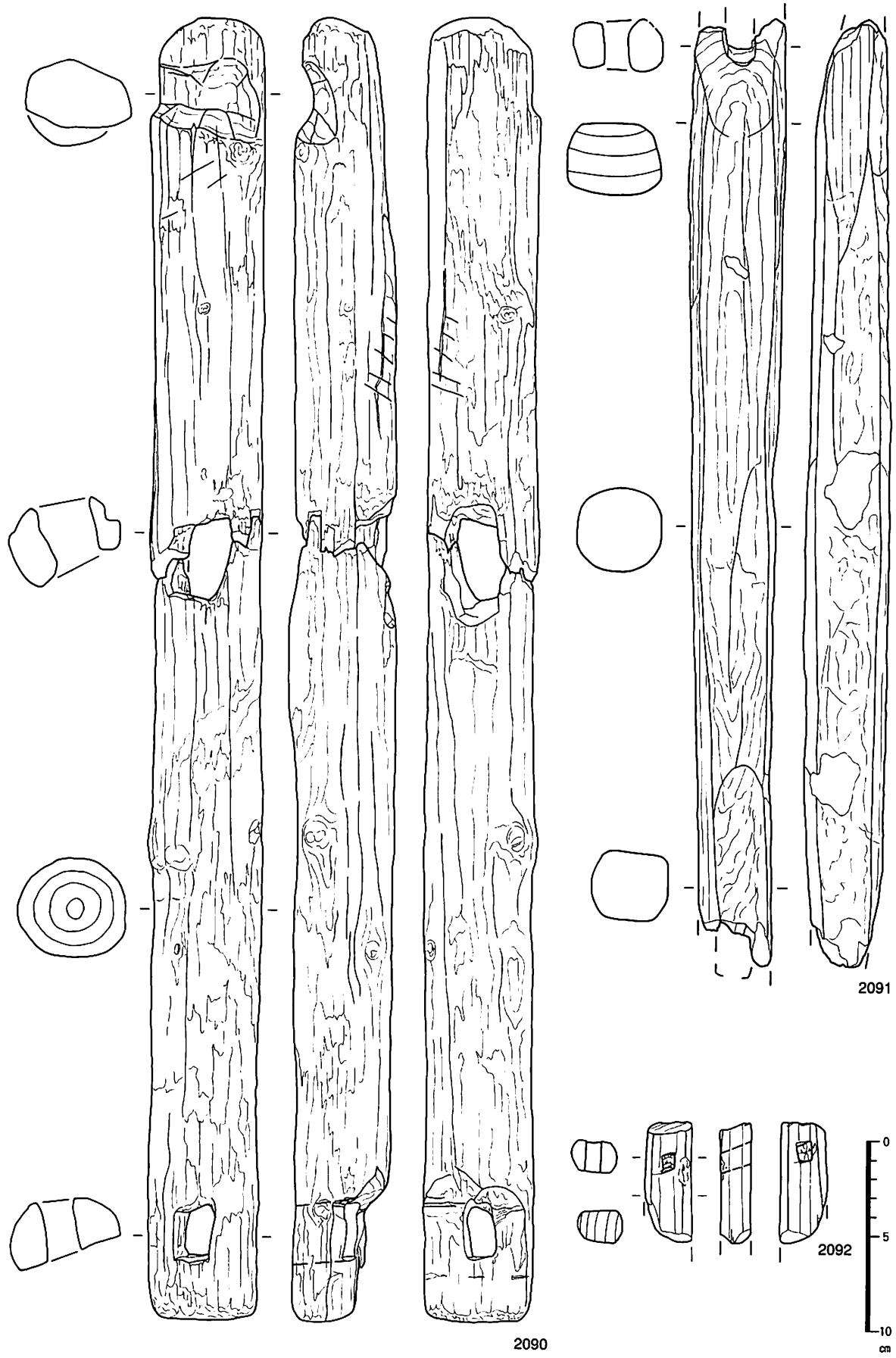
2088



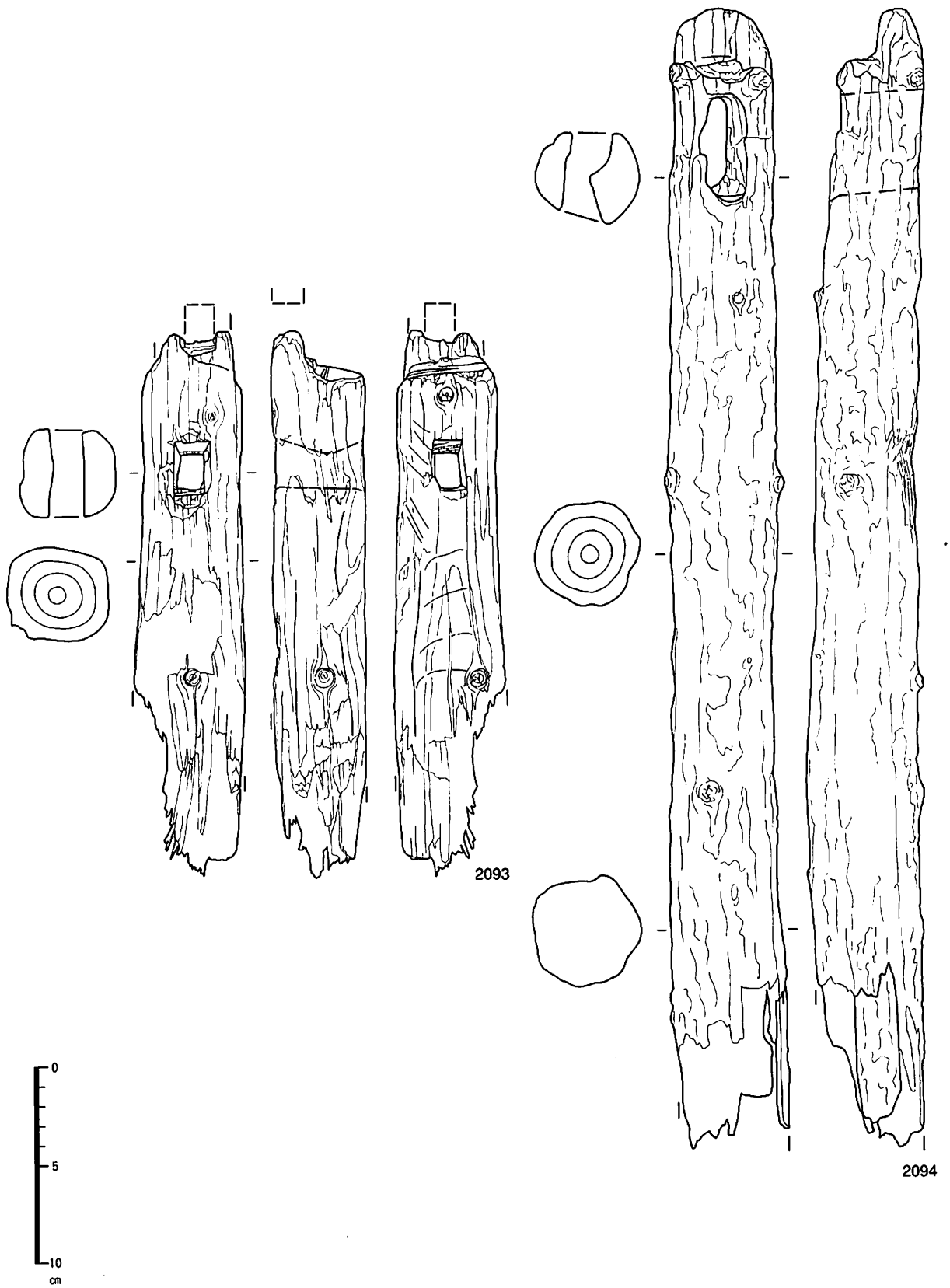
2089

0  
5  
10  
cm

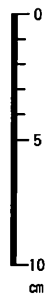
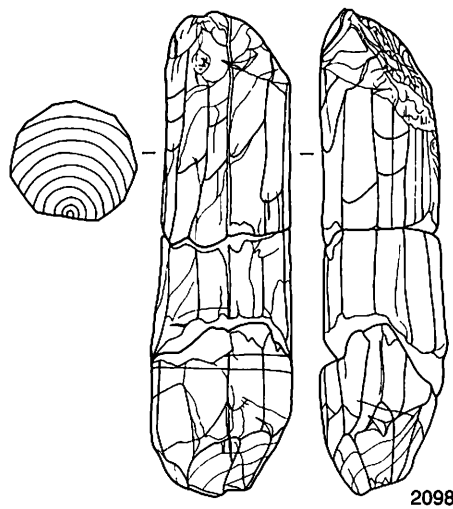
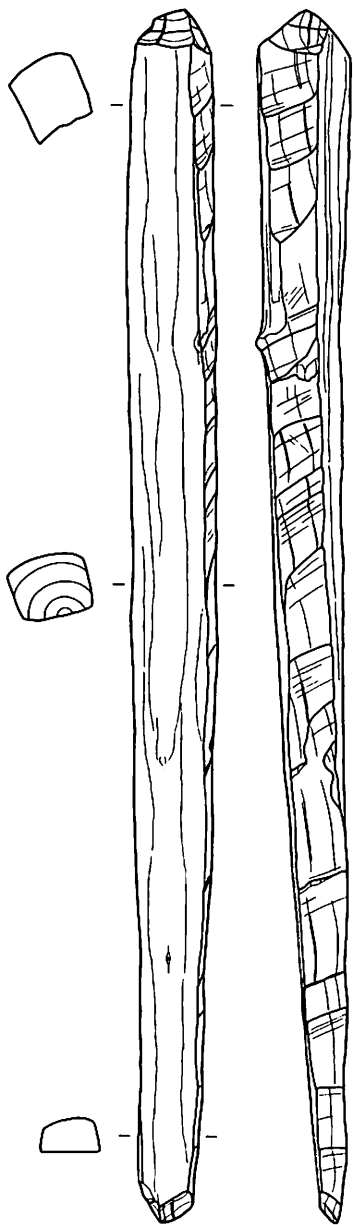
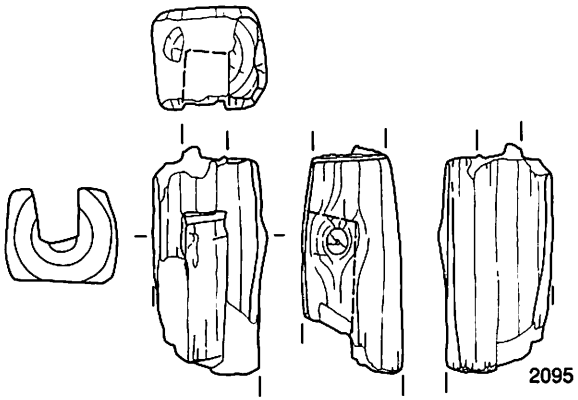
图VI-64 有孔丸木材



图VI-65 有孔丸木材・有孔角材 1

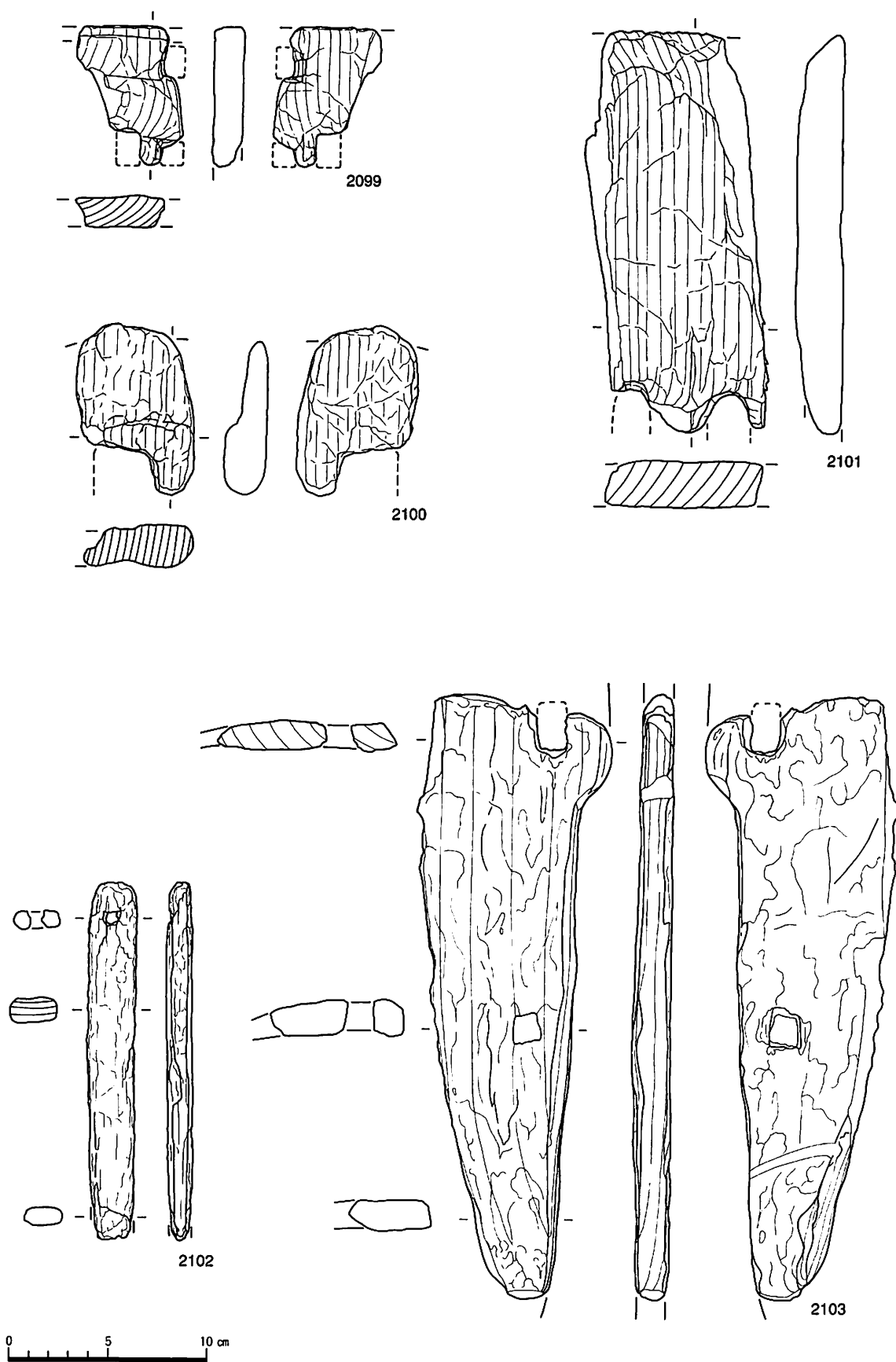


図VI-66 有孔丸木材・有孔角材 2



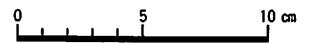
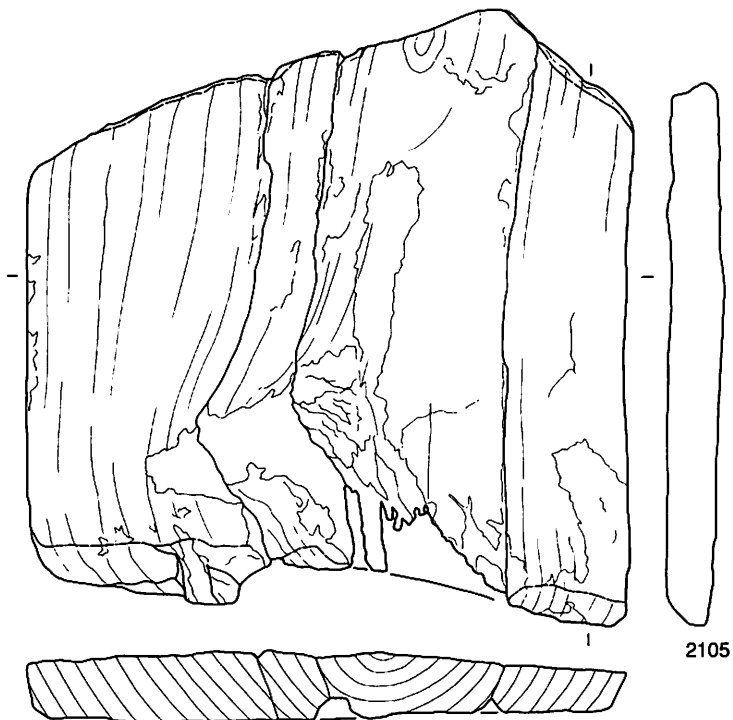
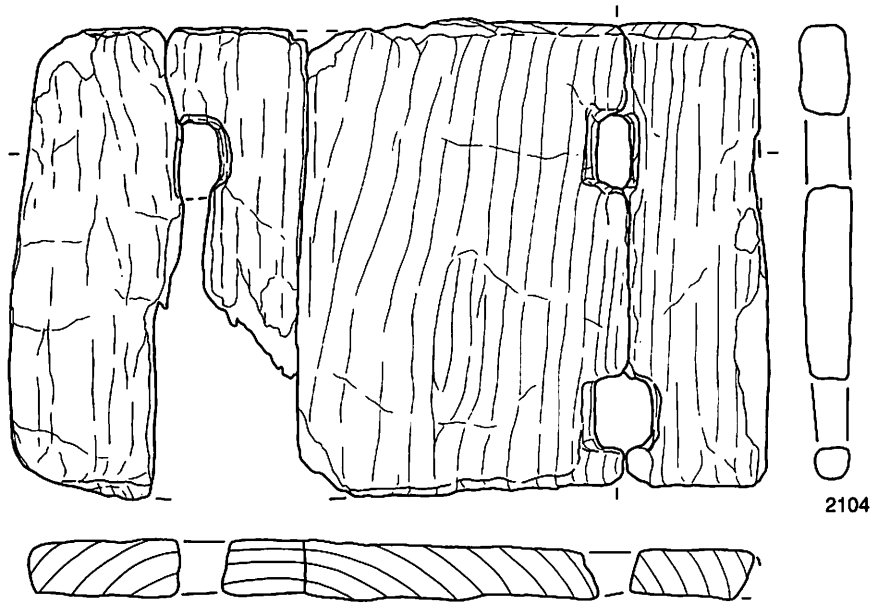
2097  
图VI-67 有溝角材・角材

VI 重機 (クラムシェル) 調査



図VI-68 有孔板材 1

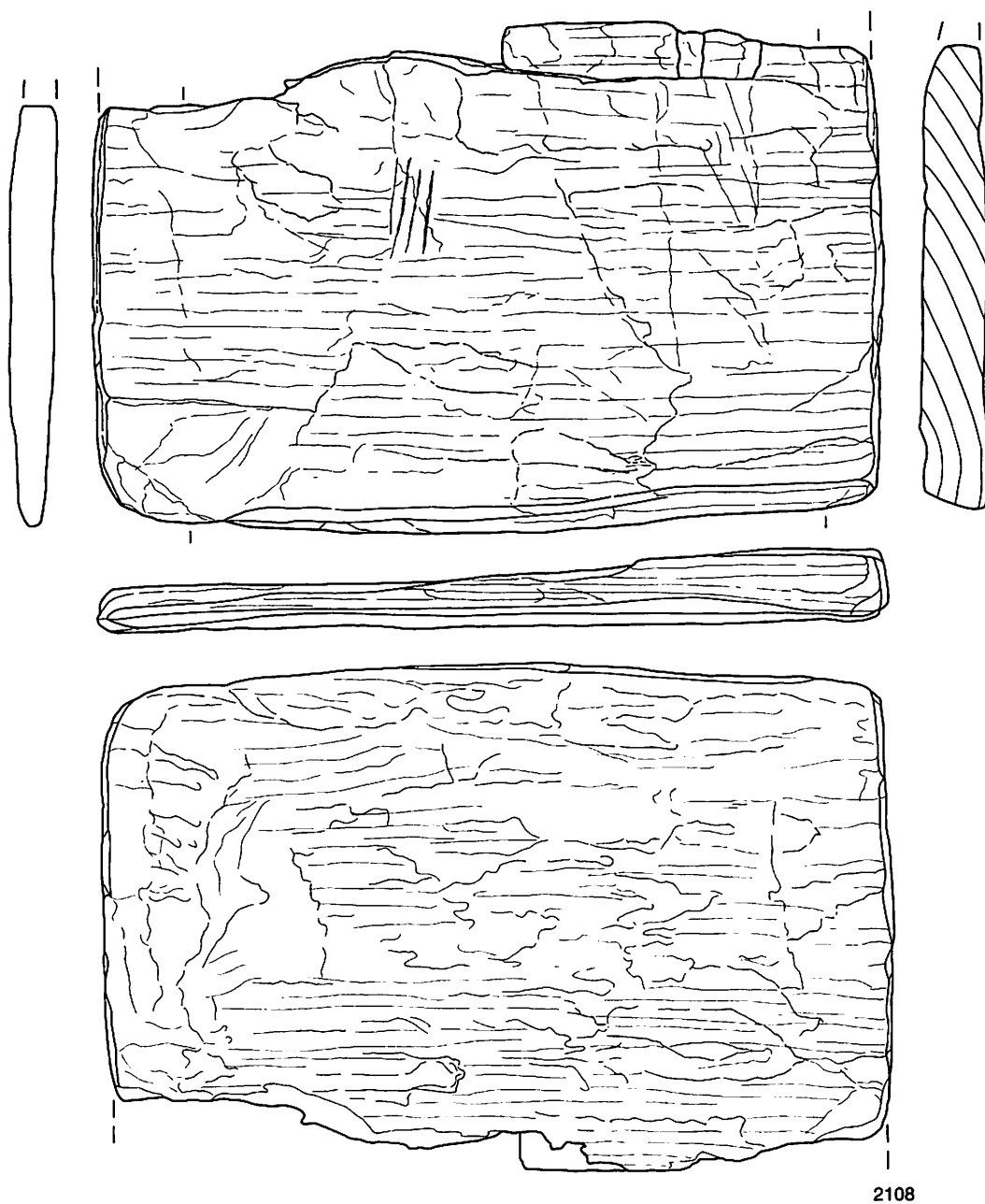




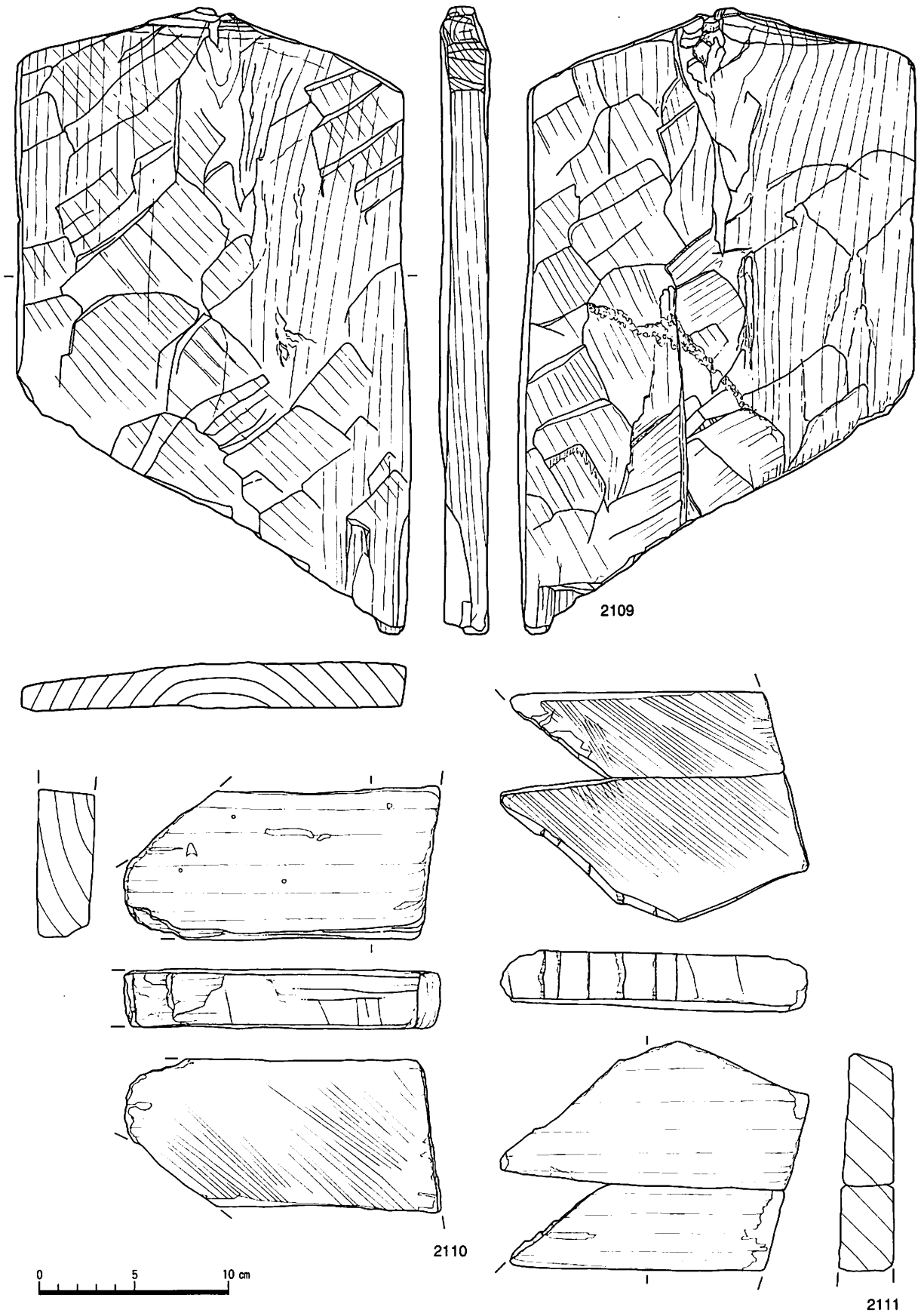
图VI-69 有孔板材 2·板材 1



图VI-70 板材 2



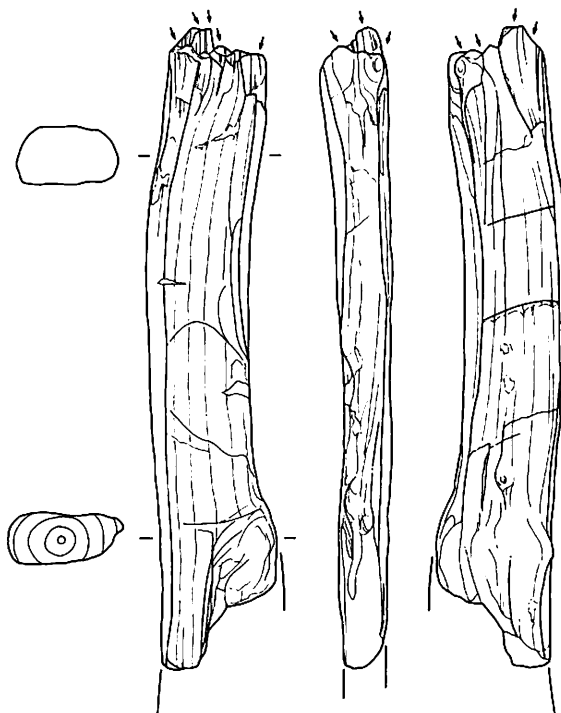
图VI-71 厚板材 1



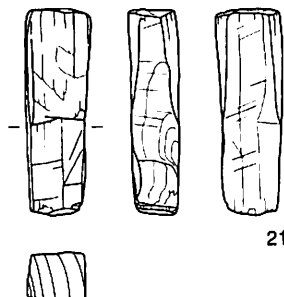
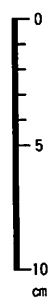
图VI-72 厚板材 2



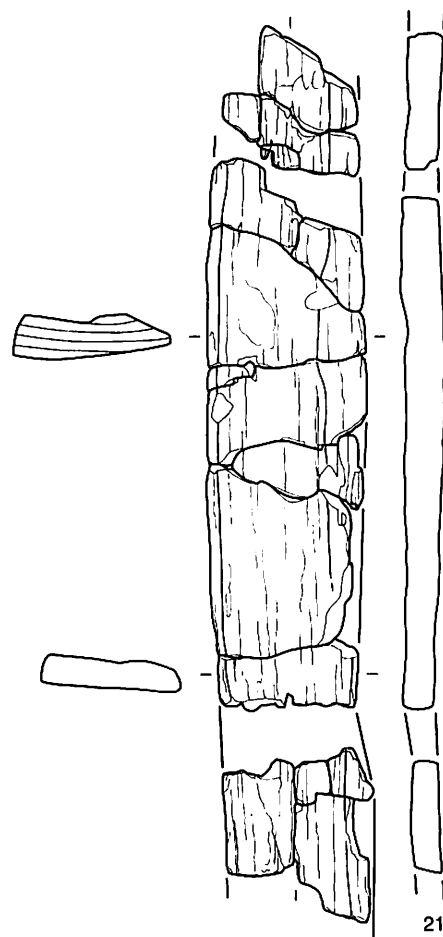
2112



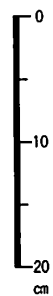
2113



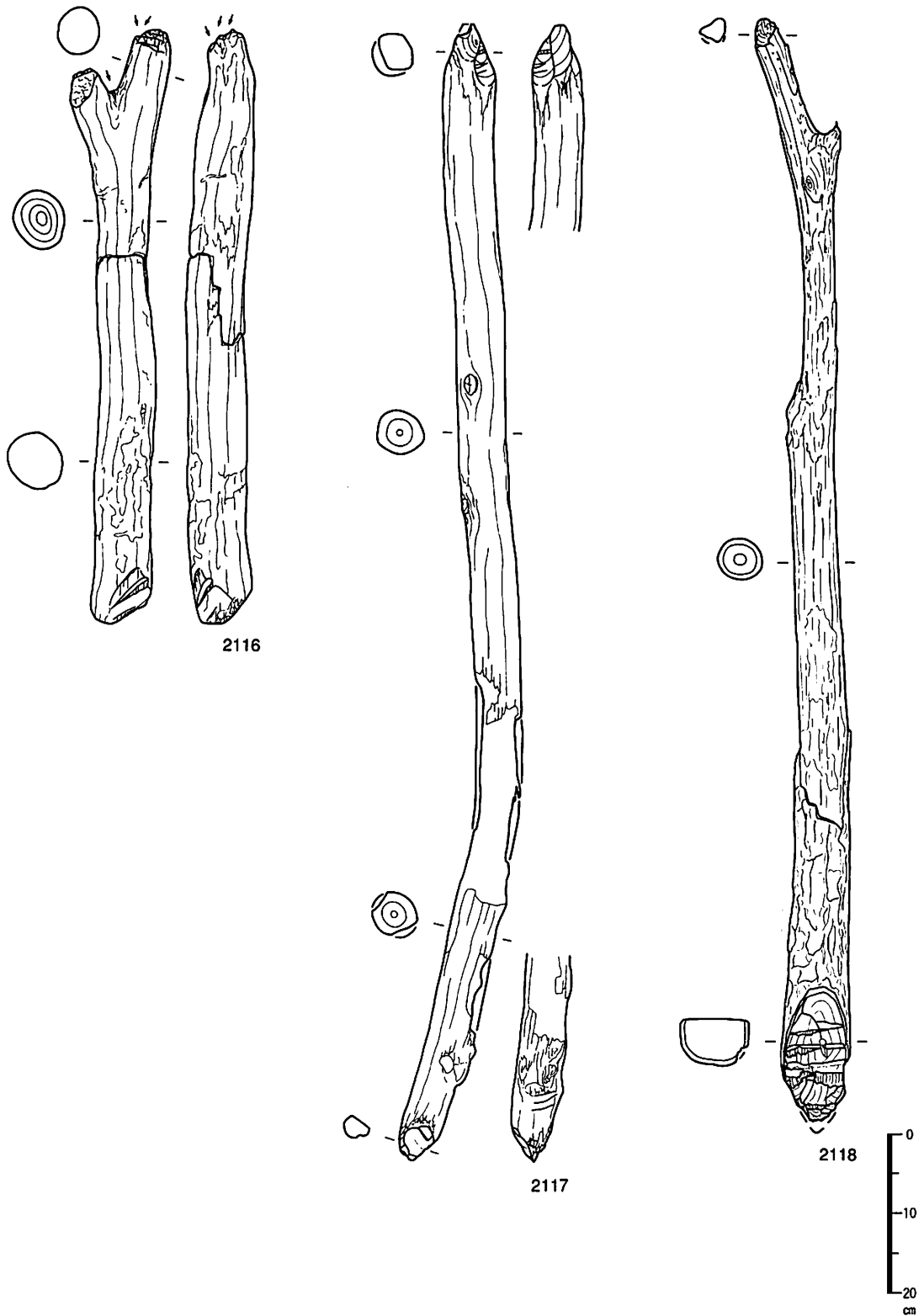
2114



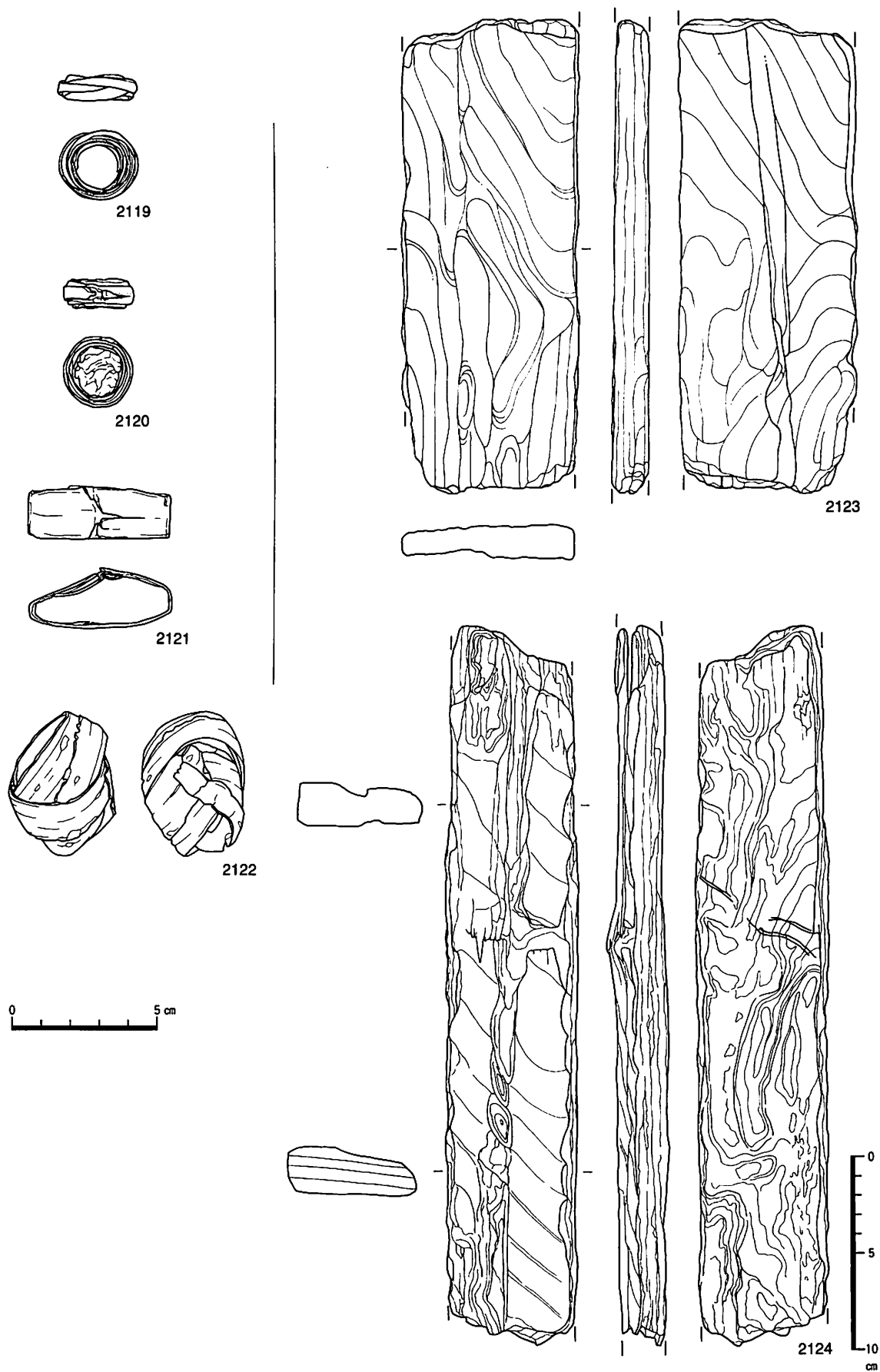
2115



图VI-73 細板材



図VI-74 建材



图VI-75 树皮製品

表VI-4 重機調査掲載木製品(1)

図版 番号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り 位置	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 破 片	備考
1794	252 軸切断品片	c-67-03-a	16108	横木		41.90 (29.90) 30.50	( 1800.0 )	1	20点中11点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1795	253 軸切断品片	d-67-93-b	16156	丸木		46.10 (26.90) ( 10.30 )	( 1313.0 )	1	77点中6点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1796	254 軸切断品片	c-67-71-b	16085	横木		( 30.70 ) ( 34.15 ) ( 17.70 )	( 5600.0 )	1	88点中2点接合。
1797	254 舟舷側板片	c-67-40-a	16505	追証	カツラ	( 23.50 ) ( 5.30 ) ( 7.30 )	( 287.1 )	1	
1798	254 舟部材片	d-67-84-d	16574	丸木		( 41.50 ) ( 11.90 ) 8.30	( 1723.0 )	1	1中央落付。
1799	255 舟部材片	c-67-03-a	16580	横木		( 17.80 ) ( 14.90 ) 4.30	( 453.8 )	1	
1800	255 舟部材片	c-67-72-a	16070	追証		23.70 ( 10.70 ) ( 5.40 )	( 603.0 )	1	1大孔付。
1801	256 舟部材片	d-67-84-b	16292	丸木		( 32.25 ) 13.70 6.80	( 1328.0 )	1	1トコ部?
1802	257 舟部材片	d-67-84-b	16769	半割		( 16.70 ) 10.45 5.40	( 468.6 )	1	1凹付。
1803	257 舟部材片	c-67-50-b	16516	1/4割		( 19.40 ) 9.90 9.55	( 985.0 )	1	1抜付。
1804	257 舟部材片	d-67-84-b	16573	半割		( 100.20 ) ( 16.10 ) 18.60	( 4800.0 )	1	1舟柱端部受片?
1805	258 板舷舟舷側板片	d-67-83-c	16235	追証		( 39.95 ) ( 8.30 ) 2.85	( 657.1 )	1	22点接合。
1806	258 板舷舟舷側板片	d-67-83-b	16339	追証		( 34.10 ) ( 9.95 ) 2.39	( 308.0 )	1	22点接合。
1807	258 板舷舟舷側板片	d-67-93-c	16103	追証		( 81.50 ) 22.60 1.90	( 720.0 )	1	13点中4点接合と7点接合と他2点。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1808	259 車權受台部片	d-67-83-c	16571	股木		71.70 ( 26.60 ) ( 5.30 )	( 930.0 )	1	1枝利用式。
1809	259 車權受台部片	c-67-03-a	16565	股木		61.60 ( 26.20 ) ( 3.50 )	( 750.0 )	1	1枝利用式。
1810	260 車權受台部片	c-67-51-d	16560	股木		65.60 ( 12.80 ) 4.30	( 630.0 )	1	22点接合。枝利用式。
1811	260 車權受台部片	c-67-72-d	16562	股木		65.60 ( 12.80 ) 4.30	( 630.0 )	1	1枝利用式。
1812	260 車權受台部片	c-67-50-b	16060	股木		( 37.20 ) ( 13.10 ) 3.30	( 272.5 )	1	1枝利用式。
1813	260 車權受台部片	d-67-74-a	16365	股木		( 57.60 ) 19.90 3.80	( 693.0 )	1	1枝利用式。
1814	260 車權受台部片	d-67-64-b	16554	股木		( 41.90 ) 20.25 3.40	( 359.6 )	1	1枝利用式。
1815	260 車權受台部片	d-67-93-b	16155	股木		( 47.70 ) 23.00 3.00	( 584.0 )	1	33点中2点接合。枝利用式。
1816	261 車權受台部切断品片	c-67-04-c	16180	板目		63.90 ( 4.50 ) 2.20	( 397.6 )	1	22点接合。角軸差込式。
1817	261 車權受台部片	c-67-04-d	16181	板目		( 48.80 ) 5.45 2.90	( 484.0 )	1	22点接合。角軸差込式。



表VI-5 重機調査掲載木製品(2)

国 番 号	図 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮厚	樹 種	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	備 考
1818	261	単權受台部切断品片	d-67-83-c	16472	板目		モクレン	(22.80) (3.05) (5.20)	(236.1)	1	2点接合。角軸差込式。
1819	261	単權受台部片	d-67-83-c	16224	柱目		ハリギリ	(41.20) 5.90 2.70	(306.2)	1	2点接合。角軸差込式。
1820	261	単權受台部片	d-67-93-b	16141	板目		ハンノキ	(27.60) 8.20 4.60	(625.0)	1	1角軸差込式。
1821	261	単權受台部片	d-67-93-c	16093	半割		ハンノキ	(31.60) (8.15) 3.00	(430.8)	1	2点接合。角軸差込式。
1822	261	単權受台部片	c-67-50-c	16038	柱目		オニグルミ	(27.70) 4.40 2.80	(188.3)	1	1角軸差込式。
1823	261	単權受台部片	c-67-03-c	16074	柱目		モクレン	(33.00) (5.45) 3.40	(411.5)	1	1丸軸差込式。
1824	261	単權受台部片	d-67-83-c	16266	柱目		モクレン	(33.20) 5.45 3.40	(329.0)	1	
1825	261	単權受台部片	d-67-93-c	16095	半割		ハンノキ	(18.90) (2.90) (4.50)	(135.0)	1	2点接合。
1826	261	単權受台部片	d-67-93-d	16661	半割		ハンノキ	(26.20) 4.80 2.70	(168.2)	1	3点接合。
1827	261	単權受台部片	d-67-54-c	16432	柱目		モミ	(22.95) (4.15) (3.10)	(167.9)	1	
1828	262	単權受台部片	d-67-93-b	16154	透庇		ハリギリ	(27.50) (5.20) (3.55)	(326.0)	1	
1829	262	単權受台部片	d-67-93-b	16174	柱目		ハンノキ	(19.30) (2.50) (3.80)	(122.1)	1	
1830	262	単權受台部軸	d-67-83-a	16322	柱目		クワ	22.30 3.40 2.10	80.2	1	1角軸差込式。
1831	262	単權受台部軸片	c-67-61-d	16007	板目		コナラ	(10.40) 3.10 2.00	(38.4)	1	1角軸差込式。貫孔1ヶ所。
1832	262	単權受台部軸片	d-67-83-c	16264	丸木		コナラ	(29.60) 3.50 2.40	(111.4)	1	1角軸差込式。貫孔1ヶ所。
1833	262	単權受台部軸	c-67-03-d	16068	丸木		モミ 根・モミ	28.80 3.40 3.65	155.4	1	2点接合(嵌合む)。角軸差込式。楔入。
1834	262	単權受台部軸	d-67-84-b	16270	丸木		クワ	29.50 2.60 2.45	109.3	1	1角軸差込式。楔入(楔あり)。
1835	262	単權受台部軸	d-67-94-a	16205	板目		コナラ	29.60 2.10 2.00	74.2	1	1角軸差込式。
1836	262	単權受台部軸	c-67-73-d	16788	丸木	○	カエデ	28.25 2.40 2.70	84.2	1	1丸軸差込式。
1837	262	単權受台部軸	c-67-71-b	16050	板目		トネリコ	19.70 2.90 2.20	64.6	1	1角軸差込式。
1838	262	単權受台部軸片	d-67-83-b	16783	板庇		カエデ	(19.65) 2.20 2.10	(57.0)	1	2点接合。
1839	263	單權片	d-67-93-b	16160	板目		トネリコ	(102.90) 6.70 (4.90)	(850.0)	1	4点中3点接合4点突脚。2孔式。計測値は推定値。
1840	263	單權柄部片	d-67-83-a	16289	板目		トネリコ	(26.80) 5.90 3.60	(340.2)	1	1孔1ヶ所。
1841	263	單權柄部片	c-67-03-d	16374	板目		ハンノキ	(32.10) (7.65) 3.90	(410.3)	1	1孔1ヶ所。

表VI-6 重機調査掲載木製品 (3)

図 番 号	図 版 番 号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮	樹 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	備 考
1842	263	車轆柄部片	c-67-03-d	16762	板目		ヤナギ	( 35.90 ) 4.90 3.60	( 368.6 )	1	2点接合。
1843	263	車轆柄部片	d-67-93-c	16126	板目		トネリコ	( 45.70 ) 6.25 3.00	( 533.6 )	1	3点接合。
1844	263	車轆水掻部片	d-67-83-d	16268	追紐		キハダ	( 59.00 ) 4.90 2.50	( 379.5 )	1	2点接合。彫刻付。
1845	263	車轆柄部片	d-67-84-b	16572	板目		キハダ	( 48.50 ) 5.40 3.70	( 730.0 )	1	
1846	263	車轆水掻部片	c-67-03-b	16110	紐目		トネリコ	( 18.00 ) 5.75 1.75	( 107.8 )	1	
1847	263	早櫃片	c-67-51-d	16526	紐目		トネリコ	( 65.70 ) 9.15 3.20	( 580.4 )	1	4点中3点接合。
1848	263	早櫃片	c-67-03-d	16077	板目		カツラ	( 49.50 ) ( 7.15 ) 2.80	( 228.2 )	1	
1849	263	早櫃柄部片	c-67-03-d	16069	紐目		モクレン	( 34.50 ) ( 6.80 ) 2.50	( 202.3 )	1	2点接合。
1850	263	早櫃柄部片	d-67-93-c	16091	板目		トネリコ	( 19.60 ) ( 5.05 ) 2.80	( 140.5 )	1	
1851	264	早櫃水掻部片	d-67-74-b	16379	紐目		モクレン	( 39.40 ) 8.10 ( 1.45 )	( 260.1 )	1	
1852	264	早櫃水掻部片	d-67-83-b	16405	追紐		コナラ	( 26.00 ) 6.65 1.10	( 128.5 )	1	
1853	264	早櫃水掻部切断品片	c-67-50-b	16781	追紐		モクレン	14.60 ( 6.40 ) 1.50	( 72.6 )	1	2点接合。
1854	264	早櫃柄部切断品片	c-66-49-c	16782	追紐		モクレン	( 26.30 ) 3.70 2.70	( 196.5 )	1	
1855	264	舟板片?	d-67-93-a	16791	丸木		ヤナギ	( 63.80 ) 3.60 3.70	( 626.0 )	1	2点接合。
1856	264	早櫃柄部片	d-67-64-c	16555	丸木		アサダ	( 108.70 ) ( 3.70 ) 2.80	( 700.0 )	1	2点接合。
1857	264	あか波み板片	d-67-64-d	16480	横木		ハンノキ	( 21.35 ) ( 5.80 ) ( 6.20 )	( 175.8 )	1	
1858	265	回転式機頭銃中柄	d-67-84-d	16183	半割		アジサイ	42.55 1.50 2.10	68.7	1	11本式。
1859	265	回転式機頭銃中柄	c-67-03-a	16079	半割		アジサイ	34.30 1.50 1.60	44.0	1	11本式。
1860	265	回転式機頭銃中柄	d-67-83-c	16267	1/4割		アジサイ	35.90 2.05 1.50	53.8	1	11本式。
1861	265	回転式機頭銃中柄切断品片	d-67-83-c	16220	1/4割		アジサイ	( 20.30 ) 1.40 0.90	( 12.8 )	1	11本式。
1862	265	回転式機頭銃中柄	d-67-63-d	16436	1/4割		アジサイ	22.85 1.45 0.90	16.5	1	11本式。
1863	265	回転式機頭銃中柄	d-67-84-b	16282	半割		アジサイ	29.60 1.90 1.50	47.2	1	11本式。短刻付。
1864	265	回転式機頭銃中柄片	d-67-93-b	16177	半割		アジサイ	( 16.90 ) 1.55 1.00	( 12.9 )	1	11本式。
1865	265	回転式機頭銃中柄片	d-67-84-a	16275	1/4割		アジサイ	( 20.40 ) ( 1.05 ) 0.90	( 8.4 )	1	11本式。

表VI-7 重機調査掲載木製品(4)

国 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	備考
1866	266	回転式難頭鋸中柄片	c-67-03-a	16067	1/4割		アジサイ	( 28.90 ) 1.60 1.10	( 25.2 )	1	11本式。
1867	266	回転式難頭鋸中柄片	c-67-50-c	16035	1/4割		アジサイ	( 30.10 ) 1.65 1.25	( 39.1 )	1	11本式。
1868	266	回転式難頭鋸中柄片	c-67-50-c	16036	1/4割		アジサイ	( 24.30 ) 1.60 1.30	( 31.4 )	1	11本式。
1869	266	回転式難頭鋸中柄片	d-67-83-c	16409	1/4割		アジサイ	( 18.30 ) ( 1.55 ) ( 1.30 )	( 20.8 )	1	11本式。
1870	266	回転式難頭鋸中柄片	d-67-83-c	16222	半割		アジサイ	( 15.10 ) 1.40 0.70	( 8.5 )	1	11本式。
1871	266	回転式難頭鋸中柄片	d-67-73-a	16481	半割		アジサイ	( 18.20 ) 1.70 1.40	( 25.5 )	1	11本式。
1872	266	回転式難頭鋸中柄基部 片	c-67-40-d	16780	半割		ウルシ	( 15.00 ) ( 2.10 ) ( 1.20 )	( 18.6 )	1	11本式。
1873	267	回転式難頭鋸中柄片	d-67-83-a	16310	半割		アジサイ	( 26.25 ) 2.30 1.10	( 30.4 )	1	12本組式。
1874	267	回転式難頭鋸中柄片	d-67-74-a	16486	半割		アジサイ	( 20.70 ) 1.30 1.00	( 13.8 )	1	12本組式。
1875	267	回転式難頭鋸中柄	d-67-83-a	16287	1/4割		アジサイ	37.20 1.80 1.70	57.8	1	12本組式。
1876	267	回転式難頭鋸中柄片	c-67-61-d	16030	1/4割		アジサイ	( 19.20 ) 1.30 1.05	( 11.6 )	1	12本組式。
1877	267	回転式難頭鋸中柄切断 品	c-67-60-b	16048	1/4割		クワ	23.40 1.90 1.60	46.2	1	12本組式。
1878	267	回転式難頭鋸中柄基部 片	d-67-84-b	16284	1/4割		アジサイ	( 14.20 ) ( 2.20 ) ( 1.60 )	( 19.7 )	1	12本組式。
1879	267	回転式難頭鋸中柄基部 片	c-67-04-b	16169	半割		クワ	( 15.15 ) 2.40 1.40	( 22.5 )	1	12本組式。短刻列付。
1880	267	回転式難頭鋸中柄基部 片	c-67-50-b	16510	1/4割		アジサイ	( 16.00 ) 1.60 1.30	( 16.1 )	1	12本組式。
1881	267	回転式難頭鋸中柄基部 片	c-67-04-b	16670	1/4割		サクラ	( 13.20 ) 1.65 1.65	( 20.8 )	1	12本組式。短刻付。
1882	268	回転式難頭鋸指掛部片	d-67-93-b	16669	丸木		アジサイ	6.50 ( 3.10 ) 2.00	( 12.6 )	1	
1883	268	回転式難頭鋸中柄ミニ チェア片	c-67-40-d	16625	板目		アジサイ	( 5.55 ) 0.80 0.55	( 1.0 )	1	1独射状。
1884	268	回転式難頭鋸中柄ミニ チェア片	c-67-51-d	16642	板目		アジサイ	( 6.20 ) 0.95 0.70	( 1.8 )	1	1独射状。
1885	268	魚突鉤鋸台部	d-67-84-b	16247	板目		アジサイ	17.20 0.95 0.75	6.5	1	33点接合。
1886	268	魚突鉤鋸台部	d-67-94-b	16207	板目		アジサイ	20.10 1.50 1.35	25.4	1	1
1887	268	魚突鉤鋸台部未製品片	d-67-74-b	16395	丸木		トネリコ?	( 14.45 ) 2.40 2.30	( 53.4 )	1	1
1888	268	魚突鉤鋸台部片	c-67-84-d	16201	丸木		アジサイ	( 30.10 ) 1.30 1.20	( 29.6 )	1	1
1889	268	魚突鉤鋸台部未製品	d-67-83-c	16473	丸木		アジサイ	31.40 1.85 1.68	49.7	1	1

表VI-8 重機調査掲載木製品(5)

図 番 号	國 版 番 号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)		重量(g)	個 体 片	備 考	
1890	268	魚突鉤鋸台部未製品	c-67-03-a	16076	半割		アジサイ	40.50	1.80	1.20	43.2	1	
1891	269	魚突鉤鋸台部未製品	c-67-03-a d-67-93-a	16564	1/4割		コナラ	122.40	3.80	3.70	1020.0	1	3点接合。イトクハ付。
1892	269	魚突鉤鋸碎切断品	d-67-83-c	16569	丸木		コナラ	102.40	3.70	3.70	800.0	1	2点接合。
1893	269	魚突鉤鋸碎片	d-67-74-a	16556	丸木		コナラ	( 67.80)	4.20	4.30	( 500.0)	1	
1894	269	回転式煙頭鋸中柄・魚突鉤鋸台/基部片	c-67-61-a	16049	丸木		ヤナギ	( 18.90)	( 2.00)	( 1.75)	( 28.4)	1	
1895	269	魚突鉤鋸台基部片	c-67-04-d	16778	丸木		ハシドイ?	( 10.55)	2.15	1.95	( 22.7)	1	2点接合。
1896	269	魚突鉤鋸台基部切断品	c-67-51-a	16518	板証		カエデ	( 10.70)	2.10	2.10	( 27.4)	1	
1897	270	矢片	c-67-50-b	16629	丸木		同定不可能	( 4.70)	1.00	1.00	( 1.1)	1	1木鐵。
1898	270	矢中柄	d-67-93-a	16084	半割		アジサイ	13.60	1.10	0.90	7.6	1	
1899	270	矢中柄片	d-67-83-c	16777	1/4割		キブシ?	( 13.20)	1.10	1.15	( 10.0)	1	2点接合。短刻付。
1900	270	矢中柄片	c-67-51-d	16530	半割		アジサイ	( 9.50)	1.30	1.15	( 8.2)	1	
1901	270	矢	d-67-74-d	16362	半割		アジサイ	11.40	1.65	1.30	15.0	1	1鳥用?
1902	270	矢	d-67-84-d	16605	丸木		ハギ	10.50	1.30	1.35	10.0	1	1鳥用?イトクハ付。
1903	270	矢片	d-67-83-c	16407	1/4割		アジサイ	( 14.20)	1.40	1.00	( 9.2)	1	1逆刺付。
1904	270	矢	c-67-43-c	16672	1/4割		アジサイ	15.10	1.20	1.00	9.6	1	1逆刺付。
1905	270	矢片	c-67-61-d	16001	1/4割		アジサイ	( 20.80)	1.05	1.00	( 13.2)	1	1逆刺付。
1906	270	矢柄片	c-67-03-d	16657	板証	○	モミ	( 12.80)	0.80	0.80	( 5.2)	1	2点接合(樹皮巻含む)。1907と同一個体?桜樹皮巻付。
1907	270	矢柄片	c-67-40-c	16546	板証	○	モミ	( 8.50)	0.70	0.70	( 2.9)	1	2点接合(樹皮巻含む)。1906と同一個体?桜樹皮巻付。
1908	270	矢筈片	d-67-93-c	16665	板証		カラマツ?トウヒ?	( 2.70)	0.90	0.65	( 1.0)	1	
1909	270	矢筈片	d-67-93-c	16768	丸木		ハシドイ?	( 9.70)	( 1.80)	( 1.70)	( 14.5)	1	1大型。
1910	270	弓片	c-67-71-b	16011	1/4割		カエデ	( 44.90)	2.95	2.85	( 130.0)	1	3点接合。隣寄付。
1911	270	矢筒翼片?	d-67-84-b	16655	板目	○	トネリコ	( 16.15)	5.60	2.60	( 125.1)	1	1挟付。
1912	270	矢筒翼片?	d-67-84-b	16248	逆証		ヤナギ	( 17.00)	8.65	1.70	( 144.6)	1	
1913	270	挟付Y字状製品	d-67-74-a	16367	段木		ハシドイ	50.20	11.20	3.20	304.2	1	1仕掛弓台候本?

表VI-9 重機調査掲載木製品(6)

図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備考
1914	271 小刀柄	d-67-93-c	d-67-93-b	16604		イチイ	14.50 2.80 1.40	33.0	1	1	2点接合。彫刻付。
1915	271 小刀柄片	c-67-50-b		16551		ウルシ	( 15.90 ) 3.26 1.80	( 57.5 )	1	1	彫刻付。
1916	271 刀柄片	d-67-74-a		16484		カエデ 目釘:アジサイ	20.40 ( 4.25 ) ( 2.60 )	( 124.5 )	1	4	4点接合(目釘含む)。目釘入孔1ヶ所。
1917	271 小刀柄	d-67-74-c		16313		コナラ	15.20 2.50 1.60	49.6	1	1	
1918	271 山刀柄突起片	c-67-51-d		16640		ハリギリ	( 2.90 ) ( 2.80 ) ( 1.70 )	( 8.3 )	1	1	
1919	271 小刀柄片?	c-66-49-b		16545	○	ヤナギ	( 6.90 ) 2.30 2.16	( 19.5 )	1	3	3点接合(樹皮巻1点含む)。細帯状樹皮巻(頭部挿入式)付。
1920	271 小刀柄	d-67-63-a		16728		モクレン	11.20 3.70 1.60	29.9	1	1	
1921	271 小刀柄	d-67-64-d		16723		ヒノキ?アスナロ?	11.90 3.47 1.60	43.8	1	1	紐孔付。
1922	272 小刀柄未製品	d-67-83-d		16244		モクレン	16.83 4.30 2.10	81.1	1	1	
1923	272 山刀柄片	c-67-51-d		16502		カエデ	( 6.55 ) ( 5.50 ) ( 0.80 )	( 16.3 )	1	1	樹皮紐痕付。
1924	272 山刀柄片	c-67-60-b		16651		カエデ	( 6.55 ) ( 4.10 ) ( 1.05 )	( 15.7 )	1	1	樹皮紐痕付。
1925	272 山刀柄	c-67-50-c		16644		ヒノキ?アスナロ?	5.70 2.65 0.45	4.7	1	1	樹皮紐痕付。
1926	272 小刀樹皮製鞘	c-67-40-a		16613 16779	○	○樹皮	8.70 2.76 2.13	8.0	1	3	3点接合(樹皮2枚重ね)。
1927	272 土魁棒切断品	d-67-74-a		16366		スギ	31.9 4.7 2.8	277.2	1	1	
1928	272 土魁棒片	d-67-83-b		16568		サクラ	( 72.50 ) 5.40 2.80	( 600.0 )	1	1	
1929	273 紐礎	d-67-74-d		16417		クワ	27.60 18.50 4.80	528.0	1	1	1枝利用式。
1930	273 紐礎	d-67-84-b		16296	○	ハシドイ	21.60 13.40 5.00	347.8	1	1	1枝利用式。
1931	274 紐礎	c-67-71-b		16051		ハシドイ?	18.42 14.40 4.15	188.6	1	1	1枝利用式。
1932	274 紐礎片	d-67-73-c		16412		ヤナギ	( 12.20 ) 17.00 ( 5.20 )	( 439.3 )	1	1	1枝利用式。
1933	274 紐礎片	c-67-61-a		16023		サクラ	( 11.00 ) 15.14 7.20	( 383.7 )	1	1	1枝利用式。
1934	274 紐礎片	c-67-71-b		16010		サクラ	( 6.97 ) 12.50 4.20	( 152.9 )	1	1	1枝利用式。
1935	275 紐礎頭部片	c-67-50-c		16489		モミ	( 16.27 ) 6.00 5.88	( 382.7 )	1	2	2点接合(柄片含む)。柄片入。木取り頭部。丸木。柄。丸木。
1936	275 紐礎頭部片	d-67-84-d		16231		ハシドイ	( 14.45 ) 6.63 5.70	( 262.8 )	1	1	柄孔式。
1937	275 紐礎頭部片	c-67-40-a		16157		サクラ 柄:クワ	( 11.00 ) 6.70 5.80	( 254.4 )	1	3	3点接合(柄片2点含む)。柄孔式。柄片入。木取り頭部。丸木。柄。丸木。

表VI-10 重機調査掲載木製品 (7)

国版 番号	遺物名称	発強区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 数	備考
1938 275	横礎柄片	d-67-74-d	16360	板証		コナラ	( 28.70 ) × ( 3.20 ) × 2.80	( 128.3 )	1	1	サケ叩き様または割裁棒柄片?
1939 275	鉄斧柄	d-67-83-c	16570	証目	○	クワ	71.30 × 4.20 × 2.70	510.0	1	1	ヨキ。
1940 276	横礎	c-67-61-d	16088	丸木		コナラ	38.70 × 8.10 × 7.30	1197.0	1	1	Eタイプ。
1941 276	横礎片	c-67-61-d	16025	丸木		ヤナギ	( 25.90 ) × 7.27 × 6.20	( 618.0 )	1	1	Eタイプ。
1942 276	横礎片	d-67-74-b	16398	半割		○ハンノキ	( 19.48 ) × 8.30 × 4.50	( 407.6 )	1	1	Eタイプ。
1943 276	横礎片	c-67-51-d	16534	丸木		イヌエンジュ	( 23.30 ) × 6.62 × 4.95	( 310.0 )	1	1	Eタイプ? 堅杵?
1944 276	堅杵片	d-67-83-c	16261	丸木		トネリコ	( 78.20 ) × 7.00 × 7.00	( 2024.0 )	1	3	3点接合。計測値は推定値。
1945 277	ヒキリ板片	c-67-40-c	16626	証目	○	○ニレ	( 7.40 ) × 2.60 × 1.20	( 14.0 )	1	1	ウス6カ所。
1946 277	ヒキリ板片	c-67-51-d	16787	証目	○	○ニレ	( 6.70 ) × ( 3.05 ) × ( 1.20 )	( 11.1 )	1	1	ウス6カ所。
1947 277	ヒキリ板片	c-66-49-c	16621	証目	○	○ニレ	( 5.40 ) × ( 2.50 ) × 0.75	( 6.2 )	1	1	ウス1カ所。
1948 277	ヒキリ板片	c-67-60-b	16649	板証		○ニレ	( 3.55 ) × 1.70 × 1.75	( 8.0 )	1	1	ウス1カ所。
1949 277	ヒキリ棒片	d-67-83-a	16692	板証	○	○ニレ	( 3.14 ) × 1.27 × 1.17	( 3.0 )	1	1	
1950 277	鈎状製品片	d-67-83-b	16691	証目		モミ	( 4.50 ) × ( 2.50 ) × 1.40	( 7.8 )	1	1	
1951 277	鈎状製品片	c-67-03-b	16664	股木		ハシドイ?	( 13.40 ) × 4.30 × 2.00	( 42.6 )	1	1	炬鈎?
1952 277	鈎状製品	c-67-50-b	16553	股木		カエデ	16.10 × 9.90 × 5.00	250.6	1	1	
1953 277	鈎状製品	c-67-71-b	16090	股木		アジサイ	37.45 × 6.90 × 2.60	96.8	1	1	炬鈎?
1954 278	桶底板片	d-67-93-c	16098	証目		スギ?	( 18.90 ) × ( 8.80 ) × 2.10	( 185.4 )	1	1	
1955 278	樽栓	c-67-40-a	16540	板証		スギ? ネズコ?	4.75 × 3.00 × 3.05	25.8	1	1	
1956 278	樽栓	c-67-50-c	16492	板証		スギ	8.70 × 3.20 × 2.90	39.9	1	1	
1957 278	樽栓	c-67-40-a	16616	板証		スギ	5.20 × 3.00 × 3.00	27.4	1	1	
1958 278	樽脚板	c-67-40-a	16612	板目	○	スギ	7.80 × 4.05 × 1.15	32.0	1	1	
1959 278	樽脚板	c-67-50-c	16493	板目		スギ	12.75 × 6.40 × 1.35	84.3	1	1	
1960 278	樽脚板	d-67-83-a	16305	板目		スギ	27.65 × 9.85 × 1.20	216.5	1	1	動物歯痕あり。タガ痕あり。木釘入孔1カ所。
1961 279	曲げ物把手片	c-67-50-b	16513	証目		ヒノキ? アスナロ?	( 7.80 ) × ( 10.65 ) × ( 1.75 )	( 88.8 )	1	1	

表VI-11 重機調査掲載木製品(8)

国産 番号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	備考
1962	曲げ物把手片	c-67-40-a	16538	楕目		ヒノキ?アスナロ?	( 16.95 ) ( 6.80 ) ( 1.40 )	( 66.0 )	1	
1963	曲げ物側板片	d-67-73-c	16699	楕目	○	ヒノキ?アスナロ?	( 5.40 ) ( 3.90 ) ( 1.10 )	( 2.3 )	1	2点接合(樹皮含む)。樹皮縦りあり。
1964	曲げ物側板片	d-67-93-a	16662	楕目		ヒノキ?アスナロ?	( 11.00 ) 3.40 0.40	( 10.0 )	1	33点中2点接合3点実測。野引線あり。計測値は推定値。
1965	曲げ物側板片	d-67-83-c	16703	楕目	○	ヒノキ?アスナロ?	( 7.10 ) ( 1.70 ) 0.60	( 3.6 )	1	2点接合(樹皮含む)。野引線あり。樹皮縦りあり。
1966	曲げ物側板片	c-67-53-d	16752	楕目		スギ	( 14.10 ) ( 6.35 ) ( 0.50 )	( 24.5 )	1	33点接合。野引線あり。
1967	曲げ物側板片	d-67-84-d	16234	楕目	○	ヒノキ?アスナロ?	( 19.90 ) ( 9.90 ) 0.80	( 37.9 )	1	24点中14点接合(樹皮含む)。クレ底。樹皮縦りあり。野引線あり。木釘1ヶ所。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1968	曲げ物側板片	c-67-51-d	16773	楕目	○	ヒノキ?アスナロ?	( 19.40 ) ( 7.95 ) ( 0.55 )	( 19.7 )	1	5点中4点接合5点実測(樹皮含む)。両面野引線あり。樹皮縦りあり。計測値は推定値。
1969	曲げ物側板片	d-67-93-b	16172	楕目	○	ヒノキ?アスナロ?	( 245.30 ) 11.50 0.40	( 414.5 )	1	110点中18点と20点と21点(樹皮含む)接合(図は、内4点と5点と14点)。クレ底。野引線あり。樹皮縦り3ヶ所あり。木釘あり。保存処理後実測。
1970	曲げ物側板片	d-67-64-a	16378	楕目		ヒノキ?アスナロ?	( 37.10 ) ( 8.95 ) 0.35	( 88.0 )	1	2点接合。
1971	曲げ物底板	d-67-83-b	16335	楕目		ヒノキ?アスナロ? 木釘:ヒノキ?アスナロ?	9.00 8.20 1.10	56.3	1	1クレ底。木釘入孔3ヶ所。
1972	曲げ物底板	d-67-84-d	16233	楕目		ヒノキ?アスナロ?	10.60 9.80 0.90	63.2	1	1クレ底。木釘孔3ヶ所。
1973	箱物底板片	d-67-93-b	16145 16147	楕目	○	ヒノキ?アスナロ?	31.50 ( 16.20 ) 1.10	( 221.5 )	1	6点接合。折敷。樹皮縦り3ヶ所、スリットあり。木釘孔6ヶ所。
1974	箱物側板片	d-67-74-a	16774	楕目		ヒノキ?アスナロ? 木釘:針葉樹	( 17.60 ) 2.35 0.85	( 26.2 )	1	1木釘孔5ヶ所の内、木釘入4ヶ所。
1975	漆塗箱物底板片	c-67-03-c	16114	楕目	○	スギ?スズコ?	25.00 ( 4.80 ) 0.85	( 90.9 )	1	1生漆塗。木釘孔2ヶ所。
1976	銅物容器片	d-67-74-b	16386	近楕		ハリギリ	( 11.20 ) ( 8.05 ) 1.37	( 68.4 )	1	1底部。補修孔あり。
1977	銅物容器片	d-67-94-a	16772	近楕		モクレン	( 15.00 ) ( 8.10 ) ( 1.00 )	( 69.4 )	1	33点接合。盆状。彫刻付。
1978	銅物容器片	c-67-94-c	16202	楕目		ハンノキ	( 14.15 ) ( 13.25 ) 0.80	( 73.6 )	1	33点接合。盆状。
1979	銅物容器片	c-67-03-b	16109	楕目		ハリギリ	( 22.30 ) ( 18.60 ) ( 1.90 )	( 132.3 )	1	55点接合。盆状。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1980	銅物容器片	d-67-64-b	16440	楕目		ヤナギ	( 21.00 ) ( 17.20 ) ( 3.25 )	( 196.0 )	1	55点接合。盆状。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1981	漆塗箱物蓋板片	d-67-54-d	16587	楕目		ヒノキ	( 9.60 ) ( 1.00 ) 0.80	( 5.6 )	1	1黒漆地に赤漆塗。
1982	漆塗碗片	d-67-83-b	16595	楕目		ブナ	( 3.20 ) ( 6.00 ) ( 0.45 )	( 6.3 )	1	1口縁部。内面赤漆塗。
1983	漆塗碗片	d-67-83-a	16593	楕目		ブナ	( 2.90 ) ( 11.20 ) 0.50	( 10.0 )	1	33点接合。口縁部。内外面黒漆地に赤漆塗。
1984	漆塗碗片	d-67-74-a	16748	楕目		ブナ	( 3.20 ) ( 5.40 ) ( 0.40 )	( 4.2 )	1	2点接合。胴部。内外面黒漆地に赤漆塗。
1985	漆塗碗片	c-67-94-c	16586	楕目		ブナ	( 3.60 ) ( 6.50 ) 0.60	( 9.2 )	1	1胴部。内外面黒漆地に赤漆塗。外面赤漆で草花文?

表VI-12 重機調査掲載木製品(9)

図 番号	図版 番号	塗装	運物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮	樹皮復	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体	破 片	備 考
1986	11	11	漆塗板片	d-67-74-a	16591 16716	横木			ブナ	( 8.30 ) ( 6.40 ) ( 1.70 )	( 28.2 )	1		2点接合。底部。内面黒漆地に赤漆塗、外面黒漆塗。
1987	11	11	漆塗板片	d-67-74-c	16747	横木			ブナ	( 6.70 ) ( 7.20 ) ( 15.50 )	( 35.5 )	1		1 底部。内面赤漆塗、外面黒漆塗。
1988	11	11	漆塗板片	d-67-64-b	16588	横木			トチノキ	13.50 ( 10.50 ) ( 4.40 )	( 73.0 )	1		10 10点接合。内面黒漆地に赤漆塗、外面黒漆塗。破片多数あり。
1989	283		白木漆鉢片	c-66-49-b	16609	横木			ケヤキ	( 22.20 ) ( 10.80 ) 4.10	( 29.7 )	1		11 11点接合。底面イトクハ付。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1990	283		杓子椀?	d-67-84-d	16184	丸木			アジサイ	46.30 2.90 1.90	51.6	1		1 彫刻付。
1991	283		杓子米製品片?	d-67-93-c	16125	板木			モクレン	( 11.30 ) ( 7.40 ) ( 3.20 )	( 78.5 )	1		
1992	283		椀	c-67-03-a	16080	椀目			ヒノキ?アスナロ?	37.30 4.40 0.65	53.7	1		1 肩部刻み付。
1993	283		椀片	d-67-83-a	16288	椀目			カツラ	( 33.15 ) 5.42 1.70	( 142.6 )	1		
1994	284		椀柄部片	c-67-50-b	16627	椀目			ハリギリ	( 5.70 ) 5.00 0.80	( 11.0 )	1		1 彫刻付。紐孔1ヶ所。
1995	284		椀	c-67-51-d	16522	追紐			マツ	24.60 7.50 1.40	165.8	1		1 挟付。
1996	284		椀片	c-67-03-d	16659	追紐			○ヤナギ	( 17.40 ) 4.20 0.40	( 8.0 )	1		12 12点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
1997	284		椀片	d-67-83-a	16334	椀目			モクレン	( 16.40 ) 5.80 0.85	( 56.0 )	1		5 5点接合。
1998	284		椀片	d-67-84-b	16269	追紐			ハリギリ	( 29.75 ) 3.40 1.75	( 71.7 )	1		2 2点接合。土掘棒?
1999	284		椀	d-67-93-c	16790	椀目			サクラ	56.50 4.40 1.80	284.6	1		
2000	285		箸先片	d-67-73-c	16776	板紐			ヒノキ?アスナロ?	( 12.20 ) 0.85 0.70	( 5.0 )	1		1 イトクハ付。
2001	285		両口箸	d-67-83-c	16406	板紐			ヒノキ?アスナロ?	20.85 0.55 0.70	5.2	1		1 下部部挟付。
2002	285		両口箸	d-67-93-c	16127	板紐			ヒノキ?アスナロ?	20.80 0.75 0.60	6.7	1		1 2003と一膳?
2003	285		両口箸	d-67-93-c	16128	板紐			ヒノキ?アスナロ?	20.80 0.65 0.65	6.2	1		1 2002と一膳?
2004	285		両口箸	d-67-83-c	16219	椀目			ヒノキ?アスナロ?	23.90 0.90 0.55	7.6	1		
2005	285		片口箸	d-67-74-b	16391	1/4割			アジサイ	39.80 1.10 1.10	25.9	1		
2006	285		片口箸	d-67-84-a	16291	板紐			アジサイ	35.10 1.20 1.15	23.0	1		1 イトクハ付。
2007	285		片口箸基部片	c-67-51-d	16775	板紐			アジサイ	( 9.95 ) 1.00 1.00	( 8.1 )	1		1 イトクハ付。
2008	285		三角串	c-67-50-c	16055	1/4割			アジサイ	36.95 1.10 0.80	21.2	1		
2009	285		三角串	d-67-93-c	16107	1/4割			アジサイ	39.30 0.95 0.85	19.5	1		



表VI-13 重機調査掲載木製品(10)

国 番号	図版 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹種 皮厚	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	備考
2010	285	三角串	c-67-51-d	16062	1/4割		アジサイ	41.45 0.95	21.3	1	
2011	286	三角串	d-67-64-d	16792	板庇		アジサイ	47.65 1.10	29.3	1	
2012	286	角串	d-67-84-d	16186	板庇		ヒノキ?アスナロ?	37.90 0.90	13.8	1	
2013	286	角串	d-67-63-c	16448	板庇		ヒノキ?アスナロ?	29.10 0.85	14.0	1	
2014	286	平角串	d-67-83-c	16214	板目		ヒノキ?アスナロ?	22.00 1.90	23.5	1	
2015	286	平角串	d-67-74-d	16358	板目		ヒノキ?アスナロ?	19.00 0.75	3.6	1	
2016	286	割串	d-67-74-d	16364	追庇		ヒノキ?アスナロ?	24.30 1.80	25.2	1	
2017	286	割竹串片	c-67-72-a	16656	半割		イネ科(ササ)	( 4.85) 1.70	( 1.9)	1	
2018	286	割竹串片	d-67-83-d	16683	半割		イネ科(ササ)	( 8.60) ( 1.20)	( 2.4)	1	
2019	286	割竹串片	c-67-40-a	16541	半割		イネ科(ササ)	( 11.00) 1.60	( 5.4)	1	
2020	286	カンジキ軸	d-67-83-a	16300	板庇		アジサイ	20.50 0.80	6.9	1	
2021	286	カンジキ軸	d-67-83-a	16304	板庇		アジサイ	23.40 0.90	10.0	1	
2022	287	編物糸受木片	c-67-72-c	16019	板目		モクレン	( 22.90) 3.40	( 80.3)	1	2点接合。円縁刻目列付。糸ずれあり。
2023	287	編具	d-67-64-b	16725	追庇		モクレン	9.40 4.50	2.20	1	網製作具?円縁刻目列付。
2024	287	楳櫛片	d-67-83-d	16607	板目		イスノキ	( 4.90) ( 4.80)	( 16.0)	1	挽櫛式。
2025	287	楳櫛片	d-67-84-d	16608	板目		イスノキ	8.50 4.70	( 25.0)	1	挽櫛式。
2026	287	楳櫛片	d-67-64-b	16726	板目		イスノキ	( 3.50) ( 2.30)	( 4.6)	1	挽櫛式。
2027	287	楳櫛片	c-67-50-b	16630	板目		イスノキ	( 2.40) ( 3.00)	( 3.1)	1	挽櫛式。
2028	287	楳櫛片	d-67-64-b	16765	板目		イスノキ	( 3.00) ( 1.60)	( 2.9)	1	挽櫛式。
2029	288	花矢片	c-66-49-c	16543	半割		アジサイ	( 10.20) 1.45	( 13.3)	1	イトクハ付。
2030	288	花矢片	c-67-83-b	16199	1/4割		アジサイ	( 13.50) 1.20	( 9.8)	1	イトクハ付。
2031	288	花矢片	d-67-73-d	16351	1/4割		アジサイ	( 18.00) 1.40	( 15.2)	1	
2032	288	棒酒箸片	c-67-51-a	16519	板目		スギ	( 22.60) 1.20	( 11.3)	1	歯串?線刻付。
2033	288	棒酒箸片	c-67-40-a	16539	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 28.80) 1.30	( 14.7)	1	2点接合。歯串?イトクハ付。

表VI-14 重機調査掲載木製品 (11)

図 番	国産 番号	運物名称	葉細区	遺物番号	木取り	樹皮 皮質	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体 数	破 片	備考
2034	288	棒酒箸	c-67-51-d	16603	楕目		スギ	30.65 2.00 0.50	27.2	1	1	イトクハ付。
2035	289	棒酒箸	d-67-83-c	16764	板目		ヒノキ?アスナロ?	26.60 2.60 0.75	38.0	1	1	
2036	289	棒酒箸	c-67-03-b	16111	追証		ハシドイ	26.70 1.90 0.90	28.5	1	1	2点接合。
2037	289	棒酒箸	c-67-71-b	16089	板目		ヒノキ?アスナロ?スギ?	40.50 3.66 0.86	76.0	1	1	1枚付。
2038	289	楕状製品片	d-67-93-c	16666	楕目		クワ	( 3.40 ) ( 1.40 ) ( 0.95 )	( 1.9 )	1	1	
2039	289	楕状製品	d-67-93-a	16663	板目		カエデ	4.00 3.20 1.50	7.6	1	1	
2040	289	角状付板材	c-67-13-b	16674	楕目		カエデ	5.00 2.65 0.80	6.2	1	1	
2041	289	彫刻付孔板材片	c-67-04-b	16168	板目		カツラ	( 5.45 ) ( 5.00 ) ( 1.10 )	( 18.4 )	1	1	側縁刻目付。
2042	289	彫刻付板材片	d-67-84-d	16676	板目		モクレン	3.50 ( 3.90 )	0.95 ( 6.8 )	1	1	
2043	290	軸状製品	d-67-83-b	16336	丸木		ハシドイ?	19.30 1.90 2.00	44.8	1	1	
2044	290	軸状製品	d-67-93-a	16120	1/4割		アジサイ	18.20 1.70 1.70	33.0	1	1	
2045	290	軸状製品	d-67-54-b	16427	半割		アジサイ	18.80 1.50 1.20	18.7	1	1	
2046	290	軸状製品	c-67-13-a	16190	半割		アジサイ	20.60 2.30 1.40	40.9	1	1	
2047	290	軸状製品片	d-67-83-a	16315	半割		アジサイ	( 18.90 ) 1.90 1.30	( 19.8 )	1	1	
2048	292	太軸状製品	c-67-72-b	16018	丸木		カエデ	27.30 2.60 2.40	102.8	1	1	
2049	290	楔状製品	c-67-51-d	16500	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	6.90 2.05 1.00	6.9	1	1	
2050	290	楔状製品片	c-67-51-d	16528	半割		ヤナギ	8.40 ( 3.30 )	1.60 ( 19.2 )	1	1	
2051	290	楔状製品	d-67-93-c	16129	板目		モミ	8.85 2.00 1.00	9.2	1	1	
2052	290	楔状製品	c-67-53-d	16193	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	9.90 2.05 1.25	15.3	1	1	
2053	290	楔状製品	d-67-64-b	16724	楕目		ヒノキ?アスナロ?	10.70 4.50 1.75	45.0	1	1	
2054	290	楔状製品	c-67-51-d	16501	楕目		カツラ	13.00 4.30 2.05	51.6	1	1	
2055	290	片ピン状製品	d-67-64-b	16443	板証		ヒノキ?アスナロ?	10.45 1.40 1.30	9.8	1	1	
2056	290	片ピン状製品片	d-67-83-d	16259	丸木		ガマズミ?ハイノキ?	( 12.85 ) 1.45 1.40	( 15.9 )	1	1	
2057	290	片ピン状製品	d-67-93-b	16178	半割		タニウツギ?ハイノキ?キブシ?	12.10 2.00 2.00	28.2	1	1	

表VI-15 重機調査掲載木製品(12)

図 番 号	国 番 号	産物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)			重量(g)	個 体 数	備 考
2058	290	両ピン状製品	d-67-83-a	16316	半割		アジサイ	9.10	1.55	0.85	6.6	1	
2059	290	ピン状製品片	d-67-73-c	16700	半割		アジサイ	( 9.30)	1.35	0.65	( 3.2)	1	
2060	291	棒酒箸状製品片	c-67-40-d	16507	板目		ヒノキ?アスナロ?	19.80	( 2.40)	0.70	( 20.6)	1	
2061	291	棒酒箸状製品	d-67-94-b	16208	板目		ヒノキ?アスナロ?	22.65	2.00	0.80	24.0	1	
2062	291	棒酒箸状製品片	d-67-84-d	16227	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	( 22.30)	2.00	0.80	( 22.0)	1	
2063	291	棒酒箸状製品	d-67-64-b	16445	追証		ヒノキ?アスナロ?	25.20	1.95	1.20	37.3	1	
2064	291	棒酒箸状製品	c-67-03-a	16066	板目		ヒノキ?アスナロ?	25.70	2.85	1.05	30.7	1	
2065	291	棒酒箸状製品片	d-67-83-c	16215	板目		イチイ	( 26.30)	3.55	1.00	( 59.8)	1	
2066	291	棒酒箸状製品片	d-67-64-b	16442	板目		ヒノキ?アスナロ?	( 19.65)	2.40	0.65	( 18.7)	1	
2067	291	棒酒箸状製品片	d-67-83-b	16559	追証		イチイ	( 27.70)	3.10	1.20	( 62.0)	1	
2068	291	棒酒箸状製品	d-67-74-a	16487	板目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	28.65	3.80	1.30	82.6	1	
2069	291	棒酒箸状製品蒸材片	d-67-84-b	16251	板目		モミ	( 46.40)	2.60	1.00	( 82.0)	1	33点接合。
2070	292	丸材片	d-67-93-b	16158	1/3割		コナラ	( 55.20)	3.70	3.80	( 439.8)	1	彫刻付。
2071	292	丸材片	d-67-83-a	16286	板証		○サクラ	( 42.65)	2.30	2.10	( 145.2)	1	
2072	292	丸材切断品片	d-67-64-c	16478	板証		コナラ	15.80	( 1.60)	( 2.55)	( 42.0)	1	1イトクハ付。
2073	292	丸材切断品	d-67-84-b	16258	板目		サクラ	7.25	2.35	1.75	14.5	1	早權掘部片?
2074	292	丸木材片	d-67-93-c	16566	丸木		コナラ	( 62.30)	3.40	3.50	( 460.0)	1	3 縄と共伴。刻目付。
2075	292	丸木材片	d-67-93-c	16099	丸木		ヤナギ	( 42.10)	2.30	2.35	( 134.2)	1	6点接合。面取あり。
2076	292	丸木材片	d-67-83-b	16771	丸木		ハシドイ?	( 26.70)	1.75	1.50	( 39.0)	1	4点接合。短刻列付。
2077	293	両端部扶入部付角材片	d-67-94-a	16204	追証		ヒノキ?アスナロ?	( 26.50)	1.95	1.50	( 53.8)	1	1イトクハ付。
2078	293	両端部扶入部付角材	d-67-93-b	16104	半割		モミ	30.60	3.00	1.55	85.0	1	
2079	293	端部扶入部付丸木材片	d-67-63-b	16727	丸木		ヤナギ	( 8.65)	1.60	1.60	( 10.7)	1	2イトクハ付。
2080	293	端部扶入部付角材片	d-67-84-d	16756	丸木		トネリコ	( 6.10)	2.70	3.00	( 18.8)	1	
2081	293	端部扶入部付丸木材片	c-67-73-a	16673	丸木		コナラ	( 12.25)	( 3.75)	( 3.80)	( 99.2)	1	

表VI-16 重機調査掲載木製品(13)

図 番号	図形 番号	通物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)		重量(g)	個 体 数	備考		
2082	293	端部挟付丸木材切断品	d-67-83-a	16793	丸木	○	トネリコ	38.80	2.00	1.90	96.5	1	1	
2083	293	端部挟付角材片	d-67-73-c	16410	丸木		モミ	37.70	4.55	3.90	( 470.6 )	1	1	建材。
2084	293	端部挟入部付角材片	d-67-84-d	16185	丸木		ハシドイ	( 35.80 )	3.50	3.45	( 157.2 )	1	1	
2085	294	端部有孔丸木材片	d-67-84-b	16249	丸木	○	カエデ	( 14.70 )	2.15	2.15	( 45.5 )	1	1	
2086	294	端部有孔丸木材	d-67-74-b	16557	丸木		モミ	66.00	5.00	4.50	930.0	1	1	2点接合。建材。
2087	294	端部挟入部付有孔丸木材片	d-67-93-c	16563	丸木		モクレン	( 81.00 )	6.80	6.40	( 1660.0 )	1	1	建材。
2088	294	端部有孔丸木材片	d-67-74-a	16485	丸木	○	モミ	( 25.90 )	4.70	4.70	( 346.0 )	1	1	建材。漆付。
2089	294	両端部有孔丸木材片	d-67-93-c	16100	丸木		ハリギリ	( 21.00 )	5.65	6.40	( 466.1 )	1	1	建材。
2090	295	端部挟・ホゾ先付有孔丸木材片	d-67-93-c	16105 16789	丸木		モミ	67.30	6.00	5.60	( 1465.0 )	1	1	2点接合。建材。
2091	295	両端部有孔角材片	d-67-74-d	16414	板目		モクレン	( 49.40 )	5.00	4.40	( 708.0 )	1	1	建材。
2092	295	有孔角材片	d-67-83-c	16237	板目		カエデ 貫リソコ?	( 6.35 )	2.45	1.65	( 20.0 )	1	1	2点接合(貫合む)。貫入孔1ヶ所。
2093	295	ホゾ先付角材片	d-67-54-c	16786	丸木		モミ	( 27.60 )	( 5.75 )	( 4.80 )	( 412.5 )	1	1	建材。
2094	295	ホゾ先付有孔丸木材片	d-67-84-b	16293	丸木		モミ	( 57.40 )	5.95	6.00	( 1075.0 )	1	1	66点中2点接合2点実測。建材。
2095	295	ホゾ孔付角材片	d-67-64-b	16785	丸木		トネリコ	( 9.02 )	4.55	4.00	( 87.9 )	1	1	建材。
2096	296	有溝角材片	d-67-84-b	16271	半割		トネリコ	( 39.00 )	3.25	2.40	( 152.5 )	1	1	2点接合。
2097	296	角杭状製品	d-67-84-b	16294	半割		アジサイ	48.30	3.50	3.68	325.5	1	1	
2098	296	丸杭状製品	c-67-60-b	16770	1/3割	○	トネリコ	19.20	5.65	5.00	292.2	1	1	3点接合。
2099	297	有孔板材片	d-67-94-a	16784	追衹		キハダ	( 6.95 )	( 5.50 )	1.60	( 33.1 )	1	1	野引線あり。
2100	297	有孔板材片	c-67-40-a	16610	板目		モクレン	( 8.55 )	( 6.15 )	( 2.10 )	( 44.2 )	1	1	
2101	297	有孔厚板材片	c-67-53-a	16192	追衹		スギ	( 20.25 )	( 9.30 )	2.45	( 295.8 )	1	1	
2102	297	有孔細板材片	c-67-61-d	16028	板目		トネリコ	( 18.20 )	2.45	1.30	( 41.2 )	1	1	
2103	297	有孔板材片	c-67-40-a	16542	追衹		ハリギリ	( 30.35 )	( 9.90 )	( 1.95 )	( 291.4 )	1	1	
2104	297	有孔厚板材片	d-67-74-b	16393	追衹		ハリギリ	18.95	30.40	2.20	( 456.9 )	1	1	4点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
2105	298	厚板材片	d-67-73-b	16482	板目		ハリギリ	( 24.20 )	24.30	2.80	( 467.7 )	1	1	4点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。

表VI-17 重機調査掲載木製品 (14)

図 番 号	國 番 号	運物名称	発掘区	運物番号	樹皮 木取り	樹 皮 質	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)		重 量 (g)	個 体 数	破 片	備 考
2106	298	割板材片	c-67-50-c	16043 16523	板目		トウヒ	( 52.40 ) 5.85	2.20	( 300.8 )	1		33点接合。
2107	298	厚板材片	c-67-61-d	16561	板目		コナラ	55.60 ( 19.50 )	4.00	( 130.0 )	1		
2108	298	厚板材片	d-67-93-b	16166	追板		カツラ	33.50 ( 21.60 )	3.10	( 1170.0 )	1		33点接合。
2109	299	厚板材	c-67-03-a	16075	追板		トネリコ	32.70 20.70	2.60	1003.0	1		
2110	299	厚板材片	d-67-83-a	16329	追板		マツ	( 16.60 ) ( 8.10 )	3.10	( 322.8 )	1		12111と同一個体。刃物痕多数あり。
2111	299	厚板材片	d-67-83-a d-67-83-b	16326 16340	追板		マツ	( 16.20 ) ( 12.10 )	3.00	( 348.1 )	1		2点接合。2110と同一個体。刃物痕多数あり。
2112	299	細板材片	c-67-03-a	16071	板目		モクレン	( 50.50 ) 5.30	2.10	( 321.0 )	1		2点接合。
2113	299	細板材切断品片	d-67-84-a	16277	丸木		ハンノキ	( 25.15 ) ( 4.70 )	2.70	( 168.1 )	1		
2114	299	角材	d-67-93-c	16130	板目		トネリコ	8.15 2.60	2.00	35.9	1		
2115	299	厚板材片	d-67-94-d	16187	板目		ハコヤナギ	( 71.50 ) ( 12.60 )	( 3.40 )	( 650.0 )	1		16点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。
2116	300	受部付柱材	d-67-83-a	16309	板木	○	カエデ	43.75 12.40	7.40	2750.0	1		2点接合。柱頭「Y」字状。
2117	300	桁・梁材	c-67-03-d	16760	丸木		コナラ	140.50 6.40	6.50	( 3700.0 )	1		
2118	300	受部付柱材片	c-67-03-d	16758	板木	○	コナラ	( 138.30 ) 8.60	5.80	( 3150.0 )	1		1柱頭「Y」字状。
2119	300	細帯状樹皮巻	c-66-49-c	16620	樹皮	○	樹皮	0.90 2.70	2.40	1.4	1		1頭部差込式。
2120	300	細帯状樹皮巻	d-67-83-d	16682	樹皮	○	樹皮	( 1.00 ) 2.40	2.40	( 3.4 )	1		2頭部挿入式。丸材残存。
2121	300	帯状樹皮巻	c-67-50-b	16631	樹皮	○	樹皮	1.80 4.90	2.00	2.6	1		1頭部挿入式。
2122	300	帯状樹皮巻	d-67-64-c	16447	樹皮	○	樹皮(カハノキ)	4.90 3.70	3.50	14.6	1		
2123	300	樹皮板材片	c-67-50-c	16490	樹皮	○	樹皮	( 24.20 ) 9.20	1.90	( 331.6 )	1		
2124	300	樹皮板材片	d-67-74-d	16415	樹皮	○	樹皮	( 37.25 ) 6.90	3.00	( 420.4 )	1		
2125	301	細片	d-67-83-c	16601				( 45.60 ) 2.04	1.73	( --- )	1		43本燃り。Z燃り。脆弱なため重量計測不能。
2126	301	細片	d-67-83-c	16599				( 36.52 ) 2.29	1.90	( --- )	1		33本燃り。Z燃り。脆弱なため重量計測不能。
2127	301	細片	c-67-51-d	16730				( 28.80 ) 0.44	0.41	( --- )	1		52本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
2128	301	細片	d-67-83-b	16731				( 37.10 ) 0.59	0.41	( --- )	1		13本燃り。S燃り。脆弱なため重量計測不能。
2129	301	編結び片	d-67-93-c	16566				( 6.90 ) 6.20	2.80	( --- )	1		32074と共伴。燃り紐。計測値は塊。脆弱なため重量計測不能。

VI 重機 (クラムシェル) 調査

表VI-18 重機調査掲載木製品 (15)

図版 番号	図名	選物名称	発掘区	選物番号	木取り 皮	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)	重量 (g)	個 体	破 片	備考
2130	301	樹皮繊維素材片	c-67-51-a	16734			1.85 ( 104.75 )	0.35 ( --- )	1	5	脆弱なため重量計測不能。

## VII 第I 黒色土層の追加遺物

ここに掲載する遺物は、昨年度報告（北埋調報102）時点において、保存処理の樹脂含浸中または修復中のために掲載できなかったものである。第I 黒色土層中の遺構出土遺物および細分された各包含層の遺物をまとめて図示する。遺構名および層位名は、一覧表中の備考欄に記してある。

### 1 遺構の遺物

(1) 木製品・樹皮製品（図VII-2、表VII-2、図版302-1・2）

#### 建材集中1

2131は構築材である。桁または梁材と考えられる。やや屈曲する樹皮付き丸木材である。上端部には切断時の刃物痕が多数認められる。樹種はサクラ属である。

#### 炭化物集中22

2132は断面の四角い両口箸である。樹種はヒノキ？またはアスナロ？属である。2133は上端部に抉りのある細い角材片である。樹種はヒノキ？属である。2134は長方形の断面となる串であろう。先端部側が炭化している。樹種はスギ？属である。2135は中央部の溝に一对の円孔の穿たれた板材である。断面は低い蒲鉾形であり、孔は紐で綴っていた痕跡がある。2136は結束式の細帯状樹皮巻である。一本のサクラの樹皮を巻き込んで束ねたものを切断している。

### 2 包含層の遺物

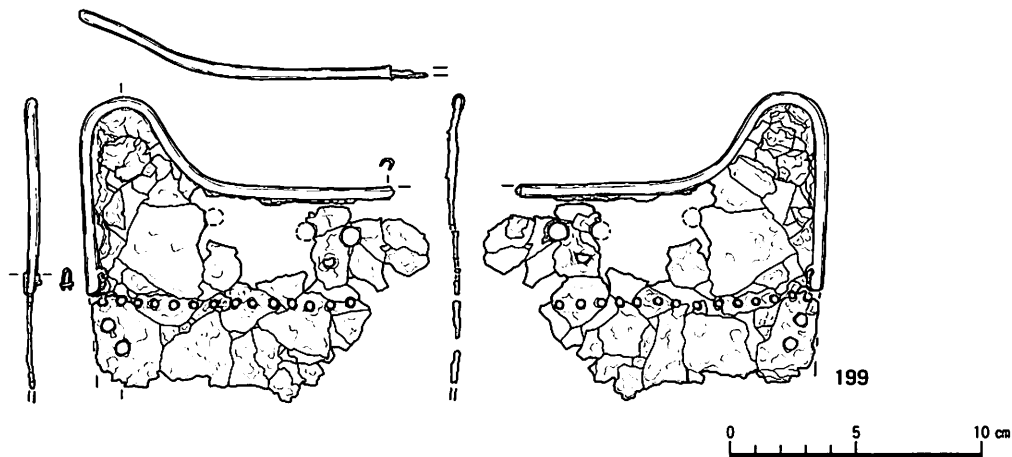
(1) 金属製品（図VII-1、表VII-1、図版302-3）

調査区東端の舌状に張り出した低湿部斜面部のc-67-63-bのI B層から発見された。遺構などは確認されていない。

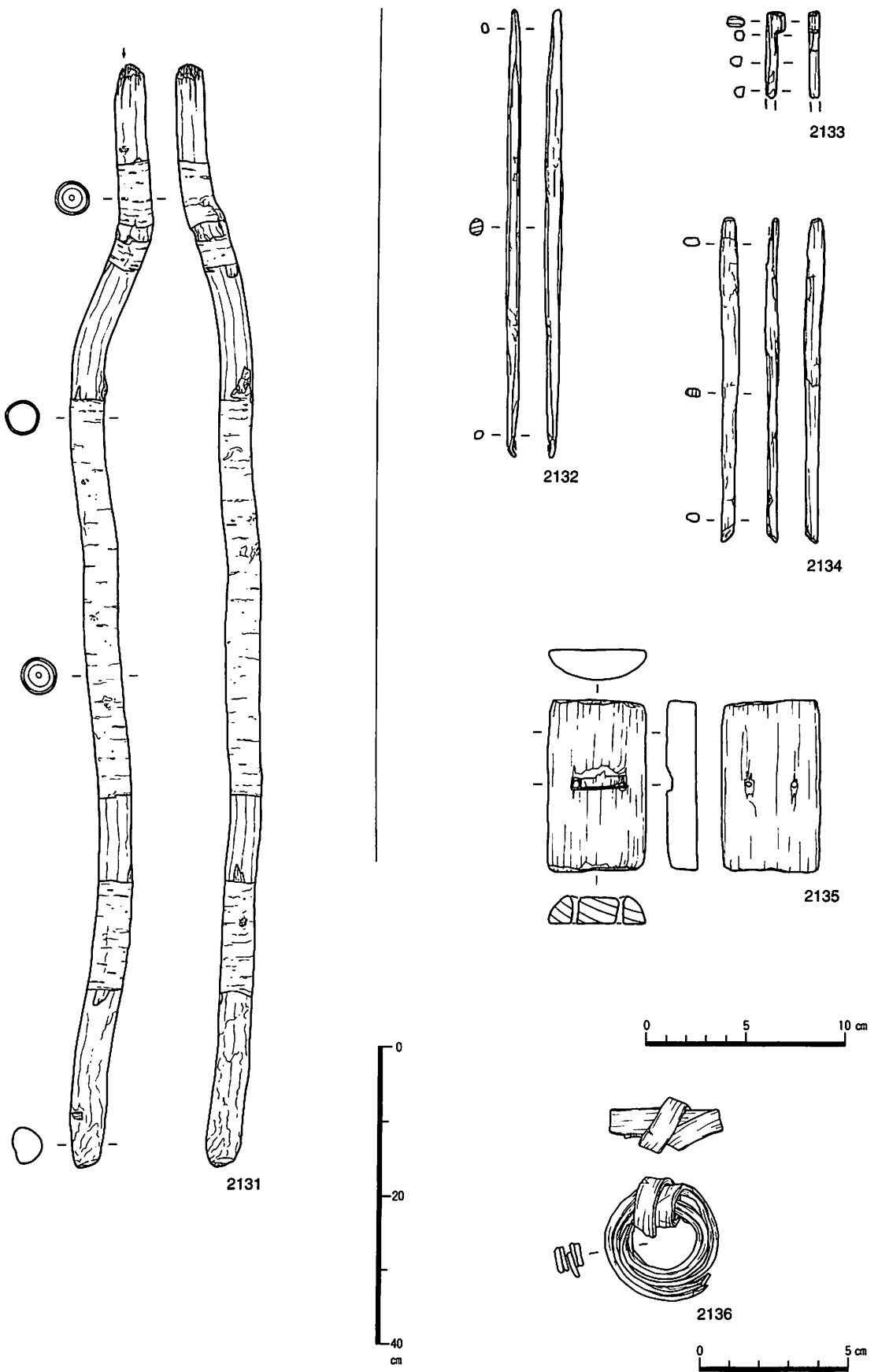
199は鎧の胸板の破片である。右側を半分以上欠損しているものと考えられる。形状は両脇の山が丸く高く、中央が低い凹み形のものである。上面観は緩く湾曲している。表面は鉄地に直接黒漆を塗ったものであり、一部は漆膜のみが残存している。漆塗りの鉄地の周縁を銅製の覆輪で挟み留めている。板の中央には小札綴付けの小孔が水平に連なり、その他に鎧や鉾を通す孔も見られる。下部を欠損しているが平造式の金具廻りであろう。形状から推定して鎌倉時代頃のものであろうか。

表VII-1 I B層掲載金属製品

図 番号	図版 番号	遺物名称	分類・部位	発掘区	遺物 番号	遺構名	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	材質	個 数	破 損 数	備考	保存 処理
199	302	鎧片	胸板	d-67-63-b	73		(12.10)(13.90)(0.50)	(61.6)	銅 鉄	1	52	表面は黒色漆塗。	NAD10



図VII-1 鎧



図Ⅶ-2 遺構の木製品



## (2) 木製品・樹皮製品・繊維製品 (図Ⅶ-3~14、表Ⅶ-3~6、図版303~312)

## 舟部材 (2137~2146)

板綴舟舷側板片 (2137) : 2カ所の角孔には縛り留めた樹皮紐が残存している。

車權受台部 (2138・2139) : 2138は端部の抉り部破片である。炭化のために軸差込み孔の形態は不明である。2139は抉り部と軸差込み孔側を欠損している。丸軸差込式の破片である。

車權受台部軸 (2140~2143) : 2140・2141は丸軸差込式である。2141は下部を欠損している。2142は角軸差込式である。2143は頭部を欠損している。

## 舟用具 (2144~2146)

車權片 (2144) : 断面が凸レンズ状となる車權水掻部の破片である。

あか汲み片 (2145・2146) : 2145は右側板の破片である。2146は開口部の反り上がる底部の破片である。内面には粗い手斧による加工が顕著である。

## 漁撈具 (2144~2146)

回転式離頭銚中柄部 (2147・2148) : 2147は1本式の中柄片であり、先端部と階段状の抉りの付く基部の末端を欠損している。2148は2本組式の中柄部であり、基部が切断されている。

魚突鉤銚台部 (2149~2151) : 2149は表面のやや摩耗した小型のものである。先端部は凸形で摩耗しており、鉄鉤溝の直下に抉入部がある。2150は鉄鉤溝から先端を欠損している。溝の下部には箍状の高まりと抉入部が作出され、裏面には柄(棹)に装着するための平坦が作出されている。2151は未製品である。木の髓部分を鉄鉤溝として加工する過程で破損したものであろう。

## 狩猟具 (2152~2154)

矢中柄部 (2152) : 先端部には鏃の装着痕が認められ、裏面には骨角製のものと同様に、木髓部分が溝状に凹んでいる。基部は装着時の摩耗が認められる。

矢片 (2153) : 先端部は表裏から削られ山形となり、基部の削りは明瞭であるが欠損している。

矢筈片 (2154) : 大型で太い矢柄の筈部破片であり、断面が楕円形となる。筈の凹みは浅い。

## 切截具 (2155)

山刀鞘帯執部片 (2155) : 鞘に固定される帯に引掛ける鉤状部分の一端である。

## 農耕具・採集具、工具 (2156~2160)

土掘棒片 (2156) : 楕円形の割材の一端を筧状に削りだしており、先端部を欠損している。

鉄斧柄 (2157) : 小型の袋式鉄斧や鉞を挿入する膝柄で、挿入部は細く角形に削られている。

横槌 (2158・2159) : 2158は敲打部と柄が細くて長く、柄部が不明瞭なGタイプである。魚叩棒の可能性もある。2159は柄部を欠損したEタイプである。先端は凸形に丸く、堅杵とも考えられる。

堅杵片 (2160) : 両搦部を欠損したものであり、握部を一段細く削り出している。

## 発火具 (2161~2165)

ヒキり板片 (2161・2162) : 2161は厚い板材にウスが1カ所認められ、「V」字刻みから割れている。ヒノキ?属である。2162は柾目の薄板に貫通したウスが1カ所認められる。スギ属である。

ヒキり棒 (2163~2165) : 2163は細角材を素材としたもので、上部はソケットに嵌め込むために細く削り出されている。2164の先端は凸形であり、2165は太く、先端は緩い凸形である。

炉鉤 (2166・2167) : 2166は股木部分を鉤としたもので、上部が太めに加工されている。用具のフックの可能性もある。2167は板材を加工したもので、上部を欠損する。下部や表面が炭化している。

## 容器類 (2168~2177)

樽 (2168・2169) : 2168は焼印のある樽蓋を角形に加工したものである。2169は樽栓である。

曲げ物 (2170~2172・2177) : 2170は把手片である。2171は楕円形となる底板片である。2172は2枚を細いサクラ樹皮で縫いあわせた側板破片である。2177は両端に切断痕のある側板片である。

箱物 (2173~2176) : いずれも側板であり、底板や隣合う側板を固定した木釘及び木釘孔が認められる。2175は両端部を斜めに切り込んで組んだものである。

#### 食用具 (2178~2182)

箸状製品 (2178~2180) : 2180・2179は両口箸である。2180は先端部が欠損した片口箸である。

串状製品 (2181・2182) : 髄のある木を割り裂いた串である。2182は未製品であろう。

#### 歩行具 (2183~2185)

カンジキ (2183~2185) : 短輪型の瓢箪形カンジキの内面に差し込まれる横軸である。両尖端を細く削り出している。2185の断面は幅広であり、尖端部の加工も太い。

#### 紡織編具 (2186~2187・2208)

2186は細丸木材の一面に刻目列が刻まれている。両端部を欠損している。2187は編物糸受木(ケタ)片である。細板材の肩側縁に2個一組の異なる傾きの刻目がほぼ等間隔に連続しており、刻目には編物の経糸の糸ずれが認められる。2208は板状の小型コモ槌であり、両側縁に抉りがある。

#### 祭祀・儀礼具 (2188)

捧酒箸 (2188) : 上下にイトッパの刻みと罫引線があり、下先端が薄く削り出されている。

木幣 (2194) : ヤナギ属の丸木材に頭部を残すように、下から削って削りかけを作成している。

#### 各種加工材(2189~2193)

捧酒箸状製品 (2189~2191) : 断面はいずれも扁平な凸レンズ状であり、形態が捧酒箸に似る細板材である。2190の上端部にはイトッパが認められる。2191には刃物による斜めの極細い線が並ぶ。

丸木材 (2192・2193) : 短刻とイトッパが刻まれた材である。2193の下端部は切断されている。

#### 各種用具の部品や素材 (2195~2214・2218・2219)

楔状製品 (2195~2202) : 上端が幅広で裏面は平坦に加工されており、先端が凸形となっている。

軸状製品 (2203~2207) : 先端部に向かって細く削っている。2203にはイトッパが刻まれている。

多段抉付丸木材片 (2209) : 丸木材の一側縁に滑り止め状の幅広の抉りが連続している。

端部有孔抉付丸木材片 (2210) : 上端が斜めに切り出され、抉り部に縄の残存する角孔がある。

有孔楕円材片 (2211) : 楕円形の厚材に大きめの角孔が斜めに穿たれている。

有孔板材片 (2212) : 斜めに切り落された板材に角孔が穿たれている。

有孔丸木材 (2213・2214) : 2213には角孔が貫通し、上端の角孔と下端部が切断されている。2214の上端部には平坦部が作出され、角孔が穿たれている。

割材切断品 (2218) : 平坦面は作業台のような刃物痕が多数認められる。

丸木材木端 (2219) : 丸木材の上下を粗く切断したものである。

#### 杭・建材等 (2215~2217)

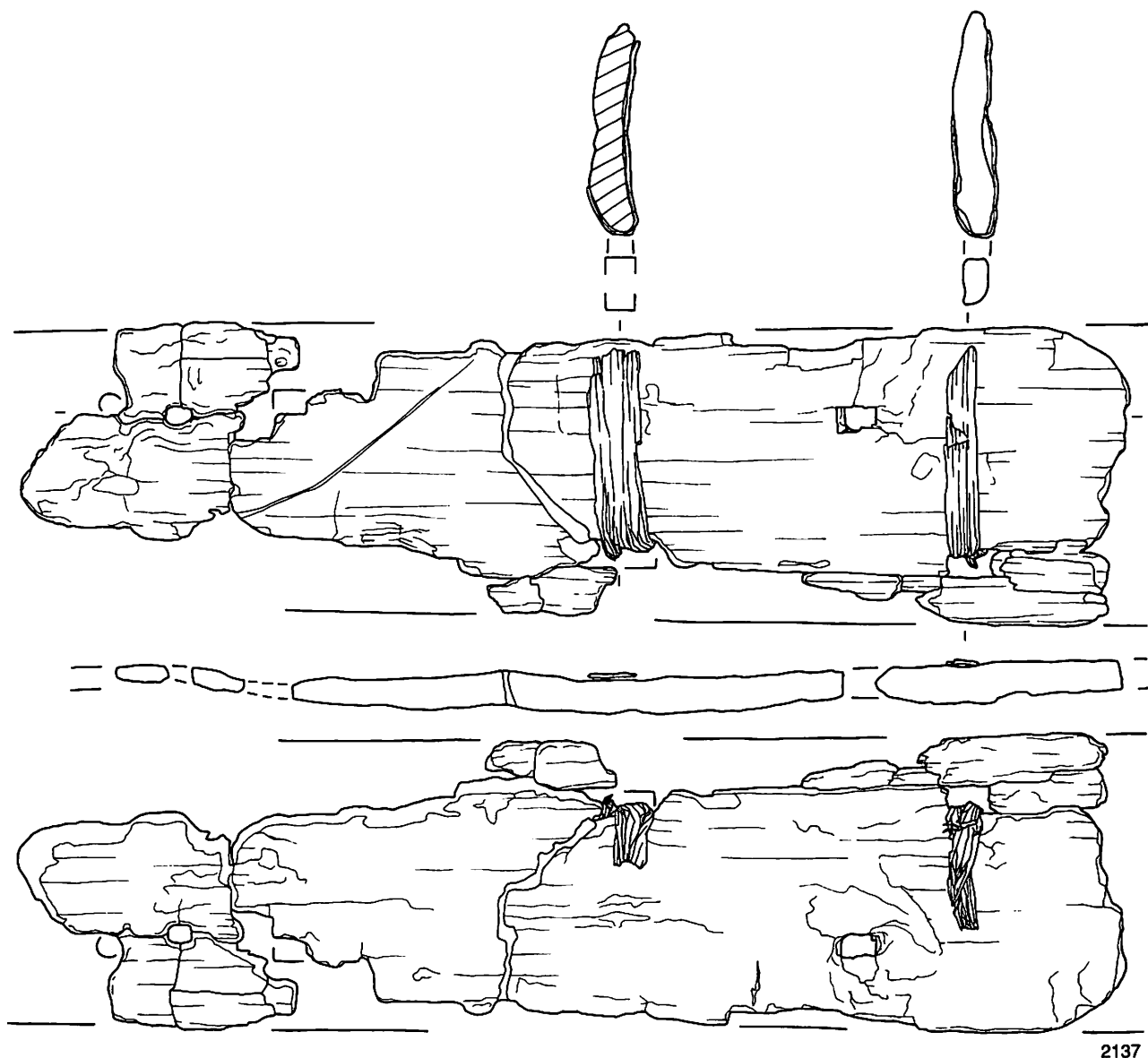
刺し杭 (2215) : 枝分れ部分を刺し杭柄のように加工し、細く加工した下端部を欠損している。

両端杭状丸木材 (2216) : 面取り加工した丸木材の両先端部のみを杭状に切り出している。

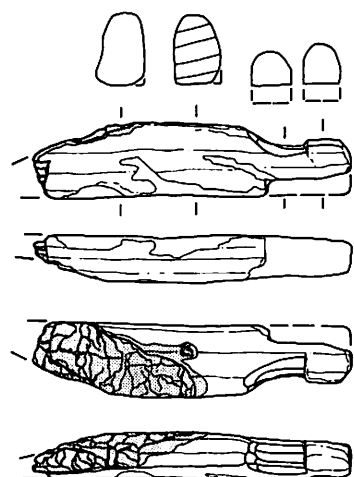
桁・梁材切断品 (2217) : 樹皮付き上端には切断痕が多数あり、下端は斜めに切り出されている。

#### 樹皮製品(2220~2222)

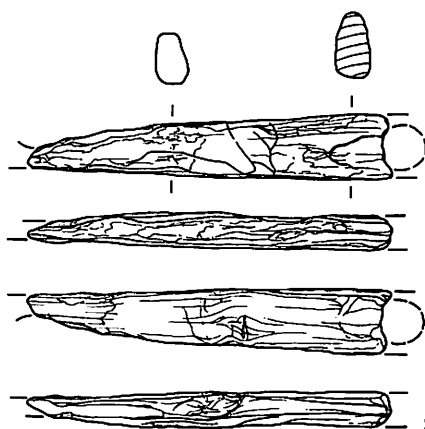
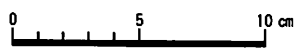
2220は幅広のシラカバの樹皮を両側から巻き込んだ筒状樹皮巻である。2221・2222は細帯状樹皮巻である。2221は釘打込式のものである。2222は結束式である。 (田口 尚)



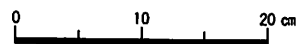
2137



2138

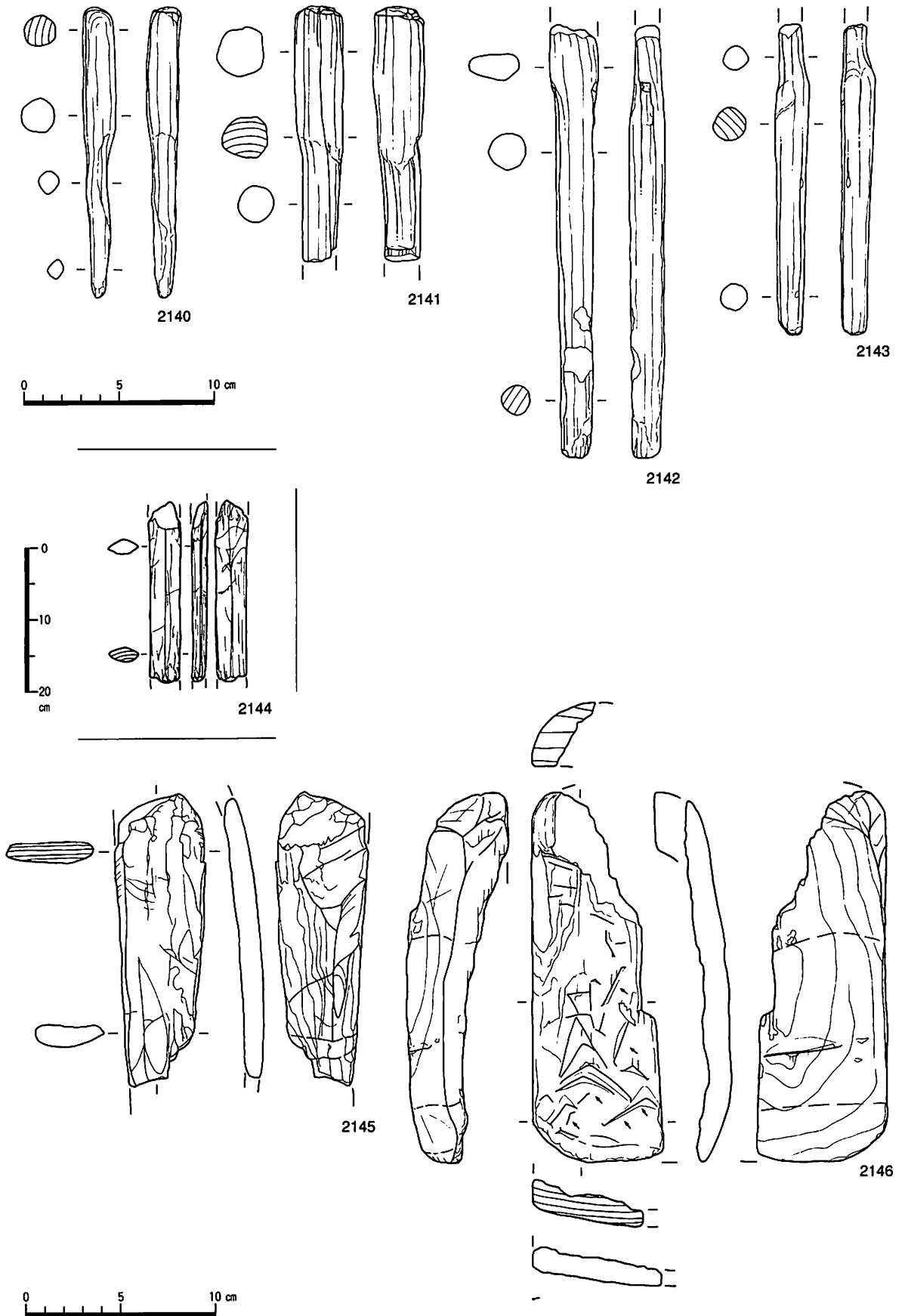


2139

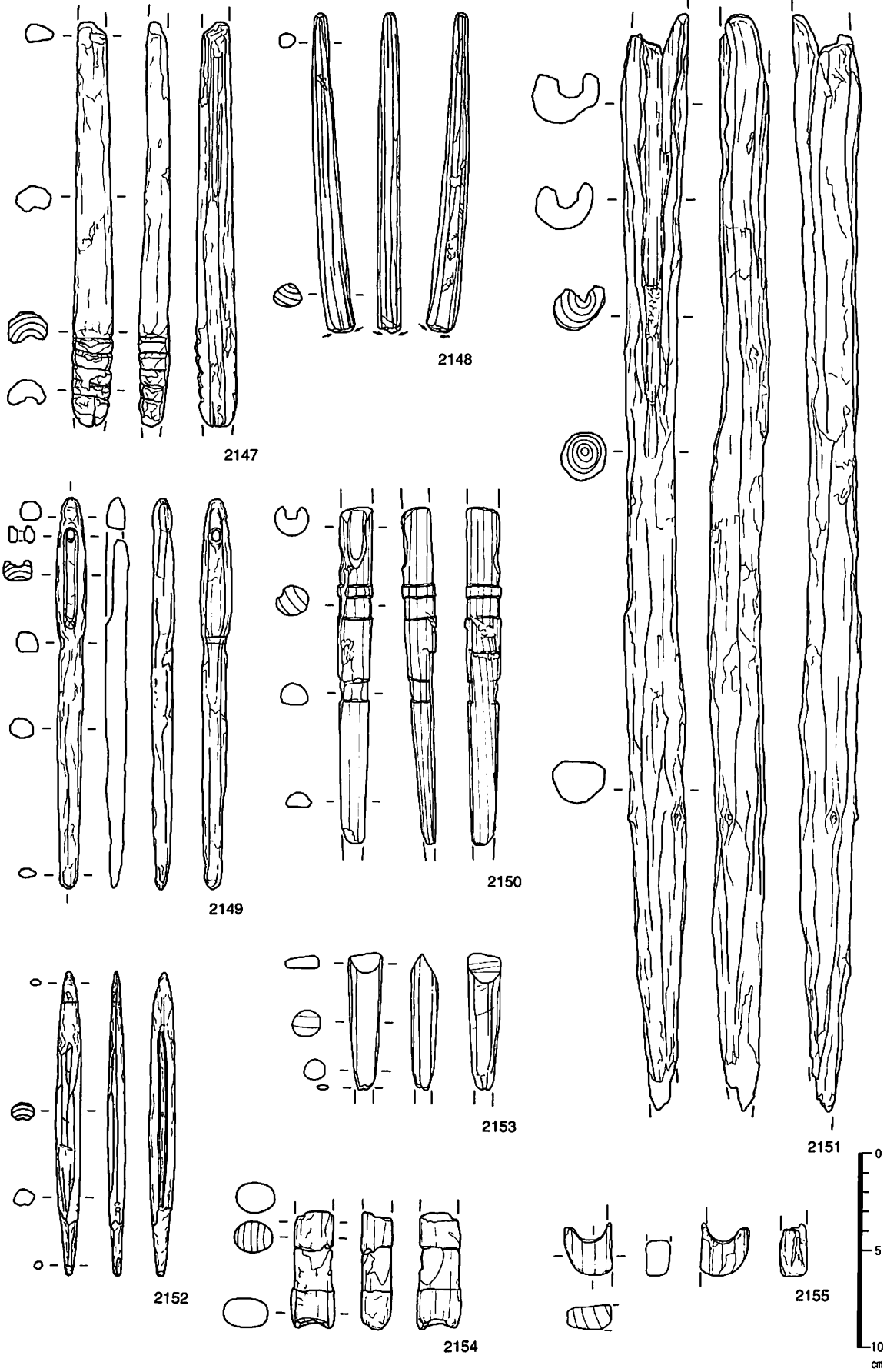


図VII-3 舟部材 1

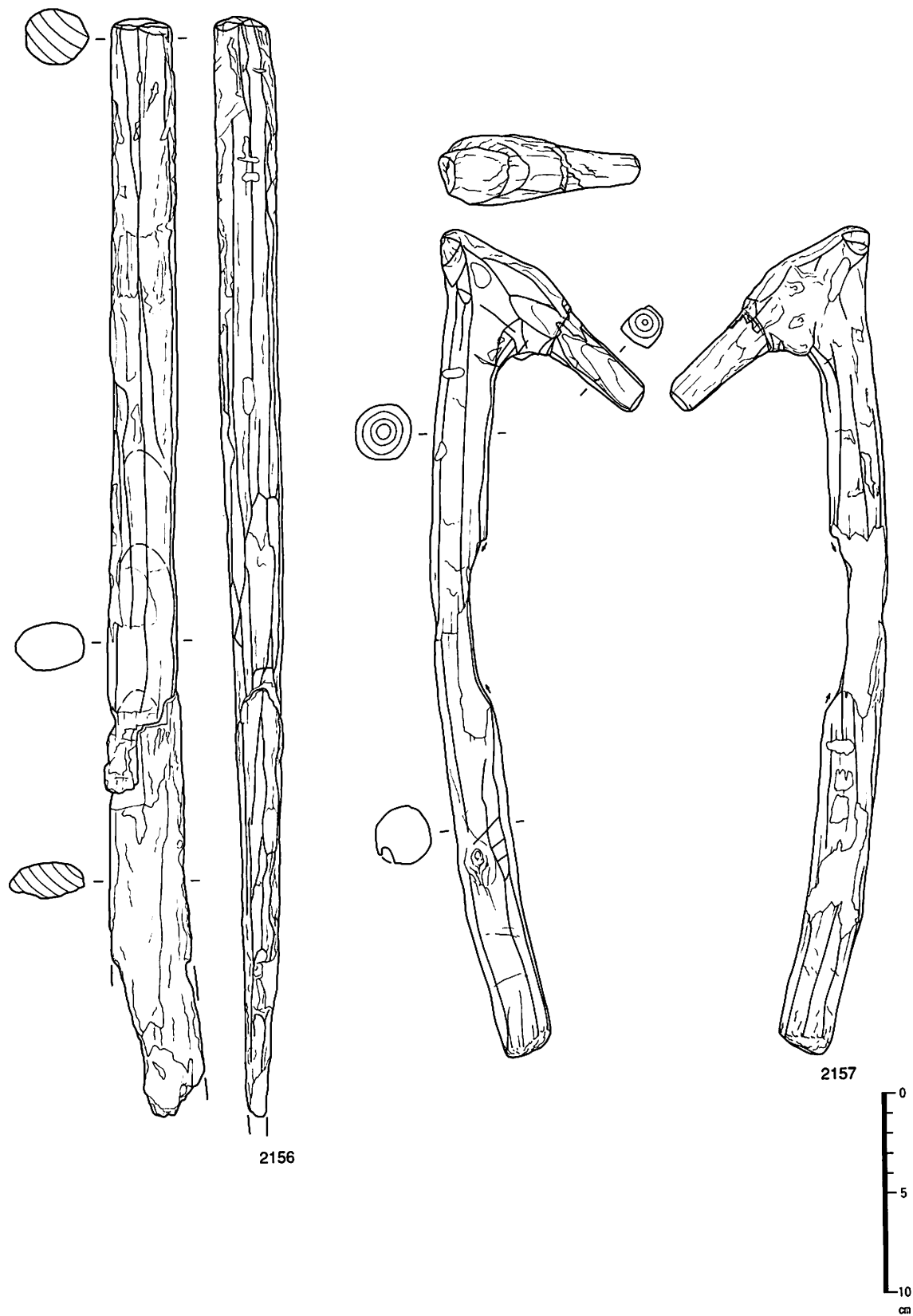
Ⅶ 第Ⅰ黒色土層の追加遺物



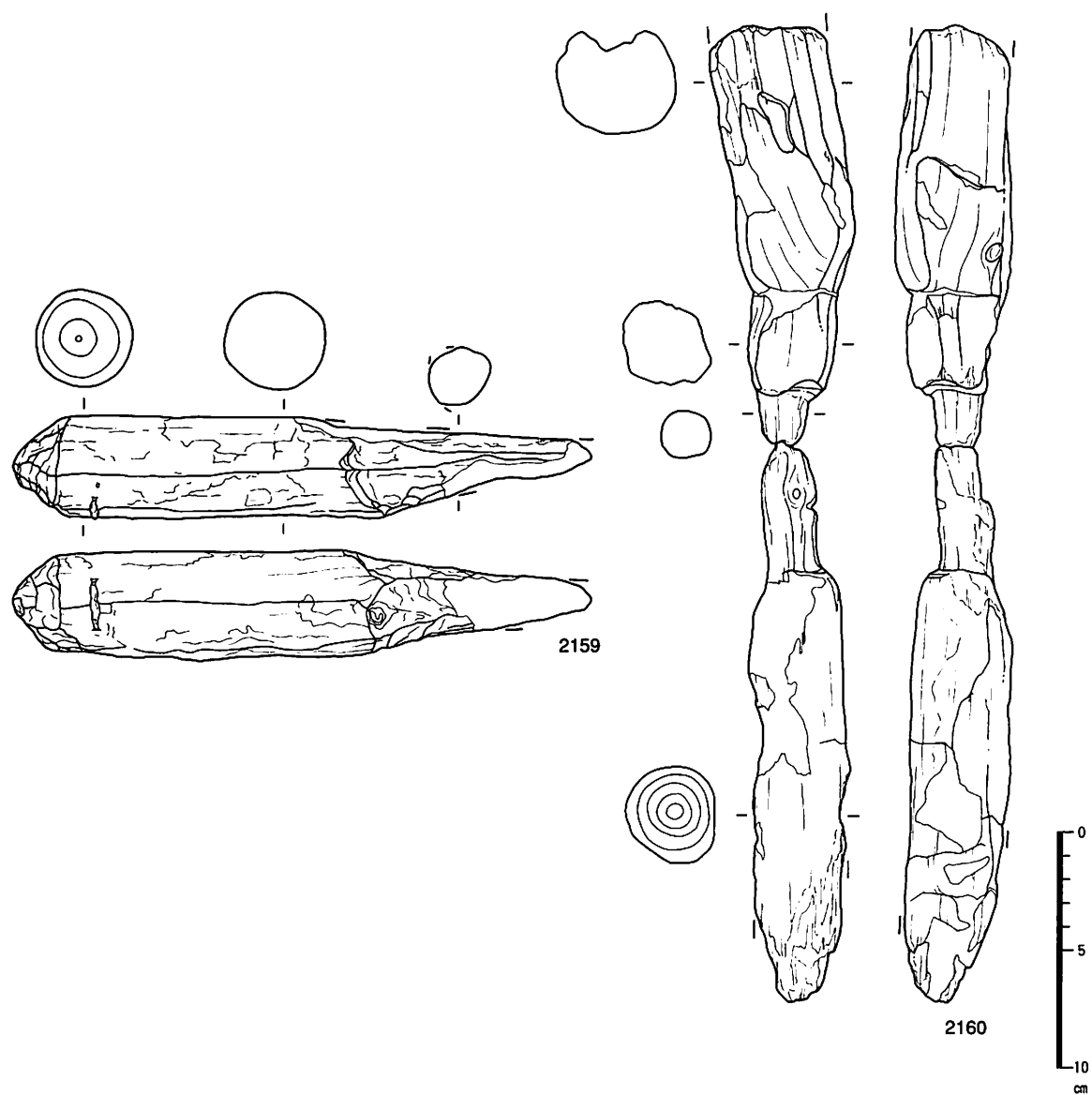
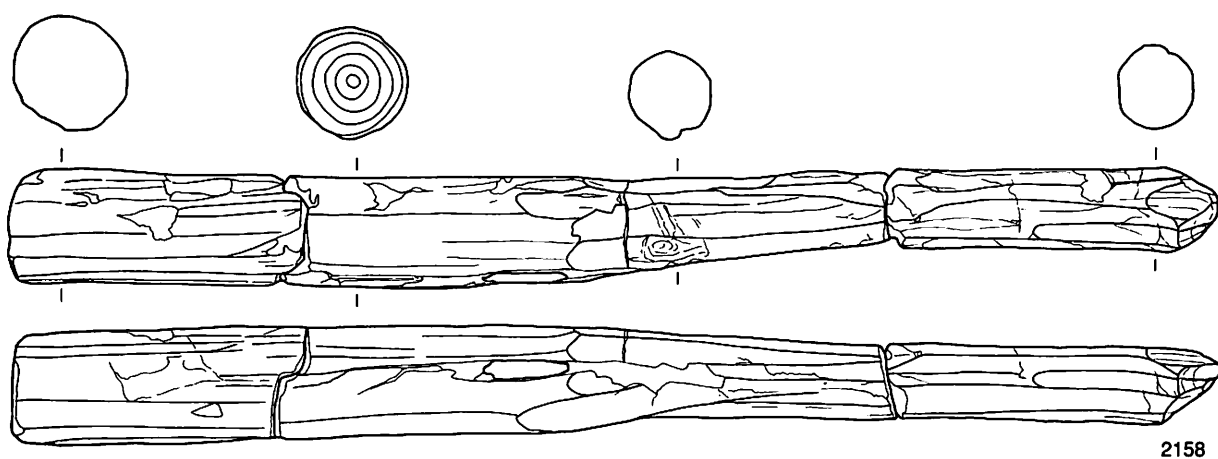
図Ⅶ-4 舟部材 2



図Ⅶ-5 狩猟具・漁撈具・切截具

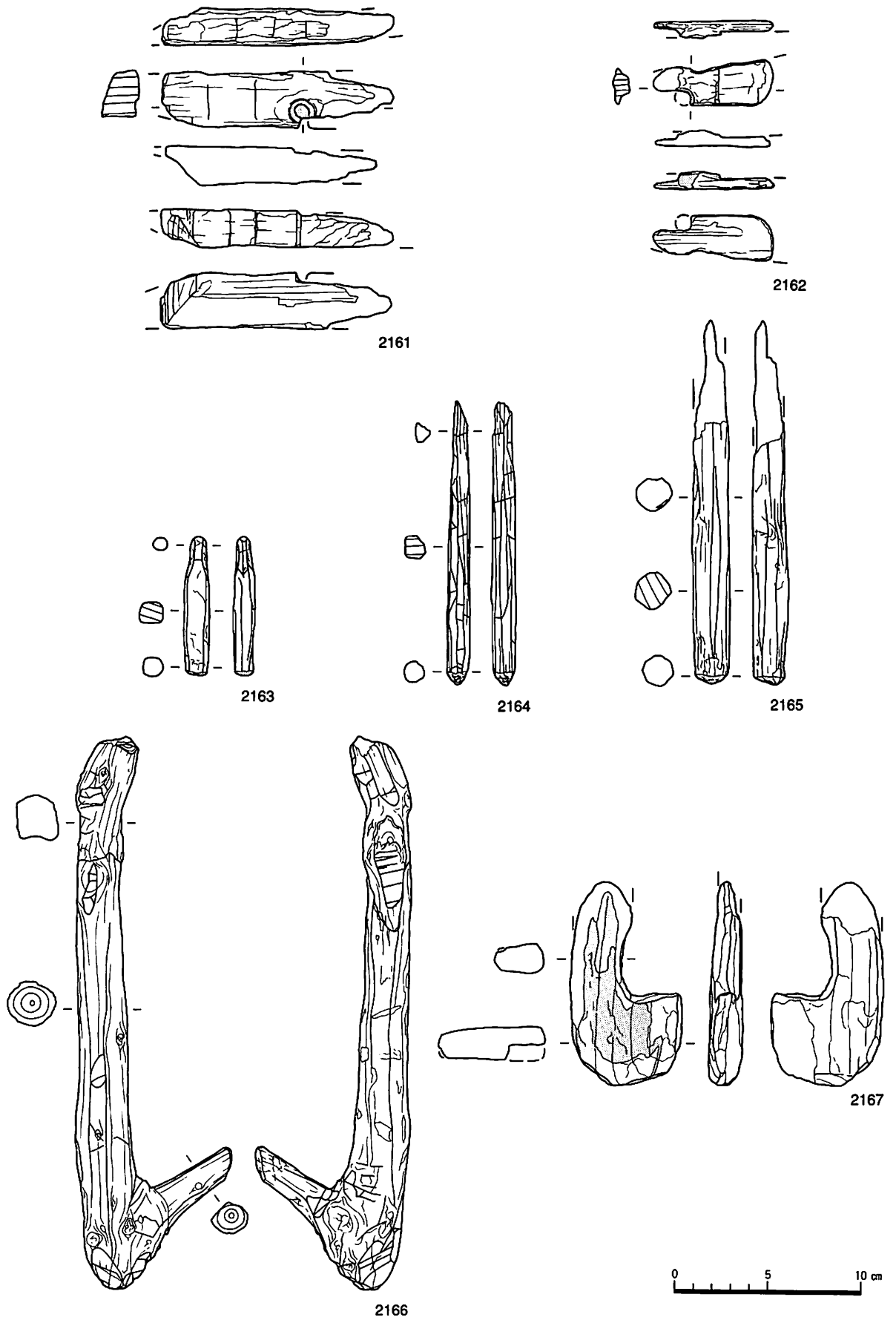


図Ⅶ-6 採集具・工具（土掘棒・鉄斧柄）



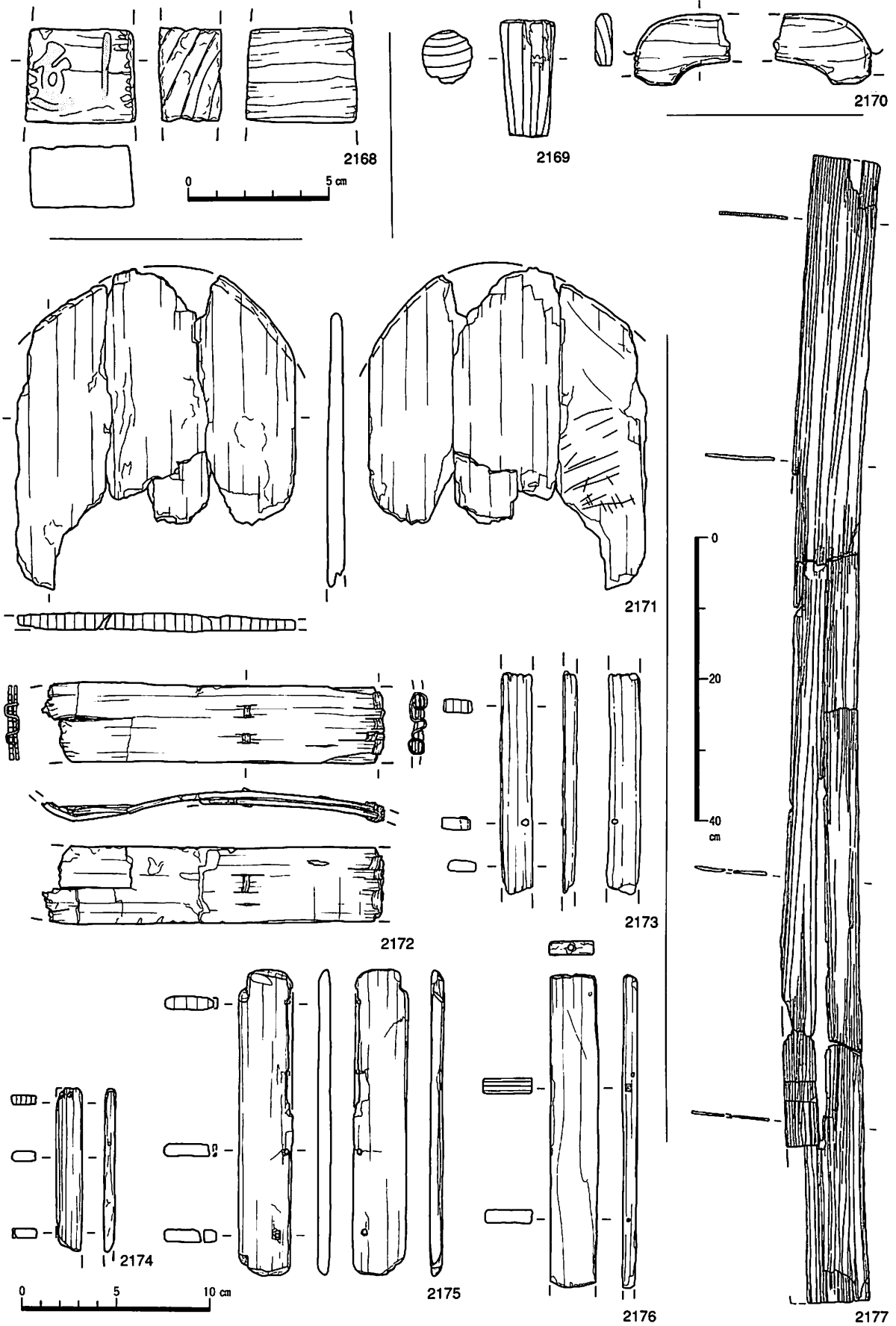
図VII-7 農耕・工具（横槌・竖杵）

Ⅶ 第Ⅰ黒色土層の追加遺物



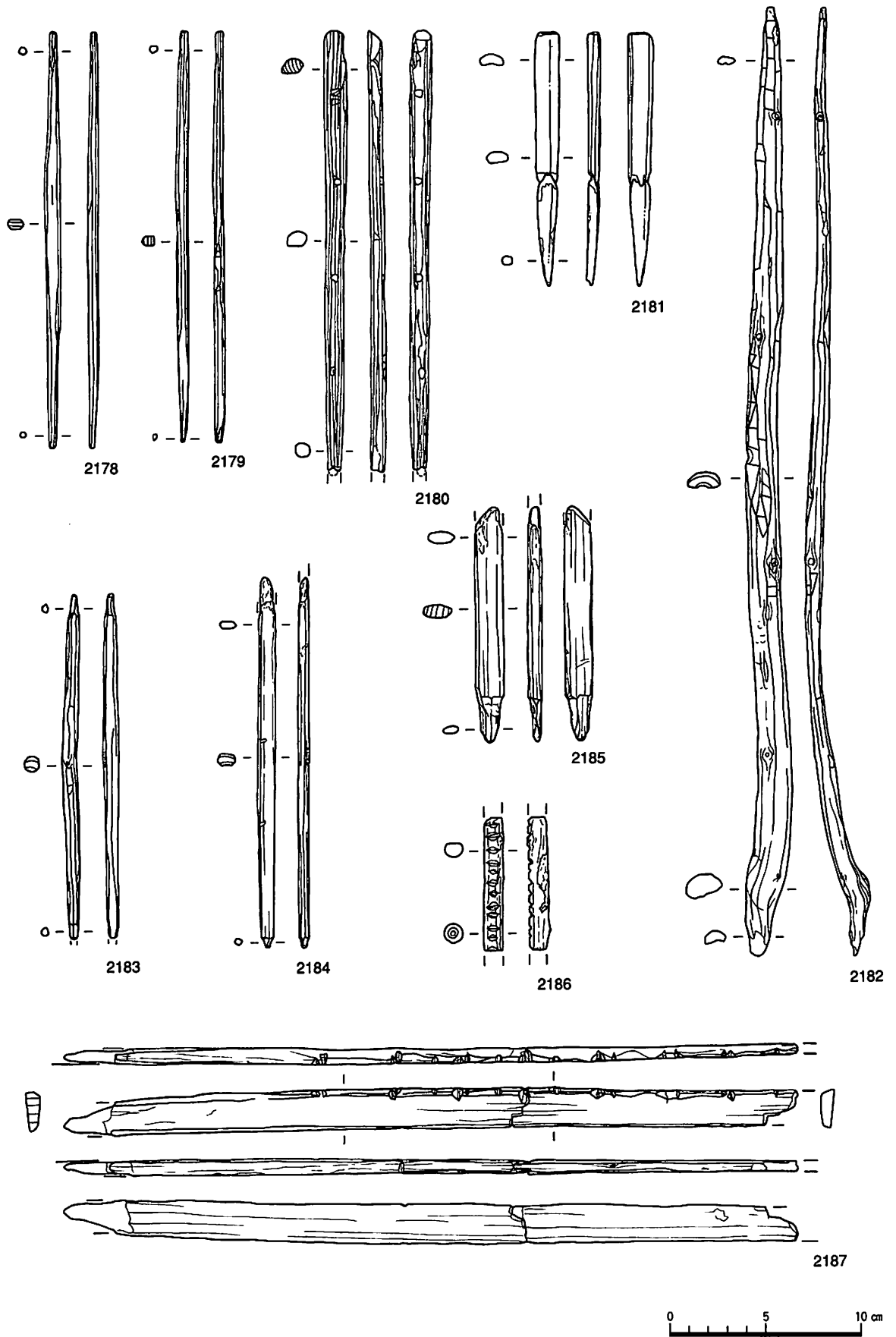
図Ⅶ-8 発火具・炉鉤



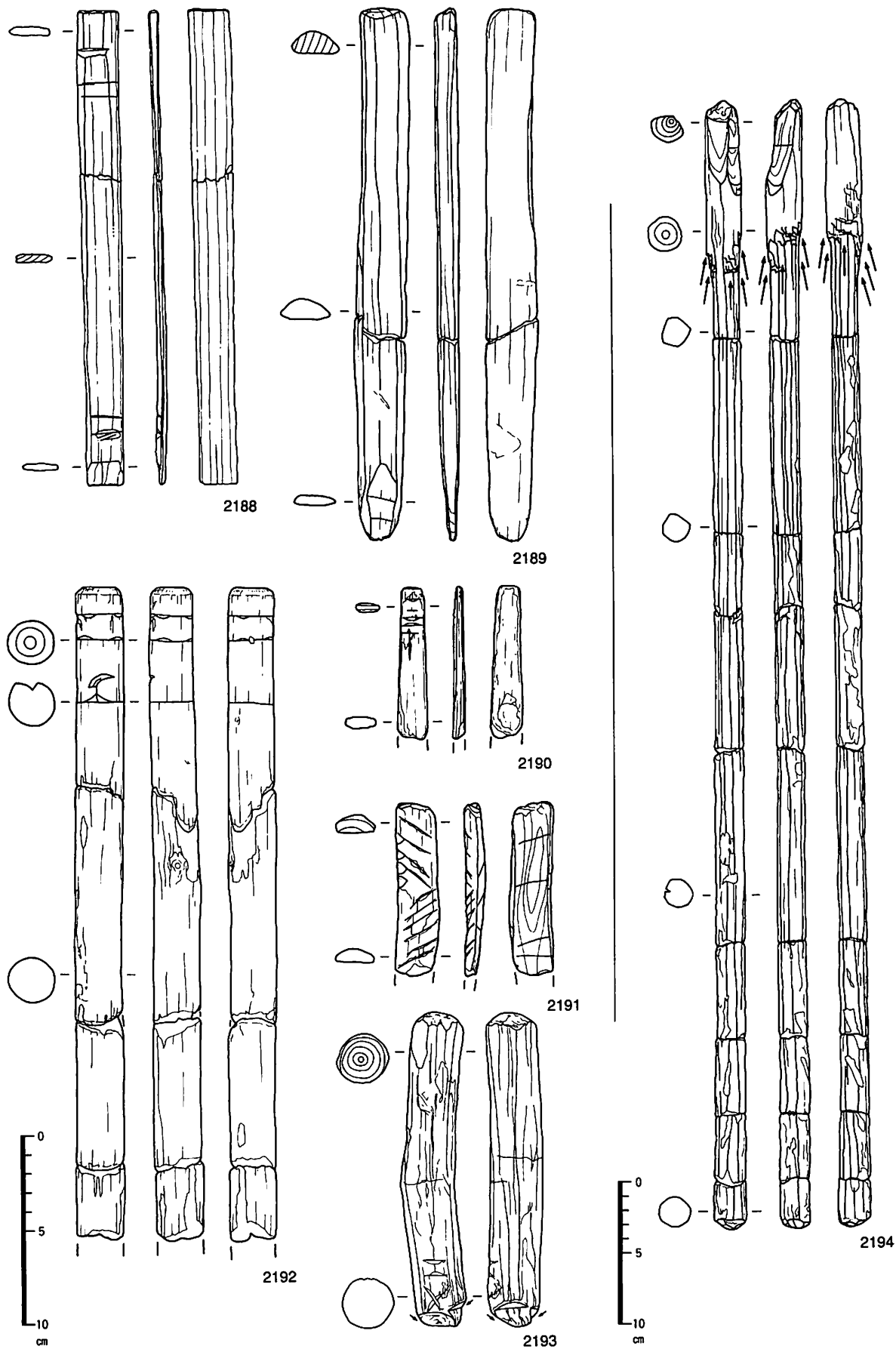


図VII-9 容器類(桶・樽・曲げ物・箱物)

Ⅶ 第Ⅰ黒色土層の追加遺物

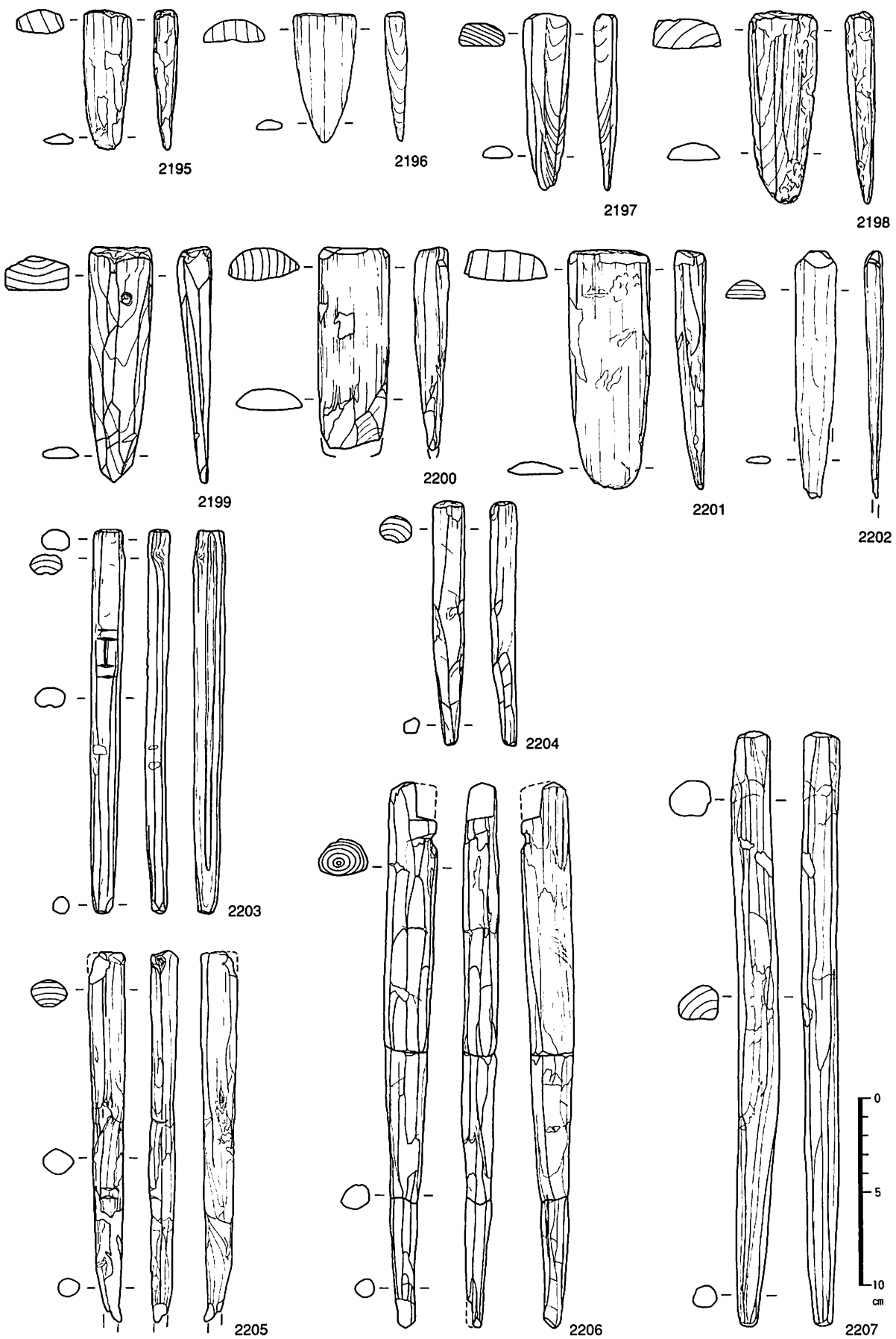


図Ⅶ-10 食用具・歩行具・紡織編具

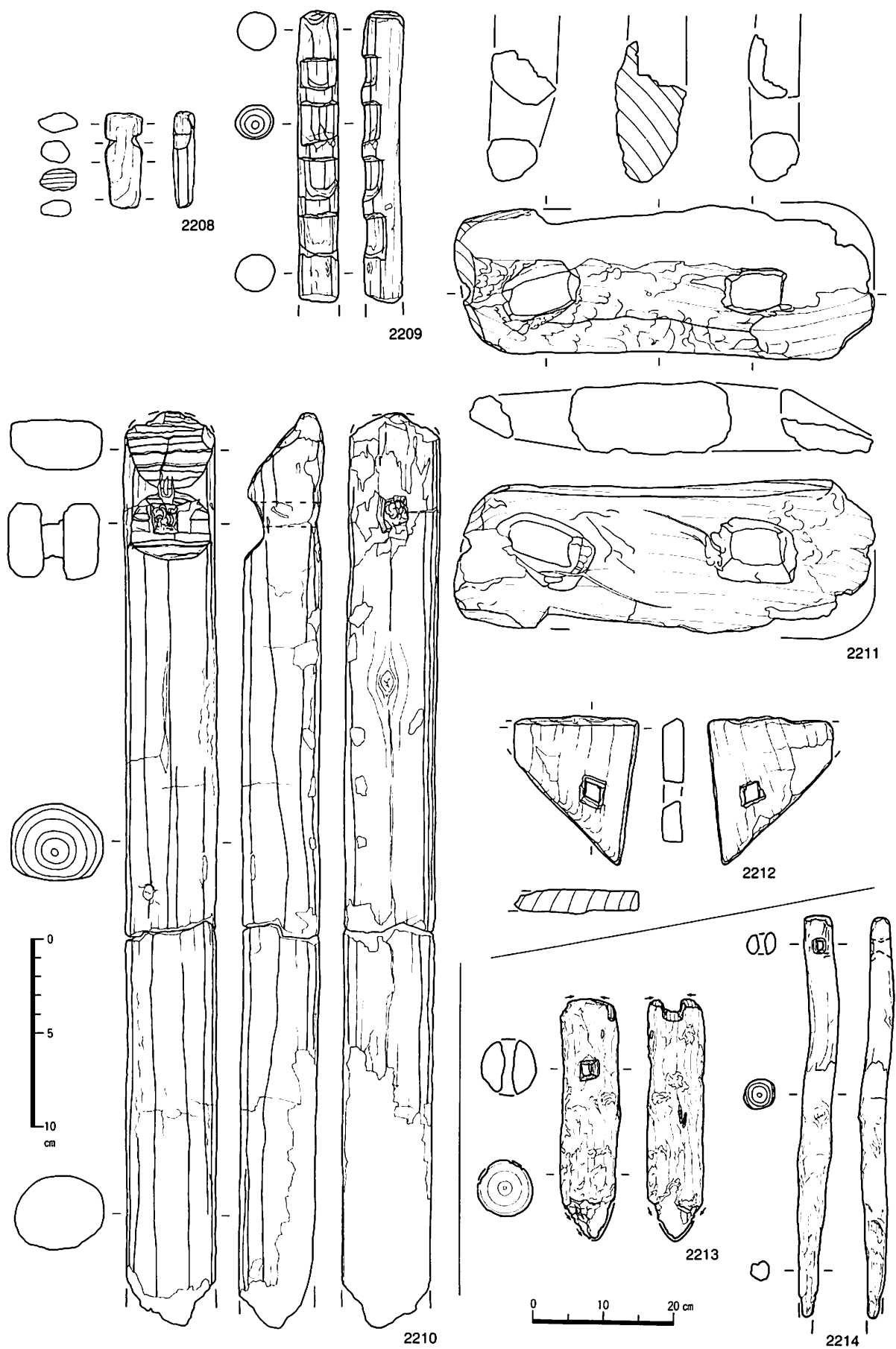


図VII-11 祭祀・儀礼具

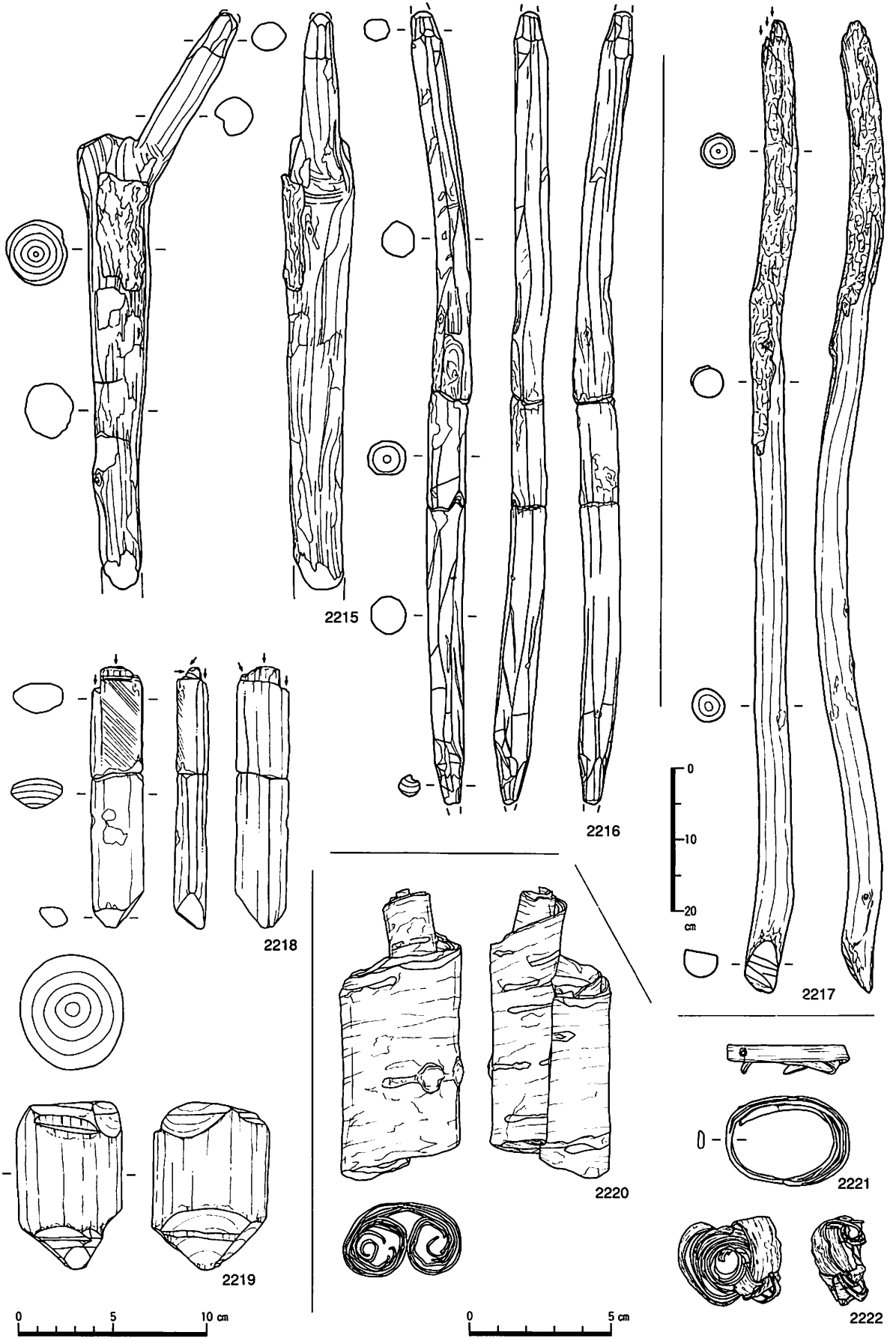
Ⅶ 第Ⅰ黒色土層の追加遺物



図Ⅶ-12 楔状製品・軸状製品



図VII-13 抉付・有孔製品



図Ⅶ-14 杭状製品・樹皮製品

表VII-2 I B層掲載遺構の木製品

図原 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 数	備考	
2131 302	桁・梁材	d-67-91-a	8276	丸木	○	サクラ	145.80	4.95	5.00	2370.0	1	1 建材集中1。IB-1。
2132 302	酒口箸	c-66-18-d	15519	板目		ヒノキ?アスナロ?	22.60	0.70	0.80	7.4	1	1 炭化物集中22。IB-1。
2133 302	端部挟付細角材片	c-66-17-c 28-a*b 18-a*b,c,d	15567	板目		ヒノキ?	( 3.80)	0.90	0.50	( 0.6)	1	1 自然乾燥。計測値は乾燥後の値。炭化物集中22。IB-1。
2134 302	平角串	c-66-18-d	15514	板目	○	スギ?	16.40	1.00	0.70	5.4	1	1 炭化物集中22。IB-1。
2135 302	有孔板材	c-66-18-d	15173	板目		スギ?	8.60	5.00	1.50	54.9	1	1 溝付孔2ヶ所。炭化物集中22。IB-1。
2136 302	細篩状樹皮巻	c-66-18-d	15508	樹皮	○	樹皮	4.20	3.80	1.80	6.5	1	1 結束式。炭化物集中22。IB-1。

表VII-3 I B層掲載遺構の木製品 (1)

図原 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り	樹皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ (cm)		重量 (g)	個 体 数	備考	
2137 303	縦板拵板部片	c-66-09-b c-66-09-c	6276	追桁	○	キハダ	( 49.50)	13.10	1.90	( 226.4)	1	19点接合(樹皮紐2点含む)。樹皮紐付。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。IB-2。
2138 303	車懸受台部片	c-66-18-c c-66-28-b	15178	板目	○	サクラ	( 12.60)	3.00	1.90	( 40.4)	1	1 ベルト出上。IB-1。
2139 303	車懸受台部片	d-67-92-b	9133	板目		モクレン	( 28.30)	( 5.20)	2.85	( 244.5)	1	1 丸軸差込式。IB-1。
2140 303	車懸受台部軸	c-66-09-c	15503	板目		コナラ	15.20	1.75	1.85	26.0	1	1 丸軸差込式。IB-3。
2141 303	車懸受台部軸片	c-66-09-b	15502	板目		カエデ	( 13.40)	2.55	2.70	( 57.0)	1	1 丸軸差込式。IB-3。
2142 303	車懸受台部軸片	c-66-09-a	15504	板目		トネリコ	( 22.70)	2.55	1.80	( 63.0)	1	1 角軸差込式。IB-3下部。
2143 303	車懸受台部軸片	c-66-09-b	15501	板目		カエデ	( 16.20)	1.80	1.80	( 32.0)	1	1 IB-3。
2144 303	車懸木強部片	c-66-19-c	7306	板目		ハンノキ	( 25.10)	4.45	2.25	( 130.4)	1	1 IB-1。
2145 303	あか汲み傾板片	d-67-92-b	9149	横木		モクレン	( 15.35)	( 4.80)	( 2.05)	( 47.9)	1	1 IB-1。
2146 303	あか汲み片	d-66-99-c	15523	横木		カツラ	( 19.30)	( 6.90)	( 5.40)	( 130.2)	1	1 IB-1。
2147 304	回転式罐頭箱中柄片	c-67-52-d	15536	半割		アジサイ	( 20.90)	2.10	1.60	( 36.4)	1	1 1本式。階段状刻目付付。IB-1。
2148 304	回転式罐頭箱中柄切断品	d-67-91-d	8059	1/4割		アジサイ	16.50	1.50	1.20	18.1	1	1 2本組式。IB-1。
2149 304	魚突鉤拵台部	c-67-40-c	15213	板目		アジサイ	20.20	1.55	1.10	18.1	1	1 IB-1。
2150 304	魚突鉤拵台部片	c-66-09-d	15163	板目		カエデ	( 17.15)	1.80	1.70	( 26.0)	1	1 IB-1。
2151 304	魚突鉤拵台部未製品片	c-66-38-a	14649	丸木		アジサイ	( 56.50)	3.50	3.05	( 278.0)	1	1 IB-1。
2152 304	矢中柄	d-67-92-d	15228	半割		アジサイ	15.65	1.30	0.90	10.2	1	1 IB-1。

表Ⅶ-4 I B層掲載木製品(2)

図 番 号	図版 番 号	遺物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹皮 皮 痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)		重量(g)	個 体 数	備考
2153	304	矢片	d-67-92-d	15512	板目		クワ	( 7.00 ) 1.70	1.40	( 10.0 )	1	1 鳥用? IB。
2154	304	矢密片	c-66-09-b	15565	板目		ハンノキ	( 6.03 ) 2.30	1.60	( 13.6 )	1	2点接合。大型。IB-1。
2155	304	山刀鞘拵執部片	c-66-18-d	15175	板目		カエデ	( 2.70 ) ( 2.50 )	1.45	( 5.0 )	1	1 IB-1。
2156	305	土掛株片	c-67-00-b	9377	追証		カバノキ	( 54.70 ) ( 4.60 )	3.10	( 355.0 )	1	2点接合。IB-1。
2157	305	鉄斧柄	c-66-08-b c-66-09-a c-66-09-d	4301	板目		ハシドイ	41.10 10.70	3.50	298.0	1	1 袋状手斧。IB-1。
2158	306	横紐	d-67-81-c d-67-82-d	10101	丸木		オニグルミ	48.20 2.65	4.70	563.3	1	4点接合。Gタイプ。サケ叩き棒? IB-1。
2159	306	横紐片	c-66-48-a	14672	丸木		トネリコ	( 24.70 ) 4.25	4.70	( 247.1 )	1	1 Eタイプ。堅杵? IB-1。
2160	306	堅杵片	d-67-92-b	15507	丸木		オニグルミ	( 41.40 ) 6.10	4.90	( 422.0 )	1	2点接合。IB-1。
2161	306	ヒキリ板片	d-66-99-d	15533	板目	○	ヒノキ?	( 12.40 ) 3.05	2.10	( 43.2 )	1	1 ウス1ヵ所。IB-1。
2162	306	ヒキリ板片	c-66-27-b	15556	板目	○	スギ	( 6.40 ) ( 2.50 )	( 0.85 )	( 5.6 )	1	1 ウス2ヵ所。IB-1。
2163	306	ヒキリ棒	c-66-08-c	15531	板証	○	ヒノキ?	7.35 1.30	1.10	7.6	1	1 ソケット式。IB-1。
2164	306	ヒキリ棒	c-66-09-a	4297	板証	○	スギ	15.20 1.20	1.30	15.7	1	1 IB-1。
2165	306	ヒキリ棒片	c-66-28-a	15564	板証	○	スギ?	( 19.50 ) 2.00	1.90	( 36.0 )	1	2点接合。IB-2。
2166	307	拵鈎	d-66-99-d	5407	板目		クリ	29.70 8.40	3.80	177.8	1	2点接合。IB-2。
2167	307	拵鈎片	c-67-51-b	13693	追証	○	ハリギリ	( 10.83 ) 6.10	1.85	( 22.1 )	1	1 保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。IB-1。
2168	307	樽蓋板切断品片	c-67-01-a	15530	追証	○	スギ	( 3.90 ) 3.30	2.20	( 26.0 )	1	1 焼印付。IB-1。
2169	307	樽栓	c-66-38-d	15169	板証		スギ	6.05 2.90	2.95	32.0	1	1 IB-1。
2170	307	曲げ物把手片	c-67-51-a	15550	板目		カエデ	( 5.20 ) ( 3.70 )	0.90	( 10.7 )	1	1 IB-1。
2171	307	曲げ物底板片	c-66-09-a	7535	板目		ヒノキ?	( 16.95 ) ( 15.00 )	0.90	( 118.5 )	1	5点接合。IB-2。
2172	307	曲げ物側板片	c-67-30-c	15210	板目	○	スギ	( 18.30 ) 4.10	1.80	( 29.6 )	1	55点接合(樹皮3点含む)。樹皮綴りあり。IB-1。
2173	307	箱物側板片	d-67-91-b	15510	板目		スギ?	( 11.80 ) 1.70	0.80	( 12.0 )	1	1 木釘入孔1ヵ所。IB-1。
2174	307	箱物側板片	c-67-10-c	7686	板目		スギ	( 8.70 ) 1.40	0.50	( 6.0 )	1	1 木釘孔3ヵ所の内、木釘入2ヵ所。IB-1。
2175	307	箱物側板片	c-67-41-c	13948	板目		スギ?	16.20 2.90	0.65	( 27.3 )	1	1 木釘孔4ヵ所。IB-1。
2176	307	箱物側板片	c-66-38-c	13455	板目		ヒノキ?	( 16.60 ) 2.60	0.80	( 30.6 )	1	1 木釘孔4ヵ所の内、木釘入2ヵ所。IB-1。



表VII-5 I B層掲載木製品(3)

図版番号	運物名称	発掘区	運物番号	木取り	樹種	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	質量(g)	個体数	備考
2177 307	曲げ物側板片	d-67-81-b d-67-81-c	10496	柱目		ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	164.40 ( 10.95 ) 0.40	( 290.0 )	1	57点中12点接合。保存処理後実測。計測値は保存処理後の値。IB-1。
2178 308	両口箸	d-67-82-c	15225	板目		ヒノキ?	21.65 0.80 0.60	5.3	1	IB-1。
2179 308	両口箸	c-66-18-c c-66-28-b	15497	板紐		スギ?ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	21.50 0.65 0.50	4.6	1	IB-1。
2180 308	片口箸片	d-67-82-c	7821	追紐		スギ	( 23.10 ) 1.15 0.80	( 12.3 )	1	1 木釘孔5ヶ所の内、木釘入4ヶ所。漆塗箱物側板再利用。IB-1。
2181 308	割串	d-67-91-b	15235	1/4割		アジサイ	13.00 1.30 0.70	7.0	1	2点接合。IB-3。
2182 308	串木製品	d-67-92-a	8822	半割		アジサイ	49.80 2.50 3.30	44.9	1	1 IB-1。
2183 308	カンジキ軸片	c-66-28-b	14420	板紐		アジサイ	( 18.10 ) 0.90 0.90	( 7.3 )	1	1 IB-1。
2184 308	カンジキ軸片	c-66-18-c c-66-28-b	14770	1/4割		アジサイ	( 19.50 ) 0.90 0.60	( 7.0 )	1	1 ベルト出土。IB-1。
2185 308	カンジキ軸片?	c-66-18-b	6718	柱目		ヒノキ?	( 12.20 ) 1.50 0.80	( 9.0 )	1	1 IB-1。
2186 308	丸木材片	c-66-09-b	15557	丸木	○	ハシドイ	( 6.90 ) 1.00 1.20	( 5.2 )	1	1 側縁刻目列付。IB-1。
2187 308	編物糸受木片	c-66-09-b	6236	柱目		スギ?	( 38.60 ) 2.05 0.80	( 45.8 )	1	2点接合。側縁刻目列付。糸ずれあり。IB-2。
2188 309	棒酒箸	d-67-91-a	8134	板目		スギ	25.05 2.20 0.60	19.1	1	2点接合。イトクバ付。IB-1。
2189 309	棒酒箸状製品	d-67-92-c	15543	追紐		トネリコ	28.00 2.80 1.30	56.6	1	2点接合。IB。
2190 309	棒酒箸片	c-66-18-c	15532	板目		スギ?	( 7.95 ) 1.60 0.60	( 5.1 )	1	1 ベルト出土。イトクバ付。IB-1。
2191 309	棒酒箸状製品片	c-66-19-c	15558	板目		モクレン	( 9.00 ) 2.35 1.10	( 14.1 )	1	1 線刻付。IB-1。
2192 309	丸木材片	c-67-61-a	15535	丸木		ヤナギ	( 34.50 ) 2.50 2.50	( 157.2 )	1	4点中2点と2点接合。イトクバ付。IB-1。
2193 309	丸木材切断品	c-67-41-a	11363	丸木		ヤナギ	16.75 2.80 2.75	90.5	1	1 イトクバ付。IB-1。
2194 309	木幣	c-67-02-b	7645	丸木		ヤナギ	78.20 2.50 2.50	246.1	1	9点接合。削りかけの痕跡あり。IB-1。
2195 310	楔状製品	c-66-91-c	15499	追紐		スギ?ヒノキ?アスナロ?ネズコ?	7.30 2.50 2.50	12.8	1	1 IB-1。
2196 310	楔状製品	d-66-99-d	15106	柱目		スギ?	6.80 10.35 1.15	13.0	1	1 IB-1。
2197 310	楔状製品	c-67-61-a	11711	追紐		スギ?	9.30 2.50 1.20	15.2	1	1 IB-1。
2198 310	楔状製品	d-67-91-c	15171	追紐		スギ?	10.10 3.65 1.50	32.7	1	1 IB-1。
2199 310	楔状製品	d-67-92-a	15227	板目		モミ	12.40 3.40 1.80	41.2	1	1 IB-1。
2200 310	楔状製品片	c-66-19-c	7734	柱目		スギ?	( 10.65 ) 3.85 1.85	( 43.0 )	1	1 IB-2。

Ⅶ 第Ⅰ 黒色土層の追加遺物

表Ⅶ-6 I B層掲載木製品(4)

図 番号	回 番号	遺物名称	発掘区	遺物番号	木取り 皮痕	樹種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	個 体 数	破 片	備考		
2201	310	楔状製品	c-66-91-c	15498	楕目	スギ?	12.60 ( 13.10)	4.40	1.55	53.5	1	IB-1。	
2202	310	楔状製品片	c-67-52-b	15016	楕目	サクラ	2.20	1.00	( 14.0)	1	1	IB-1。	
2203	310	軸状製品	c-66-09-a c-66-09-d	4574	半割	アジサイ	20.45	1.70	1.15	29.8	1	1	イトクハ付。IB-1。
2204	310	軸状製品	d-67-92-a	15515	半割	アジサイ	13.05	1.73	1.40	21.1	1	1	IB-1。
2205	310	軸状製品片	c-66-08-c	9417	1/4割	イチイ	( 20.10)	1.90	1.40	( 29.9)	1	1	イトクハ付。IB-1。
2206	310	軸状製品	c-67-62-b c-67-52-c	10362	丸木	ニガキ?	29.20	1.60	1.95	( 70.9)	1	3	3点接合。IB-2。
2207	310	軸状製品	c-67-41-a	10803	1/4割	アジサイ	32.80	2.20	1.95	90.7	1	1	IB-1。
2208	311	コモ短?	d-67-91-c	15509	楕目	トウヒ	5.10	2.00	1.20	9.0	1	1	IB-1。
2209	311	多段抜付丸木材片	d-67-92-b	15541	丸木	トネリコ	( 15.55)	2.10	2.10	( 49.2)	1	1	IB-2。
2210	311	端部有孔抜付丸木材片	d-67-92-c	7649	丸木	ヤナギ	( 48.90)	4.80	4.10	( 736.0)	1	3	3点接合(細含む)。建材。細入。IB-1。
2211	311	有孔楕円材片	c-66-37-b	15167	道鉦	カツラ	22.40	( 7.70)	( 3.90)	( 291.9)	1	1	舟部材? IB-1。
2212	311	有孔板材片	c-66-18-d	15500	楕目	シナノキ	7.85	( 6.70)	1.20	( 34.8)	1	1	IB-1。
2213	311	有孔丸木材切断品片	c-66-09-c	7381	丸木	ヤナギ	( 33.70)	9.30	8.10	( 1424.0)	1	1	建材。IB-2。
2214	311	端部有孔丸木材片	c-67-40-c	14074	丸木	ハンノキ	( 56.50)	4.80	3.80	( 560.0)	1	1	IB-1。
2215	312	刺し杭片?	c-66-39-a	12617	丸木	カエデ	( 30.40)	( 8.50)	3.75	( 191.5)	1	1	IB-1。
2216	312	向端部状丸木材片	c-67-02-b	15552	丸木	ヤナギ	( 40.20)	2.10	2.00	( 104.6)	1	3	3点接合。IB-1。
2217	312	桁・梁材切断品	c-67-40-b c-67-30-c c-67-31-d	11458	丸木	カエデ	135.50	5.50	5.10	2200.0	1	1	IB-1。
2218	312	桁材切断品	c-66-09-b	15505	楕目	ナナカマド?	13.70	2.80	1.80	44.0	1	2	2点接合。刃物痕多数あり。IB-3。
2219	312	丸木材木端	c-66-09-d	15076	丸木	ハシドイ	8.85	5.65	6.10	199.0	1	1	IB-2。
2220	312	筒状樹皮巻	c-67-00-b	15192	樹皮	樹皮	10.20	4.40	2.60	36.4	1	1	IB-1。
2221	312	細帯状樹皮巻	c-66-09-a	15544	樹皮	樹皮	3.10	4.30	1.00	2.0	1	1	釘打込式。IB-1。
2222	312	細帯状樹皮巻	c-66-09-a	15161	樹皮	樹皮	3.60	3.15	2.00	7.1	1	1	結束式。IB-1。

## VIII 自然科学的分析（各種分析・同定結果）

### 1 木製品の樹種同定

#### （1）はじめに

今回の樹種の識別結果は、平成4年度に実施された美々8遺跡低湿部の発掘調査のうち、昨年度報告の手掘り調査区出土のIB以下の木製品と合せて、表土層、0B層、クラムシェル調査区出土木製品および昨年度に報告できなかったIB以下の木製品についてである。樹皮製品や繊維製品、自然木や流木等についての同定は行わなかった。

#### （2）試料および識別の方法

##### 1) 試料

樹種同定時の出土材は、水漬で保管されていた生木、PEG含浸法処理材およびMannitol・PEG－真空凍結乾燥法（M.P.F.D法）処理材があり、組織観察のために各々について若干異なった処理を行った。しかし、基本的な試料作製法は同じであり、以下のとおりである。すなわち、加工された部分、腐れなどによる劣化の進んだ部分、節など組織の乱れのある部分、髄に近い部分はできるだけ避け、木口面・板目面・柁目面を有するブロックを採取し、特に加工度の高い製品においては各面の切片を採取して、3面を1セットとして試料を作製した。

##### ①光学顕微鏡試料

**水漬の生木：**試料から直接切片を採取する場合には直接両刃カミソリで各面から、一年輪以上が含まれる5mm×5mm、厚さ10～20ミクロンの切片を取った。建材や杭などでブロック採取の可能な場合は、各面が得られる5mm角のブロックを取り、それらから3断面の切片を取った。

**PEG含浸法処理材：**片刃カミソリで各面が得られる5mm角のブロックを取り、PEGを除去するために水に浸し、さらに約15分程煮沸したのち水洗をした。それらのブロックから両刃カミソリで5mm×5mm、厚さ10～20ミクロンの3断面の切片を取った。

**Mannitol・PEG－真空凍結乾燥法処理材：**ブロック採取はほとんど困難であるため、各面の取りたい箇所を100%のエタノールで軽く拭き、表面のPEGとMannitolを除去または内部にしみ込ませてから、直接両刃カミソリで5mm×5mmの切片を取った。充填剤を除去すると非常に脆く、切片採取の際に粉砕することもあり採取方法については今後の課題である。

なお、各々の方法で採取した切片はスライドガラス上で、無染色のまま観察した。写真撮影などで一時的なプレパラートを必要とする場合はガムクロラルで封入した。

##### ②走査電子顕微鏡試料

**水漬の生木：**片刃カミソリで5mm角のブロックを採取し、流水で水洗した。次にブロックから各面が得られるように両刃カミソリで整形した後、アルコールシリーズで脱水し、室内で約24時間程放置して乾燥させた。

**PEG含浸法処理材：**光学顕微鏡試料の作製と同様に片刃カミソリで5mm角のブロックを採取し、PEGの除去を行った。次に3断面の観察が可能なように両刃カミソリで整形した後、アルコールシリーズで脱水し、室内で約24時間程放置して乾燥させた。

なお、各々の乾燥させた小ブロックを試料台に導電性接着剤（ドータイト）で固定し、イオンスパッタリング装置（JFC-1000）で金をコーティング（1.2kv、8mA、5分2回）して観察した。

## 2) 識別方法

試料の3断面を光学顕微鏡で観察し、識別を行ったが、光学顕微鏡レベルでは明確に出来なかった点については、さらに走査電子顕微鏡で観察を行った。

### ①光学顕微鏡による樹種識別上の主な観察項目

**針葉樹材：**年輪構造（早材部から晩材部への移行の状態、晩材部の幅）、樹脂道（垂直・水平樹脂道の有無、エピセリウム細胞の壁厚）、仮道管（有縁壁孔の配列、らせん肥厚の有無）、樹脂細胞（有無、分布）、分野壁孔（型と数）、放射組織（放射仮道管の有無、放射柔細胞の末端壁の状態、細胞幅と細胞高）

**広葉樹材：**道管（木口面における配列の形式、らせん肥厚の有無、せん孔の形状、道管相互孔の形状と配列、チロースの有無）、仮道管（有無）、軸方向柔細胞（配列の型）、放射組織（同性・異性、細胞幅と細胞高、分布）

### ②走査電子顕微鏡による樹種識別上の主な観察項目

**針葉樹材：**仮道管のいぼ状突起、有縁壁孔の壁孔壁、分野壁孔など。

**広葉樹材：**道管のらせん肥厚、せん孔の形状、ベスチャード壁孔など。

## (3) 識別結果と考察

平成4年度出土木製品3,360点（前回報告の960点を含む）について樹種の識別を行い、34科55属を同定した。樹種構成は針葉樹4科9属、広葉樹30科46属であり、そのうち12属については種までの同定を行った。それらの同定の根拠となった組織構造的な特徴を以下に記す。なお、広葉樹の放射組織の同性と異性の区別については、平伏細胞のみからなるものを同性、それ以外のものを異性とした。しかし、オニグルミのように大部分が平伏細胞からなり、方形細胞が時々混じるような場合には、同性に区別した。また、可能性は高いが断定するには至らなかったものには、属名の後に?を記した。

### 01 イチイ *Taxus cuspidata* Sieb.et Zucc. (イチイ属 *Taxus*) (いちい科 TAXACEAE)

仮道管と放射柔細胞からなり、分野壁孔はヒノキ型である。仮道管の内壁には、はっきりとしたらせん肥厚が存在する。

顕微鏡写真No.1

### 02 モミ属 *Abies* (まつ科 PINACEAE)

仮道管と放射柔細胞からなり、分野壁孔は典型的なスギ型である。放射柔細胞の壁は厚く数珠状末端壁を有する。

トドマツと推定される。

顕微鏡写真No.2

### 03 カラマツ属? *Larix* (まつ科 PINACEAE)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなり、樹脂細胞はない。分野壁孔はスギ型、ヒノキ型およびトウヒ型のすべてが認められ、放射仮道管は小型の有縁壁孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。垂直樹脂道は晩材部に多い。早晩材の移行が急であることからカラマツ属としたが、トウヒ属の可能性も否定できない。

顕微鏡写真No.3

04 トウヒ属 *Picea* (まつ科 PINACEAE)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる。分野壁孔はトウヒ型である。らせん肥厚は存在しない。木口面で早晚材の移行が比較的ゆるやかであることからトウヒ属としたが、分野壁孔の形状が典型的なトウヒ型ではないものも認められ、カラマツ属の可能性も否定できない。

エゾマツ やアカエゾマツが推定される。

顕微鏡写真No.4

05 マツ属 *Pinus* (まつ科 PINACEAE)

(二葉松類)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる。分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁は、内腔に向かって鋸歯状の突起が見られることから、本属のなかでも二葉松類と考えられる。

北海道には自生していなかったと考えられるが、アカマツ、もしくはクロマツが推定される。

顕微鏡写真No.5

(五葉松類)

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、水平・垂直樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる。分野壁孔は窓状である。放射仮道管はなめらかな内壁で小型の有縁壁孔をもつことから、本属のなかでも五葉松類と考えられる。

ヒメコマツ (ゴヨウマツ)、ハイマツ、キタゴヨウなどが推定される。

顕微鏡写真No.6

06 スギ *Cryptomeria japonica* D.Don (スギ属 *Cryptomeria*) (すぎ科 TAXODIACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は早・晩材部の移行部から晩材部にかけて散在する。年輪界は明瞭で、早材部から晩材部への移行はやや急である。晩材部の幅は比較的広い。放射組織は単列のみで一般に10細胞高以下である。分野壁孔はスギ型である。仮道管の内壁の表面にはイボ状突起の存在が走査電子顕微鏡により確認できる。

顕微鏡写真No.7

07 ネズコ属? *Thuja* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は晩材部に接線状に点在する。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅が狭い。分野壁孔はスギ型であるが、放射組織が10細胞高以上のものやインデンチャーの発達したものがあり、ネズコ属の可能性が高いと推定される。しかし、壁孔の形状が腐朽により確認できないものも多くあり、スギ又はアスナロ属が混じっている可能性も否定できない。

顕微鏡写真No.8

08 ヒノキ属? *Chamaecyparis* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は晩材部の接線状に散在する。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅が狭い。分野壁孔はヒノキ型であるが、中にはスギ型との中間的なものもしばしば認められた。また、腐朽により分野壁孔の確認ができないものも多く、アスナロ属が混じっている可能性も否定できない。

顕微鏡写真No.9

09 アスナロ属? *Thujaopsis* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。早材から晩材への移行は緩やかで樹脂細胞は主に晩材部に散在する。放射組織は円形及び広楕円形で1~15細胞高であり水平壁は厚い。分野壁孔はヒノキ型及びスギ型さらには両型の中間的なものがあり、1分野に2~5個存在する。分野壁孔が、典型的なヒノキ型のみでないことから、アスナロ属の可能性が高い。

顕微鏡写真No.10 (ヒノキ属?アスナロ属?)

10 ビャクシン属? *Juniperus* (ひのき科 CUPRESSACEAE)

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。早材から晩材への移行はきわめてゆるやかで、樹脂細胞は晩材部付近に散在する。分野壁孔はスギ型とヒノキ型の中間的なものが認められる。本属は細胞間げきができる特徴がある(1982、島地ら)とされているが、本遺跡の試料ではそのような個体はなかったので、ビャクシン属と特定した試料はない。しかし、細胞間げき以外の特徴は一致する場合があるので、一応ここに掲げた。

11 ヤナギ属 *Salix* (やなぎ科 SALICACEAE)

木口面：散孔材である。道管は時折2~3個の複合管孔を形成する。

板目・柾目面：放射組織は単列で異性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。また、道管相互壁孔は交互壁孔である。

エゾノカワヤナギ、オノエヤナギ、バッコヤナギ、エゾノバッコヤナギなどが推定される。

顕微鏡写真No.11

12 ハコヤナギ属 *Populus* (やなぎ科 SALICACEAE)

木口面：散孔材である。多くの道管は2~4個の複合管孔を形成する。

板目・柾目面：放射組織は単列で同性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

ドロノキ、ヤマナラシが推定される。

顕微鏡写真No.12

13 オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr.

(オニグルミ属 *Juglans*) (くるみ科 JUGLANDACEAE)

木口面：散孔材である。大型の道管が単独もしくは2~3個複合して存在する。チロースを含むこ

とが多い。柔細胞の接線方向への配列は本属の特徴である。

板目・柾目面：放射組織は1～3細胞幅で3～20細胞高であり同性であるが、方形細胞を含む場合がある。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.13

#### 14 クマシデ属 *Carpinus* (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材であるが、道管は2～6個が複合し、放射状に配列する傾向がある。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で1～60細胞高で異性である。板目面では、集合放射組織が認められる。道管要素は階段せん孔をもち、内壁には目立たないが、らせん肥厚が存在する。

サワシバ、アカシデが推定される。

顕微鏡写真No.14

#### 15 アサダ *Ostrya japonica* Sarg. (アサダ属 *Ostrya*) (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材で2～3個の大型の道管が放射方向に複合する。一般に道管の径は晩材に相当する部分で小さくなり、多くの道管は3～6個放射方向に複合する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で、20細胞高より高くなる場合も多い。放射組織は大部分が平伏細胞からなるが、上下の縁辺部には方形細胞を含み異性である。道管要素は単せん孔をもち、内壁には不規則ならせん肥厚をもつ。

顕微鏡写真No.15

#### 16 カバノキ属 *Betula* (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材であり、一般に道管は2～4個が放射方向に複合する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で40細胞高以上にもなり、同性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

シラカンバやウダイカンバ等が推定される。

顕微鏡写真No.16

#### 17 ハンノキ属 *Alnus* (かばのき科 BETULACEAE)

木口面：散孔材である。多くの道管は2～4個が放射方向に複合する。

板目・柾目面：放射組織は単列で同性である。集合放射組織を形成する。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

ハンノキ、ケヤマハンノキ等が推定される。

顕微鏡写真No.17

#### 18 コナラ属 *Quercus* (ぶな科 FAGACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部の大道管にはチロースが認められる。孔圏外の道管は、やや放射状に配列することがある。

板目・柾目面：放射組織は単列と広放射組織からなり、同性である。道管要素は単せん孔をもつ。

ミズナラ、コナラ、カシワ等が推定される。

顕微鏡写真No.18

19 クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. (クリ属 *Castanea*) (ぶな科 FAGACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部の大道管にはチロースが認められる。孔圏外の道管は一般に火炎状に配列する。

板目・柾目面：放射組織は単列のみ、1～15細胞高で同性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

道管の配列などコナラ属と酷似しているが本属では放射組織が単列のみであり、広放射組織が存在しないためクリと判断した。また、本属はシイノキ属とも類似しているが、道管の配列が環孔状であるのでクリ属とした。

顕微鏡写真No.19

20 ブナ属 *Fagus* (ぶな科 FAGACEAE)

木口面：散孔材である。道管はほぼ平均に分布し、年輪の前半部の道管の方が大きく、外側に行くにつれて大きさと数が減少する。

板目・柾目面：放射組織は単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類があり、ほとんど同性である。道管要素は、一般に年輪の前半部で単せん孔、外側では、階段せん孔と網状せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

ブナ（北海道南部が北限）、イヌブナ（北海道外）が推定される。

顕微鏡写真No.20

21 ニレ属 *Ulmus* (にれ科 ULMACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部の道管は2～3列になり、孔圏外では多数の小道管が接合して集団管孔を形成し、接線方向にかなり規則的に配列する。

板目・柾目面：放射組織は1～6細胞幅、3～70細胞高で、同性である。道管要素は単せん孔をもち、内壁にはらせん肥厚が存在する。

ハルニレまたはオヒョウが推定される。

顕微鏡写真No.21

22 エノキ属? *Celtis* (にれ科 ULMACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏外的小道管は不規則な集団管孔を形成している。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅のもの、7～10細胞幅のものがあり、中間のものはない。2～80細胞高で、異性である。紡錘形の放射組織のまわりを直立・方形細胞で取り囲み、鞘細胞のようにみられる。道管要素は単せん孔をもつ。小道管にはらせん肥厚が存在する。

本属と同定された試料は、瘤や枝が多く、正常な細胞ではない場合が多かった。エノキ属の可能性が高いと考えられるが断定はできない。エゾエノキと推定される。

顕微鏡写真No.22

23 ケヤキ属 *Zelkova* (にれ科 ULMACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部の大道管が一行に並ぶ。孔圏外では急に道管の大きさを減じている。小道管は多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。

板目・柾目面：放射組織は6～7細胞幅のものも多く、上下の縁辺のみが方形細胞の異性である。



方形細胞には、時々結晶が認められる。道管要素は単せん孔をもつ。小道管の側壁にはらせん肥厚が存在する。

ケヤキ（北海道外）が推定される。

顕微鏡写真No.23

#### 24 クワ属 *Morus*（くわ科 MORUS）

木口面：環孔材である。孔圏部では単独あるいは2～3個の道管が複合する。孔圏外では小道管が複合して団塊状をなす。道管内にはチロースが認められる。

板目・柾目面：放射組織は1～6細胞幅、5～60細胞高で、異性である。道管要素は単せん孔をもつ。小道管のらせん肥厚は、走向が不規則な場合がある。

ヤマグワが推定される。

顕微鏡写真No.24

#### 25 カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb.et Zucc.

（カツラ属 *Cercidiphyllum*）（かつら科 CERCIDIPHYLLACEAE）

木口面：散孔材である。ほとんどの道管は単独で数がきわめて多く、年輪内全体を通じて平等に分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で、直立細胞の間に、方形細胞と平伏細胞が入り込む典型的な異性である。道管要素は階段せん孔をもち、Barの数も20本以上と非常に多い。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.25

#### 26 モクレン属 *Magnolia*（もくれん科 MAGNOLIACEAE）

木口面：散孔材である。単独または2～数個の放射方向に接続した道管が平等に分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で5～35細胞高と高い。上下縁辺の1～2列のみが直立細胞ないし方形細胞で、そのほかは平伏細胞の異性である。道管要素は単せん孔と階段せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。道管には階段壁孔と対列壁孔が認められる。

ホオノキ、キタコブシ、コブシが推定される。

顕微鏡写真No.26

#### 27 アジサイ属 *Hydrangea*（ゆきのした科 SAXIFRAGACEAE）

木口面：散孔材である。道管は単独または2～3個複合して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞が放射方向へ連続して認められるのが特徴である。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅、3～5細胞高で、板目面では上下方向で軸方向柔細胞と接している。異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は認められない。

用途適性から類推してノリウツギと考えられるが同属の他樹種の可能性もある。

顕微鏡写真No.27

#### 28 イスノキ *Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.

（イスノキ属 *Distylium*）（まんさく科 HAMAMELIDACEAE）

#### Ⅷ 自然科学的分析

木口面：散孔材である。道管はほとんど単独で年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞が接線方向に黒い接線状に一定の間隔で配列するのが特徴である。

板目・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で平伏細胞と直立細胞からなる顕著な異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.28

#### 29 サクラ属 *Prunus* (ばら科 ROSACEAE)

木口面：散孔材である。道管は単独または2～3個が複合して年輪内に平等に分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で、20細胞高以上になる場合が多い。異性であるが、板目面では判別しにくい。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。

エゾヤマザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、ウワミズザクラ等が推定される。

顕微鏡写真No.29

#### 30 ナナカマド属 *Sorbus* (ばら科 ROSACEAE)

木口面：散孔材である。道管は径が小さく単独または2～3個が複合する。

板目・柾目面：放射組織は2～3細胞幅、3～30細胞高で同性である。道管要素は大部分が単せん孔をもつ。2～3本が束になったSらせんとZらせんの特徴的ならせん肥厚が認められる。

ナナカマド、アズキナシ等が推定される。

顕微鏡写真No.30

#### 31 リンゴ属? *Malus* (ばら科 ROSACEAE)

木口面：散孔材である。道管は径が小さく単独または2～3個が複合し、一般に均等に分布する。

板目面・柾目面：放射組織は1～2細胞幅で同性である。

リンゴ属、ナナカマド属、ハシドイ属は組織が類似しており、区別が難しい場合がある。しかし、それらの区別は、らせん肥厚の形状等で判断できる(1978、大谷・石田)。リンゴ属とナナカマド属は、道管の配列、放射組織の形状も酷似しているが、らせん肥厚の形態が異なり、稀に現れる網状(多孔)せん孔が確認できればナナカマド属と判断できる。また、ハシドイ属は、木口面で見て道管の数が多く、複合するものが多いこと、放射組織の高さが不揃いであること、また、対をなす短いらせん肥厚の存在で、リンゴ属およびナナカマド属と区別できる。しかし、往々にして腐朽による劣化や変形などによりこの3属のいずれであるかの判別はできないものも多かった。

顕微鏡写真No.31 (リンゴ属?ハシドイ属?)

#### 32 イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim.

(イヌエンジュ属 *Maackia*) (まめ科 LEGUMINOSAE)

木口面：環孔材である。孔圏部から孔圏外への道管の径の移行はゆるやかである。年輪界付近には小道管の集団管孔の不規則な配列がみられる。

板目・柾目面：放射組織は1～6細胞幅、6～50細胞高で、同性である。小道管が層階状配列をなし、顕著ならせん肥厚が認められる。ベスチャード壁孔が走査電子顕微鏡により認められる。

顕微鏡写真No.32

33 ハギ属 *Lespedeza* (まめ科 LEGUMINOSAE)

木口面：環孔材である。孔圏部から孔圏外への道管の径の移行はゆるやかである。年輪界付近では小道管の集団管孔が不規則に配列する。

板目・柾目面：放射組織は1～5細胞幅で4～60細胞高と高く、顕著な異性である。小道管が層階状配列をなし、らせん肥厚が認められる。

エゾヤマハギ等などが推定される。

顕微鏡写真No.33

34 キハダ属 *Phellodendron* (みかん科 RUTACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏部では大道管が2～3個複合して存在する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で5～35細胞高で、同性である。道管要素は単せん孔をもつ。小道管には顕著ならせん肥厚が認められる。

キハダ、ヒロハノキハダなどが推定される。

顕微鏡写真No.34

35 ニガキ *Picrasma quassioides* (D.Don) Benn.

(ニガキ属 *Picrasma*) (にがき科 SIMAROUBACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏道管は大きく、孔圏外では急激に大きさを減じる。

板目・柾目面：放射組織は1～5細胞幅、3～70細胞高で、異性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.35

36 ウルシ属 *Rhus* (うるし科 ANACARDIACEAE)

木口面：環孔材である。道管の大きさは、孔圏部から孔圏外へむかい徐々に減じる。年輪の外境に近づくにつれて小道管は複合し、接線状もしくは波状に配列する。

板目・柾目面：放射組織は1～3細胞幅で異性である。道管要素は単せん孔をもつ。

本属のなかで、らせん肥厚の存在が種により異なることが知られているが、本遺跡の試料では、小道管に時々、比較的規則的ならせん肥厚が認められた。従って、ヌルデ、ヤマウルシ等が推定される。

顕微鏡写真No.36

37 ニシキギ属 *Euonymus* (にしきぎ科 CELASTRACEAE)

木口面：散孔材である。道管の径はきわめて小さく、年輪内に平等に分布する。

板目・柾目面：放射組織は単列のみで同性である。道管要素は単せん孔をもつ。道管と木繊維にらせん肥厚が存在する。

ニシキギ、マユミ、ツリバナ等が推定される。

顕微鏡写真No.37

38 ミツバウツギ属? *Staphylea* (みつばうつぎ科 STAPHYLEACEAE)

木口面：散孔材である。道管はほとんど単独であるが、まれに2～3個の複合もみられる。

#### Ⅷ 自然科学的分析

板目・柾目面：放射組織は1細胞幅と1～5細胞幅のものがある。放射組織の上下縁辺部には直立細胞が顕著で、異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は認められない。

本属と推定された試料では腐朽がひどく階段せん孔の確認ですら困難であった。そのため組織観察を十分に行うことができず、ミツバウツギ属のミツバウツギの可能性が高いと推定したが、断定はできない。

顕微鏡写真No.38

#### 39 カエデ属 *Acer* (かえで科 ACERACEAE)

木口面：散孔材である。道管は、単独または数個が複合して均等に分布するが数は少ない。

板目・柾目面：放射組織は1～8細胞幅で5～30細胞高で、同性である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

イタヤカエデ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、エゾイタヤ等が推定される。

顕微鏡写真No.39

#### 40 トチノキ *Aesculus turbinata* Blume.

(トチノキ属 *Aesculus*) (とちのき科 HIPPOCASTANACEAE)

木口面：散孔材である。道管は単独または2～4個の複合管孔を形成する。

板目・柾目面：放射組織は単列のみ、2～10細胞高で、高さがそろっており、層階状に規則正しく配列するのが特徴である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

顕微鏡写真No.40

#### 41 シナノキ属 *Tilia* (しなのき科 TILIACEAE)

木口面：散孔材である。道管は2～5個の複合管孔を形成し、柔細胞は短接線状に並ぶことが多い。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で5～50細胞高、同性であり、とくに3～4細胞幅の放射組織の場合は紡錐形というよりも角ばった矢じり形に見えることが多い。道管要素は単せん孔をもち、顕著ならせん肥厚が存在する。

シナノキ、オオバボダイジュが推定される。

顕微鏡写真No.41

#### 42 サルナシ属? *Actinidia* (またたび科 ACTINACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏道管はきわめて大きく、孔圏外では急激に小さくなり、ほとんど単独である。

板目・柾目面：放射組織は1～5細胞幅で多列部が60細胞高になる。異性である。道管要素は単せん孔をもつ。本属と推定された試料では、腐朽がひどく、観察が十分に行えなかったので、サルナシ属のサルナシと推定したが断定はできない。

顕微鏡写真No.42

#### 43 キブシ属? *Stachyurus* (きぶし科 STACHYURACEAE)

木口面：散孔材である。道管の径は小さく単独または2～数個が不規則に接続し、年輪内にわりと平均に分布する。

板目・柾目面：放射組織は1細胞幅の直立細胞と、2～5細胞幅の方形細胞、直立細胞、平伏細胞からなるものがある。異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。道管にらせん肥厚が存在する。

木口、板目面の観察からキブシ属のキブシと推定したが、腐朽がひどく断定はできない。

顕微鏡写真No.43

44 コシアブラ *Acanthopanax sciadophylloides* Fr. et Sav

(ウコギ属 *Acanthopanax*) (うこぎ科 ARALIACEAE)

木口面：環孔材であるが、孔圏道管はあまり明瞭でなく、孔圏外では散孔状に配列し、半環孔状を呈する。

板目・柾目面：放射組織は1～3細胞幅で異性である。道管要素は単せん孔を持つ。道管壁にらせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.44

45 ハリギリ *Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai

(ハリギリ属 *Kalopanax*) (うこぎ科 ARALIACEAE)

木口面：環孔材である。孔圏外では小道管が多数接合して複合管孔を形成し、斜線状や波状に配列する。

板目・柾目面：放射組織は1～6細胞幅で上下の縁辺の1列のみに方形細胞が並ぶ異性である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.45

46 ミズキ属? *Cornus* (みずき科 CORNACEAE)

木口面：散孔材である。道管は単独または放射方向に数個が複合して分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅で、上下両端に直立細胞が多く、異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。らせん肥厚は認められない。

本属と推定した試料では、腐朽がひどく、ミズキ属のミズキと推定したが、断定はできない。

顕微鏡写真No.46

47 ハイノキ属 *Symplocos* (はいのき科 SYMPLOCACEAE)

木口面：散孔材である。道管の径は小さく単独または2～4個が不規則に接続し、年輪内に平均に分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅、1～20細胞高ほどで、直立細胞と平伏細胞からなる異性である。道管要素は階段せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

サワフタギが推定される。

顕微鏡写真No.47

48 ハイノキ属?

木口面：散孔材である。道管の径は小さく、ほとんど単独で稀に複合がみられる。

板目・柾目面：放射組織は、直立細胞の単列のものと、多列のものがある。単列と単列の間に多列が入り込んでつながっている。道管要素は、階段せん孔をもつ。らせん肥厚は確認できない。

本属とガマズミ属、タニウツギ属とは組織が類似しており区別が難しいが、一般には光学顕微鏡レベルでは、ガマズミ属にはらせん肥厚が認められるが、タニウツギ属にはらせん肥厚が認められないことで区別ができる。しかし、腐朽がひどい場合には、往々にして区別が難しい場合がある。

顕微鏡写真No.48 (タニウツギ属?ハイノキ属?)

顕微鏡写真No.49 (ガマズミ属?ハイノキ属?)

49 エゴノキ属? *Styrax* (えごのき科 STYRACACEAE)

木口面: 散孔材である。道管は単独または数個で複合管孔を形成する。

板目・柾目面: 放射組織は1~3細胞幅、3~30細胞高で、異性である。道管要素は階段せん孔をもつ。道管にらせん肥厚は存在しない。

本属と同定した試料は、腐朽による細胞壁の劣化がひどく、エゴノキ属のエゴノキやハクウンボクの可能性が高いと思われるが、断定はできない。

顕微鏡写真No.50

50 トネリコ属 *Fraxinus* (もくせい科 OLEACEAE)

木口面: 環孔材である。道管は孔圏部で大きく、孔圏外では急激に小さくなり、単独のもの2~3個が放射方向に複合するものがある。道管の周りには周囲柔組織が存在する。

板目・柾目面: 放射組織は1~4細胞幅、10細胞高ほどで比較的均一であり、同性である。道管にらせん肥厚は存在しない。

ヤチダモ、アオダモ等が推定される。

顕微鏡写真No.51

51 ハシドイ属 *Syringa* (もくせい科 OLEACEAE)

木口面: 散孔材である。道管は、単独または数個が複合して均等に分布する。

板目・柾目面: 放射組織は1~2細胞幅で、異性であるが、大部分は平伏細胞である。道管要素は単せん孔をもち、2本の対をなす特徴的ならせん肥厚をもつ。

木口面において道管が年輪に沿って一列に並ぶこともあり、道管の配列は個体間で違いが見られた。ハシドイと推定される。

顕微鏡写真No.52

52 イボタノキ属? *Ligustrum* (もくせい科 OLEACEAE)

木口面: 散孔材である。年輪界付近ではやや径の大きい道管が環孔状に配列する。

板目・柾目面: 放射組織は1~2細胞幅で異性である。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。

本遺跡の試料は、イボタノキ属の可能性が高いと推定されるが、年輪界に沿う大きめの道管が1列だけではなく、2~3列と多く並んでいたため、断定はできない。

顕微鏡写真No.53

53 ムラサキシキブ属? *Callocarpa* (くまつぶら科 VERBENACEAE)

木口面: 散孔材である。道管は小さく単独または放射方向に2~3個複合し、まばらに分布する。

板目・柾目面：放射組織は1～4細胞幅の異性である。多列部は平伏細胞、直立細胞、方形細胞からなり、その上下両端は直立細胞からなる単列部とつながる。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。

顕微鏡写真No.54

#### 54 ニワトコ属 *Sambucus* (すいかずら科 CAPRIFOLIACEAE)

木口面：散孔材である。道管は放射状、斜線状などに複合している。

板目・柾目面：放射組織は1～3細胞幅で異性である。道管要素は一般に単せん孔をもつが、稀に階段せん孔も存在する。らせん肥厚は存在しない。

エゾニワトコが推定される。

顕微鏡写真No.55

#### 55 ササ *Sasa* / タケ *Take* (いね科 GRAMINEAE)

ササとタケの解剖学的性質の知識に乏しく識別は困難であった。北海道に自生するササ属で、ネマガリダケ、チシマザサ等と、本州以南のマダケやモウソウチクの両方の可能性が考えられる。

顕微鏡写真No.56

#### 56 ツル性植物

木口面：環孔材である。孔圏道管はきわめて大きく、孔圏外では急激に小さくなり、ほとんど単独である。

板目・柾目面：放射組織は1～10細胞幅で、多列部が100細胞高以上に達する。異性である。道管要素は単せん孔をもち、らせん肥厚が存在する。

ツル性植物の中でも、ブドウ属 (*Vitis*)、サルナシ属 (*Actinidia*) 以外であると推定されるが、現生の試料等に乏しく断定はできない。

顕微鏡写真No.57

#### 参考文献

岡本省吾・北村四郎 (1981) 『原色日本樹木図鑑』, 保育社

(財) 北海道埋蔵文化財センター (1996) 『美沢川流域の遺跡群XⅧ』

大谷 諄・石田茂雄 (1978) 『走査型電子顕微鏡による本邦産双子葉木本植物のせん孔板の観察』, 北海道大学

大谷 諄・石田茂雄 (1978) 『走査型電子顕微鏡による本邦産双子葉木本植物の道管要素のらせん肥厚の観察』, 北海道大学

島地 謙・伊藤隆夫 (1982) 『図説木材組織』, 地球社

島地 謙・伊藤隆夫 (1988) 『日本の遺跡出土木製品総覧』, 雄山閣

(4) 木製品の樹種組成 (表Ⅷ-1-1~3、図Ⅷ-1~2)

今年度の同定結果を含め、これまでに樹種名(属)の判明した木製品の試料数は4685点を数える。なお、北埋調報102には報告後に新たに判明し、変更された樹種がある。広葉樹1科2属が追加され、スギ科、ヒノキ科、モクセイ科の集計結果を変更して表Ⅷ-1-1にとりまとめている。

平成元年度調査 (1990 北埋調報 69)	902点針葉樹4科6属	広葉樹20科29属の計24科35属
平成2年度調査 (1991 北埋調報 77)	134点針葉樹4科6属	広葉樹11科13属の計15科19属
平成3年度調査 (1992 北埋調報 83)	289点針葉樹4科6属	広葉樹20科26属の計24科32属
平成4年度調査 (1995 北埋調報102)	960点針葉樹4科6属	広葉樹23科35属の計27科41属
平成4年度調査 (1996 北埋調報114)	2400点針葉樹4科9属	広葉樹30科46属の計34科55属

樹木構成と環境 (表Ⅷ-1-1~2)

樹種同定から見た遺跡内の樹木構成は、これまでに同定された用具類を除く建材、杭、その他の加工材等を中心に比較検討した結果、花粉分析(山田 1996)における推定とほぼ同様の状況となった。

I B-4層以下については試料数が少ないため花粉分析の結果に頼らざるを得ないが、台地上ではコナラ亜属(I B-5層がピーク、I B-4層~下で減少、I B-3層上~I B-2層で増加)を主体に、カバノキ属、ニレ属、クマシデ属、モクレン属、カエデ属、サクラ属、クルミ属等からなる落葉広葉樹林が分布し、低湿地にはハンノキ属、トネリコ属、ヤナギ属、ハコヤナギ属等からなる低湿地林が分布していたと推定される。その後、I B-3層上~I B-2層では台地上にコナラ亜属を主体に、クルミ属、クマシデ属、アサダ属、カバノキ属等に加え、キハダ属、シナノキ属を交えた落葉広葉樹林が分布し、低湿地ではハンノキ属を主体に、トネリコ属、ヤナギ属を若干交えたハンノキ林が分布していたと推定される。I B-1層~0 B層では、これらにモミ属、トウヒ属、マツ属が加わり、周辺の丘陵部や山地の針葉樹の混交率が高くなり、気候の寒冷化に影響されたことを花粉分析では指摘している。これらの状況はI B-4層以下において、多数の径40cm前後のコナラ属の風倒木が分布し、その中に若干のハンノキ属の流木を交えていた現場の状況や、平成元年度試掘時(田口1990)の自然木樹種構成グラフのハンノキ属(34.7%)、コナラ属(19.7%)、トネリコ属(8.3%)、ヤナギ属(5.2%)、ハリギリ属(5.0%)、カエデ属(4.1%)、カツラ属(3.7%)等の報告とほぼ合致する。さらに、表Ⅷ-1-1のI B-3層以降の有用樹種点数の構成と有用樹種の増加状況からも同様のことが推定される。特にI B-1層~0 B層における製品の樹種にイチイ属、モミ属、トウヒ属等の針葉樹材(桶や樽として移入されたスギ科、ヒノキ科を除く)が増加した理由は、気候変動による周辺環境の変化に当時の人々が適応し、使用可能な用材の積極的な樹種選択が行なわれていたことを示すものである。以上から、本遺跡出土木製品の用材(本州材等の移入材を除く)のほとんどが、遺跡周辺から採取されたものと推定され、建材、杭、加工材以外についても同様な状況と考えられる。

また、千歳市内には樹木に関するアイヌ語地名が多く残されており、フプウシビビ hup-us-Bibi(トドマツの群生する美々川)、フプネウシママチ hupni-us-Mamachi(トドマツ群生する沢)、フプウシビパイ fup-us-pipay(トドマツ群生する美笛川)、フプシヌプリ hup-us-nupuri(トドマツ群生する山)などモミ属に関する地名が多い。まったくの私見であるが、これらの地名の由来もI B-1層~0 B層以後に付されたものと推測できないだろうか。加えて、ランコウシ ranko-us-i(カツラ)、アツウシピナイ at-us-pinay(オヒョウの木が群生する瀬沢)、アッチウシ ati-us-i(オヒョウの皮多くある所)、カリンパ karimpa-us-i(エゾヤマザクラの群生するところ)、ケネフチ kene-us-i-putu(ハンノキ群生する河口)、ネシコシ nesko-us-i(クルミの木の群生するところ)、ヤムニウシケペレペ yam-ni-us-keperpe(クリの木の群生する浅瀬)などの地名は、単なる



地域名称ではなく、有用な用材(樹種)や堅果類の入手先を示したものと考えたい。

なお、表Ⅷ-1-2に同定結果から推定される樹種名に加えて、アイヌ語の樹種名称を掲載する。掲載した僅かなデータにおいても、和名樹種とアイヌ語樹種との対応が難しいものが多い。アイヌ語名には使用される用具名や生活目的に関係した樹木名称が多く、有用な部位のみを表現していることが多いためである。例としてクネニ(弓になる木)、チキサニ(我らこする木[発火具])、ラスパニ(銚先と銚の柄をつなぐ木[回転式離頭銚中柄・魚突鉤台])、トベニ(乳汁のでる木[甘い樹液が飲める])ほか等がある。したがって、地方によって用途や目的が異なれば、同一樹種であってもアイヌ語名称が異なり、主たる用途や目的が同じでも使用する樹種の選択が異なれば別のアイヌ語名称となるからである。これは北海道における、樹木等の植生分布に地方差が大きいことによる。

#### 木製品の樹種組成(図Ⅷ-1-1~2、表Ⅷ-1-3)

交通具としての舟部材には、千歳地方ではカツラ、ヤチダモ、アカダモを使用したと言われる。舟の舳先と艫にはカツラ属、ハリギリ属、ヤナギ属が多く、板綴舟についてはハリギリ属33.9%が主体を占め、つづいてシナノキ属11.9%、ハンノキ属11.0%、カツラ属7.6%等となる。有孔板材のほとんどは、板綴舟舷側板の再加工品等であることからハリギリ属の占有率はさらに高いと考えられる。なお、スギ属2.5%やトチノキ属4.5%のものは道南部あるいは本州で製作された舟部材と考えられる。舟部材等については、通常、舟体と同一材を使用する場合が多いと言われている。しかし、車權受台部ではモミ属22.4%、モクレン属18.8%、ハンノキ属17.6%が主体を占めている。このうち枝利用式ではモミ属、軸挿入式ではモクレン属、ハンノキ属が多い。これに挿入される軸には、緻密で堅牢なカエデ属40.2%、トネリコ属14.9%が多用されている。車權ではモクレン属34.1%、ハンノキ属14.6%、キハダ属14.6%、早權ではモクレン属26.2%、トネリコ属15.4%、ハンノキ属10.8%が多用され、權全体でモクレン属の比率が高い。早權握部ではハンノキ属35.3%、スギ属23.5%、モクレン属11.8%が多い。あか汲みはハンノキ属37.8%、ハリギリ属32.4%に二分され、カツラ属8.1%も見られることから舟体と同一材が使用されている可能性がある。ただし、同一丸太材であるかについては今後、詳細な年輪解析が必要であろう。漁撈具の回転式離頭銚中柄や指掛部ではアジサイ属74.3%が主体を占める。魚突鉤台部もアジサイ属40.5%が主体を占めるが、カエデ属11.9%、モミ属7.1%等も利用されている。狩猟具の弓ではイチイ属に加えニシキギ属も見られ、民族誌のとおりである。矢・矢中柄・花矢ではアジサイ属が73.3%を占める。漁撈具・狩猟具では樹種選択が明瞭であり、民族誌のとおりアジサイ属はノリウツギ(ラスパニ)と推測される。小刀・刀・山刀柄ではカエデ属40.4%、モクレン属10.6%、スギ属12.8%が同量同定されている。モクレン属、スギ属が選択されている理由には彫刻や細工が容易であることが考えられ、モクレン属は日本刀等の鞘等にも用いられる樹種である。発火具のヒキリ板ではスギ/スギ?属39.1%、ニレ属30.4%が主体を占め、ヒキリ板ではヒノキ?属26.3%、ニレ属21.1%が主体を占める。ニレ属は民族誌のハルニレ(チキサニ)であり、スギ/スギ?属等は桶、樽の再加工品と考えられる。漆塗椀ではブナ属64.7%が主体を占め、トチノキ属15.7%、ケヤキ属13.7%、クリ属2.0%の順であり、良材の比率が高いと言える。杓子ではモクレン属55.6%、カエデ属19.6%が主体を占め、樹種選択が認められる。捧酒箸(筥)・捧酒箸状製品はアイヌにおいて最も重要な用具のひとつである。しかし、スギ類41.1%、ヒノキ?属20.5%が主体を占め、ヤナギ3.6%で、ミズキは見られない。割裂の良い、加工の容易な桶・樽の再加工品により、儀礼を行っていたことになる。今後、伝製品の中に類例を探す必要がある。

末筆ではあるが、同定の準備段階から本報告までの永きにわたり、多大なるご指導・ご教示を頂いた平川泰彦氏に心から感謝申し上げます。(田口 尚・岡本育子)

Ⅳ 自然科学的分析

針葉樹 \* 複合材は主体部の樹種のみ、樹皮製品は含まない。複数の樹種の可能性をあげたものについては、最も可能性の高いと思われる属にカウント。

科名	属名	表土	OB	1B-1	1B-2	1B-3	1B-4	1B-5	1B-6	Te-c上面	クラム	攪乱	小計	合計	
いちい	TAXACEAE	イチイ	17	12	2	1			2		3		37	38	
		イチイ?	1										1		
まつ	PINACEAE	モミ	37	33	3	1			1		2	25	102	102	
		トウヒ	2	1								2	5		
		カラマツ?									1	1	2		2
		マツ(五葉松類)										3	3		6
		マツ(二葉松類)										2	2		3
すぎ	TAXODIACEAE	スギ	175	96	11	1	1			1	10		295	537	
		スギ?	151	61	14	6	1	4	1	1	3		242		
ひのき	CUPRESSACEAE	ネズコ?	11		1	3				1			16	16	
		ヒノキ	1								1		2		
		ヒノキ?	127	11	1	1						16	156		
		アスナロ?	88	1								28	117		
ひのき科	?	ひのき科	1	1									2	2	
?	針葉樹	?	針葉樹	1	1								1	1	
4科	9属		612	217	32	13	2	5	4	5	94		984	984	

科名	属名	表土	OB	1B-1	1B-2	1B-3	1B-4	1B-5	1B-6	Te-c上面	クラム	攪乱	小計	合計	
やなぎ	SALICACEAE	ヤナギ	1	78	33	2	3					16	133	133	
		ハコヤナギ		10	8				1			1	20		
くるみ	JUGLANDACEAE	オニグルミ	7	4	1	1						2	15	15	
かばのき	BETULACEAE	クマシダ	1	28	7	1	2			1			40	40	
		アサダ		2	2	3					1		8		
		カバノキ	5	11	6	2							24		
		ハンノキ	2	112	57	3	10	1				11	196		
ぶな	FAGACEAE	コナラ	5	136	80	10	22			1	1	17	272	273	
		コナラ?		1									1		
		クリ		3	3	2							8		
		クリ?										1	1		
		ブナ	5	16	2							8	31		
		ブナ?		1	1								2		
		ニレ	13	9	1							5	28		
にれ	ULMACEAE	エノキ?	1	2									3	3	
		ケヤキ	1	3							1		5		
		ケヤキ?		2									2		
		クワ	13	7	1	1						7	29		
くわ	MORUS	クワ?	4	2		1							7	36	
		カツラ	1	37	17	1	1					6	63		
かつら	CERCIDIPHYLLACEAE	カツラ?		1	1								2	65	
		モクレン		81	41	5	1					19	147		
もくれん	MAGNOLIACEAE	モクレン		81	41	5	1				19		147	147	
ゆきのした	SAXIFRAGACEAE	アジサイ		186	157	13	11		2	1	55		425	425	
まんさく	HAMAMELIDACEAE	イスノキ									5		5	5	
ばら	ROSACEAE	サクラ	1	37	28	4	2				1	8	81	83	
		サクラ?		2									2		
		オナカマド		6	5								11		
		オナカマド?		7			1						8		
		リンゴ?		3									3		
まめ	LEGUMINOSAE	イヌエンジュ		8	1						1		10	10	
		ハギ		8	7		3				1		19		
		ハギ?		3									3		
みかん	RUTACEAE	キハダ		32	9	3	4				4	52	56		
にがき	SIMAROUACEAE	キハダ?		4									4	7	
		ニガキ		4									4		
うるし	ANACARDIACEAE	ニガキ?		2		1							3	8	
		ウルシ		3	2							2	7		
にしきぎ	CELASTRACEAE	ウルシ?		1									1	6	
		ニシキギ		3	2					1			6		
みつぼうつぎ	STAPHYLEACEAE	ミツバウツギ?		1									1	1	
かえで	ACERACEAE	カエデ	1	148	46	3	4			1	1	15	219	221	
		カエデ?		2									2		
とちのき	HIPPOCASTANACEAE	トチノキ		5	9						1		15	15	
しなのき	TILIACEAE	シナノキ		20	6	1	1						28	28	
またたび	ACTINIDIACEAE	サルナシ?		1									1	1	
きよし	STACHYURACEAE	キブシ?		1							1		1	1	
うこぎ	ARALIACEAE	ウコギ		1									1	1	
みずき	CORNACEAE	ハリギリ		95	48	6	3			1		16	171	171	
		ミズキ?		2									2		
はいのき	SYMPLOCACEAE	ミズキ?		2									2	5	
		ハイノキ		2	1								3		
えごのき	STYRACACEAE	ハイノキ?		1							1		2	2	
		エゴノキ?		1	1								2		
もくせい	OLEACEAE	トネリコ		51	42	5	2			1	17		118	126	
		トネリコ?		6	1							1	8		
		ハシドイ		25	9	1	1					5	41		
		ハシドイ?		6								6	12		
		イボタノキ?		1	1								2		
		イボタノキ?		1	1								2		
くまつばら	VERBENACEAE	ムラサキシキブ?		1	2							2	2		
すいかずら	CAPRIFOLIACEAE	ニワトコ		1									1	5	
		ガマズミ?		5									5		
		タニウツギ?		1								1	2		
いね	GRAMINEAE	タニウツギ?		1									1	54	
		ササ(タケ)		36	9		5					3	53		
ツル性植物		ツル性植物		1									1	2	
30科	46属		17	1268	687	68	82	1	2	6	5	238	2	2376	2376

針葉樹と広葉樹の合計

34科	55属		17	1880	904	100	95	3	7	10	10	332	2	3360	3360
-----	-----	--	----	------	-----	-----	----	---	---	----	----	-----	---	------	------

表Ⅷ-1-2 アイヌ語名称のある推定される樹種名

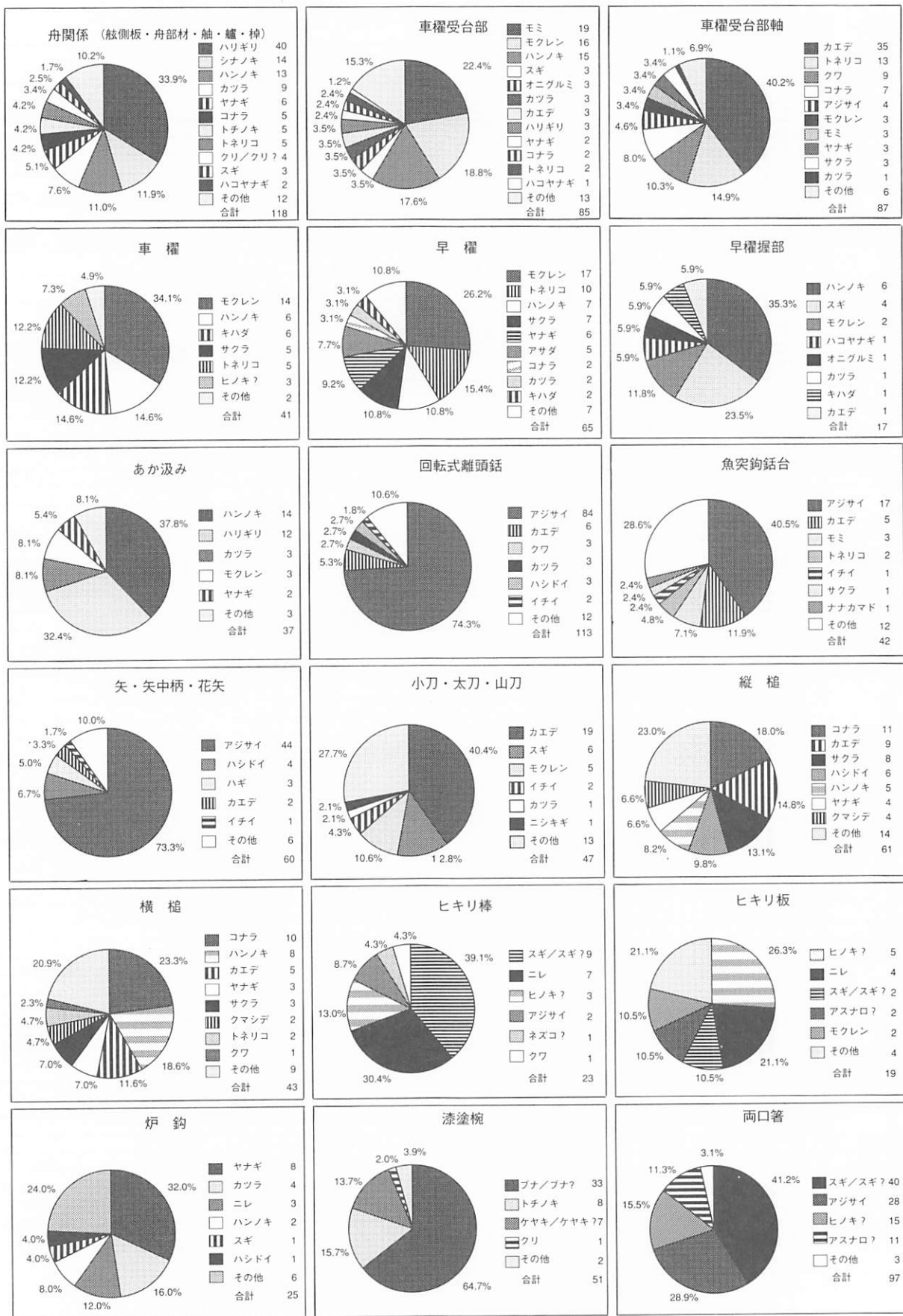
属名	推定される樹種名	アイヌ語樹種名称
イチイ	イチイ	ラルマニ [t:北海道全地/f/k] クネニ [t:荻伏/f/k]
モミ	トドマツ	フフ [n/f/t:北海道各地/k]
トウヒ	エゾマツ	スルク [n/t:北海道/f]
	アカエゾマツ	チカッスク [t:穂別、名寄、美幌] フレスク [t:美幌] イウオロスク [k]
マツ	ハイマツ	トトスプ [t:名寄/k] カムイフツ [t:長万部] エビタツ [t:屈、美] ノムニ [t:白浦] ユタニ [t:白浦]
	キタゴヨウ	チカフツ [t:美幌]
ヤナギ	オノエヤナギ	スス [n/t:北海道、樺太/f] イナウニスス [f] シウスス [t:名寄]
	エゾノバッコヤナギ	チニスス [t:名寄/k] メロマイ [t:名寄] メレマイ [t:真岡、白浦] メネマイ [t:真岡、白浦] メネマニ [t:真岡] ヌッカカスス [t:屈斜路] シスス [t:名寄] アハスス [t:落帆]
ハコヤナギ	ドロノキ	ヤイニ [n/t:長、幌、穂、沙、千/f/k] クルニ [t:美幌] クルニ [t:足寄] ベトルンクルニ [t:屈]
	ヤマナラシ	クルニ [t:屈斜路]
オニグルミ	オニグルミ	ネシコ [n/t:長万部、幌別、穂別、千歳/f/k] ニヌムチクニ [f:穂別]
クマシデ	サワシバ	バセニ [n/t:長万部/k] ヤルカバル [t:美幌、屈斜路]
アサダ	アサダ	セイカバル [t:穂別、美幌、屈斜路] セイエカバラ [k]
カバノキ	シラカンバ	レタツタニ [t:平取、穂別/f/k] カバツタニ [t:長万部] キタツニ [t:美幌、屈斜路、名寄] ベタツニ [t:長万部、幌別、荻伏] ベツタツニ [t:有珠]
	ウダイカンバ	シタツニ [n/t:美幌、屈斜路、足寄、名寄、穂別、長万部]
ハンノキ	ハンノキ	ニタツケネ [t:幌別、穂別/k]
	ケヤマハンノキ	ケネ [n/t:北海道全地/f] イワケネ [k]
コナラ	ミズナラ	ベロ [n/k] ベロニ [t:長万部、幌別、鶴川、穂別] ベロコムニ [t:美幌、屈斜路]
	コナラ	チカッポベロニ [t:穂別]
	カシワ	コムニ [n/t:足、屈、美、名] トウンニ [n/t:幌、穂/k] シコムニ [t:足、屈、美、名] トウニ [t:幌]
クリ	クリ	ヤムニ [n/t:長万部、幌別、平取/k] ヤムニウナルベ [f]
ブナ	ブナ	ピラニ [t:幌別]
ニレ	ハルニレ	チキサニ [n/t:北海道/f/k] チキサニ [t:美幌、屈斜路] ポナツニ [t:美幌] カラニ [t:白浦、真岡]
	オヒョウ	アツニ [t:北海道/f/k] アハニ [t:白浦、真岡]
クワ	ヤマグワ	トベンベニ [n] トウレニ [n/t:長万部、礼文華、虻田、有珠、幌別、白老、鶴川、穂別、千歳、沙流/k] テシマニ [t:美幌、屈斜路、近文、真岡/f]
カツラ	カツラ	ランコ [t:北海道全地/f/k]
モクレン	ホオノキ	プシニ [t:北海道各地/k] イカヨツニ [t:美幌、屈斜路、塘路]
	キタゴブシ	オマウクシニ [t:北海道各地/k] マウクシニ [t:阿寒] オツケニ [t:幌別、名寄、美幌、屈斜路/f/k]
アジサイ	フリウツギ	ラスパニ [t:長、幌、足/f] ラスパ [t:胆、日、足、美、斜、名/k] オツサ [t:荻、浦、様似、屈、常呂]
サクラ	エゾヤマザクラ	カリンパニ [n/t:長万部、虻田、室蘭、幌別、白老、穂別、平取、千歳、名寄] カルンパニ [t:美幌、屈斜路、足寄、阿寒] カルンパウンニ [t:足寄]
	ミヤマザクラ	レタルカルンパニ [t:阿寒]
	シウリザクラ	シウリ [n/t:北海道、樺太]
	ウワミズザクラ	チカッポキキニ [n] キキニ [t:北海道、樺太/f]
ナナカマド	ナナカマド	イワキキニ [n/t:美、足/f] キムンキキニ [n] キキニ [t:美幌] フラチナウニ [t:美] マクニ [t:美幌] イナウニ [t:白浦] バセニ [t:名寄] マウネニ [t:屈斜路] レブンクリナウニ [t:礼文華]
	アズキナシ	チカッセタンニ [t:美幌、屈斜路、足寄]
イヌエンジュ	イヌエンジュ	チュクベニ [n] チクベニ [t:北海道全地/f] チクベニ [t:美幌、屈斜路、名寄]
ハギ	エゾヤマハギ	シンケツ [t:長、幌、穂、様、足、名] スンケツ [t:美、屈、阿] ヌツシンケツ [t:近文/f] ヌツカカウシシンケツ [t:屈] シンケヘ [t:白浦] シンケヘカムイ [t:鶴城] イタルカムイ [t:鶴城] イタルイニ [t:白浦]
キハダ	キハダ	シケルベニ [n/t:北海道全地] セタシケルベニ [t:美幌] シケレベニ [t:真岡] シケレパニ [t:白浦] テシマカラニ [t:多蘭泊]
ニガキ	ニガキ	シウニ [t:長万部、幌別、穂別/f/k] ユライケニ [t:荻伏、様似、足寄、屈斜路、美幌、名寄]
ウルシ	ヤマウルシ	ウシアチャ [t:穂別] ウツシニ [t:穂別、長万部] フツシニ [t:美幌、屈斜路]
ニシキギ	ニシキギ	ラプシニ [t:胆振、日高沙流/k]
	マユミ	カスツニ [t:長、礼文華、有、幌、穂、様、近文、足、美、屈/k] ケスツニ [t:名] ケプシニ [t:幌、美]
	ツリバナ	クニツ [t:美幌、屈斜路] コンケニ [t:幌別、名寄]
ミツバウツギ	ミツバウツギ	エソロカンニ [t:穂別]
カエデ	イタヤカエデ	トベンニ [n/t:美幌、屈斜路、名寄] トベニ [t:北海道/k] シトベニ [t:美幌] ニシテニ [t:樺太] オニシテニ [t:樺太] スカンニシカラニ [t:真岡]
	ヤマモミジ	イワトベニ [t:北海道各地]
トチノキ	トチノキ	トチニ [t:幌別]
シナノキ	シナノキ	ニベシニ [t:長万部、虻田、有珠、室蘭、幌別、穂別、千歳、沙流、名寄/f/k] クベルケベニ [t:美幌、屈斜路、足寄] クケルケツニ [t:荻伏、様似] シニベシニ [t:穂別]
	オオバボダイジュ	ヤイニベシニ [t:長万部、穂別]
サルナシ	サルナシ	クツチブンカル [t:北海道各地] クツチブンカラ [k] クツチ [n]
コシアブラ	コシアブラ	コトルシニ [t:幌別/k] コトルシニ [t:沙流、鶴川、穂別、千歳、様似、近文] ピラツカニ [t:幌別]
ハリギリ	ハリギリ	アユシニ [n/t:長万部、礼文華、穂別、釧路、美幌、名寄、真岡/k] アイシニ [t:名寄]
トネリコ	ヤチダモ	ピンニ [n/t:北海道、樺太/f/k] ヤチトウンニ [t:真岡]
	アオダモ	イワニ [t:北海道/k]
ハシドイ	ハシドイ	ブンカウ [n/t:北海道/f/k] プシニ [t:美幌、屈斜路]
ニワトコ	エゾニワトコ	ソコニ [n/t:幌別、穂別、様似、鶴城] ソコンニ [t:美幌、屈斜路、足寄、塘路、名寄、長万部/f] オシバラニ、オンネチクニ [t:幌別] オシベロニ [t:礼文華] オシコニ [t:白浦] オソコニ [t:真岡]
ササ	チシマザサ	イキトラ [t:美幌、阿寒] イクトラ [t:美幌]
	ネマガリダケ	アユシツ [t:天塩/f] ルムネツ [t:天塩]

凡例

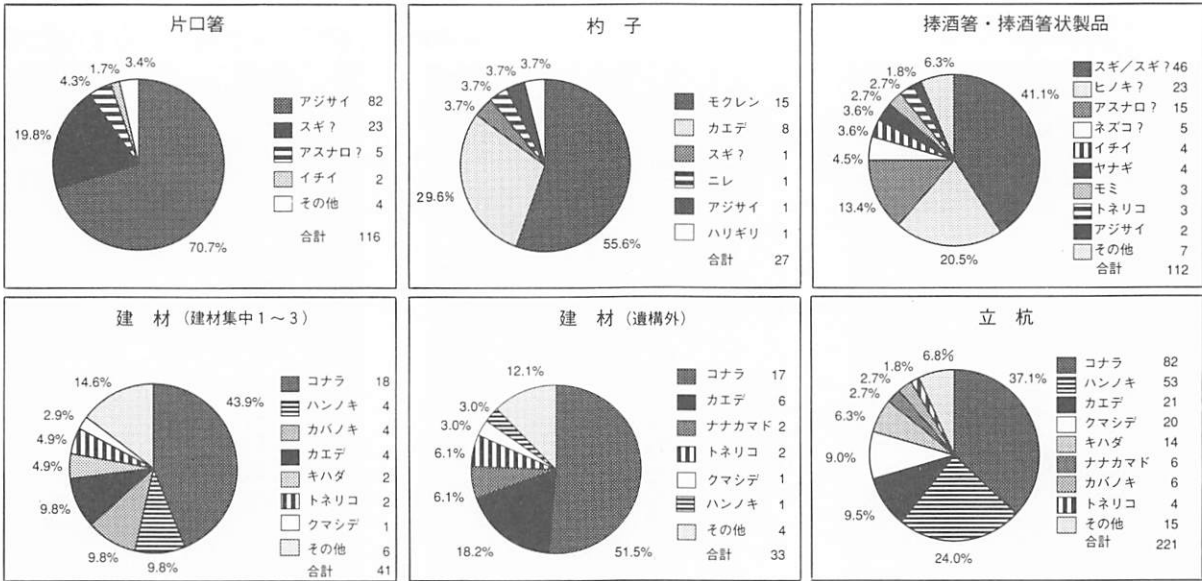
出典省略記号

長：長万部 幌：幌別 穂：穂別 沙：沙流 千：千歳 名：名寄 荻：荻伏 平：平取 足：足寄  
 屈：屈斜路 有：有珠 足：足寄 胆：胆振 日：日高 斜：斜里 浦：浦河 様：様似 阿：阿寒  
 n：中川 裕 (1995) 『アイヌ語千歳方言辞典』、草風館  
 f：福岡イト子 (1993) 『アイヌと植物』、旭川振興公社  
 t：知里真志保 (1987) 『知里真志保著作集』分類アイヌ語辞典 植物編・動物編、平凡社  
 k：萱野 茂 (1996) 『萱野 茂のアイヌ語辞典』、三省堂

Ⅷ 自然科学的分析



図Ⅷ-1-1 木製品の樹種組成 (1)

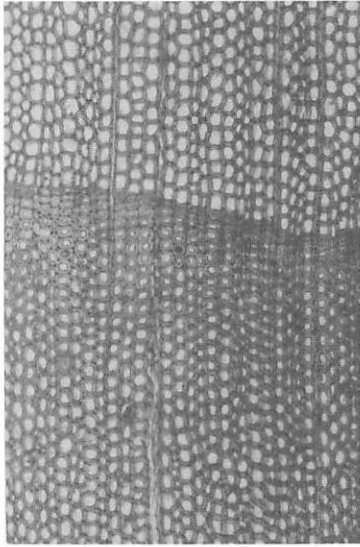


図Ⅷ-1-2 木製品の樹種組成 (2)

表Ⅷ-1-3 主な製品別樹種組成

	舟関係	車權受合部	車權受合部軸	車權	早權	早權握部	あか汲み	回転式離頭鋸	魚突鉤結合	矢関係	小刀・太刀・山刀	縦槌	横槌	ヒキリ棒	ヒキリ板	炉鈎	漆塗椀	両口箸	片口箸	捧酒箸状製品	建材	立杭	合計	
イチイ		2						2	1	1	2	1							2	4			15	
モミ		2	19	3		1		1	3				3								3	1	36	
トウヒ			1																				1	
マツ		1																					1	
スギ/スギ?		3	3		1	4			1	1	6			9	2	1			40	23	46	1	141	
ネズコ?											2			1							5		8	
ヒノキ?			2	1	3			1			1		1	3	5	2		15	2	23			59	
アスナロ?			2				1				3					2		11	5	15			39	
ヤナギ		6	2	3	1	6		2	1	2	1	1	4	3		8				4	1	5	50	
ハコヤナギ		2	1			1				1		1											7	
オニグルミ		2	3	1		1	1													1		1	11	
クマシデ													4	2								2	20	28
アサダ						5		1					1										7	
カバノキ					1					1	1		1									4	6	15
ハンノキ	13	15		6	7	6	14					5	8			2	1				5	53	135	
コナラ	5	2	7		2			2	3	1	1	11	10		1	1			1	1	35	82	165	
クリ/クリ?	4	1																1					6	
ブナ/ブナ?																	33						33	
ニレ													1		7	4	3						16	
ケヤキ/ケヤキ?																	7						7	
クワ	1	1	9					3		1		1	1	1									18	
カツラ	9	3	1		2	1	3	3			1				1	4							28	
モクレン	1	16	3	14	17	2	3	1	2		8	2	1		2		1	1		2	1	1	78	
アジサイ				4				84	17	44				2					28	82	2		263	
サクラ	1	2	3	5	7			1	1		1	8	3					1		1	2	4	40	
ナナカマド									1				1								1	2	6	10
リンゴ?												2											2	
イヌエンジュ														1									1	
ハギ										3													3	
キハダ		1	1	6	2	1	1	1	1											1	2	14	31	
ニガキ			2																				3	
ウルシ			1					1			1				1							1	4	
ニシキギ		1						1			1												3	
カエデ	1	3	35			1	1	6	5	2	20	9	5								10	21	119	
トチノキ		5																					13	
シナノキ	14			1												1							16	
キブシ?										1													1	
ハリギリ	40	3			1		12				1				1	1					3	3	65	
ミズキ?											1	1											2	
ハイノキ																			1				1	
トネリコ	5	2	13	5	10			1	2			3	2					1		3	4	4	55	
ハシドイ	1				1			3	2	4		6	2							1			21	
ムラサキシキブ?	1																						1	
ガマズミ?	1																						1	
	118	85	87	41	65	17	37	113	42	60	52	61	43	23	19	25	51	97	116	112	74	221	1559	

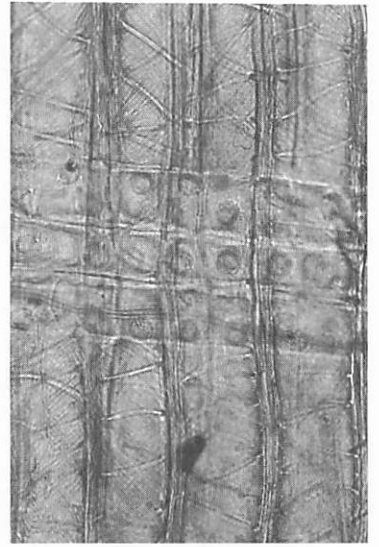
a 木口 b 板目 c 柁目 d らせん肥厚



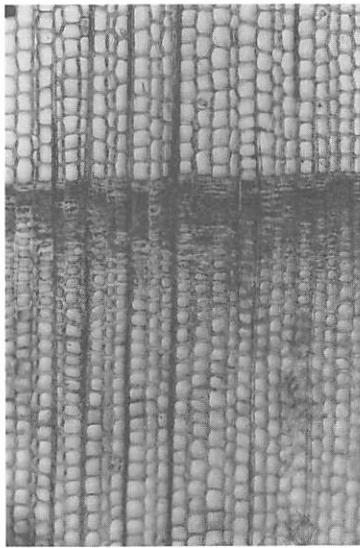
1 イチイ a × 50



b × 200



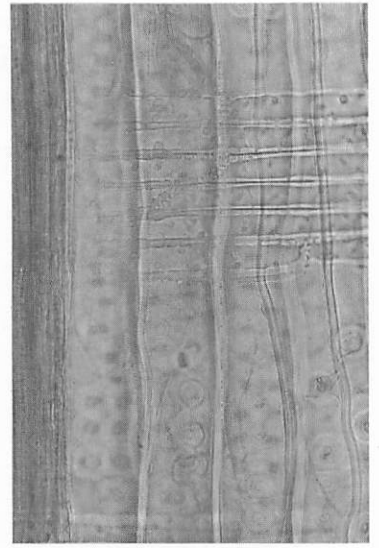
c × 400



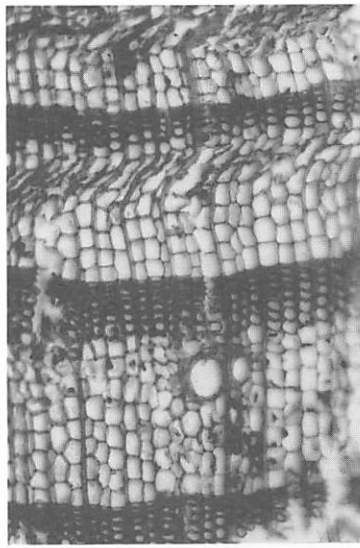
2 モミ属 a × 50



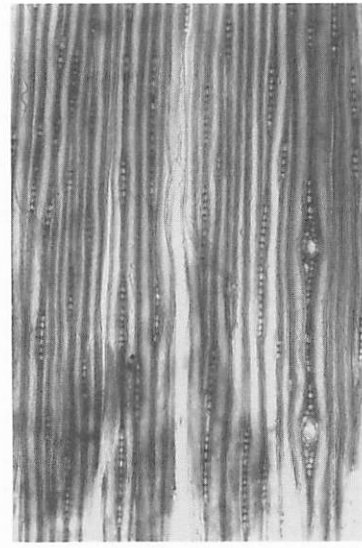
b × 50



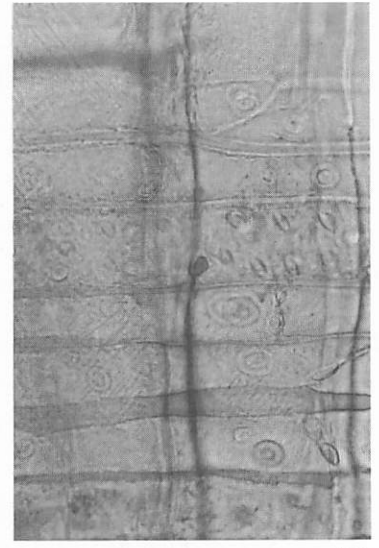
c × 200



3 カラマツ属? a × 50



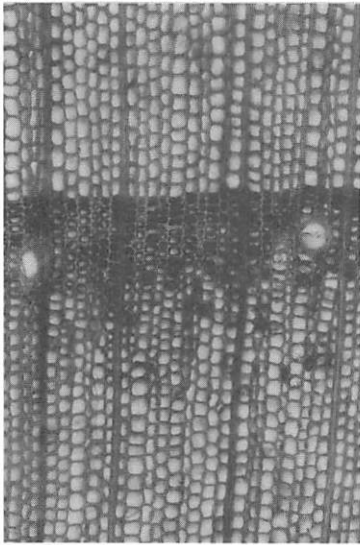
b × 50



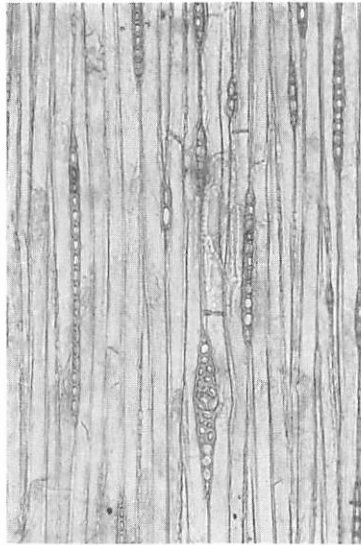
c × 400

図Ⅷ-1-3 木製品の樹種 顕微鏡写真(1)

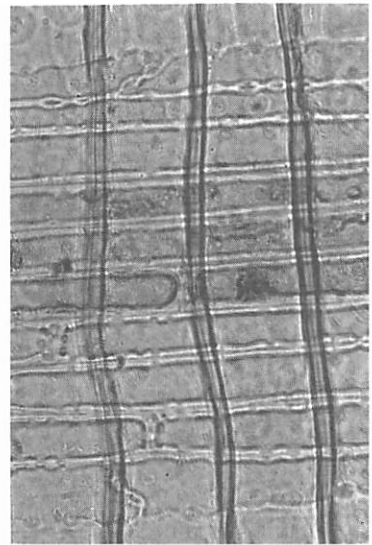




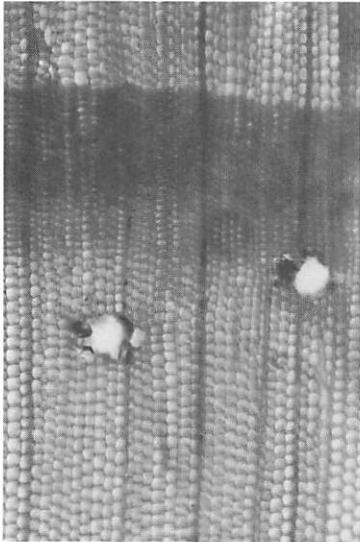
4 トウヒ属 a × 80



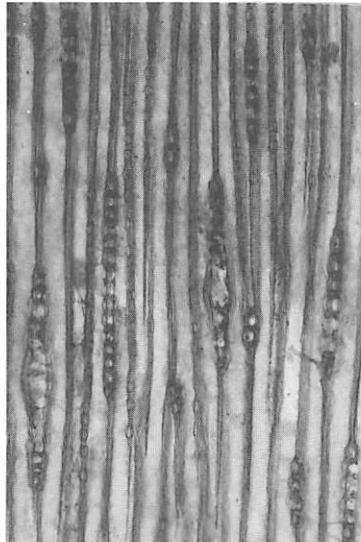
b × 100



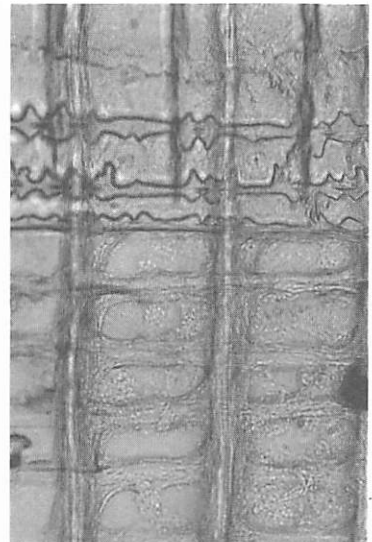
c × 400



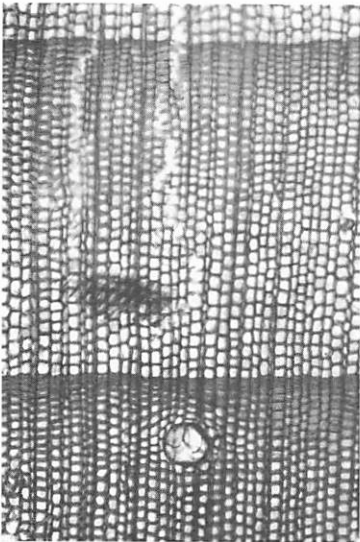
5 マツ属 (二葉松類) a × 40



b × 100



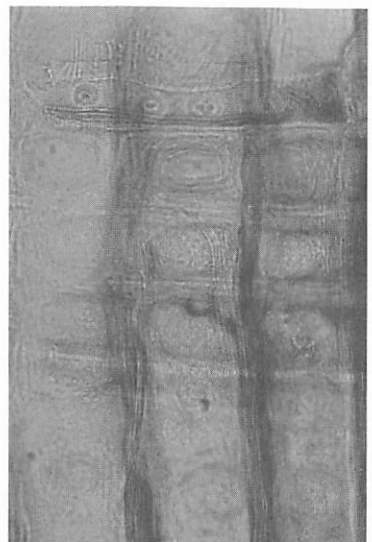
c × 400



6 マツ属 (五葉松類) a × 40

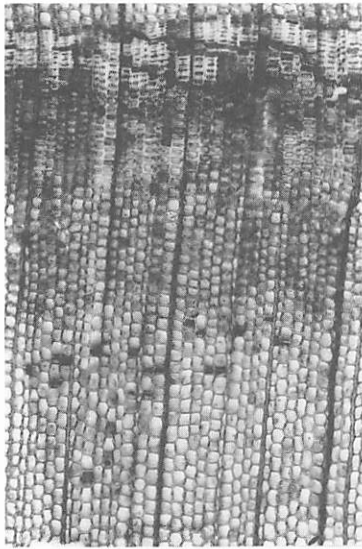


b × 100



c × 400

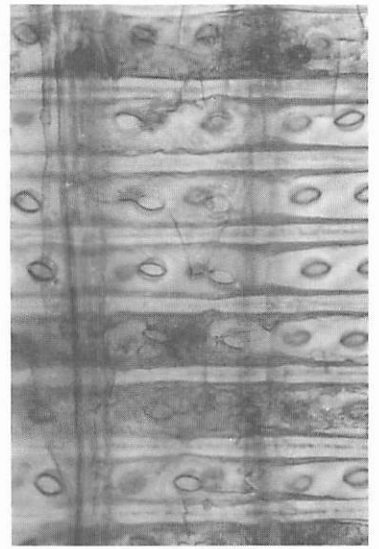
図Ⅷ-1-4 木製品の樹種 顕微鏡写真(2)



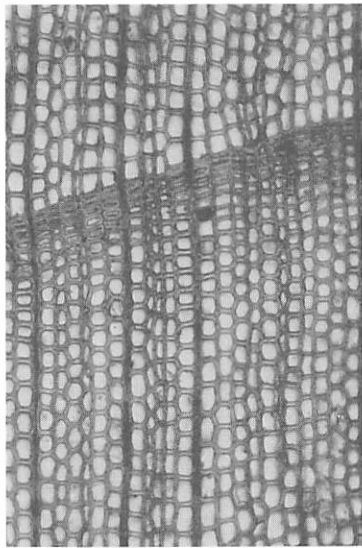
7 スギ a × 50



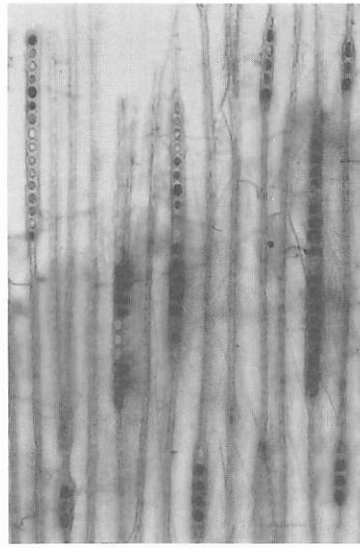
b × 50



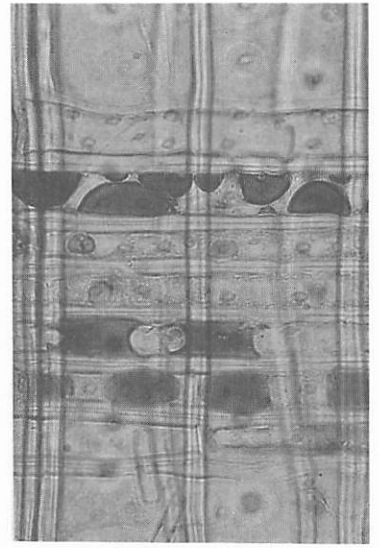
c × 500



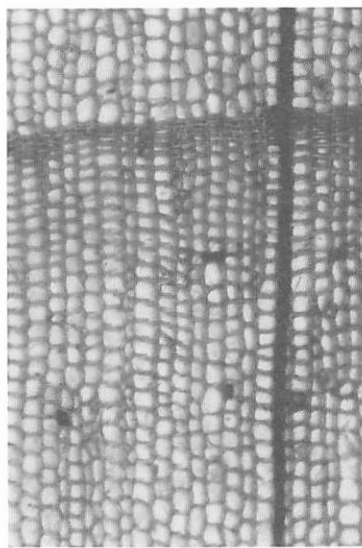
8 ネズコ属? a × 80



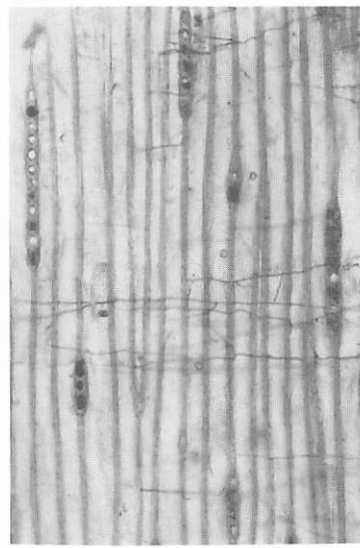
b × 100



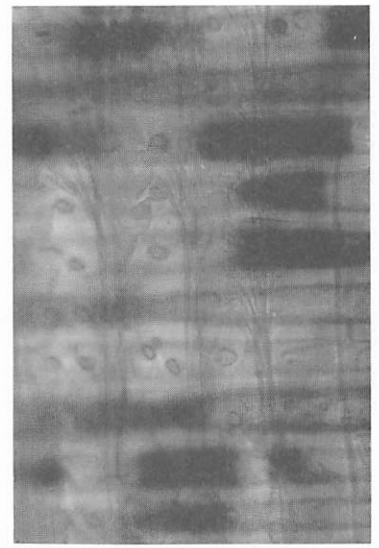
c × 400



9 ヒノキ属? a × 80



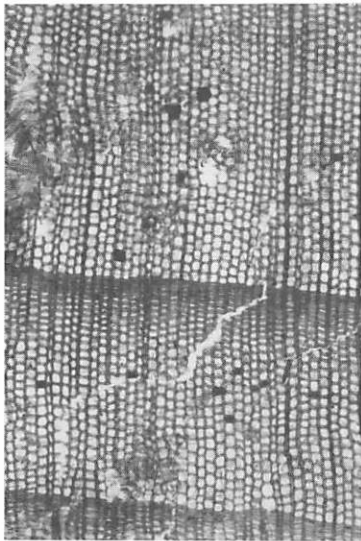
b × 100



c × 400

図Ⅷ-1-5 木製品の樹種 顕微鏡写真(3)

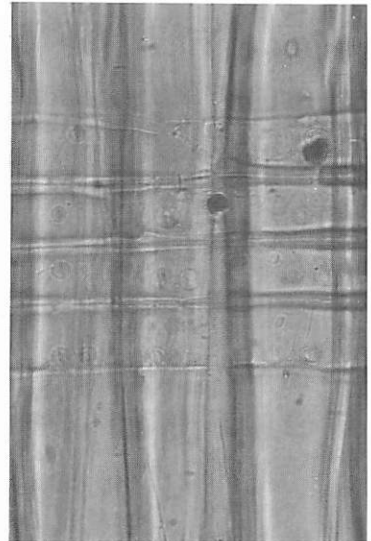




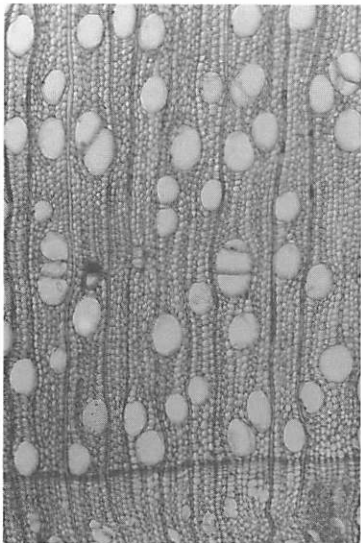
10 ヒノキ属?アスナロ属? a ×40



b ×100



c ×400



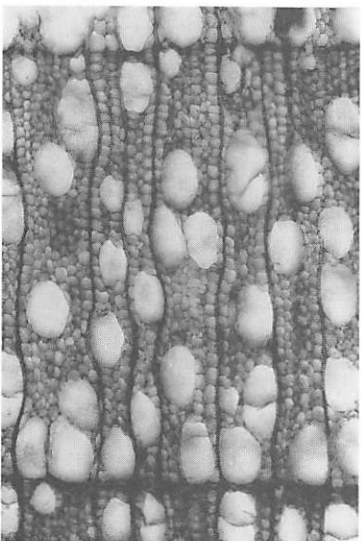
11 ヤナギ属 a ×50



b ×50



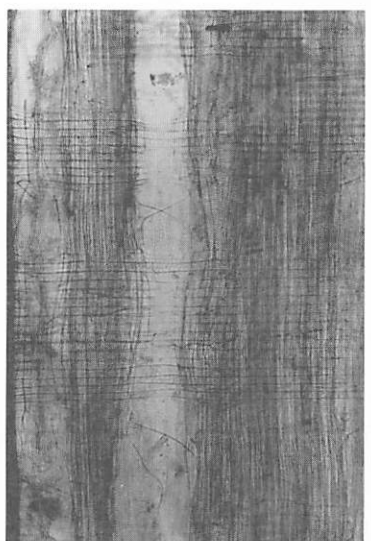
c ×100



12 ハコヤナギ属 a ×50

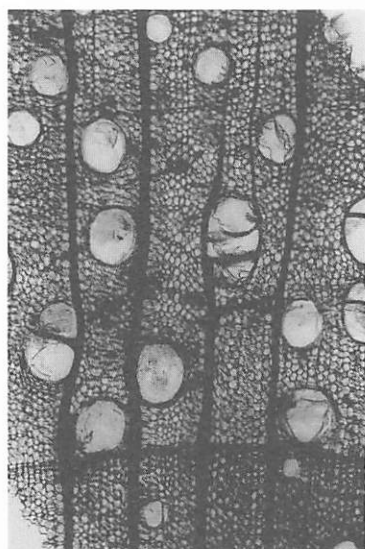


b ×50



c ×50

図Ⅷ-1-6 木製品の樹種 顕微鏡写真(4)



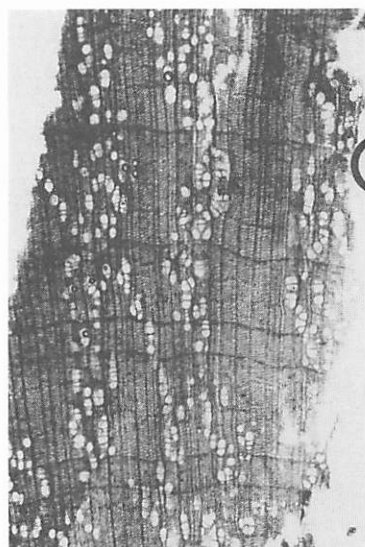
13 オニグルミ a × 40



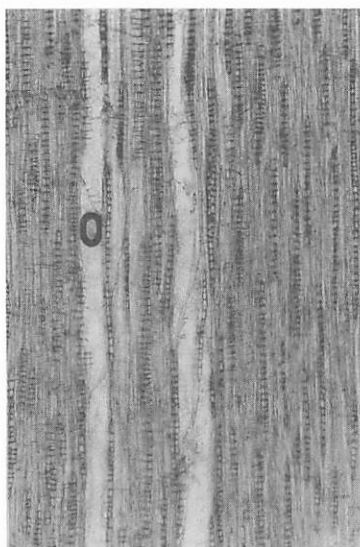
b × 50



c × 50



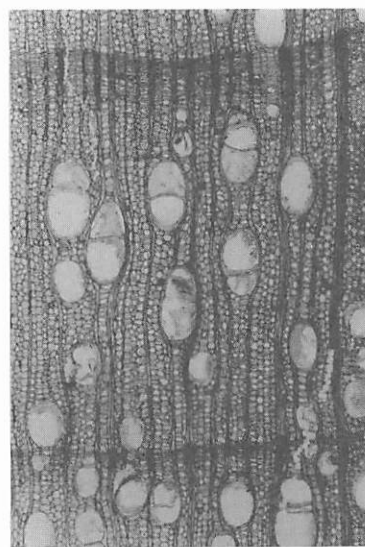
14 クマシデ属 a × 50



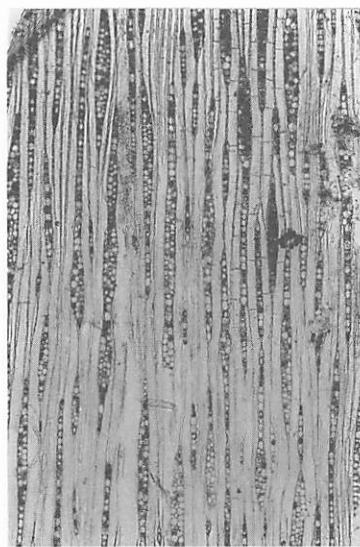
b × 50



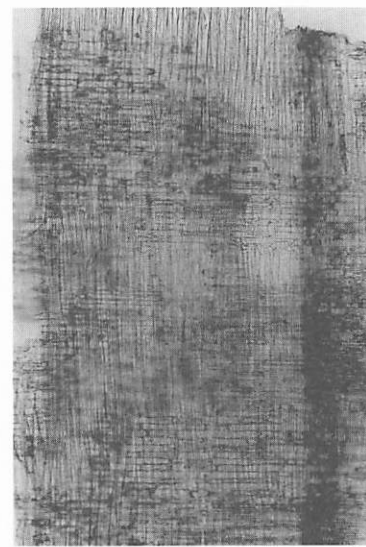
c × 100



15 アサダ a × 40

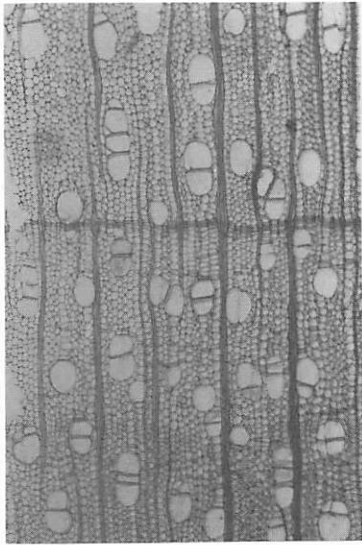


b × 50



c × 50

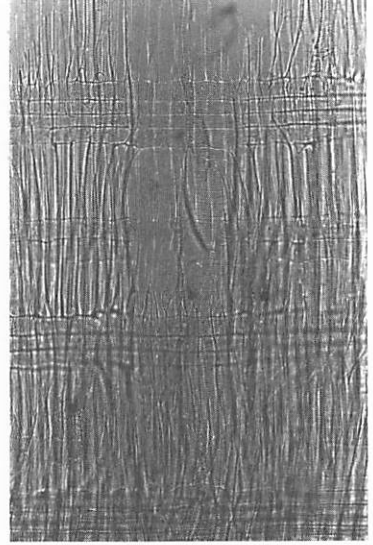
図Ⅷ-1-7 木製品の樹種 顕微鏡写真(5)



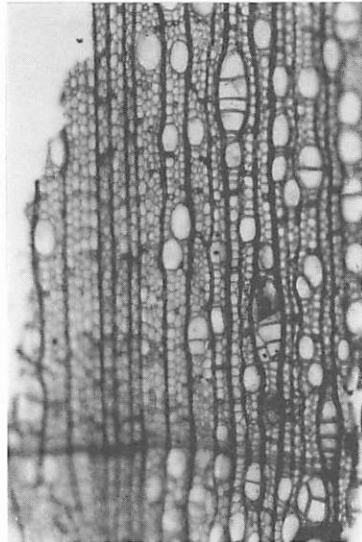
16 カバノキ属 a × 50



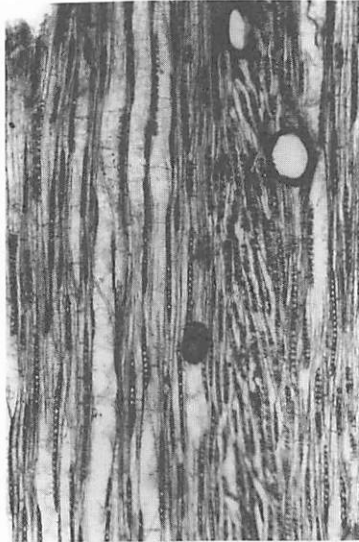
b × 50



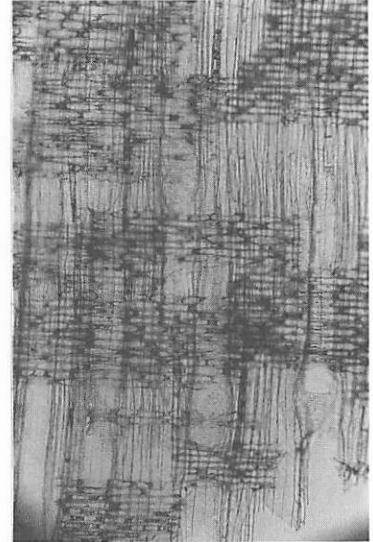
c × 100



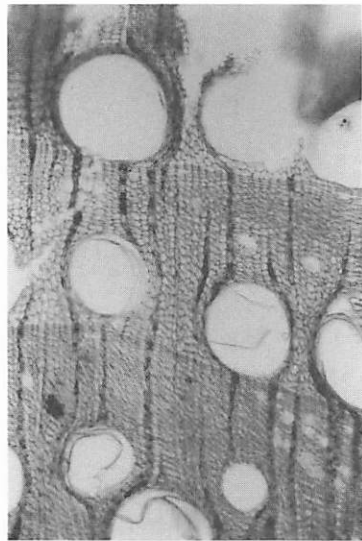
17 ハンノキ属 a × 50



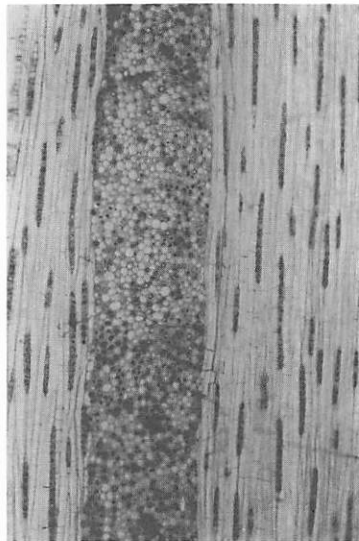
b × 40



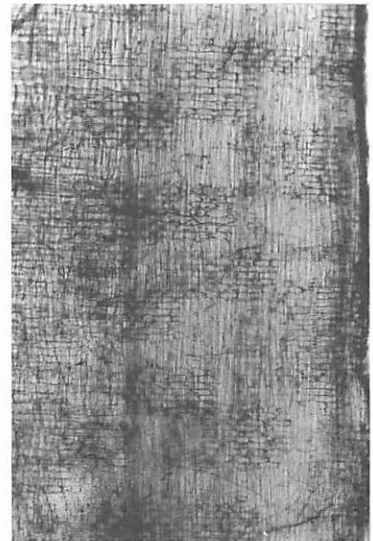
c × 50



18 コナラ属 a × 50



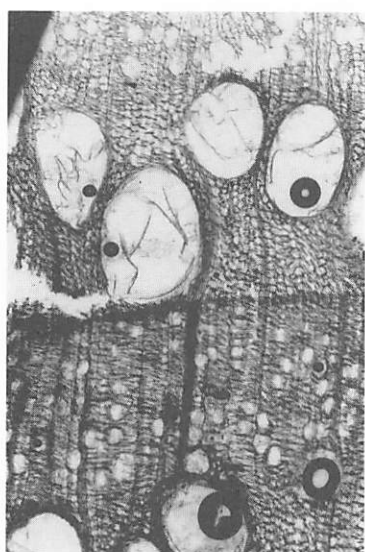
b × 50



c × 50

図Ⅷ-1-8 木製品の樹種 顕微鏡写真(6)





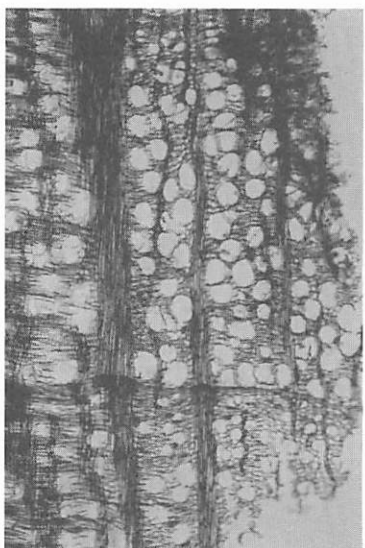
19 クリ a × 40



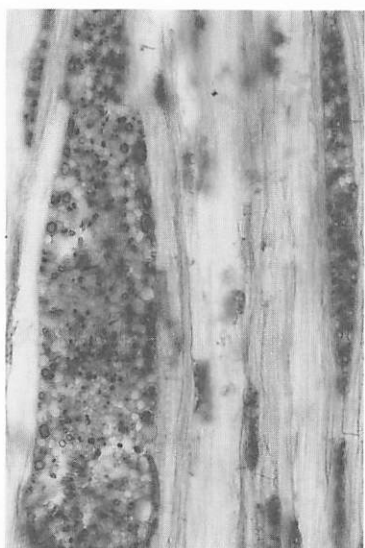
b × 50



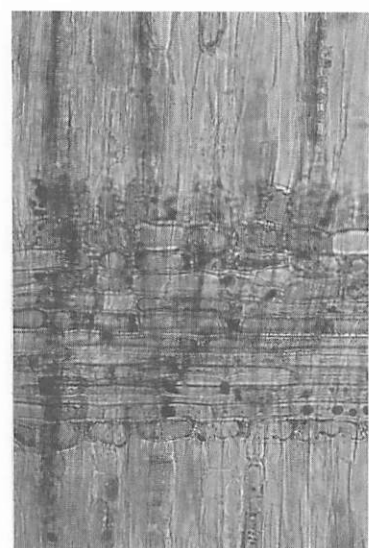
c × 50



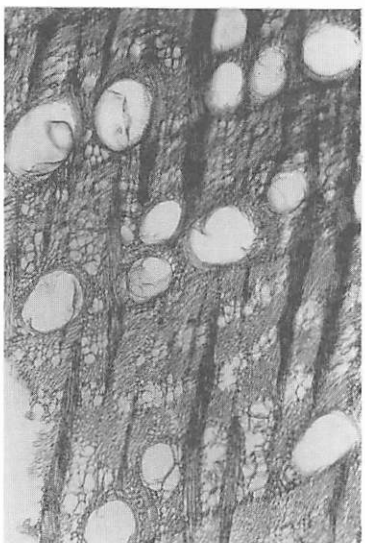
20 ブナ属 a × 80



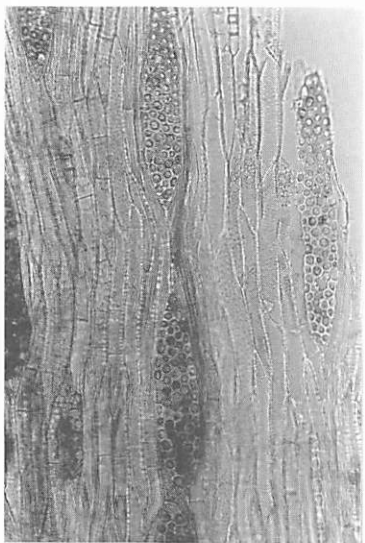
b × 100



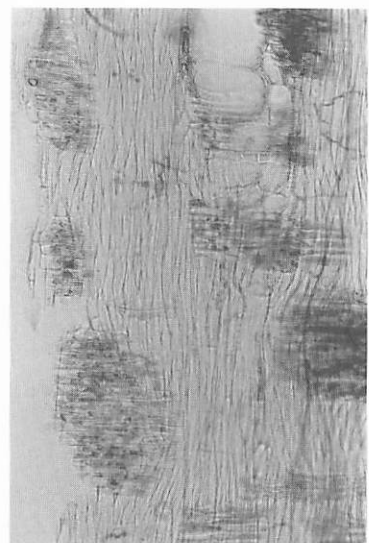
c × 200



21 ニレ属 a × 50

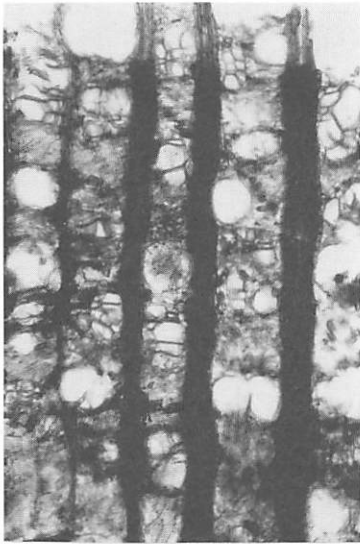


b × 100

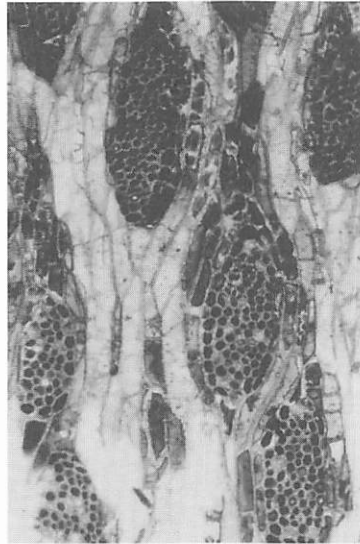


c × 100

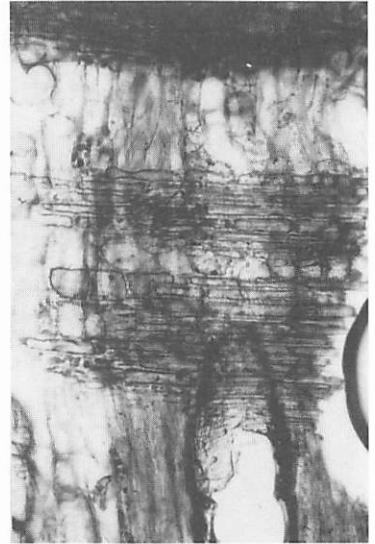
図Ⅷ-1-9 木製品の樹種 顕微鏡写真(7)



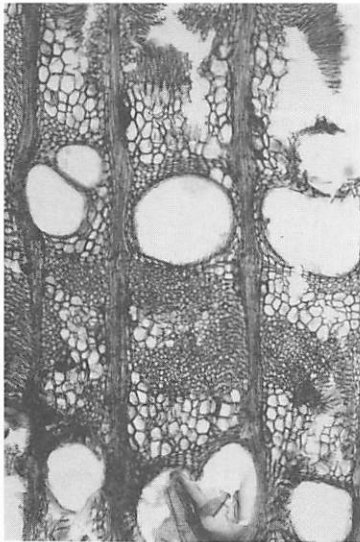
22 エノキ属? a × 40



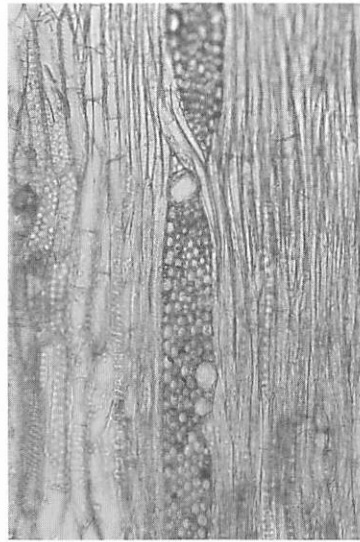
b × 80



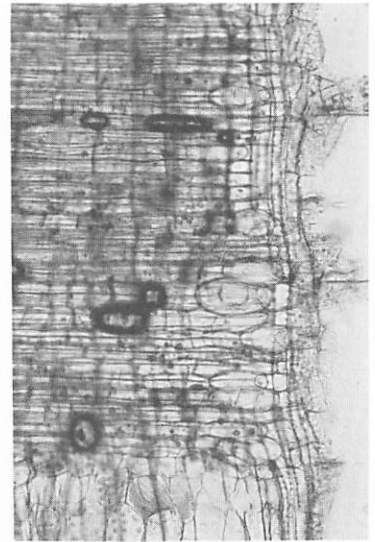
c × 100



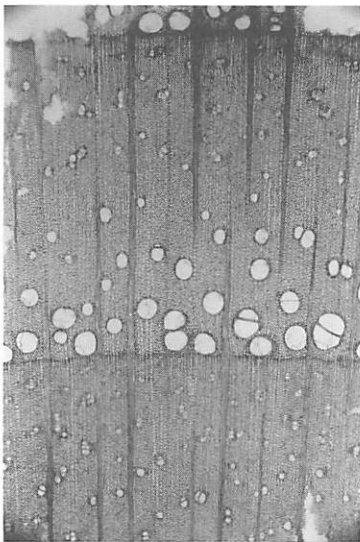
23 ケヤキ属 a × 40



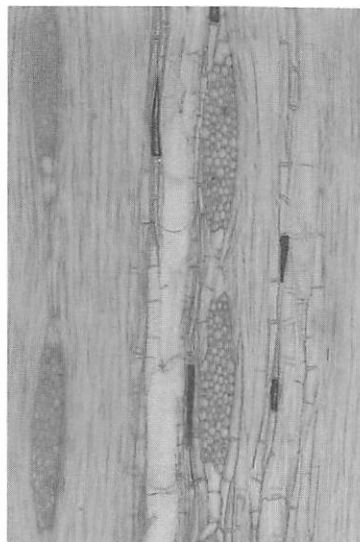
b × 100



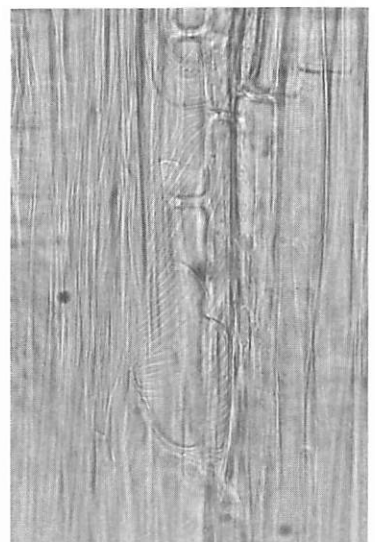
c × 100



24 クワ属 a × 20

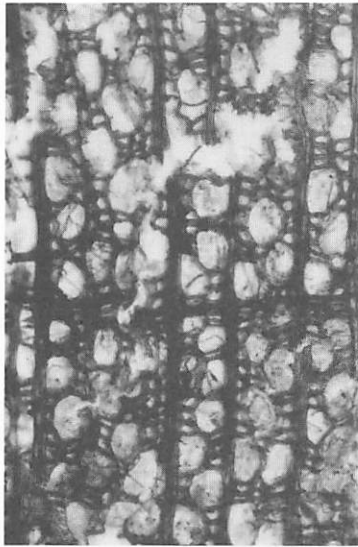


b × 100

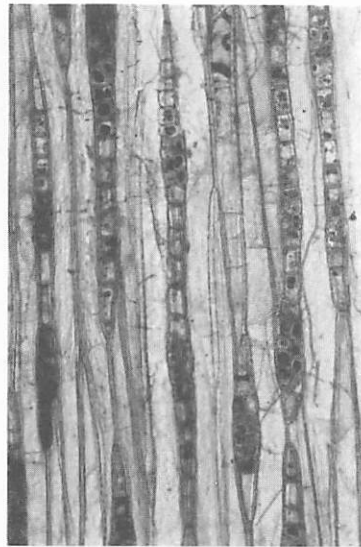


d × 400

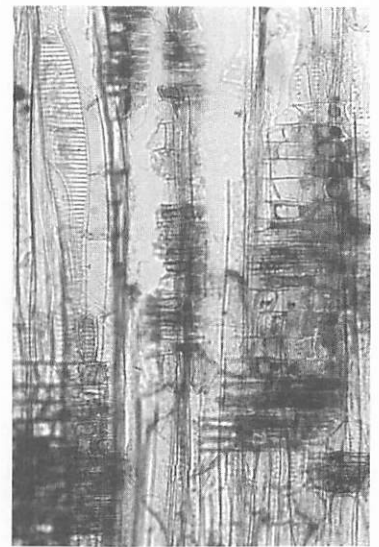
図VIII-1-10 木製品の樹種 顕微鏡写真(8)



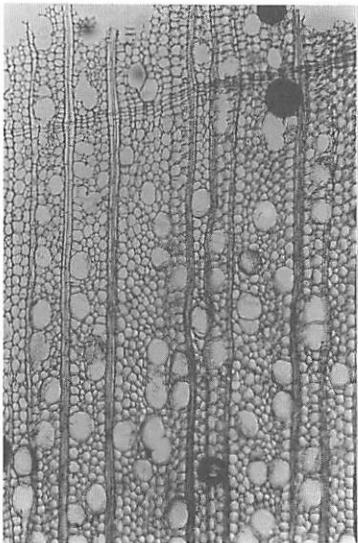
25 カツラ a × 80



b × 100



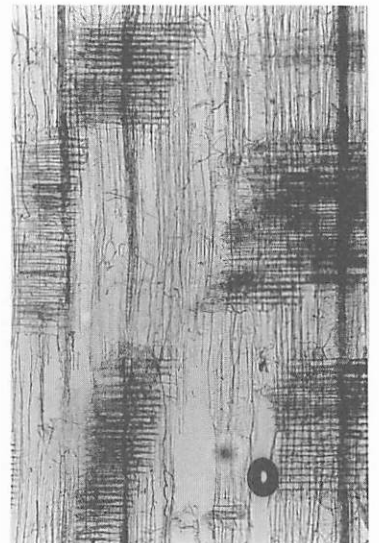
c × 100



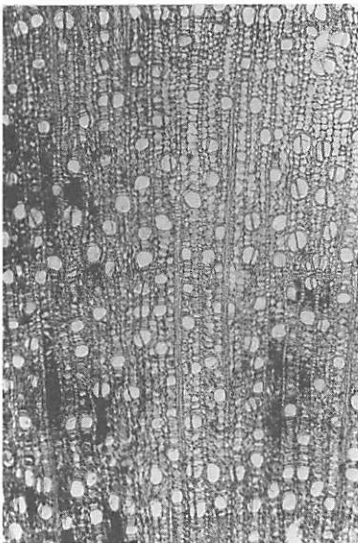
26 モクレン属 a × 50



b × 50



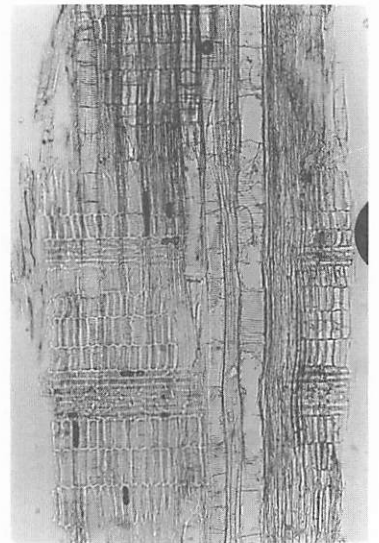
c × 50



27 アジサイ属 a × 50



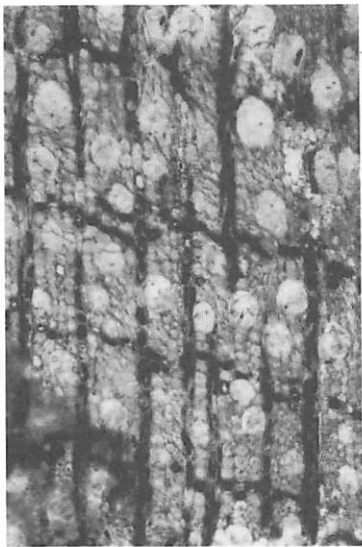
b × 50



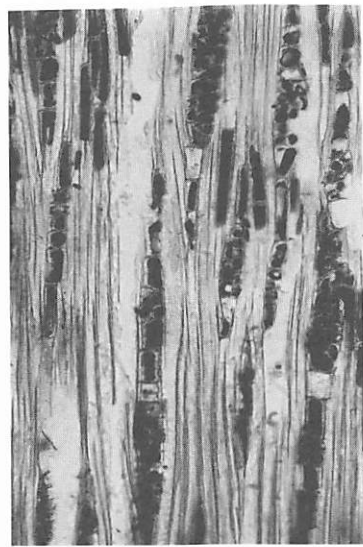
c × 50

図Ⅷ-1-11 木製品の樹種 顕微鏡写真(9)

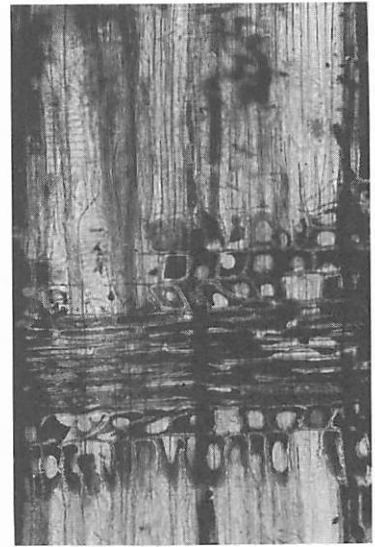




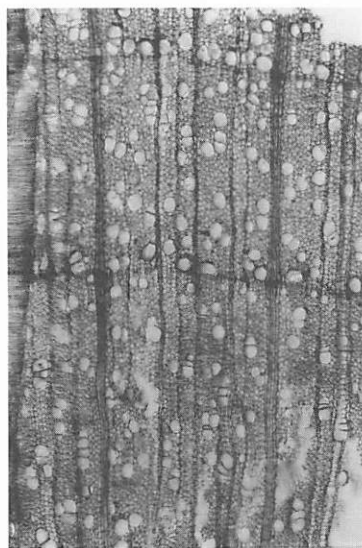
28 イスノキ a × 80



b × 100



c × 100



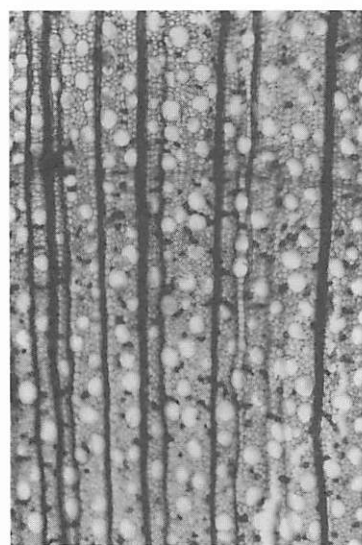
29 サクラ属 a × 50



b × 100



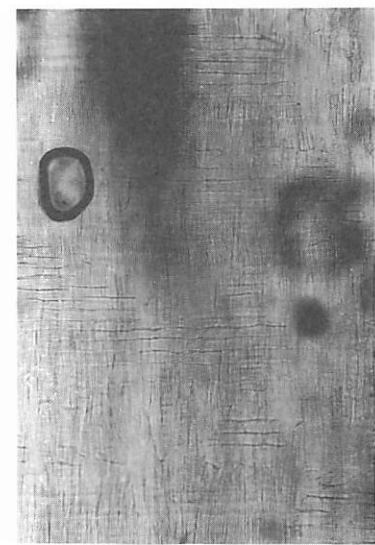
c × 100



30 ナナカマド属 a × 50

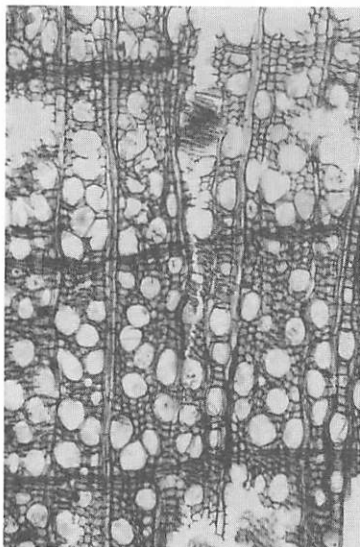


b × 100

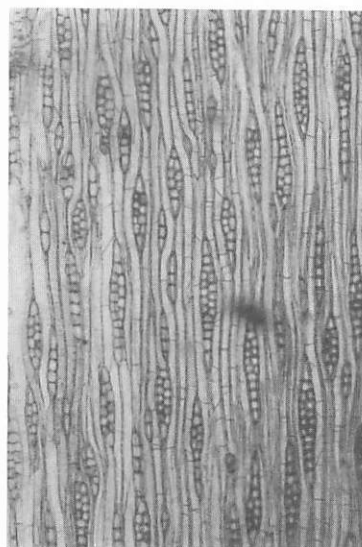


c × 100

図Ⅷ-1-12 木製品の樹種 顕微鏡写真 (10)



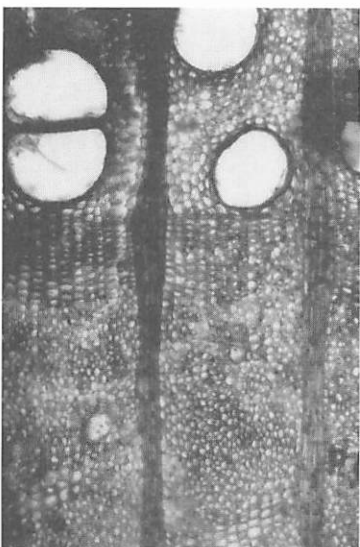
31 リンゴ属?ハシドイ属? a × 80



b × 80



c × 100



32 イヌエンジュ属 a × 80



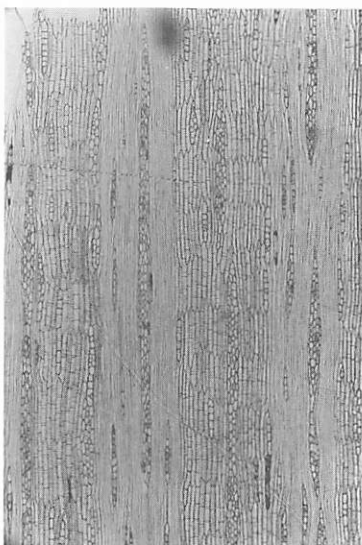
b × 200



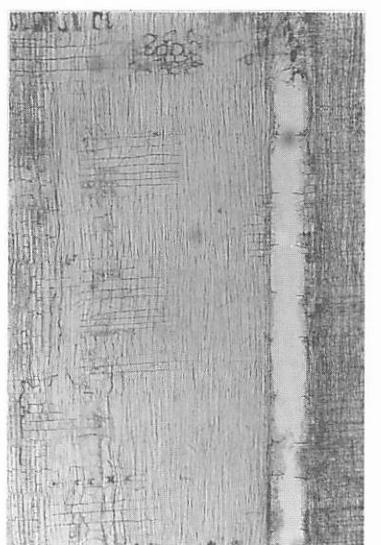
c × 200



33 ハギ属 a × 50



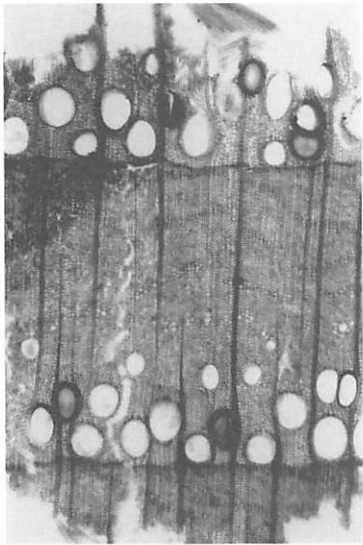
b × 50



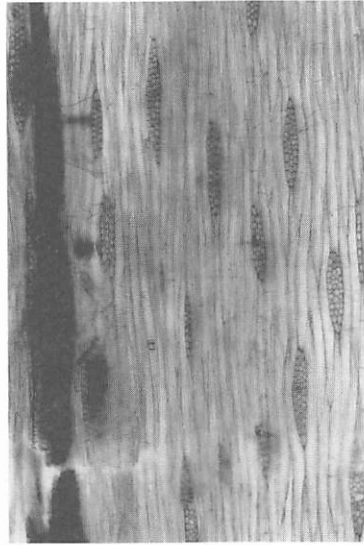
c × 50

図Ⅷ-1-13 木製品の樹種 顕微鏡写真 (11)

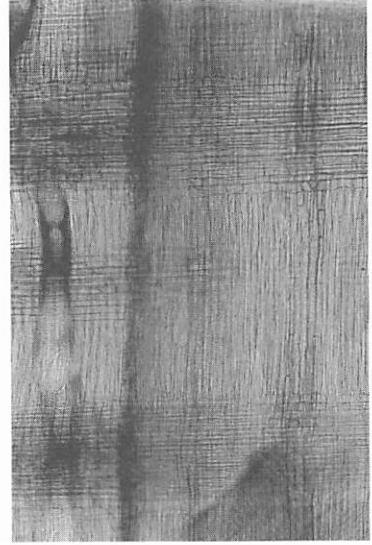




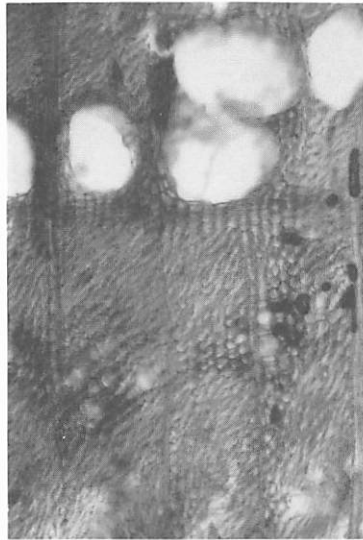
34 キハダ属 a × 20



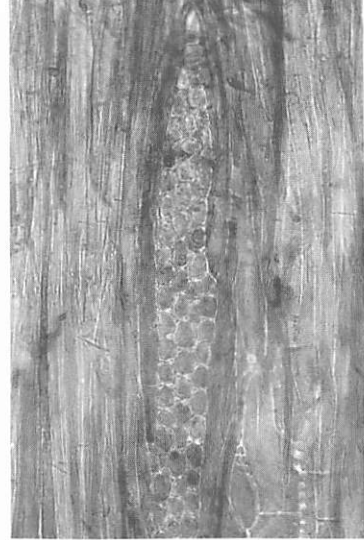
b × 50



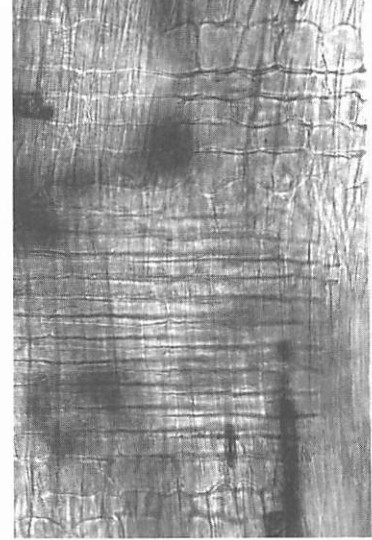
c × 50



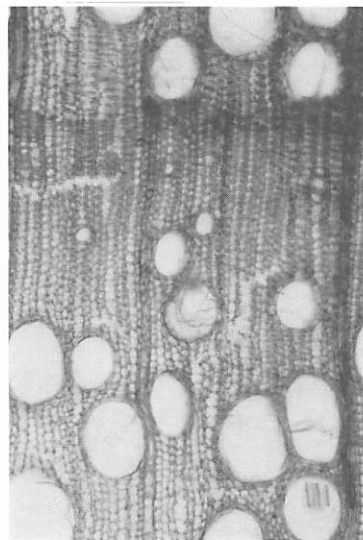
35 ニガキ a × 80



b × 200



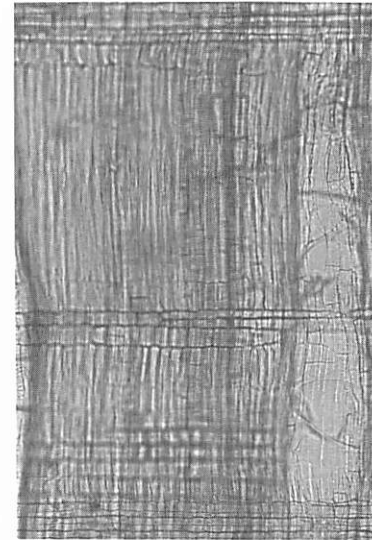
c × 200



36 ウルシ属 a × 80

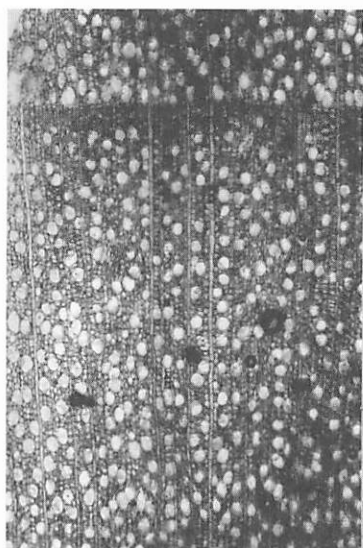


b × 100

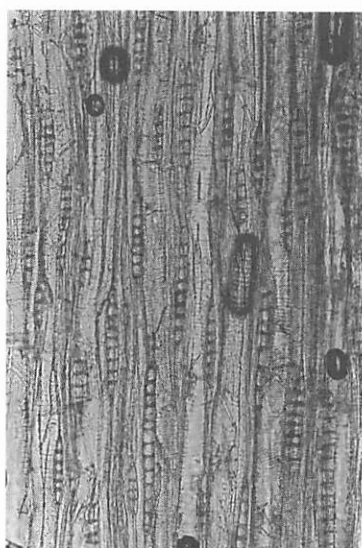


c × 100

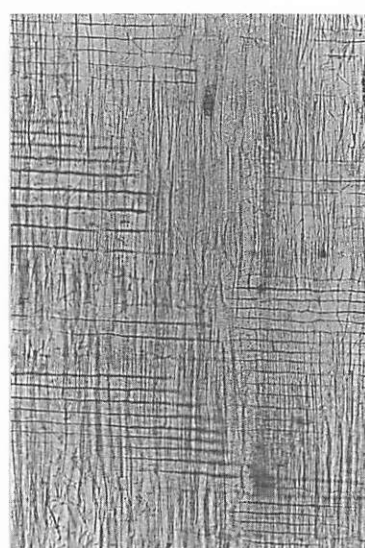
図Ⅷ-1-14 木製品の樹種 顕微鏡写真 (12)



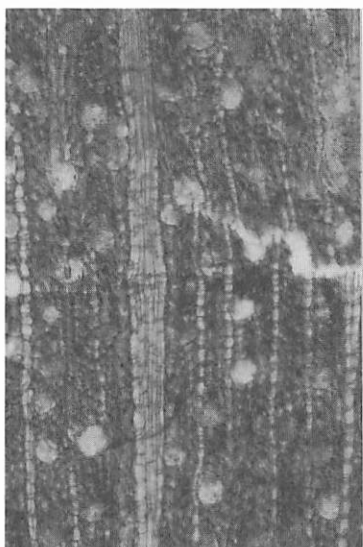
37 ニシキギ属 a × 50



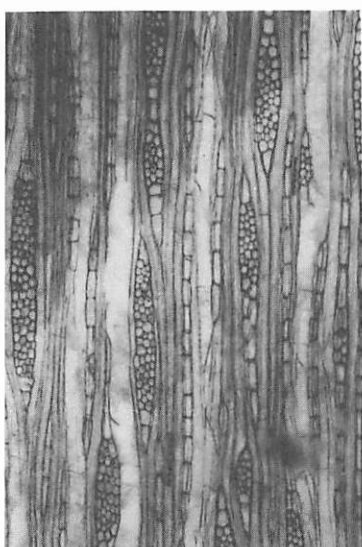
b × 100



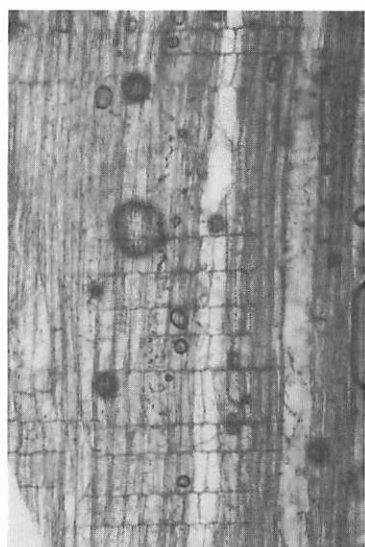
c × 100



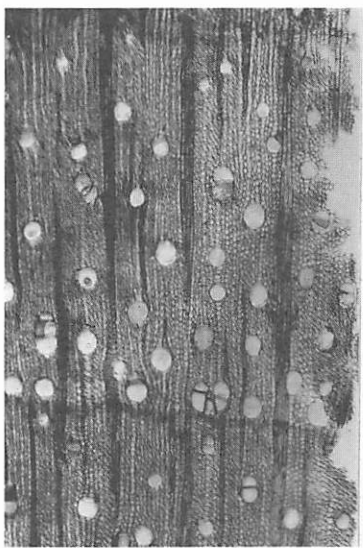
38 ミツバウツギ属? a × 80



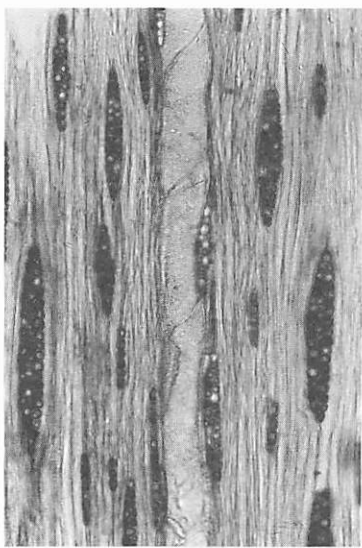
b × 80



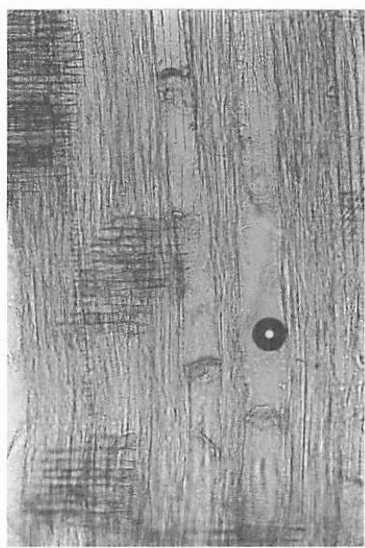
c × 100



39 カエデ属 a × 50

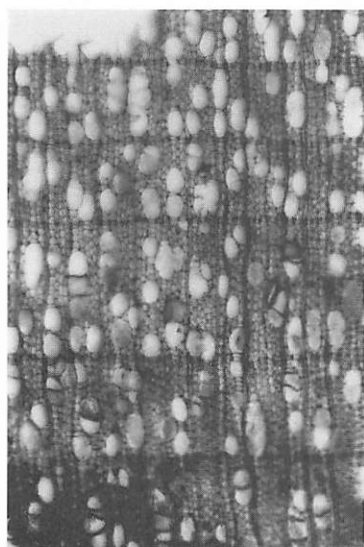


b × 100

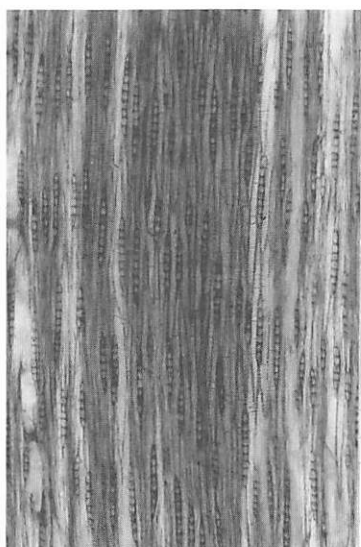


c × 100

図Ⅷ-1-15 木製品の樹種 顕微鏡写真 (13)



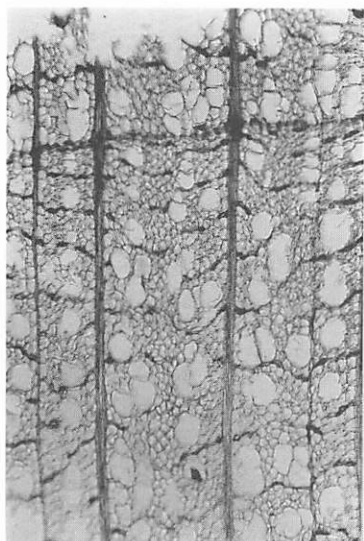
40 トチノキ a × 50



b × 50



c × 100



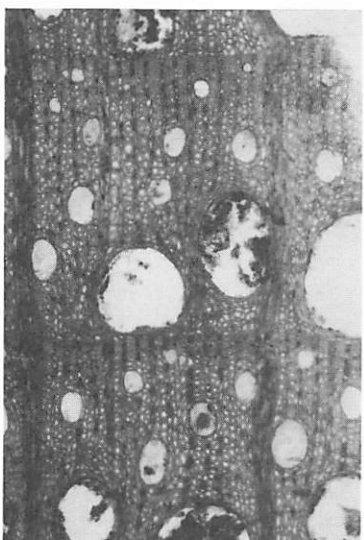
41 シナノキ属 a × 50



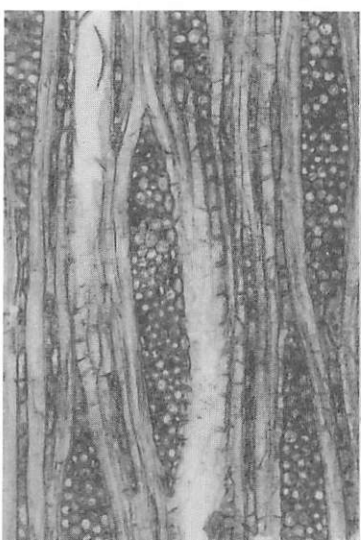
b × 100



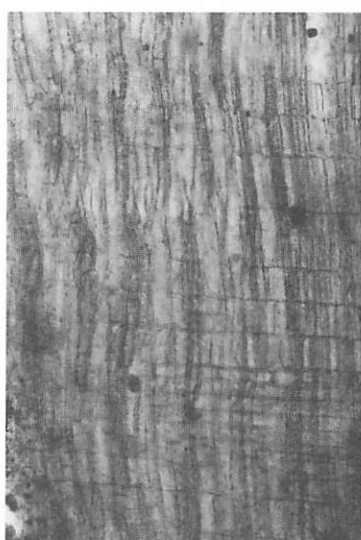
c × 100



42 サルナシ属? a × 40



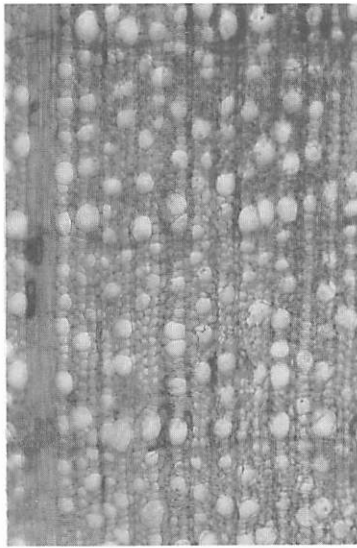
b × 80



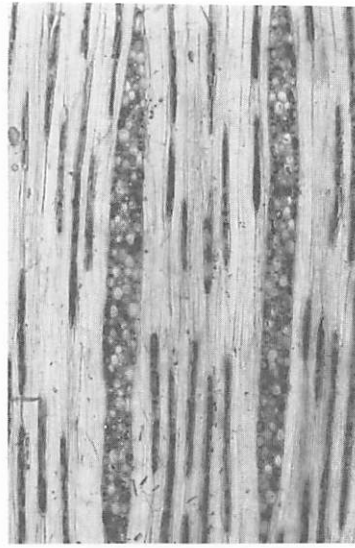
c × 80

図Ⅷ-1-16 木製品の樹種 顕微鏡写真 (14)

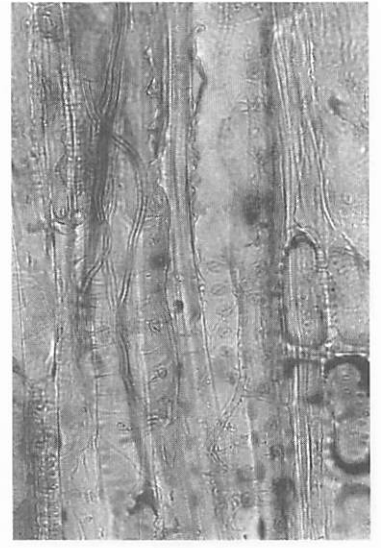




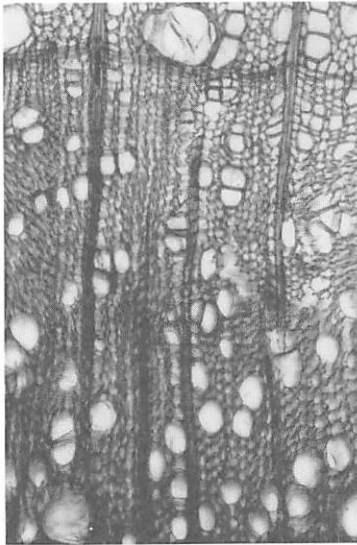
43 キブシ属? a × 100



b × 100



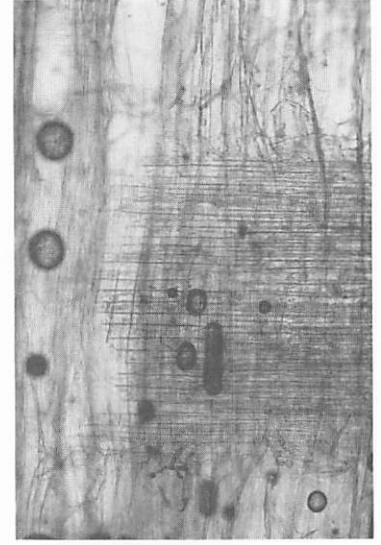
d × 400



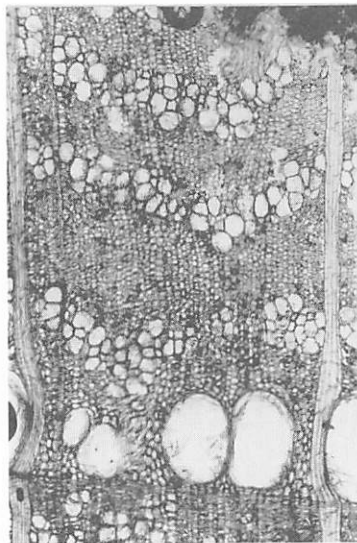
44 コシアブラ a × 80



b × 100



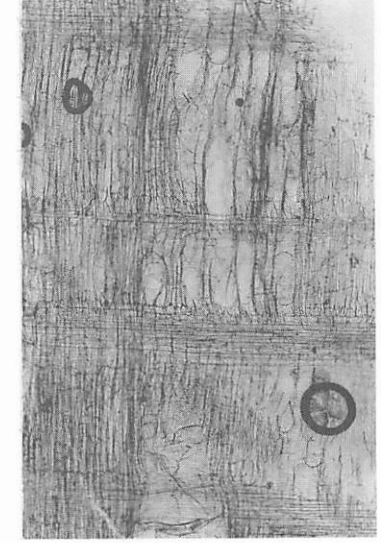
c × 100



45 ハリギリ a × 40

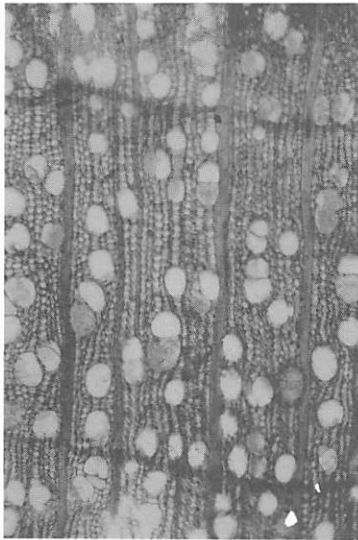


b × 50



c × 50

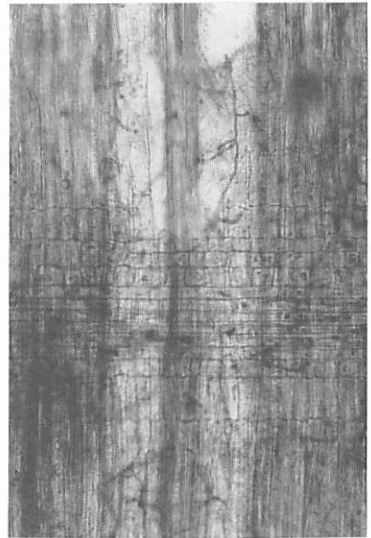
図Ⅷ-1-17 木製品の樹種 顕微鏡写真 (15)



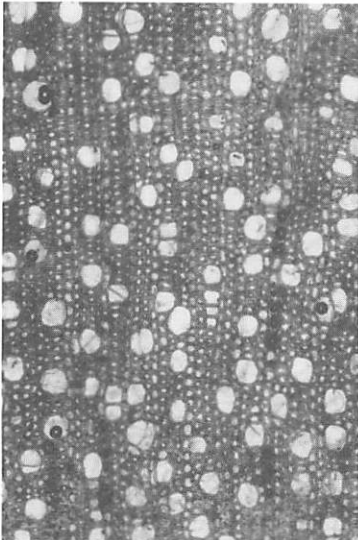
46 ミズキ属? a × 40



b × 100



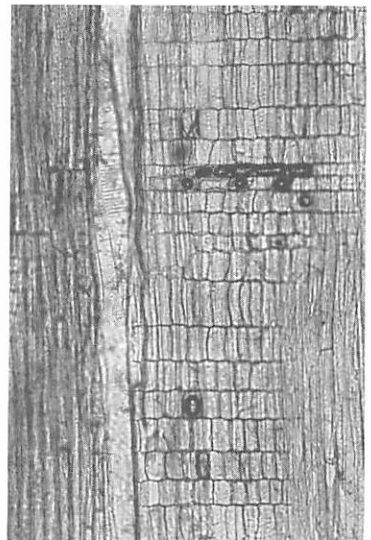
c × 100



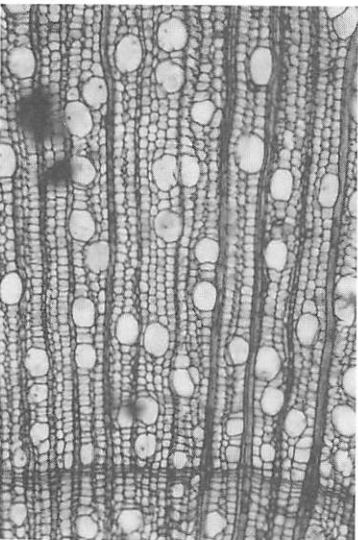
47 ハイノキ属 a × 80



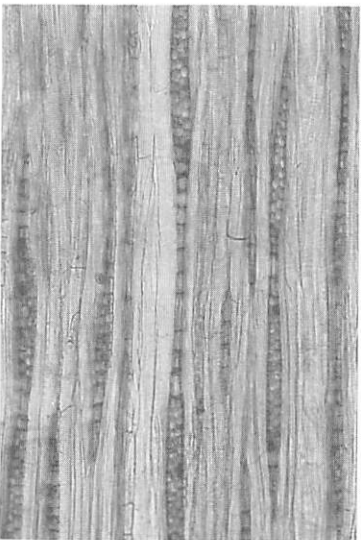
b × 100



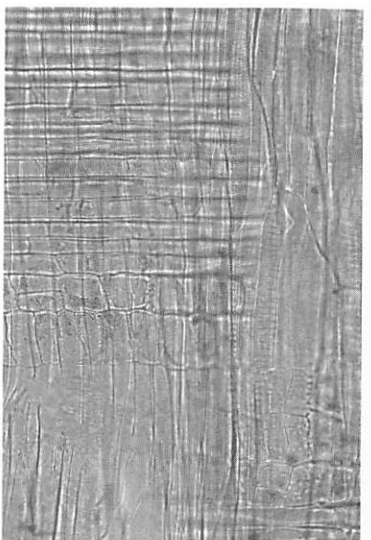
c × 100



48 タノウツギ属?ハイノキ属? a × 80

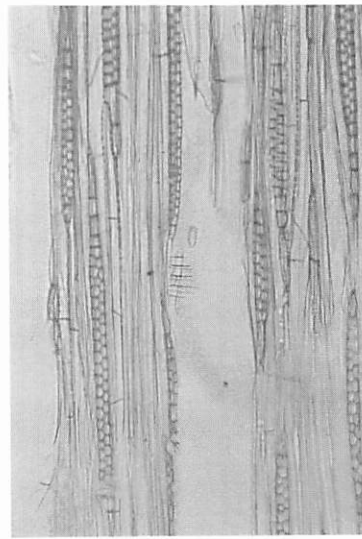
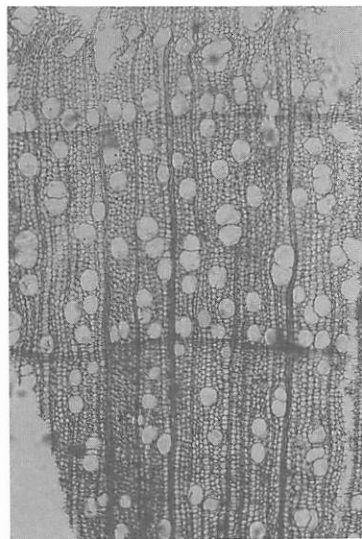
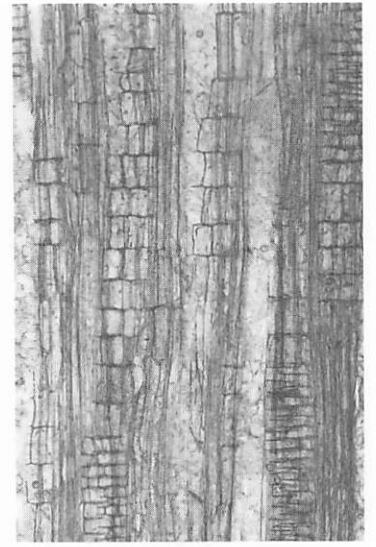
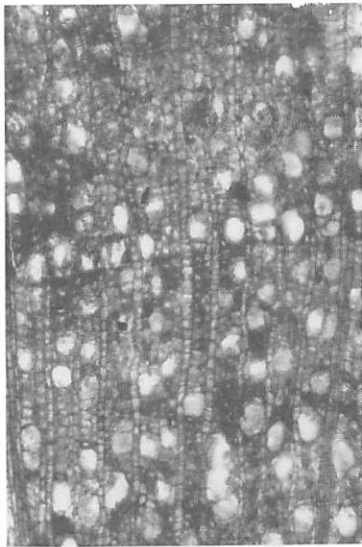


b × 100



c × 200

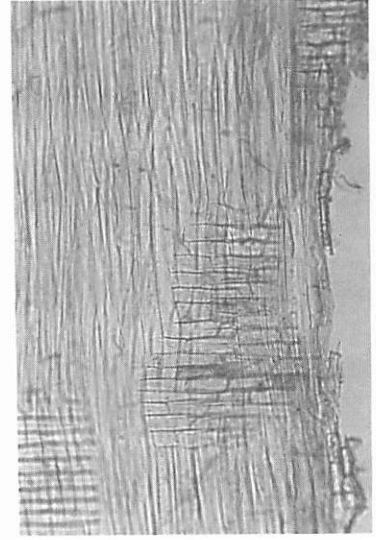
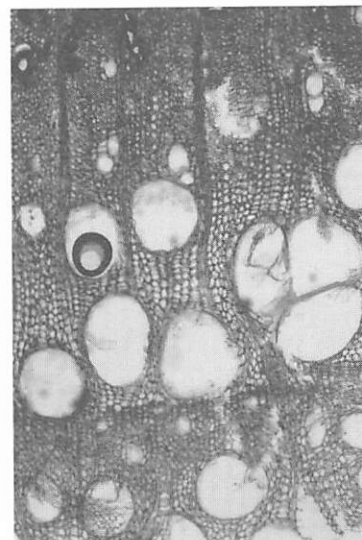
図Ⅷ-1-18 木製品の樹種 顕微鏡写真 (16)



50 エゴノキ属? a × 40

b × 100

c × 100



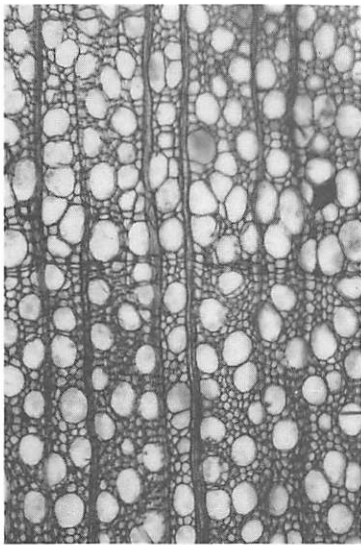
51 トネリコ属 a × 40

b × 100

c × 100

図VIII-1-19 木製品の樹種 顕微鏡写真 (17)

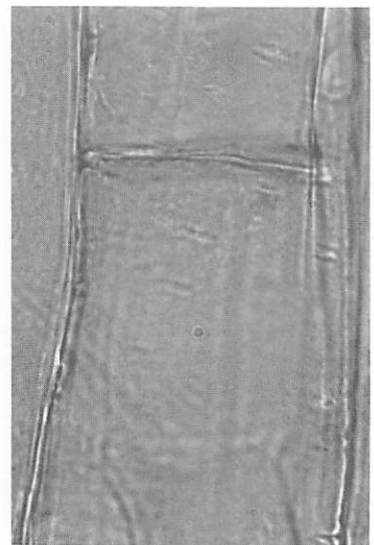




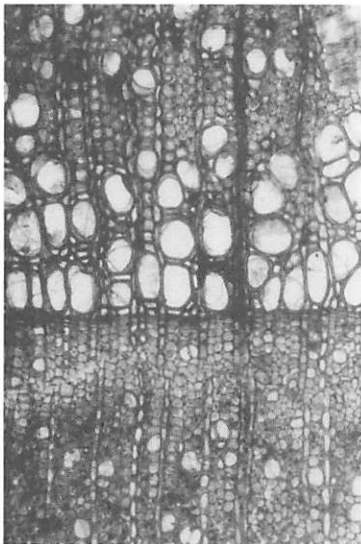
52 ハシドイ属 a × 80



b × 100



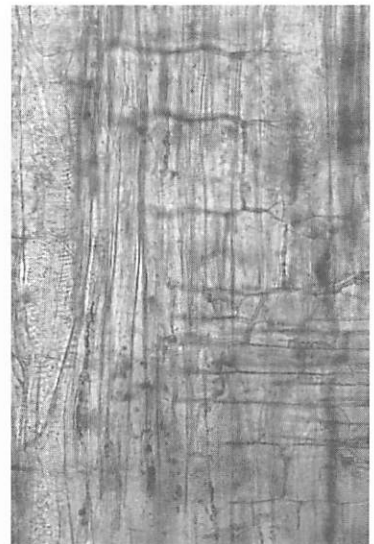
d × 800



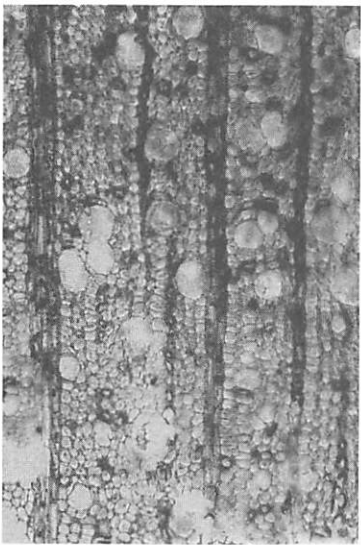
53 イボタノキ属? a × 80



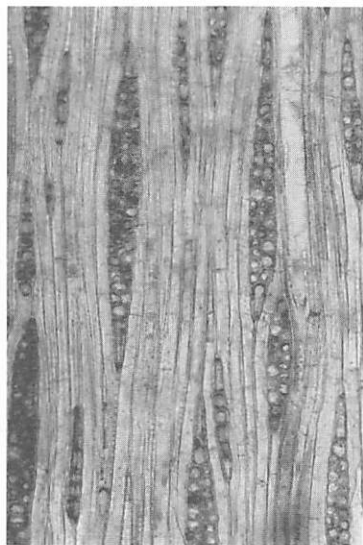
b × 100



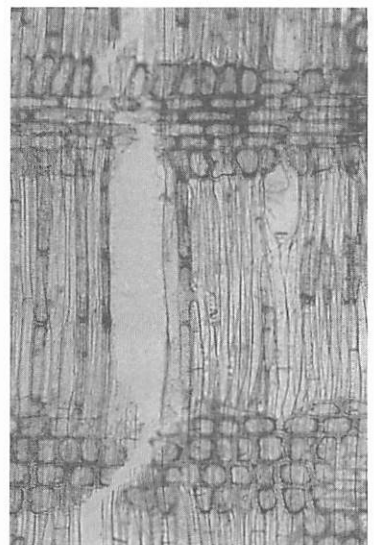
c × 200



54 ムラサキシキブ属? a × 100

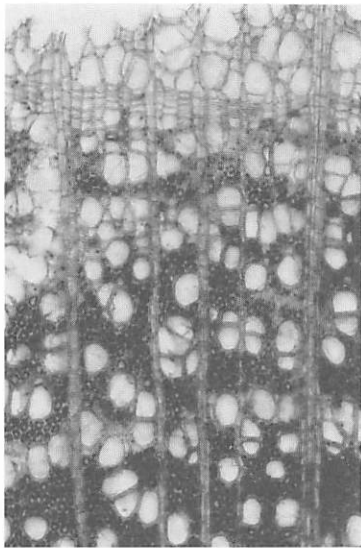


b × 100



c × 100

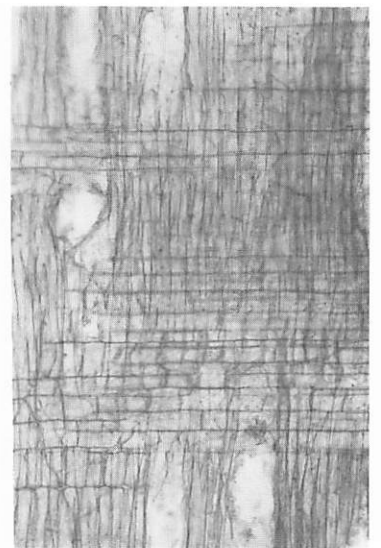
図Ⅷ-1-20 木製品の樹種 顕微鏡写真 (18)



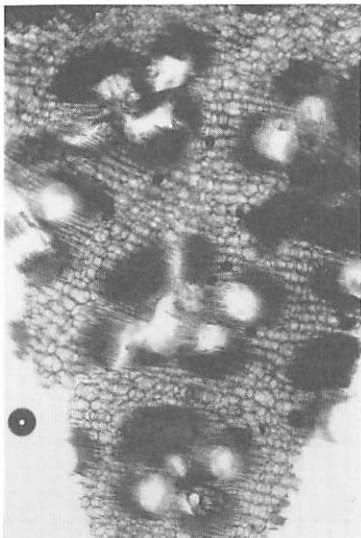
55 ニワトコ属 a × 100



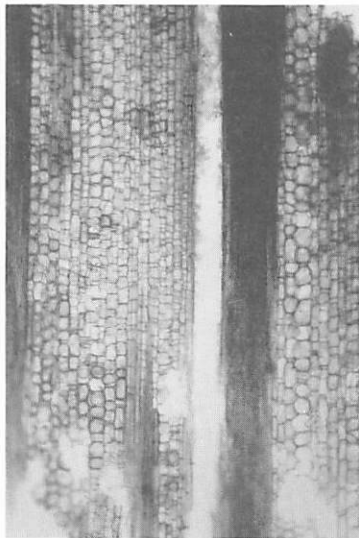
b × 100



c × 100



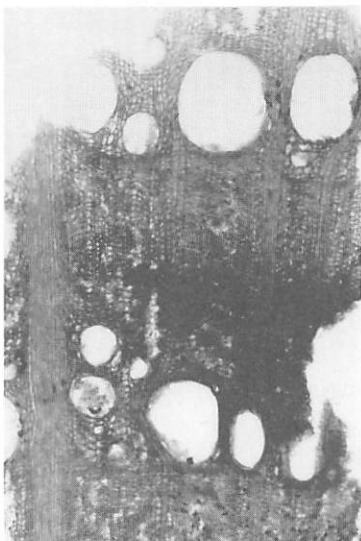
56 ササ/タケ a × 40



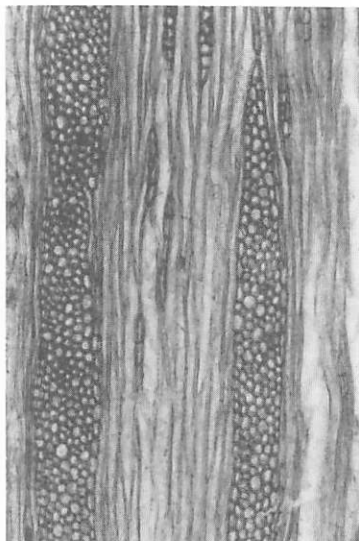
b × 40



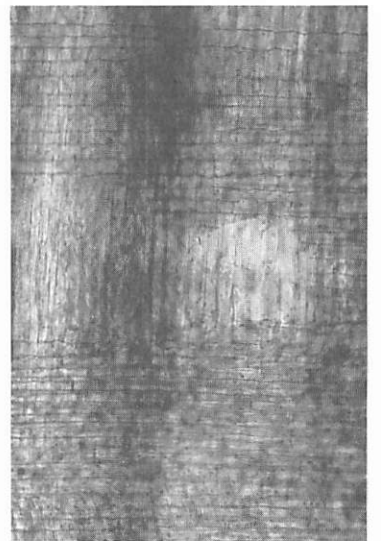
c × 40



57 ツル性植物 a × 40



b × 80



c × 100

図Ⅷ-1-21 木製品の樹種 顕微鏡写真 (19)



## 2 動植物遺存体の分析

## (1) 採取試料と分析の方法 (図Ⅷ-2-1・2、表Ⅷ-2-1・2)

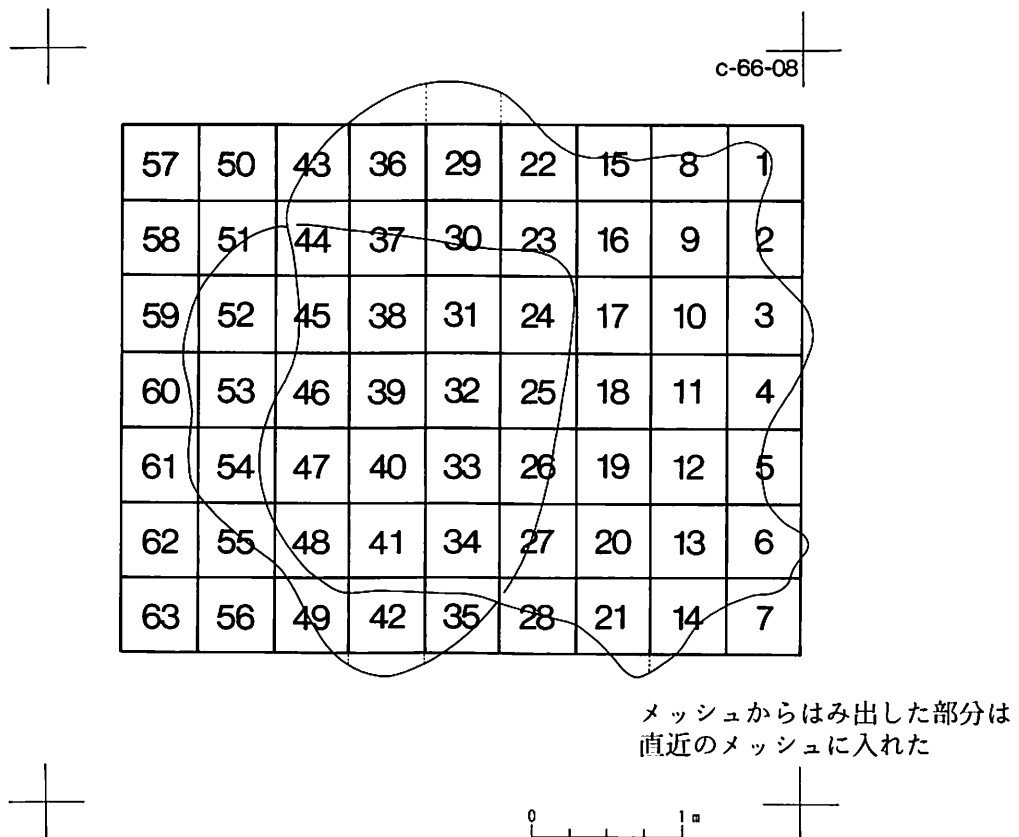
動植物遺存体は遺構、包含層の両方から出土している。取上げ方法は、遺存体を直接採取、土壌ごと採取の2種類あった。直接採取は包含層の手掘り調査で、土壌ごと採取は遺構とメインセクションのブロックサンプリングとクラムシエル調査で実施した。

土壌ごと採取した試料にたいしては、ウォーターセパレーション法、フローテーション法と両者の組合せの3種類がある。このうちウォーターセパレーション法はクラムシエル調査、ウォーターセパレーション法+フローテーション法は遺構(クリ集中、クルミ集中、ホオノキ集中は直接採取)、フローテーション法はメインセクションのブロックサンプリングと灰集中10の15.9%に対して実施した。なお、調査土量・対象遺構については表Ⅷ-2-1・2を参照していただきたい。

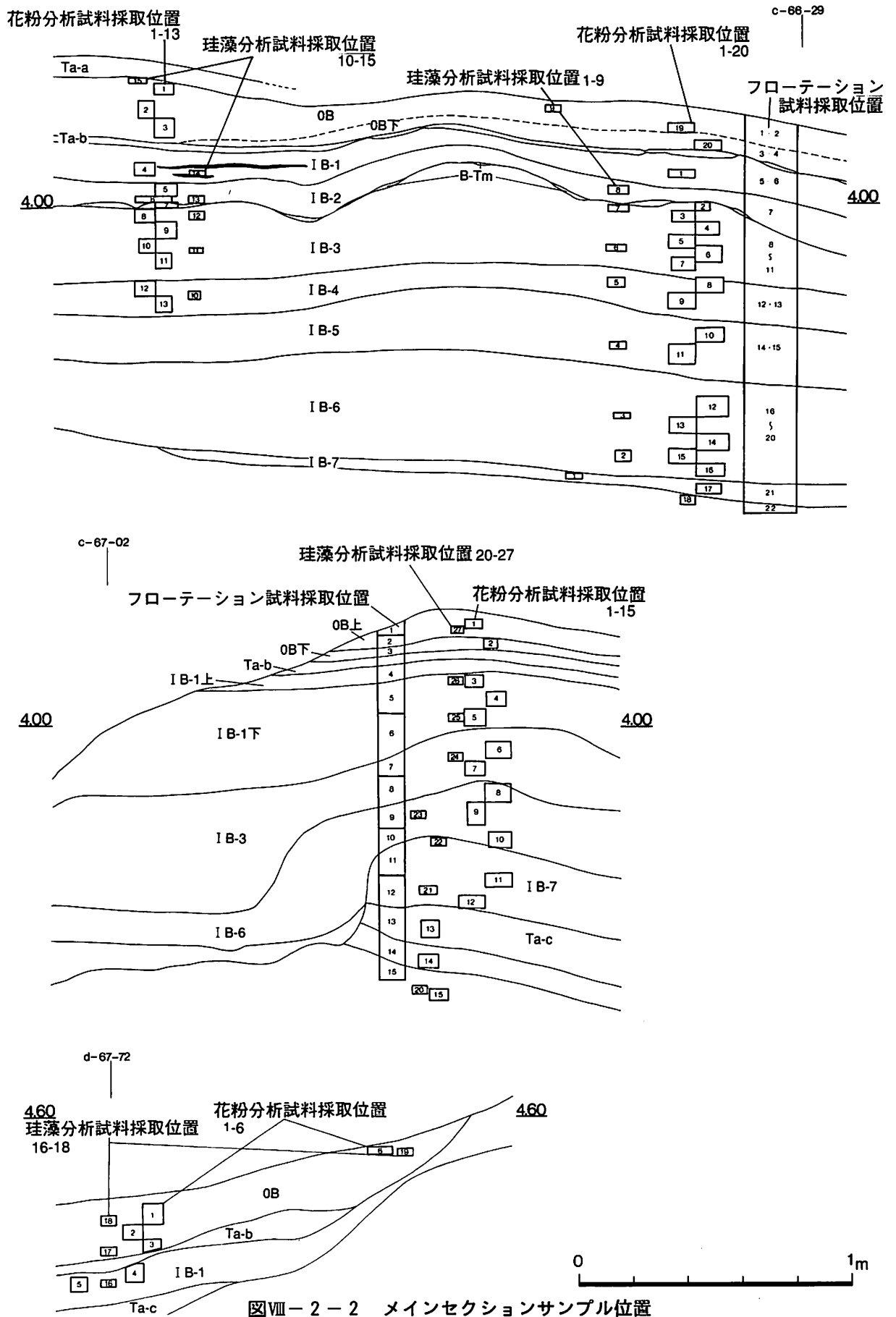
ウォーターセパレーション法では、4mm・2mm・1mmのメッシュを使用した。フローテーション法では、1.41mm・0.425mmのメッシュを使用した。ウォーターセパレーション法+フローテーション法では4mm・2mm・1.41mm・0.425mmのメッシュを使用した。

選別にあたっては肉眼と照明拡大鏡(×2)、抽出にあたっては照明拡大鏡(×2)と双眼実体顕微鏡(×6.6~×40、ニコンSMZ-10)、同定にあたっては双眼実体顕微鏡(×6.6~×40、ニコンSMZ-10)を使用した。遺存体重量の計測には電子上皿天秤(最小目盛0.000g)を使用した。

植物遺存体について、メインセクションと灰集中10の15.9%土壌試料は、選別、抽出、同定を吉崎・椿坂両氏にお願いした。残りの選別、抽出は当センターで行い、同定は吉崎昌一・椿坂恭代両氏の指導のもとに鈴木が行った。動物遺存体について、選別、抽出は当センターで、同定は鈴木が行い、同定の確認・決定を高橋 理氏にお願いした。



図Ⅷ-2-1 灰集中10のブロック番号



図Ⅷ-2-2 メインセクションサンプル位置

## (2) 出土動植物遺存体の見方について(表Ⅷ-2-3~17)

植物遺存体：表Ⅷ-2-3は表Ⅷ-2-4~10をまとめたものである。ます内の◎・○は多少を表している。多寡の基準は同一種・属・科における各遺構間の相対的評価である。

表Ⅷ-2-4はメインセクション出土の種子についての表である。

表Ⅷ-2-5・11・12は栽培種子の表である。灰集中の下に焼土が形成されていないこと、炭化物集中のなかに未炭化遺存体があることなどから、遺構の性格の把握のため炭化・未炭化を分類して、イネ科雑穀については、脱穀・保存・利用などの観点から穎(籾)・有稃果(籾付の実)・穎果(実)を分類し、シソに関してはシソとエゴマの分離基準のひとつが粒長2.5mmであることから分類した。

表Ⅷ-2-6・13はオニグルミ果皮の表である。上述より炭化・未炭化、個体数推定や子葉の取出し方の推定のため、割れ方の分類を設けた。縫合面割れは縫合面で割れている個体の残り具合。偏割れは縫合面で割れていない個体の残り具合。不明四分の一以下は、個体数推定や子葉の取出し方の推定に寄与しないくらい細かく割れているものである。

表Ⅷ-2-7・13はクリの表である。個体数推定や子葉の取出し方の推定についてなどオニグルミと類似点があるのでほぼ同じ形式の表にした。ことなる点は、果皮の遺存状態がオニグルミほどよくないので割れ方を簡略し、子葉が遺存していたので分類に加えたことである。

表Ⅷ-2-1 全遺構の調査土量

遺構名	層位	平面積 (m <sup>2</sup> )	サンプル 湿重量 (kg)	浮遊物量 +残渣量 (g)	浮遊物量 (g)	残渣量 (g)
灰集中1	表土層 I	0.40	1.31	167.9	0.2	167.7
灰集中2	表土層 I	0.25	0.84	107.8	0.2	107.6
灰集中3	表土層 II	0.65	0.63	80.1	(+)	80.1
灰集中4	表土層 II	0.33				
灰集中5	表土層 II	0.55				
灰集中6	表土層 II	0.06				
灰集中7	表土層 II	0.26				
灰集中8	表土層 II	0.09				
灰集中9	表土層 II	0.10				
灰集中11	表土層 II	8.04	5.00	640.3	198.5	441.8
灰集中10	第1灰層	13.29	1120.73	154839.0	68953.1	85885.9
灰集中10	第2灰層	9.06	197.12	23542.5	9373.9	14168.6
灰集中12	OB層上面	3.71	10.14	1299.02	334.2	964.8
灰集中13	OB層上面	4.90	12.62	1617.0	690.0	927.0
灰集中15	OB層	1.28	0.98	125.6	33.9	91.7
灰集中16	OB層	2.14	28.4	3637.0	1470.0	2167.0
灰集中17	OB層	0.13	16.1	2061.7	65.9	1995.8
灰集中18	OB層	0.09	0.86	109.7	58.3	51.4
灰集中19	OB層	0.17				
灰集中20	OB層	0.33	3.00	384.63	361.9	22.7
灰集中14	OB層下層	1.21	27.91	3576.0	3005.0	571.0
灰集中22	I B-1層	1.61	29.59	379.1	144.1	235.0
灰集中21	I B-2層	0.10	1.52	194.2	9.9	184.3
砂集中1	OB層	1.37				
砂集中2	OB層	0.38				
砂集中3	I B11層	0.98	0.76	97.0	(+)	97.0
炭化物集中1	表土層 I	0.12	1.90	243.82	86.7	157.1
炭化物集中4	OB層上面	0.27	1.30	166.22	67.9	98.3
炭化物集中8	OB層上面	0.12	0.58	73.82	66.4	7.4
炭化物集中9	OB層上面	0.73	6.23	798.82	732.1	66.7
炭化物集中10	OB層上面	0.39				
炭化物集中11	OB層上面	0.39	0.68	86.83	79.9	6.9
炭化物集中12	OB層上面	0.20	0.66	84.1	72.3	11.8
炭化物集中13	OB層上面	0.36	0.20	25.92	21.5	4.4
炭化物集中5	OB層	0.21	0.69	88.6	69.2	19.4
炭化物集中6	OB層	1.28	2.60	333.33	259.8	73.5
炭化物集中14	OB層	0.30	1.79	229.2	167.7	61.5
炭化物集中15	OB層	0.30	1.07	136.52	97.8	38.7
炭化物集中16	OB層	1.12	1.72	220.9	213.6	7.3
炭化物集中17	OB層	1.04	3.86	494.0	466.0	28.0
炭化物集中20	OB層	0.41	1.68	214.6	184.6	30.0
炭化物集中21	OB層	0.53	2.84	363.5	345.6	17.9
炭化物集中29	OB層	0.03	0.86	110.0	48.0	62.0
炭化物集中30	OB層	0.09	0.13	16.1	12.1	4.0
炭化物集中2	OB層下層	0.62	0.16	20.9	12.9	8.0
炭化物集中3	I B-1層	2.35	1.65	211.52	184.6	26.9
炭化物集中18	I B-1層	0.16	1.23	157.82	151.69	6.1
炭化物集中22	I B-1層	10.19	15.04	1926.3	151.7	1774.6
炭化物集中23	I B-1層	0.07	0.38	49.0	44.0	5.0
炭化物集中25	I B-1層	0.08	0.47	60.0	22.0	38.0
炭化物集中26	I B-1層	0.24	1.98	253	95	158.0
炭化物集中27	I B-1層	0.30	1.29	165.3	4.3	161.0
炭化物集中28	I B-1層	0.12	3.25	416.0	346.0	70.0
炭化物集中31	I B-1層	1.73	1.78	228.0	169.0	59.0
炭化物集中24	I B-3層	0.15	0.69	88.0	15.0	73.0

表Ⅷ-2-2 灰集中10の調査土量

灰集中10		埋文センター作業分				吉崎・椿坂氏作業分				
層名	ブロック名	浮遊物量 (g)	残渣量 (g)	浮遊物量 +残渣 (g)	サンプル 湿重量 (kg)	浮遊物量 (g)	残渣量 (g)	浮遊物量 +残渣量 (g)	サンプル 湿重量 (kg)	サンプル 容量 (l)
第1灰層	1	193.9	118.5	312.4	2.31					
第1灰層	2	213.5	531.1	744.6	5.50					
第1灰層	3	676.4	1273.1	1949.5	14.39	270	860	1130	8.34	10.0
第1灰層	4	740.6	1691.1	2431.7	17.95					
第1灰層	5	300.8	1325.1	1625.9	7.61					
第1灰層	6	187.3	1915.1	2102.4	7.08					
第1灰層	7	85.4	392.4	477.8	3.21					
第1灰層	8	170.2	190.2	360.4	2.66					
第1灰層	9	317.7	1183.1	1500.8	11.27					
第1灰層	10	1642.3	3582.3	5224.6	39.23					
第1灰層	11	1889.9	1832.1	3722.0	3.73					
第1灰層	12	1508.9	2076.1	3585.0	16.77	112	850	962	4.50	5.5
第1灰層	13	1112.0	2469.2	3581.2	16.76					
第1灰層	14	509.8	841.1	1350.9	9.09	446	272	718	4.83	6.0
第1灰層	15	537.6	557.6	1095.2	8.22					
第1灰層	16	958.1	964.1	1922.2	14.43	224	386	610	4.58	5.0
第1灰層	17	1417	1134.1	2551.1	19.15					
第1灰層	18	2048.7	1473.2	3521.9	29.48					
第1灰層	19	1395.1	2070.2	3465.3	16.21					
第1灰層	20	1086.7	1118.1	2204.8	18.78	260	562	822	7.00	9.0
第1灰層	21	494.1	514.1	1008.2	5.67	374	592	966	5.43	7.0
第1灰層	22	320.1	340.1	660.2	3.70					
第1灰層	23	1495.0	798.1	2293.1	17.21					
第1灰層	24	1117.0	1014.1	2131.1	16.00					
第1灰層	25	7705.4	867.1	8572.5	71.76	272	606	878	7.35	9.0
第1灰層	26	1355.7	1020.1	2375.8	18.76					
第1灰層	27	1576.8	973.1	2549.9	20.14	286	556	842	6.65	8.0
第1灰層	28	970.1	420.1	1390.2	7.80					
第1灰層	29	197.1	151.1	348.2	1.60					
第1灰層	30	1016.0	381.1	1397.1	7.84	380	766	1146	6.43	9.0
第1灰層	31	1534.9	2117.0	3651.9	34.96					
第1灰層	32	2199.9	2382.0	4581.9	48.86	284	724	1008	9.65	10.5
第1灰層	33	1285.9	2240.0	3525.9	33.75					
第1灰層	34	1152.9	1126.0	2278.9	2.36	220	670	890	0.92	9.5
第1灰層	35	383.4	458.6	842.0	3.86					
第1灰層	36	196.4	87.4	283.8	1.30	596	768	1364	6.26	9.5
第1灰層	37	1024.8	1801.7	2826.5	15.86					
第1灰層	38	441.0	308.6	749.6	4.47	468	684	1152	6.87	9.0
第1灰層	39	1365.0	2477.98	3843.0	36.79					
第1灰層	40	3333.5	2935.9	6269.4	54.45					
第1灰層	41	1653.3	2166.5	3819.8	33.17	302	390	692	6.01	7.0
第1灰層	42	540.0	443.7	983.7	4.51					
第1灰層	43	178.5	221.4	399.9	1.81	468	1240	1708	7.74	10.0
第1灰層	44	1534.0	1750.2	3284.2	25.76					
第1灰層	45	1601.0	1155.4	2756.4	21.82	440	580	1020	8.00	9.5
第1灰層	46	2789.2	3594.5	6383.7	62.10					
第1灰層	47	2141.1	3144.1	5285.2	51.41	328	664	992	9.65	10.0
第1灰層	48	2432.9	3680.0	6112.9	59.47					
第1灰層	49									
第1灰層	53	947.9	1951.2	2899.1	16.44					
第1灰層	54	673.5	1594.4	2267.9	12.86	364	1100	1464	8.30	9.0
第1灰層	55	73.7	207.8	281.5	1.28					
第1灰層	位置不明	1969.1	4196.7	6165.8	35.96	168	358	526	4.66	6.0
第1灰層合計		62691.1	73257.88	135948.98	997.56	6262	12628	18890	123.17	158.5
第2灰層	30	134.9	424.0	558.9	4.62					
第2灰層	31	607.9	1444.0	2051.9	23.19					
第2灰層	32	415.0	297.0	712.0	5.89	168	370	538	4.45	5.0
第2灰層	33	590.6	224.0	814.6	6.74					
第2灰層	34	986.5	559.0	1545.5	14.32	346	730	1076	9.97	11.0
第2灰層	35					306	450	756	5.93	7.0
第2灰層	38	656.2	633.1	1289.3	14.57	200	468	668	7.55	7.5
第2灰層	39	119.1	89.3	208.4	1.72					
第2灰層	41	384.0	288.3	672.3	5.56					
第2灰層	42	517.5	562.9	1080.4	5.90					
第2灰層	45	194.5	331.9	526.4	4.81	160	514	674	6.16	7.0
第2灰層	47	95.9	404.0	499.9	4.57					
第2灰層	48	831.0	375.1	1206.1	11.02					
第2灰層	49	595.8	1129.1	1724.9	9.42	416	1240	1656	9.04	10.0
第2灰層	52	215.9	203.0	418.9	3.37	290	592	882	7.09	8.5
第2灰層	位置不明	797.1	2181.9	2979.0	23.37	346	658	1004	7.86	8.5
第2灰層合計		7141.9	9146.6	16288.5	139.07	2232	5022	7254	58.05	64.5
総計		69833	82404.5	152237.5	1136.63	8494	17650	26144	181.22	223



(3) 植物遺存体について

1) 美々8遺跡低湿地部から出土した栽培種子について

札幌国際大学教授 吉崎 昌一  
北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂 恭代

(i) 扱った資料

- a.資料の検出された遺跡：北海道千歳市美々8遺跡 c-66-08発掘区 灰集中10から得られたもの  
b.扱った資料の年代：西暦1667年降灰の樽前b火山灰層と西暦1739年降灰の樽前a火山灰層に狭在される0黒層(0B層)が「灰集中10」の原層準である。「灰集中10」は、褐色泥炭層によって上下に細分され、上部のものが第1灰層、下部のものが第2灰層と区分されている。ただし、この堆積状況からみるかぎり、両層の間にはさほどの時間差はなかった可能性がある。

(ii) 検出された栽培植物(図Ⅷ-2-3・4、表Ⅷ-2-5)

\*「灰集中10」第1灰層から抽出された加熱炭化した栽培植物種子は、以下の7種類が認められた。オオムギ?, イネ *Oryza sativa* L., ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno, アワ *Setaria italica*(L.)P.Beauv, アサ *Cannabis sativa* L., シソ属 *Perila* L., アズキ *Vigna angularis* Ohwi et ohashi.

これらの中でオオムギ?とした資料には若干の問題がある。図Ⅷ-2-4の11a,11bに示した資料に見られるように、狭長な穎果の中央に縦走する溝(ventral groove)が認められるのであるが、粒形そのものはオオムギに比べて細長く、明確にオオムギと断定する根拠が薄弱である。未熟のムギの穎果あるいは野生の麦類であるかも知れないと考える。第2灰層から出土した例も同様な種類のものである。結論を控え?マークを付しておく。

アズキとしたマメ科の種子は、粒形およびヘソの形態と位置から判断される。日本考古学では小型の豆類はリョクトウ *Vigna radiata*(L.)Wilczekとして記載される場合が多いが、初生葉の形態による同定によれば、粒形とサイズのみでの分類は困難なケースが多く(吉崎1992、1995)、殆どの場合がアズキまたは野生のアズキの仲間の誤認であると考えられる。しかし今回の出土資料は全ての点でアズキの特徴を備えている。

\*「灰集中10」第2灰層から抽出された加熱炭化した栽培植物種子には、以下の8種類が認められた。オオムギ?, イネ *Oryza sativa* L., キビ *Panicum miliaceum* L., ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et yabuno, アワ *Setaria italica*(L.)P.Beauv, アサ *Cannabis sativa* L., シソ属 *Perila* L., アズキ *Vigna angularis* Ohwi et Ohashi.

これ以外の遺構からも散漫に栽培植物が出土している。これらの栽培植物種子の種類および検出遺構に関しては表Ⅷ-2-5に示しておいた。このなかで、とくに注目されるものとしては炭化物集中6および炭化物集中20からはアサ *Cannabis sativa* L.破片がまとまって出土していること、また炭化物集中22からは図Ⅷ-2-4に示したように、1例ではあるがソバ *Fagopyrum esculentum* M oench.が検出された。

## (iii) 提起される問題

この遺跡から出土した栽培植物種子は、道央地区の近世アイヌ文化の栽培活動がどのレベルであったかについての重要な資料を提供するものである。また、表Ⅷ-2-5で分かるように、検出された栽培植物種子はアサを例外として、殆どの資料が炭化した状態で出土している。今回の報告では触れられなかったが、他の地点から得られている植物種子は酸化状態のものが殆どで、炭化したものはむしろ稀であった。この現象は、「灰集中10」の栽培植物種子はアサを除き殆どが加熱炭化の状態で出土しており、前述したように他の地点・地層から検出された野生の草本種子とは大きく性格が異なっている。ただし、「灰集中10」の灰や焼土が、現地で生成されたものか、廃棄された結果なのかについて考古植物学上からの情報はない。したがって加熱炭化された栽培植物種子が、どのような過程でここに包含されていたのかについて判断するための十分な手がかりはない。

この点に関して、もう一つ留意しておきたい現象がある。「灰集中10」から出土した栽培植物種子は、これまで我々が関わってきたどの擦文文化の竪穴住居の資料とも異なり、イネを除くイネ科雑穀の有ふ果の出現率が高いことが注目される。たとえば、第1灰層から出土した完形のヒエをみると、出土したものの約半数が有ふ果である。同じ第2灰層の例では約70%が有ふ果であった。アワも似たような傾向を示す。

くり返すが、これまで我々の扱った擦文文化の竪穴住居から検出されるアワ・ヒエ・キビなどのイネ科雑穀は、その殆どが内外穎を残さない穎果（果実）の状態<sup>1</sup>で出土していた。つまり、擦文文化の竪穴住居内から得られるイネ科雑穀は、完全に脱穀した状態で出土し、今回の近世アイヌ文化に属する「灰集中10」から出土した資料は未脱穀あるいは不完全な脱穀状態で出土していることになる。おそらく、調査者の指摘するとおり、この違いは「灰集中10」が「もの送り場としての灰捨て場」としての性格を持っていたからに他ならないであろう。今後、このような儀礼的廃棄スポットの歴史的な変遷を、考古学的な手法で早急に追求することが必要だと考える。

なお、環境指標植物種子や総合的な植物コンプレクスについては、分析分担が異なるので別項を参照されたい。

## 〔引用文献〕

吉崎昌一

1992：古代雑穀の検出 考古学ジャーナル 355号 pp.2-14

1995：日本における栽培植物の出現 季刊 考古学 第50号 pp.18-24 雄山閣出版 東京

表Ⅷ-2-4 メインセクションの種子

採掘区	サンプル番号	層位	サンブル量 (l)	採取資料 (g)	栽培種子	木本種子	草本種子
<b>c-66-09の杭柱</b>							
c-66-09		0B層上層	6.00	1,826	アワ、アサ	ハラ属、ブドウ属	タデ属、ナデシコ科、アカザ属、ヒユ科、カヤツリグサ科
c-66-09		0B層下層	3.50	1,062	アサ	タラノキ属	タデ属、ナデシコ科、アカザ属、カタバミ属
c-66-09		Tab	2.00	1,288	アサ	ブドウ属、ニワトコ属	タデ属、アカザ属、カヤツリグサ科
c-66-09		IB-1層	10.50	4,402	ヒエ	ブドウ属	タデ属、アカザ属、キイチゴ属、カヤツリグサ科
c-66-09		IB-2層	2.50	444	アワ、ヒエ、キビ、シソ属、アサ	ハラ属、ブドウ属、タラノキ属	アカザ属、カヤツリグサ科
c-66-09		B-Tm	0.40	122		ブドウ属	カヤツリグサ科
c-66-09		IB-3層	9.00	1,082			タデ属、アカザ属、カヤツリグサ科
c-66-09		IB-4層	6.00	790			カヤツリグサ科
c-66-09		IB-5層	6.00	1,492			カヤツリグサ科
c-66-09		Ta-c	3.00	1,746			カヤツリグサ科
<b>A-Bラインセクション</b>							
c-66-19	1-2	0B層上層	7.00	1,554	ヒエ、アサ	クマシダ属、ホオノキ属、サルナシ属、ハラ属	タデ属、キンポウゲ属、キイチゴ属、ナス科、カヤツリグサ科
c-66-19	3-4	0B層下層	6.00	2,096	アワ、ヒエ	タラノキ属、ニワトコ属	タデ属、キイチゴ属、ナス科、カヤツリグサ科、
c-66-19	5-6	IB-1層	7.00	948	シソ属、アサ	クマシダ属、ホオノキ属、サルナシ属、ハラ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	7	IB-2層	3.00	306	アサ	クマシダ属、ホオノキ属、タラノキ属	タデ属、キイチゴ属、セリ科、ナス科、カヤツリグサ科
c-66-19	8-9-10-11	IB-3層	15.50	1,652		クマシダ属、サルナシ属、ミズキ属	タデ属、カヤツリグサ科
c-66-19	12-13	IB-4層	6.00	436		サルナシ属、ブドウ属、タラノキ属	タデ属
c-66-19	14-15	IB-5層	8.50	502		タラノキ属、ミツバウツギ属	タデ属、ヒユ属、メヒシバ属、カヤツリグサ科
c-66-19	16-17-18-19-20	IB-6層	18.50	496		クマシダ属、サルナシ属	アブラナ科?、カヤツリグサ科
c-66-19	21	IB-7層	3.00	2		クマシダ属	アブラナ科?、カヤツリグサ科
c-66-19	22	Ta-c	3.00	2,826			
<b>D-Cラインセクション</b>							
d-67-91	1	0B層上層上部	3.00	448	アワ、ヒエ、アサ	ハラ属、タラノキ属	タデ属、アカザ属、カタバミ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	2	0B層上層下部	4.50	434		キハダ属、タラノキ属	タデ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	3	0B層下層	3.00	342	ヒエ		タデ属、セリ科、カヤツリグサ科
d-67-91	4	IB-1層上層	3.50	168	ヒエ	クルミ属	タデ属、アカザ属、キイチゴ属、カヤツリグサ科
d-67-91	5	IB-1層下層上部	3.00	270	ヒエ、キビ	タラノキ属	タデ属、セリ科、カヤツリグサ科、
d-67-91	6	IB-1層下層下部	3.50	246	シソ属	タラノキ属	タデ属、セリ科、カヤツリグサ科、
d-67-91	7	IB-3層上部	3.00	250		ホオノキ属、ミツバウツギ属、ブドウ属	タデ属、カヤツリグサ科
d-67-91	8	IB-3層下部	3.00	110		ブドウ属	
d-67-91	9	IB-6層上部	3.00	284		タラノキ属	カヤツリグサ科
d-67-91	10	IB-6層下部	3.00	32		サルナシ属	カヤツリグサ科
d-67-91	11	IB-7層上層	3.00	18			カヤツリグサ科
d-67-91	12	IB-7層下層	2.00	1,454			
d-67-91	13	Ta-c	3.00	170		クマシダ属	タデ属、カヤツリグサ科





Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-6 全遺構のオニグルミ

オニグルミ		炭化・動物食痕なし					未炭化・動物食痕あり					未炭化・動物食痕なし					点数	重量							
		完形	縫合面割以上	偏割れ	不明	点数計	完形	縫合面割以上	偏割れ	不明	点数計	完形	縫合面割以上	偏割れ	不明	点数計			合計	合計(g)					
遺構名	層位	1/2以上	1/2未満	1/2以上	1/2未満	1/4未満	計	1/2以上	1/2未満	1/2以上	1/2未満	1/4未満	計	1/2以上	1/2未満	1/2以上	1/2未満	1/4未満	計	合計	合計(g)				
灰集中1	表土層 I																								
灰集中2	表土層 I																								
灰集中3	表土層 II																								
灰集中4	表土層 II																								
灰集中5	表土層 II																								
灰集中6	表土層 II																								
灰集中7	表土層 II																								
灰集中8	表土層 II																								
灰集中9	表土層 II																								
灰集中11	表土層 II		2	4		1	2	9								1	1	3	5	10	19	8.427			
灰集中10	第1灰層	147	47	22	51	397	664							92	144	94	116	801	1247	1910	605.734				
灰集中10	第2灰層		3	17		17	78	115						6	77		49	410	542	664	83.710				
灰集中12	0B層上面																								
灰集中13	0B層上面			2			22	24													24	2.851			
灰集中15	0B層						15	15													32	32	47	3.332	
灰集中16	0B層		2	31		13	829	875							56		26	404	486	1361	116.311				
灰集中17	0B層			1			51	52													33	33	85	4.945	
灰集中18	0B層																								
灰集中19	0B層																								
灰集中20	0B層																								
灰集中14	0B層下層						4	4						1					6	7	11	1.531			
灰集中22	I B - 1層						16	16											14	14	30	19.431			
灰集中21	I B - 2層																								
砂集中1	0B層																								
砂集中2	0B層																								
砂集中3	I B - 1層																								
炭化物集中1	表土層 I																								
炭化物集中4	0B層上面																								
炭化物集中8	0B層上面																								
炭化物集中9	0B層上面																								
炭化物集中10	0B層上面																								
炭化物集中11	0B層上面															1				1	2	2	1.430		
炭化物集中12	0B層上面																								
炭化物集中13	0B層上面																								
炭化物集中5	0B層																								
炭化物集中6	0B層																								
炭化物集中14	0B層																								
炭化物集中15	0B層																								
炭化物集中16	0B層																								
炭化物集中17	0B層			1			8	9													1	1	11	0.913	
炭化物集中20	0B層																								
炭化物集中21	0B層																								
炭化物集中29	0B層																								
炭化物集中30	0B層																								
炭化物集中2	0B層下層			1				1																1	0.014
炭化物集中3	I B - 1層																								
炭化物集中18	I B - 1層																								
炭化物集中22	I B - 1層			7			130	137						1	1	8		4	115	129	266	19.431			
炭化物集中23	I B - 1層																								
炭化物集中25	I B - 1層																								
炭化物集中26	I B - 1層																								
炭化物集中27	I B - 1層																								
炭化物集中28	I B - 1層																								
炭化物集中31	I B - 1層																								
炭化物集中24	I B - 3層																								
クルミ集中1	0B層		2	2	2		2	8							2	41		8	118	159	167	63.350			
クルミ集中2	0B層		2	1	4	4	6	17							3	28	12	12	101	156	173	135.771			
クルミ集中3	0B層		1	3		1	3	8							1	4	48	12	4	59	128	136	73.891		
クルミ集中4	0B層																6	2		9	17	17	5.675		
クルミ集中5	0B層		2			1		3							5	47	8	13	48	121	124	73.193			
クルミ集中6	I B - 1層				1			1	3			4		6	32	2	19	15	166	140	145	73.503			

表Ⅷ-2-7 全遺構のクリ

2 動植物遺存体の分析

遺構名	層位	炭化								未炭化果皮のみ				点数合計	重量合計 (g)	
		果皮のみ				子葉のみ										
		完形	1/2以上	1/2未満	点数計	重量計	完形	1/2以上	1/2未満	点数計	重量計	完形	1/2以上	1/2未満	点数計	重量計
灰集中1	表土層 I															
灰集中2	表土層 I															
灰集中3	表土層 II															
灰集中4	表土層 II															
灰集中5	表土層 II															
灰集中6	表土層 II															
灰集中7	表土層 II															
灰集中8	表土層 II															
灰集中9	表土層 II															
灰集中11	表土層 II															
灰集中10	第1灰層	1	23	24	0.743		10	10	0.406		1	95	96	6.243	130	7.387
灰集中10	第2灰層		3	3	0.029							2	2	0.021	5	0.050
灰集中12	0B層上面		7	7	0.026										7	0.026
灰集中13	0B層上面															
灰集中15	0B層															
灰集中16	0B層		1	1	0.005										1	0.005
灰集中17	0B層											2	2	0.039	2	0.039
灰集中18	0B層															
灰集中19	0B層															
灰集中20	0B層															
灰集中14	0B層下層															
灰集中22	I B - 1層															
灰集中21	I B - 2層															
砂集中1	0B層															
砂集中2	0B層															
砂集中3	I B - 1層															
炭化物集中1	表土層 I															
炭化物集中4	0B層上面															
炭化物集中8	0B層上面		3	3	0.032										3	0.032
炭化物集中9	0B層上面											11	11	0.341	11	0.341
炭化物集中10	0B層上面											4	4	0.024	4	0.024
炭化物集中11	0B層上面											1	1	0.002	1	0.002
炭化物集中12	0B層上面															
炭化物集中13	0B層上面															
炭化物集中5	0B層															
炭化物集中6	0B層															
炭化物集中14	0B層															
炭化物集中15	0B層															
炭化物集中16	0B層															
炭化物集中17	0B層															
炭化物集中20	0B層															
炭化物集中21	0B層											4	4	0.106	4	0.106
炭化物集中29	0B層															
炭化物集中30	0B層															
炭化物集中2	0B層下層															
炭化物集中3	I B - 1層															
炭化物集中18	I B - 1層															
炭化物集中22	I B - 1層											7	7	0.128	7	0.128
炭化物集中23	I B - 1層															
炭化物集中25	I B - 1層															
炭化物集中26	I B - 1層		5	5	0.102										5	0.102
炭化物集中27	I B - 1層															
炭化物集中28	I B - 1層															
炭化物集中31	I B - 1層															
炭化物集中24	I B - 3層															
クリ集中	0B層上面											83	83	3.632	83	3.632

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-8 全造構のコナラ垂属

コナラ垂属				ミズナラ				カンフ							
選群名	順位	果実のみ		子葉のみ		点数	重量	選群名	順位	果実のみ		子葉のみ		点数	重量
		完形	1/2以上未滿	完形	1/2以上未滿					完形	1/2以上未滿	完形	1/2以上未滿		
採集中1	表上層Ⅰ	1		1	1	2	0.010	採集中1	表上層Ⅰ						
採集中2	表上層Ⅰ	15	9	4	27	3	0.914	採集中2	表上層Ⅰ						
採集中3	表上層Ⅱ	2	3		5		0.130	採集中3	表上層Ⅱ						
採集中4	表上層Ⅱ							採集中4	表上層Ⅱ						
採集中5	表上層Ⅱ							採集中5	表上層Ⅱ						
採集中6	表上層Ⅱ							採集中6	表上層Ⅱ						
採集中7	表上層Ⅱ							採集中7	表上層Ⅱ						
採集中8	表上層Ⅱ							採集中8	表上層Ⅱ						
採集中9	表上層Ⅱ							採集中9	表上層Ⅱ						
採集中10	表上層Ⅱ							採集中10	表上層Ⅱ						
採集中11	第1採層	1		1	2	3	0.001	採集中11	第1採層						
採集中12	第2採層	15	9	4	27	3	0.914	採集中12	第2採層						
採集中13	08層上面	2	3		5		0.130	採集中13	08層上面						
採集中14	08層上面							採集中14	08層上面						
採集中15	08層	1			1	1	0.001	採集中15	08層						
採集中16	08層							採集中16	08層						
採集中17	08層	1		2	2	15	0.644	採集中17	08層						
採集中18	08層						0.090	採集中18	08層						
採集中19	08層							採集中19	08層						
採集中20	08層	1		1	1	1	0.016	採集中20	08層						
採集中21	08層下層	8	4	1	13	24	0.293	採集中21	08層下層						
採集中22	1B-1層	1		1	2		0.010	採集中22	1B-1層						
採集中23	1B-2層							採集中23	1B-2層						
採集中24	08層							採集中24	08層						
砂集中1	08層							砂集中1	08層						
砂集中2	08層							砂集中2	08層						
砂集中3	1B-1層							砂集中3	1B-1層						
炭化物質中1	表上層Ⅰ							炭化物質中1	表上層Ⅰ						
炭化物質中4	08層上面							炭化物質中4	08層上面						
炭化物質中8	08層上面							炭化物質中8	08層上面						
炭化物質中9	08層上面						0.001	炭化物質中9	08層上面						
炭化物質中10	08層上面					1		炭化物質中10	08層上面						
炭化物質中11	08層上面							炭化物質中11	08層上面						
炭化物質中12	08層上面							炭化物質中12	08層上面						
炭化物質中13	08層上面							炭化物質中13	08層上面						
炭化物質中5	08層							炭化物質中5	08層						
炭化物質中6	08層							炭化物質中6	08層						
炭化物質中14	08層							炭化物質中14	08層						
炭化物質中15	08層							炭化物質中15	08層						
炭化物質中16	08層							炭化物質中16	08層						
炭化物質中17	08層							炭化物質中17	08層						
炭化物質中20	08層					2	0.001	炭化物質中20	08層						
炭化物質中21	08層							炭化物質中21	08層						
炭化物質中29	08層							炭化物質中29	08層						
炭化物質中30	08層							炭化物質中30	08層						
炭化物質中2	08層下層							炭化物質中2	08層下層						
炭化物質中3	1B-1層							炭化物質中3	1B-1層						
炭化物質中18	1B-1層	2						炭化物質中18	1B-1層						
炭化物質中22	1B-1層							炭化物質中22	1B-1層						
炭化物質中23	1B-1層					4	0.050	炭化物質中23	1B-1層						
炭化物質中25	1B-1層							炭化物質中25	1B-1層						
炭化物質中26	1B-1層							炭化物質中26	1B-1層						
炭化物質中27	1B-1層							炭化物質中27	1B-1層						
炭化物質中28	1B-1層							炭化物質中28	1B-1層						
炭化物質中31	1B-1層							炭化物質中31	1B-1層						
炭化物質中24	1B-3層							炭化物質中24	1B-3層						





表Ⅷ-2-11 灰集中10の栽培種子(1)

層名	ブロック名	オオムギ?				イネ				キビ				ヒエ			
		炭化		未炭化		炭化		未炭化		炭化		未炭化		炭化		未炭化	
		完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果	完形 結果	破片 結果
第1灰層	1												1	2		1	
第1灰層	2																
第1灰層	3				4		7										
第1灰層	4																
第1灰層	5																
第1灰層	6																
第1灰層	7				4		1										
第1灰層	8				2												
第1灰層	9																
第1灰層	10																
第1灰層	11				8		1	1					4	5			
第1灰層	12				1								1		1		
第1灰層	13				2								3	1		2	
第1灰層	14																
第1灰層	15																
第1灰層	16												4		1		1
第1灰層	17							1						1			
第1灰層	18				3												
第1灰層	19				4												
第1灰層	20				5		1										
第1灰層	21				6		2										
第1灰層	22				3								3	4			
第1灰層	23									1							
第1灰層	24				9	1	2										
第1灰層	25						1										
第1灰層	26							1									
第1灰層	27				1												
第1灰層	28				3												
第1灰層	29																
第1灰層	30																
第1灰層	31				1		2										
第1灰層	32				9		1										
第1灰層	33				3												
第1灰層	34				3												
第1灰層	35				4		1										
第1灰層	36				3												
第1灰層	37							3									
第1灰層	38				12		2										
第1灰層	39																
第1灰層	40				7		1										
第1灰層	41				3		1										
第1灰層	42				1												
第1灰層	43																
第1灰層	44																
第1灰層	45																
第1灰層	46												12	14		1	2
第1灰層	47												2	1			
第1灰層	48				1									1		2	
第1灰層	49													1			
第1灰層	53																
第1灰層	54												2				
第1灰層	55												2				4
第1灰層	位置不明				1		3						1	6		1	6
第1灰層合計		1			1	100	1	1	31				1				
第2灰層	30																
第2灰層	31				4												
第2灰層	32				1												
第2灰層	33																
第2灰層	34							1					5	3		1	
第2灰層	35												2				
第2灰層	38				1								15	16		4	8
第2灰層	39												4	1		1	
第2灰層	41																
第2灰層	42																
第2灰層	45																
第2灰層	47												1				
第2灰層	49																
第2灰層	52				1												1
第2灰層	位置不明				2		1										
第2灰層合計					9		2						46	27		18	11
総計		1			109	1	1	33					1				
													104	92	1	24	24
																2	8

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-12 灰集中10の栽培種子(2)

灰集中10 栽培		アヲ										アサ				シソ				アズキ			
		炭化					未炭化					炭化		未炭化		炭化		未炭化		炭化		未炭化	
		完 形	有 ふ 果	破 片	有 ふ 果	破 片	完 形	有 ふ 果	破 片	有 ふ 果	破 片	完 形	破 片	粒 長 2.5mm 以 上	粒 長 2.5mm 未 満 明	粒 長 2.5mm 以 上	粒 長 2.5mm 未 満 明	完 形	破 片	完 形	破 片	完 形	破 片
第1灰種	1											3											
第1灰種	2											3											
第1灰種	3											3											
第1灰種	4										1	3											
第1灰種	5										2	1											
第1灰種	6											4											
第1灰種	7											3											
第1灰種	8											23											
第1灰種	9											5											
第1灰種	10										6	4									1		
第1灰種	11										1												
第1灰種	12											3											
第1灰種	13											12											
第1灰種	14		16				2					19				1							
第1灰種	15											29											
第1灰種	16										1	14											
第1灰種	17											5										2	
第1灰種	18											6										1	
第1灰種	19										8	39											
第1灰種	20											39											
第1灰種	21											19											
第1灰種	22											1											
第1灰種	23										2	10											
第1灰種	24											4										1	
第1灰種	25											3											
第1灰種	26											4											
第1灰種	27		5									4											
第1灰種	28											27											
第1灰種	29											24											
第1灰種	30		1	2								4											
第1灰種	31										2	1											
第1灰種	32		3				4					9											
第1灰種	33										1												
第1灰種	34											24											
第1灰種	35											3											
第1灰種	36											2											
第1灰種	37											20											
第1灰種	38											8											
第1灰種	39											14											
第1灰種	40											18										2	
第1灰種	41											2											
第1灰種	42											8										1	
第1灰種	43											14											
第1灰種	44											8											
第1灰種	45		16	1			2					20											
第1灰種	46											18											
第1灰種	47											14											
第1灰種	48											20											
第1灰種	49											15											
第1灰種	50											1											
第1灰種	51											13											
第1灰種	52											3											
第1灰種	53		16	1			2					3											
第1灰種	54											1											
第1灰種	55											1											
第1灰種	位置不明											1											
第1灰種	栽培不明											49											
第1灰種	合計		42	4			8					36	166									498	5828
第2灰種	30																						2
第2灰種	31											1											3
第2灰種	32		3				4					1											5
第2灰種	33												3										31
第2灰種	34		3	4			1	1				6											70
第2灰種	35		1									1											4
第2灰種	38																						3
第2灰種	39											2											13
第2灰種	41																						6
第2灰種	42		1																				1
第2灰種	45																						5
第2灰種	47																						9
第2灰種	49		4	2								3											3
第2灰種	52		7	3								1											20
第2灰種	位置不明		1	3			5					1											20
第2灰種	合計		20	12			10	1				5	10									13	192
総計			62	16			18	1				43	176									511	6020







表Ⅷ-2-15 灰集中10のコナラ亜属(2)

灰集中10 ミズナラ				炭化						灰集中10 コナラ?								
層名	ブロック名	果皮のみ		点数計	子葉のみ		点数計	合計	合計(g)	層名	ブロック名	炭化 子葉のみ		点数計	合計	合計(g)		
		完形 以上	1/2 未満		完形 以上	1/2 未満						完形 以上	1/2 未満					
第1灰層	1									第1灰層	1							
第1灰層	2									第1灰層	2							
第1灰層	3									第1灰層	3							
第1灰層	4									第1灰層	4							
第1灰層	5									第1灰層	5							
第1灰層	6									第1灰層	6							
第1灰層	7									第1灰層	7							
第1灰層	8									第1灰層	8							
第1灰層	9									第1灰層	9							
第1灰層	10									第1灰層	10							
第1灰層	11				1	4	3	8	8	1.970	第1灰層	11						
第1灰層	12										第1灰層	12						
第1灰層	13										第1灰層	13						
第1灰層	14										第1灰層	14	1	1	1	0.128		
第1灰層	15										第1灰層	15						
第1灰層	16										第1灰層	16						
第1灰層	17										第1灰層	17						
第1灰層	18				1	2	3	3	0.329		第1灰層	18						
第1灰層	19										第1灰層	19						
第1灰層	20										第1灰層	20						
第1灰層	21										第1灰層	21						
第1灰層	22										第1灰層	22						
第1灰層	23					1	1	1	0.093		第1灰層	23						
第1灰層	24										第1灰層	24						
第1灰層	25										第1灰層	25						
第1灰層	26										第1灰層	26						
第1灰層	27				1		1	1	0.260		第1灰層	27						
第1灰層	28										第1灰層	28						
第1灰層	29										第1灰層	29						
第1灰層	30										第1灰層	30						
第1灰層	31										第1灰層	31						
第1灰層	32										第1灰層	32						
第1灰層	33										第1灰層	33	1	1	1	0.122		
第1灰層	34										第1灰層	34						
第1灰層	35										第1灰層	35						
第1灰層	36										第1灰層	36						
第1灰層	37										第1灰層	37						
第1灰層	38										第1灰層	38						
第1灰層	39										第1灰層	39						
第1灰層	40	1	1			1	1	2	0.105		第1灰層	40						
第1灰層	41										第1灰層	41						
第1灰層	42										第1灰層	42						
第1灰層	43										第1灰層	43						
第1灰層	44										第1灰層	44						
第1灰層	45				1		1	1	0.129		第1灰層	45						
第1灰層	46										第1灰層	46						
第1灰層	47				1	1	2	2	0.263		第1灰層	47						
第1灰層	48										第1灰層	48						
第1灰層	49										第1灰層	49						
第1灰層	53				1		1	1	0.121		第1灰層	53						
第1灰層	54										第1灰層	54						
第1灰層	55										第1灰層	55						
第1灰層	位置不明										第1灰層	位置不明						
第1灰層合計		0	0	1	1	2	8	8	18	19	3.270	第1灰層合計	0	0	2	2	2	0.250
第2灰層	30										第2灰層	30						
第2灰層	31										第2灰層	31						
第2灰層	32										第2灰層	32						
第2灰層	33										第2灰層	33						
第2灰層	34										第2灰層	34						
第2灰層	38										第2灰層	38						
第2灰層	39										第2灰層	39						
第2灰層	41										第2灰層	41						
第2灰層	42										第2灰層	42						
第2灰層	45										第2灰層	45						
第2灰層	47										第2灰層	47						
第2灰層	49										第2灰層	49						
第2灰層	52										第2灰層	52						
第2灰層	位置不明										第2灰層	位置不明						
第2灰層合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	第2灰層合計	0	0	0	0	0	0.000
総計		0	0	1	1	2	8	8	18	19	3.270	総計	0	0	2	2	2	0.250

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-16 灰集中10の木本種子

層名	ブロック名	科名		もくれん				まつぶさ		またたび		ばら																	
		科名		もくれん				まつぶさ		またたび		ばら																	
		科名		もくれん				まつぶさ		またたび		ばら																	
		科名		もくれん				まつぶさ		またたび		ばら																	
種名	アサダ	ヤマグワ	ホオノキ		キタコブシ		チョウセンゴミシ		サルナシ		ハマナス		果皮		種皮		スモモ		シウリザクラ		エノノウズミザクラ								
種名	アサダ	ヤマグワ	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片							
種名	アサダ	ヤマグワ	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片							
種名	アサダ	ヤマグワ	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片							
第1灰層	1												1	1								1							
第1灰層	2																												
第1灰層	3													5	3							1							
第1灰層	4													1	6														
第1灰層	5													4	1														
第1灰層	6																												
第1灰層	7														1	1													
第1灰層	8																												
第1灰層	9							1						4		1													
第1灰層	10	1					1	4						6	23				4		1								
第1灰層	11													27	21														
第1灰層	12													2	6														
第1灰層	13													3	4														
第1灰層	14									1	1				12														
第1灰層	15													3	6														
第1灰層	16						1			1				5	6														
第1灰層	17													15	11							1							
第1灰層	18						1							26	21														
第1灰層	19						2							20	27														
第1灰層	20						2	2					4		8														
第1灰層	21									1	2			1	21						1								
第1灰層	22								1						1														
第1灰層	23	1					2	1				3		29	14					1		1							
第1灰層	24						2								4														
第1灰層	25						1	1					3		17	14													
第1灰層	26													4	4														
第1灰層	27						2								19														
第1灰層	28						2	4						2	61							1							
第1灰層	29													2	13														
第1灰層	30										2			4	3														
第1灰層	31													40	20														
第1灰層	32						1						2	3	8														
第1灰層	33												1	12	19														
第1灰層	34						2						3	1	2				9	20									
第1灰層	35							1						7	74														
第1灰層	36						2							3	4														
第1灰層	37	1					2	1						34	3					2		1							
第1灰層	38									2	1				2														
第1灰層	39						1	1						43	102					1									
第1灰層	40					1	2						2	11	47					1									
第1灰層	41							10						2	4	38				2									
第1灰層	42							7							1														
第1灰層	43						1						10	3															
第1灰層	44						3	1							1					1									
第1灰層	45													5	4					4									
第1灰層	46						1	8		1					4														
第1灰層	47							5			2			39	1					3									
第1灰層	48					2		6	1	1					5					5									
第1灰層	49																												
第1灰層	53						1	4			2			19	116		1			6	90	3							
第1灰層	54					2		2	5					3	4		1			2	100								
第1灰層	55													4	4						25								
第1灰層	位置不明					1		1	2	7				5						33	257								
第1灰層合計		3	0	5	0	1	17	23	53	2	2	12	3	20	5	14	4	460	956	1	2	0	0	65	1637	1	2	1	7
第2灰層	30								2														4						
第2灰層	31																						19						
第2灰層	32								3						5	2							5						
第2灰層	33								5			1											1					1	
第2灰層	34								3						1	3							1						
第2灰層	35																						1						
第2灰層	38					1																	2						
第2灰層	39								1																				
第2灰層	41								2														1						
第2灰層	42						1	3	4														4						
第2灰層	45							1															1						
第2灰層	47							1																					
第2灰層	48																						1						
第2灰層	49							2	5																				
第2灰層	52													1	2														
第2灰層	位置不明					2		10		1													9						
第2灰層合計		0	0	3	0	0	1	8	25	0	0	0	1	5	2	10	2	20	14	1	0	1	0	11	351	0	0	1	0
総計		3	0	8	0	1	18	31	78	2	2	12	4	25	7	24	6	480	970	2	2	1	0	76	1988	1	2	2	7



Ⅶ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-17 灰集中10の草本種子等

灰集中10 草本	科名 属名 種名	たて				なでしこ				あかさ		きんぼうげ		ばら		まめ				ふうろそう							
		ギシギシ		タデ		アマガサ		アカマツソウ		キンミズヒキ		キイチゴ		ハギ		ソラマメ		ヤブマメ		ダイズ		フウロソウ					
		完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数				
		アキカラムソウ		キンミズヒキ		キイチゴ																					
第1灰層	1																										
第1灰層	2																										
第1灰層	3	1		15											2												
第1灰層	4																										
第1灰層	5																										
第1灰層	6																										
第1灰層	7																										
第1灰層	8																										
第1灰層	9																										
第1灰層	10			4					1					1	2			2	1								
第1灰層	11	4		1										3	2	1		5	1		5						
第1灰層	12			216	104			1							1			2									
第1灰層	13																	2									
第1灰層	14			366	149			39					5	1	2												
第1灰層	15													1	1												
第1灰層	16			10									1	3	2			3	2								
第1灰層	17																	6									
第1灰層	18																	8									
第1灰層	19	1													1			1									
第1灰層	20	4		2	1			14							3			1				1					
第1灰層	21			4				38							3												
第1灰層	22			2											3												
第1灰層	23	2		2														1									
第1灰層	24			1																							
第1灰層	25			15																							
第1灰層	26																										
第1灰層	27	1		212	15			13						2	1			2			1						
第1灰層	28	2		1				8	1						3												
第1灰層	29	1																2									
第1灰層	30	3		55	12			10							1			2					2				
第1灰層	31																	6									
第1灰層	32			16														3									
第1灰層	33	3						1	1									1									
第1灰層	34	2		3	7			8							2			1									
第1灰層	35			4																							
第1灰層	36			13	1			4							4			2	1								
第1灰層	37	3		1									1					1									
第1灰層	38			1														1									
第1灰層	39	2		1	1										1			3									
第1灰層	40	4		11											6			2									
第1灰層	41			88	22			2	1						5			5									
第1灰層	42																										
第1灰層	43			7				21																			
第1灰層	44																										
第1灰層	45			7				16							1			14					1				
第1灰層	46	22	2	65	28			37	15						4			4									
第1灰層	47			220	10			4							6			6									
第1灰層	48	7		20	8			24	4						5			12									
第1灰層	49																										
第1灰層	53	9		49	1										3			11									
第1灰層	54			85	9			38							22			5									
第1灰層	55																										
第1灰層	位置不明	3		393	73			3							25			2									
第1灰層合計		74	2	2038	441	0	0	281	23	1	0	11	1	119	47	49	9	1	0	55	4	7	2	5	0	4	0
第2灰層	30			1																							
第2灰層	31			1																							
第2灰層	32	1		268	85			7	3									4									
第2灰層	33	2		3																							
第2灰層	34	10		264	20	23		447	10						9			6									
第2灰層	35			127		3		101	22						30			3									
第2灰層	38			10	1			6							2												
第2灰層	39																										
第2灰層	41			1														1									
第2灰層	42	5		48				7							2			2									
第2灰層	45			53				40							5			5									
第2灰層	47	1													6												
第2灰層	48	1	1	12				5																			
第2灰層	49	36		273	35	3		44	4						6			10									
第2灰層	52			505	82			1							30			18									
第2灰層	位置不明	3		64	76										7			6									
第2灰層合計		59	1	1621	299	29	0	658	39	0	0	0	0	99	52	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
総計		133	3	3659	740	29	0	939	62	1	0	11	1	218	99	51	9	1	0	56	4	7	2	5	0	4	0

2 動植物遺存体の分析

うり		うごぎ		せり				ひるがお		なす				まく		ゆり		いね		かやつりぐさ	
ミヤマニガウリ		タラノキ		ヤブジラミ		ドクゼリ		ヒルガオ		ナス											
ミヤマニガウリ		ウド		ヤブジラミ		ドクゼリ		ヒルガオ		イヌホウズキ											
完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数	完形 点数	破片 点数
1		2														1					4
							1			1			1			3		1		20	
				1																21	
			1						1											1	
																3				2	
2	1																				
	2	4																			47
																					1
	1	18								1											26
	4	4	1								1										
																1					5
																					6
13	1	2	1						1												33
	8																				1
																					3
																					2
									1												2
																					38
																					5
																					35
																					14
	2	1																			57
			1																		3
			1																		156
	1										10										
																					450
16	20	122	4	1	1	1	0	4	0	16	0	4	0	3	3	18	1	1	1	932	0
			2	1									1								1
			30							10											141
										1											39
																					4
																					14
																					93
																					1
	4	5	27	2						2			5								98
			7																		99
			4																		93
5	5	71	5	0	0	0	0	0	0	13	0	6	0	0	0	0	1	1	1	583	12
21	25	193	9	1	1	1	0	4	0	29	0	10	0	3	3	18	2	2	2	1515	12

Ⅳ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-18 種子計測値(1)

種子計測値								粒長	粒幅	粒厚	大きさ	粒形	断面形
番号	遺構名	ブロック名	層位名	種名	穎の有無	状態	形状	(mm)	(mm)	(mm)	(粒長×粒幅)	(粒長/粒幅)	(粒幅/粒厚)
1	灰集中10	3	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.3	2.9	1.6	12.47	1.48	2.69
2	灰集中10	3	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	5.6	3.1	2.5	17.36	1.81	2.24
3	灰集中10	3	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.4	2.8	2.0	12.32	1.57	2.20
4	灰集中10	4	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.9	2.5	2.1	12.25	1.96	2.33
5	灰集中10	7	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.9	2.2	1.8	8.58	1.77	2.17
6	灰集中10	7	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.0	2.2	1.9	8.80	1.82	2.11
7	灰集中10	7	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.6	2.5	2.0	11.50	1.84	2.30
8	灰集中10	7	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.1	2.9	1.7	11.89	1.41	2.41
9	灰集中10	7	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	3.9	2.2	1.8	8.58	1.77	2.17
10	灰集中10	8	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.3	2.9	2.1	12.47	1.48	2.05
11	灰集中10	9	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.7	2.9	2.4	13.63	1.62	1.96
12	灰集中10	11	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.5	2.2	2.1	9.90	2.05	2.14
13	灰集中10	11	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.6	2.6	2.2	11.96	1.77	2.09
14	灰集中10	11	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.6	2.4	1.8	11.04	4.32	2.56
15	灰集中10	13	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	5.0	2.8	2.6	14.00	1.79	1.92
16	灰集中10	13	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.5	2.7	2.4	12.15	1.67	1.88
17	灰集中10	17	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.4	2.7	2.2	11.88	1.63	2.00
18	灰集中10	17	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.5	2.5	2.4	11.25	1.80	1.88
19	灰集中10	18	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.1	2.3	1.6	9.43	1.78	2.56
20	灰集中10	18	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.3	2.2	1.6	7.26	1.50	2.06
21	灰集中10	18	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.5	2.1	1.3	7.35	1.67	2.69
22	灰集中10	18	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.0	2.4	2.2	12.00	2.08	2.27
23	灰集中10	19	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.1	2.6	1.7	10.66	1.58	2.41
24	灰集中10	19	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.0	2.3	1.9	11.50	2.17	2.63
25	灰集中10	19	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.1	2.5	1.9	10.25	1.64	2.16
26	灰集中10	19	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	5.2	3.1	3.5	16.12	1.68	1.49
27	灰集中10	19	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.8	2.8	2.1	13.44	1.71	2.29
28	灰集中10	20	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.5	2.2	1.9	9.90	2.05	2.37
29	灰集中10	20	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	3.0	2.8	14.40	1.60	1.71
30	灰集中10	20	第1灰層	イネ	あり	炭化		4.8	3.0	2.1	14.40	1.60	2.29
31	灰集中10	20	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	2.9	2.6	13.92	1.66	1.85
32	灰集中10	20	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.1	3.1	2.6	15.81	1.65	1.96
33	灰集中10	21	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.8	2.7	2.4	12.96	1.78	2.00
34	灰集中10	21	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	3.3	2.8	15.84	1.45	1.71
35	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.3	2.5	2.1	10.75	1.72	2.05
36	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.5	2.5	2.1	11.25	1.80	2.14
37	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.5	2.5	1.8	11.25	1.80	2.50
38	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.1	2.7	2.0	13.77	1.89	2.55
39	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	5.1	3.2	2.4	16.32	1.59	2.13
40	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.3	2.6	2.2	11.18	1.65	1.95
41	灰集中10	23	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	5.0	2.4	2.6	12.00	2.08	1.92
42	灰集中10	26	第1灰層	イネ	あり	炭化		5.9	3.1	2.6	18.29	1.90	2.27
43	灰集中10	27	第1灰層	イネ	あり	炭化		4.6	2.4	1.8	11.04	1.92	2.56
44	灰集中10	27	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	3.7	2.5	1.9	9.25	1.48	1.95
45	灰集中10	27	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	5.0	3.3	2.6	16.50	1.52	1.92
46	灰集中10	30	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	5.4	3.0	2.2	16.20	1.80	2.45
47	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	3.0	1.9	14.40	1.60	2.53
48	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.4	2.4	1.8	8.16	1.42	1.89
49	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.1	2.7	1.6	11.07	1.52	2.56
50	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.1	3.1	2.2	15.81	1.65	2.32
51	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.3	3.2	2.4	16.96	1.66	2.21
52	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.0	2.6	2.4	10.40	1.54	1.67
53	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.7	2.4	1.8	8.88	1.54	2.06
54	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.5	3.0	2.5	13.50	1.50	1.80
55	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.2	2.4	2.3	10.08	1.75	1.83
56	灰集中10	32	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	2.3	2.5	11.04	2.09	1.92
57	灰集中10	32	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.3	2.4	2.3	10.32	1.79	1.87
58	灰集中10	32	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.7	2.8	2.3	13.16	1.68	2.04
59	灰集中10	33	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.3	2.6	2.7	11.18	1.65	1.59
60	灰集中10	33	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.1	2.7	2.2	11.07	1.52	1.86
61	灰集中10	33	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.0	2.9	2.2	14.50	1.72	2.27
62	灰集中10	33	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.2	2.5	2.1	10.50	1.68	2.00
63	灰集中10	34	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	5.2	2.0	1.9	10.40	2.60	2.74
64	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	5.2	2.9	2.5	15.08	1.79	2.08
65	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.1	2.3	2.1	9.43	1.78	1.95
66	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.0	2.4	2.2	9.60	1.67	1.82
67	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.4	2.5	1.9	11.00	1.76	2.32
68	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.9	2.4	2.0	9.36	1.63	1.93
69	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	3.9	2.2	2.2	8.58	1.77	1.77
70	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	3.6	2.5	2.4	9.00	1.44	1.50
71	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	3.0	2.3	14.40	1.60	2.09
72	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.6	3.0	2.3	13.80	1.53	2.00
73	灰集中10	37	第1灰層	イネ	あり	炭化		4.5	2.9	2.1	13.05	1.55	2.14
74	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.6	2.6	2.2	11.96	1.77	2.09
75	灰集中10	37	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.5	2.8	2.2	12.60	1.61	2.05
76	灰集中10	37	第1灰層	イネ	あり	炭化		6.1	3.3	2.0	20.13	1.85	3.05
77	灰集中10	39	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.0	2.4	2.0	9.60	1.67	2.00
78	灰集中10	39	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.5	2.5	2.3	13.75	2.20	2.39
79	灰集中10	39	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.0	2.5	2.2	12.50	2.00	2.27
80	灰集中10	39	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.6	4.0	2.9	18.40	1.15	1.59
81	灰集中10	40	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	5.5	2.8	2.4	15.40	1.96	2.29
82	灰集中10	40	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.6	2.7	2.2	12.42	1.70	2.09
83	灰集中10	40	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.5	2.5	2.1	11.25	1.80	2.14
84	灰集中10	41	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.8	2.4	1.8	9.12	1.58	2.11
85	灰集中10	42	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.9	2.6	1.6	12.74	1.88	3.06
86	灰集中10	47	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.3	2.0	1.4	6.60	1.65	2.36
87	灰集中10	53	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.5	2.7	2.2	12.15	1.67	2.05
88	灰集中10	53	第1灰層	イネ	あり	炭化		4.2	2.3	2.1	9.66	1.83	2.00
89	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.9	3.2	2.5	15.68	1.53	1.96
90	灰集中10	31	第1灰層	イネ	なし	炭化		5.1	2.7	2.1	13.77	1.89	2.43
91	灰集中10	32	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.0	2.8	2.5	11.20	1.43	1.60
92	灰集中10	32	第1灰層	イネ	なし	炭化		3.6	1.8	2.5	6.48	2.00	1.44
93	灰集中10	34	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.2	2.3	1.9	9.66	1.83	2.21
94	灰集中10	34	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.0	2.0	1.8	8.00	2.00	2.22
95	灰集中10	38	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.8	2.9	2.5	13.92	1.66	1.92
96	灰集中10	50	第1灰層	イネ	なし	炭化		4.2	2.5	2.2	10.50	1.68	1.91
97	灰集中10	52	第1灰層	イネ	なし	炭化	変形2	4.6	2.4	1.8	11.04	1.92	2.56
99	灰集中10		第1灰層	イネ	なし	炭化	変形1	4.4	2.0	2.0	8.80	2.20	2.20
100	灰集中10		第1灰層	イネ	あり	炭化		4.1	2.6	2.0	10.66	1.58	2.05



表Ⅷ-2-19 種子計測値(2)

種子計測値				粒長	粒幅	粒厚	大きさ	粒形	断面形				
番号	遺構名	ブロック名	層位名	種名	頭の有無	状態	形状	(mm)	(mm)	(mm)	(粒長×粒幅)	(粒長/粒幅)	(粒幅/粒厚)
101	灰集中14		OB層	イネ	なし	炭化	変形2	5.0	2.8	2.5	14.00	1.79	2.00
102	灰集中14		OB層	イネ	なし	炭化		4.3	2.6	1.8	11.18	1.65	2.39
103	灰集中14		OB層	イネ	なし	炭化		4.4	2.0	1.9	8.80	2.20	2.32
104	灰集中14		OB層	イネ	なし	炭化	変形1	3.1	2.0	1.5	6.20	1.55	2.07
105	灰集中14		OB層	イネ	あり	炭化		4.6	2.8	2.5	12.88	1.64	1.84
106	灰集中14		OB層	イネ	あり	炭化		4.6	3.0	2.9	13.80	1.53	1.59
107	灰集中14		OB層	イネ	なし	炭化	変形1	6.6	2.4	2.0	15.84	2.75	3.30
108	炭化物集中4		OB層	イネ	なし	炭化		4.5	2.6	2.4	11.70	1.73	1.88
109	炭化物集中9		OB層	イネ	なし	炭化	変形2	5.3	2.4	2.0	12.72	2.21	2.65
110	炭化物集中16		OB層	イネ	あり	炭化		6.1	3.3	1.5	20.13	1.85	4.07
111	炭化物集中17		OB層	イネ	なし	炭化		4.4	2.6	2.0	11.44	1.69	2.20
112	炭化物集中17		OB層	イネ	なし	炭化		4.5	2.0	1.8	9.00	2.25	2.50
113	炭化物集中22		OB層	イネ	なし	炭化	変形1	4.2	2.5	2.1	10.50	1.68	2.00
114	炭化物集中22		OB層	イネ	なし	炭化		4.7	2.8	2.1	13.16	1.68	2.24
115	炭化物集中22		OB層	イネ	なし	炭化	変形1	4.9	2.8	2.2	13.72	1.75	2.23
116	炭化物集中22		OB層	イネ	なし	炭化		5.3	2.9	2.4	15.37	1.83	2.21
117	灰集中10	23	第一灰層	キビ	なし	炭化		2.0	1.7		3.40		1.18
118	灰集中20		OB層	キビ	あり	未炭化		2.9	1.8		5.22		1.61
119	砂集中3		I B-1層	キビ	あり	未炭化		3.1	2.0		6.20		1.55
120	砂集中3		I B-1層	キビ	あり	未炭化		3.1	1.8		5.58		1.72
121	炭化物集中4		OB層	キビ	なし	炭化		3.1	1.5	0.9	4.65		1.67
122	炭化物集中22		OB層	キビ	なし	炭化		1.9	1.7	1.4	3.23		1.12
123	灰集中10	3	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.5	0.7	2.10	0.93	2.14
124	灰集中10	3	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.6	1.7	1.1	2.72	0.94	1.55
125	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		2.6	2.0	1.4	5.20	1.30	1.43
126	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.5	1.9	2.5	4.75	1.32	0.76
127	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.9	1.9	1.2	3.61	1.00	1.58
128	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.8	1.7	1.2	3.06	1.06	1.42
129	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.8	1.8	1.2	3.24	1.00	1.50
130	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.9	1.3	3.23	0.89	1.46
131	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.9	1.7	1.3	3.23	1.12	1.31
132	灰集中10	11	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.8	1.9	1.4	3.42	0.95	1.36
133	灰集中14		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.8	1.9		3.42	0.95	
134	灰集中14		OB層	ヒエ	あり	炭化		2.6	1.9	1.5	4.94	1.37	1.27
135	灰集中10	14	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.9	1.4	1.0	2.66	1.36	1.40
136	灰集中10	14	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.3	1.3	0.9	1.69	1.00	1.44
137	灰集中10	14	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	完全	1.5	1.5	0.9	2.25	1.00	1.67
138	灰集中10	16	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.1	1.7	1.3	3.57	1.24	1.31
139	灰集中10	16	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.4	2.0	2.0	4.80	1.20	1.00
140	灰集中10	18	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.9	1.9	1.4	3.61	1.00	1.36
141	灰集中10	20	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.1	1.8	1.2	3.78	1.17	1.50
142	灰集中10	20	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.3	1.5	1.1	1.95	0.87	1.36
143	灰集中10	20	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.9	2.0	1.3	3.80	0.95	1.54
144	灰集中10	20	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.8	1.1	2.70	0.83	1.64
145	灰集中10	21	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.6	2.1	1.7	5.46	1.24	1.24
146	灰集中10	21	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.6	0.9	2.72	1.06	1.78
147	灰集中10	25	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.8	1.5	1.2	2.70	1.20	1.25
148	灰集中10	25	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.2	1.1	2.04	1.42	1.09
149	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.2	2.0	1.2	4.40	1.10	1.67
150	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.9	1.4	0.7	2.66	1.36	2.00
151	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.3	0.9	1.95	1.15	1.44
152	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.2	1.7	1.0	2.04	0.71	1.70
153	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.6	0.9	2.24	0.88	1.78
154	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.3	1.0	1.95	1.15	1.30
155	灰集中10	27	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.6	1.4	1.1	2.24	1.14	1.27
156	灰集中10	29	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.8	1.9	1.2	3.42	0.95	1.58
157	灰集中10	30	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.45
158	灰集中10	30	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.2	0.6	1.68	1.17	2.00
159	灰集中10	30	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.2	0.9	1.68	1.17	1.33
160	灰集中10	30	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.5	0.8	2.25	1.00	1.88
161	灰集中10	30	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.5	1.3	2.55	1.13	1.15
162	灰集中10	30	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		2.2	1.7	1.2	3.74	1.29	1.42
163	灰集中10	32	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.3	1.9	1.3	4.37	1.21	1.46
164	灰集中10	32	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.5	1.5	1.0	2.25	1.00	1.50
165	灰集中10	32	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.6	0.9	0.7	1.44	1.78	1.29
166	灰集中10	33	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.9	1.6	1.2	3.04	1.19	1.33
167	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.9	1.9	1.3	3.61	1.00	1.46
168	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.6	1.0	2.40	0.94	1.60
169	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.5	1.1	2.25	1.00	1.36
170	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.5	1.1	2.25	1.00	1.36
171	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.6	1.3	1.3	2.08	1.23	1.00
172	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.8	1.8	1.0	3.24	1.00	1.80
173	灰集中10	34	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		2.1	1.8	1.3	3.78	1.17	1.38
174	灰集中10	36	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.6	1.5	1.1	2.40	1.07	1.36
175	灰集中10	36	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.8	1.5	0.9	2.70	1.20	1.67
176	灰集中10	36	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.4	0.9	1.96	1.00	1.56
177	灰集中10	36	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.45
178	灰集中10	37	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.4	1.7	1.4	4.08	1.41	1.21
179	灰集中10	38	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.9	2.1	1.4	3.99	0.90	1.50
180	灰集中10	39	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.8	1.4	1.2	2.52	1.29	1.17
181	灰集中10	39	第一灰層	ヒエ	完全	炭化			1.7	1.1	0.00	0.00	1.55
182	灰集中10	40	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.9	1.7	1.4	3.23	1.12	1.21
183	灰集中10	40	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.7	1.5	1.1	2.55	1.13	1.36
184	灰集中10	40	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.9	2.0	1.3	3.80	0.95	1.54
185	灰集中10	40	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.8	1.5	1.0	2.70	1.20	1.50
186	灰集中10	40	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		2.3	2.1	1.5	4.83	1.10	1.40
187	灰集中10	40	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		2.2	2.1	1.4	4.62	1.05	1.50
188	灰集中10	41	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.9	1.5	1.0	2.85	1.27	1.50
189	灰集中10	43	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.5	0.9	2.25	1.00	1.67
190	灰集中10	43	第一灰層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.4	1.2	1.96	1.00	1.17
191	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.7	1.4	1.0	2.38	1.21	1.40
192	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.7	1.3	1.0	2.21	1.31	1.30
193	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		2.3	1.7	1.3	3.91	1.35	1.31
194	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化			1.1	1.0	0.00	0.00	1.10
195	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.5	1.3		1.95	1.15	
196	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.3	1.5	1.0	1.95	0.87	1.50
197	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化			1.3	0.7	0.00	0.00	1.86
198	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化			1.3		1.69	1.00	
199	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.4	1.5	1.0	2.10	0.93	1.50
200	灰集中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.4	1.4	0.8	1.96	1.00	1.75

Ⅳ 自然科学的分析

表Ⅳ-2-20 種子計測値(3)

種子計測値							粒長	粒幅	粒厚	大きさ	粒形	断面形
番号	遺傳名	ブロック名	層位名	種名	穎の有無	状態	(mm)	(mm)	(mm)	(粒長×粒幅)	(粒長/粒幅)	(粒幅/粒厚)
201	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.4	1.1	0.00	0.00	1.27
202	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	あり	炭化		1.7	1.3	0.00	0.00	1.31
203	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.1	0.9	1.43	1.18	1.22
204	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.4	1.3	0.8	1.82	1.08	1.63
205	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.5	1.3	0.8	1.95	1.15	1.63
206	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.3	0.8	1.69	1.00	1.63
207	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.1	0.7	1.43	1.18	1.57
208	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.1	1.0	0.7	1.10	1.10	1.43
209	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.0	0.9	0.6	0.90	1.11	1.50
210	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.3	0.8	1.69	1.00	1.63
211	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	0.9	1.0	0.7	0.90	0.90	1.43
212	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	0.9	0.8	0.6	0.72	1.13	1.33
213	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	0.9	0.9	0.6	0.81	1.00	1.50
214	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.1	0.8	1.43	1.18	1.38
215	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.1	0.9	1.43	1.18	1.22
216	灰葉中10	45	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.1	1.1	0.7	1.21	1.00	1.57
217	灰葉中10	46	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.5	1.2	0.9	1.80	1.25	1.33
218	灰葉中10	46	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	1.7	1.6	1.2	2.72	1.06	1.33
219	灰葉中10	46	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.1	1.4	1.1	2.94	1.50	1.27
220	灰葉中10	47	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.0	1.0	1.7	1.00	1.00	0.59
221	灰葉中10	48	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.5	1.4	0.9	2.10	1.07	1.56
222	灰葉中10	53	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.2	1.9	1.3	4.18	1.16	1.46
223	灰葉中10	53	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.6	1.9	1.3	3.04	0.84	1.46
224	灰葉中10	54	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.1	2.0	1.5	4.20	1.05	1.33
225	灰葉中10	54	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.1	2.1	1.8	4.41	1.00	1.17
226	灰葉中10	58	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.6	1.6	1.1	2.56	1.00	1.45
227	灰葉中10	58	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.5	1.6		2.40	0.94	
228	灰葉中10	58	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.2	1.4		1.68	0.86	
229	灰葉中10	58	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.2		1.56	1.08	
230	灰葉中10	58	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.4	1.5	0.8	2.10	0.93	1.88
231	灰葉中10	58	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.4	1.5	0.8	2.10	0.93	1.88
232	灰葉中10	65	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.2	1.5	1.2	3.30	1.47	1.25
233	灰葉中10	32	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.6	1.7	1.1	2.72	0.94	1.55
234	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	完全	未炭化	2.8	1.9		5.32	1.47	
235	灰葉中10	32	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.4	1.1	0.9	1.54	1.27	1.22
236	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.7	1.7	1.6	2.89	1.00	1.06
237	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.6	1.6	1.0	2.56	1.00	1.60
238	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.6	1.7	1.1	2.72	0.94	1.55
239	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	1.7	1.4	1.6	2.38	1.21	0.88
240	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.6	1.3	1.0	2.08	1.23	1.30
241	灰葉中10	32	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.7	1.3	0.9	2.21	1.31	1.44
242	灰葉中10	33	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.8	1.9	1.3	3.42	0.95	1.46
243	灰葉中10	33	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	2.3	2.1	1.5	4.83	1.10	1.40
244	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	2.0	1.4	0.9	2.80	1.43	1.56
245	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.45
246	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.4	1.3	1.0	1.82	1.08	1.30
247	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	2.2	0.8	2.86	0.59	2.75
248	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.6	1.5	1.0	2.35	1.08	1.48
249	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.4	1.4	1.0	1.96	1.00	1.40
250	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.1	1.3	0.7	1.43	0.85	1.86
251	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.4	1.3	0.7	1.82	1.08	1.86
252	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.5	1.5	1.0	2.25	1.00	1.50
253	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	2.0	1.6	1.1	3.20	1.25	1.45
254	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.5	1.5	0.9	2.25	1.00	1.67
255	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.8	1.7	1.3	3.06	1.06	1.31
256	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.3	0.7	1.69	1.00	1.86
257	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	2.2	1.8	1.5	3.96	1.22	1.20
258	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.5	1.5	1.0	2.25	1.00	1.50
259	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.4	1.4	0.9	1.96	1.00	1.56
260	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	2.0	1.6	1.0	3.20	1.25	1.60
261	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	2.3	1.8	1.1	4.14	1.28	1.64
262	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.9	1.6	1.1	3.04	1.19	1.45
263	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.7	1.5	1.1	2.55	1.13	1.36
264	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.9	1.8	1.2	3.42	1.06	1.50
265	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.8	1.3	0.8	2.34	1.38	1.63
266	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	2.0	1.9	1.2	3.80	1.05	1.58
267	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.7	1.5	1.0	2.55	1.13	1.50
268	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.6	1.1	0.9	1.76	1.45	1.22
269	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.7	1.2	0.8	2.04	1.42	1.50
270	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.9	1.5	1.1	2.85	1.27	1.36
271	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.9	1.9	1.0	3.61	1.00	1.90
272	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	2.3	1.6	1.1	3.68	1.44	1.45
273	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	2.3	1.6	1.1	3.68	1.44	1.45
274	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	2.2	1.4	1.1	3.08	1.57	1.27
275	灰葉中10	34	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	3.6	2.0	1.5	7.20	1.80	1.33
276	灰葉中10	35	第二灰層	ヒエ	完全	炭化	2.0	2.1	1.5	4.20	0.95	1.40
277	灰葉中10	35	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.6	1.6	1.2	2.56	1.00	1.33
278	灰葉中10	35	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	2.2	1.9	1.1	4.18	1.16	1.73
279	灰葉中10	35	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	1.3	1.4	0.9	1.82	0.93	1.56
280	灰葉中10	35	第二灰層	ヒエ	あり	炭化	1.4	1.4	1.5	1.96	1.00	0.93
281	灰葉中10	38	第二灰層	ヒエ	なし	炭化	4.8	2.9		13.92	1.66	
282	灰葉中10	42	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.0	1.5	1.2	3.00	1.33	1.25
283	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.1	1.0	0.8	1.10	1.10	1.25
284	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.9	1.6	1.2	3.04	1.19	1.33
285	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	なし	炭化	1.6	1.6	1.1	2.56	1.00	1.45
286	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.7	1.5	0.8	2.55	1.13	1.88
287	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.7	1.4	1.1	2.38	1.21	1.27
288	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.8	1.5	1.2	2.70	1.20	1.25
289	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	2.4	1.9	1.4	4.56	1.26	1.36
290	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	2.0	1.8	1.2	3.60	1.11	1.50
291	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	2.0	1.8	1.2	3.60	1.11	1.50
292	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	あり	炭化	1.8	1.5	0.9	2.70	1.20	1.67
293	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化		1.9	1.6	0.00	0.00	1.19
294	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.4	1.6	1.4	3.84	1.50	1.14
295	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.3	2.2	1.9	5.06	1.05	1.16
296	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.3	2.1	1.5	4.83	1.10	1.40
297	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.6	1.8	1.5	4.68	1.44	1.20
298	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	2.8	1.8	1.5	5.04	1.56	1.20
299	灰葉中10	49	第一灰層	ヒエ	完全	炭化	1.7		1.0	0.00		0.00

表Ⅷ-2-21 種子計測値(4)

種子計測値								粒長	粒幅	粒厚	大きさ	粒形	断面形
番号	遺構名	ブロック名	層位名	種名	穎の有無	状態	形状	(mm)	(mm)	(mm)	(粒長×粒幅)	(粒長/粒幅)	(粒幅/粒厚)
300	灰集中10	50	第二灰層	ヒエ	なし	炭化		1.6	1.7	1.1	2.72	0.94	1.55
301	灰集中10	50	第二灰層	ヒエ	完全	炭化		2.5	2.0	1.5	5.00	1.25	1.33
302	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.3	0.9	1.95	1.15	1.44
303	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	なし	炭化		1.3	1.3	0.9	1.69	1.00	1.44
304	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.3	1.0	1.95	1.15	1.30
305	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.4	1.0	2.10	1.07	1.40
306	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	あり	炭化		1.6	1.8	1.8	2.88	0.89	1.00
307	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	あり	炭化		1.7	1.7	1.2	2.89	1.00	1.42
308	灰集中10	52	第二灰層	ヒエ	完全	炭化		1.5	1.5	1.3	0.00	0.00	1.15
309	灰集中13		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.0	1.5	1.0	3.00	1.33	1.50
310	灰集中13		OB層	ヒエ	あり	炭化		1.5	1.5	1.3	2.25	1.00	1.15
311	灰集中13		OB層	ヒエ	あり	炭化		1.8	1.6	1.1	2.88	1.13	1.45
312	灰集中14		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.5	0.7	2.55	1.13	2.14
313	灰集中14		OB層	ヒエ	なし	炭化		2.2	2.0	1.3	4.40	1.10	1.54
314	灰集中14		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.7	1.6	1.1	2.72	1.06	1.45
315	灰集中14		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.3	2.1	1.5	4.83	1.10	1.40
316	灰集中14		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.3	2.9	1.4	6.67	0.79	2.07
317	灰集中14		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.2	1.5	1.3	3.30	1.47	1.15
318	灰集中14		OB層	ヒエ	あり	炭化		2.0	2.0	1.4	4.00	1.00	1.43
319	灰集中14		OB層	ヒエ	あり	炭化		1.9	2.0	1.2	3.80	0.95	1.67
320	灰集中14		OB層	ヒエ	あり	炭化		1.9	1.6	1.3	3.04	1.19	1.23
321	灰集中14		OB層	ヒエ	あり	未炭化		1.9	1.8	1.3	3.42	1.06	1.38
322	灰集中20		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.0	1.4		2.80	1.43	
323	灰集中20		OB層	ヒエ	あり	炭化		1.5	1.7	1.0	2.55	0.88	1.70
324	炭化物集中8		OB層	ヒエ	あり	炭化		1.9	1.6	1.0	3.04	1.19	1.60
325	炭化物集中9		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.7	2.2	1.7	5.94	1.23	1.29
326	炭化物集中11		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.2	2.0	1.1	4.40	1.10	1.82
327	炭化物集中11		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.3	1.0	0.8	1.30	1.30	1.25
328	炭化物集中12		OB層	ヒエ	完全	未炭化		2.7	1.5		4.05	1.80	
329	炭化物集中16		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.2	1.1	0.7	1.32	1.09	1.57
330	炭化物集中16		OB層	ヒエ	完全	未炭化		2.6	1.8	1.4	4.68	1.44	1.29
331	炭化物集中16		OB層	ヒエ	完全	未炭化		2.2	1.5		3.30	1.47	
332	炭化物集中17		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.1	0.9	1.54	1.27	1.22
333	炭化物集中17		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.2	1.2	0.9	1.44	1.00	1.33
334	炭化物集中17		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.6	1.1	2.40	0.94	1.45
335	炭化物集中17		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.9	1.8		3.42	1.06	
336	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	未炭化		1.8	1.5	1.0	2.70	1.20	1.50
337	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	未炭化			1.4	1.1	0.00	0.00	1.27
338	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	炭化			1.4	1.0	0.00	0.00	1.40
339	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	炭化			2.2	1.4	0.00	0.00	1.57
340	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	炭化			2.1	1.3	0.00	0.00	1.62
341	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	炭化		2.2	1.6	1.0	3.52	1.38	1.60
342	炭化物集中17		OB層	ヒエ	完全	炭化		1.6	1.5	1.1	2.40	1.07	1.36
343	炭化物集中17		OB層	ヒエ	あり	炭化		0.9	1.2	0.9	1.08	0.75	1.33
344	炭化物集中17		OB層	ヒエ	なし	炭化		1.5	1.3	0.8	1.95	1.15	1.63
345	炭化物集中18		1B層	ヒエ	なし	炭化		1.4	1.6	1.1	2.24	0.88	1.45
346	炭化物集中18		1B層	ヒエ	なし	炭化		1.2	1.3	0.7	1.56	0.92	1.86
347	炭化物集中18		1B層	ヒエ	完全	炭化		1.7	1.1	0.8	1.87	1.55	1.38
348	炭化物集中18		1B層	ヒエ	完全	炭化		2.1	1.4	1.1	2.94	1.50	1.27
349	炭化物集中18		1B層	ヒエ	完全	未炭化		2.2	1.4		3.08	1.57	
350	炭化物集中22		1B層	ヒエ	完全	炭化		2.8	2.1	1.6	5.88	1.33	1.31
351	炭化物集中22		1B層	ヒエ	完全	炭化		2.5	1.9	1.8	4.75	1.32	1.06
352	炭化物集中22		1B層	ヒエ	完全	炭化		2.3	2.1		4.83	1.10	
353	炭化物集中22		1B層	ヒエ	完全	炭化		2.1	1.8	1.3	3.78	1.17	1.38
354	灰集中10	14	第一灰層	アワ	完全	炭化		2.0	1.5	1.1	3.00	1.33	1.36
355	灰集中10	14	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.6	1.4	1.1	2.24	1.14	1.27
356	灰集中10	14	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.7	1.2	1.1	2.04	1.42	1.09
357	灰集中10	14	第一灰層	アワ	あり	炭化		1.6	1.3	1.1	2.08	1.23	1.18
358	灰集中10	14	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.7	1.4	1.2	2.38	1.21	1.17
359	灰集中10	27	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.4	1.3	1.0	1.82	1.08	1.30
360	灰集中10	27	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.5	1.5	1.3	2.25	1.00	1.15
361	灰集中10	27	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.4	1.3	1.1	1.82	1.08	1.18
362	灰集中10	30	第一灰層	アワ	なし	炭化		1.1	1.2	1.1	1.32	0.92	1.09
363	灰集中10	30	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.4	1.4	1.1	1.96	1.00	1.27
364	灰集中10	34	第一灰層	アワ	あり	炭化		1.1	1.2	1.1	1.32	0.92	1.09
365	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.8	1.5	1.3	2.70	1.20	1.15
366	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.0	1.3	0.8	1.30	0.77	1.63
367	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.6	1.3	0.9	2.08	1.23	1.44
368	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.8	1.4	0.9	2.52	1.29	1.56
369	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.7	1.0	0.7	1.70	1.70	1.43
370	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.6	1.1	0.9	1.76	1.45	1.22
371	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.6	1.4	1.1	2.24	1.14	1.27
372	灰集中10	45	第一灰層	アワ	あり	炭化		1.6	1.3		2.08	1.23	
373	灰集中10	45	第一灰層	アワ	あり	炭化		1.4	1.1		1.54	1.27	
374	灰集中10	45	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.6	1.3	0.9	2.08	1.23	1.44
375	灰集中10	45	第一灰層	アワ	あり	未炭化		1.8	1.3		2.34	1.38	
376	灰集中10	45	第一灰層	アワ	なし	炭化		1.3	1.3	1.3	1.69	1.00	1.00
377	灰集中10	45	第一灰層	アワ	なし	炭化		1.3	1.4	1.3	1.82	0.93	1.08
378	灰集中10	54	第一灰層	アワ	完全	炭化		1.4	1.5	1.1	2.10	0.93	1.36
379	灰集中10	58	第一灰層	アワ	なし	炭化		1.4	1.2	1.1	1.68	1.17	1.09
380	灰集中10	32	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.7	1.5	1.1	2.55	1.13	1.36
381	灰集中10	32	第二灰層	アワ	あり	炭化			1.2	1.1	0.00	0.00	1.09
382	灰集中10	32	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.2	1.3	1.1	1.56	0.92	1.18
383	灰集中10	34	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.5	1.4	1.2	2.10	1.07	1.17
384	灰集中10	34	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.5	1.8	1.1	2.70	0.83	1.64
385	灰集中10	34	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.3	1.5	1.0	1.95	0.87	1.50
386	灰集中10	34	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.3	1.0	0.7	1.30	1.30	1.43
387	灰集中10	34	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.7	1.7	1.2	2.89	1.00	1.42
388	灰集中10	34	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.2	0.9	0.6	1.08	1.33	1.50
389	灰集中10	34	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.7	1.5	1.1	2.55	1.13	1.36
390	灰集中10	34	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.9	1.3	0.9	2.47	1.46	1.44
391	灰集中10	35	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.8	1.6	0.9	2.88	1.13	1.78
392	灰集中10	49	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.4	1.4	1.1	1.96	1.00	1.27
393	灰集中10	49	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.5	1.6	0.9	2.40	0.94	1.78
394	灰集中10	49	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.9	1.3	0.9	2.47	1.46	1.44
395	灰集中10	49	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.6	1.5		2.40	1.07	
396	灰集中10	50	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.8	1.6	1.2	2.88	1.13	1.33
397	灰集中10	50	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.4	1.3	0.9	1.82	1.08	1.44
398	灰集中10	50	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.1	1.2	1.0	1.32	0.92	1.20
399	灰集中10	50	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.4	1.2	1.1	1.68	1.17	1.09
400	灰集中10	50	第二灰層	アワ	あり	未炭化		1.3	1.3	1.1	1.69	1.00	1.18

表Ⅷ-2-22 種子計測値(5)

番号	遺構名	ブロック名	層位名	種名	穎の有無	状態	形状	粒長 (mm)	粒幅 (mm)	粒厚 (mm)	大きさ (粒長×粒幅)	粒形 (粒長/粒幅)	断面形 (粒幅/粒厚)	脚長 (mm)
401	灰集中10	52	第二灰層	アワ	完全	炭化		1.8	1.6	1.2	2.88	1.13	1.33	
402	灰集中10	52	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.2	1.3	1.1	1.56	0.92	1.18	
403	灰集中10	52	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.4	1.4	1.2	1.96	1.00	1.17	
404	灰集中10	52	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.2	1.2	1.0	1.44	1.00	1.20	
405	灰集中10	52	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.2	1.2	1.1	1.44	1.00	1.09	
406	灰集中10	52	第二灰層	アワ	なし	炭化		1.1	1.1	0.9	1.21	1.00	1.22	
407	灰集中10	52	第二灰層	アワ	あり	炭化		1.2	1.1	0.9	1.32	1.09	1.22	
408	灰集中14		0 B層	アワ	なし	炭化		1.8	1.8		2.88	0.89		
409	灰集中10	14	第一灰層	シソ		炭化		1.6	1.4	1.3	2.24	1.14	1.08	
410	灰集中10	36	第一灰層	シソ		炭化		1.6	1.5	1.2	2.40	1.07	1.25	
411	灰集中10	39	第一灰層	シソ		炭化		2.1	1.9	1.8	3.99	1.11	1.19	
412	灰集中10	47	第一灰層	シソ		炭化		1.2	1.0	1.0	1.20	1.20	1.00	
413	灰集中10	47	第一灰層	シソ		炭化		1.1	0.9	0.8	0.89	1.22	1.13	
414	灰集中10	54	第一灰層	シソ		炭化		2.0	1.6	1.6	3.20	1.25	1.07	
415	灰集中10	49	第一灰層	シソ		未炭化		1.5	1.3	1.1	1.95	1.15	1.18	
416	灰集中10	49	第一灰層	シソ		未炭化		1.8	1.6	1.3	2.88	1.13	1.23	
417	灰集中10	49	第一灰層	シソ		未炭化		1.8	1.5	1.3	2.70	1.20	1.15	
418	灰集中16		0 B層	シソ		未炭化		2.1	1.9	1.6	3.99	1.11	1.19	
419	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.4	2.3	1.9	5.52	1.04	1.21	
420	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.3	2.0	1.7	4.60	1.15	1.18	
421	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.4	2.1	1.8	5.04	1.14	1.17	
422	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.1	1.9	1.6	3.99	1.11	1.19	
423	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.5	2.2	1.8	5.50	1.14	1.22	
424	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.2	1.9	1.6	4.18	1.16	1.19	
425	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.3	2.1	1.7	4.83	1.10	1.24	
426	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.2	1.8	1.6	3.96	1.22	1.13	
427	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.2	1.9	1.6	4.18	1.16	1.19	
428	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		1.8	1.7	1.5	3.06	1.06	1.13	
429	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.4	2.1	1.9	5.04	1.14	1.11	
430	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.2	1.9	1.6	4.18	1.16	1.19	
431	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.2	2.1	1.7	4.62	1.05	1.24	
432	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.6	2.2	1.9	5.72	1.18	1.16	
433	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		1.6	1.4	1.3	2.24	1.14	1.08	
434	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		1.6	1.4	1.3	2.24	1.14	1.08	
435	炭化物集中9		0 B層	シソ		未炭化		2.1	1.8	1.6	3.78	1.17	1.13	
436	炭化物集中17		0 B層	シソ		炭化		2.0	1.8	1.5	3.60	1.11	1.20	
437	炭化物集中20		0 B層	シソ		未炭化		2.1	2.0	1.8	4.20	1.05	1.11	
438	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.4	2.2	2.0	5.28	1.09	1.10	
439	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.4	2.1	1.8	5.04	1.14	1.17	
440	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.3	2.1	1.6	4.83	1.10	1.31	
441	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.4	2.1	1.8	5.04	1.14	1.17	
442	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.5	2.3	1.8	5.75	1.09	1.28	
443	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.5	2.1	1.9	5.25	1.19	1.11	
444	炭化物集中22		1 B層	シソ		未炭化		2.6	2.2	1.9	5.72	1.18	1.16	
445	灰集中10	10	第一灰層	アズキ		炭化		4.3	2.7	2.4	11.61	1.59	1.13	1.8
446	灰集中10	17	第一灰層	アズキ		炭化		6.1	3.8	4.3	23.18	1.61	0.88	3.1
447	灰集中10	17	第一灰層	アズキ		炭化		6.5	4.0	3.5	26.00	1.63	1.14	3.3
448	灰集中10	17	第一灰層	アズキ		炭化		6.4	3.0	3.8	16.20	1.80	0.79	2.9
449	灰集中10	18	第一灰層	アズキ		炭化		6.1	4.3	4.2	26.23	1.42	1.02	3.0
450	灰集中10	24	第一灰層	アズキ		炭化		4.8	3.1	3.1	14.26	1.48	1.00	2.1
451	灰集中10	37	第一灰層	アズキ		炭化		6.2	4.2	5.2	26.04	1.48	0.81	3.2
452	灰集中10	37	第一灰層	アズキ		炭化		5.0	2.3	2.4	11.50	2.17	0.96	2.3
453	灰集中10	37	第一灰層	アズキ		炭化		3.7	2.4	2.2	8.88	1.54	1.09	1.6
454	灰集中10	40	第一灰層	アズキ		炭化		6.3	3.9	4.4	24.57	1.62	0.89	3.4
455	灰集中10	31	第一灰層	アズキ		炭化		3.8	3.1	3.8	11.78	1.23	0.82	2.0
456	灰集中14		0 B層	アズキ		炭化		4.7	2.8	2.6	13.16	1.68	1.08	1.7

2) 栽培植物の計測値について(表Ⅷ-2-18~22)

今回計測の対象としたのは、破損により粒長・粒幅・粒厚のうち2つ以上のデータが欠失している個体は除外した。ますの空欄はデータの欠失である。従来の計測は粒長/粒幅で粒形をあらわし、粒長×粒幅で粒の大きさを表すという。粒長/粒幅で表現できる粒形とは、平面形(最大幅になる面で見るとき)のことである。従来の計測に粒幅/粒厚を加えて断面形を表現できるようにし、平面形と断面形によって立体で把握できるようにした。粒長/粒幅値が大きくなると平面形は棒状になり、粒幅/粒厚値が大きくなると断面形は扁平になる。

遺跡から出土したイネ・イネ科雑穀は穎・有桴果・穎果と遺存状態が多様であった。穎の有無という項目は、有桴果の場合、内外穎に包まれた状態で粒長・粒幅・粒厚のデータがとれたもの「完全」と内外穎が一部に残存して粒長・粒幅・粒厚のデータに穎の厚さが加わったもの「あり」がある。穎果は「なし」である。

状態とは出土状態のことである。後述の変形にかかわって炭化・未炭化は必要である。形状はイネの出土状態に2様あったので項目を加えた。「変形1」とは粒長・粒幅に変異がなく、表面に縦走する稜が遺存しているもので、おもに粒厚に変異がでているもの。「変形2」とは粒長・粒幅・粒厚に変異があり、表面に縦走する稜が遺存していないものである。(鈴木 信)

## 3) 野生種子等について(表Ⅷ-2-6~10・13~17)

## 木本種子等

オニグルミ (*Juglans alianthifolia* Carr) : 内果皮の破片である。灰集中・炭化物集中の試料は未炭化の細片が非常に多く、炭化の細片はやや多い。また、完形と動物食痕のある個体はない。クルミ集中の試料は未炭化の細片が多く、炭化の細片が少ない。クルミ集中6の試料は、動物食痕や完形が多かったりするが、炭化した破片もあるので人為による集積と考えてよい。

知里(1953)、更科(1976)によると、秋に大量採集・貯蔵し、冬に炉の火であぶって割りやすくして食べ、果実は毒流し漁に使われた。北海道の北東部では熊送りにクルミを撒いたそうである。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) : 果皮と子葉の破片である。未炭化の果皮は残りが良好で褐色の色彩があった。灰集中よりは炭化物集中にやや多く出土する傾向がある。灰集中10では炭化した子葉が検出された。大きさについての情報は十分でないが、あまり大きくないようである。

知里(1953)によると、大量採集して煮て乾燥させ保存した。乾燥したものを臼で搗いたり、炉で焼栗にもした。粉体でも固体でも使用した。果皮は薬用にした。

コナラ亜属 (*Quercus*) : 子葉の形態でカシワ (*Quercus dentata* Thunberg)、ミズナラ (*Quercus mongolica* var. *grosseserrata* Rehder et Wilson) と推定し分類した。灰集中10のミズナラ果皮は子葉に付着していた。灰集中に偏って出土する。未炭化の状態出土するコナラ亜属は臍点のみであるのに対して、炭化の状態出土するコナラ亜属は種々な部位があり、同一遺構内でも同様である。未炭化臍点・炭化した種々な部位を含む灰集中は、火処における処理・調理過程の結果を示している。

知里(1953)、更科(1976)によると、秋に大量採集・貯蔵した。カシワに比べてミズナラのアクは強いが処理・調理方法に明確な違いがない。灰水で煮て臼で搗く、他の食材と混ぜて煮潰すかである。主に粉体で使用した。

カバノキ科 (*Betulaceae*) : サワシバ (*Carpinus cordata* Blume) は楕円形で条線が縦走する。アサダ (*Ostrya japonica* Sargent) は長卵形で条線が縦走する。少数出土している。知里(1953)、更科(1976)によれば、材の利用はあるが果実の利用は知られていない。

ヤマゲワ (*Morus bombycis* Koidz.) : 先端がやや尖る卵形、腹面がややたいら。灰集中10から少数出土している。果実は可食で甘味である。知里(1953)によると食べられていたようだ。

モクレン属 (*Magnolia*) : 全体・先端形、臍点の位置でホオノキ (*Magnolia obovata* Tunberg) とキタコブシ (*Magnolia kobus* var. *borealis* Sargent) を分類した。灰集中10にやや多く、その他5か所から少数出土している。知里(1953)、更科(1976)によると薬用とされていたようだ。

チョウセンゴミシ (*Schisandra chinensis* (Turcz.) Baillon) : 4mm前後の腎形。灰集中10から少数出土している。果実は可食で甘酸味である。知里(1953)、更科(1976)によるとアイヌの人々は「フレ・ハッ(赤い・やまぶどう)」とよび、薬用としていたようだ。

マタタビ属 (*Actinidia*) : 表面には全体に亀甲条の凹みがある。大きさが2mm以上、やや長楕円形のをサルナシ (*Actinidia arguta* (Sieb. et Zucc.) Planchon) と推定し分類した。果実は可食で甘味である。

知里(1953)、更科(1976)によるとアイヌの人々は果実を食べ、蔓はカンジキの材にしていたという。マタタビ、ミヤママタタビはサルナシに比べて不味なため、しばしば「~のサルナシ」と呼ばれた。

ハマナス (*Rosa rugosa* Thunberg) : 4面体に近いかたちで角が丸く、やや厚めの果皮。ヤマブドウ、キハダについて3番目に多く出土する。未炭化種子がかなり多かった。果実は可食で甘味である。知里(1953)、更科(1976)によるとアイヌの人々は食べており、乾燥させて保存食にもしていた。熊送りに使われた。

スモモ (*Pulunus salicina* Lindley) : 大きさが12mm前後、果皮の厚さは縫合面で2mm前後で、出土した他のサクラ属に比べ非常に大きい。表面は不整形な浅い凹みがある。ヤマブドウ、キハダ、ハマナスについて4番目に多く出土する。果実は可食で甘酸味である。知里(1953)によると「*Momani*」(スモモの木)という言葉が沙流・千歳・石狩で採集したとある。

その他サクラ属 (*Pulunus*) : エゾヤマザクラ (*Pulunus sargentii* Rehder) は先端がやや尖る球形、明瞭な2本の側稜がある。シウリザクラ (*Pulunus ssiori* Fr. Schmidt) は長卵形、表面は平滑。エゾノウミズザクラ (*Pulunus padus* L.) は球形に近い卵形、表面は不規則なしわがある。灰集中10・11に多く出土した。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。

エゾノコリンゴ (*Malus baccata* var. *mandshurica* (Maxim.) C. S. Schneider) : 下端が尖る水滴型で片側面がたいら、断面形はカマボコ形。灰集中17だけに出土した。果実は可食で少し渋い甘酸味である。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。

キハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht) : 弧のゆるい半月形、表面は網目状の細線が覆う。ヤマブドウについて2番目に多く出土する。果実は可食で甘または苦味である。知里(1953)によると調味、薬用に用いられたようだ。

サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* (L.) De Candolle) : 下端が尖るがほぼ球形で腹面に縦方向の隆起をなす。光沢のある種皮表面の下には網目状の細線が覆う。灰集中10だけに出土した。未熟の果実は香辛料、成熟した果皮は薬用。知里(1953)によると調味に用いられたようだ。

ウルシ属 (*Rhus*) : ツタウルシ (*Rhus ambigua* Lavallee, ex Dippel) は一端が大きい腎形。ヤマウルシ (*Rhus trichocarpa* Miquel) はツタウルシよりも丸い腎形。両者は基端側の凹みの特徴が異なる。知里(1953)、更科(1976)によると利用は知られていない。

ニシキギ属 (*Euonymus*) : 長楕円形、1本の条線が腹面を縦走する。炭化物集中15からのみ出土している。知里(1953)によると利用は知られていない。

ミツバウツギ (*Staphylea bumalda* (Thunberg) De Candolle) : 倒卵形。下端に臍状の凹みがある。灰集中10・11に多量に出土している。知里(1953)によると、利用は知られていない。

ヤマブドウ (*Vitis coignetiae* Pulliat) : 下端がやや尖る倒卵形。背面には臍があり、腹面中央寄りには大きく深い穴がある。大きさ、全体形、穴の位置がノブドウと異なる。1番多く出土する。果実は可食で甘味である。知里(1953)、更科(1976)によるとアイヌの人々はよく食べていた。

ミズキ (*Cornus controversa* Hemsley) : 楕円形、表面には縦方向に溝がはしる。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。粉川(1983)によれば果実は可食で甘酸味である。遺構からは混入と考えられない数が出土しているの、食べていたのだろう。

タラノキ (*Aralia elata* (Miquel) Seemann) : 弧のゆるい半月形、断面は扁平な菱形。灰集中10だけに出土した。若芽は食用、根・樹皮は薬用として用いられる。知里(1953)、更科(1976)にも同様に記されており、果実の利用は知られていない。

ウコギ属 (*Acanthopanax*) : エゾウコギ (*Acanthopanax senticosus* (Ruprecht et Maximowicz) Harms) の小核は半月形で、断面は扁平で腹面側が尖る楔形。コシアブラ (*Acanthopanax sciadophylloides* Franchet et Savatier) の小核は半月形で上端が腹面側に入り込む。断面は楕円形を短軸で半截した形、腹面はたいらで周縁がやや盛り上がる。知里(1953)、更科(1976)によると材の利用は知られているが、果実の利用は知られていない。

エゾニワトコ (*Sambucus sieboldiana* var. *miquelii* (Nakai) Hara) : 端がやや尖る楕円形。腹面がややたいらで扁平。表皮全面に横方向の不規則なしわがある。1点を除いて灰集中から出土している。山岸(1983)によるとアク抜き後や発酵後には可食となる。知里(1953)によると幹の利用は一般的で、果実の食用は美幌で例がある。薬用は樺太の例が、更科(1976)に広尾の例がある。

ガマズミ属 (*Viburnum*) : 端が尖る楕円形、扁平な断面。表皮全面に不規則なしわがある。灰集中16だけに出土した。知里(1953)によるとミヤマガマズミ (*Viburnum wrightii* Miquel) について述べられているが果実の利用は知られていない。山岸(1983)によると果実は可食で甘酸味である。

#### 草本種子

タデ科 (*Polygonaceae*) : ギシギシ属 (*Rumex* L.) は断面が三角形で、突出した明確な稜がある。タデ属 (*Polygonum* L.) は、断面が三角形・扁平な楕円形・レンズ状のものが出土している。タデ科は草本種子で一番多く出土している。サナエタデ、オオイヌタデは比較的多かった。ミチヤナギ、イシミカワ、タニソバの形態をもったものは出土していない。知里(1953)によると幌別で種子を食したという。サナエタデ(水田雑草)・オオイヌタデ(畑地雑草)は古代に帰化した種である。

ナデシコ科 (*Caryophyllaceae*) : 大きき0.7mm前後、ほぼ円形、断面は扁平な楕円形、端に横方向の切れ込みがある。表面に乳状突起がある。ノミノフスマ(畑地雑草)であろう。灰集中10の第2灰層だけに出土した。

アカザ属 (*Chenopodium*) : 大きき1.2mm前後、卵に近い腎形で一端が突出する。断面はレンズ状、表面に光沢がある。シロザ・アカザ(畑地雑草)が考えられる。タデ科、カヤツリグサ科について3番目に多く出土している。若葉は食用となる。知里(1953)によると幌別で種子を食したという。

アキカラマツ (*Thalictrum minus* L. var. *hypoleucum* (Sieb. et Zucc.) Miquel) : 大きき2.5mm前後、紡錘形で8本の稜線が縦走する。人里雑草。未炭化の個体が灰集中10に1点出土した。更科(1976)によると根と葉は薬用としていたという。

キンミズヒキ (*Agrimonia pilosa* Ledeb.) : 萼が出土している。萼は倒円錐形で上部に刺が付く。林地に生える。知里(1953)、更科(1976)によると萼の利用は知られていない。

ミツバツチグリ (*Potentilla freyniana* Bornm) : 大きき1.0mm前後、楕円形で一端が突出する。断面はやや扁平。表面にしわがある。未炭化の個体が炭化物集中11に1点出土した。林地に生える。

キイチゴ属 (*Rubus* L.) : 大きき2.5mm前後、半月形~隅丸三角形で、表面に深いしわがある。種としてはホロムイイチゴ、ベニバナイチゴ、エゾイチゴ、クロイチゴ、ナワシロイチゴ、クマイチゴなどがある。表面の深いしわのあるクロイチゴ (*Rubus mesogaesus* Focke) が多く出土しているようだ。タデ科、カヤツリグサ科、アカザ属について4番目に多く出土している。未炭化の個体がほとんどで、極稀に炭化しているものがある。知里(1953)、更科(1976)によるとよく食しているようだ。

マメ科 (*Leguminosae*) : ハギ属 (*Lespedeza* Michx.) は大きき2.5mm前後、歪んだ卵形で断面は扁平、下端側腹面に丸い臍がある。炭化個体が炭化物集中10から1点出土した。メドハギ (*Lespedeza cuneata* G. Don) の可能性がある(畑地雑草)。ソラマメ属 (*Vicia* L.) は大きき3.0mm前後、楕円形で断面はほぼ円形、下端側をめぐる長細い臍がある。臍条も長くやや隆起する。クサフジ (*Vicia cracca* L.) かそれに近縁の種であろう(人里雑草)。ヤブマメ (*Amphicarpaea edgeworthii* Benth. var. *japonica* Oliver) は大きき3.5mm前後、円形に近い楕円形で断面はやや扁平、腹面のほぼ中央に円形に近い楕円形の臍がある。クズ (*Pueraria*) は大きき3.5mm前後、楕円形で断面は扁平、腹面の中央が凹み、円形の飛び出た臍がある(林地に生える)。マメ科で集計したもののほとんどはソラマメ属の臍部分が破損したものであるが、ツルマメ (*Glycine soja* Sieb. et Zucc.) が灰集中10の第1灰層に5点(完形)加えられている。ツルマメは大きき4.0mm前後、楕円形



で断面は扁平、長楕円形の臍が下端よりにあり、発芽孔が中央にある。知里（1953）によるとメドハギ、クサフジ、クズの利用は知られていない。ツルマメは記載がない。ヤブマメは地下茎に結実したものは食用にしたとある。

ゲンノショウコ (*Geranium thunbergii* Sieb. et Zucc.) : 大きさ2.0mm前後、楕円形で断面も楕円形、腹面下部に突起した臍があり、臍下より端に明瞭な臍条がある。知里（1953）、更科（1976）によると葉は薬用として用いられるが、果実の利用は知られていない。

ミヤマニガウリ (*Schizopepon bryoniaefolius* Maxim.) : 大きさ10.0mm前後、水滴形で断面は扁平、縁辺は突起状の盛り上がりがつらなる。全て未炭化だった。深山にはえる。

ウド (*Aralia cordata* Thunberg) : 大きさ1.5mm前後、一端が尖る形で断面は扁平。タデ科、カヤツリグサ科、アカザ属、キイチゴ属について5番目に多く検出された。ほとんどが未炭化である。知里（1953）によると、茎は食用・薬用に使われる。果実の利用は知られていない。

セリ科 (*Umbelliferae*) : ヤブジラミ (*Torilis japonica* (houtt.) De Candolle) は大きさ4.0mm前後、先端が尖る長卵形で断面は楕円形、各分果には5つの稜が縦走する。表面にはとげがある（人里雑草）。知里（1953）、更科（1976）によると利用は知られていない。ドクゼリ (*Cicuta virosa* L.) は大きさ4.0mm前後、先端がやや尖る長楕円形で断面は楕円形、各分果には5つの低い稜が縦走する。水辺に生える。知里（1953）によると果実の利用は知られておらず、根は薬用にされる。

アカネ科 (*Rubiaceae*) : 大きさ2.0mm前後、ほぼ丸い楕円形で断面は扁平、腹面が丸く凹んで臍がある。全面にかぎ毛がある。ヤエムグラ (*Galium spurium* var. *echinospermon* Hayek) であろう。未炭化個体が炭化物集中6から8点出土した。知里（1953）によると利用は知られていない。

ヒルガオ属 (*Calystegia* R. Br.) : 大きさ4.0mm前後、倒卵形。下端の凹みに臍がある。表皮は粗い。ヒルガオ (*Calystegia japonica* Choisy) の可能性がある。灰集中10に出土している。知里（1953）、更科（1976）によると根は食されていた。果実の利用は知られていない。

ナス科 (*Solanaceae*) : 一端が尖る丸い平面、扁平な断面、網状隆起線をもつが同定が難しいものをナス科として集計した。イヌホウズキ (*Solanum nigrum* L.) は大きさ1.5mm前後、倒卵形で下端が尖る。断面は扁平。表面は全面に網状隆起線がある。知里（1953）によると利用は知られていない。

キク科 (*Compositae*) : 丸いかたちのも、上端が管状に伸びたもの、冠毛が芒状になったものはみあたらなかった。

ユリ科 (*Liliaceae*) : 球形のものがほとんどで、扁平なかたちのも、棒状のものはみあたらなかった。この科で雑草と分類されるものほとんどが人里雑草である。

イネ科 (*Gramineae*) : 棒状の穎果がほとんどである。この科で雑草と分類されるものは水田雑草と畑地雑草が半々である。

カヤツリグサ科 (*Cyperaceae*) : ほとんどがスゲ類である。タデ属に次いで2番目に多く出土する。この科で雑草と分類されるものほとんどが水田雑草である。

#### 4) 出土野生種子と環境について

遺構出土の試料であるから人為的選択の結果といえる。しかし、それを選択できたのも周辺環境があつてのことである。環境の推定はやや困難であるが、下記の分類のうちの第3類によって可能と思われる。分類の基準は、利用の程度・方法についての民族例の有無である。

野生第1類は利用例のあるもの。主食の性格があり、保存される食材（オニグルミ・クリ・コナラ亜属・ハマナス）。嗜好的食品（ヤマグワ・マタタビ属・ハマナス・スモモ・キハダ・サンショウ・ヤマブドウ・ミズキ・エゾニワトコ・タデ属・ギシギシ属・アカザ属・キイチゴ属）。薬用（モクレン属・チョウセンゴミシ・キハダ・エゾニワトコ）。



野生第2類は種子以外の部分が利用されている例。カバノキ科・スモモ以外のサクラ属・エゾノコリンゴ・タラノキ・ウコギ属・ガマズミ属・アキカラマツ・ゲンノショウコ・ウド・ドクゼリ・ヒルガオ属。

第2類は、サワシバ・シウリザクラ・エゾノウワミズザクラ・エゾウコギは沢の沃地、アサダ・エゾヤマザクラ・コシアブラは湿った山腹の沃地、エゾノコリンゴは湿原の周辺、ヒルガオ属は耕地雑草、アキカラマツは人里雑草、ゲンノショウコ・ウドは林地、ドクゼリは水辺である。これらは野生第3類に近い性質を持っているように見えるが山地のものが多く、耕地・人里雑草が少ない。やはり何らかの意図で搬入されたと考えられる。特に多数出土の種子は偶然とは思えない。

野生第3類はまったく利用例がないもの。ウルシ属・ニシキギ属・ミツバウツギ・ナデシコ科・アカザ属・キンミズヒキ・ミツバツチグリ・メドハギ・クサフジ・クズ・ツルマメ・ミヤマニガウリ・ヤブジラミ・アカネ科・キク科・ユリ科・イネ科・スゲ類。

ツタウルシ・ニシキギ属・ミヤマニガウリは山野に、ミツバウツギは山地の湿ったところ。ヤマウルシは湿原の周辺にはえる。キンミズヒキ・ミツバツチグリ・クズは林地にはえる。ナデシコ科・メドハギは耕地雑草である。クサフジ・ヤブジラミは人里雑草である。この中で出土数が多いのはヤマウルシ・ミツバウツギ・ナデシコ科・クサフジである。以上より、遺跡内の環境は耕地を含む湿ったところだったといえよう。

上述の結果は遺跡中心部の状況を示している。周辺部ではどうだったのであろう。平成3年度調査のB地区と比較してみよう。クラムシェル・水洗選別で得た試料である。第3類に加わるものとしてスギナ、ショウブ、ハンノキがある。いずれも水辺に生えるものである。周辺部ではより低湿地的環境にあったことがわかる。

#### 5) 有用植物種子の組み合わせ

ここでは野生第1類（食用・薬用植物）種子と栽培植物種子を有用植物とよんだ。

主食は貯蔵に際して特別な保存処理のないオオムギ?・イネ・キビ・アワ・アズキ、保存処理が必要なオニグルミ・クリ・コナラ亜属がある。栽培種のバリエーションが豊富であるが、主食の維持は採集と栽培の2本だてで行われている。他には保存される食材としてハマナスがある。

嗜好的食品の大部分は野生第1類（ヤマグワ・マタタビ属・ハマナス・スモモ・キハダ・サンショウ・ヤマブドウ・ミズキ・エゾニワトコ・タデ属・ギシギシ属・アカザ属・キイチゴ属）であり、栽培種ではシソ属があるのみである。嗜好的食品は野生第1類によって選択・維持されている。

薬用（モクレン属・チョウセンゴミシ・キハダ・エゾニワトコ）は、もっぱら野生第1類によって選択・維持されている。

繊維の原料としてアサが栽培されていた。

#### 6) 有用植物種子の組み合わせの起源について

フローテーション調査：0B層における組み合わせは、遺構についてはIB-1層まではさかのぼれる。表Ⅷ-2-4は包含層のデータであるがそれを見ると、IB-2層においては、野生第1類が少なくオニグルミ・クリ・コナラ亜属がない、イネがない、の2点を除けば主食は揃っている。栽培種が豊富であるという主食の維持のありかたは少なくともIB-2層（擦文文化期中期）までさかのぼれる。同期の同様な例は札幌市サクシュコトニ川遺跡（1986）がある。

花粉分析：IB-3層以下では栽培種子は出土していなかったのだろうか。山田（1996）によると、c-66-19地点（Ⅷ章3節表記のLoc, 2）のIB-3層上部から栽培型イネ科花粉が出現している。c-66-18地点（Ⅷ章3節表記のLoc, 1）ではIB-2層上部から、その他の地点ではIB-1層下部から出現している。

また、クワ科の花粉はc-66-18地点ではIB-2層上部、d-67-91地点（Ⅷ章3節表記のLoc

3) では I B-1 層上部から出現している。栽培型ウリ科花粉は d-67-91 地点では I B-1 層下部から出現している。ギシギシ属、アカザ科(耕地雑草)の花粉も c-66-18 地点では I B-2 層上部から出現している。これらの傾向は 0 B 層まで続く。

花粉分析の成果より、I B-3 層上部(擦文文化期前期後葉)のころには主食の維持に栽培種が関与していたことがわかる。

**植物珪酸体分析とイネ栽培**：イネは I B-1 層から検出され I B-2 層にはない。炭化イネ種子の古い例として擦文文化期前期末の千歳市オサツ 2 遺跡 SH-11(1996)がある。I B-3 層から出土した土器は少ないが、SH-11 並行ぐらいと考えてよさそうだ。この例は栽培されたかどうか不明である。

本遺跡において、灰集中 14(0 B 層下部)、灰集中 10 第 1 灰層(0 B 層上面)、炭化物集中 17(0 B 層)から有籽果が検出されており、灰集中 10 第 1 灰層(0 B 層上面)、炭化物集中 11(0 B 層上面)から穎が検出されている。籾付きの米と籾が出土したのである。籾付きのまま移入されたのであろうか。

植物珪酸体分析を行ったところ、0 B 層上部からイネ属葉身機動細胞に由来する機動細胞珪酸体が c-66-18 地点、c-66-19 地点、d-67-91 地点で検出されている。特に c-66-18 地点で約 30%、c-66-19 地点で約 65% の出現率で高率である。稲藁製品は通常はイネの茎の部分を使うので葉鞘の珪酸体の出土であれば問題はない。稲藁製品の珪酸体ではないようだ。

栽培以外に考えられることは、フローテーションの結果と合わせると、五つのことが考えられる。

- ・第 1 にイネの葉で作られた道具があって、それが持ちこまれ数十メートル四方に分散し埋没した。
- ・第 2 に籾付きの米が茎と葉を付けた状態で流通し、それが持ちこまれ数十メートル四方に分散して埋没した。
- ・第 3 にイネの葉が持ちこまれ、数十メートル四方の土壤に分散して埋没した。
- ・第 4 にイネの葉が持ちこまれ、数十メートル四方の土壤に分散して混ぜ込まれた(肥料として)。
- ・第 5 にイネの葉を含んだ稲藁灰が持ちこまれ、数十メートル四方の土壤に分散して混ぜ込まれた(肥料として)。

以上の例があるかいなか筆者は知らないのでご教示いただきたい。山本(1996)によると、寛文年間(1661年~1673年)以降に道南で稲作が和人の手ではじめられているという記録がある。(鈴木 信)

#### 参考文献

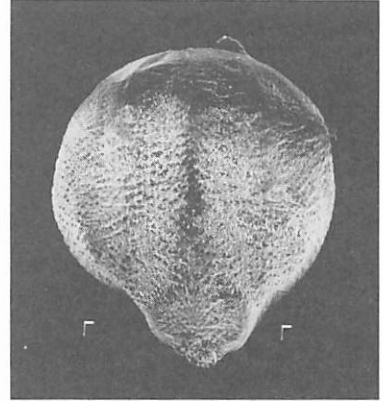
- 知里真志保(1953) 『分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』平凡社  
 更科源蔵・更科 光(1976) 『コタン生物記 I』法政大学出版局  
 粉川昭平(1983) 「縄文人の主な植物食糧」『縄文文化の研究 2』雄山閣  
 山岸 喬・敦子(1983) 『北海道の木の実』北海タイムス社  
 宮崎 清(1985) 「藁 I」『ものと人間の文化史 55-1』  
 高橋和樹(1986) 『忍路土場遺跡・忍路 5 遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター P. 191~192  
 Gary W. Crawford(1986) 「植物種子遺存体」『サクシュコトニ川遺跡』北海道大学 P. 143~160  
 佐藤敏也(1988) 「弥生のイネ」『弥生文化の研究 2』雄山閣  
 山田悟郎(1989) 『イエルカシ遺跡』平取町遺跡調査会 P. 205~222  
 田口 尚・鈴木 信(1991) 『美沢川流域の遺跡群 XVI』(財)北海道埋蔵文化財センター  
 椿坂恭代(1993) 「アワ・ヒエ・キビの同定」『先史学と関連科学』吉崎昌一先生還暦記念論集  
 松本 豪(1994) 「鳥浜貝塚・桑飼下遺跡出土のマメ類について」『筑波大学先史学・考古学研究 5』  
 山田悟郎(1996) 「美沢川流域の遺跡群 XVIII」(財)北海道埋蔵文化財センター P. 25~40  
 山本 正(1996) 『近世蝦夷地農作物年表』北海道大学図書刊行会 P. 3~4  
 吉崎昌一・椿坂恭代(1996) 『オサツ 2 遺跡(2)』(財)北海道埋蔵文化財センター p. 237~248



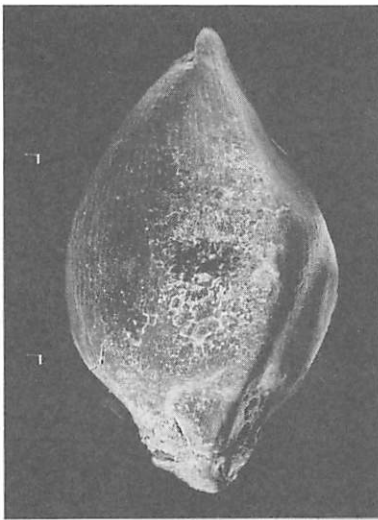
1 イネ



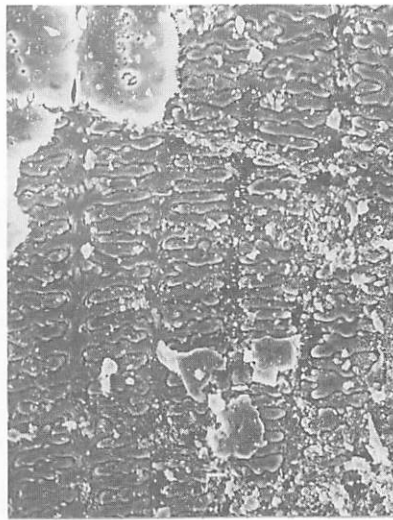
2 イネ



3 アワ外穎部分



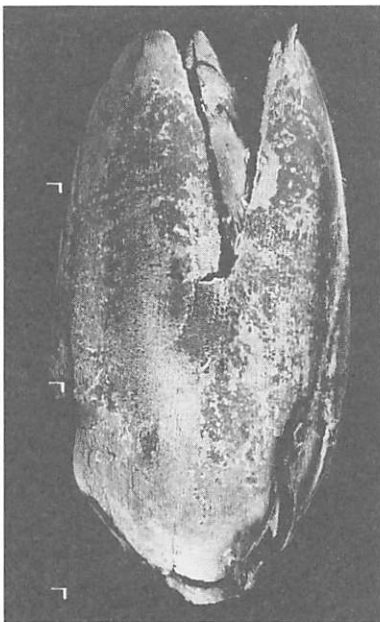
4 a ヒエ外穎部分



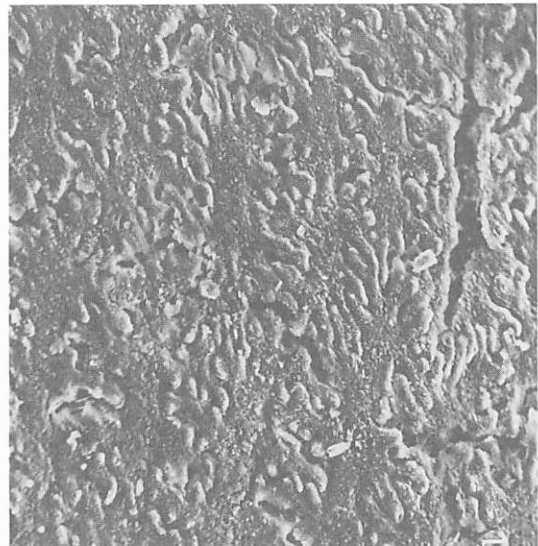
4 b 4 a 外穎の表面組織



5 ヒエ穎果



6 a キビ外穎部分



6 b 6 a 外穎の表面組織

スケール「」間隔1.0mm

図Ⅷ-2-3 出土栽培種子(1)



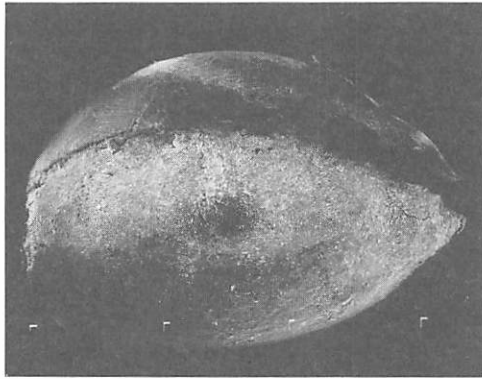
7 ソバ



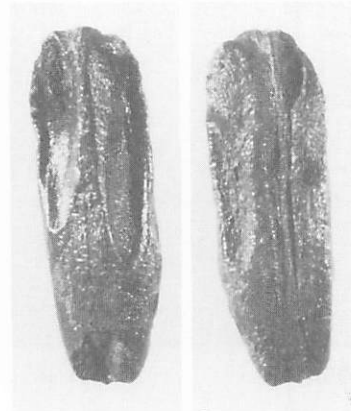
8 アズキ



9 シソ属



10 アサ



11 a オオムギ? 11 b 腹面の背面

計測値

1、イネ 長さ3.80mm、幅2.05mm、厚さ1.80mm  
 2、イネ 長さ4.40mm、幅2.80mm、厚さ2.70mm  
 3、アワ 長さ1.70mm、幅1.40mm、厚さ1.00mm  
 4 a、ヒエ 長さ2.30mm、幅1.60mm、厚さ1.20mm  
 5、ヒエ 長さ1.65mm、幅1.40mm、厚さ0.90mm  
 6 a、キビ 長さ3.00mm、幅1.45mm、厚さ0.90mm

7、ソバ 長さ4.00mm、幅3.10mm  
 8、アズキ 長さ4.30mm、幅2.70mm、厚さ2.40mm  
 9、シソ属 長さ1.90mm、幅1.55mm、厚さ1.20mm  
 10、アサ 長さ3.50mm、幅2.70mm、厚さ2.30mm  
 11a、オオムギ? 長さ4.50mm、幅1.65mm、厚さ1.00mm

図VIII-2-4 出土栽培種子(2)

## (4) 千歳市美々8遺跡低湿部出土の動物遺存体

千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理

## 1) はじめに

千歳市美々8遺跡において美沢川低湿地部より他の有機質遺物とともに多量の動物遺存体が検出された。これらの動物遺存体は0B層およびIB層と呼称される包含層中の主として灰および炭化物の集中部に伴うものである。

遺物は各集中ごとにすべて、あるいは分割されて土壌サンプリングされ、4mm、2mm、1.4mm、0.425mmの3種類のフルイを通すことにより比較的大きな遺物から微細な遺物にわたって回収された。その結果大量の動物遺存体が残っていたことが判明した。特にもっとも規模の大きな「灰集中10」と呼称される遺構は第1灰層と第2灰層に分層されたが、第1灰層は50ほどの小区に分割されて遺物が回収されることとなった。整理担当者の方は多くの時間と労力を動物遺存体の同定、分類、集計に充てられた。筆者のもとに委ねられた時点ではすでに各遺構、小区ごとに各種動物遺存体の同定、集計がほとんど終了し、遺物台帳にまとめられるという段階にいたっていた。整理担当者および作業に従事された方々に心より御礼申し上げたい。

さてこれらの遺物であるが全数について目をとおすことは時間的に不可能であり、今回は次の小区および遺構、包含層の動物遺存体を対象とすることとした。

- 灰集中10

- 第1灰層—偶数番号の小区

- 第2灰層—奇数番号の小区

- その他の灰集中
- 炭化物集中
- 砂集中
- 貝集中
- 包含層各層

動物遺存体は表Ⅷ-3-1～表Ⅷ-3-19に示した。学名は原則として表中に記載した。これらは波部(1987)、東(1982)、阿部(1981)、小林(1981)、高野(1982)、林(1982)によった。出土数は数量と重量の2表記を基本としたが、細片化したものや粉状のもの、カワシンジュガイの殻皮などは重量表記のみとした場合もある。

## 2) 出土動物遺存体

整理対象とした動物遺存体は総数117、264点(粉状のものを除く)である。今回分析できなかったものを含めると25万点ほどに達すると推定される膨大な出土量である。これらは、貝類、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類の各綱から種にわたっている。

貝類では鹹水産、淡水産、陸産の各種貝類が出土している。鹹水産ではホタテガイ *Patinopecten* (*Mizuhopecten*) *yessoensis* が比較的目についた。被熱している例が多く、完形例はない。これにウバガイ *Spisula* (*pseudocardium*) *sachalinensis*、タマキガイ *Glycymeris vestita*、タマキビガイ *Littorina brevicura*、エゾワスレガイ *Callista* (*Ezocallista*) *brevisiphonata* などが少量ずつ混じる。淡水産ではカワシンジュガイ *Margaritifera laevis* が非常に多く、カラスガイ *Cristaria plicata* などが多少混じるようである。陸産貝類は種は判明しないが、形態はすべて微小なバツラマイマイタイプおよびマイマイであり、オカチョウジガイタイプはない。なかにはほとんど現生と考えられる資料も含まれていた。

#### Ⅷ 自然科学的分析

ウニ綱 *Echinoidea* の棘かと考えられる例が1点みられた。

魚類はサケ科 *Salmonidae*、コイ科 *Cyprinidae* がもっとも多い。さらにイトヨ科 *Gasterosteidae* ニシン *Clupea pallasii* およびニシン科 *Clupeidae* が比較的目についた。またアブラザメ科（ツノザメ科）*Squalina* の棘が少量検出されている。これにカレイ科 *Pleuronectidae*、マグロ類 *Scombriidae* sp. が少量加わる。

両生類はカエル目 *Salientia* と考えられる椎骨が少量みとめられた。

爬虫類はヘビ垂目 *Ophidia* のやや小型のヘビの椎骨が出土している。

鳥類はキジ *Phasianus colchicus* をはじめとしてガン・カモ科 *Anatidae* などが混じるようであるがほとんど細片化しており同定にいたっていない。

哺乳類は大型ではシカ *Cervus nippon yesoensis* が主体となる。ほとんどが細片化しており、指趾骨にいたるまで完形を保つ例はない。わずかに下顎骨にやや完形率の高いものがみられる。また、筆者のもとには骨角器が委ねられていないので詳細は不明であるが、金属器で切断や削りなどを行った際に副次的に生成されたと考えられる削片（カールした状態の例も多い）がかなり多くみられる。灰や炭化物集中部およびその周辺では角や骨の加工が行われていたのであろうか。

シカ以外ではイヌ *Canis Familiaris* やイヌ科 *Canidae* が比較的多い。エゾオオカミ *Canis lupus* のような大型ではなく、キツネ *Vulpes vulpes*あるいはタヌキ *Nyctereutes procyonoides* などの小型のイヌ科と考えられる。また齧歯目 *Rodentia* が比較的多く出土している。

灰集中10ではヒトの臼歯の歯冠が1点出土した。

#### 参考文献

- 波部忠重 (1987) : 『貝 I』 『貝 II』 学研生物図鑑  
東 正雄 (1982) : 『原色日本陸産貝類図鑑』 保育社  
阿部宗明 (1981) : 『原色魚類検索図鑑』 9版 北隆館  
小林桂助 (1981) : 『鳥』 標準原色図鑑全集5 保育社  
高野伸二 (1982) : 『フィールドガイド日本の野鳥』 野鳥ブックス② 日本野鳥の会  
林 壽郎 (1982) : 『動物 II』 標準原色図鑑全集20 19刷 保育社

表Ⅷ-2-23 灰集中10第1灰層の動物遺存体(1)

遺構名-発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-1	第1灰層	ホタテガイ <i>Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis</i>	1		
灰集中10-1	第1灰層	貝類 non det. 貝珠光沢ある破片	1	0.005	
灰集中10-1	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明		6.44	
灰集中10-2	第1灰層	カワシシユガイ <i>Margaritifera laevis?</i> 殻皮		0.061	
灰集中10-2	第1灰層	ニシン <i>Clupea pallasii</i> 耳骨	1	0.015	
灰集中10-2	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 歯	42	0.538	
灰集中10-2	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 棘		6.423	
灰集中10-2	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	1	0.085	
灰集中10-2	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨主体破片	468	5.242	
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det.	243	4.31	
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	44	0.218	
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det. 鰓蓋骨	2	0.009	
灰集中10-2	第1灰層	魚類 non det. 歯骨	20	0.488	
灰集中10-2	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	6	0.248	
灰集中10-2	第1灰層	骨片 細粒化		30.11	
灰集中10-4	第1灰層	カワシシユガイ <i>Margaritifera laevis</i>	5	0.003	
灰集中10-4	第1灰層	貝類 non det.	23	0.339	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 頭骨	918	19.446	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 棘		30.283	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	14	1.448	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨主体破片	496	10.344	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 歯	226	2.412	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 歯骨	8	0.402	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 下尾軸骨	2	0.216	
灰集中10-4	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鰓蓋骨	18	0.899	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 椎体	40	0.524	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 椎骨破片	2408	12.346	
灰集中10-4	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	34	11.445	
灰集中10-4	第1灰層	鳥類 non det. 脛骨 巻状突起	1		
灰集中10-4	第1灰層	鳥類 non det. 脛骨遠位端	1		
灰集中10-4	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yessoensis</i> 角尖部を金属器による切断、成形	2	5.833	
灰集中10-4	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yessoensis</i> 中足骨掌側を金属器による切断	1		
灰集中10-4	第1灰層	シカ <i>Cervus nippon yessoensis?</i> 角?を金属器による切断、成形?	1		
灰集中10-4	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	92	6.563	金属器による切断例あり
灰集中10-4	第1灰層	骨片 細粒化		185.423	
灰集中10-6	第1灰層	カワシシユガイ <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮	1	0.004	
灰集中10-6	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 棘		0.684	
灰集中10-6	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨破片	220	1.218	
灰集中10-6	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 歯	9	0.084	
灰集中10-6	第1灰層	魚類 non det. 部位不明		0.511	
灰集中10-6	第1灰層	魚類 non det. 椎骨破片	8	0.045	
灰集中10-6	第1灰層	骨片 細粒化		336.392	
灰集中10-8	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 歯	4	0.049	
灰集中10-8	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 棘		0.281	
灰集中10-8	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨破片	62	0.386	
灰集中10-8	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 頭骨	4	0.034	
灰集中10-8	第1灰層	魚類 non det. 部位不明破片		0.138	
灰集中10-8	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	3	0.141	
灰集中10-10	第1灰層	カラスガイ <i>Cristaria plicata?</i> 殻皮		1.194	
灰集中10-10	第1灰層	カラスガイ <i>Cristaria plicata</i>		1.551	
灰集中10-10	第1灰層	カワシシユガイ <i>Margaritifera laevis</i> 殻、殻皮	9	0.24	
灰集中10-10	第1灰層	ホタテガイ <i>Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis</i>		1.342	
灰集中10-10	第1灰層	陸産貝類 non det.	1	0.01	完形
灰集中10-10	第1灰層	貝類 non det.		0.05	
灰集中10-10	第1灰層	貝類 non det. 貝珠光沢ある細片	2	0.02	
灰集中10-10	第1灰層	ニシン <i>Clupea pallasii</i> 耳骨	3	0.058	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 尾椎	1	0.085	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鰓蓋骨	4	0.061	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 尾骨骨	2	0.089	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 尾軸骨	4	0.114	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 基鱗骨	1	0.011	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 鰓肥	2	0.014	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 頭部骨	2326	43.319	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨破片	5513	54.486	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 歯	658	8.619	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 棘		104.848	
灰集中10-10	第1灰層	サケ科 <i>Salmonidae</i> sp. 椎骨	9	0.091	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 湖鱗形骨	1	0.053	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 椎骨	3	0.028	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 角舌骨	3	0.146	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 尾節棒状骨	1	+	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 咽頭骨?	15	0.289	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 咽頭骨	9	0.064	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 部位不明	4	0.018	
灰集中10-10	第1灰層	コイ科 <i>Cyprinidae</i> sp. 咽頭骨片	3		
灰集中10-10	第1灰層	魚類 non det. 椎骨破片	33	0.412	
灰集中10-10	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	580	52.896	
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae</i> sp. 右大腿骨 近位端	1		
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae</i> sp. 大腿骨 遊離遠位端	1		
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae</i> sp. 第1歯椎 左側面	1		
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae</i> sp. 左下頷骨	1	0.04	
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae</i> sp. 右上腕骨近位端	1		
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> non det. 頸椎	3		
灰集中10-10	第1灰層	齧歯目 <i>Rodentia</i> non det. 下歯	1	0.016	
灰集中10-10	第1灰層	イヌ科 <i>Canidae</i> sp. 左大腿骨遠位骨幹後面	1		
灰集中10-10	第1灰層	イヌ <i>Canis familiaris</i> 右下頷第2後臼歯	1	0.263	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断	1		
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 <i>Mammalia?</i> 部位不明	2	0.041	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断、成形	5	2.34	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断	6	1.285	
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	44	8.161	金属器による加工に伴う削片含む
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	384	9.694	金属器による加工に伴う削片含む
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切痕			加工痕有り 抽出

Ⅳ 自然科学的分析

表Ⅳ-2-24 灰集中10第1灰層の動物遺存体(2)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断、文様の掘り込み	1	0.094	加工痕? (骨角器)
灰集中10-10	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明	50	2.841	歯7
灰集中10-10	第1灰層	ヒト 真菌菌冠	1	0.845	
灰集中10-12	第1灰層	カワシンジュガイ Margaritifera laevis? 殻皮		0.043	
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	836	8.686	
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	16	2.354	
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	2184	21.484	破片
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		39.435	棘破片
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	42	1.103	
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾椎	1	0.044	
灰集中10-12	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鰓骨		0.041	
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎破片	1	0.004	
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨破片	2+	0.03	
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	42	1.431	
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上顎骨など		0.555	不明
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾部棒状骨	1	0.064	
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	4	0.054	
灰集中10-12	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	1	0.012	
灰集中10-12	第1灰層	魚類 non det. 部位不明破片	4+	3.534	
灰集中10-12	第1灰層	魚綱 non det. 椎骨	46	2.13	
灰集中10-12	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 左足根中足骨	1	0.494	
灰集中10-12	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 左下顎骨	1	0.044	
灰集中10-12	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 左機骨 遠位端	4	11.829	
灰集中10-12	第1灰層	骨片 細粒化		206.509	
灰集中10-13	第1灰層	哺乳類 non det. 部位不明 金属器による切断	1		
灰集中10-14	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis		2.463	
灰集中10-14	第1灰層	カワシンジュガイ Margaritifera laevis 殻皮		0.135	
灰集中10-14	第1灰層	カワシンジュガイ Margaritifera laevis		0.064	
灰集中10-14	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	6+	5.904	
灰集中10-14	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	142	1.484	
灰集中10-14	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	515	4.462	
灰集中10-14	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	30	0.242	
灰集中10-14	第1灰層	骨片 細粒化		102.935	
灰集中10-16	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis		0.012	
灰集中10-16	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある破片		0.006	
灰集中10-16	第1灰層	カワシンジュガイ Margaritifera laevis? 殻皮		0.008	
灰集中10-16	第1灰層	カワシンジュガイ Margaritifera laevis?	1	0.008	
灰集中10-16	第1灰層	カラスガイ Cristaria plicata?	2	2.36	
灰集中10-16	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis	1	0.939	
灰集中10-16	第1灰層	カラスガイ Cristaria plicata?	2		
灰集中10-16	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	24	0.118	
灰集中10-16	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	1	+	
灰集中10-16	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	3	0.046	
灰集中10-16	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	4	0.094	
灰集中10-16	第1灰層	魚類 non det. 鰓蓋骨破片	5	0.016	
灰集中10-16	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	2	0.141	
灰集中10-16	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis? 椎骨 椎骨後面?	1	1.13	
灰集中10-16	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 左機骨 外側顆 遊離?	1	4.895	
灰集中10-16	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	4	25.992	
灰集中10-16	第1灰層	小型哺乳類 Mammalia non det. 腰椎	1		
灰集中10-17	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 第3枝尖端 金属器による切断	1		
灰集中10-17	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角片 金属器による加工に随伴する細片か			
灰集中10-18	第1灰層	カワシンジュガイ? Margaritifera laevis?	1	0.105	被熱?
灰集中10-18	第1灰層	貝類 non det.		0.236	ウバガイ Spisula (pseudocardium) sachalinensis?
灰集中10-18	第1灰層	貝類 non det.		0.851	
灰集中10-18	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片		0.359	
灰集中10-18	第1灰層	陸産貝類 non det.	6		
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	391	6.14	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	2814	26.086	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		25.363	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	42	1.016	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	5090	41.606	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾軸骨	22	0.296	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鰓蓋骨?	8	0.154	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾舌骨	4	0.136	
灰集中10-18	第1灰層	サケ科 Salmonidae 部位不明	15	0.699	
灰集中10-18	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	4	0.105	
灰集中10-18	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	14	0.13	
灰集中10-18	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	1	0.013	
灰集中10-18	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	2	0.029	
灰集中10-18	第1灰層	魚類 non det. 部位不明破片	6	35.13	
灰集中10-18	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	394	4.44	
灰集中10-18	第1灰層	魚類 non det. 棘	56	0.291	
灰集中10-18	第1灰層	両生綱 Amphibia カエル目 Salientia sp. 椎骨	2	0.046	
灰集中10-18	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	9	0.235	
灰集中10-18	第1灰層	ネズミ科 Muridae sp. 左脛骨近位端	1	0.035	骨端遊離欠損
灰集中10-18	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断、削り成形	1	0.831	シカ Cervus n.y. 角?
灰集中10-18	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明	114	4.511	
灰集中10-18	第1灰層	骨片 破片		166.504	
灰集中10-19	第1灰層	哺乳類 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断	1		
灰集中10-20	第1灰層	カワシンジュガイ Margaritifera laevis 殻皮		0.369	
灰集中10-20	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis	1	0.343	
灰集中10-20	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片		0.028	
灰集中10-20	第1灰層	貝類 non det.		0.019	
灰集中10-20	第1灰層	貝類? 破片	1	0.003	
灰集中10-20	第1灰層	アブラザメ科 (ツノザメ科) Squalina sp. 棘		0.059	
灰集中10-20	第1灰層	ニシン Clupea pallasi 耳骨	1	0.028	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	166	2.461	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	2451	32.329	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	24	44.054	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	52	2.406	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯骨	20	0.049	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鰓蓋骨	1	0.035	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾椎	3	0.115	



表Ⅷ-2-25 灰集中10第1灰層の動物遺存体(3)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	質量	備考
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾骨		0.024	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾骨棒状骨	4	0.343	
灰集中10-20	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨片	938	23.551	
灰集中10-20	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	6	0.046	
灰集中10-20	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨		0.164	
灰集中10-20	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨破片	4	0.028	
灰集中10-20	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	1	0.069	
灰集中10-20	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副鱗形骨	1	0.089	
灰集中10-20	第1灰層	魚類 non det. 椎骨片	429	4.828	
灰集中10-20	第1灰層	魚類 non det. 頭骨破片		34.363	
灰集中10-20	第1灰層	魚類 non det. 鱗	20	0.109	
灰集中10-20	第1灰層	魚類 non det. 尾椎	1	0.049	
灰集中10-20	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	16	0.354	
灰集中10-20	第1灰層	魚類 non det. 尾骨棒状骨	2	0.049	
灰集中10-20	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	1	0.046	
灰集中10-20	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 上歯	1	0.013	
灰集中10-20	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	4	2.044	
灰集中10-20	第1灰層	骨片 細片化		135.561	
灰集中10-21	第1灰層	カラス科? Corvidae? 上腕骨遠位端 金属器による切断、切筋	1		
灰集中10-21	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による成形、整形	1		中柄作製?
灰集中10-21	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断、整形	2		
灰集中10-22	第1灰層	ウニ綱 Echinoidea? 棘?	1	0.003	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	22	0.321	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	193	1.525	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		5.236	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	9	0.329	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	442	5.036	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾骨	1	0.016	
灰集中10-22	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 基鱗骨	4	0.012	
灰集中10-22	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	1	0.029	
灰集中10-22	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	1	0.006	
灰集中10-22	第1灰層	魚類 non det. 棘	2	0.01	
灰集中10-22	第1灰層	魚類 non det. 部位不明破片		0.416	
灰集中10-22	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	83	1.014	
灰集中10-22	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis? 脛骨管後面	1		
灰集中10-22	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断	1	0.392	
灰集中10-22	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	340	23.68	金属器による加工に随伴する削片含む
灰集中10-22	第1灰層	骨片 粉状		12.639	
灰集中10-23	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角 第2枝? 金属器による切断	1		
灰集中10-23	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角? 金属器による加工に随伴する削片			
灰集中10-23	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片			
灰集中10-24	第1灰層	カラスガイ Cristaria plicata?		0.592	
灰集中10-24	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis? カラスガイ Cristaria plicata? 殻皮		0.052	
灰集中10-24	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis?		0.452	
灰集中10-24	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis	2		
灰集中10-24	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis? 殻皮		0.249	
灰集中10-24	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片		0.255	
灰集中10-24	第1灰層	小型腹足綱貝類 non det.	2	0.004	
灰集中10-24	第1灰層	陸産貝類 non det.	2	0.022	
灰集中10-24	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	211	3.169	
灰集中10-24	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨破片	1338	18.141	
灰集中10-24	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		36.09	
灰集中10-24	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	39	1.601	
灰集中10-24	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	1835	35.839	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨破片	4	0.044	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 脚骨	2	0.018	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾骨棒状骨	1	0.092	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副鱗形骨	1	0.044	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	3	0.039	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	10	0.144	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上骨	1	0.013	
灰集中10-24	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頸椎破片	1	0.026	
灰集中10-24	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	25204.368	143.308	
灰集中10-24	第1灰層	魚類 non det. 椎骨		223	2.314
灰集中10-24	第1灰層	魚類 non det. 棘破片	22	8.989	
灰集中10-24	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 左下顎骨	1	0.096	
灰集中10-24	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 上歯	4	0.029	
灰集中10-24	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	159	8.826	
灰集中10-24	第1灰層	骨角器 中柄一部? シカ Cervus nippon yesoensis素材	1		
灰集中10-25	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明 金属器による平行する2-3本の沈線	1		
灰集中10-25	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断、削り			シカ Cervus n.y. 角か?
灰集中10-25	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片			
灰集中10-25	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片			
灰集中10-26	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片	1+	0.823	
灰集中10-26	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis 殻皮	1	0.515	
灰集中10-26	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis・カラスガイ Cristaria plicataなど 殻皮		0.025	
灰集中10-26	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis	1	0.434	被熱
灰集中10-26	第1灰層	アブラサメ科 (ツノサメ科) Squalina sp. 棘	8	0.139	
灰集中10-26	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 耳骨	1	0.034	
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	190	3.066	
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	31+	121.431	
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	2402	34.324	
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	3946	39.059	
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	1		金属器により切断された椎骨
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯骨	1	0.13	加工痕
灰集中10-26	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾軸骨	15	0.544	加工痕
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	14	0.885	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	18	0.144	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前上顎骨	4	0.069	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭部骨	21	0.483	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌頭骨	4	0.324	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 主鱗蓋骨	6	0.146	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副鱗形骨	5	0.191	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	21	0.424	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-26 灰集中10第1灰層の動物遺存体(4)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯骨	9	0.326	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	9	0.318	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 鎖骨	6	0.541	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 左上顎骨	6	0.223	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	4	0.085	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	4	0.143	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	10	0.394	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	2	0.015	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 腰帯	3	0.025	
灰集中10-26	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	16	3.006	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 鰓蓋骨	3	0.008	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 担鰭骨	3	0.026	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 尾部棒状骨 下尾軸骨	1	+	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	2	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部骨	21	0.04	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 部位不明	1	0.003	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 第1背鰭棘・第1担鰭骨	1	0.024	
灰集中10-26	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘・腹鰭棘	6	0.036	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 方骨	4	0.006	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	268	14.244	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	409	4.043	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 棘	60	0.41	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 前鰓蓋骨	9	0.513	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 尾舌骨	19	0.322	
灰集中10-26	第1灰層	魚類 non det. 尾軸骨	28	1.094	
灰集中10-26	第1灰層	両生綱 Amphibia? 椎骨	3	0.013	
灰集中10-26	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	16	0.404	
灰集中10-26	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 右大腿骨 近位端	1	1.549	
灰集中10-26	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 上腕骨 遠位端	1		
灰集中10-26	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 右鳥1骨	1		
灰集中10-26	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 肋骨	1		
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 左大腿骨	1	0.36	
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 右下顎骨 第1・2臼歯歯槽	1	0.022	
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 左下顎骨	1	0.084	
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 上顎切歯	1	0.035	
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 下顎切歯	1		
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 上顎切歯	4		
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 下臼歯	9	0.145	
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 左尺骨	1	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 尾椎	2	0.004	
灰集中10-26	第1灰層	イヌ科 Canidae? 中手・中足骨 遠位端	1		
灰集中10-26	第1灰層	シカ Cervus nippon yezoensis sp. 右? 距骨	1	4.044	
灰集中10-26	第1灰層	シカ Cervus nippon yezoensis 角片	2		炭熱
灰集中10-26	第1灰層	中型哺乳綱 Mammalia non det. 中手骨? 近位端	1		
灰集中10-26	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断、削り	2	0.263	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片	21	0.242	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	41	0.825	
灰集中10-26	第1灰層	哺乳綱 Mammalia? 部位不明	4	0.094	
灰集中10-26	第1灰層	骨片 細片化		234.826	
灰集中10-28	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis 殻皮		0.025	
灰集中10-28	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	51	0.644	
灰集中10-28	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	154	1.541	
灰集中10-28	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		3.236	
灰集中10-28	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	352	3.435	
灰集中10-28	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎	1	0.01	
灰集中10-28	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	1	0.002	
灰集中10-28	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	24	2.426	
灰集中10-28	第1灰層	魚類 non det. 棘	3	0.02	
灰集中10-28	第1灰層	爬虫綱 Reptilia ヘビ亜目 Ophidia non det. 椎骨	1	0.103	
灰集中10-28	第1灰層	鳥綱 Aves? 部位不明	1	0.052	
灰集中10-28	第1灰層	齧歯目 Rodentia? non det. 下顎切歯?	1	+	
灰集中10-28	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断	1	0.035	
灰集中10-28	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	4	0.428	
灰集中10-28	第1灰層	骨片 細片化		95.534	
灰集中10-30	第1灰層	貝類 non det.	1+	4.432	
灰集中10-30	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis		0.122	
灰集中10-30	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	224	4.165	
灰集中10-30	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		84.435	
灰集中10-30	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	2303	33.093	
灰集中10-30	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	2504	31.184	
灰集中10-30	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 角骨	1	0.082	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 主鰓蓋骨	4	0.34	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	9	0.204	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 骨盤骨	3	0.356	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	9	0.108	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 後頭頸骨	3	0.403	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	3	0.152	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	1	0.022	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	1	0.036	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	34	1.249	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副蝶形骨	3	0.086	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯骨	4	0.164	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基後頭骨	1	0.001	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	13	0.324	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	12	0.24	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌頭骨	3	0.132	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	3	0.128	
灰集中10-30	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 鰓骨	2	0.012	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 骨盤骨	2	0.038	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部骨	8	0.023	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	5	0.045	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 主鰓蓋骨	2	0.005	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 鎖骨	4	0.004	
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 椎骨	1	0.003	

表Ⅷ-2-27 灰集中10第1灰層の動物遺存体(5)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-30	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 担鰭骨	4	0.048	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 尾軸骨	69	3.358	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 尾節棒状骨	1	0.056	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 棘	35	0.406	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 前上顎骨	4	0.043	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 鰓蓋骨	5	0.11	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 角舌骨	3	0.041	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 尾舌骨	5	0.103	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 上舌骨	4	0.101	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 尾節棒状骨	2	0.083	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	364	4.329	
灰集中10-30	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	24	26.348	
灰集中10-30	第1灰層	鳥綱 Aves? 部位不明	2	0.093	
灰集中10-30	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	114	8.404	
灰集中10-30	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片	18	0.363	加工痕有り
灰集中10-30	第1灰層	骨片 細片化		108.029	
灰集中10-31	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	1		大型 被熱黒色化
灰集中10-31	第1灰層	哺乳綱 Mammalia sp. 部位不明 金属器による切断、削り	3		被熱
灰集中10-32	第1灰層	貝類 non det. 破片	4	0.853	
灰集中10-32	第1灰層	カラシンジユガイ Margaritifera laevis	2	0.292	
灰集中10-32	第1灰層	カラシンジユガイ Margaritifera laevis? 殻皮	1		
灰集中10-32	第1灰層	タマキビガイ Littorinabrevicula	1		
灰集中10-32	第1灰層	海産貝類 non det.	3	0.926	小型
灰集中10-32	第1灰層	アブラザメ科(ツノザメ科) Squalina sp. 棘	1		
灰集中10-32	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 頭骨	3	0.011	
灰集中10-32	第1灰層	ニシン科 Clupeidae sp. 頭骨の一部	323	2.328	
灰集中10-32	第1灰層	カレイ科 Pleuronectidae 尾軸骨?	1	0.03	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾節棒状骨	2	0.2	加工痕
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 角骨	1	0.346	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 骨盤骨	2	0.308	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	10	0.211	加工痕有り
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾軸骨	2	0.054	加工痕有り
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 篩骨	5	0.086	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭頂骨	2	0.039	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾節棒状骨	1	0.02	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯骨	2	0.005	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	424	1.489	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	3532	58.344	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	8	145.815	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	10460	81.689	
灰集中10-32	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	628	19.464	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭骨	29	0.533	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	3	0.149	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	60	0.83	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前上顎骨	14	0.242	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上上顎骨	18	0.304	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 篩骨?	1	0.011	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前頭骨	3	0.342	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭頂骨	2	0.045	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副鱗形骨	8	0.351	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基後頭骨	2	0.041	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯骨	11	0.21	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	14	0.286	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	11	0.248	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上鰓蓋骨	13	0.544	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 間鰓蓋骨	8	0.211	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 鎖骨	3	0.184	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌顎骨	4	0.145	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	25	0.408	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	11	0.259	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	9	0.441	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 骨盤骨	1	0.065	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	8	0.063	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae? 尾舌骨	3	0.163	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	3	0.012	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	8	0.115	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基鱗骨	4	0.022	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基舌骨	3	0.001	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾軸骨	12	0.324	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	18	0.29	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	35	0.216	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 鰓蓋骨?	14	0.112	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 肋骨	10	0.156	
灰集中10-32	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頷椎	1	0.004	
灰集中10-32	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	19	0.149	
灰集中10-32	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 担鰭骨	3	0.032	
灰集中10-32	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 骨盤骨	3	0.028	
灰集中10-32	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部骨	12	0.031	
灰集中10-32	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 上鰓蓋骨	2	0.014	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 頭部骨	30	0.512	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 尾舌骨	1	0.014	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 棘	128	2.288	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	446	8.244	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 頭部骨	143	0.344	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 頭骨	18	0.041	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 尾節棒状骨	4	0.093	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 尾軸	9	0.18	
灰集中10-32	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	89	54.8	
灰集中10-32	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	11	0.598	
灰集中10-32	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 右下顎骨	1	0.043	
灰集中10-32	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 下顎切歯	1	0.048	
灰集中10-32	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 右下顎骨	1	0.004	
灰集中10-32	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 中手・中足骨	1	0.012	
灰集中10-32	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 上歯	2	0.015	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-28 灰集中10第1灰層の動物遺存体(6)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 下顎骨	1	0.013	
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 門歯・臼歯	2	0.008	
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 環椎	1	0.003	
灰集中10-32	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 指趾骨	1	0.01	
灰集中10-32	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片	20	0.435	
灰集中10-32	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	130	2.189	
灰集中10-32	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による削り成形	1	0.181	中柄作製?
灰集中10-32	第1灰層	骨片 細片化		966.813	
灰集中10-34	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片	8	3.314	
灰集中10-34	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis		0.434	
灰集中10-34	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis		10.94	
灰集中10-34	第1灰層	タマキガイ Glycymeris vestita	1	0.39	
灰集中10-34	第1灰層	ウバガイ Spisula (Pseudocardium) sachalinensis	1		
灰集中10-34	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 頭骨	223	1.6	
灰集中10-34	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 耳石	1	0.024	
灰集中10-34	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	260	2.844	
灰集中10-34	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	148	3.844	
灰集中10-34	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	2954	25.601	
灰集中10-34	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		40.088	
灰集中10-34	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	2466	23.844	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎体	280	3.106	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	2	0.008	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	1	0.031	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎	2	0.014	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 篩骨	2	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯	2	0.056	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前上顎骨	2	0.005	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上上顎骨	3	0.044	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	1	0.001	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌顎骨	2	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	4	0.041	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上後頭骨	1	0.031	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基後頭骨	2	0.025	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基鰭骨	4	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 湖蝶形骨	6	0.115	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	5	0.043	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	10	0.132	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	6	0.035	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 肋骨	5	0.055	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	5	0.124	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	2	0.018	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 担鰭骨	43	0.285	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾部棒状骨	14	0.284	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	11	0.04	
灰集中10-34	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾軸骨	11	0.144	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 前鰭蓋骨	1	0.001	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 担鰭骨	2	0.014	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	9	0.089	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部骨	36	0.068	
灰集中10-34	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae? 頭部骨	14	0.023	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	28	0.863	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 鰓蓋骨	2	0.051	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 前上顎骨	2	0.116	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 骨盤骨	2	0.403	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 主鰓蓋骨	3	0.191	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 頭蓋骨	2	0.036	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 歯	2	0.103	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 上後頭骨	1	0.019	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 方骨	3	0.134	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 鎖骨	2	0.211	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 角骨	2	0.044	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 角舌骨	2	0.154	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 尾舌骨	1	0.044	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 尾軸骨	4	0.185	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 尾部棒状骨	3	0.319	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 咽頭骨	2	0.053	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 咽頭歯	2	0.046	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 鱗	33	0.202	
灰集中10-34	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	44	20.263	
灰集中10-34	第1灰層	両生綱 Amphibia? 椎骨	1	0.016	
灰集中10-34	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	3	0.118	
灰集中10-34	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 歯	8	0.091	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による削り	2	0.245	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 指趾骨	3	0.131	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 中手骨	1	0.128	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 腕骨	3	0.302	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	43	0.834	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 歯	1	0.054	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 基節骨	1	0.004	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 大腕骨	4	0.086	
灰集中10-34	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 脛骨	2	0.064	
灰集中10-34	第1灰層	骨片 粉状		244.138	
灰集中10-36	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	19	0.13	
灰集中10-36	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	13	0.069	
灰集中10-36	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		3	
灰集中10-36	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	191	1.496	
灰集中10-36	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	16	0.429	
灰集中10-36	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	1	0.005	
灰集中10-36	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	12	0.053	
灰集中10-36	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	2	1.111	
灰集中10-36	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 金属器による加工に随伴する削片	12	0.124	
灰集中10-38	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis	8	2.012	
灰集中10-38	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis 殻皮	9	0.153	
灰集中10-38	第1灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片	40	0.544	

表Ⅷ-2-29 灰集中10第1灰層の動物遺存体(7)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-38	第1灰層	アブラザメ科 (ツノザメ科) Squalina? 棘?	1		
灰集中10-38	第1灰層	ニシン科 Clupeidae? 頭蓋骨	151	0.191	
灰集中10-38	第1灰層	ニシン科 Clupeidae sp. 椎骨	28	0.125	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 基舌骨 (小型)	3	0.006	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 方骨 (小型)	1	0.003	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 副蝶形骨 (小型)	1	0.004	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上上頰骨 (小型)	5	0.039	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.634	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	921	16.845	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭頂骨	2	0.304	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上後頭骨	1	0.081	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯骨	4	0.152	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	99	2.131	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 角骨	6	0.195	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 方骨	5	0.234	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 舌顎骨	1	0.363	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上舌骨	5	0.193	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上鰓蓋骨	4	0.134	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 下鰓蓋骨	1	0.054	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 間鰓蓋骨	1	0.148	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 骨盤骨	3	0.296	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 下尾軸骨	1	0.096	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 第1頰椎	5	0.199	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae? 下尾軸骨?	4	0.513	
灰集中10-38	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頰骨	9	0.313	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上上頰骨	1	0.01	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.044	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前頭骨	1	0.021	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 下舌骨	4	0.09	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頰骨	1	0.085	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	5	0.065	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	2	0.013	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基鰓骨	26	0.129	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第2助骨	2	0.044	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭蓋骨	1	0.121	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前上頰骨	1	0.24	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	2	0.1	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副蝶形骨	2	0.029	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 骨盤骨	12	0.241	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	3	0.063	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	9	0.084	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頰骨	1	0.142	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 胸骨	3	0.058	
灰集中10-38	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	114	1.503	
灰集中10-38	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	2	0.004	
灰集中10-38	第1灰層	魚類 non det. 部位不明		33.329	
灰集中10-38	第1灰層	魚類 non det. 棘		45.561	
灰集中10-38	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 上顎切歯	1	0.04	
灰集中10-38	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 下顎切歯	1		
灰集中10-38	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 下歯	1		
灰集中10-38	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片含む	11	3.518	
灰集中10-38	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	23	0.266	
灰集中10-38	第1灰層	骨片 粉状		42.499	
灰集中10-40	第1灰層	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yessoensis		29.44	
灰集中10-40	第1灰層	カワシジユガイ Margaritifera laevis		1.061	
灰集中10-40	第1灰層	カワシジユガイ Margaritifera laevis 殻皮		0.594	
灰集中10-40	第1灰層	タマキガイ Glycymeris vestita			
灰集中10-40	第1灰層	貝類 non det.	2	0.024	
灰集中10-40	第1灰層	アブラザメ科 (ツノザメ科) Squalina sp. 棘	1	0.016	
灰集中10-40	第1灰層	ニシン Clupea pallasi 頭部骨	396	2.448	
灰集中10-40	第1灰層	ニシン Clupea pallasi 尾節棒状骨	4	0.024	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	13	0.248	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	1244	24.644	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	4065	50.845	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	432	5.32	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		110.933	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 後頭頭骨	4	0.612	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 舌顎骨	2	0.114	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 角舌骨	2	0.351	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 副蝶形骨	1	0.294	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上頰骨	3	0.342	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 骨盤骨	4	0.544	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾節棒状骨	3	0.214	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 下尾軸骨	4	0.341	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 第1頰椎	2	0.043	
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾軸骨	1	0.016	解体有り
灰集中10-40	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. (小型) 角骨	1	0.003	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	289	5.264	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎	5	0.05	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	13	0.042	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	3	0.05	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	4	0.244	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 助骨	1	0.025	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	3	0.112	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前上頰骨	9	0.106	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上上頰骨	6	0.142	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前頭骨	1	0.048	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭頂骨	3	0.083	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副蝶形骨	1	0.144	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯骨	3	0.113	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	14	0.298	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	8	0.214	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	5	0.253	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌顎骨	4	0.215	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-30 灰集中10第1灰層の動物遺存体(8)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	3	0.085	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上鰓蓋骨	4	0.213	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 間鰓蓋骨	2	0.083	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 下鰓蓋骨	2	0.038	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頰骨	1	0.045	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	1	0.013	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頰骨	21	0.413	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 湖鱗形骨	6	0.152	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	4	0.089	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第2肋骨	1	0.02	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 肋骨	19	0.244	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭部骨	1	0.008	
灰集中10-40	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 部位不明	40	0.652	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 骨盤骨	2	0.029	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭骨	13	0.124	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 前鰓蓋骨	1	+	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 上鰓蓋骨	2	0.002	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 担鰭骨	6	0.012	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 椎骨	2	0.01	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 方骨	2	+	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部骨	10	0.035	
灰集中10-40	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 下尾軸骨+尾節棒状骨	1	0.003	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 方骨	3	0.01	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	100	0.483	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾節棒状骨	2	0.014	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 鱗	44	0.22	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	64	43.695	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾軸骨	2	0.065	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 担鰭骨	11	0.054	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 前鰭骨	1	0.112	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 上鰓蓋骨	1	0.134	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 尾舌骨	3	0.081	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. Scale?	9	0.022	
灰集中10-40	第1灰層	魚類 non det. 基鰭骨	2	0.015	
灰集中10-40	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	24	1.986	
灰集中10-40	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 臼歯	3	0.024	
灰集中10-40	第1灰層	齧歯目 Rodentia non det. 環椎	1	0.005	
灰集中10-40	第1灰層	小型イヌ科 Canidae non det. 第3切歯?	1	0.058	
灰集中10-40	第1灰層	イヌ科 Canidae 基節骨 遠位端を欠く	1	0.124	
灰集中10-40	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 中手・中足骨背面? 金属器による整形	1	0.238	中柄一部?
灰集中10-40	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角 金属器による加工に随伴する削片	24	0.455	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	62	6.932	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 頭蓋一部	3	0.488	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 肋骨	5	0.544	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳綱 Mammalia? 部位不明 文様の掘り込み?	1	0.05	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片含む	251	5.463	
灰集中10-40	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断痕	1		
灰集中10-40	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 右下顎骨	1	0.016	
灰集中10-40	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 尾椎	1	0.005	
灰集中10-40	第1灰層	竹片混じり炭化物		240.163	
灰集中10-41	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角 金属器による加工に随伴する削片	4		
灰集中10-44	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis		2.88	
灰集中10-44	第1灰層	ニシン Clupea pallasi 頭部骨	3	0.028	
灰集中10-44	第1灰層	ニシン Clupea pallasi 頭頂骨?	1	0.015	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頰骨	308	8.822	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		14.684	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	245	3.42	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	28	2.266	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭頂骨	5	0.338	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 後頭頂骨	3	0.483	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 骨盤骨	2	0.209	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae? 方骨	1	0.015	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾軸骨	2	0.06	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 舌顎骨	2	0.03	
灰集中10-44	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾節棒状骨	5	0.23	
灰集中10-44	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	1	0.063	
灰集中10-44	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭部骨不明	2	0.094	
灰集中10-44	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頰骨	1	0.108	
灰集中10-44	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	1	0.022	
灰集中10-44	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1魚椎	2	0.046	
灰集中10-44	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	1	+	
灰集中10-44	第1灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	1	0.01	
灰集中10-44	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	5	0.105	
灰集中10-44	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	4	0.62	
灰集中10-44	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	2	0.201	
灰集中10-44	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 右下顎骨	1	0.146	
灰集中10-44	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 下顎切歯	2		
灰集中10-44	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 左脛骨	1	0.036	
灰集中10-44	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 寛骨	2	0.053	
灰集中10-44	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 右大腿骨	1	0.036	
灰集中10-44	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	1	0.946	
灰集中10-44	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片含む	14	6.641	
灰集中10-44	第1灰層	骨片まじり炭化物		206.495	
灰集中10-46	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis 殻皮		1.143	
灰集中10-46	第1灰層	カワシシユガイ Margaritifera laevis		1.469	
灰集中10-46	第1灰層	カワシシユガイ? Margaritifera laevis?	1		殻頂付近?
灰集中10-46	第1灰層	タマキガイ Glycymeris vestita	1	0.554	炭化
灰集中10-46	第1灰層	ニシン Clupea pallasi 頭部骨	2	0.014	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	199	10.101	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	22	1.256	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		20.041	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	603	9.449	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭頂骨	3	0.081	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭蓋骨	11	0.84	

表Ⅷ-2-31 灰集中10第1灰層の動物遺存体(9)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上顎骨	1	0.042	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 前頭骨	2	0.044	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上後頭骨	4	0.304	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 後頭頂骨	1	0.105	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 骨盤骨	9	0.593	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 下鰓蓋骨	6	0.294	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 舌頭骨	1	0.014	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 前上顎骨	2	0.039	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頰骨	3	0.203	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 角舌骨	2	0.13	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 担鰓骨	6	0.049	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 方骨	1	0.026	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 角骨	3	0.064	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 副蝶形骨	2	0.114	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾舌骨	4	0.104	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾輪骨	4	0.145	
灰集中10-46	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 尾節棒状骨	14	0.446	
灰集中10-46	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	2	0.044	
灰集中10-46	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎	4	0.131	
灰集中10-46	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	21	0.504	
灰集中10-46	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 主鰓蓋骨	6	0.528	解体痕あり
灰集中10-46	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第2肋骨	1	0.218	
灰集中10-46	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾椎棘	1	0.044	
灰集中10-46	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	161	0.252	
灰集中10-46	第1灰層	魚類 non det. 棘	1	0.002	
灰集中10-46	第1灰層	魚類 non det. 部位不明	13	1.155	
灰集中10-46	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 左下顎骨	1	0.125	
灰集中10-46	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 上顎骨一部	1		
灰集中10-46	第1灰層	イヌ科 Canidae sp. 臼歯	1	0.103	
灰集中10-46	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角片	44	8.994	
灰集中10-46	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 左脛骨 近位骨幹前縁およびその下部	1	26.446	
灰集中10-46	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する削片	1		
灰集中10-46	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 肋骨	1		
灰集中10-46	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	6	1.934	
灰集中10-46	第1灰層	骨片まじり炭化物		844.489	
灰集中10-48	第1灰層	カワシラジュガイ Margaritifera laevis 殻皮	1	0.048	
灰集中10-48	第1灰層	ホタテガイ Patinopen (Mizuhopecten) yesoensis	2	3.803	被熱
灰集中10-48	第1灰層	ウバガイ Spisula (pseudocardium) sachalinensis?	1		
灰集中10-54	第1灰層	二枚貝綱貝類 non det.	1		被熱
灰集中10-48	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	1	0.035	
灰集中10-48	第1灰層	ニシン Clupea pallasii 椎骨	1		
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	103	0.166	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	41	1.198	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	546	12.944	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	1	22.95	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 基後頭骨	1	0.13	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	149	6.095	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 第1頰椎	1	0.066	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 骨盤骨	2	0.219	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭頂骨	6	0.381	
灰集中10-48	第1灰層	サケ科 Salmonidae sp. 上後頭骨	2	0.05	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎	2	0.081	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前頭骨	1	0.03	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	3	0.136	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	1	0.024	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 基後頭骨	1	0.109	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 主鰓蓋骨	2	0.182	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 前鰓蓋骨	2	0.069	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 主上顎骨	1	0.009	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	1	0.044	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾舌骨	6	0.224	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	2	0.014	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾節棒状骨	9	0.539	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 副蝶形骨	2	0.084	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 胸鰓骨	5	0.209	
灰集中10-48	第1灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 下尾輪骨	8	0.481	
灰集中10-48	第1灰層	魚類 non det. 椎骨	42	1.302	
灰集中10-48	第1灰層	魚類 non det. 棘	1	6.006	
灰集中10-48	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 上腕骨 近位端	1	0.503	
灰集中10-48	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 頰椎	1		
灰集中10-48	第1灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	8	0.41	
灰集中10-48	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 左大腿骨	1	0.033	
灰集中10-48	第1灰層	齧歯目 Rodentia ネズミ科 Muridae sp. 右下顎骨	1	0.098	
灰集中10-48	第1灰層	イヌ科 Canidae sp. 遊離椎頭板	1		
灰集中10-48	第1灰層	イヌ科 Canidae sp. 肋骨	1	1.468	
灰集中10-48	第1灰層	イヌ科 Canidae sp. 基節骨	2	0.485	
灰集中10-48	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis? 脛骨骨幹後面	1		
灰集中10-48	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角 金属器による加工に随伴する削片	6	0.824	
灰集中10-48	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 基節骨 近位端	1		
灰集中10-48	第1灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 角片?	5		
灰集中10-48	第1灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 右大腿骨 近位	1		
灰集中10-48	第1灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	51	12.541	加工痕あり
灰集中10-48	第1灰層	哺乳綱 Mammalia? 椎骨	4	1.036	
灰集中10-48	第1灰層	骨片まじり炭化物		843.148	

表Ⅷ-2-32 灰集中10第2灰層の動物遺存体(1)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-31	第2灰層	アブラザメ科 (ツノザメ科) Squalina sp. 棘	2	0.068	
灰集中10-31	第2灰層	ニシン科 Clupeidae sp. 椎骨	4	0.016	
灰集中10-31	第2灰層	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	142	0.414	
灰集中10-31	第2灰層	ニシン Clupea pallasii 耳骨?	1	+	
灰集中10-31	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘	1	1.888	
灰集中10-31	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	3904	25.442	
灰集中10-31	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	390	4.126	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-33 灰集中10第2灰層の動物遺存体(2)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-31	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	41	1.658	
灰集中10-31	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		2.408	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 歯骨	1	0.029	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	2	0.058	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	2	0.031	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 肋骨	1	0.011	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 第1頰椎	144	1.498	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	219	1.426	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	9	0.086	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	22	0.128	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾軸骨	14	0.149	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 担鰭骨	25	0.154	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 肋骨	3	0.023	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	4	0.091	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 三脚骨	1	0.004	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 上舌骨	3	0.044	
灰集中10-31	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	6	0.116	
灰集中10-31	第2灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 背鰭棘	1	0.003	
灰集中10-31	第2灰層	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部骨破片		0.038	
灰集中10-31	第2灰層	魚類 non det. 鱗	63	39.2	
灰集中10-31	第2灰層	魚類 non det. 椎骨	4	0.016	
灰集中10-31	第2灰層	魚類 non det. 頭部骨	2046	13.563	
灰集中10-31	第2灰層	魚類 non det. 舌頭骨	1	0.014	
灰集中10-31	第2灰層	魚類 non det. 尾部棒状骨	2	0.016	
灰集中10-31	第2灰層	魚類 non det. 部位不明	11	42.13	
灰集中10-31	第2灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	3	0.095	
灰集中10-31	第2灰層	鳥綱 Aves non det. 腕骨遠位端突起?	1	0.04	
灰集中10-31	第2灰層	齧歯目 Rodentia non det. 下顎切歯	1	0.001	
灰集中10-31	第2灰層	齧歯目 Rodentia non det. 上顎切歯	1	0.004	
灰集中10-31	第2灰層	小型イヌ科 Canidae sp. 第1後臼歯?	1		
灰集中10-31	第2灰層	小型哺乳綱 Mammalia non det. 左大腿骨 遠位端を欠く	1	0.006	
灰集中10-31	第2灰層	シカ Cervus nippon yesoensis 末節骨 近位端	1	0.132	
灰集中10-31	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	14	0.565	
灰集中10-31	第2灰層	骨片まじり炭化物		566.542	
灰集中10-33	第2灰層	貝類 non det. 真珠光沢ある細片含む	8	0.031	
灰集中10-33	第2灰層	ニシン科 Clupeidae sp. 椎骨	10	0.053	
灰集中10-33	第2灰層	ニシン科 Clupeidae sp. 頭部骨	60	0.345	
灰集中10-33	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	869	4.419	
灰集中10-33	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	59	0.483	
灰集中10-33	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯骨	1	0.015	
灰集中10-33	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	40	0.158	
灰集中10-33	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨片	322	0.44	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	3	0.056	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 鎖骨	1	0.081	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	1	0.034	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌頭骨	1	0.011	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨破片	6	0.026	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	2	0.58	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 骨盤骨	4	0.038	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭部骨	38	0.509	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	43	0.443	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌頭骨	18	0.144	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	10	0.084	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 方骨	2	0.024	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae? 基鰭骨	12	0.042	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	4	0.02	
灰集中10-33	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 尾軸骨	1	0.004	
灰集中10-33	第2灰層	魚類 non det. 椎骨	5	0.036	
灰集中10-33	第2灰層	魚類 non det. 鱗		5.196	
灰集中10-33	第2灰層	魚類 non det. 部位不明	20	0.168	
灰集中10-33	第2灰層	齧歯目 Rodentia non det. 行兎骨	1	0.008	
灰集中10-33	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	43	0.601	
灰集中10-33	第2灰層	骨片まじり炭化物		32.02	
灰集中10-39	第2灰層	二枚貝綱貝類 non det.			
灰集中10-39	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	1	0.004	
灰集中10-39	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	10	0.035	
灰集中10-39	第2灰層	魚類 non det. 鱗蓋骨破片	4	0.013	
灰集中10-39	第2灰層	魚類 non det. 鱗	2	0.065	
灰集中10-39	第2灰層	魚類 non det. 部位不明	2	0.004	
灰集中10-39	第2灰層	イヌ科 Canidae sp. 右下顎 第1前臼歯	1		
灰集中10-41	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	1	0.068	
灰集中10-41	第2灰層	鳥綱 Aves non det. 脛骨 遠位端	1		
灰集中10-41	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による加工に随伴する骨片			
灰集中10-41	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明			
灰集中10-41	第2灰層	齧歯目 Rodentia non det. 上腕骨	1		近位端を欠く
灰集中10-42	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	1		
灰集中10-42	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	5		
灰集中10-45	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	18	0.325	
灰集中10-45	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	3	0.232	
灰集中10-45	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. (小型) 歯	4	0.008	
灰集中10-45	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	142	0.469	
灰集中10-45	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 下尾軸骨	1	0.005	
灰集中10-45	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 頭部骨	5	0.165	
灰集中10-45	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	1	0.025	
灰集中10-45	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 舌頭骨	1	0.006	
灰集中10-45	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	5	0.011	
灰集中10-45	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨	1	0.064	
灰集中10-45	第2灰層	コイ科 Cyprinidae? 咽頭歯	3	0.001	
灰集中10-45	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 基鰭骨	1	0.16	
灰集中10-45	第2灰層	魚類 non det. 部位不明		0.008	
灰集中10-45	第2灰層	魚類 non det. 鱗		1.162	
灰集中10-45	第2灰層	齧歯目 Rodentia non det. 切歯	1	0.014	
灰集中10-45	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	1	0.148	
灰集中10-45	第2灰層	骨片まじり炭化物		52.831	



表Ⅷ-2-34 灰集中10第2灰層の動物遺存体(3)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
灰集中10-47	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 歯	1	0.01	
灰集中10-47	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	4	0.045	
灰集中10-47	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	14	0.163	
灰集中10-47	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.055	
灰集中10-47	第2灰層	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	1	0.003	
灰集中10-47	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明 金属器による切断	1	0.18	加工痕有り
灰集中10-47	第2灰層	骨片まじり炭化物		98.216	
灰集中10-49	第2灰層	鳥綱 Aves non det. 部位不明	1		
灰集中10-52	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨	6	0.169	
灰集中10-52	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.14	
灰集中10-52	第2灰層	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	6	0.235	
灰集中10-52	第2灰層	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	2	0.125	

表Ⅷ-2-35 炭化物集中・灰集中の動物遺存体(1)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	重量	備考
炭化物集中1	表土	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	4	0.029	
炭化物集中1	表土	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.011	
炭化物集中1	表土	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	2	0.008	
炭化物集中1	表土	鳥綱 Aves non det. 部位不明	1	0.053	
炭化物集中1		哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	32	0.451	
炭化物集中4	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.058	
炭化物集中4	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	15	0.052	
炭化物集中4	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 角舌骨	1		
炭化物集中4	0B	魚類 non det. 椎骨	2		
炭化物集中4	0B	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	5	0.156	
炭化物集中5	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.004	
炭化物集中5	0B	哺乳綱 Mammalia? 部位不明	2	0.046	
炭化物集中6	0B	サケ科 Salmonidae sp. 歯	3	0.021	
炭化物集中6	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.164	
炭化物集中6	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	8	0.038	
炭化物集中6	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	2	0.006	
炭化物集中6	0B	シカ Cervus nippon yesoensis 左挽骨 骨幹外側	1		
炭化物集中6	0B	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	144	19.956	
炭化物集中8	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.343	
炭化物集中8	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	105	0.546	
炭化物集中8	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	9	0.048	
炭化物集中8	0B	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	1	0.006	
炭化物集中9	0B	サケ科 Salmonidae sp. 歯	3	0.034	
炭化物集中9	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.425	
炭化物集中9	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	51	0.345	
炭化物集中9	0B	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	12	0.04	
炭化物集中9	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	34	0.244	
炭化物集中9	0B	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	1	0.005	
炭化物集中9	0B	魚類 non det. 棘	2	0.011	
炭化物集中9	0B	魚類 non det. 角骨	1	0.015	
炭化物集中9	0B	骨片まじり炭化物		4.941	
炭化物集中11	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.045	
炭化物集中11	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	2	0.011	
炭化物集中11	0B	骨片まじり炭化物		1.14	
炭化物集中12	0B	貝類 non det. 細片	1		
炭化物集中12	0B	サケ科 Salmonidae sp. 歯	2	0.005	
炭化物集中12	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		0.024	
炭化物集中12	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	3	0.004	
炭化物集中12	0B	魚類 non det. 部位不明		0.081	
炭化物集中12	0B	哺乳綱 Mammalia? 部位不明	1	0.095	
炭集中13	0B	カワシンジュガイ Margaritifera laevis? 殻皮	1	0.018	
炭集中13	0B	ウニ綱 Echinoidea non det. 棘?	1	0.004	
炭集中13	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	3	0.004	
炭集中13	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	1	0.005	
炭集中13	0B	魚類 non det. 棘	3	0.009	
炭集中13	0B	哺乳綱 Mammalia? 頭骨一部?	1	0.024	
炭集中13	0B	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	15	0.129	
炭集中14	0B	カワシンジュガイ Margaritifera laevis 破片		0.289	
炭集中14	0B	カワシンジュガイ Margaritifera laevis 殻皮	1	0.004	
炭集中14	0B	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis 細片	4	4.42	被熱
炭集中14	0B	エゾワスレガイ Callista (Ezocallista) brevisiphonata	3	0.116	
炭集中14	0B	二枚貝綱貝類 non det.	2	0.335	
炭集中14	0B	貝類 non det. 細片		1.032	
炭集中14	0B	ニシン Clupea pallasii 頭部骨	65	0.424	
炭集中14	0B	サケ科 Salmonidae sp. 上後頭骨	3	0.023	
炭集中14	0B	サケ科 Salmonidae sp. 頭骨破片	1195	4.996	
炭集中14	0B	サケ科 Salmonidae sp. 棘		31.034	
炭集中14	0B	サケ科 Salmonidae sp. 歯	258	2.482	
炭集中14	0B	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨破片	3620	19.02	
炭集中14	0B	サケ科 Salmonidae sp. 尾軸骨	4	0.283	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭歯	4	0.015	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 上顎骨	1	0.061	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 舌頭骨	1	0.044	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 角骨	11	0.142	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 下顎蓋骨	3	0.046	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 下尾軸骨	1	0.011	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 胸鰭棘	1	0.048	
炭集中14	0B	コイ科 Cyprinidae sp. 椎骨	2	0.019	
炭集中14	0B	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 棘		0.039	
炭集中14	0B	イトヨ科 Gasterosteidae sp. 頭部破片	34	0.046	
炭集中14	0B	魚類 non det. 椎骨	309	1.681	
炭集中14	0B	魚類 non det. 基後頭骨	1	0.134	
炭集中14	0B	魚類 non det. 棘破片	26	0.12	
炭集中14	0B	魚類 non det. 部位不明	6	16.495	
炭集中14	0B	魚類 non det. 下尾軸骨	3	0.043	
炭集中14	0B	キジ Phasianus colchicus? 頸椎	1	0.152	
炭集中14	0B	鳥綱 Aves non det. 部位不明	11	0.12	
炭集中14	0B	齧歯目 Rodentia non det. 下臼歯	2	0.025	
炭集中14	0B	シカ Cervus nippon yesoensis 脛骨 骨幹後面から外側 切痕あり	1	3.345	

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-36 炭化物集中・灰集中の動物遺存体(2)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	質量	備考
灰集中14	0B	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 肋骨 切痕あり	2	1.361	
灰集中14	0B	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明	38	4.106	
灰集中14	0B	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明 金属器による加工に随伴する削片	5	0.458	加工痕あり
灰集中14	0B	竹片まじり炭化物		0.585	
灰集中14	0B下	魚類 <i>non det.</i> 頭部破片	209	1.004	
灰集中14	0B下	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	19	0.118	
灰集中14	0B下	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 椎骨破片	241	1.39	
灰集中14	0B下	魚類 <i>non det.</i> 鱗	2	3.439	
灰集中14	0B下	哺乳綱 <i>Mammalia?</i> 部位不明	11	0.155	
灰集中14	0B下	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 椎骨	1	0.002	
炭化物集中16	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	1	0.012	
炭化物集中16	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 椎骨	9	0.025	
炭化物集中16	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 椎骨	3	0.006	
炭化物集中16	0B	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 角 金属器による加工に随伴する削片			
炭化物集中16	0B	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明 金属器による切断	2		
炭化物集中17	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	6	0.23	
炭化物集中17	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 椎骨	2	0.016	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 椎骨	31	0.355	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 歯	1	0.022	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 副蝶形骨	3	0.03	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 角骨	2	0.028	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 尾舌骨	1	0.008	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 角舌骨	3	0.062	
炭化物集中17	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 頭部骨	244	2.06	
炭化物集中17	0B	魚類 <i>non det.</i> 鱗		0.024	
炭化物集中18	I B-1	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	2	0.018	
炭化物集中18	I B-1	魚類 <i>non det.</i> 部位不明		0.039	
炭化物集中20	0B	カワシンジュガイ <i>Margaritifera laevis</i>		0.004	
炭化物集中20	0B	貝類 <i>non det.</i>		0.012	
炭化物集中20	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 鱗		0.009	
炭化物集中20	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 椎骨	10	0.052	
炭化物集中20	0B	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 椎骨	1	0.004	
炭化物集中20	0B	魚類 <i>non det.</i> 部位不明		0.036	
炭化物集中21	0B	カワシンジュガイ <i>Margaritifera laevis</i>	1	0.005	
炭化物集中21	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 椎骨	40	0.169	
炭化物集中21	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 鱗		0.053	
炭化物集中21	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	3	0.025	
炭化物集中21	0B	魚類 <i>non det.</i> 部位不明		0.109	
炭化物集中21	I B-1	カワシンジュガイ <i>Margaritifera laevis?</i> 殻皮		0.012	
炭化物集中22		カワシンジュガイ <i>Margaritifera laevis</i> 殻皮		0.535	
炭化物集中22	0B	ホタテガイ <i>Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis</i>	2	4.445	
炭化物集中22	0B	サバ科 <i>Scombridae sp.</i> 左鎖骨	1	2.944	マグロ類?
炭化物集中22	0B	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 椎骨	2665	16.848	
炭化物集中22	0B	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 左脛骨 近位骨幹外側	1		
炭化物集中22	0B	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明	2110	201.338	
炭化物集中22	I B-1	カワシンジュガイ <i>Margaritifera laevis</i>		1.302	
炭化物集中22	I B-1	ホタテガイ <i>Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis?</i>		0.121	
炭化物集中22	I B-1	ホタテガイ <i>Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis</i>	1	0.429	
炭化物集中22	I B-1	陸産貝類 <i>non det.</i>	4	0.004	
炭化物集中22	I B-1	アブラザメ科(ツノザメ科) <i>Squalina sp.</i> 鱗	2	0.023	
炭化物集中22	I B-1	ニシン <i>Clupea pallasii</i> 頭部骨	61	0.394	
炭化物集中22	I B-1	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 歯	139	2.483	
炭化物集中22	I B-1	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 頭骨	235	3.486	
炭化物集中22	I B-1	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 鱗	5	12.628	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 椎骨	4	0.024	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 主上顎骨	2	0.102	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 副蝶形骨	1	0.082	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 上舌骨	2	0.062	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 前上顎骨	2	0.029	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 鎖骨	1	0.091	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 主鰓蓋骨	2	0.229	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 下鰓蓋骨	2	0.061	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 咽頭骨	2	0.012	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 前鰓蓋骨	1	0.022	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 角骨	1	0.024	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 尾舌骨	1	0.008	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 方骨	1	0.009	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 舌顎骨?	1	0.012	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 咽頭歯	3	0.022	
炭化物集中22	I B-1	コイ科 <i>Cyprinidae sp.</i> 肋骨	4	0.051	
炭化物集中22	I B-1	魚類 <i>non det.</i> Scale?	1	+	
炭化物集中22	I B-1	魚類 <i>non det.</i> 鱗	15	0.018	
炭化物集中22	I B-1	魚類 <i>non det.</i> 椎骨	104	0.565	
炭化物集中22	I B-1	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae sp.</i> 臼歯	1	0.002	
炭化物集中22	I B-1	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae sp.</i> 右下顎骨	1	0.044	
炭化物集中22	I B-1	齧歯目 <i>Rodentia</i> ネズミ科 <i>Muridae sp.</i> 右脛骨 遠位端	1	0.021	
炭化物集中22	I B-1	齧歯目 <i>Rodentia non det.</i> 臼歯	1	0.009	
炭化物集中22	I B-1	齧歯目 <i>Rodentia non det.</i> 門歯	1	0.013	
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 中尾骨 掌側	1		
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 中手・中尾骨 背側	1		
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 脛骨 内側ヒラメ筋線部	1		
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis?</i> 第2?仙椎	1		
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 右下顎骨 閉鎖突起	1		
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 上腕骨 滑車外側	1		
炭化物集中22	I B-1	シカ <i>Cervus nippon yesoensis</i> 角片	1	0.566	
炭化物集中22	I B-1	小型哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 右尺骨 滑車切痕部	1	0.008	
炭化物集中22	I B-1	小型哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 椎骨一部	1	+	
炭化物集中22	I B-1	小型哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 環椎	1	0.008	
炭化物集中22	I B-1	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明 金属器による加工に随伴する削片含む	2648	59.343	
炭化物集中22	I B-1	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明 金属器による切断片	2	0.246	
炭化物集中22	I B-1	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 部位不明 骨角器	1	0.215	
炭化物集中22	I B-1	哺乳綱 <i>Mammalia non det.</i> 歯根	1	0.064	
炭化物集中23	I B-1	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 鱗		0.021	
炭化物集中25	I B-1	サケ科 <i>Salmonidae sp.</i> 鱗		0.026	

表Ⅷ-2-37 炭化物集中・灰集中の動物遺存体(3)

遺構名・発掘区	層位	動物遺存体	点数	質量	備考
炭化物集中25	I B-1	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	111	4.646	
炭化物集中26	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		0.043	
炭化物集中26	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	5	0.023	
炭化物集中26	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 頭部骨	19	0.139	
炭化物集中26	I B-1	魚類 non det. 部位不明		0.093	
炭化物集中26	I B-1	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	12	2.439	
炭化物集中26	I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 頸椎 左後関節突起	1	0.263	
炭化物集中27	I B-1	魚類 non det. 部位不明		0.012	
炭化物集中28	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	1	0.013	
炭化物集中29	OB	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	1	0.011	
炭化物集中31	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 鱗		0.012	
炭化物集中31	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	13	0.069	
炭化物集中31	I B-1	魚類 non det. 部位不明		0.044	
灰集中22	I B-1	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis?	1	0.068	
灰集中22	I B-1	貝類 non det. 真珠光沢ある細片		0.059	
灰集中22	I B-1	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	28	0.944	

表Ⅷ-2-38 砂集中3の動物遺存体

遺構名	層位	動物遺存体	点数	質量	備考
砂集中3?	I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	1	0.006	
砂集中3?	I B-1	魚類 non det. 部位不明		0.012	

表Ⅷ-2-39 貝集中の動物遺存体

遺構名	層位	動物遺存体	点数	質量	備考
貝集中	OB	カワシジユガイ Margaritifera laevis		9.336	
貝集中1	OB	カワシジユガイ Margaritifera laevis 殻皮		2.01	
貝集中2	OB	カワシジユガイ Margaritifera laevis 殻皮		2.21	
貝集中3?	OB	ホタテガイ Patinopecten (Mizuhopecten) yesoensis	2	4.4	破熟
貝集中4	OB	カワシジユガイ Margaritifera laevis 殻皮		4.24	

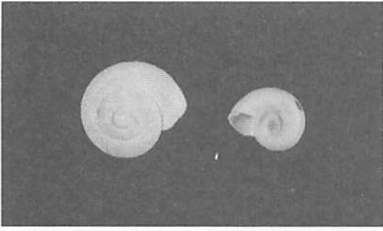
表Ⅷ-2-40 包含層の動物遺存体(1)

層位	動物遺存体	点数	質量	備考
表土	シカ Cervus nippon yesoensis 左下顎第1後臼歯	1	2.36	咬耗極度に進行
表土	シカ Cervus nippon yesoensis? 右脛骨近位骨幹外側?	1		
表土	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	3	2.38	
表土	哺乳綱 Mammalia? 部位不明		0.66	破熟
OB	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨片	2		
OB	コイ科 Cyprinidae sp. 咽頭骨片	1		
OB	魚類 non det. 椎骨	5		
OB	イヌ Canis Familiaris 左下顎第1後臼歯(裂肉歯)	1	1.54	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 左尺骨橈骨切痕およびその下部	1	4.94	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 左距骨 載距突起より下を欠く 踵骨隆起遊離欠損	1		
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 右脛骨遠位端	1		
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 右橈骨外側(尺骨体一部が融合して残る)	1	15.18	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 右大腿骨小転子およびその周辺	1	12.51	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis? 肩甲骨	1	4.22	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 歯冠 歯根	23	5.43	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 右下顎第3後臼歯 歯冠	1	3.91	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 歯冠 歯根	10	2.34	
OB	シカ Cervus nippon yesoensis 左第4手根骨	1	1.88	
OB	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	4	8.4	
OB下	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨片	9		
OB下	シカ Cervus nippon yesoensis? 大腿骨前面?	1	8.85	
OB下	シカ Cervus nippon yesoensis 脛骨骨幹後面	1	5.34	
OB下	シカ Cervus nippon yesoensis 脛骨骨幹後面	1	5.45	
OB下	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	1	6.38	
OB~I B-1	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	1	0.49	
I B-1	サケ科 Salmonidae sp. 椎骨	14		腹椎1, 尾椎2
I B-1	ガン・カモ科 Anatidae sp. 小型カモ類 右上腕骨近位端	1	2.32	
I B-1	鳥綱 Aves non det. 部位不明	1	0.498	
I B-1	イヌ Canis Familiaris 肋骨	4	5.54	
I B-1	イヌ Canis Familiaris 左距骨	1	3.004	
I B-1	イヌ Canis Familiaris 腰椎	1	2.63	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左脛骨 骨幹内側	1	8.39	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左大腿骨近位骨幹 小転子およびその上下	1		内側に挟り状のカット
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左肩甲骨上窩および前縁	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右? 大腿骨遠位骨幹内側	1		金属器による骨幹を直交するカット
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左下顎第3後臼歯 歯冠	1	3.92	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左踵骨	1	4.66	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左橈骨近位端	1		橈骨頭内側の粗面に多くの細かいカット
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左尺骨近位滑車切痕およびその周辺	1		上の橈骨と異個体
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左下顎第2後臼歯 歯冠	1	2.94	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis? 脛骨 骨幹前縁下面?	1	5.43	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右脛骨 近位骨幹外側	1	5.44	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis? 橈骨?	1	4.9	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右橈骨 骨幹後面内側	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右踵骨 踵骨隆起遊離欠損	1	21.29	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右脛骨 骨幹後面ヒラメ筋線起点周辺	1	9.46	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 角 第1枝?	1	14.64	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左下顎第2後臼歯 歯冠	1	2.24	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 後臼歯 歯冠	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左橈骨近位端内側	1	6.99	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis? 左脛骨 近位骨幹内側膝窩筋線一部?	1	3.15	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左肩甲骨 関節窩~棘下窩、後縁	1	21.44	大型の個体
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左距骨	1	14.55	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左橈骨 後面尺骨体関節面	1	4.698	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis? 頸椎 椎頭窩	1	0.41	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 肋骨	1	2.43	金属器により割られた痕跡
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左肩甲骨関節窩および肩甲骨頭	1	4.49	切痕あり
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右脛骨 骨幹外側	1	4.48	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis? 脛骨 遠位骨幹前面内側?	1		
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 左脛骨 骨幹後面膝窩筋線部	1	4.64	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 歯冠 歯根 咬耗なし	1	3.41	
I B-1	シカ Cervus nippon yesoensis 右下顎第3後臼歯 歯冠	1	3.42	

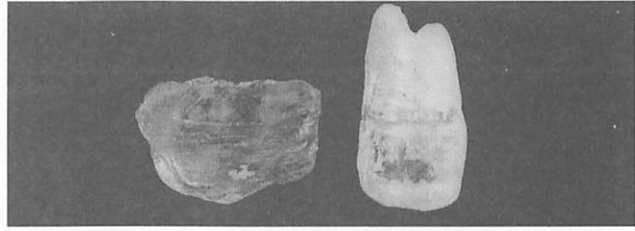
Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-2-41 包含層の動物遺存体(2)

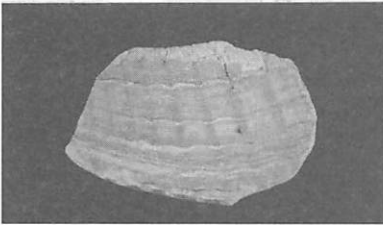
層位	動物遺存体	点数	重量	備考
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左踵骨 載距突起	1	1.99	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右脛骨遠位端	1	14.14	ヒラメ筋線を金属器でカット
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右脛骨遊離遠位端	1	6.49	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis? 脛骨 遠位股間前面?	1	3.43	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右脛骨骨幹後面	1	5.31	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 角 角幹および第2枝	1	16.91	第2枝は金属器にて切断
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左橈骨 後面尺骨体関節面	1	2.34	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 中手骨 掌側	1	1.61	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左下顎骨 下顎枝~下顎角	1	15.43	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis? 腕骨 近位骨幹?	1	2.09	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右下顎骨 下顎角を切除?	1	80.04	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左下顎骨第2・3後臼歯および歯槽	1	10.46	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 末節骨	1	5.09	
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 脛骨 骨幹後面内側片	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 種子骨	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右第4手根骨	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左橈骨後面外側	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左橈骨近位骨幹内側	1		挟り状のカット
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左肩甲骨後縁	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左脛骨 近位骨幹内側	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右脛骨 近位骨幹後面	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 右脛骨 近位骨幹後面	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 脛骨 近位外側栄養孔周辺	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 葉状舌骨	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左踵骨	1		
I B-1	シカ Ceruvus nippon yesoensis 第5頸椎 右後関節突起	1	0.49	被熱
I B-1	哺乳綱 Mammalia non det. 頭骨?	103	4.62	
I B-1	哺乳綱 Mammalia? 肋骨	1	1.003	
I B-1	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	35	68.81	
I B-2	哺乳綱 Mammalia non det. 左大腿骨外側顆	1	2.98	
I B-2	哺乳綱 Mammalia non det. 部位不明	3	2.14	被熱
I B-4	シカ Ceruvus nippon yesoensis 左踵骨	1	14.14	



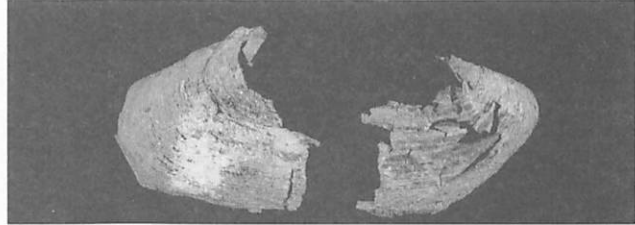
陸産貝類



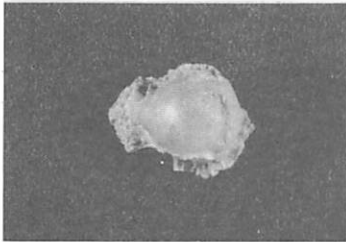
ホタテガイ



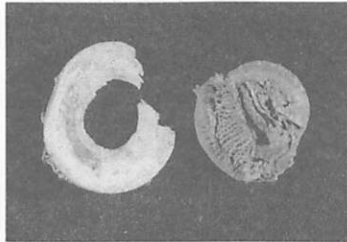
タマキガイ



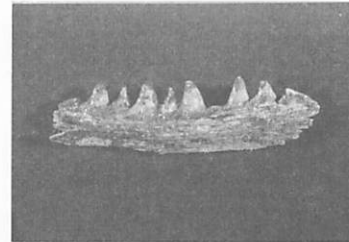
カワシンジュガイ



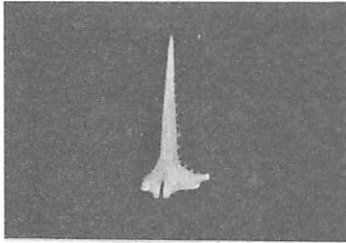
ニシン耳骨



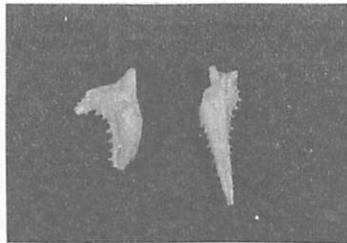
サケ科椎骨



サケ科歯および歯槽



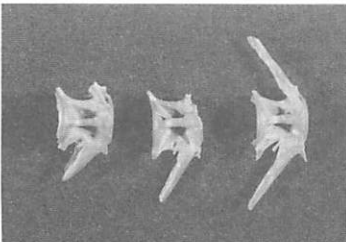
イトヨ科 背鰭棘



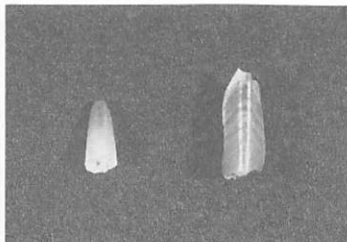
イトヨ科 腹鰭棘



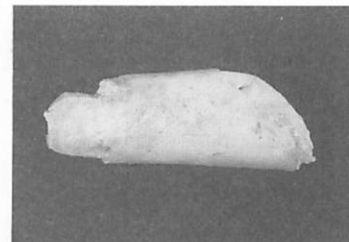
コイ科 (ウグイ類) 咽頭骨



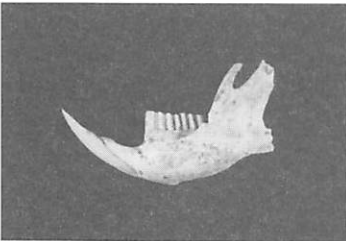
コイ科 椎骨



アブラザメ科 (ツノザメ科) 棘



大型鳥類



齧齧目 左下顎骨

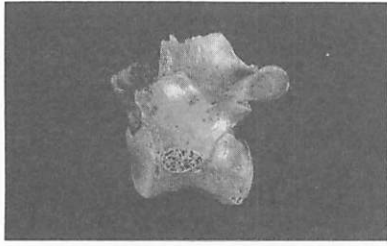


サバ科 マグロ類? 左鎖骨

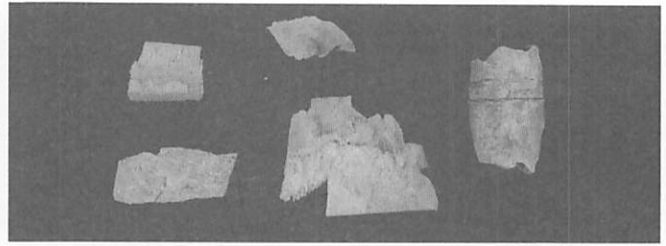


イヌ左下顎第一後臼歯

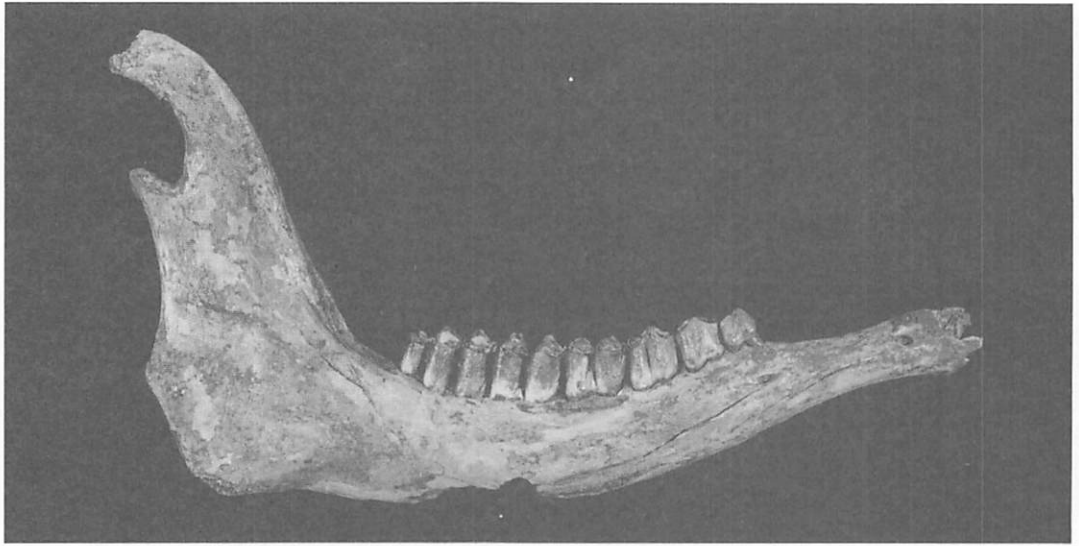
図VIII-2-5 出土動物遺存体 (1)



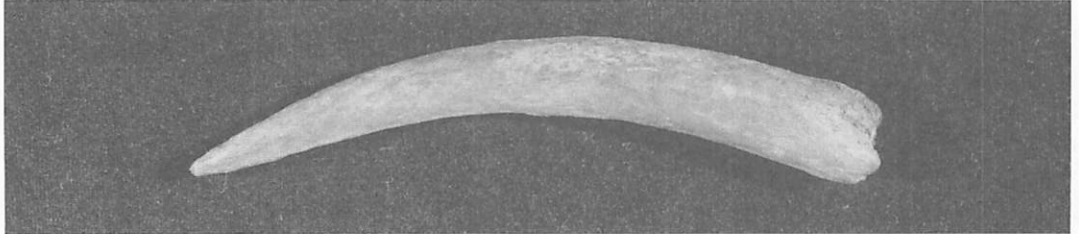
イヌ 腰椎



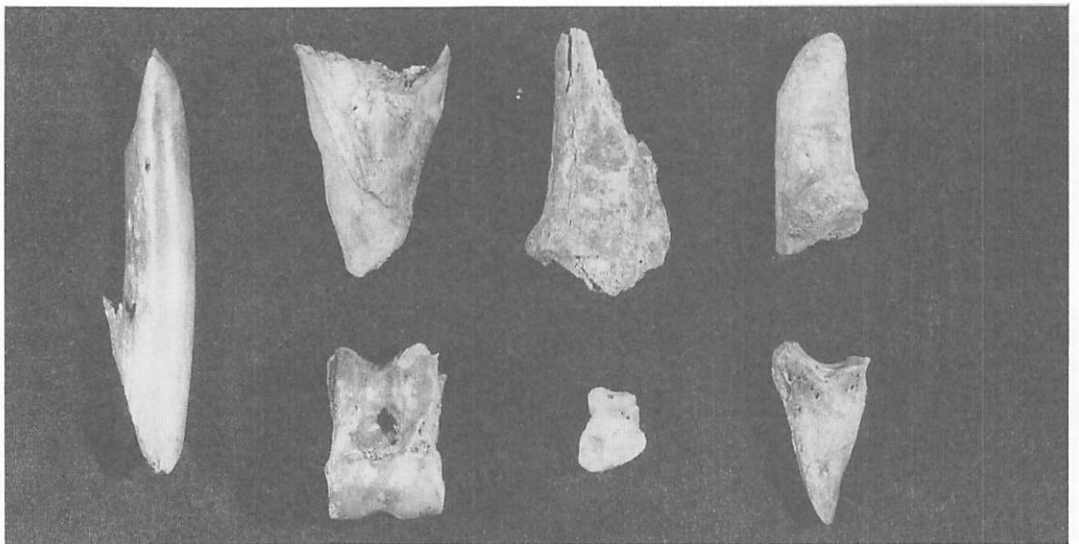
金属器による削片 (鹿角など)



シカ 右下顎骨



シカ 角尖端



シカ 橈骨・大腿骨・脛骨・踵骨・第四手根骨・末節骨

図Ⅷ-2-6 出土動物遺存体(2)

## 3 美々8 遺跡低湿部の珪藻化石・植物珪酸体よりみた環境変遷

パリノ・サーヴェイ株式会社

## 1 はじめに

千歳市南部地域には、樽前山・恵庭岳・支笏カルデラ噴出物により形成された台地が広がり、この台地を美沢川・ベンケナイ川・パンケナイ川などの河川が開析する小支谷が存在する。美々8 遺跡は、美沢川により開析された小支谷の低湿地部から台地上にかけて立地する。本遺跡では、台地部で縄文時代～中・近世アイヌ文化期の遺物包含層、低湿地部側で擦文時代～中・近世アイヌ文化期の遺物包含層が確認されている。また、文献資料等の調査により、少なくとも寛文7（1667）年以降から18世紀の頃まで太平洋側と日本海側を結ぶ交通路の中継地点的な役割を持っていたことが明らかにされている（鈴木、1996）。

本遺跡では、山田（1996）により花粉分析が既に実施されており、遺跡周辺の森林植生について明らかにされつつある。今回の自然科学分析調査では、低湿地部の環境変化について珪藻分析・植物珪酸体分析から検討を行った。

## 2 試料と層序

試料の採取にあたって、発掘調査区のほぼ中央に設定されたA-BラインでLoc.1・2、発掘区南東部のC-DラインでLoc.3、C-Dラインよりさらに南東側のE-FラインでLoc.4が設けられ、各地点から層位試料が採取された（図1）。なお、各試料は、山田（1996）で実施された花粉分析の分析試料とほぼ同一地点から採取されている。

本調査区では、下位より台地部のII B層に相当するウ層（暗褐色泥炭）、イ層（明灰白色砂土）、ア層（灰褐色泥炭質シルト）、樽前c降下軽石（Ta-c）、IB-7層（灰褐色シルト）、IB-6層（暗褐色腐植質シルト）、IB-5層（暗褐色泥炭）、IB-4層（黒色泥炭）、IB-3層（暗褐色泥炭）、白頭山-苦小牧火山灰（B-Tm）、IB-2層（暗褐色礫混じり砂質泥炭）、IB-1層（褐色～暗褐色泥炭・灰褐色粘質土）、樽前b降下軽石（Ta-b）、0 B層（褐色泥炭）、樽前a降下軽石（Ta-a）とされ、Loc.3でIB-1層中に有珠b降下軽石（Us-b）を挟む。本遺跡で認められた火山灰の降灰年代については、町田・新井（1992）を参考にすると、Ta-cが2500～3000年前、B-Tmが800～900年前、Us-bが1663年、Ta-bが1667年、Ta-aが1739年とされている。図2にLoc.1～4の層序および試料採取層位を模式柱状図にて示す。

## 3 分析方法

## (1) 珪藻分析

試料を湿重で1～7g秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K.Krammer and Lange-Bertalot（1986・1988・1991a・1991b）、K.Krammer（1992）などを用いる。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、淡水生種順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（PH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、

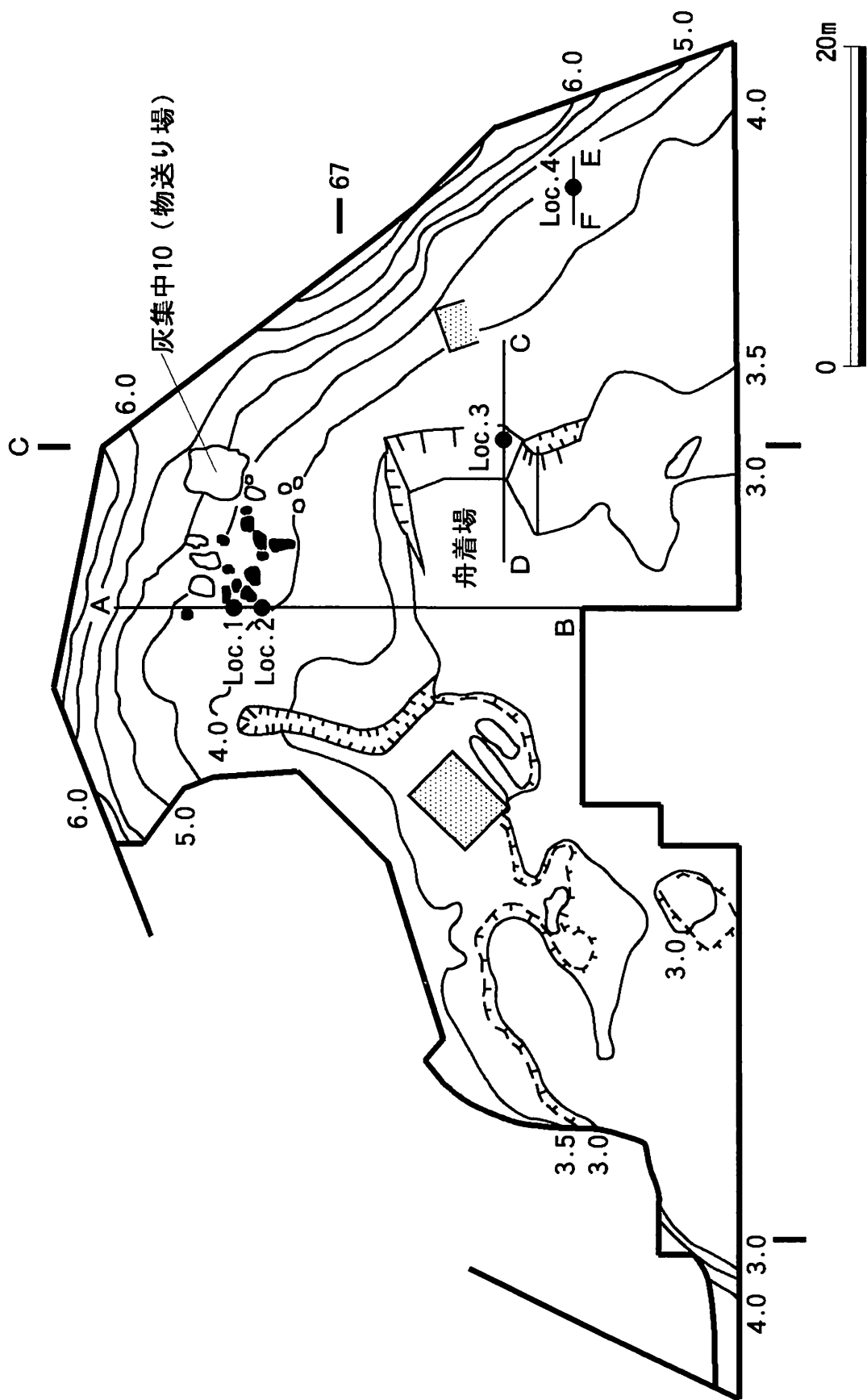


図1 遺構平面図および試料採取地点



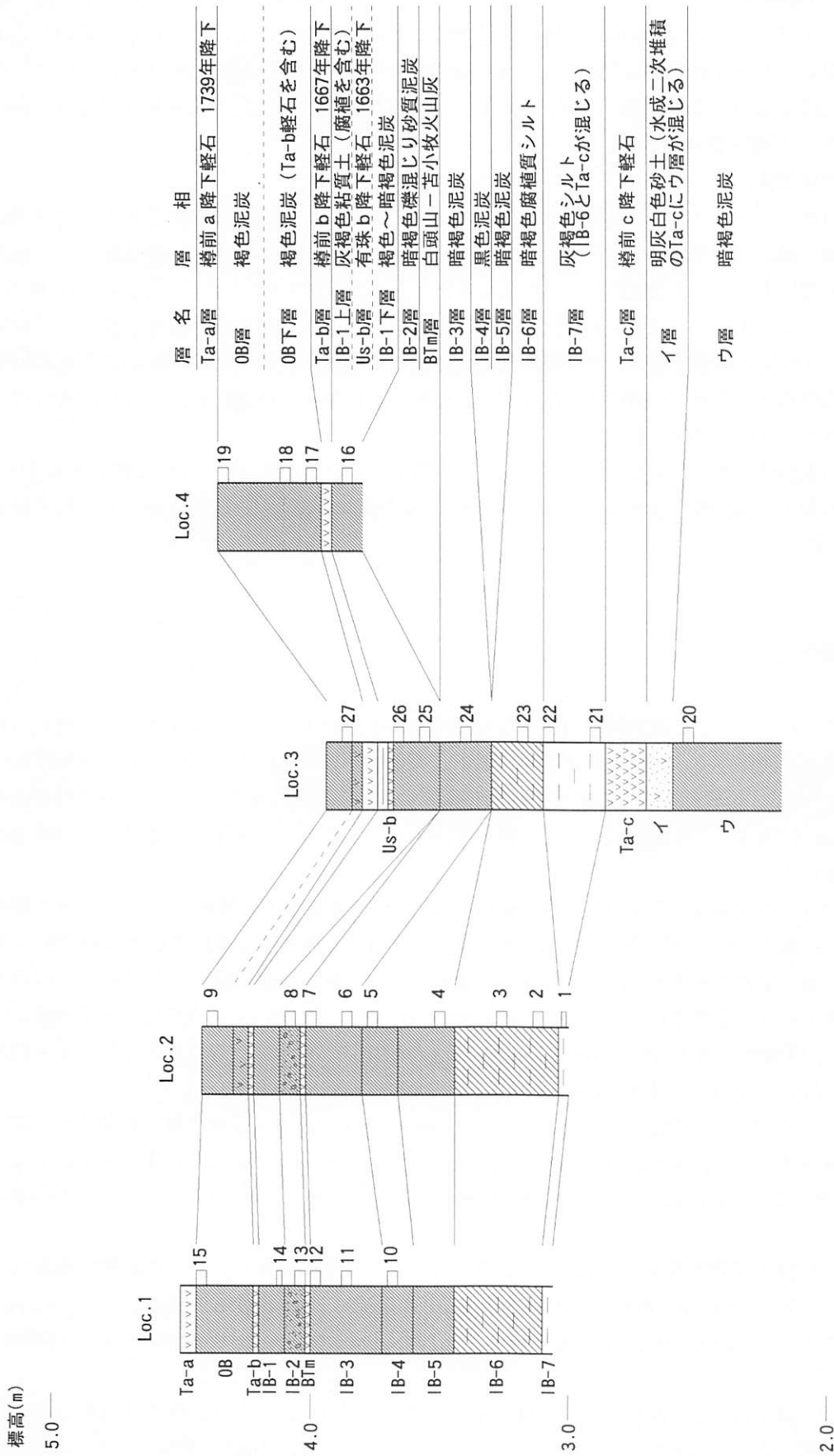


図2 試料採取地点の模式柱状図

産出個体数100個体以上の試料については、産出率2%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の変遷図を作成する。また、産出した化石が現地性の化石か異地性の化石かを判断する目安として完形殻の出現率を求め考察の際に考慮する。堆積環境の解析にあたっては、水生珪藻については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性については、Asai, K. & Watanabe, T. (1995)の環境指標種を参考とする。

#### (2) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理して、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プレウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、出現個体数の一覧表に表示する。また、生育していたイネ科植物について検討するために、植物珪酸体群集の変遷図を作成する。出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体のそれぞれの総数を基数として求める。

### 4 結果

#### (1) 珪藻化石

##### <Loc. 1>

結果を表1・図3に示す。試料番号11・12は珪藻化石の産出が少ない。それ以外の4試料からは、淡水生種が豊富に産出する。完形殻の出現率(以下、完形率)は70%以上と高い。産出分類群数は、23属110種類である。全般的傾向として水生珪藻が優占するが、水域以外の陸上のコケや土壌表面などの特殊な環境に付着生育する陸生珪藻も30%前後産出する。本地点の珪藻化石群集は、その特徴から3つに区分される。

試料番号10は、水生珪藻としては、少量の塩分には耐えられる貧塩不定性種、PH7以下の酸性水域に特徴的に生育する真+好酸性種、流水にも止水にも生育する流水不定性種と止水に特徴的な真+好止水性種が優占または多産する。陸生珪藻は、耐乾性の強い陸生珪藻A群が優占する。産出種の特徴は、好酸性で流水不定性の*Pinnularia divergentissima*が30%と優占し、真酸性・好止水性の*Eunotia exigua*、好酸性・真止水性の*Aulacoseira alpigena*が10%前後検出される。また、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約15%と多産する。

試料番号13・14では、好酸性の*Pinnularia divergentissima*など真+好酸性種が減少する。産出種の特徴は、流水不定性の*Achnanthes exigua*、*Gomphonema parvulum*、*Navicula elginensis*、好止水性の*Fragilaria virescens*、それに陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*が10%前後と多産する。

試料番号15は真+好酸性種がさらに減少し、真+好アルカリ性種が優占する。産出種の特徴は、流水不定性の*Navicula veneta*、*Nitzschia archibaldii*、*N. palea*、好止水性の*Fragilaria brevistriata*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻B群の*Navicula seminulum*が10~20%と多産する。

##### <Loc. 2>

結果を表2・図4に示す。試料番号7では珪藻化石の産出が少ない。それ以外の8試料では珪藻化石が豊富に産出する。完形率は、70%以上と高い。産出分類群数は、29属150種類である。全般的には

水生珪藻が優占するが、試料番号8以浅で陸生珪藻が30~40%産出する。本地点の珪藻化石群集は、その特徴から3区分される。

試料番号1~6は、少量の塩分にも耐えられない貧塩嫌塩性種と貧塩不定性種、真+好酸性種、真+好止水性種が優占する。産出種の特徴は、好酸性で好止水性の*Melosira americana*が30~40%と優占し、これに付随して、好酸性・真止水性の*Aulacoseira alpigena*、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、流水不定性の*F. pinnata*が10%前後と多産する。

試料番号8になると、貧塩嫌塩性種、真+好酸性種、真+好止水性種が減少し、貧塩不定性種、流水不定性種が優占する。流水不定性の*Gomphonema parvulum*、*Navicula elginensis*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が10%前後と多産する。

試料番号9は、Loc.1の試料番号15で認められる珪藻化石の産状に生態性や産出種が近似しており、流水不定性の*Navicula veneta*、*Nitzschia palea*、好止水性の*Fragilaria brevistriata*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻B群の*Navicula seminulum*が5~20%と多産する。

#### <Loc.3>

結果を表3・図5に示す。各試料とも珪藻化石が豊富に産出する。完形率は、80%以上と非常に高い。産出分類群数は、30属155種類である。全般的には水生珪藻が優占することを特徴とする。本地点の珪藻化石群集も3つに区分される。

試料番号20は、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好止水性種が優占する。流水不定性の*Fragilaria pinnata*、好止水性の*Fragilaria construens fo. venter*が優占し、好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*Tabellaria flocculosa*を伴う。

試料番号21・22は、貧塩嫌塩性種と真+好酸性種が増加する。産出種の特徴は、好酸性で好止水性の*Melosira americana*が約30%と優占し、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、中性で好止水性の*Aulacoseira italica*、流水不定性の*F. pinnata*が10~15%出現する。

試料番号23~27は、真+好流水性種が増加する。産出種の特徴は、好酸性で止水性の*Melosira americana*、*Aulacoseira alpigena*が多産し、好アルカリ性で好止水性である*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、好流水性である*Achnanthes lanceolata*、*Diatoma tenuis*、*Melosira valians*、*Meridion circularae*を伴う。

#### <Loc.4>

結果を表4・図6に示す。各試料とも珪藻化石が豊富に産出する。完形率は、80%以上と非常に高い。産出分類群数は、25属141種類である。全般的には水生珪藻が優占するが、上位の試料番号19では陸生珪藻も約30%産出する。本地点の珪藻化石群集もその出現傾向から3つに区分される。

試料番号16は、貧塩不定性種、真+好アルカリ性種、真+好止水性種が優占あるいは多産する。産出種の特徴は、好アルカリ性で流水不定性の*Achnanthes minutissima*、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria capucina var. gracilis*、*F. capucina var. mesolepta*、好流水性の*Achnanthes lanceolata*、*Melosira valians*が10%前後と多産する。

試料番号17・18は真+好止水性種が増加する。好酸性、真止水性の*Aulacoseira alpigena*、中性で好止水性の*Aulacoseira italica*、好アルカリ性で好止水性の*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*、好酸性で好止水性の*Melosira americana*が10%前後と多産する。なお、試料番号18では流水不定性の*Fragilaria pinnata*が20%と多産する。

試料番号19になると真+好止水性種が急減し、流水不定性種や陸生珪藻が産出する。好流水性の

Ⅳ 自然科学的分析

表1 Loc. 1 の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性			環 境 指 標 種	15	14	13	12	11	10
	塩分	pH	流水							
Achnanthes clevei Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	1
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	19	3	-	-	-
Achnanthes hungarica Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	U	-	3	-	-	-	-
Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	4	3	1	-	-	1
Achnanthes lanceolata var. elliptica Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	1	-	-	-	-	-
Achnanthes marginulata Grunow	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	1
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-
Achnanthes peragalli Brun et Heribaud	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	-	-	-	-
Achnanthes rostrata Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	-	-	-	-	2
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-
Amphora ovalis var. affinis (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	3	1	-	-	-
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	-	-	-	-	-
Aulacoseira alpigena (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N, U	3	2	4	-	-	9
Aulacoseira distans (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N, U	1	1	-	-	-	-
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	3	5	7	-	-	1
Aulacoseira spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	1	-
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-
Caloneis undulata (Greg.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	1	-	-	1
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1
Cocconeis diminuta Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-	-	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	-	-	-	-
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	3	5	-	-	1
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	-	-	1
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	3	2	-	-	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-
Epithemia sorex Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	-	-	-	-	-
Epithemia turgida (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-	-	-	-	-
Eunotia bilunaris (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	-	-	-
Eunotia exigua (Breb.) Grunow	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	-	-	2	-	-	13
Eunotia fallax A. Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	-	-	-	-	-	1
Eunotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	1
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	2	2	-	1	-
Fragilaria bicapitata A. Mayer	Ogh-hob	ind	l-bi		1	-	-	-	-	-
Fragilaria bidens Heiberg	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-	-	-
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	16	3	2	-	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	6	1	5	-	-	3
Fragilaria parasitica (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	-	-	-	-
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	S	2	-	-	-	-	-
Fragilaria pinnata var. lancettula (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	-	-	1
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	2	-	-	-	-	-
Fragilaria virescens Ralfs	Ogh-ind	ac-il	l-ph	U	3	22	4	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	-	-	-	-
Gomphonema affine Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	2	1	-	-
Gomphonema angustatum var. linearis Hustedt	Ogh-ind	ac-il	unk		1	-	-	-	-	-
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	1
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	-	2	2	-	-	1
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	7	12	17	-	-	1
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	-	-	-	1
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	41	30	18	2	1	23
Martyana martyi (Heribaud) Round	Ogh-hil	al-il	ind		-	-	-	1	-	-
Melosira americana Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph		3	1	2	1	-	2
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	2	-	-	-	-	-
Meridion circulae Agardh	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	1	-	-	-	2
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	4	-	-	-	-	-
Navicula atomus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA, U	1	-	-	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	7	1	1	-	-	2
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	-	5	25	-	-	3
Navicula elginensis var. cuneata H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	5	1	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	3	-	-	-
Navicula gallica var. perpusilla (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	3
Navicula gregaria Donkin	Ogh-hil	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
Navicula laevisissima Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	1
Navicula laevisissima fo. fusticulus (Oestrup) H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	5	3	4	-	-	7
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	-	2	-	-	-	-
Navicula semenoides Hustedt	Ogh-unk	unk	l-ph		1	-	-	-	-	1



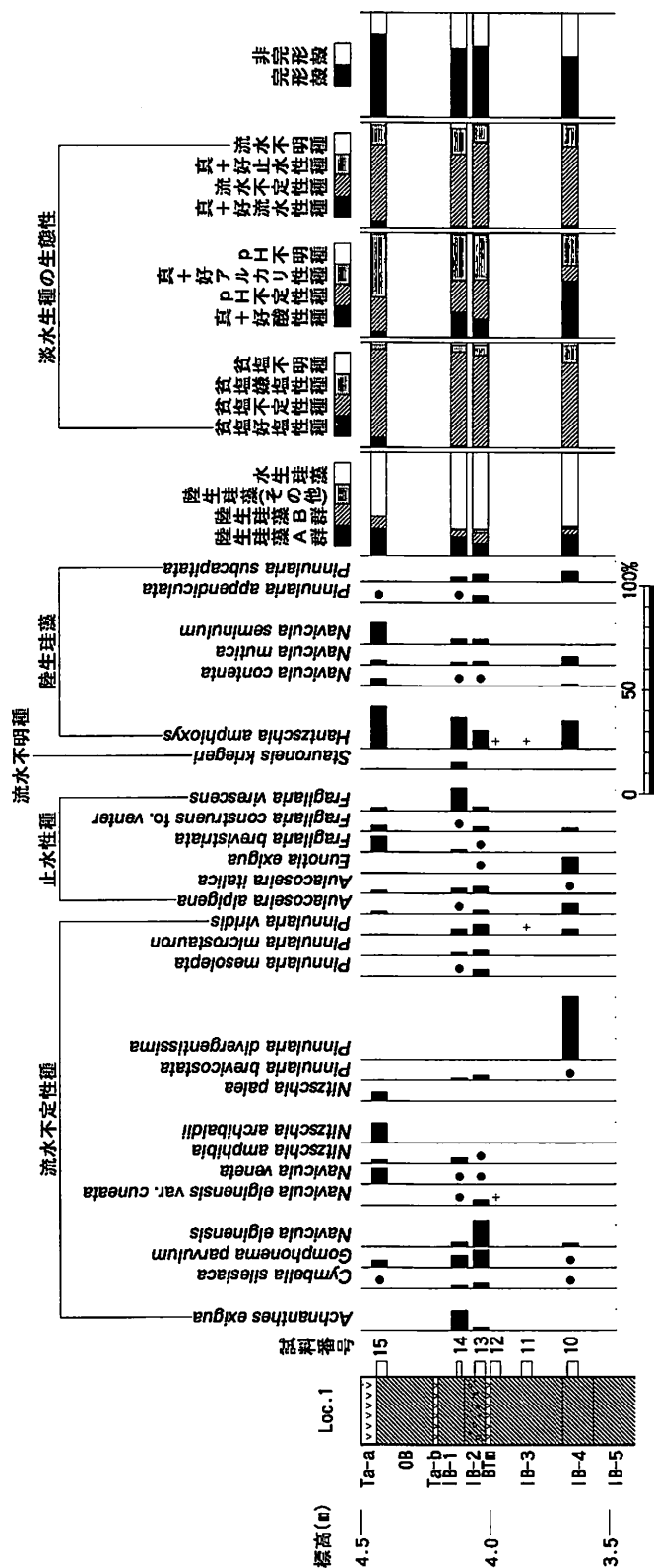


図3 Loc. 1 の主要珪藻化石群集の変遷  
 各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水性種の生態性の比率は淡水性種の合計を基数として百分率で算出した。  
 いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体未満の種類を示す。

表2 Loc. 2 の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性		環境 指標種	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	塩分	pH										
<i>Fragilaria subsalina</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Meh	al-il	T	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Achnanthes clevei</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	1	-	1	-
<i>Achnanthes hungarica</i> Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Achnanthes laevis</i> Oestrup	Ogh-hob	ac-il	unk	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	3	3	-	2	1	2	4	2	2
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	1	-	1
<i>Achnanthes marginulata</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	1	1	1	4
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>jackii</i> (Rabenh.) Lange-B. et Ruppel	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	1	-	1	2	3	-
<i>Achnanthes oestrupii</i> (Cl.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	2	1	1	1	1	2
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogh-unk	unk	r-ph	-	-	-	-	2	2	3	2	1
<i>Achnanthes subatomoides</i> (Hust.) Lange-B.	Ogh-ind	ind	unk	-	-	-	1	1	1	7	8	6
<i>Achnanthes suchlandtii</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	1	1	2	-	-
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Amphipleura pellucida</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	l-bi	-	-	-	1	1	1	-	3	-
<i>Anomooneis gomphonemacea</i> (Grun.) H. Kobayasi	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Anomooneis vitrea</i> (Grun.) Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	1	1	-	9	13	23	-	12	17
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	2	9	-	4	3	5	-	11	6
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>tenuissima</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	2	1
<i>Aulacoseira pensacolatae</i> (A. S.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	1	1	-	-	1	1
<i>Aulacoseira</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	1	1	5	-	4	4
<i>Bacillaria paradoxa</i> Gmelin	Ogh-hil	al-bi	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Caloneis hyalina</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis sillicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.) Krammer	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Cocconeis diminuta</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis disculus</i> Schumann	Ogh-ind	al-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Cymbella ehrenbergii</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Cymbella gracilis</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	1	2
<i>Diatoma tenuis</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	2	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	2	-	-	-	-	-
<i>Epithemia turfiga</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	l-ph	-	-	-	1	2	1	-	-	1
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	2	-	1	3	-	-

表 2 Loc. 2 の珪藻分析結果 (2)

種	類	生態性		環境 指標種	9	8	7	6	5	4	3	2	1
		塩分	pH										
<i>Eunotia exigua</i> (Breb.) Grunow		Ogh-hob	ac-bi	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia fallax</i> A. Cleve		Ogh-hob	ac-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia flexuosa</i> (Breb.) Kuetzing		Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia formica</i> Ehrenberg		Ogh-hob	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia implicata</i> Noepel & Lange-Bertalot		Ogh-hob	ac-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia monodon</i> var. <i>tropica</i> Hustedt		Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia naegelii</i> Migula		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia subarcuatooides</i> Noerpel & Lange-Bertalot		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia tenella</i> (Grun.) Hustedt		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia</i> spp.		Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria bicapitata</i> A. Mayer		Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow		Ogh-ind	al-il	l-ph	11	2	-	15	5	14	28	17	20
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustedt		Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	1	-	2	3	1	3
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.) Rabenhorst		Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> (Ehr.) Grunow		Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt		Ogh-ind	al-il	l-ph	6	1	-	5	9	11	16	7	24
<i>Fragilaria exigua</i> Grunow		Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith) Grunow		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lanceolata</i> (Schum.) Hustedt		Ogh-ind	al-il	ind	3	-	-	-	2	9	15	4	17
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs		Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia rhomboidea</i> (Ehr.) De Toni		Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>undulata</i> (Greg.) Grunow		Ogh-ind	al-il	ind	1	4	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustum</i> Agardh		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke		Ogh-ind	al-bi	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing		Ogh-ind	ind	ind	2	29	-	1	1	2	1	1	1
<i>Gomphonema quadripunctatum</i> (Oestrup.) Wislouch		Ogh-ind	al-bi	r-ph	-	-	-	-	-	-	2	-	-
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema</i> sp. -1		Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	2	2
<i>Gomphonema</i> spp.		Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow		Ogh-ind	al-il	ind	25	17	2	1	4	-	-	-	-
<i>Melosira americana</i> Kuetzing		Ogh-hob	ac-il	l-ph	4	8	-	62	46	90	61	85	82
<i>Melosira varians</i> Agardh		Ogh-hil	al-bi	r-ph	-	-	-	1	-	1	1	1	1
<i>Meridion circulae</i> Agardh		Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	2	1	5	3	4	5
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) V. Heurck		Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	3	1	-
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula bryophila</i> Boye-Petersen		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula cari</i> Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-



表 2 Loc. 2 の珪藻分析結果 (3)

種 類	生 態 性		環境 指標種	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	塩分	pH										
<i>Navicula clementoides</i> Hustedt	Ogh-ind	ind							1			
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-il										
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	RA, T	1					1			
<i>Navicula cryptotenella</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	U	1								
<i>Navicula elginensis</i> (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	ind	T									
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	O, U	1	20			2				
<i>Navicula hasta</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-il	U		2							
<i>Navicula mobilensis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-ind	al-il						1				
<i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	RA, S		4							
<i>Navicula occulta</i> Krasske	Ogh-unk	unk								1		
<i>Navicula placenta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	RI									
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	U									
<i>Navicula pseudoscutiformis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il										
<i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	S									
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	U						2			
<i>Navicula seminulum</i> Grunow	Ogh-ind	ind	RB, S	33	2							
<i>Navicula subnympharum</i> Hustedt	Ogh-ind	ind										
<i>Navicula submuralis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind										
<i>Navicula tenelloides</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	J, U		1							
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	U	17								
<i>Navicula ventralis</i> Krasske	Ogh-ind	ind	U									
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk		3								
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	RA		3							
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-unk	unk			1				2			
<i>Neidium bisulcatum</i> (Lagerst.) Cleve	Ogh-ind	ind	RI		1							
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	O		1							
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-hob	al-bi	S	3	2							
<i>Nitzschia archibaldii</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	U	3						3		
<i>Nitzschia dissipata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	T									
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-hil	al-bi										
<i>Nitzschia linearis</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	U									
<i>Nitzschia nana</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	RB, S		1							
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-ind	ind	U	6								
<i>Nitzschia paleacea</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	S	1								
<i>Nitzschia terrestris</i> (Pet.) Hustedt	Ogh-ind	ind	RI		2							
<i>Nitzschia</i> spp.	Ogh-unk	unk			4							
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	O		1							
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.) Cleve	Ogh-hob	ind	RB		3							
<i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	RA		1							
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	RA	2								
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	RA		1							
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-il			4							
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il			1							
<i>Pinnularia divergentissima</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il			1							
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	O		4							
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>sancta</i> (Grun. ex Cl.) Meister	Ogh-hob	ac-il	S									

表2 Loc. 2 の珪藻分析結果 (4)

種 類	生 態 性		環境 指標種	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	塩分	pH										
<i>Pinnularia interrupta</i> W. Smith	Ogh-ind	ac-il	ind									
<i>Pinnularia major</i> Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi					1				
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	1	6							
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph				1					
<i>Pinnularia notabilis</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind									
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Pinnularia schoenfelderii</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	1	3							
<i>Pinnularia similis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind				1					
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph					1				
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	1	13		3					
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hilse) M. Peragallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph									
<i>Pinnularia viridiformis</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind									1
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind		8					1		
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		6		1				1	
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph									1
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-ind	al-il	ind				2			1		2
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph		1							1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>hattorii</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind									
<i>Surirella</i> cf. <i>bifrons</i> Ehrenberg	Ogh-unk	unk	l-ph							1		
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind				1			1		2
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi					1		1		
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi						2	6		2
海水生種合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計				0	0	0	0	0	2	0	0	1
珪藻化石総数				140	210	4	147	123	224	212	212	242
凡例				140	210	4	147	123	226	212	212	243

H. R.: 塩分濃度に対する適応性  
 Meh: 汽水生種  
 Ogh-hil: 汽水好塩性種  
 Ogh-ind: 貧塩不定性種  
 Ogh-hob: 貧塩不定性種  
 Ogh-unk: 貧塩不明種  
 pH: 水素イオン濃度に対する適応性  
 al-bi: 真効利性種  
 al-il: 好効利性種  
 ind: pH不定性種  
 ac-il: 好酸性種  
 ac-bi: 真酸性種  
 unk: pH不明種  
 C. R.: 流水に対する適応性  
 l-bi: 真流水性種  
 l-ph: 好流水性種  
 ind: 流水不定性種  
 r-ph: 好流水性種  
 r-bi: 真流水性種  
 unk: 流水不明種

環境指標種  
 J: 上流性河川指標種 K: 中～下流性河川指標種 N: 湖沼沼沢湿地指標種  
 O: 沼沢湿地付着生種 (以上は安藤 1990)  
 S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)  
 RI: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群、伊藤・堀内, 1991)



表 3 Loc. 3 の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性		環境 指標種	27	26	25	24	23	22	21	20
	塩分	pH									
<i>Fragilaria subsalina</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Meh	al-il	T	1	1	1	1	1	4	2	2
<i>Achnanthes clevei</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	unk	-	-	2	-	-	1	1	-
<i>Achnanthes didyma</i> Hustedt	Ogh-hob	al-il	S	-	1	1	1	1	1	2	-
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	unk	1	1	3	-	-	1	-	-
<i>Achnanthes frigida</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	unk	2	-	-	-	2	1	1	-
<i>Achnanthes grana</i> Hohn&Hellermen	Ogh-ind	ac-il	r-ph	-	-	1	-	-	1	-	-
<i>Achnanthes cf. lacus-vulcani</i> Lange-B. & Krammer	Ogh-unk	unk	unk	20	15	13	8	8	3	-	2
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	K, T	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes lanceolata</i> var. <i>elliptica</i> Cleve	Ogh-ind	al-il	K, T	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	T	-	1	2	1	1	1	1	1
<i>Achnanthes marginulata</i> Grunow	Ogh-ind	ind	T	2	1	1	1	1	1	1	2
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetszing	Ogh-ind	al-il	U	-	2	1	2	5	1	-	6
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>jackii</i> (Rabenh.) Lange-B. et Ruppel	Ogh-ind	ind	T	1	-	2	2	2	-	-	1
<i>Achnanthes montana</i> Krasske	Ogh-ind	ind	RI, T	-	1	-	-	2	-	-	-
<i>Achnanthes oestrupii</i> (Cl.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	1	1	1	1	1	-	-	-
<i>Achnanthes peragalli</i> Brun et Heribaud	Ogh-ind	ind	l-ph	-	4	4	1	1	-	-	-
<i>Achnanthes rechteus</i> Leclercq	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	2	6	2	-	1	1	2	4
<i>Achnanthes rupestroides</i> Hohn	Ogh-unk	unk	unk	2	2	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes subatomoides</i> (Hust.) Lange-B. & Archibald	Ogh-unk	unk	T	5	5	5	3	6	5	8	8
<i>Achnanthes cf. subsalsae</i> Petersen	Ogh-hil	al-il	unk	-	-	1	1	1	-	-	-
<i>Achnanthes suchlandtii</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	T	-	-	1	1	1	1	2	-
<i>Achnanthes ventralis</i> (Krass.) Lange-B.	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	1	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	1	1	1	-	-	-
<i>Amphora inariensis</i> Krammer	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetsz.) V. Heurck	Ogh-unk	al-il	U	-	-	1	-	1	1	1	1
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetsz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	T	1	8	3	-	-	1	1	4
<i>Amphipleura pellucida</i> Kuetszung	Ogh-ind	al-il	l-bi	1	1	1	1	1	1	1	-
<i>Anomooneis vitrea</i> (Grun.) Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	32	21	15	19	20	6	3	4
<i>Aulacoseira distans</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	13	9	3	5	23	24	14	5
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>tenuissima</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	3	2	-
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	1	1	1	1	1	-	-
<i>Aulacoseira pensacolatae</i> (A. S.) Simonsen	Ogh-unk	unk	unk	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Aulacoseira</i> spp.	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Caloneis branderii</i> (Hust.) Krammer	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	1	1	-	-	-
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.) Krammer	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Cocconeis diminuta</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	1	2	-	-	-	1
<i>Cocconeis disculus</i> Schumann	Ogh-ind	al-il	l-bi	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis disculus</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	ind	-	1	1	-	1	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	2	1	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	1	-	-	-	-	-	-

表3 Loc. 3 の珪藻分析結果 (2)

種 類	生 態 性		環 境 指 標 種	27	26	25	24	23	22	21	20
	塩分	pH									
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	2	1	1	6	-	-	-	-
<i>Cocconeis pseudothumensis</i> Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	6	5	1	-	-	-	-
<i>Cyclotella atomus</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	l-ph	1	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	-	-	1	1	-	-
<i>Cymbella gracilis</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Cymbella perpusilla</i> A. Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	1	2	1	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> var. <i>gracilis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	2	5	1	1	-	-	-
<i>Diatoma tenuis</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	3	11	14	1	8	1	1	-
<i>Diploneis oblongella</i> (Naegeli) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	1	1	1	1	2	2	-
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Millis	Ogh-hob	ac-il	l-ph	2	4	1	1	1	1	-	-
<i>Eunotia fallax</i> A. Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	-	1	1	1	-	-	-	-
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	1	2	-	-	-	-
<i>Eunotia naegelii</i> Migula	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	3	1	-	1	1	-	-	1
<i>Fragilaria bicapitata</i> A. Mayer	Ogh-hob	ind	l-bi	1	1	5	3	3	1	2	2
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	21	14	4	12	6	22	29	12
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	5	-	10	1	5	-	2	1
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	2	-	1	1	2	-	2	-
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	2	1	-	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>binodis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	12	13	10	5	5	37	28	60
<i>Fragilaria leptostauron</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	2	1	-	3	1	5	9
<i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	7	5	5	2	6	6	16	37
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lanceolata</i> (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	2	1	-	1	1	1	3	5
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	4	2	1	1	-	1	-	-
<i>Fragilaria vaucheriae</i> var. <i>capitellata</i> (Grun.) Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia rhomboides</i> (Ehr.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	1	1	1	1	1	-	-	-
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	1	1	-	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	1	1	1	10	4	-	1	-
<i>Gomphonema pseudosphaerophorum</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	1	1	-	1	1	-	2	-
<i>Gomphonema</i> sp. -1	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	2	1	-	1

表 3 Loc. 3 の珪藻分析結果 (3)

種 類	生 態 性		環境 指標種	27	26	25	24	23	22	21	20	
	塩分	pH										流水
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk		-	1	-	-	-	-	-	-	
Gyrostigma sp.-1	Ogh-unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	2	-	-	-	-	
Melosira americana Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	19	26	17	42	27	57	64	-	
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	7	9	11	7	9	4	-	4	
Meridion circulae Agardh	Ogh-ind	al-il	r-bi	6	11	9	7	9	1	1	-	
Meridion circulae var. constrictum (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	2	1	4	1	2	1	-	-	
Navicula bacillium Ehrenberg	Ogh-hil	al-il	r-ph	-	-	1	1	1	1	-	-	
Navicula capitata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula contenta fo. biceps (Arnoth) Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	-	1	1	-	-	1	-	-	
Navicula cryptotenella Lange-Bertalot	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula detenta Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	3	-	-	-	1	
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	1	-	-	-	-	
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	1	-	
Navicula exilis Kuetzing	Ogh-hil	al-jl	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula gregaria Donkin	Ogh-hil	al-jl	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	
Navicula hassiaca Krasske	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	
Navicula jentzschii Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	1	
Navicula laevisima Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula laterostrata Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-bi	1	1	1	-	1	-	1	3	
Navicula minima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula mobiliensis var. minor Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	2	-	-	-	1	-	-	1	
Navicula occulta Krasske	Ogh-unk	unk	unk	1	1	1	-	1	1	-	1	
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	1	1	1	-	1	-	-	1	
Navicula pseudoscutiformis Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	1	1	1	-	1	-	-	1	
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	1	2	1	1	1	1	-	-	
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	1	1	1	1	1	1	1	-	
Navicula radiosa fo. nipponica Skvorizow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula reinhardtii Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	
Navicula rhynchocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	1	-	-	-	
Navicula seminulum Grunow	Ogh-ind	ind	ind	1	3	1	2	7	-	1	2	
Navicula seminulum var. radiosa Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	1	
Navicula subnympharum Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	1	
Navicula submuralis Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-bi	-	-	2	-	-	-	-	2	
Navicula untermorhlii Hustedt	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	
Navicula veneta Kuetzing	Ogh-hil	al-il	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	
Neidium affine var. longiceps (Greg.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	1	-	-	1	-	-	-	-	
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	
Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	2	-	-	-	-	
Nitzschia archibaldii Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	1	1	1	-	1	-	-	-	
Nitzschia capitellata Hustedt	Ogh-hil	al-il	ind	1	-	1	-	1	-	-	-	
Nitzschia dissipata (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	1	3	1	5	9	2	1	
Nitzschia fonticola Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	1	1	-	1	
Nitzschia cf. gracilis Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	1	-	

表3 Loc. 3 の珪藻分析結果 (4)

種	類	生態性		環境指標種	27	26	25	24	23	22	21	20
		塩分	pH									
<i>Nitzschia linearis</i> W. Smith		Ogh-ind	al-il	r-ph	-	1	-	-	-	1	1	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W. Smith		Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	1	-	-	-
<i>Nitzschia tubicola</i> Grunow		Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	1
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith		Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.) Cleve		Ogh-hob	ind	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve		Ogh-hob	ac-bi	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve		Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg		Ogh-ind	ac-il	ind	1	-	-	1	1	1	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedi		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>sancta</i> (Grun. ex Cl.) Meister		Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia hilseana</i> var. <i>japonica</i> H. Kobayasi		Ogh-hob	ac-il	l-ph	1	-	-	1	1	1	2	1
<i>Pinnularia lignitica</i> Cleve		Ogh-hob	ac-il	ind	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W. Smith		Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch		Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory		Ogh-ind	ac-il	ind	1	-	-	1	3	-	-	-
<i>Pinnularia viridiformis</i> Krammer		Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg		Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	3	-	-	-
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot		Ogh-hil	al-il	r-ph	-	-	-	1	-	-	-	1
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Muller		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	1	-	-	1	-
<i>Stauronedia kriegeri</i> Patrick		Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Stenopterobia curvula</i> (W. Smith) Krammer		Ogh-hob	ac-il	unk	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Synedra arcus</i> Kuetzing		Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing		Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	5	3	2	1	-
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing		Ogh-ind	ac-il	l-bi	1	-	-	1	1	1	1	-
海水生種合計		Ogh-hob	ac-il	l-bi	8	4	16	6	14	2	3	17
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					1	1	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					225	234	225	221	229	218	212	211
珪藻化石総数					226	235	225	222	229	222	214	211

H. R.: 塩分濃度に対する適応性  
 Meh: 汽水生種  
 Ogh-hil: 好塩性種  
 Ogh-ind: 貧塩性種  
 Ogh-hob: 好塩性種  
 Ogh-unk: 貧塩不明種

環境指標種  
 K: 中～下流性河川指標種  
 L: 最下流性河川指標種  
 N: 湖沼沼沢湿地指標種  
 O: 沼沢地付着生種  
 P: 高層種  
 S: 好汚濁性種  
 U: 広適応性種  
 T: 好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)  
 RI: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群, 伊藤・堀内, 1991)

pH: 水素イオン濃度に対する適応性  
 al-bi: 真7pH性種  
 al-il: 好7pH性種  
 ind: pH不定性種  
 ac-bi: 好酸性種  
 unk: pH不明種

C. R.: 流水に対する適応性  
 l-bi: 真流水性種  
 l-ph: 好流水性種  
 ind: 流水不定性種  
 r-ph: 好流水性種  
 r-bi: 真流水性種  
 unk: 流水不明種

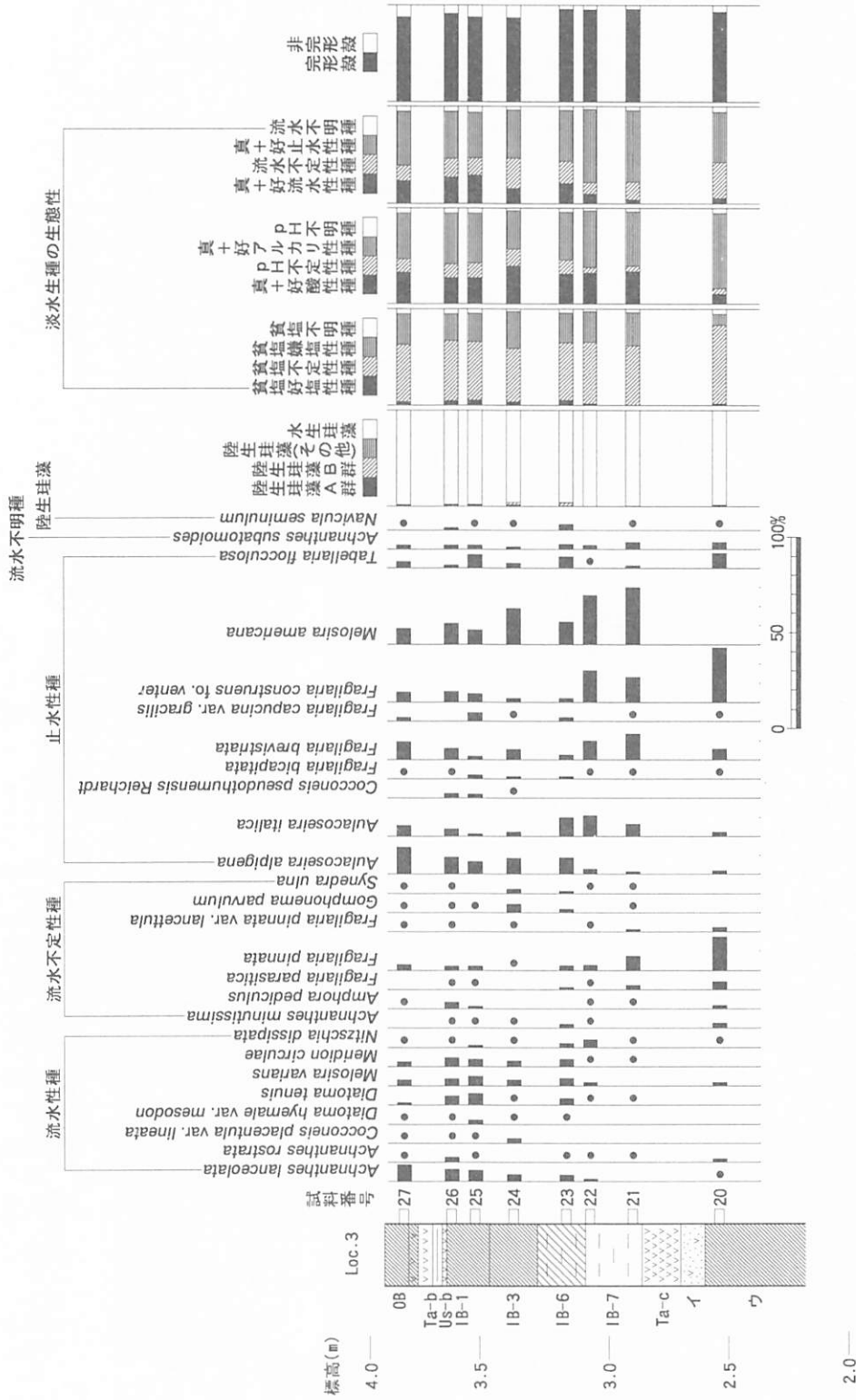


図5 Loc. 3の主要珪藻化石群集の変遷  
 各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生態性の比率は淡水生態性の合計を基数として百分率で算出した。  
 いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満の種類を示す。



表4 Loc. 4 の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性			環境 指標種	19	18	17	16
	塩分	pH	流水					
<i>Achnanthes clevei</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	1
<i>Achnanthes exigua</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	4	-	-	-
<i>Achnanthes fraxillarioides</i> Peterson	Ogh-ind	ind	unk		1	-	-	-
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	38	10	14	10
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	1
<i>Achnanthes marginulata</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	14	3	2	35
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>jackii</i> (Rabenh.) Lange-B. et Ruppel	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	1	-
<i>Achnanthes minutissima</i> var. <i>saprophila</i> H. Kob. & Mayama	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	5
<i>Achnanthes oestrupii</i> (Cl.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	1	-
<i>Achnanthes peragalli</i> Brun et Heribaud	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	1	1
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	1	1
<i>Achnanthes subatomoides</i> (Hust.) Lange-B.	Ogh-unk	unk	unk	T	3	4	1	1
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	1	1
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	1	1	1
<i>Anomoeoneis vitrea</i> (Grun.) Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	1	-	-	1
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N, U	1	12	17	5
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	-	-	-	1
<i>Aulacoseira distans</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N, U	2	1	5	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	5	18	25	2
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	1	-	-
<i>Aulacoseira pensacolatae</i> (A. S.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	2	5	-
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	2	-	-	-
<i>Caloneis tenuis</i> (Greg.) Krammer	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-
<i>Caloneis</i> sp.-1	Ogh-unk	unk	unk	RI	2	-	-	-
<i>Cocconeis diminuta</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	1
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1	-	1
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	1	2
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	l-ph	L, S	1	1	1	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, T	-	1	3	1
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	-
<i>Cymbella minuta</i> Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	-	1	3
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	1	-
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	1	-
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	1	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	1	-
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	1	-	2
<i>Diatoma tenuis</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	3	1	4
<i>Diploneis elliptica</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	RA, T	1	-	-	-
<i>Diploneis finnica</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	-	1
<i>Diploneis oblongella</i> (Naegeli) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	1
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-
<i>Diploneis parva</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	1	-
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		4	1	2	1
<i>Eunotia exigua</i> (Breb.) Grunow	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P	4	-	-	-
<i>Eunotia fallax</i> A. Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	-	-	-	1
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	-	1
<i>Eunotia naegelii</i> Migula	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	1	1	1
<i>Eunotia subarcuatoides</i> Noerpel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	1
<i>Fragilaria bicapitata</i> A. Mayer	Ogh-hob	ind	l-bi		-	4	9	6
<i>Fragilaria bidens</i> Heiberg	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	3
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	4	12	24	7

表 4 Loc. 4 の珪藻分析結果 (2)

種 類	生 態 性			環境 指標種	19	18	17	16
	塩分	pH	流水					
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	-
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	6	8	15
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	4	6	23
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	1	1
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>rumpens</i> (Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	1	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>binodis</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	2	2	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	7	35	18	10
<i>Fragilaria construens</i> var. <i>triundulata</i> Reichelt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	-
<i>Fragilaria exigua</i> Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		-	1	-	-
<i>Fragilaria lapponica</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-
<i>Fragilaria leptostauron</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	1
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	S	5	46	2	6
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lanceolata</i> (Schum.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	2	-	-
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	2	4	3	1
<i>Fragilaria vaucheriae</i> var. <i>capitellata</i> (Grun.)Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	1
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	ac-il	l-ph	U	2	1	-	-
<i>Fragilaria</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	1	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	1	-	-
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	1	-	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	-	-	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	5	2	2	3
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	1
<i>Gomphonema quadripunctatum</i> (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K, T	-	-	-	1
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	1	5	1
<i>Gomphonema</i> sp. -1	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	1
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	2	-	-	-
<i>Melosira americana</i> Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph		2	14	14	5
<i>Melosira varians</i> Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	1	7	11	13
<i>Meridion circulae</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	5	2	5	3
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs)V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	1	2	1
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	5	1	1	-
<i>Navicula contenta</i> fo. <i>biceps</i> (Arnot)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	5	-	-	-
<i>Navicula cryptocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	1
<i>Navicula elginensis</i> (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	3	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	1
<i>Navicula exilis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	1
<i>Navicula gallica</i> var. <i>perpusilla</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	RI	2	-	-	-
<i>Navicula ignota</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	3	-	-	-
<i>Navicula laevis</i> fo. <i>fusticulus</i> (Oestrup)H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	1
<i>Navicula lapidosa</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	1
<i>Navicula longicephala</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	2
<i>Navicula mediocris</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-
<i>Navicula minima</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		3	-	1	-
<i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	6	-	-	-
<i>Navicula occulta</i> Krasske	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Navicula pseudoscutiformis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	-	1
<i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	1	1	1	1
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	1	1	1	2
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	1	-
<i>Navicula seminulum</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	7	2	1	1

表4 Loc. 4 の珪藻分析結果 (3)

種 類	生 態 性			環境 指標種	19	18	17	16
	塩分	pH	流水					
<i>Navicula seminulum</i> var. <i>radiosa</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI, S	7	-	-	-
<i>Navicula subcostulata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		2	-	-	-
<i>Navicula tridentula</i> Krasske	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	-	1
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing	Ogh-hil	al-il	ind	U	1	-	-	1
<i>Navicula ventralis</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	1	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-
<i>Neidium affine</i> var. <i>longiceps</i> (Greg.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi		1	-	-	-
<i>Neidium alpinum</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	3	-	-	-
<i>Nitzschia amphibia</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	1	-	-	-
<i>Nitzschia archibaldii</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	U	2	-	-	2
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-hil	al-il	ind	RB, U	1	-	-	-
<i>Nitzschia dissipata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	1	5
<i>Nitzschia frustulum</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind		3	-	-	1
<i>Nitzschia linearis</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	1	-
<i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.) W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	2
<i>Nitzschia terrestris</i> (Pet.) Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-	-	-
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	1	1	-	-
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ag.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-	-	-
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.) Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-
<i>Pinnularia gentilis</i> (Donkin) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-bi		-	-	-	1
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	-	1	-
<i>Pinnularia hartleyana</i> var. <i>notata</i> H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	1
<i>Pinnularia karelica</i> var. <i>japonica</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	-	1
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	1	-
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	1	1	1	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	-	1
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	1
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	-	-
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	1	-	-	-
<i>Stauroneis thermicola</i> (Petersen) Lund	Ogh-unk	unk	unk	RI	2	-	-	-
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	1	-
<i>Synedra arcus</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1	1	-
<i>Synedra inaequalis</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J, K, T	-	-	1	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	1	1
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	4	2	9
海水生種合計					0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0
淡水生種合計					209	243	226	232
珪藻化石総数					209	243	226	232

凡例

H. R. : 塩分濃度に対する適応性	pH: 水素イオン濃度に対する適応性	C. R. : 流水に対する適応性
Ogh-hil: 貧塩好塩性種	al-bi: 真7別性種	l-bi: 真止水性種
Ogh-ind: 貧塩不定性種	al-il: 好7別性種	l-ph: 好止水性種
Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-unk: 貧塩不明種	ac-il: 好酸性種	r-ph: 好流水性種
	ac-bi: 真酸性種	r-bi: 真流水性種
	unk : pH不明種	unk : 流水不明種

環境指標種

J: 上流性河川指標種 K: 中～下流性河川指標種 L: 最下流性河川指標種 N: 湖沼沼沢湿地指標種  
O: 沼沢湿地付着生種 P: 高層湿原指標種 (以上は安藤, 1990)  
S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)  
RI: 陸生珪藻 (RA:A群, RB:B群、伊藤・堀内, 1991)

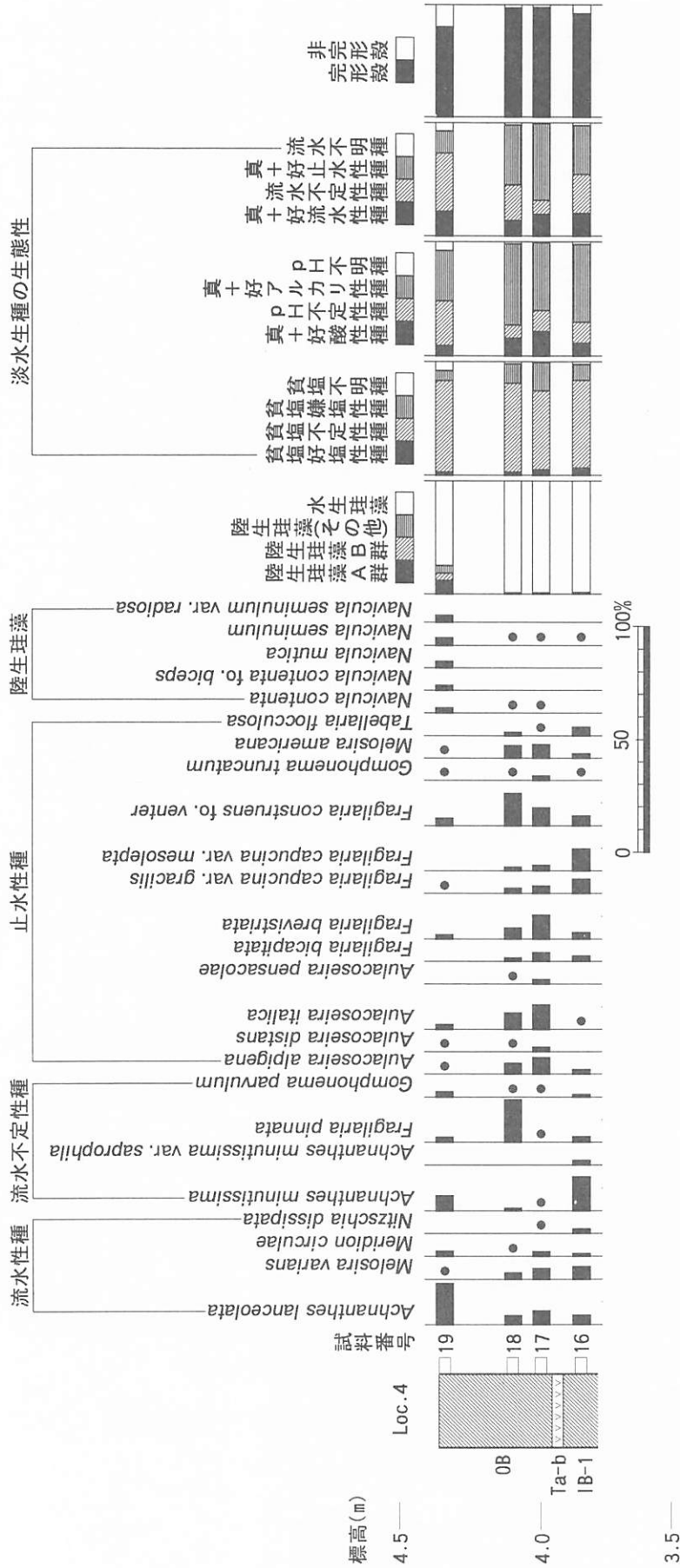


図 6 Loc. 4 の主要珪藻化石群集の変遷  
各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。  
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満の種類を示す。

*Achnanthes lanceolata*が20%と多産する他、流水不定性の*Achnanthes minutissima*、陸生珪藻のA群の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*N.contenta fo. biceps*、*N. mutica*などを伴う。

## (2) 植物珪酸体

植物珪酸体は各試料から検出されるが、Loc.3試料や他地点試料の下位で検出個数が少ない。しかし、保存状態は良好なものが多い。以下に、各地点の産状を述べる。

### <Loc.1>

結果を表5・図7に示す。試料番号11・12を除く試料で植物珪酸体が検出される。植物珪酸体群集は、試料番号10、試料番号13・14、試料番号15で異なる。

試料番号10では、ヨシ属の産出が目立ち、タケ亜科やウシクサ族、イチゴツナギ亜科も認められる。試料番号13・14では、イチゴツナギ亜科が優占する組成を示し、ヨシ属、タケ亜科、ウシクサ族も認められる。試料番号15ではイチゴツナギ亜科が減少し、タケ亜科が増加する。また、栽培植物のイネ属も認められ、特に機動細胞珪酸体の出現率が約30%を示す。

### <Loc.2>

結果を表6・図8に示す。試料番号1～4では検出個数が少なく、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科がわずかに認められるに過ぎない。試料番号5では、タケ亜科・ヨシ属が優占する。この他、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。試料番号6・7では検出個数が少ないが、ヨシ属の産出が目立つ。試料番号8ではヨシ属が優占する組成を示し、イチゴツナギ亜科の割合も高い。試料番号9ではイネ属が優占する組成が見られ、組織片も認められる。また、キビ族、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族なども認められる。

### <Loc.3>

結果を表7に示す。試料番号20～23では、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科などがわずかに認められるに過ぎない。試料番号24では試料番号20～23と同様な産状を示すが、タケ亜科の産出が目立つ傾向が見られる。また、試料番号27でイネ属機動細胞珪酸体がわずかに認められる。

### <Loc.4>

試料番号16～18では検出個数が少ないが、タケ亜科とイチゴツナギ亜科の産出が目立つ。なお、試料番号18では、イネ属短細胞列がわずかに認められる。試料番号19では、タケ亜科が優占し、ヨシ属、ウシクサ族、イチゴツナギ亜科も認められる。

## 5 低地の環境変遷

珪藻化石は、Loc.1 試料番号11・12およびLoc.2試料番号7を除き豊富に検出される。また、植物珪酸体は、Loc.1 試料番号11・12、Loc.2 試料番号1～4・6・7、Loc.3 試料番号20～27、Loc.4 試料番号16～18を除く試料から良好に検出される。これらの微化石の産状に基づいて遺跡周辺の環境変遷について以下に検討を加える(図10)。

Loc.3のウ層では、好止水生種である*Fragilaria pinnata*や*Fragilaria construens fo. venter*などが多産する。これらの種類は、本来付着性であるが物理的要因により偶然プランクトンとして生活する偶来性プランクトン(Vos, P.C. & H.de Wolf, 1993)で、しかも有機汚濁の進んだ富栄養水域に一般的な好汚濁性種(Asai, K. & Watanabe, T., 1995)とされている。一方、植物珪酸体では、タケ亜科・ヨシ属などが僅かに検出される程度である。以上のことから、縄文時代晩期以前、弱アルカリ性を呈した富栄養～中栄養な池沼～沼沢地のような環境で、その縁辺部にタケ亜科・ヨシ属などが生育していた可能性がある。

Ⅳ 自然科学的分析

表 5 Loc. 1 の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	15	14	13	12	11	10
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ族イネ属		42	-	-	-	-	-
キビ族		7	-	-	-	-	-
タケ亜科		152	40	68	9	3	39
ヨシ属		10	13	76	1	91	228
ウシクサ族ススキ属		34	-	-	-	-	4
イチゴツナギ亜科		35	652	124	-	1	2
不明キビ型		68	10	10	-	1	1
不明ヒゲシバ型		14	-	4	-	1	8
不明ダンチク型		12	4	2	1	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ族イネ属		39	-	-	-	-	-
キビ族		2	-	-	-	-	-
タケ亜科		37	14	38	1	1	36
ヨシ属		18	-	39	1	50	67
ウシクサ族		19	-	12	-	-	-
不明		15	5	12	1	-	6
合 計							
イネ科葉部短細胞珪酸体		374	719	284	11	97	282
イネ科葉身機動細胞珪酸体		130	19	101	3	51	109
総 計		504	738	385	14	148	391
組 織 片							
イネ属短細胞列		10	-	-	-	-	-
イネ族葉部組織片		14	-	-	-	-	-

表 6 Loc. 2 の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	9	8	7	6	5	4	3	2	1
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属		113	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族		25	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科		25	34	6	14	185	1	1	-	-
ヨシ属		16	120	67	27	107	5	1	-	1
ウシクサ族ススキ属		15	1	1	1	6	-	-	1	-
イチゴツナギ亜科		20	61	2	3	7	2	2	-	-
不明キビ型		28	7	-	1	6	2	2	2	2
不明ヒゲシバ型		13	10	-	3	14	1	-	-	-
不明ダンチク型		15	1	-	1	3	-	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属		86	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族		3	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科		17	26	2	7	80	-	-	-	-
ヨシ属		6	77	10	2	27	3	7	-	6
ウシクサ族		8	2	-	1	3	-	1	-	1
不明		7	4	-	1	6	2	2	1	-
合 計										
イネ科葉部短細胞珪酸体		270	234	76	50	328	11	6	3	3
イネ科葉身機動細胞珪酸体		127	109	12	11	116	5	10	1	7
総 計		397	343	88	61	444	16	16	4	10
組 織 片										
イネ属短細胞列		18	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ族葉部組織片		94	-	-	-	-	-	-	-	-

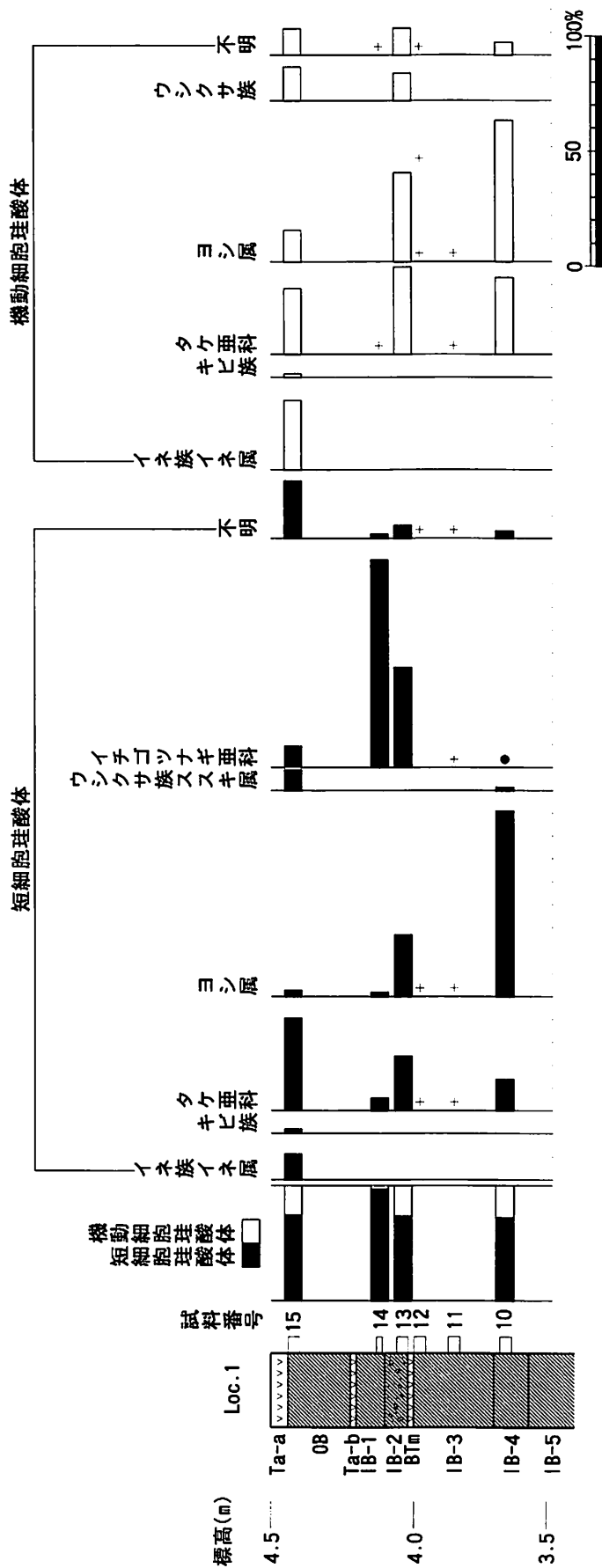


図7 Loc. 1の植物珪酸体群集の変遷  
出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉部機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個未満、イネ科葉部機動細胞珪酸体で100個未満の種類を示す。





表7 Loc. 3の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	27	26	25	24	23	22	21	20
イネ科葉部短細胞珪酸体									
キビ族		-	-	-	-	-	-	1	-
タケ亜科		14	5	4	3	1	-	2	1
ヨシ属		5	1	2	7	-	1	1	-
ウシクサ族ススキ属		1	1	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科		10	3	2	15	3	1	1	2
不明キビ型		4	-	2	-	-	-	2	-
不明ヒゲシバ型		4	-	1	-	-	-	2	-
不明ダンチク型		2	-	1	-	-	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体									
イネ族イネ属		1	-	-	-	-	-	-	-
キビ族		-	-	-	-	-	-	1	-
タケ亜科		10	3	3	5	5	1	1	1
ヨシ属		4	3	3	7	7	-	-	2
ウシクサ族		1	-	-	1	-	-	-	1
不明		1	2	1	-	-	-	-	-
合 計									
イネ科葉部短細胞珪酸体		40	10	12	25	4	2	9	3
イネ科葉身機動細胞珪酸体		17	8	7	13	12	1	2	4
総 計		57	18	19	38	16	3	11	7
組 織 片									
イネ属機動細胞列		1	-	-	-	-	-	-	-

表8 Loc. 4の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	19	18	17	16
イネ科葉部短細胞珪酸体					
イネ族イネ属		-	1	-	-
タケ亜科		199	15	17	12
ヨシ属		6	1	4	2
ウシクサ族ススキ属		-	-	1	-
イチゴツナギ亜科		15	10	19	16
不明キビ型		3	2	2	3
不明ヒゲシバ型		4	-	-	6
不明ダンチク型		1	1	-	2
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
タケ亜科		89	10	14	10
ヨシ属		13	-	7	-
ウシクサ族		-	1	-	3
不明		10	-	2	1
合 計					
イネ科葉部短細胞珪酸体		228	30	43	41
イネ科葉身機動細胞珪酸体		112	11	23	14
総 計		340	41	66	55
組 織 片					
イネ属短細胞列		-	1	-	-



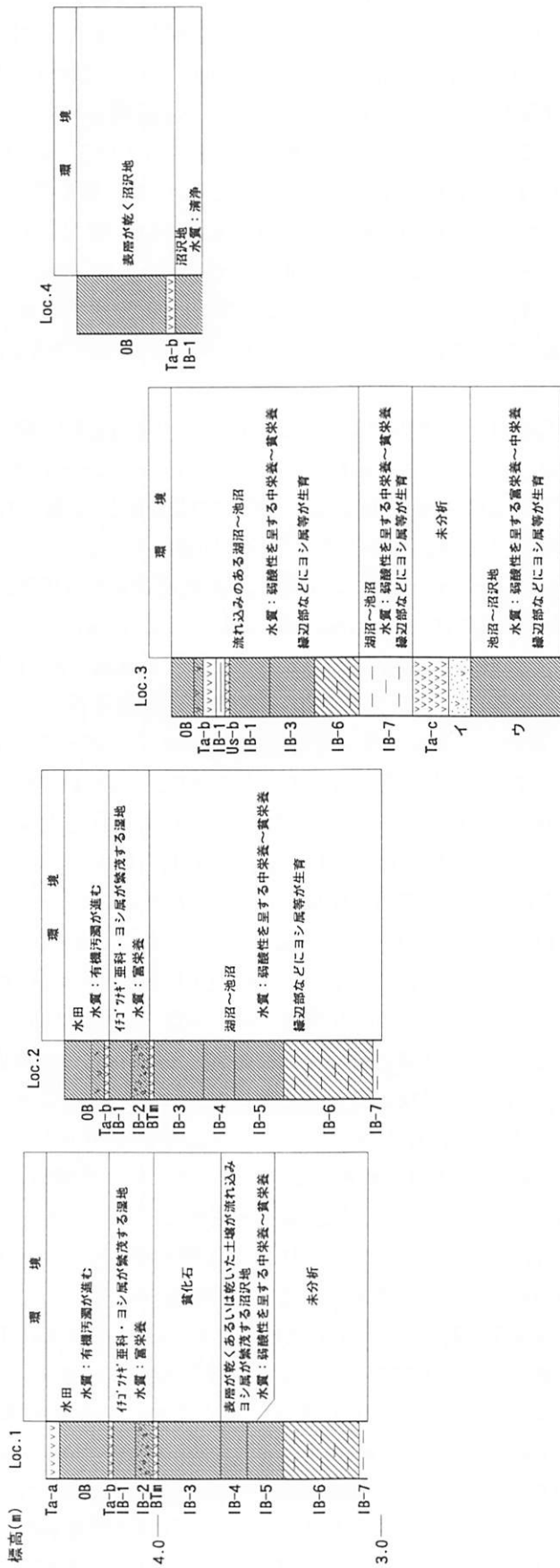


図10 珪藻化石・植物珪酸体からみた環境変遷

IB-7層の珪藻化石群集は、Loc. 2・3ともほぼ類似しており、*Melosira americana*、*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter* など好止水生種が多産し、流水不定性の*F. pinnata*を伴う。この内、*Melosira americana*は、東京都練馬区三宝寺池の湖底堆積物（小林・山下，1969）、群馬県尾瀬沼の底質およびコア試料（田中・中島，1983）などから検出されているが、今回のように本種が優占することは珍しい。これらの湖沼は、中栄養型湖沼とされている（福島・中村，1972）。また、*Fragilaria brevistriata*、*F. construens fo. venter*は、中栄養～貧栄養の止水域に多く認められる種類で偶来性プランクトンである。植物珪酸体の出現状況は下位と類似しており、タケ亜科やヨシ属などが数個体検出されるにとどまる。これより、縄文時代晩期頃、調査地点の周辺は水質的に中栄養～貧栄養で弱酸性を呈した湖沼～池沼のような比較的水深のある静水域であったと推定される。このように調査地点付近が水深のある水域であったためにイネ科植物が生育できず、植物珪酸体がほとんど検出されなかったのであろう。

IB-6層～IB-3層の珪藻化石群集は、各地点で多少異なる。Loc. 1では、IB-4層で流水不定性種で山地の冷水域に産する（中島ほか，1979）とされる*Pinnularia divergentissima*が多産し、高層湿原指標種群（安藤，1990）の一種である*Eunotia exigua*、耐乾性の強い陸生珪藻のA群（伊藤・堀内，1991）の*Hantzschia amphioxys*を伴う。Loc. 2では下位と同様に*Melosira americana*が優占する。Loc. 3では、好止水生種の*Melosira americana*、湖沼沼沢湿地指標種群（安藤，1990）の*Aulacoseira alpigena*が多産し、好流水性種の*Achnanthes lanceolata*、*Diatoma tenuis*、*Melosira valians*、*Meridion circulae*を伴う。好流水性種の多くは、河川中～下流部や河川沿いの河成段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現する中～下流性河川指標種群とされている（安藤，1990）。これより、周辺は、水質的に中栄養～貧栄養で弱酸性を呈した湖沼～沼沢地のような環境であったが、場所により多少環境が異なっていたと考えられる。すなわち、Loc. 1など湖沼縁辺部では表層が乾くこともあった、あるいは乾いた土壌が流入していたと思われる。また、Loc. 3など標高の低い場所では、多少なりとも流れ込みの影響があったと思われる。これは、山田（1996）によるコナラ亜属－ハンノキ属帯最上部付近で地点により水分環境が異なっていたとしていることと調和的である。

IB-2層～IB-1層の珪藻化石群集は、Loc. 1・2、Loc. 3、Loc. 4で異なる。Loc. 1・2では、流水不定性種の*Gomphonema parvulum*、沼よりも浅く水深が1 m前後で一面に水生植物が繁茂するような沼沢やさらに水深の浅い湿地に生育する沼沢湿地付着生種群（安藤，1990）でもある*Navicula elginensis*や*Pinnularia viridis*、陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が検出される。これらの種類の中で、*Gomphonema parvulum*が富栄養～中栄養種とされ（Vos, P.C. & H.de Wolf, 1993）、伴出する*Nitzschia amphibia*が好汚濁性種とされている（Asai, K. & Watanabe, T., 1995）。また、Loc. 1で多産する*Achnanthes exigua*も好汚濁性種とされている。植物珪酸体では、ヨシ属とともにイチゴツナギ亜科が特徴的に産出する。北海道の低層湿原植生では、ヨシ湿原にイチゴツナギ亜科に属するイワノガリヤスがしばしば混生する植分がみられ、時に優占種となることもあるとされている（宮脇編，1988）。植物珪酸体の形態からは種を特定することはできないが、少なくともヨシ属とともにイチゴツナギ亜科が周辺植生の構成要素となっていたと推定される。Loc. 3は、下位と同様な群集組成となる。Loc. 4では、溶存酸素の多い汚濁のない水域を指標するとされる*Achnanthes minutissima*（Silva-Benavides, A.-M., 1996）が多産し、清浄な水域に多く認められる好清水性種の*Fragilaria capucina var. gracilis*、*F. capucina var. mesolepta*、*Achnanthes lanceolata*（Asai, K. & Watanabe, T., 1995）が多産する。したがって、擦文時代中・後期～中・近世の頃になると周辺は場所により様々な様相を呈しており、Loc. 1・2付近がヨシ属やイチゴツナギ亜科などのイネ科植物が繁茂する富栄養な湿地、Loc. 3付近が中栄養～貧栄養で流水の流れ込みのある湖沼～池沼、Loc. 4付近

が汚濁してない清浄な水質を保持した沼沢地のような水域であったと考えられる。このように場所により水質や水域環境が微妙に異なるのは、花粉分析の結果からIB-3層上部以降になるとイネ科雑穀を含めた栽培および台地側で農耕地の確保等が行われていたとされていること（山田, 1996）を考慮すると、微地形要因以外にも人間の活動など様々な要因が関連していると思われる。ただし、今回の調査結果みると低地側で稲作が行われていたとは考えにくい。

OB層の珪藻化石群集は、Loc. 1・2、Loc. 3、Loc. 4で異なる。Loc. 1・2で多産する流水不定性の*Navicula veneta*、*Nitzschia palea*、陸生珪藻B群の*Navicula seminulum*は好汚濁性種であり、その多産が本層に限られる。植物珪酸体ではイネ属が検出され、しかもその出現率が高率である。これに対して、Loc. 3は、前層と珪藻化石群集に変化がない。また、Loc. 4は、中～下流性河川指標種群を含む好流水性種と陸生珪藻が多産する。植物珪酸体ではLoc. 3・4ともイネ属が検出されない。したがって、近世以降になると、Loc. 1・2付近は水田として利用されたか、イナワラ製品などが廃棄されており、その影響によって有機汚濁の進んだ状態であったと思われる。これに対して、Loc. 3・4付近は生産域からはずれているか、イナワラ製品などが廃棄されて居なかったと考えられる。また、両地点は流れ込みのある池沼のような環境であり、Loc.4付近がその水域の縁辺部にあたり表層がしばしば乾くことがあったと推定される。

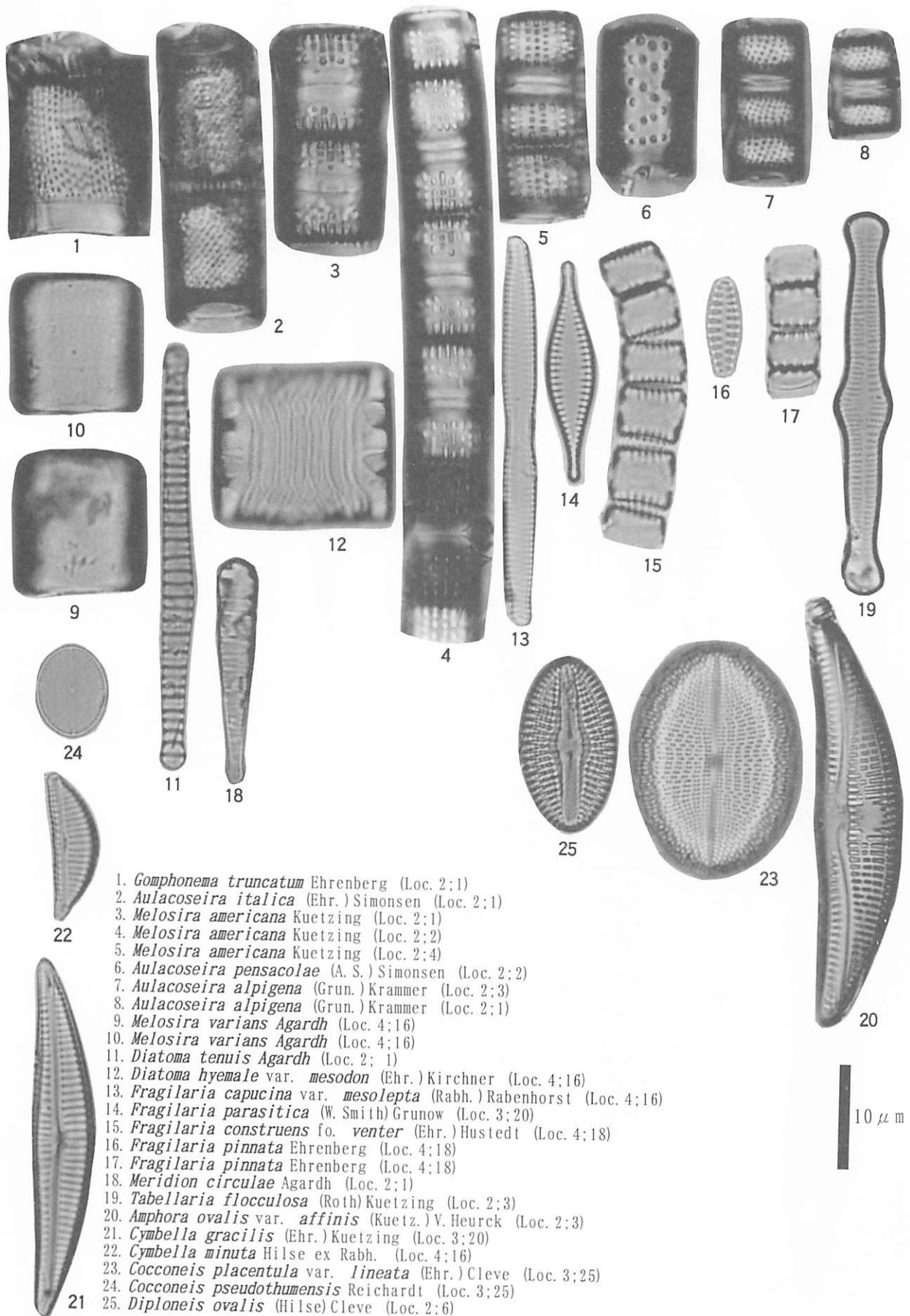
#### 引用文献

- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophyllous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, p.35-47.
- 安藤一男 (1990) 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42, p.73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6, p.23-45.
- 福島 博・中村澄夫 (1972) 「日本の湖沼のケイ藻類」『横浜市大論集 (自然科学編)』23, p.1-24.
- 小林 弘・山下不二子 (1969) 「三宝寺池のケイソウ」『陸水学雑誌』30, p.98-107.
- 近藤鍊三・佐瀬 隆 (1986) 「植物珪酸体分析, その特性と応用」『第四紀研究』25, p.31-64.
- 小杉正人 (1988) 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27, p.1-20.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) *Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) *Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) *Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) *Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae,*
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) *Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.*

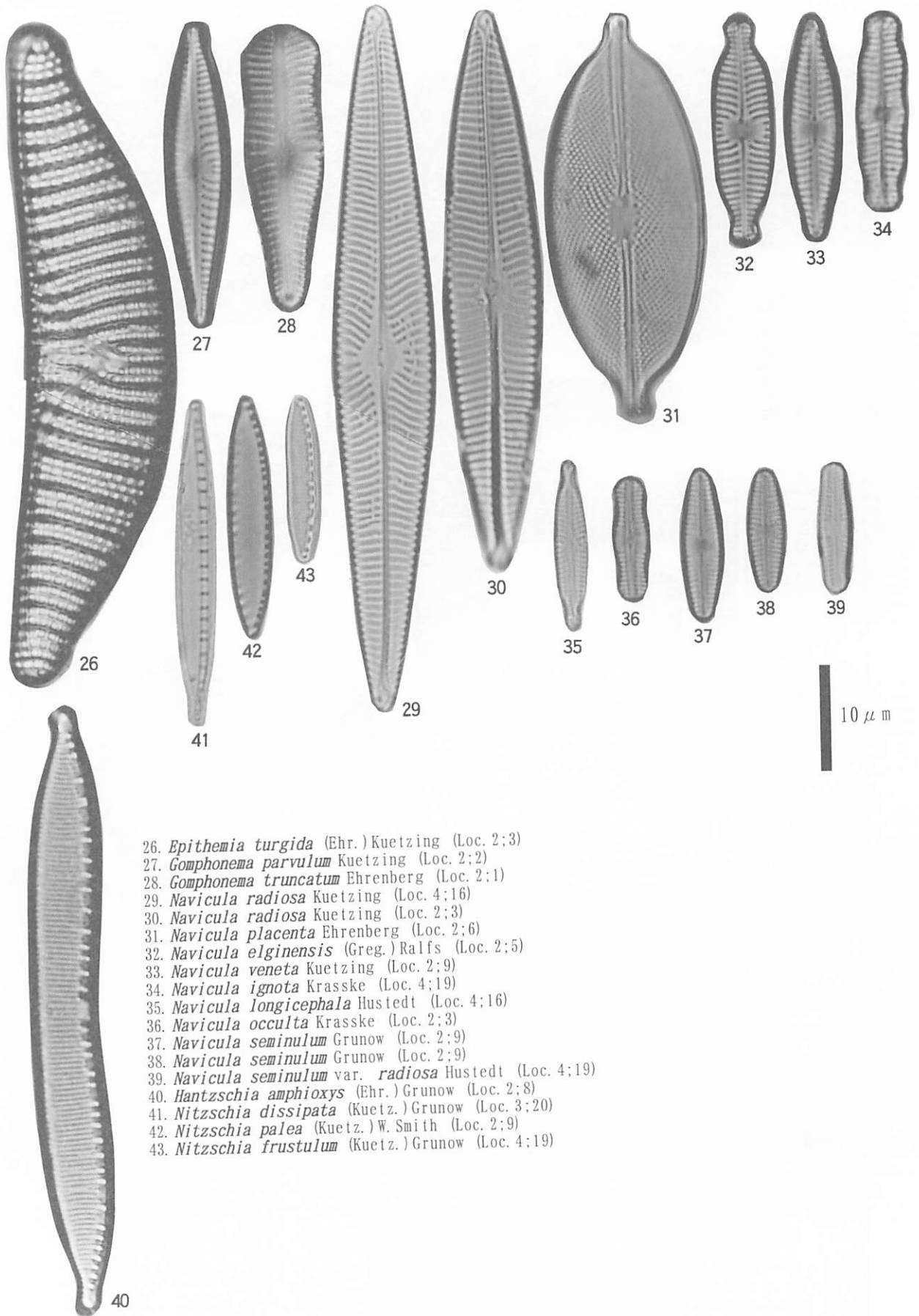
#### Ⅷ 自然科学的分析

- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353, BERLIN•STUTTGART.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 『火山灰アトラスー日本列島とその周辺』 276p., 東京大学出版会.
- 宮脇 昭編 (1988) 「低層湿原植生」宮脇 昭編『日本植生誌 9巻 北海道』 至文堂, p.247-258.
- 中島敬治・田中宏之・吉田武雄 (1979) 奥利根地域の珪藻類『群馬県奥利根地域学術調査報告書』 p.122-146.
- Silva-Benavides,A.-M. (1996) The epilithic diatom flora of a pristine and apolluted river in Costa Rica, Central America. Diatom Research, 11, p.105-142.
- 鈴木 信 (1996) 「美々 8 遺跡低湿度部の位置と環境」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第102集『美沢川流域の遺跡群XⅧー新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書ー』 p.17-18, 財団法人北海道埋蔵文化財センター.
- 田中宏之・中島敬治 (1983) 「尾瀬沼の珪藻ーニッ岳降下軽石層以降の珪藻群集ー」『群馬県立歴史博物館紀要』 4, p.1-28.
- Vos,P.C. & H.de Wolf (1993) Reconstruction of sedimentary environments in Holocene costal deposits of the southwest Netherlands; the Poortvliet boring, a case study of palaeoenvironmental diatom research. Twelfth International Diatom Symposium, p.297-296.
- 山田悟郎 (1996) 「美々 8 遺跡低湿度部周辺の古植生について」(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告第102集『美沢川流域の遺跡群XⅧー新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書ー』 p.25-40, 財団法人北海道埋蔵文化財センター.

図版 1 珪藻化石 (1)



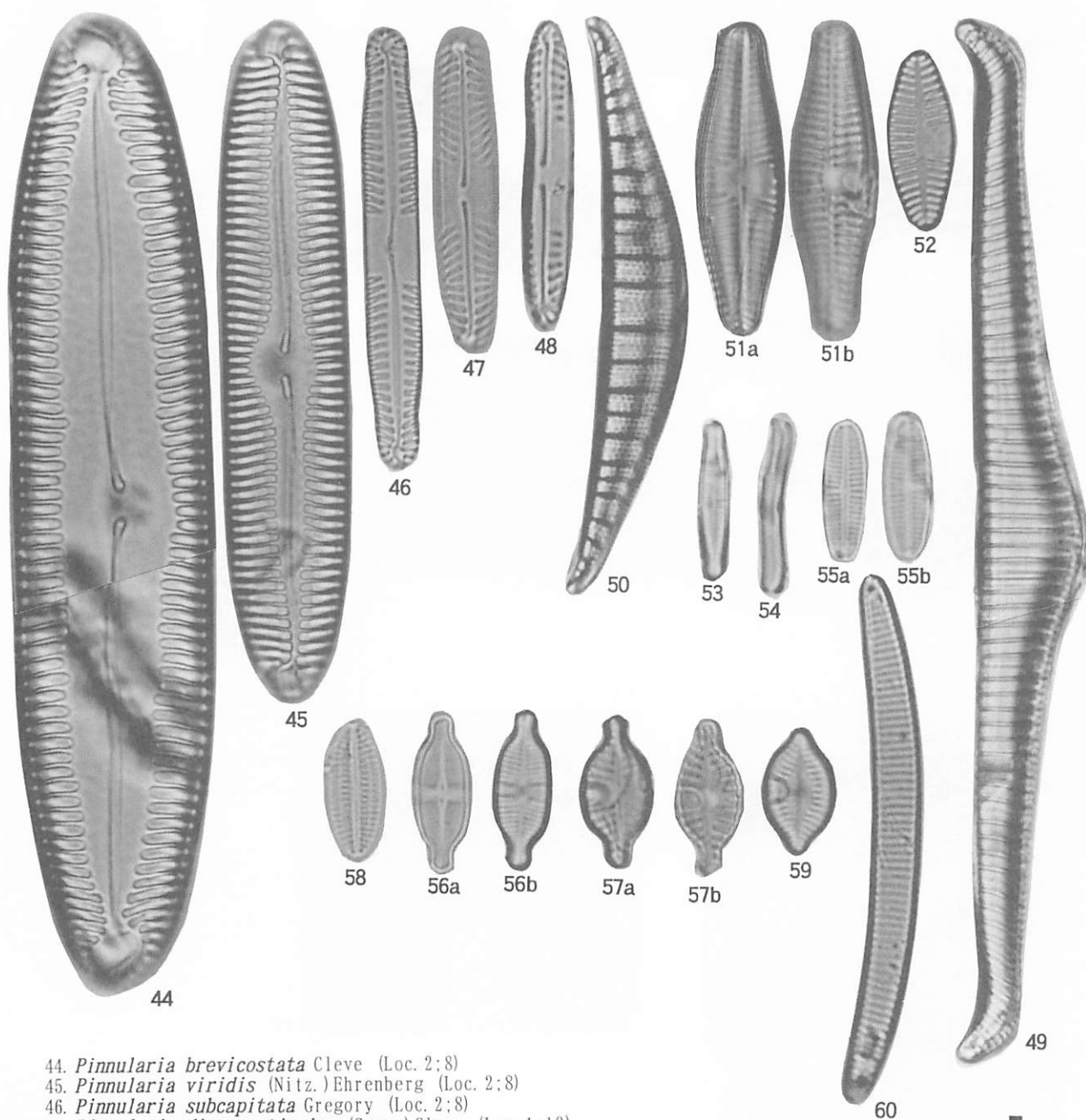
图版 2 珪藻化石 (2)



26. *Epithemia turgida* (Ehr.) Kuetzing (Loc. 2;3)  
 27. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (Loc. 2;2)  
 28. *Gomphonema truncatum* Ehrenberg (Loc. 2;1)  
 29. *Navicula radiosa* Kuetzing (Loc. 4;16)  
 30. *Navicula radiosa* Kuetzing (Loc. 2;3)  
 31. *Navicula placenta* Ehrenberg (Loc. 2;6)  
 32. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (Loc. 2;5)  
 33. *Navicula veneta* Kuetzing (Loc. 2;9)  
 34. *Navicula ignota* Krasske (Loc. 4;19)  
 35. *Navicula longicephala* Hustedt (Loc. 4;16)  
 36. *Navicula occulta* Krasske (Loc. 2;3)  
 37. *Navicula seminulum* Grunow (Loc. 2;9)  
 38. *Navicula seminulum* Grunow (Loc. 2;9)  
 39. *Navicula seminulum* var. *radiosa* Hustedt (Loc. 4;19)  
 40. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (Loc. 2;8)  
 41. *Nitzschia dissipata* (Kuetz.) Grunow (Loc. 3;20)  
 42. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W. Smith (Loc. 2;9)  
 43. *Nitzschia frustulum* (Kuetz.) Grunow (Loc. 4;19)



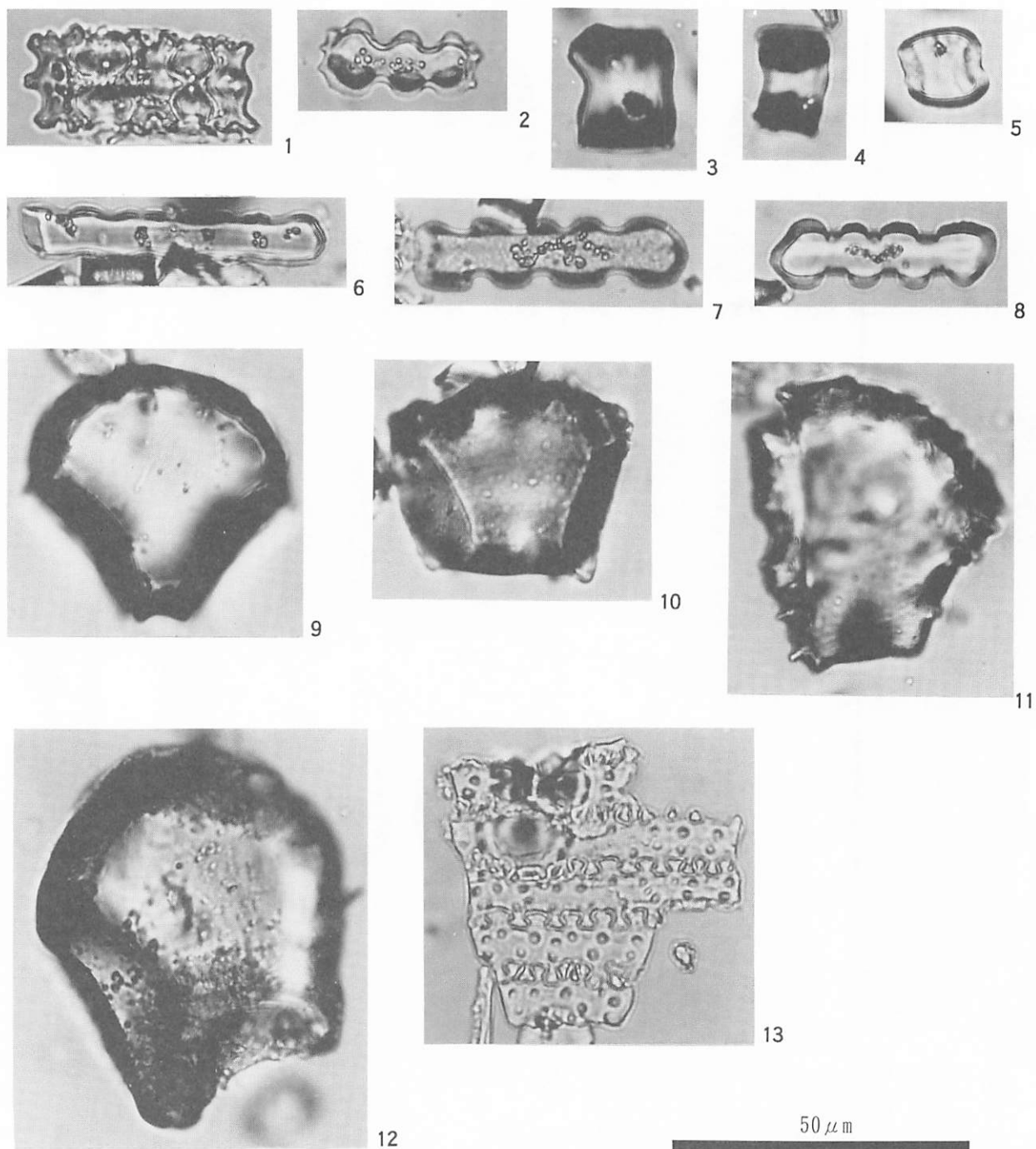
図版3 珪藻化石 (3)



44. *Pinnularia brevicostata* Cleve (Loc. 2;8)  
 45. *Pinnularia viridis* (Nitz.) Ehrenberg (Loc. 2;8)  
 46. *Pinnularia subcapitata* Gregory (Loc. 2;8)  
 47. *Pinnularia divergentissima* (Grun.) Cleve (Loc. 1;10)  
 48. *Pinnularia obscura* Krasske (Loc. 1;10)  
 49. *Rhopalodia gibba* (Ehr.) O. Muller (Loc. 3;21)  
 50. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller (Loc. 1;10)  
 51. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (Loc. 2;6)  
 52. *Achnanthes lanceolata* (Breb.) Grunow (Loc. 2;3)  
 53. *Achnanthes minutissima* Kuetzing (Loc. 4;16)  
 54. *Achnanthes minutissima* Kuetzing (Loc. 4;16)  
 55. *Achnanthes minutissima* var. *saprophila* H. Kob. & Mayama (Loc. 4;16)  
 56. *Achnanthes exigua* Grunow (Loc. 4;19)  
 57. *Achnanthes rostrata* Oestrup (Loc. 2;3)  
 58. *Achnanthes suchlandtii* Hustedt (Loc. 3;25)  
 59. *Achnanthes peragalli* Brun et Heribaud (Loc. 3;25)  
 60. *Eunotia bilunaris* (Ehr.) Mills (Loc. 2;6)

10 μm

図版 4 植物珪酸体



- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1. イネ属短細胞列 (Loc. 2;9)         | 2. キビ族短細胞珪酸体 (Loc. 2;9)       |
| 3. タケ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 2;5)      | 4. タケ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 4;16)     |
| 5. ヨシ属短細胞珪酸体 (Loc. 1;10)      | 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 2;3)  |
| 7. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 3;24) | 8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (Loc. 1;14) |
| 9. イネ属機動細胞珪酸体 (Loc. 2;9)      | 10. タケ亜科機動細胞珪酸体 (Loc. 4;16)   |
| 11. タケ亜科機動細胞珪酸体 (Loc. 3;25)   | 12. ヨシ属機動細胞珪酸体 (Loc. 1;10)    |
| 13. イネ族葉部組織片 (Loc. 2;9)       |                               |

## 4 美々8遺跡出土鉄器の金属学的解析(3)

岩手県立博物館 赤沼 英男

## 1 はじめに

これまでに行われた北海道千歳市美々8遺跡出土鉄器の金属学的解析によって、擦文文化期には砂鉄の使用によって製造された鋼を素材とする鉄器の使用が明らかにされ<sup>1)</sup>、擦文、アイヌのいずれの文化期においても、原料銑鉄、鋼素材、製品鉄器に関する複数の流通ルートが出来上がっており、その中で鋼製鉄器の製作とその使用がなされていたものと推定されている<sup>2)</sup>。

このたび北海道埋蔵文化財センターの依頼により、新たに擦文文化期の遺構から出土した刀子片1点と1667年以前と推定される中・近世の層位から出土した鏃、刀子、小刀、鍋、合計6点の鉄器に関する金属学的解析を実施した。その結果、2点の鍋は鑄造鉄器、他の6点はいずれも鋼製鉄器であることが判明し、擦文文化期の刀子片と中・近世の層位から出土した鏃1点は、少量の砂鉄を使って銑鉄を脱炭するという、鋼精錬操作によって得られた鋼を素材としていた可能性の高いことがわかった。2点の鉄鍋は高りん(P分を0.1%以上含有)の銑鉄を素材としており、北海道で鉄鍋の鑄造遺構が未検出であることをふまれば、製品としてもたらされたものとみなされた。これらの解析結果は、これまでのものを支持しているといえる。そして、擦文・アイヌ両文化期ともに、原料鉍石を砂鉄に限定して鉄器製作を考えることは困難であることが確かめられるとともに、鉄器の化学組成を考慮すれば、原料銑鉄や鋼素材、あるいは製品鉄器の供給地域を、列島内はもとより大陸をも加えた、東北アジアの範囲でもって検討する必要があることが指摘された。

## 2 分析資料

分析した資料は刀子片、鏃、刀子、小刀、鉄鍋片、吊耳鍋から出土した7点の鉄器である。刀子片は擦文期の遺構から、他の6点については、1667年以前と推定される中・近世の層位から検出された遺物<sup>3)</sup>である。発掘調査報告者による資料の名称、出土遺構、発掘区、および推定年代を表1に示す。

## 3 分析方法

分析用試料片の摘出は、資料全体の形状を損ねることのないよう細心の注意を払いながら、ダイヤモンドカッターを使って行い、摘出した試料片をさらに2分して、大きい方を組織観察に、他方を化学成分分析に供した。

組織観察用試料片については、まず樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを用いて研磨した後、金属顕微鏡による組織観察に供した。さらに、地金の製造法を推定するうえで重要と判断される鉄器中の非金属介在物(鋼を製造する過程で分離・除去することができずに残った異物)については、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー(EPMA)によりその組成を決定した。

化学成分分析用試料片については、その表面に付着する土砂と錆を除去した後、エチルアルコール、アセトンで洗浄し、十分に乾燥した。鏃試料片については粉碎した後テフロン分解容器に、健全なメタル試料については直接テフロン分解容器に秤量し溶解した。このようにして調整した溶液を誘導結合プラズマ発光分光分析法(ICP-AES法)に供し、T、Fe、Cu、Mn、P、Ni、Co、Ti、Si、Ca、Al、Mg、Vの12成分を定量した。

#### 4 分析結果

##### 4-1 鉄器から抽出した試料片のマクロおよびミクロ組織

No.1刀子片から抽出した試料片は錆層によって構成されていた。マクロ組織の枠で囲んだ内部のミクロ組織には、金属光沢を呈する結晶Cmとその欠落孔が観察される(図1)。これまでに出土鉄器の金属学的解析に従えば<sup>4)</sup>、結晶Cmはもとの健全な鋼におけるパーライト中のセメントイト(Fe<sub>3</sub>C)とみなすことができ、その分布状況(図1)によって、もとの健全な地金は0.1~0.2%Cの鋼と推定される。同様の組織はNo.2鍔、No.4小刀から抽出した試料片にもみられ(図1)、いずれも前述の刀子片同様、0.1~0.2%Cの鋼と評価できた。なお、No.5鍔には健全なメタルがみられる(図3)。このような場合、酸による腐食によってもとの健全な地金の組織を確認できるが、腐食による錆化の進行と後述する非金属介在物の喪失を考慮し、今回は見合わせた。また、No.3刀子についてはもとの健全な地金の状態を推定できる組織を見いだすことができなかった。

No.6鉄鍋片およびNo.7吊耳鉄鍋から抽出した試料片の表層部分は錆層で覆われていたが、内部には健全なメタルが残存していた。マクロ組織の枠で囲んだ領域を200倍で観察したところ、いずれにもレーデブライト組織が観察され、マクロ組織のほぼ全域がその組織によって構成されていることがわかった(図4)。

##### 4-2 鉄器に残存する非金属介在物の組成

No.3刀子に見いだされた非金属介在物は、灰色の粒状結晶(W)とやや暗灰色の結晶(F)によって構成され、EPMAによる分析によって、前者はウスタイト(化学理論組成FeO)、後者はFeO-MgO-SiO<sub>2</sub>系化合物[マグネシウムを固溶した鉄かんらん石:2(Fa,Mg)O•SiO<sub>2</sub>]と判定された。なお、粒状結晶のいくつかにはTi分を微量に含むものがみられた(図3)。一方、No.5鍔にはウスタイト(W)とFeO-MgO-SiO<sub>2</sub>系化合物(マグネシウムを固溶した鉄かんらん石:2(Fa,Mg)O•SiO<sub>2</sub>)、Fe-Mg-Ti-O系化合物(T)とマトリックス(M)からなる介在物が観察された。なお、No.1刀子片、No.2鍔、No.4小刀から抽出した3点の試料片については、介在物を見いだすことができなかった。

##### 4-3 鉄器から抽出した試料片の化学組成

抽出した試料片の化学組成を表2、3の右欄に示す。No.5鍔とNo.7吊耳鍋から抽出した試料片のT.Feは90%を越えており、No.6鉄鍋片も88.3%にある。これら3点はほぼ健全なメタルからなる試料片といえる。他の4点についてはいずれも60%台にあり、錆化が相当に進んだものとみななければならない。No.1刀子片とNo.5鍔にはそれぞれ0.067%、0.057%のCo分が含有され、No.1刀子片には0.134%のP分も含まれている。No.3刀子、No.6鉄鍋片、No.7吊耳鍋からも0.1%を越えるP分が検出されている。

既述のとおり、No.5鍔、No.6鉄鍋片、No.7吊耳鍋の3点についてはほぼ健全なメタル試料片が分析されており、これらの試料片から検出されたCo分とP分は地金に含まれていたものとして扱うことができる。No.1刀子片は錆化した試料片であるが、0.05%を越すCo分が土砂から富化されたと考えすることはできない。この鉄器には銅をはじめとする異種金属の付着がなかった<sup>5)</sup>ことをふまえると、検出されたCo分のほとんどはもとの健全な地金に含有されていたものとみなすことができる。

No.1刀子片、No.3刀子のP分は錆化が進んだ試料片において確認されたものであるため、埋蔵環境下からの富化について考慮する必要がある<sup>5)</sup>。このような場合、同一の埋蔵環境下であり、錆化も同程度であるとみなすことのできる他の鉄器から抽出された試料片を用い、化学組成上の対比を行って富

化の有無を検討することになるが、同一の埋蔵環境下にあったと推測される他の鉄器の化学組成は不明である。従って、ここではNo.1 刀子片とNo.3 刀子において検出されたP分の相当量が、もとの健全な地金に含まれていた可能性のあることを指摘するにとどめておく。

## 5 鉄器地金の材質

鉄器は鋼を素材とする鋼製鉄器と銑鉄を素材とする鑄造鉄器の2つに分類される。No.1～No.5の5点については、組織観察結果に基づき鋼製鉄器に、No.6とNo.7については、レーデブライト組織の確認によって鑄造鉄器に帰属できる。なお、2点の鉄鍋については、比較的是やい速度で冷却されたものと思われる。

No.5 鏝から抽出した試料片の非金属介在物には、Fe-Mg-Ti-O系化合物が見いだされており、鋼製造過程において砂鉄の使用を想定できる。No.3 刀子にもTi分を微量に含み、FeとO分を主成分とする粒状化合物が検出されているが、これは蛇紋岩由来の砂状磁鉄鉱に起因する可能性がある<sup>6)</sup>。No.1 刀子片、No.2 鏝、No.4 小刀には非金属介在物が見いだされなかったため、鋼製造過程での砂鉄の使用については不明である。

このように、介在物組成、とりわけチタン化合物〔ウルボスピネル( $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )、イルメナイト( $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )、Ti-O系化合物(主として酸化チタンを主成分とする化合物)、Ti(C,N)、およびそれらのいずれにも同定されないチタン化合物の総称〕の有無によって、鋼製鉄器については以下のように分類することが可能となる。

- イ) 製作に用いられた鋼の製造過程で、砂鉄の使用が認められないもの
- ロ) 製作に用いられた鋼の製造過程で、砂鉄が使用されたとみなすことができるもの
- ハ) 製作に用いられた鋼の製造過程で、砂鉄の使用が不明なもの

上述に従えば、とりあえず、No.3 刀子とNo.5 鏝はイ)に、No.1 刀子片、No.2 鏝、No.4 小刀はハ)に帰属される。ここで問題となるのはNo.5 鏝から検出された0.05%を越えるCo分の解釈についてである。既述のとおり通常の砂鉄に0.05%を越えるCo分が含まれていたとは考えにくく、脈石中にCo鉱物を随伴する鉄鉱石の使用を想定する必要がある。介在物組成を考慮すると、No.5 鏝については砂鉄と鉄鉱石の両者の使用が浮かび上がってくるが、この問題について述べる前に、現在提案されている古代・中世の鋼製造法について述べることにしたい。

## 6 古代ならびに中世における鋼の製造

現在提案されている古代ならび中世における鋼の製造方法は以下のとおり整理される。

- 1) 原料鉄石(砂鉄もしくは鉄鉱石)を還元し鉄を生産する段階
  - 2) 1)で生産された鉄から目的とする鋼を製造する段階
  - 3) 2)で製造された鋼を素材とし目的とする鋼製鉄器を製作する段階
- ここでは1)を製錬、2)を精錬、3)を小鍛冶と呼ぶ。

1)の製錬によって得られる鉄は炭素含有量に応じ、鋼と銑鉄の2つに分類できる。製錬炉で得られた鉄から極力前者の鋼部分を抽出して、含有される不純物を除去するとともに、炭素量の増減を行って目的とする鋼を製造する。そして、その鋼を使って製品鉄器が製作されたとする見方がある<sup>9)</sup>。製錬炉で直接に鋼が作り出されるという意味でこの方法は直接製鋼法と呼ばれている。さらに製錬によって得られた粗鉄(銑鉄や鋼が混在しそれに鉄滓が付着した、炭素量の不均一な鋼)を精製し目的とする鋼に変えるという上述の操作は、精錬鍛冶とされている。ただし、ここでいう精錬鍛冶がどのような設

備を用いどのようにしてなされたかという点に関しての説明はなされていない。不純物の除去と炭素量の増減という複数の操作工程があったと推測されるが、具体的な操作設備とその方法が不明である以上、鉄滓の組成でもってその操作がなされていたことを指摘することは困難であるという見解も提示されている<sup>10)</sup>。このように、精錬鍛冶については、その具体的な操作方法に加え、その実施の前提となる、炭素量が不均一で鉄滓の付随した鉄塊の流通に関する検討が必要である。

1) の製錬では銑鉄も生産される。銑鉄は再び溶解炉で溶解し、鑄型に注ぎ込むことによって鑄造鉄器となる。また、銑鉄中の炭素を低減させる、すなわち脱炭を行うことによって鋼を得ることもできる。この場合の脱炭の方法としては、半地下式堅型炉もしくは火窪炉を使って、あらかじめ準備された銑鉄を溶解し、砂鉄、もしくは鉍石粉といった少量の鉄酸化物を投入する方法がとられていたとする見解が、遺物の金属学的解析結果に基づき指摘されている<sup>12)~14)</sup>。このようにして鋼を製造する方法は、銑鉄を経由して鋼が得られるという意味で間接製鋼法と呼ばれるが、現代製鋼と区別するため以下では“鋼精錬”という用語を用いることにする。脱炭材に鉄鉍石粉が使用された場合、鉄鉍石中のFe分は銑鉄中の炭素、もしくはCOガスにより還元されてFeO、さらに還元が進めばFeに変わって溶鉄に付け加わる。一方、砂鉄が用いられた場合には砂鉄中の鉄チタン酸化物のFe分は還元により鉄浴に移行し、スラグ浴には還元雰囲気と炉内温度によって、ウルボスピネル( $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )、イルメナイト( $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$ )、Ti-O系化合物（主として酸化チタンを主成分とする化合物）といったチタン化合物が析出することになる。実際の操作では投入された脱炭材と炉壁材などが反応しスラグ浴が形成される。脱炭材に鉍石粉が使用された場合にはウスタイト、FeO-MgO-SiO<sub>2</sub>系化合物、ガラス質けい酸塩を主成分とする鉄滓が、砂鉄の場合にはそれらにチタン化合物が加わったものが鉄浴から分離され排出される。この脱炭・精製の工程で生ずる鉄滓を鋼精錬滓と呼ぶことにする。そして、このような方法により製造された鋼を用い、小鍛冶によって目的とする鉄器が作りだされることになる。

なお、鋼精錬を想定した場合、吸熱反応である少量の鉄酸化物による脱炭反応に伴う温度低下を抑制し、鋼精錬温度を維持するための設備あるいは操作方法が問題となることはいうまでもない。遺物の解析によって鋼精錬が行われていた可能性が高いとされた遺跡からは、お供餅を逆にした形の椀型滓が検出される。この鉄滓の形状とその組成を詳しく検討することによって、上述の問題を解き明かすことができると筆者は考える。また、炉内温度を考慮すると生成する鋼は過共析鋼(0.86~2.0%C)であり、炉内の状況によってはそれ以下の炭素含有量の鋼の生成が可能であったと推定されるが、設備や鋼製造法、および生成物評価については、遺構から出土する遺物の形状や組成を考慮のうえ慎重に判断する必要がある。

小鍛冶操作では鍛打・加熱を繰り返して目的とする鉄器への造形が行われるので、鍛打のときは加熱された鋼の表面に生成する酸化鉄(スケール)が剥離(これは鍛造薄片と呼ばれる)する。一方、加熱のときは酸化鉄が半熔融状態になり、火窪炉の底部に溜まる。そこで炉壁材と反応して鉄分に富む半熔融状態の鉄滓状物質が生成され、加熱炉の底で固化する。このようにして生成した鉄滓状物質が、鉄関連遺構の発掘調査では鍛冶滓として扱われる。従って、鍛冶滓は金属鉄、錆層、ウスタイト(FeO)を主成分とし、他にスケールが炉材と反応した際に生成するFeO-SiO<sub>2</sub>系化合物が混在した組成をとるものと推測される。この操作は鍛錬鍛冶ともいわれる。

上述から明かなように、2) でいう精錬の中には直接製鋼法に基づく精錬鍛冶と間接製鋼法の鋼精錬という2つの異なった概念が存在することがわかる。上述は図5に整理される。図5に基づけば、No.5 鋳については、脈石中にCo鉍物を随伴する鉄鉍石を始発原料として生産された銑鉄を、少量の砂鉄を使って脱炭することによって得られた鋼を素材としていたか、あるいは、脈石中にCo、Ti鉍物

を含む特殊な鉄鉱石(おそらくは磁鉄鉱)を始発原料として製造された鋼を用いて製作されたかのいずれかとなる。鋼精錬、もしくは直接製鋼法、いずれの生成経路を想定しても分析結果の説明は可能であり、今回の分析結果でもってその特定は困難であるが、東北地方北部をはじめとする古代末・中世の鉄関連遺構において、鋼精錬がなされていたとみなすことのできる遺構が確認されてきた<sup>12) 13)</sup> ことを考慮すれば、筆者は前者の可能性が高いものとする。蛇紋岩に由来する砂状磁鉄鉱の加熱・分解生成物と思われる、Ti分を微量に含む粒状結晶が見いだされたNo.3刀子についても、同様に解釈できる。なお、0.067%のCo分を含むNo.1刀子片については、始発原料としてCo鉱物を随伴する鉄鉱石が使用された可能性が高い。

## 7 原料鉄と製品鉄器の流通問題

図6は北海道の美々8遺跡<sup>2)</sup>、ユカンボシC遺跡群<sup>15)</sup>、末広遺跡<sup>15)</sup>、オサツ2遺跡<sup>16)</sup>、南町2遺跡<sup>17)</sup>、キウス5A遺跡<sup>18)</sup>の擦文期(図6a)およびアイヌ期(図6b)から出土した鋼製鉄器のNi、Co、Cu、P、Mnの5成分とT.Feならびに非金属介在物組成の関係を整理したものである。図6の中で非金属介在物中にチタン化合物が見いだされたものは丸(●)、非金属介在物中にチタン化合物が観察されなかったものは四角(■)、非金属介在物そのものを見いだすことができなかったものは三角(▲)の記号で表記した。T.Feが80%未満の錆層からなる試料片については埋蔵環境下からの化学成分の富化が問題となるが、図には異種金属の付着がみられず、同じ埋蔵環境下から出土した遺物間での化学成分上の対比によって、その影響が少ないと判断されたもののみを取り上げた。

図6から明らかなように、擦文期、アイヌ期ともに非金属介在物中にチタン化合物がみいだされず、通常の砂鉄よりも多くのNi分、Co分、Cu分、P分、Mn分を含む鋼製鉄器が認められる。これらの鉄器については脈石中に当該成分を含む鉱物を随伴する鉄鉱石を始発原料として製造された鋼を用いて製作されたとみることができる。さらに、地金中に非金属介在物を見いだすことができなかったもの、あるいは非金属介在物中にチタン化合物が残存する鋼製鉄器の中にも、同様の化学組成をとるものがみられる。これらの始発原料は鉄鉱石であった可能性が高く、始発原料を砂鉄に限定して、擦文期およびアイヌ期の鋼製造を考えることが困難であることがわかる。さらに介在物中にチタン化合物が見いだされたものについては、No.5鏝と同様、鋼精錬操作による鋼を素材としていると解釈できる。

図5によれば、流通する遺物の形態として、原料銑鉄、鋼、銑鉄や鋼が混在した炭素量が不均一な鉄塊、製品鉄器の4つが想定される。北海道において製錬炉跡とみなすことのできる遺構は未検出であること、擦文期には鋼精錬がなされていたと解釈可能な遺跡が存在し<sup>19)</sup>、同様の遺跡がアイヌ期においても見いだされていること<sup>16)</sup>、および図6a、bの鋼製鉄器の組成を考慮すると、既に擦文期には原料銑鉄や鋼素材、あるいは製品鉄器に関する複数の流通ルートが出来上がっており、アイヌ期においてもそれらのルートによって素材銑鉄や製品鉄器がもたらされていたものと推測される。そして、通常の砂鉄よりも多くのCu分やNi分、Co分を含む鋼製鉄器、鋼素材の存在を考慮すると、製品鉄器もしくは鋼素材や原料銑鉄の供給地域については、列島内はもとより大陸をも考慮に入れて検討する必要がある。

## 註

- 1) 赤沼英男「出土鉄器の金属学的解析結果からみた東北地方北部および北海道の鉄生産」『北の鉄文化シンポジウム予稿集』岩手県立博物館、1990年、p.59-66。
- 2) 赤沼英男「美々8遺跡出土鉄器の金属学的解析(2)」『美沢川流域の遺跡群XⅧ』財団法人北

海道埋蔵文化財センター、1996年、p.372-390。

- 3) 発掘調査をされた財団法人北海道埋蔵文化財センター 鈴木 信氏からの私信による。
- 4) 佐々木稔、村田朋美「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」『季刊考古学』第8号、雄山閣出版、1984年、p.24-33。
- 5) 佐々木稔、伊藤薫「川合遺跡出土の鉄斧、鉄鎌ならびに鋤先の金属学的調査」『静岡県埋蔵文化財調査研究所紀要』Ⅱ、静岡県埋蔵文化財調査研究所、1987年、p.63-80。
- 6) 一般に砂鉄はマグネタイトーウルボスピネル固溶体 ( $\text{Fe}_3\text{O}_4\text{-}2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_{2\text{ss}}$ ) からなる粒子である。しかし、蛇文岩が風化・崩壊する過程で遊離・濃縮する安定な磁鉄鉱、砂状磁鉄鉱にも微量にTi分が含まれており、低チタン砂鉄として扱うことができる<sup>7)</sup>。河川の下流域では、Ti分の多い砂鉄と蛇文岩を起源とする砂状磁鉄鉱が混在し堆積する可能性もあり、遺物の解析にあたって地質学的な側面から考察も必要である。なお、やや時代は上がるが、福島県郡山市東山田遺跡の8世紀中葉に比定される住居跡内からは、鉄滓とともに蛇紋岩由来の砂状時鉄鉱が検出され、鋼精錬操作の際に脱炭材として使用されたものと推定されている<sup>8)</sup>。
- 7) 由井俊三「信州の鉄資源一大日向鉱山(茂来山鉄山)の鉱床一」『信州の人と鉄』信濃毎日新聞社、1996年、p.253-275。
- 8) 佐々木稔「東山田遺跡出土鉄滓の金属学的解析」郡山市埋蔵文化財調査センター、発掘調査報告書編集中。
- 9) 大澤正巳「古墳供献鉄滓からみた製鉄の問題開始」『季刊考古学』第8号、雄山閣出版、1984年、p.36-46。
- 10) 少なくとも精錬鍛冶には脱炭、浸炭、鉄滓の絞り出しという工程が含まれていることが大澤正巳氏によって指摘されている。これら3つの操作を同時に行うことは困難であるから、精錬鍛冶には最低3つの操作が存在したことになる。当然、それぞれの操作に対応する3種類の鉄滓が排出されることになるが、その点に関する検討が不十分であることが佐々木稔氏によって指摘されている<sup>10)</sup>。
- 11) 佐々木稔「遺構を離れて製錬滓と断定できるかー潤崎遺跡出土鉄滓の場合ー」『たたら研究』34号、たたら研究会、1993年、p.43-47。
- 12) 赤沼英男「いわゆる半地下式堅型炉の性格ー空沢・北沢両遺跡出土遺物の金属学的解析結果から」『たたら研究』35号、たたら研究会、1995年、p.11-28。
- 13) 赤沼英男「遺物の解析結果からみた半地下式堅型炉の性格」『季刊考古学』第57号、雄山閣出版、1996年、p.41-45。
- 14) 赤沼英男「みちのくの地から中世の鉄をみる」『ふえらむ』Vol.2 No.1、社団法人日本鉄鋼協会、1997年、p.44-51。
- 15) 赤沼英男「ユカンボシC遺跡群出土遺物の金属学的解析」千歳市教育委員会、発掘報告書編集中。
- 16) 赤沼英男「オサツ2遺跡出土遺物の金属学的解析」『オサツ2遺跡(2)』財団法人北海道埋蔵文化財センター、1996年、p.261-277。
- 17) 赤沼英男「南町2遺跡出土鉄製遺物の材質」北見市教育委員会、発掘調査報告書編集中。
- 18) 赤沼英男「キウス5遺跡出土鉄器の金属学的解析」財団法人北海道埋蔵文化財センター、発掘調査報告書編集中。
- 19) 佐々木稔「擦文期における鉄器と鉄滓の金属学的解析」『北海道考古学』22、1986年、p.17-34。



表 1 分析資料

No.	資料名	出土遺構および発掘区		出土層位		推定年代		備考 (所収報告書)
		美々8 C地区	e-65-09-14	IB	檜文文化期 (8Cと推定)	中・近世	北埋調報62	
No.1	刀子片	美々8 C地区	e-65-09-14	IB	檜文文化期 (8Cと推定)	中・近世	北埋調報62	
No.2	鍔	美々8	e-68-00-1	IB	16~17C(17Cに近い)		北埋調報102	
No.3	刀子 <sup>⑩</sup>	美々8	c-66-96	IB上面	上限が1667年以前		北埋調報62	
No.4	小刀	美々8 台地上	d-66-52 (P-1)	IB	上限が1667年以前		北埋調報77	
No.5	鍔	美々8 低湿地	c-67-00	IB-1	上限が1667年以前		北埋調報102	
No.6	鉄鍋片	美々8 台地上	d-66-23	IB	上限が1667年以前		北埋調報77	
No.7	吊耳鍋	美々8 台地上	d-66-23	IB	上限が1667年以前		北埋調報77	

表 2 鋼製鉄器の分析結果

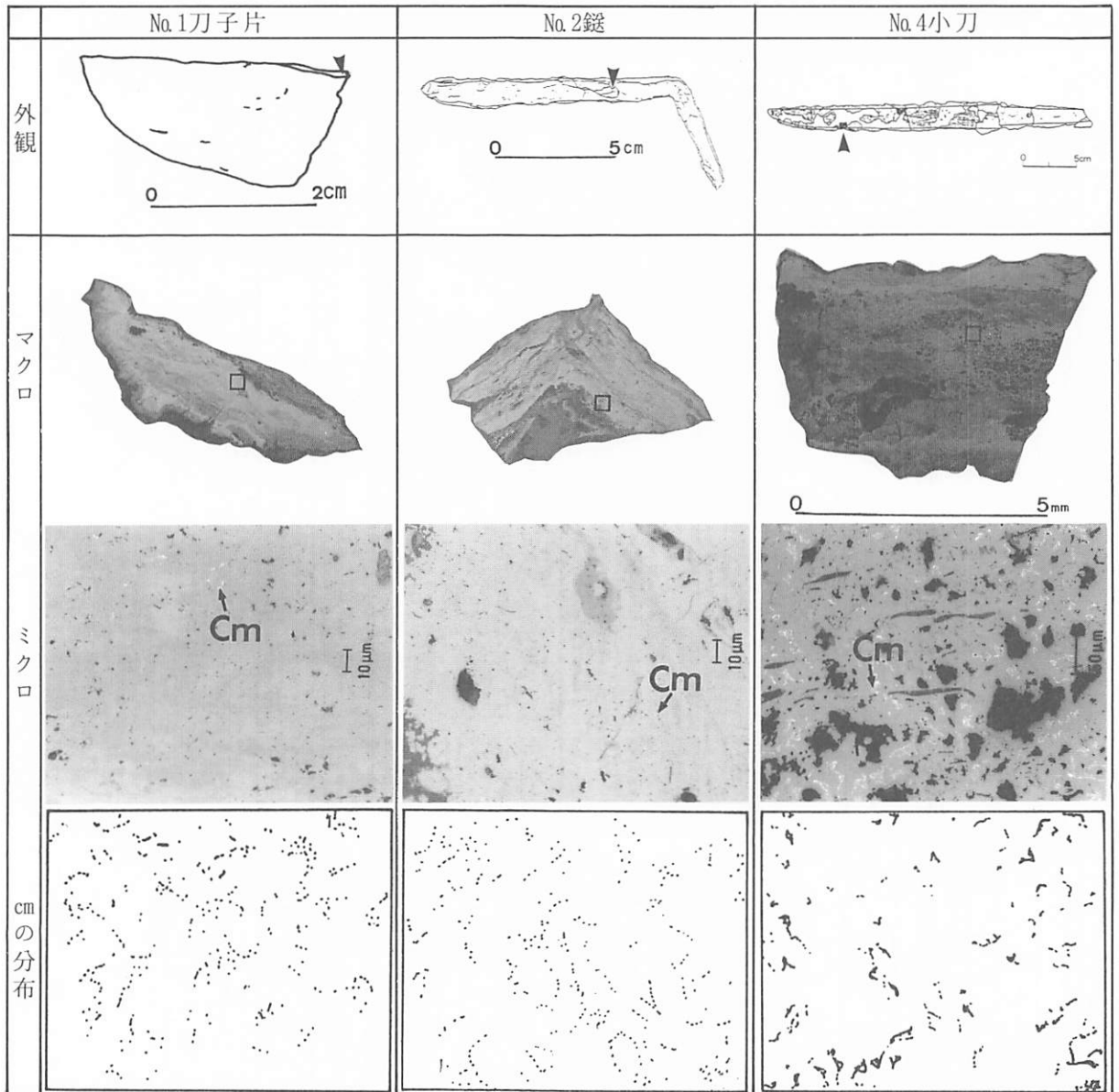
No.	資料名	化学組成 (%)											N.M.I		
		T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg		V	マイクロ組織
No.1	刀子片	61.70	0.029	0.003	0.134	0.014	0.067	0.006	0.637	0.028	0.085	0.012	<0.001	Cm(0.1~0.2)	no
No.2	鍔	61.60	0.019	0.003	0.025	0.007	0.010	<0.001	0.594	0.016	0.124	0.003	0.010	Cm(0.1~0.2)	no
No.3	刀子	64.30	0.013	0.003	0.208	0.013	0.031	0.007	0.382	0.042	0.040	0.023	0.015	no	W,W,F
No.4	小刀	62.70	0.011	0.015	0.029	0.011	0.018	0.036	0.618	0.060	0.172	0.094	0.005	Cm(0.1~0.2)	no
No.5	鍔	96.50	0.014	0.002	0.012	0.026	0.057	0.049	0.131	0.036	0.034	0.014	0.012	-	W,F,X,T,M

注1) -は分析せず。noは見出されず。Cmはセメンタイト (Fe<sub>3</sub>C) もしくはその欠落孔。リツコ内の数字はマイクロ組織から推定される炭素含有量。  
 注2) Wはウスタタイト (化学理論組成FeO)、WはFe分、O分を主成分としTi分を微量に含むもの、FはFeO-MgO-SiO<sub>2</sub>系化合物、XTはFe-Mg-Ti-O系化合物、Mはマトリックス。

表 3 鑄造鉄器の分析結果

No.	資料名	化学組成 (%)											マイクロ組織	
		T.Fe	Cu	Mn	P	Ni	Co	Ti	Si	Ca	Al	Mg		V
No.6	鉄鍋片	88.30	0.013	0.006	0.148	0.017	0.020	0.006	0.006	tr	0.002	<0.001	0.015	レーデブライト
No.7	吊耳鍋	90.00	0.210	0.006	0.267	0.016	0.022	0.002	0.007	0.048	0.008	0.003	0.004	レーデブライト

注) trは痕跡。



マクロ組織の枠で囲んだ部分はミクロ組織観察位置。Cmはセメンタイトもしくはその欠落孔。

図1 摘出した試料片の組織観察結果

実測図の矢印は試料片摘出位置。

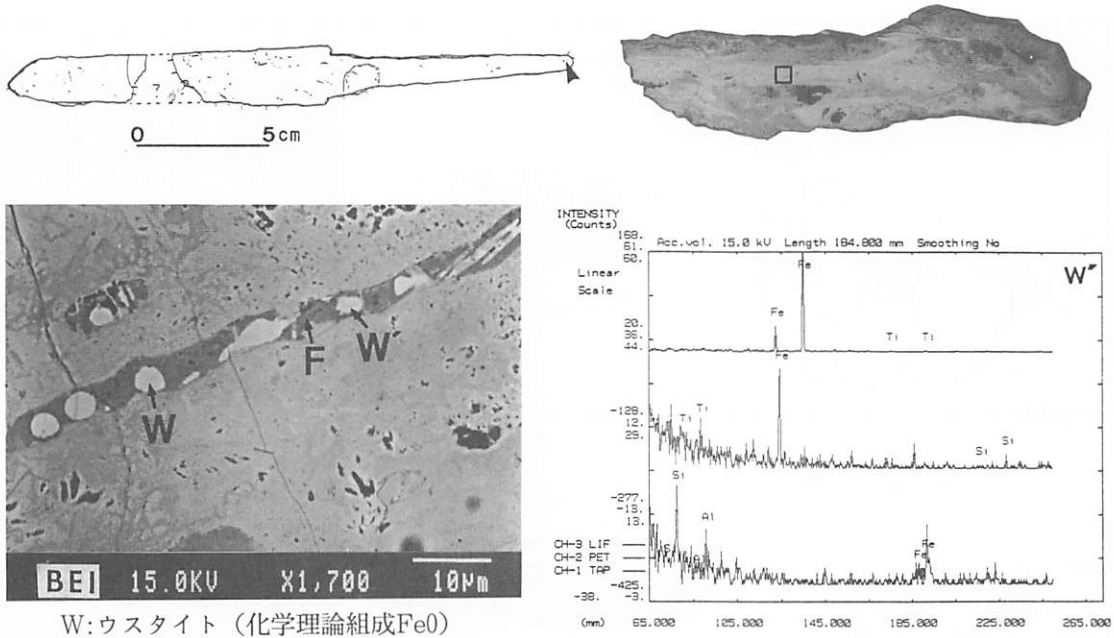


図2 No. 3 刀子に見出された非金属介在物の EPMA による定性分析結果  
実測図の矢印は試料片摘出位置。

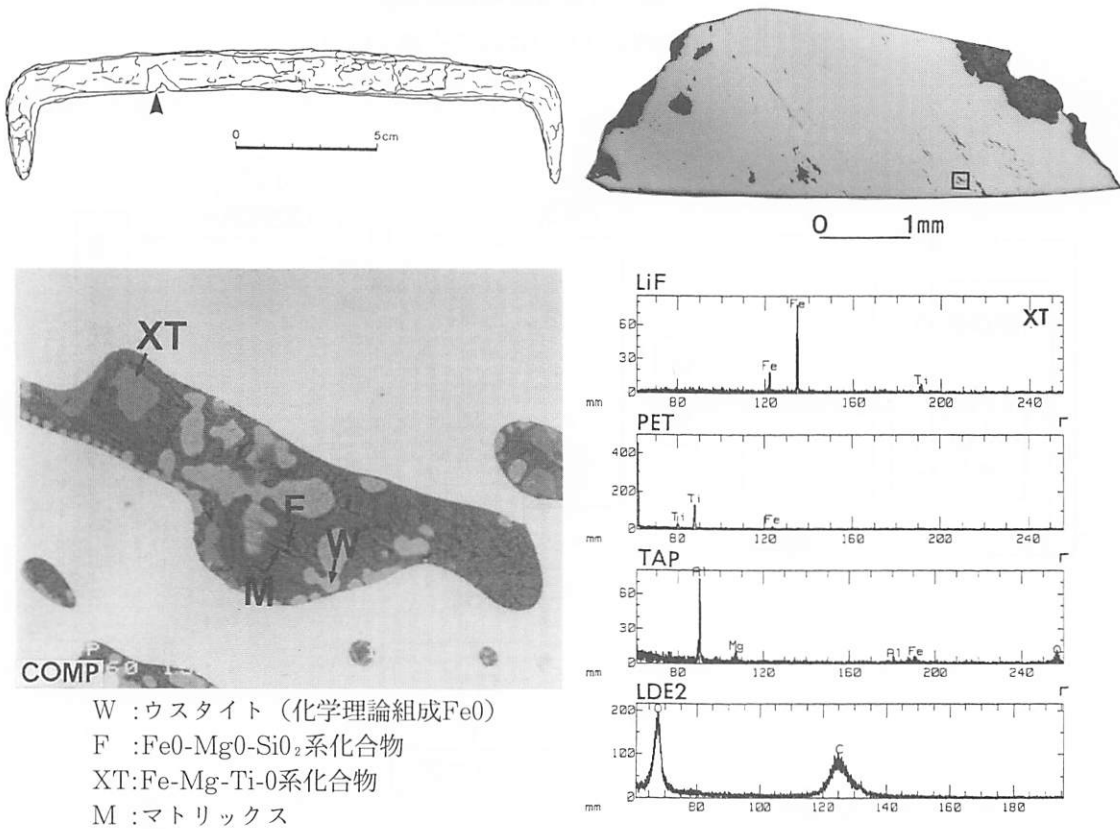
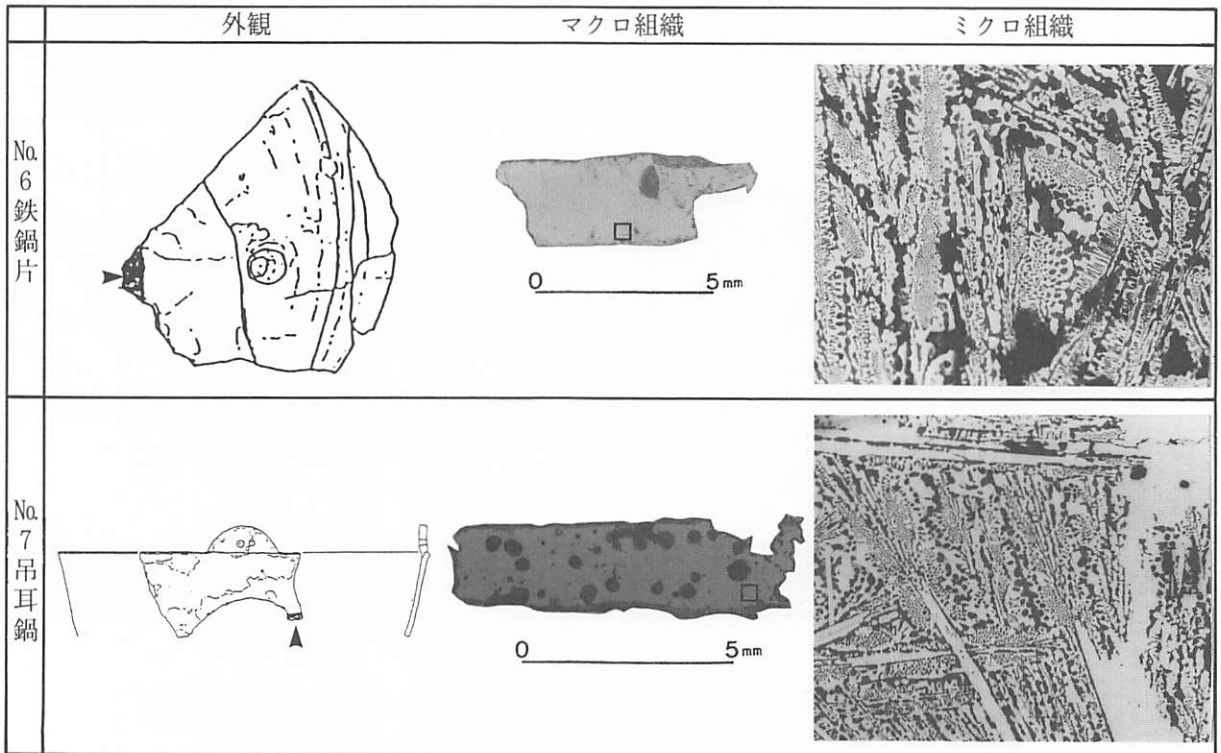


図3 No. 5 劔に見出された非金属介在物の EPMA による定性分析結果  
実測図の矢印は試料片摘出位置。



マクロ組織の枠で囲んだ部分はミクロ組織観察位置。

図4 鉄鍋の外観と組織観察結果

実測図の矢印は試料片摘出位置。

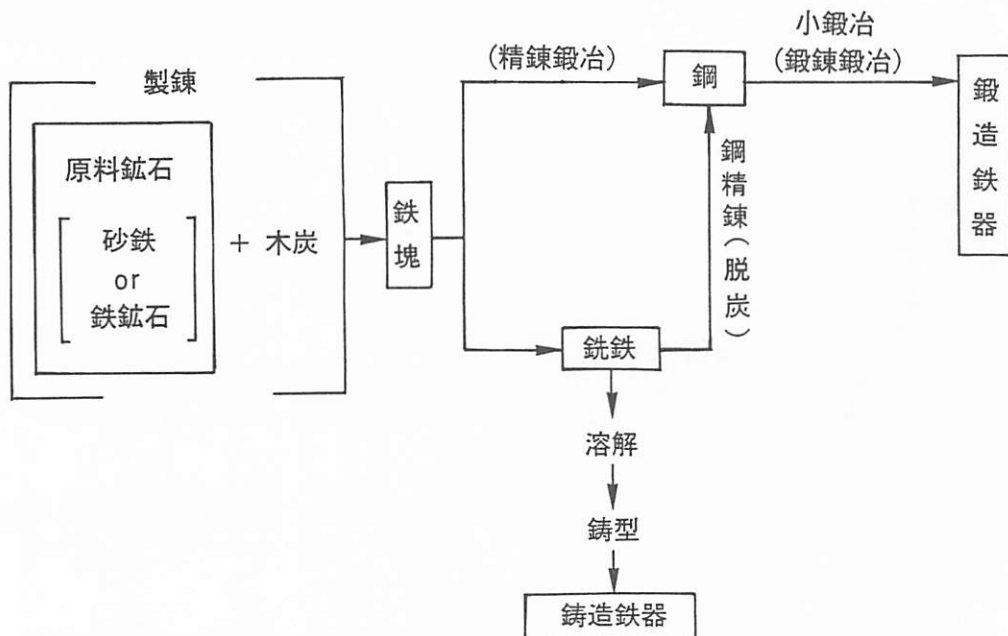


図5 推定される鋼の製造法

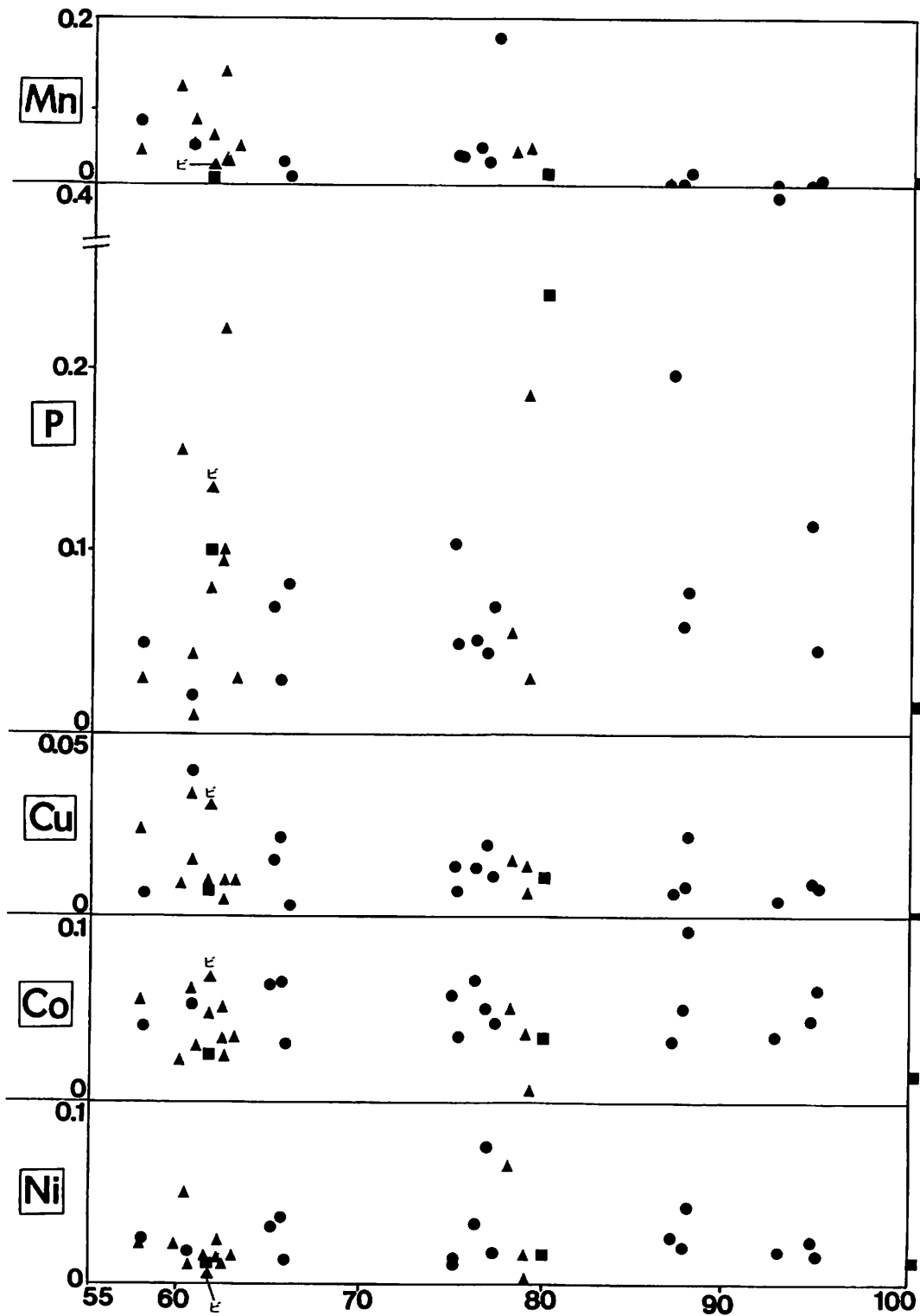


図6 北海道出土の鋼製鉄器の化学成分と非金属介在物組成の関係 (その1)

a 擦文文化期

● 非金属介在物中にチタン化合物検出

▲ 非金属介在物中にチタン化合物未検出

■ 非金属介在物未検出

(ビ) は今回分析をした美々8 遺跡出土のもの。

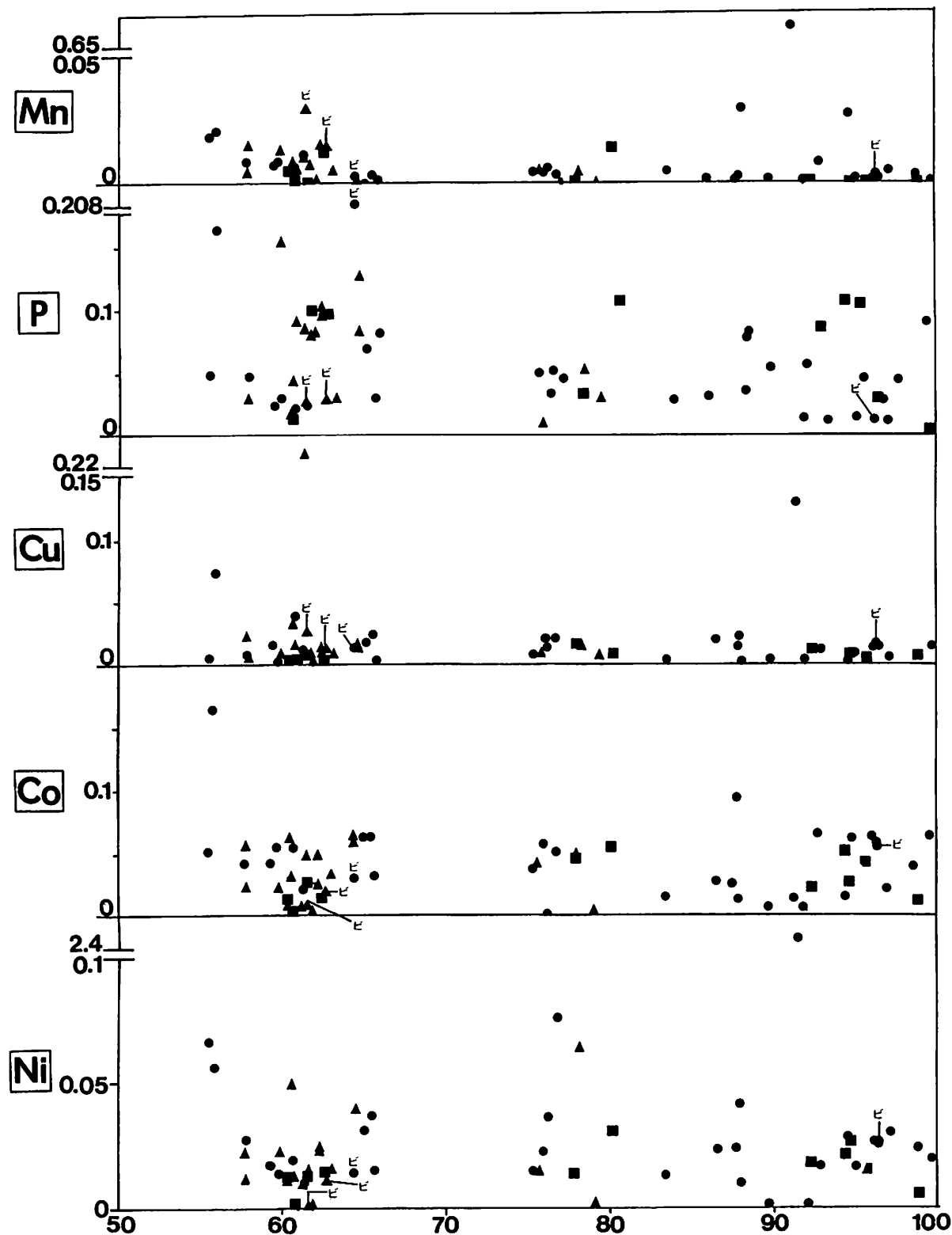


図6 北海道出土の鋼製鉄器の化学成分と非金属介在物組成の関係(その2)

- b アイヌ文化期
- 非金属介在物中にチタン化合物検出
- ▲ 非金属介在物中にチタン化合物未検出
- 非金属介在物未検出
- (ピ) は今回分析をした美々8遺跡出土のもの。  
鋼製鉄器は10~11世紀に比定される

## IX まとめ

### 1 環境と作物栽培について

当遺跡の遺構や遺物はⅢ章の土層の区分の説明のとおり、実年代の明確な樽前 a 降下軽石堆積物層(1739年 元文4年)、樽前 b 降下軽石堆積物層(1667年 寛文7年)、白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm 10世紀中頃)、樽前 c 降下軽石堆積物(2300年前頃の噴出物)に覆われており、これらの火山堆積物に挟まれた状態で各包含層が存在し、概ね年代がとらえられる。遺跡は擦文時代からアイヌ文化期、さらに近代まで連綿と営まれており、人々はその時々の環境変化に適応してきた。遺跡は花粉分析や珪藻化石分析からも推定されたように、気候変動や火山灰の降灰、また人為的開削などにより幾度も環境を変化させてきた。本来の低湿部は常に水付き状態であったのではなく、美沢川の岸辺のやや乾いた土地であったことが確認できた。低湿地となった最大の要因は、樽前 a 火山灰の降灰とその堆積物の流動による美沢川の水位の上昇であり、岸辺のコタン(集落)とともに広範囲に水没したものと推定される。以下に概略を述べる。

当時の遺跡周辺の古植生や気象変化については、花粉分析(山田1996)による推定がなされており、花粉・胞子の構成をもとに、1)コナラ亜属帯、2)コナラ亜属-ハンノキ属帯、3)コナラ亜属-モミ属-トウヒ属帯に区分し、コナラ亜属の出現率やそれに加えたモミ属-トウヒ属の出現率により詳細な検討がなされた。その結果、樽前 c 降下軽石堆積物~IB-6までが冷涼期であり、一時的にIB-6層~IB-5層が温暖となり、IB-4層~IB-3層下位では再び冷涼期となる。次のIB-3層上位~IB-2層では再び温暖となると推定している。この温暖化が栽培種としてのイネ科雑穀を含めた作物栽培に影響を与えたことを指摘している。栽培種子については、平成3年度C地区IB<sub>1</sub>層の炭化物集中(IC-7)から検出されたアサの種子や、本報Ⅷ章の表Ⅷ-2-4・5に示したとおり、灰集中や炭化物集中等の遺構はもとより、通常の包含層のIB-2層以降からもアサ、ヒエ、アワ、キビ、シソ属の種子が多量に検出されたことから確認できる。IB-1層~0B層については寒冷化に伴い、モミ属、トウヒ属、マツ属等の針葉樹花粉が増加したことから、周辺の丘陵や山地の針葉樹混交率が高くなり、ヨモギ属が増加したことから荒れ地も拡大したと推定している。この荒れ地の拡大は、畑地雑草の増加とともに作物栽培のための森林伐採や耕地拡大に伴うものと考えられ、この頃には遺跡内の灰集中や炭化物集中等の遺構のほか、包含層からもアサ、ヒエ、アワ等の種子が通常に見られるようになる。アサについては、多くの遺構から多量に検出されており、作物栽培が一般的化したことを示している。遺物からは、穂摘具(ピパ)とされるカワシンジュガイがIB-2層より上層から急増し、金属製や木製農耕具では鍬、鋤、鈎鍬、土掘棒等がIB-1層~0B層において出土量を増すことを確認できる。これらの状況の中で注目されるのは、「物送り場」遺構の灰集中10における検出状況である。アサ、ヒエ、アワ、キビ、シソ属に加えてイネ、アズキ等も検出されており、吉崎・椿坂(本報告P647)の指摘によるとイネを除くヒエ、アワ、キビ等のイネ科雑穀については「未脱穀あるいは不完全な脱穀」であり、擦文文化とは異なる検出状況であると記している。イネ属は、灰集中10のほか、灰集中14、灰集中17からも検出されており、同様に「糊付や糊の状態」で検出されている。これらは珪藻化石分析や植物珪酸体の分析においても同様な状況が見られ、キビ族、イネ属の機動細胞珪酸体が高出現率で確認され、「葉の付いたままの茎」が存在したとの分析結果であった。特にc-66-18・19の0B層最上位で、その出現率が高い。珪藻化石群集では流水不定性のもの、陸生珪藻B群の好汚濁性種が多く見られることから、「水田による汚濁」と推定していることが注目される。しかし、現地の微地形などを考慮した場合には、水田の存在には消極的にならざるを得ない。もっと広範な地点からサンプルリングすべきであったと反省している。今後の他遺跡等の類例を待って、十分に

検討したい。以上から、擦文文化期（I B - 2層）～アイヌ文化期（0 B層）においては、狩猟、漁撈活動、採集活動のみならず、作物栽培による食料維持活動が予想以上に大きいことが判明した。

## 2 遺構と遺物

ここでは特徴的な遺構について概略を述べ、まとめに代える。

舟着場は人為的開削によって角形に造られたものであり、樽前b降下軽石堆積物層を切り込んで緩いスロープを造成している。この周辺からは板綴舷側板（イタオマチッ）や舟材、車權受台部（タカマ）、車權（カンチ）や早權（アッサ）片等の舟部材が出土しており、魚突鉤台（マレッ）、魚引掛鉤（ア）、回転式離頭銚（キテ）等の漁撈具も分布している。加えて、縦槌や横槌（トッチ）等の工具とともに材を削り出した切片や木端が多量に検出されていることから、舟の製作や補修、各種用具製作が行われていた可能性がある。また、舟着場の開口部が狭い構造および内部に多量の杭状の構造材が存在したことから、夏から秋にかけては柵列（チャシ）や柵（セッ）を伴う、サケ・マス等を捕獲する施設が存在したとも考えられよう。

建物跡は、表土層から建物跡1、0 B層から建物跡2・6・7が発見されている。建物跡は多数の立杭や杭穴から配列を推定したものであり、明確な配列を持つものが少なく検討の余地を残している。建物跡1や建物跡2は美沢川向きの開口部をもち、平面形が「コ」字状となるものである。舟着場の東側に発見された建材集中2・3は、建物跡2に伴う構築材を主体する建材群の一部であり、建物が南西方向に捻じれて倒壊したように分布する。建物跡2は斜面部の裾に位置することから積雪や季節的土壌の流動により、損壊したものであろう。建物跡2については「コ」字状の開口部となる形状や、建材群周辺から權などの舟具や漁撈具が多数出土していること、舟着場の傍らに位置すること等から、舟小屋あるいは漁撈に関わる作業小屋、または、『蝦夷風俗図説』（1799年）の「憩舎図」に描かれたような片壁が開く休憩所であったと推測される。建物跡1は周辺遺物などが少なく、推定材料に乏しいが0 B層以後の同様の建物と考えたい。建物跡7は家屋（チセ）と考えられるが、炉跡や玄関兼物置（セム）などを確認していない。この建物の構築材は平成3年度A'地区の建材群と考えられる。建物跡6は開口部が「コ」字状であるが、規模が小さく、溝1の先端部を覆うように位置する。配列構造から片流れの屋根であったと推定される。溝1が人為的に改良された湧水点であることから、集落の中心に位置した、水汲みや洗い場等の「水場遺構」であったと推定される。

灰集中や炭化物集中は建物跡の傍らに位置するものが多く、食用植物送り（ムルクタウシカムイ）・道具送り（イワクテ）・動物送り（オブニレ）等を複合した「灰送り場（ウナラエウシ）」と考えられる。特に0 B層から発見された灰集中10は、規模が大きく南西部に祭壇様の板敷の施設があった。多量の植物遺存体、サケやシカ等の動物遺存体、火打石、ガラス玉、釘・カスガイ・針・釣針・銭貨・キセル等の金属製品は遺跡全体の6割以上がここから出土しており、灰の分布範囲外にも広がっている。包含層出土遺物の多くは、灰集中10の西から南東部の縁辺に分布が集中しており、ここに「物送り」されたものと考えられる。特に木製品では漁撈具・狩猟具・切截具・発火具・樽蓋と栓・箱物類・漆塗製品・杓子・花矢等が、灰集中10真下のc-66-09・18・19に集中（付図1～20）して分布している。切断品や破壊品が多いのは「もの送り」のため儀礼的なものであろうか。同様の状況が推測できるアイヌの施設には『蝦夷生計図説』（1823年）に描かれた「ムルクタウシウシカモイの図」があり、住居の傍らに設置された灰山の中に壊れた鉄鍋や臼、食物等が同時に描かれ、木幣（イナウ）が立てられている。アイヌ文化の失われた「もの送り儀礼」を検討する貴重な資料である。

本遺跡の整理・報告は今回で終了となる。今後、同様の遺跡調査時には調査員の配置を含めた体制整備をはかり、無理のない発掘・整理・保存処理計画の中で調査を進めて頂きたい。（田口 尚）



## 引用・参考文献

- アイヌ文化保存対策協議会編 (1969) 『アイヌ民族誌上・下』 第一法規
- 今津節生 (1994) 『水浸有機遺物に関する保存科学的研究』
- 氏家 等 (1975) 「カンジキ」 『開拓記念館調査報告第9号』
- “ (1995) 「北東アジアにおけるカンジキの発生と伝播」 『北の歴史・文化交流研究事業研究報告』
- 宇田川洋 (1989) 『イオマンテの考古学』 東京大学出版会
- 金箱文夫 (1984) 「近世の釘」 『物質文化43』
- 萱野 茂 (1978) 『アイヌの民具』 すずさわ書店
- 萱野 茂 (1996) 『萱野 茂のアイヌ語辞典』 三省堂
- 北の生活文庫企画編集会議編 (1997) 「北海道の自然とくらし」 『北の生活文庫2』 北海道
- 古泉 弘 (1985) 「銅製品」 『江戸-都立一高校地点発掘調査報告』 都立一高校地点遺跡調査会
- (財) 北海道埋蔵文化財センター (1985) 『ユオイチャシ跡・ポロモイチャシ跡・二風谷遺跡』
- “ (1981) 「美々8遺跡」 『美沢川流域の遺跡群』 V 北埋調報 7
- “ (1989) 『小樽市忍路土場遺跡・忍路5遺跡』 北埋調報53
- “ (1990) 「美々8遺跡」 『美沢川流域の遺跡群』 X III 北埋調報62
- “ (1991) 「美々8遺跡」 『美沢川流域の遺跡群』 X IV 北埋調報69
- “ (1992) 「美々8遺跡低湿部」 2分冊 『美沢川流域の遺跡群』 X IV 北埋調報77
- “ (1993) 「美々8遺跡低湿部」 2分冊 『美沢川流域の遺跡群』 X VI 北埋調報83
- “ (1996) 「美々8遺跡低湿部」 『美沢川流域の遺跡群』 X VII 北埋調報83
- “ (1996) 『千歳市オサツ2遺跡(2)』 北埋調報101
- 谷 元旦 (1799) 『蝦夷風俗図式』 『蝦夷器具図式』 [大塚和義監修 (1991)] 安達美術
- 玉虫左太夫 (1856) 『入北記』 北海道出版企画センター
- 田口 尚 (1993) 「北海道千歳市美々8遺跡(低湿部)」 『日本考古学年報』
- “ (1993) 「美々8遺跡出土木製品の保存処理」 『保存科学研究集会95要旨』 奈良国立文化財研究所
- “ (1994) 「アイヌの木器とその源流」 『季刊 考古学第47号』 雄山閣出版
- 田口 尚 (1990) 「(6)木製遺物の樹種同定」 『美沢川流域の遺跡群』 X III 北埋調報62
- 田村俊之 (1984) 「千歳市根志越3遺跡調査概報」 『北海道考古学第20輯』
- 知里真志保 (1976) 「分類アイヌ語辞典 植物・動物編」 『知里真志保著作集 別巻I』 平凡社
- 千歳市教育委員会 (1976) 『美沢川流域の遺跡群』
- “ (1979) 「ママチ川丸木舟遺跡発掘調査概要報告」 『統千歳遺跡』
- “ (1984) 『千歳市美笛における埋蔵文化財分布調査』
- 千歳市史編纂委員会 (1983) 『増補 千歳市史』
- 出利葉浩司 (1989) 「アイヌの伝統的漁具(マレ)の成立背景に関する一試論」 『物質文化第51号』
- “ (1993) 「大正年間を中心とした千歳川におけるアイヌのついで」 『開拓記念館調査報告第32号』
- 苫小牧市 (1975) 『苫小牧市史』 上
- 苫小牧市教育委員会・市立苫小牧図書館 (1966) 『苫小牧市沼の端丸木舟発掘調査概要報告書』
- 中川 裕 (1995) 『アイヌ語千歳方言辞典』 草風館
- 名取武光 (1972) 『アイヌと考古学(一)(二)』 北海道出版企画センター
- 成田寿一郎 (1990) 『日本木工技術史の研究』 法政大学出版局
- 林 善茂 (1969) 『アイヌの農耕文化』 慶友社
- 北海道教育委員会 (1977) 『美沢川流域の遺跡群』 I
- 北海道大学 (1986) 『サクシュコトニ川遺跡』 1, 2
- 北海道立北方民族博物館 (1996) 『博物館フォーラム アイヌ文化の成立を考える』
- 由良 勇 (1995) 『北海道の丸木舟』 マルヨシ印刷
- 吉田武三 (1971) 『三航蝦夷日誌』 (下) 吉川弘文堂
- 村上貞助 (1823) 『蝦夷生計図説』 [河野本道・谷澤尚一解説 (1990)] 北海道出版企画センター
- 秦 穂麿 (1799) 『蝦夷島奇観』 [佐々木利和・谷澤尚一解説 (1982)] 雄峰社
- 山田悟郎 (1996) 「美々8遺跡低湿部周辺の高木生について」 『美沢川流域の遺跡群』 X VII 北埋調報83
- 渡辺 誠 (1985) 「ヨコツチの考古・民具学的研究」 『考古学雑誌70-3』

# 報告書抄録

ふりがな		みさわがわりゆういきのいせきぐん						
書名		美沢川流域の遺跡群 X X						
副書名		新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名		(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第114集						
編著者名		田口 尚・鈴木 信						
編集機関		(財)北海道埋蔵文化財センター						
所在地		〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 TEL.011-561-3131						
発行年月日		西暦1997年3月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
びびはちいせき 美々8遺跡 ていしつぶ 低湿部	ちとせしびび 千歳市美々 1714, 1292-381他	01224	94	42度 46分 14秒	141度 41分 54秒	19920506 19921029	2011	新千歳空港建設に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
美々8遺跡 低湿部	低湿地 交通 集落 祭祀 散布地	中・近世 ＼ アイヌ文化期 表土層 1739年 ＼ 明治時代初期 0 B層 1667年 ＼ 1739年 I B層 擦文時代 ＼ 1667年	表土層 建物跡(1)、立杭列(2) 杭穴列(6)、立杭(49) 灰集中(10) 炭化物集中(1) 0 B層 舟着場(1)、建物跡(3) 建材集中(2) 立杭列(27) 杭穴列(3)、立杭(288) 双礫(2)、集石(11) 灰集中(10)、溝(1) 炭化物集中(18) 貝殻皮集中(4) クルミ集中(5) クリ集中(1) ホオノキ集中(1)	木製品、繊維製品 櫂・舳等交通具、 回転式離鉢・魚突鉤等、漁 労具、狩猟具、切截具、 農工具、発火具、容器、 食用具、紡織網具、祭 祀儀礼具、歩行具等、 各種ミニチュア他 金属製品 鎧、鉄鍋、鉄斧、鉞、小刀、 煙管、耳飾り、銭貨、筭、 目貫、釘 骨角器 矢中柄 ガラス玉 陶磁器 石器・石製品	平成4年度発掘調査調査分のうち人力調査地区の表土層、0 B層、クラムシェル(重機)調査地区を報告。 北埋調報102の保存処理などによるI B層未報告分を掲載。  自然科学分析 樹種同定、種子同定、動物遺存体同定、珪藻化石分析、植物珪酸体分析、金属製品分析。			

北海道埋蔵文化財センター調査報告書第114集  
美沢川流域の遺跡群XX  
—新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—  
第1分冊(本文・挿図・表)

---

平成9年3月25日 発行

編集 財団法人北海道埋蔵文化財センター  
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目  
Tel (011)561-3131

印刷 中西印刷株式会社  
〒065 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号  
Tel (011)781-7501